

CBETA電子佛典集成

CBETA Chinese Electronic Tripitaka Collection
eBook

N13-18nN0006

相應部經典

通妙、雲庵譯

財團
法人

佛教電子佛典基金會



目次

- [編輯說明](#)
- [章節目次](#)
 - [有偈篇 \(1-11\)](#)
 - [第一 諸天相應](#)
 - [第一 葦品](#)
 - [「一」 瀑流](#)
 - [「二」 解脫](#)
 - [「三」 引導者](#)
 - [「四」 時乃過去](#)
 - [「五」 幾何斷](#)
 - [「六」 不眠](#)
 - [「七」 不了知](#)
 - [「八」 迷亂](#)
 - [「九」 慢之欲](#)
 - [「一〇」 住森林](#)
 - [第二 歡喜園品](#)
 - [「一一」 歡喜園](#)
 - [「一二」 歡喜](#)
 - [「一三」 無有如子者](#)
 - [「一四」 剎帝利](#)
 - [「一五」 大林鳴（寂靜身）](#)
 - [「一六」 睡眠、懶惰](#)
 - [「一七」 難為（龜）](#)
 - [「一八」 慚](#)
 - [「一九」 茅屋](#)
 - [「二〇」 三彌提](#)
 - [第三 劍品](#)
 - [「二一」 第一 依劍](#)
 - [「二二」 第二 觸](#)
 - [「二三」 第三 纏縛](#)
 - [「二四」 第四 制止心](#)
 - [「二五」 第五 阿羅漢](#)
 - [「二六」 第六 光明](#)
 - [「二七」 第七 流](#)

- 「二八」第八 大富
- 「二九」第九 四輪
- 「三〇」第十 麋鹿之縛
- 第四 沙睹羅巴天群品
 - 「三一」第一 與善人為伴
 - 「三二」第二 慳倉
 - 「三三」第三 善哉
 - 「三四」第四 非然
 - 「三五」第五 嫌責天
 - 「三六」第六 信
 - 「三七」第七 會
 - 「三八」第八 岩石之破片
 - 「三九」第九 雲天公主（其一）
 - 「四〇」第十 雲天公主（其二）
- 第五 燃燒品
 - 「四一」第一 正在燒
 - 「四二」第二 以與何
 - 「四三」第三 食
 - 「四四」第四 一根
 - 「四五」第五 完人
 - 「四六」第六 天女
 - 「四七」第七 植林
 - 「四八」第八 祇園
 - 「四九」第九 慳倉
 - 「五〇」第十 陶師
- 第六 老品
 - 「五一」第一 老
 - 「五二」第二 依不老
 - 「五三」第三 友
 - 「五四」第四 支持
 - 「五五」第五 生因（一）
 - 「五六」第六 生因（二）
 - 「五七」第七 生因（三）
 - 「五八」第八 非道
 - 「五九」第九 伴
 - 「六〇」第十 詩
- 第七 勝品
 - 「六一」第一 名

- 「六二」第二 心
- 「六三」第三 渴愛
- 「六四」第四 結
- 「六五」第五 縛
- 「六六」第六 窘迫
- 「六七」第七 為繼
- 「六八」第八 禁閉
- 「六九」第九 欲望
- 「七〇」第十 世間
- 第八 斷品
 - 「七一」第一 殺
 - 「七二」第二 車
 - 「七三」第三 富
 - 「七四」第四 雨
 - 「七五」第五 恐怖
 - 「七六」第六 不老
 - 「七七」第七 主
 - 「七八」第八 欲愛
 - 「七九」第九 食糧
 - 「八〇」第十 光炎
 - 「八一」第十一 無諍
- 第二 天子相應
 - 第一 迦葉品
 - 「一」第一 迦葉（其一）
 - 「二」第二 迦葉（其二）
 - 「三」第三 摩佉
 - 「四」第四 摩揭陀
 - 「五」第五 陀摩利
 - 「六」第六 迦摩陀
 - 「七」第七 般闍羅旃陀
 - 「八」第八 多耶那
 - 「九」第九 月天子
 - 「一〇」第十 日天子
 - 第二 給孤獨品
 - 「一一」第一 月自在
 - 「一二」第二 毘紐
 - 「一三」第三 提伽羅低
 - 「一四」第四 難陀那天子

- 「一五」第五 梅檀
- 「一六」第六 須達多
- 「一七」第七 須梵
- 「一八」第八 覺陀
- 「一九」第九 優多羅
- 「二〇」第十 給孤獨
- 第三 種種外道品
 - 「二一」第一 濕婆
 - 「二二」第二 差摩
 - 「二三」第三 世理
 - 「二四」第四 陶師
 - 「二五」第五 姜睹
 - 「二六」第六 赤馬
 - 「二七」第七 難陀
 - 「二八」第八 難提毘舍羅
 - 「二九」第九 須尸摩
 - 「三〇」第十 種種之外道師
- 第三 拘薩羅相應
 - 第一 拘薩羅品
 - 「一」第一 幼少
 - 「二」第二 人
 - 「三」第三 王
 - 「四」第四 愛者
 - 「五」第五 自護
 - 「六」第六 少數
 - 「七」第七 裁斷
 - 「八」第八 末利
 - 「九」第九 供犧
 - 「一〇」第十 縛
 - 第二 拘薩羅品
 - 「一一」第一 結髮行者
 - 「一二」第二 五王
 - 「一三」第三 太食
 - 「一四」第四 於戰之二語（其一）
 - 「一五」第五 於戰之二語（其二）
 - 「一六」第六 公主
 - 「一七」第七 不放逸（其一）
 - 「一八」第八 不放逸（其二）

- 「一九」第九 無子（其一）
- 「二〇」第十 無子（其二）
- 第三 拘薩羅品
 - 「二一」第一 人
 - 「二二」第二 祖母
 - 「二三」第三 世間
 - 「二四」第四 弓術
 - 「二五」第五 山之比喻
- 第四 惡魔相應
 - 第一 惡魔品
 - 「一」第一 苦業
 - 「二」第二 象
 - 「三」第三 淫
 - 「四」第四 係蹄（其一）
 - 「五」第五 係蹄（其二）
 - 「六」第六 蛇
 - 「七」第七 睡眠
 - 「八」第八 歡喜
 - 「九」第九 壽命（其一）
 - 「一〇」第十 壽命（其二）
 - 第二 惡魔品
 - 「一一」第一 巖
 - 「一二」第二 獅子
 - 「一三」第三 巖石之破片
 - 「一四」第四 非相應
 - 「一五」第五 意
 - 「一六」第六 鉢
 - 「一七」第七 處
 - 「一八」第八 團食
 - 「一九」第九 農夫
 - 「二〇」第十 統治
 - 第三 惡魔品
 - 「二一」第一 多數
 - 「二二」第二 三彌提
 - 「二三」第三 瞿低迦
 - 「二四」第四 七年
 - 「二五」第五 魔女
 - 第五 比丘尼相應

- 「一」第一 阿羅毘迦
- 「二」第二 蘇摩
- 「三」第三 瞿曇彌
- 「四」第四 毘闍耶
- 「五」第五 蓮華色
- 「六」第六 遮羅
- 「七」第七 優波遮羅
- 「八」第八 尸須波遮羅
- 「九」第九 世羅
- 「十」第十 金剛
- 第六 梵天相應
 - 第一 梵天品
 - 「一」第一 勸請
 - 「二」第二 恭敬
 - 「三」第三 梵天
 - 「四」第四 婆伽梵天
 - 「五」第五 他見
 - 「六」第六 放逸
 - 「七」第七 瞿伽利迦
 - 「八」第八 低沙迦
 - 「九」第九 都頭梵天
 - 「一〇」第十 瞿伽利迦
 - 第二 梵天品
 - 「一一」第一 常童子
 - 「一二」第二 提婆達多
 - 「一三」第三 闍陀迦頻陀
 - 「一四」第四 阿盧那越提
 - 「一五」第五 般涅槃
- 第七 婆羅門相應
 - 第一 阿羅漢品
 - 「一」第一 陀然闍仁
 - 「二」第二 讎謗
 - 「三」第三 阿修羅王
 - 「四」第四 毘蘭耆迦
 - 「五」第五 不害
 - 「六」第六 縈髻
 - 「七」第七 淨者
 - 「八」第八 拜火

- 「九」第九 孫陀利迦
- 「一〇」第十 婆富提低
- 第二 優婆塞品
 - 「一一」第一 耕田
 - 「一二」第二 優陀耶
 - 「一三」第三 提婆比多
 - 「一四」第四 大富者
 - 「一五」第五 憍傲
 - 「一六」第六 違義
 - 「一七」第七 木匠
 - 「一八」第八 採薪
 - 「一九」第九 孝養
 - 「二〇」第十 乞食
 - 「二一」第十一 參伽羅婆
 - 「二二」第十二 庫摩都薩呂
- 第八 婆耆沙長老相應
 - 「一」第一 出離
 - 「二」第二 不快
 - 「三」第三 輕蔑溫和者
 - 「四」第四 阿難
 - 「五」第五 善說
 - 「六」第六 舍利弗
 - 「七」第七 自恣
 - 「八」第八 千以上
 - 「九」第九 憍陳如
 - 「一〇」第十 目犍連
 - 「一一」第十一 伽伽羅池
 - 「一二」第十二 婆耆沙
- 第九 森林相應
 - 第一 葦品
 - 「一」第一 遠離
 - 「二」第二 看護
 - 「三」第三 迦葉（獵夫）
 - 「四」第四 多數（遊）方者
 - 「五」第五 阿難
 - 「六」第六 阿那律
 - 「七」第七 那伽達多
 - 「八」第八 家婦

- 「九」第九 跋耆子（毘舍離）
- 「一〇」第十 誦經（法）
- 「一一」第十一 不正思惟（思惟）
- 「一二」第十二 中午（鳴動）
- 「一三」第十三 不制御根（多比丘）
- 「一四」第十四 紅蓮（白蓮）
- 第十 夜叉相應
 - 「一」第一 因陀迦
 - 「二」第二 釋羅
 - 「三」第三 針毛
 - 「四」第四 摩尼跋陀
 - 「五」第五 左奴
 - 「六」第六 夜叉童子
 - 「七」第七 富那婆藪
 - 「八」第八 須達多
 - 「九」第九 叔迦羅（一）
 - 「一〇」第十 叔迦羅（二）
 - 「一一」第十一 毘羅
 - 「一二」第十二 阿羅毘
- 第十一 帝釋相應
 - 第一 帝釋品
 - 「一」第一 須毘羅
 - 「二」第二 須師摩
 - 「三」第三 旗尖
 - 「四」第四 吠波質底（忍辱）
 - 「五」第五 善語之勝利
 - 「六」第六 鳥巢
 - 「七」第七 無譎詐
 - 「八」第八 毘留奢那阿修羅王
 - 「九」第九 森林聖者（香）
 - 「一〇」第十 海邊聖者（參婆羅）
 - 第二 帝釋品
 - 「一一」第一 諸天（禁戒足）（一）
 - 「一二」第二 諸天（二）
 - 「一三」第三 諸天（三）
 - 「一四」第四 曾人
 - 「一五」第五 樂
 - 「一六」第六 供犧者

- 「一七」第七 禮敬
- 「一八」第八 帝釋之禮敬（一）
- 「一九」第九 帝釋之禮敬（二）
- 「二〇」第十 帝釋之禮敬（三）
- 第三 帝釋品
 - 「二一」第一 殺
 - 「二二」第二 醜陋
 - 「二三」第三 幻術
 - 「二四」第四 罪過（無忿）
 - 「二五」第五 無忿（無害）
- 因緣篇 (12-21)
 - 第一 因緣相應
 - 第一 佛陀品
 - 「一」第一 法說
 - 「二」第二 分別
 - 「三」第三 道跡
 - 「四」第四 毘婆尸
 - 二
 - 二
 - 「五」第五 尸棄
 - 「六」第六 毘舍浮
 - 「七」第七 拘留孫
 - 「八」第八 拘那含
 - 「九」第九 迦葉
 - 「一〇」第十 大釋迦牟尼瞿曇
 - 二
 - 二
 - 第二 食品
 - 「一一」第一 食
 - 「一二」第二 破群那
 - 「一三」第三 沙門婆羅門（之一）
 - 「一四」第四 沙門婆羅門（之二）
 - 「一五」第五 迦旃延
 - 「一六」第六 說法者
 - 「一七」第七 阿支羅
 - 〇
 - 二
 - 二

- 三
- 四
- 「一八」第八 玷牟留
- 「一九」第九 愚與賢
- 「二〇」第十 緣
- 第三 十力品
 - 「二一」第一 十力（之一）
 - 「二二」第二 十力（之二）
 - 「二三」第三 緣
 - 「二四」第四 異學
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 三
 - 「二五」第五 浮彌
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 「二六」第六 優波摩那
 - 「二七」第七 緣
 - 「二八」第八 比丘
 - 「二九」第九 沙門婆羅門（之一）
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 「三〇」第十 沙門婆羅門（之二）
- 第四 伽拉羅剎利品
 - 「三一」第一 生者
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 三
 - 「三二」第二 伽拉羅
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 三
 - 四

- 「三三」第三 智事（之一）
- 「三四」第四 智事（之二）
- 「三五」第五 無明緣（之一）
- 「三六」第六 無明緣（之二）
- 「三七」第七 非汝之物
- 「三八」第八 思（之一）
- 「三九」第九 思（之二）
- 「四〇」第十 思（之三）
- 第五 家主品
 - 「四一」第一 五畏罪（之一）
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 「四二」第二 五畏罪（之二）
 - 「四三」第三 苦
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 「四四」第四 世間
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 「四五」第五 那提迦
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 「四六」第六 異
 - 「四七」第七 聲聞
 - 「四八」第八 順世派
 - 「四九」第九 聖弟子（之一）
 - 「五〇」第十 聖弟子（之二）
- 第六 樹品
 - 「五一」第一 思量
 - 「五二」第二 取
 - 「五三」第三 結（之一）
 - 「五四」第四 結（之二）
 - 「五五」第五 大樹（之一）
 - 「五六」第六 大樹（之二）

- 「五七」第七 幼樹
- 「五八」第八 名色
- 「五九」第九 識
- 「六〇」第十 因
- 第七 大品
 - 「六一」第一 無聞（之一）
 - 「六二」第二 無聞（之二）
 - 「六三」第三 子肉
 - 「六四」第四 有倉
 - 「六五」第五 城邑
 - 「六六」第六 觸
 - 「六七」第七 蘆束
 - 「六八」第八 橋賞彌
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 三
 - 「六九」第九 膨脹
 - 「七〇」第十 須尸摩
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 三
 - 四
 - 五
 - 六
- 第八 沙門婆羅門品
 - 「七一」第一 沙門婆羅門義
 - 「七二～八〇」第二～第十 不知（之一）
 - 「八一」第十一 不知（之二）
- 第九 中略品
 - 「八二」第一 師
 - 「八三」第二 學
 - 「八四」第三 瑜伽
 - 「八五」第四 欲
 - 「八六」第五 努力
 - 「八七」第六 不退轉
 - 「八八」第七 熱誠

- 「八九」第八 精進
- 「九〇」第十 不拔
- 「九一」第十一 正念
- 「九二」第十二 正心
- 「九三」第十三 不放逸
- 第二 現觀相應
 - 「一」第一 爪尖
 - 「二」第二 蓮池
 - 「三」第三 合流水（之一）
 - 「四」第四 合流水（之二）
 - 「五」第五 地（之一）
 - 「六」第六 地（之二）
 - 「七」第七 海（之一）
 - 「八」第八 海（之二）
 - 「九」第九 山喻（之一）
 - 「一〇」第十 山喻（之二）
 - 「一一」第十一 山喻（之三）
- 第三 界相應
 - 第一 種種品
 - 「一」第一 界
 - 「二」第二 觸
 - 「三」第三 非此
 - 「四」第四 受（之一）
 - 「五」第五 受（之二）
 - 「六」第六 界
 - 「七」第七 想
 - 「八」第八 非此
 - 「九」第九 觸（之一）
 - 「一〇」第十 觸（之二）
 - 第二 無慚愧品
 - 「一一」第一 此等之七
 - 「一二」第二 有因
 - 「一三」第三 磚瓦之家
 - 「一四」第四 劣意志
 - 「一五」第五 業
 - 「一六」第六 有偈
 - 二
 - 二
 - 二

- 「一七」第七 不信
 - ○
 - 二
 - 二
- 「一八」第八 不信之根本五
 - ○
 - 二
 - 二
 - 三
 - 四
 - 五
- 「一九」第九 無慚之根本四
 - ○
 - 二
 - 二
 - 三
 - 四
- 「二〇」第十 無愧之根本三
 - ○
 - 二
 - 二
 - 三
- 「二一」第十一 依少聞二
 - ○
 - 二
 - 二
- 「二二」第十二 懈怠
 - ○
 - 二
- 第三 業道品
 - 「二三」第一 不寂靜
 - 「二四」第二 惡戒
 - 「二五」第三 五學處
 - 「二六」第四 七業道
 - 「二七」第五 十業道
 - 「二八」第六 八支
 - 「二九」第七 十支
- 第四 隨喜品

- 「三〇」第一 四
- 「三一」第二 前
- 「三二」第三 「我」所行
- 「三三」第四 若無此
- 「三四」第五 苦
- 「三五」第六 隨喜
 - 〇
 - 二
 - 二
- 「三六」第七 生起
- 「三七」第八 沙門婆羅門（之一）
- 「三八」第九 沙門婆羅門（之二）
- 「三九」第十 沙門婆羅門（之三）
- 第四 無始相應
 - 第一 薪草品
 - 「一」第一 薪草
 - 「二」第二 地
 - 「三」第三 淚
 - 「四」第四 乳
 - 「五」第五 山
 - 「六」第六 芥子
 - 「七」第七 聲聞
 - 「八」第八 恒河
 - 「九」第九 杖
 - 「一〇」第十 人
 - 第二 苦惱等品
 - 「一一」第一 苦惱
 - 「一二」第二 安樂
 - 「一三」第三 約三十
 - 「一四」第四 母
 - 「一五」第五 父
 - 「一六」第六 兄弟
 - 「一七」第七 姊妹
 - 「一八」第八 子
 - 「一九」第九 女兒
 - 「二〇」第十 毘富羅山
- 第五 迦葉相應
 - 「一」第一 滿足

- 〔二〕 第二 無愧
 - ○
 - 一
 - 二
 - 三
 - 四
- 〔三〕 第三 月喻
- 〔四〕 第四 人在家
- 〔五〕 第五 老
- 〔六〕 第六 教誡（之一）
- 〔七〕 第七 教誡（之二）
- 〔八〕 第八 教誡（之三）
- 〔九〕 第九 定與勝智
- 〔一〇〕 第十 止住處
 - ○
 - 一
 - 二
 - 三
 - 四
- 〔一一〕 第十一 衣
 - ○
 - 一
 - 二
 - 三
 - 四
- 〔一二〕 第十二 死後
- 〔一三〕 第十三 像法
- 第六 利得與供養相應
 - 第一 誠品
 - 〔一〕 第一 可怖
 - 〔二〕 第二 鉤針
 - 〔三〕 第三 龜
 - 〔四〕 第四 長毛
 - 〔五〕 第五 蠶蟲
 - 〔六〕 第六 雷電
 - 〔七〕 第七 含毒
 - 〔八〕 第八 豺
 - 〔九〕 第九 毘嵐風

- 「一〇」第十 偈頌經
- 第二 誠鉢品
 - 「一一」第一 鉢（之一）
 - 「一二」第二 鉢（之二）
 - 「一三～二〇」第三～第十 金環——地方之美人
 - 「一三」第三
 - 「一四」第四
 - 「一五」第五
 - 「一六」第六
 - 「一七」第七
 - 「一八」第八
 - 「一九」第九
 - 「二〇」第十
- 第三 度量品
 - 「二一」第一 女
 - 「二二」第二 美人
 - 「二三」第三 子
 - 「二四」第四 一女
 - 「二五」第五 沙門婆羅門（之一）
 - 「二六」第六 沙門婆羅門（之二）
 - 「二七」第七 沙門婆羅門（之三）
 - 「二八」第八 皮
 - 「二九」第九 紐
 - 「三〇」第十 比丘
- 第四 妄語品
 - 「三一」第一 割截
 - 「三二」第二 根
 - 「三三」第三 法
 - 「三四」第四 白
 - 「三五」第五 離去
 - 「三六」第六 車
 - 「三七」第七 母
 - 「三八～四三」第八 父、第九 兄弟、第十 姊妹、第十一 子、第十二 女、第十三 妻
 - 「三八」
 - 「三九」
 - 「四〇」
 - 「四一」

- 〔四二〕
- 〔四三〕
- 第七 羅喉羅相應
 - 第一 界品
 - 〔一〕 第一 眼
 - 〔二〕 第二 色
 - 〔三〕 第三 識
 - 〔四〕 第四 觸
 - 〔五〕 第五 受
 - 〔六〕 第六 想
 - 〔七〕 第七 思
 - 〔八〕 第八 愛
 - 〔九〕 第九 界
 - 〔一〇〕 第十 蘊
 - 第二 界蘊品
 - 〔一一〕 第一 眼
 - 〔一二～二〇〕 第二～第十
 - 〔一二〕 第二 色
 - 〔一三〕 第三 識
 - 〔一四〕 第四 觸
 - 〔一五〕 第五 受
 - 〔一六〕 第六 想
 - 〔一七〕 第七 思
 - 〔一八〕 第八 愛
 - 〔一九〕 第九 界
 - 〔二〇〕 第十 蘊
 - 〔二一〕 第十一 使
 - 〔二二〕 第十二 遠離
- 第八 勒叉那相應
 - 第一 惡業品
 - 〔一〕 第一 鎖骨
 - 〔二〕 第二 屠牛者
 - 〔三〕 第三 一塊與捕鳥者
 - 〔四〕 第四 無皮膚之屠羊者
 - 〔五〕 第五 刀之屠豬者
 - 〔六〕 第六 刃之獵師
 - 〔七〕 第七 矢之裁
 - 〔八〕 第八 針之調師

- 「九」第九 間諜
- 「一〇」第十 腐敗之判官
- 第二 惡業品
 - 「一一」第一 沈陷於坑之不義者
 - 「一二」第二 喰糞之邪惡婆羅門
 - 「一三」第三 剝皮膚女～姦婦
 - 「一四」第四 醜女卜占女
 - 「一五」第五 炙女曾投夥伴於炭火
 - 「一六」第六 斷頭司獄
 - 「一七」第七 比丘
 - 「一八」第八 比丘尼
 - 「一九」第九 式叉摩那
 - 「二〇」第十 沙彌
 - 「二一」第十一 沙彌尼
- 第九 譬喻相應
 - 「一」第一 棟
 - 「二」第二 指端
 - 「三」第三 家
 - 「四」第四 釜
 - 「五」第五 刃
 - 「六」第六 弓術師
 - 「七」第七 鼓輻
 - 「八」第八 藁
 - 「九」第九 象
 - 「一〇」第十 貓
 - 「一一」第十一 豺（之一）
 - 「一二」第十二 豺（之二）
- 第十 比丘相應
 - 「一」第一 拘離多
 - 「二」第二 優波低沙
 - 「三」第三 甕
 - 「四」第四 年少
 - 「五」第五 善生
 - 「六」第六 拔提
 - 「七」第七 毘舍佉
 - 「八」第八 難陀
 - 「九」第九 低沙
 - 「一〇」第十 名為長老

- 「一一」第十一 劫賓那
- 「一二」第十二 僚友
- 韃度篇 (22-34)
 - 第一 蘊相應
 - 第一 根本五十經
 - 第一 那拘羅父品
 - 「一」第一 那拘羅父
 - 「二」第二 天現
 - 「三」第三 訶梨（一）
 - 「四」第四 訶梨（二）
 - 「五」第五 三昧
 - 「六」第六 寡默
 - 「七」第七 取著恐懼（一）
 - 「八」第八 取著恐懼（二）
 - 「九」第九 過去未來現在（一）
 - 「一〇」第十 過去未來現在（二）
 - 「一一」第十一 過去未來現在（三）
 - 第二 無常品
 - 「一二」第一 無常
 - 「一三」第二 苦
 - 「一四」第三 無我
 - 「一五」第四 無常者（一）
 - 「一六」第五 無常者（二）
 - 「一七」第六 無常者（三）
 - 「一八」第七 因（一）
 - 「一九」第八 因（二）
 - 「二〇」第九 因（三）
 - 「二一」第十 阿難
 - 第三 重擔品
 - 「二二」第一 重擔
 - 「二三」第二 徧智
 - 「二四」第三 徧智（證知）
 - 「二五」第四 欲貪
 - 「二六」第五 味（一）
 - 「二七」第六 味（二）
 - 「二八」第七 味（三）
 - 「二九」第八 歡喜
 - 「三〇」第九 生

- 「三一」第十 痛根
- 「三二」第十一 壞法
- 第四 非汝所應法品
 - 「三三」第一 非汝應法（一）
 - 「三四」第二 非汝所應法（二）
 - 「三五」第三 比丘（一）
 - 第○章
 - 第一章
 - 第二章
 - 「三六」第四 比丘（二）
 - 「三七」第五 阿難（一）
 - 「三八」第六 阿難（二）
 - 「三九」第七 隨法（一）
 - 「四〇」第八 隨法（二）
 - 「四一」第九 隨法（三）
 - 「四二」第十 隨法（四）
- 第五 自洲品
 - 「四三」第一 自洲
 - 「四四」第二 道
 - 「四五」第三 無常（一）
 - 「四六」第四 無常（二）
 - 「四七」第五 觀見
 - 「四八」第六 蘊
 - 「四九」第七 輪屢那（一）
 - 「五〇」第八 輪屢那（二）
 - 「五一」第九 喜盡（一）
 - 「五二」第十 喜盡（二）
- 第二 中五十經
 - 第一 封滯品
 - 「五三」第一 封滯
 - 「五四」第二 種子
 - 「五五」第三 優陀那
 - 「五六」第四 取轉
 - 「五七」第五 七處
 - 「五八」第六 等覺者
 - 「五九」第七 五群比丘
 - 「六〇」第八 摩訶利
 - 「六一」第九 熾然

- 「六二」第十 言路
- 第二 阿羅漢品
 - 「六三」第一 取
 - 「六四」第二 思
 - 「六五」第三 歡喜
 - 「六六」第四 無常
 - 「六七」第五 苦
 - 「六八」第六 無我
 - 「六九」第七 非自所應
 - 「七〇」第八 止住所染
 - 「七一」第九 羅陀
 - 「七二」第十 修羅陀
- 第三 所食品
 - 「七三」第一 味
 - 「七四」第二 集（一）
 - 「七五」第三 集（二）
 - 「七六」第四 阿羅漢（一）
 - 「七七」第五 阿羅漢（二）
 - 「七八」第六 師子（一）
 - 「七九」第七 師子（二）
 - 「八〇」第八 乞食
 - 「八一」第九 波陀聚落
 - 「八二」第十 滿月
- 第四 長老品
 - 「八三」第一 阿難
 - 「八四」第二 低舍
 - 「八五」第三 焰摩迦
 - 「八六」第四 阿菴羅度
 - 「八七」第五 跋伽梨
 - 「八八」第六 阿濕波誓
 - 「八九」第七 羴摩
 - 「九〇」第八 闍陀
 - 「九一」第九 羅睺羅（一）
 - 「九二」第十 羅睺羅（二）
- 第五 華品
 - 「九三」第一 河流
 - 「九四」第二 華（增長）
 - 「九五」第三 泡沫

- 「九六」第四 牛糞
- 「九七」第五 指尖
- 「九八」第六 清淨（海）
- 「九九」第七 繫繩（一）
- 「一〇〇」第八 繫繩（二）
- 「一〇一」第九 手斧之柄（船舶）
- 「一〇二」第十 無常性（想）
- 第三 後五十經
 - 第一 邊品
 - 「一〇三」第一 邊
 - 「一〇四」第二 苦
 - 「一〇五」第三 有身
 - 「一〇六」第四 所徧知
 - 「一〇七」第五 沙門（一）
 - 「一〇八」第八 沙門（二）
 - 「一〇九」第七 預流
 - 「一一〇」第八 阿羅漢
 - 「一一一」第九 欲貪（一）
 - 「一一二」第十 欲貪（二）
 - 第二 說法品
 - 「一一三」第一 無明（比丘）
 - 「一一四」第二 明（比丘）
 - 「一一五」第三 說法者（一）
 - 「一一六」第四 說法者（二）
 - 「一一七」第五 縛
 - 「一一八」第六 解脫（一）
 - 「一一九」第七 解脫（二）
 - 「一二〇」第八 結
 - 「一二一」第九 取
 - 「一二二」第十 戒
 - 「一二三」第十一 有聞
 - 「一二四」第十二 劫波（一）
 - 「一二五」第十三 劫波（二）
 - 第三 無明品
 - 「一二六」第一 集法（一）
 - 「一二七」第二 集法（二）
 - 「一二八」第三 集法（三）
 - 「一二九」第四 味（一）

- 「一三〇」第五 味（二）
- 「一三一」第六 集（一）
- 「一三二」第七 集（二）
- 「一三三」第八 拘絺羅（一）
- 「一三四」第九 拘絺羅（二）
- 「一三五」第十 拘絺羅（三）
- 第四 煇煇品
 - 「一三六」第一 煇煇
 - 「一三七」第二 無常（一）
 - 「一三八」第三 無常（二）
 - 「一三九」第四 無常（三）
 - 「一四〇～一四二」第六～第七 苦（一～三）
 - 「一四三～一四五」第八～第十 無我（一～三）
 - 「一四六」第十一 善男子苦（一）
 - 「一四七」第十二 善男子苦（二）
 - 「一四八」第十三 善男子苦（三）
- 第五 見品
 - 「一四九」第一 內
 - 「一五〇」第二 我所
 - 「一五一」第三 我
 - 「一五二」第四 無我所
 - 「一五三」第五 邪見
 - 「一五四」第六 有身
 - 「一五五」第七 我
 - 「一五六」第八 現倉（一）
 - 「一五七」第九 現倉（二）
 - 「一五八」第十 阿難
- 第二 羅陀相應
 - 第一 初品
 - 「一」第一 魔
 - 「二」第二 眾生
 - 「三」第三 有綱
 - 「四」第四 所徧知
 - 「五」第五 沙門（一）
 - 「六」第六 沙門（二）
 - 「七」第七 預流
 - 「八」第八 阿羅漢
 - 「九」第九 欲倉（一）

- 「一〇」第十 欲貪（二）
- 第二 次品
 - 「一一」第一 魔
 - 「一二」第二 魔法
 - 「一三」第三 無常（一）
 - 「一四」第四 無常（二）
 - 「一五」第五 苦（一）
 - 「一六」第六 苦（二）
 - 「一七」第七 無我（一）
 - 「一八」第八 無我（二）
 - 「一九」第九 盡法
 - 「二〇」第十 壞法
 - 「二一」第十一 集
 - 「二二」第十二 滅法
- 第三 所問品
 - 「二三」第一 魔
 - 「二四」第二 魔法
 - 「二五～二六」第三～四 無常（一～二）
 - 「二七～二八」第五～六 苦（一～二）
 - 「二九～三〇」第七～八 無我（一～二）
 - 「三一～三二」第九～十 盡～壞
 - 「三三」第十一 集
 - 「三四」第十二 滅法
- 第四 侍坐品
 - 「三五」第一 魔
 - 「三六」第二 魔法
 - 「三七～三八」第三～四 無常（一～二）
 - 「三九～四〇」第五～六 苦（一～二）
 - 「四一～四二」第七～八 無我（一～二）
 - 「四三～四五」第九～十一 盡～壞～集
 - 「四六」第十二 滅法
- 第三 見相應
 - 第一 預流品
 - 「一」第一 風
 - 「二」第二 我所
 - 「三」第三 我
 - 「四」第四 無我所
 - 「五」第五 無

- 「六」第六 作
- 「七」第七 因
- 「八」第八 (大) 見
- 「九」第九 世間常
- 「一〇」第十 世間無常
- 「一一」第十一 有邊
- 「一二」第十二 無邊
- 「一三」第十三 命即身
- 「一四」第十四 命身異
- 「一五」第十五 如來有
- 「一六」第十六 如來無
- 「一七」第十七 如來有無
- 「一八」第十八 如來非有非無
- 第二 重說品
 - 第一章
 - 「一九」第一 風
 - 「二〇～三五」第二～十七
 - 「三六」第十八 非有非無
 - 第二章
 - 「三七」第十九 有色我
 - 「三八」第二十 無色我
 - 「三九」第二十一 有色無色
 - 「四〇」第二十二 非有色非無色
 - 「四一」第二十三 一向樂
 - 「四二」第二十四 一向苦
 - 「四三」第二十五 樂苦
 - 「四四」第二十六 非苦非樂
 - 第三章
 - 「四五」第一 風
 - 「四六～六九」第二～二五
 - 「七〇」第二六「非苦非樂」
 - 第四章
 - 「七一」第一「風」
 - 「七二～九五」第二～二五
 - 「九六」第二十六「非苦非樂」
- 第四 入相應
 - 「一」第一 眼
 - 「二」第二 色

- 「三」第三 識
- 「四」第四 觸
- 「五」第五 受
- 「六」第六 想
- 「七」第七 思
- 「八」第八 愛
- 「九」第九 界
- 「一〇」第十 蘊
- 第五 生相應
 - 「一」第一 眼
 - 「二」第二 色
 - 「三」第三 識
 - 「四」第四 觸
 - 「五」第五 受
 - 「六」第六 想
 - 「七」第七 思
 - 「八」第八 愛
 - 「九」第九 界
 - 「一〇」第十 蘊
- 第六 煩惱相應
 - 「一」第一 眼
 - 「二」第二 色
 - 「三」第三 識
 - 「四」第四 觸
 - 「五」第五 受
 - 「六」第六 想
 - 「七」第七 思
 - 「八」第八 愛
 - 「九」第九 界
 - 「一〇」第十 蘊
- 第七 舍利弗相應
 - 「一」第一 離
 - 「二」第二 無尋
 - 「三」第三 喜
 - 「四」第四 捨
 - 「五」第五 虛空
 - 「六」第六 識
 - 「七」第七 無所有處

- 「八」第八 有想
- 「九」第九 滅
- 「一〇」第十 淨口
- 第八 龍相應
 - 「一」第一 品類
 - 「二」第二 妙勝
 - 「三」第三 布薩（一）
 - 「四」第四 布薩（二）
 - 「五」第五 布薩（三）
 - 「六」第六 布薩（四）
 - 「七」第七 聞（一）
 - 「八」第八 聞（二）
 - 「九」第九 聞（三）
 - 「一〇」第十 聞（四）
 - 「一一～二〇」第十一 布施利益（一）
 - 「二一～五〇」第十二～十四 布施利益（二～四）
- 第九 金翅鳥相應
 - 「一」第一 品類
 - 「二」第二 取
 - 「三」第三 善惡業（一）
 - 「四～六」第四～六 善惡業（二～四）
 - 「七～一六」第七 布施利益（一）
 - 「一七～四六」第八～十 布施利益（二～四）
- 第十 乾達婆相應
 - 「一」第一 品類
 - 「二」第二 善行
 - 「三」第三 施者（一）
 - 「四～一二」第四～十二 施者（二～一〇）
 - 「一三～二二」第十三 布施利益（一）
 - 「二三～一一二」第十四～二十三 布施利益（二～一〇）
- 第十一 雲相應
 - 「一」第一 說示
 - 「二」第二 善行
 - 「三～二二」第三 布施利益（一）
 - 「二三～五二」第四～七 布施利益（二～五）
 - 「五三」第八 寒
 - 「五四」第九 熱

- 「五五」第十 闇
- 「五六」第十一 風
- 「五七」第十二 雨
- 第十二 婆蹉種相應
 - 「一～五」第一～五 無知（一～五）
 - 第一 無知（一）
 - 第二 無知（二）
 - 第三 無知（三）
 - 第四 無知（四）
 - 第五 無知（五）
 - 「六～一〇」第六～十 無見（一～五）
 - 「一一～一五」第十一～十五 不現觀（一～五）
 - 「一六～二〇」第十六～二十 不了悟（一～五）
 - 「二一～二五」第二十一～二十五 不通達（一～五）
 - 「二六～三〇」第二十六～三十 不等觀（一～五）
 - 「三一～三五」第三十一～三十五 不隨觀（一～五）
 - 「三六～四〇」第三十六～四十 不近觀（一～五）
 - 「四一～四五」第四十一～四十五 不等察（一～五）
 - 「四六～五〇」第四十六～五〇 不近察（一～五）
 - 「五一～五五」第五十一～五十五 不現見（一～五）
 - 第五十一 不現見（一）
 - 第五十二～五十四 不現見（二～四）
 - 第五十五 不現見（五）
- 第十三 禪定相應
 - 「一」第一 三昧～等至
 - 「二」第二 止住
 - 「三」第三 出起
 - 「四」第四 安樂
 - 「五」第五 所緣
 - 「六」第六 行境
 - 「七」第七 引發
 - 「八」第八 恭敬「作」
 - 「九」第九 常作
 - 「一〇」第十 隨應
 - 「一一」第十一 等至～止住
 - 「一二」第十二 等至～出起
 - 「一三」第十三 等至～安樂
 - 「一四」第十四 等至～所緣

- 「一五」第十五 等至～行境
- 「一六」第十六 等至～引發
- 「一七」第十七 等至～恭敬
- 「一八」第十八 等至～常作
- 「一九」第十九 等至～隨應
- 「二〇」第二十 止住～出起
- 「二一～二七」第二十一～二十七 止住～安樂
- 「二八」第二八 出起～安樂
- 「二九～三四」第二十九～三十四 出起
- 「三五」第三十五 安樂～所緣
- 「三六～四〇」第三十六～四十 安樂
- 「四一」第四十一 所緣～行境
- 「四二～四五」第四十二～四十五 所緣
- 「四六」第四十六 行境～引發
- 「四七～四九」第四十七～四十九 行境
- 「五〇」第五十 引發～「恭敬」
- 「五一～五二」第五十一～五十二「引發」
- 「五三」第五十三 恭敬作～常作
- 「五四」第五十四 恭敬作～隨應作
- 「五五」第五十五 常作～隨應作
- 六處篇上 (35-41).
 - 第一 六處相應
 - 第一 根本五十「經」品
 - 第一 無常品
 - 「一」第一 無常（一）內
 - 「二」第二 苦（一）內
 - 「三」第三 無我（一）內
 - 「四」第四 無常（二）外
 - 「五」第五 苦（二）外
 - 「六」第六 無我（二）外
 - 「七」第七 無常（三）內
 - 「八」第八 苦（三）內
 - 「九」第九 無我（三）內
 - 「一〇」第十 無常（四）外
 - 「一一」第十一 苦（四）外
 - 「一二」第十二 無我（四）外
 - 第二 雙雙品
 - 「一三」第一 由於正覺（一）

- 「一四」第二 由於正覺（二）
- 「一五」第三 由於甘味（一）
- 「一六」第四 由於甘味（二）
- 「一七」第五 若無者（一）
- 「一八」第六 若無者（二）
- 「一九」第七 因歡悅（一）
- 「二〇」第八 因歡悅（二）
- 「二一」第九 因生起（一）
- 「二二」第十 因生起（二）
- 第三 一切品
 - 「二三」第一 一切
 - 「二四」第二 捨棄（一）
 - 「二五」第三 捨棄（二）
 - 「二六」第四 曉了（一）
 - 「二七」第五 曉了（二）
 - 「二八」第六 燃燒
 - 「二九」第七 盲闇
 - 「三〇」第八 適宜
 - 「三一」第九 有驗（一）
 - 「三二」第十 有驗（二）
- 第四 生法品
 - 「三三」第一 生
 - 「三四」第二 老
 - 「三五」第三 病
 - 「三六」第四 死
 - 「三七」第五 憂
 - 「三八」第六 污穢
 - 「三九」第七 破壞
 - 「四〇」第八 消亡
 - 「四一」第九 生起
 - 「四二」第十 滅盡
- 第五 無常品
 - 「四三」第一 無常
 - 「四四」第二 苦
 - 「四五」第三 無我
 - 「四六」第四 應所了解
 - 「四七」第五 應所知悉
 - 「四八」第六 應所捨棄

- 「四九」第七 應所實證
- 「五〇」第八 應所知解而曉了
- 「五一」第九 所累
- 「五二」第十 所壓
- 第二 五十「經」品
 - 第一 無明品
 - 「五三」第一 無明
 - 「五四」第二 繫縛（一）
 - 「五五」第三 繫縛（二）
 - 「五六、五七」第四、第五 諸漏（一～二）
 - 「五八、五九」第六、第七 隨眠（一～二）
 - 「六〇」第八 曉了
 - 「六一」第九 了悟（一）
 - 「六二」第十 了悟（二）
 - 第二 鹿網品
 - 「六三」第一 鹿網（一）
 - 「六四」第二 鹿網（二）
 - 「六五」第三 三彌離提（一）
 - 「六六」第四 三彌離提（二）
 - 「六七」第五 三彌離提（三）
 - 「六八」第六 三彌離提（四）
 - 「六九」第七 優波先那
 - 「七〇」第八 優波婆那
 - 「七一」第九 六觸處（一）
 - 「七二」第十 六觸處（二）
 - 「七三」第十一 六觸處（三）
 - 第三 病品
 - 「七四」第一 病（一）
 - 「七五」第二 病（二）
 - 「七六」第三 羅陀（一）
 - 「七七」第四 羅陀（二）
 - 「七八」第五 羅陀（三）
 - 「七九」第六 無明（一）
 - 「八〇」第七 無明（二）
 - 「八一」第八 比丘
 - 「八二」第九 世間
 - 「八三」第十 頗勒具那
 - 第四 闍陀品

- 「八四」第一 敗壞
- 「八五」第二 空
- 「八六」第三 簡約
- 「八七」第四 闍陀
- 「八八」第五 富樓那
- 「八九」第六 婆醯迦
- 「九〇」第七 動著（一）
- 「九一」第八 動著（二）
- 「九二」第九 二法（一）
- 「九三」第十 二法（二）
- 第五 棄捨品
 - 「九四」第一 所攝取（一）
 - 「九五」第二 所攝取（二）
 - 「九六」第三 退
 - 「九七」第四 不放逸住者
 - 「九八」第五 攝護
 - 「九九」第六 三昧
 - 「一〇〇」第七 獨想
 - 「一〇一」第八 非汝等有（一）
 - 「一〇二」第九 非汝等有（二）
 - 「一〇三」第十 優陀羅
- 第三 五十「經」品
 - 第一 安穩者品
 - 「一〇四」第一 安穩者
 - 「一〇五」第二 執取
 - 「一〇六」第三 苦
 - 「一〇七」第四 世間
 - 「一〇八」第五 勝
 - 「一〇九」第六 繫縛
 - 「一一〇」第七 執取
 - 「一一一」第八 了知（一）
 - 「一一二」第九 了知（二）
 - 「一一三」第十 侍聞
 - 第二 世間欲類品
 - 「一一四」第一 魔索（一）
 - 「一一五」第二 魔索（二）
 - 「一一六」第三 世間欲類（一）
 - 「一一七」第四 世間欲類（二）

- 「一一八」第五 帝釋
- 「一一九」第六 五結乾闥婆子
- 「一二〇」第七 舍利弗
- 「一二一」第八 羅睺羅
- 「一二二」第九 繫縛
- 「一二三」第十 取執
- 第三 居士品
 - 「一二四」第一 毘舍離
 - 「一二五」第二 發提
 - 「一二六」第三 那爛陀
 - 「一二七」第四 婆羅陀闍
 - 「一二八」第五 須那
 - 「一二九」第六 瞿史羅
 - 「一三〇」第七 訶梨提迦尼
 - 「一三一」第八 那拘羅父
 - 「一三二」第九 魯醯遮
 - 「一三三」第十 毘紐迦旃延婆羅門尼
- 第四 提婆陀訶品
 - 「一三四」第一 提婆陀訶
 - 「一三五」第二 執著
 - 「一三六」第三 不執著
 - 「一三七」第四 惡意者（一）
 - 「一三八」第五 惡意者（二）
 - 「一三九」第六 內因（一）
 - 「一四〇」第七 內因（二）
 - 「一四一」第八 內因（三）
 - 「一四二」第九 外因（一）
 - 「一四三」第十 外因（二）
 - 「一四四」第十一 外因（三）
- 第五 新舊品
 - 「一四五」第一 業
 - 「一四六」第二 有驗（一）
 - 「一四七」第三 有驗（二）
 - 「一四八」第四 有驗（三）
 - 「一四九」第五 有驗（四）
 - 「一五〇」第六 內住
 - 「一五一」第七 何功德
 - 「一五二」第八 有因由耶

- 「一五三」第九 諸根
- 「一五四」第十 說法者
- 第四 五十「經」品
 - 第一 喜悅消盡品
 - 「一五五」第一 喜悅消盡品（一）
 - 「一五六」第二 喜悅消盡（二）
 - 「一五七」第三 喜悅消盡（三）
 - 「一五八」第四 喜悅消盡（四）
 - 「一五九」第五 耆婆薈羅林（一）
 - 「一六〇」第六 耆婆薈羅林（二）
 - 「一六一」第七 拘瑟他迦（一）
 - 「一六二」第八 拘瑟他迦（二）
 - 「一六三」第九 拘瑟他迦（三）
 - 「一六四」第十 邪見
 - 「一六五」第十一 己身見
 - 「一六六」第十二 我
 - 第二 六十乃至廣說「品」
 - 「一六七」
 - 第一 欲念（一八經）（一）
 - 第二 欲念（二）
 - 第三 欲念（三）
 - 「一六八」第四、五、六 欲念（四、五、六）
 - 「一六九」第七、八、九 欲念（七、八、九）
 - 「一七〇」第十、十一、十二 欲念（一〇、一一、一二）
 - 「一七一」第十三、十四、十五 欲念（一三、一四、一五）
 - 「一七二」第十六、十七、十八 欲念（一六、一七、一八）
 - 「一七三」
 - 第十九 過去（九經）（一）
 - 第廿 過去（二）
 - 第廿一 過去（三）
 - 「一七四」第廿二～廿四 過去（四～六）
 - 「一七五」第廿五～廿七 過去（七～九）
 - 「一七六」第廿八～卅〇 過去（一〇～一二）
 - 「一七七」第卅一～卅三 過去（一三～一五）
 - 「一七八」第卅四～卅六 過去（一六～一八）

- 「一七九」
 - 第卅七 凡無常者（一八經）（一）
 - 第卅八 凡無常者（二）
 - 第卅九 凡無常者（三）
- 「一八〇」第四十～四十二 凡無常者（四～六）
- 「一八一」第四十三～四十五 凡無常者（七～九）
- 「一八二」第四十六～四十八 凡無常者（一〇～一二）
- 「一八三」第四十九～五十一 凡無我者（一三～一五）
- 「一八四」第五十二～五十四 凡無我者（一六～一八）
- 「一八五」
 - 第五十五 內（三經）（一）
 - 第五十六 內（二）
 - 第五十七 內（三）
- 「一八六」
 - 第五十八 外（三經）（一）
 - 第五十九 外（二）
 - 第六十 外（三）
- 第三 海品
 - 「一八七」第一 海（一）
 - 「一八八」第二 海（二）
 - 「一八九」第三 漁夫
 - 「一九〇」第四 乳樹
 - 「一九一」第五 拘絺羅
 - 「一九二」第六 迦摩浮
 - 「一九三」第七 優陀夷
 - 「一九四」第八 燃燒
 - 「一九五」第九 手足喻（一）
 - 「一九六」第十 手足喻（二）
- 第四 毒蛇品
 - 「一九七」第一 毒蛇
 - 「一九八」第二 喜樂
 - 「一九九」第三 龜
 - 「二〇〇」第四 木塊（一）
 - 「二〇一」第五 木塊（二）
 - 「二〇二」第六 漏泄

- 「二〇三」第七 苦法
 - 「二〇四」第八 緊叔迦
 - 「二〇五」第九 琵琶
 - 「二〇六」第十 六生物
 - 「二〇七」第十一 麥把
- 第二 受相應
 - 第一 有偈品
 - 「一」第一 三昧
 - 「二」第二 樂
 - 「三」第三 捨棄
 - 「四」第四 嶮崖
 - 「五」第五 當見
 - 「六」第六 箭
 - 「七」第七 疾病（一）
 - 「八」第八 疾病（二）
 - 「九」第九 無常
 - 「一〇」第十 以觸為根本者
 - 第二 獨坐品
 - 「一一」第一 獨坐
 - 「一二」第二 虛空（一）
 - 「一三」第三 虛空（二）
 - 「一四」第四 客舍
 - 「一五」第五 止息（一）
 - 「一六」第六 止息（二）
 - 「一七」第七 八支（一）
 - 「一八」第八 八支（二）
 - 「一九」第九 般奢康伽
 - 「二〇」第十 比丘
 - 第三 百八理品
 - 「二一」第一 尸婆
 - 「二二」第二 百八
 - 「二三」第三 比丘
 - 「二四」第四 宿智
 - 「二五」第五 比丘
 - 「二六」第六 沙門婆羅門（一）
 - 「二七」第七 沙門婆羅門（二）
 - 「二八」第八 沙門婆羅門（三）
 - 「二九」第九 清淨之無食樂

- 第三 女人相應
 - 第一 中略品 第一
 - 「一」第一 可意不可意
 - 「二」第二 可意不可意
 - 「三」第三 特殊
 - 「四」第四 三法
 - 「五」第一 有忿
 - 「六」第二 有恨
 - 「七」第三 有嫉
 - 「八」第四 有慳
 - 「九」第五 犯行
 - 「一〇」第六 戒劣
 - 「一一」第七 寡聞
 - 「一二」第八 懈怠
 - 「一三」第九 忘念
 - 「一四」第十 五禁
 - 第二 中略品 第二
 - 「一五」第一 無忿
 - 「一六」第二 無恨
 - 「一七」第三 無嫉
 - 「一八」第四 無慳
 - 「一九」第五 無犯行
 - 「二〇」第六 持戒
 - 「二一」第七 多聞
 - 「二二」第八 精進
 - 「二三」第九 有念
 - 「二四」第十 五戒
 - 第三 第三品
 - 「二五」第一 無所畏
 - 「二六」第二 抑制
 - 「二七」第三 克服
 - 「二八」第四 單一
 - 「二九」第五 部分
 - 「三〇」第六 放逐
 - 「三一」第七 因
 - 「三二」第八 位處
 - 「三三」第九 無所畏
 - 「三四」第十 增長

- 第四 閻浮車相應
 - 〔一〕第一 涅槃
 - 〔二〕第二 阿羅漢果
 - 〔三〕第三 法語者
 - 〔四〕第四 何在
 - 〔五〕第五 安息
 - 〔六〕第六 最上安息
 - 〔七〕第七 受
 - 〔八〕第八 漏
 - 〔九〕第九 無明
 - 〔一〇〕第十 愛
 - 〔一一〕第十一 瀑流
 - 〔一二〕第十二 取
 - 〔一三〕第十三 有
 - 〔一四〕第十四 苦
 - 〔一五〕第十五 己身
 - 〔一六〕第十六 難為
- 第五 沙門出家相應
 - 〔一〕第一 涅槃
 - 〔二～一五〕第二～第十五（與閻浮車相應之二～一五全部相同）
 - 〔一六〕第十六 難為
- 第六 目犍連相應
 - 〔一〕第一 有尋
 - 〔二〕第二 無尋
 - 〔三〕第三 樂
 - 〔四〕第四 捨
 - 〔五〕第五 虛空
 - 〔六〕第六 識
 - 〔七〕第七 無所有
 - 〔八〕第八 非非想
 - 〔九〕第九 無相
 - 〔一〇〕第十 帝釋
 - 二
 - 二
 - 三
 - 四
 - 〔一一〕第十一 旃檀天子

- 「一二」第十二 須夜摩天
- 「一三」第十三 刪兜率陀（兜率）天
- 「一四」第十四 善化樂天
- 「一五」第十五 婆舍拔提天
- 第七 質多相應
 - 「一」第一 繫縛
 - 「二」第二 隸犀達多（一）
 - 「三」第三 隸犀達多（二）
 - 「四」第四 摩訶迦
 - 「五」第五 迦摩浮（一）
 - 「六」第六 迦摩浮（二）
 - 「七」第七 牛達多
 - 「八」第八 尼乾陀
 - 「九」第九 裸形
 - 「一〇」第十 見病
- 六處篇下 (42-44).
 - 第八 聚落主相應
 - 「一」第一 暴惡
 - 「二」第二 布吒
 - 「三」第三 戰士
 - 「四」第四 象
 - 「五」第五 馬
 - 「六」第六 西地「方」人（死歿者）
 - 「七」第七 說教
 - 「八」第八 螺貝
 - 「九」第九 家
 - 「一〇」第十 頂髻
 - 「一一」第十一 驢姓
 - 「一二」第十二 王髮
 - 〇
 - 一
 - 二
 - 三
 - 四
 - 五
 - 六
 - 「一三」第十三 波羅牢（可意）
 - 〇

- 二
- 二
- 三
- 四
- 五
- 第九 無為相應
 - 第一品
 - 「一」第一 身
 - 「二」第二 止觀
 - 「三」第三 有尋
 - 「四」第四 空
 - 「五」第五 念處
 - 「六」第六 正勤
 - 「七」第七 如意足
 - 「八」第八 根
 - 「九」第九 力
 - 「十」第十 覺支
 - 「一一」第十一 道
 - 第二品
 - 「一二」第一 無為
 - 一 止
 - 二 觀
 - 三 六種三昧
 - 四
 - 五
 - 六
 - 七
 - 八
 - 九～一二 四念處
 - 一三～一六 四正勤
 - 一七～二〇 四如意足
 - 二一～二五 五根
 - 二六～三〇 五力
 - 三一～三七 七覺支
 - 三八～四五 八正道
 - 「一三」第二 終極（下無）
 - 一～四五
 - 「一四」第三 無漏（無流）

- 一～四五
- 「一五」第四 直諦
- 一～四五
- 「一六」第五 彼岸
- 一～四五
- 「一七」第六 巧妙（聽細）
- 一～四五
- 「一八」第七 極難見（難見）
- 一～四五
- 「一九」第八 不老（無壞）
- 一～四五
- 「二〇」第九 堅牢（無爭）
- 一～四五
- 「二一」第十 照見（無失）
- 一～四五
- 「二二」第十一 無譬
- 一～四五
- 「二三」第十二 無戲論
- 一～四五
- 「二四」第十三 寂靜
- 一～四五
- 「二五」第十四 甘露
- 一～四五
- 「二六」第十五 極妙
- 一～四五
- 「二七」第十六 安泰（止）
- 一～四五
- 「二八」第十七 安穩（安）
- 一～四五
- 「二九」第十八 愛盡
- 一～四五
- 「三〇」第十九 不思議（希有）
- 一～四五
- 「三一」第二十 稀有（未曾有）
- 一～四五
- 「三二」第二一 無災（無杆）
- 一～四五
- 「三三」第二二 無災法（無災）

- 一～四五
- 「三四」第二三 涅槃
- 一～四五
- 「三五」第二四 無損
- 一～四五
- 「三六」第二五 離欲
- 一～四五
- 「三七」第二六 清淨（淨）
- 一～四五
- 「三八」第二七 解脫
- 一～四五
- 「三九」第二八 非住
- 一～四五
- 「四〇」第二九 燈明（洲）
- 一～四五
- 「四一」第三十 窟宅
- 一～四五
- 「四二」第三一 庇護
- 一～四五
- 「四三」第三二 歸依
- 一～四五
- 「四四」第三三 到彼岸（能度）
- 二
- 二～四五
- 第十 無記說相應
- 「一」第一 識摩長老尼
- 「二」第二 阿菴羅陀
- 「三」第三 舍利弗——拘絺羅 第一（住者）
- 「四」第四 舍利弗——拘絺羅 第二（牛起）
- 「五」第五 舍利弗——拘絺羅 第三（愛情）
- 「六」第六 舍利弗——拘絺羅 第四（喜悅）
- 〇
- 一
- 二
- 三
- 四
- 五
- 「七」第七 目犍連（處）

- 「八」第八 婆睒（繫縛）
- 「九」第九 論議堂
- 「一〇」第十 阿難（我是有）
- 「一一」第十一 洗陀
- 大篇上 (45-47)
 - 第一 道相應
 - 第一 無明品
 - 「一」第一 無明
 - 「二」第二 半
 - 「三」第三 舍利弗
 - 「四」第四 婆羅門
 - 「五」第五 何義
 - 「六」第六 一比丘（一）
 - 「七」第七 一比丘（二）
 - 「八」第八 分別
 - 「九」第九 芒
 - 「一〇」第十 難提
 - 第二 住品
 - 「一一」第一 住（一）
 - 「一二」第二 住（二）
 - 「一三」第三 有學
 - 「一四」第四 生起（一）
 - 「一五」第五 生起（二）
 - 「一六」第六 清淨（一）
 - 「一七」第七 清淨（二）
 - 「一八」第八 鷄林精舍（一）
 - 「一九」第九 鷄林精舍（二）
 - 「二〇」第十 鷄林精舍（三）
 - 第三 邪性品
 - 「二一」第一 邪性
 - 「二二」第二 不善法
 - 「二三」第三 道（一）
 - 「二四」第四 道（二）
 - 「二五」第五 不善士（一）
 - 「二六」第六 不善士（二）
 - 「二七」第七 瓶
 - 「二八」第八 定
 - 「二九」第九 受

- 「三〇」第十 鬱低迦
- 第四 行品
 - 「三一」第一 行
 - 「三二」第二 行者
 - 「三三」第三 失
 - 「三四」第四 到彼岸
 - 「三五」第五 沙門法（一）
 - 「三六」第六 沙門法（二）
 - 「三七」第七 婆羅門法（一）
 - 「三八」第八 婆羅門法（二）
 - 「三九」第九 梵行（一）
 - 「四〇」第十 梵行（二）
- 異學廣說
 - 「四一」第一 遠離
 - 「四二」第二 結
 - 「四三」第三 隨眠
 - 「四四」第四 行路
 - 「四五」第五 漏盡
 - 「四六」第六 明解脫
 - 「四七」第七 智
 - 「四八」第八 無取
- 日輪廣說
 - 一 遠離依止
 - 「四九」第一 善友（一）
 - 「五〇」第二 戒（一）
 - 「五一」第三 志欲（一）
 - 「五二」第四 我（一）
 - 「五三」第五 見（一）
 - 「五四」第六 不放逸（一）
 - 「五五」第七 如理（一）
 - 二 貪欲調伏
 - 「五六」第八 善友（二）
 - 「五七」第九 戒（二）
 - 「五八」第十 志欲（二）
 - 「五九」第十一 我（二）
 - 「六〇」第十二 見（二）
 - 「六一」第十三 不放逸（二）
 - 「六二」第十四 如理（二）

- 一法廣說（一）
 - 一 遠離依止
 - 「六三」第一 善友（一）
 - 「六四」第二 戒（一）
 - 「六五」第三 志欲（一）
 - 「六六」第四 我（一）
 - 「六七」第五 見（一）
 - 「六八」第六 不放逸（一）
 - 「六九」第七 如理
 - 二 貪欲之調伏
 - 「七〇」第八 善友（二）
 - 「七一」第九 戒（二）
 - 「七二」第十 志欲（二）
 - 「七三」第十一 我（二）
 - 「七四」第十二 見（二）
 - 「七五」第十三 不放逸（二）
 - 「七六」第十四 如理（二）
- 一法廣說（二）
 - 一 遠離依止
 - 「七七」第一 善友（一）
 - 「七八」第二 戒（一）
 - 「七九」第三 志欲（一）
 - 「八〇」第四 我（一）
 - 「八一」第五 見（一）
 - 「八二」第六 不放逸（一）
 - 「八三」第七 如理（一）
 - 二 貪欲之調伏
 - 「八四」第一 善友（二）
 - 「八五」第二 戒（二）
 - 「八六」第三 志欲（二）
 - 「八七」第四 我（二）
 - 「八八」第五 見（二）
 - 「八九」第六 不放逸（三）
 - 「九〇」第七 如理（二）
- 恆河廣說
 - 一 遠離依止
 - 「九一」第一 東（一）
 - 「九二」第二 東（二）

- 「九三」第三 東（三）
- 「九四」第四 東（四）
- 「九五」第五 東（五）
- 「九六」第六 東（六）
- 「九七」第七 海（一）
- 「九八」第八 海（二）
- 「九九」第九 海（三）
- 「一〇〇」第十 海（四）
- 「一〇一」第十一 海（五）
- 「一〇二」第十二 海（六）
- 二 貪欲調伏
 - 「一〇三～一〇八」第一～六 東（一～六）
 - 「一〇九～一一四」第七～十二 海（一～六）
- 三 不死究竟
 - 「一一五～一二〇」第一～六 東（一～六）
 - 「一二一～一二六」第七～十二 海（一～六）
- 四 趣向涅槃
 - 「一二七～一三二」第一～六 東（一～六）
 - 「一三三～一三八」第七～十二 海（一～六）
- 第五 不放逸品
 - 「一三九」第一 如來
 - 一 遠離「依止」
 - 二 貪欲之調伏
 - 三 不死（究竟）
 - 四 涅槃（趣向）
 - 「一四〇」第二 足跡（一～四）
 - 「一四一」第三 屋頂（一～四）
 - 「一四二」第四 根「香」（一～四）
 - 「一四三」第五 核（香）（一～四）
 - 「一四四」第六 夏生花（一～四）
 - 「一四五」第七 王（一～四）
 - 「一四六」第八 月（一～四）
 - 「一四七」第九 日（一～四）
 - 「一四八」第十 衣（一～四）
- 第六 力所作品
 - 「一四九」第一 力
 - 「一五〇」第二 種子
 - 「一五一」第三 龍

- 「一五二」第四 樹
- 「一五三」第五 瓶
- 「一五四」第六 芒
- 「一五五」第七 虛空
- 「一五六」第八 雲（一）
- 「一五七」第九 雲（二）
- 「一五八」第十 船舶
- 「一五九」第十一 客
- 「一六〇」第十二 河
- 第七 尋覓品
 - 「一六一」第一 尋覓
 - 「一六二」第二 次第（慢）（一～四）
 - 「一六三」第三 漏（一～四）
 - 「一六四」第四 有（一～四）
 - 「一六五」第五 苦（一～四）
 - 「一六六」第六 礙（一～四）
 - 「一六七」第七 垢（一～四）
 - 「一六八」第八 搖（一～四）
 - 「一六九」第九 受（一～四）
 - 「一七〇」第十 渴愛（一～四）
 - 「一七〇」第十一 渴愛（一～四）
- 第八 瀑流品
 - 「一七一」第一 瀑流
 - 「一七二」第二 軛
 - 「一七三」第三 取
 - 「一七四」第四 繫
 - 「一七五」第五 隨眠
 - 「一七六」第六 妙欲
 - 「一七七」第七 蓋
 - 「一七八」第八 蘊
 - 「一七九」第九 下分（結）
 - 「一八〇」第十 上分（結）
- 第二 覺支相應
 - 第一 山品
 - 「一」第一 雪山
 - 「二」第二 身
 - 〇
 - 二

- 二
- 〔三〕第三 戒
- 〔四〕第四 轉
- 〔五〕第五 比丘
- 〔六〕第六 昆達利
- 〔七〕第七 屋頂
- 〔八〕第八 優波摩
- 〔九〕第九 牛（一）
- 〔一〇〕第十 牛（二）
- 第二 病品
 - 〔一一〕第一 牛類
 - 〔一二〕第二 日輪喻（一）
 - 〔一三〕第三 日輪喻（二）
 - 〔一四〕第四 病（一）
 - 〔一五〕第五 病（二）
 - 〔一六〕第六 病（三）
 - 〔一七〕第七 到彼岸
 - 〔一八〕第八 失
 - 〔一九〕第九 聖
 - 〔二〇〕第十 厭患
- 第三 優陀夷品
 - 〔二一〕第一 覺
 - 〔二二〕第二 說
 - 〔二三〕第三 處
 - 〔二四〕第四 非如理
 - 〔二五〕第五 不損
 - 〔二六〕第六 盡
 - 〔二七〕第七 滅
 - 〔二八〕第八 決擇
 - 〔二九〕第九 一法
 - 〔三〇〕第十 優陀夷
- 第四 蓄品
 - 〔三一〕第一 善（一）
 - 〔三二〕第二 善（二）
 - 〔三三〕第三 煩惱（一）
 - 〔三四〕第四 煩惱（二）
 - 〔三五〕第五 如理（一）
 - 〔三六〕第六 如理（二）

- 「三七」第七 增長
- 「三八」第八 障蓋
- 「三九」第九 樹
- 「四〇」第十 蓋
- 第五 轉輪品
 - 「四一」第一 類
 - 「四二」第二 轉輪
 - 「四三」第三 魔
 - 「四四」第四 愚癡
 - 「四五」第五 有慧
 - 「四六」第六 貧窮
 - 「四七」第七 不貧
 - 「四八」第八 日輪
 - 「四九」第九 支分（一）
 - 「五〇」第十 支分（二）
- 第六 覺支總攝品
 - 「五一」第一 食
 - ○ 序
 - 一 蓋食
 - 二 覺支食
 - 三 蓋之不食
 - 四 覺支之不食
 - 「五二」第二 理趣
 - ○ 序
 - 一 五成為十
 - 二 七為十四
 - 「五三」第三 火
 - ○ 序
 - 一 非時
 - 二 時
 - 三 非時
 - 四 時
 - 「五四」第四 慈
 - 「五五」第五 傷歌邏
 - ○
 - 一
 - 二
 - 「五六」第六 無畏

- ○
- 二
- 二
- 第七 入出息品
 - 「五七」第一 骨
 - 一 大果大功德
 - 二 或者
 - 三 大義利
 - 四 大安穩
 - 五 大厭背
 - 六 樂住
 - 「五八」第二 噉（一～六）
 - 「五九」第三 青瘀（一～六）
 - 「六〇」第四 壞（一～六）
 - 「六一」第五 膨脹（一～六）
 - 「六二」第六 茲（一～六）
 - 「六三」第七 悲（一～六）
 - 「六四」第八 喜（一～六）
 - 「六五」第九 捨（一～六）
 - 「六六」第十 入出息（一～六）
- 第八 滅品
 - 「六七」第一 不淨（一～六）
 - 「六八」第二 死（一～六）
 - 「六九」第三 違逆（一～六）
 - 「七〇」第四 不可樂（一～六）
 - 「七一」第五 無常（一～六）
 - 「七二」第六 苦（一～六）
 - 「七三」第七 無我（一～六）
 - 「七四」第八 斷（一～六）
 - 「七五」第九 離貪（一～六）
 - 「七六」第十 滅
 - 一 大果大功德
 - 二 或者
 - 三～六 大義利、安穩、厭背、樂住
- 第九 恒河廣說（遠離）
 - 「七七」第一
 - 「七八～八八」第二～十二
- 第十 不放逸品（遠離）

- 「八九～九八」第一～十
- 第十一 力所作品（遠離）
 - 「九九～一〇〇」第一～一二
- 第十二 尋覓品（遠離）
 - 「一〇一～一一〇」第一～一二
- 第十三 瀑流品（遠離）
 - 「一一一～一一九」第一～九
 - 「一二〇」第十 上分「結」
- 第十四 恒河廣說（調伏欲貪）
 - 「一二一」第一
 - 「一二二～一三二」第二～一二
- 第十五 不放逸品（調伏欲貪）
 - 「一三三～一四二」第一～一〇
- 第十六 力所作品（調伏欲貪）
 - 「一四三～一五四」第一～一二
- 第十七 尋覓品（調伏欲貪）
 - 「一五五～一六五」第一～一一
- 第十八 瀑流品（調伏欲貪）
 - 「一六六～一七四」第一～九
 - 「一七五」第十 上分結
- 第三 念處相應
 - 第一 薈羅品
 - 「一」第一 薈羅
 - 「二」第二 正念
 - 「三」第三 比丘
 - 「四」第四 薩羅
 - 「五」第五 善聚
 - 「六」第六 鷹
 - 「七」第七 猿猴
 - 「八」第八 廚士
 - 二
 - 二
 - 「九」第九 病
 - 「一〇」第十 比丘尼
 - 第二 那羅隸陀品
 - 「一一」第一 大丈夫
 - 「一二」第二 那羅隸陀
 - 「一三」第三 純陀

- 「一四」第四 支羅
- 「一五」第五 婆醯迦
- 「一六」第六 鬱低迦
- 「一七」第七 聖
- 「一八」第八 梵天王
- 「一九」第九 私伽陀
- 「二〇」第十 國土
- 第三 戒住品
 - 「二一」第一 戒
 - 「二二」第二 住
 - 「二三」第三 損滅
 - 「二四」第四 清淨
 - 「二五」第五 婆羅門
 - 「二六」第六 一分
 - 「二七」第七 悉皆（全分）
 - 「二八」第八 世界
 - 「二九」第九 尸利阿荼
 - 「三〇」第十 摩那提那
- 第四 未聞品
 - 「三一」第一 未聞
 - 「三二」第二 離貪
 - 「三三」第三 失
 - 「三四」第四 修習
 - 「三五」第五 正念
 - 「三六」第六 開悟
 - 「三七」第七 欲
 - 「三八」第八 徧知
 - 「三九」第九 修習
 - 「四〇」第十 分別
- 第五 不死品
 - 「四一」第一 不死
 - 「四二」第二 集起
 - 「四三」第三 道
 - 「四四」第四 正念
 - 「四五」第五 善聚
 - 「四六」第六 波羅提木叉
 - 「四七」第七 惡行
 - 「四八」第八 友

- 「四九」第九 受
- 「五〇」第十 漏
- 第六 恆河廣說
 - 「五一～六二」第一～十二
- 第七 不放逸品
 - 「六三～七二」第一～十
- 第八 力所作品
 - 「七三～八二」第一～十
- 第九 尋覓品
 - 「八三～九三」第一～十一
- 第十 瀑流品
 - 「九四～一〇三」第一～九
 - 第十 上分結
- 大篇下 (48-56)
 - 第四 根相應
 - 第一 清淨品
 - 「一」第一 清淨
 - 「二」第二 預流（一）
 - 「三」第三 預流（二）
 - 「四」第四 阿羅漢（一）
 - 「五」第五 阿羅漢（二）
 - 「六」第六 沙門婆羅門（一）
 - 「七」第七 沙門婆羅門（二）
 - 「八」第八 應觀
 - 「九」第九 分別（一）
 - 「一〇」第十 分別（二）
 - 第二 軟弱品
 - 「一一」第一 獲得
 - 「一二」第二 略說（一）
 - 「一三」第三 略說（一）
 - 「一四」第四 略說（三）
 - 「一五」第五 廣說（一）
 - 「一六」第六 廣說（二）
 - 「一七」第七 廣說（三）
 - 「一八」第八 向
 - 「一九」第九 寂靜
 - 「二〇」第十 漏盡
 - 第三 六根品

- 「二一」第一 後有
- 「二二」第二 命
- 「二三」第三 知
- 「二四」第四 一種
- 「二五」第五 清淨
- 「二六」第六 預流
- 「二七」第七 阿羅漢（一）
- 「二八」第八 阿羅漢（二）
- 「二九」第九 沙門婆羅門（一）
- 「三〇」第十 沙門婆羅門（二）
- 第四 樂根品
 - 「三一」第一 清淨
 - 「三二」第二 預流
 - 「三三」第二 阿羅漢
 - 「三四」第四 沙門婆羅門（一）
 - 「三五」第五 沙門婆羅門（二）
 - 「三六」第六 廣說（一）
 - 「三七」第七 廣說（二）
 - 「三八」第八 廣說（三）
 - 「三九」第九 鑽木
 - 「四〇」第十 生
- 第五 老品
 - 「四一」第一 老
 - 「四二」第二 溫那巴婆羅門
 - 「四三」第三 沙祇城
 - 「四四」第四 東河
 - 「四五」第五 東園（一）
 - 「四六」第六 東園（二）
 - 「四七」第七 東園（三）
 - 「四八」第八 東園（四）
 - 「四九」第九 賓頭盧
 - 「五〇」第十 信
- 第六 拘薩羅
 - 「五一」第一 拘薩羅
 - 「五二」第二 末羅
 - 「五三」第三 有學
 - 「五四」第四 足跡
 - 「五五」第五 核

- 「五六」第六 依止
- 「五七」第七 梵天
- 「五八」第八 須伽羅伽陀
- 「五九」第九 生（一）
- 「六〇」第十 生（二）
- 第七 覺分品
 - 「六一」第一 結
 - 「六二」第二 隨眠
 - 「六三」第三 徧知
 - 「六四」第四 漏盡
 - 「六五」第五 果（一）
 - 「六六」第六 果（二）
 - 「六七」第七 樹（一）
 - 「六八」第八 樹（二）
 - 「六九」第九 樹（三）
 - 「七〇」第十 樹（四）
- 第八 恆河廣說（遠離依止）
 - 「七一」第一 遠離
 - 「七二～八二」第二～十二
- 第九 不放逸品（遠離依止）
 - 「八三～九二」第一～十
- 第十 力所作品（遠離依止）
 - 「九三～一〇四」第一～十二
- 第十一 尋覓品（遠離依止）
 - 「一〇五～一一七」第一～十二
- 第十二 瀑流品（遠離依止）
 - 「一一八～一二七」第一～九
 - 「一二八」第十 上分結
- 第十三 恆河廣說（貪欲調伏）
 - 「一二九」第一
 - 「一三〇～一四〇」第二～十二
- 第十四 不放逸品（貪欲調伏）
 - 「一四一～一五〇」第一～十
- 第十五 力所作品（貪欲調伏）
 - 「一五一～一六二」第一～十二
- 第十六 尋覓品（貪欲調伏）
 - 「一六三～一七五」第一～十二
- 第十七 瀑流品（貪欲調伏）

- 「一七六～一八四」第一～九
- 「一八五」第十 上分結
- 第五 正勤相應
 - 第一 恆河廣說
 - 「一～一二」第一～一二
 - 第二 不放逸品
 - 「一三～二二」第一～十
 - 第三 力所作品
 - 「二三～三四」第一～十二
 - 第四 尋覓品
 - 「三五～四四」第一～十
 - 第五 瀑流品
 - 「四五～五三」第一～十
 - 「五四」第十 上分結
- 第六 力相應
 - 第一 恆河廣說（遠離依止）
 - 「一」第一
 - 「二～一二」第二～十二
 - 第二 不放逸品（遠離依止）
 - 「一三～二二」第一～十
 - 第三 力「所作」品（遠離依止）
 - 「二三～三四」第一～十二
 - 第四 尋覓品（遠離依止）
 - 「三五～四六」第一～十二
 - 第五 瀑流品（遠離依止）
 - 「四七～五五」第一～九
 - 「五六」第十 上分結
 - 第六 恆河廣說（貪欲調伏）
 - 「五七」第一
 - 「五八～六八」第二～十二
 - 第七 不放逸品（貪欲調伏）
 - 「六九～七八」第一～十
 - 第八 力（所作）品（貪欲調伏）
 - 「七九～九〇」第一～十二
 - 第九 尋覓品（貪欲調伏）
 - 「九一～一〇〇」第一～十
 - 第十 瀑流品（貪欲調伏）
 - 「一〇一～一〇九」第一～九

- 「一一〇」第十 上分（結）
- 第七 神足相應
 - 第一 遮婆羅品
 - 「一」第一 此岸
 - 「二」第二 失
 - 「三」第三 聖
 - 「四」第四 厭患
 - 「五」第五 一分
 - 「六」第六 全分
 - 「七」第七 比丘
 - 「八」第八 佛
 - 「九」第九 智
 - 「一〇」第十 塔
 - 第二 「鹿母」殿震動品
 - 「一一」第一 前
 - 「一二」第二 大果
 - 「一三」第三 欲
 - 「一四」第四 目犍連
 - 「一五」第五 婆羅門
 - 「一六」第六 沙門婆羅門（一）
 - 「一七」第七 沙門婆羅門（二）
 - 「一八」第八 比丘
 - 「一九」第九 說示
 - 「二〇」第十 分別
 - 二
 - 二
 - 三
 - 四
 - 五
- 第三 鐵丸品
 - 「二一」第一 道
 - 「二二」第二 鐵丸
 - 「二三」第三 比丘
 - 「二四」第四 清淨
 - 「二五」第五 果（一）
 - 「二六」第六 果（二）
 - 「二七」第七 阿難（一）
 - 「二八」第八 阿難（二）

- 「二九」第九 比丘（一）
- 「三〇」第十 比丘（二）
- 「三一」第十一 目犍連
- 「三二」第十二 如來
- 第四 恆河廣說
 - 「三三」第一
 - 「三四～四四」第二～十二
- 第五 不放逸品
 - 「四五～五四」第一～十
- 第六 力所作品
 - 「五五～六六」第一～十二
- 第七 尋覓品
 - 「六七～七六」第一～十
- 第八 瀑流品
 - 「七七」第一 瀑流
 - 「七八～八五」第二～九
 - 「八六」第十 上分結
- 第八 阿那律相應
 - 第一 獨一品
 - 「一」第一 獨一（一）
 - 「二」第二 獨一（二）
 - 「三」第三 手成浴池
 - 「四」第四 坎它契（一）
 - 「五」第五 坎它契（二）
 - 「六」第六 坎它契（三）
 - 「七」第七 愛盡
 - 「八」第八 松林精舍
 - 「九」第九 一切
 - 「一〇」第十 重患
 - 第二品
 - 「一一」第一 千
 - 「一二」第二 神變
 - 「一三」第三 天耳界
 - 「一四」第四 心
 - 「一五」第五 處
 - 「一六」第六 業
 - 「一七」第七 道
 - 「一八」第八 世間

- 「一九」第九 種種勝解
- 「二〇」第十 根
- 「二一」第十一 靜慮
- 「二二」第十二 明（一）
- 「二三」第十三 明（二）
- 「二四」第十四 明（三）
- 第九 靜慮相應
 - 第一 恆河廣說
 - 「一」第一 初清淨
 - 「二～一二」第二～十二
 - 第二 不放逸品
 - 「一三～二二」第一～十
 - 第三 力所作品
 - 「二三～三四」第一～十二
 - 第四 尋覓品
 - 「三五～四四」第一～十
 - 第五 瀑流品
 - 「四五」第一
 - 「四六～五三」第二～九
 - 「五四」第十 上分結
- 第十 入出息相應
 - 第一 一法品
 - 「一」第一 一法
 - 「二」第二 覺支
 - 「三」第三 清淨
 - 「四」第四 果（一）
 - 「五」第五 果（二）
 - 「六」第六 阿梨瑟吒
 - 「七」第七 闍賓那
 - 「八」第八 燈
 - 「九」第九 毘舍離
 - 「一〇」第十 金毘羅
 - 第二品
 - 「一一」第一 一奢能伽羅
 - 「一二」第二 盧夷強耆
 - 「一三」第三 阿難（一）
 - 〇
 - 二

- 一
- 二
- 三
- 「一四」第四 阿難（二）
- ○
- 一～三
- 「一五」第五 比丘（一）
- ○
- 一～三
- 「一六」第六 比丘（二）
- ○
- 一
- 二
- 三
- 「一七」第七 結
- 「一八」第八 隨眠
- 「一九」第九 行路
- 「二〇」第十 漏盡
- 第十一 預流相應
 - 第一 鞞紐多羅品
 - 「一」第一 王
 - 「二」第二 預流
 - 「三」第三 長壽
 - 「四」第四 舍利弗（一）
 - 「五」第五 舍利弗（二）
 - 「六」第六 工匠
 - 「七」第七 鞞紐多羅
 - 「八」第八 繁耆迦精舍（一）
 - 「九」第九 繁耆迦精舍（二）
 - 「一〇」第十 繁耆迦精舍（三）
 - 第二 千品（王園品）
 - 「一一」第一 千
 - 「一二」第二 婆羅門
 - 「一三」第三 阿難
 - 「一四」第四 惡趣（一）
 - 「一五」第五 惡趣（二）
 - 「一六」第六 朋友（一）
 - 「一七」第七 朋友（二）
 - 「一八」第八 天上游行（一）

- 「一九」第九 天上游行（二）
- 「二〇」第十 天上游行（三）
- 第三 百手品
 - 「二一」第一 摩訶男（一）
 - 「二二」第二 摩訶男（二）
 - 「二三」第三 沙陀
 - 「二四」第四 百手（一）
 - 「二五」第五 百手（二）
 - 「二六」第六 破戒（一）
 - 「二七」第七 破戒（二）
 - 「二八」第八 怨讎
 - 「二九」第九 怖畏
 - 「三〇」第十 離車
- 第四 福德潤澤品
 - 「三一」第一 潤澤（一）
 - 「三二」第二 潤澤（二）
 - 「三三」第三 潤澤（三）
 - 「三四」第四 天道（一）
 - 「三五」第五 天道（二）
 - 「三六」第六 朋輩
 - 「三七」第七 摩訶男
 - 「三八」第八 雨
 - 「三九」第九 沙陀
 - 「四〇」第十 難提
- 第五 有偈福德潤澤品
 - 「四一」第一 潤澤（一）
 - 「四二」第二 潤澤（二）
 - 「四三」第三 潤澤（三）
 - 「四四」第四 大寶（一）
 - 「四五」第五 大寶（二）
 - 「四六」第六 比丘
 - 「四七」第七 難提
 - 「四八」第八 跋提
 - 「四九」第九 摩訶男
 - 「五〇」第十 支
- 第六 有慧品
 - 「五一」第一 有偈
 - 「五二」第二 雨安居

- 「五三」第三 達摩提那
- 「五四」第四 疾病
- 「五五」第五 果（一）
- 「五六」第六 果（二）
- 「五七」第七 果（三）
- 「五八」第八 果（四）
- 「五九」第九 獲得
- 「六〇」第十 增長
- 「六一」第十一 廣大
- 第七 大慧品
 - 「六二」第一 大
 - 「六三」第二 廣
 - 「六四」第三 廣大
 - 「六五」第四 深
 - 「六六」第五 無等
 - 「六七」第六 宏慧
 - 「六八」第七 多多
 - 「六九」第八 迅
 - 「七〇」第九 輕
 - 「七一」第十 捷
 - 「七二」第十一 速
 - 「七三」第十二 利
 - 「七四」第十三 決擇
- 第十二 諦相應
 - 第一 定品
 - 「一」第一 定
 - 「二」第二 宴默
 - 「三」第三 善男子（一）
 - 「四」第四 善男子（二）
 - 「五」第五 沙門婆羅門（一）
 - 「六」第六 沙門婆羅門（二）
 - 「七」第七 尋
 - 「八」第八 思
 - 「九」第九 誚
 - 「一〇」第十 論
 - 第二 轉法輪品
 - 「一一」第一 如來所說（一）
 - 「一二」第二 如來所說（二）

- 「一三」第三 蘊
- 「一四」第四 處
- 「一五」第五 受持（一）
- 「一六」第六 受持（二）
- 「一七」第七 無明
- 「一八」第八 明
- 「一九」第九 辯
- 「二〇」第十 如
- 第三 拘利村品
 - 「二一」第一 跋耆（一）
 - 「二二」第二 跋耆（二）
 - 「二三」第三 正等覺者
 - 「二四」第四 阿羅漢
 - 「二五」第五 漏盡
 - 「二六」第六 友
 - 「二七」第七 如
 - 「二八」第八 世間
 - 「二九」第九 應徧知
 - 「三〇」第十 伽梵婆提
- 第四 申恕林品
 - 「三一」第一 申恕
 - 「三二」第二 佉提羅
 - 「三三」第三 杖
 - 「三四」第四 衣
 - 「三五」第五 百槍
 - 「三六」第六 牛類
 - 「三七」第七 日喻（一）
 - 「三八」第八 日喻（二）
 - 「三九」第九 因陀羅柱
 - 「四〇」第十 論師
- 第五 深嶮品
 - 「四一」第一 思惟
 - 「四二」第二 深嶮
 - 「四三」第三 熱煩
 - 「四四」第四 重閣堂
 - 「四五」第五 毛
 - 「四六」第六 闇黑
 - 「四七」第七 孔（一）

- 「四八」第八 孔（二）
- 「四九」第九 須彌（一）
- 「五〇」第十 須彌（二）
- 第六 現觀品
 - 「五一」第一 爪尖
 - 「五二」第二 湖池
 - 「五三」第三 合流（一）
 - 「五四」第四 合流（二）
 - 「五五」第五 地（一）
 - 「五六」第六 地（二）
 - 「五七」第七 海（一）
 - 「五八」第八 海（二）
 - 「五九」第九 山喻（一）
 - 「六〇」第十 山喻（二）
- 第七 生穀廣說品（一）
 - 「六一」第一 餘處
 - 「六二」第二 邊地
 - 「六三」第三 慧
 - 「六四」第四 酒
 - 「六五」第五 水
 - 「六六」第六 母
 - 「六七」第七 父
 - 「六八」第八 沙門
 - 「六九」第九 婆羅門
 - 「七〇」第十 尊重
- 第八 生穀廣說品（二）
 - 「七一」第一 生
 - 「七二」第二 不與
 - 「七三」第三 欲
 - 「七四」第四 妄語
 - 「七五」第五 離間語
 - 「七六」第六 麁惡語
 - 「七七」第七 雜穢語
 - 「七八」第八 種子
 - 「七九」第九 非時
 - 「八〇」第十 薰香塗香
- 第九 生穀廣說品（三）
 - 「八一」第一 舞蹈

- 「八二」第二 牀
- 「八三」第三 銀
- 「八四」第四 穀
- 「八五」第五 肉
- 「八六」第六 童女
- 「八七」第七 婢
- 「八八」第八 山羊、羊
- 「八九」第九 鷄、豬
- 「九〇」第十 象
- 第十 牛穀廣說品（四）
 - 「九一」第一 田
 - 「九二」第二 買賣
 - 「九三」第三 使
 - 「九四」第四 偽秤
 - 「九五」第五 虛偽
 - 「九六～一〇一」第六～十一 掠奪強盜
 - 「一〇二」第十三 五趣（一）
 - 「一〇三」第十三 五趣（二）
 - 「一〇四」第十四 五趣（三）
 - 「一〇五～一〇七」第十五～十七 五趣（四～六）
 - 「一〇八～一一〇」第十八～二十 五趣（七～九）
 - 「一一一～一一三」第二十～二十三 五趣（一〇～一二）
 - 「一一四～一一六」第二十四～第二十六 五趣（一三～一五）
 - 「一一七～一一九」第二十七～二十九 五趣（一六～一八）
 - 「一二〇～一二二」第三十～三十二 五趣（一九～二一）
 - 「一二三～一二五」第三十三～三十五 五趣（二二～二四）
 - 「一二六～一二八」第三十六～三十八 五趣（二五～二七）
 - 「一二九」第三十九 五趣（二八）
 - 「一三〇」第四十 五趣（二九）
 - 「一三一」第四十一 五趣（三〇）

- 卷目次
- 贊助資訊

編輯說明

- 本電子書以「CBETA 電子佛典集成 Version 2023. Q4」為資料來源。
- 漢字呈現以 Uni code 3.0 為基礎，不在此範圍的字則採用組字式表達。
- 梵文悉曇字及蘭札字均採用羅馬轉寫字，如無轉寫字則提供字型圖檔。
- CBETA 對底本所做的修訂用字以紅色字元表示。
- 若有發現任何問題，歡迎來函 service@cbeta.org 回報。
- 版權所有，歡迎自由流通，但禁止營利使用。

相應部經典

歸命彼世尊 應供等覺者

有偈篇

第一 諸天相應

第一 葦品

〔一〕瀑流

一

如是我聞，爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，有天神於黎明放其殊勝妙光，徧照祇園，詣世尊處。詣已，敬禮世尊，立於一面。

三

立一面已，彼天神白世尊曰：「友！卿如何度瀑流耶？」
〔世尊曰〕：「友！我不住不求以度瀑流。」「友！卿如何不住不求以度瀑流耶？」〔世尊曰〕：「友！我住時沈，求時溺。友！我如是不住不求以度瀑流。」

四

「不住與不求 度世間執著
涅槃婆羅門 久久我見知」

五

彼天神作如是言得大師嘉賞、認證，天神知得大師、認證，敬禮世尊右繞而去。

〔二〕解脫

一

〔爾時世尊〕……舍衛城……

二

時有天神於黎明放其殊勝妙光，徧照祇園。詣世尊之處，詣已，禮敬世尊立於一面。

三

立於一面之天神白世尊：「友！卿知眾生之解脫、令解脫、遠離耶？」世尊曰：「友！我知眾生之解脫，令解脫、遠離。」〔天神曰：〕「友！卿如何知眾生之解脫、令解脫、遠離耶？」

四

〔世尊：〕有喜之滅盡 亦盡想與識
受滅皆寂靜 友我之如是
知眾生解脫 令解脫遠離

〔三〕引導者

一

立於一面之天神，於世尊面前，而唱偈曰：

生導死壽短 導老無底獲
觀死此恐怖 齋樂積功德

二

〔世尊：〕生導死壽短 導老無庇獲
觀死此恐怖 棄欲希寂靜

〔四〕時乃過去

一

立於一面之天神，於世尊面前，而唱偈曰：

時過日夜移 青春棄我等
觀死此恐怖 齋樂積功德

二

〔世尊：〕時過日夜移 青春棄我等
觀死此恐怖 棄欲希寂靜

〔五〕幾何斷

一

立於一面之天神，於世尊面前，而唱偈曰：

幾斷幾何棄 且更修幾何
超越幾何結 稱度瀑流僧

二

〔世尊：〕五斷與五棄 上修五無漏
超越五種結 稱渡瀑流僧

〔六〕不眠

一

立於一面之天神，於世尊前，而唱偈曰：

他醒幾何眠 他眠幾何醒
染塵依幾何 依幾何得清

二

〔世尊：〕他醒於五眠 他眠於五醒
染塵依於五 依五而得清

〔七〕不了知

一

立於一面之天神，於世尊前，而唱偈曰：

因法不了知 引入於異教
此人眠不醒 今正彼醒時

二

〔世尊：〕因以了知法 不入於異教
彼等正證知 以平行不平

〔八〕迷亂

一

立於一面之天神，於世尊前，而唱偈曰：

以迷於法故 引入於異教
深眠彼不醒 今正彼醒時

二

〔世尊：〕因以不迷法 不入於異教
彼等正證知 以平行不平

〔九〕慢之欲

一

立於一面之天神，於世尊前，而唱偈曰：

欲慢無調順 不靜心無寂
獨林住放逸 無越死魔岸

二

〔世尊：〕去慢心寂靜 智慧悉解縛
獨住不放逸 可度死魔岸

〔一〇〕住森林

一

立於一面之天神，於世尊面前，而唱偈曰：

住於森林者 寂靜清淨行
日唯取一食 如何悅顏色

二

〔世尊：〕不悲過去事 未來勿憧憬
若持身現在 顏色即朗悅
憧憬於未來 悲於過去事
諸愚之為此 如刈綠葦萎

此唄陀南：

導解脫瀑流 時過斷幾何
不眠不了知 迷亂與慢欲
第十謂林住 依此有品名

第二 歡喜園品

〔一一〕歡喜園

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

於此，世尊以「比丘等！」言諸比丘：「世尊！」彼等諸比丘奉答世尊。世尊如是宣說：「諸比丘！昔有屬於三十三天之天神，於歡喜園、為天女群侍隨圍繞，給與五欲具足，爾時唱此偈曰：

享譽三三天 天神之住家
如非見此園 不知此快樂

三

諸比丘！如是說已，有天神以偈答彼天神曰：

汝為愚癡者 不知如來語
諸行實無常 乃是生滅性
生者必有滅 寂此正悅樂

〔一二〕歡喜

一

立於一面之天神，於世尊面前，而唱偈曰：

有子依子喜 牛主依牛喜
人喜依四依 無依即無喜

二

〔世尊：〕有子依子悲 牛主依牛悲

人悲依於依 無依即無悲

〔一三〕無有如子者

一

立於一面之天神，於世尊前，而唱偈曰：

可愛莫若子 致富莫若牛
光明莫若陽 海為最上湖

二

〔世尊：〕可愛莫若己 致富莫若穀
光明莫若慧 雨為最上湖

〔一四〕剎帝利

一

〔天神：〕剎帝兩足尊 四足牡牛勝
妻中貴姓勝 子中長子勝

二

〔世尊：〕正覺兩足尊 良駿四足勝
柔順為賢妻 孝順子最勝

〔一五〕大林鳴（寂靜身）

一

〔天神：〕麗日正盛時 鳥停不飛動
以鳴於大林 恐怖以襲我

二

〔世尊：〕麗日正盛時 鳥停不飛動

於是大林鳴 其樂現於我

〔一六〕睡眠、懶惰

一

〔天神：〕沈睡懶欠呿 飽食氣塞臉
為是諸人眾 聖道不顯現

二

〔世尊：〕睡眠惰欠呿 過食阻塞氣
精進以拂此 聖道即自清

〔一七〕難為（龜）

一

〔天神：〕無智沙門行 難為並難忍
愚者墮障礙 於此人最多
若不制伏心 幾日沙門行
思念之為囚 步步當沈溺

二

〔世尊：〕如龜以己殼 藏頭尾手足
比丘攝意念 無著無害他
以離於煩惱 誰亦不得貶

〔一八〕慚

一

〔天神：〕誰於此世間 有慚止惡者
如鞭影駿馬 彼悟離非難

二

〔世尊：〕有慚制止惡 常行正念少
達苦之邊際 以平行不平

〔一九〕茅屋

一

〔天神：〕卿有茅屋否 如何無有巢
如何無繼系 如何脫繫縛

二

〔世尊：〕我實無茅屋 於我實無巢
我實無繼系 我實脫繫縛

三

〔天神：〕何謂汝茅屋 何謂汝之巢
何謂汝繼系 何知汝繫縛

四

〔世尊：〕汝以母謂屋 以妻謂巢窟
言子為繼系 我云渴愛縛

五

〔天神：〕善哉卿無屋 善哉無巢窟
善哉無繼系 善哉卿脫縛」

〔二〇〕三彌提

一

如是我聞，爾時，世尊住王舍城溫泉精舍。

二

爾時，尊者三彌提，為洗浴身體，黎明即起，來至溫泉。
溫泉洗身已，起身著一衣，站立以待身乾。

三

爾時，有天神於夜將曉，以其勝光徧照溫泉林，而往詣尊者處，詣已立於空中，以偈告尊者三彌提曰：

〔天神：〕比丘不享樂 精進以行乞
比丘行享樂 享樂勿行乞
青春盛壯時 勿為徒空費
〔尊者：〕汝時我不知 為時無隱顯
如是之故我 行乞不享樂
時之以捨我 是即為畏怖

四

爾時，天神降立於地上，言尊者三彌提曰：

「比丘！汝具青少年壯，膚美髮黑，摒棄人生最盛期之欲樂而出家。比丘！享樂人之五欲！勿捨現實〔樂〕，勿逐時要之物。」

五

「友！我捨現實樂，不逐時要物。友！何以故，世尊宣說：『時要之欲樂，不安苦多，於此有大禍。此〔聖〕法乃現實，非隔時，得言來看，——可導〔涅槃〕，智者應自證知。』」

六

「比丘！如何世尊宣說：『時要之欲樂，苦多不安，於此有大禍，此〔聖〕法是現實，非隔時，得言來看，可導〔涅槃〕』」

繫〕，智者應自證知。』耶？」

七

「友！我乃出家未久，是新〔學〕人初參者，不能廣說此法與律，彼世尊，應供，正等覺者，今〔住〕溫泉精舍，此義詣問彼世尊，尚請汝如世尊所說受持。」

八

「比丘！彼世尊有大威力，為諸天所圍繞、我等不易親近。比丘！汝若以此義詣問世尊，我等為聽法應得親近。」

九

尊者三彌提答其天神：「友！唯諾。」即詣世尊住處，詣已，禮敬世尊坐於一面。

坐於一面之尊者三彌提，敬白世尊曰：

一〇

「世尊！我為洗浴身體，黎明即起，去至溫泉。於溫泉洗身已，起身出著一衣，站立以待身乾。世尊，爾時有天神、於夜將曉，以其勝光徧照溫泉林，來立於空中，以偈語我曰：

比丘不享樂 精進以行乞
比丘行享樂 享樂勿行乞
青春盛壯時 勿為徒空費

一一

世尊！如是言已，我以偈答天神曰：

汝時我不知 為時無隱顯
如是之故我 行乞不享樂
摒捨時之我 是即為恐怖

一二

世尊！爾時，天神降立於地上，以此言我曰：

『比丘！汝具青少年壯，膚美髮黑，勿樂人生最盛期之欲樂而出家。比丘！享樂人之〔五〕欲！勿捨現實〔樂〕，勿逐時要物。』

一三

世尊！如是言已，我如是言天神曰：『友！我捨現實〔樂〕，不逐時要物。友！我捨時要物，以逐現實〔樂〕。友！何以故，世尊宣說：「時要之欲樂，不安苦多，於此有大禍。此〔聖〕法乃現實，不隔時，得言來看，可導〔涅槃〕，智者應自證知。」』

一四

世尊！言已！天神如是言我曰：『比丘！如何世尊宣說：「樂欲是時要之物，不安苦多，於此有大禍。此〔聖〕法是現實、非隔時，得言來看，可導〔涅槃〕，智者應自證知。」耶？』

一五

世尊！如是言已，我語天神曰：『友！我出家未久，是新〔學〕人初參者，不能廣說此法與律，彼世尊，應供，正等覺者，〔今〕住溫泉精舍，此義詣問彼世尊，尚請汝如世尊所說受持。』

一六

世尊！如是說已，天神語我曰：『比丘！彼世尊有大威力，為諸天所圍繞，我等不易親近。比丘！汝若以此義詣問世尊，我等為聽法應得親近。』世尊！其天神之語，若為真實，其天神當不遠。」

一七

如是言已，天神語尊者三彌提曰：「比丘！問！比丘等！問！我來矣！」

一八

爾時世尊以偈語天神曰：

知名表面者	唯執是顯名
不知名真義	死魔繫縛去
了知名真義	不思語說者
其人不如是	依此人無罪
如果汝夜叉	知如是人言

一九

「不然！世尊，我不知所略說之意義。善哉！世尊，得請說世尊所略說者令我能得廣知其義耶！」

二〇

我勝等或劣	人思依此爭
此等三種別	若心不動者
其人無勝劣	如果汝夜叉
知如是人言	

二一

「不然！世尊，我不知世尊所略說之義。善哉！世尊，得請說世尊所略說者，令我能得廣知其義耶！」

二二

拂思勿行慢	斷世名色愛
不動絕結縛	無欲之彼者
後世於天界	於所有住處
雖求人天跡	亦無有所得
如果汝夜叉	知如是人言

二三

世尊，我如是知世尊廣宣所略說之意義。

於所有世界	依語與心身
勿為惡業行	離欲正念心
無有伴利者	即無受痛苦

此唄陀南：

歡喜園歡喜	無有如子者
剎利大林鳴	睡眠懶作難
慚與第九屋	十云三彌提

第三 劍品

〔二一〕第一 依劍

一

舍衛城因緣。

二

立於一面之天神，於世尊前，唱此偈曰：

〔天神：〕如依劍所觸 猶燃頭髮時
比丘捨欲貪 正念於出家

三

〔世尊：〕猶如觸於劍 猶燃頭髮時
捨身見比丘 正念於出家

〔二二〕第二 觸

一

〔天神：〕不觸者無觸 觸故應有觸
故無污惡者 於觸故而觸

二

〔世尊：〕清淨無污惡 以污無垢者
其惡返愚人 如同於逆風
撒布微細塵

〔二三〕第三 纏縛

一

〔天神：〕內外之纏縛 人人纏纏縛
奉敬向瞿曇 誰離此纏縛

二

〔世尊：〕住戒智慧人 修心及智慧
熱誠慎比丘 彼離此纏縛
遠離貪與瞋 乃至於無明
漏盡阿羅漢 解脫此纏縛
消滅名與色 障想及色想
無所殘餘者 此總斷纏縛

〔二四〕第四 制止心

一

〔天神：〕心所制止者 不行心苦事
若總制止心 心脫一切苦

二

〔世尊：〕非總制止心 非制自制心
正於起惡處 應制此之心

〔二五〕第五 阿羅漢

一

〔天神：〕完了應所為 漏盡最後身
阿羅漢比丘 猶言如我語
人人語我物 應如是言乎

二

〔世尊：〕完了應所為 漏盡最後身
阿羅漢比丘 猶言如我語
人人語我物 雖然如是言
世稱巧知者 唯依慣例稱

三

〔天神：〕完了應所為 漏盡最後身
阿羅漢比丘 彼依於我慢
猶言如我語 人人語我物

四

〔世尊：〕皆捨我慢鎖 盡除不存在
超謬想賢者 猶言如我語
人人語我物 此世巧稱呼
唯依慣例稱

〔二六〕第六 光明

一

〔天神：〕世有幾何光 普照此世間
我等問世尊 如何可得知

二

〔世尊：〕世有四種光 此無第五光
於晝太陽光 於夜月普照
時有日夜火 彼此皆遍照
正覺最勝火 此為無上光

〔二七〕第七 流

一

〔天神：〕流何處不流 渦於何處止
名色何處滅 無有餘殘留

二

〔世尊：〕地水與火風 四大之滅處
由此流不流 於此止渦流
於此滅名色 無有餘殘留

〔二八〕第八 大富

一

〔天神：〕有大富大財 領國刹帝利
勿飽於愛欲 互為貪嫉妒
此等嫉妒性 隨有流中流
誰於世無嫉 以捨貪渴愛

二

〔世尊：〕捨家以出家 財子可愛捨
以捨貪與瞋 以及離無明
漏盡阿羅漢 彼等於此世
成為無嫉者

〔二九〕第九 四輪

一

〔天神：〕四輪九門孔 污穢滿貪欲
乃是不淨性 大雄從如何
有此之出口

二

〔世尊：〕以斷惡欲貪 乃至繩與綱
拔除渴愛根 如有出口

〔三〇〕第十 麋鹿之縛

一

〔天神：〕如麋鹿之縛 悠悠而柔順
食少不貪味 猶如獅子象
雄雄之獨行 不欲於愛欲
我等來請問 脫苦應如何

二

〔世尊：〕世間有五欲 意示為第六
於此離欲愛 如是苦解脫

此唄陀南：

依劍之所觸 制止心纏縛
阿羅漢光明 流乃至大富
第九於四輪 麋鹿縛第十

第四 沙睹羅巴天群品

〔三一〕第一 與善人為伴

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，甚多沙睹羅巴天群、其勝光徧照祇園。於黎明往詣世尊處，詣已禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面之一天神，於世尊前，而唱此偈曰：

唯與善人坐 唯與善人交
知善之正法 為善不為惡

四

爾時，其他天神，於世尊前，亦唱此偈曰：

唯與善人坐 唯與善人交
知善之正法 依他不能得
而得之智慧

五

爾時，其他之天神，於世尊前，亦唱此偈曰：

唯與善人坐 唯與善人交
知善之正法 悲中無有悲

六

爾時，其他之天神，於世尊前，亦唱此偈曰：

唯與善人坐 唯與善人交
知善之正法 輝耀親族中

七

爾時，其他之天神，於世尊前，亦唱此偈曰：

唯與善人坐 唯與善人交
知善之正法 人人行善趣

八

爾時，其他之天神，於世尊前，亦唱此偈曰：

唯與善人坐 唯與善人交
知善之正法 人人有幸福

九

爾時，其他之天神，以此向世尊曰：「世尊！誰之〔偈〕
為善說耶？」〔世尊曰：〕依汝等各各之善說。然則，亦聞我
偈：

唯與善人坐 唯與善人交
知善之正法 當脫一切苦

〔三二〕第二 慳貪

一

爾時世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時甚多沙睹羅巴天神等，其勝光徧照祇園。於黎明往詣世尊處，詣已禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面之一天神，於世尊前，唱此偈曰：

依慳貪放逸	如是不布施
因明知其果	由欲功德者
而行於布施	

四

爾時，其他之天神，於世尊前，唱此偈曰：

慳貪畏布施	畏彼不施與
慳貪所恐怖	乃是飢與渴
愚人此世後	必然以觸此
是故滅慳貪	布施勝垢穢
功德實人人	後世之淺渡

五

爾時，其他之天神，於世尊前唱此偈曰：

善導曠野旅	分與貧困者
滅中有不滅	此為永久法
有人與貧困	或人富不與
施與貧困者	功德計千倍

六

爾時，其他之天神，於世尊前，唱此偈曰：

難與而與之	難為而為者
不善人難慣	從善人法難
是故善與惡	後世趣所異

惡人行地獄 善人趣天堂

七

爾時，其他之天神，以此向世尊曰：「世尊！誰之偈為善說耶？」〔世尊曰：〕依汝等各各皆善說，然則，以聞我偈：

雖以拾落穗	為生與養妻
貧困以行施	是行善業法
雖千之供犧	百千之供犧
斯施猶不值	十六分之一

八

爾時，其他之天神，向世尊說此偈曰：

如何豐供犧	不值於正施
千之供犧者	百千之供犧
此犧何不值	十六分之一

九

爾時，世尊以偈語其天神曰：

或人之錯誤	立施於三業
傷殺又惱施	淚污殺害施
不值於正施	雖此千供犧
百千之供犧	斯施猶不值
十六分之一	

〔三三〕第三 善哉

一

〔爾時世尊〕住舍衛城……

二

爾時，沙睹羅巴天神等，其勝光徧照祇園。黎明往詣世尊住處。詣已禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面之天神，於世尊前，唱此歡喜偈曰：

友善哉布施	慳貪與放逸
如是不行施	由知以明果
欲為功德者	而行於布施

四

爾時，其他之天神，於世尊前，唱此歡喜偈曰：

善哉行布施	善哉貧困施
或人貧亦施	或富不好施
貧困之施與	功德計千倍

五

爾時，其他之天神，於世尊前，唱此歡喜偈曰：

善哉行布施	貧困施善哉
依信施亦善	布施戰同調
如少數善人	以勝於多數
若貧依信施	利他人安樂

六

爾時，其他之天神，於世尊前，唱此歡喜偈曰：

友善哉布施	貧困施善哉
依信施亦善	如法施亦善
精進於如法	以得布施者
以越夜摩界	衛多羅尼川
而往於天界	

七

爾時，其他之天神，於世尊前，唱此歡喜偈曰：

善哉行布施	貧困施善哉
依信施亦善	如法施亦善
辨別施亦善	辨別之施者
善逝所讚歎	此世值供養
行施有大果	猶善田蒔種

八

爾時，其他之天神，於世尊前，唱此歡喜偈曰：

善哉行布施	貧困施亦善
依信施亦善	如法施亦善
辨別施亦善	自制於有生
不害有生者	善哉求生活
懼人之責難	以致不為惡
如是讚懼者	責不懼勇者
善人懼責難	以不為惡事

九

爾時，其他之天神，以此向世尊曰：「世尊！誰之偈為善說耶？」〔世尊曰：〕

依汝等各各皆善說，然則，且聞我〔歡喜偈：〕

依信之布施	被受種種譽
法句施尤勝	其以前之世
過去世善人	有智慧諸人
皆行於涅槃	

〔三四〕第四 非然

一

爾時，世尊，住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，甚多沙瞿羅巴天神等，其勝光徧照祇園、於黎明往詣世尊住處。詣已禮敬世尊，立於一面，

三

立於一面之天神，於世尊前，唱此偈曰：

人人中愛欲	乃非是常住
於此有愛樂	人人被繫縛
於此以放逸	而無作歸來
人人死魔領	如是不歸來
禍從欲望生	苦惱從欲生
以調伏欲望	是則禍調伏
若已調伏禍	則調伏苦惱
世之諸對象	乃非是愛欲
於貪之思念	此人之愛欲
於世諸對象	依舊猶留存
於此之賢者	乃調伏欲望
離忿及捨慢	超越一切縛
不執著名色	斯人無何物
亦無陷入苦	除念不行慢
於此斷名色	乃至於渴愛
斷結離煩惱	乃至無欲心
斯人此世後	於人與天界
及一切住處	無須求其跡

四

（尊者摩加拉奢如是問：）

此世及後世	若天與人共
不見解脫人	以敬仰禮拜
拜無上利行	亦讚彼等否

五

（世尊呼摩加拉奢尊者，而予回答：）

比丘若禮拜 如是解脫人
亦應讚彼等 若知法離疑
比丘彼等亦 超越結縛人

〔三五〕第五 嫌責天

一

爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，甚多嫌責天神等，其勝光徧照祇園，於黎明往詣世尊住處，詣已，立於空中。

三

立於空中之一天神，於世尊前，唱此偈曰：

非如有自己 異而誇示人
如賭博詐術 其所受用
皆依於偷盜 以語之所行
勿語虛無為 雖語不為者
賢者以知此

四

〔世尊：〕唯語此道跡 只是於聽聞
不能隨之行 此道跡堅固
賢者依道跡 以修於禪定
解脫魔之縛 賢者知世法
如不云不作 賢者依智慧
而入於涅槃 以度世執著

五

爾時，彼天神等，下來立於地上，頭面頂禮世尊足，向世尊言：「世尊！是我等之罪、是我等之過。恰如愚者、迷者、不善者，我等想：可如是責難世尊否？願世尊饒恕我等之罪，為未來不〔再〕犯。」

六

時，世尊微笑。

七

時，彼天神等，更怒而昇空。

八

一天神於世尊前，唱此偈曰：

我等以謝罪	而不受饒恕
內蓄恚怒重	其人更結怨
若無有罪過	豈有此過失
怨恚若不靜	於此何有善
誰無有罪過	誰無有過失
誰不隨失念	誰賢常正念

九

〔世尊：〕	憐愍諸有情	於如來覺者
無有諸罪過	亦無有過失	
失念佛不墮	彼賢常正念	
雖然以謝罪	不得受寬恕	
內蓄恚怒重	其人更結怨	
若我不喜恚	即納汝罪過	

〔三六〕第六 信

一

爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，甚多沙瞿羅巴天神等，其勝光徧照祇園，黎明往詣世尊處。詣已，禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面之一天神，於世尊前，喝此偈曰：

信仰人之侶 若人不無信
而在於此世 有譽及稱讚
死後生天界

四

〔天神：〕捨慢離忿恨 超越一切縛
不執名色者 無何所結縛
魯鈍無智慧 人人耽放逸
如護最勝富 賢守不放逸
莫耽於放逸 莫交愛欲樂
禪思不放逸 以達最勝樂

〔三七〕第七 會

一

如是我聞。爾時，世尊與諸阿羅漢之五百比丘，共住於釋迦族迦毘羅城之大林。十世界之多數諸天，亦為謁見世尊及比丘眾而會集。

二

爾時，四淨居之諸天如是思念：〔今〕世尊與諸阿羅漢之五百比丘共住於釋迦族迦毘羅城之大林，十世界之多數諸天，為謁見世尊及比丘眾而會集。我等亦詣世尊之處。詣已，於世尊前，各唱其偈。

三

如是彼等諸天，恰如有力人之伸屈臂腕，屈伸臂腕，如是沒於淨居天，現於世尊處。

四

爾時，彼等諸天，禮敬世尊，立於一面，立於一面之一天神，於世尊前唱偈曰：

林中大集會 天眾共會集
見無敗僧伽 我等亦來赴
此法之集會

五

爾時，其他之天神，於世尊前，唱此偈曰：

於此比丘等 自心靜且直
如御執手綱 賢者守諸根

六

爾時，其他之天神，於世尊前，唱此偈曰：

割柱碎門鎗 除柵離貪欲
有眼者清淨 不污於遊行
善調若幼象

七

爾時，其他之天神，唱此偈曰：

誰歸命於佛 不墮於惡趣
此人以捨身 應滿於天集

〔三八〕第八 岩石之破片

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城摩達屈支之鹿野苑。

二

爾時，世尊之足，為岩石破片所傷。世尊甚感痛楚；身之所受非常強烈，心中頗有不快。世尊以正心正念之忍耐，而不為之所惱。

三

時，世尊將僧伽梨疊為四重，正心正念，兩足相疊，以作右脇師子臥。

四

時，七百沙睹羅巴天神等，夜中往詣世尊處，其勝光徧照摩達屈支。詣已，禮敬世尊，立於一面。

五

立於一面之一天神，於世尊前，發此歡喜語曰：

「沙門瞿曇實是龍象。不為所生起之強烈苦痛，不愉之身苦所惱，正心正念得堪忍，是為依其龍象之性。」

六

時，其他之天神，於世尊前，發此歡喜語曰：

「沙門瞿曇實是師子，不為所生起之強烈苦痛，不愉之身苦所惱，正心正念得堪忍，是依其師子之性。」

七

時，其他之天神，於世尊前，發此歡喜語曰：

「沙門瞿曇實是良駿。不為所生起之強烈苦痛，不愉之身苦所惱，正心正念得堪忍，是依其良駿之性。」

八

時，其他之天神，於世尊前，發此歡喜語曰：

「沙門瞿曇實是牡牛，不為所生起之強烈苦痛，不愉之身苦所惱，正心正念得堪忍，是依其牡牛之性。」

九

時，其他之天神，於世尊前，發此歡喜語曰：

「沙門瞿曇實是忍耐強牛，不為所生起之強烈苦痛，不愉之身苦所惱，正心正念得堪忍，是依其忍耐強牛之性。」

一〇

時，其他之天神，於世尊前，發此歡喜語曰：

「沙門瞿曇是調馴，不為所生起之強烈苦痛，不愉之身苦所惱，正心正念得堪忍，是依此調馴之性。」

時，其他之天神，於世尊前，發此歡喜語曰：

「善修三昧與見解脫心，不躍上，不沈下，於有行發而非抑。其行制伏煩惱，如是人中之龍象，人中之師子，人中之良駿，人中之牡牛，人中之忍耐強牛，人中之調馴者，有人若想侵害是人中之調順者，彼何以非無智耶？」

人於百歲間	學習五吠陀
精修嚴苦行	婆羅門行人
彼等之心行	乃非正解脫
彼等其性劣	不得達彼岸
渴愛之所囚	禁戒之所縛
百年雖強烈	以修嚴苦行
彼等之心行	乃非正解脫
彼等其性劣	不得達彼岸
於此不調馴	憍慢與愛欲
不使心靜者	不得有寂默
雖獨住森林	亦行於放逸
於死魔領域	不得度彼岸
以捨憍慢行	令心善寂靜
諸行皆清淨	由是得解脫
單獨住森林	不行於放逸
渡脫死魔域	可到達彼岸

〔三九〕第九 雲天公主（其一）

一

如是我聞，爾時，世尊住毘舍離之大重閣講堂。

二

時，雲天之紅蓮公主，其勝光徧照大林。於黎明往詣世尊處，詣已，禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面彼雲天之紅蓮公主，於世尊前，唱此偈曰：

住毘舍離林	眾生之上首
無上正覺者	我雲天公主
紅蓮恭禮奉	有眼者之證
此法我先聞	我今眼當知
善逝牟尼說	不論任何人
以謗此聖法	閑蕩之愚人
墮叫喚地獄	長劫受痛苦
不論任何者	寂靜與忍辱
近此聖法人	以捨此身時
應滿天之集	

〔四〇〕第十 雲天公主（其二）

一

如是我聞，爾時，世尊住毘舍離之大林重閣講堂。

二

時，雲天公主小紅蓮，於黎明時其勝光徧照大林。詣世尊處，詣已，禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面之雲天公主小紅蓮，於世尊前，唱此偈曰：

色鮮之電光	我雲天公主
紅蓮來至此	禮敬佛與法
奉說有益偈	如此之聖法
種種之方法	雖以如何多
於分別而說	只要我有心
略說此意義	即使身口意
而在於此世	不作一切惡

以離於愛欲 於正心正念
不受無利益 之一切苦惱

此唄陀南

與善人相處 慳貪與善哉
否則嫌責天 信會岩破片
以及雙雲天 紅蓮之公主

第五 燃燒品

〔四一〕第一 正在燒

一

如是我聞，爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時，有天神於黎明時，其勝光徧照祇園，往詣世尊處。詣已，禮敬世尊立於一面。

三

立於一面之天神、於世尊前，唱此偈曰：

四

由火燄燃家	搬出諸物品
惟只於此家	是善不為燒
如是於此世	老死火熾燒
布施而搬出	施者為搬出
施乃得樂果	不施無此果
依盜王者奪	被火燒消滅
如是富此身	死時無不捨
賢者以知此	享富且善施
從力用且施	行天無難責

〔四二〕第二 以與何

一

〔天神：〕與何與力耶 與何美貌耶
與何安樂耶 與何與眼耶
與何一切耶 問之對我說

二

〔世尊：〕與食物與力 與衣與美貌
與車乘與樂 與燈明與眼
與住處人者 是為與一切
教與正法者 是與不死人

〔四三〕第三 食

一

〔天神：〕不論天及人 皆以食為樂
時有不喜食 夜叉實何者

二

〔世尊：〕以信清淨心 行施食之人
此世及後世 皆可得其食
是故調伏慳 善施克眼垢
功德即人人 後世航渡頭

〔四四〕第四 一根

一

〔天神：〕僅此有一根無明 亦復有二面斷常
亦有三種垢三毒 復有五地場五欲

〔其本〕十二渦（十二處）、大海（不滿足）

有地窖地獄聖者得超越。

〔四五〕第五 完人

一

〔天神：〕其名無有缺 而於見秘義
若以施智慧 不著愛欲家
知一切賢者 以行於聖道
即得見大聖

〔四六〕第六 天女

一

〔天神：〕天女所侍者 如事吸血鬼
此名愚癡林 如何得出口

二

〔世尊：〕此道稱真直 此地稱無怖
車稱無轆聲 具足斯法輪
慚為依靠臺 正念是帷帳
以法我稱御 正見是先行
如是乘車人 是女或是男
依於此車乘 到達於涅槃

〔四七〕第七 植林

一

〔天神：〕任何人功德 日夜常增長
具戒止住法 誰亦往天界

二

〔世尊：〕植園以植林 以是作橋梁

以掘飲水井 作水小屋者
其人之功德 日夜必增長
法住戒具足 是人行天界

〔四八〕第八 祇園

一

〔天神：〕此乃彼祇園 聖僧伽住處
法王請住此 思之我生喜
善意智明戒 法定及正命
依此人清淨 又依氏姓富
非得於清淨 是故賢智者
以思自己利 並思擇正法
如其清淨 依於戒智慧
乃至於寂靜 猶如舍利弗
比丘到彼岸 應當是最勝

〔四九〕第九 慳貪

一

〔天神：〕此世有慳貪 吝嗇不與施
冒退求乞者 雖是他人施
亦為阻礙者 其人此世後
結果應如何 來此問世尊
我等於如何 應以知此耶

二

〔世尊：〕此世有慳貪 吝嗇不與施
冒退求乞者 雖是他人與
亦為阻礙者 此人人乃生
於地獄畜生 夜摩之世界
雖即來人界 當生貧窮家
於此難獲得 衣食遊享樂
彼等愚人望 難獲浮世樂
此世有此果 未來墮惡道

三

〔天神：〕我等知是說 更另問瞿曇
此世得人身 慈深離慳貪
歡喜信世尊 深敬法與僧
此人此世後 結果有如何
今來問世尊 我等應何知

四

〔世尊：〕此世得人身 慈深離慳貪
歡喜信世尊 深敬法與僧
此諸人之生 光輝徧天界
若使來人間 當生富貴家
於此則易獲 衣食遊享樂
未來他所蓄 自由樂享用
此世有此果 未來生天界

〔五〇〕第十 陶師

一

〔陶師：〕比丘解脫有七人 而上生達無煩天
欲貪瞋恚滅無餘 並超世間之愛著
難超死魔之領域 誰是超越泥地者
此世捨此人身後 亦離天軛者是誰
優波迦波羅毘陀 弗久左底為第三
跋提耶毘陀提婆 婆睺羅祇頻祇耶
此等諸人捨人身 亦是離於天軛人

二

〔世尊：〕逃惡魔係蹄 言之何微妙
彼等知誰法 斷除有結縛

三

〔陶師：〕無外世尊法 無外世尊教

彼等知其法 斷除有結縛
於此名與色 滅盡無有餘
此世知其法 彼斷有結縛

四

〔世尊：〕知難復悟難 汝言深奧語
汝知何人法 以語如是言

五

〔陶師：〕昔世我陶師 於耶發鄰加
街村作陶壺 以事父與母
迦葉如來世 乃為優婆塞
遠離於[泳-永+(瑤-王)]欲 無欲修梵行
我本同鄉者 前為卿之友
然而我正是 解脫七比丘
貪瞋滅無餘 知超世愛者

六

〔世尊：〕跋伽婆如汝 所語有如是
汝前為陶師 於耶發鄰加
街村作陶壺 遠離於[泳-永+(瑤-王)]欲
無欲修梵行 我乃同鄉者
以前實我友

七

積此高修習 最後身二人
邂逅昔故友 真實乃如是

此唄陀南

燃燒及與何 一根及完人
天女植林園 慳貪是陶師

第六 老品

〔五一〕第一 老

一

〔天神：〕老時善何物 何者善安住
何者為人寶 何者盜不奪

二

〔世尊：〕老時戒最善 信仰善住處
智慧乃人寶 功德盜不奪

〔五二〕第二 依不老

一

〔天神：〕何物不老善 何者善基礎
何者為人寶 何者盜不搬

二

〔世尊：〕戒善老平安 信仰善基礎
智慧乃人寶 功德盜不搬

〔五三〕第三 友

一

〔天神：〕何為旅人友 何為自家友
何為肇事友 何為未來友

二

〔世尊：〕商主遊人友 母為自家友
朋友事起時 屢次皆為友
自作功德者 乃為未來友

〔五四〕第四 支持

一

〔天神：〕何者人支持 此世最上友
生物依大地 何精以育此

二

〔世尊：〕子乃人支持 妻為最上友
生物依大地 雨精以育此

〔五五〕第五 生因（一）

一

〔天神：〕何物以生人 人何奔迴走
何者墮輪迴 何者人大畏

一

〔世尊：〕渴愛以生人 人心奔迴走
眾生墮輪迴 苦惱人最畏

〔五六〕第六 生因（二）

一

〔天神：〕何物以生人 人何奔迴走
何者墮輪迴 依何不解脫

二

〔世尊：〕渴愛以生人 人心奔迴走
眾生墮輪迴 依苦不解脫

〔五七〕第七 生因（三）

一

〔天神：〕何物以生人 人何奔迴走
何者墮輪迴 何者人依怙

二

〔世尊：〕渴愛以生人 人心奔迴走
眾生墮輪迴 業為人依怙

〔五八〕第八 非道

一

〔天神：〕何者謂非道 何者盡日夜
何為梵行垢 無水何沐浴

二

〔世尊：〕貪欲謂非道 青春盡日夜
女為梵行垢 於此人執著
苦行與梵行 為無水沐浴

〔五九〕第九 伴

一

〔天神：〕何者為人伴 又以何教人
又愛樂何物 人脫眾苦惱

二

〔世尊：〕信為人之伴 智慧以教人
愛樂涅槃者 人脫眾苦惱

〔六〇〕第十 詩

一

〔天神：〕何物偈頌因 何為其標記
偈頌依何物 何物偈住家

二

〔世尊：〕韻為偈頌因 文字其標記
偈頌依題名 詩人此住家

此唄陀南

依老不老友 支持三生因
非道以及伴 此依詩人滿

第七 勝品

〔六一〕第一 名

一

〔天神：〕何者勝一切 無有勝此者
以何之一法 一切所從屬

二

〔世尊：〕名為勝一切 無有勝名者
以名之一法 一切所從屬

〔六二〕第二 心

一

〔天神：〕世間依何導 依何物所惱
以何之一切 一切所從屬

二

〔世尊：〕世間依心導 依心之所惱
以心之一法 一切所從屬

〔六三〕第三 渴愛

以何之一法 一切所從屬

二

〔世尊：〕世間依愛導 依渴愛所惱
渴愛之一法 一切所從屬

〔六四〕第四 結

一

〔天神：〕世間依何縛 世步是何物
離卻何物者 是名為涅槃

二

〔世尊：〕世間依喜縛 尋求世步脚
離卻愛欲者 是名為涅槃

〔六五〕第五 縛

一

〔天神：〕世依何物縛 世步是何物
離卻何物者 是斷一切縛

二

〔世尊：〕世間依喜縛 尋求世脚步
離卻渴愛者 是斷一切縛

〔六六〕第六 窘迫

一

〔天神：〕世何所窘迫 依何為覆蓋
為鎗之所貫 依何常灼燠

二

〔世尊：〕世間死窘迫 依老為覆蓋
依愛投鎗串 依欲常灼燠

〔六七〕第七 為繼

一

〔天神：〕世間依何繼 依何為覆蓋
世間何禁閉 何物上安立

二

〔世尊：〕世依渴愛繼 依衰老為覆
為死所禁閉 世立苦惱上

〔六八〕第八 禁閉

一

〔天神：〕世為何禁閉 安立何物上
世間依何繼 依何為覆蓋

二

〔世尊：〕世為死閉禁 世立苦惱上
世依渴愛繼 依衰老為覆

〔六九〕第九 欲望

一

〔天神：〕世依何所縛 依何伏解脫
依離卻何物 以斷一切縛

二

〔世尊：〕世依欲望縛 伏欲得解脫
依離於欲望 以斷一切縛

〔七〇〕第十 世間

一

〔天神：〕何生世間生 和合何物上
世間依何物 依何世間苦

二

〔世尊：〕六生世間生 和合於六上
依六而執著 於六世間苦

此唄陀南

名心與渴愛 是為結與縛
窘迫繼禁閉 欲世等為十

第八 斷品

〔七一〕第一 殺

一

立於一面之天神，以偈向世尊曰：

殺何樂寢臥 殺何而不悲
殺害何一法 瞿曇卿稱讚

二

〔世尊：〕殺忿樂寢臥 殺忿為不悲
諸天以毒根 而為最上蜜
聖讚忿殺害 殺而不悲傷

〔七二〕第二 車

一

〔天神：〕何物車相標 何為火相標
何為國相標 何為婦相標

二

〔世尊：〕幡乃車相標 煙乃火相標
王乃國相標 夫乃婦相標

〔七三〕第三 富

一

〔天神：〕人於此世間 何為最勝富
善修何種事 能帶來安樂
何物之果實 其味為最上
如何之生活 為生活最勝

二

〔世尊：〕信在此世間 乃人最勝富
若修諸善法 帶來安與樂
真實乃果實 是最上美味
智慧之生活 謂生活最勝

〔七四〕第四 雨

一

〔天神：〕何物生最上 何物降最上
運步何最上 語者何最上

二

〔他神：〕種子生最上 雨乃降最上
牝牛步最上 子語中最勝

三

〔世尊：〕明乃生最上 無明降最上
僧伽步為最 佛陀語為最

〔七五〕第五 恐怖

一

〔天神：〕道實種種說 何多恐此世
具大智慧者 瞿曇我請問
以立於何者 人不恐此世

二

〔世尊：〕正確語與意 以身不為惡
若於富裕家 有信有柔和
善辨仁慈深 立此之四法
此世不恐怖

〔七六〕第六 不老

一

〔天神：〕何老何不老 何者云非道
何者障礙法 何者盡日夜
何者穢梵行 何者無水浴
世有幾多穴 心意不停滯
我等來問佛 我等以何知

二

〔世尊：〕色體乃衰老 人姓氏不老

貪欲云非道 慳貪障礙法
青春盡日夜 女人穢梵行
人人執著此 乃無水沐浴
苦行與梵行 心不得滯此
世有六孔穴 不勤不抑制
懶惰與放逸 應離此一切
耽睡眠怠慢

〔七七〕第七 主

一

〔天神：〕何為世間主 何為最上器
何為劍之鏹 此世何作獄
何物拒持離 何者好持離
何者屢屢來 賢者得歡喜

二

〔世尊：〕勢力世間主 女人最上器
忿為世劍鏹 盜賊於此世
以作苦地獄 盜賊拒持離
沙門好持離 沙門屢屢來
賢者乃歡喜

〔七八〕第八 欲愛

一

〔天神：〕追求利益者 以何不得與
人何不施捨 應放何之善
不應放何惡

二

〔世尊：〕人追求利益 不以與自己
自己不施捨 應放善良語
不得放惡語

〔七九〕第九 食糧

一

〔天神：〕何者包糧食 何為富住家
何者令人苦 何者世難捨
猶如鳥縛蹄 凡人何物縛

二

〔世尊：〕信仰包糧食 吉祥富住家
欲望令人苦 世捨欲望難
猶如縛蹄鳥 凡人欲望縛

〔八〇〕第十 光炎

一

〔天神：〕於世何光炎 於世何不眠
何為共同者 何為威儀路
猶如母養子 何者養怠慢
亦養精進者 以何者之精
以養於地上 倚著之生物

二

〔世尊：〕智慧世光炎 正念世不眠
牛乃共事者 畦乃威儀路
猶如母養子 雨養怠慢者
亦養精進人 乃以雨之精
養育於地上 倚著之生物

〔八一〕第十一 無諍

一

〔天神：〕此世誰無諍 誰生活不滅
誰遍知欲望 常為自由人

如是立己道 父母兄弟禮
其生雖卑賤 以受刹帝利
所尊敬者誰

二

〔世尊：〕沙門世無諍 沙門生不滅
沙門知欲望 常為自由人
沙門立己道 父母兄弟禮
其生雖卑賤 刹帝利尊敬

此唄陀南

殺之車與富 雨怖與不老
主欲愛糧食 光炎及無諍

第二 天子相應

第一 迦葉品

〔一〕第一 迦葉（其一）

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

其時，迦葉天子於黎明，其勝光徧照祇園，往詣世尊處。
詣已，禮敬世尊，立於一面。

立於一面之迦葉天子，向世尊謂曰：「世尊請以比丘之教，開示比丘及我等。」

二

「迦葉！善哉！然則當為汝說能起之事。」

三

以修說微妙 以修沙門行
獨住於一座 靜心以修法

四

迦葉天子作如是言，請大師嘉賞。迦葉天子知受大師之嘉賞，禮敬世尊，右繞而形沒於其處。

〔二〕第二 迦葉（其二）

一

爾時，世尊住舍衛城……

二

立於一面之迦葉天子，於世尊前，唱此偈曰：

比丘若禪思 以得心解脫
知世之興廢 心善不執著
若望心得達 不能得其果

〔三〕第三 摩佉

一

爾時，世尊住舍衛城……

二

時，摩佉天子於黎明往詣世尊處。其勝光徧祇園，詣已，
禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面之摩佉天子，向世尊唱偈曰：

殺何樂寢臥 殺何而不悲
殺害何一法 瞿曇卿稱讚

四

〔世尊：〕殺忿樂寢臥 殺忿而不悲
諸天以毒根 忿為最上蜜
聖讚此忿殺 殺之不悲傷

〔四〕第四 摩揭陀

一

立於一面之摩揭陀天子，向世尊唱偈曰：

世有幾多光 徧照此世間
我等問世尊 如何得知此

二

〔世尊：〕世有四種光 此無第五光
晝乃太陽輝 夜乃月光照
時火於日夜 彼此相徧照
正覺最勝火 此為無上光

〔五〕第五 陀摩利

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……

二

時，陀摩利天子於黎明，其勝光徧照祇園，往詣世尊處。
詣已，禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面之陀摩利天子，於世尊前，唱此偈曰：

精進勿倦怠 以捨離愛欲
依此不欲有 婆羅門所行

四

（世尊曰：陀摩利！）

此婆羅門者	無有之所行
婆羅門應作	一切終已辦
人不得足基	四肢雖勤動
亦為流所衝	得立土足基
彼到於彼岸	不為流所動
天子陀摩利	此乃諸漏盡
賢善於禪思	以喻婆羅門
彼達生老終	以立於彼岸
不為所流逝	

〔六〕第六 迦摩陀

一

立於一面之迦摩陀天子，以此白世尊曰：

二

「世尊，是者難為。世尊，是甚難。」

（世尊曰：迦摩陀！）

難為彼等為	有學而依戒
寂靜又確立	於出家之人
致安樂知足	

三

「世尊！知足甚難得。」

（世尊曰：迦摩陀！）

難得彼等得	樂心寂靜人
其心日或夜	悅樂於修習

四

「世尊！心實難靜。」

（世尊曰：迦摩陀！）

難靜彼等靜 諸根寂靜樂
彼破死魔網 迦摩陀天子
為聖者所行

五

「世尊！此道嶮難行。」

〔世尊：〕雖嶮雖難行 迦摩陀天子
聖者乃樂行 非聖於嶮道
彼等頭倒下 聖者之道平
不分嶮與平 聖者乃樂行

〔七〕第七 般闍羅旃陀

一

立於一面之般闍羅旃陀天子，於世尊前，唱此偈曰：

有大智慧人 障中知餘地
無有所著者 無比之聖者
佛陀知禪定

二

（世尊曰：般闍羅旃陀！）

彼等於障中 知到涅槃法
以得正念人 善正心寂靜

〔八〕第八 多耶那

一

時，原本是外道師之多耶那天子，於黎明其勝光徧照祇園，往詣世尊處。詣已，禮敬世尊，立於一面。

二

立於一面之多耶那天子，於世尊前，唱此偈曰：

婆羅門斷流	精進滅愛欲
牟尼未離欲	不入於禪定
欲作應作者	精進而行此
出家若疏漫	愈益散塵垢
不為勝惡行	行惡後受苦
行善者為勝	行善無有苦
宛如握惡草	因之手受傷
沙門生活惡	因之入奈落
疏漫所作業	污染於禁戒
懷疑於梵行	無有隨大果

三

多耶那天子作此言已，禮敬、右繞世尊，體形沒於此處。

四

時，世尊其夜過後，呼〔集〕比丘等。

五

「諸比丘！此夜名為多耶那，本是外道師之天子，於黎明時，其勝光徧照祇園。詣佛處，詣已，禮敬世尊、立於一面。立於一面〔之天子〕，於佛前唱此偈曰：

婆羅門斷流	精進滅愛欲
牟尼未離欲	不入於禪定
欲作應作者	精進而行此
出家若疏漫	愈益散塵垢

不為勝惡行	行惡後受苦
行善者為勝	行善無有苦
宛如握惡草	因之手受傷
沙門生活惡	因之人奈落
疏漫所作業	污染於禁戒
懷疑於梵行	無有隨大果

六

諸比丘！多耶那天子作此言已，禮敬、圍繞世尊，形體沒於其處。諸比丘！應暗〔誦〕多耶那偈。諸比丘！多耶那偈具足利義，屬最初之梵行。」

〔九〕第九 月天子

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……。

二

其時，月天子被阿修羅王羅睺所捕。月天子乃憶念世尊，而唱此偈曰：

佛陀大雄者	我歸依於卿
卿障皆解脫	我今落障礙
然則從此我	置於歸依處

三

時，世尊關於月天子，以偈向阿修羅王羅睺曰：

月天子今乃	歸依於如來
應供正覺者	羅睺以放月
諸佛憐世間	

四

時，阿修羅王羅睺以放月天子，有所顧慮，而詣阿修羅王
呾波質底。詣已，恐怖，毛髮豎立，立於一面，阿修羅王呾波
質底，對於立於一面之阿修羅王羅睺說偈曰：

羅睺何恐怖 為放月者乎
汝今懼顫來 懼何而立此

五

〔羅睺：〕我懼佛陀偈 若我不放月
我頭割為七 不得生安樂

〔一〇〕第十 日天子

一

其時，阿修羅王羅睺又捕日天子，日天子憶念佛陀，其時
唱此偈曰：

佛陀大雄者 我歸依於卿
卿障皆解脫 我今落障礙
然則從此我 置於歸依處

二

時，世尊關於日天子，以偈向阿修羅王羅睺曰：

日天子今乃 歸依於如來
應供正覺者 羅睺以放日
佛陀憐世間 彼耀默闇中
徧照而周圓 熾燃炎熱火
羅睺不得吞 彼之飛空行
羅睺以放我 弟子日天子

三

時，阿修羅王羅睺以放日天子，即顫慄而詣阿修羅王吠波質底。詣已，恐怖，毛髮豎立，而立於一面。阿修羅王吠波質底對立於一面之阿修羅王羅睺語偈曰：

羅睺何怖懼 為放日者乎
汝今顫懼來 何恐而立此

四

〔羅睺：〕我畏佛陀偈 若我不放日
我頭割為七 不得生安樂

此唄陀南：

迦葉與摩佉 摩揭陀摩利
以及迦摩陀 般闍羅旃陀
乃至多耶那 月日等為十

第二 給孤獨品

〔一一〕第一 月自在

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

時，月自在天子於黎明，其勝光徧照祇園，往詣世尊處。
詣已，禮敬世尊，立於一面。

二

立於一面之月自在天子，於世尊前，唱此偈曰：

善巧心集中 正念入禪定

猶如無蚊患 樹叢中走獸
可以平安行 不為於放逸
以離淨煩惱 而入禪定人
猶如破網魚 可以平安行

〔一二〕第二 毘紐

一

立於一面之毘紐天子，於世尊前，唱此偈曰：

奉侍於善逝 順從瞿曇教
學不放逸人 實是幸福焉

二

〔世尊呼曰：毘紐！〕

從我所說教 學句入禪定
始終不放逸 不入死魔領

〔一三〕第三 提伽羅低

一

如是我聞，爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

時，提伽羅低天子於黎明往詣世尊處。其勝光徧照竹林，
詣已，禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面之提伽羅低天子，於世尊前，唱此偈曰：

比丘若禪思 以得心解脫
知世之興廢 心善不執著
若望心得達 不能得其果

〔一四〕第四 難陀那天子

一

立於一面之難陀那天子，向世尊唱偈曰：

大智之瞿曇 無有蓋覆事
奉問於世尊 大雄智見者
何持等戒者 何等智慧者
何等超苦人 諸天崇何人

二

〔世尊：〕具戒有智慧 勤修於心意
寂靜而禪樂 正念捨諸愁
諸漏皆盡已 最後身之人
如是之行人 稱為持戒者
如是之行人 稱為智慧者
如是超苦人 是人諸天敬

〔一五〕第五 栴檀

一

立於一面之栴檀天子，向世尊唱偈曰：

日夜不懈怠 無有立足基
亦無攀著處 以何超瀑流
何人不深沈

二

〔世尊：〕常於戒具足 智慧善靜心
精進不撓人 渡難超瀑流

遠離於欲想 越色之繫縛
已盡喜貪人 是為不深沈

〔一六〕第六 須達多

一

立於一面之須達多天子，於世尊前，唱此偈曰：

猶如觸於劍 猶如髮燃時
比丘捨欲貪 正念於出家

二

〔世尊：〕猶如觸於劍 猶如髮燃時
捨身見比丘 正念於出家

〔一七〕第七 須梵

一

立於一面之須梵天子，向世尊唱偈曰：

此心常怖畏 此意常顫慄
起時甚恐懼 不起亦恐懼
若有免畏道 願請以指教

二

〔世尊：〕菩提分之外 勤修行之外
制諸根之外 一切放棄外
我不得窺見 眾生之平安

〔一八〕第八 覺陀

一

如是我聞，爾時，世尊，住沙計多安闍那林之鹿野苑。

時，覺陀天子於黎明，其勝光徧照安闍那林，往詣世尊處。詣已，禮敬世尊，立於一面。

二

立於一面之覺陀天子，向世尊言此曰：「比丘！汝歡喜否？」〔世尊曰〕：「友！得到何耶？」天子曰：「比丘，然而悲否？」〔世尊曰：〕「友！失落何耶？」〔天子曰：〕「比丘！然而汝亦不喜，亦不悲乎？」〔世尊曰：〕「友！唯然！」

三

〔天子：〕比丘汝不悲 汝亦不歡喜
唯獨寂寞坐 不足思不著

四

〔世尊：〕夜叉我不悲 亦無有歡喜
唯獨寂靜坐 無著思不足

五

〔天子：〕比丘何不悲 如何亦不喜
唯獨寂寞坐 不足思不著

六

〔世尊：〕有悲者有喜 有喜者有悲
比丘無喜悲 如是友當知

七

〔天子：〕無喜亦無悲 超愛世比丘

涅槃婆羅門 實久我所見

〔一九〕第九 優多羅

一

王舍城因緣。

立於一面之優多羅天子，於世尊前，唱此偈曰：

二

生導死壽短 老導無庇護
觀死此恐懼 齋樂積功德

三

〔世尊：〕生導死壽短 老導無庇護
觀死此恐怖 棄欲希寂靜

〔二〇〕第十 給孤獨

一

立於一面之給孤獨天子，於世尊前，唱此偈曰：

此乃彼祇園	聖僧伽住處
法王請住此	思念我生喜
善意智法定	以及戒正命
依此人清淨	又依姓氏富
非得於清淨	是故賢智者
以思自己利	並思擇正法
如其清淨	依於戒智慧
乃至於寂靜	猶如舍利弗
比丘到彼岸	應當是最勝

二

給孤獨天子言此已、敬禮、右繞世尊、體形沒於其處。

三

時，世尊於其夜過後，集比丘等：

四

「諸比丘！此夜有一天子，其勝光徧照祇園，於黎明詣我住處。詣已，禮敬我而立於一面，比丘等！立於一面其天子、於我面前，唱此偈曰：

此乃彼祇園	聖僧伽住處
法王請住此	思念我生喜
善意智法定	以及戒正命
依此人清淨	又依姓氏富
非得於清淨	是故賢智者
以思自己利	並思擇正法
如是其清淨	依於戒智慧
乃至於寂靜	猶如舍利弗
比丘到彼岸	應當是最勝

五

比丘等！其天子作此語已，敬禮、右繞於我，體形沒於其處。」

六

如是語已，尊者阿難，以此告世尊曰：「世尊，或許彼〔天子〕，乃給孤獨天子。給孤獨長者，信樂於尊者舍利弗。」

七

「善哉！善哉阿難！只要依尋求終可得，即依汝可使得。
阿難！其實乃給孤獨天子。」

此唄陀南：

月自在毘紐	及提伽羅低
乃至難陀那	梅檀須達多
須梵與覺陀	第九優多羅
第十給孤獨	

第三 種種外道品

〔二一〕第一 濕婆

一

如是我聞，爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。時濕婆天子於黎明，其勝光徧照祇園，往詣世尊處，詣已，禮敬世尊，立於一面。

二

立於一面之濕婆天子，於世尊前，唱此偈曰：

只與善人坐	只與善人交
知善人正法	為善不為惡
只與善人坐	只與善人交
知善人正法	依他不能得
而得之智慧	只與善人坐
只與善人交	知善人正法
悲中無有悲	只與善人坐
只與善人交	知善人正法
輝耀親族中	只與善人坐
只與善人交	知善人正法
人人行善趣	只與善人坐
只與善人交	知善人正法

人人有幸福

三

時世尊以偈答濕婆天子曰：

只與善人坐 只與善人交
知善人正法 可脫一切苦

〔二二〕第二 差摩

一

立於一面之差摩天子，於世尊前，唱此偈曰：

魯鈍無智慧	行為如自敵
以作諸惡業	以結苦痛果
不行其善業	終為而苦惱
咽鳴淚哭泣	以受其苦果
若行其善業	行訖無苦惱
歡喜心意樂	以受其樂果
為於自己知	智者及賢者
而作行準備	如是不若彼
車力者之思	勇猛精進之
宛如車力者	離於平大道
入於不平路	毀軸如沈思
如是法不進	從於不法故
怠者到魔口	如毀軸沈思

〔二三〕第三 世理

一

立於一面之世理天子，向世尊唱此偈曰：

不論天及人 皆以食為樂
時有不喜食 夜叉實何者

二

〔世尊：〕 信仰清淨心 行施食之人
此世及後世 皆可得其食
是故調伏慳 善施即勝垢
功德乃人人 後世渡津頭

三

〔天子曰：〕「世尊！希有，得未曾有。」實是世尊之善說：

信仰清淨心 行施食之人
此世及後世 皆可得其食
是故調伏慳 善施克服垢
功德乃人人 後世渡津頭

四

「世尊，昔我是施者、施主，布施之讚歎者，名為世理王。世尊！我於四門，施與沙門、婆羅門、可憐之人眾、旅行者、無宿之人等、求乞者。」

五

時，世尊！妃妾等來言我曰：『陛下之行施與，我等不行施與，我等亦依陛下得行施與之功德者，即何善焉？』

世尊！我如是思之：『我是施者、施主、施之讚歎者。我對於言「我等亦應行布施」者，當作如何說耶？』世尊！如是我於第一門以與妃妾等，於此妃妾等行布施，超越我之施與。

六

時，世尊！侍者之剎帝利等，來言我曰：『陛下之施與，妃妾等之施與，我等不施與，我等亦依陛下得行施與之功德者，即何善焉？』

世尊！我如是思之：我是施者、施主、施之讚歎者。對於言『我等亦行布施』者，當如何說耶？世尊！如是我於第二門，以與侍者之剎帝利等，彼等於此行布施，超越我之施與。

七

時，世尊！軍隊來說我……〔乃至〕……世尊！如是我於第三門與軍隊，與彼等於此行布施，超越我之施與。

八

時，世尊！婆羅門家主等來言我……〔乃至〕……世尊！如是我於第四門，與婆羅門家主等，彼等於此行布施、超越我之施與。

九

世尊！時，人人來說我曰：『今陛下任何皆不施與。』

世尊！如是言云，我即向彼眾人曰：『然則，從城外諸州所收益之中，一半納於宮庭，一半施與沙門、婆羅門、可憐之人眾、旅行者、無宿之人、求乞者等。』

一〇

世尊，於是我如是長久所行之功德，如是長久所行之善，未達其終極。有此諸功德，此諸功德之果，此諸之間當於天界〔其無終極〕。

一一

世尊！希有、是最勝。此依世尊實是善說：

信仰清淨心 行施食之人
此世及後世 皆可得其食
是故調伏慳 善施克服垢
功德乃人人 後世渡津頭」

〔二四〕第四 陶師

一

立於一面之陶師天子，於世尊前，唱此偈曰：

比丘解脫有七人 得上生於無煩天
欲貪瞋恚滅無餘 並超世間之愛著
難超死魔之領域 誰是超越泥地者
此世捨此人身後 亦離天軛者是誰
優波迦波羅毘陀 弗久左底為第三
跋提耶毘陀捉婆 婆睺羅祇頻祇耶
此等諸人捨人身 亦是離卻天軛人

二

〔世尊：〕逃惡魔係蹄 言之何微妙
彼等知誰法 斷除有結縛

三

〔陶師：〕無外世尊法 無外世尊教
彼等知其法 斷除有結縛
於此名與色 滅盡無有餘
此世知其法 彼斷有結縛

四

〔世尊：〕知難悟又難 汝言深奧語

汝知何人法 以語如是語

五

〔陶師：〕昔世我陶師 於耶發鄰加
行村作陶壺 以事父與母
迦葉如來世 乃為優婆塞
遠離於〔泳-永+(瑤-王)〕欲 無欲修梵行
我本同鄉者 前為卿之友
然而我正是 解脫七比丘
貪瞋滅無餘 知超世愛著

六

〔世尊：〕跋伽婆如汝 之語有如是
汝前為陶師 於耶發鄰加
街村作陶壺 遠離於〔泳-永+(瑤-王)〕欲
無欲修梵行 我乃同鄉者
以前實我友

七

積此高修習 最後身二人
邂逅昔故友 真實如是者

〔二五〕第五 姜睹

一

如是我聞。爾時，眾多比丘等，住於拘薩羅國雪山側之森林小屋。掉舉而高慢、多辯饒舌、忘念、不正知、心不安靜、散亂、不制伏諸根。

二

時，姜睹天子，於其布薩十五日，詣其比丘等〔處〕，詣已，向比丘等言偈曰：

往昔彼瞿曇	弟子比丘等
而住於安樂	乞食無求心
無求之心住	知世之無常
彼等苦惱盡	今之比丘等
惡向於自己	如村長於村
心奪他家富	食餐而寢臥
僧伽無合掌	此有人禮我
被棄無主人	宛如於死屍
對放逸之人	我乃以語彼
住不放逸者	我乃行歸依

〔二六〕第六 赤馬

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……。

二

立於一面之赤馬天子，向世尊言此曰：「世尊！於此不生〔何物〕、不衰、不死、無生起之處，步行之而知、或見、或得到彼世界之邊極耶？」

三

〔世尊曰：〕「友！我不語於此不生〔何物〕，不衰、不死、不沒、步行之即得知、得見、得到達不生起彼世界之邊極。」

四

〔天子曰：〕「世尊！希有、得未曾有。世尊！此實是由世尊所語：『友！我不語於此不生〔何物〕，不衰、不死、不沒、步行之即得知、得見、得到達不生起彼世界之邊極。』」

五

世尊！我往昔名為赤馬仙人，普奢之子，而有飛行於空中之神通。世尊！我有如是迅速之力；譬如精巧練習、熟練，取弓於輕矢，其〔速力〕如以超越射透多羅樹之葉蔭。

六

世尊！斯我一足之幅度，有如由東海至西海之廣。於我起如是願：我於步行，得到世界之邊極。

七

世尊！我具有如是速力，於如是足幅，於飯食之外，大小便之外，睡以治疲勞外，行我壽命百歲之間，未達世界之邊極，中途而死。

八

世尊！希有，得未曾有也。世尊！此實是由世尊所語：『我不語於此不生〔何物〕，不衰、不死、不沒，步行而得知、得見、得到達不生起彼世界之邊極。』」

九

〔世尊曰：〕友！我非說不達世界之邊極而成苦惱之邊極。友！我說示：於此一尋之有想有意之身體上、到達世界與世界之果、世界之滅與世界之滅道。

步行於世界 不得達邊極
不達世邊極 不以脫苦惱
是故實賢者 及世間解者
達世界邊極 終以成梵行
惡之澄靜者 知世之邊極
此世及後世 無有所求者

〔二七〕第七 難陀

一

立於一面之難陀天子，於世尊前，唱此偈曰：

時過日夜移 青春棄我等
觀死此恐怖 齋樂積功德

二

〔世尊：〕時過日夜移 青春棄我等
觀死此恐怖 棄欲希寂靜

〔二八〕第八 難提毘舍羅

一

立於一面之難提毘舍羅天子，向世尊語偈曰：

四輪九門孔 污穢滿貪欲
乃是不淨性 大雄從如何
有此之出口

二

〔世尊：〕以斷惡欲貪 乃至繩與網
拔棄渴愛根 如是有出口

〔二九〕第九 須尸摩

一

舍衛城因緣。

二

時，尊者阿難往詣世尊處，禮敬世尊坐於一面。世尊對坐於一面之阿難宣說：「阿難！汝亦喜舍利弗否？」

三

〔阿難曰：〕「世尊！不愚、不污、不迷亂、不亂心者，有誰不喜歡尊者舍利弗者！世尊！尊者舍利弗是賢者。世尊！尊者舍利弗是大慧。世尊！尊者舍利弗是廣慧。世尊！尊者舍利弗是速慧。世尊！尊者舍利弗是迅慧。世尊！尊者舍利弗是銳慧。世尊！尊者舍利弗是貫通慧。世尊！尊者舍利弗是小欲。世尊！尊者舍利弗是知足。世尊！尊者舍利弗是遠離。世尊！尊者舍利弗是不共住。世尊！尊者舍利弗是精進。世尊！尊者舍利弗是辯者。世尊！尊者舍利弗是聽忠言之人。世尊！尊者舍利弗忠告者。世尊！尊者舍利弗是惡之責難者。世尊！不愚、不污、不迷亂、不亂心者，有誰不喜歡尊者舍利弗者！」

四

〔世尊曰：〕「阿難！確實如是，阿難！確實如是。阿難！不愚、不污、不迷亂、不亂心者，有誰有不喜歡舍利弗者！阿難！舍利弗是賢者、是大慧、廣慧、速慧、迅慧、銳慧、貫通慧、小欲、知足、遠離、不共住、精進、辯者、聽忠言者、忠告者、惡之責難者。」

五

時，須尸摩天子於讚歎彼尊者舍利弗之德中，為天子大眾所圍繞而詣世尊處。詣已，禮敬世尊、立於一面。

六

立於一面之須尸摩天子，以此告世尊曰：「世尊！不愚、不污、不迷亂、不亂心者，有誰不喜歡尊者舍利弗者！尊者舍利弗是賢者……乃至……惡之責難者也、不愚、不污、不迷亂、不亂心者，有誰不喜歡尊者舍利弗者！」

七

時，須尸摩天之天子眾，於讚歎尊者舍利之德時，以生喜悅、歡喜而顯其勝色光。

八

譬喻清淨而好性質，八角善磨之吠琉璃珠置於黃毛布上，其光之輝照。如是須尸摩天子之天子眾，讚歎尊者舍利弗之德時，生喜悅、歡喜而顯其勝色光。

九

譬喻由精巧金工師，以作巧妙之閻浮河金之頸飾，置於黃毛布之上，以輝耀其光。如是須尸摩天子之天子眾……乃至……顯……。

一〇

譬如夜將曉，明星輝照之光……〔乃至〕……

一一

譬如秋季太陽昇於澄雲之空，以拂虛空所有之暗，以輝耀其光。如是須尸摩天子之天子眾，於讚歎尊者舍利弗之德時，以顯其勝色光。

一二

時，須尸摩天子關於尊者舍利弗，於世尊前，唱此偈曰：

無忿而小欲 柔和而調順
擔師譽聖者 知舍利弗智

一三

時，世尊關於尊者舍利弗，以偈答須尸摩天子曰：

無忿而小欲 柔和而調順
善調之庸人 如待薪資金
用以待死時 舍利弗智者
為世所皆知

〔三〇〕種種之外道師

一

如是我聞。爾時世尊住王舍城竹林栗鼠養餌處。

二

時，眾多之種種外道弟子之天子等，阿舍摩、舍波利、任迦、阿考吒迦、吠坦婆利、摩納婆伽彌耶，於黎明往詣世尊處，其勝光徧照竹林。詣已，禮敬世尊，立於一面。

三

立於一面之阿舍摩天子，關於富蘭那迦葉，於世尊前，唱此偈曰：

世間之割殺	以及害與奪
迦葉謂非惡	不見自功德
彼述實自信	相應為師尊

四

時舍波利天子，關於末伽梨瞿舍羅，於世尊前，唱此偈曰：

苦行與厭離	以善自制伏
與人語止爭	離於有罪語
平等於語實	何以彼如是
不為其惡耶	

五

時，任迦天子，關於尼乾陀若提子，於世尊前，唱此偈曰：

厭離巧比丘	制御四種身
開顯被見聞	彼何無罪過

六

時，阿考吒迦天子，關於種種之外道師，於世尊前，唱此偈曰：

據陀迦旃延	乃至尼乾陀
又此末伽梨	以及富蘭那
為人人之師	達沙門果人
如何於彼等	遠離善人焉

七

時，吠坦婆利天子，以偈答阿考吒迦天子曰：

號吼卑野干	畢竟是野干
不管於如何	難等於獅子
裸形而妄語	以為眾之師
疑訝之行為	難等於善人

八

時，惡魔波旬，隨從吠坦婆利天子而入，於世尊前，唱此偈曰：

苦行與厭離	守遠離生活
物質入於心	以樂喜天界
不導人他界	彼等正教誨

九

時，世尊知此惡魔波旬，以偈答惡魔波旬曰：

此世及彼世	不管任何色
光顯輝中空	此等皆是實
那牟尼所讚	如對魚於餌
因為是不殺	而可令投棄

一〇

時，摩納婆伽彌耶天子，關於世尊，於世尊前，唱此偈曰：

王舍城諸山	尾布羅最勝
雪山之諸山	白山為最勝
行於空中者	太陽為最勝
海為水中勝	月為星中勝
世界及天界	云佛是第一

此唄陀南：

濕婆與差摩 世理並陶師
姜睹及赤馬 難提毘舍羅
難陀須尸摩 種種外道師
此等共為十

第三 拘薩羅相應

第一 拘薩羅品

〔一〕 幼少

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時，拘薩羅之波斯匿王詣世尊處。詣已，與世尊交談敬重之見面禮，而坐於一面。

三

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王，白世尊曰：「世尊！瞿曇曾宣示證悟無上之正等覺否？」

四

「大王！有正確言說證悟無上正等覺者，即是我。大王！我是證悟無上之正等覺。」

五

「瞿曇！有僧伽、有群〔眾〕、為群〔眾〕之師、有名、有名聲，為救濟者、有受甚多人認定為善人之沙門婆羅門。猶如富蘭那迦葉、末伽梨瞿舍羅、尼乾陀若提子、刪闍耶吠羅底子、迦據陀迦旃延、阿耆多翅舍飲婆羅門等。問彼等曾宣示證

悟無上正等覺否？未曾宣示證悟無上之正等覺。何況尊者瞿曇，其生年青少，出家又日淺！」

六

「大王！年少不可輕。年少不可輕有四種；何為四種耶？大王！年少不可輕，剎帝利是年少不可輕。大王！年少不可輕，蛇是年少不可輕。大王！年少不可輕，火是年少不可輕。大王！年少不可輕，比丘是年少不可輕視。

大王！年少不可輕，此四種者是年少之不可輕視者。」

七

世尊宣說此已、善逝更宣示曰：

善生而有譽	具足尊貴姓
如是剎帝利	生年青少人
勿以輕低視	勿以藐視他
得彼剎帝位	成為人王時
忿怒而強烈	有加於王罰
是故守己命	以避遭繩罰
於村或森林	在此見蛇時
以為是幼少	勿輕勿藐視
或高或低貌	持炎蛇彷徨
若愚男女近	即直受彼咬
是故守己命	以避遭傷害
餌食甚多貪	熾燃火黑煙
雖然是細小	勿輕勿藐視
只要得柴薪	其火大炎出
若愚男女近	當即遭燃燒
是故守己命	以避受火害
火燒於森林	火盡成黑炭
日夜以過後	於此出草萌
持戒之比丘	若以戒炎燒
其人無生子	不富於子孫

無子無相續 彼等切斷芽
不如多羅樹 是故賢智人
自己以見利 小蛇與細火
有譽刹帝利 具戒之比丘
以善於正行

八

如是語已，拘薩羅國之波斯匿王白尊曰：「世尊！是最勝，世尊，是最勝。世尊！譬喻倒者立起，覆者顯現，迷者教示道，如有眼者見諸色，如暗中揭明燈，如是世尊說種種法。世尊！我歸依佛，及歸依法與僧。世尊，容受我從今日，終生歸依為優婆塞。」

〔二〕第二 人

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

時，拘薩羅國之波斯匿王詣於世尊處。詣已，禮敬世尊坐於一面。

三

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王白世尊曰：「世尊！於人中生幾何法，即成為人之不利、苦惱及不安住耶？」

四

「大王！三法生於人中，即成為人之不利、苦惱與不安住。」三者為何？大王！貪生於人中，即成為人之不利、苦惱

與不安住。大王！瞋生於人中，即成為人之不利、苦惱與不安住。大王！癡生於人中，即成為人之不利、苦惱與不安住者。

五

〔世尊，宣說此已……乃至……〕

貪與瞋及癡 生此惡心已
以為自傷害 如持倒竹實

〔三〕第三 王

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王白世尊曰：「世尊！於有生者中，有能免老死者否？」

三

「大王！任何生物亦不能免老死。」

四

大王！雖有大財富。有大富、有大受用、甚多金銀、甚多資財、甚多財穀之家主，因有生故，亦不能免老死。

五

大王！雖有大財之婆羅門，有大財富，有大富、有大受用、甚多金銀，甚多資財、甚多財穀之家主，因有生故，亦不

能免老死。

六

大王！漏盡之應供者，行盡梵行，所作已辦，已捨重擔，達自利，盡有縛，依正智而解脫之比丘之身體，亦是破壞之法，應捨之法。」

七

〔世尊宣說此已……乃至……〕

王車美亦壞 身體邁向老
正法永不老 善人所語善

〔四〕第四 愛者

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王白世尊曰：「世尊，我於此獨坐靜觀，生如是思念：『自我為何人所愛者，不為何人所愛者乎？』世尊，我生如是思念：

三

『任何人皆依身以行惡行、依語以行惡行、依意以行惡行。此等諸人乃非愛自我者。假若彼等雖云：「我等乃自我之愛者。」但彼等卻非自我之愛者。不論如何，非愛者所以為非愛者，乃彼等之自所作為。是故彼等非自我之愛者。

四

任何人皆依身以行善行、依語以行善行、依意以行善行、此等之諸人乃自我之愛者。假若彼等雖云：「我等乃非自我之愛者。」但彼等卻是自我之愛者。不論如何，愛者所以為愛者，乃彼等之自所作為。是故彼等乃自我之愛者。』」

五

「大王！如是，大王！如是。任何人依身、語、意以行惡行，此諸人乃非自我之愛者。任何人依身、語、意以行善行，此諸人乃自我之愛者。」

六

〔世尊於此宣說已……乃至……〕

知自可愛者	勿自連結惡
以行惡行人	難得於安樂
所囚於死魔	以捨生命者
有何是彼物	彼行而取何
功德惡之二	是人此世作
此為彼身物	彼行而取此
如添影之形	此二從隨彼
是故以行善	為善積未來
功德於後世	乃人渡津頭

〔五〕第五 自護

一

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王，白世尊曰：

二

「世尊！我獨坐靜觀生如是念：『何人乃護自我；何人不護自我耶？』世尊！我如是思念：

三

『任何人依身以行惡行、依語以行惡行、依意以行惡行者，其人即是不護自我。彼等如何受象軍之善護、馬軍之善護、車軍之善護、步軍之善護、但不護彼等之自我。何以故，此等外在之守護，此等非為內在之守護。是故非守護彼等之自我。

四

任何人依身以行善行、依語以行善行、依意以行善行者，其人乃護自我者。彼等雖云無任何象軍之守護、無馬軍之守護、無車軍之守護、無步軍之守護、但有守護彼等之自我。何以故？此等乃內在之守護，此等非外在之守護。是故乃守護彼等之自我。』」

五

「大王！如是，大王！如是。任何人依身、語、意以行惡行者，其人不護自我。任何人依身、語、意以行善行者，其人乃護自我。」

六

〔世尊宣說此已……乃至……〕

善哉自制身	善哉自制語
善哉自制意	善哉制一切
自制知恥者	云為守護人

〔六〕第六 少數

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王，白世尊曰：「世尊！我獨坐靜觀，生如是思念：於此世得巨大之富而不迷醉、不溺、不耽於欲樂、不誤於諸人中者，甚少。於此世得巨大之富而迷醉、溺、耽於欲樂、誤於諸人中者，甚多。」

三

「大王！如是，大王！如是。於此世得巨大之富而不迷醉、不溺、不耽於欲樂、不誤於諸人中者，甚少。於此世得巨大之富而迷醉、溺、耽於欲樂、誤於諸人中者，甚多。」

四

〔世尊宣說此已……乃至……〕

富迷於欲樂 貪欲以奪心
不覺於道外 如鹿被縛蹄
彼等後苦澀 其果即是惡

〔七〕裁斷

一

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王白世尊曰：

二

「世尊！我坐於裁判之座，見有大富、有大財大產、甚多資財、甚多財穀之刹帝利、婆羅門、家主等，自知為欲樂，依於欲樂，欲樂之故而語妄語。故我生如是思念：『我今有充分裁斷，今當依裁斷以顯賢面。』」

三

「大王！有大富，有大財大產，甚多金銀，甚多資財，甚多財穀之刹帝利、婆羅門、家主等，自知為欲樂，依於欲樂，欲樂之故而語妄語，彼等應長時之不利苦惱。」

四

〔世尊宣說此已……乃至……〕

富迷於欲樂 貪欲以奪心
不知於道外 如魚被網羅
彼等後苦澀 其果即是惡

〔八〕第八 末利

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

又，爾時，拘薩羅之波斯匿王與末利夫人，具在高樓之上。

三

時，拘薩羅之波斯匿王言末利夫人曰：「末利！可有其他之何人比汝更可愛耶？」

四

「大王！無有其他之何人比我更可愛者。大王！有其他之何人比汝自己更可愛耶？」

五

「末利！無有其他之何人，比我更可愛者。」

六

時，拘薩羅國之波斯匿王，走下高樓詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之拘薩羅國波斯匿王，白世尊曰：

七

「世尊！我於此與末利夫人於高樓上，以此言末利夫人：『末利！可有其他之何人比汝更可愛耶？』世尊！如是言已，末利夫人以此言我曰：『大王！無有其他之何人，比我更可愛者。大王！可有其他之何人，比王我更可愛耶？』世尊！如是言已，以此我對末利夫人曰：『末利！無有其他之何人，比我自已更可愛者。』」

八

時，世尊了知此義，其時，唱此偈曰：

思雖往一切 不達於比己
更為可愛者 其他之諸人
亦是可愛己 是故為自愛
勿以傷害他

〔九〕第九 供犧

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

爾時，又作備辦大供犧拘薩羅國之波斯匿王。有：五百牡牛、五百牝犢、五百山羊、五百隻羊，為供犧，而受縛於柱。

三

又有王之奴隸、僕人、男傭人，彼等亦害怕刑罰，恐怖戰抖，一面為作準備而一面哭泣流淚。

四

時，甚多比丘等晨早，著衣持鉢，入舍衛城行乞。於舍衛城行乞食已，收放鉢後，而詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之彼等諸比丘，白世尊曰：

五

「世尊！此拘薩羅國之波斯匿王、有備辦大供犧：五百牡牛、五百牝犢、五百山羊、五百隻羊，均為供犧而繫縛於柱。又王之奴隸、僕人、男傭人等，彼等害怕刑罰，恐怖戰抖，一面哭泣流淚一面為作準備。」

六

時，世尊了知此義，於此時唱偈曰：

馬犧人供犧	投擲之棒賽
勝利者之飲	而無有障礙
此等之供犧	事多無大果

山羊及羊牛	種種加殺害
如此之供犧	大聖不行為
事少常行此	山羊及羊牛
於此不殺害	而於此供犧
以行正道者	大聖亦行之
賢者行此供	此供有大果
以行此行者	有善而無空
偉大之供犧	諸天之賞讚

〔一〇〕第十 縛

一

又，其時，拘薩羅國之波斯匿王，捕縛甚多人。有者以繩、有者以網、有者以鎖〔縛之〕。

二

時，甚多比丘等，於晨早，著衣持鉢，入舍衛城行乞。舍衛城行乞食已，收放鉢後，詣世尊處。詣而禮敬世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼等諸比丘，白世尊曰：「世尊！彼拘薩羅國之波斯匿王，捕縛甚多人：有者以繩、有者以網、有者以鎖〔縛之〕。」

四

時，世尊了知此義，於其時誦此偈曰：

鐵繩以及木	或以葦之網
賢者不云縛	以心為迷醉
寶玉及珠環	又心繫妻子

賢者云強縛 牽引於此人
雖緩亦難離 無欲捨欲樂
斷此而出家

此唄陀南：

幼少人及王 愛者並自護
少數與裁斷 末利供與縛

第二 拘薩羅品

〔一一〕第一 結髮行者

一

爾時，世尊住舍衛城東園鹿子母講堂。

二

又，其時將日暮世尊從獨坐靜觀起座，出而坐於門外之小屋。時，拘薩羅國之波斯匿王詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

其時有七名結髮行者，七名尼乾陀徒，七名裸行者，七名一衣者，七人名遊行等，其腋下毛或身毛均長，爪亦長持遊行方者之用具，通過離世尊不遠之處。

四

時，拘薩羅國之波斯匿王，即從座起立，著上衣、偏袒一肩、右膝著地、向七名結髮行者，七名尼乾陀徒，七名裸行者，七名一衣者，七名遊行方者合掌，三次稱呼其名：「尊者！」

我乃拘薩羅國之波斯匿王，尊者！我乃拘薩羅國之波斯匿王。」

五

時，拘薩羅國之波斯匿王，離開彼等七名結髮行者，七名尼乾陀徒，七名裸行者，七名一衣者，七名遊行去後，直詣世尊之處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

六

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王，白世尊曰：「世尊！此等之諸人，於此世間，為阿羅漢，或具足阿羅漢之諸人中耶？」

七

「大王！此等諸人是阿羅漢耶？為具足阿羅漢道者耶？即如王者之在家受用欲樂，住於子嗣之障礙中，即使用迦尸國之栴檀，用華鬘、香、塗料，貯蓄金銀者亦不易知。

八

大王！彼之戒依於共住而且非短時，依長時而非不思惟、依思惟而非無智、應依有智慧而得知。

九

大王！彼之清淨是依於共語，而且非短時，依長時而非不思惟，依思惟而非無智，應依有智慧而得知。

一〇

大王！彼之確立，於不幸之時，而且非短時，依長時而非不思惟，依思惟而非無智，應依有智慧而得知。

一一

大王！彼之智慧，依共同商量，而且非短時，依長時而非不思惟，依思惟而非無智，應依有智慧而得知。」

一二

「世尊！誠然希有。世尊！誠然未曾有。世尊，此事確實是依世尊之所說。」「大王！此事即使在家受用欲樂……乃至……貯蓄金銀亦不易知……乃至……。」

一三

「世尊！此等我密訪、訪察者之諸人，於訪察各國歸來。最初依彼等之所察訪，於後我來作結論。

一四

世尊，如今彼等為去其塵垢，沐浴塗以香料，剃除鬚髮，穿著白衣，為五欲所纏繞，所具者是樂。」

一五

時，世尊了知此義，於此時唱偈曰：

色貌之於人	實是不易知
即刻見勿信	善制者其相
非為制御人	此世普橫行
如似是而非	泥土之耳環
渡金銅半錢	人人裝飾美
內懷於不淨	外面美橫行

〔一二〕第二 五王

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……。

二

其時，波斯匿王初為五王，為五欲所圍纏，充分享受快樂。彼於此間生起如是言語：「何為欲愛之第一？」

三

時，或有人作如是說：「色是欲愛之第一。」或作如是說：「聲是欲愛之第一。」或作如是說：「香是欲愛之第一。」或作如是說：「味是欲愛之第一。」或作如是說：「觸是欲愛之第一。」當時彼等諸王，互相皆不能承服。

四

時，拘薩羅國之波斯匿王，以此謂彼等諸王曰：「友！請過來，我等何不往詣世尊處，請問此義。如世尊為我等所說，應予各自受持。」

五

彼等五王答拘薩羅國之波斯匿王：「友！誠然。」

六

時彼等五王，以波斯匿王為先導，往詣世尊之處，詣已，禮敬世尊，坐於一面。

七

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王，以此語白世尊：「世尊！於此我等五王，為五欲所纏，充分享受快樂。我等之間生出如此言語：『何為欲愛之第一耶？』或亦有人作如是說：『色是愛欲之第一。』或作如是說：『聲是欲愛之第一。』或作如是說：『香是欲愛之第一。』或作如是說：『味是欲愛之第一。』或作如是說：『觸是欲愛之第一。』世尊！何為欲愛之第一耶？」

八

「大王！我說限以人心所好之程度，為欲愛之第一。大王！此等諸色，或為心之所好者，或為心之所不好者。有人或依色而歡喜，若能滿足所思，則更希望求其他更殊勝微妙之色。於彼而言，則其色乃無上之最殊勝。」

九

大王！此等之聲……乃至……香……乃至……味……乃至……此等之觸，或為心所好者，或為心所不好者。有人或依觸而歡喜，若得滿足所思，則不再希望其他更殊勝微妙之觸。於彼而言，其觸乃無上之最殊勝。」

一〇

爾時，亦有栴檀庵伽梨迦優婆塞坐其會座。時栴檀庵伽梨迦優婆塞即從座而起，偏袒一肩，合掌向世尊，以此謂世尊曰：「世尊！思我則不顯。善逝！思我則不顯。」

一一

世尊曰：「栴檀庵伽梨迦！顯此。」

一二

時，栴檀庵伽梨迦優婆塞於世尊座前，當場以相應之偈讚歎之：

芳香赤蓮華 晨開香不去
見鵞耆羅光 映空如太陽

一三

時，彼等五王，向栴檀庵伽梨迦優婆塞五件僧伽梨請穿著。

一四

時，栴檀庵伽梨迦優婆塞，即以此五件僧伽梨奉獻世尊。

〔一三〕第三 大食

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……。其時拘薩羅國之波斯匿王常食一陀那之飯食。

二

時，拘薩羅之波斯匿王食後，就大息而詣世尊〔處〕。詣已，禮敬世尊，坐於其傍。

三

時，世尊知拘薩羅國波斯匿王飯食已訖，曾作大息，其時而唱此偈曰：

以常持正念 取食知量人
則少有其苦 遲老得壽長

四

爾時，善見摩納立於拘薩羅國波斯匿王之後。

五

時，拘薩羅國波斯匿王呼善見摩納：「善見！汝在我食時，於世尊前暗唱此偈！我常日日施百錢與汝。」

六

善見摩納答覆拘薩羅國之波斯匿王曰：「大王！承教。」則暗〔誦〕在世尊前之偈，於拘薩羅國之波斯匿王食時即歌此偈：

以常持正念 取食知量人
則少有其苦 遲老得壽長

七

時，拘薩羅國之波斯匿王，即漸次滿足於一陀那量之飯食。

八

如是拘薩羅國之波斯匿王，即較以往身體康健，以手撫其身體，當時發此歡喜語：「世尊實以二利哀憐我：是現在之利與未來之利。」

〔一四〕第四 於戰之二語（其一）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……。

時，摩揭陀國韋提希子阿闍世王，整備四軍，針對拘薩羅國之波斯匿王，攻入其迦尸國。

二

拘薩羅國之波斯匿王，聞摩揭陀國之韋提希子阿闍世王整備四軍，攻入我迦尸國。

三

時，拘薩羅國波斯匿王，整備四軍，迎戰摩揭陀國韋提希子阿闍世王於迦尸國。

四

時，摩揭陀國韋提希子阿闍世與拘薩羅國之波斯匿王生戰事。依其戰鬥，摩揭陀國韋提希子阿闍世王，攻破拘薩羅國之波斯匿王。拘薩羅國之波斯匿王，則逃歸首都之舍衛城。

五

時，眾多比丘，朝晨著衣持鉢，入舍衛城行乞。舍衛城行乞飯食後置鉢，往詣世尊處。詣已，敬禮世尊而坐於一面，坐於一面之諸比丘等。以此事白世尊曰：

六

「世尊！如今，摩揭陀國韋提希子阿闍世王與拘薩羅國之波斯匿王挑起戰事。依其戰鬥，摩揭陀國韋提希子阿闍世王，攻破拘薩羅國之波斯匿王。拘薩羅國之波斯匿王，逃歸首都之舍衛城。」

七

「諸比丘！摩揭陀國韋提希子阿闍世王，有惡友、惡朋、惡伴。諸比丘！拘薩羅國之波斯匿王，有善友、善朋、善伴。諸比丘！但拘薩羅國之波斯匿王，今夜為敗者，應是苦眠。」

八

〔世尊，說此……乃至……〕

勝利以生怨 敗者苦難寢
只有捨勝敗 平靜樂安眠

〔一五〕於戰之二語（其二）

九

時，摩揭陀國韋提子阿闍世王，整備四軍，針對拘薩羅國之波斯匿王〔戰〕，攻入其迦尸國。

一〇

拘薩羅國之波斯匿王，聞摩揭陀國韋提希子阿闍世王，整備四軍，攻入我迦尸國。

一一

時，拘薩羅國之波斯匿王，整備四軍，於迦尸國，迎戰摩揭陀國之韋提希子阿闍世王。

一二

如是摩揭國之韋提希子阿闍世王，與拘薩羅國之波斯匿王挑起戰事。於此戰鬥，拘薩羅國之波斯匿王，攻破摩揭陀國之韋提希子阿闍世王，生擒彼〔王〕。

一三

時，拘薩羅國之波斯匿王，如是思念：「如摩揭國之韋提希子阿闍世王，雖無害，但謂害我，乃我之甥。我寧奪摩揭陀國之韋提希子阿闍世王所有之象軍、馬軍、車軍、步軍、以逐放彼。」

一四

時，拘薩羅國之波斯匿王，奪摩揭陀國之韋提希子阿闍世王所有之象軍、馬軍、車軍、步軍而逐放彼。

一五

時，眾多比丘，晨早著衣持鉢，入舍衛城，於舍衛城乞食，食已置鉢，往詣世尊處。詣已，禮敬世尊，而坐於一面；坐於一面之諸比丘等，以此事白世尊曰：

一六

「世尊！如今，摩揭陀國之韋提希子阿闍世王，整備四軍，針對拘薩羅國之波斯匿王，攻入其迦尸國。世尊！拘薩羅國之波斯匿王，聞悉亦以整備四軍迎戰。於此交戰，拘薩羅國之波斯匿王，攻破摩揭陀國之韋提希子阿闍世王，生擒彼王。世尊！如是拘薩羅國之波斯匿王，如是思念：『如摩揭國之韋提希子阿闍世王，雖無害，但謂害我，乃我之甥，我寧奪彼王

之四軍，以逐放彼王。』世尊，如是拘薩羅國之波斯匿王，奪得摩揭陀國之韋提希子阿闍世王之四軍，以逐放彼王。」

一七

時，世尊得知此義，其時，唱此偈曰：

人為己利時	即以掠奪他
他之被奪時	彼亦為所奪
愚者惡不實	雖思為當然
惡之成實時	即受於苦惱
若以殺他人	即得殺己者
若以勝他人	即得勝己者
以譏他人者	即得誹己者
以惱他人者	即得惱己者
如是業輪轉	奪人當被奪

〔一六〕第六 公主

一

舍衛城因緣。

二

時，拘薩羅國之波斯若王，往詣世尊處，詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

時，有一人，坐近拘薩羅國之波斯匿王，進而耳語於拘薩羅國波斯匿王告曰：「王！末利夫人生王女。」

四

如是云時，拘薩羅國之波斯匿王不喜。

五

時，世尊，知拘薩羅國波斯匿王之不喜，於是唱偈曰：

人主或婦人	勝比於男子
有智慧全戒	敬姑及事夫
以生其子者	英雄地上主
實如賢妻子	亦教導王國

〔一七〕第七 不放逸（其一）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……

二

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王以此白世尊曰：「世尊！現世之利與未來之利，可有取得兩利之一法耶？」

三

「大王！有取得現在與未來之利為一法者。」

四

「世尊！有取得現在之利與未來之利為一法者，何耶？」

五

「大王！取得現在之利與未來之利為一法者，是不放逸。
大王！譬喻任何步行獸之足跡，皆入於象之足跡。即云象之足

跡，其大為第一。大王！如是現在之利與未來之利，以此二利取之為一法。」

六

世尊宣說此……乃至……

生命與無病	美貌生天界
日日於願望	以生高貴家
賢者行功德	稱讚不放逸
賢者不放逸	現法之益利
乃至未來利	若得此二利
依於得此義	英雄謂賢者

〔一八〕第八 不放逸（其二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王以此白世尊曰：「世尊！我於獨坐靜觀以生思念：『依世尊之善說法，而與善友、善朋、善伴交；非與惡友、惡朋、惡伴交。』」

三

「大王！如是，大王！如是。大王！依我善說法，而與善友、善朋、善伴交；非與惡友、惡朋、惡伴交。」

四

大王！爾時，我住釋迦族邑。

五

大王！時，阿難比丘詣我處。詣已，禮敬於我坐於一面，大王！坐於一面之阿難比丘謂我曰：『世尊！此善友、善朋，善伴即梵行之一半。』

六

大王！我如是言已，以此謂阿難比丘曰：『阿難！不然。阿難！不然。阿難！此善友、善朋、善伴，乃是梵行之全部。阿難！有善友、善朋、善伴之比丘，得以期待於修行八支聖道，屢修八支聖道。』

七

阿難！如何有善友、善朋、善伴之比丘，屢修八支聖道耶？

八

阿難！此比丘依遠離，依離貪，依滅，以修正見，捨離〔煩惱〕及轉向〔涅槃〕。依遠離，依離貪，依滅，以修正思〔……乃至……〕正語〔……乃至……〕正業〔……乃至……〕正命〔……乃至……〕正精進〔……乃至……〕正念〔……乃至……〕正定，而捨離及轉向。阿難！如有善友、善朋、善伴之比丘，以修行八支聖道，屢修八支聖道。

九

阿難！依此應知有善友、善朋、善伴，乃梵行之全部。

一〇

阿難！不論如何，依以我為善友，生法之眾生，依生而解脫。老法之眾生，依老而解脫，病法之眾生，依病而解脫，死法之眾生，依死而解脫，愁悲苦惱悶之眾生，依愁悲苦惱悶而解脫。阿難！依此應知有善友、善朋、善伴，乃梵行之全部。』

一一

大王！是故，王不能不如是學。我應容有善友、善朋、善伴。大王！不能不如是學。大王！欲有善友、善朋、善伴者，不能不依此一法而住，即於善法不放逸。

一二

大王！王依不放逸、住不放逸者，王之後宮亦應如是思念：『王依不放逸，住不放逸，我等亦應依不放逸、住不放逸。』

一三

大王！王依不放逸、住不放逸者，剎帝利之侍臣等應如是思念：『王依不放逸、住不放逸；我等亦應依不放逸、住不放逸。』

一四

大王！王依不放逸、住不放逸者，國民亦應如是思念：『王依不放逸、住不放逸；我等亦應依不放逸、住不放逸。』

一五

大王！王依不放逸、住不放逸者，當亦護自己，亦護後宮，亦護庫藏。」

一六

〔世尊宣說……乃至……〕

繼續負願望	欲得至大富
賢者行功德	以讚不放逸
賢者不放逸	以得二種利
現世之益利	以及未來利
依得於此義	英雄謂賢者

〔一九〕第九 無子（其一）

一

舍衛城因緣。

二

時，拘薩羅國之波斯匿王，日中往詣世尊處。詣已，禮敬世尊，於一面坐。世尊謂於一面坐之拘薩羅國波斯匿王曰：「大王！王此日中從何處來耶？」

三

「世尊！於今舍衛城之長者家主死。彼無子，我來接收其財產。世尊！其金即有八百萬金、銀當更不待言。世尊！〔如是巨富〕之長者家主，以如是受用所食：混糠之酸粥；如是受用所衣：唯縫合三片之大麻粗布；如是用車乘；老舊朽車又持木葉之蓋傘。」

四

「大王！如是。大王！如是。大王！卑人乍得巨大之富，不令自樂、不令喜、不令父母樂、喜，不令妻子樂、喜，不令下男、下僕樂、喜。不令朋友樂、喜。對沙門、婆羅門、昇上界、導上界、轉生天界亦不行布施。彼之財富，不如是正當受用，則被王沒收、被盜賊奪、被火燒、被水流、被不喜愛之相續者奪取。大王！無如是正當受用之富，當是無用之破滅行。

五

大王！譬喻有池於無人之境，其水澄潔清冷，甘美澄白，岸亦甚善。但無人〔行〕樂，亦無人取水、故無人飲、浴、則是無何所用。大王！如是無正當受用之水，即是無用之消滅。如是卑人得富，不令自己、父母、妻子、下僕依此而樂、喜。如是無正當受用之富，是無用之破滅行。

六

大王！善人得巨大之富，令自己樂、喜；令父母樂、喜；令妻子樂、喜；令下男下僕樂、喜；令朋友樂、喜。對沙門、婆羅門、昇上界、導上界、有樂果、轉生天

界者行布施。彼之財富，有如是正當受用。不被王沒收、不被盜賊奪、不被火燒、不被水流、不被不喜愛之相續者奪取。大王！如是正當受用之富，則無破滅。

七

大王！譬喻近村，或邑有蓮池。其水澄潔清冷，甘美澄白，岸甚善而有人行樂、其水眾人取去、或飲、或浴以供人用。大王！如是正當受用之水，有用而不行滅。如善人得巨大

之富，令自己……乃至……朋友樂、喜，……乃至……如是正當受用之富，有用而無破滅行。」

八

〔世尊如是宣說……乃至……〕

如無人山野清水	無人飲用自行滅
若猶卑人得富者	不自用亦不與他
英雄識者以得富	自用並供其他事
彼牛王養親族群	無被非難行天界

〔二〇〕第十 無子（其二）

一

時，拘薩羅國之波斯匿王，日中詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面，對一面坐之拘薩羅國波斯匿王，世尊問曰：「大王！王日中從何而來耶？」

二

「世尊，於今舍衛城之長者家主死。彼無子，我來接收其財產。世尊，其金即有千萬金，銀當更不待言。世尊！〔如是巨富〕之長者家主，以如是受用所食：為混糠之酸粥；如是受用衣：為縫合三片之大麻粗布。如是受用車：老舊朽車又持用木葉之蓋傘。」

三

「大王！如是，大王！如是。大王！往昔其長者家主，令供食於多伽羅尸棄辟支佛之行乞。令『供食於沙門』即從座起

而去，來反後悔於『此食不如予下僕為勝。』又為財產而奪兄弟一子之生命。

四

大王！其長者家主、依令施食多伽羅尸棄辟支佛行乞之業果，七返生天界，七返之餘業，七返於此舍衛城，置長者之位。

五

大王！此長者家主、依施後反悔『此食不如予下僕為勝』之業果，其心不傾向於善食之受用，不傾向於善衣之受用，不傾向於善車乘之受用。不傾向五欲之善受用。

六

大王！其長者家主，依由為財產而殺兄弟之子其業果，得多年、多百年、多千年、多百千年受苦於地獄。依其餘業，當七返無子，其財富則被沒入王庫。大王！其長者家主，乃舊功德盡已，不積新功德。大王！其長者今日被煮於大叫喚地獄。」

七

「世尊！長者家主即如是生於大叫喚地獄。」

八

「大王！長者家主如是生於大叫喚地獄。」

穀物富金銀 如何為所有
奴下男傭人 及他從屬者

悉皆不隨行 一切皆離去
依於身之行 以及口意行
唯此彼身物 即隨之而行
一切皆依業 如影之隨形
然則行善事 積善為未來
功德是後世 眾人渡津場

此唄陀南：

結髮之行者 以及於五王
擊戰故事二 姬二不放逸
無子二故事 依此云一品

第三 拘薩羅品

〔二一〕第一 人

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……

二

時，拘薩羅國之波斯匿王，往詣世尊處。詣已，禮敬世尊，於一面坐，世尊謂於一面坐之拘薩羅國波斯匿王曰：「大王！世間有四種人。」

三

「四種者何耶？」「乃：由闇入闇，由闇入明，由明入闇，由明入明者是。」

四

大王！如何之為由闇入闇耶？大王！今有人生卑賤家、生於旃陀羅家、作竹籠家、獵夫家、作皮家、清潔夫家，貧窮而缺乏飲食，生計困難，難得衣食、醜陋，畸軀而駝背，多病、獨眼、曲手、跛足、半身不遂，不得飲食、衣服、車乘、華鬘、香、塗香、寢牀、住居、燈光。彼身為惡行、語為惡行、意為惡行。彼為此身、語、意之惡行，身體毀壞死後，墮於苦處、惡處、地獄。大王！譬喻人由闇入闇，由闇入闇，即由血暗入血暗。大王！我說譬喻此人。大王！如是等人是由闇入闇。

五

大王！如何之人是由闇入明耶？大王！如今有人生卑賤、旃陀羅家、作竹籠家、獵夫家、皮匠家、清潔夫家，貧窮而缺乏飲食，生計困難，難得衣食，醜陋奇而駝背、多病、獨眼、曲手、跛足、半身不遂，不得飲食、衣服、車乘、華鬘、香、塗香、寢牀、住居、燈光。彼身行善行，口行善行、意行善行。彼於身語意善行。身體毀壞死後，生善趣天界。大王！譬喻有人由地乘輿，由輿移乘馬背，由馬背移乘象，由象肩移登高樓。大王！正如我以此人為喻。大王！如是之人是由闇入明。

六

大王！如何之為人由明入闇耶？大王！於今有人生高貴家。生大富刹帝利家、大富婆羅門家、大富家主之家、富而有大財、大產、多金銀、多資財、多財穀之家。彼等美貌、見好、似樂見蓮葉具最上美色之皮膚。得飲食、衣服、車乘、華鬘、香、塗香、寢牀、住居、明燈。彼身為惡行、口為惡行、意為惡行。彼者身、口、意為惡行、身體毀壞死後，墮惡趣、

苦處、地獄。大王！譬喻人由高樓下至象肩、由象肩下至馬背，由馬背下至輿，由輿下至地面，由地面降入於闇〔處〕。大王！我說譬喻此人，大王！如是之人，是由明入暗。

七

大王！如何之人為由明入明耶？大王！於今有人生高貴家，生大富刹帝利家、大富婆羅門家、大富家主之家、富而有大財、大產、多金銀、多資財、多財穀之家。得飲食、衣服、車乘、華鬘、香、塗香、寢牀、住居、明燈。彼之身為善行、口為善行、意為善行。彼者身、口、意為善行，身體毀壞死後，生善趣、天界。大王！譬喻有人，由輿移至馬背、由馬背移至象肩、由象肩移至高樓。大王！我說譬喻此人，大王！如是之人，是由明入明。

八

大王！世有如此〔四種之〕眾人。」

九

〔世尊如此宣說……乃至……〕

貧者無信仰	心卑而吝惜
慳嗇有惡思	邪見無敬心
嘲罵乞食者	沙門婆羅門
惱不為人思	妨與乞食者
如是人死後	往恐懼地獄
此由闇入闇	貧窮有信仰
無有卑吝心	行施思崇高
心靜不混亂	對他乞食者
沙門婆羅門	從座立敬禮
平安行修身	乞食不妨食
如是人死後	生於忉利天

此由闇入明 雖富無信仰
心卑心吝惜 慳嗇有惡思
邪見無敬心 嘲罵乞食者
沙門婆羅門 惱不為人思
妨與乞食者 如是人死後
往恐懼地獄 此由明入闇
富貴有信仰 無有卑吝心
行施思崇高 心靜不混亂
對他乞食者 沙門婆羅門
從座立敬禮 平安行修身
對於乞食者 不妨與之食
如是人死後 生於忉利天
此由明入明

〔二二〕第二 祖母

一

舍衛城因緣。

二

世尊謂於一面坐之拘薩羅國波斯匿王曰：「大王！王日中從何處來耶？」

三

「世尊！我老祖母年百二十歲死矣。」

四

世尊！我祖母於我，是所思慕者。世尊，若我依於象寶，得令祖母不死者，我當予象寶不令祖母死。若我依馬寶，得令祖母不死者，我當予馬寶不令祖母死。得依善村或國，得令祖母不死者，我當予善村或國令祖母不死。」

五

「大王！一切眾生乃死法。終當必死，無得超越於死者。」

六

「世尊！希有。世尊，未曾有。此一切眾乃死法，終當必死，無能得超死者實是善說。」

七

「大王！如是，大王！如是。一切眾生乃死法。終當必死，無得超越於死者。大王！譬喻作壺之任何所作之土器。或燒或不燒者，悉是破壞之法，終必破壞，無有免破壞者，如是一切眾生為死法，終當必死，無得超死者。」

八

〔世尊此宣說……乃至……〕

眾生皆必死	生者無不死
應如依其業	隨行功罪果
依惡墮地獄	功德生天界
然者行善事	積善為未來
功德實眾人	後世渡津場

〔二三〕世間

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……

二

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王白世尊曰：「世尊！世間有幾種法生，為不利苦惱不安住耶？」

三

「大王！世間有三法生，為不利苦惱不安住。

四

三者何耶？大王！於世間貪生，為不利苦惱不安住。大王！於世間瞋生，為不利苦惱不安住。大王！於世間癡生，為不利苦惱不安住。

五

大王！此等三法，生於世間，為不利苦惱不安住。」

六

〔世尊此宣說……乃至……〕

貪瞋以及癡 此惡心生人
害人如竹類 生之即傾倒

〔二四〕第四 弓術

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

坐於一面之拘薩羅國波斯匿王，以此白世尊曰：「世尊！布施應於何處為之耶？」

三

「大王！應於心之信樂處為作之。」

四

「世尊！於何處行施，有大果耶？」

五

「大王！布施應於何處為？與何處行施有大果者，有別也。大王！施於持戒者有大果；於惡戒者則不然。大王！誠然！今我問王，王之意云何耶？」

六

大王！王之意如何耶？於此王興起戰爭，其戰激烈。時，有不學，不熟習、不慣、不練、恐懼症而戰慄、恐怖、逃亡之剎帝利青年來，王扶持其人，如是其人有用耶？」

七

「世尊！不，我不扶持其人，其人無有用。」

八

「時，有不學〔……乃至……〕逃亡之婆羅門青年〔……〕毘舍之青年〔……〕首陀羅之青年來……乃至……不，我不扶持其人，其人無有用。」

九

「大王！王之意云何耶？於此王興起戰爭，其戰激烈。
時，有有學、熟習、慣、練、無恐懼症、不戰慄、不恐怖、不
逃亡之剎帝利青年來，王扶持其人，如是其人有用耶？」

一〇

「世尊，我扶持其人，如是之人為有用。」

一一

「時，有有學〔……乃至……〕不逃亡之婆羅門青年
〔……〕毘舍之青年〔……〕首陀羅之青年來……乃至……王
扶持此人，如是之人有用耶？」

一二

「世尊！我扶持此人，如是之人有用。」

一三

「大王！如是任何家族，從其家族，無家而出家，以離五
支並具五支者，施彼有大果。」

一四

如何為離五支耶？為離愛欲、離瞋、離昏眠、離掉悔、離
疑、此謂離五支。

一五

如何為具五支耶？為具無學戒蘊、具無學定蘊、具無學慧
蘊、具無學解脫蘊、具無學解脫知見蘊，此謂具五支。

一六

施如是離五支、具五支者有大果。」

一七

世尊宣說於此……乃至……師其時唱偈曰：

王為戰生貴	不扶持怯者
善選巧弓術	勇氣力青年
如是之智者	其生雖卑劣
忍辱有慈悲	善供聖跡人
善住多聞者	欣樂作小屋
無水林設池	嶮處與設道
食物飲堅食	衣服及住居
以信樂之心	善施直心人
如受電華鬘	轟百鳥冠雲
雨降於大地	高低皆潤濕
有信而多聞	賢者以集富
食物及飲料	惠於乞食者
心喜而播散	言予之予之
此乃彼之轟	如天之降雨
廣大功德水	以注眾人上

〔二五〕第五 山之比喻

一

舍衛城因緣。

二

〔世尊〕謂於一面坐之拘薩羅國波斯匿王曰：「大王！王從何處來耶？」

三

「世尊！沉醉於主權之憍、耽於愛欲貪、得國家保全，征服廣大領土、剎帝利之灌頂王、有諸王事，我忙碌於此等事。」

四

「大王！王之意如何耶？於此可信、可賴者從東方來，彼詣王處，作如是言曰：『大王！請知我從東方來。於彼見如虛空之大山，而壓碎一切生物，大王！請作應作之事。』

五

時，有可信、可賴之第二人，由西方……乃至……第三人由北方……乃至……第四人由南方來，彼詣王處，作如是言曰：『大王！請知我從南方來，於彼見如虛空之大山壓碎一切生物。大王！諸作應作之事。』大王！如是大恐怖，已至人類滅盡之可怕，人身更難再受。於王應作何事耶？」

六

「世尊！如是大恐怖，已至人類滅盡之可怕，人身更難再受者；唯為法行、正行、善業、功德業之外、無何所為焉！」

七

「大王！我說王，我告於王：老死壓在王之上，如老死壓在王頭上，應何所為耶？」

八

「世尊！如老死壓在我上；應為法行、正行、善業、功德業之外，無何所為焉！」

九

世尊！沉醉主權之憍，耽愛欲之貪，得國家之保全，征服廣大之領土，刹帝利種之灌頂王、有象軍戰。然而，世尊！此等象軍戰，亦於老死之壓來，無防老死之方法與餘地。

一〇

世尊！沈醉於主權之憍……乃至……刹帝利之灌頂王有馬軍戰〔……〕車軍戰〔……〕步軍戰。然而此步軍戰，亦於老死之壓來，無防〔老死〕之方法與餘地。

一一

世尊！王宮有善咒之大臣，彼等得以咒語破來攻之敵。然而，世尊！咒戰之壓來，無防老死之方法與餘地。

一二

又，世尊！於此王宮，有布滿地階又布滿上階莫大之黃金。我等依此財寶，可說服攻來之敵，然而此財寶之戰，無防老死壓來之方法與餘地。

一三

世尊！老死壓來我頭上時；唯為法行、正行、善業、功德業之外，無何所為焉！」

一四

「大王！實者如是，大王！實者如是。老死壓來王之上，唯為法行、正行、善業、功德業之外，無何所為焉！」

世尊此宣說……乃至……師唱此偈曰：

穿空大岩山	猶四方迫來
老死之強迫	臨眾人頭上
剎帝婆羅門	毘舍首陀羅
乃至旃陀羅	下水清掃人
任何人難免	一切皆被迫
象軍無餘地	車軍及步軍
亦為無餘地	咒術亦無濟
富亦無術勝	故賢為己思
佛法及僧伽	以植於信仰
身口以至心	如法之行人
此世承讚譽	未來生天界

此之嘸陀南：

人祖母世間	弓術佛勝說
譬喻廣大山	拘薩品第五

第四 惡魔相應

第一 惡魔品

〔一〕第一 苦業

一

如是我聞。爾時，世尊初成正覺時，住優留毘羅林之尼連禪河邊，阿闍波羅尼俱律陀樹下。

二

時，世尊獨坐靜觀，而作如是思念：「我今實已脫離彼苦行。善哉！我今實已脫離彼無利益之苦行。善哉！證得堅毅、正念、菩提。」

三

爾時，惡魔波旬，知世尊心之所念，而來詣世尊處。詣已，以偈白世尊曰：

若無離苦行 清淨青年眾
躊躇離淨道 不淨思為淨

四

爾時，世尊知是惡魔波旬，以偈答惡魔波旬曰：

不死等苦行 知無一切利
如陸舟艫舵 一切無護益
修戒及定慧 此乃菩提道
我達無上淨 破壞者汝敗

五

爾時，惡魔波旬苦惱而曰：「世尊已知我，善逝已知我。」即萎身沒於彼處。

〔二〕第二 象

一

如是我聞。爾時，世尊初成正覺時，住優留毘羅林之尼連禪河邊，阿闍波羅尼俱律陀樹下。

二

爾時，世尊闇夜坐於露地，雨絲霏霏而下降。

三

爾時，惡魔波旬欲令世尊生起恐怖毛髮豎立，乃化作大象王，來詣世尊前。

四

彼頭實如大黑岩，其牙如淨銀，其鼻如大鋤柄。

五

時，世尊知此惡魔波旬，而以偈言惡魔波旬曰：

作淨不淨相 汝之輪迴長
波旬汝可去 破壞者汝敗

六

時，惡魔波旬苦惱而曰：「世尊已知我，善逝已知我。」
即萎身沒於其處。

〔三〕第三 淨

一

〔爾時，世尊〕住優留毘羅林……

二

爾時，世尊闇夜坐於露地，雨絲霏霏下降。

三

時，惡魔波旬欲令世尊生起恐怖，毛髮豎立，來詣世尊坐處。

四

詣已，於世尊之近處，以顯或高或下之種種淨、不淨形相。

五

時，世尊知是惡魔波旬，以偈言惡魔波旬曰：

作淨不淨相	汝之輪迴長
波旬汝可去	破壞者汝敗
依身語及意	人人善調魔
無行惡魔配	非惡魔弟子

六

時，惡魔波旬……乃至……苦惱萎身於其處。

〔四〕第四 係蹄（其一）

一

如是我聞。爾時，世尊住波羅奈仙人墮處鹿野苑。於此，世尊呼諸比丘：「諸比丘！」彼等諸比丘亦奉答世尊：「唯然，世尊！」

二

世尊乃宣說：「諸比丘！我依正思惟，我依正精進，實證到達無上解脫。諸比丘！汝等亦依正思惟、正精進、亦實證到達無上解脫。」

三

時，惡魔波旬，來詣世尊處。詣已，以偈言世尊曰：

汝為天與人 惡魔係蹄縛
汝縛惡魔繩 沙門難逃我

四

〔世尊：〕我脫天與人 惡魔係蹄縛
我解惡魔縛 破壞者汝敗

五

時，惡魔波旬……乃至……形體沒於其處。

〔五〕係蹄（其二）

一

爾時，世尊住波羅捺仙人墮處鹿野苑。於此世尊呼「諸比丘！」彼等諸比丘：「唯然！世尊！」以奉答世尊。

二

世尊曰：「諸比丘！我解脫天、人等所有之係蹄。諸比丘！汝等亦解脫天、人等所有之係蹄。諸比丘！為眾人之利益、幸福以憐憫世間。為人天之利益、幸福以遊方！二人勿走一條路。諸比丘！說具初善、中善、終善之文與義之法。說一切圓滿清淨之梵行。有眾生來不少塵垢，不聞法亦得令滅，彼等應是知解法者。諸比丘！我亦為說法，而詣優留毘羅將軍村。」

三

時，惡魔波旬詣世尊前。詣已，以偈言世尊曰：

汝為天與人 惡魔係蹄縛
汝縛惡魔繩 沙門難逃我

四

〔世尊：〕我脫天與人 惡魔係蹄縛
我解惡魔縛 破壞者汝敗

〔六〕第六 蛇

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

爾時，世尊，闇夜中坐於露地，雨絲霏霏下降。

三

時，惡魔波旬欲使世尊生起恐怖，毛髮豎立，化作大蛇王相。來詣世尊前。

四

其軀體大如木舟，其頭如酒屋之箕，其兩眼如拘薩羅國之銅鉢，其口如雷鳴，出電光。吐舌，其呼吸聲如鐵工之火具音。

五

時，世尊知是惡魔波旬，以偈語惡魔波旬曰：

空舍自制御	勝哉彼牟尼
於此行放棄	如是相應彼
野獸之往來	蚊虻毒蛇多
充滿諸恐怖	大聖行空舍
無有損一毛	虛空裂地震
生者皆恐嚇	縱向於胸位
投擲利猛槍	諸佛不被護

六

時，惡魔波旬：「世尊已知我，善逝已知我。」即形體沒其處。

〔七〕第七 睡眠

一

爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

爾時，世尊，其當夜多作露地經行後，將曉，洗足入室。
盤腿起思惟於正念、正心時，而作師子臥。

三

時，惡魔波旬來詣世尊前。詣已，以偈語世尊曰：

何故睡眠耶 睡眠為何故
今何如眠死 空舍為眠乎
日已高上昇 何以睡眠乎

四

〔世尊：〕破愛貪著網 何處均無惑
一切有依盡 覺者於睡眠
惡魔汝何為

〔八〕第八 歡喜

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時，惡魔波旬來詣世尊前。詣已，向世尊唱此偈曰：

有子依子喜 牛主依牛喜
人喜依所依 無依則無喜

三

〔世尊：〕有子依子悲 牛主依牛悲
人喜悲所依 無依則無悲

四

時，惡魔波旬：「世尊已知我！善逝已知我。」形體即沒於其處。

〔九〕第九 壽命（其一）

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

於此，世尊呼諸比丘：「諸比丘！」彼諸比丘以「唯然！世尊！」奉答世尊。

三

世尊曰：「諸比丘！此人壽命短，不可不行於未來，不可不為善，不可不行梵行，生者無不死。諸比丘！則長壽者，亦少多於百歲！」

四

時，惡魔波旬，詣世尊前。詣已，以偈白世尊曰：

人壽實甚長 善人莫輕此
如飽乳赤子 死即豈不來

五

〔世尊：〕人壽實甚短 善人應輕此
如人遇燃髮 死者豈不來

六

時，惡魔波旬……乃至……沒於其處。

〔一〇〕第十 壽命（其二）

一

〔爾時，世尊〕住王舍城……

時，世尊曰：「諸比丘！人類壽命短。不可不行未來，不可不為善，不可不行梵行，生者無不死。諸比丘！則長壽者，亦少多於百歲。」

二

時，惡魔波旬來，詣世尊前。詣已，以偈白世尊曰：

日夜猶未逝 壽命亦未盡
如輪軸迴轉 人命亦輪逝

三

〔世尊：〕日夜之過逝 壽命亦將盡
如小河水竭 人壽命亦滅

四

時，惡魔波旬苦惱以：「世尊已知我！善逝已知我。」而萎身隱沒於其處。

此唄陀南：

苦業之與象 淨係蹄等二
蛇睡眠歡喜 壽命又為二

第二 惡魔品

〔一一〕第一 巖

一

爾時，世尊住王舍城靈鷲山。

二

爾時，世尊闇夜中坐於露地。雨絲霏霏下降。

三

時，惡魔波旬欲令生恐怖，毛髮豎立。以詣世處。詣已，
於世尊不遠之處，以碎大石巖。

四

時，世尊知是惡魔波旬，以偈謂惡魔波旬曰：

猶如靈鷲山 雖震動一切
正解脫佛陀 絲毫不動搖

五

時，惡魔波旬苦惱以：「世尊已知我，善逝已知我。」而
萎身沒形於其處。

〔一二〕第二 獅子

一

爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。其時，世尊為大會眾
所圍繞而說法。

二

時，惡魔波旬作如是思惟：「此沙門瞿曇，為大會眾所圍繞而說法、我寧可昏昧諸人眼目，以往詣沙門瞿曇。」

三

時，惡魔波旬詣世尊處。詣已，以偈言世尊曰：

任何大眾前 敢如是無畏
作師子吼耶 此處角力士
乃汝之敵手 既勝汝曾思

四

〔世尊：〕大雄眾會前 歡喜依無畏
如來得十力 超離世愛著

五

時，惡魔波旬苦惱以：「世尊已知我。善逝已知我。」萎身沒形於其處。

〔一三〕第三 巖石之破片

一

如是我聞。爾時世尊住王舍城摩達屈闍之鹿野苑。

二

爾時，世尊其足被石片所傷。世尊足痛、銳、烈，苦痛不快。世尊正念正心，以克服、忍耐。

三

時，惡魔波旬來詣世尊處。詣已，以偈言世尊曰：

懶惰於寢眠 耽著作詩耶
汝為事不多 獨自離市里
住何寢意臥

四

〔世尊：〕非依懶惰臥 亦非作詩臥
離愁我事了 獨自離市里
我哀憐一切 有情以為臥
以箭貫串胸 心臟逆猛烈
受傷亦在眠 我為無傷者
何故不成眠 覺之無躊躇
眼之無恐怖 日夜無悔苦
不見逆世間 憐諸有情臥

五

時，惡魔波旬苦惱以：「世尊已知我，善逝已知我。」而
萎身隱形沒於其處。

〔一四〕第四 非相應

一

爾時，世尊住拘薩羅國，名一葦村之婆羅門村。爾時，世
尊受在家大眾所圍繞而說法。

二

時，惡魔波旬作如是思惟：「今沙門瞿曇受在家大眾所圍
繞而說法，我寧可昏昧諸人眼目，以詣沙門瞿曇。」

三

時，惡魔波旬詣世尊處。詣已，以偈言世尊曰：

所謂以教他 於汝不相應
若為行此者 勿為貪瞋縛

四

〔世尊：〕依利益哀憐 正覺者教他
如來實解脫 如是貪瞋者

五

時，惡魔波旬……乃至……隱形沒於其處。

〔一五〕第五 意

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時，惡魔波旬來詣世尊處。詣已，以偈言世尊曰：

意之馳騁轉 虛空掛係蹄
我係蹄縛汝 沙門未脫我

三

〔世尊：〕色聲香味觸 是等五境樂
於此我不欲 破壞者汝敗

四

時，惡魔波旬……乃至……隱形沒於其處。

〔一六〕第六 鉢

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……。爾時，世尊以五取蘊為諸比丘說法、教示、獎勵，令歡喜。彼等諸比丘，理解、思惟、注心、傾耳，諦聽於法。

二

時，惡魔波旬作如是思惟：「今沙門瞿曇，以五取蘊，為諸比丘說法、教示、獎勵，令歡喜。彼等諸比丘、理解，思惟、注心、傾耳，諦聽於法。我寧可為昏昧彼等眼，以詣沙門瞿曇。」

三

爾時為〔晾乾〕眾多諸鉢，而置於露地。

四

時，惡魔波旬化作牡牛之形，以近其鉢。

五

時，一比丘語於另一比丘曰：「比丘！比丘！此牡牛將破此鉢！」

六

如是言時，世尊言此比丘曰：「比丘！此非牡牛。此為昏昧汝等眼目之惡魔波旬。」

七

時，世尊知是惡魔波旬，以偈告惡魔波旬曰：

色受乃至想 識行等非我

亦非是我所 於此離貪著
離貪心平安 以超諸結縛
何處求此人 魔軍尋不得

八

惡魔波旬……乃至……隱形沒於其處。

〔一七〕第七 處

一

爾時，世尊住毘舍離大林重閣講堂。

二

爾時，世尊以六觸處為諸比丘說法、教示、獎勵，令歡喜。彼等諸比丘，理解、思惟、注心、傾耳，諦聽於法。

三

時，惡魔波旬作如是思惟：「此沙門瞿曇以六觸處、為諸比丘說法、教示、獎勵，令歡喜。彼等諸比丘，理解、思惟，注心、傾耳，諦聽於法。我寧可昏昧彼等眼目、以詣沙門瞿曇。」

四

時，惡魔波旬來詣世尊處。詣已，於世尊之不遠處，號大恐怖聲，如大地破裂。

五

時，一比丘謂於另一比丘曰：「比丘！比丘！此大地會破裂。」

六

如是語時，世尊告彼比丘曰：「比丘！此非大地之破裂、此乃惡魔波旬為來昏昧汝等眼目。」

七

時，世尊知是惡魔波旬，以偈告惡魔波旬曰：

色聲香及味	觸等一切法
乃世恐怖餌	迷亂諸世人
佛弟子正念	超越恐怖餌
超脫惡魔領	光輝如太陽

八

時，惡魔波旬……乃至……隱形沒於其處。

〔一八〕第八 團食

一

爾時，世尊住摩揭陀國，名五葦村之婆羅門村。

二

其時，五葦婆羅門村，青年男女等，舉行互換禮物式典。

三

時，世尊清晨，持鉢，著衣入五葦婆羅門村乞食。

四

時，五葦村婆羅門家主等，為惡魔波旬所執取：「沙門瞿曇不予得食。」

五

時，世尊入（村）乞食時，清洗其鉢而歸。

六

時，惡魔波旬來詣世尊處。詣已，白世尊曰：「沙門！得食耶？不得耶？」

七

「如我之不得食，豈非汝波旬之所為？」

八

「然則！世尊！再入五葦婆羅門村，如得食，應是我為！」

侵犯於如來	惡魔生不德
波旬惡不實	汝如何思惟
即無有所得	我等亦樂住
猶如光音天	我等喜為食

九

時惡魔波旬……乃至……隱形沒於其處。

〔一九〕第九 農夫

一

舍衛城因緣。爾時，世尊〔對諸比丘〕說涅槃法、教示、獎勵、令歡喜。彼等諸比丘，理解、思惟、注心、傾耳諦聽於法。

二

時，惡魔波旬生是思惟：「今沙門瞿曇說涅槃法、教示、獎勵，令歡喜。彼等諸比丘，理解、思惟、全心、傾耳，諦聽於法。我寧可昏昧彼等眼目，以詣沙門瞿曇。」

三

時惡魔波旬化作農夫，肩扛大鋤，持趕牛棒，散髮，衣大麻粗布，足塗泥漿而詣世尊處。詣已，白言世尊曰：

四

「沙門！見牡牛否？」

五

「波旬！牡牛於汝有何用？」

六

「沙門！眼是我有，色是我有。眼觸之識處是我有。沙門！去往何處汝能脫我否？沙門！耳是我有，聲是我有，……乃至……沙門！鼻是我有，聲是我有，……乃至……沙門！舌是我有，味是我有，……乃至……沙門！身是我有，觸是我有，……乃至……沙門！意是我有！法是我有，意觸之識處是我有。沙門！去往何處能脫我否？」

七

「波旬！眼是汝有，色是汝有，眼觸之識處是汝有。波旬！無眼、無色、無眼觸之識處者，則非汝之行處。

八

波旬！耳是汝有，聲是汝有，……〔乃至〕……。

九

波旬！鼻是汝有，香是汝有，……〔乃至〕……。

一〇

波旬！舌是汝有，味是汝有，……〔乃至〕……。

一一

波旬！意是汝有，法是汝有，意觸之識處是汝有。波旬！無意、無法，無意觸之識處，則非汝之行處。」

一二

〔惡魔：〕此云我有者 是云此有我
若汝意於此 沙門未脫我

一三

〔世尊：〕不去此有我 不云此是我
惡魔如是知 汝不見我道

一四

時，惡魔波旬……乃至……隱形沒於其處。

〔二〇〕第十 統治

一

爾時，世尊住拘薩羅國，雪山森林小屋。

二

時，世尊獨作靜觀，作如是思念：「能不殺、不害、不勝、不令勝、不悲、不念悲、以行如法，不行〔非法〕否？」

三

時，惡魔波旬知世尊之所念，來詣世尊處，白世尊曰：「世尊！世尊自為統治。善逝不自殺，不害、不勝、不令勝，不悲、不令悲、行如法統治。」

四

「波旬！汝見於何者，如是云我：『世尊自行統治……乃至……如法統治。』」

五

「世尊！世尊修、習四如意足，無如乘用之車、無立處，常行、慣行圓滿。若世尊，欲以雪山山王為金，應予決心令山為金。」

六

〔世尊：〕光耀之金山 即有倍黃金
難滿一人欲 知是人正行
見苦原因者 如何傾愛欲
依知世結縛 眾人學解脫

七

時，惡魔波旬苦惱以：「世尊已知我！善逝已知我。」萎身隱形沒於其處。

此唄陀南：

巖獅巖破片 非是相應意
鉢處及團食 農夫統治十

第三 惡魔品

〔二一〕第一 多數

一

如是我聞。爾時，世尊住釋迦族之尸羅越底。

二

爾時，眾多比丘住於世尊不遠之處，不放逸、虔誠、精進。

三

時，惡魔波旬化作一老婆羅門相，結髮，著羚羊背皮衣。背曲如垂木，咽喉哶哶響鳴，執鬱曇鉢羅樹杖，來詣諸比丘處。詣已，謂諸比丘曰：「諸大德！盛壯髮黑、具是青春為人生之第一期，未味愛欲而出家。諸大德！先享受人之愛欲！勿放棄現前以追隔時者。」

四

「婆羅門！我等非放棄現前以追隔時者。婆羅門！我等乃放棄隔時者，以追遂現前者。婆羅門！愛欲為隔時物，多苦，

多惱，凶禍亦越強烈，此法乃現前物而非隔時，世尊宣說：可謂來見者，即導向涅槃，識者應各所應知。」

五

如是言已。惡魔波旬乃垂頭卷舌，現三皺於額頭，抱杖而去。

六

時，彼等諸比丘詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面；一面坐已之彼等諸比丘，以此白世尊：

七

「世尊！於此我等住離世尊不遠，不放逸、虔誠、精進。時，世尊！有一老婆羅門，結髮著羚羊背皮衣，背曲如垂木，咽喉之呼吸，句句響鳴，執鬱曇鉢羅樹杖，詣我等住處。詣已，以此白我等曰：『諸大德！盛壯髮黑，具足青春，為人生第一期，未味愛欲而出家。諸大德！先享受人之愛欲！勿棄現前以迫隔時物。』

八

世尊，作如是言已。我等即謂婆羅門：『婆羅門！我等非棄現前以迫隔時。婆羅門！我等乃放棄隔時以迫現前。婆羅門！愛欲是隔時物，多苦、多惱，凶禍亦越強烈，此法於現前，非隔時。世尊宣說，可謂來見者，即導向涅槃，識者應各所應知。』

九

世尊！作如是言已。彼婆羅門即垂頭卷舌，現三皺於額頭，抱杖而去。」

一〇

「諸比丘！此非婆羅門。此乃惡魔波旬，為來昏昧汝等之眼目。」

一一

時，世尊了知此義，是時即唱此偈曰：

若人見苦因 如何傾愛欲
知依世結縛 人應學解此

〔二二〕第二 三彌提

一

爾時，世尊住釋迦族之尸羅越底。

二

時，尊者三彌提住離世尊不遠，不放逸、虔誠、精進。

三

時，尊者三彌提，於獨坐靜觀，作如是思念：「我師乃應供者、正等覺者，我實得大利益。我如是於善說之律與法出家。我實得大利益。我之同梵行者、乃諸善人之持戒者。我實得大利益。」

四

時，惡魔波旬知尊者三彌提心之所念，來詣尊者三彌提住處。詣已，於尊者三彌提之不遠處，作大恐怖聲，宛如大地破裂。

五

時，尊者三彌提詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面；坐一面已，尊者三彌提以此告世尊曰：

六

「世尊！我於獨坐靜觀，作如是思念：『我師乃應供者、正等覺者，我實得大利益！我於善說之律與法出家，我實得大利益。我同梵行者，諸善人之持戒者，我實得大利益。』世尊！〔此時〕於離我不遠處，作大恐怖聲，宛如大地破裂。」

七

「三彌提！此非大地之破裂，此乃惡魔波旬為來昏昧汝等眼目者。三彌提！汝於此行不放逸，虔誠、精進而住！」

八

「唯然！世尊。」尊者三彌提奉答世尊，禮敬世尊右邊而去。

九

復次，尊者三彌提，不放逸、虔誠、精進而住。復次，尊者三彌提於獨坐靜觀、作如是思念：「我師乃應供者、正等覺者……乃至……諸善人之持戒者，我實得大利益。」復次，惡魔波旬知尊者心所思念……乃至……宛如大地破裂。

一〇

時，尊者三彌提，知此乃惡魔波旬，以偈語惡魔波旬曰：

我依於信仰	由家而出家
正念與智慧	於我眼目醒
我心乃澄靜	若隨所意欲
將為何狀態	令我無恐怖

一一

時，惡魔波旬苦惱以：「三彌提比丘已知我。」萎身隱沒於其處。

〔二三〕第三 瞿低迦

一

爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

爾時，尊者瞿低迦住伊師耆利山麓之黑曜巖。

三

時，尊者瞿低迦不放逸、虔誠、精進而住，得一時之心解脫。時，尊者瞿低迦退轉其一時之心解脫。

四

復次，尊者瞿低迦不放逸、虔誠、精進而住。得一時之心解脫。尊者瞿低迦又退轉其一時之心解脫。

五～八

三次……〔乃至〕……四次……〔乃至〕……五次……
〔乃至〕……六次，尊者瞿低迦不放逸、虔誠、精進而住，得
一時之心解脫。尊者瞿低迦六次退轉其一時之心解脫。

九

尊者瞿低迦七次不放逸、虔誠、精進而住，得一時之心解
脫。

一〇

時，尊者瞿低迦作如是思念：「我至六次退轉一時之心解
脫，我寧可將執劍！」

一一

時，惡魔波旬知尊者瞿低迦心之所念，詣於世尊處。詣已
以偈語世尊：

輝耀神通譽	大雄大智慧
離諸怖畏者	禮奉卿足下
大雄之勝死	卿弟子想死
以死是期望	光明主止此
世尊喜於教	卿之弟子者
如何未達證	有學而為死

一二

其時，尊者瞿低迦執劍。

一三

時，世尊知是惡魔波旬，以偈語惡魔波旬曰：

不欲於此生 大雄乃如是

拔除渴愛根 瞿低迦涅槃

一四

時，世尊呼諸比丘：「諸比丘！我等今往伊師耆利山麓之黑曜巖，良家之子瞿低迦於彼執劍。」

一五

「然唯！世尊。」彼等諸比丘應諾世尊。

一六

時，世尊與眾多比丘俱，到伊師耆利山麓之黑曜巖。世尊由遠處見尊者瞿低迦，於牀上抱肩仰臥。

一七

其時，又見朦朧如煙霧，行往東方、行往西方、行往南方、行往北方、行於上方、行往下方，行往四維。

一八

時，世尊呼諸比丘曰：「諸比丘！汝等見朦朧如煙者，行往東方、行往西方、行往南方、行往北方、行往上方、行往下方、行往四維者否？」

「世尊！誠如所說。」

一九

「諸比丘！此惡魔波旬，以求良家子瞿低迦之識。良家子瞿低迦之識，住何處耶？然則！諸比丘！良家子瞿低迦之識已般涅槃而無住處。」

二〇

時，惡魔波旬取耶慮瓦樹之黃色箜篌來詣世尊處！詣已，
以偈白世尊曰：

我求於上下 乃至於四維
四方及八方 不見瞿低迦
往於何處耶

二一

〔世尊：〕志堅英雄者 常樂於禪思
日夜從於道 無願於此生
打破死魔軍 不行於再生
拔除渴愛根 瞿低迦涅槃

二二

破敗於彼悲 小脇落箜篌
悲愴之夜叉 以沒於此處

〔二四〕第四 七年

一

如是我聞。爾時，世尊住優留毘羅之尼連禪河邊，阿闍波
羅尼俱律陀樹下。

二

其時，惡魔波旬跟蹤世尊七年，以求空隙，而無所得。

三

時，惡魔波旬來詣世尊處。詣已，以偈語世尊曰：

悲侵沈思林 求復得失富
犯罪村人中 何故不與交
汝非我友人

四

〔世尊：〕掘除諸悲根 無罪復無悲
我耽於禪思 捨諸生存欲
放逸之親族 諸漏盡禪思

五

〔惡魔：〕諸人語我者 我者語諸人
若汝意於此 沙門未脫我

六

〔世尊：〕諸人語非我 語非我諸人
惡魔知如是 汝不知我道

七

〔惡魔：〕汝若至不死 證得菩提道
離去汝獨行 何以教他人

八

〔世尊：〕望到彼岸者 問我不死國
問我之彼等 說無餘涅槃

九

〔惡魔：〕「世尊！猶如離村邑不遠處有池，蟹住於此。世尊！時眾多之童男童女，出由村邑，以到其池。到已由水中舉蟹置於陸上。世尊！若蟹豎立其剪，彼童男童女，即以木片、小石予破斷。如是世尊。蟹皆破斷其足剪，不能再入於

池。世尊亦如是，以前任何彎曲、歪斜、歪曲、皆由世尊所破斷，伺其間隙之我等，不得再近至世尊。」

一〇

時，惡魔波旬於世尊前，氣餒而唱偈曰：

鳥飛於空中	見石似凝膏
於此為獲得	軟甘之等食
於此不得食	飛空以離去
如襲石之鳥	氣餒離瞿曇

一一

時，惡魔波旬於世尊前，氣餒以唱偈，離座而去。於離世尊不遠，趺坐於地上、默然、悄然、落肩、氣餒、困惱，以杖搔地而坐。

〔二五〕第五 魔女

一

時，渴愛、不快、貪欲之三魔女，來至惡魔波旬處，至已，以偈語惡魔波旬曰：

何故父不樂	為因何人悲
我等從其人	以貪欲係蹄
如縛森林象	用以牽繫來
應置汝手下	

二

〔惡魔：〕	以貪欲誘惑	世間阿羅漢
善逝者不易	彼出魔領域	
是故我甚悲		

三

時，渴愛、不快、貪欲之三魔女，來詣世尊處。詣已，以此白世尊曰：「沙門！奉事卿足下。」然則得盡煩惱依，卻於無上解脫之世尊，不為一顧。

四

時，渴愛、不快、貪欲之三魔女，退於一面，具如是思惟：「諸之興趣各異，我等各化作一百童女相。」

五

時，渴愛、不快、貪欲三魔女，各化作一百童女相，以詣世尊前。詣已，白世尊曰：「沙門！奉事卿足下。」然而得盡煩惱依則於無上解脫之世尊，不為一顧。

六～一一

時，渴愛、不快、貪欲三魔女，退於一面、具如是思惟：「諸人興趣各異。我等各化作，未生子之百人女。」……〔乃至〕……「化作生一次子之百人女。」……〔乃至〕……「化作生二次子之百人女。」……〔乃至〕……「化作中年之百人女。」……〔乃至〕……「化作高年之百人女。」時，三魔女各化作高年女百人，來詣世尊前。詣已，白世尊曰：「沙門！奉事卿足下。」然而盡煩惱之依，於無上解脫之世尊，不為一顧。

一二

時，渴愛、不快、貪愛三魔女、退於一面、以言此曰：「我等父之所言，確是真實。」

以貪欲誘惑 世間阿羅漢
善逝者不易 彼出魔領域
是故我甚悲

一三

我等依此攻擊未離欲之沙門婆羅門者，令破其心臟，口吐熱血，亂心狂氣，猶如割青葦乾、萎、枯、應令之乾、萎、枯。」

一四

時，渴愛、不快、貪欲三魔女，來詣世尊處。詣已，立於一面。

一五

立一面之魔女渴愛以偈言世尊曰：

悲侵沈思林 求復得失富
犯罪村人中 何故不與交
汝非我友人

一六

〔世尊：〕破可愛樂軍 獨坐得勝義
禪思心寂靜 安樂於菩提
是故我不與 諸人之交往
於我無友人

一七

時，魔女不快以偈白世尊曰：

比丘住多修 以度五瀑流
於此度第六 如何多禪思

外界之欲想 其人不能得

一八

〔世尊：〕身安心解脫 以離作三業
正念無貪著 了知法無尋
禪思不憶怒 亦不為懶惰
比丘住多修 以度五暴流
亦度於第六 如是多禪思
外界之欲想 其人不能得

一九

時，魔女貪欲，於世尊處，以唱此寂靜偈曰：

彼斷除渴愛 以率群眾行
眾多有情行 此無貪欲者
令眾斷魔掌 導死王彼岸

二〇

如來大雄者 依法王導眾
於法之所導 於所了解者
我等何所嫉

二一

惡魔波旬，見渴愛、不快、貪欲三魔女從遠而來，見已以
偈曰：

愚人以蓮莖 想破碎大山
以爪掘山巖 以齒嚙硬鐵
以頭撞大巖 大渦探足地
以杙自捶胸 今厭瞿曇來

二二

愛不快貪欲 雖是光輝來

猶捲風神之 柔毛與落葉
大師退彼等

此唄陀南：

多數三彌提 瞿低迦七年
魔女五魔經 依佛大師說

第五 比丘尼相應

〔一〕第一 阿羅毘迦

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時，阿羅毘迦比丘尼清晨，著衣持鉢，入舍衛城乞食。於舍衛城乞食後，收鉢，入於暗林以求遠離。

三

時，惡魔波旬欲令阿羅毘迦比丘尼生恐怖，毛髮豎立，以捨遠離，而詣阿羅毘迦比丘尼之處，詣已以偈語阿羅毘迦比丘尼曰：

世間無由出 遠離欲何為
還味諸欲樂 勿至後成悔

四

時，阿羅毘迦比丘尼作如是思惟：「語此偈是誰？人耶非人耶？」

五

時阿羅毘迦比丘尼作如是思惟：「此惡魔波旬，令我起毛髮豎立之恐怖，欲使去遠離，而唱偈。」

六

時，阿羅毘迦比丘尼知是惡魔波旬，以偈答惡魔波旬曰：

世間有出離 依智我自達
放逸惡波旬 汝不知其道
欲樂如劍鎗 諸蘊斷頭臺
汝云味欲樂 於我非為樂

七

時，惡魔波旬苦惱以「阿羅毘迦比丘尼已知我。」萎身隱沒其身形。

〔二〕第二 蘇摩

一

舍衛城因緣。時，蘇摩比丘尼清晨，著衣持鉢，入舍衛城乞食。

二

於舍衛城乞食後，收鉢，為日住來至暗林。入暗林已，於樹下為日住而坐。

三

時，惡魔波旬欲令蘇摩比丘尼生恐怖，毛髮豎立，以棄禪定，而詣蘇摩比丘尼處。詣已，以偈語蘇摩比丘尼曰：

聖者所至處 是處甚難至
非女二指智 能得至彼處

四

時，蘇摩比丘尼，生如是思惟：「是語此偈者，誰耶？人耶非人耶？」

五

時，蘇摩比丘尼生如是思惟：「此惡魔波旬欲令我生恐怖，毛髮豎立以棄禪定而唱此偈。」

六

時，蘇摩比丘尼，知是惡魔波旬，以偈答惡魔波旬曰：

心入於寂靜	女形復何障
智慧已顯現	即見無上法
我若思男女	思此為何物
心感於如是	即應惡魔語

七

時，惡魔波旬苦惱以：「蘇摩比丘尼已知我。」萎身隱沒其身形。

〔三〕第三 瞿曇彌

一

舍衛城因緣。時，吉離舍瞿曇彌比丘尼，清晨著衣持鉢，入舍衛城乞食。

二

於舍衛城乞食後，收鉢，為日住以至暗林。至暗林已，於樹下為日住而坐。

三

時，惡魔波旬欲令吉離舍瞿曇彌比丘尼生恐怖，毛髮豎立，以棄禪定，而詣吉離舍瞿曇彌比丘尼處。詣已，以偈語吉離舍瞿曇彌比丘尼曰：

汝何喪其子 涕泣而獨憂
獨入坐暗林 為求男子否

四

時，吉離舍瞿曇彌比丘尼，生如是思惟：「語此偈者是人？非人耶？」

五

時，吉離舍瞿曇彌比丘尼，生如是思惟：「此惡魔波旬欲令我生恐怖，毛髮豎立，以棄禪定，而語此偈。」

六

時，吉離舍瞿曇彌比丘尼，知是惡魔波旬，以偈答曰：

喪子日已過 亦無男子想
我不復悲泣 無煩汝顧為
以捨浮世樂 破一切闇冥
及破死魔軍 我住盡諸漏

七

時，惡魔波旬苦惱以：「吉離舍瞿曇彌比丘尼已知我。」萎身，隱沒其身形。

〔四〕第四 毘闍耶

一

舍衛城因緣。時，毘闍耶比丘尼於舍衛城乞食，食後收鉢，為日住而坐於樹下。

二

時，惡魔波旬欲令毘闍耶比丘尼，生恐怖，毛髮豎立，以棄禪定，而詣毘闍耶比丘尼處，詣已語偈曰：

汝今美年輕 我亦是年少
貴女來此處 共受五種樂

三

時，毘闍耶比丘尼作如是思惟：「語此偈者是人？非人耶？」

四

時，毘闍耶比丘尼，生如是思惟：「此惡魔波旬……乃至……語偈。」

五

時，毘闍耶比丘尼，知是惡魔波旬，以偈答曰：

以意樂色聲 香味觸五法
我悉還與汝 此等非我須
危脆易破碎 對此污穢身
我唯恥厭惡 拔除愛欲根
上色界眾生 行無色眾生
此眾善獲得 我悉除迷闇

六

時，惡魔波旬苦惱以：「毘闍耶比丘尼已知我。」萎身隱沒其身形。

〔五〕第五 蓮華色

一

舍衛城因緣。時，蓮華色比丘尼，清晨入舍衛城乞食……乃至……立於開美華之沙羅樹下。

二

時，惡魔波旬欲令蓮華色比丘尼，生恐怖，毛髮豎立，以棄禪定，而詣蓮華色比丘尼處。

三

詣已，以偈語蓮華色比丘尼曰：

上下開美華	來沙羅樹下
汝唯一人立	汝美無倫比
愚人之汝心	不懼惡者否

四

時，蓮華色比丘尼，生如是思惟：「語此偈者是人？非人耶？」

五

時，蓮華色比丘尼生如是思惟：「此惡魔波旬……乃至……語偈。」

六

時，蓮華色比丘尼知是惡魔波旬，以偈答惡魔波旬曰：

心惡如汝者 百千來於此
不動我一毛 我一不怖汝
〔惡魔：〕我於此沒形 入汝之腹中
或立汝眉間 汝不得見我
〔比丘尼〕我心得自在 善修如意足
解脫諸結縛 我實不怖汝

七

時，惡魔波旬苦惱以：「蓮華色比丘尼已知我。」萎身隱沒其身形。

〔六〕第六 遮羅

一

舍衛城因緣。時，遮羅比丘尼清晨入舍衛城乞食……乃至……為日住而坐樹下。

二

時，惡魔波旬詣遮羅比丘尼處。詣已，謂遮羅比丘尼曰：「比丘尼！汝不喜者何？」「友！我不喜生！」「何故不喜生？」「生者乃受用樂欲。」「誰以此教汝？」「比丘尼！不喜生！」

三

〔比丘尼：〕有生者有死 生即見苦惱
縛殺其他禍 是故不樂生
佛陀施說法 以導超此生
捨離一切苦 我入於真實
上色界眾生 往無色眾生

是故不知滅 以是為再來

四

時，惡魔波旬苦惱以：「遮羅比丘尼已知我。」萎身隱沒其身形。

〔七〕第七 優波遮羅

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……。

二

時，優波遮羅比丘尼清晨入舍衛乞食……乃至……為日住坐於樹下。惡魔波旬如是謂優波遮羅比丘尼曰：「比丘尼！汝欲生於何處？」

三

「友！我不欲生於何處！」

四

〔惡魔：〕三三炎摩天 或是兜率天
或是化樂天 他化自在天
願心以向此 當得受此樂

五

〔比丘尼：〕三三炎摩天 或是兜率天
或是化樂天 他化自在天
此等愛欲縛 再行魔領域
世間一切燃 世間一切煙
世間悉吐炎 世間悉震動

不震不動處 凡常人不到
非惡魔行處 於此我心樂

六

時，惡魔波旬……乃至……苦惱萎身，隱沒其身形。

〔八〕第八 尸須波遮羅

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……。時尸須波遮羅比丘尼，清晨入舍衛城乞食……乃至……為日住坐於樹下。

二

時，惡魔波旬詣尸須波遮羅比丘尼處。詣已，謂尸須波遮羅比丘尼曰：「比丘尼！汝喜誰之教見？」

三

「友！我不喜任何人之教見！」

四

〔惡魔：〕汝依誰圓頂 成如此尼耶
不喜教見者 是如何之愚

五

〔比丘尼：〕佛外之教見 異見諸纏縛
我不喜此法 正法彼不知
生於釋種家 證悟無比人
總服拂惡魔 何處無不破
無執悉解脫 有眼見一切
滅盡一切業 解脫盡諸依

我師彼世尊 其教我歡喜

六

時，惡魔波旬……乃至……隱沒其身形。

〔九〕第九 世羅

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……。時，世羅比丘尼清晨，入舍衛城乞食……乃至……為日住坐於樹下。

二

時，惡魔波旬欲令世羅比丘尼生恐怖……乃至……以偈語世羅比丘尼曰：

誰作此身體 作者於何處
何處生身體 何處身體滅

三

時，世羅比丘尼生如是思惟：「唱此偈者是人？非人耶？」

四

時，世羅比丘尼，生如是思惟：「此惡魔波旬欲令我生恐怖，毛髮豎立，以棄禪定，而唱此偈！」

五

時，世羅比丘尼知是惡魔波旬，以偈答惡魔波旬曰：

此身非自作 亦非於他作
依於因而生 依於因而滅
猶如諸種子 移植於田園
地味及溫味 依二萌芽出
是五蘊四大 及此等六處
依於因而生 因壞即消滅

六

時，惡魔波旬苦惱以：「世羅比丘尼已知我。」萎身隱沒其身形。

〔十〕第十 金剛

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……。時，金剛比丘尼清晨，著衣持鉢，入舍衛城乞食，於舍衛城乞食後，收鉢為日住而至暗林。入暗林已，為日住坐於樹下。

二

時，惡魔波旬欲令金剛比丘尼生恐怖，毛髮豎立，以棄禪定，而詣金剛比丘尼處。詣已，以偈謂金剛比丘尼曰：

誰作此眾生 作者於何處
何處生眾生 何處眾生滅

三

時，金剛比丘尼生如是思惟：「唱此偈者是人？非人耶？」

四

時，金剛比丘尼生如是思惟：「此惡魔波旬欲令我生恐怖，毛髮豎立，以棄禪定，而唱此偈。」

五

時，金剛比丘尼知是惡魔波旬，以偈答惡魔波旬曰：

汝何言眾生	汝行於魔見
此唯聚諸行	眾生不可得
猶如諸支集	而起車之名
因於有五蘊	而有眾生名
有起是苦惱	停滅且苦惱
苦惱外不生	苦惱外不滅

六

時，惡魔波旬苦惱以：「金剛比丘尼已知我。」萎身隱沒其身形。

此唄陀南：

由阿羅毘迦	蘇摩瞿曇彌
與具毘闍耶	蓮華色遮羅
至優波遮羅	尸須波遮羅
世羅及金剛	依是成為十

第六 梵天相應

第一 梵天品

〔一〕第一 勸請

一

如是我聞。爾時，世尊住優留毘羅尼連禪河邊之阿闍波羅尼俱律陀樹下。時，已成等正覺。

二

時，世尊獨坐禪思，而起此思惟。

三

依我所證得此法，甚深難見、難悟。寂靜微妙，超越思念之領域。深妙唯賢者始知。又，此諸人等樂阿賴耶，喜阿賴耶，跳躍阿賴耶。諸人依於樂阿賴耶，喜阿賴耶，跳躍阿賴耶，而難見此理。此理者，即所謂依緣、緣起是。此理亦難見。此理者，即一切行之止靜，一切依之捨離、愛盡、離、滅、涅槃是。我若說法，諸人難了解我所說者，我是應所疲勞而煩擾。

四

又，此以前未曾有聞之偈，世尊顯示：

艱難我所證	今此實難說
敗於欲瞋者	難得悟此法
逆世之常流	微妙而甚深
微細極難見	貪欲之所污

闇蘊所蔽者 不得見此法

五

世尊作如是思惟，即躊躇不說法。

六

時，梵天沙巷婆提，猶如有力者之伸屈腕，或屈伸腕頃，如是沒於梵天界，現於世尊之前。

八

時，梵天沙巷婆提偏袒一肩、右膝著地，合掌禮敬，如是白世尊曰：

九

「世尊！請說法！善逝！請說法！〔世間〕有不少眾生，為眼塵所蔽。彼等不得聞法而衰退。〔世間〕應有法之了解者。」

一〇

梵天沙巷婆提白此言已，更唱此言：

於摩揭陀國	不淨法垢穢
依此心思惟	開此甘露門
依無垢之心	今聞悟此法
上立山頂巖	如見周諸眾
賢者全眼者	卿起慈悲心
立法城宮樓	以觀沈悲慘
生老敗諸眾	請起立英雄
戰立勝利者	無債商隊主
請遊此世間	請世尊說法

必有知解者

一一

時，世尊知梵天之勸請，對眾生起哀憐，以佛眼觀世間。

一二

世尊依佛眼觀世間，見眾生眼有蔽多、蔽少，有利根者、鈍根者，有善相者、惡相者，有易教者、難教者，其中或有眾人見來世罪之怖畏而住。

一三

猶如於蓮池之青蓮華、黃蓮華、白蓮華。有青蓮華、黃蓮華、白蓮華、生於水中、長於水中、不出水面，沈育於水中。有青蓮華、黃蓮華、白蓮華，生於水中、長於水中，出立於水，不為水所濕。如是世尊，依眼觀世間，見眾生眼有蔽多、蔽少，有利根者、鈍根者，有善相者、惡相者，有易教者、難教者，其中或有諸眾見來世罪之怖畏而住。

一四

見已，以偈答梵天沙巷婆提：

為於彼等眾	開啟甘露門
有耳之眾人	捨離其他信
梵天我思惑	不說微妙法

一五

時，梵天沙巷婆提，願我說法，世尊許允，而禮敬世尊，右繞，於此沒其身形。

〔二〕第二 恭敬

一

如是我聞。爾時，世尊住優留毘羅林，尼連禪河邊，阿闍波羅尼俱律陀樹下。時已成等正覺。

二

爾時，世尊獨坐靜觀，生如是思惟：「無所尊敬、恭敬之生活，是苦惱。我如何尊敬婆羅門而予近住耶？」

三

時，世尊生如是思惟：「為成就未滿之戒蘊，應尊敬其他沙門、婆羅門而予近住。但我於天界、魔界、梵天界所含之世界。於沙門、婆羅門、人、天所含之眾中，不見如我成就戒者，以尊敬其他沙門、婆羅門而住。

四～七

為成就未滿之定蘊……〔乃至〕……未滿之慧蘊……乃至……未滿之解脫蘊……乃至……未滿之解脫知見蘊，應尊敬其他沙門、婆羅門而近住。但我於天界、魔界、梵天界所含之世界。於沙門，婆羅門、人、天所含之眾中，不見如我成就解脫知見者，以尊敬其他沙門、婆羅門而近住。

八

我寧可對我所悟之法，尊敬此法而予近住。」

九

時，梵天沙巷婆提於心，知世尊心之思惟，猶如男子力士之伸屈腕、屈伸腕頃，沒於梵天界，現於世尊前。

一〇

時，梵天沙巷婆提，偏袒一肩、合掌禮世尊，如是白世尊曰：

一一

「世尊！如是，善逝！如是。世尊！過去之應供、正覺者、世尊亦恭敬、尊重、親近法而住。未來之應供、正覺者、世尊亦恭敬、尊重、親近法而住。今之應供、正覺者、世尊亦恭敬、尊重、親近法而住。」

一二

梵天沙巷婆提說此已。又作此曰：

過去正覺者	未來之諸佛
今之正覺者	滅眾生憂惱
悉皆敬正法	而住今亦住
又未來亦住	此諸佛法然
故願自己利	以望偉大者
憶念佛之教	不無敬正法

〔三〕第三 梵天

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

其時，又有婆羅門女之子梵天，於世尊處出家而無家。

三

時，尊者梵天單獨隱棲，不放逸、虔誠、精進而住、不久此良家之子，當為由家於無家而出家，於現法成就其無上梵行，自知、實證、證入而住。「知生已盡，梵行已立，所作已辦，不受後有。」尊者梵天，成阿羅漢。

四

時，尊者梵天清晨，著衣持鉢，於舍衛城乞食，於舍衛城戶戶乞食，近至母家。

五

其時，尊者梵天之母婆羅門女，常以供牲供梵天。

六

時，梵天沙巷婆提生如是思念：「此尊者梵天之母婆羅門女，常以供牲供梵天，我當往警覺。」

七

時，梵天沙巷婆提，猶如力士之伸屈腕、屈伸腕，沒形於梵天界，現身於尊者梵天之母家。

八

時，梵天沙巷婆提立於空中，對尊者梵天之母婆羅門女唱偈曰：

婆羅門女者	汝常為供食
因此離梵天	婆羅門女者
此非梵天食	不知梵天道

而汝何牢騷	婆羅門女者
汝梵天比丘	已至無依著
以達勝天境	已無所有處
無養之比丘	今乞入汝家
相應於供養	積修達聖道
堪為人天供	除惡無穢污
乞食清威儀	彼亦無前後
寂靜絕瞋煙	無悶亦無欲
於弱於強者	無用於暴力
令彼以得汝	第一之供養
無煩惱魔襲	心靜無欲污
如調順象行	戒行善圓滿
心解脫比丘	令彼以得汝
第一之供養	婆羅門女者
今汝超瀑流	以見牟尼佛
對彼信不動	相應於供養
以行是功德	未來得安樂

九

婆羅門女今	已超越瀑流
以見於聖者	以持不動信
相應於供養	以行是功德
未來得安樂	

〔四〕第四 婆迦梵天

一

如是我聞。爾時世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時，又有婆迦梵天，生如是惡見：「此是常，此是恆常。此是常住，此是完全，此是不變之法。何以故，此不衰、不老、不萎、不滅、不生故。由此以上無有其他之出離。」

三

時，世尊知婆迦梵天心中之所念，猶如力士之伸屈腕、屈伸腕、沒形於祇園、現身於梵天界。

四

婆迦梵天、見世尊從遠而來。見已，以此白世尊曰：

「友！來！友！善來耶！友！久違！何以來此耶？友！此是常，此是恆常，此是常住，此是完全，此是不變之法。何以故，此是不衰、不老、不萎、不滅、不生故。由此以上無有其他之出離。」

五

如是言已，世尊告此婆迦梵天曰：「婆迦梵天乃被無明所困惑。婆迦梵天乃被無明所困惑。何以故？以無常者言常，以非恆常者言恆常，以非常住者言常住。以非完全者言完全，以變易之法言不變易之法。以衰、老、萎、滅、生者言不衰、不老、不萎、不滅、不生。由此以上有其他之出離，以言由此以上無有其他之出離故。」

六

〔婆迦：〕我等七十二 依於功德業
為世統治者 超越生與老
以生此梵天 是為最後生
我乃通吠陀 是故諸眾人
尊崇稱讚我

七

〔世尊：〕此生壽是短 婆迦思為長

我知梵天壽 百年或億年

八

〔婆迦：〕世尊以為我 是無邊見者
云越老死悲 如何以語我
善行古禁戒 我願欲知此

九

〔世尊：〕汝苦於渴古 炎熱於煩惱
予水於諸眾 此乃汝古之
善行及禁戒 如是我記憶
如眠之醒覺 放救耶尼河
兩岸囚眾人 令脫捕虜者
此乃汝古之 善根及禁戒
如是我記憶 如眠之醒覺
於恆伽河流 憐愍諸眾人
舟被狂龍打 此乃汝古之
善根及禁戒 如是我記憶
如眠之醒覺 古我汝弟子
名呼為劫波 聖智汝認我
此乃汝古之 善根及禁戒
如是我記憶 如眠之覺醒

一〇

〔婆迦：〕汝實知我壽 又亦知其他
佛陀如是在 若實如是在
汝光輝威力 照耀於梵界

〔五〕第五 他見

一

舍衛城因緣。

二

其時，有梵天生如是惡見。「無有可來此之沙門、婆羅門。」

三

時，世尊知彼梵天之所念，猶如力士，伸屈腕、屈伸腕，沒形於祇園，現身於梵天界。

四

時，世尊趺坐於此梵天頭上之虛空，入於火定。

五

時，尊者大目犍連生如是思惟：「今世尊在何處耶？」

六

大目犍連依超人清淨之天眼，見世尊趺坐於梵天頭上之虛空，入於火定。見已，如力士之伸屈腕、屈伸腕，沒形於祇園，現身於梵天界。

七

時，尊者大目犍連，從東方低於世尊在梵天頭上之虛空趺坐，入於火定。

八

時，尊者大迦葉生如是思惟：「世尊今住何處耶？」尊者大迦葉依超人清淨之天眼，見世尊趺坐於梵天頭上之虛空，入於火定。見已，猶如力士之伸屈腕、屈伸腕，沒形於祇園，現

身於梵天界。如是尊者大迦葉，從南方低於世尊，於梵天頭上之虛空趺坐，入於火定。

九

時，尊者大劫賓那，坐如是思惟：「世尊今住何處耶？」尊者大劫賓那……〔乃至〕……如是尊者大劫賓那，從西方低於世尊，於梵天頭上之虛空趺坐，入於火定。

一〇

時，尊者阿那律……〔乃至〕……如是尊者阿那律從北方低於世尊，於梵天頭上之虛空趺坐，入於火定。

一一

時，尊者大目犍連，以偈語梵天曰：

友汝今亦猶 前之所持見
勝梵界之光 見其明光耶

一二

〔梵天：〕友我於今日 嘗不持是見
勝梵界之光 以見其明光
如何我今日 得云常住恆

一三

如是，世尊為令梵天界之驚異，猶如力士之伸屈腕、屈伸腕，沒形於梵天界，現身於祇園。

一四

時，有梵天呼其他梵眾天：「友！來！汝詣尊者大目犍連。如是語尊者大目犍連：『友！目犍連！世尊之弟子中，其他有如目犍連、迦葉、劫賓那、阿那律之大神通、大威力耶？』」

一五

「友！唯然！」其梵眾天答覆梵天，而詣尊者大目犍連處。

一六

詣已，以此語大目犍連曰：「友目犍連！世尊之弟子中，其他有如目犍連、迦葉、劫賓那、阿那律之大神通、大威力耶？」

一七

時，尊者大目犍連，以偈語梵天眾曰：

三明達神通 巧妙知他心
漏盡阿羅漢 佛陀弟子中
其數有眾多

一八

時，梵眾天歡喜於尊者大目犍連之所說，往詣彼大梵天。
詣已，以此語梵天曰：「友！尊者大目犍連，如是曰：

三明達神通 巧妙知他心
漏盡阿羅漢 佛陀弟子中
其數有眾多」

一九

彼梵眾天如是云已，梵天歡喜於梵眾天之所說。

〔六〕第六 放逸

一

舍衛城因緣。

二

時，世尊又往日住坐獨坐。

三

時，辟支梵天之須梵與辟支梵天之淨居，往詣世尊之處。
詣已，各立於門邊。

四

時，辟支梵天須梵，以此謂辟支梵天淨居曰：「友！今不應侍奉世尊。世尊在行日住之獨坐。彼處繁榮有梵天界，梵天於此住於放逸住。友！我等詣彼梵天。詣已，令驚惑彼梵天。」

五

「友！唯然。」辟支梵天淨居回答辟支梵天須梵。

六

時，辟支梵天須梵與辟支梵天淨居，猶如力士之伸屈腕、屈伸腕，沒形於世尊前，現身彼世界。

七

彼梵天見彼等梵天從遠而來。見已，以此謂彼等梵天曰：
「友！卿等從何處來耶？」

八

「友！我等從彼世尊、應供、正等覺者之處來。友！卿亦
能往侍奉世尊、應供、正等覺者實為善。」

九

彼言已，其梵天不諾彼言，即化為千度形，以此謂辟支梵
天須梵曰：「友！卿見我如是之神通威力否？」

一〇

「友！我見卿如是神通威力。」

一一

「友！我有如是之神通威力，如何往侍奉其他沙門或婆羅
門耶？」

一二

時，辟支梵天須梵，化為二千度形，以此謂其梵天曰：
「友！卿見如是神通威力否？」

一三

「友！我見卿如是神通威力。」

一四

「友！彼世尊比卿與我具更大神通威力。友！往侍奉彼世尊、應供、正等覺者為善！」

一五

時，彼梵天以偈謂辟支梵天須梵曰：

我宮殿有三 百列金翅鳥
四百列白鳥 五百虎彫刻
梵天此宮殿 赫赫耀北方

一六

〔須梵：〕如何汝宮殿 赫耀於北方
賢者常見色 諍亂與動亂
故不樂於色

一七

時，辟支梵天須梵與辟支梵天淨居，為驚惑此梵天，於此沒其身形。

一八

如其梵天，於其他之時，為侍奉世尊、應供、正等覺者而去。

〔七〕第七 瞿迦利迦

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

時，世尊又行日住之獨坐。

三

時，辟支梵天須梵與辟支梵天淨居詣世尊處。詣已，各立門邊。

四

時，辟支梵天須梵，對瞿迦利比丘，於世尊前唱此偈曰：

以量不可量 此誰知分別
以量不可量 我思無智者
唯有為混亂

〔八〕第八 低沙迦

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

時，世尊行日住之獨坐。

三

時，辟支梵天須梵與辟支梵天淨居詣世尊處。詣已，各立門邊。

四

時，辟支梵天淨居，對迦達摩達迦低沙迦比丘，於世尊前唱此偈曰：

以量不可量 此誰知分別
以量不可量 我思無智者
唯有為混亂

〔九〕第九 都頭梵天

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

時、瞿迦利迦比丘生病而痛苦，其病嚴重。

三

時，辟支梵天都頭於夜更以其勝光輝耀祇園，詣瞿迦利迦比丘處。

四

詣已，立於空中，以此語瞿迦利迦比丘曰：「瞿迦利迦比丘！以信樂舍利弗與目犍連！舍利弗與目犍連是穩和者。」

五

「友！汝誰耶？」

六

「我乃辟支梵天都頭是。」

七

「友！汝莫非依世尊記別為不還者耶？此時何故還來此耶？汝見犯過誤，看！」

八

〔都頭：〕人之出生時 斧實生口中
愚人語於惡 其斧斬自己
以讚應責者 以責應讚者
依口重惡運 依惡不得樂
博奕為致富 失己猶不運
污心於善逝 不運更增大
企惡於口意 貶責聖人者
於百千垓年 三十六垓年
五秭年地獄 墮之受痛苦

〔一〇〕第十 瞿迦利迦

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

時，瞿迦利迦詣世尊處。詣已禮敬世尊，於一面坐。

三

一面坐之瞿迦利迦比丘白世尊曰：「世尊！舍利弗與目犍連是惡欲者。是受惡欲所支配者。」

四

言已。世尊以此告瞿迦利迦比丘曰：「瞿迦利迦！勿作如是言；瞿迦利迦！勿作如是言。瞿迦利迦！勿作如是言。瞿迦利迦，應信樂舍利弗與目犍連。舍利弗與目犍連是穩和者。」

五～六

復次……〔乃至〕……

七

瞿迦利迦三度告世尊曰：「世尊，舍利弗與目犍連是惡欲者，是受惡欲所支配者。」

八

世尊三度告瞿迦利迦曰：「瞿迦利迦！勿作如是言，瞿迦利迦！勿作如是言。瞿迦利迦！應信樂舍利弗與目犍連，舍利弗與目犍連是穩和者。」

九

時，瞿迦利迦比丘，即從坐起，禮敬世尊，右繞而去。

一〇

瞿迦利迦比丘去後不久，全身生如芥子粒之瘡。芥子粒即漸成豆粒；豆粒成如大豆，大豆成如棗核大，棗核而成如棗大，棗而成如阿摩羅果大，阿摩羅果而成如未熟之橡果大，成如未熟之橡果大，於此破裂流出膿血。

一一

時，瞿迦利迦比丘，於此病而死。死矣之瞿迦利迦比丘，因對舍利弗與目犍連敵意，而墮紅蓮地獄。

一二

時，梵天沙巷婆提於黎明更以其勝光，輝耀全園，詣於世尊處。詣已，禮敬世尊，立於一面。

一三

立於一面之梵天沙巷婆提，以此白世尊曰：「世尊！瞿迦利迦比丘死矣。因對舍利弗與目犍連懷敵意，死墮紅蓮地獄。」

一四

梵天沙巷婆提，作此言已，禮敬世尊，右繞沒形於此。

一五

時，世尊於當夜過後，呼諸比丘曰：「諸比丘！此夜梵天沙巷婆提，於黎明以其勝光，輝耀全祇園，詣我處。詣已，禮我立於一面。諸比丘！立於一面之梵天沙巷婆提告我曰：『世尊！瞿迦利迦比丘死矣。因對舍利弗與目犍連懷敵意，死而墮入紅蓮地獄。』諸比丘！梵天沙巷婆提作此言已，禮敬我，右繞，於此沒其身形。」

一六

如是言已，有比丘以此白世尊曰：「世尊！紅蓮地獄之壽量有幾何耶？」

一七

「比丘！紅蓮地獄之壽量甚長。難數為幾年、幾百年、幾千年、幾百千年。」

一八

「世尊，可譬喻說之耶？」

一九

世尊曰：「比丘！得如是說：譬喻此拘薩羅國有二十加厘菜種子，各過百年，取一粒菜種子，且以此方法，於拘薩羅國取盡二十加厘菜種子，亦不盡阿浮陀地獄之壽量。諸比丘！二十阿浮陀地獄為一尼羅浮陀地獄。二十尼羅浮陀地獄為一阿婆婆地獄。二十阿婆婆地獄為一阿吒吒地獄。二十阿吒吒地獄為一阿訶訶地獄。二十阿訶訶地獄為一水蓮地獄。二十水蓮地獄為一青睡蓮地獄。二十青睡蓮地獄為一青蓮地獄。二十青蓮地獄為一白蓮地獄。二十白蓮地獄為一紅蓮地獄。比丘！瞿迦利迦比丘對舍利弗與目犍連懷敵意，墮此紅蓮地獄。」

二〇

世尊如是說已。善逝又唱此偈曰：

人之出生時 斧實生口中
……乃至……（同前經之偈）

此唄陀南：

勸請及恭敬 梵婆迦梵天
他邪見放逸 與瞿迦利迦
乃至低沙迦 都頭梵天及
他瞿迦利迦

第二 梵天品

〔一一〕常童子

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城葉毘尼河邊。

二

時，梵天常童子，於黎明光輝照葉毘尼河邊，以詣世尊處。詣已禮敬世尊，立於一面。

三

立一面之梵天常童子，於世尊處唱此偈曰：

氏姓人中尊 殊勝刹帝利
明行具足者 人天中殊勝

四

梵天常童子言已，請師嘉賞。

五

時、梵天常童子、知依師受嘉賞，禮敬世尊，右繞而去。

〔一二〕第二 提婆達多

一

爾時，世尊於提婆達多離去不久，住王舍城靈鷲山。

二

時，梵天沙巷婆提於黎明時，輝耀全靈鷲山，以詣世尊處。詣而禮敬世尊，立於一面。

三

立一面之梵天沙巷婆提，對提婆達多於世尊處唱此偈曰：

芭薩竹及葦 生果實則萎
如驢生子死 惡人名譽殺

〔一三〕第三 閻陀迦頻陀

一

爾時，世尊住摩揭陀國之閻陀頻陀。

二

爾時，世尊於夜闍中坐於露地，天降雨。

三

時，梵天沙巷婆提於黎明時，輝耀全閻陀迦頻陀，以詣世尊處。詣已，禮敬世尊，立於一面。

四

立於一面之梵天沙巷婆提，於世尊處，唱此偈曰：

住於離市里 遊方猶離縛
若有心不樂 應護於諸根
正念住僧伽 家家行乞時
護根謹正念 住於離市里
無懼得解脫 回憶懼毒蛇
電光鳴天雷 於夜闍比丘
獨坐離恐怖 我眼實當見
非是傳所聞 在於一法教
以脫千人死 有當五百多
於百之十倍 於其十倍數
皆悉入預流 超畜生趣者
此外之諸人 對於得功德

我心難堪數 恐人云妄語

〔一四〕第四 阿盧那越提

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城。

二

時，世尊呼諸比丘：「諸比丘！」

三

「唯然！世尊！」彼等諸比丘應答世尊。

四

世尊如此宣說：

五

「諸比丘！昔有阿盧那遠多王。其王有阿盧那越提之都。
尸棄世尊、應供、正等覺者，住其阿盧那越提王都。

六

諸比丘！又，尸棄世尊，應供、正等覺者，有一對上足弟子：
名為阿毘浮、參跋婆。

七

時，諸比丘！尸棄世尊呼阿毘浮比丘：『來！婆羅門！至於食時，到某梵天界。』

八

『唯然！世尊！』阿毘浮比丘奉答尸棄世尊。

九

時，諸比丘！尸棄世尊與阿毘浮比丘，猶如力士之伸屈腕、屈伸腕，沒於阿盧那越提王都，現身於梵天界。

一〇

時，諸比丘！尸棄如來呼毘浮比丘：『婆羅門！向此梵天、梵輔天、梵眾天說法語。』

一一

『唯然！世尊！』阿毘浮比丘奉答尸棄世尊、向梵天、梵輔天、梵眾天、說法語、教誡、勉勵，令其歡喜。

一二

爾時，諸比丘！梵天與梵輔天及梵眾天相說細語、還復牢騷說愚癡：『實希有，未得曾有，如何弟子於師前說法耶？』

一三

時，諸比丘！尸棄世尊呼阿毘浮比丘曰：『婆羅門！梵天與梵輔天及梵眾天，牢騷說細語、云愚癡：「實希有，得未曾有，何以弟子於師前說法耶？」婆羅門！是故汝越更警醒於梵天與梵輔及梵眾天。』

一四

『唯然！世尊。』諸比丘！阿毘浮比丘奉答尸棄世尊，以現身說法，不現身說法，現下半身說法，現上半身說法。

一五

於此，諸比丘！梵天與梵輔天及梵眾天起希有，得未曾有心：『沙門之大神通大威力，實是希有，實是未曾有。』

一六

時，阿毘浮比丘以此白尸棄世尊曰：『世尊！知我於比丘僧伽中，如立於梵天界，依用音聲，令得聞於千世界。』

一七

『婆羅門！汝應立梵天界，令千世界聞汝音聲之時。』

一八

諸比丘！『唯然！世尊。』阿毘浮比丘奉答尸棄世尊，立於梵天界，以唱此

偈曰：

精勤及勉勵	從順佛陀教
拂敗惡魔軍	如象破葦屋
此法與戒律	住不放逸者
棄生死輪迴	應盡苦邊際

一九

諸比丘！時，尸棄世尊與阿毘浮比丘，警醒梵天與梵輔天及梵眾天。猶如力士之伸屈腕、屈伸腕。沒形於梵天界，現身於阿盧那越提。

二〇

諸比丘！時尸棄世尊呼諸比丘曰：『諸比丘！汝等聞阿毘浮比丘立於梵天唱此偈否？』

二一

『世尊！我等聞阿毘浮比丘，立於梵天界之所唱此偈。』

二二～二三

『諸比丘！汝等聞阿毘浮比丘，立梵天界唱如何偈耶？』

『世尊！我等如是聞：

精勤及勉勵	從順佛陀教
拂敗惡魔軍	如象破葦屋
此法與戒律	住不放逸者
棄生死輪迴	應盡苦邊際

二四

世尊！我等聞如是偈。』

二五

『善哉！善哉！諸比丘！汝等聞阿毘浮比丘，立梵天界唱，善哉！』』

二六

世尊宣說已。彼等諸比丘！歡喜世尊之所說。

〔一五〕第五 般涅槃

一

爾時，世尊於俱尸那羅末羅族之憇跋單沙羅林，沙羅雙樹間，入涅槃時。

二

時，世尊呼諸比丘曰：「諸比丘！我今語汝等。精勤不放逸！諸行乃生滅之法。」此是如來最後之言教。

三

時，世尊入於第一禪，由第一禪起，入第二禪。由第二禪起，入第三禪。由第三禪起，入第四禪。由第四禪起，入虛空無邊處定。由虛空無邊處定起，入識無邊處定。由識無邊處起，入無所有處定。由無所有處定起，入非想非非想處定。

四

由非想非非想定起，入無所有處定。由無所有處定起，入識無邊處定。由識無邊處定起，入虛空無邊處定。由虛空無邊處定起，入第四禪。由第四禪起，入第三禪。由第三禪起，入第二禪。由第二禪起，入第一禪。

由第一禪起，入第二禪。由第二禪起，入第三禪。由第三禪起，入第四禪。由第四禪之等無間，世尊入於涅槃。

五

世尊入涅槃耶！於其入涅槃時，梵天沙巷婆提即唱此偈曰：

世間諸有情	遲早捨身此
世間無比者	如來得力者
正覺者大師	已入於涅槃

六

世尊入涅槃耶！於其入涅槃時，天帝釋即唱此偈曰：

諸行實無常 是為生滅性
生者必有滅 以寂滅為樂

七

世尊入涅槃耶！於其入涅槃時，尊者阿難唱此偈曰：

其時我恐怖 我毛髮豎立
一切勝相具 覺者入涅槃

八

世尊入涅槃耶！於其入涅槃時，尊者阿那律唱此偈曰：

出息入息無 心確立於定
無欲污寂靜 有眼者涅槃
無著心寬廣 堪於死苦惱
如燈之消逝 是心之辭脫

此唄陀南：

梵天常童子 與提婆達多
闍陀迦頻陀 阿盧那越提
依於般涅槃 說梵天五經

第七 婆羅門相應

第一 阿羅漢品

〔一〕第一 陀然闍仁

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

其時，有婆羅墮婆闍姓之婆羅門妻，名陀然闍仁，信樂佛、法、僧。

三

時，陀然闍仁，將近於運食與婆羅墮婆闍姓之婆羅門，發三次之歡喜語：「歸命彼世尊、應供、正等覺者……乃至……歸命彼世尊、應供、正等覺者。」

四

如是言已，婆羅墮婆闍姓之婆羅門，以此謂陀然闍仁曰：「此賣女不論何時、常語彼禿頭沙門之功德。賣女！今我應論破汝師。」

五

「否也！婆羅門！包含世界於天界、魔界、梵天界，包含沙門、婆羅門人天之眾中，不見得能論破我彼世尊、應供、正等覺者。然則，汝婆羅門！去！去即當自知。」

六

時，婆羅墮婆闍之婆羅門、忿怒不喜而詣世尊處。詣已，與世尊相致問交談而坐一面。

七

坐一面之婆羅墮婆闍姓婆羅門，以偈言世尊曰：

殺何物樂寢 殺何物不悲
殺害何一法 瞿曇卿讚歎

八

〔世尊：〕殺忿是樂寢 殺忿無有悲
婆羅門毒根 以為最上蜜
忿怒之殺害 聖者是讚賞
如是之殺法 其殺無有悲

九

如是言已，婆羅墮婆闍姓之婆羅門，以此白世尊曰：「瞿曇！是最勝。瞿曇是最勝。瞿曇！猶如令倒者起，覆者顯露，示迷者以道，如有眼者得見物形，如闇中之燈明，如是瞿曇請說種種法。我歸命世尊瞿曇、法、僧伽。我得於世尊瞿曇之處出家及具足戒！」

一〇

婆羅墮婆闍姓之婆羅門，得於世尊之處出家及具足戒。

一一

得具足戒不久，尊者婆羅墮婆闍，單獨隱棲，不放逸、虔誠、精勤而住，彼正是良家之子，為成就無上梵行，由家

〔出〕無家而出家，於現法得入自知自證。「知生已盡，梵行已立，所作已辦，不受後有。」

一二

於此婆羅墮婆闍，成為一阿羅漢。

〔二〕第二 讒謗

一

爾時，世尊住舍衛城竹林栗鼠養餌所。

二

讒謗婆羅墮婆闍婆羅門，聞婆羅墮婆闍婆羅門於沙門瞿曇之處，由家〔出〕無家而出家。

三

忿怒不喜，來詣世尊處。詣已，以激烈惡語讒謗、非難世尊。

四

作如是言已，世尊於此告讒謗婆羅墮婆闍婆羅門曰：「婆羅門！汝如何思惟耶？有朋友親戚骨肉者、客等來造訪汝否？」

五

「唯然，瞿曇！時常有朋友親戚骨肉者、客等來造訪我。」

六

「婆羅門！汝如何思惟耶？汝予與彼等堅食、軟食及美食否？」

七

「唯然，瞿曇！我時常與彼等堅食、軟食及美食。」

八

「婆羅門！若彼等不受者，則將成為誰之物耶？」

九

「瞿曇！若彼等不受者，彼等食物當屬我者。」

一〇

「婆羅門！如是汝讒謗不應讒謗我，誹謗不應誹謗我，非難不應非難我。我不受汝之此等。婆羅門！彼則是汝之物。讒謗返還其讒謗者，誹謗返還其誹謗者，非難返還其非難者。婆羅門！此謂〔主客〕共食、共來往。我不與汝共食、共來往。婆羅門！此是汝物。婆羅門！此是汝物。」

一一

「王與王臣今如是知尊者瞿曇：『沙門瞿曇是應供者，然瞿曇亦將怒。』」

一二

〔世尊：〕無忿自調御 是為正生活
有正智解脫 寂靜如是人

忿由何處起 以忿還忿者
更為是惡事 不以忿還忿
戰得二勝利 知他之所忿
靜已正念人 自及他兩方
皆行於利益 彼乃自與他
兩方之醫師 於法無知者
以此為愚人

一三

如是言已，讒謗婆羅墮婆闍婆羅門如是白世尊曰：「世尊！是最勝。……乃至……我今歸依世尊瞿曇、法、僧伽。願於世尊瞿曇座下出家得具足戒。」

一四

讒謗婆羅墮婆闍婆羅門，得於世尊之處出家及具足戒。

一五

又，尊者讒謗婆羅墮婆闍婆羅門得具足戒不久，單獨隱棲，不放逸、虔誠、精勤而住。彼正是良家之子，為成就梵行，由家〔出〕無家而出家，於現法得入自知、自證。「知生已盡，梵行已立，所作已辦，不受後有。」

一六

又，此婆羅墮婆闍婆羅門，為一阿羅漢。

〔三〕第三 阿修羅王

一

爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

阿修羅王婆羅墮婆闍婆羅門，聞婆羅墮婆闍姓之婆羅門，
於沙門瞿曇之處，由家〔出〕無家而出家。

三

忿怒不喜，來詣世尊處。詣已，以激烈不善之語，讒謗、
誹謗世尊。

四

如是言已，世尊默然。

五

時，阿修羅王婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：「沙
門！汝勝利！沙門！汝勝利。」

六

〔世尊：〕口出粗惡語 愚者以為勝
然實勝利者 乃知堪忍人
以忿還忿者 更為是惡事
不以忿還忿 戰得二勝利
知他之所忿 靜己正念人
自及他兩方 皆行於利益
彼乃自及他 兩方之醫師
於法無知者 以此為愚人

七

如是言已，阿修羅王婆羅墮婆闍婆羅門，以此言世尊曰：
「世尊！是最勝者，世尊！是最勝者……乃至……」

八

又，此尊者婆羅墮婆闍婆羅門，成為一阿羅漢。

〔四〕第四 毘蘭耆迦

一

爾時，世尊住舍衛城竹林栗鼠養餌所。

二

毘蘭耆迦婆羅墮婆闍婆羅門，聞婆羅墮婆闍姓之婆羅門，
於沙門瞿曇座前，由家〔出〕無家而出家。

三

忿怒不喜，來詣世尊處。詣已，默然而立一面。

四

時，世尊知毘蘭耆迦婆羅墮婆闍婆羅門心之所念，以偈告
毘蘭耆迦婆羅墮婆闍婆羅門曰：

清淨無穢惡 以污無垢人
惡還其愚人 逆風撒細塵

五

如是言已，毘蘭耆迦婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：
「世尊！是最勝者。世尊！是最勝者。我今歸依世尊瞿曇、
法、僧伽。願於世尊處得出家及具足戒。」……乃至……「知
生已盡，梵行已立，所作已辦，不受後有。」

六

又此婆羅墮婆闍婆羅門，成為一阿羅漢。

〔五〕第五 不害

一

舍衛城因緣。

二

時，不害婆羅墮婆闍婆羅門，來詣世尊處。詣而與世尊互相致問，坐於一面。

三

坐一面之不害婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：「瞿曇！我是不害。瞿曇！我是不害。」

四

〔世尊：〕若如其名者 汝實為不害
然而不害於 身口以及心
以不害他者 始名實不害

五

如是言已，不害婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：「瞿曇！是最勝者……乃至……」

六

又此婆羅墮婆闍，成為一阿羅漢。

〔六〕第六 縈髻

一

舍衛城因緣。

二

時，縈髻婆羅墮婆闍婆羅門，來詣世尊處。詣而與世尊互相致問，坐於一面。

三

坐一面之縈髻婆羅墮婆闍婆羅門，以偈白世尊曰：

內外之纏縛 人人迷此纏
奉問於瞿曇 誰利此纏縛

四

〔世尊：〕 智慧人住戒 以修心智慧
熱心深慎者 彼應離纏縛
以離於貪著 乃至瞋無明
漏盡阿羅漢 解脫於纏縛
名之以及色 障礙及色想
無餘盡消滅 此悉斷纏縛

五

如是言已，縈髻婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：「世尊！是最勝者。……乃至……」

六

又其婆羅墮婆闍，成為一阿羅漢。

〔七〕第七 淨者

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

時，淨者婆羅墮婆闍婆羅門，來詣世尊處。詣而與世尊互相致問，坐於一面。

三

坐一面之淨者婆羅墮婆闍婆羅門，於世尊處，語此偈曰：

雖持戒苦行	世間之如何
婆羅門不清	明行具足者
唯此是清淨	其外無淨者

四

〔世尊：〕	雖多唱馱咒	埃滿內不淨
外依於欺瞞	非生婆羅門	
譬如剎帝利	婆羅門毘舍	
首陀旃陀羅	下水清掃人	
精勤而不撓	常勇猛精進	
達最勝清淨	知此婆羅門	

五

如是言已，淨者婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：「世尊！是最勝者……乃至……」

六

又，此婆羅墮婆闍，成為一阿羅漢。

〔八〕第八 拜火

一

爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

時，其拜火婆羅墮婆闍婆羅門，行火供，煮酪米飯，為拜火供犧。

三

時，世尊清晨，著衣持鉢，入王舍城乞食。於王舍城家家乞食，至拜火婆羅墮婆闍婆羅門家。至而立於一面。

四

拜火婆羅墮婆闍婆羅門，見世尊乞食，以偈白世尊曰：

三明等具足 生高有多聞
明行具足者 受食我乳飯

五

〔世尊：〕雖多唱馱咒 埃滿內不淨
外蔽於欺瞞 非生婆羅門
以知於宿命 見天界惡趣
及達生之滅 聖者力成滿
有此三明人 三明婆羅門
明行具足者 我受食乳飯

六

「尊者瞿曇且受此食！尊者是婆羅門。」

七

〔世尊：〕我唱此偈者 非為得食者
婆羅門於此 知見者非法
諸佛之唱偈 以斥其代價
婆羅門法住 是為生活道
漏盡悔行靜 完全大聖者
依事奉飲食 是為功德田

八

如是言已，拜火婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：「世尊！是最勝者……乃至……」

九

又，此婆羅墮婆闍，成為一阿羅漢。

〔九〕第九 孫陀利迦

一

爾時，世尊住拘薩羅之孫陀利迦河邊。

二

時，又有孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門，於孫陀利迦河邊行火供，作拜火供犧。

三

時，孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門行火供，以完成拜火供犧、立座、回顧四週：「誰應受食我此剩餘供物耶？」

四

時，孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門，見世尊包頭坐於樹下。
見已，以手持剩餚供物，右手執水瓶，以趣近世尊。

五

時，世尊聞孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門之足音，摘去頭包。

六

時，孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門：「此人禿頭，此人禿頭者。」從此欲折迴。

七

然則，孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門，又生如是思念：「婆羅門亦有禿頭者，我寧詣而以問其生。」

八

時，孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門，來詣世尊處。詣而以此白世尊曰：「尊者之生者何？」

九

〔世尊：〕勿以問出生 唯問其行為
微木亦生火 雖然生為卑
智慧有駿敏 止惡有慚愧
是為聖者生 依真所調順
以具悉調順 到達於聖道
成就梵行人 帶來供犧牲
呼報出食事 是人值供養
以給於供犧

一〇

〔婆羅門：〕於我此供犧 善為於供養
今見如師者 以前未見故
我剩餉供犧 他眾受為食
尊者瞿曇受 尊者婆羅門

一一

〔世尊：〕我唱此偈者 非為以得食
婆羅門於此 知見者非法
諸佛之唱偈 以斥其代價
婆羅門法住 是為生活道
漏盡悔行靜 完全大聖者
依事奉飲食 是為功德田

一二

「尊瞿曇！然則我此剩餉供犧，應與何人耶？」

一三

「婆羅門！我如來與如來弟子外，即包含世界，天界、魔界、梵天界，包含沙門婆羅門人天之眾中，不見食此剩餉供犧能消化者。婆羅門！是故汝從此剩餉供犧，捨於無草處，或沉於無蟲之水中。」

一四

時，孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門，從此剩餉供犧，沉於無蟲之水中。

一五

時，其剩餉供犧，沉於水中時，唧唧出聲，生煙出炎。喻於日中太陽所熱之鐵板投入水中，唧唧出聲，生煙出炎。

一六

時，孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門，驚恐、毛髮豎立，來詣世尊處。詣而立於一面。

一七

世尊以偈言於立一面之孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門曰：

婆羅門事火	勿思得清淨
智云此外事	依外求清淨
依是不得淨	婆羅門我止
事火而內燃	依常火常靜
我是阿羅漢	常行於梵行
婆羅門汝慢	是名為重擔
忿煙妄語灰	舌即是木杓
心供犧火處	善以自調順
始為是人火	婆羅門有戒
渡津法之湖	澄清無染污
常為善人讚	聖者來此浴
體清渡彼岸	真實與正法
自制是梵行	婆羅門依此
中道得最勝	直心者歸命
我謂此等人	為隨法行者

一八

如是言已，孫陀利迦婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：
「世尊！是最勝者……乃至……」

一九

又，此婆羅墮婆闍婆羅門，成為一阿羅漢。

〔一〇〕第十 婆富提低

一

爾時，世尊住拘薩羅國之繁茂森林。

二

時，婆羅墮婆闍姓婆羅門有十四頭牛，去處不明。

三

時，婆羅墮婆闍姓婆羅門，尋牛至森林。至而見世尊，趺坐身正直，樹立正念，坐於繁茂森林。

四

見已詣世尊處，詣而於世尊前白此偈曰：

於此沙門失	十四頭之牛
至今尋六日	如無有不得
然而此沙門	是為最安樂
於此沙門撒	菜種於菜田
收穫之最惡	非一莖二莖
然而此沙門	是為最安樂
於此沙門之	穀倉盡而空
鼠盛於其中	無有如踊躍
然而此沙門	是為最安樂
於此沙門敷	蓆之盡七月
如未滿蚤虱	然而此沙門
是為最安樂	於此沙門有
一兒及二兒	亦有女七人
非如成寡婦	然而此沙門
是為最安樂	於此沙門未
蹴褐色黑白	斑點婦眠足
然而此沙門	是為最安樂
於此沙門無	朝等取欠債
還還以立責	然而此沙門
是為最安樂	

五

〔世尊：〕婆羅門於我 失牛十四頭
至今尋六日 如無有不得
然而婆羅門 我為最安樂
婆羅門於我 撒菜種於田
收穫之最惡 非一莖二莖
然而婆羅門 我為最安樂
婆羅門於我 穀倉盡而空
鼠盛於其中 無有如踊躍
然而婆羅門 我為最安樂
婆羅門於我 敷蓆盡七月
牀非滿蚤虱 然而婆羅門
我為最安樂 婆羅門於我
有一兒二兒 亦有女七人
非如成寡婦 然而婆羅門
我為最安樂 婆羅門於我
無蹴褐黑白 斑點婦眠足
然而婆羅門 我為最安樂
婆羅門於我 無有朝來等
迫取於欠債 還還以立責
然而婆羅門 我為最安樂

六

如是言已，婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：「瞿曇！是最勝者，瞿曇！是最勝者。瞿曇！猶如起倒者，顯覆者，示道於迷者，如有眼者，得見物見形，如暗揭燈明。如是尊者瞿曇種種說法。我今歸依世尊、法、僧伽。願於尊者瞿曇之處，得出家及具足戒。」

七

婆羅墮婆闍婆羅門，得具足戒不久，單獨隱棲，不放逸，虔誠、精勤不久，良家之子，成就清淨梵行，由家〔出〕無家

而出家，入於自知自證。「知生已盡，梵行已立，所作已辦，不受後有。」

八

又尊者婆羅墮婆闍，成為一阿羅漢。

此唄陀南：

陀然闍仁及	讒謗阿修羅
與毘蘭耆迦	不害及縈髻
淨者與拜火	與孫陀利迦
及婆富提低	依此為十經

第二 優婆塞品

〔一一〕第一 耕田

一

如是我聞。爾時，世尊住摩揭陀國南山一葦婆羅門村。

二

時，又有耕田婆羅墮婆闍婆羅門，於播種時，裝五百犁具。

三

時，世尊清晨著衣持鉢，到耕田婆羅墮婆闍婆羅門之農作場。

四

時，耕田婆羅墮婆闍婆羅門，為分配食物與予於諸人。

五

時，世尊到分配食物處，而立一面。

六

耕田婆羅墮婆闍婆羅門，見世尊為乞食而立。見而言世尊曰：「沙門！我乃耕種。耕種而食。沙門！汝亦須耕種，耕種而得食。」

七

「婆羅門！我亦耕種。耕種而食。」

八

「然則！我等未見尊瞿曇之軛、鋤、犁、鑿、刺棒、牡牛。而且尊者瞿曇作如是言：『婆羅門！我亦耕種、耕種而食。』」

九

時，耕田婆羅墮婆闍婆羅門，以偈白世尊曰：

汝自云農夫 我不見汝耕
我問農夫語 何知我等耕

一〇

〔世尊：〕 信仰是種子 鍛鍊是甘雨
智慧軛為鋤 慚乃為其柄
定為是其繩 正念我犁鑿
乃至為刺棒 守身及守語
以知食之量 以信免割草
樂道我休息 精進乃我負

重荷立牡牛 瑜伽運安穩
行而無有歸 行而亦無悲
如是我耕耘 不死是果實
以為此耕耘 我悉脫苦惱

一一

「尊者瞿曇且請受食。尊者瞿曇農夫。瞿曇之耕耘，乃為不死果。」

一二

〔世尊：〕唱偈非為食 婆羅門有此
知見者非法 諸佛之唱偈
責斥等價值 婆羅門住法
唯此生活道 諸漏悉皆盡
後悔之行靜 完滿大聖者
以事奉飲食 為求功德田

一三

如是言已，耕田婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：「瞿曇！是最勝者。瞿曇！是最勝者。瞿曇！喻倒者起，覆者露。示道於迷者，如暗中揭燈明，有眼者得見諸形。如是尊者瞿曇說種種法。我今歸依世尊、法、僧伽。願尊者瞿曇，納受我今日以後，終生歸依為優婆塞。」

〔一二〕第二 優陀耶

一

舍衛國因緣。

二

時，世尊清晨，著衣持鉢，到優陀耶婆羅門之住家。

三

時，優陀耶婆羅門，以白飯盛滿世尊之鉢。

四

第二次世尊清晨著衣持鉢，到優陀耶婆羅門家，……乃至……

五

第三次優陀耶婆羅門，以白飯盛滿世尊之鉢，而言曰：
「甚煩！沙門瞿曇勿屢次、屢次來。」

六

〔世尊：〕屢屢播種子 屢屢降天雨
屢屢耕農田 屢屢穀類實
屢屢乞食食 屢施施主食
屢屢施主施 屢屢行天界
屢屢搾牛乳 屢求犢母牛
屢屢疲勞苦 愚者屢入胎
屢屢於生死 屢屢送墓場

七

如是言已，優陀耶婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！
是最勝者……乃至……願尊者瞿曇容納我，從今日以後，終生
歸依為優婆塞。」

〔一三〕第三 提婆比多

一

舍衛城因緣。

二

時，世尊，患感冒，尊者優波婆那，為世尊之侍者。

三

時，世尊呼尊者優波婆那曰：「優波婆那，為我取溫水來。」

四

「唯然！世尊。」尊者優波婆那奉答世尊，即著衣持鉢，到提婆比多婆羅門家，默然立於一面。

五

提婆比多婆羅門，見尊者優波婆那，默然立一面，以偈白尊者優波婆那曰：

尊者默然立 禿頭僧伽梨
何欲及何求 為乞何而來

六

〔優波婆那：〕阿羅漢善逝 聖者患感冒
若有溫水者 婆羅門與佛
供養應供人 尊崇可尊人
敬於可敬人 我願齎予彼

七

時，提婆比多婆羅門，施一擔溫水、一瓶糖蜜予尊者優波婆那。

八

時，尊者優波婆那返詣世尊處，詣而奉世尊溫水沐浴。融糖蜜於溫水以奉世尊。

九

如是世尊，其病痊癒。

一〇

時，提婆比多婆羅門，來詣世尊處。詣而與世尊相致問候交談，坐於一面。

一一

坐於一面之提婆比多婆羅門，以偈白世尊曰：

應布施何處 施何有大果
何處於供養 其施果榮盛

一二

〔世尊：〕若了知宿命 見天界惡趣
達生之滅盡 滿通力聖者
應布施於此 施此有大果
如是而供果 其施果榮盛

一三

如是言已，提婆比多婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！是最勝者……乃至……願受納我，從今日以後，歸依為優婆塞。」

〔一四〕第四 大富者

一

舍衛城因緣。

二

時，有大富婆羅門，裝作衰萎貧窮，來詣世尊處。詣而與世尊互相致問，坐於一面。

三

世尊對坐一面之大富婆羅門曰：「婆羅門！汝何故裝作衰萎貧窮而來？」

四

「尊者瞿曇！我有四子。彼等與其妻等共謀，將我逐出。」

五

「婆羅門！若然，汝須暗記此偈，當彼等集聚會堂，時子輩等之在座時唱之：

我素喜其生	我希其生長
彼等與妻謀	逐我如豚犬
雖非喜賢者	亦呼我為父
唯子夜叉形	捨去我年老
如老衰弱馬	不予飲食物
我乃此子父	雖身為長者
但乞他家食	有此不孝子
不如我拐杖	可拂逐猛牛
亦可逐猛犬	暗中能導我
在於深溪時	並作定足基
依此拐杖力	倒而又得起」

六

時，此大富婆羅門，在世尊處暗記此偈，待眾等集聚會堂，子輩在座時而唱。

七

時，其子等即將大富婆羅門領歸家中，予沐浴，各予穿著一夾衣。

八

時，大富婆羅門，持一夾衣，來詣世尊處。詣而與世尊相致問交談，坐於一面。

九

坐一面其大富婆羅問，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！我等婆羅門，求我等之師，受納酬謝。願尊者瞿曇，我師受納之報謝。」

一〇

世尊哀憐而納受。

一一

時，其大富婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！是最勝者……乃至……願尊者瞿曇從今日以後受我歸依為優婆塞。」

〔一五〕第五 憍傲

一

舍衛城因緣。

二

時，名為憍傲之婆羅門住舍衛城。彼不敬母、不敬父、不敬師亦不敬長者。

三

時，世尊為大眾所圍繞而說法。

四

時，憍傲婆羅門作如是思念：「此沙門瞿曇為大眾圍繞而說法。我今詣沙門瞿曇處。若沙門瞿曇語我者，我即亦語彼。若沙門瞿曇不語我者，我即亦不語彼。」

五

時，憍傲婆羅門詣世尊處。詣而默然立於一面。

六

時，世尊不言彼。

七

時，憍傲婆羅門，以此沙門瞿曇無何所知而欲歸。

八

時，世尊知憍傲婆羅門心之所念，以偈告憍傲婆羅門曰：

婆羅門勿慢 若為此來者
婆羅門來者 即善達其用

九

時，憍傲婆羅門：「沙門瞿曇知我心。」即於立處，投身垂頭於世尊之足，禮吻世尊之足，以手自指，並自呼報其名曰：「尊者瞿曇！我名憍傲者，尊者瞿曇！我名憍傲者。」

一〇

時，大眾起未曾有之心，「實乃希有！實乃未曾有。此憍傲婆羅門，不敬母、不敬父、不敬師，亦不敬長者，且對沙門瞿曇行如是最勝五體投地之禮敬。」

一一

時，世尊以此言憍傲婆羅門曰：「婆羅門！可起立，以坐自座，汝心已信樂我。」

一二

時，憍傲婆羅門，就坐自座，以偈白世尊曰：

應向誰謙讓	應對誰尊奉
應予敬重誰	並予善供誰

一三

〔世尊：〕	對於母及父	乃至年長兄
第四乃師長	應該行謙讓	
應尊此等人	且敬此等者	
予供此等人	是為善供養	
清涼阿羅漢	作了漏盡者	
對此諸善眾	行無上禮敬	
憍慢與強傲	應當皆捨去	

一四

如是言已，憍傲婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！是最勝者……乃至……願尊者瞿曇從今日以後，受我終生歸依為優婆塞。」

〔一六〕第六 違義

一

舍衛城因緣。

二

時，名喚違義之婆羅門住舍衛城。

三

時，違義婆羅門如是思念：「我今詣沙門瞿曇處。其沙門瞿曇之所說，即皆反對而述。」

四

時，世尊於露地經行。

五

時，違義婆羅門詣世尊處，順世尊之經行，而自經行，以此白世尊曰：「沙門！說法。」

六

〔世尊：〕心污瞋恚多 何亦好反對
如是善說法 亦甚難得知
唯有滅瞋恚 除去無信樂
心之障礙者 始知善說法

七

如是言已，違義婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！是最勝者……乃至……願尊者瞿曇從今日以後，受我終生歸依為優婆塞。」

〔一七〕第七 木匠

一

爾時，世尊住拘薩羅國之森林。

二

其時，木匠婆羅墮婆闍婆羅門，亦因事入此森林。

三

木匠婆羅墮婆闍婆羅門，見世尊於沙羅樹下趺坐，身正直，樹立正念而坐。

四

見而如是思念：「我為來此森林工作而快樂。此沙門瞿曇，何為而樂耶？」

五

時，木匠婆羅墮婆闍婆羅門詣世尊之處。詣而以偈白世尊曰：

比丘汝於此 沙羅樹森林
以為何事耶 唯獨於森林
瞿曇有何樂

六

〔世尊：〕我獨在森林 以行所應行
一切森或叢 皆是我所斷
然我於森林 無有煩惱繫
亦無刺所刺 獨樂拂不滿

七

如是言已，木匠婆羅墮婆闍婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！是最勝者……乃至……願尊者瞿曇從今日以後，受我終生歸依做優婆塞。」

〔一八〕第八 採薪

一

爾時，世尊住拘薩羅國之森林。

二

其時，有婆羅墮闍姓婆羅門之眾多弟子，為採薪而來至此森林。

三

至而見世尊於林中結跏趺坐，身正直，樹立正念而坐。見而來到彼婆羅墮婆闍婆羅門處。

四

到已，以此告婆羅墮婆闍婆羅門曰：「尊師！請知！彼森林有一沙門結跏趺坐，身正直，樹立正念而坐。」

五

時婆羅墮婆闍婆羅門，與彼其青年等，俱到森林。見世尊
在森林中結跏趺坐，身正直，樹立正念而坐。見已，詣世尊之
處，以偈白世尊曰：

深森有多怖	獨入於空林
心不動實美	甚美之比丘
汝是在禪思	無能歌此者
亦無能言語	獨聖者依林
心喜獨住林	我見實希有
我思念乃此	願生於無上
三天世界主	為作同伴者
何故獨於林	尊者修苦行
為達於梵否	

六

〔世尊：〕凡夫種種著 愛欲或歡喜
生自無知根 一切我斷除
我無貪無欲 亦不與接近
有諸清淨見 到達於無上
吉祥之正覺 婆羅門我獨
於無畏禪思

七

如是言已，婆羅墮婆闍姓婆羅門，以此白世尊曰：「尊者
瞿曇！是最勝者……乃至……願尊者瞿曇從今日以後，受我終
生歸依為優婆塞。」

〔一九〕第九 孝養

一

舍衛城因緣。

二

時，孝養婆羅門來詣世尊處。詣已，與世尊互相致問，坐於一面，

三

一面坐之孝養婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！我於如法求食。如法求食以養父母。尊者瞿曇！我如是行，是以應為而為耶？」

四

「婆羅門！汝確實如是行應所行。婆羅門！如法求食以養父母者，乃生甚多功德。」

若人以如法	孝養父母者
依法於父母	因此而行為
賢者於此世	當以讚歎彼
彼至於死後	又生於天界

五

如是言已，孝養婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇，是最勝者……乃至……願世尊從今日以後，受我終生歸依為優婆塞。」

〔二〇〕第十 乞食

一

舍衛城因緣。

二

時乞食婆羅門，來詣世尊之處。詣而與世尊互相致問，坐於一面。

三

一面坐之乞食婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！我亦乞食者。尊者亦乞食者。於此則無何差異。」

四

〔世尊：〕唯作乞他食 並非是比丘
執持惡臭法 並非是比丘
功德惡捨去 依智慧於世
以修梵行者 是名為比丘

五

如是言已，乞食婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！是最勝者……乃至……願尊者瞿曇從今日以後，受我終生歸依做優婆塞。」

〔二一〕第十一 參伽羅婆

一

舍衛城因緣。

二

時，名喚參伽羅婆婆羅門住舍衛城。是水淨行者，依水求得清淨，朝夕入水，行沐浴行。

三

時尊者阿難，清晨著衣持鉢，入舍衛城乞食。於舍衛城乞食後，收鉢而來詣世尊處，詣而禮敬世尊，坐於一面。

四

坐一面尊者阿難，以此白世尊曰：「世尊！於此名喚參伽羅婆婆羅門住舍衛城。是水淨行者，依水求得清淨，朝夕入水，行沐浴行。世尊，願垂哀憐，到參伽羅婆婆羅門家。」

五

世尊，許允此而默然。

六

時，世尊清晨，著衣持鉢，到參伽羅婆婆羅門家，即坐於所設之座。

七

時參伽羅婆婆羅門，近詣世尊前，與世尊互相致問，坐於一面。

八

世尊以此告一面坐之參伽羅婆婆羅門曰：「婆羅門！汝為水淨行者，依水求得清淨，朝夕入水，行沐浴行，真實否？」

九

「尊者瞿曇！是真實。」

一〇

「婆羅門！汝見有如何利益，為水淨行者，依水求得清淨，朝夕入水，行沐浴行耶？」

一一

「尊者瞿曇！我於此日間所為之惡業，依夕時沐浴洗落，夜間所為之惡業，依清晨沐浴將之洗落。尊者瞿曇！我見此利益故，為水淨行者，依水求得清淨，朝夕入水，行沐浴行。」

一二

〔世尊：〕婆羅門戒律 渡津之法湖
澄清無污穢 常受善人讚
聖者浴其處 體淨渡彼岸

一三

如是已言，參伽羅婆婆羅門，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！是最勝者……乃至……願尊者瞿曇從今日以後，受我終生歸依為優婆塞。」

〔二二〕第十二 庫摩都薩邑

一

如是我聞。爾時，世尊住釋迦族之庫摩都薩邑。

二

時，世尊清晨，著衣持鉢，入庫摩都薩乞食。

三

其時，庫摩都薩邑之婆羅門與家主等，因事而集聚於集會堂。雨綿綿下降。

四

時，世尊來到其集會堂。

五

庫摩都薩婆羅門與家主等，見世尊從遠而來。

六

見而言曰：「彼禿頭沙門等是誰耶？彼等何以不知集會法耶？」

七

時世尊以偈調語庫摩都薩婆羅門家主等曰：

無善人之處	並非是集會
語不如法者	並非是善人
若以滅貪欲	瞋恚與愚癡
能語於如法	始稱為善人

八

如是言已，庫摩都薩婆羅門家主等，以此白世尊曰：「尊者瞿曇！是最勝者……乃至……願尊者瞿曇從今日以後，受我等終生歸依為優婆塞。」

此唄陀南：

耕田優陀耶	並提婆比多
大富婆羅門	憍傲與違義

木匠及採薪 孝養並乞食
及參加羅婆 庫摩都薩等
總合為十二

第八 婆耆沙長老相應

〔一〕第一 出離

一

如是我聞。爾時，尊者婆耆沙與乃師尊者尼俱律陀劫波，共住於阿臘毘之阿伽羅婆奢提耶。

二

其時，尊者婆耆沙乃出家不久之新比丘，被留作精舍之看守人。

三

其時眾多婦人為參觀精舍，裝飾打扮而來阿蘭若。

四

時尊者婆耆沙，見彼等婦人而生不快，貪欲污其心。

五

時尊者婆耆沙如是思念：「我心生不快，貪欲污我心，對我實是甚悲痛。別人無從滅我心之不快而令愉悅。我自滅我心之不快、令生愉快。」

六

時，尊者婆耆沙，自滅自己之不快而生愉悅，其時以唱此偈曰：

由家而無家 於我之出離
實是從黑闇 無法之思起
然其生世高 以習強弓法
不知於退屈 千人弓術者
一時周放矢 多比於其數
婦女子等來 不能亂我心
我強立於法 我一度於彼
日種之佛陀 所說導涅槃
依此以開導 我心樂於此
如是我居住 波旬來則來
惡魔我亦應 揚拂之令汝
不能尋覓出 我所行之道

〔二〕第二 不快

一

爾時……乃至……

二

尊者婆耆沙與乃師尼俱律陀劫波，共住於阿臘毘之阿伽羅婆奢提耶。

三

其時，尊者尼俱律陀劫波，從乞食歸，食後而入室，至夕夜，或至翌日早皆不出戶門。

四

其時尊者婆耆沙生不快，貪欲污其心。

五

時婆耆沙生如是思念：「我心生不快，貪欲污我心。對我甚實悲痛。別人無從滅我心之不快而生愉悅，我須自滅我之不快，而令生愉悅。」

六

時，尊者婆耆沙，自滅自己之不快，令生愉悅。其時唱此等偈曰：

思快不快者	捨諸著家念
不欲住何處	離欲之住處
無有欲之思	此則是比丘
地載空所覆	世間諸一切
悉是無常老	有智悟此住
人見聞觸思	皆悉依執著
除此依欲念	無污無染者
是云為牟尼	凡常者易陷
六十之依著	不法之覺想
此等不行往	任何之部類
不語惡語者	此則是比丘
有天稟之資	長夜心寂靜
無欺無欲念	賢達寂靜道
牟尼依涅槃	以滅除煩惱
待般涅槃時	

〔三〕第三 輕蔑溫和者

一

爾時，尊者婆耆沙與乃師尊者尼俱律陀劫波，共住於阿臘毘之阿伽羅婆奢提〔廟〕。

二

其時，尊者婆耆沙以誇自己之頓才，輕蔑其他溫和比丘等。

三

時，尊者婆耆沙生如是思念：「以誇自己之頓才，輕蔑其他溫和比丘等。對我實是甚悲痛。」

四

如是尊者婆耆沙，自己省悔，其時唱此偈曰：

捨慢瞿曇徒	無餘離慢道
昏醉於慢道	悔之焉不久
覆覆於慢行	人人墮地獄
慢墮地獄者	長夜於悲痛
道之勝利者	正行者比丘
何時皆不悲	以受譽安樂
彼實法樂者	於世不固陋
精進離蓋障	清拂無餘慢
依智慧滅盡	煩惱寂靜者

〔四〕第四 阿難

一

爾時，尊者阿難住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時，尊者阿難，清晨著衣持鉢，尊者婆耆沙為隨侍入舍衛城乞食。

三

其時，尊者婆耆沙生不快，貪欲污其心。

四

時，尊者婆耆沙以偈白阿難曰：

我為貪欲燒 我乃心炎燃
瞿曇哀憐我 請說消火法

五

〔阿難：〕依於顛倒想 汝心之炎燃
以呼起貪欲 令止見淨相
見諸行無常 苦惱非自己
消滅大貪火 勿為屢次燒
集心於一點 令其住靜寂
依於不淨想 令修自己心
有於身念住 以滿厭惡情
習修於無相 消滅慢隨眠
依其慢現觀 得行於寂靜

〔五〕第五 善說

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園……

二

於此，世尊呼諸比丘：「諸比丘！」

三

「唯然，世尊！」彼等諸比丘奉答世尊。

四

世尊以此宣說：「諸比丘！四支具足之語，乃善說而非惡說。無罪垢，不令識者非難。四支者何？

五

諸比丘！於此語善說而非惡說。語法而非不法。語愛語而非非愛語。語真實而非虛假。諸比丘！此四支具足之語，乃善說而非惡說。無罪垢，不令識者非難。」

六

世尊以此宣說，善逝以此宣說，又作如是言曰：

為善人所云	第一語於美
第二語如法	勿語不如法
第三語優美	勿以語粗獷
第四語真實	勿以語虛偽

七

時尊者婆耆沙，即從座起，一肩著衣，合掌禮拜世尊，以此白世尊曰：「世尊！我湧思念！善逝！我湧思念！」

八

世尊曰：「婆耆沙！請說。」

九

時尊者婆耆沙白世尊，以適當之偈予奉讚：

人以語其語	勿令自己苦
亦無害他語	此為語善語
人語善故事	其語以快耳
不語他人惡	此則云善美

真實甘露語 此乃從古法
以謂真義法 善人悉確立
佛陀所說語 達涅槃安穩
以至盡苦邊 此實無上語

〔六〕第六 舍利弗

一

爾時，尊者舍利弗住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

其時，尊者舍利弗以和藹語、明了、無濁聲，使明知意義之法語、教示、利益、鼓勵諸比丘。彼等諸比丘，深切注意，虔誠，心意集中，傾耳聞法。

三

時尊者婆耆沙生如是思念：「此尊者舍利弗，以和藹之語，明了、無濁聲，使明知意義之法語，教示、利益、鼓勵諸比丘。彼等諸比丘，深切注意，虔誠，心意集中，傾耳聞法。我今向尊者舍利弗，應以適當之偈讚歎。」

四

時，尊者婆耆沙則從座起，一肩著衣，合掌禮尊者舍利弗，以此稱尊者舍利弗：「吾友舍利弗！我湧思念！吾友舍利弗！我湧思念。」

五

「吾友婆耆沙！請說。」

六

時，尊者婆耆沙以適當之偈，向尊者舍利弗讚歎曰：

智慧深而賢	巧分道非道
大智舍利弗	說法諸比丘
略說又廣說	如舍利鳥聲
無濁妙辯湧	其聲猶如蜜
快樂耳爽美	說而心躍歡
注意以傾耳	比丘等聽聞

〔七〕第七 自恣

一

爾時，世尊與五百比丘眾共住舍衛城東園鹿子母講堂，皆是阿羅漢。

二

其時，世尊是日布薩自恣之日，為比丘眾所圍繞，坐於露地。

三

時，世尊默然，環視比丘眾，言諸比丘：

四

「諸比丘！我今自恣。汝等對我身語，有否云何非難耶？」

五

如是言已。尊者舍利弗即從座起，一肩著衣，合掌禮世尊，以此白曰：「否也！世尊。我等於世尊之身上，不見有可非議者。世尊！世尊令未生之道生，令知未知之道，說未說之法。道之知者，是道之了者，道之巧者。今弟子等順從道，而後能具有道者。世尊！我亦向世尊自恣。世尊！我之身語，有否云何可非難耶？」

六

「否也。舍利弗！我對汝之身語，亦無何可非難。舍利弗！汝是賢者、大智者、廣智者、捷智者、銳智者，貫通智者。舍利弗！猶如轉輪王之長子，以正轉父王所轉之車輪。舍利弗！如是汝正轉我所轉之無上法輪。」

七

「世尊！若於我身語，皆無可非難者，此五百比丘眾之身語，尚有何可予非難耶？」

八

「舍利弗！此五百比丘之身語，我無可非難。舍利弗！此五百比丘中，有六十比丘是三明者，六十比丘是六通者，六十比丘是俱解脫者，其他是慧解脫者。」

九

時，尊者婆耆沙即從座起，一肩著衣，合掌禮世尊，以此白世尊曰：

一〇

「世尊！我湧思念。善逝，我湧思念！」

一一

世尊曰：「婆耆沙，請說。」

一二

時，尊者婆耆沙，以適當之偈，向世尊讚歎曰：

今乃十五夜	為眾之清淨
五百比丘集	無污斷結縛
無後有聖者	猶如轉輪王
大臣等圍繞	譬如限大海
惠徧此大地	如是戰勝者
無上商隊主	三明滅死魔
弟子等敬禮	此等世尊子
於此不曾弄	無用之辯者
拔去渴愛箭	敬禮日種佛

〔八〕第八 千以上

一

爾時，世尊與千二百五十人比丘，俱住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

其時，世尊依導引涅槃之法語，教示、利益、鼓勵諸比丘。彼等諸比丘，深切注意，虔誠、心意集中、傾耳聞法。

三

時，尊者婆耆沙如是思念：「今世尊依導引涅槃之法語，教示、利益、鼓勵諸比丘。彼等諸比丘，深切注意，虔誠、心意集中，傾耳聞法。我今以適當之偈，向世尊讚歎。」

四

時，尊者婆耆沙即從座起，一肩著衣，合掌禮敬世尊，以此白世尊曰：「世尊！我湧思念，善逝！我湧思念。」

五

世尊曰：「婆耆沙，請說。」

六

時，尊者婆耆沙，以適當之偈，向世尊讚歎曰：

千以上比丘	以離塵垢法
何處均無怖	禮敬說涅槃
應供善逝尊	正覺者所說
無有垢穢法	彼等比丘聞
比丘眾圍繞	實正覺者光
世尊實龍象	第七之聖者
猶如大雨降	弟子等受潤
為奉見我師	從日住出來
弟子之一人	我是婆耆沙
禮敬大雄足	

七

「婆耆沙！此等偈乃汝以前所作耶？或汝立即憶起者耶？」

八

「世尊！此等偈非以前之作，乃我當今立即所現。」

九

「然則，婆耆沙！既非以前所作者，即更再多說。」

一〇

「唯然！世尊！」尊者婆耆沙奉答世尊，即說更多偈讚世尊：

勝惡魔邪路	行破諸障礙
結縛切斷者	分別說清法
我等度瀑流	說示種種道
於所說不死	我等法見者
樹立不運去	貫串光作者
過一切見處	以見於涅槃
自知並自證	其最上之法
我等說十處	於所善說法
知法之學者	無放逸餘地
依此世尊法	常在不放逸
禮敬而修學	

〔九〕第九 憍陳如

一

爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

時，尊者阿若憍陳如，甚久始詣世尊處。詣而五體投地於世尊足，以口接吻世尊之足，手磨而呼自名曰：「世尊！我是憍陳如；善逝！我是憍陳如。」

三

時，尊者婆耆沙如是思念：「此尊者阿若憍陳如，甚久始詣世尊處，詣而五體投地於世尊之足，以口接吻世尊之足，手磨自呼名曰：『世尊！我是憍陳如；善逝！我是憍陳如。』今尊者阿若憍陳如，於世尊面前，我以適當之偈讚歎。」

四

時，尊者婆耆沙，即從座起，一肩著衣，合掌禮世尊，以此白世尊曰：「世尊！我湧思念；善逝，我湧思念。」

五

世尊曰：「婆耆沙！請說。」

六

時，尊者婆耆沙對尊者阿若憍陳如，於世尊面前，以適當之偈讚曰：

上座憍陳如	隨順佛所證
虔誠出離者	屢屢快樂於
遠離之樂住	行如師之教
弟子之所達	學於不放逸
一切以達此	有具大威力
到達於三明	巧於他心智
法嗣憍陳如	今頭禮師足

〔一〇〕第十 目犍連

一

爾時，世尊與五百比丘眾，俱住王舍城伊師耆利山側黑曜巖，皆是阿羅漢。時，尊者大目犍連，以驗彼等之心，解脫而無億波提。

二

時，尊者婆耆沙作如是思念：「今世尊與五百比丘眾，俱住王舍城伊師耆利山側黑曜巖，皆是阿羅漢。尊者大目犍連，以驗彼等之心，悉解脫而無億波提。今尊者大目犍連於世尊之前，我以適當之偈讚歎。」

三

時，尊者婆耆沙，即從座起，一肩著衣，合掌禮世尊，以此白世尊曰：「世尊！我湧思念；善逝！我湧思念。」

四

世尊曰：「婆耆沙！請說。」

五

時，尊者婆耆沙對尊者大目犍連，於世尊面前，以適當之偈讚曰：

達苦惱彼岸	坐山側聖者
勝死達三明	弟子等禮敬
大神力目連	驗他諸人心
彼等心解脫	知無有餘依
達苦惱彼岸	具足一切支
成滿種種相	彼禮敬瞿曇

〔一一〕第十一 伽伽羅池

一

爾時，世尊住瞻波伽伽羅之蓮池岸邊。有五百比丘眾，七百優婆塞，七百優婆夷，數千之諸天俱，世尊依其光顏，依其名聲，光輝勝越彼等。

二

時，尊者婆耆沙作如是思念：「今世尊住瞻波伽伽羅之蓮池岸邊。有五百比丘眾，七百優婆塞，七百優婆夷，數千之諸天俱。世尊依其光顏，依其名聲，光輝勝越彼等。今於世尊面前，我以適當之偈讚歎。」

三

時，尊者婆耆沙即從座起，一肩著衣，合掌禮世尊，以此白世尊曰：「世尊！我湧思念；善逝！我湧思念。」

四

世尊曰：「婆耆沙！請說。」

五

時，尊者婆耆沙於世尊面前，以適當之偈讚曰：

如無雲空月 無雲太陽耀
鳶耆羅牟尼 榮光耀世界

〔一二〕第十二 婆耆沙

一

爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

其時，尊者婆耆沙，得阿羅漢果不久，耽味於解脫樂，其時，唱此偈曰：

我昔耽作詩	村莊市里遊
時見正覺者	我於生正信
佛陀為我說	蘊處界等法
我聞如是法	無家而出家
實於聖者見	入其道之道
比丘比丘尼	利益成正覺
我來於佛前	實是善來者
到達於三明	遂行如佛教
我得清天眼	以知於宿命
得三明神通	巧知於他心

此唄陀南：

出離與不快	輕蔑溫和者
阿難與善說	舍利弗自恣
千人之以上	憍陳如目連
及伽伽羅池	依於婆耆沙
總數為十二	

第九 森林相應

第一 葦品

〔一〕第一 遠離

一

如是我聞。爾時，有比丘住拘薩羅國之茂林。

二

其時，彼比丘，去往日住，至住家，起惡不善之思。

三

時，住彼森林之天神，憐憫彼比丘，欲警覺此比丘，令思有益，而接近此比丘。

四

近而以偈語此比丘曰：

入森求遠離	汝心走外界
對人與滅欲	離貪欲心安
除不快正念	我等讚善人
地獄塵難除	勿運渴愛塵
如鳥浴沙泥	挺身羽塵落
如是之比丘	於正念正勤
拂落沾身塵	

五

時，彼比丘受天神所警策而起驚惶。

〔二〕第二 看護

一

爾時，有比丘住拘薩羅國之茂林。

二

其時，彼比丘去往日住而睡眠。

三

時，住於林中之一天神，憐憫比丘，欲警覺彼比丘，令思有益，以詣比丘之處。

四

詣已以偈語彼此丘曰：

比丘當醒起	何故而睡臥
睡眠有何益	有病毒箭射
煩惱人何眠	依信而出家
身為無家者	始增養其信
勿陷睡眠域	

五

〔比丘：〕	樂欲無常滅	癡漢迷醉此
以解脫結縛	出家無所著	
眠之何故責	解脫滅貪欲	
以超過無明	其智已清淨	
如是之出家	何故受見責	
依明破無明	以滅盡諸漏	
無憂亦無悶	如是之出定	
何故受見責	精進而不撓	
冀望於涅槃	常勇猛精進	

如是之出家 何故受見責

〔三〕迦葉（獵夫）

一

爾時，尊者迦葉住拘薩羅國之茂林。

二

其時，尊者迦葉去往日住，教誡一獵夫。

三

時住彼林中有一天神，憐憫尊者迦葉，欲警覺尊者迦葉，令思有益，來至尊者迦葉處。

四

到已，而以偈語尊者迦葉曰：

往山嶮獵師	無智無心者
非為教誡時	我見如癡漢
彼聞亦不悟	連見亦不見
雖然與語法	愚者不悟義
迦葉猶如與	十指之光明
彼不見物形	因無眼可見

五

時，尊迦葉，依其天神之警覺而驚起。

〔四〕第四 多數（遊）方者

一

爾時，眾多比丘住拘薩羅國之茂林。

二

時彼等諸比丘，渡過雨期三月，之後而外出遊方。

三

時，住彼林中有一天神，不見彼等諸比丘，而心生悲，其時以唱此偈曰：

多見空居座 我今心不樂
多聞美說者 瞿曇弟子等
已從何處去

四

如是言已，其他之天神，以偈語其天神曰：

或者摩揭陀 或者拘薩羅
或者往跋耆 如無係蹄鹿
比丘等無家 而能自在住

〔五〕第五 阿難

一

爾時，尊者阿難住拘薩羅國之茂林。

二

其時，尊者阿難多說在家諸事而住。

三

時住彼林中一天神，憐憫尊者阿難，欲警覺尊者阿難，令思有益。來至阿難之處說偈曰：

入樹下居住 潛心於涅槃
瞿曇禪思之 勿為於放逸
以行於雜談 與汝有何用

四

時，尊者阿難受天神之警覺而驚起。

〔六〕第六 阿那律

一

爾時，尊者阿那律住拘薩羅國之茂林。

二

時，尊者阿那律俗家之妻，為三十三天天神之闍利仁，來詣尊者阿那律處。

三

詣已以偈語阿那律曰：

請卿來此住 具一切愛欲
以發起志願 生於忉利天
而嘗天妃擁 圍繞耀光輝

四

〔阿那律：〕 滯著有身見 天女等之禍
天女之所得 人人亦成禍

五

〔闍利仁：〕為世所稱讚 忉利天住家
不見歡喜園 非知快樂事

六

〔阿那律：〕愚者汝不知 佛之所宣說
一切行無常 皆為生滅性
生者而又滅 此等之寂靜
始是真快樂 闍利仁天界
我無受住家 越過此輪迴
從今無他生

〔七〕第七 那伽達多

一

爾時，尊者那伽達多住拘薩羅國之茂林。

二

其時，尊者那伽達多於清晨，趁早入村，過午後則遲歸林中。

三

時，住彼林中一天神，憐憫尊者那伽達多，欲警覺尊者那伽達多，令思有益，來到尊者那伽達多處。

四

到已，以偈語尊者那伽達多曰：

那伽達多友 汝過早入村
日遲始歸林 與在家人交
同以為苦樂 我那伽達多
惟恐過大膽 與在家人交

力強之死王 將落惡魔領

五

時，尊者那伽達多，依天神之警覺而驚起。

〔八〕第八 家婦

一

爾時，一比丘住拘薩羅國之茂林。

二

其時，有一比丘多住於在家。

三

時，彼林住一天神，憐憫其比丘、欲警覺其比丘，令思有益，到其家中化作家婦，到其比丘處。

四

到已，以偈告彼比丘曰：

河之岸或者	市門之閑場
集會堂等地	街頭或市集
私議汝與妾	原來為何故

五

〔比丘：〕	世多不快語	苦行者堪忍
不因此焦心	不因此痛苦	
如風怖林鹿	其聲亦驚人	
若謂輕其心	修行不成就	

〔九〕第九 跋耆子（毘舍離）

一

爾時，有跋耆子比丘，住毘舍離之茂林。

二

時，毘舍離整夜行祭事。

三

時，其比丘聞毘舍離器樂、聲樂之騷音而嘆息，其時以唱
偈曰：

如棄林木材 我等獨住森
實則如是夜 誰比我等幸

四

時，彼林住一天神，憐憫此比丘，欲警覺此比丘，令思有
益，來到此比丘之處。

五

到已，以偈語此比丘曰：

若棄林木材 汝雖獨住森
眾多人羨汝 猶如墮獄者
羨慕生天者

六

時，此比丘受其天神之警覺而起驚。

〔一〇〕第十 誦經（法）

一

爾時，有比丘住拘薩羅國之茂林。

二

其時，此比丘，以往甚勤誦經，今則不勤，默然而坐。

三

時，住彼林中天神，不得復聞此比丘之法，來到比丘之處。

四

到已，而以偈語此比丘曰：

比丘汝何故 今交諸比丘
不誦法句耶 人聞得歡喜
現在得稱讚

五

〔比丘：〕依離欲至果 前望於法句
今依離至果 見聞思何物
依智慧捨棄 善人是為教

〔一一〕第十一 不正思惟（思惟）

一

爾時，有比丘住拘薩羅國之茂林。

二

時，彼比丘去往日住，起惡不善覺，即欲覺、瞋覺、害覺。

三

時，住其林中一天神，憐憫此比丘，欲警覺此比丘，令思有益，來到此比丘之處。

四

到已，以偈語比丘曰：

汝依不正思	醉不善覺想
捨不正思惟	以為正思惟
對於師法僧	勿從戒退轉
汝斯達歡喜	無疑得喜樂
從此歡喜多	應盡諸苦惱

五

時，此比丘依天神之警覺而起驚。

〔一二〕第十二 中午（鳴動）

一

爾時，比丘住拘薩羅國之茂林。

二

時，住其林一天神，來到比丘之處。

三

到已，走近此比丘，以言偈曰：

在日之炎盛 鳥停枝不動
大林聲鳴放 恐怖以襲我

四

〔比丘：〕在日之炎盛 鳥停枝不動
大林聲鳴放 我滿其快樂

〔一三〕第十三 不制御根（多比丘）

一

爾時，眾多比丘住拘薩羅國之茂林。掉舉、心亂、輕騷、
絮叨而多無聊語、妄念不正知、心不靜、散亂、諸根不制御。

二

時，住其林之天神，憐憫此比丘等，欲警覺彼等諸比丘，
令思有益，來到此比丘等處。

三

到已，而以偈語彼等諸比丘曰：

往昔瞿曇之	弟子比丘等
安樂而其住	心無求乞食
心無求而住	知世之無常
彼等苦惱盡	如今比丘等
以惡向自己	如村長於村
心為他富奪	餐食而寢臥
於僧不合掌	此有人禮我
然而被遺棄	無主之人眾
猶如諸死屍	我對放逸者
其眾人以語	於不住放逸
人人我歸依	

四

時，彼等諸比丘依天神之警覺而起驚。

〔一四〕第十四 紅蓮（白蓮）

一

爾時，一比丘住拘薩羅國之茂林。

二

時，此比丘食後收鉢，入於蓮池，以嗅紅蓮之香。

三

時，住彼林一天神，憐憫此比丘，欲警覺此比丘，令思有益。來到比丘處。

四

到已，以偈語其比丘曰：

此水所生花 不予汝嗅聞
此亦一盜者 汝盜香花人

五

〔比丘：〕不取又不折 離而嗅蓮香
如何汝云我 是花香盜人
以掘其根頭 或餐其蓮莖
如是行暴人 何故汝不云

六

〔天神：〕如下婢污衣 不淨粗暴人

我不言此語 云汝則相應
無有罪污穢 常求清淨人
惡如毛毫端 見猶天雲大

七

〔比丘：〕夜叉我知汝 又以哀憐我
以如是見時 夜叉又語我

八

〔天神：〕我非靠汝生 亦非指為惡
比丘汝自己 不得為不知
如何去善趣

九

時，此比丘依天神之警覺，而起驚。

此唄陀南：

遠離與看護 迦葉與多數
阿難阿那律 及那伽達多
家婦跋耆子 毘舍離誦經
不正思午日 及不制御根
紅蓮等十四

第十 夜叉相應

〔一〕第一 因陀迦

一

爾時，世尊住王舍城，因陀峰山，因陀夜叉之住處。

二

時，因陀迦夜叉來詣世尊處。詣而以偈白世尊曰：

諸佛說此色非命 然則如何命在身
此骨與肉何處來 如何此生住母胎

三

〔世尊：〕初有迦羅邏 由此迦羅邏
而有阿部曇 由此阿部曇
由生穴肉生 穴肉生堅肉
由堅肢節生 生髮及毛爪
如是母以取 飲料及食物
住於母胎者 依此而生長

〔二〕第二 釋羅

一

爾時，世尊住王舍城靈鷲山。

二

時，名釋羅夜叉，來詣世尊處。詣已以偈白世尊曰：

卿離一切縛 解脫之沙門
教化其他者 非卿之所為

三

〔世尊：〕釋羅與眾交 無論之形態
非相應智人 唯傾心同情
以是寂靜心 雖教化於他
亦不為所縛 唯同情愛憐

〔三〕第三 針毛

一

爾時，世尊住伽耶之石牀，針毛夜叉之住處。

二

時，怯羅夜叉與針毛夜叉路過世尊近處。

三

時，怯羅夜叉告針毛夜叉曰：「此是沙門。」

四

「不！此非沙門，是小沙門。至少知彼是沙門耶！小沙門耶！〔暫〕為小沙門。」

五

時，針毛夜叉來詣世尊處。詣已，以身碰世尊。

六

時，世尊將身閃避。

七

時，針毛夜叉，以此白世尊：「沙門！恐怖我耶？」

八

「不！友！我非恐怖，然而，與汝相觸，總非善事。」

九

「沙門！我問汝，汝若不能說明，汝當亂心，當破汝之心臟，取汝之兩腳，投諸恒河之彼岸。」

一〇

「不！友！我於包括天界、魔界、梵天界之世界，於沙門、婆羅門人天之眾中，不見我心亂、破我心臟，取兩腳投諸恒河彼岸者。然而，友！欲者先問。」

一一

貪欲與瞋恚	以何為因起
快不快恐怖	又從何因生
猶如童子等	放其縛足鳥
心想何處起	

一二

〔世尊：〕	貪欲與瞋恚	當由渴愛起
快不快恐怖	悉由自己生	
猶如童子等	放其縛足鳥	
心想由此起	身從渴愛生	
尼俱律陀樹	其幹由根生	
凡夫著愛欲	如徧林蔓草	
知其生因者	則以滅此因	
諦聽之夜叉	彼等前來渡	
難渡渡瀑流	無有受再生	

〔四〕第四 摩尼跋陀

一

爾時，世尊住摩揭陀國，摩尼摩羅迦制底之摩尼跋陀夜叉住處。

二

時，摩尼跋陀夜叉來詣世尊處。詣已，於世尊處說此偈曰：

常於正念人幸福 以持正念得安樂
正念明日猶言祥 彼解脫一切憤怒

三

〔世尊：〕常於正念人幸福 以持正念得安樂
正念明日猶吉祥 然彼不解一切怒
是心日夜樂不害 以慈悲一切有情
於彼無有任何怒

〔五〕第五 左奴

一

爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時有優婆夷名左奴之子，為夜叉所魅惑。

三

時，優婆夷嘆息，而唱此等偈曰：

我常聞如是	阿羅漢宣說
我常聞如是	阿羅漢宣說
然則今日我	見夜叉魅弄
左奴為何事	十四十五日
半月第八日	得神變分日
奉持八齋戒	以住於布薩
以行於梵行	夜叉不能魅
我聞羅漢說	然我今日見
夜叉魅左奴	此乃為何事

四

〔夜叉：〕	十四十五日	半月第八日
得神變分日	奉持八齋戒	
以住於布薩	以住梵行者	
夜叉不能魅	我聞羅漢說	
左奴若醒覺	以此可語汝	
此乃夜叉語	不分公與私	
勿行任何惡	若作惡業者	
又若為欲為	如鳥躍上逃	
難逃汝苦惱		

五

〔左奴：〕	人皆哭死人	生別時亦哭
我活活於此	母何故泣我	

六

〔優婆夷：〕	人皆泣子死	生別時亦哭
然一度離欲	而且又歸來	
亦以哭其子	其生亦似死	
子汝出燼炎	願不再墮燼	
愛子出地獄	希不再入獄	
逃離為幸福	誰此語我等	
盛火出家貨	汝欲再燒耶	

〔六〕第六 夜叉童子

一

爾時，尊者阿那律住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時，尊者阿那律，黎明即起，以誦法句。

三

時，夜叉童母之夜叉女，如是告其子曰：

美哉迦羅汝	勿騷作音聲
比丘誦法句	我若知法句
以如是行者	乃我等利益
切勿殺生物	知而勿妄語
自己行善戒	我等脫鬼胎

〔七〕第七 富那婆藪

一

爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

其時，世尊就有關涅槃，說法教示、利益、鼓勵比丘等。
彼等諸比丘、深切注意、虔誠、心意集中、傾耳諦聽。

三

時，富那婆藪母之夜叉女，以言告其子等：

靜默鬱多羅	富那婆當默
我暫聞思惟	無上佛師教
世尊說涅槃	解脫諸結縛

我甚愛此法	世我子可愛
世我夫可愛	然而求此法
有勝過此等	子夫雖可愛
不能脫苦惱	聽聞正法者
令人解苦惱	於世敗此惱
迷之於老死	為解脫老死
證悟於正法	我願聞此法
富那婆當默	

四

〔富那婆藪：〕	母我乃不語	靜默鬱多羅
傾耳於法者	聞法為快樂	
因不知正法	母我迷苦惱	
此乃與迷於	人天光輝者	
最後身佛陀	有眼今說法	

五

〔夜叉女：〕	善哉如是語	我子寢我懷
我子乃賢哉	我子今愛樂	
無上佛所說	無染淨白法	
子富那婆藪	我今日心安	
解脫於輪迴	以見於聖諦	
我子鬱多羅	汝亦聞於我	

〔八〕第八 須達多

一

爾時，世尊住王舍城之寒林。

二

其時，給孤獨長者，有事到王舍城。

三

給孤獨長者聞「佛實出現於世。」欲往拜見世尊。

四

時，給孤獨長者作如是思惟：「今日欲往拜見世尊，時已過遲。明日適時當始往拜見世尊。」則念佛而臥。其夜曾三度以為天亮而起身。

五

時，給孤獨長者來到墓地之門，諸天則開其門。

六

時，給孤獨長者走出市鎮，當離去時，光滅而暗，恐怖戰慄，毛髮豎立。長者就此欲退返。

七

時，尸婆迦夜叉來現其形，只令聞聲：

百象與百馬	又百之驢車
百千之女亦	裝摩尼耳環
於此行一步	不值十六一
行進之長者	行進之長者
行進始能近	退避當用脚

八

時，給孤獨長者，暗滅光現、毛髮豎立之恐怖戰慄亦靜止。

九

二度……乃至……

一〇

給孤獨長者，三度光滅而暗，恐怖戰慄，毛髮豎立。長者又欲從此而退返。三度尸婆迦夜又不現其形，只令聞其聲……乃至……

一一

時，給孤獨長者，暗滅光現，毛髮豎立之恐怖戰慄亦靜止。

一二

時，給孤獨長者，來詣寒林於世尊住處。

一三

其時，世尊於夜曉起身，在露地經行。

一四

世尊見給孤獨長者從遠而來，見已下經行處，即坐所設座，坐已，世尊以此言給孤獨長者曰：「來！須達多。」

一五

時，給孤獨長者：「世尊按名呼我。」於此，即於世尊足下，五體投地而白曰：「世尊！輕安而眠耶？」

一六

〔世尊：〕煩惱火悉消 婆羅門安眠
不著於愛欲 清涼無所依
斷一切執著 調伏心苦惱

寂靜輕安寢 是達心寂靜

〔九〕第九 叔迦羅（一）

一

爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

其時，叔迦羅比丘尼，為被大眾圍繞而說法。

三

時，集叔迦羅比丘尼之信樂夜叉，於王舍城從此街至彼街，從此路至彼路，以說此偈曰：

王舍城人眾	為何而居耶
猶如於甘酒	或醉於臥倒
以侍叔迦羅	比丘尼所說
甘露之道足	無混濁甘液
於此飲至再	飲之不為飽
思智慧人飲	如渴旅人雨

〔一〇〕第十 叔迦羅（二）

一

爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

其時，有優婆塞施食於叔迦羅比丘尼。

三

時，叔迦羅比丘尼之信樂夜叉，於王舍城從此街至彼街，
從此路至彼路，以唱此偈曰：

悉解脫結縛 施食叔迦羅
實賢優婆塞 彼得多功德

〔一一〕第十一 毘羅

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

其時，有優婆塞施衣於毘羅比丘尼。

三

時，毘羅比丘尼之信樂夜叉，於王舍城從此街至彼街，從
此路至彼路，以唱此偈曰：

脫一切縛輓 施衣予毘羅
實賢優婆塞 彼得多功德

〔一二〕第十二 阿羅毘

一

如是我聞。爾時，世尊住阿羅毘之阿羅婆迦夜叉住居。

二

時，阿羅婆迦夜叉、白世尊曰：「沙門！出去。」「是！
友。」世尊便出去。「沙門！進來。」「是！友。」世尊便進
來。

三

再度〔……乃至〕……

四

阿羅婆迦夜叉，如此三度白世尊：「沙門！出去。」……
〔乃至〕……「是！友。」世尊便進來。

五

阿羅婆迦夜叉，四度白世尊：「沙門！出去。」

六

「不！友，我不應出去，由汝所欲為。」

七

「沙門！我且問汝，汝若不能答我者，我以汝心亂，破汝心臟，取汝兩腳，投諸恒伽河之彼岸。」

八

「不！友！我於包括天界，魔界，梵天界之世界，於含括沙門、婆羅門、人天之眾中，不見以我心亂，破我心臟，取我兩腳、投諸恒伽河之彼岸者。然而汝若欲問則問。」

九

〔夜叉：〕於此世間人 何為最勝富
以善修何物 齋得以安樂
何物味最上 云何之生活
為最勝生活

一〇

〔世尊：〕此世信最富 修善最安樂
真實最上味 智慧之生活
謂最勝生活

一一

〔夜叉：〕如何渡瀑流 如何渡大海
如何超苦惱 如何為清淨

一二

〔世尊：〕依信渡瀑流 不逸渡大海
精進超苦惱 依智慧清淨

一三

〔夜叉：〕如何得智慧 如何以得富
如何以得譽 如何而結友
此世行彼世 如何得不悲

一四

〔世尊：〕以信阿羅漢 聞達涅槃法
不逸分別者 當得於智慧
如實堪重荷 精進者得富
語真實得譽 布施友不離
是為由此世 無悲往彼世
求居亦信仰 真實與調順
堅實與捨離 具此四法者
死而無有悲 此世往彼世
亦無有悲事 有疑問其他
沙門婆羅門 真實與調順
堪忍與捨離 此世有勝者

一五

〔夜叉：〕今何問其他 沙門婆羅門
我已於今日 得知未來利
佛實為於我 來於阿羅毘
我今施其人 知有大果事
我今致禮敬 正覺法善性
由村以至村 遊方邑至邑

此唄陀南：

田陀迦與釋羅 針毛摩尼跋陀
左奴童子夜叉 那婆藪須達多
有二之叔迦羅 毘羅與阿羅毘

第十一 帝釋相應

第一 帝釋品

〔一〕第一 須毘羅

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

世尊於此言諸比丘：「諸比丘！」彼等諸比丘奉答世尊：「唯然！世尊！」

三

世尊以此宣說：

四

「諸比丘！遠昔阿修羅攻擊諸天。諸比丘！時天帝釋呼須毘羅天子：『愛子須毘羅！今此等阿修羅攻擊諸天。愛子須毘羅！汝往迎討阿修羅！』諸比丘！須毘羅天子奉答天帝釋：『唯然！尊者。』而耽於放逸。」

五

諸比丘！……再度〔乃至〕

六

諸比丘！天帝釋三度呼須毘羅天子：『愛子須毘羅！此等阿修羅，今攻擊諸天。愛子須毘羅！汝往迎討阿修羅。』諸比丘！『唯然！尊命。』須毘羅天子奉答天帝釋，而耽於放逸。

七

諸比丘！時天帝釋，以偈語須毘羅天子：

無勵無勤勉 達安樂處者
須毘羅前往 我亦往其處

八

〔須毘羅：〕懶惰無勤勉 不為所應為
一切愛欲繁 示其最勝處

九

〔帝釋：〕懶惰無勤勵 得無限樂者
須毘羅去住 我亦往其處

一〇

〔須毘羅：〕我天主帝釋 無作悲絕望
得安樂道者 示其最勝道

一一

〔帝釋：〕若是無所作 決無有老者
此實涅槃道 須毘羅去住
我亦往其處

一二

諸比丘！其實天帝釋，自生功德果報，以統理忉利天，應是勤勉精進之稱讚者。諸比丘！汝等於此，於此善說之法與律

出家。未達者為達，未到者為到，未實現者為實現而勤勉、奮勵、精進者，汝等能顯耀此事。」

〔二〕第二 須師摩

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

世尊於此，言諸比丘：「諸比丘！」彼等諸比丘奉答世尊：「唯然！世尊。」

三

世尊以此宣說：

四

「諸比丘！遠昔阿修羅攻擊諸天。諸比丘！時天帝釋呼須師摩天子：『愛子須師摩！此等阿修羅，今攻擊諸天，愛子須師摩！汝往迎討阿修羅。』須師摩天子奉答天帝釋：『唯然！尊者。』而耽於放逸。

五

諸比丘！再度……〔乃至〕……

六

諸比丘！天帝釋三度呼須師摩天子：『愛子須師摩！此等阿修羅，今攻擊諸天。愛子須師摩！汝往迎討阿修羅。』諸比

丘！須師摩天子奉答天帝釋：『唯然！尊者。』而耽於放逸。

七

諸比丘！時天帝釋，以偈語須師摩天子：

無勵無勤勉 達安樂處者
須師摩去往 我亦往其處

八

〔須師摩：〕懶惰無勤勵 不為所應為
一切愛欲繁 示其最勝處

九

〔帝釋：〕懶惰無勤勵 得無限樂者
須師摩去往 我亦往其處

一〇

〔須師摩：〕我天主帝釋 無作悲絕望
得安樂道者 示其最勝道

一一

〔帝釋：〕若是無所作 決無有老者
此實涅槃道 須師摩去往
我亦往其處

一二

諸比丘！其實天帝釋，自生功德果報，以統理忉利天，應是努力精進之稱讚者。諸比丘！汝等於此，於此善說之法與律出家，未達者為達，未到者為到，未實現者為實現而努力、奮勵、精進者，汝等能顯耀此事。」

〔三〕第三 旗尖

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

其時，世尊言諸比丘：「諸比丘！」諸比丘奉答世尊：「唯然！世尊。」

三

世尊以此宣說：

四

「諸比丘！遠昔天與阿修羅挑起戰爭。

五

諸比丘！時天帝釋呼忉利諸天：『友！若赴天部之戰，起毛髮豎立之恐怖、戰慄者，汝等當看我旗尖！汝等若看我旗尖者，起毛髮豎立之恐怖、戰慄當可去除。』

六

汝等若不看我旗尖者，則看波闍波提天王之旗尖。汝等若看波闍波提天王之旗尖者，起毛髮豎立之恐怖、戰慄當可去除。

七

汝等若不看波闍波提天王之旗尖者，則看婆羅那天王之旗尖……〔乃至〕……

八

汝等若不看婆樓那天王之旗尖者，則看伊舍那天王之旗尖。汝等若看伊舍那天王之旗尖者，起毛髮豎立之恐怖、戰慄當可去除。』

九

諸比丘！若看天帝釋之旗尖、波闍波提天王之旗尖、婆樓那天王之旗尖、伊舍那天王者，或可去除；或未可去除其起毛髮豎立之恐怖、戰慄。

一〇

何以故？天帝釋未離貪、未離瞋、未離癡、有膽怯病而戰慄、恐怖，是逃避者。

一一

諸比丘！我亦語如是：『汝等或往森林，或於樹下，或入空屋而起毛髮豎立之恐怖、戰慄者，其時當念我！彼世尊是應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上師、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

一二

諸比丘！汝等若憶念我者，當可去除其起毛髮豎立之恐怖、戰慄。

一三

若不憶念我者，則以憶念法，法乃由世尊之所善說者。有現在果報、不隔時，當得云來見者，導引於涅槃者，是有識之士之各自所當知。

一四

諸比丘！汝等若憶念法者，當可去除其起毛髮豎立之恐怖、戰慄。

一五

若不憶念法者，則憶念僧伽。世尊之弟子僧伽乃善行者。世尊之弟子僧伽乃真正行者。世尊之弟子僧伽乃正道行者。世尊之弟子僧伽乃可尊教之修行者。即四雙八輩是。此世尊之弟子僧伽值得供養、值得尊敬、值得布施、值得合掌禮拜、是世間無上福田。

一六

諸比丘，若憶念僧伽者，當可去除其起毛髮豎立之恐怖、戰慄。

一七

何以故？諸比丘！如來、應供、等正覺者，乃離貪、離瞋、離癡、無膽怯、無戰慄、無恐怖、無逃避者。」

一八

世尊如此宣說。善逝說已、師更宣說次偈曰：

林中或樹下 孤寂場所時
諸比丘思念 正等正覺者

汝等無恐怖 若是世間主
人中之牛王 不憶念佛者
則憶念善說 導引涅槃法
不憶念善說 導於涅槃法
則憶念僧伽 無上之福田
如是佛法僧 若以憶念者
比丘等恐怖 汝等當無有
毛髮之豎立

〔四〕第四 吠波質底（忍辱）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園……

二

世尊宣說於此：

三

「諸比丘！遠昔有天與阿修羅之戰。

四

時，諸比丘！吠波質底阿修羅王呼阿修羅：『友！若諸天與阿修羅激戰時，阿修羅勝，天敗者，當以五縛其綱縛天帝釋之頸，捉來阿修羅城我處。』

五

諸比丘！天帝釋亦呼忉利天之諸天：『友！天與阿修羅激戰時，天勝，阿修羅敗者，當以五縛縛其吠波質底阿修羅王之頸，捉來正法殿我處。』

六

諸比丘！其戰，天勝，阿修羅敗也。

七

諸比丘！時忉利諸天，以五縛縛吠波質底阿修羅王之頸，
捉來正法殿之天帝釋處。

八

諸比丘！於此以五縛縛吠波質底阿修羅王之頸、入正法殿
而又走出，並以激烈之惡語誹謗天帝釋。

九

諸比丘！時御者摩多利，以偈語天帝釋曰：

聞吠波質底 當面激惡語
帝釋摩怯婆 忍乃恐怖耶
或力不足故

一〇

〔帝釋：〕忍吠波質底 非慮力不足
如我之識者 何與愚者競

一一

〔摩多利：〕然若不止者 愚者益招猛
是故重刑罰 智者止愚人

一二

〔帝釋：〕於我之思惟 以止禁愚者
以知其他怒 寂靜於正念

一三

〔摩多利：〕婆沙婆此忍 我見為過失
愚人恐怖我 以為是忍他
如使牛逃者 必愈益猛追
愚人益增長

一四

〔帝釋：〕以忍為恐懼 欲思則令思
己利勝者中 無有勝忍辱
有力忍無力 此云最勝忍
無力人常忍 謂無力之力
其力愚人力 有力護於法
無須要反駁 忿者還與忿
更是為惡事 忿者不還忿
激戰得二度 最大之勝利
知他之忿怒 正念靜己人
自己以及他 雙方之醫師
唯無知法者 其人為愚者

一五

諸比丘！天帝釋自生功德果報，統理忉利之諸天，猶為忍辱、柔和之稱讚者。

一六

諸比丘！就此汝等於如是善說法與律出家，忍辱而柔和者，則能輝耀此事。」

〔五〕第五 善語之勝利

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！遠昔天與阿修羅激戰。

三

時，諸比丘！吠波質底阿修羅，以此謂天帝釋曰：『諸天王！善語致勝利！』『吠波質底！善語致勝利！』

四

諸比丘！時天與阿修羅，於其會眾應知誰是善語、惡語者。

五

諸比丘！時吠波質底阿修羅王，以此謂天帝釋：『帝釋！唱偈！』

六

諸比丘！如是言已，天帝釋以此謂吠波質底阿修羅王：『吠波質底！汝往昔於此是天。吠波質底！請說偈！』

七

諸比丘！如是言已，吠波質底阿修羅王，以說此偈：

若不止禁者 愚人益招猛
是故重刑罰 智者止愚人

八

諸比丘！吠波質底阿修羅王語此偈時，阿修羅歡呼，諸天則默然。

九

諸比丘！其時吠波質底阿修羅王，以此謂天帝釋：『帝釋！唱偈！』

一〇

諸比丘！如是言已，天帝釋唱此偈：

於我之思惟 以止禁愚者
以知其他怒 寂靜於正念

一一

諸比丘！天帝釋唱此偈時，諸天歡呼，阿修羅默然。

一二

諸比丘！時天帝釋以此謂吠波質底阿修羅曰：『吠波質底！唱偈！』

婆娑婆此忍 我見為過失
愚人恐怖我 以為是忍他
如使牛逃者 必增益猛迫
愚人益增長

一三

諸比丘！又吠波質底阿修羅王唱此偈時，阿修羅歡呼，諸天默然。

一四

諸比丘！時吠波質底阿修羅王，以此謂天帝釋：『帝釋！
唱偈！』

一五

諸比丘！如是言已，天帝釋唱此偈：

以忍為怖畏	欲思則令思
己利勝者中	無有勝忍辱
有力忍無力	此云最勝忍
無力人常忍	謂無力之力
其力愚人力	有力護於法
無須要反駁	忿者還與忿
更是為惡事	忿者不還忿
激戰得二度	最大之勝利
知他之忿怒	正念靜己人
自己以及他	雙方之醫師
唯無知法者	其人為愚者

一六

諸比丘！天帝釋唱此偈時，諸天歡呼，阿修羅默然。

一七

諸比丘！諸天與阿修羅之會眾，於此謂曰：

一八

『吠波質底阿修羅王所語之偈語，屬於力、劍、爭、不和
與激戰。』

一九

『天帝釋之偈語、非屬力、劍、爭、不和、激戰。勝利在於天帝釋之有善語。』

二〇

諸比丘！勝利在於天帝釋之致善語。」

〔六〕第六 鳥巢

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！遠昔天與阿修羅之激戰。

三

諸比丘！於其戰阿修羅勝，而諸天敗。

四

諸比丘！戰敗之諸天向北逃走，阿修羅隨後追逐。

五

諸比丘！時天帝以偈告御者摩多利。

摩多利辛巴利 車轅避鳥之巢
唯無此等鳥巢 喜奪命於修羅

六

御者摩多利答天帝釋：『唯然！尊者。』則以繫千頭駿馬之車輛回頭反馳。

七

諸比丘！時阿修羅如是思惟：『天帝釋今以繫千頭駿馬返車輛回頭反馳。諸天則再戰阿修羅。』恐怖而入阿修羅宮殿。

八

諸比丘！如是天帝釋依法乃有勝利。」

〔七〕第七 無譎詐

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！遠昔天帝釋，獨居靜坐，而如是起心念：『我即使對敵，亦不譎詐。』

三

諸比丘！時吠波質底阿修羅王知天帝釋心之所念，來到天帝釋處。

四

諸比丘！天帝釋見吠波質底阿修羅王從遠而來。以此言吠波質底阿修羅王：『吠波質底站住！汝已被捕。』

五

『友！勿捨以前汝心之所念。』

六

『吠波質底！我不譎詐，可得對汝明誓。』

七

〔吠波質底：〕以言虛妄者 必定有惡報
誹謗於聖者 必定有惡報
於友不實者 必定有惡報
不知恩惠者 亦定有惡報
舍脂鉢底汝 詐者有惡報」

〔八〕第八 毘留奢那阿修羅王

一

舍衛城因緣。

二

時，世尊日中入室靜觀。

三

時，天帝釋與毘留奢那阿修羅王詣世尊之處。詣已，各依門之兩側而立。

四

時，毘留奢那阿修羅王，於世尊前說此偈曰：

至達其利止 人不無勉勵
輝耀達其利 毘留奢那語

五

〔帝釋：〕至達其利止 人不無勉勵
輝耀達其利 無勝忍辱者

六

〔毘留奢：〕眾生應其分 各依必要來
如美味合飯 悉足樂人人
輝耀達其利 毘留奢那語

七

〔帝釋：〕眾生應其分 各依必生來
如美味合飯 悉足樂人人
輝耀達其利 無勝忍辱者

〔九〕第九 森林聖者（香）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！遠昔甚多聖者，持戒而具優美性質，集森木之
葉葺小屋而住。

三

諸比丘！時，天帝釋與吠波質底阿修羅王，來到持戒而具
優美性質之聖者處。

四

諸比丘！時吠波質底阿修羅王，穿革履背劍，持傘，從正門而入小屋，冒犯侮蔑其聖者等。

五

諸比丘！時天帝釋脫革履，令他人持劍，收傘由側門入，立於彼等持戒善性之聖者等下方，合掌禮敬而立。

六

諸比丘！時彼等持戒善性之聖者等，以偈語天帝釋：

長修聖者香 身出風吹行
千眼者此去 此聖者之香
天王為不淨

七

〔帝釋：〕長修聖者香 身出風吹行
如種種花編 頭上之花鬘
大德我等乃 愛此等之香
此無厭諸天」

〔一〇〕第十 海邊聖者（參婆羅）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！遠昔持戒具優美性質之甚多聖者，集海岸之木葉葺小屋而住。

三

諸比丘！其時天與阿修羅又行激戰。

四

諸比丘！時其持戒善性之聖者等生思念：『諸天如法阿修羅不如法。我等從阿修羅起恐怖亦不知。我寧可到參婆羅阿修羅王，乞無畏之施。』

五

諸比丘！時彼等持戒善性聖者等，猶如力士之伸屈腕、屈伸腕，沒於海邊小屋，現於參婆羅阿修羅王之前。

六

諸比丘！時彼等持戒善性聖者等，以偈語參婆羅阿修羅王：

我等聖者至	參婆羅之處
以乞無畏施	汝等若欲者
怖畏或無畏	何者悉可與

七

〔參婆羅：〕	以事天帝釋	污聖無無畏
以求乞無畏	我只與怖畏	

八

〔聖者等：〕	我等乞無畏	而與汝怖畏
我等以還汝	汝有無盡恐	
如播植種子	如收割果實	
為善有善果	行惡有惡果	
種子蒔播植	汝應受果報	

九

諸比丘！時彼等持戒善性之聖者等，詛咒參婆羅阿修羅王，猶如力士之伸屈腕，沒於參婆羅阿修羅王之前，現於海岸小屋。

一〇

諸比丘！時參婆羅阿修羅王，為其持戒善性之聖者等所詛咒，其夜三度被襲而醒。」

此唄陀南：

須毘羅須師摩 旗尖吠波質底
與善語之勝利 及鳥巢無譎詐
毘留奢那修羅 及森林聖者等
並海聖者等是

第二 帝釋品

〔一一〕第一 諸天（禁戒足）（一）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……

二

「諸比丘！天帝釋為人時，以完滿執持七禁戒足。依此執持之天帝釋乃得天帝釋之地位。

三

何為七禁戒足耶？

四

應終生孝養父母。應終生尊敬家之長老。應終生語柔和。
應終生不誹謗。終生心離慳貪之垢而住家。有意寬、仁而常布施、喜施捨、從乞求者、樂施分配。應終生語真實。應終生無忿恨，若忿起則速制伏。

五

諸比丘！天帝釋以前為人時，完滿執持此七禁戒足。依此執持，天帝釋得天帝釋之地位。」

六

〔世尊宣說已……乃至……師更說此偈。〕

孝養父母者	奉事於家長
以語柔和語	遠離於讒謗
捨離於慳貪	語真實制忿
協利之諸天	呼彼為善人

〔一二〕第二 諸天（二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園……

二

於此，世尊以此告諸比丘：

三

「諸比丘！天帝釋以前為人時，名為摩怯儒兒童，是故今稱摩怯婆。」

四

諸比丘！天帝釋以前為人時，施與各街市，是故稱富蘭陀羅。

五

諸比丘！天帝釋以前為人時，恭敬而與施，故稱釋羅。

六

諸比丘！天帝釋以前為人時，以與住處，故稱婆娑婆。

七

諸比丘！天帝釋以前為人時，一剎那間能思慮千事，故稱千眼者。

八

諸比丘！天帝釋稱須闍者，乃有阿修羅女之妻，故稱須闍之夫。

九

諸比丘！天帝釋乃統治三十三天之主權者，故稱為天王。」

一〇～一二

〔同前經之二～五〕

〔一三〕第三 諸天〔三〕

一

如是我聞。爾時，世尊住毘離大林重閣講堂。

二

時，離車人之摩訶梨，來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

坐一面之離車人摩訶梨、以此白世尊曰：「世尊！世尊曾見天帝釋否？」

四

「摩訶梨！我曾見天帝釋。」

五

「世尊！彼非似天帝釋者？世尊，天帝釋是難見者。」

六

「摩訶梨！我知帝釋，又依執持其法而為天帝釋，並知帝釋之因、法。」

七～一八

〔同前經三～一二〕

〔一四〕第四 貧人

一

爾時，世尊住舍衛城竹林栗鼠養餌所。

二

其時，世尊言諸比丘：「諸比丘！」

三

彼等比丘奉答世尊：「唯然，世尊！」

四

世尊以此宣說：

五

「諸比丘！此王舍城有可憐之貧困者窮人。

六

彼於如來所說之法與律，執持信，執持戒，執持聞，執持捨，執持慧。

七

彼如是於如來所說之法與律，執持信，執持戒，執持聞，執持捨，執持慧，死後生忉利天為伴之善趣、天界。彼之容貌榮光，超越其他諸天。

八

諸比丘！因此忉利之諸天謂譏嫌、愚癡，而作細言：『實希有，實未曾有。此天子以前為人時，可憐貧困窮苦，死後生忉利天為伴之善趣、天界、其容貌榮光，超越其他諸天。』

九

諸比丘！時，天帝釋呼忉利諸天：『友！汝等勿譏嫌此天子。此天子以前為人時，於如來所說之法與律，執持信，執持戒，執持聞，執持捨，執持慧。彼依如來所說之法與律，執持信，執持戒、執持聞，執持捨，執持慧，死後生忉利天為伴之善趣、天界，其容貌與榮光，超越其他之諸天。』

一〇

諸比丘！時天帝釋寬恕忉利諸天，此時唱彼等偈：

如來於不動 有堅實信仰
愛樂於聖者 其戒甚善美
僧伽有信樂 其見若正直
稱彼不貧窮 其人活不虛
然憶念佛教 賢者應隨從
信戒法知見」

〔一五〕第五 樂

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園……

二

時，天帝釋來詣世尊處，詣已，禮敬世尊立於一面。

三

立一面之天帝釋，以此白世尊曰：「世尊！何處有樂土？」

四

〔世尊：〕園林幽美處 作美麗蓮池
為人所樂者 不值十六一
鄉村或森林 何處濕乾地
阿羅漢所住 此悉愛樂土

〔一六〕第六 供犧者

一

爾時，世尊住王舍城靈鷲山。

二

時，天帝釋來詣世尊處，詣已，禮敬世尊立於一面。

三

立一面之天帝釋，以偈白世尊曰：

人人供犧牲 人人求功德
積來生功德 何施有大果

四

〔世尊：〕四道咸具足 建立於四果
而直其正見 僧具慧戒定
人人供犧牲 人人求功德
積來坐功德 施僧有大果

〔一七〕第七 禮敬

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

時，世尊日中入室靜觀。

三

時，天帝釋與梵天與沙巷婆提來詣世尊處，詣已，各立於門側。

四

時，天帝釋於世尊處，唱此偈曰：

挺立起英雄 戰鬥勝利者
放下重負人 無債人行世
卿心善解脫 如十五夜月

五

「天王！不應如是禮敬如來。天王！不應如是禮敬如來。」

挺立起英雄 戰鬥勝利者
商隊之主人 無債人行世
世尊請說法 應有了解者

〔一八〕第八 帝釋之禮敬（一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園……

二

於此世尊宣說：

三

諸比丘，遠昔天帝釋呼御者摩多利：「摩多利！準備千頭駿馬之車！我將往園林觀賞美景。」

四

諸比丘！御者摩多利答天帝釋：「唯然！尊者。」牽繫千頭駿馬之車，以告知天帝釋：「尊者！千頭駿馬車已備齊，請知今時。」

五

諸比丘！時天帝釋走下勝利殿，合掌拜四方。

六

諸比丘！時御者摩多利，以偈語天帝釋：

七

三明之人眾	地上剎帝利
及四大天王	有譽忉利等
諸天悉禮汝	時帝汝之禮
夜叉初是誰	

八

〔帝釋：〕	三明之人眾	地上剎帝利
及四大天王	有譽忉利等	
諸天悉禮我	我今以禮敬	
具戒心長靜	正真出家者	
勤修梵行人	於家修功德	
具戒優婆塞	如法養妻者	
摩多利如是	我乃作禮敬	

九

〔摩利多：〕帝釋汝禮人 實世最勝者
婆娑婆汝禮 我亦應禮敬

一〇

是語須闍夫 天王摩怛婆
以禮敬四方 最先乘其車

〔一九〕第九 帝釋之禮敬（二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園……

二

「諸比丘！遠昔天帝釋呼御者摩多利：『摩多利！牽繫千頭駿馬車！我將往囿園觀賞美景。』」

三

諸比丘！御者摩多利答天帝釋：『唯然！尊者。』牽繫千頭駿馬車，以告知天帝釋：『尊者，千頭駿馬已備齊，尊者，請知今時。』

四

諸比丘！時天帝釋走下勝利殿，合掌禮世尊。

五

諸比丘！時御者摩多利，以偈語天帝釋：

婆娑婆天人 悉皆禮敬汝
帝釋汝之禮 夜叉是誰耶

六

〔帝釋：〕今天於此界 正等正覺者
崇高心之師 摩多利我禮
貪瞋乃無明 無餘悉滅盡
漏盡阿羅漢 摩多利我禮
貪瞋調伏已 以超於無明
還滅樂有學 不逸修習者
摩多利我禮

七

〔摩多利：〕帝釋汝禮人 實世最勝者
婆娑婆所禮 我亦奉禮敬
是語須闍夫 天王摩佉婆
以敬禮世尊 最先乘其車」

〔二〇〕第十 帝釋之禮敬（三）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園……

二

於此，世尊宣說：

三

「諸比丘！遠昔天帝釋呼御者摩多利：『摩多利！牽繫千頭駿馬車，我將往囿園觀賞美景。』

四

御摩多利答天帝釋：『唯然！尊者。』牽繫千頭駿馬車，以告知天帝釋：『尊者！千頭駿馬車備齊。尊者！請知今

時。』

五

諸比丘！時天帝釋走下勝利殿，合掌以禮比丘眾。

七

諸比丘！時御者摩多利，以偈語天帝釋：

持污穢身體	沉淪於屍中
為飢渴痛苦	此人可尊敬
婆娑婆出家	等有何可羨
語聖者等行	我欲聞汝言

八

〔帝釋：〕	摩多利我羨	此出家人眾
彼等從村出	悉除無欲望	
小屋無何藏	無瓶又無鍋	
所望物備他	此以養育身	
賢善語正語	默然正遊方	
諸天修羅戰	摩多利凡夫	
又是相鬥爭	戰中有不戰	
自我持武器	中者在靜寂	
執著者之中	在於不執著	
摩多利我乃	禮敬於彼等	

九

〔摩多利：〕	帝釋汝禮人	實世最勝者
婆娑婆汝禮	我亦當禮敬	

一〇

是語須闍夫	天王摩怯婆
語禮比丘僧	最先乘其車」

此唄陀南：

諸天云三度 貧人及所樂
供犧者禮敬 帝釋之禮敬

第三 帝釋品

〔二一〕第一 殺

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城祇樹給孤獨園……

二

時，天帝釋來詣世尊處，詣已，禮敬世尊立於一面。

三

立一面之天帝釋，以偈語世尊曰：

殺何物樂眠 殺何物不悲
殺害何一法 瞿曇卿讚耶

四

〔世尊：〕殺忿最樂眠 殺忿無有悲
婆娑婆毒根 以為最上蜜
殺忿聖者讚 殺此而無悲

〔二二〕第二 醜陋

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園……

二

於此，世尊宣說：

三

「諸比丘！遠昔有醜陋矮小一夜叉，坐於天帝釋之座。」

四

「諸比丘！其時，忉利之諸天，以譏嫌、愚癡，而作細語曰：『實希有，實未曾有。此醜陋矮小一夜叉，坐天帝釋之座。』」

五

諸比丘！忉利諸天，因譏嫌、愚癡而作細語，其夜叉成為美麗、美觀而宏偉。

六

諸比丘！時，忉利之諸天到天帝釋處。到已，以此言天帝釋：

七

『尊者！醜陋矮小一夜叉，坐汝之座，是故忉利之諸天，實希有，實未曾有，此醜陋矮小一夜叉，坐天帝釋之座。語譏嫌、細言。尊者！因忉利之諸天譏嫌、愚癡而作細語，其夜叉則成為美麗，美觀而宏偉。尊者！彼或許是食忿夜叉耶？』

八

諸比丘！時天帝釋來到食忿夜叉處，到已，一肩著衣，右膝著地，合掌禮其食忿夜叉，三度自報其名：『尊者！我乃天帝釋，尊者！我乃天帝釋。』

九

諸比丘！天帝釋自報其名，其夜叉則成醜陋而矮小。成為醜陋短小，則遂沒其形。

一〇

諸比丘！時，天帝釋則坐自座，以寬恕忤利之諸天，其時而唱此偈曰：

我心不易害 不為情波奪
我長不知怒 於我不起忿
不言激忿語 語無不如法
以思自己利 常以抑自己」

〔二三〕第三 幻術

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

世尊，以此宣說：

三

「諸比丘！遠昔吠波質底阿修羅王患病，其苦痛烈。

四

諸比丘！時，天帝釋為探望其病，來到吠波質底阿修羅王處。

五

諸比丘！吠波質底阿修羅王，見天帝釋從遠方而來，以此語天帝釋：『請醫我！天王！』

六

『吠波質底！教我參婆羅之幻術。』

七

『友！我與諸阿修羅敘談。』

八

諸比丘！時吠波質底阿修羅王，與諸阿修羅敘談：『我以參婆羅之幻術，教天帝釋耶？』

九

『不！勿以參婆羅之幻術教天帝釋。』

一〇

諸比丘！時吠波質底阿修羅王，以偈語天帝釋：

摩怛婆帝釋 須闍夫天王
幻術導地獄 因此參婆羅
百年墮地獄」

〔二四〕第四 罪過（無忿）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城祇樹給孤獨園……

二

其時，又有二比丘爭議。一比丘犯罪，另比丘以彼比丘當謝罪，彼比丘不許諾，因而起爭議。

三

時，甚多比丘來詣世尊處，禮敬世尊坐於一面，以此事白世尊：

四

「世尊！二比丘起爭；一比丘犯罪，另比丘以彼比丘當謝罪，彼比丘不許諾。」

五

「諸比丘！於罪不見為罪之比丘，不許諾此如法以謝罪之比丘，兩者俱為愚者。」

六

諸比丘！於罪見為罪之比丘，如法以謝罪，比丘許諾於此，此兩具賢者。

七

諸比丘！遠昔天帝釋於正法殿，寬恕忉利諸天，其說此偈曰：

勿往忿領域 友情勿荒老
勿以譏不譏 勿云離間語
如山倒擠人 忿擠於惡者

〔二五〕第五 無忿（無害）

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

於此世尊言諸比丘，並對諸比丘宣說。

三

諸比丘！遠昔天帝釋於正法殿，寬恕忉利諸天，其時說此
偈曰：

勿勝於忿恨 勿以忿還忿
無忿無有害 常住聖者中
如山倒擠人 忿擠於惡者

此唄陀南：

殺醜陋幻術 無忿於罪過
以無忿無害 諸天及天子
王魔比丘尼 梵天婆羅門
森林婆耆沙 夜叉婆娑婆

相應部經典

歸命彼世尊 應供等覺者

因緣篇

第一 因緣相應

第一 佛陀品

〔一〕第一 法說

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，世尊言諸比丘：「諸比丘！」彼等諸比丘應答世尊曰：「大德！」世尊乃如是曰：「諸比丘！〔我〕為汝等說緣起。汝等諦聽，當善思念。我當宣說。」彼等諸比丘奉答世尊曰：「大德！唯然。」

三

世尊如是宣說：「諸比丘！緣起者何耶？諸比丘！緣無明有行，緣行有識，緣識有名色，緣名色有六處，緣六處有觸，緣觸有受，緣受有愛，緣愛有取，緣取有有，緣有有生，緣生有老死、愁、悲、苦、憂、惱。如是，此乃全苦蘊之集。諸比丘！此謂生起。」

四

由無明之無餘、離貪滅，有行滅。由行滅，有識滅。由識滅，有名色滅。由名色滅，有六處滅。由六處滅，有觸滅。由觸滅，有受滅。由受滅，有愛滅。由愛滅，有取滅。由取滅，有有滅。由有滅，有生滅。由生滅，有老死、愁、悲、苦、憂、惱等滅。如是全苦蘊之滅。」

五

世尊說此已，彼諸比丘而歡喜、隨喜，世尊之所說。

〔二〕第二 分別

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

〔爾時，世尊宣說曰：〕「諸比丘！我為汝等分別說緣起，汝等諦聽，當善思念。我則宣說。」彼等諸比丘答曰：「大德！唯然。」

三

世尊以此宣說曰：

「諸比丘！何為緣起？諸比丘！緣無明有行，緣行有識，緣識有名色，緣名色有六處，緣六處有觸，緣觸有受，緣受有愛，緣愛有取，緣取有有，緣有有生，緣生有老死、愁、悲、苦、憂、惱。如是全苦蘊之集。」

四

諸比丘！何為老死？於各種眾生之類，各種眾生之老衰、衰老、朽敗、白髮、皺皮、壽命之頽敗、諸根之耄熟，以此謂之老。於各種眾生之部類，各種眾生之歿、滅、破壞、死、破滅、諸蘊之破壞，遺骸之放棄，此謂之死。如是此老與死，諸比丘！以此謂之老死。

五

諸比丘！何為生？於各種眾生之類，各種眾生之出生、出產、降生、誕生、諸蘊之顯現，諸處之獲得，諸比丘！以此謂之生。

六

諸比丘！何為有？諸比丘！此等有三有：欲有、色有、無色有是。諸比丘！以此謂之有。

七

諸比丘！何為取？諸比丘！此等有四取：欲取、見取、戒禁取、我語取。諸比丘！以此謂之取。

八

諸比丘！何為愛？諸比丘！此等有六愛身：色愛、聲愛、香愛、味愛、觸愛、法愛，諸比丘！以此謂之愛。

九

諸比丘！何為受？諸比丘！此等有六受身：眼觸所生之受，耳觸所生之受，鼻觸所生之受，舌觸所生之受，身觸所生之受，意觸所生之受是，諸比丘！以此謂之受。

一〇

諸比丘！何為觸？諸比丘！有六觸身：眼觸、耳觸、鼻觸、舌觸、身觸、意觸是，諸比丘！以此謂之觸。

一一

諸比丘！何為六處？〔諸比丘！此等有六處：〕眼處、耳處、鼻處、舌處、身處、意處，諸比丘！以此謂之六處。

一二

諸比丘！何為名色？〔諸比丘！〕受、想、思、觸、作意、以此謂之名；四大種及四大種所造之色，以此謂之色。如是此名與此色，謂之名色。

一三

諸比丘！何為識？諸比丘！此等有六識身：眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識是。諸比丘！以此謂之識。

一四

諸比丘！何為行？諸比丘！此等有三行：身行、口行、心行是。諸比丘！以此謂之行。

一五

諸比丘！何為無明？諸比丘！無知於苦，無知於苦集，無知於苦滅，無知於趣苦滅之道，諸比丘！以此謂之無明。

一六

諸比丘！如是緣無明而有行，緣行而有識……如是全苦蘊之集。因無明之無餘、離貪滅，故行滅。因行滅，故識滅……。如是全苦蘊之滅。」

〔三〕第三 道跡

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

〔爾時，世尊以此宣說：〕「諸比丘！〔我〕為汝等，說邪道跡與正道跡。〔汝等〕諦聽，當善思念。我則宣說。」彼等諸比丘答世尊曰：「大德！唯然。」世尊以此宣說：

三

「諸比丘！所謂邪道跡者何耶？諸比丘！緣無明而有行，緣行而有識……如斯是全苦蘊之集。諸比丘！以此謂邪道跡。

四

諸比丘！所謂正道跡者何耶？因無明之無餘、離貪滅，故行滅，因行滅故識滅……如斯是全苦蘊之滅。諸比丘！以此謂正道跡。」

〔四〕第四 毘婆尸

一

〔爾時。世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時。世尊以此宣說：〕「諸比丘！毘婆尸世尊、應供、正等覺者正覺之前，尚未成正覺，為菩薩時，於正念而思念：『此世間實陷於苦；生、老、衰、歿、再生，然又不知出離此苦，不知老死之〔出離〕。何時能知此苦之〔出離〕，老死之出離耶？』

三

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『何故有老死？緣何有老死耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有生故有老死，緣生故有老死。』

四

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『何故有生？緣何有生耶？』諸比丘！爾時毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有有故有生，緣有而有生。』

五

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『有何故而有有？緣何而有有耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有取故而有有，緣取而有有。』

六

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『有何故有取？緣何而有取耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有愛故而有取，緣愛而有取。』

七

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『有何故有愛？緣何而有愛耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有受故而有愛，緣受而有愛。』

八

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『有何故有受？緣何而有受耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有觸故而有受，緣觸而有受。』

九

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『有何故有觸？緣何而有觸耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有六處故有觸，緣六處而有觸。』

一〇

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『有何故有六處？緣何而有六處耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有名色故有六處，緣名色而有六處。』

一一

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『有何故有名色？緣何而有名色耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有識故有名色，緣識而有名色。』

一二

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『有何故有識？緣何而有識耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有行故有識，緣行而有識。』

一三

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『有何故有行？緣何而有行耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『有無明故有行、緣無明而有行。』

一四

如是，緣無明有行、緣行而有識……如是此是全苦蘊之集。

一五

諸比丘！『是集、是集』，於是毘婆尸菩薩聞前所未聞之法，眼生、智生、慧生、明生、光生。

二

一六

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無老死？何滅而老死滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無生故無老死，生滅乃老死滅。』

一七

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無生？何滅乃生滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無有故無生、有滅乃生滅。』

一八

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無有？何滅乃有滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無取故無有，取滅乃有滅。』

一九

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無取？何滅乃取滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無愛故無取，愛滅乃取滅。』

二〇

諸比丘！爾時毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無愛？何滅乃愛滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無受故無愛，受滅乃愛滅。』

二一

諸比丘！爾時毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無受？何滅乃受滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無觸故無受，觸滅乃受滅。』

二二

諸比丘！爾時毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無觸？何滅乃觸滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無六處故無觸，六處滅乃觸滅。』

二三

諸比丘！爾時毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無六處？何滅乃六處滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無名色故無六處，名色滅乃六處滅。』

二四

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無名色？何滅乃名色滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無識故無名色，識滅乃名色滅。』

二五

諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無識？何滅乃識滅耶？』諸比丘！爾時，毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無行故無識，行滅乃識滅。』

二六

諸比丘！爾時毘婆尸菩薩生是思念：『無何故無行？何滅乃行滅耶？』諸比丘！爾時毘婆尸菩薩以正思惟與慧生知解：『無無明故無行，無明滅乃行滅。』

二七

如是，此無明滅乃行滅，行滅乃識滅……如是此全苦蘊滅。

二八

諸比丘！『是滅也、是滅也』，於是毘婆尸菩薩聞前所未聞之法，眼生、智生、慧生、明生、光生。」

七佛之昭說，亦復如是。

〔五〕第五 尸棄

諸比丘！尸棄世尊、應供、正等覺者〔正覺前，未成正覺，為菩薩時〕，……

〔六〕第六 毘舍浮

諸比丘！毘舍浮世尊、應供、正等覺者〔正覺前，未成正覺，為菩薩時〕，……

〔七〕第七 拘留孫

諸比丘！拘留孫世尊、應供、正等覺者〔正覺前，未成正覺，為菩薩時〕，……

〔八〕第八 拘那含

諸比丘！拘那含世尊、應供、正等覺者〔正覺前，未成正覺，為菩薩時〕，……

〔九〕第九 迦葉

諸比丘！迦葉世尊、應供、正等覺者〔正覺前，未成正覺，為菩薩時〕，……

〔一〇〕第十 大釋迦牟尼瞿曇

一

二

「諸比丘！我於正覺前，未成正覺，為菩薩時，正念以生是思念：『此世間實陷於苦：生、老、衰、歿、再生，然又不

知此苦之出離，不知老死之〔出離〕。何時能知此苦之出離、老死之出離耶？』

三

諸比丘！爾時，我生是思念：『何有故有老死？緣何而有老死耶？』諸比丘！爾時，我以正思惟與慧生知解：『有生故有老死，緣生而有老死。』

四～一三

諸比丘！爾時，我生是念：『何有故有生？有有、取、愛、受、觸、六處、名色、識、行，緣何而有行耶？』諸比丘！爾時，我以正思惟與慧生知解：『有無明故有行，緣無明乃有行。』

一四

如是，緣此無明而有行，緣行而有識……如是此是全苦蘊之集。

一五

諸比丘！『是集、是集』，我聞前所未聞之法，眼生、智生、慧生、明生、光生。

二

一六

諸比丘！爾時，我生是思念：『無何故無老死，何滅乃老死滅耶？』諸比丘！爾時，我以正思惟與慧生知解：『無生故無老死，生滅乃老死滅。』

一七～二六

諸比丘！爾時，我作如是思念：『無何故無生，無有、取、愛、受、觸、六處、名色、識、行，何滅乃行滅耶？』諸比丘！爾時，我以正思惟與慧生知解：『無無明故無行，無明滅乃行滅。』

二七

如是，此無明滅乃行滅，行滅乃識滅……如是此是全苦蘊滅。

二八

諸比丘！『是滅也、是滅』，於是毘婆尸菩薩未聞前所未聞之法，眼生、智生、慧生、明生、光生。」

於此頌曰：

法說及分別 道跡毘婆尸
尸棄毘舍浮 拘留孫那含
迦葉大釋迦 牟尼尊瞿曇

第二 食品

〔一一〕第一 食

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！有此等四食，使有情或眾生存住，攝受為生。

四食者何？或麤、或細之^搏食，二是觸食，三是意思食，四是識食。諸比丘！此等四食使有情或眾生存住，攝受為生。

三

諸比丘！此等四食，以何為因、以何為集、以何為生、以何為起耶？此等四食乃以愛為因、以愛為集、以愛為生、以愛為起。

四

諸比丘！此愛以何為因、以何為集、以何為生、以何為起耶？愛乃以受為因、以受為集、以受為生、以受為起。

五

諸比丘！此受以何為因、以何為集、以何為生、以何為起耶？受乃以觸為因、以觸為集、以觸為生、以觸為起。

六

諸比丘！此觸以何為因、以何為集、以何為生、以何為起耶？觸乃以六處為因、以六處為集、以六處為生、以六處為起。

七

諸比丘！此六處以何為因、以何為集、以何為生、以何為起耶？六處乃以名色為因、以名色為集、以名色為生、以名色為起。

八

諸比丘！此名色以何為因、以何為集、以何為生、以何為起耶？名色乃以識為因、以識為集、以識為生、以識為起。

九

諸比丘！此識以何為因、以何為集、以何為生、以何為起耶？識乃以行為因、以行為集、以行為生、以行為起。

一〇

諸比丘！此行以何為因、以何為集、以何為生、以何為起耶？行乃以無明為因、以無明為集、以無明為生、以無明為起。

一一

諸比丘！如是，緣無明而有行，緣行而有識……如是，此是全苦蘊之集。

一二

無明之無餘，離貪滅、乃行滅，行滅乃識滅……如是，此是全苦蘊滅。」

〔一二〕第二 破群那

一

爾時，世尊住舍衛城。〔爾時世尊曰：〕

二

「諸比丘！有此等四食，使有情或眾生存住，攝受為生。四食者何耶？若麤若細之搏食，二是觸食，三是意思食，四是識食。諸比丘！此等四食，使有情或眾生存住，攝受為生。」

三

如是說時，尊者牟犁破群那，以此白世尊曰：「大德！誰食識食耶？」

世尊曰：「〔如是〕之問乃不正。我〔未言眾生或人〕『食』。我若言『食』者，則『大德！誰食耶？』之問為正。然我不如是言，是故，對不如是言之我唯應問：『大德！何故有識食耶？』此為正問。然者其正答：『識食為未來之再有、再生之緣，因有識故有六處、緣六處而有觸。』」

四

「大德！誰者是觸耶？」

世尊曰：「如是之問乃非正。我未言『觸』，我若言『觸』者，則『大德！誰觸耶？』之問為正。然我不如是言；是故，對未如是言之我，唯應問：『大德！緣何有觸耶？』此乃正問。然其正答：『緣六處有觸，緣觸有受。』」

五

「大德！誰者感之耶？」

世尊曰：「如是之問乃非正。我未言『感』，我若言『感』者，則：『大德！誰者感之耶？』之問為正。然我不如是言，是故，對不如是言之我，唯應問：『大德！緣何有受

耶？』此乃正問。然其正答：『緣觸而有受，緣受而有愛。』」

六

「大德！誰者渴之耶？」

世尊曰：「如是之問乃非正。我未言『渴』，我若言『渴』者，則：『大德！誰者是渴之耶？』之問乃正。然我不如是言，是故，對不如是言之我，唯應問：『大德！緣何有愛耶？』此乃正問。然其正答：『緣受有愛，緣愛有取。』」

七

「大德！誰者取著耶？」

世尊曰：「如是之問乃非正。我未言『取著』，我若言『取著』者，則：『大德！誰者是取著耶？』之問乃正。然我不如是言，是故，對不如是言之我，唯應問：『大德！緣何有取耶？』此乃正問。然其正答：『緣愛而有取，緣取而有有。』……

如是此是全苦蘊之集。

八

破群那！六觸處之無餘，離貪滅者乃觸滅，觸滅乃受滅，受滅乃愛滅，愛滅乃取滅，取滅乃有滅，有滅乃生滅，生滅乃老死、愁、悲、苦憂、惱之滅。

如是，此是全苦蘊之滅。」

〔一三〕第三 沙門婆羅門（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔世尊曰：〕「諸比丘！任何沙門、婆羅門，彼等不知老死、不知老死之集、不知老死之滅、不知老死滅之道跡、不知生……不知有、不知取、愛、受、觸、六處、名色、識、行、不知行之集、不知行之滅、不知行滅之道跡。諸比丘！彼等沙門、婆羅門者，即於沙門而非正沙門，於婆羅門而非正婆羅門。又彼尊者等，對沙門之義、或對婆羅門之義，於現在為非自知者，為非住入實證者。」

三

諸比丘！任何沙門、婆羅門，彼等知老死、知老死之集、知老死之滅、知老死滅之道跡、知生、有、取、愛、受、觸、六處、名色、識、行、知行之集、知行之滅、知行滅之道跡。諸比丘！彼等沙門、婆羅門，於沙門為正沙門、於婆羅門為正婆羅門。彼尊者等，對沙門之義，與婆羅門之義，於現在為自知者，為住入實證者。」

〔一四〕第四 沙門婆羅門（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！任何沙門、婆羅門，彼等不知此等法、不知此等法之集、不知此等法之滅、不知趣此等法之道跡。〔彼等沙門、婆羅門，於沙門非正沙門，於婆羅門非正婆羅門……。〕

三

不知如何法？不知如何法之集？不知如何法之滅？不知如何法滅之道跡？

四

不知老死、不知老死之集、不知老死之滅、不知老死滅之道跡、不知生……有、取、愛、受、觸、六處、名色、識、行。不知此等之諸法、不知此等諸法之集、不知此等諸法之滅、不知此等諸法滅之道跡。

五

諸比丘！彼等沙門、婆羅門，於沙門為非正沙門、於婆羅門為非正婆羅門。彼尊者等，亦對沙門之義，或婆羅門之義，於現法不能自知、不能住入實證。

六

諸比丘！雖是何之沙門、婆羅門，知此等之法、知此等法之集、知此等法之滅、知此等法滅之道跡。彼等沙門、婆羅門，〔於沙門為正沙門、於婆羅門為正婆羅門……。〕

七

知如何法？知如何法之集？知如何法之滅？知如何趣法滅之道跡？

八

知老死、知老死之集、知老死之滅、知趣老死滅之道跡……生、有、取、愛、受、觸、六處、名色、識、行、知行之集、知行之滅、知趣行滅之道跡、知此等之諸法、知此等諸法之集、知此等諸法之滅、知趣此等諸法滅之道跡。

九

諸比丘！唯彼等沙門、婆羅門，於沙門為正沙門，於婆羅門為正婆羅門；彼尊者等亦對沙門之義、婆羅門之義，於現在自知，住入實證。」

〔一五〕第五 迦旃延

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，尊者迦旃延來詣世尊處。詣已，禮拜世尊，坐於一面。

三

坐於一面之尊者迦旃延，白世尊曰：「大德！所謂正見、正見，大德！正見者何耶？」

四

「迦旃延！此世間多依止於有與無之兩〔極端〕。

五

迦旃延！依正慧以如實觀世間之集者、則此世間為非無者。迦旃延！依正慧以如實觀世間之滅者，則此世間為非有者。

六

迦旃延！此世間多為方便所囚、計、取著。聖弟子計使、取著於此心之依處，不囚於『予是我』，無著、無住，苦生則見生，苦滅則見滅，不惑不疑，無緣他事，是彼智生。迦旃延！如是乃正見。

七

迦旃延！說『一切為有』，此乃一極端。說『一切為無』，此乃第二極端。迦旃延！如來離此等之兩端，而依中道說法。

八

緣無明而有行、緣行而有識……如是為全苦蘊之集。

因無明之無餘，離貪滅乃行滅，行滅乃識滅……如是則是全苦蘊之滅。」

〔一六〕第六 說法者

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，一比丘來詣世尊處。詣已，禮拜世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘白世尊言：「大德！所謂說法者、說法者。說法者是何耶？」

四

〔世尊曰：〕「若比丘，為厭離老死、為離貪、為滅而說法者，彼得謂是說法比丘。」

五

若比丘，為厭離老死、為離貪、為滅而行，彼得謂是行法隨順法之比丘。

六

若比丘，有厭離老死、離貪、滅、無取著解脫者，彼得謂是達現法涅槃之比丘。

七

若比丘，為生〔厭離、離貪、滅〕；若比丘，為有……，若比丘，為取……若比丘為愛……受、觸、六處、名色、識、行、無明之厭離、為離貪、為滅而說法者，彼得謂是說法比丘。

八

若比丘為厭離無明、為離貪、為滅而行，彼得謂是行法隨順法之比丘。

九

若比丘，有厭離無明、離貪、滅、無取著，解脫者，得謂是現法涅槃之比丘。」

〔一七〕第七 阿支羅

一

如是我聞。爾時世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

一

二

一時，世尊清晨，著衣持鉢，入王舍城行乞。

三

阿支羅迦葉，見世尊從遠處來，見已而走近世尊，近而與世尊俱相致問及交談、可記憶之語，而立於一面。

四

立於一面之阿支羅迦葉，白世尊言：「我等向尊者瞿曇以問瑣事，若蒙尊者瞿曇允諾，請答所問。」

「迦葉！今乃非問之時，我等即將行入聚落。」

五

阿支羅迦葉，再白世尊言：「我等向尊者瞿曇以問瑣事，若尊者瞿曇允諾、請答所問。」

「迦葉，今乃非問之時，我等將行入聚落。」

六

阿支羅迦葉三度如是曰……非問之時，我等將行入聚落。

如是說時，阿支羅迦葉向世尊如是言：「非多，我等唯欲向尊者瞿曇稍問而已。」

「迦葉！汝欲問者、即問之。」

二

七

「瞿曇！苦是自作耶？如何？」

世尊曰：「迦葉！並不然！」

八

「瞿曇！苦是他作耶？如何？」

世尊曰：「迦葉！並不然！」

九

「瞿曇！苦是自作而他作耶？」

世尊曰：「迦葉！並不然！」

一〇

「瞿曇！苦非自作、非他作、是無因生耶？如何？」

世尊曰：「迦葉！並不然！」

一一

「瞿曇！苦是無耶？如何？」

世尊曰：「迦葉！苦非無，迦葉！苦是有。」

一二

「然則，尊者瞿曇，不知苦，不見苦耶？」

「迦葉！我非不知苦，非不見苦；迦葉！我知苦；迦葉！我見苦。」

一三

「『瞿曇！苦是自作耶？如何？』之問，沙門答云：『迦葉，不然。』『瞿曇！苦是他作耶？』如何？之問，沙門答云：『迦葉！並不然。』『瞿曇！苦是自作而他作耶？如何？』之問，沙門答云：『迦葉！並不然。』『瞿曇！苦是非自作、非他作、無因生耶？如何？』之問，沙門答云：『迦葉！並不然。』『瞿曇！苦是無，如何？』之問，沙門答云：『迦葉！苦非無、苦是有。』『然則，尊者瞿曇乃不知苦、不見苦耶？』之問，沙門答云：『迦葉！我非不知苦；迦葉！我非不見苦；迦葉！我知苦；迦葉！我見苦。』大德！世尊請以苦示我。大德！世尊請以苦說示於我。」

一四

「迦葉！如作者與受者是同一，汝先以苦是自作者，如是之所說者，是墮於常見者。

迦葉！如作者與受者是相異，於受重壓者苦是他作者，如是之所說者，是墮於斷見者。

一五

迦葉！如來說：離此等兩極端之法。緣無明而有行，緣行而有識……如是則為全苦蘊之集。由無明之無餘、離貪滅，乃行滅，由行滅乃識滅……如是則是全苦蘊之滅。」

三

一六

如是說時，阿支羅迦葉白世尊言：「大德！最殊勝；大德！最殊勝；大德！譬如能使倒者復起……如暗中持來燈火，有眼之士可以見物，世尊為說種種法。大德！我歸依世尊！歸依法與僧伽。大德！唯我欲於世尊之處出家，得具足戒。」

一七

「迦葉！曾為異學者，願於此法與律出家，欲受具足戒者，得經四月之別住試練後，欲作比丘，方可出家，使受具足戒成為比丘。雖然，我亦知人之有差別。」

一八

「大德！若曾為異學者，若願於此法與律出家，而欲受具足戒者，須四月別住，經四月別住之試練後，欲作比丘者，可

使出家，使受具足戒成為比丘，則我願別住四年，經四年別住之試練後，出家為比丘，使受具足戒成為比丘。」

一九

如是，阿支羅迦葉於世尊之處得出家，受具足戒。

四

二〇

尊者迦葉，受具足戒不久、獨退居、不放逸、精勤、住於專注，不久以正良家之子，出家而為無家，對無上之究竟梵行，於現法自知，入住實證，知生已盡，梵行已成，應作已作，更不來此再生。

二一

如是，尊者迦葉，成為一阿羅漢。

〔一八〕第八 玷牟留

一

〔爾時世尊〕住舍衛城。

二

爾時，遊方者玷牟留來詣世尊處。詣已，與世尊俱相致問及交談可記憶之語，而坐於一面。

三

坐於一面之遊方者玷牟留，白世尊言：「瞿曇！苦樂是自作耶？如何？」

世尊曰：「玷牟留！並不然。」

四

「瞿曇！苦樂是他作耶？如何？」

世尊曰：「玷牟留！並不然。」

五

「瞿曇！苦樂是自作而他作耶？如何？」

世尊曰：「玷牟留！並不然。」

六

「瞿曇！苦樂乃非自作、非他作、是無因生耶？如何？」

世尊曰：「玷牟留！並不然。」

七

「瞿曇！苦樂是無耶？如何？」

八

「玷牟留！苦樂是非無；玷牟留！苦樂是有。」

「然則，尊者瞿曇不知、不見苦樂耶？」

九

「玷牟留！我非不知、不見苦樂；玷牟留！我知苦樂；玷牟留！我見苦樂。」

一〇

「『瞿曇！苦樂是自作耶？如何？』之問，沙門云：『玷牟留！並不然。』『瞿曇！苦樂是自作、他作耶？如何？』之問，沙門云：『玷牟留！並不然。』『瞿曇！苦樂是非自作、非他作、是無因生耶？如何？』之問，沙門云：『玷牟留！並不然。』『瞿曇！苦樂是無耶？如何？』之問，沙門云：『玷牟留！苦樂是非無；玷牟留！苦樂是有。』『然則大德！瞿曇是不知苦樂、不見苦樂耶？』之問，沙門云：『玷牟留！我非不知苦樂、不見苦樂。玷牟留！我知、見苦樂。』尊者瞿曇！請為我說示苦樂；尊者瞿曇！請為我說示苦樂。」

一一

「如『受與感者是同一』，玷牟留！如汝先所云：『苦樂是自作。』我不如是言。」

一二

如『受與感者是相異』，玷牟留！如受重壓者：『苦樂是他作。』我不如是言。」

一三

玷牟留！離此等之兩極端，如來依中道說法。

緣無明而有行，緣行而有識……如是則為全苦蘊之集。由無明無餘、離貪滅，乃行滅，由行滅乃識滅……如是此是全苦蘊滅。」

一四

如是言時，遊方者玷牟留白世尊言：「瞿曇！是最殊勝……我歸依世尊，歸依法與比丘僧。大德！請攝受我，今日以後，終身歸依為優婆塞。」

〔一九〕第九 愚與賢

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

世尊曰：「諸比丘！被無明所覆、渴愛所繫之愚夫，生如是之身，依此身與外之名色，如是依此二者，有觸、六觸處。愚夫於此等之〔六〕，若依其一，經驗所觸之苦樂。」

三

諸比丘！有被無明所覆、渴愛所繫之賢者，生如是之身，依此身與外之名色，依如是此二者，有觸、六觸處。賢者對此等之〔六〕、若依其一，經驗所觸之苦樂。

四

諸比丘！然而，賢者與愚者有如何之差別？其差別、差異如何耶？」

五

「大德！對我等，法乃以世尊為根，以世尊為導者，以世尊為所依。善哉！大德！請述此等語之意義，諸比丘聞世尊之

語已，當受持奉行。」

六

「諸比丘！再當諦聽，當善思念，我則為說。」

彼諸比丘答世尊曰：「大德！唯然。」

七

世尊曰：「諸比丘！唯愚夫被無明所覆、渴愛所繫以生此身。在愚夫不斷無明、不盡渴愛。所以者何？諸比丘！愚夫不行梵行，實乃不行苦之滅。然而，愚夫身壞命終後，還再生身；彼生身故，則不得解脫生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱，所以我說由苦不能解脫。」

八

諸比丘！唯賢者，被無明所覆、渴愛所繫以生此身。然而，有賢者斷彼無明、盡其渴愛。所以者何？諸比丘！賢者行梵行，實乃行苦之滅。然而，賢者身壞〔命終後〕，不再生身。彼不生身故，則解脫生、老死、愁、悲、苦、憂、惱。所以我說由苦而解脫也。」

九

諸比丘！賢者與愚者有此之別、有此差異、有此差別。此即梵行住者。」

〔二〇〕第十 緣

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

世尊曰：「諸比丘！我為汝等說緣起及緣生之法，汝等諦聽，當善思念，我則為說」。

彼諸比丘奉答世尊曰：「大德！唯然。」世尊曰：

三

「諸比丘！何為緣起耶？諸比丘！緣生而有老死。如來出世，或如來不出世，此事之決定、法定性、法已確立，即是相依性。如來證於此，知於此。證於此、知於此，而予以教示宣佈，詳說、開顯，分別以明示，然而即謂：『汝等，且看！』」

四

諸比丘！緣生而有老死。諸比丘！緣有而有生。諸比丘！緣取而有有。諸比丘！緣愛而有取。諸比丘！緣受而有愛。諸比丘！緣觸而有受。諸比丘！緣六處而有觸。諸比丘！緣名色而有六處。諸比丘！緣識而有名色。諸比丘！緣行而有識。諸比丘！緣無明而有行。如來出世、或不出世，此事之決定、法定性、法已確立，即相依性。如來證知。此已證知而予以教示宣佈，詳說、開顯、分別以明示，然而即謂：『汝等，且看！』」

五

諸比丘！緣無明而有行。諸比丘！於此有如不虛妄性、不異如性、相依性者，諸比丘！此謂之緣起。

六

諸比丘！何為緣生之法耶？諸比丘！老死是無常、有為、緣生、滅盡之法，敗壞之法，離貪之法，滅法。

七

諸比丘！生是無常、有為、緣生、滅盡之法、敗壞之法、離貪之法、滅法。

八

諸比丘！有是無常、有為、緣生、滅盡之法、敗壞之法、離貪之法、滅法。

九～一六

諸比丘！取為……諸比丘！愛為……諸比丘！受為……諸比丘！觸是……諸比丘！六處是……諸比丘！名色是……諸比丘！識是……諸比丘！行是……。

一七

諸比丘！無明是無常、有為、緣生、滅盡之法、離貪之法、滅法。諸比丘！此等謂之緣生法。

一八

諸比丘！聖弟子對此緣起及緣生之法，以正慧如實善見故，彼憶起宿世，即：『我於過去世有耶？我於過去世無耶？何故於過去世有耶？於過去如何有耶？於過去世如何有耶？如何而有耶？』

一九

〔彼聖弟子，〕馳思未來：即：『我於未來世有耶？於未來世無耶？何故於未來世有耶？如何於未來世有耶？我於未來世何有？如何而有之耶？』

二〇

〔又聖弟子〕，於今之現世就已有惑。即：『有我耶？無我耶？何故有我耶？如何有我耶？此眾生來自何處耶？彼將赴何處耶？』不知其理。

二一

所以者何？諸比丘！聖弟子如實對此緣起及此等緣生之法，以正慧善見故。」

此頌曰：

食與破群那 沙門婆羅門
迦旃延法說 支羅玷牟留
對愚之賢者 第十則為緣

第三 十力品

〔二一〕第一 十力（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

世尊宣曰：「諸比丘！如來具足十力，具足四無所畏，示知牛王之事，於眾中作獅子吼，轉梵輪，濟度眾生。

〔所謂〕：色如是如是，色之集如是如是，色之滅如是如是；受如是如是，受之集如是如是，受之滅如是如是；想如是如是，想之集如是如是，想之滅如是如是；行如是如是，行之集如是如是，行之滅如是如是；識如是如是，識之集如是如是，識之滅如是如是。

此有時即彼有，此生時即彼生。此無時即彼無，此滅時即彼滅。

三

即緣無明有行，緣行有識……如是此是全苦蘊之集。

四

依無明之無餘，依離貪滅乃行滅，依行滅乃識滅……如是此為全苦蘊之滅。」

〔二二〕第二 十力（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二～四

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！如來具足十力……如是此是全苦蘊之滅。

五

諸比丘！如是，由我善說於法，明確開顯說示斷紐。

六

諸比丘！如是，由我善說，明確開顯說示斷紐之法，使良家之子，依信而出家具足修行精進，又於身體皮膚與腱與骨，殘餘，血肉枯竭，依人之勇猛、人之精進、人之精勤，應達未達者，則不捨離精進。

七

諸比丘！所以者何？懈怠者住於苦，被惡不善法所覆，使大利衰微。諸比丘！精勤者住於樂，遠離惡不善法，使大利滿足。

八

諸比丘！依劣則無能達於第一者。諸比丘！依第一則能達第一。諸比丘！師現前即以此梵行為第一者。諸比丘！為使未達者能達，未得者能得，未實證者能實證，實當應精勤。

九

如是，此我等之出家不為空，有果，有果報。依此我等受用衣服、飲食、臥具、病藥資具。此等雖為卑下之物，然於我等為大果、大利。

一〇

諸比丘！汝等即當如是學。諸比丘！唯依觀於自利、行不放逸具足。諸比丘！唯依觀於他利，行不放逸具足。諸比丘！唯依觀於俱利、行不放逸具足。」

〔二三〕第三 緣

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！我依知、見說漏之滅盡，非不知、不見而說。

三

諸比丘！如何知、如何見為漏之滅盡耶？色如是如是，色之集如是如是，色之滅如是如是；受如是如是……想如是如是；行如是如是；識如是如是，識之集如是如是，識之滅如是如是。諸比丘！如是知、如是見，為漏之滅盡。

四

諸比丘！滅盡之時，我說於滅之智為有緣而非無緣。

五

諸比丘！何為滅智之緣耶？當謂『是解脫。』諸比丘！我說解脫是有緣而非無緣。

六

諸比丘！何為解脫之緣耶？當謂『是離貪。』諸比丘！我說離貪是有緣而非無緣。

七

諸比丘！何為離貪之緣耶？當謂『是厭離。』諸比丘！我說厭離是有緣而非無緣。

八

諸比丘！何為厭離之緣耶？當謂『是如實知見。』諸比丘！我說如實知見是有緣而非無緣。

九

諸比丘！何為如實知見之緣耶？當謂『是三摩地。』諸比丘！我說三摩地是有緣而非無緣。

一〇

諸比丘！何為三摩地之緣耶？當謂『是樂。』諸比丘！我說樂是有緣而非無後。

一一

諸比丘！何為樂之緣耶？當謂『是輕安。』諸比丘！我說輕安是有緣而非無緣。

一二

諸比丘！何為輕安之緣耶？當謂『是喜。』諸比丘！我說喜是有緣而非無緣。

一三

諸比丘！何為喜之緣耶？當謂『是悅。』諸比丘！我說悅是有緣而非無緣。

一四

諸比丘！何為悅之緣耶？當謂『是信。』諸比丘！我說信是有緣而非無緣。

一五

諸比丘！何為信之緣耶？當謂『是苦。』諸比丘！我說苦是有緣而非無緣。

一六

諸比丘！何為苦之緣耶？當謂『是生。』諸比丘！我說生是有緣而非無緣。

一七

諸比丘！何為生之緣耶？當謂『是有。』諸比丘！我說有是有緣而非無緣。

一八

諸比丘！何為有之緣耶？當謂『是取。』諸比丘！我說取是有緣而非無緣。

一九

諸比丘！何為取之緣耶？當謂『是愛。』諸比丘！我說愛是有緣而非無緣。

二〇～二五

諸比丘！何為愛之緣耶？當謂『是受。』……當謂『是觸』……當謂『是六處。』……當謂『是名。』……當謂『是識。』……當謂『是行。』諸比丘！我說行是有緣而非無緣。

二六

諸比丘！何為行之緣耶？當謂：『是無明。』

諸比丘！如是緣無明而有行，緣行而有識，緣識而有名色，緣名色而有六處，緣六處而有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，緣愛而有取，緣取而有有，緣有而有生，緣生而有苦，緣苦而有信，緣信而有悅，緣悅而有喜，緣喜而有輕安，緣輕安而有樂，緣樂而有三摩地，緣三摩地而有如實知見，緣如實知見而有厭離，緣厭離而有離貪，緣離貪而有解脫，緣解脫於滅有智。

二七

諸比丘！譬如天降雨於山頂，落大粒時，其水轉向低處、充滿山側之洞穴、罅、隙、壑，充滿山側之洞穴、罅、隙、壑，更充滿小池，充滿小池更充滿大池，充滿大池更充滿小河，充滿小河更充滿大河，充滿大河，繼而充之於海，大海。

二八

諸比丘！同於此者，緣無明而有行，緣行而有識，緣識而有名色，緣名色而有六處，緣六處而有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，緣愛而有取，緣取而有有，緣有而有生，緣生而有苦，緣苦而有信，緣信而有悅，緣悅而有喜，緣喜而有輕安，緣輕安而有樂，緣樂而有三摩地，緣三摩地而有如實知見，緣

如實知見而有厭離，緣厭離而有離貪，緣離貪而有解脫，緣解脫而有滅智。」

〔二四〕第四 異學

一

〔爾時，世尊〕住王舍城竹林。

一

二

爾時，尊者舍利弗清晨著衣、持鉢，入王舍城乞食。

三

時，尊者舍利弗生此思念：「至王舍城乞食，為時尚早，我寧往詣異學遊方者之園。」

四

爾時，尊者舍利弗則行近異學遊方者之園。近彼等異學遊方者，與之相互致問，交談可記憶之語後，坐於一面。

向坐於一面之尊者舍利弗，彼等異學遊方者作如是言曰：

五

「友，舍利弗！有業論者沙門、婆羅門說示：『苦是自作。』友，舍利弗！又有業論者沙門、婆羅門說示：『苦是他作。』友，舍利弗！又有業論者沙門、婆羅門說示：『苦是自

作、亦他作。』友，舍利弗！又有業論者沙門、婆羅門說示：『苦非自作、亦非他作、乃無因生也。』

六

友，舍利弗！於此沙門瞿曇是如何說？作如何語耶？若我等答沙門瞿曇之所說，應如何說示耶？我等不可依無實而對沙門瞿曇有所毀謗。我等將說示法隨順法，任何說隨順說之同學將不往於難詰處。」

七

「友！世尊云：『苦乃由緣生。依何而成耶？依觸而成。』唯世尊作如是之所說，對世尊，無以無實而予謗毀，我等說示法隨順法，任何人之同學說隨順說者，不往於難詰處。」

八

友！然而，業論者說示：『苦是自作。』沙門、婆羅門亦云：『緣觸而有苦。』業論者說示：『苦是他作。』沙門、婆羅門亦云：『緣觸而有苦。』又業論者說示：『苦是自作、他作。』沙門、婆羅門亦云：『緣觸而有苦。』又業論者說示：『苦非自作非他作、是無因生。』沙門、婆羅門亦云：『緣觸而有苦也。』

九

友！業論者說示：『苦為自作。』沙門、婆羅門，實者『不依觸而得經驗』，彼不知此理。又業論者說示：『苦是他作。』沙門、婆羅門，實者『不依觸而得經驗』，彼不知此。又業論者說示：『苦是自作亦他作。』沙門、婆羅門，實者『不依觸而得經驗』，彼不知此理。又業論者說示：『苦非自

作亦非他作，乃無因生。』沙門婆羅門，實者『不依觸而得經驗』，彼不知此理。」

二

一〇

尊者阿難聞尊者舍利弗與彼等異學遊方者之論議。

一一

爾時，尊者阿難至王舍城乞食，由乞食還，食後來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

坐於一面之尊者阿難，悉將尊者舍利弗與彼等異學遊方者之論議，以告世尊。

一二

「善哉！善哉！阿難！如舍利弗之正當說示，予說示。阿難！『苦是緣生』，此乃我之所告。緣何如是耶？是依觸。如是乃我所說者。無以無實謗我，任何人之同學說隨順說者、不往於難詰處。」

一三

然則阿難！業論者沙門、婆羅門說示：『苦是自作』亦云：『緣觸而有苦』……業論者沙門、婆羅說示：『苦是非自作、非他作、為無因生。』亦云：『緣觸而有苦』。

一四

然則阿難！業論者之沙門、婆羅門說示：『苦是自作。』實者『不依於觸而無苦之經驗』，彼不知於此處。……業論者之沙門婆羅門說示：『苦非自作、非他作、乃無因生。』實者『不依於觸而不得經驗』，彼實不知於此處。

一五

阿難！爾時，我住王舍城竹林栗鼠 養餌所。

一六

阿難！爾時，我清晨著衣、持鉢，入王舍城乞食。

一七

阿難！當時我生是思念：『行至王舍城乞食，為時尚早，我何不先詣異學遊方者之園。』

一八

阿難！爾時，我來異學遊方者之園。至已，與彼等異學遊方者俱相致問、交談問候，可記憶之語後，坐於一面。

阿難！彼等異學遊方者，對坐於一面之我作如是言曰：

一九

『友，瞿曇！業論者之沙門、婆羅門有說示：「苦為自作。」友，瞿曇！業論者之沙門、婆羅門有說示：「苦為他作。」友，瞿曇！又業論者之沙門、婆羅門有說示：「苦是自作、他作。」友，瞿曇！又業論者之沙門、婆羅門有說示：「苦非自作、亦非他作、乃無因生。」』

二〇

於此尊者瞿曇作如何說？作如何語耶？若我等答尊者瞿曇之所說，應如何說示耶？不可或有無實、毀謗尊者瞿曇。我等說示法隨順法。任何人之同學說隨順說者，不往於難詰處。』

二一

阿難！如是云耶？我對彼等異學遊方者作如是言：『友！我說：「苦是由緣生。緣何而成耶？是緣觸。如是唯我之所說，無以無實謗我，說示法隨順法，任何人之同學說隨順說者，則不往於難詰處。」』

二二

然則友！業論者之沙門、婆羅門說示：「苦為自作」亦云：「緣觸而有苦」……業論者之沙門婆羅門說示：「苦為非自作、非他作、無因生。」亦云：「緣觸而有苦。」

二三

友！業論者之沙門婆羅門說示：「苦是為自作」，「不依於觸、不得經驗」，彼實不知於此處。……業論者之沙門、婆羅門說示：「苦是非自作、非他作、無因生」，「不依於觸，即不得經驗」，彼實不知於此處。』

二四

『大德！是稀有！大德！是未曾有！實於一句之中不能道盡一切之義。大德！若對此義予詳說，將更見甚深、深遠者。』

二五

然者，阿難！於此，汝為顯示之！」

三

二六

「大德！若向我如是問：『友，阿難！老死之因是如何？集是如何？生是如何？起是如何？』我對如是問，則如是說示：『友！老死乃以生為因、以生為集、以生為生、以生為起也。』大德！我對如是為問，則作如是說。

二七

大德！若對我作如是問：『友！阿難！生之因是如何？集是如何？生是如何？起是如何？』大德！我對如是問，則如是說示：『友！生乃以有為因、以有為集、以有為生、以有為起也。』大德！我對如是問則為如是說。

二八

大德！若對我作如是問：『友！阿難！有之因是如何？集是如何？生是如何？起是如何？』大德！我對如是問，則如是說示：『友！有乃以取為因、以取為集、以取為生、以取為起。』大德！我對如是問，則作如是說。

二九～三一

大德！若對我作如是問：『友！取之因是如何？……友！愛之因是如何？……友！受之因是如何？……』大德！若對我如是問：『友！阿難！觸之因是如何？集是如何？生是如何？

起是如何？』大德！我對如是問，則作如是說示：『友！觸以六處為因、以六處為集、以六處為生、以六處為起。』『友！由六觸處之無餘，依離貪滅，乃觸滅，觸滅乃受滅，受滅乃愛滅，愛滅乃取滅，取滅乃有滅，有滅乃生滅，生滅乃老死、愁、悲、苦、憂、惱滅。如是乃全苦蘊之滅。』大德！我對如是問，則作如是說。」

〔二五〕第五 浮彌

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二

爾時，尊者浮彌於日暮自宴坐起，來詣尊者舍利弗之處。詣已，與尊者舍利弗俱相致問，交談問候及可記憶之語後，坐於一面。

坐於一面之尊者浮彌，向尊者舍利弗作如是言：

三

「友！舍利弗！業論者之沙門、婆羅門有說示：『苦樂是自作。』友！舍利弗！又業論者之沙門、婆羅門有說示：『苦樂是他作。』友！舍利弗！又業論者之沙門、婆羅門有說示：『苦樂是自作而他作。』友！舍利弗！又業論者之沙門、婆羅門有說示：『苦樂是非自作，非他作，乃無因生。』

四

友！舍利弗！於此世尊作如何說？作如何語耶？若我等應答世尊之所說，則應如何說示耶？不應以無實誹謗世尊。我等說示法隨順法。任何人之同學說隨順說者，不往於難詰處。」

五

「友！世尊說：『苦樂是緣生。』依何而生耶？依觸乃有苦樂，如是世尊之所說，因無以無實，不可謗世尊，說示法隨順法，任何人之同學說隨順說者，則不住於難詰處。」

六

然則，友！彼等業論者之沙門、婆羅門說示：『苦樂是自作。』亦云：『緣觸乃有苦樂。』……彼等業論者之沙門、婆羅門說示：『苦樂為非自作、非他作、為無因生。』亦云：『緣觸乃有苦樂。』

七

友！彼業論者之沙門、婆羅門說示：『苦樂為自作』，『不依觸無有經驗』，彼實不知此處……彼等業論者之沙門、婆羅門說示：『苦樂為非自作、非他作、無因生』，『不依觸無經驗』，彼實不知此處。」

二

八

時，尊者阿難，聞尊者舍利弗與尊者浮彌之此論議。

九

爾時，尊者阿難來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

坐於一方之阿難，將尊者舍利弗與尊者浮彌之論議，悉奉白世尊。

一〇

「善哉，善哉！阿難！說示如舍利弗者是正說示。阿難！是即：『苦樂是緣生。』是我所說。『緣何如是？是緣觸也。』如是乃我所說者，無有無實謗我，任何人之同學說隨順說者，不往於難詰處。

一一

然則阿難！彼等業論者之沙門、婆羅門說示：『苦樂是自作。』亦云：『緣觸有苦樂。』……業論者之沙門婆羅門說示：『苦樂是非自作、非他作、無因生。』亦云：『緣觸而有苦樂。』

一二

若然，阿難！彼等業論者之沙門、婆羅門說示：『苦樂是自作』，『不依觸、無苦樂經驗』，彼實不知此處。……彼等業論者之沙門婆羅門說示：『苦樂是非自作、亦非他作、是無因生』，『不依觸、無苦樂經驗』，彼實不知此處。

一三

阿難！於身以身思為因，生內之苦樂。阿難！於語以語思為因，生內之苦樂。阿難！於意以意思為因，生內之苦樂。

一四

阿難！緣無明，以自身行，緣此生內之苦樂。阿難！緣無明，以為他身行，緣此生內之苦樂。阿難！正心為身行，緣此生內之苦樂。阿難！非正心為身行，緣此生內之苦樂。

一五

阿難！為自語行，緣此而生內之苦樂。阿難！為他語行，緣此而生內之苦樂。

一六

阿難！正心……阿難、非正心為語行，緣此而生內之苦樂。

一七

阿難！為自意行，緣此而生內苦樂。阿難！為他意行，緣此而生內之苦樂。

一八

阿難！正心……阿難！非正心，為意行，緣此而生苦樂。

一九

阿難！於此等諸法，不生無明。阿難！由無明之無餘、離貪、滅，無有其身緣此而生內之苦樂。無有其語緣此而生內之苦樂。無有其意緣此而生內之苦樂。緣此而生內之苦樂，無其田（無生起之餘地）、無其事、無其理、無其論事。」

〔二六〕第六 優波摩那

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，尊者優波摩那來詣世尊之處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

坐於一面之尊者優波摩那，向世尊作是言曰：

三

「大德！有沙門、婆羅門說示：苦是自作。大德！又有沙門、婆羅門說示苦是他作。大德！又有沙門、婆羅門說示苦是自作亦他作。大德！又有沙門、婆羅門說示苦是非自作、非他作、無因生。

四

大德！於此，世尊是作如何說？如何語耶？若我等答世尊之所說，應如何說示耶？不可無實謗世尊。我等說示法隨順法。任何人之同學說隨順說者，將不往於難詰處。」

五

「優波摩那！我說：『苦是緣生。』『依何而成耶？依觸而有苦。』如是是我所說，無有因無實謗我，說示法隨順法，任何人之同學說隨順說者，則不往於難詰處。

六

然則優波摩那！彼等沙門、婆羅門說示：『苦是自作。』亦云：『緣觸有苦。』……彼等沙門婆羅門說示：『苦是非自作、非他作、是無因生。』亦云：『緣觸而有苦。』

七

然則優波摩那！沙門、婆羅門說示：『苦是自作』，『不依觸、無得經驗』，彼實不知此處。……沙門婆羅門說示：『苦是非自作、非他作、無因生』，『不依觸無得經驗』，彼實不知此處。」

〔二七〕第七 緣

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰〕：「諸比丘！緣無明而有行，緣行而有識，……如是，此為全苦蘊之集。

三

諸比丘！何為老死耶？於各種眾生之類，各種眾生之老衰、衰老、朽敗、白髮、皺皮、壽命之頹敗、諸根之耄熟，此謂之老。於各種眾生之部類，各種眾生之歿、滅、破壞、死、破滅、諸蘊之破壞、遺骸之放棄，此謂之死。如是此之老與此之死，諸比丘！此謂之老死。

四

由生之集，而有老死之生起。由生滅，而有老死滅，唯此八支聖道，是趣老死滅之道跡。即正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定。

五

諸比丘！生者何耶？……

六

諸比丘！有者何耶？……

七

諸比丘！取者何耶？……

八

諸比丘！愛者何耶？……

九

諸比丘！受者何耶？……

一〇

諸比丘！觸者何耶？……

一一

諸比丘！六處者何耶？……

一二

諸比丘！名色者何耶？……

一三

諸比丘！識者何耶？……

一四

諸比丘！行者何耶？諸比丘！有此等三行：〔即〕身行、語行、心行。諸比丘！此等謂之行。

由無明之集，而有行之生起；由無明之滅，而有行之滅。唯此八支聖道，乃趣行滅之道跡。即正見……正定。

一五

諸比丘！聖弟子知如是之緣，知如是之緣起，知如是之緣滅，知趣如是緣滅之道跡。諸比丘！此等聖弟子謂達見，亦云達見，謂達此正法，謂見此正法，謂具足學智，謂具足學明，謂入於法流，謂聖明達慧，亦謂建立不死之扉。」

〔二八〕第八 比丘

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，世尊曰：

三

「諸比丘！此處有比丘，知老死、知老死之集、知老死之滅、知趣老死滅之道跡。……

四

知生，……

五

知有，……

六

知取，……

七

知愛，……

八

知受，……

九

知觸，……

一〇

知六處，……

一一

知名色，……

一二

知識，……

一三

知行，知行之集、知行之滅、知趣行滅之道跡。

一四

諸比丘！老死者何耶？於各種眾生之類，各種眾生之老衰、衰老、朽敗、白髮、皺皮、壽命之頹敗、諸根之耄熟，此謂之老。於各種眾生之部類，各種眾生之歿、滅、破壞、死、破滅、諸蘊之破壞、遺骸之放棄，此謂之死。如是此之老與此之死，諸比丘！此謂之老死。

一五

由生之集，而有老死之生起，由生之滅，而有老死之滅。唯此八支聖道，乃趣老死滅之道跡。即：正見……正定。

一六～二四

諸比丘！生者何耶？……諸比丘！有者何耶？……諸比丘！取者何耶？……諸比丘！愛者何耶？受、觸、六處、名色、識者何耶？……

二五

諸比丘！行者何耶？諸比丘！有此等之三行。即：身行、語行、心行是。諸比丘！此等謂之行。

由無明之集，而有行之生起，由無明之滅、而有行之滅。唯此八支聖道，乃趣行滅之道跡。即：正見……正定是。

二六

諸比丘！有比丘，知如是之老死、知如是老死之集、知如是老死之滅、知如是趣老死滅之道跡。

二七～三六

知如是生……有、取、愛、受、觸、六處、名色、識、行，知行之集、知行之滅、知如是趣行滅之道跡。

三七

諸比丘！對此，比丘謂之達見，亦云達見、達此正法、見此正法、具足學明、入於法流、聖明達慧，建立不死之扉。」

〔二九〕第九 沙門婆羅門（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二～一二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！如何沙門或婆羅門，不知老死、不知老死之集、不知老死之滅、不知趣老死滅之道跡。……不知是生……有、取、愛、受、觸、六處、名色、識、不知行，不知行之集、不知行之滅、不知趣行滅之道跡。

一三

諸比丘！不知此等之彼等沙門或婆羅門，於沙門非正沙門、於婆羅門非正婆羅門。又彼尊者等對沙門之義，或婆羅門之義，於現法自知，非入實證而住者。

二

一四～二四

諸比丘！如何沙門、或婆羅門，知老死、知老死之集、知老死之滅、知趣老死滅之道跡、知生……有、取、愛、受、觸、六處、名色、識、行，知行之集、知行之滅、知趣行滅之道跡。

二五

諸比丘！知此等之彼等沙門或婆羅門，於沙門是正沙門，於婆羅門是正婆羅門。彼尊者等對沙門之義、與婆羅門之義、於現法得自知入實證而住者。」

〔三〇〕第十 沙門婆羅門（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二～三

爾時，〔世尊宣曰：〕「諸比丘！如何沙門或婆羅門，不知老死、不知老死之集、不知老死之滅、不知趣老死滅之道跡，彼等實不知住於超脫老死之處。

四～一二

不知生……有、取、愛、受、觸、六處、名色、識……

一三

不知行、不知行之集、不知行之滅、不知趣行滅之道跡，
彼等實不知住於超越老死之處。

一四

諸比丘！如何沙門或婆羅門，知老死、知老死之集、知老死之滅、知趣老死滅之道跡者，則知住於超越老死之處。

一五～二三

知生……有、取、愛、受、觸、六處、名色、識……

二四

知行、知行之集、知行之滅、知趣行滅之道跡處。」

此頌曰：

二之十力緣 異學與浮彌
及優波摩那 緣與比丘二
沙門婆羅門

第四 伽拉羅剎利品

〔三一〕第一 生者

一

爾時，世尊住舍衛城。

一

二

爾時，世尊告尊者舍利弗曰：此乃波羅延那（經）阿逸多之所問中言：

對法追究者
有學及凡夫
問此等威儀
請友以說示

舍利弗！以此略說之事，應依廣說解明其義。

如是說時，尊者舍利弗默然。

三

世尊再向尊者舍利弗說……尊者舍利弗，再默然。

四

世尊三度向尊者舍利弗曰：「舍利弗、波羅延那（經）阿逸多之所問中言：

對法追究者
有學及凡夫
問此等威儀
請友以說示

友！舍利弗！以此所略說之事，應依廣說，解明其義。」
尊者舍利弗三度默然。

二

五

「舍利弗！視此為不生者耶？舍利弗！視此為生者耶？」

六

「大德！以正慧如實見之『此乃生者』，以正慧如實見之『此乃生者』，生者以行厭離、離貪、滅。」「以正慧如實見之，彼乃食生耶？以正慧見之。」「彼乃食生。則行食生之厭離、離貪、滅。」「因彼食滅，生者乃滅法，如實依正慧見之耶？因彼之食滅，生者乃滅法，如實依正慧見，則行滅法之厭離、離貪、滅。大德！是如是學。」

七

「大德！究法者為何耶？大德！此生者以如實正慧見。此乃生者依如實正慧見生者有厭離、離貪、滅、無取著、解脫。依如實智慧見，彼食乃生。依如實智慧見之，彼食乃生者，則有食生之厭離、離貪、滅、無取著、解脫。彼依如實正慧見之食之滅，生者是滅法，依如實正慧見彼食之滅，生者乃滅法者。則有滅法之厭離、離貪、滅、無取著、解脫。大德！如是為法之追究者。」

八

大德！如是波羅延那（經）阿逸多之所問中曰：

對法追究者
有學及凡夫
問此等威儀
請友以說示

大德！我以此所略說，依如是廣說，以知是義。」

三

九

「舍利弗！善哉，善哉！舍利弗！依如實正慧見之此為生者、依如實正慧見，此為生者，生者則行厭離、離貪、滅。

依如實正慧見，彼食生。依如實正慧見，彼食生者，則行食生厭離、離貪、滅。

依如實正慧見，由食之滅，生者是滅法。依如實正慧見，依彼食滅、生者乃滅法者。則行滅法厭離、離貪、滅。舍利弗！是如是學。

一〇

舍利弗！究法者何耶？舍利弗！依如實智慧見之，此乃生者。依如實正慧見，此乃生者，生者則有厭離、離貪、滅、無取著、解脫。

依如實正慧見之，彼為食生。依如實正慧見之，彼為食生者，則有食生之厭離、離貪、滅、無取著、解脫。

如實依正慧見之，依彼食之滅，生者乃滅法。依如實正慧見之，依彼之食滅，生者乃滅法者，則有滅法之厭離、離貪、滅、無取著、解脫。

舍利弗！如是乃究法者。

一一

舍利弗！如是為波羅延那（經）阿逸多之所問中言：

法之追究者
有學及凡夫
問此等威儀
請友以說示

舍利弗！以此略說，依如是廣說，是義即可明。」

〔三二〕第二 伽拉羅

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二

爾時，伽拉羅剎利比丘，走近尊者舍利弗。近已，與尊者舍利弗俱相致問、交談問候可記憶之語後，坐於一面。

三

坐於一面之伽拉羅剎利比丘，向尊者舍利弗作如是言：

「友！舍利弗！牟犁破群那比丘已捨戒還俗矣。」

「我想，彼尊者乃於此法與律中，是不得安慰。」

四

「然，尊者舍利弗於此法與律中得安慰否？」

「友！我於此法與律中，是無惑。」

五

「友！於當來之事，又云何耶？」

「友、我於當來之事，是無疑者。」

六

爾時，伽拉羅剎利比丘則從座起，來詣世尊座之處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

七

坐於一面之伽拉羅剎利比丘，向世尊作如是言：「大德！尊者舍利弗自說：『得智，知生已盡，梵行已立，應作已辦，不再有生。』」

八

爾時，世尊告一比丘曰：「來，比丘！汝以我語告舍利弗：『友！舍利弗！師喚汝。』」

九

「大德！唯然！」彼比丘奉答世尊，詣尊者舍利弗之處。詣已，向舍利弗曰：「友！舍利弗！師喚汝。」

一〇

「友！唯然！」尊者舍利弗答彼比丘，來詣世尊之處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

二

一一

世尊對坐於一面之尊者舍利弗曰：「舍利弗！汝自說：『得智，知生已盡，梵行已立，應作已辦，不再有生。』此事真實耶？」

「大德！勿以此等之句，以此等之文謂非義。」

一二

「舍利弗！良家之子應依如何法門以記智耶？時而可如是記說耶？」

一三

「大德！我亦不如是說。大德！此等之句，不依此等之文說義。」

一四

「舍利弗！若對汝作如是問：『友！舍利弗！云何知，云何見，而稱說：「我，自得智，知生已盡，梵行已立，應作已辦，不再有生耶？」』舍利弗！汝如是被問，如何作答耶？」

一五

「大德！若如是問我：『友！舍利弗如何知、如何見、自得智、稱說知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再有生。』大德！如是問我，應如是答：

一六

『友！生乃有因，依其因滅，於其因盡，則知生已盡。於因之盡，知生已盡，而知：生已盡，梵行已立，應作已辦，更不有生。』

大德！如是之問，我則如是作答。」

一七

「舍利弗！若再以如是問汝：『友！舍利弗！生又由何因、何集，依何而生，以何為本耶？』舍利弗！如是問汝，如何作答耶？」

一八

「大德！若如是問我：『友！舍利弗！生又以何為因……以何為本耶？』大德！如是問我，應如是作答：『友！生為有因、為有集、依有而生、以有為本。』大德！對如是問，我如是作答。」

一九

「舍利弗！若又如是問汝：『友！舍利弗！有又以何為因、以何為集、依何而生、以何為本耶？』舍利弗！如是問汝，如何作答耶？」

二〇

「大德！若如是問我：『友！舍利弗！有又以何為因……以何為本耶？』大德！如是問，我如是作答：『友！有以取為因、以取為集、依取而生、以取為本。』大德！如是問，我如是作答。」

二一

「舍利弗！若又如是問汝：『友！取以何為因……？』

二二～二三

舍利弗！若如是問汝：『友！愛又以何為因、以何為集、依何而生，以何為本耶？』舍利弗！如是問，汝如何作答

耶？」

二四

「大德！若如是問我：『友！舍利弗！又愛以何為因、以何為集、依何而生，以何為本耶？』大德！如是問，我如作答：『友！愛以受為因、以受為集、依受而生、以受為本也。』大德！如是問，我如是作答。」

二五

「舍利弗！若又如是問汝：『友！舍利弗！如何知、如何見時，汝無樂著於受耶？』舍利弗！如是問，汝如何作答耶？」

二六

「大德！若如是問我：『友！如何知，如何見時，汝無樂著於受耶？』大德！如是問，我如是作答。」

二七

『友！此等有三受。三受者何耶？樂受、苦受、不苦不樂受是。友！此等之三受是無常。知是無常苦時，而不樂著於受。』

大德！如是問，我如是作答。」

二八

「善哉，善哉！舍利弗！舍利弗！此法門亦略得作答，即：『如何所受皆是苦。』

二九

舍利弗！若又如是問汝：『友！舍利弗！如何自稱得解脫智，知生已盡，梵行已立，應作已作，更不再有生耶？』舍利弗！對如是問，汝如何作答耶？」

三〇

「大德！若如是問我：『友！舍利弗！如何自稱得解脫智，知生已盡，梵行已立，應作已作，更不來此生耶？』大德！對如是問，我如是作答：

三一

『友！我於內解脫，依一切取滅，住於正念。住正念故，諸漏不隨增，我不認我。』

大德！對如是問，我如是作答。」

三二

「舍利弗！善哉！善哉！舍利弗！此為略說此義之法門。依沙門所云之諸漏，於彼等諸漏，我無惑，我已盡無疑。」

三三

世尊說已，即從座起，入室。

三

三四

尊者舍利弗，於世尊離去未久、向諸比丘曰：

三五

「友！我先前尚未經驗時，世尊起初問我，時我是愚昧。
友！世尊初問於我予隨喜耶？友！我作是念：

三六

『世尊！若一日，以異文、異方便之義問我，我亦一日，
以異文、異方便之義，奉答世尊。

三七

世尊！若一夜以異文、異方便之義問我，我亦一夜以異
文、異方便之義，奉答世尊。

三八

世尊若一日一夜，以異文、異方便之義問我，我亦一日一
夜，以異文、異方便之義，奉答世尊。

三九

世尊若二日二夜，以此義問我，我亦二日二夜，以此義奉
答世尊。

四〇

世尊若三日三夜，以此義問我，我亦三日三夜，以此義奉
答世尊。

四一

世尊若四日四夜，以此義問我，我亦四日四夜，以此義奉答世尊。

四二

世尊若五日五夜，以此義問我，我亦五日五夜，以此義奉答世尊。

四三

世尊若六日六夜，以此義問我，我亦六日六夜，以此義奉答世尊。

四四

世尊若七日七夜，以此義問我，我亦七日七夜，以此義奉答世尊。』」

四

四五

爾時，伽拉羅剎利比丘，即從座起，走近世尊。近已，禮敬世尊，坐於一面。

四六

坐於一面之伽拉羅剎利比丘，向世尊作如是言：

「大德！尊者舍利弗，作如是之獅子吼：『友！我先尚未經驗時，世尊初問於我，時我愚昧。友！世尊初問於我，予隨喜耶？友！我作如是念：世尊若一日，以異文、異方便之義問我，我亦一日，以異文、異方便之義，奉答世尊。世尊若一

夜……一日一夜……世尊若二日二夜……三、四、五、六、七日七夜，以異文、異方便之義問我，我亦七日七夜，以異文、異方便之義，奉答世尊。』」

四七

「比丘！是故，舍利弗是善達法界。彼善達法界故，我若一日以異文、異方便之義，以此義問舍利弗，舍利弗亦一日以異文、異方便之義答我。我又一夜，以異文、異方便義問舍利弗，舍利弗亦一夜，亦此義答我。我若一日一夜，將此義問舍利弗，舍利弗亦一日一夜，以此義答我。我若二日二夜，以此義問舍利弗，舍利弗亦二日二夜，以此義答我。若我三日三夜，以此義問舍利弗，舍利弗亦三日三夜，以此義答我。我若四日四夜，以此義問舍利弗，舍利弗亦四日四夜，以此義答我。我若五日五夜，以此義問舍利弗，舍利弗亦五日五夜，以此義答我。我若六日六夜，以此義問舍利弗，舍利弗亦六日六夜，以此義答我。我若七日七夜，以異文、異方便之義問舍利弗，舍利亦七日七夜，以異文、異方便之義答我。」

〔三三〕第三 智事（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，世尊曰：「諸比丘！我說四十四智事，汝等諦聽，善思念，我當宣說。」

「大德！唯然。」彼等諸比丘奉答世尊。

三

世尊曰：「諸比丘！四十四智事為何耶？

四

老死智、老死集智、老死滅智、趣老死滅之道跡智。

五

生智、生集智、生滅智、趣生滅之道跡智。

六

有智、有集智、有滅智、趣有滅之道跡智。

七

取智、取集智、取滅智、趣取滅之道跡智。

八

愛智、愛集智、愛滅智、趣愛滅之道跡智。

九

受智、受集智、受滅智、趣受滅之道跡智。

一〇

觸智、〔觸集智〕……

一一

六處智……

一二

名色智……

一三

識智……

一四

行智、行集智、行滅智、趣行滅之道跡智。

諸比丘！此等是謂四十四智事。

一五

諸比丘！老死者何耶？於各種眾生之類、各種眾生之老衰、衰耄、朽敗、白髮、皺皮、壽命之頽敗、諸根之耄熟，此謂之老。於各種眾生之類、各種眾生之歿、滅、破壞、死、破滅、諸蘊之破壞、遺骸之放棄，此謂之死。如是，此之老與此之死，諸比丘！此謂之老死。

一六

生集之故，有老死集，生滅之故，有老死滅。此八支聖道乃趣老死滅之道跡。即：正見……正定。

一七

諸比丘！聖弟子知如是之老死、知如是老死之集、知如是老死之滅、知如是趣老死滅之道跡。

一八

此乃彼之法智。彼由此等見、知，達於不時、依沒入法，
導向過去、未來之道。

一九

於過去，如何沙門或婆羅門，知老死、知老死之集、知老死滅、知趣老死滅之道跡耶？一切彼等，如我今者之知如是、如是耶？

二〇

於未來、雖如何沙門或婆羅門，知老死、知老死之集、知老死之滅、知趣老死滅之道跡耶？一切彼等，如我今者之知如是、如是耶？此為彼之類智。

二一

諸比丘！聖弟子、有此等清淨、純淨二智，即：法智與類智是。諸比丘！對此，聖弟子亦得謂之：達於見，達於見，亦達於正法，亦見此正法，亦具足學智、亦具足學明、亦入於法流、亦聖明達慧，建立不死之扉。

二二

諸比丘！生為何耶？各種眾生之……

二三

諸比丘！有者何耶？……

二四

諸比丘！取者何耶？……

二五

諸比丘！愛者何耶？……

二六

諸比丘！受者何耶？……

二七

諸比丘！觸者何耶？……

二八

諸比丘！六處者何耶？……

二九

諸比丘！名色者何耶？……

三〇

諸比丘！識者何耶？……

三一

諸比丘！行者何耶？諸比丘！此等有三行，即：身行、語行、心行是。諸比丘！此等謂諸行。

三二

無明集故有行集，無明集滅故行滅。唯此八支聖道，乃趣行滅之道跡，即：正見……正定是。

三三

諸比丘！聖弟子知如是行、知如是行集、知如是行滅、知如是趣行滅之道跡，此乃彼之法智。彼由此等之所見、所知、達於不時、依沒入於法，導於過去、未來之道。

三四

於過去雖是如何之沙門或婆羅門，知行、知行集、知行滅、知趣行滅之道跡。一切彼等，如我今者之如是、如是知。

三五

於未來雖是如何之沙門或婆羅門，知行、知行之集、知行之滅、知趣行滅之道跡。一切彼等，如我今者之如是、如是知耶？此乃彼之類智。

三六

諸比丘！聖弟子有此等之清淨、純淨二智，即：法智與類智是。諸比丘！對此，聖弟子謂之：亦達於見、亦達於見、於達正法、亦見正法、亦學智具足、亦學明具足、亦入於法流、亦聖明達慧、建立不死之扉。」

〔三四〕第四 智事（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！我為汝等說七十七智事，汝等諦聽，當善思念，我當宣說……」

諸比丘！七十七智事者何耶？

三

緣生而有老死之智，無生無老死之智；過去緣生而有老死之智，無生無老死之智，未來緣生而有老死之智，無生無老死之智；有法住智處，亦有盡法、敗壞法、離貪法、滅法之智。

四

緣有而有生之智，……

五

緣取而有有之智，……

六

緣愛而有取之智，……

七

緣受而有愛之智，……

八

緣觸而有受之智，……

九

緣六處而有觸之智，……

一〇

緣名色而有六處之智，……

一一

緣識而有名色之智，……

一二

緣行而有識之智，……

一三

緣無明而有行之智，無無明則無行之智，於過去緣無明而有行之智，無無明則無行之智，於未來緣無明而有行之智，無無明則無行之智，於法住智亦有盡法、敗壞法、離貪法、滅法之智。

一四

諸比丘！此等謂之七十七智事。」

〔三五〕第五 無明緣（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！緣無明而有行，緣行而有識……如是乃此全苦蘊之集。」

三

「大德！老死者何耶？此老死屬於何人耶？」

世尊曰：「如是之所問乃不相應。比丘！『老死者何耶？又此老死屬於何人耶？』此謂『老死與老死之所屬者相異』謂此兩者雖為一義，而文則相異也。比丘！有『命與身為同』之見，此非梵行住。比丘！有『命與身為異』之見，此非梵行住。比丘！離此等之兩邊，如來緣中說法，緣生而有老死。」

四

「大德！生者何耶？此生屬何人耶？」

世尊曰：「如是之所問乃不相應。比丘！『生者何耶？又此生屬何人耶？』此謂『生與此生之所屬為異。』比丘！謂則此兩者雖為一義，而文則相異。比丘！有『命與身為同』之見，此非梵行住。有『命與身為異』之見，此非梵行住。比丘！離此等之兩邊，如來緣中說法，緣有而有生。」

五

「大德！有者何耶？此有屬何人耶？」

世尊曰：「如是之所問乃不相應。比丘！『有者何耶？此有屬何人耶？』此謂『有與屬此有之者為異。』比丘！謂此兩者雖為一義，而文則相異。比丘！有『命與身同』之見，此非梵行住。比丘！有『命與身異』之見，此非梵行住。比丘！離此等之兩邊，如來緣中而說法。」

六

緣取而有有，……

七

緣愛而有取，……

八

緣受而有愛，……

九

緣觸而有受，……

一〇

緣六處而有觸，……

一一

緣名色而有六處，……

一二

緣識而有名色，……

一三

緣行而有識，……

一四

「大德！行者何耶？又此等屬何人耶？」

世尊曰：「如是之所問，乃不相應。比丘！『行者何耶？又此等諸行屬何人耶？』此謂『行與屬此等行者為異』。比丘！如作是言，則此兩者雖為一義而文則相異也。比丘！有『命與身為同』之見，此非梵行住。比丘！有『命與身異』之

見，此非梵行住。比丘！離此等之兩邊，如來緣中而說法。緣無明而有行。

比丘！由無明之無餘，離貪、滅，諸雜亂、異說、歪曲、動轉、悉作以捨離。

一五

如老死者何耶？此老死屬何人耶？如命與身為同。如命與身為異。一切無取著，為捨離。此等則悉皆斷根，如被截髓之多羅樹，成為非有，當來即不再生。比丘！因無明之無餘，離貪、滅、諸雜亂、異說、歪曲、動轉、悉皆捨離。

一六

生者何耶？此生屬何人耶？如命與身為同。如命與身為異。一切無取著、捨離。此等則悉皆斷根，如截髓之多羅樹，成為非有，當來即不再生。比丘！因無明之無餘，離貪、滅，諸雜亂、異說、歪曲、動轉、悉皆捨離。

一七

有者何耶？……

一八

取者何耶？……

一九

愛者何耶？……

二〇

受者何耶？……

二一

觸者何耶？……

二二

六處者何耶？……

二三

名色者何耶？……

二四

識者何耶？……比丘！因無明之無餘，離貪、滅，諸雜亂、異說、歪曲、動轉、悉皆捨離。

二五

行者何耶？此等之行屬何人耶？行與屬此之行者，為異。如命與身為同也。如命與身為異也。一切無取著、捨離。此等乃悉皆斷根，如被截髓之多羅樹，成為非有當來即不再生。」
……

〔三六〕第六 無明緣（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！緣無明而有行，緣行而有識……如是乃全苦蘊之集。

三

諸比丘！『老死者何耶？又此老死屬何人耶？』作是言者諸比丘！『老死與屬此老死之行者相異。』若作如是言，則此兩者雖為一義而文則相異。

諸比丘！如有：『命與身為同』之見，此非梵行住。諸比丘！如有『命與身為異』之見，此非梵行住。

諸比丘！離此等之兩邊，如來緣中而說法，緣生而有老死。……

四

生者何耶？……

五

有者何耶？……

六

取者何耶？……

七

愛者何耶？……

八

受者何耶？……

九

觸者何耶？……

一〇

六處者何耶？……

一一

名色者何耶？……

一二

識者何耶？……

一三

諸比丘！『行者何耶？行又屬何人耶？』作如是言者，諸比丘！若作如是言：『行與屬此行之者為異。』則兩者雖為一義，而文則相異。

諸比丘！如有『命與身為同』之見，此非梵行住。諸比丘！如有『命與身為異』之見，此非梵行住。

諸比丘！離此等之兩邊，如來緣中而說法，緣無明而有行。……

一四

諸比丘！因無明之無餘，離貪、滅，雜亂、異說、歪曲、動轉、悉皆捨離。

一五

生者何耶？……

一六

有者何耶？……

一七

取者何耶？……

一八

愛者何耶？……

一九

受者何耶？……

二〇

觸者何耶？……

二一

六處者何耶？……

二二

名色者何耶？……

二三

識者何耶？……

二四

如『行者何耶？又此等行屬何人耶？』如『行與屬此等之行屬者為異』。如『命與身為同』……一切無取著、捨離。此等乃悉皆斷根，如被截髓之多羅樹，成為非有，即不再生。」

〔三七〕第七 非汝之物

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！此身非汝等之物，亦非屬他人之物。」

三

「諸比丘！應知此乃依先業所造者，依先業所思考者，依先業所感受者。」

四

諸比丘！然則聖弟子聞緣起，則善思念。

五

此有故彼有，此生故彼生，此無故彼無，此滅故彼滅。
即：緣無明而有行，緣行而有識……如是乃全苦蘊之集。因無明之無餘，離貪、滅而有行滅。因行滅有識滅，如是乃全苦蘊之滅。」

〔三八〕第八 思（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！雖思量、企畫、考慮之任何事，此為識定之所緣。有所緣故而有識住。其識之住增長時，於未來而有再生，於未來至有再生時，生未來之老死、愁、悲、苦、憂、惱。如是乃此全苦蘊之集。

三

諸比丘！若無思量，無企畫，然有思慮時，此為識定之所緣。有所緣故有識之住，其識之住增長時，於未來有再生，於未來至有再生時，生未來之老死、愁悲、苦、憂、惱。如是乃此全苦蘊之集。

四

諸比丘！若無思量，無企畫，無思慮，則無此識定之所緣，無所緣故無識之住，無識住且不增長時，於未來則無再生；於未來無再生，則滅未來之生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱。如是乃此全苦蘊之滅。」

〔三九〕第九 思（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！雖思量，企畫，考慮之任何事，此乃識定之所緣。有所緣故有識之住，其識之住增長時，則有名色之顯現。

三

緣名色有六處，緣六處有觸，緣觸而有受，……愛，……取，……有，……生，……生老死、愁、悲、苦、憂、惱。如是乃此全苦蘊之集。

四

諸比丘！若無思量，無企畫，而有思慮，此乃識定之所緣。有所緣故有識之住，其識住增長時，有名色之顯現。

五

緣名色有六處……如是乃此全苦蘊之集。

六

諸比丘！若無思量，無企畫，無思慮者，則此識定無所緣，無所緣故無識之住，無識住且不增長時，無名色之顯現，因名色滅，有六處滅……如是乃此全苦蘊之滅。」

〔四〇〕第十 思（之三）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！思量，企畫，思慮之任何事，此乃識定之所緣。有所緣故有識之住。

三

其識之住增長時，有繫著，有繫著故有往來，有往來故有生死，有生死故於未來有生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱。如是乃此全苦蘊之集。

四

諸比丘！若無思量，無企畫，而有思慮時，此為識定之所緣。有所緣故有識之住。

五

諸比丘！其識之住增長時有繫著，有繫著時有往來，有往來故有生死，有生死故有未來生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱。

如是，乃此全苦蘊之集。

六

諸比丘！若無思量、無企畫、無思慮，則此識定無所緣，無所緣則無住。

七

無識之住，且不增長時，則無繫著，無繫著故無往來，無往來故無生死，無生死故，未來之生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱滅。

如是，乃此全苦蘊之滅。」

此頌曰：

生者迦拉羅 二智無明緣
非汝所有物 以及三種思

第五 家主品

〔四一〕第一 五畏罪（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二

爾時，給孤獨家主來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。世尊言於坐在一面之給孤獨家主曰：

三

「家主！聖弟子於五畏罪令靜止，具足四預流支，依慧善見、善知聖法時，彼若欲者，則依彼自身，明彼自身。即：

『我於地獄滅，趣畜生滅，餓鬼滅，苦處、惡趣、無樂處滅，我入於預流，為不墮惡趣者。決定入達菩提之終極。』

四

令靜止於五畏罪者，何耶？

五

家主！殺生者，緣殺生於現法生畏罪。於未來生畏罪，亦經驗於心所苦、憂。依如是之斷絕殺生，使彼畏罪靜止。

六

家主！不與取者，緣不與取，亦於現法生畏罪，於未來生畏罪。亦經驗於心所苦、憂。依如是之斷絕不與取，能使彼畏罪靜止。

七

家主！邪欲行者，緣於邪欲行，亦於現法生畏罪，亦於未來生畏罪。亦經驗於心所苦、憂。依如是之斷絕邪欲行，能使彼畏罪靜止。

八

家主！妄語者，緣於妄語，亦於現法生畏罪，亦於未來生畏罪。亦經驗於心所苦、憂。依如是之斷絕妄語，能使彼畏罪靜止。

九

家主！飲酒者，緣於飲酒，亦於現法生畏罪，亦於未來生畏罪。亦經驗於心所苦、憂。依如是因斷絕飲酒，能使彼畏罪靜止。

此等是五畏罪之靜止。

二

一〇

四預流支具足者，何耶？

一一

家主！於是聖弟子，對佛抱不壞之信——『彼世尊為應供、正等覺者，是明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

一二

對法抱不壞之信——『法乃由世尊善說者，即：〔其法〕乃有現果報，有不時報，所謂來見者，為導引之所在者，此乃由各各識者所不可不知之〔法〕。』

一三

對僧伽抱不壞之信——『世尊之弟子僧伽，乃善行者。世尊之弟子僧伽，乃正行者。世尊之弟子僧伽，乃以智行者。世尊之弟子僧伽，乃正行者，亦即四雙八輩者是。此之世尊弟子僧伽，應予以供養、尊重、布施、合掌，此乃世間之無上福田。』

一四

是聖者所稱讚之戒具足，其戒為不壞、不毀、不截、無穢，導於自由、識者所喜、無污，是轉向定者。

此等是具足四預流支。

一五

依慧善見、善知聖法者，何耶？

一六

家主！於是聖弟子，善思惟緣起。即：彼有故此有，彼無時故此無，彼生故此生，彼滅故此滅。

一七

即：緣無明而有行，緣行而有識……如是乃此全苦蘊之集。因無明無餘，離貪、滅，乃行滅，因行滅，乃識滅，……如是乃此全苦蘊之滅。

以此慧而善見、善知正法。

一八

家主！聖弟子靜止於此等之五畏罪，具足此等之四預流支。以慧而善見、善知此等之聖法時，若彼欲，依彼自身，明彼自身。即：『於我地獄滅、畜生趣滅、餓鬼滅、苦處、惡趣、無樂處滅，我入於預流，不墮惡趣，決定達於菩提之終極。』」

〔四二〕第二 五畏罪（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，眾多比丘來詣世尊之處。詣已……世尊曰：

※三

「諸比丘！聖弟子於五畏罪令靜止，具足四預流支，以慧善見、善知聖法時，若彼欲者，則依彼自身，明彼自身。即：『於地獄滅……不墮於惡趣，決定達於菩提之終極。』

※三

靜止於五畏罪者，何耶？

諸比丘！殺生者，……

諸比丘！不與取者，……

諸比丘！邪欲行者，……

諸比丘！妄語者，……

諸比丘！飲酒者，……

此等之五畏罪令靜止。

四

四預流支具足者，何耶？

諸比丘！於是聖弟子，對佛……對法……對僧伽……具足聖者所稱讚之戒。

具足此等四預流支是。

五

以此慧善見、善知聖法者，何耶？

諸比丘！於是聖弟子，善思惟緣起。……

以此慧善見、善知聖法是。

六

諸比丘！聖弟子令靜止於此等之五畏罪，具足此等之四預流支，以慧善見、善知聖法時，若彼欲者，依彼自身，明彼自身，即：『於地獄滅、趣於畜生滅、於餓鬼滅、苦處、惡趣、無樂處滅。我入於預流、不墮惡趣，決定達於菩提之終極。』」

〔四三〕第三 苦

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

諸比丘！我為汝等說苦之集與苦之滅。汝等諦聽……

一

三

「諸比丘！苦之集者，何耶？

四

依眼與色而生眼識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛。諸比丘！此乃苦之集。

五

依耳與聲……

六

依鼻與香……

七

依舌與味……

八

依身與觸……

九

依於意與法而生意識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛。諸比丘！此乃苦之集。

二

一〇

諸比丘！苦之滅者，何耶？

一一

依眼與色生眼識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，依其愛之無餘，離貪、滅而有取滅，依取滅而有有滅，依有滅而有生滅，依生滅則老死、愁、悲、苦憂、惱滅。如是乃此全苦蘊之滅。

諸比丘！此乃苦之滅。

一二

依耳與聲生耳識。

一三

依鼻與香生鼻識。

一四

依舌與味……

一五

依身與觸……

一六

依於意與法生意識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，依其愛之無餘，離貪、滅而有取滅。依取滅而有有滅，依有滅而有生滅，依生滅則老死、愁、悲、苦、憂、惱滅。如是乃此全苦蘊之滅。

一七

諸比丘！此乃苦之滅。」

〔四四〕第四 世間

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔其時，世尊曰：〕「諸比丘！我為汝等說世間之集與滅，汝等諦聽……

一

三

諸比丘！世間之集者，何耶？

四

依於眼與色生眼識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，緣愛而有取，緣取而有有，緣有而有生，緣生而生老死、愁、悲、苦、憂、惱。此乃世間之集。

五

依耳與聲……

六

依鼻與香……

七

依舌與味……

八

依身與觸……

九

依於意與法生意識，三之和合乃有觸，緣觸而有受……緣生而生老死、愁、悲、苦憂、惱。此乃世間之集。

二

一〇

諸比丘！世間之滅者，何耶？

一一

依於眼與色生眼識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，依彼愛之無餘，離貪、滅而有取滅，依取滅而有有滅……。如是乃此全苦蘊之滅。

此為世間之滅。

一二

依耳與聲……

一三

依鼻與香……

一四

依舌與味……

一五

依身與觸……

一六

依意與法而生意識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，依彼愛之無餘，離貪、滅而有取滅，依取滅而有有滅……。如是乃此全苦蘊之滅。

一七

諸比丘！此乃世間全苦蘊之滅。」

〔四五〕第五 那提迦

一

如是我聞。爾時，世尊住那提迦村之磚瓦家。

一

二

爾時，世尊，獨自宴坐，而宣說此法門曰：

三

「依於眼與色生眼識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，緣愛而有取……。如是乃此全苦蘊之集。

四

依耳與聲……

五

依鼻與香……

六

依舌與味……

七

依身與觸……

八

依於意與法而生意識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，緣愛而有取……。如是乃此全苦蘊之集。

九

依眼與色生意識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，依彼愛之無餘，離貪、滅而有取滅，依取滅而有有滅……。如是，此乃全苦蘊之滅。……

一〇

依耳與聲……

一一

依鼻與香……

一二

依舌與味……

一三

依身與觸……

一四

依於意與法生意識，三之和合乃有觸，緣觸而有受，緣受而有愛，依彼愛之無餘，離貪、滅而有取滅，依取滅而有有滅……。如是，此乃全苦蘊之滅。」

二

一五

爾時，一比丘，因漏聞世尊之語而起立。

一六

世尊見此比丘，因漏聞而起立。

一七

見而謂於此比丘曰：「比丘！汝欲聞此法門耶？」

「唯然，大德！」

一八

「比丘！汝應受持此法門。比丘！汝應善知此法門。比丘！具足此法門之義，是乃梵行之初。」

〔四六〕第六 異

一

爾時，世尊住舍衛城。

二

爾時，一婆羅門來詣世尊之處。詣已，與世尊俱相問候，交談致意於可記憶之語後，坐於一面。

坐於一面之彼婆羅門，如是白世尊曰：

三

「瞿曇！如何是彼作而彼經驗耶？」

「婆羅門！彼作而彼經驗者，此乃一極端。」

四

「瞿曇！又如何他作而他經驗耶？」

「婆羅門！他作而他經驗者，此乃第二之極端。婆羅門！離此等之兩極端，如來依於中而說法。」

五

緣無明而有行，緣行而有識，……如是，乃此全苦蘊之集。

依無明之無餘，離貪、滅而有行之滅，依行之滅……。如是，此乃全苦蘊之滅」。

六

如是說已。彼婆羅門如是白世尊曰：

「瞿曇！稀有哉！……尊瞿曇！請受我從今日以後，終生歸依為優婆塞。」

〔四七〕第七 聲聞

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，聲聞婆羅門來詣世尊之處。詣已，與世尊俱相致問候……

坐於一面之聲聞婆羅門，如是白世尊曰：

三

「瞿曇！『一切為有』是如何耶？」

「婆羅門！『一切為有』者，此乃一極端。」

四

「瞿曇！『一切為無』是如何耶？」

「婆羅門！『一切為無』者，此乃第二極端。婆羅門！離此等之兩極端，如來依於中而說法。」

五

緣無明而有行，緣行而有識，……如是，此乃全苦蘊之集。

依無明之無餘，離貪、滅而有行之滅，依行之滅……。如是，此乃全苦蘊之滅。」

六

如是說已，彼聲聞婆羅門，如是白世尊曰：「瞿曇！稀有哉！……願終生歸依。」

〔四八〕第八 順世派

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，順世派之婆羅門來詣世尊之處，……坐於一面之順世派婆羅門，如是白世尊曰：

三

「瞿曇！『一切為有』是如何耶？」

「婆羅門！『一切為有』者，此乃第一世間之領域。」

四

「瞿曇！又『一切為無』是如何耶？」

「婆羅門！『一切為無』者，此乃第二世間之領域。」

五

「瞿曇！『一切為一』是如何耶？」

「婆羅門！『一切為一』者，此乃第三世間之領域。」

六

「瞿曇！又『一切為異』是如何耶？」

「婆羅門！『一切為異』者，此乃第四世間之領域。」

「婆羅門！離此等之兩極端，如來依中而說法。」

七

緣無明而有行，緣行而有識，……如是，此乃全苦蘊之集。

依無明之無餘，離貪、滅而有行滅，依行滅而有識滅……如是，此乃全苦蘊之滅。」

八

如是說已。順世派之婆羅門，如是白世尊曰：「尊者瞿曇！稀有哉！……從今願終生歸依……」

〔四九〕第九 聖弟子（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！多聞之聖弟子，不作如是之念：『如何有何故有何耶？生何時何生耶？有何故有名色耶？有何故有六處耶？有何故有觸耶？有何故有受耶？有何故有愛耶？有何故有取耶？有何故有有耶？有何故有生？有何故有老死耶？』」

三

諸比丘！時，多聞之聖弟子，無他緣而於此有智。『有無明故有行，有行故有識，有識故有名色……有生故有老死。』彼如是知此世間之生起。

四

諸比丘！多聞之聖弟子，不作如是之念：『如何無何故無何耶？因何滅故何滅耶？〔無何故無行耶？無何故無識耶？〕無何故無名色耶？無何故無六處耶？無何故無觸耶？無何故無受耶？無何故無愛耶？無何故無取耶？無何故無有耶？無何故無生耶？無何故無老死耶？』……

五

諸比丘！時，多聞之聖弟子，無他緣而於此有智。

彼無故此無，彼滅故此滅，無無明故無行，無行故無識，無識故無名色，無名色故無六處，……無觸……無受……無愛……無取……無有……無生……無生故無老死……彼如是知此世間滅。

六

諸比丘！聖弟子如是如實知世間之集與滅。諸比丘！如是可謂聖弟子具足見……皆立於不死之扉。」

〔五〇〕第十 聖弟子（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！多聞之聖弟子，不作如是之念：『如何有何故有何耶？由何之生起，何生耶？有何故有行耶？有何故有識耶？有何故有名色耶？有何故有六處耶？有何故有觸耶？有何故有受耶？有何故有愛耶？有何故有取耶？有何故有有耶？有何故有生耶？有何故有老死耶？……

三

諸比丘！時，多聞之聖弟子，無他緣而於此有智。彼有故此有，彼生故此生。有無明故有行，有行故有識，有識故有名色，有名色故有六處，有六處故有觸，有觸故有受，有受故有愛，有愛故有取，有取故有有，有有故有生，有生故有老死。』彼如是知此世間生起。

四

諸比丘！多聞之聖弟子，不作如是之念：『如何無何故無何耶？因何滅而何滅耶？無何故無行耶？無何故無識耶？……無何故無老死耶？』

五

諸比丘！時多聞之聖弟子，無他緣而於此有智。『彼無故此無，此滅故彼滅，無無明故無行，無行故無識，無識故無名色，無名色故無六處……無生故無老死。』彼如是知此世間滅。

六

諸比丘！聖弟子如是如實知此世間之集與滅。諸比丘！對此，聖弟子可謂達見、見此正法、具足學智、具足學明、入於法流、聖明達慧、皆立於不死之扉。」

此頌曰：

謂此五畏罪
苦世那提迦
以及異聲聞
所謂聖弟子
依此為品名

第六 樹品

〔五一〕第一 思量

一

如是我聞。一時世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，世尊言彼等比丘曰：「諸比丘！」彼等諸比丘奉答世尊曰：「大德！唯然！」

三

世尊曰：「諸比丘！比丘凡為真正滅苦，應以如何之思量而思量之耶？」

「大德！於我等，法以世尊為本，以世尊為導者，以世尊為所依。大德！善哉！實欲世尊明所宣說之義，諸比丘願奉聞受持世尊之教。」

四

「諸比丘！汝等諦聽，當善思念，我當宣說。」

彼諸比丘向世尊奉答曰：「大德！唯然！」

世尊曰：

五

「諸比丘！如是比丘思量而思量：『此種種多樣之苦、老死，生於世間。此苦以何為因？以何為集？以何為生？以何為起耶？有何故有老死耶？無何故無老死耶？』

六

彼更思惟而如是知：『此種種多樣之苦、老死，生於世間。此苦乃以生為因，以生為集，以生為生，以生為起。有生故有老死，無生故無老死。』

七

彼知老死，知老死之集，知老死之滅，知趣於老死滅之道跡，如是契法行者。

八

諸比丘！於此，比丘所作悉是正苦之滅，即是老死之滅。

九

更思量而思量：『又，此有以何為因？此取以何為因？此愛以何為因？受、觸、六處，又以何為因？此名色……此識……此行以何為因？以何為集、以何為生、以何為起耶？有何故有行？無生故無行耶？』

一〇

彼更思量而如是知：『行以無明為因，以無明為集，以無明為生，以無明為起。有無明故有行，無無明故無行也。』

一一

彼知行，知行之集，知行之滅，知趣行滅之道跡。如是為契法行者。諸比丘！於此，比丘所作：悉是正苦之滅，即是行之滅。

一二

諸比丘！陷於無明之人，若自為福行者，則其識趣於福；若自為非福行者，則其識趣於非福；若自為不動行者，則其識趣於不動。

一三

諸比丘！比丘捨無明而生明，彼離無明生明故，彼無自為福行，無自為非福行，無自為不動行。

一四

依不為、不思惟，無取著世間之任何物。無取著故無畏怖，無畏怖故自證般涅槃，得知『生已盡，梵行已立，應作已作，更無應再生。』

一五

若感受樂受，知其為無常，知不可取著，知非可喜樂。若感受苦受，知其為無常，知不可取著，知非可喜樂。若感受不苦、不樂受，知其為無常，知不可取著，知非可喜樂。

一六

若彼感受樂受，則離脫而感受其受。若彼感受苦受，則離脫而感受其受。若彼感受不苦、不樂受，則離脫而感受其受。

一七

彼感受身分齊之受，知『我感受身分齊之受』，彼感受命分齊之受，知『我感受命分齊之受』，身壞時，知『此命已盡，一切感受已，無喜樂，成為冰冷，只遺殘骸』。

一八

諸比丘！譬如有人，由陶窯取出新熟之瓦器，置於平地處、降其熱，瓦片殘於其處。諸比丘！同此，比丘感受身分齊之受，知『我感受身分齊之受』、『感受命分齊之受』、『我感受命分齊之受』。身壞時、知『由此處命盡、感受一切已、無喜樂、成為冰冷、僅遺殘骸』。

一九

諸比丘！對之作如何思惟耶？漏盡比丘亦為福行耶？或為非福行，或為不動行耶？」

「大德！無此事。」

二〇

「又，凡無行時，由行之滅、亦施設識耶？」

「大德！無此事。」

二一

「又，凡無識時，由識之滅、亦施設名色耶？」

「大德！無此事。」

二二

「又，凡無名色時，由名色之滅、亦施設六處耶？」

「大德！無此事。」

二三

「又，凡無六處時，由六處之滅、亦施設觸耶？」

「大德！無此事。」

二四

「又，凡無觸時，由觸之滅、亦施設受耶？」

「大德！無此事。」

二五

「又，凡無受時，亦施設愛耶？」

「大德！無此事。」

二六

「又，凡無愛時，由愛之滅、亦施設取耶？」

「大德！無此事。」

二七

「又，凡無取時，由取之滅、亦施設有耶？」

「大德！無此事。」

二八

「又，凡無有時，由有之滅、亦施設生耶？」

「大德！無此事。」

二九

「又，凡無生時，由生之滅、亦施設老死耶？」

「大德！無此事。」

三〇

「善哉！善哉！諸比丘！如是，諸比丘！此為非異者。諸比丘！信我，信賴我，可離惑、離疑，此為苦之終。」

〔五二〕第二 取

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！於所取之法，住味觀者，增長於愛。緣愛而有取，緣取而有有，緣有而有生，緣生而有老死、愁、悲、苦、憂、惱，如是，此乃全苦蘊之集。」

三

諸比丘！譬如大火聚，將然燒十載薪、或二十載薪、三十載薪、四十載薪，其時，有人適時投以乾草，投以乾牛糞，投以乾薪。諸比丘！依如是，則彼大火聚將長時久燃。

四

諸比丘！同此，於所取法，住味觀者，增長於愛，緣愛而有取……如是，此乃全苦蘊之集。

五

諸比丘！於所取之法，住患觀者，則愛滅。由愛滅，則有取滅，由取滅，則有有滅。由有滅，則有生滅，由生滅，則有老死、愁、悲、苦、憂、惱之滅。如是，此乃全苦蘊之滅。

六

諸比丘！譬如大火聚，將燃燒十載薪、或二十、三十、或四十載之薪。其時，有人適時不投以乾草，不投以乾牛糞，不投以乾薪。諸比丘！依如是，則彼大火火聚前薪燒盡，因未加他者，而應熄滅。

七

諸比丘！同此，於所取之法，住患觀者，則愛滅。由愛滅，則有取滅……如是，此乃全苦蘊之滅。」

〔五三〕第三 結（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！於所結之法，住味觀者，增長於愛。緣愛而有取，緣取而有有，緣有而有生，緣生而生老死、愁、悲、苦、憂、惱。如是，此乃全苦蘊之集。

三

諸比丘！譬如油燈，乃依油與炷而得燃。彼時，有人適時注油，注意其炷，諸比丘！因如是、油燈則得長久燃燒。

四

諸比丘！同此，於所結之法，住味觀者，增長於愛。緣愛而有取……

如是，乃此全苦蘊之集。

五

諸比丘！於所結之法，住患觀者，則愛滅，由愛滅而有取滅……如是，乃此全苦蘊之滅。

六

諸比丘！譬如油燈，乃依油與炷而得燃，其時，有人不適時注油，不注意其炷，諸比丘！因如是，彼油燈之餘燃料燒盡，因未另加他者而消滅。

七

諸比丘！同此，於所結之法，住患觀者，則愛滅，由愛滅則有取滅……如是，乃此全苦蘊之滅。」

〔五四〕第四 結（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！譬如油與炷，彼油燈依之得燃燒，其時，有人適時注以油，注意其炷，諸比丘！因如是，油燈得燃燒長久。諸比丘！同此，於所結之法，住味觀者，增長於愛，緣愛而有取……如是，此乃全苦蘊之集。

三

諸比丘！譬如油與炷，油燈依之得燃燒。其時，有人未適時注油，未注意其炷，諸比丘！如是，彼油燈之餘燃料燒盡，因未另加他者而熄滅。諸比丘！同此，於所結之法，住患觀者，則愛滅。由愛滅有取滅……如是，此乃全苦蘊之滅也。」

〔五五〕第五 大樹（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！於所取之法，住味觀者，增長於愛。緣愛而有取……如是，此乃全苦蘊之集。

三

諸比丘！譬如有大樹，其根向下伸展，使一切之地味、水味上昇。諸比丘！如是，彼大樹因此得長時久住。諸比丘！同此，於所取之法，住味觀者，增長於愛。緣愛而有取，緣取而有有……如是，此乃全苦蘊之集。

四

諸比丘！於所取之法，住患觀者，愛滅。由愛滅乃有取滅，由取滅，則有有滅……如是，此乃全苦蘊之滅。

五

諸比丘！譬如大樹，彼時有人取來鋤與籠。彼截其樹根，由截根而更於周圍掘挖穴，於周圍挖穴，乃將小根、鬚根、亦予根除。彼截其樹為圓木更截圓木作木片，木片作成粗朶，粗朶置於日與風下乾燥，乾燥後以火燒之，火燒成灰，成灰被大風篩吹，或流入河之奔流。諸比丘！如是，彼大樹被截根者，如多羅樹之截株，不能再生，成為未來不生者。

六

諸比丘！同此，於所取之法，住患觀者，則愛滅。由愛滅乃有取滅……如是，此乃全苦蘊之滅。」

〔五六〕第六 大樹（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘，譬如有大樹，其根向下伸展，使一切之地味、水味上昇。諸比丘！如是，彼大樹因此得長時久住。

三

諸比丘！同此，於所取之法，住味觀者，增長於愛。緣愛而有取……如是，此乃全苦蘊之集。

四

諸比丘！譬如有大樹，彼時有人取來鋤與籠，彼截其樹根。由截根更於周圍挖穴，將小根、鬚根、亦予根除，……流於河之奔流。諸比丘！如是，彼大樹被截根者，如多羅樹之截株，不能再生，成為未來不生者。

五

諸比丘！同此，於所取之法，住患觀者，則愛滅。由愛滅乃有取滅……如是，乃此全苦蘊之滅。」

〔五七〕第七 幼樹

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！於所結之法，住味觀者，增長於愛。緣愛而有取……如是，此乃全苦蘊之集。

三

諸比丘！譬如有幼樹，有人適時鬆緩其根，適時與糞，適時與水。諸比丘！如是彼幼樹因此得增長、茂盛、增展。

四

諸比丘！同此，於所結之法，住味觀者，則愛增上。緣愛而有取……如是，此乃全苦蘊之集。

五

諸比丘！於所結之法，住患觀者，則愛滅。由愛滅則有取滅……如是，此乃全苦蘊之滅。

六

諸比丘！譬如有幼樹，彼時有人取來鋤與籠，彼截其樹根，由截根更於周圍挖穴、將小根、鬚根、亦予根除。彼截其樹成圓木，圓木作成木片，木片作成粗朶，粗朶置於日與風下乾燥，以火燃燒，以火燒之成灰，灰被風篩吹，或流於河之奔流。諸比丘！如是，彼幼樹被截根者如多羅樹之截株，不能再生，成為未來不生者。

七

諸比丘！同此，於所結之法，住患觀者，則愛滅。由愛滅乃有取滅……如是，此乃全苦蘊之滅。」

〔五八〕第八 名色

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！於所結之法，住味觀者，有名色之顯現。緣名色有六處……如是，此乃全苦蘊之集。

三

諸比丘！譬如有大樹，其根向下伸展，使一切之地味、水味上昇。諸比丘！如是，彼大樹因此得長時久住。

四

諸比丘！同此，於所結之法，住味觀者，有名色之顯現……

五

諸比丘！於所結之法，住患觀者，無名色之顯現。由名色滅而有六處滅……如是此乃全苦蘊之滅。

六

諸比丘！譬如有大樹，彼時有人取來鋤與籠……成未來不生者。

七

諸比丘！同此，於所結之法，住患觀者，無名色之顯現。由名色滅，乃有六處滅……如是，乃此全苦蘊之滅。」

〔五九〕第九 識

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！於所結之法，住味觀者，有識之顯現。緣識而有名色，……如是，此乃全苦蘊之集。

三

諸比丘！譬如有大樹，其根向下……

四

諸比丘！同此，於所結之法，住味觀者，有識之顯現。緣識而有名色……如是，此乃全苦蘊之集。

五

諸比丘！於所結之法，住患觀者，無識之顯現。由識滅而有名色滅……如是，此乃全苦蘊之滅。

六

諸比丘！譬如大樹，彼時有人取來鋤與籠……未來不生者。

七

諸比丘！同此，於所結之法，住患觀者，無識之顯現，由識滅而有名色滅……

八

如是，此乃全苦蘊之滅。」

〔六〇〕第十 因

一

〔爾時，世尊〕住拘樓國之都色劍磨瑟曇。

二

爾時，尊者阿難，詣世尊座前，詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

坐於一面之阿難，白世尊言：「大德！是稀有，大德！是未曾有。大德！此緣起所見甚深而且深遠，然我觀見，如明明白白者。」

四

「阿難！勿作是言。阿難！勿作是言。阿難！此緣起所見甚深而且深遠。阿難！因未證此法，由於不知，如是，此如纏索之眾生，被腫物所覆之眾生，如文若草、燈心草之有情，不脫苦處、惡趣、無樂處之輪迴。

五

阿難！於所取之法、住於味觀者，增長於愛。緣愛而有取、緣取而有有、緣有而有生、緣生而有老死、愁、悲、苦、憂、惱。如是，此乃全苦蘊之集。

六

阿難！譬如大樹，其根向下伸展，使一切之地味、水味上昇。阿難！如是，彼大樹因此得長時久住。

七

阿難！同此，於所取之法，住味觀者，增長於愛。緣愛而有取，緣取而有有……如是，此乃全苦蘊之集。

八

阿難！於所取之法，住患觀者，愛滅。由愛滅而有取滅，由取滅而有有滅……如是，此乃全苦蘊之滅。

九

阿難！譬如有大樹，彼時有人取來鋤與籠，彼截其樹根，更於截根之周圍挖穴，挖穴將小根、鬚根、亦予根除。彼將其樹截成圓木，圓木作成木片、木片再作成粗朶，粗朶以風日使乾燥，風日乾燥後，以火燃燒，以火燒成灰，在彼大風篩吹，或流入河之奔流。阿難！如是，彼大樹為被截根者。如多羅樹之被截株者，無再生，成為未來不生者。

一〇

阿難！同此，於所取之法，住患觀者，是愛滅。由愛滅而有取滅，由取滅而有有滅，由有滅而有生滅，由生滅而有老死、愁、悲、苦、憂、惱之滅。如是，此乃全苦蘊之滅。」

此頌曰：

思量取二結 所謂二大樹
幼樹於第七 名色以及識
因及此等十

第七 大品

〔六一〕第一 無聞（之一）

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！無聞之凡夫，於此四大所造身，生厭意，厭離而欲解脫。

三

所以者何？諸比丘！此四大所造身，可見為增、減、取、捨者。

然則無聞之凡夫，生厭意、厭離而欲解脫。

四

諸比丘！稱此是心、是意或是識者，無聞之凡夫，不能生厭意，不能厭離，不能解脫。

五

所以者何？諸比丘！無聞之凡夫，長夜著於有所，取著於『此是我所，此是我，此乃我之自我。』

然則無聞之凡夫，不能生厭意，不能厭離，不能解脫。

六

諸比丘！無聞之凡夫，以此四大所造之身為『我』，較以心為我，是尚可。

七

所以者何？諸比丘！此四大所造之身，可現住於一年、住於二年、住於三年、住於四年、住於五年、住於十年、住於二十年、住於三十年、住於四十年、住於五十年、住於百年、或住於更長年。諸比丘！然稱此為心、意、識者，則日夜轉變異生、異滅。

八

諸比丘！譬如獼猴徘徊森林中縱放一枝，又另捉一枝。諸比丘！同此，稱此是心、意、識者，亦日夜轉變，異生、異滅。

九

諸比丘！是以多聞之聖弟子，對緣起當善思惟：彼有故此有，彼生故此生，彼無故此無，彼滅故此滅。即緣無明而有行，緣行而有識……如是，此乃全苦蘊之集。

一〇

由無明之無餘，離貪、滅而有行滅，由行滅而有識滅……如是，此乃全苦蘊之滅。

一一

諸比丘！多聞之聖弟子，於色生厭意，於受亦生厭意，於想亦生厭意，於行亦生厭意，於識亦生厭意。生厭意故厭離，

離貪故解脫。於解脫得生解脫之智，知生已盡，梵行已立，應作已作，更不再生。」

〔六二〕第二 無聞（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！無聞之凡夫，於此四大所造之身，生厭意，厭離而欲解脫。

三

所以者何？諸比丘！此四大所造之身，可見為增、減、取、捨。然則無聞之凡夫生厭意、厭離而欲解脫。

四

諸比丘！稱此是心、意、識者、無聞之凡夫不能生厭意，不能厭離，不能解脫。

五

所以者何？諸比丘！無聞之凡夫，於長夜著於『此是我所』，取著於『此是我所，此是我，此是我之自我。』然則無聞之凡夫，不能生厭意，不能厭離，不能解脫。

六

諸比丘！無聞之凡夫，以此四大所造之身為我，較以心為我尚可。

七

所以者何？諸比丘！此四大所造之身，現住於一年、住於二年、住於三年……四年……五年……十年……二十年……三十年……四十年……五十年……住於百年、或住於更長年。諸比丘！然稱此是心、意、識者，則日夜轉變異生、異滅。

八

諸比丘！是以多聞之聖弟子，對緣起當善思惟：彼有故此有，彼生故此生，彼無故此無，彼滅故此滅。

九

諸比丘！緣樂所受之觸生樂受，由其樂所受之觸滅，由其所生之感，緣樂所受之觸所生之樂受滅，而止息。

一〇

諸比丘！緣苦所受之觸生苦受，由其苦所受之觸滅，由其所生之感，緣苦所受之觸所生之苦受滅，而止息。

一一

諸比丘！緣不苦不樂所受之觸，生不苦不樂受。由其不苦不樂所受之觸滅，由其所生之感，緣不苦不樂所受之觸所生不苦不樂滅，而止息。

一二

諸比丘！譬如二木相磨，和合生煙、生火。其二木離散者，則由其所生之煙滅，而止息。

一三

諸比丘！同此，緣樂受之觸生樂受，由其樂所受之觸滅，由其所生之感，緣樂所受之觸所生樂受滅，而止息。

一四

緣苦所受之觸……

一五

緣不苦不樂所受之觸，生不苦不樂受。由其不苦不樂所受之觸滅，由其所生之感，緣不苦不樂所受之觸所生不苦不樂受滅，而止息。

一六

諸比丘！如是多聞之聖弟子，於觸生厭意，於受生厭意，於想、於識生厭意。生厭意故厭離，離貪故解脫，於解脫生解脫之智。知生已盡，梵行已立，應作已作，更不再生。」

〔六三〕第三 子肉

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！有情或眾生之住、求再生、為資益、有此等之四食。

三

四食者何耶？麤或細之搏食、二觸食、三意思食，四識食是。

諸比丘！此等之四食為有情或眾生之住、求再生、為資益。

四

諸比丘！應知如何是搏食耶？

五

諸比丘！譬如有夫婦二人，持少量之糧食，行於曠野之道。彼等夫婦愛念者唯有一子。

六

諸比丘！彼時夫婦二人來曠野時，少量之糧食乏盡、曠野尚餘未竟之旅。

七

諸比丘！爾時，彼夫婦二人作如是思念：『我等少量之糧食盡，而此曠野之旅尚餘未竟，我等寧殺此愛念之子，作成乾肉片與多汁肉片，食子之肉，以完成此曠野之殘旅。勿令三人皆死。』

八

諸比丘！彼時彼夫婦二人，殺其愛念之子，作成乾肉片與多汁肉片，食子之肉完成此曠野之殘旅，彼等食子之肉，搥胸曰：『吾子於何處耶？吾一子於何處耶？』

九

諸比丘！汝等對其如何思惟耶？彼等為嬉戲而食歟？或為愛樂而食歟？或為嗜美而食歟？或為肥滿而食歟？」

「大德，皆非然。」

一〇

「諸比丘！彼等為行曠野而欲食子肉耶？」

「大德！唯然。」

一一

「諸比丘！同此，我謂搏食不可不知。諸比丘！知搏食時，於五妙欲知貪。於五妙欲知貪時，成其結，為結所縛之聖弟子，再還來此界。」

一二

諸比丘！如何可知觸食耶？」

一三

諸比丘！譬如一無皮之牛，欲依住於道路之端，依道路之端之彼等生物，噉其牛。欲依住於樹下，依樹下之彼等生物噉其牛。欲依住於水中，依水中之生物，噉其牛。依住於虛空，

依虛空之生物，噉其牛。諸比丘！彼無皮之牛，依住之處，則為依止其處之生物所噉。諸比丘！同此，我謂觸食不可不知。

一四

諸比丘！知觸食時，知三受，知三受時，我謂聖弟子更不可為。

一五

諸比丘！如何應知意思食耶？

一六

諸比丘！譬如一炭火坑，深超人身，炭火充滿，無煙而熾燃。爾時一人，欲生不希死，欲樂厭苦。時有二力士各以手將彼捉住，將投入炭火坑中。諸比丘！爾時，彼人之心遠矣，將思願遠矣，大望應遠。

一七

所以者何？諸比丘！彼人作是念：『我墮此炭火坑中，因其入死，至死為苦。』諸比丘！同此，我謂意思食不可不知。

一八

諸比丘！知意思食時，知三愛；知三愛時，我謂聖弟子更不為。

一九

諸比丘！如何應知識食耶？

二〇

諸比丘！捕犯罪之盜賊，送至王前示曰：『大王！犯罪之盜賊帶到。』王宜科彼以所欲之刑罰。王如是謂於彼等曰：『且去！汝等將此人以百矛相擊。』清晨則再加其百矛。

二一

時至日中，王如是云：『喂！彼人如何耶？』『大王！彼尚生存。』王如是言彼等云曰：『且去！於日中對彼再以百矛相擊。』於是日中以百矛擊彼。

二二

屆時，王於暮時如是云：『喂！彼人如何耶？』『大王！彼尚生存。』王如是言彼曰：『且去！汝等將彼人於暮時再以百矛相擊。』於是暮時對彼以百矛相擊。

二三

諸比丘！對其作如何思惟耶？彼人，因一日被三百矛擊打，已經驗苦、憂耶？」

「大德！以一矛相擊，即已經驗苦、憂矣，何云經三百矛擊打耶？」

二四

「諸比丘！同此，我謂不可不知識食。

二五

諸比丘！知識食時，知名色，知名色時，我謂聖弟子更不可為。」

〔六四〕第四 有貪

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！有情或眾生之住，求再生，為資益有四食。

三

四食者何耶？麤或細之搏食、二觸食、三意思食、四識食是。諸比丘！此等之四食，為有情或眾生之住，求再生，為資益。

四

諸比丘！若於搏食，有貪、有喜、有愛、則對其有識之住、有增長。由識之住及增長，而有名色之顯現。由有名色之顯現，而有諸行之增上。由有諸行之增上，而有未來後有之再生。由有未來後有之再生，而有未來之生、老死。諸比丘！我謂由未來之生、老死，而有愁、有苦、有惱。

五

諸比丘！若於觸食，……

六

諸比丘！若於意思食，……

七

諸比丘！若於識食，有貪、有喜、有愛，於其有識之住、有增長。有識住增長，有名色之顯現，由有名色之顯現，有諸行之增上。有諸行之增上，有未來之後有再生。有未來之後有再生，有未來之生老死，我謂有未來之生老死，而有愁、有苦、有惱。

八

諸比丘！譬如染工或畫師、以染料或漆、或鬱金、或青、或以茜，善磨於板上，或壁面、或衣服之小片，作婦女之形像男子之形像。

九

諸比丘！同此，若於搏食、有貪、有喜、有愛者，則有識之住與增長。由有識之住與增長，有名色之顯現，由有名色之顯現，有諸行之增上，由有諸行之增上，有未來後有之再生，由有未來後有之再生，有未來之生老死。由有未來之生老死，諸比丘！我謂有愁、有苦、有惱。

一〇

諸比丘！若於觸食，……

一一

諸比丘！若於意思食，……

一二

諸比丘！若於識食，有貪、有喜、有愛者，則有識之住與增長。由有識之住與增長，而有名色之顯現。由有名色之顯現，而有諸行之增上。由有諸行之增上，而有未來後有之再生。由有未來後有之再生，則而有未來之生、老死。由有未來之生、老死，諸比丘！我謂有愁、有苦、有惱。

一三

諸比丘！若於搏食，無貪、無喜、無愛者，則無其識之住與增長。因無識之住與增長，則無名色之顯現。因無名色之顯現，則無諸行之增上。因無諸行之增上，則無未來後有之再生。因無未來後有之再生，則無未來之生、老死。因無未來之生、老死，諸比丘！我謂無愁、無苦、無惱。

一四

諸比丘！若於觸食，……

一五

諸比丘！若於意思食，……

一六

諸比丘！若於識食，無貪、無喜、無愛者，則無其識之住與增長。因無識之住與增長，則無名色之顯現。因無名色之顯現，則無諸行之增上。因無諸行之增上，則無未來後有之再生。因無未來後有之再生，則無未來之生、老死。因無未來之生老死，諸比丘！我謂無愁、無苦、無惱。

一七

諸比丘！譬如宮殿或樓閣，北、南、西邊有窗。太陽上昇時，光由高入，照何處耶？」

「大德！照西壁。」

一八

「諸比丘！若無西壁，照何處耶？」

「大德！照大地。」

一九

「諸比丘！若無大地，照何處耶？」

「大德！照水。」

二〇

「諸比丘！若無水，照何處耶？」

「大德！則不照任何處。」

二一

「諸比丘！同此，諸比丘！若於搏食，無貪、無喜、無愛者，則……」

二二

諸比丘！若於觸食，……

二三

諸比丘！若於意思食，……

二四

諸比丘！若於識食，無貪、無喜、無愛者，則無識住、無增長。因無識住、無增長，則無名色之顯現。因無名色之顯現，則無諸行之增上。因無諸行之增上，則無未來之生、老死。無未來之生老死，諸比丘！我謂無愁、無苦、無惱。」

〔六五〕第五 城邑

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！昔我尚未得正覺，為菩薩時，曾作此念：『此世間實陷於苦惱，生而奔向衰、老、死而又將再生。然卻不知此老死苦之出離。實則如何得知此老死苦之出離耶？』

三

諸比丘！然則我作是念：『有何故有老死耶？緣何有老死耶？』

四

諸比丘！爾時，我依正思惟，依慧悟得生：『有生故有老死，緣生而有老死。』

五

諸比丘！時我作是念：『有何故有生？……有有……有取……有愛……有受……有觸……有六處？……有名色耶？緣何而有名色耶？』

六

諸比丘！依正思惟，於我而生慧悟得：『有識故有名色，緣識而有名色。』

七

諸比丘！時我作是念：『有何故有識？緣何有識耶？』

八

諸比丘！我生正思惟，依慧悟得：『有名色故有識，緣名色而有識。』

九

諸比丘！時我作是念：『此識由此以還，無超進名色，於此限度，生而亦老，衰而至死將再生。即緣此名色有識，緣識而有名色。緣名色而有六處，緣六處而有觸……

如是，此乃全苦蘊之集。』

一〇

諸比丘！『是集、是集』。我於尚未聞之法、即生眼、生智、生慧、生明、生光。

一一

諸比丘！時我作是念：『無何故無老死，因何之滅而有老死之滅耶？』

一二

諸比丘！爾時，我生正思惟，依慧悟得：『無生故無老死，因生之滅而有老死之滅。』

一三

諸比丘！時我作是念：『無何故無生……無有……無取……無愛……無受……無觸……無六處……無名色，因何之滅而有名色之滅耶？』

一四

諸比丘！爾時，於我生正思惟，依慧悟得：『無識故無名色，因識之滅、而有名色之滅。』

一五

諸比丘！時我作是念：『無何故無識，因何之滅，而有識之滅耶？』

一六

諸比丘！爾時，於我生正思惟，依慧悟得：『無名色故無識，因名色之滅，而有識之滅。』

一七

諸比丘！時我作是念：『我依此道乃達菩提。即：由名色之滅，而有識滅。由識之滅，而有名色滅。由名色之滅，而有

六處滅。由六處之滅，而有觸滅。……』

如是，此乃全苦蘊之滅。

一八

諸比丘！『是滅、是滅』，我於尚未聞之法，即生眼、生智、生慧、生明、生光。

一九

諸比丘！譬如有人、徘徊阿蘭若林，發現古人通行之古道、古徑，彼則追隨其道，隨其道而行。發見古人止住之古城、古都，其園林亦具足。具足美麗有堤之蓮池。

二〇

諸比丘！爾時，彼人向王或王之大臣報曰：『尊者，當知我徘徊阿蘭若林，發見古人通行之古道、古徑，追隨其道，隨其道而行。發見古人止住之古城、古都，園林亦具足，具足美麗有堤之蓮池。尊者！宜於其城予修築。』

二一

諸比丘！爾時，王或王之大臣，修築其城邑，其城邑後來繁榮，眾人熾盛，增上發展。

諸比丘！同此，我發見過去正覺者通行之古道、古徑。

二二

諸比丘！過去諸佛所通行之古道，古徑者何耶？即此八支聖道。即：正見……正定。諸比丘！此乃過去正等覺者通行之

古道、古徑。追隨其道，隨其道而行，則知老死，知老死之集，知老死之滅，知趣滅老死之道跡。

二三～三一

追隨其道，隨其道以行，知生……知有……知取……知愛……知受……知觸……知六處……知名色……知識……

三二

追隨其道，隨其道以行，知行，知行之集、知行之滅、知趣行滅之道跡。

三三

知此，我以示比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷。諸比丘！如是梵行繁榮、增廣，示知眾多人等，予增大，依人天而善說示。」

〔六六〕第六 觸

一

如是我聞。爾時，世尊住拘樓園之都邑劍磨瑟曇。

二

爾時，世尊言諸比丘：「諸比丘！」

彼諸比丘奉答世尊曰：「大德！唯然。」

三

世尊曰：「諸比丘！汝等取內觸耶？」

四

如是說已。一比丘以此白世尊言：「大德！我取內觸。」

五

「汝比丘！如何取內觸耶？」

六

爾時彼比丘自記說之，然彼比丘，不能滿足世尊之心。

七

如是說已，尊者阿難白世尊言：「世尊！今正其時。善逝！今正其時。願世尊！以說內觸。諸比丘聞世尊之所說、應受持奉行。」

八

「若然，阿難！汝等諦聽，當善思念。我說內觸。」

彼諸比丘奉答世尊曰：「唯然，大德！」

九

世尊曰：「諸比丘！於此有比丘，執取內觸：『世間之種種諸苦生、老死，此苦以何為因，以何為集，以何為生，以何為起耶？有何故有老死，無何故無老死。』彼對取內觸，如是知：『此世間生老死種種之苦、此苦乃以億波提為因、以億波提為集、以億波提為生、以億波提為起。有億波提故有老死，無億波提時無老死。彼知老死，知老死之集，知老死之滅，知趣老死滅之道跡。如是為契法行者。』」

諸比丘！如是比丘，謂是真正行苦之滅，老死之滅者。

一〇

更執取取內觸：『又，此億波提乃以何為因、以何為集、以何為生、以何為起耶？有何故有億波提，無何時無億波提耶？』彼知如是執取：『億波提乃以愛為因，以愛為集，以愛為生，以愛為起。有愛故有億波提，無愛故無億波提。』彼知億波提，知億波提之集，知億波提之滅，知趣億波提滅之道跡。如是為契法行者。

諸比丘！如是比丘謂是真正行苦之滅，億波提之滅者。

一一

更執取取內觸：『又，此愛於何處而生？於何處而住之耶？』彼知如是執取：『於此世間，為如何愛，快思之色，於此生愛而生，於此住愛而住。於此世間、可愛，快思之色者何耶？眼為於此世間、可愛、快思之色。於此生愛而生，於此住愛而住。』

一二

耳乃於世間可愛、快思之色……

一三

鼻乃於世間可愛、快思之色……

一四

舌乃於世間可愛、快思之色……

一五

身乃於世間可愛、快思之色……

一六

意乃於世間可愛、快思之色。於此生愛而生，於此住愛而住。

一七

諸比丘！任何過去之沙門、婆羅門，對此世間可愛、快思之色，視為常，視為樂，視為我，視為無病，視為安穩者，愛增長矣。

一八

愛增長者，則億波提增長。億波提增長者，則苦增長。我謂：『使苦增長者，則生、老死、愁、悲、苦、憂、惱，無由解脫。』

一九

諸比丘！任何未來之沙門、婆羅門，對此世間可愛、快思之色，視為常，視為樂，視為我，視為無病，視為安穩。彼等乃增長愛者。

二〇

愛增長者，則億波提增長，億波提增長者，則苦增長。我謂：『彼等生、老死、愁、悲、苦、憂、惱，不得解脫，則苦不得解脫。』

二一

諸比丘！現在任何之沙門、婆羅門，對此世間可愛、可喜之物，視為常、視為樂、視為我、視為無病、視為安隱者，則增長愛。

二二

增長愛者，則增長億波提，增長億波提者，則增長苦。增長其苦，我謂：『增長苦者，則生、老死、愁、悲、苦、憂、惱不得解脫，則苦不解脫。』

二三

諸比丘！譬如有飲水器皿，色具足，香具足，味具足，而以毒混入。爾時有人為炎熱所燒，為炎熱所苦，疲勞困憊，為渴而來。對其人如是言曰：『可愛者！此飲水器皿，色具足、香具足、味具足、毒亦具足、汝若欲飲自可飲、飲之雖愛好具色、香、味，但為此而至死，或受至死之苦。』彼不顧且不思慮，飲彼飲水器皿之水而不捨，彼為此至死，或受至死之苦。

二四

諸比丘！同此，任何過去之沙門、婆羅門，對此世間可愛、快思之色……

二五

……於未來……

二六

……現在之沙門、婆羅門，對此世間可愛、快思之色，視為常，視為樂，視為我，視為無病，視為安穩者，其愛增長。

二七

我謂：『愛增長者則苦增長，由生、老死、愁、悲、苦、憂、惱，不得解脫，則不得解脫於苦。』

二八

諸比丘！任何過去之沙門、婆羅門，對此世間可愛、快思之色，視為無常，視為苦，視為無我，視為病，視為怖畏者，乃使愛捨離者。

愛捨離者，億波提捨離。億波提捨離者，則苦捨離。我謂：『苦捨離者，由生、老死、愁、悲、苦、憂、惱得解脫，則解脫於苦。』

二九

諸比丘！任何未來之沙門、婆羅門，於此世間可愛、快思之色，視為無常，視為苦，視為無我，視為病，視為怖畏者，則將捨離於愛。

三〇

愛捨離者……我謂：『解脫於苦。』

三一

諸比丘！任何現在之沙門、婆羅門，對可愛、快思之色，視為無常，視為苦，視為無我，視為病，視為怖畏者，則捨離於愛。

三二

愛捨離者，則億波提捨離。億波提捨離者，則苦捨離。我謂：『苦捨離者，則生、老死、愁、悲、苦、憂、惱得解脫，則解脫於苦。』

三三

諸比丘！譬如有飲水器，色具足，香具足，味具足，亦以毒混入。爾時有人，為炎熱所燒，為炎熱所苦，疲勞困憊，為渴而來。對此時有人曰：『可愛者！此飲水器皿，色具足，香具足，味具足，但混有其毒，若汝欲者自可飲，飲之雖愛好其色、香、味，然因此至死或受至死之苦。』

三四

諸比丘！爾時，彼人作是念：『我此刻極渴，得依飲料而克服，或依生蘇予克服，或依含鹽分之乳精予克服，或以酸粥予克服。然而我於此長夜不為我之利益，因此而決不飲此苦物。』彼思慮之再，而不飲其飲水器皿物，予捨棄、彼即因此而不至死，不至近死之苦。

三五

諸比丘！同此，任何過去之沙門、婆羅門，於此世間可愛、快思之色，視為無常，視為苦，視為無我，視為病，視為怖畏者，則捨離於愛。

三六

捨離於愛者，則億波提捨離。億波提捨離者，則苦捨離。我謂：『苦捨離者，則生、老死、愁、悲、苦、憂、惱得捨

離，解脫於苦。』

三七～三八

諸比丘！任何未來之沙門、婆羅門……

三九

現在之沙門、婆羅門，於此世間可愛、快思之色，視為無常、視為苦、視為無我、視為病、視為怖畏者，捨離於愛。

四〇

捨離於愛者，則億波提捨離。億波提捨離者，則捨離於苦。我謂：『捨離於苦者，即由生、老死、愁、悲、苦、憂、惱解脫，解脫於苦。』」

〔六七〕第七 蘆束

一

一時，尊者舍利弗、尊者摩訶拘絺羅，住波羅奈之仙人墮處鹿野苑。

二

爾時，尊者摩訶拘絺羅，暮時自宴坐起，詣尊者舍利弗之處。詣已，與尊者舍利弗俱相致問，交談致候可記憶之語後，坐於一面。

三

坐於一面之尊者摩訶拘絺羅，向尊者舍利弗作斯言曰：
「友，舍利弗！老死為自作耶？老死為他作耶？老死為自作、
他作耶？或老死為非自作、非他作、無因生耶？如何？」

四

「友，拘絺羅！老死非自作，老死非他作，老死亦非自作、他作，老死非自作、非他作、非無因生，是緣生而有老死。」

五

「友，舍利弗！生為自作耶？生為他作耶？生為自作、他作耶？或生為非自作、非他作、無因生耶？如何？」

六

「友，拘絺羅！生非自作，生非他作，生非自作、他作，生亦非自作、非他作，非無因生，是緣有而有生。」

七～一八

「友，舍利弗！有為自作耶？……取為自作耶？……愛為自作耶？……受為自作耶？……觸為自作耶？……六處為自作耶？……如何？」

一九

「名色為自作耶？名色為他作耶？名色為自作、他作耶？或名色為非自作、非他作，無因生耶？」

二〇

「友，拘絺羅！名色非自作，名色非他作，名色非自作、他作，亦非自作、他作，亦非無因生，是緣識而有名色。」

二一

「友，舍利弗！識為自作耶？識為他作耶？識為自作、他作耶？識為非自作、非他作，亦非無因生耶？如何？」

二二

「友，拘絺羅！識非自作，識非他作，識非自作、他作，識非自作、非他作，亦非無因生，是緣名色而有識。」

二三

「如今我等如是知尊者舍利弗之所說：『友，拘絺羅！名色非自作，名色非他作，名色亦非自作、他作，名色非自作、非他作。名色非自作、非他作，亦非無因生，是緣識而有名色。』」

二四

如今我等又如是知尊者舍利弗之所說：『友，拘絺羅！識非自作，識非他作，識非自作、他作，又，識非自作、非他作、亦非無因生，是緣名色而有識。』

二五

友，舍利弗！應如何知此所說之義耶？」

二六

「友！譬如兩蘆束，相互依持則能直立。友！同此，緣名色而有識，緣識而有名色。緣名色而有六處，緣六處而有觸、……如是，此乃全苦蘊之集。友！若此等之蘆束中，取其一；而另一則仆倒；取他，而另他則仆倒。友！同此，緣名色之滅，而有識滅。緣識之滅，而有名色滅。緣名色之滅而有六處滅。緣六處之滅，而有觸滅……如是，此乃全苦蘊之滅。」

二七

「友，舍利弗！是希有。友，舍利弗！是未曾有。此為尊者舍利弗之善說。我等對尊者舍利弗之所說，應以此等三十六事當予隨喜。」

二八

「友，若比丘，依老死之厭離、離貪、滅而說法，則適稱為：『法師比丘。』友！若比丘，行老死、厭離、離貪、滅，則適稱為：『行法、隨順法比丘。』友！若比丘，對老死、厭離、離貪、滅，不取著、予解脫，則適稱為：『達現法涅槃比丘。』

二九～三八

友！若比丘，生之厭離……若有之……若取之……若愛之……若受之……若觸之……若六處之……若名色之……若識之……若行之……

三九

友！若比丘，依無明之厭離、離貪、滅、說法、適稱之謂：『法師比丘。』友，若比丘，行無明之厭離、離貪、滅，則適稱之謂：『行法、隨順法比丘。』友，若比丘，依無明之

厭離、離貪、滅、不取著、予解脫、則適稱之謂：『達現法涅槃比丘。』」

〔六八〕第八 憍賞彌

一

一時，尊者茂師羅、尊者殊勝、尊者那羅陀、尊者阿難，住憍賞彌之瞿師羅園。

一

二

爾時，尊者殊勝向尊者茂師羅作如是言曰：「友，茂師羅！除信、除欲、除傳說、除行相覺、除見害諦思，尊者茂師羅！別有『緣生而有老死』之智否？」

三

「友，殊勝！除信、除欲、除傳說、除行相覺、除見審諦思，我知於此，我見於此，即：『緣生有老死也。』」

四

「友，茂師羅！除信、除欲、除傳說、除行相覺、除見審諦思，尊者茂師羅！別有『緣有而有生』之智耶？」

五

……緣取而有有……

六

……緣愛而有取……

七

……緣受而有愛……

八

……緣觸而有受……

九

……緣六處而有觸……

一〇

……緣名色而而有六處……

一一

……緣識而有名色……

一二

……緣行而有識……

一三

……緣無明而有行……

一四

「友，殊勝！除信、除欲、除傳說、除行相覺、除見審諦思，我知於此，我見於此，即：『緣無明而有行。』」

一五

「友，茂師羅！除信……除見審諦思，尊者茂師羅！別有『緣生之滅，而有老死之滅』之智耶？」

一六

「友，殊勝！除信、除欲、除傳說、除行相覺、除見審諦思，我知於此，我見於此，即：『緣生之滅而有老死之滅。』」

一七

「友，茂師羅！除信、除欲、除傳說、除行相覺、除見審諦思，尊者茂師羅！別有『緣有之滅，而有生之滅』之智耶？」

一八～二四

「『緣取之滅，而有有之滅』……『緣愛之滅，而有取之滅』……『緣受之滅，而有愛之滅』……『緣觸之滅，而有受之滅』……『緣六處之滅，而有觸之滅』……『緣名色之滅，而有六處之滅』……『緣識之滅，而有名色之滅』……『緣行之滅，而有識之滅』……『緣無明之滅，而有行之滅。』

二五

友，殊勝！除信、除欲、除傳說、除行相覺、除見審諦思，我知於此，我見於此，即：『緣無明之滅，而有行之滅。』」

二六

「友，茂師羅！除信、除欲、除傳說、除行相覺、除見審諦思，尊者茂師羅！別有『有滅即涅槃』之智耶？」

二七

「友，殊勝！除信、除欲、除傳說、除行相覺、除見審諦思，我知於此，我見於此，『有滅即涅槃。』」

二八

「然則，尊者茂師羅是阿羅漢，是漏盡者。」

二九

如是言時，尊者茂師羅默然。

二

三〇

爾時，尊者那羅陀對尊者殊勝言曰：「友，殊勝！善哉！我欲得此問，可向我問，我則答汝此問。」

三一

「尊者那羅陀！汝得此問。我向尊者那羅陀，作此問，尊者那羅陀，請答我問。」

三二～五七

「友，那羅陀！除信……我知於此，我見於此，『此有滅即涅槃。』」

五八

「然則，尊者那羅陀是阿羅漢，是漏盡者。」

五九

「友！『有滅即涅槃』，我依正慧，如實善見。然則我尚非阿羅漢、漏盡者。」

六〇

友！譬如於曠野之路上有井，然無繩、無罐，時有人為炎熱所燒，為炎熱所苦，疲勞困憊，乾渴此來。彼眺望其井，雖知為水，但身不能觸而住。

六一

友！同此，『有之滅即涅槃也』，如實以正慧善見，然我尚非阿羅漢、漏盡者。」

三

六二

如是言已，尊者阿難，向尊者殊勝作是言曰：「友！殊勝！汝如是之說，汝向尊者那羅陀作如何言之耶？」

六三

「友，阿難！我如是說：我外於尊者那羅陀之德，以外於善，故無所說。」

〔六九〕第九 膨脹

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時……

三

「諸比丘！大海膨脹時，使諸大河膨脹，諸大河膨脹時，使諸小河膨脹。小河膨脹時，使大湖膨脹。大湖膨脹時，亦使小湖膨脹。

四

諸比丘！同此，無明膨脹，使諸行膨脹。諸行膨脹，使識膨脹。識膨脹時，使名色膨脹。名色膨脹時，使六處膨脹。六處膨脹時，使觸膨脹。觸膨脹時，使受膨脹。受膨脹時，使愛膨脹。愛膨脹時，使取膨脹。取膨脹時，使有膨脹。有膨脹時，使生膨脹。生膨脹時，使老死膨脹。

五

諸比丘！大海退潮時，使大河退水。大河退水時，使小河退水。小河退水時，使大湖退水。大湖退水時，使小湖退水。

六

諸比丘！同此，無明衰時，使諸行衰。諸行衰時，使識衰。識衰時，使名色衰。名色衰時，使六處衰。六處衰時，使觸衰。觸衰時，使受衰。受衰時，使愛衰。愛衰時，使取衰。取衰時，使有衰。有衰時，使生衰。生衰時，使老死衰。」

〔七〇〕第十 須尸摩

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

一

二

爾時，世尊深受恭敬、尊重、敬仰、供養，得衣服、鉢食、牀座、醫病之必要藥物、資具等。

三

比丘僧伽亦頗受敬重、恭敬，供養、尊重，得衣服、鉢食、牀座、醫病必要之藥物、資具等。

四

異學之遊方者等，未受敬重、恭敬，供養、尊重，未得衣服、鉢食、牀座、醫病之必要藥物、資具等。

二

五

爾時，遊方者須尸摩，與眾多遊方者之徒，俱住王舍城。

六

爾時，遊方者須尸摩之徒，向遊方者須尸摩作如是言曰：「來，友！須尸摩！汝宜往沙門瞿曇之處修梵行。汝完全學法後，再告知我等，我等完全學得其法後，為在家者說示，如是

我等亦受敬重、恭敬、供養、尊重，獲得衣服、鉢食、牀座、醫病之必要藥物、資具等。」

七

遊方者須尸摩對已徒答：「如是，友！」則詣尊者阿難之處。詣已，與尊者阿難俱相致問，交談致問可記憶之語後，坐於一面。

三

八

坐於一面之遊方者須尸摩，向尊者阿難作如是言曰：「友，阿難！我欲於此作法、律之修習梵行。」

九

爾時，尊者阿難，陪伴遊方者須尸摩，來詣世尊之處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

一〇

坐於一面之尊者阿難向世尊言曰：「大德！此遊方者須尸摩如是云：『友，阿難！我欲於此作法、律之修習梵行。』」

一一

「阿難！然則，汝應使須尸摩出家。」

一二

於是，遊方者須尸摩得在世尊之處出家，得具足戒。

一三

爾時，又有眾多比丘，來至世尊之處，白世尊言：「我等知『生已盡，梵行已立，應作已作，更不再生』，已達於完全智。」

四

一四

尊者須尸摩，聞眾多比丘於世尊之前告白已達完全智：「生已盡，梵行已立，應作已作，更不再生矣。」

一五

爾時尊者須尸摩，走近彼等諸比丘，近已，與彼等諸比丘俱相致問，交談問候記憶之語，坐於一面。

一六

坐於一面之須尸摩，向彼等諸比丘作如是言曰：「諸尊者來詣世尊處曾白云：『我等已知生已盡，梵行已立，應作已作，更不再生。』已達於完全智，此為真實耶？」「友！唯然。」

一七

「然則又，汝等尊者如是知、如是見，享受種種之神通耶？——一為多、多為一、顯現變為隱沒，越牆、越壘、穿山、無障礙，恰如行空出入地下，於水中不分水而行如走於地上。趺坐於虛空，恰如有翼之鳥。有大神力，大威力，於日月以手觸捉，以此身行於梵界耶？」

一八

然則汝等尊者，如是知、如是見，以清淨超勝人間之天耳界，對人天之兩音、遠音、近音、皆聞之耶？」

「友！並無此事。」

一九

「又，汝等尊者，如是知，如是見，以心，對他眾生之心，他人之心，得予把握知之耶？——有貪心知為有貪心，離貪心知為離貪心，有瞋心知為有瞋心，離瞋心知為離瞋心，有癡心知為有癡心，離癡心知為離癡心，集注心知為集注心，散亂心知為散亂心，大心知為大心，不大心知為不大心、有上心知為有上心，無上心知為無上心，寂靜心知為寂靜心，非寂靜心知為非寂靜心，解脫心知為解脫心，非解脫心知為非解脫心耶？」

「友！並無此事。」

二〇

「又，汝等尊者，如是知、如是見，憶念種種宿住耶？譬如一生、二生、三生、四生、五生、十生、二十生、三十生、四十生、五十生、百生、千生，種種成劫、種種壞劫、種種成、壞劫……『於彼處，名如是如是，姓如是如是，如是之容色，如是之食，經驗如是如是之苦樂，得如是之壽。彼歿於其處，而生於此處。於彼處，名如是如是，姓如是如是，如是之容色，如是之食，經驗如是之苦樂，得如是之壽。彼歿於其處，生於此處。』如是詳細種種宿住、悉憶念耶？」

「友！並無此事。」

二一

「又，汝等尊者，如是知、如是見，以清淨超勝人間之天眼，見眾生之歿，見生時之劣、勝、美、醜、好、惡，知眾生之如業行耶？實汝等尊者，對『此等眾生，身惡行具足，語惡行具足，意惡行具足，罵聖者、邪見、執持邪見業，故彼等身壞命終，生於苦處惡趣、無樂處、地獄。』又實汝等尊者對『此等眾生，身善行具足、語善行具足、意善行具足、不罵聖者、有正見、執持正見業，故彼等身壞命終，生於善趣、天界。』如是，以清淨超人之天眼，得見眾生之歿，生時之劣、勝、美醜、好、惡，得知眾生如業之行耶？」

「友！並無此事」。

二二

「又，汝等尊者為如是知、如是見，對超色、無色之寂靜解脫、得於身觸而住耶？」

「友！並無此事。」

二三

「於今，尊者未到達此記說與此等之法者耶？」

二四

「友！並無此事。」

二五

「何以故？」

「友，須尸摩！我等為慧解脫者。」

二六

「我對尊者等此略說之義不能詳知。如尊者等之所說，我對尊者等所略說之義，欲詳知為宜。」

二七

「友，須尸摩！汝無論對其知，或不知，我等為慧解脫者。」

五

二八

爾時尊者須尸摩由座起來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

二九

坐於一面之尊者須尸摩，將與彼等諸比丘之論議悉告世尊。

三〇

「須尸摩！法住智為前、涅槃智為後。」

三一

「大德！我對世尊略說之義，不得詳知。大德！如世尊之所說，我對世尊略說之義，欲詳知為宜。」

三二

「須尸摩！汝無論知或不知，法住智為前，涅槃智為後。
須尸摩！汝云何思惟？色為常耶？或為無常耶？」

「大德！是無常。」

三三

「又，無常者是苦耶？或是樂耶？」

「大德！是苦。」

「又，無常苦、變易之法得認：『此是我所，此是我，此是我之我』耶？」

「大德！並無此事。」

三四

「受是常耶？或無常耶？」

「大德！是無常。」

三五

「想是常耶？或無常耶？」

「大德！是無常。」

三六

「行是常耶？或無常耶？」

「大德！是無常。」

三七

「識是常耶？或無常耶？」

「大德！是無常。」

「又，無常者是苦耶？或是樂耶？」

「大德，是苦。」

「又無常苦、變易之法、得認：『此是我所，此是我，此是我之我』耶？」

「大德！並無此事。」

三八

「須尸摩！然任何過去、未來、現在，內、外、麤、細、劣、勝、遠、近之色，對一切之色，不得以認：『此是我所、此是我、此是我之我。』如是，必須以如實正慧，對此作視。」

三九

任何過去、未來、現在……對受……

四〇

對任何之想…

四一

任何過去、未來、現在，內、外、麤細、劣、勝、遠、近之行、一切諸行，不得以認：『此是我所、此是我、此是我之我。』

四二

任何過去、未來、現在，內、外、麤、細、劣、勝、遠、近之識、對一切之識、不得以認：『此是我所，此是我，此是我之我。』如是，必須以如實正慧、對此作視。

四三

須尸摩！多聞之聖弟子，於色如是見而厭離，於受、於想、於諸行、於識亦厭離，生厭離、離貪、予解脫，於解脫生解脫之智：『知生已盡、梵行已立，應作已作，更不再生。』須尸摩！汝見：『緣生而有老死』耶？」

「大德，誠然。」

四四

「須尸摩！汝見：『緣有而有生』耶？」

「大德，誠然。」

四五

「須尸摩！汝見：『緣取而有有』耶？」

「大德，誠然。」

四六

「須尸摩！汝見：『緣愛而有取』耶？」

「大德，誠然。」

四七

「須尸摩！汝見：『緣受而有愛，緣觸而有受，緣六處而有觸，緣名色而有六處，緣識而有名色，緣行而有識，緣無明而有行』耶？」

「大德，誠然。」

四八

「須尸摩！汝見：『緣生滅而有老死滅』耶？」

「大德，誠然。」

四九

「須尸摩！汝見：『緣有滅而有生滅』耶？」

「大德，誠然。」

五〇

「須尸摩！汝見：『緣取之滅，而有有滅，緣愛之滅，而有取滅，緣受之滅，而有愛滅，緣觸之滅，而有受滅，緣六處之滅，而有觸滅，緣名色之滅，而有六處滅。緣識之滅，而有名色滅，緣行之滅，而有識滅，緣無明之滅，而有行滅』耶？」

「大德，誠然。」

五一

「須尸摩！汝亦如是知、如是見，享受種種之神通耶？——一為多、多為一、顯現變隱沒、超牆、超壘、穿山、無障礙，恰如行虛空。出入地中恰如水中，不分水而行，恰如行於

地上，趺坐於虛空，恰如有翼之鳥、有大神力、大威力，以手觸捉日月，以此身行梵界耶？」

「大德，並無此事。」

五二

「須尸摩！汝亦如是知、如是見，以清淨超勝人間之天耳界、聞人天之兩音、遠音、近音耶？」

「大德，並無此事。」

五三

「須尸摩！汝亦如是知、如是見，知以心把握他之眾生，他人等之心耶？——對非解脫心知是非解脫心，對解脫心知是解脫心耶？」

「大德！並無此事。」

五四

「須尸摩！汝亦如是知、如是見，憶念種種之宿住耶？譬如一生……如是詳細憶念種種之宿住耶？」

「大德，並無此事。」

五五

「須尸摩！汝亦如是知、如是見，以清淨超勝人間之天眼，知眾生之歿……眾生之如業行耶？」

「大德，並無此事也。」

五六

「須尸摩！汝亦如是知、如是見，對超色、無色之寂靜解脫、以身觸而住耶？」

「大德，並無此事也。」

五七

「須尸摩！今此未能到達此記說，與此等之法者，須尸摩！我等實行於此。」

六

五八

爾時，尊者須尸摩，稽首世尊之足，白世尊曰：「大德！罪克服於我。我如是，對善說之法、律，如是法之盜人而出家，愚而無知、為不善者。大德！我世尊，我對其罪知是罪，願予與領受，而於未來無再犯。」

五九

「須尸摩！汝為罪所克服，汝於如是善說之法、律，如為法之盜人而出家為愚而無智，是不善者。」

六〇

須尸摩！譬如、捕犯罪之盜賊，送於王之前而示曰：『大王！犯罪之盜賊帶來矣。對彼應課以王所欲之刑罰。』王對彼者如是曰：『汝等將此者，去以強繩堅縛後手，剃為禿頭，鳴擊小鼓，由街至街，由巷至巷，巡迴曳領，由南門出，於城邑之南，而刎其首。』如是臣等，將彼人以強繩堅縛後手，剃為

禿頭、鳴擊小鼓，由街至街，由巷至巷，巡迴曳領，由南門出，於城邑之南，而刎其首。

六一

須尸摩！汝對其如何思惟耶？彼人為以此經驗苦、憂耶？」

「大德！誠然。」

六二

「須尸摩！彼人為以此雖受苦、憂，但於如是善說之法、律，為法之盜人出家者，對此將受過苦之報與劇報，乃至墮地獄。」

六三

「須尸摩！汝見罪為罪，如法悔過。我等將攝受領納。須尸摩！於聖律，對見罪為罪如法悔過者，增長功德，於未來入於律儀。」

此頌曰：

所謂二無聞
及子肉有貪
城邑觸蘆束
僞賞彌膨脹
第十須尸摩

第八 沙門婆羅門品

〔七一〕第一 沙門婆羅門義

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，世尊曰：

三

「諸比丘！雖任何之沙門、婆羅門，不知老死，不知老死集，不知老死滅，不知趣老死滅之道跡者，諸比丘！彼等沙門、婆羅門，於沙門非是沙門，於婆羅門非是婆羅門。又彼尊者等、對沙門之義、婆羅門之義，於現法不能自知、實證入而住。

四

諸比丘！雖任何之沙門、婆羅門，知老死……知道跡者，諸比丘！彼等沙門、婆羅門，於沙門為沙門，於婆羅門為婆羅門。又彼尊者等，對沙門之義，與婆羅門之義，於現法自知、實證入而住。」

〔七二～八〇〕第二～第十 不知（之一）

……舍衛城……

……不知生……

……不知有……

……不知取……

……不知愛……

……不知受……

……不知觸……

……不知六處……

……不知名色……

……不知識……

〔八一〕第十一 不知（之二）

不知行，不知行之集、不知行之滅、不知趣行滅之道
跡……自知，實證入而住。

此頌曰：

所謂由十一 四諦之分別
沙門婆羅門 第八乃為因

本篇之頌曰：

佛陀食十力 乃至迦拉羅
第五於家主 樹品與大品
最後之第八 沙門婆羅門

第九 中略品

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

〔八二〕第一 師

一

世尊曰：「諸比丘！不能如實知老死，是不見者，為於老死如實之智，則不能不求師。又不能如實知老死之集，是不見者，為於老死如實之智，則不能不求師。不能如實知老死之滅，是不見者，為於老死滅如實之智，不能不求師。不能如實知趣老死滅之道跡，是不見者，為於趣老死滅道跡如實智，不能不求師。」

一切凡如是者中略之。

二

「諸比丘！不能如實知生，是不見者……

三

諸比丘！不能如實知有，是不見者……

四

諸比丘！不能如實知取，是不見者……

五

諸比丘！不能如實知愛，是不見者……

六

諸比丘！不能如實知受，是不見者……

七

諸比丘！不能如實知觸，是不見者……

八

諸比丘！不能如實知六處，是不見者……

九

諸比丘！不能如實知名色，是不見者……

一〇

諸比丘！不能如實知識，是不見者……

一一

諸比丘！不能如實知行，是不見者，為於行如實之智，不能不求師。不能如實知行之集，是不見者，為於行集如實之智，不能不求師。不能如實知行之滅，是不見者，為於行之滅如實之智，不能不求師。不能如實知趣行滅之道跡，是不見者，為於趣行滅之道跡如實之智，不能不求師。」

凡對四諦亦應如是。

〔八三〕第二 學

一～一一

「諸比丘！不能如實知老死，是不見者，為於老死如實之智，不能不學。」對四諦亦復如是，而中略之。

〔八四〕第三 瑜伽

一～一一

……不能不為瑜伽行。

〔八五〕第四 欲

一～一一

……不能不為欲。

〔八六〕第五 努力

一～一一

……不能不為努力。

〔八七〕第六 不退轉

一～一一

……不能不為不退轉。

〔八八〕第七 熱誠

一～一一

……不能不為熱誠。

〔八九〕第八 精進

一～一一

……不能不為精進。

〔九〇〕第十 不拔

一～一一

……不能不為不拔。

〔九一〕第十一 正念

— ～ — —

……不能不為正念。

〔九二〕第十二 正心

— ～ — —

……不能不為正心。

〔九三〕第十三 不放逸

— ～ — —

……不能不為不放逸。

此頌曰：

師學及瑜伽	欲努不退轉
熱誠與精進	不拔與正念
正心不放逸	十二中略經
另有十二經	分百三十二
稱之為中略	就四諦而言

於此中略之要目終。

此頌曰：

師學及瑜伽	欲第五努力
不退轉熱誠	謂精進不拔
正念與正心	不放逸十二
如中略經終	其他有十二
百三十二經	所謂中略者
則對於四諦	中略綱目終

第二 現觀相應

〔一〕第一 爪尖

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

其時，世尊為令取爪尖之小垢，謂諸比丘曰：「諸比丘！作如何思惟耶？我此所取爪尖之小垢與大地土，何者較多耶？」

三

「大德！此大地土為多，世尊所取爪尖之小垢為少。世尊所取爪尖之少垢，與大地土相比，實百倍、千倍、乃至百千倍亦所不能及。」

四

「諸比丘！同此，見具足之聖弟子，達於現觀之人，即滅盡苦終較多，殘苦為少。此則，滅盡前者之苦蘊而終者，與極七返生相比，此百倍、千倍、百千倍亦所不能及。」

五

諸比丘！如是大利為法現觀，如是大利，為得法眼。」

〔二〕第二 蓮池

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！譬如有長五十由旬，寬五十由旬，深五十由旬之蓮池，其水盈滿至岸。有人以草端掬水，諸比丘！作如何思惟耶？以草端所掬之水，與蓮池之水，何者較多耶？」

三

「大德，蓮池之水較多，以草端所掬之水為少。以草端所掬之水，與蓮池之水相比，百倍、千倍、百千倍亦所不能及。」

四

諸比丘！同此，見具足之聖弟子，達現觀之人，即滅盡苦終較多，殘苦為少。以此前者之苦蘊滅盡，苦蘊終者，與極七返生者相比，百倍、千倍、百千倍亦所不能及。

五

「諸比丘！如是大利，為法現觀。如是大利，為得法眼。」

〔三〕第三 合流水（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！譬如有人於恒河，耶符那、伊羅跋提，薩羅遊、摩醯，此等諸大河之合流，於匯合處，欲掬二、三滴水，諸比丘！汝等對其作如何思惟耶？所掬之二、三滴水，與合流之水，何者較多？」

三

「大德，匯流之水較多，所掬之二、三滴水為少。所掬之二、三滴水與合流之水相比，百倍、千倍、百千倍亦所不能及。」

四

「諸比丘！亦同於此……」。

〔四〕第四 合流水（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！譬如此等之恒河、耶符那、伊羅跋提、薩羅遊、摩醯匯入諸大河合流、會合，將其水留二、三滴、而滅盡終矣。諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？合流之水，滅盡為終者，與所留之二、三滴水，何者較多耶？」

三

「大德！合流之水，即滅盡而終之水較多，所留之二、三滴水為少。所留之二、三滴水，與滅盡而終之合流水相比，百

倍、千倍、百千倍亦所不能及。」

四

諸比丘！亦同於此……

〔五〕第五 地（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！有人於大地之一處，以七粒棗種子置於大土塊中。諸比丘！汝等對作此如何思惟耶？大地之一處所置之七粒棗種子大之土塊，與大地土，何者較多耶？」

三

「大德！大地土較多，置於大地一處七粒棗種子大之土塊較少。以置於一處七粒棗種子大之土塊與大地土相比，百倍、千倍、百千倍、亦所不能及。」

四

「諸比丘！亦同於此……」。

〔六〕第六 地（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！如除去七粒棗種子大之土，令大地土滅盡至終，諸比丘！汝等作如何思惟耶？滅盡至終之大地土，與存留七粒棗種子大之土，何者為多耶？」

三

「大德，然則，滅盡至終之大地土多，而存留七粒棗種子大之土為少。存留七粒棗種子大之土以比滅盡至終之大地相比，不及其百倍、千倍、百千倍亦所不及。」

四

「諸比丘！亦同於此……。」

〔七〕第七 海（之一）

一

爾時，世尊住舍衛城。

二

爾時，世尊如斯曰：「汝等比丘！譬如有人，從大海掬取二、三滴水，諸比丘！汝等作如何思惟耶？所掬之二、三滴水與大海之水，何者較多耶？」

三

「大德！大海之水為多，掬取之二、三滴水為少。將掬取之二、三滴水與大海水相比，百倍、千倍、百千倍亦不所能及。」

四

「諸比丘！亦同於此……」

〔八〕第八 海（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛國。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！譬如取存二、三滴水，而大海滅盡歸終，諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？滅盡歸終之大海水，與所取存之二三滴水，何者較多耶？」

三

「大德！滅盡歸終之大海水為多，所取存之二三滴水較少。所取存之二、三滴水與滅盡歸終之大海水相比，百倍、千倍、百千倍，亦所不能及。」

四

「諸比丘！亦同於此……」

〔九〕第九 山喻（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！譬如有人，於雪山王之一處，置七粒芥子種大之小石。諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？置於一處之七粒芥子種大之小石，與雪山王相比，何者較多耶？」

三

「大德！雪山王乃較多，置於一處之七粒芥子種大之小石為少。置於一處之七粒芥子種大之小石，與雪山王相比，百倍、千倍、百千倍亦所不能及。」

四

「諸比丘！亦同於此……。」

〔一〇〕第十 山喻（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！譬如以七粒芥子種大之小石取存，至雪山王滅盡歸終。諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？為滅盡歸終之雪山王與所取存七粒芥子種大之小石，何者較多耶？」

三

「大德！此滅盡歸終之雪山王較多，所取存之七粒芥子種大之小石為少。以所取存七粒芥子種大之小石，與滅盡歸終之雪山王相比，百倍、千倍、百千倍亦所不能及。」

四

「諸比丘！同於此，見具足之聖弟子，達現觀之人，滅盡歸終之苦較多，所殘存之苦為少，以此，苦蘊滅盡歸終，則與極七返生相比，百倍、千倍、百千倍、亦不能及。」

五

「諸比丘，如是大利為法現觀，如是大利為得法眼。」

〔一一〕第十一 山喻（之三）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！譬如有人，於須彌山之一處，置七粒豆大之小石。諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？置一處之七粒大之小石與須彌山，何者較多耶？」

三

「大德，此須彌山為較多，置一處之七粒豆大之小石為少。如以置一處之小石與須彌山相比，百倍、千倍、乃百千倍、亦所不能及。」

四

「諸比丘！同於此，以異學之沙門、婆羅門、遊方者之到達者，與見具足之聖弟子所到達之人相比，百倍、千倍、乃至百千倍，亦所不能及。」

五

「諸比丘！如是大達者，見具足之人，如是之大勝智。」

此頌曰：

爪尖與蓮池 二之合流水
二地與二海 三山之為喻

第三 界相應

第一 種種品

〔一〕第一 界

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！我為汝等說種種界。汝等諦聽，當善思念，我則宣說。」

彼諸比丘奉答世尊曰：「大德！唯然。」

三

世尊曰：「諸比丘！種種界者何耶？」

四

眼界、色界、眼識界，耳界、聲界、耳識界，鼻界、香界、鼻識界，舌界、味界、舌識界，身界、觸界、身識界，意界、法界、意識界是。

「諸比丘！此謂種種界。」

〔二〕第二 觸

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！由種種界，生種種觸。」

三

諸比丘！種種界者何耶？

四

眼界、耳界、鼻界、舌界、身界、意界是。諸比丘！此謂種種界。

五

諸比丘！緣種種界，生種種觸者，何耶？

六

諸比丘！緣眼界生眼觸、緣耳界……緣鼻界……緣舌界……緣身界……緣意界生意觸。

七

「諸比丘！如是緣種種界，生種種觸。」

〔三〕第三 非此

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！緣種種界，生種種觸，緣種種觸，非生種種界。

三

諸比丘！種種界者，何耶？

四

眼界……眼界是。諸比丘！此謂種種界。

五

諸比丘！緣種種界，生種種觸，緣種種觸，非生種種界者，何耶？

六

諸比丘！緣眼界生眼觸，緣眼觸，非生眼界……緣眼界，生意觸，緣意觸，非生意界。

七

諸比丘！如是緣種種界，生種種觸，緣種種觸，非生種種界。」

〔四〕第四 受（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！緣種種界，生種種觸，緣種種觸，生種種受。」

三

「諸比丘！種種界，者何耶？」

四

眼界……眼界……諸比丘！此謂種種界。

五

諸比丘！緣種種界，生種種觸，緣種種觸，生種種受者，何耶？

六

諸比丘！緣眼界，生眼觸，緣眼觸，生眼觸所生之受。
……緣眼界，生意觸、緣意觸，生意觸所生之受。

七

「諸比丘！如是緣種種界，生種種觸，緣種種觸，生種種受。」

〔五〕第五 受（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！緣種種界，生種種觸，緣種種觸，生種種受，緣種種受，非生種種觸，緣種種觸，非生種種界。」

三

諸比丘！種種界者，何耶？眼界……眼界……。諸比丘！此謂種種界。

四

諸比丘！緣種種界，生種種觸，緣種種觸，生種種受，緣種種受，非生種種觸，緣種種觸，非生種種界者，何耶？

五～九

諸比丘！緣眼界，生眼觸，緣眼觸生眼觸所生之受，緣眼觸所生之受，非生眼觸，緣眼觸，非生眼界……。

一〇

緣眼界，生意觸，緣意觸，生意觸所生之受，緣意觸所生之受，非生意觸、緣意觸，非生意界。

一一

諸比丘！如是緣種種界，生種種觸，緣種種觸，生種種受，緣種種受，非生種種觸，緣種種觸，非生種種界。

〔六〕第六 界

一

〔一時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕諸比丘！我為汝等說種種界。汝等諦聽……

三

諸比丘！種種界者，何耶？色界、聲界、香界、味界、觸界、法界是。

四

「諸比丘！此謂種種界。」

〔七〕第七 想

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！緣種種界，生種種想，緣種種想，生種種思惟，緣種種思惟，生種種欲，緣種種欲，生種種熱，緣種種熱，生種種求。」

三

諸比丘！種種界者，何耶？色界……法界是。諸比丘！此謂種種界。

四

諸比丘！緣種種界，生種種想，緣種種想，生種種思惟，緣種種思惟，生種種欲，緣種種欲，生種種熱，緣種種熱，生種種求者，何耶？

五～九

諸比丘！緣色界，生色想，緣色想，生色思惟，緣色思惟，生色欲，緣色欲，生色熱，緣色熱，生色求……

一〇

緣法界，生法想，緣法想，生法思惟，緣法思惟，生法欲，緣法欲，生法熱，緣法熱，生法求。

一一

諸比丘！如是緣種種界，生種種想，緣種種想，生種種思惟，緣種種思惟，生種種欲，緣種種欲，生種種熱，緣種種熱，生種種求。」

〔八〕第八 非此

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！緣種種界，生種種想，緣種種想，生種種思惟……生種種求。

三

緣種種求，非生種種熱，緣種種熱，非生種種欲，緣種種欲，非生種種思惟，緣種種思惟，非生種種想，緣種種想，非生種種界。

四～九

諸比丘！種種界者何耶？色界……法界是。諸比丘！此謂種種界。

一〇

諸比丘！緣種種界，生種種想，緣種種想，生種種思惟……生種種求，緣種種求，非生種種熱，緣種種熱，非生種種欲，緣種種欲，非生種種思惟，緣種種思惟，非生種種想，緣種種想，非生種種界者，何耶？

一一

諸比丘！緣色界，生色想，緣色想，生色思惟，緣色思惟，生色欲，緣色欲，生色熱，緣色熱，生色求，緣色求，非生色熱，緣色熱，非生色欲，緣色欲，非生色思惟，緣色思惟，非生色想，緣色想，非生色界。

一二

緣聲界……

一三

緣香界……

一四

緣味界……

一五

緣觸界……

一六

緣法界，生法想，緣法想……生法求。緣法求，非生法熱，緣法熱，非生法欲，緣法欲，非生法思惟，緣法思惟，非生法想，緣法想，非生法界。

一七

諸比丘！如是緣種種界，生種種想，緣種種想……生種種求。緣種種求，非生種種熱，緣種種熱，非生種種欲，緣種種欲，非生種種思惟，緣種種思惟，非生種種想，緣種種想，非生種種界。」

〔九〕第九 觸（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！緣種種界，生種種想，緣種種想，生種種思惟，緣種種思惟，生種種觸，緣種種觸，生種種受，緣種種受，生種種欲，緣種種欲，生種種熱，緣種種熱，生種種求，緣種種求，生種種得。」

三

諸比丘！種種界者，何耶？色界……法界是。汝等比丘！此謂之種種界。

四

諸比丘！緣種種界，生種種想，緣種種想……生種種得者，何耶？

五

諸比丘！緣色界，生色想，緣色想，生色思惟，緣色思惟，生色觸，緣色觸，生色觸所生之受，緣色觸所生之受，生色欲，緣色欲，生色熱，緣色熱……生色得。

六

緣聲界……

七

緣香界……

八

緣味界……

九

緣觸界……

一〇

緣法界，生法想，緣法想，生法思惟，緣法思惟，生法觸，緣法觸，生法觸所生之受，緣法觸所生之受，生法欲，緣

法欲，生法熱，緣法熱，生法求，緣法求，生法得。

一一

諸比丘！如是緣種種界，生種種想，緣種種想……生種種求，緣種種求，生種種得。

〔一〇〕第十 觸（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！緣種種界，生種種想，緣種種想，生種種思惟、觸、受、欲、熱，緣種種求，生種種得，緣種種得，非生種種求，緣種種求，非生種種熱，緣種種熱……非生欲、受、觸、思惟、種種想，緣種種想，非生種種界。

三

諸比丘！種種界者，何耶？色界……法界是。諸比丘！此謂之種種界。

四

諸比丘！緣種種界，生種種想，緣種種想，生種種思惟，緣種種思惟，生種種觸、受、欲、熱、求、得，緣種種得，非生種種求，緣種種求，非生種種熱、欲、受、觸，緣種種思惟，非生種種想，緣種種想，非生種種界者，何耶？

五

諸比丘！緣色界生色想……

六

緣聲界……

七

緣香界……

八

緣味界……

九

緣觸界……

一〇

緣法界，生法想，緣法想……生法求，緣法求，生法得，緣法得，非生法求，緣法求，非生法熱，緣法熱，非生法欲，緣法欲，非生法觸所生之受，緣法觸所生之受，非生法觸，緣法觸，非生法思惟，緣法思惟，非生法想，緣法想，非生法界。諸比丘！如是，緣種種界，生種種種想，緣種種種想……生思惟、觸、受、欲、熱、求、得。緣種種得，非生種種求，緣種種求，非生種種熱，緣種種熱，非生種種欲，緣種種欲，非生種種受，緣種種受，非生種種觸，緣種種觸，非生種種思惟，緣種種思惟，非生種種想，緣種種想，非生種種界。」

此頌曰：

界觸與此非 更有二之受
此為內之五 界想與此非
更有二之觸 此為外之五

第二 無慚愧品

〔一一〕第一 此等之七

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！有此等之七界。七界者何耶？光界、淨界、空無邊處界、識無邊處界、無所有處界、非想非非想處界、想受滅界是。諸比丘！此等謂之七界。」

三

如是說已。一比丘白世尊言：「大德！此光界、淨界、空無邊處界、識無邊處界、無所有處界、非想非非想處界、想受滅界者，大德！此等之諸界，緣何而知之耶？」

四

「比丘！光界者，此界乃緣闇而得知。

五

比丘！淨界者，此界乃緣不淨而得知。

六

比丘！空無邊處界者，此界乃緣色而得知。

七

比丘！識無邊處界者，此界乃緣空無邊處而得知。

八

比丘！無所有處界者，此界乃緣識無邊處而得知。

九

比丘！非想非非想處界者，此界乃緣無所有處而得知。

一〇

比丘，想受滅界者，此界乃緣滅而得知。」

一一

「大德！光界、淨界、空無邊處界、識無邊處界、無所有處界、非想非非想處界、想受滅界者，大德！此等之諸界，依如何等至可達耶？」

一二

「比丘！光界、淨界、空無邊處界、識無邊處界、無所有處界者，此等之諸界，依想等至可達。

一三

比丘！非想非非想界者，此界依行有餘等至可達。

一四

比丘！想受滅界者，此界依滅盡等至可達。」

〔一二〕第二 有因

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！有因而生欲覺，非無因。有因而生瞋覺，非無因。有因而生害覺，非無因。

三

諸比丘！有因而生欲覺，非無因。有因而生瞋覺，非無因。有因而生害覺，非無因者，何耶？

四

諸比丘！緣欲界而生欲想，緣欲想而生欲思惟，緣欲思惟，而生欲欲，緣欲欲，而生欲熱，緣欲熱，而生欲求。諸比丘！無聞之凡夫乃求欲求，依身語意三處，而入於邪。

五

諸比丘！緣瞋界而生瞋想，緣瞋想，而生瞋思惟、瞋欲、瞋熱、瞋求。諸比丘！無聞之凡夫乃求瞋求，依身語意三處，而入邪。

六

諸比丘！緣害界，而生害想……害思惟、害欲、害熱、害求。諸比丘！無聞之凡夫乃求害求，依身語意三處，而入於邪。

七

諸比丘！譬如有人，以燃草之火炬，而棄於乾草原，若彼不以手、足立即消滅者，諸比丘！如是棲於草木之生類，則陷於災禍中。

八

諸比丘！同於此，雖任何之沙門、婆羅門，生起不正之想，而不能立即捨離、排除毀、滅、消滅，彼於現法則住於苦。有破壞、有惱、有悶，身壞命終之後，待受惡趣。

九

諸比丘！有因而生出離覺，非無因。有因而生不瞋覺，非無因。有因而生不害覺，非無因。

一〇

諸比丘！有因而生出離覺，非無因。有因而生不瞋覺，非無因。有因而生不害覺，非無因者，何耶？

一一

諸比丘！緣出離界，而生出離想，緣出離想，而生出離思惟，緣出離思惟，而生出離欲，緣出離欲，而生出離熱，緣出離熱，而生出離求。諸比丘！多聞之聖弟子求出離求，依身語意三處，而入於正。

一二

諸比丘！緣不瞋界，而生不瞋想……生不瞋思惟、不瞋欲、不瞋熱、不瞋求。諸比丘！多聞之聖弟子乃求不瞋求，依

身語意三處，而入於正。

一三

緣不害界，而生不害想，緣不害想，而生不害思惟，緣不害思惟，而生不害欲，緣不害欲，而生不害熱，緣不害熱，而生不害求。諸比丘！多聞之聖弟子乃求不害求，依身語意三處，而入於正。

一四

諸比丘！譬如有人，以燃草之火炬，棄於乾草原，若以手、足立即消滅，諸比丘！如是，棲於草木之生類，則免陷禍厄。

一五

諸比丘！同於此，任何之沙門、婆羅門，生起不正之想，而立即捨離、排除、毀滅、消滅，彼於現法則住於樂、無破壞、無惱、無悶，身壞命終之後，待受善處。」

〔一三〕第三 磚瓦之家

一

〔爾時，世尊〕住於那提迦之磚瓦家。

二

爾時，世尊呼諸比丘曰：「諸比丘！」彼等諸比丘奉答世尊曰：「大德、唯然。」

三

世尊曰：「諸比丘！緣界而生想、生見、生覺。」

四

如是說已。信仰〔篤厚〕之尊者迦旃延，白世尊言：「大德！非正等覺者，與正等覺者之見，大德！此見緣何知之耶？」

五

「迦旃延！此界乃大，即無明界是。」

六

「迦旃延！我謂：緣劣界，而生劣想、劣見、劣覺、劣思、劣望、劣願、劣人、劣語，彼於劣予以：表示、說述、施設、樹立、顯示、分別、宣示，彼之受生乃劣。」

七

迦旃延！我謂：緣中界，而生中想、中見、中覺、中思、中望、中願、中人、中語，彼於中，予以：表示、說述、施設、樹立、顯示、分別、宣示，彼之受生乃中。」

八

迦旃延！我謂：緣勝界，而生勝想、勝見、勝覺、勝思、勝望、勝願、勝人、勝語，彼於勝，予以表示、說述、施設、樹立、顯示、分別、宣示，彼之受生乃勝。」

〔一四〕第四 劣意志

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生俱與界相關連，與界相和合。劣意志之眾生，俱與劣意志相關連，俱與劣意志相和合。善意志之眾生，俱與善意志相關連、相和合。

三

諸比丘！眾生於過去世，亦與界相關連、相和合。劣意志之眾生，俱與劣意志相關連、相和合。善意志之眾生，俱與善意志相關連、相和合。

四

諸比丘！眾生於未來世，亦應與界相關連、相和合。劣意志之眾生，亦應俱與劣意志相關連、相和合。善意志之眾生，亦應俱與善意志相關連、相和合。

五

諸比丘！眾生於現在世，亦與界相關連、相和合。劣意志之眾生俱與劣意志相關連、相和合。善意志之眾生，俱與善意志相關、相連和合。」

〔一五〕第五 業

一

爾時，世尊住王舍城之耆闍崛山。

二

爾時，尊者舍利弗與眾多比丘俱，於世尊之近處經行。

三

尊者大目犍連亦與眾多比丘俱，於世尊之近處經行。

四

尊者大迦葉亦與眾多比丘俱，於世尊之近處經行。

五

尊者阿那律亦與眾多之……經行。

六

尊者滿願子亦與眾多之……經行。

七

尊者優波離亦與眾多之……經行。

八

尊者阿難亦與眾多……經行。

九

提婆達多亦與眾多比丘俱，於世尊之近處經行。

一〇

爾時，世尊喚諸比丘曰：「諸比丘！汝等見舍利弗與眾多比丘俱經行耶？」「大德！唯然。」

「諸比丘！此等之諸比丘，皆是大慧者。」

一一

「諸比丘！汝等見目犍連與眾多比丘俱經行耶？」

「大德，唯然。」

「諸比丘！此等諸比丘，亦皆是大神通者。」

一二

「諸比丘！汝等見大迦葉與眾多比丘俱經行耶？」

「大德！唯然。」

「諸比丘！此等諸比丘，亦皆是頭陀說者。」

一三

「諸比丘！汝等見阿那律與眾多比丘俱經行耶？」

「大德！唯然。」

「諸比丘！此等諸比丘亦皆是天眼者。」

一四

「諸比丘，汝等見滿願子與眾多比丘俱經行耶？」

「大德！唯然。」

「諸比丘！此等諸比丘，皆是說法者。」

一五

「諸比丘！汝等見優波離與眾多比丘俱經行耶？」

「大德！唯然。」

「諸比丘！此等諸比丘皆是持律者。」

一六

「諸比丘！汝等見阿難與眾多比丘俱經行耶？」

「大德！唯然。」

「諸比丘！此等諸比丘，皆是多聞者。」

一七

「諸比丘！汝等見提婆達多與眾多比丘俱經行耶？」

「大德，唯然。」

「諸比丘！此等諸比丘，皆是有罪者。」

一八

諸比丘！眾生俱與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。善意志俱與善意志相關連、相和合。

一九

諸比丘！眾生於過去世，亦俱與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。善意志俱與善意志相關連、相和合。

二〇

諸比丘！眾生於未來世，亦俱與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。善意志俱與善意志相關連、相和合。

二一

「諸比丘！眾生於現世亦俱與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。善意志俱與善意志相關連、相和合。」

〔一六〕第六 有偈

一

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生俱與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。」

三

諸比丘！眾生於過去世，亦俱與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。

四

諸比丘！眾生於未來世，亦俱與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。

五

諸比丘！眾生於現在世，亦俱與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。

六

諸比丘！譬如糞與糞相關連、相和合。尿與尿相關連、相和合。唾與唾相關連、相和合。膿汁與膿汁相關連、相和合。血與血相關連、相和合。諸比丘！同於此，眾生與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。

七

諸比丘！眾生於過去世……

八

諸比丘！眾生於未來世……

九

諸比丘！眾生於現在世，亦與界相關連、相和合。劣意志俱與劣意志相關連、相和合。

二

一〇

諸比丘！眾生與界相關連、相和合。善意志俱與善意志相關連、相和合。

一一

諸比丘！眾生於過去世亦與界相關連、相和合。善意志俱與善意志相關連、相和合。

一二

諸比丘！眾生於未來世亦……

一三

諸比丘！眾生於現在世，亦與界相關連，相和合。善意志俱與善意志相關連、相和合。

十四

諸比丘！譬如乳與乳相關連、相和合，油與油相關連、相和合。熟酥與熟酥相關連、相和合，蜜與蜜相關連、相和合。

諸比丘！同於此，眾生與界相關連、相和合。善意志俱與善意志相關連、相和合。

一五

諸比丘！眾生於過去世……

一六

諸比丘！眾生於未來世……

一七

諸比丘！眾生於現在世亦與界相關連、相和合。善意志俱與善意志相關連、相和合。」

一八

世尊如是說，善逝如是說，師更以此宣說：

欲情之下生	由交而發生
若無交則斷	如於大海上
乘小木必沒	如是入懈怠
淨命亦沈沒	然彼懈怠者
以離無精進	遠離之聖者
專注禪思者	常於勤精進
俱與賢者住	常於勤精進

〔一七〕第七 不信

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界相關連、相和合。

三

不信與不信俱相關連、相和合。無慚與無慚俱相關連、相和合。無愧與無愧俱相關連、相和合。少聞與少聞俱相關連、相和合。懈怠與懈怠俱相關連、相和合。妄念與妄念俱相關連、相和合。惡慧與惡慧俱相關連、相和合。

四

信與信俱相關連、相和合。慚與慚俱相關連、相和合。愧與愧俱相關連、相和合。多聞與多聞俱相關連、相和合。精勤

與精勤俱相關連、相和合。正念與正念俱相關連、相和合。持慧與持慧俱相關連、相和合。

五

諸比丘！眾生於過去世，與界相關連、相和合。

不信與不信俱相關連、相和合。無慚與無慚俱相關連、相和合。無愧與無愧俱相關連、相和合。少聞與少聞俱相關連、相和合。懈怠與懈怠俱相關連、相和合。妄念與妄念俱相關連、相和合。惡慧與惡慧俱相關連、相和合。

六

諸比丘！眾生於未來世，與界相關連、相和合。

不信與不信俱相關連、相和合。無慚與無慚俱相關連、相和合。無愧與無愧俱相關連，相和合。少聞與少聞俱相關連、相和合。懈怠與懈怠俱……妄念與妄念俱……

惡慧與惡慧俱相關連、相和合。

七

諸比丘！眾生於現在世，與界相關連、相和合。

不信與不信俱相關連、相和合。無慚與無慚俱……無愧與無愧俱……少聞與少聞俱……懈怠與懈怠俱……妄念與妄念俱相關連、相和合。惡慧與惡慧俱相關連、相和合之。

二

八

諸比丘！眾生與界相關連、相和合。

信與信俱相關連、相和合。慚與慚俱相關連、相和合。愧與愧俱相關連、相和合。多聞與多聞俱相關連、相和合。精勤與精勤俱相關連、相和合。正念與正念俱相關連、相和合。持慧與持慧俱相關連、相和合。

九

諸比丘！眾生於過去世……

一〇

諸比丘！眾生於未來世……

一一

諸比丘！眾生於現在世，俱與界相關連、相和合。

信俱與信……持慧與持慧俱相關連、相和合。」

〔一八〕第八 不信之根本五

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二

諸比丘！眾生與界相關連、相和合。

不信與不信俱相關連、相和合。無慚與無慚俱……惡慧與惡慧俱……信與信俱相關連、相和合。慚與慚俱……持慧與持慧相關連俱、相和合。

三

諸比丘！眾生於過去世，俱與界相關連、相和合……

四

諸比丘！眾生於未來世，俱與界相關連、相和合。

五

諸比丘！眾生於現在世亦俱與界相關連、相和合。

不信與不信俱、無慚與無慚俱、惡慧與惡慧俱、慚與慚俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。

二

六

諸比丘！眾生與界相關連、相和合。如是應詳說。

不信與不信俱相關連、相和合。無慚與無慚俱、惡慧與惡慧俱、信與信俱、愧與愧俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。

七

……於過去世……

八

……於未來世……

九

……於現在世……

三

一〇

不信與不信俱相關連、相和合。少聞與少聞俱、惡慧與惡慧俱、信與信俱、多聞與多聞俱、持慧與慧俱相關連、相和合。

一一

……於過去世……

一二

……於未來世……

一三

……於現在世……

四

一四

諸比丘！眾生與界……

不信與不信俱相關連、相和合。懈怠與懈怠俱、惡慧與惡慧俱、信與信俱、精勤與精勤俱、持慧與持慧俱相關連、相和

合。

一五

……於過去世……

一六

……於未來世……

一七

……於現在世……相和合。

五

一八

不信與不信俱相關連、相和合。妄念與妄念俱、惡慧與惡慧俱、信與信俱、正念與正念俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。

一九

……於過去世……

二〇

……於未來世……

二一

……於現在世……相和合。

〔一九〕第九 無慚之根本四

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二

「諸比丘！與界……

無慚與無慚俱相關連、相和合。無愧與無愧俱、惡慧與惡慧俱、慚與慚俱、愧與愧俱相關連、相和合。於過去世……於未來世……於現在世……相和合。

二

三

無慚與無慚俱關連、相和合。少聞與少聞俱、惡慧與惡慧俱、慚與慚俱，多聞與多聞俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。

三

四

無慚與無慚俱相關連、相和合。懈怠與懈怠俱、惡慧與惡慧俱、慚與慚俱、精勤與精勤俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。

四

五

無慚與無慚俱相關連、相和合。妄念與妄念俱、惡慧與惡慧俱、慚與慚俱、正念與正念俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。

六～八

於過去世……於未來世……於現在世……和合之。」

〔二〇〕無愧之根本三

一

爾時，世尊住舍衛城。

一

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界相關連、相和合。

無慚與無慚俱、少聞與少聞俱、惡慧與惡慧俱、慚與慚俱、多聞與多聞俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。」

三～五

於過去世……於未來世……於現在世……相和合。

二

六

無慚與無慚俱相關連、相和合。懈怠與懈怠俱、惡慧與惡慧俱、慚與慚俱、精勤與精勤俱、持慧與持慧俱相關連、相和

合。

七～九

於過去世……於未來世……於現在世……

三

一〇

無慚與無慚俱相關連、相和合。妄念與妄念俱、惡慧與惡慧俱、慚與慚俱、正念與正念俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。

一一～一三

「於過去世……於未來世……於現在世……和合。」

〔二一〕第十一 依少聞二

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界相關連、相和合。少聞與少聞俱相關連、相和合。懈怠與懈怠俱、惡慧與惡慧俱、多聞與多聞俱、精勤與精勤俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。」

三～五

「於過去世……於未來世……於現在世……相和合。」

二

六

「少聞與少聞俱相關連、相和合。妄念與妄念俱、惡慧與惡慧俱、多聞與多聞俱、正念與正念俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。」

七～九

「於過去世……於未來世……於現在世……和合。」

〔二二〕第十二 懈怠

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界相關連、相和合。懈怠與懈怠俱相關連、相和合。妄念與妄念俱、惡慧與惡慧俱、精勤與精勤俱、正念與正念俱、持慧與持慧俱相關連、相和合。」

三～五

「於過去世……未來世……於現在世……和合。」

徧過去、未來、現在、一一皆無不如是。

此頌曰：

此等七有因	以及磚瓦家
劣意志與業	有偈不信七
不信根本五	無慚根本四
無愧根本三	少聞二懈怠
一之所謂經	及三五等經
謂二十二經	以謂第二品

第三 業道品

〔二三〕第一 不寂靜

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界關連、相和合。

三

不信與不信俱關連、相和合。無慚與無慚俱、無愧與無愧俱、不寂靜與不寂靜俱、惡慧與惡慧俱關連、相和合。

四

信與信俱關連、相和合。慚與慚俱、愧與愧俱、寂靜與寂靜俱、持慧與持慧俱關連、相和合。」

〔二四〕第二 惡戒

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界關連、相和合。

三

不信與不信俱關連、相和合。無慚與無慚俱、無愧與無愧俱、惡戒與惡戒俱、惡慧與惡慧俱關連、相和合。

四

信與信俱關連、相和合。慚與慚俱、愧與愧俱、持戒與持戒俱、持慧與持慧俱關連、相和合。」

〔二五〕第三 五學處

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界關連、相和合。

三

殺生與殺生俱關連、相和合。不與取與不與取俱、邪欲行與欲邪行俱、妄語與妄語俱、飲酒與飲酒俱關連、相和合。

四

斷殺生與斷殺生俱關連、相和合。斷不與取與斷不與取俱、斷邪欲行與斷欲邪行俱、斷妄語與斷妄語俱、斷飲酒與斷飲酒俱關連、相和合。」

〔二六〕第四 七業道

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界關連、相和合。

三

殺生與殺生俱關連、相和合。不與取與不與取俱、邪欲行與欲邪行俱、妄語與妄語俱、離間語與離間語俱、粗語與粗語俱、綺語與綺語俱關連、相和合。

四

斷殺生……斷不與取……斷邪欲行……斷妄語……斷離間語與斷離間語俱相關連、相和合。斷粗語與斷粗語俱關連、相和合。斷綺語與斷綺語俱關連、相和合。」

〔二七〕第五 十業道

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界關連、相和合。

三

殺生與殺生俱關連、相和合。不與取與不與取俱……邪欲行……妄語……離間……粗語……綺語與綺語俱關連、相和合。多貪與多貪俱關連、相和合。瞋恚心與瞋恚心俱、邪見與邪見俱關連、相和合。

四

斷殺生與斷殺生俱關連、相和合。斷不與取……斷邪欲行……斷妄語……斷離間語、斷粗語……斷綺語與斷綺語俱關連、相和合。無貪與無貪俱關連、相和合。無瞋恚心與無瞋恚心俱關連、相和合。正見與正見俱關連、相和合。」

〔二八〕第六 八支

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界關連、相和合。

三

邪見與邪見關連、相和合。邪思與邪思俱……邪語……邪業……邪命……邪精進……邪念……邪定與邪定俱關連、相和合。邪智與邪智俱關連、相和合。邪解脫與邪解脫俱關連、相和合。」

〔二九〕第七 十支

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！眾生與界關連、相和合。

三

邪見與邪見俱關連、相和合。邪思……邪語……邪業……
邪命……邪精進……邪念……邪定與邪定俱關連、相和合。邪
智與邪智俱關連、相和合。邪解脫與邪解脫俱關連、相和合。

四

正見與正見俱關連、相和合。正思……正語……正業……
正命……正精進……正念……正定……正智與正智俱關連、相
和合正解脫與正解脫俱關連、相和合。」

徧過去、未來、現在、一一皆無不如是。

七經之頌曰：

不寂靜惡戒 以及五學處
所謂七道業 乃至十道業
第六謂八支 第七為十支

第四 隨喜品

〔三〇〕第一 四

一

爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！有此等之四界。

四者何耶？地界、水界、火界、風界是。

諸比丘！此等四界。」

〔三一〕第二 前

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！我正覺前、尚未成正覺為菩薩時，我生此念：

三

『地界之味者何耶？禍者何耶？出離者何耶？水界之味者何耶？禍者何耶？出離者何耶？火界之味者何耶？禍者何耶？出離者何耶？風界之味者何耶？禍者何耶？出離者何耶？』

四

諸比丘！我生此念：

五

緣地界而生樂、喜，此乃地界之味。地界是無常、苦、變易之法，此乃地界之禍。對地界欲貪之調伏，欲貪之捨離，此乃地界之出離。

六

緣水界……

七

緣火界……

八

緣風界而生樂、喜、此乃風界之味。風界是無常、苦、變易之法，此乃風界之禍。對風界欲貪之調伏，欲貪之捨離，此乃風界之出離。

九

諸比丘！我對此等之四界，以味如是之味，以禍是禍，以出離是出離，未能如實知之間，諸比丘！我於含天界、魔界、梵界、沙門、婆羅門、人、天之世界，不知成就無上之正等覺。

一〇

諸比丘！我對此等之四界，以味如是味，以禍是禍，出離是出離，如實知時，我於含天界、魔界、梵界、沙門、婆羅門、人、天之世界，已知成就無上之正等覺。

一一

我生：『我心解脫為不動，此為最後之生，今無後有』之知見。」

〔三二〕第三 〔我〕所行

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！我行求地界之味，達地界之味，我已以慧善知地界之味。

三

諸比丘！我行求地界之禍，達地界之禍，我已以慧善知地界之禍。

四

諸比丘！我行求地界之出離，達地界之出離，我已以慧善知地界之出離。

五～七

諸比丘！我行求水界之……

八～一〇

諸比丘！我行求火界之……

一一

諸比丘！我行求風界之味，達風界之味，我已以慧善知風界之味。

一二

諸比丘！我行求風界之禍，達風界之禍，我已以慧善知風界之禍。

一三

諸比丘！我行求風界之出離，達風界之出離，我已以慧善知風界之出離。

一四

諸比丘！我對味此等四界之味，以禍是禍，以出離是出離，未能如實知時，諸比丘！我於含天界、魔界、梵界、沙門、婆羅門、人、天之世界，不能知成就無上正等覺。

一五

諸比丘！我對味此等四界之味，以禍是禍，以出離是出離，如實知時，諸比丘！我於含天界、魔界、梵界、沙門、婆羅門、人、天之世界，知成就無上之正等覺。

一六

我生：『我心解脫為不動，此為最後之生，今無後有』之知見。」

〔三三〕若無此

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！若無此地界之味，則眾生不貪求此地界，諸比丘！然則因有地界之味故，眾生貪求此地界。」

三

諸比丘！若無此地界之禍，則眾生不厭此地界，諸比丘！然則有地界之禍故，眾生厭此地界。

四

諸比丘！若無地界之出離，則眾生不出離此地界。諸比丘！然則有地界之出離故，眾生出離此地界。

五～七

諸比丘！若無此水界之味……

八～一〇

諸比丘！若無此火界之味……

一一

諸比丘！若無此風界之味，則眾生不貪此風界。諸比丘！然有風界之味故，眾生貪此風界。

一二

諸比丘！若無此風界之禍，則眾生不厭此風界。諸比丘！
然有風界之禍故，眾生厭此風界。

一三

諸比丘！若無此風界之出離，則眾生不出離此風界。然則
有風界之出離故，眾生出離此風界。

一四

諸比丘！眾生味此等四界之味，以禍是禍，以出離是出
離，未能如實知時，諸比丘！此等之眾生、不由含天界、魔
界、梵界、沙門、婆羅門、人、天中捨棄、被解放，不相應，
因不依心以捨棄而住。

一五

諸比丘！眾生味此等四界之味，以禍是禍，以出離是出離
等，如實知時，諸比丘！此等眾生由天界、魔界、梵界、沙
門、婆羅門、人、天中捨棄、被解放，不相應，因依心以捨棄
而住。」

〔三四〕第五 苦

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！若此地界一向是苦、伴
苦、苦顯現、樂不顯現，則眾生不貪此地界。諸比丘！然則地
界為樂、伴樂、樂顯現、苦不顯現故，眾生以貪此地界。」

三

諸比丘！若水界……

四

諸比丘！若火界……

五

諸比丘！若風界一向是苦、伴苦、苦顯現、樂不顯現，則眾生不貪此風界。諸比丘！若然風界為樂、伴樂、樂顯現，苦不顯現故，眾生貪此風界。

六

諸比丘！若地界一向是樂、伴樂、樂顯現，苦不顯現，則眾生不厭此地界。諸比丘！然則地界是苦、伴苦、苦顯現，樂不顯現故，眾生厭此地界。

七

諸比丘，若水界……

八

諸比丘！若火界……

九

諸比丘！若風界一向是樂、伴樂、樂顯現，苦不顯現，則眾生不厭此風界。諸比丘！然風界是苦、伴苦、苦顯現，樂不顯現故，眾生厭此風界。」

〔三五〕第六 隨喜

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

一

二

〔爾時，世尊曰：〕我謂：「諸比丘！對地界隨喜者、則對苦隨喜。以苦隨喜者，則不得解脫苦。」

三

諸比丘！對水界隨喜者……

四

諸比丘！對火界隨喜者……

五

諸比丘！我謂：「對風界隨喜者，則對苦隨喜。對苦隨喜者，則不得解脫苦。」

二

六

諸比丘！我謂：「對地界不隨喜者，則對苦不隨喜。對苦不隨喜者，則解脫苦。」

七

諸比丘！對水界……

八

諸比丘！對火界……

九

諸比丘！我謂：「對風界不隨喜者，則對苦不隨喜。對苦不隨喜者，則苦解脫。」

〔三六〕第七 生起

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！地界之生起、住、再生、顯現，是苦之生起、貪、住、老死之顯現。」

三

諸比丘！水界之……

四

諸比丘！火界之……

五

諸比丘！風界之生起、住、再生、顯現，是苦之生起，貪、住、老死之顯現。

六

諸比丘！地界之滅、靜止、絕滅，是苦之滅，貪靜止、則老死之絕滅。

七

諸比丘！水界之……

八

諸比丘！火界之……

九

諸比丘！風界之滅、靜止、絕滅，是苦之滅，貪靜止、則老死之絕滅。」

〔三七〕第八 沙門婆羅門（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！有此等之四界。四者何耶？地界、水界、火界、風界。

三

諸比丘！雖任何之沙門、婆羅門，對此等四界之味、禍、出離、不如實知者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，於沙門乃非正

沙門，於婆羅門乃非正婆羅門。彼等尊者對沙門之義、婆羅門之義、於現法亦非自知，入實證而住者。

四

諸比丘！雖任何之沙門、婆羅門，對此等四界之味、禍、出離，如實知者，諸比丘！彼等沙門、婆羅門，於沙門乃正沙門、於婆羅門乃正婆羅門。彼等尊者對沙門之義、婆羅門之義、於現法自知，入實證而住者。」

〔三八〕沙門婆羅門（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！有此等之四界。四者何耶？地界、水界、火界、風界是。」

三

諸比丘！凡任何之沙門、婆羅門，對此等四界之集與絕滅、味、禍、出離、不能不如實知，故不得不詳說。

四

……知、自知、入實證而住。」

〔三九〕沙門婆羅門（之三）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！雖任何之沙門、婆羅門，不知地界、不知地界之集、不知地界之滅、不知趣地界滅之道跡……

三

不知水界……

四

不知火界……

五

不知風界、不知風界之集、不知風界之滅、不知趣風界滅之道跡者，諸比丘！彼等沙門、婆羅門，於沙門乃非正沙門，於婆羅門乃非正婆羅門，彼等尊者亦對沙門之義、或婆羅門之義，於現法不能自知、入實證而住。

六

諸比丘！雖任何之沙門、婆羅門，知地界、知地界之集、知地界之滅、知趣地界滅之道跡者……

七

知水界……

八

知火界……

九

知風界、知風界之集、知風界之滅、知趣風界滅之道跡者，諸比丘！彼等沙門、婆羅門，於沙門乃正沙門，於婆羅門乃正婆羅門。彼等尊者亦對沙門之義，婆羅門之義，於現法自知、入實證而住。」

此頌曰：

四與前及行	若無此及苦
隨喜生起三	沙門婆羅門

第四 無始相應

第一 薪草品

〔一〕薪草

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城。

二

爾時，世尊言諸比丘曰：「諸比丘！」彼等比丘奉答世尊曰：「唯然，大德！」

三

世尊曰：「諸比丘！輪迴無始，眾生之為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。

四

比丘等！譬如有人，於此閻浮提伐草、薪、小枝、集於同一場所。堆積成四指量之方形謂：『此是我母、此是我母之母。』計數而置。諸比丘！彼人數算其母之母而不能終盡，則此閻浮提之草、薪、枝、小枝，已至終盡。

五

所以者何？諸比丘！此輪迴無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。

六

諸比丘！如是，長夜受苦、受痛、受失，增大其墓所。

七

諸比丘！是以於諸行足厭、足於厭離、足於解脫。」

〔二〕第二 地

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！輪迴無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛、不知流轉輪迴之本際。

三

諸比丘！譬如有人，以大地作棗種子大之土丸，以〔數〕而置之謂：『此是我父，此是我父之父。』諸比丘！彼人數其父之父不能終盡，此大地已至終盡矣。

四

所以者何？諸比丘！輪迴無始、眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。

五

諸比丘！如是長夜受苦、受痛、受失，增大其墓所。

六

諸比丘！是以於諸行足厭、足於厭離，足於解脫。」

〔三〕第三 淚

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！輪迴無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。

三

諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？四大海之水，與汝等怨憎相會，喜愛之別離，長時流轉輪迴、悲嘆時，所流之淚，何者為多耶？」

四

「大德！我等知世尊所說法，大德！我等怨憎相會，喜愛之別離，長時流轉輪迴，悲嘆時所流之淚為多，其非四大海水所能比擬。」

五

「善哉，善哉！諸比丘！汝等對我所說之法，能如是知之矣。」

六

諸比丘！汝等怨憎相會，與喜愛別離，長時流轉輪迴，悲嘆時所流注之淚為多，其非四大海水所能比擬。

七

諸比丘！汝等於長夜逢母之死。

八

……逢子之死。

九

……逢女兒之死。

一〇

……逢眷屬之失。

一一

……逢財寶之失。

一二

諸比丘！汝等於長夜，逢病之失。汝等逢此等之病失，怨憎相會，與喜愛者別離，悲嘆時所流注之淚為更多，其非大海水所能比擬。

一三

所以者何？諸比丘！輪迴乃無始……

一四

諸比丘！是人於諸行足厭、足於厭離、足於解脫。」

〔四〕第四 乳

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！輪迴無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉於輪迴之本際。」

三

「諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？汝等於此等長夜流轉輪迴所吞之母乳，與四海之水，何者為多耶？」

四

「大德！我等知世尊所說之法，大德！我等於長夜流轉輪迴所吞之母乳為更多，非大海水所能比擬。」

五

「善哉，善哉！諸比丘！善哉！諸比丘！汝等對我所說之法，能如是知之矣。」

六

諸比丘！汝等長夜流轉輪迴而所吞飲之母乳為更多，非大海水所能比擬。

七

所以者何？諸比丘！輪迴無始……足於能脫。」

〔五〕第五 山

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城紙樹給孤獨園。

二

爾時，一比丘來詣世尊之處。詣已……

三

坐於一面之彼比丘白世尊言：「大德！一劫為幾何之長耶？」

四

汝比丘！一劫為長久，是為多歲，如是多歲、或如是多百歲、或如是多千歲、或如是多百千歲、不可算數。

五

「大德！唯然。得以譬喻之耶？」

六

世尊曰：「比丘！可得。」「比丘！譬如有縱一由旬，廣一由旬，高一由旬，而無空隙、無龜裂，堅固之大巖山。

〔若〕有人、每終百歲，以迦尸衣一拂之，比丘！其大巖山，依此方法而滅盡至終，劫猶未盡。

七

比丘！劫乃如是長久。比丘！如是長久之劫，輪迴多劫，輪迴比百劫多，輪迴比千劫多，輪迴更比百千劫多。

八

所以者何？諸比丘！輪迴無始……足於解脫。」

〔六〕第六 芥子

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

當時有一比丘，來詣世尊之處……

三

坐一面之比丘，以此白世尊曰：「大德！一劫有幾何之長耶？」

四

「比丘！〔一〕劫甚長，劫乃多歲，或……多百千歲，不可算數。」

五

「大德！唯然，得可譬喻耶？」

六

「比丘！得以譬喻，比丘！譬如有一由旬之鐵城，縱一由旬，廣一由旬，高一由旬，如以頭巾纏縛，充滿芥子粒。時有人，每過百年，取出一芥子粒。比丘！彼芥子之大積集，以此等方法，城可滅盡至終，然而劫猶未盡。

七

比丘！如是劫之長久，比丘！如是長久之劫，多劫輪迴、輪迴比百劫多，輪迴比千劫多，輪迴更比百千劫多。

八

所以者何？比丘！輪迴乃無始……足於解脫。」

〔七〕第七 聲聞

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，眾多之比丘，來詣世尊之處……

三

坐於一面之彼等諸比丘，白世尊言：「大德！經過幾多劫耶？」

四

「諸比丘！經過已多劫。此等為多劫，或為多百劫，或為多千劫、或為多百千劫，不能算數。」

五

「大德！唯然，可得作譬喻耶？」

六

「諸比丘！可得作〔譬喻〕。」世尊曰：「諸比丘！此處有四聲聞百歲之壽、百歲之命，彼等日日憶念百千劫，諸比丘！諸劫為由彼等之所憶念。時彼等四聲聞百歲之壽、百歲之命，過百歲而歿。

七

諸比丘！如是經過多劫，彼等為多劫，或為多百劫，或為多千劫，或為多百千劫，不可算數。

八

所以者何？諸比丘！輪迴乃無始……足於解脫。」

〔八〕第八 恒河

一

〔爾時，世尊〕於王舍城竹林……

二

爾時，一婆羅門來詣世尊之處……

三

坐於一面之婆羅門白世尊言：「瞿曇！經過幾多之劫耶？」

四

「婆羅門！經過已多劫。彼等為多劫，或為多百劫，或為多千劫，或為多百千劫，不可算數。」

五

「瞿曇！唯然，可得作譬喻耶？」

六

「婆羅門！可得作〔譬喻〕。」世尊曰：「婆羅門！譬喻此恒河之水流，流入大海，其中之砂為多砂，或為多百砂，或為多千砂，或為多百千砂，不可算數。」

七

婆羅門！因之，經過更多劫。彼等為多劫，或為多百劫，或為多千劫，或為多百千劫，不可算數。

八

所以者何？婆羅門！輪迴乃無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。

九

婆羅門！如是，長夜受苦、受痛、受失，增大其墓所。婆羅門！是以於諸行足厭、足於厭離、足於解脫。」

一〇

如是說已。彼婆羅門白世尊言：「瞿曇！是稀有，瞿曇！是稀有……尊者瞿曇！請攝納我，自今以後，當終生歸依為優婆塞。」

〔九〕第九 杖

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！輪迴乃無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際……

三

諸比丘！譬喻向上空擲杖，一度落於根地，一度落於中地，一度落於頭地，諸比丘！同此，被無明所覆、渴愛所縛，流轉輪迴之眾生，一度由此界至彼界，一度由彼界至此界。

四

所以者何？諸比丘！轉迴乃無始……足於解脫。」

〔一〇〕第十 人

一

〔爾時，世尊〕住王舍城耆闍崛山。

二

爾時，世尊曰：

三

「諸比丘！輪迴乃無始……

四

諸比丘！依一人於一劫之所流轉輪迴，若有此等之集骨者，集之不使毀壞，其骨之堆積，骨之累積，骨之積聚，有如毘富羅山之大。

五

所以者何？諸比丘！輪迴無始……足於解脫。」

六

世尊宣說已。善逝仰此！師更作斯宣曰：

（一）一人生一劫

人骨積無量

積聚等山高

斯為大仙說

（二）彼大仙所說

耆闍崛山北

摩揭陀山城

毘富羅山大

（三）我以正慧觀

苦與苦生起

超越苦之法

唯八支聖道

（四）得見聖諦時

趣於苦之滅

七返以為極

彼人得轉生

一切結已盡

為苦之終焉

此頌曰：

薪草以及地 淚乳山芥子
聲聞與恒河 以及杖與人

第二 苦惱等品

〔一一〕第一 苦惱

一

一時，世尊住舍衛城。

二

爾時，〔世尊曰：〕

三

「諸比丘！輪迴乃無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。

四

諸比丘！汝等見此處具有必然之苦惱與不幸時，對此處應必作一結論：『我等亦長時如是受之矣。』

五

所以者何？諸比丘！輪迴乃無始……足於解脫。」

〔一二〕第二 安樂

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！輪迴乃無始……

三

諸比丘！汝等見安樂、榮華時，對此必作一結論：『我等亦長時受之矣。』

四

所以者何？諸比丘！輪迴無始……不知流轉輪迴之本際……足於解脫。」

〔一三〕第三 約三十

一

〔爾時，世尊〕住王舍城竹林。

二

當時約有三十位波婆比丘，皆住阿蘭若，悉為乞食者，皆著糞掃衣，悉持三衣者，一切皆有結者。〔彼等三十位比丘〕來詣世尊之處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

爾時，世尊生如是思念：「此等三十位波婆比丘，皆住阿蘭若，悉為乞食者，著糞掃衣者，悉持三衣者，一切皆有結

者。我寧為說此等之如法，於此教，使無取著，依諸漏使心得解脫。」

四

爾時世尊言諸比丘曰：「諸比丘！」彼等諸比丘奉答世尊曰：「唯然，大德！」

五

世尊曰：「諸比丘！輪迴乃無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。」

六

諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？汝等於此等之長時，流轉輪迴，奔走頭破流出之血，與四大海之水，何者較多耶？」

七

「大德！我等知世尊所說之法，大德！我等於長時流轉輪迴，奔走頭破流出之血為多，非四大海之水可比擬。」

八

「善哉，善哉！諸比丘！善哉！諸比丘！汝等對我所說之法，能如是了知。」

九

諸比丘！汝等於此等之長時，流轉輪迴，奔走頭破流出之血為多，非四大海之水可比擬……

一〇

諸比丘！汝等長夜生為牡牛做牡牛時，奔走頭破流出之血為多，非四大海之水可比擬……

一一

諸比丘！汝等長夜生為水牛做水牛時，奔走頭破流出之血……

一二

諸比丘！汝等長夜生為牡羊為牡羊時……

一三

諸比丘……生為山羊，為山羊時……

一四

諸比丘……生為鹿，為鹿時……

一五

諸比丘……生為狗，為狗時……

一六

諸比丘……生為豬，為豬時……

一七

諸比丘！汝等長夜、為盜賊、為劫村者而被捕，奔走而被截頭流出之血……

一八

諸比丘！汝等長夜為盜賊、立於道路而被捕，奔走而被截頭流出之血……

一九

諸比丘！汝等長夜為盜賊、不義者而被捕，奔走頭破流出之血為較多，非四大海之水可比擬。

二〇

所以者何？諸比丘！輪迴無始，足於解脫。」

二一

世尊如是說已，彼等諸比丘對世尊之說法、隨喜、歡喜。

二二

宣說此時，約三十位波婆比丘，已無取著，依諸漏而心解脫。

〔一四〕第四 母

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！輪迴乃無始……

三

諸比丘！於此等之長夜，很難找出未嘗為母之眾生者。

四

所以者何？諸比丘！輪迴乃無始……足於解脫。」

〔一五〕第五 父

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

……諸比丘……很難找出未嘗為父之眾生者。

〔一六〕第六 兄弟

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

……諸比丘……很難找出未嘗為兄弟之者。

〔一七〕第七 姊妹

一

爾時，世尊住舍衛城。

二

……諸比丘……很難找出未嘗為姊妹之眾生者。

〔一八〕第八 子

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

……諸比丘，很難找出未嘗為子之眾生者……

〔一九〕第九 女兒

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！輪迴乃無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。

諸比丘！於此長夜，很難找出未嘗為女兒之眾生者。

所以者何？諸比丘！輪迴乃無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。

諸比丘！然則長夜受苦，受痛、受失，增大其墓所。

諸比丘！是人，於諸行足厭、足於厭離、足於解脫。」

〔二〇〕第十 毘富羅山

一

〔爾時，世尊〕住王舍城闍崛山。

二

〔爾時，世尊〕言諸比丘……

三

世尊曰：「諸比丘！輪迴乃無始，眾生為無明所覆、渴愛所縛，不知流轉輪迴之本際。

四

諸比丘！往昔此毘富羅山稱為東竹山。諸比丘！彼時人等呼之為提瓦羅。汝等比丘！提瓦羅人等之壽量為四萬歲。諸比丘！提瓦羅人等，登上東竹山需四日，降下需四日。

五

諸比丘！爾時，拘樓孫世尊、應供、正等覺者，出現於世。諸比丘！拘樓孫世尊、應供、正等覺者，有名曰威杜拉、僧耆婆二人為上足弟子。

六

諸比丘！試觀！此山之名消滅，彼等眾人歿去，彼世尊已般涅槃。

七

諸比丘！是諸行為無常。諸比丘！如是諸行是不定。諸比丘！如是諸行為不安。諸比丘！是以，於諸行足厭、足於厭離、足於解脫。

八

諸比丘！往昔此毘富羅山稱萬伽伽山。諸比丘！又，彼時諸人被稱為赤馬。諸比丘！赤馬之人，壽量為三萬歲。諸比丘！赤馬之人登上萬伽伽山需三日，降下需三日。

九

諸比丘！爾時，拘那含世尊、應供、正等覺者出現於世。諸比丘！拘那含世尊、應供、正等覺者，有名曰比茲耶、蘇陀羅二人為上足弟子。

一〇

諸比丘！試觀！此山名消滅，彼等眾人歿去，彼世尊亦般涅槃矣。

諸比丘！如是諸行無常……足於解脫。

一一

諸比丘！往昔此毘富羅山稱為斯巴薩山。諸比丘！彼時人等被稱為蘇比耶。諸比丘！蘇比耶人之壽量為二萬歲。諸比丘！蘇比耶人登上斯巴薩山需二日，降下需二日。

一二

爾時，迦葉世尊、應供、正等覺者，出現於世。諸比丘！迦葉世尊、應供、正等覺者，有名曰帝沙、巴拉多瓦迦二人為上足弟子。

一三

諸比丘！試觀！此山之名消滅，彼等眾人歿去，彼世尊已般涅槃矣。

一四

諸比丘！如是諸行是無常。諸比丘！如是諸行是不定。
……足於解脫。

一五

諸比丘！又現在此毘富羅山，而稱為毘富羅。諸比丘！現
在此諸人被稱為摩揭陀人。諸比丘！摩揭陀人之壽量少，微
少。長生亦僅者百歲，或僅有之多。汝等比丘！摩揭陀人上登
毘富羅需瞬時，降下需瞬時。

一六

諸比丘！現今，我為應供、正等覺者、出現於世。諸比
丘！我今有舍利弗、目犍連二人為上足弟子。

一七

諸比丘！此山名消滅，此等人人死去，我亦將至般涅槃
時。

一八

諸比丘！如是諸行是無常。諸比丘！如是諸行是不定。諸
比丘！如是諸行是不安。諸比丘！是以，於諸行足厭、足於厭
離、足於解脫。」

一九

世尊宣說已，善逝仰此，大師更說此曰：

（一）東竹山提瓦羅
赤馬人萬伽伽

斯巴薩蘇比耶
毘富羅摩揭陀
（二）然諸行是無常
此等是生滅法
生之而又消滅
此等寂滅為樂

此頌曰：

苦惱與安樂 三十與父母
兄弟與姊妹 子女毘富羅

第五 迦葉相應

第一 滿足

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！此迦葉〔自得〕任何之衣皆滿足。彼〔自得〕任何之衣，皆滿足稱讚。不因衣陷於不正、不當。若不得衣，亦心不動搖，得衣亦不執著。無溺惑，無陷、見禍，以享受出離之慧。

三

諸比丘！此迦葉，〔彼得〕任何之鉢食皆滿足。〔自得〕任何之鉢食皆滿足稱讚。不因鉢食陷於不正、不當。若不得鉢食，亦心不動搖，得鉢食亦不執著。無溺惑、無陷、見禍，以享受出離之慧。

四

諸比丘！此迦葉，〔彼得〕任何之牀座皆滿足。〔自得〕任何之牀座皆滿足稱讚。不因牀座陷於不正、不當。〔若〕不得牀座，亦心不動搖，得牀座亦不取著、無溺惑，無陷、見禍，以享受出離之慧。

五

諸比丘！此迦葉，〔自得〕任何於病所需之藥，資具皆滿足。〔彼自得〕任何之病所需之藥，資具皆滿足稱讚，不因於病所需之藥、資具，陷於不正、不當。〔若〕不得病所需之藥、資具，心亦不動搖，若得於病所需之藥、資具，亦不取著。無溺惑、無陷、見禍，以享受出離之慧。

六

諸比丘！汝等不可不如是學，即：『我等〔得〕任何之衣皆滿足。對任何之衣皆滿足稱讚。不因衣陷於不正、不當。〔若〕不得衣，亦心不動搖，得衣亦不取著。無溺惑、無陷、見禍，以享受出離之慧。』一切不可不如是學。又：『我等對〔自得〕任何鉢食亦滿足……我等〔自得〕任何之牀座皆滿足。……我等〔自得〕任何於病所需之藥、資具，皆滿足。對任何之藥所要之藥、資具，皆滿足稱讚。〔我等〕若不得於病所要之藥、資具，亦心不動搖。對病所要之藥、資具，得之亦不取著。無惑溺、無陷、見禍，以享受出離之慧。』諸比丘！汝等不可不如是學。

七

諸比丘！我依迦葉，或依如迦葉者，教示汝等。汝等依所教，不能不如是得達。」

第二 無愧

一

如是我聞。一時尊者大迦葉，尊者舍利弗住波羅奈之仙人墮處鹿野苑。

二

爾時，尊者舍利弗，暮時由宴坐起，來近大迦葉……禮敬後坐於一面。

三

坐於一面之尊者舍利弗，對尊者大迦葉作是言曰：

四

「友，迦葉！於此不熱誠、不知愧，則不達菩提、不達涅槃、不達無上之安穩。然熱誠與知愧、則得達菩提，得達涅槃，得達無上之安穩。」

五

「友！如何不熱誠、無愧，不達菩提、不達涅槃、不達無上之安穩耶？如何熱心知愧、得達菩提、得達涅槃、達無上之安穩耶？」

一

六

「友！此有比丘，對『未生之惡不善法，於我使生時，為不利』，此為不熱誠。對『已生之惡不善法、不捨離，為不利』，此為不熱誠。對『未生之善法，於我不使生，為不利』，則為不熱誠。對『已生之善法，於我使滅，為不利』，此為不熱誠。」

友！如是為不熱誠。

二

七

友！無愧者何耶？

友，於此有比丘，對『未生之惡不善法，於我使生時，為不利』，此為不知愧。對『已生之惡不善法，於我不捨離，為不利』，此為不知愧。對『未生之善法，於我不使生，為不利』，則不知愧。又，對『已生之善法，於我使滅時，為不利』，此為不知愧。

友！如是為無知愧。

八

友！如是之不熱誠與不知愧，不達菩提、不達涅槃、不達無上之安穩。

三

九

友！熱誠者何耶？

友！此有比丘，對『未生之惡不善法，於我使生，是為不利』，如此是為熱誠。對『已生之惡不善法，於我使不捨離，是為不利』，是為熱誠。對『未生之善法，於我使……』，是為熱誠。

友！如是為熱誠。

四

一〇

友，愧者何耶？

友！於此有比丘，對『未生之惡不善法，於我使生，是為不利』，此則知愧。對『已生之惡不善法、於我使不捨離，是為不利』，此是為愧。對『未生之善法，我使不生，是為不利』，是為愧。對『已生之善法，於我使滅，是為不利』，此為愧。

友！如是者為愧。

——

友！如是之熱誠與知愧，得達菩提、得達涅槃、得達無上之安穩。」

第三 月喻

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，世尊曰：「諸比丘！汝等入於在俗之家，當如月喻，整身調心而走近。入於在俗之家，應常如新來比丘之謙虛。」

三

諸比丘！譬如有人，對眺望古井、山崖、川淵，宜整身調心。諸比丘！同此，入於在家，得整身調心近以趨近，對於在俗人眾應謙虛。

諸比丘！迦葉如月喻，整身調心近於在俗之家。於在俗之家如新來比丘之謙虛。

四

諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？比丘應如何適於進入在俗之家耶？」

五

「大德！世尊為我等之法本，世尊為我等之教導者，世尊為我等之歸依處。善哉，大德！世尊顯示此所說義，諸比丘聞世尊之所說，當受持奉行。」

六

爾時世尊，以手揮向虛空曰：「諸比丘！譬如此手之對虛空，無著、無捉、無縛。諸比丘！同此，比丘如何趣於在俗之家耶？於俗家，當心亦無著、無捉、無縛。應念：『欲得者將得，欲為功德，則將成就。』」

七

又如對己之所得歡喜滿足，於他之所得亦歡喜滿足。比丘！如是之比丘，適宜入於在家。諸比丘！迦葉雖近任何之家，於在俗之家，為心無著、無捉、無縛，彼念欲得者將得，欲為功德，則將成就。

八

又如對己之所得歡喜滿足，對他之所得亦歡喜滿足。

九

諸比丘！如是之比丘，適宜入於在俗之家。

一〇

諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？比丘之不淨說法者，為如何耶？比丘之淨說法者，為如何耶？」

一一

「大德！世尊為我等之法本，世尊為教導者，世尊為歸依處。善哉，大德！世尊顯示此等所說之義，諸比丘聞世尊之所說，當受持奉行。」

一二

「諸比丘！若然，當諦聽，當善思念，我將說。」

彼等諸比丘向世尊奉答曰：「唯然，大德！」

世尊曰：

一三

「諸比丘！任何之比丘，以如是之心，對他人說法者：『實為我聞法，聞法生歡喜，歡喜而向我示其歡喜之表態。』諸比丘！如是為比丘之不淨說法。」

一四

諸比丘！任何之比丘，以如是之心，對他人說法者：『法乃由世尊善說者，於現世不隔時而有果報，可得說來見之法，而導於涅槃。識者各各應自知之法。實為我聞法，聞法而予瞭解，瞭解而更如法修行。』如是乃契於善法之性質，向他說

法，由悲愍、哀憐之哀愍為始，向他人說法。諸比丘！如是乃比丘之淨說法。

一五

諸比丘！迦葉以如是之心說法：『法由世尊所說者。於現世不隔時而有果報，可得說來見之法，以導於涅槃者，識者各各應知之法。實為應我聞之法，聞法而予瞭解，瞭解而更如法修行。』如是乃契於善法之性質，由悲愍、哀憐之哀愍為始，向他人說法。

一六

諸比丘！我囑迦葉，或囑如迦葉者，教誨汝等。依所教誨者、汝等須如是修行。」

第四 人在家

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕「諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？比丘應如何適宜入於在俗之家耶？比丘應如何不適入在家耶？」

三

「大德！世尊為我等之法本……」，世尊曰：

四

「諸比丘！任何之比丘，以如是之心入於在家：『對我唯行施、勿不施。對我唯多施、勿少施、對我唯施勝，勿施羸。對我唯速施、勿緩施。對我唯尊重施、勿不恭。』

五

諸比丘！若彼比丘以如是之心，近於在家，若不施與，因此彼比丘生怒，彼因之感受苦、憂，『少施非多……施羸非勝……施緩非速。』因此比丘生怒。彼因之感受苦、憂。施不恭敬、非尊重。因此比丘生怒，因之感受苦、憂。諸比丘！如是之比丘乃不適宜入在俗之家者。

六

諸比丘！比丘以如是之心近於在家——於他家對此事得作如何考慮耶？即：『唯對我施、勿不施、唯對我多施、勿少施，唯對我施勝，勿施羸，唯對我速施、勿緩施。唯對我施尊重、勿不恭。』

七

諸比丘！若彼比丘以如是之心近於在俗之家，雖不施與，比丘亦不因此生怒，彼因之不感受苦、憂。『少施非多，施羸非勝，施緩非速，施不恭敬，非尊重。』比丘不因此生怒，彼因之不感受苦、憂。

諸比丘！如是之比丘，適於入在俗之家。

八

諸比丘！迦葉以如是之心入於在家。於他家得作如何之考慮耶？即：『唯對我施、勿不施，唯對我多施、勿少施，唯對

我施勝、勿施羸，唯對我速施、勿緩施，唯對我施尊重、勿不恭。』

九

諸比丘！若彼迦葉，以如是之心近於在家，雖不施，迦葉因此亦無怒，彼因之不感受苦、憂。施少而非多，迦葉因此無怒，彼因之不感受苦、憂。施羸而非勝，迦葉因此無怒，彼因之不感受苦、憂，施緩而非速，迦葉因此無怒，彼因之不感受苦、憂。施不恭而非尊重，迦葉因此無怒，彼因之不感受苦、憂。

一〇

諸比丘！我囑迦葉，或囑如迦葉者教誨汝等，對所教誨，汝等應如是行。」

第五 老

一

如是我聞。〔爾時，世尊〕住王舍城竹林。

二

爾時，尊者大迦葉，來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

對坐於一面之尊者大迦葉，世尊作如是曰：「迦葉！汝齡老矣，此等可棄捨之粗布糞掃衣，於汝猶重。迦葉！然則，汝可執家主之衣，食所請之食，住於我側。」

四

「大德！我於長夜，住阿蘭若，而讚歎住阿蘭若。為乞食者，而讚歎乞食者。為著糞掃衣者，而讚歎著糞掃衣。為持三衣者，而讚歎持三衣。我少欲，而讚歎少欲。我知足而讚歎知足。我遠離，而讚歎遠離。我無交往而讚歎無交往。我精勤，而讚歎精勤。」

五

「迦葉！汝觀幾何之義，長夜住阿蘭若，而讚歎住阿蘭若……為乞食者……著糞掃衣者……持三衣者……少欲……知足……遠離……無交往……精進而讚歎精進耶？」

六

「大德！我以觀二義，長夜以住阿蘭若，讚歎住阿蘭若……為乞食者……著糞掃衣者，持三衣者……少欲……知足……遠離……無交……精勤而讚歎精進。」

七

其一方面，觀自之現法樂住；他方面，為切望後人入隨見，哀愍後人。彼等實乃為佛、隨佛之弟子，彼等長夜住阿蘭若者，讚歎住阿蘭若者……乞食者……著糞掃衣者……持三衣者……少欲……知足……遠離……無交……精勤而讚歎精進者。彼等如是為人，此長夜為彼等之利益與幸福。

八

「大德！我觀此等二義，長夜住阿蘭若，讚歎住阿蘭若，乞食者……著糞掃衣者……持三衣者……少欲……知足……遠

離……無交……精勤而讚歎精進。」

九

「善哉，善哉！迦葉！為眾多人之利益而行，為眾多人之幸福，為世間之哀憐，為人天之利益、幸福而行。」

一〇

「然則迦葉！汝可捨棄所執之粗布糞掃衣，行乞食、住於森林。」

第六 教誡（之一）

一

〔爾時，世尊〕住王舍城竹林。

二

爾時，尊者大迦葉來詣世尊之處……

三

對坐於一面之尊者大迦葉，世尊作如是曰：「迦葉！汝可教誡諸比丘。迦葉！汝可對諸比丘設說法語。迦葉！我或汝應對一切諸比丘教誡。我或汝應為說一切法語。」

四

「大德！今告諸比丘甚難，告諸彼等有難色，彼等不忍，所教不能率直執受。大德！我見此處與阿難共住之班達比丘及與阿那律共住之阿賓吉伽比丘，互為卓越之論議：『請來，比

丘！誰之所語較多耶？誰之所語較優耶？誰之所語較長耶？』」

五

爾時，世尊言告一比丘曰：「比丘，汝來！可告以我語：『師喚尊者等。』即向與阿難共住之班達比丘及與阿那律共住之阿賓吉伽比丘。」

六

「唯然！大德！」彼比丘奉答世尊，然後近至彼等諸比丘處。近已，告彼等諸比丘曰：「師喚尊者等。」

七

「友！唯然。」彼等答彼比丘，來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

八

對坐於一面之彼等諸比丘，世尊作如是言曰：「諸比丘！汝等相互論議卓越之事，為真實耶？『且來，比丘！誰之所語較多耶？誰之所語較優耶？誰之所語較長耶？』」

「大德！唯然。」

九

「諸比丘！我對汝等曾作如是說法：『諸比丘！汝等應論義相互卓越之事。』如何知說如是法？『且來，比丘！誰之所語較多耶？誰之所語較優耶？誰之所語較長耶？』」

「大德！是不然。」

一〇

「諸比丘！若知我未對汝等說如是之法者，何故汝等愚人、得知、得見，於如是善說之法、律下出家，相互：『且來，比丘！誰之所語較多耶？誰之所語較勝耶？誰之所語較長耶？』論議此卓越之事耶？」

一一

爾時彼等諸比丘，稽首世尊之足，白世尊言：

「大德！我等本為闇愚，本為癡愚，本為不善，罪制伏我等。我等於如是善說之法、律出家，相互：『來，比丘！誰之所語較多耶？誰之所語較勝耶？誰之所語較長耶？』論議此卓越之事。大德！我等已知其為罪，以後當再不犯，望世尊攝受。」

一二

「諸比丘！實汝等本為闇愚，本為癡愚，本為不善、罪制伏汝等。汝等如是，於善說之法、律出家，相互：『且來，比丘！誰之所語較多耶？誰之所語較勝耶？誰之所語較長耶？』論議此卓越之事。諸比丘！汝等已見其罪，且如法懺悔，我對汝等之懺悔攝受。」

一三

諸比丘！見罪為罪，如法懺悔，以後入於自制，乃於聖者之律有利益。」

第七 教誡（之二）

一

〔爾時，世尊〕住王舍城竹林。

二

爾時，尊者大迦葉，來詣世尊處……

三

對坐於一面之尊者大迦葉，世尊作如是曰：「迦葉！汝宜教誡諸比丘。迦葉！汝宜向諸比丘說示法語。迦葉！我或汝皆應教誡諸比丘。我或汝皆應法語說示。」

四

「大德！今甚難向諸比丘說示，彼等對所說有難色。彼等不忍，所教不能率直執受。」

五

大德！無論何人於善法不信，不知慚於善法，不知愧於善法，無精進於善法，無慧於善法者，則對彼夜或晝來，於善法唯有退沒不能增大。

六

大德！譬如月之黑分，夜或晝來，色減退，圓減退，光減退、廣袤減退。大德！同此，無論何人不信於善法，不知慚，不知愧。無精進，無慧於善法，對彼夜或晝來，於善法退沒，不能增大。

七

大德！不信之人為退轉。大德！不知慚之人為退轉。大德！不知愧之人為退轉。大德！懈怠之人為退轉。大德！惡慧之人為退轉……忿怒之人……大德！瞋恨之人為退轉。大德！不受教誡之比丘為退轉。

八

大德！無論何人有信於善法，知慚於善法，知愧於善法，有精進於善法，有慧於善法，則對彼夜或晝來，於善法增大，無退沒。

九

大德！譬如月之白分、夜或晝來，色增長，圓增長，光增長，廣袤增長。大德！同此，凡人於善法有信、……有慚……有愧，有精進，於善法有慧，則對彼夜或晝來，於善法增大，無退沒。

一〇

大德！有信之人為不退轉。大德！知慚之人為不退轉。大德！知愧之人為不退轉。大德！精勤之人為不退轉。大德！持慧之人為不退轉。大德！無忿之人為不退轉。大德！無恨之人為不退轉！大德！受教誡之比丘為不退轉。」

一一

「善哉，善哉！迦葉！迦葉！任何之人不信於善法……不知慚……不知愧，無精進，無慧於善法，則對彼夜或晝來，退沒於善法，無增大。

一二

迦葉！譬如於月之黑分，夜或晝來，色減退……廣袤減退。迦葉！同此，任何之人，不信於善法……不知慚，不知愧，無精進，無慧於善法，則對彼夜或晝來，於善法退沒，無增大。

一三

迦葉！不信之人為退轉。……不知慚……不知愧……懈怠、惡慧、忿恨之人，迦葉！此為退轉。迦葉！無教誡之比丘為退轉。

一四

迦葉！任何之人，有信於善法……知慚、知愧、有精進，有慧於善法，則對彼夜或晝來，增大於善法。

一五

迦葉！譬如如月之白分、夜或晝來，色增長、圓增長、光增長、廣袤增長，迦葉！同此，任何之人，有信於善法，知慚、知愧、有精進，有慧於善法，則對彼夜或晝來，增大於善法，無退沒。

一六

迦葉！有信之人為不退轉，知慚之人……知愧、精勤、持慧、無忿、無恨之人，迦葉！此為不退轉。迦葉！受教誡之比丘為不退轉。」

第八 教誡（之三）

一

〔爾時，世尊〕住王舍城竹林粟鼠飼養所。

二

爾時，尊者大迦葉，來詣世尊之處……

三

對坐於一面之尊者大迦葉，世尊如是曰：「迦葉！汝宜教誡諸比丘。迦葉！汝宜對諸比丘說示法語。迦葉！我或汝須教誡諸比丘。我或汝應說任何之法語。」

四

「大德！今對諸比丘說法甚難，彼等對所說有難色。彼等不忍，對所教不能率直執受。」

五

「然則迦葉！往昔有長老比丘住阿蘭若，讚歎住阿蘭若。為乞食者，讚歎乞食者。為著糞掃衣者，讚歎著糞掃衣者。為持三衣者，讚歎持三衣者。為少欲者，讚歎少欲者。為知足者，讚歎知足。為遠離者，讚歎遠離者。為無交往者，讚歎無交往。為精勤者，讚歎精進者。」

六

今有比丘，為住阿蘭若者，讚歎住阿蘭若者。為乞食者，讚歎乞食者。為著糞掃衣者，讚歎著糞掃衣者。為持三衣者，讚歎持三衣者。為少欲者，讚歎少欲者。為知足者，讚歎知足者。為遠離者，讚歎遠離者。為無交往者，讚歎無交往者。為

精勤者，讚歎精勤者。長老之諸比丘，對彼比丘以座相請：

『請來，比丘！此比丘何名？此比丘實為幸，此比丘實以學為欲。請來，比丘！請坐此座。』

七

迦葉！如今，年少之比丘，如是思惟：『實今有比丘，為住阿蘭若，讚歎住阿蘭若……為乞食者……為著糞掃衣者……為持三衣者……少欲……知足……遠離……無交往……精勤者讚歎精進。』長老之諸比丘，以座請彼比丘：『汝來，比丘！此比丘何名？此比丘實為幸，此比丘實欲學。請來，比丘！請坐此座。』令彼等入此狀況，乃為彼等長夜之利益與幸福。

八

迦葉！又，今有長老之諸比丘，住則非為阿蘭若，對住阿蘭若不讚歎。非乞食者，不讚歎乞食者。非著糞掃衣，不讚歎著糞掃衣者，非持三衣者，不讚歎持三衣者，非少欲，不讚歎少欲者。非知足，不讚歎知足者。非無交往，不讚歎無交往者。非精進，不讚歎精進者。

九

今有著名而有譽、得衣、鉢食、牀座、治病必要之藥、資具之比丘。長老之諸比丘，請彼比丘就座：『且來，比丘！此比丘何名？此比丘為幸，欲與此比丘為同學者。且來，比丘！請就此座。』

一〇

迦葉！年少之比丘，如是思惟：『彼比丘，實為著名而有譽、得衣、鉢食、牀座、治病必要之藥、資具者。』長老於諸

比丘，請彼比丘：『且來，比丘！此比丘名云何？此比丘實為幸，實欲與此比丘為同學。且來，比丘！請就此座。』令彼等人如是狀況，乃長夜彼等之不利與苦。

迦葉！若人謂正梵行者，因梵行之弊所惱，梵行者因梵行之壓迫所壓抑者，迦葉！此乃謂正梵行者，因梵行之弊所惱，梵行者因梵行之壓迫所壓抑。」

第九 定與勝智

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

〔爾時，世尊曰：〕

「諸比丘！我由欲，離欲、離不善法，有覺有觀，而依遠離生喜與樂之禪而住。」「諸比丘！迦葉亦由欲，離欲、離不善法、有覺有觀，入住而依遠離生喜與樂之初禪而住。

三

諸比丘！隨我欲，而靜覺與觀，內心寂靜，使心專注於一境。無覺無觀，入於依定所生之喜與樂之第二禪而住。

諸比丘！迦葉亦由欲，靜覺與觀……入於二禪而住。

四

諸比丘！隨我欲，而離喜成捨，住於正念正心，一身感受樂於：『賢聖之所謂捨，而正念者住於樂』而入於第三禪住。

諸比丘！迦葉亦隨欲，而離喜成捨……入而於第三禪住。

五

諸比丘！隨我欲而捨樂、捨苦，滅前之悅與憂，入住於不苦不樂，捨念清淨之第四禪。

諸比丘！迦葉亦隨欲，捨棄……入於第四禪住。

六

諸比丘！隨我欲，超越一切之色想，終盡障礙之想，不思惟變異之想，入住於所謂『空無邊際』之空無邊處。

諸比丘！迦葉亦隨欲，超越一切色想……入住於空無邊處。

七

諸比丘！隨我欲，超越一切之空無邊處，入住於所謂『識無邊際』之識無邊處。諸比丘！迦葉亦隨欲……入住於識無邊處。

八

諸比丘，隨我欲，超越一切之識無邊處，入住於所謂『無所有』之無所有處。

諸比丘！迦葉亦隨欲……入住於無所有處。

九

諸比丘！隨我欲，超越一切之無所有處，入住於非想非非想處。

諸比丘！迦葉亦隨欲……入住於非想非非想處。

一〇

諸比丘！我由欲，超越一切之非想非非想處，入住於想受滅。

諸比丘！迦葉亦……入住於想受滅。

一一

諸比丘！隨我欲，證得種種之神通。即以身成多身，以多身成一身，或現、或沒、通牆、透壁、無有障礙。穿山恰如行於空中。出沒大地恰如行於水中。涉水不沈，恰如行於地上。於虛空趺坐、經行，恰如有翼之鳥。彼有大神力，有大威德，善能以手觸摸、把握日月，以身可到達梵界。

諸比丘！迦葉亦隨欲，證得種種之神通……以身到達梵界。

一二

諸比丘！隨我欲，以清淨超人之天耳界，得聞人天兩界及遠近雙方之聲音。

諸比丘！迦葉亦隨欲，以清淨……天耳界……得聞遠近雙方之聲音。

一三

諸比丘！我從欲，以自心，徹知其他眾生與其他人之心。如次得知：對有貪心者，知有貪心。對離貪心知離貪心。對有恚心者……對離恚心者……對有癡心者……對離癡心者……對集注心者……對散亂心者……對廣大心者……對非廣大心者……對有上心者……對無上心者……對定心者……對無定心者……對解脫心者……對不解脫心者，知不解脫心。

諸比丘！迦葉亦隨欲，以自心對其他眾生與其他人之心，如次知之：對有貪心者，知有貪心……對不解脫心者知不解脫心。

一四

諸比丘！隨我欲，憶念宿世之種種住處。憶念如一生、二生、三生、四生、五生、十生、二十生、三十生、四十生、五十生、百生、千生、十萬生、種種之成劫、種種之壞劫、種種之成壞劫。憶念：『於彼處為如是名、如是姓、如是容貌、如是食、經受如是苦樂，有如是壽量。彼由其處沒生他處，於其處如是名、如是姓、如是貌、如是食、經受如是苦樂、有如是壽量。彼由其處沒、來生於此處。』具如是形相與方處，種種宿世之住處。

諸比丘！迦葉亦隨欲，憶念種種宿世之住處。如憶念一生……具如是形相與方處，種種之宿世與住處。

一五

諸比丘！隨我欲，以清淨而超越人間之天眼，觀察眾生，見眾生之死而又生，應眾生所為之業，知有卑與貴、美與醜，幸與不幸，即：『諸賢！此等之眾生，身具惡行、語具惡行、意具惡行、謗賢聖、懷邪見，執持邪見業。彼等身壞命終後，

生於苦處、惡趣、無樂處、地獄。諸賢！此等之眾生，身具善行、語具善行、意具善行，不謗賢聖，不壞正見，執持正見業，彼等身壞命終後，生於善趣、天界。』以如是清淨而超越人間之天眼觀察眾生，見眾生之死，而又生，知眾生應業而有賤與貴、美與醜、幸與不幸。

諸比丘！迦葉亦隨欲，以清淨而超越人間之天眼觀察眾生……應業……知幸與不幸。

一六

諸比丘！我已漏盡，對無漏心、解脫、慧解脫、於現法自知，入住於實證。

諸比丘！迦葉亦漏盡，對無漏心、解脫、慧解脫、於現法自知，實證而入住。」

第十 止住處

一

如是我聞。一時，尊者迦葉住舍衛城祇樹給孤獨園。

一

二

爾時，尊者阿難！清晨著衣、持鉢，詣尊者大迦葉之處。

三

詣已，向尊者大迦葉作是言曰：「大德迦葉！今我等往詣某比丘尼之止住處。」

「友！阿難！汝可往，汝應多作，多有所為。」

四

尊者阿難，再度白尊者大迦葉曰：「大德迦葉！今我等往詣某比丘尼之止住處。」

「友，阿難！汝可往，汝應多作，多有所為。」

五

尊者阿難！三度白尊者大迦葉曰：「大德迦葉！今我等往詣某比丘尼之止住處。」

六

如是尊者大迦葉，清晨著衣，持鉢，隨尊者阿難之後，往詣某比丘尼之止住處。詣已，就所設之座。

二

七

爾時，眾多之比丘尼，來詣尊者大迦葉之前。詣已，禮敬尊者大迦葉，坐於一面。

八

對坐於一面之彼等比丘尼，尊者大迦葉以法語而教示、鼓勵，使彼等歡喜。

九

尊者大迦葉，對彼等比丘尼，以法語教示、鼓勵、使之歡喜，即起座而去。

一〇

爾時，偷羅低舍比丘尼不喜，發出不喜之語：「如何？尊者大迦葉於鞞提訶聖者之尊者阿難面前，思惟欲說法耶？恰如針商人於針師之前思惟欲賣針，尊者大迦葉，於鞞提訶聖者之尊者阿難面前，思惟欲說法耶？」

一一

尊者大迦葉聞得偷羅低舍比丘尼所作之此語。

三

一二

爾時尊者大迦葉，如是言尊者阿難曰：「友，阿難！我為針商人，汝為針師耶？或我為針師，汝為針商人耶？如何？」

「大德迦葉！請當忍耐。女人乃愚者。」

一三

「友，阿難！汝來，僧伽不得如上追究汝。」

友，阿難！汝對此作如何思惟耶？

一四

汝亦依世尊，齎身親近比丘僧伽耶？如何？——『諸比丘！隨我欲，離欲、離不善法，有覺有觀，而由遠離生喜與樂

入住於初禪。諸比丘！阿難亦隨欲、離欲、離不善法，有覺有觀，而由遠離生喜與樂入住於初禪。』」

「大德！無此事。」

一五

「友！我依世尊，齎身親近比丘僧伽。『諸比丘！隨我欲、離欲，離不善法、有覺有觀，而由遠離生喜與樂住於初禪。諸比丘！迦葉亦隨欲、離欲，離不善法……入住於初禪。』」

一六～二九

九次第定及五通之略說，亦復如是。

三〇

「友，阿難！汝對此作如何思惟？汝亦依世尊，齎身親近比丘僧伽耶？『諸比丘！我已漏盡、無漏心解脫、慧解脫，於現法住於自知，實證。諸比丘！阿難亦漏盡無漏，對心解脫、慧解脫，於現法住於自知，實證。』」

「大德！無此事。」

三一

「友，我依世尊齎身親近之比丘僧伽：『諸比丘！我已漏盡、無漏、心解脫、慧解脫，於現法住於自知，實證。諸比丘！迦葉亦漏盡無漏，心解脫、慧解脫，於現法住於自知，實證。』」

三二

「友！今如有人，思惟以多羅樹之一葉，可掩得高七肘或七肘半之象，然彼得思惟能掩我之六通耶？」

四

三三

然則，偷羅低舍比丘尼終由梵行退沒矣。

第十一 衣

一

一時，尊者大迦葉，住王舍城之竹林栗鼠養餌所。

一

二

爾時，尊者阿難與眾多比丘等共遊於南山。

三

時，尊者阿難有約三十之同住比丘，捨學還俗完全唯是童子。

二

四

尊者阿難，隨欲遊方於南山，近至王舍城竹林栗鼠養餌所之大迦葉之前，近至已，禮敬尊者大迦葉，坐於一面。

五

大迦葉言坐於一面之尊者阿難曰：「友，阿難！對世尊之在俗所施設之三食，有幾何福利耶？」

六

「大德迦葉！對世尊之在俗施設之食，有三種福利。為制惡戒之比丘，為使敬虔之比丘住於安樂，為使惡欲之徒黨不破僧伽，不惱在俗。大德迦葉！此等三種福利，為世尊對在俗所施設之三食福利。」

七

「友，阿難！如何汝與於諸根不守護，於食無節制，於夜坐不虔誠之此等年少比丘，相共遊方耶？想來，汝是踐踏穀物之徘徊者。想來，汝為害良家之徘徊者。友，阿難！汝之徒眾被破壞，友！汝之年少徒眾被消滅。此年少之童子不知量。」

八

「大德迦葉！我頭髮亦呈灰白矣。然今日我等仍為尊者大迦葉，尚未除卻童子之語。」

九

「友，阿難！如何汝與於諸根不守護、於食不節制、於夜坐不虔誠之此等年少比丘，相共遊方耶？想來，汝為踐踏穀物而徘徊者。想來，汝為害良家之徘徊者。友，阿難！汝之徒眾被破壞。友！汝之年少徒眾被消滅。此年少之童子不知量。」

三

一〇

偷羅難陀比丘尼聞尊者大迦葉，對鞞提訶聖者之尊者阿難，以童子之語予以責咎。

一一

時偷羅難陀比丘尼不喜而出不喜之語：「如何，曾為異學之尊者大迦葉，對鞞提訶聖者之尊者阿難，思惟欲以童子語責咎耶？」

一二

尊者大迦葉，聞偷羅難陀比丘尼所作之此語。

一三

爾時，尊者大迦葉，對尊者阿難作如是言曰：「友！阿難！偷羅難陀比丘尼是作無謀、無思慮之語。友！我剃髮，著袈裟衣，由在家出家而為無家，除世尊、應供、正等覺者外，不認其他之師。

一四

友！我曾於在俗時，生此念：『在俗之生活障多，亦為塵垢之道。出家則如露天；住家欲能令定而成一向圓滿，行一向清淨之梵行，則甚難。我寧剃髮著袈裟衣，由家出家而為無家。』

一五

友，我於〔今〕後將衣截斷為僧伽梨，從世間阿羅漢之列、剃髮、著袈裟衣，由在家出家而為無家。

一六

如是則出家，行半途，於王舍城與那羅（聚落）中間，謁見坐於多子廟之世尊。謁見已，我作此念：『實欲我所謁見之師，則只僅所見之世尊。實欲我所謁見善逝，只僅所見之世尊。實欲我所謁見之正等覺，只僅所見之世尊。』

一七

友！我稽首世尊之足，向世尊白是言：『大德！世尊為我之師，我為世尊之弟子。』

一八

友，如是白已。世尊對我作是言：『迦葉！如是心具足而不知一切，即謂「我知」，不見而謂「我見」，如是之弟子，彼之頭將破裂。迦葉！我對知而謂「我知」，對見而謂「我見」。

一九

迦葉！然則汝應如是學：「先對長老、年少、中老、以住大慚愧。」迦葉！汝應如是學。

二〇

迦葉！汝應如是學：「我之欲聞，基於任何善法，一切皆以其義饒益、思惟。皆以心屢屢思考，以傾耳聞法。」迦葉！汝應如是學。

二一

迦葉！汝應如是學：「當於我身，伴喜之念，為不可捨。」迦葉！汝應如是學。』

二二

友！彼時，世尊對我作此等之教誡後，由座起立而去。

二三

友，我七日之間有漏，食依信所施與之食，於第八日，證得智。

二四

友！時世尊，由路中來至一大樹下。

二五

友！時我以衣服之僧伽梨，疊為四疊設座，白世尊曰：
『大德世尊！為我長夜之利益幸福，請坐於此處。』

二六

友！世尊坐所設之座。

二七

友！世尊落座而對我作是言曰：『迦葉！此衣服僧伽梨甚為柔軟。』

『大德世尊！為哀憐，請納受我之衣服僧伽梨。』

二八

『迦葉！汝受我所著用之粗布糞掃衣耶？』

『大德世尊！我願受世尊所著用之粗布糞掃衣。』

二九

友！如是我以柔軟之僧伽梨，奉獻世尊，我亦受用世尊所著用之粗布糞掃衣。

三〇

友！若欲正為世尊之子、嗣子，由世尊之口生、由法生、法之化生、法之相續者，謂受用世尊所著用之粗布糞掃衣者，則我正為世尊之子、嗣子，由世尊之口生、由法生、法之化生、法之相續者，謂受用世尊所著用之粗布糞掃衣者。

三一

友！隨我欲而離欲、離不善法、有覺有觀，而由遠離生喜與樂而入住於初禪。

三二～四六

友！隨我欲而……九次第定，五通之解說亦復如是。

四七

友！我已漏盡，無漏、心解脫、慧解脫，於現法住於自知、實證。

四八

友！今如果有人，欲以多羅之一葉，思惟可掩得高七肘或七肘半之象，然則，彼得思惟能掩得我之六通耶？」

四

四九

然則，偷羅難陀比丘尼將退沒梵行。

第十二 死後

一

爾時，尊者大迦葉與尊者舍利弗住於波羅奈之仙人墮處鹿野苑。

二

爾時，尊者舍利弗，暮時由宴坐起，走近尊者大迦葉……禮而坐於一面。

三

坐於一面之尊者舍利弗，向尊者大迦葉作如是言曰：「友迦葉！如來死後，是存在者耶？如何？」

「友！如來死後是存在者，世尊不說。」

四

「友！如來死後，為非存在者耶？如何？」

「友！如是，如來死後，為非存在者，世尊亦不說。」

五

「友！如來死後，為存在、非存在者耶？如何？」

「友！如是，如來死後，為存在、非存在者，世尊亦不說。」

六

「友！如來死後，為非存在、非不存在耶？如何？」

「友！如是，如來死後，為非存在、非不存在，世尊亦不說。」

七

「友！世尊何故不說此事耶？」

「友！此事亦非自己之利益、亦非為梵行，亦非為厭離，亦非為離貪，亦非為滅、為寂靜、為勝智、為菩提、為到達涅槃，故世尊不說於此。」

八

「友！然則世尊所說為何耶？」

「友！世尊說『此是苦。』世尊說：『此為苦之集。』世尊說：『此為苦之滅。』世尊說：『此為趣苦滅之道。』」

九

「友！何故？世尊說此耶？」

「友，此事乃自己之利益，是為梵行，為厭離、為離貪、為滅、為寂靜、為勝智、為菩提、為涅槃故，世尊乃說此。」

第十三 像法

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，尊者大迦葉，來詣世尊之處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

坐於一面之尊者大迦葉，白世尊言：「大德！依如何之因、如何之緣，於前，學者則少，而多數比丘，得立智耶？大德！又依如何因、如何緣，於今，學者則多，而少數比丘少得立智耶？」

四

「迦葉！此為如是：眾生衰，正法將滅之時，學者則多，少數比丘得立智。

五

迦葉！只要正法之未滅，像法之世則不生，迦葉！像法之世生時，則有正法之滅。

六

迦葉！譬如只要金之不滅、則偽金之世不生，迦葉！偽金之世生時，乃有金之滅。

七

迦葉！同此只要，正法之未滅，則像法之世不生。迦葉！
像法之世生時，則有正法之滅。

八～一一

迦葉！地界不能令正法滅。水界不能令正法滅……火
界……風界不能令正法滅。

一二

於是，彼等愚人之生時，能令此正法滅。

一三

迦葉！譬如船之先沈。迦葉！如是正法不應有滅。

一四

迦葉！有此等五正法之混亂，有滅之退法。五者何耶？

一五

迦葉！於此有比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷等，不尊重
師、住不隨順，不尊重法、住不隨順，不尊重僧伽、住不隨
順，不尊重學、住不隨順，不尊重定、住不隨順。

迦葉！此等之五退法，為正法之混亂與滅。

一六

迦葉！此等之五退法，為正法之確立、不混亂、不滅者。
五者何耶？

一七

迦葉！於此有比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷等，尊重
師、住隨順，尊重法、住隨順，尊重僧伽、住隨順，尊重學、
住隨順，尊重定、住隨順。

一八

迦葉！此等之五法，為正法之確立，不混亂、不滅。」

此頌曰：

滿足與無愧	月喻入在俗
老與三教誠	言定與勝智
止住處與衣	死後與像法

第六 利得與供養相應

第一 誠品

〔一〕第一 可怖

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，世尊言諸比丘……

世尊如是言曰：

三

「諸比丘！利得、供養、名譽，甚可怖、激烈、粗暴，為到達無上安穩之障礙。

四

諸比丘！然則，應如是學：『我應捨既生之利得、供養、名譽，於未生之利得、供養、名譽、不執於心而住。』

五

諸比丘！汝等應如是學。」

〔二〕第二 鉤針

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養、名譽甚可怖，激烈、粗暴者，為到達無上安穩之障礙。

三

諸比丘！譬如漁師，以肉為餌之鉤針，投入深水沼中，鵜見之為一魚，而將其吞下。諸比丘！如是鵜吞彼漁師鉤針之魚，陷於禍、陷於災厄，而漁師達其所欲。

四

諸比丘！漁師之意者乃此惡魔波旬。諸比丘！鉤針之意者，乃此利得、供養與名譽。

五

諸比丘！任何比丘，對既生之利得、供養與名譽，不捨而望求者。諸比丘！此比丘乃鵜吞惡魔之鉤針者，陷於禍，陷於災厄，達波旬之所欲。

六

諸比丘！然如見，利得、供養與名譽，甚可怖、激烈、粗暴者，為到達無上安穩之障礙。

七

諸比丘！然則，應如是學：『我對既生之利得、供養、名譽、為應捨，對未生之利得、供養、名譽、不執於心而住。』

八

諸比丘！汝等應如是學。」

〔三〕第三 龜

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽甚可怖……障礙。

三

諸比丘！往昔沼中，龜，亦為其大家族之所永棲處。

四

諸比丘！爾時，一龜向他龜作如是言曰：『愛龜！勿往彼處。』

五

諸比丘！然而彼龜卻仍至其處，則被獵師以繩索所附之魚叉所射。

六

諸比丘！爾時，彼龜則走近他龜。

七

諸比丘！彼龜見其龜由遠處來。見已，對其龜作如是言
曰：『愛龜！汝何故去至其處耶？』『愛龜！我至其處矣。』

八

『愛龜！何故未被刺射，未被射中耶？』

『愛龜！我未被刺射，未被射中。但然我身有繩索，乃由
後方所結附者。』

九

『愛龜！然確被刺，確被射中。愛龜！因於此獵師，汝父
與祖父皆陷於禍，陷於災厄者。愛龜！汝今可往矣，汝今非屬
我等者矣。』

一〇

諸比丘！獵師寓意此惡魔波旬。諸比丘！附於繩索系之魚
叉，既意示此利得、供養與名譽。系繩索意為喜貪。

一一

諸比丘！任何之比丘，對既生之利得、供養與名譽不捨而
願望者。諸比丘！此比丘將為獵師附於繩索之魚叉、陷於禍、
陷於災厄、達波旬之所欲。

一二

諸比丘！利得、供養與名譽甚為可怖……

一三

諸比丘！汝等應如學。」

〔四〕第四 長毛

一

爾時，世尊住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽其可怖……障礙。

三

諸比丘！譬如有長毛之牡羊，將走入有刺之藪中。彼觸及此處與彼處，扭著於此處彼處，被縛於此處彼處，陷禍與災厄於此處彼處。

四

諸比丘！同此，此處有一比丘，因敗於利得、供養與名譽，心為所眩惑，清晨著衣、持鉢、為托鉢入村或街，彼比丘，觸於此處彼處，扭著於此處彼處，被縛於此處彼處，陷禍與災厄於此處彼處。

五

諸比丘！然如是之利得、供養與名譽甚為可怖……

六

諸比丘！汝等應如是學。」

〔五〕第五 糞蟲

一

〔爾時世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽甚是可怖……障礙。

三

諸比丘！譬如糞蟲，食糞、充塞於糞、為糞所埋，於彼之前有糞堆。

四

彼因此：『我為食糞者，充塞於糞、為糞所埋，於我之前有此大糞堆。』以他之糞蟲為賤。

五

諸比丘！同此，此處有一比丘，因敗於利得、供養與名譽，心為所眩惑。清晨著衣、持鉢，入村或街，彼食於其處，為翌日之請，欲充滿彼鉢。

六

彼行往園中，於比丘眾中告曰：『我之食，為明日之請，充滿我鉢，我得衣、鉢食與牀座，及病所需之藥物、資具。然此等他之諸比丘，因功德少、力少、不得衣鉢食、牀座、病所需之藥物、資具。』

七

彼敗於利得、供養與名譽，心生眩惑，對他之優秀比丘生賤視。諸比丘！實長夜之不利與苦，乃在於彼愚人。

八

諸比丘！如是之利得、供養與名譽甚是可怖……

九

汝等比丘！應當如是學。」

〔六〕第六 雷電

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……是障礙。

三

諸比丘！落雷與尚未達心，利得、供養與名譽，未完成之有學者如何耶？

四

諸比丘！落雷者，即意為利得、供養與名譽。

五

諸比丘！如是之利得、供養與名譽，甚為可怖……

六

諸比丘！汝等應如是學。」

〔七〕第七 含毒

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……是障礙。

三

諸比丘！以含毒之刺貫穿者，尚未達心，利得、供養與名譽，未完成者如何耶？

四

諸比丘！刺者意即為利得、供養與名譽。

五

諸比丘！如是之利得、供養與名譽，甚為可怖……

六

諸比丘！汝等應如是學。」

〔八〕第八 豺

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……是障礙。

三

諸比丘！汝等於深夜聞豺之鳴呼叫耶？」

「大德！唯然。」

四

「諸比丘！有一為疥瘡疾病所惱之老豺，彼不樂行於空閑，不樂行於樹下，不樂行於露地，於行處、住處、坐處、臥處、皆陷於苦惱。

五

諸比丘！同此，有一比丘，因敗於利得、供養與名譽，心為所眩惑。彼不樂行至空閑，不樂行至樹下，不樂行至露地。彼比丘於行處、住處、坐處、臥處，皆陷苦惱。

六

諸比丘！如是之利得、供養與名譽，甚為可怖……

七

諸比丘！汝等如是學。」

〔九〕第九 毘嵐風

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……是障礙。

三

諸比丘！於上空有名毘嵐之風吹。若鳥飛趣其處，此毘嵐風則將彼鳥吹起，使腳、翼、頭、身，吹散於諸方。

四

諸比丘！同此，此處有一比丘，因敗於利得、供養與名譽，心為所眩惑。清晨著衣、持鉢、為托鉢入村或街，彼不守身、不守語、不守心、不住正念，對諸根不能制御。

五

彼於其處，見輕率著衣、或掩惡之女，見此輕率著衣，或掩惡之女，心為貪所襲，彼之心因為貪所襲，而捨學還俗，運衣、運鉢、運牀座、運清淨之家，如鳥之被毘嵐風所吹起。

六

諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

七

諸比丘！汝等應如是學。」

〔一〇〕第十 偈頌經

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……是障礙。

三

諸比丘！我見此處有一比丘，因敗於供養，心為所眩惑。
身壞命終後，生於苦處、惡趣、無樂處、地獄。

四

諸比丘！我又見此處有一比丘，因敗於不供養、心為所眩惑，身壞命終後，生於苦處、惡趣、無樂處、地獄。

五

諸比丘！我又見此處有一比丘，因敗於供養與不供養此等之二者，心為所眩惑，身壞命終之後，生於苦處、惡趣、無樂處、地獄。

六

諸比丘！如是之利得、供養與名譽，甚為可怖……

七

諸比丘！汝等應如是學。」

八

世尊如是說已，善逝仰此，師更言：

（一）受供養之時
不受供養時
二者不擾定
（二）精勤入定者
始得觀妙見
樂於取滅者
始得謂善人

此頌曰：

可怖與鉤針 龜長毛糞蟲
雷電與含毒 豺與毘嵐風

第二 誠鉢品

〔一一〕第一 鉢（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！於此，我知如是：『以我之心，把握某人之
心。』此尊者為欲得充入白銀粉之黃金鉢，正心不說妄語。

四

其後，我見此人因敗於利得、供養與名譽，心為所眩惑，
正心而說妄語。

五

諸比丘！如是之利得、供養與名譽，甚為可怖……

六

諸比丘！汝等應如是學。」

〔一二〕第二 鉢（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！我知如是：『以我之心，把握某人之心。』此尊者為欲得充滿黃金粉之白銀鉢，正心不說妄語。

四

其後，我見此人因敗於利得、供養與名譽，心為所眩惑，正心而說妄語。

五

諸比丘！如是之利得、供養與名譽，甚為可怖……

六

諸比丘！汝等應如是學。」

〔一三～二〇〕第三～第十 金環——地方之美人

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！於此，我知如是：『以我之心，把握某人之
心。』此尊者甚……

〔一三〕第三

為欲得黃金之環……

〔一四〕第四

為欲得上百之黃金環……

〔一五〕第五

為欲得自然金之環……

〔一六〕第六

為欲得上百之自然金之環……

〔一七〕第七

為欲得充滿黃金之地……

〔一八〕第八

為欲得些細利益……

〔一九〕第九

為欲得命……

〔二〇〕第十

為欲得地方之美人、正心不說妄語……

三

其後，我見此人因敗於利得、供養與名譽，心為所眩惑，
正心而說妄語。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

五

諸比丘！汝等應如是學。」

此頌曰：

二鉢二黃金 自然金亦二
地與些細利 命與地美人

第三 度量品

〔二一〕第一 女

一

爾時，世尊住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！對利得、供養與名譽，住於心眩惑者，勿住於女人使心為所眩惑。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

五

諸比丘！汝等應如是學。」

〔二二〕第二 美人

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！對利得、供養與名譽、心為所眩惑者，勿住於田舍美人，使心為所眩惑。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

五

諸比丘！汝等應如是學。」

〔二三〕第三 子

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！有一信仰之優婆夷對己所慈愛之子，如是正告之曰：『愛兒！汝應如質多家主，或如阿羅婆迦之哈達伽伽家主。』

四

諸比丘！此質多家主，與阿羅婆迦之哈達伽家主，乃我弟子優婆塞中之度、量。

五

『愛兒！汝若由在家出家而為無家，應如舍利弗與目犍連。』

六

諸比丘！此舍利弗與目犍連，乃我弟子中之度、量。

七

『愛兒！汝宜熱心誠學，不令達於利得供、與名譽，為彼之所障礙。』

八

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

九

諸比丘！汝等應如是學。」

〔二四〕第四 一女

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！有一具信仰之優婆夷，對己所慈愛之女，如是正告曰：『汝應如拘譽多羅優婆夷，與難陀之母衛盧康達伽優婆夷。』

四

諸比丘！拘譽多羅優婆夷、與難陀之母衛盧康達伽，乃我弟子優婆夷中之度、量。

五

『汝若由在家出家而為無家，應如識摩比丘尼，蓮華色比丘尼。』

六

諸比丘！此識摩比丘尼與蓮華色〔比丘尼，〕乃我弟子比丘尼中之度、量。

七

『汝對誠於學，對利得、供養與名譽勿達令有也。』

八

諸比丘！若比丘尼熱誠於學，得達於利得、供養與名譽，則為彼女之障礙。

九

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

一〇

諸比丘！汝等應如是學。」

〔二五〕第五 沙門婆羅門（之一）

一

〔爾時世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！任何之沙門婆羅門，對利得、供養與名譽之味與禍乃至出離，不能如實知之者……應如是學。」

三

……「應知：『當住於自知、實證。』」

〔二六〕第六 沙門婆羅門（之二）

一

爾時，世尊住舍衛城……

二

「諸比丘！任何之沙門婆羅門，對利得、供養與名譽之集、滅、味、禍、出離，不能如實知者……應如是學。」

三

諸比丘！任何之沙門、婆羅門，對利得、供養與名譽之集、滅、味、禍、出離，如實知者，為住於自知、實證。」

〔二七〕第七 沙門婆羅門（之三）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！任何之沙門婆羅門，不知利得、供養與名譽之集，不知利得、供養與名譽之滅，知趣利得、供養與名譽滅之道者……應如是學。」

三

……應知：『為住於自知、實證。』」

〔二八〕第八 皮

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！利得、供養與名譽，為割截皮膚，割截皮膚已，割截皮膜，割截皮膜已，割截肉，割截肉已，割截腱，割截腱已，割截骨，割截骨已，徹至骨髓而住。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

五

諸比丘！汝等應如是學。」

〔二九〕第九 紐

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚是可怖……

三

諸比丘！利得、供養與名譽，為割截皮膚，割截皮膚已，割截皮膜，割截皮膜已，割截肉，割截肉已，割截腱，割截腱已，割截骨，割截骨已，徹骨至髓而住。

四

諸比丘！譬如力強之人，以強馬之毛紐、捲束而摩擦脚部，將截其皮膚，即截擦真皮膚，亦將截摩其皮膜，即截擦其皮膜，亦將截擦肉，即截擦其肉，亦將截擦腱，即截擦其腱將截擦其骨，即截擦其骨將徹至骨髓而住。

五

諸比丘！同此，利得、供養與名譽，為截擦皮膚，截擦皮膚已，截擦皮膜，截擦皮膜已，截擦肉，截擦肉已，截擦腱，截擦腱已，截擦骨，截擦骨已，徹至骨髓而住。

六

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

七

諸比丘！汝等應如是學。」

〔三〇〕第十 比丘

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！我謂：雖是阿羅漢、漏盡者之比丘，而利得、供養與名譽，仍為其障礙。」

三

如是說已，尊者阿難白世尊言：「大德！如何漏盡之比丘亦以利得、供養與名譽，為障礙耶？」

四

「阿難！我對不動心解脫者，不謂利得、供養與名譽，為障礙。」

五

阿難！然不放逸、熱誠、住於專注，已達現法樂住者，謂利得、供養與名譽，為障礙。」

六

阿難！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖、激烈、粗暴，是為到達無上安穩涅槃之障礙。」

七

阿難！然則應如是學：「我等應捨已生之利得、供養與名譽，未生之利得、供養與名譽，則心將不住於眩惑。」

八

阿難！汝等應如是學之。」

此頌曰：

女人與美人 一子與一女
沙門婆羅門 皮膚紐比丘

第四 妄語品

〔三一〕第一 割截

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！敗於利得、供養與名譽，心為所眩惑之提婆達多，破壞僧伽。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

五

諸比丘！汝等應如是學。」

〔三二〕第二 根

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！為利得、供養與名譽所敗，心為所眩惑之提婆達多，乃至善根斷滅。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

五

諸比丘！汝等應如是學。」

〔三三〕第三 法

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！為利得、供養與名譽所敗，心為所眩惑之提婆達多，乃至善法斷滅。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

五

諸比丘！汝等應如是學。」

〔三四〕第四 白

一

爾時，世尊住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖……

三

諸比丘！為利得、供養與名譽所敗，心為所眩惑之提婆達多，乃至白法斷滅。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

五

諸比丘！汝等應如是學。」

〔三五〕第五 離去

一

爾時，世尊於王舍城耆闍崛山，提婆達多離去後不久，而進住。

二

爾時，世尊有關提婆達多事，告諸比丘曰：

三

「諸比丘！為己之破滅，提婆達多生起利得、供養與名譽，提婆達多因生起利得、供養與名譽而凋落。」

四

諸比丘！譬如芭蕉，生果實，而為己之破滅，生果實，為己之凋落。諸比丘！為己之破滅，提婆達多生起利得、供養與名譽；提婆達多因生起利得、供養與名譽而凋落。

五

諸比丘！譬如為竹，生果實，為己之破滅，生果實，而為己之凋落。諸比丘！為己之破滅，提婆達多生起利得、供養與名譽；提婆達多因生起利得、供養與名譽而凋落。

六

諸比丘！譬如草，生果實，而為己之破滅，生果實，而為己之凋落。諸比丘！為己之破滅，提婆達多生起利得、供養與名譽；提婆達多因生起利得、供養與名譽而凋落。

七

諸比丘！譬如牝驢，受胎，而為己之破滅，受胎，而為己之凋落。諸比丘！為己之破滅，提婆達多生起利得、供養與名譽；提婆達多因生起利得、供養與名譽，而凋落。

八

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

九

諸比丘！汝等應如是學。」

一〇

世尊如是說已，善逝仰此，師更說曰：

芭蕉為果滅
竹葦為果亡
牝驢受胎死
惡人為利歿

〔三六〕第六 車

一

爾時，世尊住王舍城竹林栗鼠養餌所。

二

爾時，阿闍世王子為提婆達多，朝夕率五百車前往，載齎五百之祭食，與供養之食。

三

時，眾多比丘來詣世尊之處，詣已，禮敬世尊，坐於一面。

四

坐於一面之彼等諸比丘白世尊言：「大德！阿闍世王子為提婆達多，朝夕率五百車載齎五百之祭食及供養之食。」

五

「諸比丘！勿嫉提婆達多之利得、供養與名譽。諸比丘！阿闍世王子為提婆達多，朝夕率五百車，載齎五百之祭食，與供養之食，諸比丘！此乃為提婆達多所設，以待其破滅，於善法並無增大。

六

諸比丘！譬如擊弄易怒之犬鼻，則彼犬更為忿怒。諸比丘！阿闍世王子為提婆達多，朝夕率五百車，運齎五百之祭食，與供養之食。諸比丘！此乃為提婆達多所設，以待其破滅，於善法並無所增大。

七

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖……

八

諸比丘！汝等應如是學。」

〔三七〕第七 母

一

爾時，世尊住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖，是激烈而粗暴者，乃無上安穩之障礙。

三

諸比丘！於此，如是我知：『以我之心，把握他人之心。』

此尊者，為母而正心，不說妄語。其後，我見彼為利得、供養與名譽所敗，心為所眩惑，於正心而說妄語。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖，是激烈而粗野者，乃無上安穩之障礙。

五

諸比丘！然則應如是學：『我等已生之利得、供養與名譽應捨。未生之利得、供養與名譽，心不住於眩惑。』

六

諸比丘！汝等應如是學。」

〔三八～四三〕第八 父、第九 兄弟、第十 姊妹、
第十一 子、第十二 女、第十三 妻

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「諸比丘！利得、供養與名譽，甚為可怖是激烈、粗暴者，乃無上安穩之障礙。

三

諸比丘！於此我如是知：『以我之心，把握某人之心。』
此尊者

〔三八〕

為父……

〔三九〕

為兄弟……

〔四〇〕

為姊妹……

〔四一〕

為子……

〔四二〕

為女……

〔四三〕

為妻，於正心不說妄語。其後，我見此人為利得、供養與名譽所敗，心為所眩惑，於正心而說妄語。

四

諸比丘！如是，利得、供養與名譽，甚為可怖，是激烈、粗暴者，乃無上安穩之障礙。

五

諸比丘！誠然，汝等應如是學：『我等於已生之利得應捨、供養與名譽，對未生之利得、供養與名譽心當不住於眩惑也。』

六

諸比丘！汝等應如是學之。」

此頌曰：

截根法與白 離去車與母
父兄弟姊妹 以及子女妻

第七 羅睺羅相應

第一 界品

〔一〕第一 眼

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，尊者羅睺羅來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

坐於一面之羅睺羅白世尊言：「善哉，大德！請世尊為我說法，我願奉聞，退居一處、不放逸，熱誠專注而住。」

四

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？眼是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

認為「無常而苦，是變易之法、並以『此是我所有』，『此即是我』，『此我之我』是適當耶？」

「大德！不然。」

略予當如是解說之：

五

「耳是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

六

「鼻是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

七

「舌是常耶？是無常耶。」

「大德！是無常。」

八

「身是常耶？是無常耶？」

「大德！無常。」

九

「意是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者是苦耶？或是樂耶？」

「大德！是苦。」

認為「無常而苦，變易之法，並以『此為我所有』，『此即是我』，『此是我之我』為適當耶？」

大德！「不然。」

一〇

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於眼生厭意，於耳生厭意，於鼻生厭意，於舌生厭意，於身生厭意，於意生厭意。』

一一

生厭意、離貪、解脫，於解脫生『我解脫』智，知：『生已盡，梵行已立，應作已作，更不再生。』」

一二

依此等之解說應知十經矣。

〔二〕第二 色

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

三～六

「聲是……香是……味是……觸是……

七

法是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

八

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於色生厭意，於聲……於香……於味……於觸……於法生厭意。』

九

生厭意……而知……。」

〔三〕第三 識

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？眼識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常也。」

三～六

「耳識、鼻識、舌識、身識是……

七

意識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

八

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於眼識生厭意，於耳識生厭意，於鼻識……於舌識……於身識……於意識生厭意。』

九

生厭意……而知……。」

〔四〕第四 觸

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此所如何思惟耶？眼觸是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

三～七

「耳觸……鼻觸……舌觸……身觸……意觸是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

八

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於眼觸生厭意，
於耳觸……鼻觸……舌識……身觸……意觸生厭意。』

九

生厭意……而知……。」

〔五〕第五 受

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？眼觸所生之受是常耶？
是無常耶？」

「大德！是無常。」

三～六

「耳觸所生之受……鼻觸所生之受……舌觸所生之受……
身觸所生之受……意觸所生之受是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

七～八

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於眼觸所生之受生厭意，於耳……鼻……舌……身……意觸所生之受生厭意。』……而知……」

〔六〕第六 想

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？色想是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

三～七

「聲想……香想……味想……觸想……法想是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

八～九

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於色想生厭意，於聲想……香想……味想……觸想……法想生厭意。』……而知……。」

〔七〕第七 思

一

一時，世尊住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？色思是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

三～七

「聲思……香思……味思……觸思……法思是常耶？是無常耶？」「大德！是無常。」

八～九

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於色思生厭意，於聲思……香思……味思……觸思生厭意，於法思生厭意。』……而知……。」

〔八〕第八 愛

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？色愛是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

三～七

「聲愛……香愛……味愛……觸愛……法愛是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

八～九

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於色愛生厭意，於聲愛……香愛……味愛……觸愛……法愛生厭意。』……而知……。」

〔九〕第九 界

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？地界是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

三～七

「水界……火界……風界……空界……識界是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

八～九

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於地界生厭意，於水界……火界……風界……空界識界生厭意。』……而知……。」

〔一〇〕第十 蘊

一

〔爾時世尊〕住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

三～六

「受、想、行、識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

七

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於色生厭意，於受生厭意，於想生厭意，於行生厭意，於識生厭意。』

八

生厭意、離貪、解脫，於解脫生解脫智，當知：『生已盡、梵行已立、應作已作，更無再生。』」

此頌曰：

眼色以及識 乃至於受觸
想思並至愛 界蘊等為十
慢離等謂品

第二 界蘊品

〔一一〕第一 眼

一

如是我聞。一時世尊住舍衛城。

二

爾時，尊者羅睺羅！來詣世尊座前。詣已，禮敬世尊，坐於一方。世尊如是言於坐在一面之尊者羅睺羅曰：

三

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？眼是常？是無常耶？」

「大德！是無常。」

四

「無常者是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

五

認「無常而苦，是變易之法，並以『此即是我所有』、『此是我』、『此是我之我』為適當耶？」

「大德！不然。」

六～一七

「耳、鼻、舌、身……

一八

意是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

一九

「無常者是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

二〇

「認無常而苦、是變易之法，並以『此是我所有』、『此即是我』、『此是我之我』是適當耶？」

「大德！不然。」

二一

「羅睺羅！多聞之聖弟子，如是而見：『於眼生厭意，於耳、於鼻、於舌、於身生厭意。』

二二

生厭意、離貪、解脫、於解脫生解脫智，了知：『生已盡、梵行已立，應作已作，更無再生。』」

由此等之解述，十經應知。

〔一二～二〇〕第二～第十

一

爾時，世尊住舍衛城……

二

「羅睺羅！汝對此作如何思惟耶？」

〔一二〕第二 色

三～五

色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

六～二〇

「聲、香、味、觸法……」

〔一三〕第三 識

三～二〇

「眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識……」

〔一四〕第四 觸

三～二〇

「眼觸、耳觸、鼻觸、舌觸、身觸、意觸……」

〔一五〕第五 受

三～二〇

「眼觸所生之受、耳觸所生受、鼻觸所生之受、舌觸所生之受、身觸所生之受、意觸所生之受……」

〔一六〕第六 想

三～二〇

「色想、聲想、香想、味想、觸想、法想……」

〔一七〕第七 思

三～二〇

「色思、聲思、香思、味思、觸思、法思……」

〔一八〕第八 愛

三～二〇

「色愛、聲愛、香愛、味愛、觸愛、法愛……」

〔一九〕第九 界

三～二〇

「地界、水界、火界、風界、空界、識界……」

〔二〇〕第十 蘊

三～二〇

「色、受、想、行、識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

三～二二

「羅睺羅！如是見……知更無再來生。」

〔二一〕第十一 使

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，尊者羅睺羅來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之羅睺羅，白世尊言：

三

「大德！如何知？如何見？則對此有識身及外一切相，我之狀態，我所之狀態，無慢使耶？」

四

「羅睺羅！任何之色——過去、現在、未來，或內、或外、或麤、或細、或劣、或勝、或遠、或近——一切之色，以『此非我所，此非我，此非我之我。』如是，對此如實以正慧而見。任何之受……任何之想……任何之行……任何之識……過去、現在、未來、或內、或外、或麤、或細、或劣、或勝、或遠、或近——一切之識，以『此非我所，此非我、此非我之我。』如是，如實以正慧而見。

五

羅睺羅！如是知，如是見，則對此有識之身及外之一切相，我之狀態，我所之狀態，為慢使。」

〔二二〕第十二 遠離

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，尊者羅睺羅來詣世尊處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之尊者羅睺羅白世尊言：

三

「大德！如何知？何見？對此有識身及一切相，我之狀態，我所之狀態，心依遠離慢心、超越慢，得寂靜解脫耶？」

四

「羅睺羅！任何之色——過去、現在、未來，或內、或外、或麤、或細、或劣、或勝、或遠、或近——一切之色，以『此非我所，此非我、此非我之我。』如是，如實以正慧而見，則無取著解脫。

對於五蘊，亦復如是。

五

任何之受……

六

任何之想……

七

任何之行……

八

任何之識——過去、現在、未來，或內、或外、或麤、或細、或劣、或勝、或近、或遠——一切之識，以『此非我所，此非我、此非我之我。』如是，如實以正慧而見，則為無取著解脫。

九

羅睺羅！如是知，如是見，則於此有識身及外之一切相，我之狀態，我所之狀態，依遠離慢心，超越慢，得寂靜善解脫。」

此頌曰：

眼色以及識 乃至於觸受
想思並至愛 界蘊等為十

第八 勒叉那相應

第一 惡業品

〔一〕第一 鎖骨

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林粟鼠養餌所

二

爾時，尊者勒叉那及尊者大目犍連住耆闍崛山。

三

時，尊者大目犍連清晨著衣、持鉢，走近尊者勒叉那。

四

近至尊者勒叉那，而作如是言曰：「友，勒叉那！今入王舍城乞食。」

「友！唯然。」尊者勒叉那答尊者大目犍連。

五

於是尊者大目犍連由耆闍崛山下來，於一處所現微笑。

六

爾時，尊者勒叉那，向尊者大目犍連白言：「友，目犍連！以如何因？如何緣？而現微笑耶？」

「友！勒叉那！此所問為非時。當於世尊身傍，再作此問。」

七

爾時，尊者勒叉那及尊者大目犍連，同至王舍城乞食。食後收鉢掛置肩上，來詣世尊處，詣已，禮敬世尊，坐於一面。

八

坐於一面之尊者勒叉那，對尊者大目犍連作如是言曰：
「尊者大目犍連！下耆闍崛山，於一處現微笑。友，目犍連！以如何因？如何緣而現微笑耶？」

九

「友！我由耆闍崛山下來，見鎖骨行空，兀鷹、鳶等隨之，由肋骨之間啄之離離散散，見彼舉痛苦之聲。

一〇

友！我生是念：『實稀有，實未曾有。眾生實如是。〔夜叉實如是。〕實獲得之自體如是。』」

一一

爾時，世尊向諸比丘曰：「諸比丘！弟子只要如實住眼。諸比丘！弟子住如實智。實弟子如是知、或見、或立證。

一二

諸比丘！我曾見彼之眾生，但我未為說明，我雖說此，彼對我亦未必信。對我不信者，長夜不利、苦痛。

諸比丘！如此眾生是王舍城之屠牛者。彼由其業之報，多歲、多百歲、多千、多百千歲，墮於地獄，由其業殘餘之報，如是，自體獲此經驗。」

是全經之略解說。

〔二〕第二 屠牛者

一

「友！我由耆闍崛山下來，見肉片行空，兀鷹、黑鶴、鳶等相互追隨其後，啄食肋骨之間，離離散散。」

二

「諸比丘！如此眾生，曾於此王舍城為屠牛者……」

〔三〕第三 一塊與捕鳥者

一

「友！我由耆闍崛山下來，見肉塊行空，其……」

二

「諸比丘！如此眾，生曾於此王舍城為捕鳥者……」

〔四〕第四 無皮膚之屠羊者

一

「友！我……見無皮膚之人行空……彼被啄食離離散散，
發出痛苦之聲。」

二

「諸比丘！如此眾生，往昔於王舍城，為屠羊者……」

〔五〕第五 刀之屠豬者

一

「友！我由耆闍崛山下來，見一刀葉如毛之人行空。彼此
等之刀，立而仆於彼身，見彼發痛苦之聲。」

二

「諸比丘！如此眾生，往昔於王舍城為屠豬者。……」

〔六〕第六 刃之獵師

一

「友，我由耆闍崛山下來，見刃如毛之人行空。彼此等之
刃，立而仆於彼身，見彼發痛苦之聲。」

二

「諸比丘！如此眾生，往昔於此王舍城為獵師。……」

〔七〕第七 矢之裁

一

「友！我由耆闍崛山下來，見矢如毛之人行空。此等之矢，立而仆於彼之身，見彼發出痛苦之聲。」

二

「諸比丘！如此眾生，往昔於王舍城為審判者。……」

〔八〕第八 針之調師

一

「友！我由耆闍崛山下來，見針如毛之人行空、此等之針，立而仆於彼之身，見彼發痛苦之聲。」

二

「諸比丘！如此眾生，往昔於王舍城為調師也。……」

〔九〕第九 間諜

一

「友！我由耆闍崛山走下來，見針如毛之人行空。」

二

此等之針，札入彼頭而由口出，由口入而由胸出，由胸入而由胃出，由胃入而由腿出，由腿入而由脛出，由脛入而由足出，見彼發痛苦之聲。」

三

「諸比丘！如此眾生，往昔於此王舍城為間諜。……」

〔一〇〕第十 腐敗之判官

一

「友！我由耆闍崛山走下來，見罽丸如甕之人行空。

二

彼行時須提起罽丸之塊而行，坐時、坐於罽丸之上。

三

彼被兀鷹、黑鶴、鳶等追隨相啄、離離散散，彼發痛苦之聲。」

四

「諸比丘！如此眾生，往昔於此王舍城為判官。……」

於此頌曰：

鎖骨屠牛者 一塊捕鷹者
無皮屠羊者 刀之屠豬者
獵師矢之裁 針調師間諜
腐敗之判官

第二 惡業品

〔一一〕第一 沈陷於坑之不義者

一

如是我聞。一時，世尊住王舍城竹林。

二

「友！我由耆闍崛山下來，頭部見沈歿於糞坑。」

三

「諸比丘！如此眾生，往昔於王舍城是不義者。」

〔一二〕第二 喰糞之邪惡婆羅門

一

「友！我由耆闍崛山走下來，見沈沒糞坑及於兩手，喰糞之人。」

二

「諸比丘！如此眾生，往昔於此王舍城為婆羅門，彼於迦葉正等覺者說教示時，諸比丘僧伽受請應供，將糞充於鉢中而曰：『諸尊者！食所需者可持去！』……」

〔一三〕第三 剝皮膚女～姦婦

一

「友！我由耆闍崛山下來，見剝皮膚之女行空。兀鷹、黑鶴、鳶等追隨桐啄，離離散散，見彼女發痛苦之聲。」

二

「諸比丘！如之彼女，往昔於此王舍城為姦婦。……」

〔一四〕第四 醜女卜占女

一

「友，我由耆闍崛山下來，見有惡臭之醜女行空、兀鷹、黑鶴、鳶等追隨相啄，離離散散，見彼女發痛苦之聲。」

二

「諸比丘！如彼之女，往昔於王舍城為卜占女。……」

〔一五〕第五 炙女曾投夥伴於炭火

一

「友！我由耆闍崛山下來，見被煤燒炙之女行空，彼女發痛苦之聲。」

二

「諸比丘！如此之女，往昔為迦陵讖王之第一夫人，彼女因為嫉妒，曾將王女之一投入炭火之火盆中。……」

〔一六〕第六 斷頭司獄

一

「友！我由耆闍崛山下來，見無頭之胴體行空，眼與口則生於彼之胸部。」

二

兀鷹、黑鶴、鳶等對彼追隨相啄，離離散散、彼發痛苦之聲。

三

「諸比丘！如此眾生，往昔於此王舍城為名曰哈利伽之司獄。……」

〔一七〕第七 比丘

一

「友！我由耆崛山下來，見比丘行空。

二

彼之僧伽梨亦熾然燃燒，燃火上昇，鉢亦熾然燃燒，燃火上昇，其帶亦熾然燃燒，燃火上昇，身亦熾然燃燒，燃火上昇，彼發痛苦之聲。」

三

「諸比丘！如此比丘，於迦葉正等覺者教示時，為惡比丘。……」

〔一八〕第八 比丘尼

一

「我……見比丘尼行空。

二

彼女之僧伽梨亦熾然燃燒……」

三

「……為惡比丘尼。……」

〔一九〕第九 式叉摩那

一

「友……見式叉摩那行空。

二

彼女之僧伽梨亦熾然燃燒……」

三

「……惡式叉摩那。……」

〔二〇〕第十 沙彌

一

「……見沙彌行空。

二～三

彼之僧伽梨亦熾然燃燒……」，「……乃惡沙彌」……

〔二一〕第十一 沙彌尼

一

「友！我由耆闍崛山下來，見沙彌尼行空。

二

彼女之僧伽梨亦熾然燃燒，燃火上昇，鉢亦熾然燃燒，燃火上昇，其帶亦熾然燃燒，燃火上昇，身亦熾然燃燒，燃火上昇、彼女發痛苦之聲。

三

友！時我生斯念：『實為稀有，實為未曾有。實為眾生如是。實為夜叉如是。實為自體之獲得亦如是。』」

四

爾時，世尊對諸比丘曰：「諸比丘！實則弟子如實眼住，諸比丘！實則弟子住如實智，實則弟子如是知，或見，或立證。

五

諸比丘！我雖曾見彼沙彌尼，但我未作說明。我雖為說，彼對我亦未必信。不信我者，長夜有不利與苦。

六

諸比丘！此等之沙彌尼，於迦葉正等覺者之教示，為惡沙彌尼。彼女由其業報，則墮於多歲、多百歲、多千歲、多百千歲，地獄，因其業報之殘餘，如是自體獲此經驗。」

此頌曰：

沈坑不義者
邪惡婆羅門
剝皮之姦婦
醜女為占卜
被炙女投火
斷頭之司獄
比丘比丘尼
惡式叉摩那
沙彌沙彌尼
於迦葉佛律
出家作惡業

第九 譬喻相應

〔一〕第一 棟

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，世尊如是言曰：

三

「諸比丘！譬如樓閣，何之垂木，皆集寄於棟，等至於棟，於棟相結合趨於結合一切。

四

諸比丘！同此，任何不善之法，彼等皆以無明為根，等至於無明，於無明相結合，趨於結合一切。

五

諸比丘！然汝等應如是學：『我等將住於不放逸。』」

〔二〕第二 指端

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，世尊以指端上少量之土，示諸比丘曰：

三

「諸比丘！汝等對此作如何思惟耶？此我指端所示少量之土與此大地，何者為多耶？」

四

「大德！此大地土為多，世尊所示指端之土為少。世尊所示指端之土與大地相比，不可數算之倍數所能及。」

五

「諸比丘！同此，由人界沒生於人間之眾生為少，由人界沒生於他界之眾生為多。」

六

諸比丘！然則汝等應如是學：『我等住於不放逸。』

諸比丘！汝等應如是學。」

〔三〕第三 家

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

「諸比丘！譬如任何之家，若女多男少，則易為盜賊、夜盜所惱。」

三

諸比丘！同此，任何之比丘，不修慈心解脫，且屢不數修為，則易為非人所惱。

四

諸比丘！譬如：任何之家，女少男多，則盜賊、夜盜難以為惱。

五

諸比丘！同此，任何之比丘，修慈心解脫，且屢加修為，則非人無從為惱。

六

諸比丘！然則汝等應如是學：『我等修慈心解脫，屢加修為，如用車作土台，安住其上、積集而善加企畫。』

諸比丘！汝等應如是學。」

〔四〕第四 釜

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

「諸比丘！清晨行百釜之施，日中行百釜之施，暮時行百釜施，不如清晨之瞬間修慈心，日中之瞬間修慈心，暮時之瞬間修慈心為有大果。

三

諸比丘！然則汝等應如是學：『我等修慈心解脫，屢加修為，如用車作土台，安住其上、積集而善企畫。』

諸比丘！汝等應如是學之。」

〔五〕第五 刃

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

「諸比丘！譬如有銳利刀身之刃，當時有人來稱：『我此銳利刀身之刃，可以手或拳折迴、撚合而推打耶？』

三

諸比丘！汝等對其作如何思惟耶？彼人此銳利刀身之刃，得以手或拳折迴、撚合而推打耶？」

「大德！了無此事。」

四

「所以者何？」

「大德！此銳利刀身之刃，以手或拳折迴、撚合而推打，是為不可能，彼徒疲勞、困卻、痛苦。」

五

「諸比丘！同此，任何之比丘，修慈心解脫，屢加修為，如用車作土台安住其上、積集而善企畫者，雖有非人，心作蔑劣之思念，但彼非人唯徒疲勞、困卻而痛苦。

六

諸比丘！然則汝等應如是學：『我等修慈心解脫，屢加修為，如用車作土台，安住其上，積集而善企畫。』

諸比丘！汝等應如是學。」

〔六〕第六 弓術師

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

「諸比丘！譬如有巧於弓術、善學、精練，練達之四位弓術師，立於四方。

三

時有人來稱：『我能捉住此等之精巧於弓術、善學、精練、練達之四位弓術師，射出而未著大地四方之箭矢。』

四

諸比丘！汝等作如何思惟耶？對此人得稱之為勝速具足之捷疾人耶？」

五

「大德！若對巧於弓術、善學、精練、練達之一弓術師射出而未著地之箭矢捉住，捉已送來，對此人得稱之勝速具足之捷疾人。又誰人能對此巧於弓術、善學、精練、練達之四人弓術師，得如是云耶？」

六

「諸比丘！彼人疾速，比日月之疾捷更疾速。諸比丘！彼人之疾速，如日月之疾速，行走於日月前之天，雖比其天之疾速，但其壽行則更速消滅。

七

比丘！是以汝等應如是學：『我等將住於不放逸。』比丘！汝等應如是學。」

〔七〕第七 鼓輻

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

「諸比丘！於往昔，有一名為陀舍羅訶之阿能訶鼓。

三

彼陀舍羅訶之阿能訶鼓在裝設時，於之補入其他之輻。諸比丘！阿能訶鼓之原皮壞裂，到來之際，彼只殘留輻之架構。

四

諸比丘！未來世之比丘為如是：

五

如來所說之此等諸經，乃甚深之深義，是出世間之空相應者，然宜說此等時，彼等不善聞之，不傾聽，不住於瞭解之心，以不思惟此等為應受持、應善了知法。

六

然則依而詩作，文辭華麗，外道之弟子所說之諸經，為說此等時，彼等善聞且傾聽之，住於瞭解之心，思惟善知受持此等之法。諸比丘！然則如來所說之甚深深義，出世間之空相應之此等諸經，則消滅矣。

七

諸比丘！然則應如是學：『如來所說之經乃甚深之深義，出世間之空相應者，於宣說此等之時，我等應善聞而傾聽，住於心之瞭解，思惟此等應受持、應善知之法。』

諸比丘！汝等應如是學。」

〔八〕第八 藁

一

如是我聞。爾時，世尊住毘舍離之大林重閣講堂。

二

爾時，世尊言諸比丘曰：「諸比丘！」諸比丘奉答世尊曰：「大德！唯然」

世尊作如是言曰：

三

「諸比丘！今離車族以藁為枕，熱誠、專心，住於任務。故而，韋提希之子摩揭陀王阿闍世，不能得侵犯彼等之機。

四

諸比丘！於當來，離車族、柔輦，手足纖細，於柔之臥牀，羽毛之枕上，眠至日昇時，則韋提希之子摩揭陀王阿闍世，侵犯彼等乃能得機。

五

諸比丘！今諸比丘以藁為枕、不放逸、熱心、專心住之。故，魔波旬不得侵犯、不得機。

六

諸比丘！於當來、諸比丘！柔輦、手足纖細、柔軟臥牀、羽毛之枕上，欲眠至日昇，則魔波旬得以侵犯彼等之機。

七

諸比丘！是以應如是學習：『我等以藁為枕，不放逸、熱誠、專心。』

諸比丘！汝等應如是學習。」

〔九〕第九 象

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……

二

爾時，有一年少比丘，於非時之時，去近良家。諸比丘對彼比丘作如是言曰：「尊者！於非時之時，勿近良家。」

三

彼比丘聞此而作如是云：「實則長老之諸比丘想趣近良家，然則何故我不能耶？」

四

爾時，眾多比丘來詣世尊處……坐於一面。

五

坐於一面之彼等諸比丘，白世尊言：「大德！此處一年少比丘，於非時之時近良家，對彼比丘，諸比丘作如是曰：『尊者！於非時之時，勿近良家。』然彼比丘對諸比丘成如是言曰：『實則此等長老諸比丘想近趣良家者，何故我不能耶？』」

六

「諸比丘！往昔於閑靜處有沼，諸象棲其邊。彼等潛於沼中，引拔蓮根，善洗滌，洗去其泥，無泥而食。彼等食已甚美，獲得氣力，因之而不至死，或無至死之苦。」

七

諸比丘！又彼等中，模倣大象，弱小之象等，潛於沼中，拔蓮根，不善洗滌，連泥食之，彼等食已，不美，無氣力，因而至死，或受至死之苦。

八

諸比丘！同此，此處長老諸比丘，清晨著衣、持鉢入村或街，彼等於其處說法，主人因信樂，供給彼等之所需。彼等對其所得，不著、不惑、不墮、見禍、受用出離慧、彼等得色、得力，因而不至於死，或無至死之苦。

九

諸比丘！又追隨彼等長老比丘，年少之比丘，清晨著衣，持鉢入村或街乞食。

一〇

彼等於其處說法，主人因信樂，盡行布施，彼等對所得，或著，或惑、或墮、或不見禍、不受用出離慧，則彼等、無美、無力，因而至死，或受至死之苦。

一一

諸比丘！然則應如是學：『我等不著、不惑、不墮、見禍、受用出離慧』。諸比丘！汝等應如是學。」

〔一〇〕第十 貓

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，有一比丘，非時之時於良家相交往。諸比丘對彼比丘如是言曰：「尊者！非時之時，勿於良家交往。」

三

彼比丘，對諸比丘如是之言，仍未止行。

四

時，眾多比丘來詣世尊處……白世尊言：

五

「大德！此處有一比丘，非時之時，於良家交往。諸比丘對彼比丘如是云：『尊者！非時之時，勿於良家交往。』然彼比丘對諸比丘之言如是，仍未止行。」

六

「諸比丘！往昔有貓，循柔弱鼠之足跡，立於污穢之塵埃溝中，『此柔弱鼠為出求食，則被捕食。』

七

諸比丘！爾時彼柔鼠為求餌食而出，彼貓疾速激捕而吞食，然食彼柔鼠其之內臟，食其臟腑，因之彼貓至死，受至死之苦。

八

諸比丘！同此，此處比丘，清晨著衣、持鉢，為乞食入村或街，不守身、不守語、心不住正念，不能制御諸根。

九

彼於其處見衣薄穿著或身著輕裝之女人，貪欲惱心。彼因心惱於貪欲，受至死，或受至死之苦。

一〇

諸比丘！於聖律，捨學還俗此為死。諸比丘！交往於有罪垢穢，知此為罪之教時，此至死之苦。

一一

諸比丘！然則，汝等應如是學。

『我等當守身、守語、守心、住正念、制御諸根，入村或街而乞食。』

諸比丘！汝等應如是學。」

〔一一〕第十一 豺（之一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

「諸比丘！汝等於深夜聞豺叫鳴耶？」

「大德！唯然。」

三

「諸比丘！有一為疥癩疾所惱之老豺，彼任欲而行，任欲而住，任欲而坐，任欲而臥，涼風吹彼。

四

諸比丘！此處有一從釋子之人，『我亦欲經驗如是之狀態為宜。』

五

諸比丘！汝等應如是學：『我等住不放逸。』

六

諸比丘！汝等如是學。」

〔一二〕第十二 豺（之二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

諸比丘！汝等深夜聞豺之鳴叫耶？

「大德！唯然。」

三

「諸比丘！彼老豺為有知恩，有感謝。但從釋子之一人，則無知恩、無感謝。

四

諸比丘！然則，汝等應如是學：『我有知恩，有感謝，我等為他作些事亦無失。』諸比丘！汝等應如是學。」

此頌曰：

棟與指端家 釜刃弓術師
鼓輻藁與象 乃至貓二豺

第十 比丘相應

〔一〕第一 拘離多

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，尊者大目犍連對諸比丘曰：「友，諸比丘！」

彼等諸比丘對尊者大目犍連答曰：「友！」

三

尊者大目犍連作是言曰：「友！於此我退至閑靜處，宴坐時，心生如是之思念：『所謂聖默然，聖默然。聖默然者，何耶？』」

四

友，我生此念：『於此比丘，靜覺與觀，內心寂靜，心專住於一境，由無覺無觀之定，生喜樂之第二禪，入而安住，此謂之聖默然。』」

五

友，我靜覺與觀，內心寂靜，心專注於一境，由無覺無觀之定，生喜樂之第二禪，而安住。友！我住此等之住時，顯現與覺俱生之想思惟。

六

友，爾時，世尊以神通近我，作如是言曰：『目犍連！目犍連！婆羅門！慎勿放逸。於聖默然心應樹立。於聖默然應一心。於聖默然心應專住。』

七

友，其後我於寂靜覺與觀，內心寂靜，心專注於一境，入住於無覺無觀之定，生喜與樂之第二禪。友！若予正說，則弟子乃依師之所護念，得大神通。此我正說弟子由師所護念，得大神通。」

〔二〕第二 優波低沙

一

緣，舍衛城……

二

爾時，尊者舍利弗言諸比丘曰：「友！諸比丘。」

彼等諸比丘對尊者舍利弗答曰：「友！」

三

舍利弗作如是言曰：「友！我退至閑靜處，宴坐時，心生此念：『此世間，由於變易、變化之狀態，對我生愁、悲、苦、憂、惱者、是何耶？』

友，我生此念：『世間由於變易、變化之狀態，對我生愁、悲、苦、憂、惱者，了無何物。』」

四

如是云耶？尊者阿難對舍利弗作如是言曰：「友，舍利弗！依師之變易、變化之狀態，不生愁、悲、苦、憂、惱耶？」

五

「友，阿難！依師之變易、變化之狀態，不生愁、悲、苦、憂、惱。偉大而實有大神通、大威力之師，亦思惟其示歿。若世尊永與我等俱住，其乃為多人之利益，為多人之幸福，為世間之哀憐、利益，為人天之利益、幸福。」

六

「實於長夜，尊者舍利弗對我、我之所念，善除慢使。」

七

然則尊者舍利弗，依師之變異、變化之狀態，已不生愁、悲、苦、憂惱矣。」

〔三〕第三 甕

一

如是我聞。一時世尊，住舍衛城祇樹給孤獨園。

二

爾時，尊者舍利弗及尊者大目犍連，住於王舍城竹林粟鼠養餌所之一房。

三

時，尊者舍利弗，暮時由宴坐起，來詣尊者大目犍連之處。詣已，與尊者大目犍連相互致問，交談問訊可記憶之語，而坐於一面。

四

坐於一面之尊者舍利弗，對尊者大目犍連作是言曰：
「友，大目犍連！汝諸根寂靜，顏色清淨悅豫。今日大目犍連乃依寂靜住而住者。」

「友！我今乃日依羶住而住，且對我已有法語。」

五

「尊者大目犍連，與誰共法語耶？」

「友！我與世尊共法語。」

六

「友！世尊今住舍衛城祇樹給孤獨園，是為遙遠。尊者大目犍連以神通至世尊之處耶？又或世尊以神通至尊者大目犍連之處耶？如何？」

七

「友，非我以神通至世尊之處，亦非世尊以神通至我之處。世尊亦得如我之清淨天眼、天耳界。我亦得如世尊之清淨天眼、天耳界。」

八

「尊者大目犍連，與世尊作如何之法語耶？」

九

「友，我於此處對世尊作如是言曰：『大德！所謂勤精進、勤精進，云何名之為勤精進耶？』」

一〇

友！如是白已，世尊對我作如是言曰：『目犍連！此處有比丘住勤精進，實則皮膚與腱與骨萎縮，身體之肉與血枯萎，依人之精力，人之精進，人之努力，可達者如不能達，則不起於精進之座，目犍連！如是為勤精進。』」

一一

友！我與世尊作如是之法語。

一二

友！譬如於雪山王之側置小石塊，悉予依附，如為所屬。我等依附於大目犍連，屬於大目犍連。尊者大目犍連有大神通、大勢力，如有所欲於一劫之間而住。

一三

友！譬如於大鹽甕中，少量之鹽塊，悉予依附，如為所屬。我等依附尊者舍利弗，為其所屬。」

一四

尊者舍利弗依世尊，為種種方便而被稱讚歎，讚歎，所歎譽者。

慧如舍利弗
依戒依寂靜

到彼岸比丘
其中最上者

一五

如是大龍象，互為善說善語，歡喜契合。

〔四〕第四 年少

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，一年少比丘，食後收拾鐵鉢，入房無所事，默然無力，作諸比丘之衣時，不為助力。

三

爾時，眾多比丘，來詣世尊之處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

四

坐於一面之彼諸比丘白世尊言：「大德！此處一年少比丘，食後收拾鐵鉢，入房無所事，默然無力，作諸比丘之衣時，不為助力。」

五

爾時，世尊言彼比丘曰：「比丘，汝來！以我之語，告彼比丘：『友！師喚汝。』」

六

「大德！唯然。」彼比丘奉答世尊，則走近彼比丘。近已，對彼比丘作如是告曰：「友！師喚汝。」

七

「友，唯然！」彼比丘回答此比丘後，來詣世尊座前，詣已，禮敬世尊，坐於一面。

八

世尊對坐於一面之彼比丘，作如是言曰：「比丘！汝食後收拾鐵鉢，入房無所事，默然無力，對諸比丘作衣，亦不為助力，為真實耶？」

「大德！我亦自作應作之事。」

九

爾時，世尊以心知彼比丘心之所念，對諸比丘曰：「諸比丘！汝等勿惱此比丘。諸比丘！汝等勿惱此比丘。諸比丘！彼比丘得四禪之增上心，對現法樂住，隨心所欲，無困難事，無煩惱。而且因此，有良家之子等，正由家出家為而無家，對究竟無上梵行，於現法中自知，為人實證住者。」

一〇

世尊，如是說，善逝如是說已，師更言曰：

精進非弛怠
非少勇猛者
應到於涅槃
解脫一切苦

此少年比丘
此乃最上人
以車勝魔軍
住為最後身

〔五〕第五 善生

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，尊者善生近趣世尊座前。

三

世尊見尊者善生由遠方而來。見已，對諸比丘宣曰：

四

「諸比丘！實則此良家之子，於二者為端嚴。彼端麗可觀，具柔和之姿，具足最勝端麗之容色。因此，良家之子正由家出家而為無家，對無上究竟之梵行，於現法自知，入住實證。」

五

世尊說此……師更言曰：

比丘實端嚴
具端正之心
離結且離軛
離縛無執著
以車勝魔軍
住為最後身

〔六〕第六 拔提

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，尊者侏儒拔提趣近至世尊座前。

三

世尊見尊者侏儒由遠方來。見已，對諸比丘曰：

四

諸比丘！汝等見此醜陋、難看、矮小、為諸比丘輕侮之比丘前來耶？「大德！唯然。」

五

「諸比丘！此比丘有大神通、大勢力。此比丘，對前所未得達者，彼已得達，乃得之不易。為此目的，彼良家之子正由家出家而為無家，究竟無上梵行，於現法住於自知，入住於實證。」

六

世尊宣此……師更言曰：

（一）鷲白鷲孔雀

大象與班鹿

悉皆畏獅子

身無相等者

（二）如是於人中

年少有智慧
是於彼為大
非如大愚身

〔七〕第七 毘舍佉

一

如是我聞。〔爾時，世尊〕住毘舍離之大林重閣講堂。

二

爾時，槃闍梨之子尊者毘舍佉，亦於講堂對諸比丘妙語，微妙而不枯。使知義，以適切、無執著之法語予教示、鼓勵，使令愉悅。

三

爾時，世尊暮時，自宴坐起，近至講堂。至已，就坐於所設之座。

四

就座之世尊對諸比丘曰：「諸比丘！於講堂對諸比丘出妙語，微妙不枯，使知義，以適切、無執著之法語教示、鼓勵，使愉悅之者，是誰耶？」

五

「大德！槃闍梨之子尊者毘舍佉，於講堂對諸比丘出妙語，微妙不枯，使知義、以適切、無執著之法語教示、鼓勵，使愉悅。」

六

爾時，世尊對繫闍梨之子尊者毘舍佉曰：「善哉，善哉！毘舍佉！善哉，毘舍佉！汝對諸比丘，以妙語……法語，教示、鼓勵，使令愉悅。」

七

世尊說此已，善逝仰此，師更言曰：

（一）誰無所說事

賢愚人雜知

彼之說法時

知說不死道

（二）說法增光輝

樹立聖者幢

善說諸聖幢

法乃聖者幢

〔八〕第八 難陀

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，世尊夷母之子尊者難陀，消光澤、以擣衣飾身、染眼端、執美鉢來詣世尊之處。詣已，禮敬世尊而坐於一面。世尊對坐於一面之尊者難陀，作如是言曰：

三

「難陀！汝消光澤，以柔輦之擣衣飾身、染眼端、執美鉢、與良家之子，由信出家為無家者不適。難陀！汝如是，住

阿蘭若，行乞食，著糞掃衣，不望住欲，乃與良家子，由信出家而為無家者是相適者。」

四

世尊說此……師更言曰：

何日見難陀
糞掃衣住林
支身依遺穗
希見無欲事

五

時，尊者難陀，日後為住阿蘭若者，行乞食者，著糞掃衣者，於欲無希求者。

〔九〕第九 低沙

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，世尊叔父之子低沙，來詣世尊之處，詣已，禮敬世尊，悲哀而沈默、落淚，坐於一面。

三

爾時，世尊對尊者低沙曰：

「低沙！汝何故悲哀、沈默、落淚坐於一面耶？」

四

「大德！時諸比丘對我以所有之語嘲笑、毀謗。」

五

「低沙！汝非如是，然汝對其語不能忍者。」

六

低沙！汝非如是，如對其語不能忍，則良家之子由信出家為無家，於汝不適也。汝對其語忍之，則此良家之子由信出家為無家，於汝適宜者。」

七

世尊說此，善逝仰此，師更如言曰：

何故忿無忿
低沙以無忿
汝等是最勝
降伏忿慢慳
低沙住梵行

〔一〇〕第十 名為長老

一

爾時，世尊住王舍城竹林粟鼠養餌所。

二

爾時有一比丘名為長老，是獨住者，讚嘆獨住者。彼獨入村乞食，獨去、獨坐於閑靜處，獨行經行。

三

時眾多比丘，來詣世尊之前，詣已，禮敬世尊，坐於一面。

四

坐於一面之彼諸比丘白世尊言：「大德！此處有一長老之比丘，是獨住者，讚嘆獨住。」

五

爾時世尊言一比丘曰：「比丘！汝來，以我語告長老比丘：『友長老！師喚汝』。」

「大德！唯然。」彼比丘奉答世尊，近至彼尊者長老之處。

六

至已，對尊者長老作如是言：「友，長老！師喚汝。」

「友，唯然。」尊者長老答彼比丘，來詣世尊之處。

七

詣已，禮敬世尊，坐於一面。

八

世尊對坐於一面之尊者長老，作如是言曰：「長老！汝為獨住者，讚嘆獨住者、為真實耶？」

「大德！唯然。」

九

「長老！如何汝為獨住者，以讚嘆獨住者耶？」

一〇

「大德！於此處我獨為乞食入村，獨去、獨坐閑靜處，獨行經行。大德！我為如是之獨住者，是讚嘆獨住者。」

一一

「長老！此獨住，非我所云之獨住。長老！依詳說之有勝妙之獨住，宜諦聽，善思惟，我當為說。」

「大德！敬聽。」……

一二

「長老！依詳說之勝妙之獨住者，何耶？長老！於此處，能捨過去，不希未來，於現在，對自身之所得，欲貪全亡也。長老！依如是之詳說，為勝妙之獨住也。」

一三

世尊說此已，善逝仰此，師言更曰：

一切之勝者
一切之智者
乃至善智者
不染一切法
捨愛盡解脫
此謂獨住者

〔一一〕第十一 劫賓那

一

爾時，世尊住舍衛城。

二

爾時，尊者大劫賓那近至世尊之處。

三

世尊，見尊者大劫賓那由遠方而來。

四

見已，對諸比丘曰：「諸比丘！汝等見白皙、高鼻之彼比丘耶？」

「大德！唯然。」

五

「諸比丘！彼比丘有大神通、大勢力。彼比丘，對達至前
所未達者，而得之不易。因此，彼良家之子正由家出家為無
家，究竟無上梵行，於現法住自知，實證。」

六

世尊說此，善逝仰此，師更言曰：

（一）剎利重家系

人中為最勝

明行具足者

人天彼殊勝

（二）日於晝光輝

月於夜光輝

剎利甲冑輝

婆羅門禪輝

一切晝與夜
佛陀有光輝

〔一二〕第十二 僚友

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城。

二

爾時，與尊者大劫賓那共住之僚友兩比丘，近至世尊之處。

三

世尊見彼等之比丘自遠方來。

四

見已，告諸比丘曰：「諸比丘！汝等見劫賓那共住之僚友二比丘，近前來耶？」

「大德！唯然。」

五

「彼等二比丘有大神通、大勢力。彼等比丘到達前所未到達者，實乃得之不易。因此良家之子等，正由家出家而為無家，究竟無上梵行，於現法住自知、是實證。」

六

世尊說此已，善逝仰此，師更言曰：

（一）此等之比丘
永交為伴侶
正法彼等交
佛陀所說法

（二）聖者宣說法
劫賓那調順
以車勝魔軍
彼住最後身

此頌曰：

始自拘離多	及優婆低沙
所謂此忿者	少年與善生
拔提毘舍佉	難陀及低沙
長老劫賓那	僚友為十二

此頌曰：

因緣現觀界
依無始迦葉
供養羅睺羅
相譬如比丘
此為第二品

相應部經典

歸命彼世尊 應供等覺者

犍度篇

第一 蘊相應

第一 根本五十經

第一 那拘羅父品

〔一〕第一 那拘羅父

一

如是我聞。爾時，世尊住婆祇國設首婆羅山之恐怖林鹿園。

二

彼時有那拘羅父居士，來詣世尊之住處。詣已，坐於一面。

三

坐於一面之那拘羅父居士白世尊曰：

「大德！我乃瘦衰、老羸、老年、高齡、病身、多病者。大德！我不得常見世尊與意修習之諸比丘。請大德世尊教導我，請大德世尊教誡我，使我於長夜得利益、安樂。」

四

「如是居士！如是居士！居士！汝身為病污所覆。居士！持如是之身，如何不須臾自言無病耶？但除愚癡。是故居士！汝於此處應如是學，〔調：〕我身雖病而得心無病。居士！汝應如是學。」

五

時，那拘羅父居士，隨喜、歡喜世尊之所說，從座而起，敬禮右繞世尊，而往具壽舍利弗之處。往已，敬禮具壽舍利弗，坐於一面。

六

具壽舍利弗，謂坐於一面之那拘羅父居士曰：

「居士！汝諸根和悅，面貌清清潔白。無非今日於世尊之處，得聞說法耶？」

「大德！何其不然！大德！今世尊以說法之甘露灌潤於我。」

七

大德！於此我來詣世尊住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面，我坐於一面，而白世尊：『大德！我乃瘦衰、老羸、老衰、晚年、高齡、病身、多病者。大德！我不得常見世尊與意修習之諸比丘。請大德世尊教導我，請大德世尊教誡我，使我長夜得利益、安樂。』

大德！敬白如是，而世尊言我曰：『如是居士！如是居士！居士！汝身為病污所覆。居士！持如是之身，如何不須臾

自言無病耶？但除愚癡。是故居士！汝於此處應如是學，
〔謂：〕我身雖病而得心無病。居士！汝應如是學。』

大德！世尊以如是說法之甘露灌潤於我。」

八

「居士！汝無再問世尊耶？」「大德！如何身病而為心病？如何身病為心無病耶？」

九

大德！我等從遠方而來至具壽舍利弗處，為欲知此所說之義。具壽舍利弗！願為分別此所說之義。」

一〇

「居士！然則諦聽，當善思念，我當說。」

「唯唯大德！」那拘羅父居士以應諾具壽舍利弗。

一一

具壽舍利弗如是說曰：

「居士！如何身病而為心病耶？」

一二

居士！於此有無聞之凡夫，不見聖人，不知聖人之法，不順聖人之法，不見善知識，不知善知識之法，不順善知識之法，觀色是我，我以色有，我中有色，色中有我，住纏於色是

我，色是我所。彼人，住纏於我是色，色是我所，彼色變易、變異。彼人於色之變易、變異，而生愁、悲、苦、憂、惱。

一三

觀受是我，我以受有，我中有受，受中有我，住纏於我是受，受是我所。彼人住纏於我是受，受是我所，彼受變易、變異。彼人於受之變易、變異，而生愁、悲、苦、憂、惱。

一四

觀想是我，我以想有，我中有想，想中有我，住纏於我是想，想是我所。彼人住纏於我是想，想是我所，彼想變易、變異。彼人於想之變易、變異，而生愁、悲、苦、憂、惱。

一五

觀行是我，我以行有，我中有行，行中有我，住纏於我是行，行是我所。彼人住纏於我是行，行是我所，彼行變易、變異。彼人於行之變易、變異，而生愁、悲、苦、憂、惱。

一六

觀識是我，我以識有，我中有識，識中有我，纏住於我是識，識是我所。彼人住纏於我是識，識是我所，彼識變易、變異。彼人於識之變易、變異，而生愁、悲、苦、憂、惱。

一七

居士！如是為身病而心病。

一八

居士！何者為身病而心無病耶？

一九

居士！此處有有聞之聖弟子，見聖人，知聖人之法，善順聖人之法，見善知識，知善知識之法，善順善知識之法。不觀色是我，我以色有，我中有色，色中有我，不住纏於我是色，色是我所。彼人不住纏於我是色，色是我所，而彼色變易、變異。彼人於色之變易、變異，不生愁、悲、苦、憂、惱。

二〇

不觀受是我，我以受有，我中有受，受中有我，不住於我是受，受是我所。彼人不住纏於受是我，受是我所，而彼受變易、變異。彼人於受之變易、變異而不生愁、悲、苦、憂、惱。

二一

不觀想是我，我以想為有，我中有想，想中有我。不住纏於我是想，想是我所。彼人不住纏於我是想，想是我所，而彼想變易、變異。彼人於想之變易、變異而不生愁、悲、苦、憂、惱。

二二

不觀行是我，我以行有，我中有行，行中有我。不住纏於我是行，行是我所。彼人不住纏於我是行，行是我所，而彼行變易、變異。彼人於行之變易、變異而不生愁、悲、苦、憂、惱。

二三

不觀識是我，我以識有，我中有識，識中有我。不住纏於我是識，識是我所。彼人不住纏於我是識，識是我所，而彼識變易、變異。彼人於識之變易、變異而不生愁、悲、苦、憂、惱。

二四

居士！如是為身病而心無病。」

二五

具壽舍利弗如是說已，那拘羅父居士喜悅，而喜歡於具壽舍利弗之所說。

〔二〕第二 天現

一

如是我聞。爾時，世尊住釋迦國，天現之釋迦聚落。

二

時，有眾多之西方遠行比丘，來詣世尊之住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘等白世尊曰：

「大德！我等往西方國土，欲住於西方國土。」

「諸比丘！汝等曾向舍利弗〔告〕辭否？」

「大德！我等未向具壽舍利弗〔告〕辭。」

「諸比丘！應向舍利弗告辭。諸比丘！舍利弗是賢人，是同梵行諸比丘之饒益者。」

「唯唯，大德！」彼諸比丘應諾世尊。

四

爾時，具壽舍利弗於離世尊不遠之耶羅伽羅叢林中坐。

五

時，彼諸比丘歡喜於世尊之所說，隨喜從座而起，敬禮右繞世尊，而往具壽舍利弗住處往已，與具壽舍利弗互俱交換慶慰、歡喜、感銘之談話，而坐於一面。

六

坐於一面之彼比丘等，言具壽舍利弗曰：

「友舍利弗！我等往西方國土，欲住於西方國土。我等已向尊師〔告〕辭矣。」

七

「友等！有往處處之異國，問比丘者，〔謂〕是賢剎帝利、賢婆羅門、賢居士、賢沙門。友等！諸賢人好觀察，問具壽等之師，教何？說何耶？具壽等善聞、善持、善思念、善觀法，具壽等之說時，有得說世尊之所說否？有無以非實毀害世尊耶？說法之隨法，以同法人之論隨論，有無墮於呵責處耶？」

八

「友！我等欲知此所說之義，從遠方來具壽舍利弗處。具壽舍利弗，願請分別此所說之義。」

九

「友等！然則諦聽，善思念、我當說。」

「唯唯，友！」彼比丘等應諾具壽舍利弗。

具壽舍利弗如是說：

一〇

「友等！有往處處之異國，問比丘者，〔調〕剎帝利……乃至……友等！諸賢人好觀察，問具壽等之師說何教何耶？友等！若如是問者，應如是說，應如是說：『友等！〔調〕我等之師，以教調伏欲貪。』

一一

友等！作如是說而有重問者，〔調〕是賢剎帝利……乃至……賢沙門也。友等！諸賢人好觀察，問具壽等之師，於何教令調伏欲貪耶？友等！如是問者，應如是答：『友等！〔調〕師於色教令調伏欲貪，於受教令……於想……於行……於識教令調伏欲貪。』

一二

友等！作如是說而有重問者，〔調〕是賢剎帝利……乃至……賢沙門。友等！諸賢人好觀察，問具壽之師，見何之過患故，於色教令調伏欲貪耶……於受教令……於想……於行……於識教令調伏欲貪耶？友等！若如是問者，應如是說：

『友等！〔謂〕若於色不離貪、不離欲、不離愛、不離渴、不離熱煩、不離渴愛者，彼色之變易、變異，而生愁、悲、苦、憂、惱。若於受……於想……於行不離貪……不離渴愛者，彼行之變易、變異，而生愁、悲、苦、憂、惱。若於識不離貪、不離欲、不離愛、不離渴、不離熱煩、不離渴愛者，彼識之變易、變異，生愁、悲、苦、憂、惱。友等！我等之師見如是過患故，於色教令調伏欲貪……於受……於想……於行……於識教令調伏欲貪。』

一三

友等！如是說而有重問者、〔謂〕是賢剎帝利、賢婆羅門、賢居士、賢沙門心。友等！諸賢人好觀察，具壽等之師，見何之福利，故於色以教調伏欲貪耶？於受以教……於想……於行……於識以教調伏欲貪耶？友等！若作如是問者，應如是說：『友等！〔謂〕若於色離貪、離欲、離愛、離渴、離熱煩、離渴愛者，彼色之變易、變異、而不生愁、悲、苦、憂、惱。若於受……於想……於行離貪、離欲、離愛、離渴、離熱煩、離渴愛者，彼行之變易、變異，而不生愁、悲、苦、憂、惱。若於識離貪、離欲、離愛、離渴、離熱煩、離渴愛者，彼識之變易、變異，而不生愁、悲、苦、憂、惱。友等！我等之師見如是福利故，於色以教調伏欲貪。……於受以教……於想……於行……於識以教調伏欲貪。』

一四

友等！若具足諸不善法而住，而且得現法樂住，無障礙、無熱煩。身壞命終而得善趣者，世尊即不讚歎斷諸不善法。

一五

友等！雖然，具足諸不善法而住者，於現法苦住，有障礙、有憂惱、有熱煩，身壞命終，當得惡趣故，世尊讚歎斷諸不善法。

一六

友等！若諸善法具足而住，而且於現法苦住，有障礙、有憂惱、有熱煩、身熱煩，身壞命終，當得惡趣者，世尊即不讚歎具足諸善法。

一七

友等！雖然，具足諸善法而住者，得現法樂住，無障礙、無憂惱、無熱煩，身壞命終，當得善趣故，世尊讚歎具足諸善之法。」

一八

具壽舍利弗如是說已，彼比丘等喜悅，歡喜具壽舍利弗之所說。

〔三〕第三 訶梨（一）

一

如是我聞。爾時，具壽摩訶迦旃延住於阿槃提國之拘留歡喜山曲中。

二

時，有訶梨居士，來具壽摩訶迦旃延處。敬禮具壽摩訶迦旃延，而坐於一面。

三

坐於一面之訶梨居士，言具壽摩訶迦旃延曰：

「大德！世尊於摩犍提所問而說義品經

牟尼無家無住處
無絕近習於聚落
以空諸欲無希望
何不與人事諍論

大德！應如何見世尊所略說之廣義耶？」

四～七

「居士！色界是識之家，色界中貪所繫之識，名為住家。
居士！受界是識之家，受界中貪所繫之識，名為住家。居士！
想界是識之家，想界中之識，名為住家。居士！行界是識之
家，行界中之識，名為住家。

居士！如是為住家。

八

居士！以何為不住家耶？

九

居士！色界之諸欲、貪、喜、愛、取，意之攝受，現貪，
隨眠者，如來已斷，如截斷根本之多羅樹頭，令歸於無，使未
來無生。是故如來名為不住家。

一〇

居士！受界之……乃至……

一一

居士！想界之……乃至……

一二

居士！行界之……乃至……

一三

居士！識界之諸欲、貪喜……乃至使……無生。是故如來名為不住家。

一四

居士！如是為不住家。

一五

居士！以何為住處耶？居士！色之因為住處，流出與繫，名為住處。居士！聲之因為住處……乃至……香之因為住處……乃至……味之因為住處……乃至……所觸之因為住處……法之因為住處，流出與繫，名為住處。

一六

居士！以何為不住於住處耶？居士！色因住處之流出與繫，如來已斷，如截斷根本之多羅樹頭，令歸於無，使未來無生。是故如來名為不住住處。

居士！聲之因為住處……乃至……香之因為住處……乃至……味之因為住處……乃至……所觸之因為住處……乃至……

居士！法之因為住處之流出與繫，如來已斷，如截斷根本之多羅樹頭，令歸於無，使未來無生。是故如來名為不住住處。

一七

居士！如是為不住住處。

一八

居士！以何為近習於聚落者？居士！此處有人，與在家人混住，以同喜、同憂，樂彼所樂，苦彼所苦，所生作為以竭自力。居士！如是為近習聚落者。

一九

居士！何為不近習聚落者？居士！此處有比丘，不與在家人混住，不以同喜同憂，不樂彼所樂，不苦彼所苦，所生作為亦不竭自力。居士！如是為不近習聚落者。

二〇

居士！以何為未空諸欲者？居士！此處有人，於諸欲不離貪、不離欲、不離愛、不離渴、不離熱煩、不離渴愛。居士！如是為未空諸欲者。

二一

居士！以何為已空諸欲者？居士！此處有人，於諸欲離貪、離欲、離愛、離渴、離熱煩、離渴愛。居士！如是為已空諸欲者。

二二

居士！以何為希望者？居士！此處有人，為思惟：『我於來世得如是色、得如是受、得如是想、得如是行、得如是識。』居士！如是為希望者。

二三

居士！以何為無希望者？居士！此處有人，不為思惟：『我於未來世得如是色、得如是受、得如是想、得如是行、得如是識。』居士！如是為無希望者。

二四

居士！以何為與人爭論者？居士！此處有人，作如是論，言：『汝不知此法、律，我知此法、律，如何汝不知此法、律？汝為邪行，我為正行，汝應說於前者而說於後，應說於後者而說於前，我〔言〕相應，汝〔言〕不相應，汝常覆所行，汝雖立論，為脫論而遊行，汝墮負處，若能者自解。』

居士！如是為與人爭論者。

二五

居士！何為不與人爭論者？居士！此處有比丘，作如是論，不言：『汝不知此法、律，……乃至……若能者自解。』居士！如是為不與爭論者。

二六

居士！是故，世尊於摩犍提所問而說義品經：

牟尼無家無住處
無絕近習於聚落
以空諸欲無希望
向不與人事爭論

居士！應如是見世尊所略說之廣義。」

〔四〕第四 訶梨（二）

一

如是我聞。爾時，具壽摩訶迦旃延住阿槃提國之拘留歡喜山曲中。

二

時，有訶梨居士，來詣具壽摩訶迦旃延處……乃至……

三

坐於一面之訶梨居士，謂於具壽摩訶迦旃延：

四

「大德！世尊於帝釋所問而說：『若沙門、婆羅門，渴愛盡而解脫者，以究竟終畢，究竟安隱、究竟梵行、究竟邊際，為人天之最上。』大德！應如何見世尊所略說之廣義耶？」

五

「居士！盡色界之諸欲、貪、喜、愛、近、取、意之攝受、現貪、隨眠，依離此、滅此、棄此而定棄，則謂心善解脫者。

六

居士！受界……乃至……

七

居士！想界……乃至……

八

居士！行界……乃至……

九

居士！盡識界之諸欲、貪、喜、愛、近、取、意之攝受、現貪、隨眠，依離此、滅此、棄此、定棄，則謂心善解脫者。

一〇

居士！是世尊於帝釋所問而說：『若沙門、婆羅門，渴愛盡而解脫者，究竟終畢，究竟安穩、究竟梵行、究竟邊際，為人天之最上。』居士！應如是見世尊所略說之廣義。」

〔五〕第五 三昧

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

於此，世尊告諸比丘曰：「諸比丘！」「大德！」彼諸比丘應諾世尊。世尊乃如是說曰：

「諸比丘！應修習三昧。諸比丘！入三昧之比丘應如實了知。

三

何為如實了知耶？〔謂〕色集與滅，受集與滅，想集與滅，行集與滅，識集與滅是。

四

諸比丘！以何為色集耶？以何為受集耶？以何為想集耶？以何為行集耶？以何為識集耶？

五

諸比丘！於此處歡喜、歡呼、耽著而住。何為歡喜、歡呼、耽著而住耶？

六

歡喜、歡呼、耽著於色而住。依歡喜、歡呼、耽著，而彼生喜。喜取於色。緣取而彼有生，緣有而彼生生，緣生而老、死、愁、悲、苦、憂、惱生。如是於此處，悉皆有苦蘊之集。

七～九

歡喜於受……乃至……歡喜於想……乃至……歡喜於行……乃至……

一〇

歡喜、歡呼、耽著於識而住。依歡喜、歡呼、耽著於識而住，而彼生喜、喜取於識。緣取而彼有生，緣有而生生。緣生……乃至……如是於此處悉皆苦蘊之集。

一一

諸比丘！此是色之集……乃至……受……乃至……想……乃至……行……乃至……是識之集。

一二

諸比丘！何為色之滅耶！……乃至……受……乃至……想……乃至……行……乃至……是為識之滅。

諸比丘！於此處不歡喜、不歡呼，不耽著而住。何為不歡喜，不歡呼，不耽著而住耶？

一三

不歡喜、不歡呼、不耽著於色而住。依不歡喜、不歡呼、不耽著於色而住，彼於色喜滅，喜滅故彼取滅。取滅故有滅，……乃至……如是於此處悉皆苦蘊之滅。

一四

不歡喜、不歡呼，不耽著於受而住。依不歡喜、不歡呼、不耽著於受而住，彼受喜滅，喜滅故彼取滅，取滅故有滅，有滅故……乃至……如是而於此處，悉皆苦蘊之滅。

一五

不歡喜於想……乃至……

一六

不歡喜、不歡呼、不耽著行而住。依不歡喜、不歡呼，不耽著於行而住，則彼於行喜滅。喜滅故彼取滅。取滅故……乃至……如是而於此處，悉皆苦蘊之滅。

一七

不歡喜、不歡呼、不耽著於識而住。依不歡喜、不歡呼，不耽著於識而住，則彼於識喜滅，……乃至……喜滅故彼取滅，……乃至……如是於此處，悉皆苦蘊之滅。

一八

諸比丘！此色之滅……乃至……受之滅，想之滅、行之滅、識之滅。」

〔六〕第六 宴默

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！於宴默得瑜伽。諸比丘！為宴默之比丘如實了知。」

三

以何為如實了知耶？〔謂〕色之集與滅，受之集與滅，想之集與滅，行之集與滅，識之集與滅。

四

（應如始經之廣說。）」

〔七〕第七 取著恐懼（一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！我為汝等說取著恐懼與不取著、不恐懼。諦聽，善思念，我將說。」

「唯唯，大德！」彼諸比丘應諾世尊。

三

世尊說：

「諸比丘！以何為取著、恐懼耶？」

四

諸比丘！此處有無聞之凡夫，不見聖人，不知聖人之法，不順聖人之法，不見善知識，不知善知識之法，不順善知識之法。觀色是我，我以色有，我中有色，色中有我。彼人於色變易、變異。彼人有色之變易、變異，隨轉色之變易而識生，彼人有隨轉色變易所生之恐懼及法生起，以心永盡而住。以心永盡故即驚愕、困惑、希望、取著而恐懼。

五

觀受是我，我以受有，我中有受，受中有我。彼人於受變易、變異。彼人有受之變易、變異，隨轉色之變易而識生。彼人有隨轉受之變易所生之恐懼法生起，以心永盡而住。以心永盡故，即驚愕、困惑、希望，取著而恐懼。

六

想……乃至……

七

觀行是我，我以行有，我中有行，行中有我。彼人於行變易、變異。彼人有行變易、變異，隨轉行之變易而識生。彼人有隨轉行之變易所生之恐懼及法之生起，以心永盡而住。心永盡故即驚愕、困惑，希望、取著而恐懼。

八

觀識是我，我以識有，我中有識，識中有我。彼人於識變易、變異。彼人有識之變易、變異，隨轉識之變易而識生。彼人有隨轉識之變易所生之恐懼及法之生起，以心永盡而住，以心永盡故即驚愕、困惑、希望，取著而恐懼。

九

諸比丘！取著、恐懼者，即如是。

一〇

諸比丘！何為不取著、不恐懼耶？

一一

諸比丘！此處有有聞之聖弟子。見聖人，知聖人之法，善順聖人法，以見善知識，知善知識之法，善順善知識之法。不觀色是我，我以色有，我中有色，色中有我。彼人於色變易、變異。彼人有色之變易、變異，隨轉色之變易而識不生。彼人有隨轉色變易所生之恐懼及法之生起，以心不永盡而住，心不永盡故，即不驚愕，不困惑，不希望，不取著而不恐懼。

一二

不觀受是我，我以受有，我中有受，受中有我。彼人於受變易、變異。彼人有受之變易、變異，隨轉受之變易而識不生。彼人有隨轉受變易所生之恐懼及法之生起，以心不永盡而住，心不永盡故，即不驚愕，不困惑，不希望，不取著而不恐懼。

一三

想……乃至……

一四

不觀行是我，我以行有，我中有行，行中有我。彼人於行變易、變異。彼人有行之變易、變異，隨轉行之變易而識不生，彼人有隨轉行變易所生之恐懼及法之生起，以心不永盡而住，心不永盡故即不驚愕，不困惑，不希望，不取著而不恐懼。

一五

不觀識是我，我以識有，我中有識，識中有我。彼人於識變易、變異。彼人有識之變易、變異，隨轉識之變易而識不生。彼人有隨轉識變易所生之恐懼及法之生起，以心不永盡而

住，心不永盡故，即不驚愕，不困惑，不希望，不取著而不恐懼。

一六

諸比丘！不取著、不恐懼為如是。」

〔八〕第八 取著恐懼（二）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

二

諸比丘！我為汝等說取著恐懼及不取著、不恐懼，諦聽……乃至……。

三

「諸比丘！何為取著、恐懼耶？

四

諸比丘！此處有無聞之凡夫，觀此色是我所，我是如是，我之我是如是。彼人於色變易、變異。彼人有色之變易、變異，而生愁、悲、苦、憂、惱。

五

此受是我所……乃至……

六

此想是我所……乃至……

七

此行是我所……乃至……

八

觀此識是我所，我是如是，我之我是如是。彼人於識變易、變異。彼人有識之變易、變異，而生愁、悲、苦、憂、惱。

九

諸比丘！取著恐懼為如是。

一〇

諸比丘！何為不取著、不恐懼耶？

一一

諸比丘！此處有有聞之聖弟子，觀此識非我所，我非如是，我之我非如是。彼人於色變易、變異。彼人有色之變易、變異，而不生愁、悲、苦、憂、惱。

一二

此受非我所……乃至……

一三

此想非我所……乃至……

一四

此行非我所……乃至……

一五

觀此識非我所、我非如是、我之我非如是。彼人於識變易、變異。彼人有識之變易、變異，而不生愁、悲、苦、憂、惱。

一六

諸比丘！不取著、不恐懼者為如是。」

〔九〕第九 過去未來現在（一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！過去未來之色皆是無常，何況現在之〔色〕耶？諸比丘！有聞之聖弟子如是觀，不顧過去之色，不悅未來之色，對現在之色趣向厭離、離欲、滅盡。

三

受是無常……乃至……

四

想是無常……乃至……

五

過去未來之行皆無常，何況現在之〔行〕耶？諸比丘！有聞之聖弟子如是觀，不顧過去之行，不悅未來之行，對現在之行趣向厭離、離欲、滅盡。

六

過去未來之識皆無常，何況現在之〔識〕耶？諸比丘！有聞之聖弟子如是觀，不顧過去之識，不悅未來之識，對現在之識趣向厭離、離欲、滅盡。」

〔一〇〕第十 過去未來現在（二）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！過去未來之色皆是苦，何況現在之〔色〕耶？諸比丘！多聞之聖弟子如是觀，不顧過去之色，不悅未來之色，對現在之色趣向厭離、離欲、滅盡。

三

受皆苦……乃至……

四

想皆苦……乃至……

五

行皆苦……乃至……

六

過去未來之色皆是苦，何況現在之〔識〕耶？諸比丘！有聞之聖弟子如是觀，不顧過去之識，不悅未來之識，對現在之識趣向厭離、離欲、滅盡。」

〔一一〕第十一 過去未來現在（三）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！過去未來之色皆是無我，何況現在之色耶？諸比丘！多聞之聖弟子如是觀，不顧過去之色，不悅未來之色，對現在之色趣向厭離、離欲、滅盡。」

三

受皆是無我……乃至……

四

想皆是無我……乃至……

五

行皆是無我……乃至……

六

過去、未來之識皆是無我，何況現在之〔識〕耶？諸比丘！有聞之聖弟子如是觀，不顧過去之識，不悅未來之識，對現在之識趣向厭離、離欲、滅盡。」

第一 那拘羅父 品 終

此品之攝頌曰：

謂那拘羅父 天現訶梨二
三昧與宴默 取著恐懼二
過未與現在 是故名此品

第二 無常品

〔一二〕第一 無常

一

如是我聞。〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

於此……乃至……

三

「諸比丘！色是無常……乃至……

四～六

受是無常……想是無常……行是無常……識是無常。

七

諸比丘！有聞之聖弟子如是觀色、厭離色、厭離受、厭離想、厭離行、厭離識，厭離而離欲，離欲而解脫，解脫即生解脫智，即知：生已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。」

〔一三〕第二 苦

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三～七

「諸比丘！色是苦，受是苦，想是苦，行是苦，識是苦。」

八

諸比丘！有聞之聖弟子……乃至……知……不受後有。」

〔一四〕第三 無我

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三～七

「諸比丘！色無我，受無我，想無我，行無我，識無我。」

八

諸比丘！有聞之聖弟子……乃至……知：……不受後有。」

〔一五〕第四 無常者（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是無常，無常者是苦，苦者是無我，無我者非我所，非我，非我之我。應以正慧如實作如是觀。

四

受是無常，無常者是苦，苦者是無我，無我者非我所，非我，非我之我。應以正慧如實作如是觀。

五

想是無常……

六

行是無常……

七

識是無常，無常者是苦，苦者是無我，無我者非我所，非我，非我之我。應以正慧如實作如是觀。

八

諸比丘！有聞之聖弟子……乃至……知……不受後有。」

〔一六〕第五 無常者（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是苦，苦者是無我，無我者非我所，非我，非我之我。」

四

受是苦……

五

想是苦……

六

行是苦……

七

識是苦，苦者是無我，無我者非我所，非我，非我之我。
應以正慧如實作如是觀。

八

諸比丘！有聞之聖弟子……乃至……知……不受後有。」

〔一七〕第六 無常者（三）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是無我，無我者非我所，非我，非我之我。
應以正慧如實作如是觀。

四～六

受是無我……想是無我……行是無我……

七

識是無我，無我者非我所，非我，非我之我。應以正慧如
實作如是觀。

八

諸比丘！有聞之聖弟子……乃至……知……不受後有。」

〔一八〕第七 因（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是無常，以色所生起之因、緣亦是無常，諸
比丘！依無常之〔因、緣〕所生起之色，如何是有常耶？

四

受是無常，以受所生起之因、緣亦是無常。諸比丘！依無
常之〔因、緣〕所生起之受，如何是有常耶？

五

想是無常……乃至……

六

行是無常。以行所生起之因、緣亦是無常。諸比丘！依無常之〔因、緣〕所生之行，如何是有常耶？

七

識是無常，以識所生起之因、緣亦是無常，諸比丘！依無常之〔因、緣〕所生起之識，如何是有常耶？

八

諸比丘！有聞之聖弟子……乃至……知……不受後有。」

〔一九〕第八 因（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是苦，以色所生起之因、緣亦是苦。諸比丘！依苦之〔因、緣〕所生起之色，如何是有樂耶？

四

受是苦……乃至……

五

想是苦……

六

行是苦……

七

識是苦，以識所生起之因、緣亦是苦。諸比丘！依苦之〔因、緣〕所生起之識，如何是有樂耶！

八

諸比丘！……乃至……知……不受後有。」

〔二〇〕第九 因（三）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是無我，以色所生起之因、緣亦是無我。諸比丘！依無我之〔因、緣〕所生起之色，如何是有我耶？

四～六

受是無我……想是無我……行是無我……

七

識是無我，以識所生起之因、緣亦是無我。諸比丘！依無我之〔因、緣〕所生起之識，如何是有我耶？

八

諸比丘！有聞之聖弟子……乃至……知……不受後有。」

〔二一〕第十 阿難

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

時，具壽阿難來詣世尊之止處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

三

坐於一面之具壽阿難，白世尊曰：

「大德！曾說於滅，滅。大德！如何法之滅故而說滅耶？」

四

「阿難！色是無常、有為、緣起所生，為盡法、壞法、離法、滅法者。彼之滅故說是滅。

五

受是無常、有為、緣起所生，為盡法、壞法、離法、滅法者。彼之滅故說是滅。

六～七

想是無常……行是無常、有為、緣起所生，為盡法、壞法、滅法者。

八

識是無常、有為、緣起所生，為盡法、壞法、滅法者。彼之滅故說是滅。

九

阿難！如是之法滅故說是滅。」

第二 無常品
終

此品之攝頌曰：

無常苦無我
無常其他三
依因亦為三
阿難問為十

第三 重擔品

〔二二〕第一 重擔

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我為汝等說：重擔、擔者、取擔、捨擔，且諦聽！」

四

諸比丘！以何為重擔耶！

應名為五取蘊。以何為五耶？謂色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊。諸比丘！此名為重擔。

五

諸比丘！以何為擔者耶？應名為士夫（補特迦羅），有如是名，如是姓，是具壽。

六

諸比丘！以何為取擔耶？

當來有渴愛而喜貪俱行，樂著於彼彼，是謂欲愛、有愛、非有愛者。諸比丘！以此名為取擔。

七

諸比丘！以何為捨擔耶？

即前之渴愛，無餘之離滅、棄捨、定棄、解脫、無執著是。諸比丘！以此名為捨擔。」

八

世尊如是說。如是說已，師善逝更說曰：

（一）重擔是五蘊

擔者名士夫

世間取擔苦

捨擔為安樂

（二）已捨重擔者

不再取重擔

根絕渴愛者

無欲般涅槃

〔二三〕第二 徧智

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！將說所知法與徧智，且諦聽！

四

諸比丘！以何為所知法耶？諸比丘！色是所知法，受是所知法，想是所知法，行是所知法，識是所知法。諸比丘！如是名為所知法。

五

諸比丘！以何為徧智耶？諸比丘！乃貪欲之滅盡，瞋恚之滅盡，愚癡之滅盡。諸比丘！如是名為徧智。」

〔二四〕第三 徧智（證知）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！若於色不證知、不徧知、不離、不斷色者，即不能滅盡於苦。

四

若於受不證知……乃至……

五～六

著於想不證知……於行不證知……

七

若於識不證知、不徧知、不離、不識者，即不能滅盡於苦。

八

諸比丘！若於色能證知、徧知、離、斷色者，即能滅盡於苦。

九～一一

若於受能證知……想……行……

一二

若於識能證知、徧知、離、斷識者，即能滅盡於苦。」

〔二五〕第四 欲貪

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！須斷色之欲貪！如是斷色者，即如斷其根本，截去多羅樹頭，以歸於無，令不生於未來。

四

須斷受之欲貪，如是斷受者，即如斷其根本，截去多羅樹頭，以歸於無，令不生於未來。

五

須斷想之欲貪……

六

須斷行之欲貪！如是斷行者，即如斷其根本，截去多羅樹頭，以歸於無，令不生於未來。

七

須斷識之欲貪！如是斷識者，即如斷其根本，截去多羅樹頭，以歸於無，令不生於未來。」

〔二六〕第五 味（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我昔做菩薩未現正等正覺時，作如是思惟：

四

『以何為色味？以何有過患？以何為出離耶？以何為受之……想之……行之……識之味，以何過患，以何為出離耶？』

五

諸比丘！於此我如是思惟：

六

『緣於色而生喜樂，此為色之味。色是無常、苦而有變壞法，此為色之過患。調伏色之欲貪，以斷欲愛，此為色之出離。

七

緣於受……

八

緣於想……

九

緣於行而生喜樂，此為行之味。行是無常、苦而有變壞法，此為行之過患。調伏行之欲愛，以斷欲愛，此為行之出離。

一〇

緣於識而生喜樂，此為識之味。識是無常、苦而有變壞法。此為識之過患。調伏識之欲愛，以斷欲愛，此為識之出離。』

一一

諸比丘！我於此五取蘊，未味如是之味，過患為過患，出離為出離，未如實證知之時，諸比丘！我於天、魔、梵天之世界、沙門、人、天之眾生界，未稱現等覺之無上正等覺。

一二

諸比丘！然則，我於此五取蘊，已味如是之味，過患為過患，出離為出離，如實證知故。諸比丘！我於天、魔、梵天世界、沙門、婆羅門、人、天之眾生界，稱現等覺之無上正等覺。

一三

又於我生智、見，我心解脫不動，此乃我之最後生，不再受後有。」

〔二七〕第六 味（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我於色，行味之尋求，證得色之味，以慧善見其色味。

四

諸比丘！我於色，行過患之尋求，證得色之過患，以慧善見色之過患。

五

諸比丘！我於色，行出離之尋求，證得色之出離，以慧善見色之出離。

六～八

諸比丘！我於受……

九～一一

諸比丘！我於想……

一二～一四

諸比丘！我於行……

一五

諸比丘！我於識，行味之尋求，證得識之味，以慧善見識之味。

一六

諸比丘！我於識，行過患之尋求，證得識之過患，以慧善見識之過患。

一七

諸比丘！我於識，行出離之尋求，證得識之出離，以慧善見識之出離。

一八～一九

諸比丘！我於此五取蘊，未以味為味，以過患為過患，以出離為出離，未如實證知之時……稱……

二〇

又，於我生知、見，我心解脫不動，此乃我之最後生，更不再受後有。」

〔二八〕味（三）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！若無色之味，有情即不染於色。諸比丘！然則，有色味故，有情染於色。」

四

諸比丘！若無色之過患，有情即不厭患於色。諸比丘！然則，有色之過患故，有情厭患於色。」

五

諸比丘！若無色之出離，有情即不出離於色。諸比丘！然則，有色之出離故，有情由色出離。」

六～八

諸比丘！若受……

九～一三

諸比丘！若想……乃至……

一四

諸比丘！若無行之出離，有情即不出離於行。諸比丘！然則，有行之出離故，有情由行出離。

一五

諸比丘！若無有識之味，有情即不染於識。諸比丘！然則，有識之味故，有情染於識。

一六

諸比丘！若無識之過患，有情即不厭患於識，諸比丘！然則，有識之過患故，有情厭患於識。

一七

諸比丘！若無識之出離，有情即不出離於識。諸比丘！然則，有識之出離故，有情由識出離。

一八

諸比丘！有情於此五取蘊，以味為味，以過患為過患，以出離為出離，而未如實證知之時，諸比丘！有情不出離、離繫、解脫天、魔、梵天之世界、沙門、婆羅門、人、天之眾生界、以住於自在心。

一九

諸比丘！然則，有情於此五取蘊，以味為味，以過患為過患，以出離為出離，如實證知故，諸比丘！有情出離、離繫、解脫天、魔、梵天之世界、沙門、婆羅門、人、天之眾生界、以住於自在心。」

〔二九〕第八 歡喜

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！若歡喜色者，即歡喜苦；歡喜苦者，即未由苦解脫。

四

若歡喜受者……

五

若歡喜想者……

六

若歡喜行者……

七

若歡喜識者，即歡喜苦；歡喜苦者，即未由苦解脫。

八

諸比丘！不歡喜色者，即不歡喜苦；不歡喜苦者，即已由苦解脫。

九

不歡喜受者……

一〇

不歡喜想者……

一一

不歡喜行者……

一二

不歡喜識者，即不歡喜苦；不歡喜苦者，即已由苦解脫。」

〔三〇〕第九 生

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！若色之生、住、起、現者，則生苦、住病、現老死。」

四～六

若受……想……行……

七

若識之生、住、起、現者，則生苦、住病、現老死。」

八

諸比丘！然則，若色之滅、息、沒者，則苦滅、病息、老死沒。

九～一一

若受……想……行……

一二

若識之滅、息、沒者，則苦滅、病息、老死沒。」

〔三一〕第十 痛根

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我將說痛與痛根，且諦聽！

四

諸比丘！以何為痛耶？

諸比丘！色是痛，受是痛，想是痛，行是痛，識是痛。諸比丘！此名為痛。

五

諸比丘！以何為痛根耶？

當來有渴愛，而喜貪俱行，樂著於彼彼，是謂欲愛、有愛、非有愛者。諸比丘！此名為痛根。」

〔三二〕第十一 壞法

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我將說壞法與不壞法，且諦聽！

四

諸比丘！以何為壞法，何為不壞法耶？

五

諸比丘！色是壞法，彼若滅、息、沒者，則是不壞法。

六

受是壞法，彼若滅、息、沒者，則是不壞法。

七

想是壞法……

八

行是壞法，彼若滅、息、沒者，則是不壞法。

九

識是壞法，彼若滅、息、沒者，則是不壞法。」

第三重擔品 終

此品之攝頌曰：

重擔與徧智
徧知四欲貪
味三八歡喜
生以及痛根
十一說壞法

第四 非汝所應法品

〔三三〕第一 非汝應法（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！非汝所應法，當斷，汝等若斷此，此則得利益安樂。」

四

諸比丘！以何為非汝等所應之法耶？

五

諸比丘！色為非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。

六

受是非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。

七

想……乃至……

八

行是非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。

九

識是非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。

一〇

諸比丘！譬如祇樹林之草木枝葉，有人或奪、或燒、或隨意處置。汝等作思惟：『人或我等得以或奪、或燒、或隨意處置』否？」

「大德！無有是處。

所以者何？

大德！此非我等之我，亦非我所故。」

一一

「諸比丘！如是之色，非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。受是……想是……行是……識是非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。」

〔三四〕第二 非汝所應法（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！若非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。」

四

諸比丘！以何為非汝等所應之法耶？

五

諸比丘！色是非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。」

六～八

受是非汝等……乃至……想是……行是……

九

識是非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。」

一〇

諸比丘！若非汝等所應之法，於此當斷，汝等若斷此，則得利益安樂。」

〔三五〕第三 比丘（一）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

第一章

二

時，有一比丘，來詣世尊之處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

三

「大德世尊！請為我略說法要。我從世尊聽法，以獨自靜居不放逸，熱誠精進而住。」

四

「比丘！若有所執者，依此有稱，若無所執者，依此非稱也。」

「世尊！〔我〕知矣！善逝！〔我〕知矣！」

五

「比丘！汝如何廣解我所略說之義耶？」

六

「大德！若執著色者，依此有稱。若執著受者，依此有稱。若執著想者，依此有稱。若執著行者，依此有稱。若執著識者，依此有稱。」

七

大德！若不執著者，依此非稱，若不執著受……想……行……識者，依此非稱。大德！如是廣解世尊所略說之義。」

八

「比丘！善哉！善哉！比丘！善廣解我所略說之義。比丘！若執著色，依此有稱，若執著受……想……行……識，依此有稱。比丘！若不執著色，依此非稱，若不執著受……想……行……識，依此非稱。比丘！應如是廣觀我所略說之義。」

九

時彼比丘，歡喜、隨喜世尊之所說，則從座而起，敬禮右繞世尊而去。

第二章

一〇

時，彼比丘獨自靜居，不放逸，熱誠精進而住。不久，善男子是於正當出家，以出家之本意，為現法究竟無上之梵行，自具足證知現證而住，證知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。

一一

彼比丘則成為羅漢。

〔三六〕比丘（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

時有一比丘，來詣世尊之處，……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

三

「大德世尊！請為我略說法要，我由聞依於世尊法，獨自靜居不放逸，熱誠精進而住。」

四

「比丘！若有執處，則令比知，若令有所比知，依此而有稱。若無所執，則不令比知，若無所比知，此非有稱。」

「世尊！〔我〕知矣，善逝！〔我〕知矣！」

五

「比丘！汝如何廣解我所略說之義耶？」

六

「大德！若執色者，則令比知，若令有所比知，依此而有稱。若執受……想……行……識者，則令比知，若令有所比知，依此而有稱。」

七

大德！若不執色者，則不令比知，若無所比知，依此則非有稱。若不執受……想……行……識者，則不令比知，若不令

比知者，則無所有，依此而非有稱。大德！我如是廣解世尊所略說之義。」

八

「比丘！善哉、善哉！善廣解我所略說之義。比丘！若執色者，則令比知，若有所比知者，依此而有稱。若執受……想……行……識者，則令比知，若有所比知者，依此而有稱。比丘！若不執色者，則不令比知，若無所比知者，依此而非有稱。若不執受……想……行……識者，則不令比知，若無所比知者，依此而非有稱。比丘！應如是廣觀我所略說之義。」

九

時，彼比丘歡喜，隨喜世尊之所說，則從座而起，敬禮、右繞世尊而去。

一〇

時，彼比丘獨自靜居，不放逸，熱誠精進而住……乃至……

一一

彼比丘成為阿羅漢。

〔三七〕第五 阿難（一）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

時，具壽阿難……乃至……

三

一面坐時，世尊言具壽阿難曰：

「阿難！若有向汝如是問：『友阿難！於何等之法，知生、知滅、知住之異耶？』阿難！若如是問，汝應如何作答耶？」

四

「大德！若有如是問我：『友阿難！於何等之法，知生、知滅、知住之異耶？』大德！若如是問，我應如是作答：

五

『友！於色，知生、知滅、知住之異。於受……於想……於行……於識知生、知滅、知住之異。友！於此等之諸法，知生、知滅、知住之異。』大德！若如是問，我應如是作答。」

六

「阿難！善哉、善哉！阿難！於色，知生、知滅、知住之異。於受……於想……於行……於識，知生、知滅、知住之異。阿難！於此等之法，知生、知滅、知住之異。阿難！若如是問、汝應如是作答。」

〔三八〕第六 阿難（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……園……乃至……時，具壽阿難……乃至……

三

坐於一面時，世尊謂於具壽阿難曰：

「阿難若有如是問汝：『友阿難！於過去何等之法，知生、知滅、知住之異耶？於未來何等之法知生、知滅、知住之異耶？於現在何等之法，知生、知滅、知住之異耶？』阿難！若如是問，汝應如何作答耶？」

四

「大德！若有如是問我：『友阿難！於過去何等之法，知生、知滅、知住之異耶？於未來何等之法知生、知滅、知住之異耶？於現在何等之法，知生、知滅、知住之異耶？』大德！若如是問者，我應如是答：

五

『友！於過去、已滅、已壞之色，知生、知滅、知住之異。於過去、已滅、已壞之受，知生、知滅、知住之異……想……行……於過去、已滅、已壞之識，知生、知滅、知住之異。友！於此等之諸法，知生、知滅、知住之異。』

六

友！於未生、未現之色，知生、知滅、知住之異……乃至……於未來、未現之識，知生、知滅、知住之異。友！於此等之諸法，知生、知滅、知住之異。

七

友！於已生、已現之色知生、知滅、知住之異……乃至……於已生、已現之識知生、知滅、知住之異。友！於此等之諸法知生、知滅、知住之異。』大德！若如是問，我應如是作答。」

八

「阿難！善哉、善哉！阿難！於過去、已滅、已壞之色知生、知滅、知住之異……於受……於想……於行……於過去、已滅、已壞之識知生、知滅、知住之異。阿難！於此等之諸法，知生、知滅、知住之異。」

九

阿難！於未生、未現之色，知生、知滅、知住之異……於受……於想……於行……於未生、未現之識，知生、知滅、知住之異。阿難於此之諸法，知生、知滅、知住之異。」

一〇

阿難！於已生、已現之色知生、知滅，知住之異……於受……於想……於行……於已生、已現之識，知生、知滅、知住之異。阿難！於此等之諸法知生、知滅、知住之異。」

一一

阿難！若如是問，汝應如是作答。」

〔三九〕第七 隨法（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！向法隨法比丘，得此隨法。〔謂：〕於色多厭患而住，於受多厭患而住，於想多厭患而住，於行多厭患而住，於識多厭患而住。

四

彼於色多厭患而住，於受……想……行……識多厭患而住者，則徧知於色，徧知受……想……行……識。

五

彼徧知於色，徧知於受……想……行……識者，則由色解脫，由受……想……行……識解脫。由生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱解脫，由苦解脫。」

〔四〇〕第八 隨法（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三～五

「諸比丘！向法隨法之比丘，得此隨法。〔謂：〕於色觀無常而住，……乃至……由苦解脫。」

〔四一〕第九 隨法（三）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三～五

「諸比丘！於法隨法……乃至……於色觀苦而住……乃至……由苦解脫。」

〔四二〕第十 隨法（四）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！向法隨法之比丘，得此隨法。〔謂：〕於色觀無我而住，於受……於想……於行……於識觀無我而住。」

四

彼於色觀無我而住……乃至……徧知色、徧知受……想……行……識。

五

彼徧知於色，徧知於受……想……行……識者，則由色解脫，由受……想……行……識解脫，由生、老、死、愁、悲、苦、憂惱解脫，由苦解脫。」

第四汝所應品

〔終〕

攝頌曰：

非汝所應二
比丘亦有二
阿難同是二
說隨法為四

第五 自洲品

〔四三〕第一 自洲

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！以自為洲，以自為依，不為異依，以法為洲，以法為依，不為異依而住。

四

諸比丘！以自為洲，以自為依，不為異依，以法為洲，以法為依，不為異依而住。應如理觀察：愁、悲、苦、憂、惱由何而生？由何而現耶？

五

諸比丘！愁、悲、苦、憂、惱由何而生？由何而現耶？

六

諸比丘！於此處有無聞之凡夫，不見聖人，不知聖人之法，不順聖人之法，不見善知識，不知善知識之法，不順善知識之法。以觀色是我，我以色有，我中有色，色中有我。彼人

於色變易、變異。彼人因有色之變易、變異而生愁、悲、苦、憂、惱。

七

觀受是我，我以受有，受中有我，我中有受。彼人於受變易、變異。彼人因有受之變易、變異而生愁、苦、憂、惱。

八

觀想是我……

九

觀行是我……

一〇

觀識是我，我以識有，我中有識，識中有我、彼人於識變易、變異。彼人因有色之變易、變異而生愁、悲、苦、憂、惱。

一一

諸比丘！於色知無常、變易、離欲、滅盡。前色以及現在一切色，皆是無常、苦而有變易之法，如是以如實正慧觀者，則愁、悲、苦、憂、惱斷。令斷彼等故不恐懼，不恐懼故樂住，名樂住比丘，為一向涅槃者。

一二

諸比丘！於受知無常、變易、離欲、滅盡。前受以及現在一切受，皆是無常、苦變易之法，如是以如實正慧作觀，則

愁、悲、苦、憂、惱斷。令斷彼等故不恐懼，不恐懼故樂住，
名樂住比丘，為一向涅槃者。

一三

諸比丘！於想……乃至……

一四

諸比丘！於行知無常、變易、離欲、滅盡。前行以及現在
一切行，皆是無常、苦變易之法，如是以如實正慧觀者，則
愁、悲、苦、憂、惱斷。令斷彼等故不恐懼，不恐懼故樂住，
名樂住比丘，為一向涅槃者。

一五

諸比丘！於識知無常、變易、離欲、滅盡。前識以及現在
一切識，皆是無常、苦變易之法，如是以如實正慧觀者，則
愁、悲、苦、憂、惱斷。令斷彼等故不恐懼，不恐懼故樂住，
名樂住比丘，為一向涅槃者。」

〔四四〕第二 道

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我為汝等說順有身集起之〔道〕與順有身滅盡
之道，且諦聽！

四

諸比丘！何為順有身集起之道耶？

五

諸比丘！此處有無聞之凡夫，不見聖人，不知聖人之法，不順聖人之法，不見善知識，不知善知識之法，不順善知識之法。觀色是我，我以色有，我中有色，色中有我。

六～八

觀受……想……行

九

觀識是我，我以識有，我中有識，識中有我。

一〇

諸比丘！此名順有身集起之道，為順有身集起之道。諸比丘！故於此處此義即說見順苦集之觀。

一一

諸比丘！何為順有身滅盡之道耶？

一二

諸比丘！此處有有聞之聖弟子，見聖人，知聖人之法，善順聖人之法；見善知識，知善知識之法，善順善知識之法，不觀色是我，我以色有，我中有色，色中有我。

一三～一五

不觀受……想……行……

一六

不觀識是我、我以識有，我中有識，識中有我。

一七

諸比丘！此名順有身滅盡之道，為順有身滅盡之道。諸比丘！故於此處、此義即說見順苦滅之觀。」

〔四五〕第三 無常（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是無常，無常者則苦，苦者則無我。無我者，此則非我所，此非我，此非我體。應如是以正慧如實觀之。以如是正慧如實觀者，其心則無所取而離諸漏、解脫。

四～六

受是……想是……行是……

七

識是無常，無常者……其心則無所取而離諸漏、解脫。

八

諸比丘！若於色界，比丘之心無所取而離諸漏、解脫……於受界……想界……行界……於識界，比丘之心無所取而離諸漏、解脫者，令解脫故久住，久住故知足，知足故不恐懼，不

恐懼而自般涅槃。知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不受後有。」

〔四六〕第四 無常（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是無常，無常者則苦，苦者則無我，無我者，此則非我所，此非我，此非我體。應如是以正慧如實觀之。

四～六

受是……想是……行是……

七

識是無常，無常者則苦，苦者則無我，無我者則此非我所，此非我，此非我體。應如是以正慧如實觀。

八

如是以正慧如實觀者，則不隨前邊之見，不隨前邊之見者，則不隨後邊之見，不隨後邊之見者，則不執拗妄取，不執拗妄取者，於色……受……想……行……識則心無所取而離諸漏、解脫，解脫故久住，久住故知足，知足故不恐懼，不恐懼而自般涅槃。知生已盡……不受後有。」

〔四七〕第五 觀見

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！一類之沙門、婆羅門，觀種種有我之觀見，彼等皆觀五取蘊，或觀其隨一。

四

以何為五耶？

諸比丘！此處有無聞之凡夫，不見聖人……乃至……不順善知識之法。觀我是色，我以色有，我中有色，色中有我……觀受……想……行……識是我，我以識有，我中有識，識中有我。有如是觀見，謂不離我。

五

諸比丘！又謂不離我者，則有諸根之入，〔謂〕眼根、耳根、鼻根、舌根、身根是。

六

諸比丘！有意、有法、有無明界，觸於無明觸所生之所受之無聞凡夫，思惟我，思惟此是我。思惟有，思惟無，思惟有色，思惟無色，思惟有想，思惟無想，思惟非想非非想。

七

諸比丘！亦即於其處住於五根。然則，有聞之聖弟子斷無明而生明。彼人離無明而生明故，不思惟我，不思惟此是我，

不思惟有，不思惟無，不思惟有色……無色……有想……無想……非想非非想。」

〔四八〕第六 蘊

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我為汝等說五蘊及五取蘊，且諦聽！」

四

諸比丘！以何為五取蘊耶？

五

諸比丘！所有色之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近者，名為色蘊。

六～七

所有受之……所有想之……乃至……

八

所有行之過去、未來、現在、內、外、粗、細……乃至……名為行蘊。

九

所有識之過去、未來、現在、內、粗、細、劣、勝、遠、近者，名為識蘊。

一〇

諸比丘！此等名為五蘊。

一一

諸比丘！何為五取蘊耶？

一二

諸比丘！所有色之過去、未來、現在……乃至……遠、近而有漏、所取者，名為色取蘊。

一三～一五

所有受之……乃至……遠、近而有漏、所取者，名為受取蘊。所有想之……乃至……所有行之……乃至……有漏、所取者，名為想取蘊。

一六

所有識之過去、未來、現在……乃至……遠、近而有漏、所取者，名為識取蘊。

一七

諸比丘！此等名為五取蘊。」

〔四九〕輸屢那（一）

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林迦蘭陀園。

二

時，有居士子輸屢那，來詣世尊之住處。詣而……乃至……

三

一面坐時，世尊謂於居士子輸屢那曰：

四

「輸屢那！若諸沙門、婆羅門，以無常、苦，變易法之色，觀我是勝，觀我是等，觀我是劣者，如何得非不見如實耶？
耶？」

五

以無常、苦，變易法之受，觀我是勝，觀我是等，觀我是劣者，如何得非不見如實耶？

六

以無常、苦，變易法之想……

七

以無常、苦，變易法之行，觀我是勝，觀我是等，觀我是劣者，如何得非不見如實耶？

八

以無常、苦、變易法之識，觀我是勝，觀我是等，觀我是劣者，如何得非不見如實耶？

九

輸屢那！若諸沙門、婆羅門，以無常、苦、變易法之色，不觀我是勝，不觀我是等，不觀我是劣者，如何得不見如實耶？

一〇～一二

以無常、苦、變易法之……想……行……

一三

以無常、苦變易法之識，不觀我是勝，不觀我是等，不觀我是劣者，如何得不見如實耶？

一四

輸屢那！汝意云何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若是無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「若無常、苦、變易之法，得觀此，而此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

一五

「受是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……」

一六～一七

想……行……

一八

「識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「若無常、苦、變易之法者、得觀此，此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

一九

「輸屢那！是故於此處所有色之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近者，此非我所，此非我，此非我體，應以如是正慧如實見。」

二〇～二二

所有受之……想之……行之……

二三

所有識之過去、未來、現在、內、外、粗、細、勝、劣、遠、近者，此非我所，此非我，此非我體，應以如是正慧如實見。

二四

輸屢那！如有聞之聖弟子，厭患於色、厭患於受、厭患於想、厭患於行、厭患於識、厭患而離欲，離欲故解脫，令解脫故謂解脫智生，知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不受後有。」

〔五〇〕第八 輸屢那（二）

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林迦蘭陀園。

二

時，有居士子輸屢那，來詣世尊住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

三

一面坐時，世尊謂於居士子輸屢那曰：

四

「輸屢那！若諸沙門、婆羅門，不知色，不知色集，不知色滅，不知順色滅之道。不知受，不知受集，不知受滅，不知順受滅之道。不知想……乃至……不知行，不知行集，不知行滅，不知順行滅之道。不知識，不知識集，不知識滅，不知順識滅之道者。輸屢那！彼沙門、婆羅門，不相應於我沙門中之

沙門，不相應婆羅門中之婆羅門者。又彼具壽等亦非於現法自證知、現證、具足沙門之義、婆羅門之義而住。

五

輸屢那！若諸沙門、婆羅門，知色，知色集，知色滅，知順色滅之道。知受……想……行……知識，知識集，知識滅，知順識滅之道者。輸屢那！彼沙門，婆羅門、相應於我沙門中之沙門，相應於婆羅門中之婆羅門者。又彼具壽等，亦於現法自，證知、現證、具足沙門之義、婆羅門之義而住。」

〔五一〕第九 喜盡（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！若比丘觀無常之色為無常者，則得正見。若正觀者，則厭患，喜盡故貪盡，貪盡故喜盡。喜貪盡故，名為心解脫、善解脫。

四

諸比丘！若比丘觀無常之受為無常者，則得正見。若正觀者，則厭患。喜盡故貪盡，貪盡故喜盡。喜貪盡故，名為心解脫、善解脫。

五

諸比丘！若比丘觀無常之想為無常者……乃至……

六

諸比丘！若比丘觀無常之行為無常者，則得正見。若正觀者則厭患。喜盡故貪盡，貪盡故喜盡。喜貪盡故，名為心解脫、善解脫。

七

諸比丘！若比丘觀無常之識為無常者，則得正見。若正觀者則厭患。喜盡故貪盡，貪盡故喜盡。喜貪盡故，名為心解脫、善解脫。」

〔五二〕第十 喜盡（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！對色如理作意，且如實以觀色之無常性！諸比丘！比丘若對色如理作意，如實以觀色之無常性者，則厭患於色。喜盡故貪盡，貪盡故喜盡。喜貪盡故，名為心解脫、善解脫。

四

諸比丘！對受如理作意，且如實以觀受之無常性！諸比丘！比丘若對受如理作意，如實以觀受之無常性者，則厭患於受。喜盡故貪盡，貪盡故喜盡。喜貪盡故，名為心解脫、善解脫。

五

諸比丘！對想……

六

諸比丘！對行如理作意，且如實以觀行之無常性！諸比丘！比丘若對行如理作意，如實以觀行之無常性者，則厭患於色。喜盡故貪盡，貪盡故喜盡。喜貪盡故，名為心解脫、善解脫。

七

諸比丘！對識如理作意，且如實以觀識之無常性！諸比丘！比丘若對識如理作意，如實以觀識之無常性者，則厭患於識。喜盡故貪盡，貪盡故喜盡。喜貪盡故，名為心解脫、善解脫。」

第五自洲品

〔終〕

此品之攝頌曰：

自洲以及道
無常等皆二
觀見蘊輸那
喜盡皆有二

根本五十經終

根本五十經品之攝頌曰：

名那拘羅父
無常及重擔
非汝所應法
自洲五十經
是名為第一

第二 中五十經

第一 封滯品

〔五三〕第一 封滯

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！封滯者不解脫，不封滯者，則解脫。」

四

諸比丘！於色封滯而住於識者，以色為所緣，止住於色，近倚喜而住，令生長增廣。……乃至……以行為所緣，止住於行，近倚喜而住，令生長增廣。

五

諸比丘！如說『我離於色，離於受，離於想，離於行，而施設於識之來往、死生、長益、廣大』者，無有是處。

六～一〇

諸比丘！比丘若於色界斷貪者，以斷貪故有分斷，無有識之所緣、依止。諸比丘！比丘若於受界，……於想界……於行界……於識界斷貪者，以斷貪故有分斷，無有識之所緣、依止。

一一

識無依止、無增長、無現行而解脫。以解脫故住，以住故知足，知足故無恐怖，無恐怖而自般涅槃。知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不受後有。」

〔五四〕第二 種子

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有五種之種子。以何為五耶？〔謂：〕根之種子，莖之種子，枝之種子，節之種子，種子之種子是。

四

諸比丘！此五種之種子，不壞、不腐、不害於風熱，有堅核，雖善貯藏，若無地、無水者，諸比丘！此五種之種子，得生長增廣耶？」

「大德！不也。」

五

「諸比丘！此五種之種子，壞、腐、害於風熱，核不堅，不善貯藏，若有地、有水者，諸比丘！此五種之種子，得生長增廣耶？」

「大德！不也。」

六

「諸比丘！此五種之種子，不壞……乃至……善貯藏，若有地、有水者，諸比丘！此五種之種子，得生長增廣耶？」

「大德！是也。」

七

「諸比丘！地界者，譬如可見四識住。諸比丘！水界者，譬如可見喜貪。諸比丘！五種之種子者，譬如可見識與食。

八

諸比丘！於色封滯而住識者，以色為所緣，止住於色，近依喜而住，生長、增廣。

九

諸比丘！於受封滯而住識者，乃……近依喜而住，生長、增廣。

一〇

諸比丘！於想封滯……乃至……

一一

諸比丘！於行封滯而住識者，以行為所緣，而止住於行，近倚喜而住，生長、增廣。

一二

諸比丘！如說『我離於色、離於受、離於想、離於行，而施設於識之來往、死生、長益、廣大』者，無有是處。

一三

諸比丘！比丘若於色界斷貪者，以斷貪故有分斷，無有識之所緣、依止。

一四～一六

諸比丘！比丘若於受界……想界……行界……

一七

若於識界斷貪者，以斷貪故有分斷，無有識之所緣、依止。

一八

於識無依止、無增益，無現行而解脫。以解脫故住，以住故而知足，知足故不恐怖，不恐怖而自般涅槃，知：生已盡……乃至……不受後有。」

〔五五〕第三 優陀那

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

於此，世尊為唱優陀那曰：

非我非我所
應無我我所
若如是勝解
則斷下分結

三

如是說時，有一比丘白世尊言：「大德！以何為非我、非我所，應無我、無我所。比丘若如是勝解者，為得斷〔五〕下分結耶？」

四

「比丘！此處有無聞凡夫，不見聖人……乃至……不順善知識，見色是我，我以色有，我中有色，色中有我，受……想……行……識是我，識以我有，我中有識，識中有我。」

五

彼不如實知色是無常為色無常，不如實知受是無常為受無常，不如實知想是無常……乃至……行是無常為行無常，不如實知識是無常為識無常。

六

不如實知色是苦是為色是苦，不如實知受是……苦，想是……苦，行是……苦，識是苦是為識苦。

七

不如實知色是無我為色無我，不如實知受是無我為受無我。不如實知想…行是無我為行無我，不如實知識是無我為識無我。

八

不如實知色是有為為色有為，不如實知受是有為……想是有為……行是有為……識是有為是識有為。

九

不如實知色是應壞，不如實知受是應壞……想是應壞……
行是應壞……識是應壞。

一〇

諸比丘！有聞之聖弟子，見聖人，知聖人之法，善順聖人
之法，見善知識，知善知識之法，善順善知識之法。不觀色是
我，乃至不觀受……想……行……識是我。

一一

彼如實知色是無常是為色無常，如實知受是無常……想
是……行是……行是無常……識是無常是為識無常。

一二

色是苦……乃至……識是苦……

一三

色無我……乃至……識無我……

一四

色有為……乃至……識有為……

一五

如實知色應壞，如實知受……想……行……識應壞。

一六

於彼色壞、受壞、行壞、識壞故、如是比丘，非我、非我所，應無我、無我所，比丘若如是勝解者，則斷〔五〕下分結。」

一七

〔時，彼比丘白世尊曰：〕

「大德！比丘如是勝解者，則斷〔五〕下分結。大德！又如何知？如何見？以得無間諸漏盡耶？」

一八

「比丘！此處有無聞凡夫，於無畏之處，生起恐懼。比丘！無聞凡夫於非我、非我所，應無我、應無我所者，生恐懼。」

一九

比丘！有聞之聖弟子，於無畏之處，不生怖畏。比丘！有聞之聖弟子，於非我、非我所，應無我、應無我所者，不生怖畏。」

二〇

比丘！於色封滯而住識者，則以色為所緣，止住於色，近倚於喜而住，生長、增廣。」

二一～二二

比丘！於受封滯……於想封滯……

二三

於行封滯而住於識者，則以行為所緣，止住於行，近倚於喜而住，生長、廣大。

二四

比丘！如彼說『我離於色、離於受、離於想、離於行，而施設於識之來往、死生、長益、廣大』者，無有是處。

二五

比丘！比丘若於色界斷貪者，以斷貪故有分斷，無有識之所緣、依止。

二六

比丘！比丘若於受界……

二七

比丘！比丘若於想界……

二八

比丘！比丘若於行界……

二九

比丘！比丘若於識界斷貪者，以斷貪故有分斷，無有識所緣、依止。

三〇

於識無依止，無增長，無現行而解脫。以解脫故住，以住故而知足，知足故無恐怖，無恐怖則自般涅槃。知：生已

盡……乃至……不受後有。

三一

比丘！如是知，如是見者，則得無間諸漏盡。」

〔五六〕取轉

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有五取蘊，以何為五耶？謂：色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊是。

四

諸比丘！我未如實證知此五取蘊之四轉之間，諸比丘！我於天、魔、梵天之世界、沙門、婆羅門、人天之眾生界，不稱無上正等覺為現等覺。

五

諸比丘！然則我已如實證知五取蘊之四轉故。諸比丘！我於天、魔……乃至……人、天之眾生界，稱無上正等覺為現等覺。

六

以何為四轉耶？我證知色、證知色集、證知色滅、證知順色滅之道，證知受……想……行……識，證知識集、證知識

滅、證知順識滅之道。

七

諸比丘！以何為色耶？諸比丘！四大種及四大種所造之色，名為色。依食之集而有色之集，依食之滅而有色之滅。此順色滅之道者，是八支聖道。謂正見……乃至……正定者是。

八

諸比丘！諸沙門、婆羅門證知如是色，證知如是色集，證知如是色滅，證知如是順色滅之道，而向色之厭患、離欲、滅盡，則為善向。善向者，則為入此法與律。

九

諸比丘！諸沙門、婆羅門證知如是色……乃至……證知如是順色滅之道，於色厭患、離欲、滅盡，依不取而解脫者，則為善解脫。善解脫者，則為純一，若得純一者，則無以轉之可施設。

一〇

諸比丘！以何為受耶？諸比丘！是六受身。〔謂：〕眼觸所生受、耳觸所生受、鼻觸所生受、舌觸所生受、身觸所生受、意觸所生受是。諸比丘！此名為受，由觸之集而有受之集，由觸之滅而受之滅。此順受滅之道者，是八支聖道，謂：正見……乃至……正定是。

一一

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是受，證知如是集，證知如是受滅，證知如是順受滅之道，而向受之厭患、離欲、滅盡者，則為善向。善向者，則入此法與律。

一二

諸比丘！諸沙門、婆羅門而證知如是受……乃至證知如是順受滅之道……乃至……則無以轉之可施設者。

一三～一五

諸比丘！以何為想耶？諸比丘！六想身是。〔謂：〕色想、聲想、香想、味想、所觸想、法想是，此名之為想。依觸之集而有想之集，由觸之滅而想之滅。此順想滅之道者，是八支聖道。謂：正見……乃至……正定……乃至則無以轉之可施設。

一六

諸比丘！以何為行耶？諸比丘！六思身是。〔謂：〕色思、聲思、香思、味思、所觸思、法思是，此名之為行。依觸之集而有行之集，依觸之滅而有行之滅。此順行滅之道者，是八支聖道，謂：正見……乃至……正定是。

一七

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是行，證知如是行之集，證知如是行之滅，證知如是順行滅之道，而向於行之厭患、離欲、滅盡者，則為善向。善向者則入此法與律。

一八

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是行，證知如是行之集，證知如是行之滅，證知如是順行滅之道，而對行之厭患、離欲、滅盡，由不取而解脫者，則為善解脫。善解脫者，則為純一，得純一者，則無以轉之可施設者。

一九

諸比丘！以何為識耶？諸比丘！六識身是。〔謂〕：眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識是。諸比丘！此名為識。依名色之集而有識之集。依名色之滅而有識之滅。此順識滅道者，是八支聖道。謂：正見……乃至……正定是。

二〇

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是識，證知如是識之集，證知如是識之滅、證知如是順識滅之道，而向識之厭患、離欲、滅盡者，則為善向。善向者，則入此法與律。

二一

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是識，證知如是識之集，證知如是識之滅，證知如是順識滅之道，而對識厭患、離欲、滅盡，不依取而解脫者，為善解脫。得善解脫者，則為純一，純一者，則無以轉之可施設。」

〔五七〕第五 七處

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！比丘於七處善巧而有三種觀察。於此法與律純一而已立者，名為最上人。

四

諸比丘！何為比丘於七處善巧耶？

五

諸比丘！此處有比丘！知色，知色之集，知色之滅，知順色滅之道，知色之味，知色之過患，知色之出離。

六～八

知受……想……行……

九

知識，知識之集，知識之滅，知順識滅之道，知識之味，知識之過患，知識之出離。

一〇

諸比丘！以何為色耶？諸比丘！四大種及四大種所造之色，名之為色。由食之集而有色之集，由食之滅而色之滅。此順色滅之道者，是八支聖道。謂：正見……乃至……正定是。

一一

緣色而生樂與喜，為色之味。有色之無常、苦而變壞之法，為色之過患。於色調伏欲貪，斷欲貪是為色之出離。

一二

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是色，證知如是色之集，證知如是色之滅、證知如是順色滅之道，證知如是色之味，證知如是色之過患，證知如是色之出離，而向色之厭患、離欲、滅盡者，則為善向。善向者，則為入此法與律。

一三

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是色，證知如是色之集，證知如是色之滅、證知如是順色滅之道，證知如是色之味，證知如是色之過患，證知如是色之出離，而對色之厭患、離欲、滅盡，依不取而解脫者，則為善解脫。善解脫者，則為純一。純一者，則無以轉之可施設。

一四

諸比丘！以何為受耶？諸比丘！六受身是。〔謂：〕眼觸所生之受……乃至……意觸所生之受是。諸比丘！此名為受。依觸之集，而有受之集。依觸之滅，而有受之滅。此受滅之道者，是八支聖道。謂：正見……乃至……正定是。

一六

緣受而生樂與喜，為受之味。有受之無常、苦而變壞之法，為受之過患。於受調伏欲貪，斷欲貪為受之出離。

一七

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是受，證知如是受之集，證知如是受之滅，證知如是順受滅之道，證知如是受之味，證知如是受之過患，證知如是受之出離，而向受之厭患、離欲、滅盡者，則為善向。善向則入此法與律。

一八

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是受……乃至……無以轉之可施設。

一九～二一

諸比丘！以何為想耶？諸比丘！六想身是。〔謂〕：色想、聲想、香想、味想、所觸想、法想是。諸比丘！此名為想……乃至……無以轉之可施設。

二二

諸比丘！以何為行耶？諸比丘！六思身是。〔謂〕：色思……乃至……法思是。諸比丘！此名為行。依觸之集而有行之集。依觸之滅而有行之滅。此順行滅之道者，是八支聖道。謂：正見……乃至……正定是。

二三

緣於行所生樂與喜，為行之味。有行之無常、苦而變壞之法，為行之過患。於行調伏欲貪，斷欲貪為行之出離。

二四～二五

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是之行，證知如是行之集，證知如是行之滅、證知如是順行滅之道……乃至……向於行之厭患、離欲、滅盡者，則為善向。善向則入此法與律……乃至……無以轉之可施設。

二六

諸比丘！以何為識耶？諸比丘！六識身是。〔謂：〕眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識是。諸比丘！此名為識。依名色之集而有識之集，依名色之滅而有識之滅法。此順識滅之道，是八支聖道。謂：正見……乃至……正定是。

二七

緣識而生樂與喜，為識之味。有識之無常、苦而變壞之法，為識之過患。於識調伏欲貪，斷欲貪，為識之出離。

二八

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是識，證知如是識之集，證知如是識之滅，證知如是順識滅之道，證知如是識之味，證知如是識之過患，證知如是識之出離，而向識之厭患、離欲、滅盡者，則為善向。善向則入此法與律。

二九

諸比丘！諸沙門、婆羅門，證知如是識，證知如是識之集，證知如是識之滅，證知如是順識滅之道，證知如是識之味，證知如是識之過患，證知如是識之出離，對識厭患、離欲、滅盡，依不取而解脫者，則為善解脫。善解脫者，則為純一，純一則無以轉之可施設。

三〇

諸比丘！如是比丘為於七處是善巧。

三一

諸比丘！以何為比丘有三種之觀察耶？諸比丘！此處有比丘！觀察界，觀察處，觀察緣起。諸比丘！如是為比丘有三種之觀察。

三二

諸比丘！比丘於七處善巧而有三種之觀察。於此法與律純一而已立者，名為最上人。」

〔五八〕第六 等覺者

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！如來、應供、正等覺者，不取於色由厭患、離欲、滅盡，而解脫，則名為正等覺者。諸比丘！慧解脫之比丘，亦不取於色由厭患、離欲、滅盡，而解脫，名為慧解脫者。

四

諸比丘！如來、應供、正等覺者，不取於受由厭患、離欲、滅盡，而解脫，則名為正等覺者。諸比丘！慧解脫之比丘，亦受之厭患……乃至……名為慧解脫者。

五～七

諸比丘！如來、應供、正等覺者，乃想……行……不取於識由厭患、離欲、滅盡，而解脫，名為正等覺者。諸比丘！慧

解脫之比丘，亦不取於識由厭患、離欲、滅盡，而解脫，名為慧解脫者。

八

諸比丘！於此，如來、應供、正等覺者與慧解脫之比丘，有何之差別，有何之特相，有何之殊異耶？」

九

「大德！我等於法，乃以世尊為根，以世尊為眼，以世尊為依。大德世尊！願顯示此所說之義，諸比丘當從世尊聞而受持。」

「諸比丘！然則！諦聽！善思念！我當說。」

「唯唯，大德！」彼諸比丘，應諾世尊。

一〇

世尊乃如是說曰：

「諸比丘！如來、應供、正等覺者，乃令起未起之道，令生未生之道，說未說之道，知道，覺道，悟道。諸比丘！如今諸弟子，隨於道，隨從而成就。」

一一

諸比丘！此乃如來、應供，正等覺者與慧解脫比丘之差別，特相，殊異是。」

〔五九〕五群比丘

一

波羅捺國，鹿野苑之因緣。

二～三

於此，世尊告五比丘曰……乃至……如是說曰：

※三

「諸比丘！色是無我。諸比丘！若此色有我者，此色則無致病，於色則得謂：『我用此色，不用彼色。』」

四

諸比丘！然而，色無我故，色乃致病，於色不得謂：『我用此色，不用彼色。』」

五

受是無我。諸比丘！若此受是有我者，此受則無致病，於此受乃得謂：『我用此受，不用彼受。』」

六

諸比丘！然而，受是無我故，受乃致病，於受不得謂：『我用此受，不用彼受。』」

七

想是無我……

八

行是無我。諸比丘！若此行是有我者，則此行無致病，於此行則得謂：『我用此行，不用彼行。』

九

諸比丘！然而，行是無我故，行乃致病，則於行不得謂：『我用此行，不用彼行。』

一〇

識是無我。諸比丘！若此識是有我者，則此識無致病，於此識則得謂：『我用此識，不用彼識。』

一一

諸比丘！然而，識是無我故，識乃致病，則於識不得謂：『我用此識，不用彼識。』

一二

諸比丘！汝等於意云何？色是常耶、無常耶？」

「大德！是無常！」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「以觀見無常、苦而變易之法，得為『此是我所，此是我，此是我體』耶？」

「大德！不也。」

一三～一五

受……想……行……

一六

「識是常住耶、無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「觀見無常、苦而變易之法者，得為『此是我所，此是我，此是我體』耶？」

「大德！不也。」

一七

「諸比丘！是故，所有色之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近，應如是以正慧作如實觀，此非我所，此非我，此非我體。」

一八

所有受之……

一九

想之……

二〇

行之……

二一

識之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近，應如是以正慧，作如實觀：此非我所，此非我、此非我體。

二二

諸比丘！多聞之聖弟子，作如是觀者，則厭患色，厭患受……想……行……識，厭患者則離貪，離貪者則解脫，解脫者則生已解脫智，知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不受後有。」

二三

世尊如是說已，五群比丘信受歡喜世尊之所說。又說此教時，五比丘無取著，而從諸漏令心解脫。

〔六〇〕第八 摩訶利

一

如是我聞。爾時，世尊住毘舍離城大林重閣講堂。

二

時，離車人摩訶利來詣世尊之住處……乃至……坐於一面之離車人摩訶利白世尊曰：

三

「大德！富蘭那迦葉如是說：『無因、無緣而有眾生之雜染。無因、無緣而致眾生雜染。無因、無緣而有眾生之清淨。

無因、無緣而致眾生清淨。』世尊！於此當如何說耶？」

四

「摩訶利！有因、有緣而有眾生之雜染。有因、有緣而致眾生雜染。摩訶利！有因、有緣而有眾生之清淨。有因、有緣而致眾生清淨。」

五

「大德！有何因、何緣而有眾生之雜染？有何因、何緣，而致眾生雜染耶？」

六

「摩訶利！若於此色，一向於苦，隨於苦，以隨苦不隨樂者，眾生不染著此色。摩訶利！然而，色樂，而隨於樂，伴樂不伴苦故，眾生為色所染著、染著故、為結縛故，而致雜染。

摩訶利！有此因、此緣而有眾生之雜染。有此因、此緣而為眾生雜染。

七

摩訶利！若於此受而一向於苦，隨於苦，伴於苦而不伴於樂者，眾生則不為此受所染著。摩訶利！然而，樂於受，隨於樂，伴樂不伴苦故，眾生染著於受，染著故而被縛結，被縛故致雜染。

摩訶利！有此因、此緣而有眾生之雜染。有此因、此緣而致眾生雜染。

八

摩訶利！若於此想……

九

摩訶利！若於此行而一向於苦，隨於苦，伴於苦而不伴於樂者，眾生則不為此行所染著。摩訶利！然而，樂於行，隨於樂，伴樂不伴苦故，眾生染著於行。染著故被縛結，被縛結故致雜染。

摩訶利！有此因、此緣，有眾生之雜染。有此因、此緣而致眾生雜染。

一〇

摩訶利！若於此識而一向於苦，隨於苦，伴於苦而不伴於樂者，眾生則不染著於識。摩訶利！然而，樂於識，隨於樂，伴樂不伴苦故，眾生染著於識。染著故被縛結，被縛結故致雜染。

摩訶利！有此因、此緣而有眾生之雜染。有此因、此緣而致眾生雜染。」

一一

「大德！有何因、何緣而有眾生之清淨耶？有何因、何緣而眾生致雜染耶？」

一二

「摩訶利！若於此色而一向於樂，隨於樂，伴於樂不伴於苦者，眾生則不厭患此色。摩訶利！然而，色是苦，隨於苦，

伴於苦而不伴於樂故，眾生厭患於色，厭患故離貪，離貪故為清淨。

摩訶利！有此因、此緣而有眾生之清淨。有此因、此緣而致眾生清淨。

一三

摩訶利！若於此受……

一四

想……〔行〕

一五

於識而一向於樂，隨於樂，伴於樂不伴於苦者，眾生則不厭患此識。摩訶利！然而，識是苦，隨於苦，以伴於苦不伴於樂故，眾生厭患於識，厭患於識故則離貪，離貪故致清淨。

一六

摩訶利！有此因、此緣而有眾生之清淨。有此因、此緣致眾生清淨。」

〔六一〕第九 熾然

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色乃熾然，受乃熾然，想乃熾然，行乃熾然，識乃熾然。

四

諸比丘！聖弟子，如是觀者，則厭患於色，厭患於受……想……行……識。厭患故離貪，離貪故解脫。解脫已，而生解脫智。

五

知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不受後有。」

〔六二〕第十 言路

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有三種之言路、增語路、施設路，未令雜亂，未曾令雜亂，現前不令雜亂，當不令雜亂，不為有智之沙門，婆羅門所訶譏。以何為三耶？

四

諸比丘！於過去、已滅、已變壞之色，謂有『曾有』名數，謂有『曾有』名目，謂有『曾有』施設。謂無『現有』名數，謂無『當有』名數。

五

於過去、已滅、已變壞之受，謂有『曾有』名數，謂有『曾有』名目，謂有『曾有』施設。謂無『現有』名數，謂無『當有』名數。

六

於過去、已滅、已變壞之想……

七

於過去、已滅、已變壞之行，謂有『曾有』名數，謂有『曾有』名目，謂有『曾有』施設。謂無『現有』名數，謂無『當有』名數。

八

於過去、已滅、已變壞之識，謂有『曾有』名數，謂有『曾有』名目，謂有『曾有』施設。謂無『現有』名數，謂無『當有』名數。

九

諸比丘！於未生、未現之色，謂有『當有』名數，謂有『當有』名目，謂有『當有』施設。謂無『現有』名數，謂無『曾有』名數。

一〇

於未生、未現之受，謂有『當有』名數，謂有『當有』名目，謂有『當有』施設。謂無『現有』名數，謂無『曾有』名數。

一一

於未生、未現之想……乃至……

一二

於未生、未現之行，謂有『當有』名數，謂有『當有』名目，謂有『當有』施設。謂無『現有』名數，謂無『曾有』名數。

一三

於未生、未現之識，謂有『當有』名數，謂有『當有』名目，謂有『當有』施設。謂無『現有』名數，謂無『曾有』名數。

一四

諸比丘！於已生，現生之色，謂有『現有』名數，謂有『現有』名目，謂有『現有』施設。謂無『曾有』名數，謂無『當有』名數。

一五

於已生、已現之受，謂有『現有』名數，謂有『現有』名目，謂有『現有』施設，謂無『曾有』名數，謂無『當有』名數。

一六

於已生、已現之想……

一七

於已生，已現之行，謂有『現有』名數，謂有『現有』名目，謂有『現有』施設。謂無『曾有』名數，謂無『當有』名數。

一八

於已生，已現之識，謂有『現有』名數，謂有『現有』名目，謂有『現有』施設。謂無『曾有』名數，謂無『當有』名數。

一九

諸比丘！此三種之言路、增語路、施設路，未令雜亂，未曾令雜亂，現前不令雜亂，當不令雜亂，不令有智之沙門、婆羅門訶譏。

二〇

諸比丘！彼鬱迦羅之住人，瓦沙與繫若是無因論者，無所作論者，無有論者，於此三種之言路、增語路，施設路，予以訶責、訶毀者。所以者何？乃畏嘲笑、輕侮、非難故也。」

中五十經中 第一封滯品〔終〕

此品之攝頌曰

封滯及種子
優陀那取轉
七處等覺者
五群之比丘
以及摩訶利
熾然與言路

第二 阿羅漢品

〔六三〕第一 取

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

時，有一比丘，來詣世尊住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

三

坐於一面之比丘，白世尊曰：

「大德世尊！願請為我略說法要。我願從世尊聽聞法，獨自靜居、不放逸、熱誠、專精而住。」

四

「比丘！執取時，則為魔所縛，不執取時，則由波旬解脫。」

「世尊！〔我〕承知矣，善逝！〔我〕承知矣。」

五

「比丘！汝於我略說之義如何作廣解耶？」

六

「大德！執取色時，則為魔所縛，不執取時，即由波旬解脫。執取受時，即為魔所縛，不執取時，則由波旬解脫。執取想……行……識時，則為魔所縛，不執取時，則由波旬解脫。

大德！我如是廣解世尊所略說之義。」

六

「比丘！善哉、善哉！比丘！善能廣解我所略說之義。比丘！執取色時，則為魔所縛，不執取時，則由波旬解脫。執取受……想……行……識時，則為魔所縛，不執取時，則由波旬解脫。

比丘！應如是廣觀我所略義之義。」

七

時，彼比丘歡喜、隨善世尊之所說。即從座而起，敬禮、右繞世尊而去。

八

時，彼比丘獨自靜居、不放逸、熱誠、專精不久而住，善男子之正當出家，以出家之本意，於現法無上梵行究竟具足自證知、現證而住。證知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不受後有。

九

彼比丘得成阿羅漢。

〔六四〕第二 思

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德世尊！願請為我略說法要……乃至……專精而住。」

四

「比丘！思時，則為魔所縛，不思時，則由波旬解脫。」

「世尊！承知矣，善逝！承知矣。」

五

「比丘！汝如何廣解我所略說之義耶？」

六

「大德！思色時則為魔所縛，不思時，則由波旬解脫。思受……想……行……識時，則為魔所縛，不思時，則由波旬解脫。」

大德！我如是廣解世尊所略說之義。」

七

「比丘！善哉、善哉！比丘！善能廣解我所略說之義。比丘！思色時，則為魔所縛，不思時，則由波旬解脫、思受……想……行……識時，則為魔所縛，不思時，則由波旬解脫。」

比丘！應如是廣觀我所略說之義。」

八～九

……乃至……彼比丘得成阿羅漢。

〔六五〕第三 歡喜

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德世尊！願請為我略說法要……乃至……專精而住。」

四

「比丘！歡喜時，則為魔所縛，不歡喜時，則由波旬解脫。」

「世尊！承知矣，善逝！承知矣。」

五

「比丘！汝如何廣解我所略說之義耶？」

六

「大德！歡喜色時，則為魔所縛，不歡喜時，則由波旬解脫。歡喜受……想……行……識時，則為魔所縛，不歡喜時，

則由波旬解脫。

大德！我如是廣解世尊所略說之義。」

七

「比丘！善哉、善哉！比丘！善能廣解我所略說之義。比丘！歡喜色時，則為魔所縛，不歡喜時，則由波旬解脫。歡喜受……想……行……識時，則為魔所縛，不歡喜時則由波旬解脫。

比丘！應如是廣觀我所略說之義。」

八～九

……乃至……彼比丘得成阿羅漢。

〔六六〕第四 無常

一～三

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德世尊！願請為我略說法……乃至……熱誠、專精而住。」

四

「比丘！於無常者，汝則應斷欲。」

「世尊！承知矣，善逝！承知矣。」

五

「比丘！汝如何廣解我所略說之義耶？」

六

「大德！色是無常。我於此應斷欲，受……想……行……識是無常，我於此應斷欲。」

大德！我如是廣解世尊所略說之義。」

七

「比丘！善哉、善哉！比丘！善廣解我所略說之義。比丘！色是無常。汝於此應斷欲，受……想……行……識是無常，汝於此應斷欲。」

比丘！應如是廣觀我所略說之義。」

八～九

……乃至……彼比丘得成阿羅漢。

〔六七〕第五 苦

一～三

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德世尊！願請為我略說法要……乃至……專精而住。」

四

「比丘！於苦者，汝應斷欲。」

「世尊！承知矣，善逝！承知矣。」

五

「比丘！汝如何廣解我所略說之義耶？」

六

「大德！色是苦。我於此應斷欲，受……想……行……識是苦，我於此應斷欲。大德！我如是廣解世尊所略說之義。」

七

「比丘！善哉、善哉！比丘！善能廣解我所略說之義。比丘！色是苦。汝於此應斷欲，受……想……行……識是苦，汝於此應斷欲。」

比丘！應如是廣觀我所略說之義。」

八～九

……乃至……彼比丘得成阿羅漢。

〔六八〕第六 無我

一～三

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德世尊！願請為我略說法要……乃至……專精而住。」

四

「比丘！汝於無我者，則應斷欲。」

「世尊！承知矣！善逝！承知矣。」

五

「比丘！汝如何廣解我所略說之義耶？」

六

「大德！色是無我。我於此應斷欲，受……想……行……識是無我。我於此應斷欲。」

大德！我如是廣解世尊所略說之義。」

七

「比丘！善哉、善哉！比丘！善能廣解我所略說之義。比丘！色是無我。汝於此應斷欲，受……想……行……識是無我，汝於此應斷欲。」

比丘！應如是廣觀我所略說之義。」

八～九

……乃至……彼比丘得成阿羅漢。

〔六九〕非自所應

一～三

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德世尊！願請為我略說法要……乃至……專精而住。」

四

「比丘！汝於非自所應者，應斷欲。」

「世尊！承知矣，善逝！承知矣。」

五

「比丘！汝如何廣解我所略說之義耶？」

六

「大德！色乃非自所應。我於此應斷欲，受……想……行……識乃非自所應，我於此應斷欲。」

大德！我如是廣解世尊所略說之義。」

七

「比丘！善哉、善哉！比丘！善廣解我所略說之義。比丘！色乃非自所應，汝於此應斷欲，受……想……行……識乃非自所應，汝於此應斷欲。」

比丘！應如是廣觀我所略說之義。」

八～九

時……乃至……彼比丘得成阿羅漢。

〔七〇〕第八 止住所染

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德！願請為我略說法要，我願從世尊聽聞法……乃至……專精而住。」

四

「比丘！汝止住於所染者，應斷欲。」

「世尊！承知矣，善逝！承知矣。」

五

「比丘！汝如何廣解我所略說之義耶？」

六

「大德！色是止住於所染，於此應斷欲，受……想……行……識是止住於所染，我於此應斷欲。」

大德！我如是廣解世尊所略說之義。」

七

「比丘！善哉、善哉！比丘！善廣解我所略說之義。比丘！色是止住於所染，汝於此應斷欲，受……想……行……識是止住於所染，汝於此應斷欲。」

比丘！應如是廣觀我所略說之義。」

八～九

時……乃至……彼比丘得成阿羅漢。

〔七一〕第九 羅陀

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

時，具壽羅陀來詣世尊之住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面，

三

坐於一面之具壽羅陀白世尊曰：

「大德！如何知，如何觀者，於此有識之身及外之一切相，得滅我慢、我所慢、慢隨眠耶？」

四

「羅陀！所有色之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近者，如是以正慧，作如實觀，此非我所，此非我，此非我體。

五

所有之受……

六

想……

七

行……

八

識之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近者，如是以正慧，如實觀，此非我所，此非我，此非我體。

九

羅陀！如是知、如是觀者，則於此有識之身及外之一切相，得滅我慢、我所慢、慢隨眠。」

一〇

……乃至……時具壽羅陀得成阿羅漢。

〔七二〕第十 修羅陀

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二～三

時，具壽修羅陀〔……乃至……〕白世尊曰：

「大德！如何知，如何觀者，則於此有識之身及外之一切相，得離心、我慢、我所慢、慢，超越種種相，而得善解脫

耶？」

四

「修羅陀！所有色之過去、未來、現在……乃至……遠、近者，如是以正慧，作如實觀，此非我所，此非我體，則無執取而解脫。

五～七

所有之受……想……行……

八

識之過去未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近者，如是以正慧，作如實觀，此非我所，此非我，此非我體，則無執取而解脫。

九

修羅陀！如是知、如是觀者，則於此有識之身及外之一切相，得離心、我慢、我所慢、慢、超越種種相，而得善解脫。」

一〇

……乃至……時具壽修羅陀得成阿羅漢。

第二阿羅漢品
〔終〕

此品之攝頌曰：

取思及歡喜

無常苦無我
以非自所應
及止住所染
羅陀修羅陀
此等共為十

第三 所食品

〔七三〕第一 味

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！無聞之凡夫，不能如實知色之味與過患及出離。」

四～六

受……想……行……

七

不能如實知識之味與過患及出離。」

八～一二

諸比丘！有聞之聖弟子，能如實知色……受……想……行……識之味與過患及出離。」

〔七四〕第二 集（一）

一～二

〔爾時世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！無聞之凡夫，不能如實知色之集、滅、味、過患、出離。

四～六

受……想……行……

七

不能如實知識之集、滅、味、過患、出離。

八

諸比丘！有聞之聖弟子，能如實知色之集、滅、味、過患、出離。

九～一一

受……想……行……

一二

能如實知識之集、滅、味、過患、出離。」

〔七五〕第三 集（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有聞之聖弟子，能如實知色集、滅、味、過患、出離。

四～六

受……想……行……

七

能如實知識集、滅、味、過患、出離。」

〔七六〕第四 阿羅漢（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是無常。無常則是苦，苦則無我，無我則此非我所、此非我，此非我體。應如是以正慧，作如實觀。

四～六

受……想……行……

七

識是無常。無常則是苦，苦則無我，無我則此非我所，此非我，此非我體。應如是以正慧，作如實觀。

八

諸比丘！有聞之聖弟子，如此觀而厭患於色，厭患於受……想……行……識。

九

厭患而離貪，離貪而解脫，解脫而調生解脫智。知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不受後有。

一〇

諸比丘！乃至於有情居，乃至有頂，以如是人為第一，以如是人為世間最勝，謂是阿羅漢。」

一一

世尊如是說，善逝如是說已，師更說曰：

一二

（一）安樂阿羅漢

渴愛已無跡

應斷此我慢

以裂愚昧網

（二）獲得不動性

遠離心污濁

世名無染者

等梵亦無漏

（三）徧知五之蘊

七正法為境

善士應讚歎

此佛之愛子

（四）具足七之寶

當以學三學

逍遙為大雄

已無恐怖畏

（五）十分已具足

定入為龍象
此世最勝者
渴愛已無跡
（六）已生無學智
此為最後身
若得梵行果
則無他所緣
（七）無搖種種想
輪迴轉解脫
獲得調御位
為此世勝者
（八）上下亦左右
絕無有歡喜
師子吼宣說
世間無上佛

〔七七〕第五 阿羅漢（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！應如是以正慧，如實觀色是無常，無常則是苦，苦則無我，無我，則此非我所，此非我，此非我體。」

四～七

應觀受……

八

諸比丘！有聞之聖弟子，如是觀而厭患於色、厭患於受……想……行……識。

九

厭患而離貪，離貪而解脫，解脫而謂生解脫智。知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不受後有。

一〇

諸比丘！乃至有情居，乃至有頂，以如是人為第一，以如是人為世間最勝，謂是阿羅漢。」

〔七八〕第六 師子（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！獸王師子，暮時出居處，出居處而奮迅，奮迅而普觀四方，乃作三次之師子吼，三次師子吼後，而出求食。

四

諸比丘！凡畜生聞獸王師子吼聲，則墮大怖畏、戰慄、恐懼。棲穴者入穴，棲水者入水，棲林者入林，鳥則就於虛空。

五

諸比丘！國王有象，以繩堅固縛於村邑王都，彼等亦一破截彼縛，怖畏而失大小便，以所有之方便而逃走。

六

諸比丘！獸王師子，於畜生有如是大力，有如是大勢力，有如是大威力。

七

諸比丘！如是如來、應供、正等覺者、明行具足者、世間解、無上調御丈夫、天人師、佛陀、世尊出生於世時，說法謂如是色，如是色之集，如是色之滅，如是……受……想……行……識，如是識之集，如是識之滅。

八

諸比丘！彼諸長壽天雖是多樂久住於高殿中，聞如來之說法，則墮大怖畏、戰慄、恐怖：『我等無常而謂常住，我等不堅固而謂堅固，我等不恆常而謂恆常，我等無常、不堅固、不常恆而謂有身所攝。』

九

諸比丘！如來於世間有如是大力，有如是大勢力，有如是大威力。」

一〇

世尊如是說，善逝如是說已，更說曰：

（一）佛於現證知

於人天世間

常轉法之輪

比如無師教

（二）如有身滅

如有身生

八支之聖道

乃滅苦之道

（三）形體勝有譽

長壽之諸天

聞名則戰慄

似獸見師子

（四）如應已解脫

聞羅漢教言

此乃無常身

我等超有身

〔七九〕第七 師子（二）

一～二

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！諸沙門、婆羅門，憶念種種之宿住。憶念者，則憶念此一切五蘊，或隨其一。」

四

諸比丘！我於過去世謂有如是色者，則憶念色。諸比丘！我於過去世謂有如是受者，則憶念受。諸比丘！我於過去世謂有如是想……行……識者，則憶念識。

五

諸比丘！說名為色者何耶？諸比丘！為所惱壞故名為色也。何以為所惱壞耶？以寒受惱壞，以熱受惱壞，以飢受惱壞，以渴受惱壞，以虵、蚊、風、熱、蝎、蛇所觸而為所惱壞。諸比丘！為所惱壞故名為色。

六

諸比丘！說名為受者何耶？諸比丘！領受故名為受。領受者何耶？領受於樂，領受於苦，領受不苦不樂是。諸比丘！領受故名為受。

七

諸比丘！說名為想者何耶？諸比丘！了解故名為想。了解者何耶？了解青，了解黃，了解赤，了解白是。諸比丘！了解故名為想。

八

諸比丘！說名為行者何耶？諸比丘！現行於有為故名為行。現行於有為者何耶？以色為色性故，現行於有為，以受為受性故，現行於有為，以想為想性故，現行於有為，以行為行性故，現行於有為，以識為識性故，現行於有為。諸比丘！現行於有為故名行。

九

諸比丘！說名為識者何耶？諸比丘！了知故名為識。了知者何耶？了知醋、了知苦、了知辛、了知甘、了知苛，了知不苛，了知鹹，了知不鹹。諸比丘！了知故名為識。

一〇

諸比丘！於此有聞之聖弟子，乃如是思擇。

一一

如『我今為色所食：我於過去世，亦為色所食，如今現在為色所食。我若樂著於未來之色者，則我於未來世，亦應為色

所食，乃如今現在為色所食。』彼如是思擇、則不顧過去之色，不樂著未來之色，則於現在之色向厭患、離貪、滅盡。

一二

如『我今為受所食：我於過去世，亦為受所食，乃如今現在為受所食。我若樂著於未來之受者，則我於未來世亦應為受所食，乃如今現在為受所食。』彼如是思擇，則不顧過去之受，不樂著未來之受，則於現在之受向厭患、離貪、滅盡。

一三

如『我今為所想所食……』……

一四

如『我今為行所食，我於過去世，亦為行所食，乃如今現在為行所食。我若樂著未來之行者，乃如今現在為行所食。我若樂著於未來之行者，則我於未來世，亦應為行所食，乃如今現在為行所食。』彼如是思擇，則不顧過去之行，不樂著未來之行，則於現在之行向厭患、離貪、滅盡。

一五

如『我今為識所食，我於過去世，亦為識所食，乃如今現在為識所食。我若樂著未來之識者，則我於未來世，亦應為識所食，乃如今現在為識所食。』彼如是思擇，則不顧過去之識，不樂著未來之識，則於現在之識向厭患、離貪、滅盡。

一六

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「若觀此無常、苦變易之法者，得有此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

一七～一九

受……想……行……

二〇

「識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「若觀此無常、苦變易之法者，得有此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

二一

「諸比丘！應如是以正慧如實作觀。是故諸色之過去、未來、現在、內外、粗細、劣、勝、遠、近之一切色，乃非我

所，非我，非我體。

二二

受……

二三

想……

二四

行……

二五

應如是以正慧如實作觀。識之過去、未來、現在……乃至……遠近之一切識，乃非我所，非我，非我體。

二六

諸比丘！聖弟子以此名為減而不增，捨而不取，退而不近，離薰而不徧薰。

二七

何以減而不增耶？以減色而不增，以減受……想……行……識而不增。

二八

何以捨而不取耶？以捨色而不取，以捨受……想……行……識而不取。

二九

何以退而不近耶？以退去色而不近，退去受……想……行……識而不近。

三〇

何以離薰而不徧薰耶？以離薰色而不徧薰，離薰受……想……行……識而不徧薰。

三一

諸比丘！有聞之聖弟子，作如是觀，以厭患於色，厭患於受……想……行……識，厭患而離貪，離貪而解脫，解脫而生解脫智，則知：生已盡、梵行已立、所作已辦、不受後有。

三二

諸比丘！比丘以此為不增不減，已減而住，不捨不取，已捨而住，不退不近，已退而住，不離薰、不徧薰。

三三

已離薰而住，何以不增不減耶？已減而住，以色不增不減。已減而住，受……想……行……識不增不減。

三四

已減而住，何以不捨不取耶？已捨而住，以色不捨不取，已捨而住，以受……想……行……識不捨不取。

三五

已捨而住，何以不退、不近耶？已退而住，由色不退不近，已退而住，由受……想……行……識不退不近。

三六

已退而住，何以不離薰、不徧薰耶？已離薰而住，以色不離薰、不徧薰，已離薰而住，以受……想……行……識不離薰、不徧薰。

三七

已離薰而住。諸比丘！如是心解脫之比丘，是帝釋天、梵天、生主之諸天所遙望而歸依。」

三八

歸命人良馬
歸命最勝人
汝所依靜慮
我等所難知

〔八〇〕第八 乞食

一

爾時，世尊住釋迦國之迦維羅衛城尼拘律園。

二

時，世尊為少諍事故斥比丘眾後，清晨著下衣、持鉢、衣，入迦維羅衛城乞食。

三

行於迦維羅衛城乞食。食已，從乞食還到大林，以行晝日坐。入大林坐於毘羅婆若樹下，以行晝日坐。

四

時，世尊靜居宴默，心生如是思念：

五

「我雖退卻比丘眾，但此處有新參之諸比丘，出家不久，初入此法與律，彼等不見我，或生別異，或生變易。猶如幼犢不見母，或生別異，或生變易。

六

如是此處有新參之諸比丘，出家未久，初入此法與律，彼等不見我，或生別異，或生變易，猶如種子不得水，或生別異，或生變易。

七

如是此處……乃至……彼等不見我，或生別異，或生變易，我宜如前往攝取比丘眾，如是今應攝取此比丘眾。」

八

時有索訶主梵天，知世尊心之所思念，譬喻力士之屈伸腕，伸屈腕，速沒於梵天界，現於世尊之前。

九

時，索訶主梵天，偏袒上衣之一肩，合掌奉世尊，白世尊曰：

「世尊！如是，善逝！如是。大德！世尊難避卻比丘眾。

一〇

此處有新參之諸比丘，出家未久，初入此法與律，彼等不見世尊，或生別異，或生變易。猶如幼犢不見母，或生別異，或生變易。

一一

如是此處有新參諸比丘，出家未久，初入此法與律，彼等不見世尊，或生別異，或生變易。猶如種子不得水，或生別異，或生變易。

一二

如是此處有新參諸比丘，出家未久，初入此法與律，彼等不得見世尊，或生別異，或生變易。

一三

大德世尊！令比丘眾歡喜，大德世尊！令比丘眾歡呼！大德世尊！應如先前之攝取比丘眾，如今當攝取比丘眾。」

一四

世尊默然而許。

一五

時，索訶主梵天知世尊之允許，敬禮世尊，右繞即沒於其處。

一六

時，世尊暮時，由宴默而起，到尼拘律園。到已，坐於所設之座。坐已，世尊如是示現神通變化。彼諸比丘，獨自或各二人以懷慚愧之色，令來我處。

一七

彼諸比丘，獨自或各二人懷慚愧之色，來詣世尊之住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

一八

坐於一面時，世尊則謂彼諸比丘曰：

「諸比丘！於此處乞食者，乃諸活命中之下端。於世間如是禁咒，謂汝乞食者，手持鉢遊方。諸比丘！然而知如是義趣，諸善男子之到此，乃緣於有義趣。非為王所強迫，非為賊所強迫，非為負債之故，非為苦於活命，我等沈沒於生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱，沈於苦，為苦所圍，不知盡此純一之苦蘊。

一九

諸比丘！如是而出家之彼善男子，以起貪欲，於諸欲生極染著，心有瞋恚，意有害想，失念而不正知，不入於定，心散亂，乃凡俗諸根是。諸比丘！猶如焚屍火槽，燃燒兩端，而中間塗糞，於村亦不用材，於林間亦不用之材。諸比丘！我乃說如是此人，既棄在家人之受用，亦不圓滿於沙門之義。

二〇

諸比丘！有三不善覺，〔調〕：貪覺、恚覺、害覺是。諸比丘！或修習無相三昧時，此三不善覺之無餘滅盡，於四念處，心安住而住。

二一

諸比丘！然則修習無相三昧亦善。諸比丘！多作修習無相三昧者，果多，功德多。

二二

諸比丘！有二種見。〔調〕：有見、非有見是。諸比丘！此中有聞之聖弟子，如是思擇之，謂於世間有少法，我取之而為無罪過者否？

二三

彼如是知，謂於世間乃少法，而我取之而非為無罪過，我若取色者，則有所取，若取受……想……行……識者則有所取，然則緣取而生有，緣有而生生，緣生而生老、死、愁、悲、苦、憂、惱。如是而有此純一之苦蘊集。

二四

諸比丘！汝等於意云何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若是無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「若觀此是無常、苦變易之法者，可得此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

二五～二八

受……想……行……識是常耶？……乃至……

二九～三〇

「諸比丘！於此如是觀故……乃至，知……更不受後有。」

〔八一〕波陀聚落

一

爾時，世尊住拘睢彌國瞿師多羅園。

二

時，世尊清晨著下衣、持鉢、衣，入拘睢彌乞食。行於拘睢彌乞食，食已，從乞食還，自收藏臥、坐具，持鉢、衣，未告侍者，不顧比丘眾，獨去遊方。

三

時，有一比丘，於世尊出去未久，來至具壽阿難處，來而言於具壽阿難曰：

「友阿難！世尊自收藏臥、坐具，持鉢、衣，未告侍者，不顧比丘眾，獨去遊方矣。」

四

「友！世尊自收藏臥、坐具，持鉢、衣，未告侍者，不顧比丘眾，獨往遊方時，世尊欲獨住，任何人皆不得隨從。」

五

時，世尊順次遊方到波陀聚落。於此，世尊住於波陀聚落跋陀薩羅樹下。

六

時，有眾多比丘，來至具壽阿難之處，與具壽阿難俱相交談慶慰、歡喜、感銘之言後，坐於一面。

七

坐於一面之彼諸比丘，言具壽阿難曰：

「友阿難！已久不親聞世尊之說法。友阿難！我等欲親聞世尊之說法。」

八

時，具壽阿難，與彼諸比丘眾俱，來詣波陀聚落跋陀薩羅樹，世尊之住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

九

坐於一面時，世尊為彼諸比丘說法，教示、勸導，讚歎勉勵，令之歡喜。

一〇

爾時，有一比丘！心生如是思念：

「如何知，如何觀者，得無間盡諸漏耶？」

一一

時，世尊知彼比丘心之所思念，以告諸比丘曰：

「諸比丘！我思擇而說法，思擇而說四念處，思擇而說四正勤，思擇而說四如意足，思擇而說五根，思擇而說五力，思擇而說七覺分，思擇而說八聖道分。

諸比丘！如是乃我思擇之說法。

一二

諸比丘！如是我思擇說法，時，此處有一比丘，心生是念：『如何知，如何觀者，得無間盡諸漏？』

一三

諸比丘！如何知，如何觀者，得無間盡諸漏耶？

一四

諸比丘！於此處有無聞凡夫，不見聖人，不知聖人之法，不順聖人之法，不見善知識……乃至……不隨善知識之法，以見色為我。諸比丘！彼以見為行，此行以何為因？以何為集？從何而生？從何而現耶？諸比丘！若於無明觸所生之所受觸者，於無聞之凡夫，生渴愛，依此而生行。諸比丘！如是彼行亦是無常、有為、緣無間盡諸起所生，彼渴愛亦是無常、有為、緣起所生。彼受……彼觸亦是無常、有為、緣起所生。彼

受……彼觸亦是無常、有為、緣起所生。彼無明亦是無常、有為、緣起所生。諸比丘！如是知，如是觀者，於無間盡諸漏。

※一七

雖不見色是我，卻見我有色。諸比丘！彼以見為行，此行以何為因？以何為集？從何而生？從何而現耶？諸比丘！若於無明觸所生之所受觸，於無聞凡夫生渴愛，由此而生行。諸比丘！如是彼行亦是無常、有為、緣起所生。諸比丘！彼渴愛……受……觸……無明亦是無常、有為、緣起所生。諸比丘！如是知、如是觀者，於無間而盡諸漏。

一八

雖不見色是我，亦不見我有色，卻見我中有色。諸比丘！彼以見為行。此行以何因、以何集、從何而生？從何而現耶？諸比丘！於無明觸所生之所受觸者，於無聞之凡夫，生渴愛，由此而生行。諸比丘！如是彼行亦是無常、有為、緣起所生。彼渴愛……受……觸……無明亦是無常、有為、緣起所生。諸比丘！如是知，如是觀者，於無間盡諸漏。

一九

不見色是我，不見我有色，亦不見我中有色，卻見色中有我。諸比丘！彼以見為行。此行以何為因、以何為集、從何而生？從何而現耶？諸比丘！於無明觸所生之所受觸者，於無聞凡夫生渴愛，由此而生行。諸比丘！如是彼行亦是無常、有為、緣起所生。彼渴愛……受……觸……無明亦是無常、有為、緣起所生。諸比丘！如是知……乃至……盡諸漏。

二〇

雖不見色是我，亦不見我有色，我中有色，色中有我。

二一

但見受是我，見我有受，見我中有受，見受中有我。

二二～二三

見想……行是我，見我有行，見我中有行，見行中有我。

二四

見識是我，見我有識，見我中有色，見識中有我。諸比丘！彼以見為行。此行以何為因……乃至……從何而現耶？諸比丘！於無明觸所生之所受觸者，無聞凡夫生渴愛，由此而生行。諸比丘！如是彼行亦是無常、有為、緣起所生。彼渴愛……受……觸……無明亦是無常、有為、緣起所生。諸比丘！如是知，如是觀者，於無間盡諸漏。

二五

不見色是我，不見受是我，亦不見想……行……識是我，以起如是見，〔謂〕此是我，此是世間，死後有我、有常、恒、永住而不變易之法。諸比丘！彼以常見為行。此行以何為因……乃至……諸比丘！如是知，如是觀者，於無間盡諸漏。

二六

雖不見色是我，亦不見受……想……行……識是我，以起如是見，而雖不以為此是我，此是世間，死後有我、常、恒、永住不變易之法，但起如是見，〔謂：〕應非有我，非有所，應非我、非我所。

二七

諸比丘！彼以斷見為行。此行以何為因、以何為集、從何而生、從何而現耶？諸比丘！於無明觸所生之所受觸者，無聞凡夫生渴愛，由此而生行。諸比丘！如是彼行亦是無常……乃至……諸比丘！如是知、如是觀者，於無間盡諸漏。

二八

不見色是我，不見受……想……行……識是我，以起如是之見，但不以為此是我，此是世間，死後有我、常、恒、永住不變易之法，起如是之見，不以為非有我，非有所、非我、非我所，唯疑惑、猶豫而不追究於正法。

二九

諸比丘！彼疑惑、猶豫，而不追究於正法為行。此行以何為因、以何為集、從何而生、從何而現耶？諸比丘！於無明觸所生之所受觸者，無聞凡夫生渴愛，由此而生行。諸比丘！如是，彼行亦是無常，有為、緣起所生。彼渴愛亦是無常、有為、緣起所生。彼受亦是無常、有為、緣起所生。彼觸亦是無常、有為、緣起所生。彼無明亦是無常、有為、緣起所生。

三〇

諸比丘！如是知、如是觀者，於無間盡諸漏。」

〔八二〕第十 滿月

一

爾時，世尊住舍衛城東園鹿母講堂，與大比丘眾俱。

二

時，世尊於十五日布薩滿月之夜，為比丘眾所圍繞而坐於露地。

三

時，有一比丘，從座而起，偏袒〔右〕肩，向世尊合掌，白世尊曰：

「大德！世尊若許答我問者，我願聊問世尊。」

「比丘！然則坐於己座，而如所欲問。」

四

「唯唯，大德！」彼比丘應答世尊。則坐於己座，而白世尊曰：

「大德！有五取蘊，謂：色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊是，此事然耶？」

「比丘！有五取蘊，謂色取蘊……乃至……識取蘊是。」

五

「善哉，大德！」彼比丘歡喜、隨喜世尊之所說，再問世尊曰：

「大德！此五取蘊以何為根耶？」

「比丘！此五取蘊乃以欲為根。」

六

……乃至……

「大德！彼五取蘊即是取耶？以離五取蘊有取耶？」

「比丘！彼五取蘊亦非即取，亦非離五取蘊有取。於彼有貪欲者，此，乃取。」

七

「善哉，大德！」彼比丘……乃至……再問世尊言：

「大德！於五取蘊，應有欲貪之差別耶？」

「比丘！世尊當說，比丘！於此有一人如是思惟，謂：我於未來世得如是色，我於未來世得如是受，我於未來世得如是想，我於未來世得如是行，我於未來世得如是識。比丘！於如是五取蘊，當有欲貪之差別。」

八

「善哉，大德！」彼比丘……乃至……更問世尊曰：

「如何蘊名為蘊耶？」

「比丘！以色之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近名為色蘊。以受……想……行……識之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近名為識蘊。比丘！以此等之蘊名為蘊。」

九

「善哉，大德！」彼比丘……乃至……更問世尊曰：

「大德！依何因、何緣名為色取蘊耶？依何因、何緣為受取蘊耶？依何因、何緣為想取蘊耶？依何因、何緣為行取蘊耶？依何因、何緣為識取蘊耶？」

「比丘！以四大為因、以四大為緣，而為色取蘊。以觸為因、以觸為緣，而為受取蘊。以觸為因、以觸為緣，而為想取蘊。以觸為因、以觸為緣，而為行取蘊。以名色為因、以名色為緣，而為識取蘊。」

一〇

「善哉，大德！」彼比丘……乃至……更問世尊曰：

「大德！如何而起有身見耶？」

「比丘！於此處之無聞凡夫，不見聖人，不知聖人之法，不順聖人之法，不見善知識，不知善知識之法，不順善知識之法，以見色是我，我乃色有，我中有色、色中有我。見受……想……行……識是我，我乃識有，我中有識，識中有我。比丘！如是而起有身見。」

一一

「善哉，大德！」彼比丘……乃至……更問世尊曰：

「大德！如何而不起有身見耶？」

「比丘！於此處有有聞之聖弟子，見聖人之法，知聖人之法，善順聖人之法，見善知識，知善知識之法，善順善知識法，不以色是我，我乃以色而有，我中有色、色中有我，不以受……想……行……識是我，我乃識有，我中有識，識中有我。比丘！如是而不起有身見。」

一二

「善哉，大德！」彼比丘……乃至……更問世尊曰：

「大德！以何為色之味？以何為過患？以何為出離耶？以何為受……想……行……識之味？以何為過患？以何為出離耶？」

「比丘！緣色所生喜樂為色之味。色之無常、苦、變易之法，為色之過患。於色調伏欲貪、斷欲貪，為色之出離。緣受……想……行……識所生喜樂，為識之味。識之無常、苦變易之法，為識之過患。於識調伏欲貪、斷欲貪為識之出離。」

一三

「善哉，大德！」彼比丘歡喜、隨喜世尊之所說，而更問世尊曰：

「大德！如何知、如何觀者，於此有識之身及外之一切諸相，不起我慢、我所慢之隨眠耶？」

「比丘！如是以正慧作如實觀色之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近之一切色，此非我所，此非我，此非我體。如是以正慧作如實觀受……想……行……識之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近之一切識，此非我所，此非我，此非我體。比丘！如是知、如是觀者，則於此有識之身及外之一切諸相，不起我慢、我所慢之隨眠。」

一四

其時有一比丘，心生思念：

「如是色乃無我，受……想……行……識乃無我。〔然〕無我所作之業，何者之我應受？」

一五

時，世尊心知彼比丘心之所思念，以告諸比丘曰：

「諸比丘！此處有一愚人，以無智、無明渴愛所礙之心，思惟能越師教而言，〔謂：〕『如是色乃無我，受……想……行……識乃無我，〔然〕無我所作之業，何者之我應受？』諸比丘！處處於彼諸法，受我質問之調練！

一六

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

一七～一九

受……想……行……

二〇

「識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「無常、苦、變易之法者，以見於此，得以此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

二一

「是故於此處……乃至……如是觀，知更不受後有。」

二二

蘊二即未來
名因有身二
乃至味有識
以應比丘問
以此說為十

所食品第三
(終)

此品之攝頌曰：

味及集之二
阿羅漢亦二
師子及所食
乞食與波陀
滿月等為十

第四 長老品

〔八三〕第一 阿難

一

如是我聞。爾時，具壽阿難，住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

於此，具壽阿難告諸比丘曰：「友，諸比丘！」

「友！唯然。」彼諸比丘應諾具壽阿難。

具壽阿難曰：

三

「具壽富留那彌多羅尼子，於我等新參時，為所饒益極多。彼教誡我等，則以如是之教誡，謂：

『友阿難！計取故有我，不取者則不計。

四

以何計取故有我？不取者則不計耶？

以計取色故有我，不取者則不計。以計取受……想……行……識故有我，不取者則不計。

五

友阿難！譬如男女之壯年少年而好裝飾者，於清淨潔白之明鏡，及於明澄之水鉢，以觀察自己之面相時，取之故見，不取者則不見。如是，友阿難！以取色故有我，不取者則不計。以計取受……想……行……識故有我，不取者則不計。

六

友阿難！汝於意如何？色是常耶？是無常耶？』

『友！是無常。』

七～一〇

『受……想……行……識是常耶？是無常耶？』

『友！是無常。』

一一

『故於此處……乃至……』

一二

如是觀……知更不受後有。』

一三

具壽富留那彌多羅尼子，於我等新參時，為所饒益極多。彼以教誡我等，則以如是之教誡，我由具壽富留那彌多羅尼子聞此說法，於法現觀。」

〔八四〕第二 低舍

一

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

二

爾時，具壽低舍乃世尊之從弟，言眾多之比丘曰：

「友等！我身倦怠，不明諸方，不分別法，我心纏於惛眠，不樂修梵行，於法疑惑。」

三

時，眾多之比丘，來詣世尊之住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

四

坐於一面之彼諸比丘，白世尊曰：

「大德！世尊之從弟具壽低舍，言眾多之比丘曰：『友等！我身倦怠，不明諸方，不分別法，我心纏於惛眠，不樂修梵行，於法疑惑。』」

五

時，世尊告一比丘曰：

「比丘！汝以我名往告比丘低舍，謂：『友低舍！師呼汝。』」

六

「唯然，大德！」彼比丘應諾世尊，則到具壽低舍之處，到已而以言具壽低舍曰：「友低舍！師呼汝。」

七

「唯然！友。」具壽低舍應諾彼比丘，則來詣世尊之處。詣而敬禮世尊，坐於一面。

八

坐一面時，世尊言具壽低舍曰：

「低舍！汝言於眾多之比丘：『友等！我身倦怠……乃至……於法疑惑』，真實耶？」

「唯唯，大德！」

九

「低舍！於汝意如何，若於色不離貪、不離欲、不離愛、不離渴、不離熱煩、不離渴愛者，彼色之變易、變異而生愁、悲、苦、憂、惱耶？」

「大德！如是。」

一〇～一三

「善哉、善哉！低舍，低舍！正如是於色不離貪。於受……想……行不離貪……彼行之變易、變異而生愁、悲、苦、憂、惱耶？」

「大德！如是。」

一四

「善哉、善哉！低舍、低舍！正如是於行不離貪，於識不離貪、不離欲、不離愛、不離渴、不離熱煩、不渴愛者，彼識之變易、變異而生愁、悲、苦、憂、惱耶？」

「大德！如是。」

一五

「善哉、善哉！低舍、低舍！正如是於識不離貪。」

一六

低舍！於汝意如何！若於色離貪、離欲、離愛、離渴、離熱煩，離渴愛者，彼色之變易、變異而生愁、悲、苦、憂、惱耶？」

「大德！不也。」

一七

「善哉、善哉！低舍、低舍！如是於色離貪。於受……想……行離貪……於識離貪、離欲、離愛、離渴、離熱煩、離渴愛者，彼識之變易、變異而生愁、悲、苦、憂、惱耶？」

「大德！不也。」

一八

「善哉、善哉！低舍、低舍！正如是於識離貪。」

一九

低舍！汝於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

二〇～二三

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

二四

「故於此處……乃至……

二五

如是觀……知……乃至……不更受後有。

二六

低舍！譬如有二男子，一男子不知路，一男子知路。不知路之男子，問知路之男子。彼言曰：『男子！此路如是。從此道須臾赴往。從此道須臾往者，則見二道。然則，當捨左道以從右道。從此道須臾往赴。從此道須臾往者，則見大叢林。從此道須臾往赴。從此道須臾往者，則見甚大而深之沼澤。從此道須臾往赴。從此道須臾往者，則見嶮峻。從此道須臾往赴。從此道須臾往者，則見平坦安樂之地。』

二七

低舍！我為示其義，以說此譬喻，此義如是。

二八

低舍！不知路之男子者，名為凡夫。低舍！知路之男子者，名為如來、應供、正等覺者。

二九

低舍！二路者，名為疑惑。左道者，名為八邪道分。
〔調：〕邪見……乃至……邪定。低舍！右路者，名為八正道分，〔調：〕正見……乃至……正定。

三〇

低舍！大叢林者，名為無明。低舍！甚大而深之沼澤者，名為諸欲。嶮峻者，名為忿、怒、憂悲是。低舍！平坦安樂之地者，名為涅槃。

三一

低舍！當歡喜，低舍！當歡喜我所教授，我所攝受、我所教誡。」

三二

世尊如是說已。具壽低舍乃喜悅，歡喜世尊之所說。

〔八五〕第三 焰摩迦

一

爾時，具壽舍利弗，住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

時，有比丘名為焰摩迦起如是惡見，〔謂：〕「我如解世尊所說之法者，漏盡比丘，身壞、命終而斷滅無有。」

三

眾多比丘聞名為焰摩迦比丘起如是惡見，〔謂：〕「我如解世尊……無有。」

四

時，彼諸比丘來到具壽焰摩迦之處，到而與焰摩迦俱交談慶慰、可歡喜、感銘之語，而坐於一面。

五

坐至一面彼諸比丘言具壽焰摩迦曰：

「友焰摩迦！汝起如是惡見，真實耶？〔謂：〕『如解世尊所說之法者，漏盡比丘身壞、命終而斷滅無有。』」

六

「友等！如是我解所說之法，〔謂：〕『漏盡比丘身壞、命終而斷滅無有。』」

七

「友，焰摩迦！勿作如是言，勿讒誣世尊，讒誣世尊者不善，世尊不曾如是說，〔謂：〕『漏盡比丘身壞、命終而斷滅無有。』」

八

彼諸比丘如是說已，具壽焰摩迦仍執著妄取現貪而說：「我如解世尊所說之法者，漏盡比丘身壞、命終而斷滅無有！」

九

彼諸比丘，不能使具壽焰摩迦離此惡見，時，諸比丘，則從座起，來到具壽舍利弗之處。到而言於舍利弗曰：

「友舍利弗！名焰摩迦比丘，起如是惡見，〔謂：〕『我如解世尊所說之法者，漏盡比丘身壞、命終而斷滅無有。』具壽舍利弗！願憐愍故，請到焰摩迦比丘之處。」

一〇

具壽舍利弗，默然聽許。

一一

時，具壽舍利弗，於暮時從宴默而起，即到具壽焰摩迦之處，到而與具壽焰摩迦俱相交談慶慰……乃至……

一二

坐於一面之具壽舍利弗，言於具壽焰摩迦曰：

「友焰摩迦！汝起如是惡見者，真實耶？〔謂：〕『我如解世尊所說之法者，漏盡比丘身壞、命終即斷滅無有。』」

一三

「友！我如是解世尊所說之法，〔謂：〕『漏盡比丘身壞、命終斷滅無有。』」

一四

「友焰摩迦！於汝意如何，色是常耶？是無常耶？」

「友！是無常。」

一五～一八

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「友！是無常。」

一九

「是故於此處……乃至……

二〇

如是觀者，即知……不更受後有。

二一

友焰摩迦！於汝意如何？見如來是色耶？」

「友！不也。」

二二～二六

「見如來是受……想……行……識耶？」

「友！不也。」

二七

「友焰摩迦！汝意如何？見於色中有如來耶？」

「友！不也。」

「見離色有如來耶？」

「友！不也。」

二八

受中……離受……

二九

想中……離想……

三〇

行中……離行……

三一

「見於識中有如來耶？」

「友！不也。」

「見離識有如來耶？」

「友！不也。」

三二

「友焰摩迦！汝意如何？見如來是色、受、想、行、識耶？」

「友！不也。」

三三

「友焰摩迦！汝意如何！見如來是無色、無受、無想、無行、無識耶？」

「友！不也。」

三四

「友焰摩迦！此處於現法、真實、如應如來為無所得。汝能記說而言：『我如解世尊所說之法者，漏盡比丘身壞、命終是斷滅無有』耶？」

三五

「友舍利弗！我於先無知故，以起彼惡見。今聞具壽舍利弗之說法，則斷彼惡成見，於法則現觀。」

三六

「友焰摩迦！有如是問汝者，〔調：〕友焰摩迦比丘！漏盡之阿羅漢身壞、命終為如何耶？友焰摩迦！有如是問者，當如何答耶？」

三七

「友！有如是問我者，〔調：〕……為如何耶？友！有如是問者，則如是答，〔調：〕友！色是無常，無常者則是苦，苦者則已滅、已沒。受、想、行、識是無常，無常者則是苦，苦者則已滅、已沒。友！有如是問者，則如是作答。」

三八

「善哉、善哉！友焰摩迦！友焰摩迦！然則當為汝說譬，則得廣知。」

三九

友焰摩迦！譬如有居士，或居士之子，富裕而財多、物多具足守護。有一人，欲彼之無益、不利、不安穩、欲奪〔彼〕命。彼如是思惟：『此居士或居士子，富裕財多、物多，具足守護。以力不易奪其命，我宜強入以奪命。』彼則到彼居士或居士子之處，作如是言曰：『尊者！我奉侍汝。』彼居士或居士子令彼奉侍。彼奉侍早起晚睡，事敬，愛語令喜悅。彼居士或居士子，信彼為親友，信彼為心友而信賴彼。友！彼人如是，此居士或居士子，思惟信賴我之時，見彼獨居，則以利刀以奪其命。

四〇

友焰摩迦！汝意如何！彼人到此居士或居士子之處，到而如是言：『尊者！我奉侍汝』之時，彼為害者耶？為害者而且

不知為我害者耶？

四一

彼奉侍早起晚睡、事敬、愛語以令喜悅時，彼乃為害者耶？為害者而且不知為我害者耶？

四二

見彼之獨居，以利刀奪其命時，彼為害者耶？為害者而且不知為我害者耶？」

「友！如是。」

四三

「友！如是無聞凡夫，不見聖人，不知聖人之法，不順聖人之法，不見善知識，不知善知識之法，不順善知識之法，故觀色是我，我以色有，我中有色，色中有我。觀受……想……行……識是我，我以識有，我中有識，識中有我。」

四四

彼不如實知無常之色，色為無常，不如實知無常之受，受為無常，不如實知無常之想……行為無常，不如實知無常之識，識為無常。

四五

不如實知苦為色，色為苦，不如實知苦為受……想……行……識為苦。

四六

不如實知無我之色，色為無我，不如實知無我之受……
想……行……識，識為無我。

四七

不如實知有為之色，色為有為，不如實知有為之受……
想……行……識，識為有為。

四八

不如實知害者之色，色為害者，不如實知害者之受……
想……行……識為害者。

四九

彼攝持依色執為我體。攝持依執受……想……行……識為
我體。彼依執此五取蘊，以資長夜不利、苦惱。

五〇

友！有聞之聖弟子，以見聖人……乃至……順善知識之
法，不觀色是我，我以色有，我中有色，色中有我。不觀
受……想……行……識是我，我以識有，我中有識，識中有
我。

五一

彼如實知無常之色為色是無常，如實知無常之受……
想……行……識，為識是無常。

五二

如實知苦之色為色是苦，如實知苦之受……想……行……
識，為識是苦。

五三

如實知無我之色為色是無我。如實知無我之受……想……
行……識，為識是無我。

五四

如實知有為之色為色是有為，如實知有為之受……想……
行……識為識是有為。

五五

如實知害者之色為色是害者。如實知害者之受……想……
行……識，為識是害者。

五六

彼不攝持不依色執為我體。不攝持不依受……想……
行……識，執為我體。彼不依執此五取蘊而資長夜利益、安
樂。」

五七

「友舍利弗！若諸具壽如是哀愍，欲利益以教導、教誡同
梵行者，則等於此。我於此聞具壽舍利弗所說法，無取著，由
諸漏得心解脫。」

五八

具壽舍利弗如是說已。具壽焰摩迦喜悅，而歡喜具壽舍利弗之所說。

〔八六〕第四 阿菟羅度

一

如是我聞。爾時，世尊住毘舍離城大林重閣堂。

二

其時，具壽阿菟羅度，住離世尊不遠之林間小屋。

三

時，有眾多之外道出家眾，到具壽阿菟羅度之處，到而與具壽阿菟羅度，俱相交談慶慰、可感銘、歡喜之言，而坐於一面。

四

坐於一面之彼諸外道出家眾，言具壽阿菟羅度曰：

「友阿菟羅度！彼如來是最上人、最勝人，已獲得最勝，彼如來有施設此四句，〔謂：〕如來死後有耶？或如來死後無耶？或如來死後亦有亦無耶？或如來死後非有非無耶？」

五

如是言已，具壽阿菟羅度，言彼諸外道出家眾曰：

「友等！彼如來是最上人、最勝人，已獲得最勝，彼如來不用施設此四句，〔謂：〕如來死後有耶？或如來死後無耶？」

或如來死後亦有亦無耶？或如來死後非有非無耶？」

六

如是言已。彼諸外道出家眾，言於具壽阿菟羅度曰：

「此比丘，乃新參而出家未久；或若長老，則愚癡不聰明。」

七

時，諸外道出家眾，言新參，言愚癡，以毀罵具壽阿菟羅度，即從座起而去。

八

時，彼諸外道出家眾離去未久，具壽阿菟羅度乃生思念：

「若彼諸外道出家眾，重來問我，我將如何作答？為彼諸外道出家眾，說世尊之所說，不以非實譏誣世尊，以隨法說法、以順法之順正說，不得令墮呵責處？」

九

時，具壽阿菟羅度來詣世尊之住處，詣而……乃至……

一〇

於一面坐之具壽阿菟羅度，白世尊曰：

「大德！我住離世尊不遠之林間小屋。大德！時，有眾多外道出家眾，來到我處……乃……言我曰：『友阿菟羅度！彼如來是最上人、最勝人，已獲得最勝，彼如來有施設此四句，

〔謂：〕「如來死後有耶？……乃至……如來死後非有非無耶？」』

一一

大德！如是言已，我言彼諸外道出家眾曰：『友等！彼如來是最上人、最勝人已獲得最勝。彼如來不用施設此四句，

〔謂：〕「如來死後有耶？……乃至……如來死後非有非無。」』

一二

大德！如是言已，彼諸外道出家眾言我曰：『此比丘乃新參而出家未久，或若長老則愚癡不聰明。』

一三

大德！時，彼諸外道出家眾，言新參，言愚癡以毀罵我，即從座起而去！

一四

大德！時，彼諸外道眾出家離去未久，我乃生思念：『若彼諸外道出家眾，重來問我，我將如何作答？為彼諸外道出家眾，說世尊之所說，不以非實譏誣世尊，以隨法說法、以順法之順正說，不得墮呵責處。』』

一五

「阿菟羅度！汝意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

一六

「是故於是處……乃至……」

一七

如是觀之，知……乃至……不受後有。」

一八

「阿菟羅度！汝意如何！觀色是如來耶？」

「大德！不也。」

「觀受……想……行……識是如來耶？」

「大德！不也。」

一九

「阿菟羅度！汝意如何！觀色中有如來耶？」

「大德！不也。」

「觀離色有如來耶？」

「大德！不也。」

「觀受……想……行……識中有如來耶？」

「大德！不也。」

「觀離識有如來耶？」

「大德！不也。」

二〇

「阿菟羅度！汝意如何，見此如來無色、無受、無想、無行、無識耶？」

「大德！不也。」

二一

「阿菟羅度！汝於是處，於現法不得真實之如來，汝得說：『友等！彼如來乃最上人、最勝人、已獲得最勝，彼如來不用施設此四句，〔謂：〕「如來死後有耶？或如來死後無耶？或如來死後亦有亦無耶？或如來死後非有非無耶？」』」

「大德！不也。」

二二

「善哉、善哉！阿菟羅度！阿菟羅度！以前及現在，我乃施設苦與苦之滅。」

〔八七〕第五 跋迦梨

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林迦蘭陀迦園。

二

其時，具壽跋迦梨住陶師之家，患重疾病而甚痛苦。

三

時，具壽跋迦梨告諸侍者言：

「友等！去詣世尊之住處，詣而以我語頭面頂禮世尊足而白言：『大德！跋迦梨比丘，患重疾病困苦，彼以頭面禮世尊足。』再如是白之：『大德世尊！願以哀愍故，請來跋迦梨之處。』」

四

「唯唯，友！」彼諸比丘，應諾具壽跋迦梨，去而詣世尊之住處。詣而敬禮世尊，坐於一面。

五

坐於一面之彼諸比丘白世尊曰：

「大德！跋迦梨比丘，患重疾病而甚痛苦，彼以頭面禮世尊足。復言曰：『大德！願以哀愍故，請來跋迦梨之處。』」

世尊默然而聽許。

六

時，世尊著下衣、持鉢、衣，往具壽跋迦梨之處。

七

具壽跋迦梨，遙見世尊來，見而起牀。

八

時，世尊言跋迦梨曰：

「止止！具壽跋迦梨，勿起牀！此處有設座，我坐此處。」

世尊坐於所設之坐。

九

坐而世尊言具壽跋迦梨曰：

「跋迦梨！堪忍否？足否？苦受之損為不增耶？知損失而不知增長耶？」

「大德！不忍、不足，苦受增而不損，知增長而不知損失。」

一〇

「跋迦梨！有少分之惡作否？有少分之追悔否？」

「大德！實不少惡作，不少追悔！」

一一

「跋迦梨！汝於自戒有所責否？」

「大德！我於自戒無所責。」

一二

「跋迦梨！若於自戒無所責者，有何惡作，有何追悔？」

「大德！欲詣見世尊已久，但雖欲往見世尊，唯我身缺乏力。」

一三

「止止！跋迦梨！何必見此爛壞之身。跋迦梨！得見法者則見我，見我者乃見法。跋迦梨！見法則見我，見我乃見法。」

一四

跋迦梨！汝意如何！色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

一五～一六

「是故於此處……如是觀者，則知……不再受後有。」

一七

時，世尊以此教法，教導具壽跋迦梨，則從座起，而向鷲峰山去。

一八

時，世尊離去後未久，而告諸侍者言：

「友等！以牀載我至仙人黑石窟，如我應如何思命終於屋內耶？」

一九

「唯唯，友！」彼諸比丘應諾具壽跋迦梨，即以牀載具壽跋迦梨到仙人黑石窟。

二〇

時，世尊於日分之餘，及斯夜住鷲峰山。

二一

時，有二天神於深夜現殊妙之色相，徧照鷲峰山，來詣世尊之住處……乃至……立於一面。

二二

立於一面之一天神白世尊曰：

「大德！跋迦梨比丘思念解脫。」

二三

第二天神白世尊曰：

「大德！彼必善解脫而解脫。」

二四

二天神如是言，如是而敬禮世尊，右繞即滅其處。

二五

時，世尊於斯夜過後，告諸比丘言：

諸比丘！當往跋迦梨之處。往而如是言跋迦梨曰：「友跋迦梨！世尊聞二天神之語，昨夜有二天神，深夜現殊妙之色相，徧照鷲峰山，詣世尊之住處，詣而敬禮世尊立於一面。友！立一面之一天神白世尊言：『大德！跋迦梨比丘思念解脫。』第二天神白世尊言：『大德！彼必善解脫而解脫。』友

跋迦梨！世尊於汝作如是言：『跋迦梨！勿畏怖，跋迦梨！勿畏怖。汝之死非惡，汝之命終非惡。』」

二六

「唯然，大德！」彼諸比丘！應諾世尊，而往具壽跋迦梨之處。往而言具壽跋迦梨曰：

「友跋迦梨！世尊聞二天神之語……」

二七

時，具壽跋迦梨告諸侍者曰：

「友等！我由牀下。我如何以想坐高座而聆聞彼世尊之教耶？」

二八

「唯唯，友！」彼諸比丘應諾具壽跋迦梨，則扶具壽跋迦梨下牀。

二九

「友！昨夜有二天神，於深夜……乃至……立於一面。友，立於一面之一天神白佛言：『大德！跋迦梨比丘思解脫。』第二天神白世尊言：『大德！彼善解脫而解脫。』友跋迦梨！世尊對汝如是言：『跋迦梨！勿畏怖，跋迦梨！勿畏怖，汝之死非惡，汝之命終非惡。』」

三〇

「友等！然則當以我語頭面頂禮世尊之足而白言：『大德！跋迦梨比丘患重疾病而甚痛苦。』以頭面頂禮彼世尊之足，而作如是白言：『大德！色是無常，我不猶豫，無常則苦者不疑惑。無常、苦變易之法，我於此無欲、無貪、無愛而不疑惑。大德！受是無常，我不猶豫……乃至……想……行……無常我不猶豫。無常則苦，我不疑惑。無常、苦變易之法，我於此無欲、無貪、無愛而不疑惑。』」

三一

「唯唯，大德！」彼諸比丘應諾具壽跋迦梨而去。

三二

時，諸比丘離去未久，具壽跋迦梨以執持刀。

三三

時，彼諸比丘！來詣世尊之住處，詣而坐於一面。一面坐之彼諸比丘，白世尊曰：

「大德！跋迦梨比丘患重疾病甚是痛苦。彼以頭面頂禮世尊之足，復作如是白言：『大德！色是無常，我不猶豫，無常則苦，我不疑惑。無常、苦變易之法，我於此無欲、無貪、無欲而不疑惑。受……想……行……識是無常，我不猶豫，無常則苦，不為疑惑。無常、苦變易之法，我於此無欲、無貪、無愛而不疑惑。』」

三四

時，世尊告諸比丘言：

「諸比丘！我等往仙人黑石窟，跋迦梨善男子持刀之處。」

「唯唯，大德！彼諸比丘應諾世尊。」

三五

時，世尊與眾多比丘，俱往仙人黑石窟。

三六

世尊遙見具壽跋迦梨，以肩屈於牀上而臥。

三七

其時，有黑雲、闇雲，行於東方，行於西方，行於北方，行於南方，行於上方，行於下方，行於四維。

三八

時，世尊告諸比丘言：

「諸比丘！汝等見此黑雲，行於闇冥之東方，行於西方，行於北方，行於南方，行於上方，行於下方，行於四維耶？」

「大德！如是！」

三九

「諸比丘！此為魔波旬覓求跋迦梨善男子之識，謂跋迦梨善男子之識，止住於何處耶？」

四〇

諸比丘！跋迦梨善男子，其識不止住而般涅槃。」

〔八八〕阿濕波誓

一

爾時，世尊住王舍城竹林迦蘭陀園。

二

其時，具壽阿濕波誓住迦葉園，患重疾病甚是痛苦。

三

時，具壽阿濕波誓告諸侍者曰：

「友等！詣世尊之住處。詣而以我語頭面頂禮世尊之足而白言：『大德！阿濕波誓比丘，重患疾病甚是痛苦。彼以頭面頂禮世尊之足。』復如是白言：『大德世尊！願哀愍故，來阿濕波誓比丘之處。』」

四

「唯唯，友！」彼諸比丘！應諾具壽阿濕波誓，則往世尊之住處。詣而敬禮世尊坐於一面。

五

坐一面之彼諸比丘白世尊言：

「大德！阿濕波誓比丘，疾病……乃至……大德世尊！願哀愍故，請來阿濕波誓之處。」

世尊默然而聽許。

六

時，世尊暮時，從宴默起，往具壽阿濕波誓之處。

七

具壽阿濕波誓，遙見世尊之來，見而起牀。

八

時，世尊言具壽阿濕波誓曰：

「止止！阿濕波誓，勿起牀，此處有設座，我坐此處。」

九

世尊坐於設座。坐而世尊言於具壽阿濕波誓曰：

「阿濕波誓！堪忍否？足否？……乃至……知損失，而不知增長否？」

一〇

「大德！不堪忍……乃至……知增長而不知損失。」

一一

「阿濕波誓！有少分之惡作否？有少分之追悔否？」

「大德！實不少惡作，不少追悔。」

一二

「阿濕波誓！汝於自戒有所責否？」

「大德！我於自戒無所責。」

一三

「阿濕波誓！若汝於自戒無所責者，有何惡作？有何追悔？」

「大德！我前未病時，住於止身行，今不能獲得三昧。大德！我不能獲得三昧，如是思惟：『我豈無退失耶？』」

一四

「阿濕波誓！沙門、婆羅門，三昧堅固、三昧平等者，若不獲得三昧則如是思惟：『我豈無退失耶？』」

一五～一八

「阿濕波誓！汝意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

一九

識……乃至……

二〇

是故於此處……乃至……

二一

作如是觀，……知不再受後有。

二二

彼若感受樂受者，知是無常，知非所耽著，知非所歡喜。
感受苦受者，知是無常，知非所耽著，知非所歡喜。感不苦不
樂受者，知是無常……知非所歡喜。

二三

彼若感受樂受者，則感受離繫。感受苦受者，則感受離
繫。感受不苦不樂受者，則感受離繫。

二四

彼感受身以邊際為受，而知感受身以邊際為受。感受命以
邊際為受，而知感受命以邊際為受。身壞、命終之後，於此處
知一切之受，非所歡喜而清涼。

二五

「阿濕波誓！譬如油炷，緣油燈而燃。彼油炷盡時，食無
而消。阿濕波誓！如是比丘，感受身以邊際為受，而知感受身
以邊際為受。感受命以邊際為受，而知感受命以邊際為受。身
壞、命盡後，於此處知一切受，非所歡喜而清涼。」

〔八九〕差摩

一

爾時，眾多之長老比丘，住拘睢彌國瞿師多羅園。

二

其時，具壽差摩住跋陀梨園，患重病甚是痛苦。

三

時，諸長老比丘，暮時從宴默起，告具壽陀娑曰：

「友陀娑！往差摩比丘之處，往而言於差摩比丘曰：『友等！諸長老言汝：「友！堪忍否？足否？苦受損而不增、知損失、不知增長否？」』」

四

「唯唯，友等！」具壽陀娑應諾諸長老比丘而往具壽差摩之處。往而言具壽差摩曰：

「友差摩！諸長老言汝：『友！堪忍否？……不知增長否？』」

五

「友！不忍，不足……乃至……知增長而不知損失。」

六

時，具壽陀娑往諸長老比丘之處。往而言於諸長老比丘曰：

「友等！差摩比丘言：『友！不堪忍……乃至……知增長而不知損失。』」

七

「友陀娑！往差摩比丘之處。往而言於差摩比丘曰：『友差摩！諸長老言於汝：「友！世尊說示五取蘊，謂：色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊是。具壽差摩觀此五取蘊，有少分之我或我所耶？」』」

八

「唯唯，友等！」具壽陀娑應諾諸長老比丘，往具壽差摩之處。往而……乃至……

「友！諸長者言汝：『友！世尊說五取蘊，謂：色取蘊……乃至……識取蘊。具壽差摩觀此五取蘊，有少分之我或我所否？』」

九

「友！世尊說五取蘊，謂色取蘊……乃至……識取蘊。友等！我不觀此五取蘊有少分之我或我所。」

一〇

時，具壽陀娑，往諸長老比丘之處。往而言諸長老比丘曰：

「友等！差摩比丘言：『友等！世尊說五取蘊，謂：色蘊……乃至……識蘊。友等！我不觀此五取蘊有少分之我或我所。』」

一一

「友陀娑！往差摩比丘之處，往而言差摩比丘：『友差摩！諸長老言汝：「友！世尊說五取蘊：謂色取蘊……乃至……識取蘊。具壽差摩若不觀此五取蘊有少分之我或我所者，具壽差摩乃漏盡阿羅漢。」』」

一二

「唯唯，友等！」具壽陀娑應諾長者比丘，往具壽差摩之處……乃至……

友差摩！諸長老言汝：「友！世尊說五取蘊，謂：色取蘊……乃至……識取蘊。具壽差摩若不觀此五取蘊有少分之我或我所者，具壽差摩乃漏盡之阿羅漢。」

一三

「友等！世尊說五取蘊，謂：色取蘊……乃至……識取蘊。友等！我於此五取蘊不觀有少分之我或我所，而非漏盡之阿羅漢。友等！我雖證於五取蘊有我，而非觀此為我有。」

一四

時，具壽陀娑往諸長比丘之處……言諸長老比丘：

「友等！差摩比丘言：『友等！世尊說五取蘊，謂：色取蘊……乃至……識取蘊。友等！我不觀此五取蘊有少分之我或我所，而非漏盡之阿羅漢。友等！我雖證於五取蘊有我，而非觀此為我有。』」

一五

「友陀娑！往差摩比丘之處，往而言於差摩比丘曰：『友差摩！諸長老言汝：「友差摩！汝說為有我，以何者說為有我耶？說色是我耶？說離色有我耶？說受……想……行……識是我耶？說離識有我耶？友差摩！汝說為有我，以何者說為有我耶？」』」

一六

「唯唯，友等！」具壽陀娑應諾長老比丘，往具壽差摩之處。往而言於具壽差摩：

「友差摩！諸長老言汝：『友差摩！汝說有我，以何者說為有我耶？說色為我耶？說離色有我耶？說受……想……行……識是我耶？說離識有我耶？友差摩！汝說有我，以說何為有我耶？』」

一七

「且止！友陀娑！何以如是令驅馳耶？取杖來，我自往諸長老比丘之住處。」

一八

時，具壽差摩扶掖往諸長老比丘之住處。往而與諸長老比丘，俱相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。

一九

坐一面時，諸長老比丘言於具壽差摩曰：

「友差摩！汝說為有我，以何者說為有我耶？說色是我耶？說離色有我耶？說受……想……行……識是我耶？說離識有我耶？友差摩！汝說為有我者，以何者說為有我耶？」

二〇

「友等！我非說色是我，非說受……想……行……識是我，非說離識有我。友等！我雖證於五取蘊為有我，但非觀此為我有。」

二一

友等！譬如優鉢羅、鉢曇摩、分陀利華之香。若有人說瓣有香、莖有香、花蕊有香者，為等說乎？」

「友！此事不然。」

「友等！如何答者，方為正答耶？」

「友！以答華有香，方為正答。」

二二

「友等！如是，我非說色是我，非說離色有我，非說受……想……行……識有我，非說離識有我。友等！我雖證於五取蘊有我，而非觀此為我有。」

二三

友等！聖弟子雖已斷五下分結，但隨伴五取蘊之我慢、我欲、我隨眠未斷。彼於後時，於五取蘊觀生滅而住。〔謂：〕此是色，此是色集，此是色滅，此是受……想……行……識，此是識集，此是識滅。

二四

彼若於此五取蘊觀生滅而住者，隨伴五取蘊之我慢、我欲、我隨眠之未斷者，達永斷。

二五

友等！譬如染汙塵垢之衣。主者以此交與洗衣者。洗衣者，將此用鹽湯、灰水、牛糞，平均摩擦，而再以淨水洗濯之。

二六

彼衣雖然清淨潔白，然此隨伴之鹽臭、灰臭、牛糞臭未斷。洗衣者，將此交與主者，置於篋中以香薰此，則隨伴此之鹽臭、灰臭、牛糞臭之未斷者，而達永斷。

二七

友等！如是聖弟子，雖已斷五下分結，未斷隨伴五取蘊之我慢、我欲、我隨眠。彼於後時，於五取蘊觀生滅而住。

〔謂：〕此是色，此是色集，此是色滅，此是受……想……行……識，此是識集，此是識滅。彼若於五取蘊，觀生滅而住者，則於隨伴五取蘊之我慢、我欲，我隨眠之未斷者，達永斷。」

二八

如是說已，諸長老比丘言於具壽差摩曰：

「我等非欲燒亂具壽差摩而問。然具壽差摩，能廣說、示教、立說、開顯、分別、顯發彼世尊之教。」

二九

具壽差摩，即廣說、示教、立說、開顯、分別、顯彼世尊之教。

三〇

具壽差摩如是說已。諸長老比丘喜悅、歡喜具壽差摩之所說。

三一

說如是說時、六十位長老比丘及具壽，無取著而從諸漏得心解脫。

〔九〇〕第八 闍陀

一

爾時，有眾多長老比丘，住波羅捺國仙人墮處鹿野苑。

二

時，具壽闍陀暮時從靜座而起，持鍵由精舍去至精舍，言於諸長老比丘曰：

「諸長老比丘！請教導我，諸具壽長老！請教導我！諸具壽長老！請為我說法，以使我得觀於法。」

三

如是言已，諸長老比丘言於具壽闍陀曰：

「友闍陀！色是無常、受是無常、想是無常、行是無常、識是無常。色是無我、受……想……行……識是無我，一切行無常，一切法無我。」

四

時，具壽闍陀乃思惟：

「我亦如是思惟：『色是無常、受……想……行……識是無常。色是無我、受……想……行……識是無我。一切行無常，一切法無我。』」

五

然而於一切行寂止，一切依定棄，愛盡、離欲、滅盡、涅槃，我心不進、不澄、不安住，不解脫。則生恐懼、取著，意退轉而思：『若然者，以何為我體耶？』然而觀於法者則不然。以誰為我說法，有使我觀於法者耶？」

六

時，具壽闍陀思惟：

「彼具壽阿難住拘睢彌國瞿師羅園，與師及諸同梵行知識所讚歎尊重。具壽阿難能為我說法，以使我觀於法。我如是信賴具壽阿難，我應往具壽阿難之處。」

七

時，具壽闍陀，收藏臥、坐具，持鉢、衣，往拘睢彌國瞿師羅園，具壽阿難之處。往而與具壽阿難，俱相交談慶慰……乃至……

八

一面坐之具壽闍陀，言具壽阿難：

「友阿難！我有時住波羅捺國仙人墮處鹿野苑。友！於時，我從靜坐起，持鍵由精舍去至精舍，言於諸長老比丘：『諸具壽長老！請教導我，請說法，令我得觀於法。』」

九

如是言已。諸長老比丘謂我曰：『友闍陀！色是無常，受……想……行……識是無常。色是無我……乃至……識是無

我。一切行無常，一切法無我。』

一〇

友！時，我乃思惟：『我亦如是思惟色是無常，……乃至……識是無常，色是無我，受……想……行……識是無我。一切行無常，一切法無我。』

一一

然而於一切行寂止，一切依定棄，愛盡、離欲、滅盡、涅槃，我心不進、不澄、不安住、不解脫。生恐懼、取著、意退轉則思：『苦然者，何為我體耶？』然而觀於法者則不然。誰為我說法，有使我觀於法者耶？

一二

友！時，我乃思惟：『彼具壽阿難，住拘睢彌國瞿師羅園。師及諸同梵行知識所讚歎尊重。具壽阿難，能為我說法，以使我觀法。我如是信賴具壽阿難，我應往具壽阿難之處。』

一三

具壽阿難！請教導我，具壽阿難！請教誡我，具壽阿難！請為我說法，以使我觀法。」

一四

「我如是喜悅具壽闍陀。具壽闍陀，顯現以破除障礙者。闍陀！諦聽！汝足堪知法。」

一五

時，具壽闍陀知「我堪知法」，如是則得廣大歡喜、勝喜。

一六

「友闍陀！我親自聞於世尊，親自教導於迦旃延比丘，謂：

『迦旃延！此世間多依二〔邊〕，或有，或無。迦旃延！若以正慧如實觀世間之集者，於世間不生無見。迦旃延！若以正慧如實觀世間之滅者，於世間不生有見。迦旃延！此世間多為近倚、取著、現貪所縛。然而不接近、此近倚、取著、意之攝受、現貪、隨眠則不取著。則不攝受「我體」，現生者則苦生、現滅者則苦滅、不疑惑、不猶豫、無其他緣而智生。迦旃延！如是為正見。

一七

迦旃延！〔一切是有〕者，此是一邊；〔一切是無〕者，此是一邊。迦旃延！如來離此二邊，依中而說法。謂：「緣無明而有行，緣行而有識，……乃至……如是而有此一切苦蘊之集。然而，無餘離滅無明，則行滅……乃至……如是而有此一切苦蘊之滅。」』

一八

友阿難！如是具壽為同梵行者，欲哀愍、利益、所說教導、教誡者，我亦聞具壽阿難之說法，而現觀於法。」

〔九一〕第九 羅睺羅（一）

一

〔爾時，世尊〕住舍衛國……乃至……

二

時，具壽羅睺羅，來詣世尊之處。詣而……乃至……

三

坐於一面之具壽羅睺羅白世尊曰：

「大德！如何知、如何觀者，於此有識之身及外之一切相，得滅我慢、我所慢、慢隨眠耶？」

四

「羅睺羅！一切色之過去、未來、現在、內外、粗、細、劣、勝、遠、近者，此非我所，此非我，此非我體，如是以正慧作如實觀。

五～七

一切之受……想……行……

八

識之過去，未來、現在、內、外……乃至……此非我，此非我所，此非我體，如是以正慧作如實觀。

九

羅睺羅！如是知，如是觀者，於此有識之身及外之一切相，得滅我慢、我所慢、慢隨眠。」

〔九二〕羅睺羅（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

坐於一面之具壽羅睺羅，白世尊曰：

「大德！如何知、如何觀者，於此有識之身及外之一切相，得滅我慢、我所慢、慢隨眠，以超種種相，得寂靜，而善解脫耶？」

四

「羅睺羅！一切色之過去、未來、現在……乃至……遠、近，此非我所，此非我，此非我體。如是以正慧作如實觀者，則無取著而解脫。」

五～七

一切之受……想……行……

八

識之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近，此非我所，此非我，此非我體。如是以正慧作如實觀者，則無取著而解脫。」

九

羅睺羅！如是知，如是觀者，於此有識之身及外之一切相，得滅我慢、我所慢、慢隨眠。以超種種相，得寂靜而善解脫。」

第四長老品
〔終〕

此品之攝頌曰：

阿難與低舍 以及焰摩迦
及阿菴羅度 乃至跋迦梨
阿濕婆誓與 差摩並闍陀
他二羅睺羅 依此以說品

第五 華品

〔九三〕第一 河流

一～二

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！譬如山間之河流，處多漂沒，流遠水勢急。其兩岸有生葦草者，即分散下垂於河中。有生茅草者，即分散下垂於河中。有生燈心草者，即分散下垂於河中。有生香草者，即分散下垂於河中。」

四

有人被漂流，若捉執葦草者，即壞，由此因緣則墮於災厄苦難。若捉執茅草，……燈心草……香草……木者則壞，由此因緣墮於災厄苦難。

五

諸比丘！如是無聞之凡夫，不見聖人，不知聖人之法，不順聖人之法，不見善知識，不知善知識，不順善知識之法。以觀色是我，我有色，色中有我，我中有色。彼色壞，由此因緣，則墮於災厄苦難。

六～八

受……想……行……

九

觀識是我，我有識，我中有識，識中有我。彼識壞，由此因緣，墮於災厄困難。

一〇

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

一一～一四

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

一五

「諸比丘！是故於此……乃至……

一六

如是觀……乃至知……更不受後有。」

〔九四〕第二 華（增長）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我不與世間諍，世間與我諍。諸比丘！法語者不與世間任何人諍。

四

諸比丘！世間之智者，不許有者，我亦言無。諸比丘！世間之智者，許有者，我亦言有。

五

諸比丘！何以世間之智者，不許有者，我亦言無耶？

六

諸比丘！世間之智者不許有於色是常、恒、永住、而有不變易之法，我亦言無。

七～九

受……想……行……

一〇

世間之智者不許有於識是常、恒、永住、而有不變易之法，我亦言無。

一一

諸比丘！如是我所言無者，世間之智者，亦許無有。

一二

諸比丘！何以世間之智者許有，我亦言有耶？

一三

諸比丘！世間之智者許有，於色是無常、苦而有變易之法，我亦言有。

一四～一六

受……乃至……

一七

世間之智者許有，於識是無常、苦而有變易之法者，我亦言有。

一八

諸比丘！如是我言有者，世間之智者，亦許有有。

一九

諸比丘！於世間有世間法，如來現等覺現觀於此，而說現等覺現觀、示教、立說、開顯、分別、顯發。

二〇

諸比丘！何以於世間有世間法，如來為現等覺現觀於此，而說現等覺現觀、示教、立說、開顯、分別、顯發耶？

二一

諸比丘！色是世間之世間法。如來現等覺現觀於此，而說現等覺現觀、示教、立說、開顯、分別、顯發。諸比丘！如來如是說、示教、立說、開顯、分別、顯發有不知、不見者。我如何於此愚癡、盲闇、無眼之凡夫而不知不見。

二二

諸比丘！受是世間之世間法……

二三

諸比丘！想是世間之世間法……

二四

諸比丘！行是世間之世間法……

二五

諸比丘！識是世間之世間法，如來現等覺現觀於此，而說現等覺現觀、示教、立說、開顯、分別、顯發。諸比丘！如來如是說、示教、立說、開顯、分別、顯發有不知、不見者。我如何於此愚癡、盲闇、無眼之凡夫而不知不見。

二六

諸比丘！譬如優鉢羅、鉢曇摩、分陀利華，生於水中，長於水中，由水顯現而不為所染而立。

諸比丘！如是如來，長於世間，勝於世間，而不染於世間而住。」

〔九五〕第三 泡沫

一

爾時，世尊住阿毘陀處之恒河邊。

二

於此，世尊告諸比丘曰：

三

「諸比丘！譬如此恒河起大聚沫，具眼之士夫，見此觀之，則如理於觀察。彼見於此觀之，如理於觀察：無所有、無實、無堅固。諸比丘！如何於聚沫有堅實耶？

四

諸比丘！如是色有過去、未來、現在……乃至……遠、近，比丘見此觀之，如理於觀察：無所有、無實、無堅固。諸比丘！如何於色有堅實焉！

五

諸比丘！譬如秋季降大雨，於水上泡沫之生滅。具眼之士夫，見此觀之，如理於觀察。彼見此觀之，如理於觀察：無所有、無實、無堅固。諸比丘！如何於水泡有堅實焉！

六

諸比丘！有如是受之過去、未來、現在……乃至……遠、近。比丘見此、觀之，如理於觀察。彼見此、觀之，如理於觀察：無所有、無實、無堅固。諸比丘！如何受有堅實焉！

七

諸比丘！譬如暑季之最終月，日盛中時，陽燄流動，具眼之士夫，見此觀之，如理於觀察。彼見此、觀之，如理於觀察：無所有、無實、……乃至……諸比丘！如何於陽燄有堅實焉！

八

諸比丘！有如是想之……乃至……

九

諸比丘！譬如有士夫，欲〔得〕堅固之材，求堅固之材持利斧往尋求堅固之材而入林中。〔忽〕見彼處有直立之大芭蕉樹新鮮而無核心。彼伐此根，伐根亦伐頂。伐頂而剝其樹皮。彼剝樹皮，連膚亦不得，何況堅實焉！

一〇

具眼之士夫，見此觀之，如理於觀察。彼見於此觀之，如理於觀察：則無所有、無實、無堅固。諸比丘！如何以芭蕉樹有堅實焉！

一一

諸比丘！有如是行之過去、未來、現在……乃至……遠、近。比丘見此觀之，如理於觀察。彼見此觀之，如理於觀察：則無所有、無實、無堅固。諸比丘！如何於行有堅實焉！

一二

諸比丘！譬如幻師或幻師弟子，於四衢道現幻，具眼之士夫，見此觀之，如理於觀察。彼見此觀之，如理於觀察：則無所有、無實、無堅固。諸比丘！如何有幻之堅實焉！

一三

諸比丘！有如是識之過去、未來、現在……乃至……遠、近。比丘見此觀之，如理於觀察。彼見此觀之，如理於觀察：則無所有、無實、無堅固。諸比丘！如何有識之堅實焉！

一四

諸比丘！有聞之聖弟子，如是觀之，而厭患於色，厭患於受……想……行……識。厭患而離欲，離欲而解脫，解脫而解脫已，則智生……乃至知……不更受後有。」

一五

世尊如是言，善逝如是言已，師更言曰：

（一）色乃如聚沫

受乃如水泡

想乃如陽燄

行則如芭蕉

識則如幻事

日種尊所說

（二）若周匝而觀

如理察諸法

如理觀見時
無所有無實
（三）此身始皆然
大慧者所說
若以離三法
應觀色棄物
（四）三為壽暖識
若以離此身
棄之無回顧
無思食他物
（五）如是身相續
此愚說幻事
殺者始稱名
堅固此處無
（六）比丘勤精進
觀察是諸蘊
晝固比日夜
有正知繫念
（七）一切結應斷
為己歸依處
猶如燃頭想
應希不動境

〔九六〕第四 牛糞

一～二

〔爾時，世尊〕住舍衛城……時，有一人……坐。

三

坐於一面之彼比丘白世尊言：

四

「大德！有少分色是常、恒、永住而不變易法，有相似永住而應正住者耶？」

五

大德！有少分受是常、恒、永住而不變易法，相似永住而應正住者耶？

六

大德！有少分想是……乃至……

七

大德！有少分行是常、恒、永住而不變易法，相似永住而應正住者耶？

八

大德！有少分識是常、恒、永住而不變易法，相似永住而應正住者耶？」

九

「比丘！無有少分色是常、恒、永住而有不變易法，相似永住應正住者。

一〇～一三

比丘！無有少分受……想……行……識是常、恒、永住而不變易法，相似永住而應正住者。」

一四

時，世尊手執小牛糞搏，以告彼比丘曰：

一五

「比丘！無有如是分之自性，獲得常、恒、永住而有不變易之法，相似永住而應正住者。

一六

比丘！若有如是分之自性，獲得常、恒、永住而有不變易法者，梵行住者則無能正盡苦。比丘！無有如是分之自性，獲得常、恒、永住而有不變易法故，梵行住者有能正盡苦。

一七

比丘！於前生我為剎帝利之灌頂王。比丘！我為剎帝利之灌頂王時，有八萬四千之都城，拘舍婆提城為上首。

一八

比丘！我為剎帝利之灌頂王時，有八萬四千之宮殿，達摩殿為上首。

一九

比丘！我為剎帝利之灌頂王時，有八萬四千之重閣，摩訶由訶閣為上首。

二〇

比丘！我為剎帝利之灌頂王時，有八萬四千之牀，乃牙之所成，堅材之所成，金所成，銀所成。鋪以深毛之黑毛氈，鋪以白羊毛毯，以鋪有花樣之羊毛布，鋪以迦達利鹿之最勝毛毯，於上具張蓋，兩側有丹枕。

二一

比丘！我為剎帝利之灌頂王時，有八萬四千之象，以金莊嚴之，以具金幢，金網覆於上，布薩象為上首。

二二

比丘！我為剎帝利之灌頂王時，有八萬四千之馬，以金莊嚴之，具以金幢，金網覆於上，婆羅訶馬王為上首。

二三

比丘！我為剎帝利之灌頂王時，有八萬四千之車，以金莊嚴之，具以金幢，金網覆於上，毘闍那難提車為上首。

二四

比丘！我為剎帝利之灌頂王時，有八萬四千之摩尼珠，珠寶為上首。

二五

比丘！我……乃至……有八萬四千之女，須跋陀妃為上首。

二六

比丘！我……乃至……有八萬四千之剎帝利，從臣而主兵臣寶為上首。

二七

比丘！我……乃至……有八萬四千之乳牛，以黃麻莊嚴之，具以之搾乳桶。

二八

比丘！我……乃至……有八萬四千俱底之衣服，是芻摩細衣，憍奢耶細衣，欽婆羅細衣，古貝細衣。

二九

比丘！我……乃至……有八萬四千之釜飲食，以供朝夕飲食。

三〇

復次，比丘！其時有八萬四千之都城，我唯居一都城，即拘舍婆提城。

三一

比丘！其時有八萬四千之宮殿，我唯居一宮殿，則達摩殿。

三二

比丘！其時有八萬四千之重閣，我唯居一重閣，即摩訶由訶閣。

三三

比丘！其時有八萬四千之牀，我唯用牙所成，或堅材所成，或金所成，或銀所成。

三四

比丘！其時雖有八萬四千之象，我唯乘一象，即布薩象。

三五

比丘！其時雖有八萬四千之馬，我唯乘一馬，即婆羅訶馬王。

三六

比丘！其時雖有八萬四千之車，我唯乘一車，即毘闍那難提車。

三七

比丘！其時雖八萬四千之女，唯一之女奉侍於我，即剎帝利女，或耶羅美迦女。

三八

比丘！其時雖有八萬四千俱底之衣服，我唯著一套衣，即芻摩細衣，或憍奢耶細衣，或欽婆羅細衣，或古貝細衣。

三九

比丘！雖有八萬四千之釜飲食，我唯食一釜食，乃至那厘量之飯，及於此相應之羹。

四〇

比丘！一切諸行皆為過去而滅盡所變易。

四一

比丘！如是諸行是無常也。比丘！如是諸行是無恒。比丘！如是諸行是不安。

四二

比丘！故應厭患、應離，應解脫於一切諸行。」

〔九七〕第五 指尖

一～二

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊言：

四

「大德！有少分之色是常、恒、不變易法，而相似永住之應正住者耶？」

五

大德！有少分之受……乃至……

六

大德！有少分之想……乃至……

七

大德！有少分之行……乃至……

八

大德！有少分之識是常、恒、不變易法，而相似永住之應正住者耶？」

九

「比丘！無有少分之色是常、恒、永住，不變易法，而相似永住之應正住者。

一〇～一三

比丘！無有少分之受……想……行……識是常、恒、永住，不變易法，而相似永住之應正住者。

一四

時，世尊於指尖置少許之塵，告彼比丘曰：

一五

比丘！無有如是分之色是常、恒、永住，不變易法，而相似永住之應正住者。

比丘！若有如是分之色是常、恒、永住，不變易法者，即無梵行者能正盡苦。比丘！然而，無有如是分之色是常、恒、永住，不變易法者，故有梵行者，能正盡苦。

一六

比丘！無有如是分之受是常、恒、永住，不變易法，而相似永住之應正住者。

比丘！若有如是分之受是常、恒、永住，不變易法者，梵行住即不能正盡苦。比丘！然而，無有如是分之受是常、恒、永住，不變易法者，故梵行住能正盡苦。

一七

比丘！無有如是分之想……乃至……

一八

比丘！無有如是分之行是常、恒、永住，不變易法，而相似永住之應正住。

比丘！若有如是分之行是常、恒、永住，不變易法者，梵行住即不能正盡苦。比丘！然而，無有如是分之行是常、恒、永住，不變易法，故梵行住，能正盡苦。

一九

比丘！無有如是分之識是常、恒、永住，不變易法，而相似永住之應正住者。

比丘！若有如是分之識是常、恒、永住，不變易法者，梵行住即不能正盡苦。比丘！然而，無有如是分之識是常、恒、永住，不變易法，故梵行住，能正盡苦。

二〇

比丘！汝意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

二一

「比丘！是故於此處……乃至……

二二

如是觀……乃至知……不更受後有。」

〔九八〕第六 清淨（海）

一～二

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

三

坐於一面之彼比丘白世尊言：

四

「大德！有少分之色是常、恒、不變易法，相似永住而應正住者耶？」

五～八

大德！有少分之受……想……行……識是常、恒、永住、不變易法，有相似永住而應正住者耶？」

九

「比丘！無有少分之色是常、恒、永住、不變易法，相似永住而應正住者。」

一〇～一三

比丘！無有少分之受……想……行……識是常、恒、永住、不變易法，相似永住而應正住者。」

〔九九〕第七 繫繩（一）

一～二

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！輪迴乃由無始來，眾生為無明所蓋，渴愛所繫，流轉輪迴而不知其前際。

四

諸比丘！大海有乾枯歸無之時。諸比丘！而我不說無明所蓋，渴愛所繫，流轉輪迴之眾生，有苦之邊際。

五

諸比丘！須彌山王有崩落歸無之時。諸比丘！而我不說無明所蓋、渴愛所繫、流轉輪迴之眾生，有苦之邊際。

六

諸比丘！大地有敗壞歸無之時。諸比丘！而我不說無明所蓋，渴愛所繫，流轉輪迴之眾生，有苦之邊際。

七

諸比丘！譬如狗堅固縛於繩，以繫於杙柱，而彼輪轉繞於杙柱。諸比丘！如是無聞之凡夫，不見聖人……乃至……不順善知識之法。以見色是我……乃至……受……想……行……識是我。我乃識有，我中有識，識中有我。彼以繞色輪轉，以繞受……想……行……識輪轉而不解脫於色，不解脫於受，不解

脫於想，不解脫於行，不解脫於識，不解脫於生、老、病、死、愁、悲、苦、憂、惱，不解脫於苦。

八

諸比丘！然而，有聞之聖弟子，見聖人……乃至……順善知識之法。不見色是我……乃至……受……想……行……識是我；我乃識有，我中有識，識中有我。彼不繞色輪轉，不繞受……想……行……識輪轉。彼不繞色、不輪轉，〔不繞受……想……行……識不輪轉〕而解脫於色，解脫於受，解脫於想，解脫於行，解脫於識，解脫於生、老、病、死、愁、悲、苦、憂、惱，解脫於苦。」

〔一〇〇〕第八 繫繩（二）

一～二

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！輪迴乃由無始來，眾生為無明所蓋，渴愛所繫，流轉輪迴而不知其前際。

四

諸比丘！譬如狗堅固縛於繩，繫於杙柱，彼坐者，順杙柱而坐，臥者，順杙柱而臥。

五

諸比丘！如是無聞之凡夫，見於色此是我所、是我、是我體。見於受、想、行、識此是我所、是我、是我體。若彼行

者，即順於五取蘊而行，住者，即順於五取蘊而住，坐者，即順於五取蘊而坐，臥者，即順於五取蘊而臥。

六

諸比丘！是故，應常常觀察自心，此心長夜染於貪欲、瞋恚、愚癡。諸比丘！因心受染故，眾生受染；心淨故，眾生淨。

七

諸比丘！汝等曾見名『行』之畫耶？」

「大德！如是。」

「諸比丘！彼名『行』之畫乃心之所思。諸比丘！心比其『行』畫更多彩。

八

諸比丘！是故應常常觀察自心，此心長夜染於貪欲、瞋恚、愚癡。諸比丘！心受染故，眾生受染；心淨故，眾生淨。

九

諸比丘！我不見於他類如種種畜生之多樣。諸比丘！畜生亦心之所思。諸比丘！心亦比彼畜生更多種。

一〇

諸比丘！是故應常常觀察自心。此心長夜染於貪欲、瞋恚、愚癡。諸比丘！心受染故，眾生受染；心淨故，眾生淨。

一一

諸比丘！譬如染絲者或畫師，用染料、胭脂、姜黃、藍、茜，善磨之板、壁、布片，以畫男女之像，肢節悉現。諸比丘！如是之無聞凡夫，反覆而起色，起受……想……行……識。

一二

諸比丘！汝等於意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「受……想……行……識……乃至……」

一三～一四

諸比丘！是故於此處……乃至知……不更受後有。」

〔一〇一〕第九 手斧之柄（船舶）

一～二

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我說知見而諸漏滅盡，非不知不見。」

四

諸比丘！以如何知見，而盡諸漏耶？此是色，此是色之集，此是色之滅。此是受……想……行……識也。此是識之集，此是識之滅。諸比丘！如是知見，而盡諸漏。

五

諸比丘！若比丘不勤勉修習而住者，雖希望『無執取，而心得解脫諸漏』，無執取而心得不得解脫諸漏。

六

所以者何？應言不修習故。不修習於何耶？不修習四念處，不修習四正勤，不修習四神足，不修習五根，不修習五力，不修習七覺支，不修習八支聖道故。

七

諸比丘！譬如有八、十、十二之鷄卵，鷄則不正孵抱於此，不正暖之，不正孵之。

八

彼鷄雖希望『雛能以足、爪、鷄冠，或口嘴以破卵殼，安穩而出生』，彼雛卻不能以足、爪、鷄冠，或口嘴以破卵殼，安穩而出生。

九

所以者何？諸比丘！雖有如是八、十、十二之鷄卵，鷄則不正抱於此，不正暖之，不正孵故。

一〇

諸比丘！如是若比丘不勤勉修習而住者，雖希望『無執取，而心得諸漏解脫』，無執取而心得不得諸漏解脫。

一一

所以者何？應言不修習故。不修習於何耶？不修習四念處……乃至……不修習八支聖道故。

一二

諸比丘！若比丘勤勉修習而住者，雖不希望『無執取，而心得諸漏解脫』，無執取而心得諸漏解脫。

一三

所以者何？應言修習故，修習於何耶？修習四念處、修習四正勤、修習四神足、修習五根、修習五力、修習七覺支、修習八支聖道故。

一四

諸比丘！譬如有八、十、十二之鷄卵，鷄乃正抱於此，正暖之，正孵之。彼鷄雖不希望『雛以足、爪、鷄冠，或口嘴，破其卵殼，令安穩出生』，彼雛能以足、爪、鷄冠，或口嘴，破其卵殼，安穩出生。

一五

所以者何？諸比丘！如是八、十、十二之鷄卵，鷄乃正抱於此，正孵故。

一六

諸比丘！如是若比丘勤勉修習而住者，雖不希望『無執取，而心得諸漏解脫』，無執取而心得諸漏解脫。

一七

所以者何？應言修習故。修習於何耶？修習四念處……乃至……修習八支聖道故。

一八

諸比丘！譬如石匠或石工匠弟子之斧柄現其指跡，現其母指跡。彼雖不知『我手握斧柄所損，今日幾許、昨日幾許、明日幾許』，而只知損之損。

一九

諸比丘！如是，若比丘勤勉修習而住者，雖不知『我漏之盡今日幾許、昨日幾許、明日幾許』，以知漏之盡。

二〇

諸比丘！譬如海上有船舶，以籐綴縛而漂流於六月水上，冬則漂著於陸地，綴縛被風日所曝。彼綴縛又被雲雨所霑，容易耗損腐敗。

二一

諸比丘！如是，若比丘勤勉修習而住者，諸結容易損耗腐敗。」

〔一〇二〕第十 無常性（想）

一～二

〔爾時，世尊〕住舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！以修習無常想，多習者，永盡一切欲貪，永盡一切色貪，永盡一切有貪，永盡一切無明，永斷一切我慢。

四

諸比丘！譬如田夫，秋時執大犁而耕，以斷一切生長之根。諸比丘！如是修習無常想，多習者，永盡一切欲貪，永盡一切色欲，永盡一切有貪，永盡一切無明，永斷一切我慢。

五

諸比丘！譬如割婆羅波草人，割波羅波草，以捉其端而振動上下，振動左右，振動而棄之。諸比丘！如是修習無常想……乃至……

六

諸比丘！譬如菴羅果脫離於樹幹，著於樹幹之菴羅果，悉隨於此。諸比丘！如是修習無常想……乃至……

七

諸比丘！譬如重閣之一切重簷之向於屋頂、趣於屋頂、集於屋頂，以屋頂為最上。諸比丘！如是修習無常想……乃至……

八

諸比丘！譬如諸根香中，以隨時檀為最上。諸比丘！如是修習無常想……乃至……

九

諸比丘！譬如諸核香中，以赤檀為最上。諸比丘！如是修習無常想……乃至……

一〇

諸比丘！譬如諸華香中，以夏生之花為最上。諸比丘！如是修習無常想……乃至……

一一

諸比丘！譬如諸小王悉隨屬於轉輪王，轉輪王為其最上。諸比丘！如是修習無常想……乃至……

一二

諸比丘！譬如諸星之光明，悉不應於月光十六分之一，以月光為其最上。諸比丘！如是修習無常想……乃至……

一三

諸比丘！譬如秋時，空豁無雲時，日昇於蒼天，以除一切虛空之闇冥，輝耀熱照。諸比丘！如是修習無常想，多習者，永盡一切欲貪，永盡一切色貪，永盡一切有貪，永盡一切無明，永斷一切我慢。

一四

諸比丘！如何修習無常想？如何多修習者，永盡一切欲貪……乃至……永斷一切我慢耶？

一五

此是色，此是色之集，此是色之滅，此是受……想……
行……識之集，此是識之滅。

一六

諸比丘！如是修習無常想，如是多習者，永盡一切欲貪，
永盡一切色貪，永盡有貪，永盡一切無明，永斷一切我慢。」

（第五）華品
（終）

此品之攝頌：

河流華泡沫
牛糞與指尖
清淨二繫繩
手斧柄無常
中五十經終

中五十經品之攝頌

封滯阿羅漢
所食長老名
以為華品名
第二五十經

第三 後五十經

第一 邊品

〔一〇三〕第一 邊

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有四邊。以何為四耶？有身邊，有身集邊，有滅邊，有順身滅道邊是。

四

諸比丘！何為有身邊耶？名五取蘊。以何為五耶？謂：色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊是。諸比丘！此名為有身邊。

五

諸比丘！以何為有身集邊耶？當來有之渴與愛、喜貪俱而為樂著於彼彼。謂：是欲愛、有愛、非有愛。諸比丘！此名為有身集邊。

六

諸比丘！以何為有身滅邊耶？彼渴愛之無餘、離欲、滅盡、捨離、定棄、解脫、無著是。諸比丘！此名為有身滅邊。

七

諸比丘！何為有順身滅道邊耶？即八支聖道是。謂：正見……乃至……正定是。諸比丘！此名為有順身滅道邊。

八

諸比丘！有如是之四邊。」

〔一〇四〕第二 苦

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我為汝等說苦、苦集、苦滅、順苦滅道，諦聽。

四

諸比丘！以何為苦耶？名五取蘊。以何為五耶？謂：色取蘊……乃至……識取蘊是。諸比丘！此名為苦。

五

諸比丘！以何為苦集耶？當來有之渴愛……乃至……非有愛是。諸比丘！此名為苦集。

六

諸比丘！以何為苦滅耶？彼渴愛之無餘、離欲、滅盡、捨離、定棄、解脫、無著。諸比丘！此名為苦滅。

七

諸比丘！以何為順苦滅道耶？即八支聖道是。謂：正見……乃至……正定。諸比丘！此名為順苦滅道。」

〔一〇五〕第三 有身

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我為汝等說有身、有身之集、有身之滅、有順身滅之道，諦聽。

四

諸比丘！以何為有身耶？名為五取蘊。以何為五耶？謂：色取蘊……乃至……識取蘊是。諸比丘！此名為有身。

五

諸比丘！以何為有身之集耶？當來有之渴愛……乃至……諸比丘！此名為有身之集。

六

諸比丘！以何為有身之滅耶？彼渴愛之……乃至……。諸比丘！此名為有身之滅。

七～八

諸比丘！以何為有順身滅之道耶？即八支聖道是。謂：正見……乃至……正定。諸比丘！此名為有順身滅之道。」

〔一〇六〕第四 所徧知

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！〔為汝等〕說所知法、徧智、徧智人，諦聽。

四

諸比丘！以何為所知法耶？諸比丘！色是所知法，受……想……行……識是所知法。諸比丘！如是名為所知法。

五

諸比丘！以何為徧智耶？諸比丘！乃貪欲之滅盡、瞋恚之滅盡、愚癡之滅盡也。諸比丘！如是名為徧智。

六

諸比丘！以何為徧知人耶？乃名阿羅漢。具壽之名某甲，姓某甲者。諸比丘如是名為徧知人。」

〔一〇七〕第五 沙門（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有五取蘊。以何為五耶？謂：色取蘊……乃至……識取蘊是。

四

諸比丘！於諸沙門、婆羅門，而不如實知此五取蘊之味、過患者，諸比丘！彼於沙門、婆羅門中，雖是沙門、婆羅門，但我不肯許，又因彼諸具壽於現法，非自證知、現證具足住沙門、婆羅門之義。

五

諸比丘！然而，諸沙門，婆羅門如實知此五取蘊之味、過患與出離者，諸比丘！我肯許彼沙門、婆羅門，於沙門中是沙門，於婆羅門中是婆羅門。又因彼諸具壽於現法自證知、現證具足住沙門、婆羅門之義。」

〔一〇八〕第八 沙門（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有五取蘊。以何為五耶？謂：色取蘊……乃至……

四～五

諸比丘！諸沙門、婆羅門，不如實知此五取蘊之集、滅、味、過患與出離者……乃至……知……者……自證知、現證具足住……。」

〔一〇九〕第七 預流

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有五取蘊。以何為五耶？謂：色取蘊……乃至……識取蘊是。

四

諸比丘！聖弟子如實知此五取蘊之集、滅、味、過患與出離故。諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，決定趣於三菩提。」

〔一一〇〕第八 阿羅漢

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有五取蘊。以何為五耶？謂：色取蘊……乃至……識取蘊也。

四

諸比丘！比丘如實知此五取蘊之集、滅、味、過患與出離，不執取而解脫故。諸比丘！此比丘名為漏盡阿羅漢。梵行已立，所作已辦，捨棄重擔，達得己利，以盡有結，正知解脫。」

〔一一一〕第九 欲貪（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！於色須斷欲、貪、喜、愛。若如是斷彼色者，即如截斷多羅樹頭及根，令歸於無，使未來不生。」

四～六

受……想……行……

七

於識須斷欲、貪、喜、愛。若如是斷彼識者，即如截斷多羅樹頭及根，令歸於無，使未來不生。」

〔一一二〕第十 欲貪（二）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！於色須斷欲、貪、喜、愛、執取之取，心之取著、現貪、隨眠。若如是斷彼色者，即截斷……及根……乃至……」

四～五

受……想……

六

於行須斷欲……乃至……。若如是斷彼行者，即如截多羅樹頭及根，令歸於無，使未來不生。」

七

於識須斷欲、貪、喜、愛、執取之取、心之取著、現貪、隨眠。若如是斷識者，如截斷多羅樹頭及根，令歸於無，使未來不生。」

邊品終

此品攝頌曰：

邊與苦有身
徧知二沙門
預流阿羅漢
以及二欲貪

第二 說法品

〔一一三〕第一 無明（比丘）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

時，有一比丘，來詣世尊之處……乃至……

三

坐於〔一面〕之彼比丘，白世尊言：

「大德！無明。說無明者，以何為無明，如何為無明人耶？」

四

「比丘！此處有無聞之凡夫，不知色，不知色集，不知色滅，不知順色滅道。

五～八

不知受……想……行……乃至……順識滅道。

九

比丘！此名為無明，如是為無明人。」

〔一一四〕第二 明（比丘）

一～三

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊言：

※四

「大德！明。說明者，大德！以何為明？如何為明人？」

※四

「比丘！於此處有有聞之聖弟子，知色，色集……色滅……順色滅道。

五～八

受……想……行……乃至……知順識滅道。

九

比丘！此名為明，如是為明人。」

〔一一五〕第三 說法者（一）

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊言：

「大德！說法者，名說法者。大德！如何為說法者耶？」

四

「若比丘為色之厭患、離欲、滅盡而說法者，應名為說法比丘。若對向於色之厭患、離欲、滅盡者，應名為對向於法隨法之比丘。若比丘以厭患於色、離欲、滅盡，不取執而解脫者，應名為得達現法涅槃之比丘。」

五～七

若比丘、於受……想……行……

八

若比丘！為識之厭患、離欲、滅盡而說法者，應名為說法比丘。若比丘，對向識之厭患、離欲、滅盡者，應名為對向法隨法之比丘。若比丘，以厭患於識、離欲、滅盡、不取執而解脫者，應名為得達現法涅槃之比丘。」

〔一一六〕第四 說法者（二）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

坐於一面之彼比丘白世尊言：

「大德！說法者，名為說法者，大德！如何為說法者耶？
如何為對向於法隨法者耶？如何為達得現法涅槃耶？」

三

「若比丘！為色之厭患、離欲、滅盡而說法者，應名為說法比丘。若比丘對向色之厭患、離欲、滅盡者，應名為對向法隨法之比丘。若比丘，以厭患於色、離欲、滅盡，不執取而解脫者，應名為得達現法涅槃之比丘。」

四～六

若比丘，於受……想……行……

七

若比丘，為識之厭患、離欲、滅盡而說法者，名為說法比丘。若比丘對向識之厭患、離欲、滅盡者，應名為對向法隨法之比丘。若比丘以厭患於識、離欲、滅盡，不執取而解脫者，應名為得達現法涅槃之比丘。」

〔一一七〕第五 縛

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！於此有無聞凡夫。不見聖人……乃至……不順善知識之法。以見色是我，我乃色有，於我中有色，色中有我。諸比丘！此名為無聞凡夫，被色縛所縛，被縛於內外之縛。不見岸，不見彼岸，被縛而生，被縛而死，被縛而從此世趣於後世。

四

見受是我……乃至……受中有我。諸比丘！此名為無聞凡夫，被受縛所縛，被縛於內外之縛。不見岸，不見彼岸。被縛而生，被縛而死，被縛而從此世趣於後世。

五～六

想……行……

七

見識是我……乃至……。諸比丘！此名為無聞凡夫，被縛於識縛，被縛於內外之縛。不見岸，不見彼岸。被縛而生，被縛而死，被縛從此世而趣向後世。

八

諸比丘！有聞之聖弟子。見聖人……乃至……順善知識之法，不見色是我，我乃色有，我中有色，色中有我。諸比丘！此名為有聞之聖子，不被色縛所縛，不被內外之縛所縛，為見岸，見彼岸。此為由苦徧解脫。

九

受……

一〇

想……

一一

行……

一二

不見識是我……乃至……諸比丘！此名為有聞之聖弟子，不被識縛所縛，不被內外之縛所縛。為見岸，見彼岸。此為由苦徧解脫。」

〔一一八〕第六 解脫（一）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！汝等於意如何？見此色是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

「善哉，諸比丘！諸比丘！此色非我所，此非我，此非我體，如是應以正慧如實觀。」

三～五

受……想……行……

六

見此識是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

「善哉，諸比丘！諸比丘！此非我所，此非我，此非我體，如是應以正慧實觀。」

七

如是觀……乃至，知……不更受後有。」

〔一一九〕第七 解脫（二）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！汝等於意如何？見此色非我所，此非我，此非我體耶？」

「大德！如是。」

「善哉，諸比丘！諸比丘！此色非我所，此非我，此非我體，如是應以正慧如實觀。」

三～五

受……想……行……

六

見此識非我所，此非我，此非我體耶？」

「大德！如是。」

「善哉，諸比丘！諸比丘！此識非我所，此非我，此非我體，如是應以正慧如實觀。」

七

如是……乃至，知……不更受後有。」

〔一二〇〕第八 結

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

「諸比丘！我〔為汝等〕說結與結法，諦聽。」

三

諸比丘！以何為結法？以何為結耶？

四

諸比丘！色是結法。於此欲、貪，於此即是結。

五～七

受……想……行……

八

識是結法。於此欲、貪，於此即是結。

九

諸比丘！此名為結是結法。」

〔一二一〕第九 取

一～二

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

「諸比丘！我說取法及取，諦聽。

※四

諸比丘！何為取法？何為取耶？

五

諸比丘！色是取法。於此欲、貪，於此即是取。

六～八

受……想……行……

九

識是取法。於此欲、貪，於此即是取。

一〇

諸比丘！此名為取法，為取。」

〔一二二〕第十 戒

一

爾時，具壽舍利弗及具壽摩訶拘絺羅，住波羅捺國仙人墮處鹿野苑。

二～三

時，具壽摩訶拘絺羅，於暮時從靜座起，即往具壽舍利弗之處……乃至……言：

「友舍利弗！戒具足之比丘，應以何法如理作意耶？」

四

友拘絺羅！戒具足之比丘，應如理作意：五取蘊是無常、苦、病、癱、**刺**、痛、病、他、壞、空，無我。

五

以何為五耶？謂：色取蘊……乃至……識取蘊是。友拘絺羅！戒具足之比丘，應如理作意：此五取蘊是無常、苦……乃至……無我。

六

「友！於此戒具足之比丘，若如理作意：此五取蘊是無常、是苦……乃至……無我，則有當現證預流果。」

七

「友舍利弗！預流之比丘！應以何法如理作意耶？」

八

「友拘絺羅！預流之比丘！應如理作意：此五取蘊是無常……乃至……無我。」

九

友！又於此，預流之比丘！若如理作意：此五取蘊是無常……乃至……無我，則有當現證一來果。」

一〇

「友舍利弗！一來之比丘，應以何法如理作意耶？」

一一

「友拘絺羅！一來之比丘，當如理作意：此五取蘊是無常……乃至……無我。」

一二

友！又於此，一來之比丘，若如理作意：此五取蘊是無常……乃至……無我，則有當現證不還果。」

一三

「友舍利弗！不還之比丘，應以何法如理作意耶？」

一四

「友拘絺羅！不還之比丘，應如理作意：此五取蘊是無常……乃至……無我。」

一五

友！於此不還之比丘，若如理作意：此五取蘊是無常……乃至……無我，則有當現證阿羅漢果。」

一六

「友舍利弗！阿羅漢應以何法如理作意耶？」

一七

「友拘絺羅！阿羅漢應如理作意：此五取蘊是無常、苦、病、癱、**刺**、痛、病、他、壞、空、無我。」

一八

友！阿羅漢更無所作，無已辦之增益。然而修習此諸法，多修習者，則資於現法樂住、正念正知。」

〔一二三〕第十一 有聞

一

波羅捺國因緣。

〔一二四〕第十二 劫波（一）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

時，具壽劫波來詣世尊住處……

三

坐於一面之具壽劫波，白世尊言：

「大德！如何知、如何見者，於此有識之身及外之一切相，得除我慢、我所慢、慢隨眠耶？」

四

「劫波！如是以正慧觀：所有色之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近，此一切非我所、此非我、此非我、此非我體。

五～七

所有受……想……行……

八

如是以正慧觀：識之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近，此一切非我所，此非我，此非我體。

九

劫波！如是知、如是見者，於此有識之身及外之一切諸相，得除我慢、我所慢、慢隨眠。」

〔一二五〕第十三 劫波（二）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

坐於一面之具壽劫波，白世尊言：

「大德！如何知、如何見者，於此有識之身及外之一切諸相，得離我慢、我所慢之慢，心越種種相、寂靜、解脫耶？」

三

「劫波！如是以正慧觀：所有色之過去、未來、現在……此一切非我所、此非我、此非我體，無取而解脫。

四～六

所有受……想……行……

七

如是以正慧觀：識之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近、此一切，非我所，此非我，此非我體，無取而解脫。

八

劫波！如是知、如是見者，於此有識之身及外之一切諸相，得離我慢、我所慢之慢，心越種種相、寂靜、善解脫。」

說法品（終）

〔此品之攝頌曰：〕

無明乃至明
二之說法者
縛與二解脫
結取戒有聞
及二之劫波

第三 無明品

〔一二六〕第一 集法（一）

一

〔爾時，世尊〕在舍衛城……乃至……

二

時，有一比丘，來詣世尊住處。詣而……乃至……

三

坐於一面而彼比丘，白世尊言：

「大德！無明，說無明者。大德！何為無明？如何為無明人耶？」

四

「比丘！此處有無聞之凡夫，於色有集法，不如實知色乃有集法。於色有滅法，不如實知色乃有滅法。於色有集滅法，不如實知色乃有集滅法。

五

於受有集法，不如實知受乃有集法。於受有滅法，不如實知受乃有滅法。於受有集滅法，不如實知受乃有集滅法。

六

想有集法……乃至……

七

於行有集法，不如實知行乃有集法。於行有滅法，不如實知行乃有滅法。於行有集滅法，不如實知行乃有集滅法。

八

於識有集法，不如實知識乃有集法。於識有滅法，不如實知識乃有滅法。於識有集滅法，不如實知識乃有集滅法。

九

比丘！說此為無明，如是為無明人。」

一〇

如是說已，彼比丘白世尊言：

「大德！明，說明者。大德！何者為明？何者為明人耶？」

一一

「比丘！於此處有有聞之聖弟子。有色集法者，如實知有色集法。有色滅法者，如實知有色滅法。有色集滅法者，如實知有色集滅法。

一二

有受集法者……乃至……

一三

有想集法者……乃至……

一四

有行集法者……乃至……

一五

有識集法者，如實知有識集法。有識滅法者，如實知有識滅法。有識集滅法者，如實知有識集滅法。

一六

比丘！說此為明，如是為明人。」

〔一二七〕第二 集法（二）

一

爾時，具壽舍利弗與具壽拘絺羅，住波羅捺國仙人墮處鹿園。

二

時，具壽摩拘絺羅，於暮時從靜坐起……乃至……

三

坐於一面之具壽摩訶拘絺羅，言具壽舍利弗曰：

「友舍利弗！無明，說無明者。友！何為無明，何為無明人耶？」

四

「友！於此處有無聞之凡夫，於色有集法，不如實知色乃有集法，於色有滅法……乃至……不如實知色乃有集滅法。

五

於受有集法……乃至……

六

於想有集法……乃至……

七

於行有集法……乃至……

八

於識有集法……乃至……於識有滅法……乃至……不如實
知於識有集滅法。

九

友！說此為無明，如此為無明人。」

〔一二八〕第三 集法（三）

一～二

波羅捺國因緣。

三

坐於一面之具壽摩訶拘絺羅，言於具壽舍利弗曰：

「友舍利弗！明，說明者。友！何者為明？如何為明人
耶？」

四

「友！於此處有有聞之聖弟子，於色有集法者，如實知色有集法。於色有滅法者……乃至……於色有集滅法者，如實知色有集滅法。

五

受有集法者……乃至……

六

想有集法者……乃至……

七

行有集法者……乃至……

八

識有集法者……乃至……如實知識有集滅法。

九

友！說此為明，如此為明人。」

〔一二九〕第四 味（一）

一～二

住波羅捺國仙人墮處鹿園……乃至……

三

坐於一面之具壽摩訶拘絺羅，言於具壽舍利弗曰：

「友舍利弗，無明，說無明者。友！何者為無明？如何為無明人耶？」

四

「友！於此處有無聞之凡夫，不如實知色之味、過患、出離。」

五～七

受……想……行……

八

不如實知色之味、過患、出離。」

九

友！說此為無明，如此為無明人。」

〔一三〇〕第五 味（二）

一～二

波羅捺國仙人墮處鹿園……

三

「友舍利弗！明，說明者。友！何者為明，如何為明人耶？」

四

「友！於此處有有聞之聖弟子，如實知色之味、過患、出離。」

五～七

受……想……行……

八

如實知識之味、過患、出離。」

九

友！說此為明，如此為明人。」

〔一三一〕第六 集（一）

一～二

住波羅捺國仙人墮處鹿園……

三

「友舍利弗，無明，說無明者。友！何者為無明，如何為無明人耶？」

四

「友！此處有無聞之凡夫，不知色之集、滅、味、過患、出離。」

五～八

不如實知受……想……行……識之集、滅、味、過患、出離。

九

友！說此為無明，如此為無明人。」

〔一三二〕第七 集（二）

一～二

住波羅捺國仙人墮處鹿園……

三

坐於一面之具壽摩訶拘絺羅言具壽舍利弗曰：

「友舍利弗！明，說明者。友！何者為明？如何為明人耶？」

四

「友！此處有有聞之聖弟子，如實知色之集、滅、味、過患、出離。

五～八

如實知受……想……行……識之集、滅、味、過患、出離。

九

友！說此為明，如此為明人。」

〔一三三〕第八 拘絺羅（一）

一

住波羅捺國仙人墮處鹿園……

二

時，具壽舍利弗，於暮時……乃至……

三

坐於一面之舍利弗，言具壽摩訶拘絺羅曰：

「友拘絺羅！無明，說無明者。友！何者為無明，如何為無明人耶？」

四

「友！此處有無聞之凡夫，不如實知色之味、過患、出離。」

五～八

不如實知受……想……行……識之味、過患、出離。

九

友！說此為無明，如此為無明人。」

一〇

如是言已，具壽舍利弗，言於具壽摩訶拘絺羅曰：

「友拘絺羅！明，說明者。友！何者為明？如何為明人耶？」

一一

「友！此處有有聞之聖弟子，如實知色之味、過患、出離。」

一二～一四

受……想……行……

一五

如實知識之味、過患、出離。」

一六

友！說此為明，如此為明人。」

〔一三四〕第九 拘絺羅（二）

一～二

波羅捺國仙人墮處鹿園……

三

「友拘絺羅！無明，說無明者。友！何者為無明？如何為無明人耶？」

四

「友！此處有無聞之凡夫，不如實知色之集、滅、味、過患、出離。

五～七

受……想……行……

八

不如實知色之集、滅、味、過患、出離。

九

友！說此為無明，如此為無明人。」

一〇

如是言已，具壽舍利弗，言於具壽摩訶拘絺羅曰：

「友拘絺羅！明，說明者。友！何者為明？如何為明人耶？」

一一

「友！此處有有聞之聖弟子，如實知色之集、滅、味、過患、出離。

一二～一四

受……想……行……

一五

如實知識之集、滅、味、過患、出離。

友！說此為明，如此為明人。」

〔一三五〕第十 拘絺羅（三）

一～二

同前之因緣。

三

坐於一面之具壽舍利弗，言於具壽摩訶拘絺羅曰：

「友拘絺羅！無明，說無明者。友！何者為無明？如何為無明人？」

四

「友！此處有無聞之凡夫，不知色，不知色集，不知色滅，不知順色滅之道。

五～七

受……想……行……

八

不知識，不知識集，不知識滅，不知順識滅道。

九

友！說此為無明，如此為無明人。」

一〇

如是言已，具壽舍利弗，言於具壽摩訶拘絺羅曰：

一一

「友！此處有有聞之聖弟子，知色、知色集、知色滅，知順色滅道。

一二～一四

受……想……行……

一五

知識，知識集，知識滅，知順識滅道。

一六

友！說此為明，如此為明人。」

無明品（終）

此品之攝頌曰：

三集法二味
二集拘絺羅

第四 糖煨品

〔一三六〕第一 糖煨

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！色是糖煨，受是糖煨，想是糖煨，行是糖煨，識是糖煨。

四

諸比丘！如是觀而有聞之聖弟子，厭患於色，厭患於受……想……行……識。

五

厭患而離欲……乃至，知……不更受後有。」

〔一三七〕第二 無常（一）

一

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！於無常者應斷欲。諸比丘！何者為無常耶？

三

諸比丘！色是無常，於此應斷欲。

四～六

受……想……行……

七

識是無常，於此應斷欲。

八

諸比丘！於無常者應斷欲。」

〔一三八〕第三 無常（二）

一

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！於無常者應斷貪。諸比丘！何者為無常耶？

三

諸比丘！色是無常，於此應斷貪。

四～七

受……想……行……識是無常，於此應斷貪。

八

諸比丘！於無常者應斷貪。」

〔一三九〕第四 無常（三）

一

〔爾時世尊〕舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！於無常者應斷欲貪。諸比丘！何者為無常耶？

三

諸比丘！色是無常，於此應斷欲貪。

四～七

受……想……行……識是無常，於此應斷欲貪。

八

諸比丘！於無常者應斷欲貪。」

〔一四〇～一四二〕第六～第七 苦（一～三）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三～八

「諸比丘！於苦者應斷欲……貪……欲貪……乃至……」

〔一四三～一四五〕第八～第十 無我（一～三）

一

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

二

「諸比丘！於無我者應斷欲……貪……欲貪。諸比丘！何者為無我耶？」

三

諸比丘！色是無我，於此應斷欲……貪……欲貪。

四～六

受……想……行……

七

識是無我，於此應斷欲……貪……欲貪。

八

諸比丘！於無我者應斷欲……貪……欲貪。」

〔一四六〕第十一 善男子苦（一）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有信心出家之善男子，以此為隨順法，謂：於色多厭患而住，於受……想……行……識多厭患而住。

四

於彼色多厭患而住，於受……想……行……識多厭患而住。徧知色、徧知受……想……行識。

五

彼徧知色、徧知受……想……行……識而由色解脫、受解脫、想解脫、行解脫、識解脫，生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱解脫，苦解脫。」

〔一四七〕第十二 善男子苦（二）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有信心出家之善男子，以此為隨順法，謂：於色觀無常而住，於受……想……行……識觀無常而住……乃至……

四～五

為由苦而解脫。」

〔一四八〕第十三 善男子苦（三）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！有信心出家之善男子，以此為隨順法，謂於色觀無我而住，於受……想……行……識觀無我而住。

四

彼於色觀無我而住，於受……想……行……識觀無我而住。以徧知色，以徧知受……想……行……識。

五

彼徧知色，徧知受……想……行……識而由色解脫、由受解脫、由想解脫、由行解脫、由識解脫，由生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱解脫，由苦而解脫。」

第四糖煨品
(終)

此品之攝頌曰：

糖煨三無常
三苦三無我
乃至說此三
善男子苦三

第五 見品

〔一四九〕第一 內

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！由有何？由取何？於內生樂苦耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根〔願請說示〕。」

五

「諸比丘！由有色，由取色，於內生樂苦。」

六～八

受……想……行……

九

由有識，由取識，於內生樂苦。

一〇

「諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「不取無常、苦變易之法，於內當生樂苦耶？」

「大德！不也。」

一一～一三

受……想……行……

一四

「識是常耶？為無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「不取無常、苦變易法者，於內當生樂苦耶？」

「大德！不也。」

一五

「如是觀……乃至，知……不更受後有。」

〔一五〇〕第二 我所

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！由有何？由取何？由現貪何？而見此是我所、此是我、此是我體耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五～九

「諸比丘！由有色、由取色、由現貪於色……乃至……由有識、由取識、由現貪色，而見此是我所、此是我、此是我體。」

一〇

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

大德！是無常……乃至……

不取有變易之法者，當見此是我所、此是我、此是我體耶？

一一～一三

受……想……行……

一四

識是常耶？是無常耶？

大德！是無常……乃至……

不取有變易之法者，當見此是我所、此是我、此是我體耶？

大德！不也。

一五

如是觀……乃至，知……不更受後有。

〔一五一〕第三 我

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！由有何？由取何？以現貪何？而起如是見：此有我、此有世間、我死後有，為常、恒、永住而有不變易之法耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！由有色，由取色，由現貪於色而起如是見：此有我、此有世間、我死後有，為常、恒、永住而有不變易之法。」

六～九

由有受……想……行……識、由取識、由現貪於識、而起如是之見：此有我、此有世間、為我死後有，常、恒、永住而有不變易之法。」

一〇

諸比丘！汝等於意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「雖不取無常、苦而有變易之法，而起如是見：此有我、此有世間、我死後有，常、恒、永住而應有不變易之法耶？」

「大德！不也。」

一一～一四

「受……想……行……識是常耶？為無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「雖不取無常，有變易之法，而起如是見：此有我、此有世間、我死後有，常、恒、永住而應有不變易之法耶？」

「大德！不也。」

一五

「如是觀之……知更不受後有。」

〔一五二〕第四 無我所

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！由有何？由取何？由現貪何？而起如是見：無我、無我所者，當將為無我、無我所耶？」

三

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

四

「諸比丘！由有色，取於色，由現貪於色，而起如是見：無我、無我所者，當將為無我、無我所。」

五～七

受……想……行……

八

由有識，取於識，由現貪於識，而起如是見：若無我、無我所者，當將為無我、無我所。

九

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「雖不取無常、苦變易之法，而起如是見：無我、無我所者，當將為無我、無我所耶？」

「大德！不也。」

一〇～一三

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常也……乃至……」

「雖不取有無常、苦變易之法，而起如是見：無我、無我所者，當將為無我、無我所耶？」

「大德！不也。」

「如是觀之……乃至，知……不更受後有。」

〔一五三〕第五 邪見

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！由有何？取何？由現貪於何？而起邪見耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！由有色，取色，由現貪於色，而起邪見。

六～九

由有受……想……行……識，取識，由現貪於識，而起邪見。

一〇

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「雖不取無常……乃至……當起邪見耶？」

「大德！不也。」

一一～一四

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「雖不取無常、苦而有變易之法者，而起邪見耶？」

「大德！不也。」

「如是觀之……乃至，知……不更受後有。」

〔一五四〕第六 有身

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！由有何？取何？由現貪何？而起身見耶？」

四

「大德！世尊是我等之法根……乃至……」

五

「比丘！由有色、取色，由現貪於色，而生有身見。」

六～九

由有受……想……行……識，取識，由現貪於識，而起有身見。

一〇

諸比丘！汝等於意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者……乃至……雖不執取，當起有身見耶？」

「大德！不也。」

一一～一四

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者……乃至……雖不執取，當起有身見耶？」

「大德！不也。」

一五

「如是觀之……知更不受後有。」

〔一五五〕第七 我

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！由有何？取何？由現貪何？而起我見耶？」

四

「大德！世尊乃我之法根……乃至……」

五

「諸比丘！由有色，取色，由現貪於色，而起我見。」

六～九

由有受……想……行……識，取識，由現貪於識，而起我見。

一〇

諸比丘！汝等於意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者……乃至……雖不執取，當起我見耶？」

「大德！不也。」

一一～一四

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者……乃至……雖不執取，當生我見耶？」

「大德！不也。」

「若無常者……乃至……雖不執取，當生我見耶？」

「大德！不也。」

一五

「如是觀之……乃至，知……更不受後有。」

〔一五六〕第八 現貪（一）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！由有何？取何？由現貪於何？而起結、現貪、縛耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！由有色，取色，由現貪於色，而起結、現貪、縛。」

六～九

由有受……想……行……識，取識，由現貪於識而起結、現貪、縛。

一〇

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「若無常者……乃至……雖不執取，當起結、現貪、縛耶？」

「大德！不也。」

一一～一四

受……乃至……大德！不也。

一五

「如是觀之……乃至，知……不受後有。」

〔一五七〕第九 現貪（二）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

諸比丘！由有何？取何？由現貪何？而起結、現貪、縛、耽著耶？

四

大德！世尊乃我等之法根……乃至……

〔一五八〕第十 阿難

一

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

二

時、具壽阿難來詣世尊住處。詣已……乃至……白世尊言：

三

「善哉！大德世尊！願請為我略說法要，我依世尊聞法，而獨靜、不放逸、熱誠、精進而住。」

四

「阿難！汝於意如何？色是常耶？無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「若觀此無常、苦變易之法，於此得為是我所、此是我、此是我體耶？」

「大德！不也。」

五～八

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！不也。」

「若無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「若觀此無常、苦而變易之法，於此得為是我所、此是我、此是我體耶？」

「大德！不也。」

九

「阿難！是故於此處，所有色之過去、未來、現在……乃至……」

一〇

如是觀之……乃至，知……不更受後有。」

第五見品（終）

此品之攝頌曰：

此內與我所
我與無我所
邪及有身我
二現貪阿難

後五十經之攝頌曰：

邊說法無明
糖煨見等五
第三五十經
說成為一章

蘊相應終

第二 羅陀相應

第一 初品

〔一〕第一 魔

一

〔爾時世尊〕舍衛城……乃至……

二

時，具壽羅陀來詣世尊住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

三

坐一面已，具壽羅陀白世尊言：

「魔，說魔者，大德！以何為魔耶？」

四

「羅陀！若有色者，即有魔、殺者、死者。羅陀！故於此處，觀以色為魔，觀為殺者，觀為死者，觀為病、觀為癰，觀為刺，觀為痛，觀為痛種。如是觀者為正觀。」

五～七

受……想……行……

八

若有識者，即有魔、殺者、死者。羅陀！故於此處，觀以識為魔，觀為殺者，觀為死者，觀為病，觀為癰，觀為刺，觀為痛，觀為痛種。如是觀者為正觀。」

九

「大德！為何是正觀耶？」

「羅陀！為厭患而正觀。」

一〇

「大德！為何是厭患耶？」

「羅陀！為離欲而厭患。」

一一

「大德！為何是離欲耶？」

「羅陀！為解脫而離欲。」

一二

「大德！為何是解脫耶？」

「羅陀！為涅槃而解脫。」

一三

「大德！為何是涅槃耶？」

「羅陀！此問甚過。於問不能取邊際。羅陀！為立梵行者，即入涅槃、趣涅槃，盡涅槃。」

〔二〕第二 眾生

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「眾生，說眾生者，如何之說為眾生耶？」

四

「羅陀！於色有欲、貪、喜、愛，染著於此，纏綿於此，故說為眾生。」

五～七

受……想……行……

八

於識有欲、貪、喜、愛，染著於此，纏綿於此，故說為眾生。」

九

羅陀！譬如，諸小男小女，以塵土之舍宅如嬉戲。於彼塵土之舍宅，不離貪，不離欲，不離愛樂，不離渴，不離熱煩，不離渴愛時，執著、珍重、耽著，愛著彼塵土之舍宅。」

一〇

羅陀！然而小男小女，若於彼塵土之舍宅，離貪、離欲、離愛樂、離渴、離熱、離渴愛時，即以手足散毀、摧破、放棄彼塵土之舍宅。

一一

羅陀！如是汝等，為滅盡渴愛，以行毀散、摧破、放棄彼色。

一二～一四

受……想……行……

一五

為滅盡渴愛，以行毀散、摧破、放棄彼識。羅陀！渴愛之滅盡乃得涅槃。」

〔三〕第三 有綱

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！有綱，說有綱者，大德！何為有綱？何為有綱滅耶？」

四

「羅陀！於色起欲、貪、喜、愛、執取之取、心之取著、現貪、隨眠者，說此為有綱，因此之滅，即有綱滅。」

五～七

受……想……行……

八

於識欲……乃至……取著、現貪、隨眠者，說此為有綱，因此之滅，即有綱滅。」

〔四〕第四 所徧知

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

一面坐時，世尊言於具壽羅陀：

「〔為汝〕說所知法、徧知、徧知人。諦聽。」

四

「世尊請說。」

「羅陀！何為所知法耶？羅陀！色是所知法，受……想……行……識是所知法。羅陀！如是說為所知法。」

五

羅陀！以何為徧知耶？羅陀！乃貪欲之滅盡，瞋恚之滅盡，愚癡之滅盡者是。羅陀！如是說為徧知。

六

羅陀！以何為徧知人耶？名阿羅漢。具壽之名某甲、姓某甲者。羅陀！如是名為徧知人。」

〔五〕第五 沙門（一）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

一面坐時，世尊言於具壽羅陀曰：

四

「羅陀！有五取蘊。何者為五耶？謂色取蘊……乃至……識取蘊是。

五

羅陀！諸沙門、婆羅門而對此五取蘊之味、過患、出離，不如實知者，羅陀！我不認許彼沙門、婆羅門，是沙門中之沙門，婆羅門中之婆羅門。又彼諸具壽於現法非自證知、現證，具足住沙門之義，婆羅門之義。

六

羅陀！然而諸沙門、婆羅門對此五取蘊之味、過患、出離，如實知者，羅陀！我認許彼沙門、婆羅門，是沙門中之沙門，婆羅門中之婆羅門。又彼諸具壽於現法自證知、現證、具足而沙門之義、婆羅門之義而住。」

〔六〕第六 沙門（二）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐時，世尊言於具壽羅陀曰：

四

「羅陀！有五取蘊。以何為五耶？謂色取蘊……乃至……識取蘊是。」

五～六

羅陀！諸沙門、婆羅門不如實知此五取蘊之集、滅、味、過患、出離者……乃至……自證知、現證、具足而住。」

〔七〕第七 預流

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐時，世尊言於具壽羅陀曰：

四

「羅陀！有五取蘊。以何為五耶？謂色取蘊……乃至……識取蘊是。

五

羅陀！聖弟子如實知此五取蘊之集、滅、味、過患、出離故，羅陀！此聖弟子名預流、不墮法、決定、為趣三菩提。」

〔八〕第八 阿羅漢

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐時，世尊言於具壽羅陀曰：

四

「羅陀！有五取蘊。以何為五耶？謂色取蘊……乃至……識取蘊是。

五

羅陀！比丘如實知此五取蘊之集、滅、味、過患、出離，無取解脫故，羅陀！此比丘名為阿羅漢，是漏盡，梵行已立、所作已辦，捨棄重擔，獲得己利，以盡有結，為正知解脫。」

〔九〕第九 欲貪（一）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐時，世尊言於具壽羅陀曰：

四

「羅陀！於色斷欲、貪、喜、愛。如是斷彼色者，如斷根截頭之多羅樹，令歸無有，使未來不生。」

五

於受斷欲、貪、喜、愛。如是斷彼色者，如斷根截頭之多羅樹，令歸無有，使未來不生。」

六～七

於想……行斷欲、貪、喜、愛。如是斷彼行者，如斷根截頭之多羅樹，令歸無有，使未來不生。」

八

於識斷欲、貪、喜、愛，如是斷彼識者……使未來不生。」

〔一〇〕第十 欲貪（二）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐時，世尊言於具壽羅陀曰：

四

「羅陀！於色斷欲、貪、喜、愛、執取之取，心之取著、現貪、隨眠。如是斷彼色者，如斷根截頭之多羅樹，令歸無有，使未來不生。」

五

於受斷欲、貪、喜、愛、執取之取、心之取著、現貪、隨眠。如是斷彼受者，如斷根截頭之多羅樹……乃至……使未來不生。

六～七

於想……行斷欲、貪、喜、愛、執取之取，心之取著、現貪、隨眠。如是斷彼行者，如斷根……乃至……使未來不生。

八

於識斷貪、喜、愛、執取之取、心之取著、現貪、隨眠。如是斷彼識者，如斷根截頭之多羅樹，令歸無有，使未來不生。」

羅陀相應初品
(終)

此品之攝頌曰：

魔眾生有綱
所徧二沙門
預流阿羅漢
以及二欲貪

第二品

〔一一〕第一 魔

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！魔、說魔者。大德！如何為魔耶？」

四

「羅陀！色是魔，受是魔，想是魔，行是魔，識是魔。

五

羅陀！如是觀者，有聞之聖弟子，於色厭患……乃至，知……不更受後有。」

〔一二〕第二 魔法

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！魔法，說魔法者。大德！如何為魔法耶？」

四

「羅陀！色是魔法，受是魔法，想是魔法，行是魔法，識是魔法。

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔一三〕第三 無常（一）

一～三

……「大德！無常，說無常者。大德！如何為無常耶？」

四

「羅陀！色是無常，受是無常，想是無常，行是無常，識是無常。

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔一四〕第四 無常（二）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……於一面坐之具壽羅陀白世尊言：

「大德！無常法，說無常法者。大德！如何為無常法耶？」

四

「羅陀！色是無常法，受是無常法，想是無常法，行是無常法，識是無常法。

五

羅陀！應如是觀之……乃至……更知不受後有。」

〔一五〕第五 苦（一）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！苦，說苦者。大德！如何為苦耶？」

四

「羅陀！色是苦，受是苦，想是苦，行是苦，識是苦。

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔一六〕第六 苦（二）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！苦法，說苦法者。大德！如何為苦法耶」

四

「羅陀！色是苦法，受是苦法，想是苦法，行是苦法，識是苦法。

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔一七〕第七 無我（一）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！無我，說無我者。大德！如何為無我耶？」

四

「羅陀！色無我，受無我，想無我，行無我，識無我。

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔一八〕第八 無我（二）

一～三

……一面坐已。具壽羅陀，白世尊言：

「大德！無我法，說無我法者。大德！如何為無我法耶？」

四

「羅陀！色是無我法，受是無我法，想是無我法，行是無我法，識是無我法。

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔一九〕第九 盡法

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！盡法，說盡法者。大德！如何為盡法耶？」

四

「羅陀！色是盡法，受……想……行是盡法，識是盡法。

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔二〇〕第十 壞法

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！壞法，說壞法者。大德！如何為壞法耶？」

四

「羅陀！色是壞法，受是壞法，想是壞法，行是壞法，識是壞法。

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔二一〕第十一 集

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！集法，說集者。大德！如何為集法耶？」

四

「羅陀！色是集法，受是集法，想是集法，行是集法，識是集法。」

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔二二〕第十二 滅法

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！滅法，說滅法者。大德！如何為滅法耶？」

四

「羅陀！色是滅法，受……想……行是滅法，識是滅法。」

五

羅陀！如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

第二品（終）

此品攝頌曰：

魔以及魔法
無常二二苦
無我盡壞集
滅法等十二

第三 所問品

〔二三〕第一 魔

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德世尊！願為我略說法要……乃至……精進而住。」

四

「羅陀！於魔應斷欲。羅陀！何者為魔耶？羅陀！色是魔者，於此應斷欲。受是魔者，於此應斷欲。想……行是魔者，於此應斷欲。識是魔者，於此應斷欲。」

〔二四〕第二 魔法

四

羅陀！於魔法應斷欲，應斷貪，應斷欲貪……

〔二五～二六〕第三～四 無常（一～二）

※四

羅陀！於無常……

※四

羅陀！於無常法……

〔二七～二八〕第五～六 苦（一～二）

※四

羅陀！於苦……

※四

羅陀！於苦法……

〔二九～三〇〕第七～八 無我（一～二）

※四

羅陀！於無我……

※四

羅陀！於無我法……

〔三一～三二〕第九～十 盡～壞

※四

羅陀！於盡法……

※四

羅陀！於壞法……

〔三三〕第十一 集

四

羅陀！於集法應斷欲，應斷貪，應斷欲貪。

〔三四〕第十二 滅法

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

一面坐已。具壽羅陀白世尊言：

「大德！願為……乃至……而住。」

四

「羅陀！於滅法應斷欲、應斷貪、應斷欲貪。羅陀。以何為滅法耶？羅陀！色為滅法者，於此應斷欲，受是滅法者，於此應斷欲，想……行是滅法者，於此應斷欲，識是滅法者，於此應斷欲。」

五

羅陀！於滅法應斷欲、應斷貪、應斷欲貪。」

第三所問品
（終）

此品之攝頌曰：

魔以及魔法
無常二二苦
無我盡壞集
滅法等十二

第四 侍坐品

〔三五〕第一 魔

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

坐於一面時，世尊言於具壽羅陀曰：

四

「羅陀！於魔應斷欲。羅陀！以何為魔耶？羅陀！色是魔者，於此應斷欲……乃至……識是魔者，於此應斷欲。羅陀！於魔應斷欲。」

五

羅陀！於魔應斷貪……乃至……

六

羅陀！於魔應斷欲貪……」

〔三六〕第二 魔法

※四

羅陀！於魔法應斷欲……

五

羅陀！於魔法應斷貪……

六

羅陀！於魔法應斷欲貪……

〔三七～三八〕第三～四 無常（一～二）

※四～六

羅陀！於無常……

※四～六

羅陀！於無常法……

〔三九～四〇〕第五～六 苦（一～二）

※四

羅陀！於苦……

※四

羅陀！於苦法……

〔四一～四二〕第七～八 無我（一～二）

※四～六

羅陀！於無我……

※四～六

羅陀！於無我法……

〔四三～四五〕第九～十一 盡～壞～集

※四～六

羅陀！於盡法……

※四～六

羅陀！於壞法……

※四～六

羅陀！於集法應斷欲、應斷貪、應斷欲貪。

〔四六〕第十二 滅法

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

坐於一面時，世尊言具壽羅陀曰：

「羅陀！於滅法應斷欲、應斷貪、應斷欲貪。羅陀！以何為滅法耶？」

四～六

羅陀！色是滅法者，於此應斷欲、於此應斷貪、於此應斷欲貪。受……想……行……識是滅法者，於此應斷欲、應斷貪、應斷欲貪。

七

羅陀！於滅法應斷欲、應斷貪、應斷欲貪。」

第四侍坐品
(終)

此品之攝頌曰：

魔以及魔法
無常二二苦
無我盡壞集
滅法等十二

羅陀相應(終)

第三 見相應

第一 預流品

〔一〕第一 風

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是之見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立住耶？」

三

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

四

「諸比丘！因有色，由取色，因現貪於色，而起如是見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立住。」

五～七

受……想……行……

八

因有識，由取識，因現貪於識而起如是見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立住。

九

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？

「大德！是無常。」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「不執取無常、苦變易之法，以起如是之見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立住耶？」

「大德！不也。」

一〇～一二

受……想……行……

一三

「識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「不執取無常、苦變易之法，以起如是之見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立住耶？」

「大德！不也。」

一四

「所見、所聞、所思、所知、所得、所求、意之所伺是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「不執取無常、苦變易之法，以起如是見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立住耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！聖弟子於如是六處斷疑惑，於苦斷疑惑，於苦集斷疑惑，於苦滅斷疑惑，於順苦滅道斷疑惑者，諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

〔二〕第二 我所

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是之見：此是我所，此是我，此是我體耶？」

三

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

四

「諸比丘！因有色，由取色，由現貪於色，而起如是之見：此是我所，此是我，此為我體。」

五～七

受……想……行……

八

「因有識，由取於識，由現貪於識，而起如是之見：此是我所，此是我，此為我體。」

九

「諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

一〇～一二

受……想……行……

一三

「識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「不取彼而起如是之見：此是我所，此是我，此為我體耶？」

「大德！不也。」

一四

「所見、所聞、所思、所知、所得、所求、意之所伺是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「不執取無常、苦變易之法，而起如是之見：此是我所，此是我，此為我體耶？」

「大德！不也！」

一五

「諸比丘！聖弟子於如是六處，斷疑惑。於苦斷疑惑……乃至……於順苦滅道斷疑惑者。諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

〔三〕第三 我

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是之見：此是我，此是世間，此我應於死後有，常、恒、永住而為不變易之法耶？」

三

「大德世尊乃我等之法根……乃至……」

四

「諸比丘！由有色，由取於色，由現貪於色，而起如是之見：此是我，此是世間，此我應於死後有，常、恒、永住，為不變易之法。

五～七

受……想……行……

八

因有識，由取於識，由現貪於識，而起如是之見：此是我，此是世間，此我應於死後有，常、恒、永住，為不變易之法。

九～一三

諸比丘！汝等於意如何：色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「不取彼而起如是之見：此是我……乃至……為不變易之法耶？」

「大德！不也。」

一四

「所見、所聞、所思、所知、所得、所求、意之所伺是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「不取彼而起如是之見：此是我，此是世間，此我應於死
後有、常、恒、永住而為不變易之法耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！聖弟子於如是六處斷疑惑，於苦斷疑惑……乃至……於順苦滅道斷疑惑者，諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

〔四〕第四 無我所

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是之見：若無我、無我所者，當為無我、無我所耶？」

三

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

四

「諸比丘！因有色，由取於色，由現貪於色，而起如是之見：若無我、無我所者，當為無我、無我所。」

五～七

受……想……行……

八

因有識，由取於識，由現貪於識，而起如是之見：若無我、無我所者，當為無我、無我所。

九

諸比丘！汝等於意如何：色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「雖不取彼而起如是之見：若無我、無我所者，當為無我、無我所耶？」

「大德！不也。」

一〇～一三

受……想……行……識……

一四

「所見、所聞、所思、所知、所得、所求、意之所伺是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「不取彼而起如是之見：若無我、無我所者，當為無我、無我所耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！聖弟子，如是於六處斷疑惑，於苦斷疑惑……乃至……於順苦滅道斷疑惑者，諸比丘！此聖弟子名為預流，

有不墮法、決定、為趣三菩提。」

〔五〕第五 無

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？因現貪於何？而起如是之見：無施，無供施，無燒施，無善惡業之果報。無此世，無他世，無母，無父，無生死之眾生。於世間沙門、婆羅門無有自證知、現證、宣說此世、他世正到正趣者。四大和合之士夫，命終之時，地還歸於地身，水還歸於水身，火還歸於火身，風還歸於風身，諸根轉入於虛空。以四人載死人於輿牀而往，乃至火葬場，雖語其骨成為鴿色，供物成灰，布施乃愚者之所說，說死後有是虛誑妄說。不論賢者、愚人，身壞而斷滅，死後為無有耶？」

三

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

四

「諸比丘！因有色，由取於色，由現貪於色，而起如是之見：無施，無供施……乃至……身壞而斷滅，死後為無有。」

五～七

受……想……行……

八

因有識，由取於識，由因現貪於識，而起如是之見：無施，無供施……乃至……身壞而斷滅，死後為無有。

九

諸比丘！汝等於意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「不取彼而起如是之見：無施，無供施……乃至……身壞而斷滅，死後為無有耶？」

「大德！不也。」

一〇～一三

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「不執取於苦而有變易之法，以起如是之見：無施，無供施……乃至……身壞而斷滅，死後為無有耶？」

「大德！不也。」

一四

「所見、所聞、所思、所知、所得、所求、意之所伺是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「不執取於苦有變易之法者，起如是之見：無施，無供施……乃至……不論賢者，愚人，身壞而斷滅，死後當為無有

耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！聖弟子如是於六處斷疑惑，於苦斷疑惑……乃至……於順苦滅道斷疑惑者。諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

〔六〕第六 作

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是之見：自作、令他作、截、令截、煮、令煮、苦、令苦、惱、令惱、脅、令脅、殺、盜、穿牆、掠奪、偷奪，斷阻道路，許往他之妻，妄語，雖如是作亦非作惡。以利刃之輪寶，作此地上之生類為一肉聚、一肉塊，此因緣故，無惡無招惡。雖往恒河之南岸自殺、令他殺、截、令他截、煮、令他煮，此因緣故，無惡、無有招惡。雖往恒河之北岸，自布施、令他布施、供施、令供施，此因緣故，無福，無招福。雖以布施、調御、禁戒、實語，亦無福，無招福報耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！因有色，由取於色，由現貪於色，而起如是之見：自作，令他作……乃至……亦無福，無招福。」

六～八

受……想……行……

九

「因有識，由取於識，由現貪於識，而起如是之見：自作，令他作……乃至……無福，無招福。」

一〇

諸比丘！汝等於意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「雖不取彼，而起如是之見：自作，令他作……乃至……無福，為無招福耶？」

「大德！不也。」

一一～一四

受……想……行……識……乃至……

一五

「所見、所聞、所思、所得、所求，意之所伺、是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「雖不取彼，而起如是之見：自作，令他作……無福，為無招福耶？」

「大德！不也。」

一六

「諸比丘！聖弟子如是於六處斷疑惑，於苦斷疑惑……乃至……於順苦滅道斷疑惑者。諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

〔七〕第七 因

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是之見：眾生之雜染乃無因、無緣；眾生成為雜染是無因、無緣。眾生之清淨是無因無緣；眾生成為清淨乃無因、無緣、無力、無勤、無人勢、無人勇。一切之眾生，一切之生類，一切之生，一切之命乃無自在，無力，無勤而決定、結合，依本性而轉變，於六種姓受苦樂耶？」

三

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

四

「諸比丘！因有色，由取於色，由現貪於色，而起如是之見：眾生之雜染……乃至……受樂苦。」

五～七

受……想……行……

八

因有識，由取於識，由現貪於識，而起如是之見：眾生之雜染……乃至……受樂苦。

九

諸比丘！汝等於意如何？色是無常耶？是常耶？」

「大德！是無常……乃至雖不取……有變易之法，而起如是之見：眾生之雜染……乃至……受樂苦耶？」

「大德！不也！」

一〇～一三

受……想……行……識……乃至……

一四

「所見、所聞、所思、所知、所得、所求、意之所伺乃常耶？無常耶？」

「大德！是無常……乃至……雖不取苦而有變易之法，以起如是之見：眾生之雜染……乃至……受樂苦耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！聖弟子如是於六處斷疑惑，於苦斷疑惑……乃至……於順苦滅道斷疑惑者，諸比丘！此聖弟子名為……乃至……為趣三菩提。」

〔八〕第八 （大）見

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是之見：謂此七身非作，非作之所作，非化，非化者，非令生，如柱之立堅固而住，不動，不轉變，不相互逼迫，不能相互樂、苦，樂苦。」

三

以何為七耶？地身、水身、火身、風身、苦、樂、命是。此七身乃非作，非作之所作，非化，非化者，非令生，如柱之立堅固而住，不動，不轉變，不相互逼迫，不能相互樂、苦，樂苦。

四

以利刀截其頭亦不害其命，以刀入其七身之間。

五

復以百四十萬之生門為始，有七百、六百之生門。五百業、五業、三業、一業、半業、六十二道、六十二內劫、六種族、八人地、四千九百活命、四千九百出家、四千九百龍家、二千根、三千地獄、三十六塵界、七想胎、七無想胎、七節

胎、七天、七人、七鬼、七池、七嶮、七百嶮、七夢、七百夢、八百四十萬大劫之間，不論愚人或賢者，流轉輪迴後，以究竟苦之邊際。

六

於此間，謂：無有『因我此持戒、禁戒、苦行、梵行、令熟未熟之業，繼續忍受已熟之業至滅盡。』以桀可量樂、苦，於輪迴中無有邊際，無有增減、消長。

七

譬如擲縷丸之散解，不論愚人或賢者，而散解樂、苦。」

八

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

九

「諸比丘！因有色，由取於色，由現貪於色，而起如是之見：謂此七身非作，非作之所作……乃至……散樂、苦。」

一〇～一六

受……

一七～二二

想……

二三～二八

行……

二九～三四

因有識，由取於識，由現貪於識，而起如是之見：謂此七身非作、非作之所作……乃至……散樂、苦。

三五～四〇

諸比丘！汝等於意如何！色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

雖不取無常、苦而變易之法，當起如是之見耶？謂：此七身非作、非作之所作……乃至……散樂、苦。

「大德！不也。」

四一～四六

所見、所聞、所思、所知、所得、所求，意之所伺是常耶？是無常耶？

「大德！是無常。」

「雖不取彼，當起如是之見耶？謂：此七身非作，非作之所作……乃至……而解散樂、苦……乃至……」

四七

諸比丘！聖弟子如是於六處斷疑惑，於苦斷疑惑……乃至……於順苦滅道斷疑惑者。諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，為趣三菩提。」

〔九〕世間常

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？起如是之見：世間為常耶？」

三

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

四

「諸比丘！因有色，由取於色，由現貪於色，而起如是之見：世間為常。」

五～八

因有受……想……行……識，由取於識，由現貪於識，而起如是之見：世間為常。

九

諸比丘！汝等於意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「雖不取苦變易之法，以起如是之見：世間應為常耶？」

「大德！不也。」

一〇～一三

受……想……行……

一四

「所見、所聞、所思、所知、所得、所求、意之所伺是常耶？是無常耶？」

大德！是無常……乃至……

「雖不取苦變易之法，以起如是之見：世間應為常耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！聖弟子如是於六處斷疑惑，於苦斷疑惑……乃至……於順苦滅道斷疑惑者。諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

〔一〇〕世間無常

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是見：世間為無常耶？」

三

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

四～一三

「諸比丘！因有色……乃至……識是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「雖不取苦變易之法，以起如是見：世間應為無常耶？」

「大德！不也。」

一四

「所見、所聞、所思、所知、所得、所求，意之所伺是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「不取苦變易之法，以起如是見：世間應為無常耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！聖弟子……乃至……決定，為趣三菩提。」

〔一一〕有邊

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是見：世間應為有邊耶？」

三～一五

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……決定，為趣三菩提。」

〔一二〕無邊

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是見：世間為無邊耶？」

三～一五

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……決定，為趣三菩提。」

〔一三〕命即身

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是見：命即為身耶？」

三～一五

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……決定，為趣三菩提。」

〔一四〕命身異

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是見：命與身為異耶？」

三～一五

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……決定，為趣三菩提。」

〔一五〕如來有

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？起如是見：如來死後為有耶？」

三～一五

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……決定，為趣三菩提。」

〔一六〕如來無

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是見：如來死後為無耶？」

三～一五

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……決定，為趣三菩提。」

〔一七〕如來有無

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是見：如來死後為有無耶？」

三～一五

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……決定為趣三菩提。」

〔一八〕如來非有非無

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？起如是見：如來死後為非有、非無耶？」

三

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

四～八

「諸比丘！因有色，由取於色，由現貪於色，以起如是見：如來死後為非有、非無……乃至……

九

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「雖不取苦變易之法，以起如是見：如來死後應為非有亦非無耶？」

「大德！不也。」

一〇～一三

受……想……行……識……

一四

「所見、所聞、所思、所知、所得、所求，意之所伺是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常。」

「無常者，是苦耶？是樂耶？」

「大德！是苦。」

「雖不取彼無常、苦變易之法，起如是見：如來死後應為非有亦非無耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！聖弟子如是於六處斷疑惑，於苦斷疑惑，於苦集斷疑惑，於苦滅斷疑惑，於順苦滅道斷疑惑者。諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

預流品十八記別
(終)

於此攝頌曰：

風吹與我所
我及無我所
無作因見八
世間常無常
有邊與無邊
命身命身異
如來死後有
如來死後無
死後為有無
如來之死後
非有亦非無

第二 重說品

第一章

〔一九〕第一 風

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！因有何？由取於何？因現貪於何？以起如是見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立

住耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！因有色，由取於色，因現貪於色，以起如是見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立住。」

六～九

因有受……想……行……識，由取於識，因現貪於識，以起如是見：風不吹……乃至……如柱之立而住。

一〇～一五

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「雖不取變易之法，而起如是見：風不吹……乃至……如柱之立而住耶？」

「大德！不也……乃至……」

一六

「諸比丘！如是有苦，由取於苦，因現貪於苦，以起如是見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立住。」

〔二〇～三五〕第二～十七

於初重說，廣說十八記別

〔三六〕第十八 非有非無

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？由現貪於何？而起如是見：如來死後為非有亦非無耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！因有色，由取於色，因現貪於色，以起如是見：如來死後為非有亦非無。」

六～九

因有受……想……行……識，由取於識，因現貪於識，以起如是見：如來死後為非有亦非無……乃至……」

第二章

〔三七〕第十九 有色我

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？因現貪於何？而起如是見：死後為有色無病之有我耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！因有色，由取於色，因現貪於色，以起如是見：死後為有色無病之有我。」

六～九

因有受……想……行……識，由取於識，因現貪於識，以起如是見：死後為有色無病之有我。

一〇

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至……」

「不取變易之法，而起如是見：死後應為有色無病之有我耶？」

「大德！不也。」

一一～一四

受……乃至……大德！不也。

一五

「諸比丘！如是因有苦，取於苦，因現貪於苦，以起如是見：死後為有色無病之有我。」

〔三八〕第二〇 無色我

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

諸比丘！因有何？取於何？因現貪於何？而起如是見：死後為無色無病之有我耶……乃至……

〔三九〕第二十一 有色無色

※三

……死後為有色而無色無病之有我耶？

〔四〇〕第二十二 非有色非無色

※三

……死後為非有色非無色無病之有我耶？

〔四一〕第二十三 一向樂

※三

……死後為一向樂無病之有我耶？……

〔四二〕第二十四 一向苦

※三

……死後為一向苦無病之有我耶？……

〔四三〕第二十五 樂苦

※三

……死後為樂苦無病之有我耶？……

〔四四〕第二十六 非苦非樂

※三

……死後為非苦非樂、無病之有我耶？

四

大德！世尊乃我等之法根……乃至……

五

「諸比丘！因有色，取於色，因現貪於色，以起如是見：
死後為非苦非樂，無病之有我。」

六～九

因有受……想……行……識，由取於識，因現貪於識，以
起如是見：死後為非苦非樂、無病之有我。

一〇

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？……乃至……
不取變易之法而起如是見：死後為非苦非樂，無病之有我耶？」

「大德！不也。」

「諸比丘！如是有因有苦，由取於苦，因現貪於苦，以起如是見：死後為非苦非樂，無病之有我。」

一一～一四

受……想……行……識是常耶？是無常耶？……乃至……
不取變易之法，而起如是見：死後為非苦非樂，無病之有我耶？

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！如是有因有苦、由取於苦，因現貪於苦，以起如是之見：死後為非苦非樂無病之有我。」

第二廣說（終）

攝頌曰：

風吹與我所
無與無我所
無作因見八
說常與無常
有邊及無邊
命即與命異
如來之四者
色我無色我
有色無色我
非有非無色
一向樂之我
一向苦之我
乃至樂苦我
非苦非樂我
死後無病有
於第二章說

此二十六經

第三章

〔四五〕第一 風

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？取於何？因現貪於何？而起如是見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立住耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！因有色，取於色，因現貪於色，以起如是見：風不吹……乃至……如柱之立住。」

六～九

因有受……想……行……識，由取於識，因現貪於識，以起如是見：風不吹……乃至……如柱之立住。」

一〇

諸比丘！汝等於意如何！色是常耶？是無常耶？……乃至……雖不取彼變易之法，而起如是見：風不吹……乃至……如柱之立住耶？」

「大德！不也。」

「諸比丘！如是無常者，是苦。因有此，由取於此，以起如是見：風不吹……乃至……如柱之立住。」

〔四六～六九〕第二～二五

應如上之廣說

〔七〇〕第二六〔非苦非樂〕

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？因現貪於何？而起如是見：死後為非苦非樂、無病之有我耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！因有色，由取於色，因現貪於色，以起如是見：死後為非苦非樂、無病之有我耶？」

六～九

因有受……想……行……識，由取識，因現貪識，以起如是見：死後為非苦非樂、無病之有我。

一〇

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？……乃至……不取彼變易之法，而起如是見：死後為非苦非樂、無病之有我耶？」

「大德！不也。」

「諸比丘！如是無常者是苦。因有此，由取於此，以起如是見：死後為非苦非樂、無病之有我。」

一一～一四

受……想……行……識是常耶？是無常耶？……乃至……雖不取彼變易之法，而起如是見！死後為非苦非樂、無病之有我耶？」

「大德！不也。」

「諸比丘！如是無常者是苦。因有此，由取於此，以起如是見：死後為非苦非樂、無病之有我。」

第三廣說（終）
二十六經廣說

第四章

〔七一〕第一〔風〕

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？因現貪於何？而起如是見：風不吹，河不流，懷妊而不生，日月出而不沒，如柱之立

住耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！因有色，由取於色，因現貪於色，以起如是見：風不吹……乃至……如柱之立住。

六～九

因有受……想……行……識，由取於識，因現貪於識，以起如是見：風不吹……乃至……如柱之立住。

一〇

諸比丘！汝等於意如何？色是常耶？是無常耶？……乃至……觀此變易之法，得為此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

一一～一四

「受……想……行……識是常耶？是無常耶？……乃至……觀此變易之法者，得為此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！是故所有色之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近，應以正慧如實觀：一切此非我所，此非我，此非我體。

一六

如是觀者……乃至，知……不更受後有。」

〔七二～九五〕第二～二五

〔應如上廣說〕

〔九六〕第二十六〔非苦非樂〕

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！因有何？由取於何？因現貪於何？而起如是見：死後為非苦非樂，無病之有我耶？」

四

「大德！世尊乃我等之法根……乃至……」

五

「諸比丘！因有色，由取於色，因現貪於色，以起如是見：死後為非苦非樂，無病之有我。

六～九

因有受……想……行……識，由取於識，因現貪於識，以起如是見：死後為非苦非樂，無病之有我。

一〇

諸比丘！汝等於意如何，色是常耶？是無常耶？」

「大德！是無常……乃至觀……變易之法，得為此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

一一～一四

「受……想……行……識是常耶？是無常耶……乃至觀……變易之法，得為此是我所，此是我，此是我體耶？」

「大德！不也。」

一五

「諸比丘！是故所有色之過去、未來、現在、內、外、粗、細、劣、勝、遠、近。正慧如是以觀一切此非我所，此非我，此非我體。」

一六～一九

所有受……想……行……識之過去、未來、現在……乃至……以正慧觀……

二〇

諸比丘！如是觀之，有聞之聖弟子厭患於色，厭患於受，厭患於想、厭患於行、厭患於識。厭患而離欲，離欲而解脫，解脫而解脫智生，即知生已盡，梵行已立，所作已辦，不受後有。」

一章十八記別
二章二十六經
三章二十六經
四章二十六經
有如是之廣說

見相應（終）

第四 入相應

第一 眼

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！眼是無常而變易、變異，耳是無常而變易、變異，鼻是無常而變易、變異，舌是無常而變易、變異，身是無常而變易、變異，意是無常而變易、變異。

四

諸比丘！若信、信解如是此等諸法者，此名為隨信行者，入正性決定，入善土地，超凡夫地。彼作業而不生地獄、畜生、餓鬼；不現證預流果而不死。

五

諸比丘！若如是應此等諸法，審思慧之應分者，此名為隨信行者、入正性決定、入善土地、超凡夫地。彼作業不生地獄、畜生、餓鬼；不現證預流果而不死。

六

諸比丘！若如是知見此等諸法者，此名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

第二 色

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！色是無常而變易、變異，聲是無常而變易、變異，香是無常而變易、變異，味是無常而變易、變異，所觸是無常而變易、變異，諸法是無常而變易變異。

四

諸比丘！若如是信、信解此等諸法者，此名為隨信行者，入正性決定，入善土地，超凡夫地。彼作業不生地獄、畜生、餓鬼。不現證預流果而不能死。

五

諸比丘！若如是……此等諸法者……乃至……不現證預流果而不死。

六

諸比丘！若如是知見此等諸法者，此名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

第三 識

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！眼識是無常而變易、變異，耳識……鼻識……舌識……身識……意識是無常而變易、變異。

四～六

諸比丘！若……乃至……為趣三菩提。」

第四 觸

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！眼觸是無常而變易、變異，耳觸……鼻觸……
舌觸……身觸……意觸是無常而變易、變異。」

四～六

諸比丘！若……乃至……為趣三菩提。」

第五 受

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！眼觸所生之受，是無常而變易、變異，耳觸所
生之受……鼻觸所生之受……舌觸所生之受……身觸所生之
受……意觸所生之受，是無常而變易、變異。」

四～六

諸比丘！若……乃至……為趣三菩提。」

第六 想

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！色想是無常而變易、變異，聲想……香想……
味想……所觸想……法想是無常而變易、變異。」

四～六

諸比丘！若……乃至……為趣三菩提。」

第七 思

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！色思是無常而變易、變異，聲思……香思……
味思……所觸思……法思是無常而變易、變異。」

四～六

諸比丘！若……乃至……為趣三菩提。」

第八 愛

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！色愛是無常而變易、變異、聲愛……味愛……
所觸愛……法愛是無常而變易、變異。」

四～六

諸比丘！若……乃至……為趣三菩提。」

第九 界

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！地界是無常而變易、變異、水界……火界……風界……空界……識界是無常而變易、變異。」

四～六

諸比丘！若……乃至……為趣三菩提。」

第十 蘊

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！色是無常而變易、變異，受是無常而變易、變異，想是無常而變易、變異，行是無常而變易、變異，識是無常而變易、變異。」

四

諸比丘！若如是信、信解此等諸法者，此名為隨信行者，入正性決定，入善土地，超凡夫地。彼作業不生地獄、畜生、餓鬼，不現證預流果而不死。

五

諸比丘！若如是應此等諸法，於慧之應分審思者，此名為隨信行者，入正性決定，入善土地，超凡夫地。彼作業不生地

獄、畜生、餓鬼，不現證預流果而不死。

六

諸比丘！若如是知見此等之諸法者，此名為預流，有不墮法，決定，為趣三菩提。」

入相應（終）

此品攝頌曰：

眼色識觸受
想思以及愛
界蘊等為十

第五 生相應

第一 眼

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！若眼生住轉出者，則苦生病住老死出。」

四～七

若耳、鼻、舌、身生……者，乃至……

八

若意生住轉出者，則苦生病住老死出。」

九

諸比丘！若眼滅而息沒者，則苦滅而病息老死沒。」

一〇～一三

若耳……鼻……舌……身滅者，……乃至……

一四

若意滅而息沒者，則苦滅病息而老死沒。」

第二 色

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！若色生住轉出者，則苦生病住老死出。

四～八

若聲……香……味……所觸……法生住轉出者，則苦生病
住老死出。

九

諸比丘！若色滅而息沒者，則苦滅而病息老死沒。

一〇～一三

若聲……香……味……所觸……

一四

若法滅而息沒者，則苦滅而病息老死沒。」

第三 識

一～八

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！若眼識生住……乃至……意識生住……乃
至……老死出。

九～一四

諸比丘！若眼識滅……乃至……意識滅……乃至……老死
沒。」

第四 觸

一～八

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！眼觸生住……乃至……意觸生住……乃至……老死出。

九～一四

諸比丘！若眼觸滅……乃至……意觸滅……乃至……老死沒。」

第五 受

一～八

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！若眼觸所生住……乃至……意觸所生之受，生住……至……老死出。

九～一四

諸比丘！若眼觸所生之受滅而息……乃至……意觸所生之受滅而息……乃至……老死沒。」

第六 想

一～八

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！若色想生住……乃至……法想生住……乃至……老死滅。

九～一四

諸比丘！若色想滅……乃至……法想滅而息……乃至……老死沒。」

第七 思

一～八

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！若色思生住……乃至……法思生住……乃至……老死出。

九～一四

諸比丘！若色思滅而息……乃至……法思滅而息……乃至……老死沒」。

第八 愛

一～八

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！若色愛生住……乃至……法愛生住……乃至……老死出。

九～一四

諸比丘！若色愛滅……乃至……法愛滅……乃至……老死沒。」

第九 界

一～八

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！若地界生住……乃至……水界……火界……風界……空界……識界生住……乃至……老死出。」

九～一四

諸比丘！若地界滅……乃至……識界滅……乃至……老死沒。」

第十 蘊

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！若色生住轉出者，則苦生病住老死出。」

四～六

若受……想……行……

七

若識生住轉出者，則苦生病住老死出。」

八

諸比丘！若色滅而息沒者，則苦滅病息老死沒。

九～一一

若受……想……行……

一二

若識滅而息沒者，則苦滅病息老死沒。」

生相應（終）

此品攝頌曰：

眼色識觸受
想思愛界蘊
如是等為十

第六 煩惱相應

第一 眼

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！於眼欲貪者，是即心之隨煩惱。」

四～七

於耳欲貪……於鼻欲貪……於舌欲貪……於身欲貪……。

八

於意欲貪者，是即心之隨煩惱。」

九

諸比丘！比丘若於此六處、斷心之隨煩惱者，則其心向出離而使圓滿出離。心堪任於現所證知、現證之諸法。」

第二 色

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於色欲貪者，是即心之隨煩惱。」

四～八

於聲……香……味……所觸……法欲貪者，是即心之隨煩惱。

九

諸比丘！比丘若於此六處，斷心之隨煩惱者，則其心向出離而使圓滿出離。心堪任於現所證知、現證之諸法。」

第三 識

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於眼識欲貪者，是即心之隨煩惱。

四～八

於耳識……鼻識……舌識……身識……意識欲貪者，是即心之隨煩惱。

九

諸比丘！比丘若於此六處斷心之隨煩惱者，則其心向出離而使圓滿出離。心堪任於現所證知、現證之諸法。」

第四 觸

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於眼識欲貪者，是即心之隨煩惱。

四～八

於耳觸……鼻觸……舌觸……身觸……意觸欲貪者，是即心之隨煩惱。

九

諸比丘！比丘若……乃至……於現所證知、現證之諸法。」

第五 受

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於眼觸所生之受欲貪者，是即心之隨煩惱。

四～八

於耳觸所生之受……鼻觸所生之受……舌觸所生之受……身觸所生之受…意觸所生之受欲貪者，是即心之隨煩惱。

九

諸比丘！比丘若……乃至……於現所證知、現證之諸法。」

第六 想

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於色想欲貪者，是即心之隨煩惱。

四～八

於聲想……香想……味想……所觸想……法想欲貪者，是即心之隨煩惱。

九

諸比丘！比丘若……乃至……於現所證知、現證之諸法。」

第七 思

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至

「諸比丘！於色思欲貪者，是即心之隨煩惱。

四～八

於聲思……香思……所觸思……法思欲貪者，是即心之隨煩惱。

九

諸比丘！比丘若……乃至……於現所證知、現證之諸法。」

第八 愛

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於色愛欲貪者，是即心之隨煩惱。」

四～八

於聲愛……香愛……味愛……所觸愛……法愛欲貪者，是即心之隨煩惱。

九

諸比丘！比丘若……乃至……於現所證知、現證之諸法。」

第九 界

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於地界欲貪者，是即心之隨煩惱。」

四～八

於水界……火界……風界……空界……識界欲貪者，是即心之隨煩惱。

九

諸比丘！若比丘於此六處斷心之隨煩惱者，則其心向出離而使圓滿出離。心堪任於現證知、現證之諸法。」

第十 蘊

一～七

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於色欲貪者，是即心之隨煩惱……乃至……於
識欲貪者，是即心之隨煩惱。」

八

諸比丘！比丘若於此六處，斷心之隨煩惱者，則其心向出
離而使圓滿出離，心堪任於現所證知、現證之諸法。」

煩惱相應（終）

此品攝頌曰：

眼色識觸受
想思愛界蘊
如是等為十

第七 舍利弗相應

第一 離

一

爾時具壽舍利弗，住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

時，具壽舍利弗，清晨之時、著下衣，持鉢衣，入舍衛城乞食。

三

行於舍衛城乞食。食後從乞食還，往安陀林，以行晝日坐。

四

入安陀林已，於一樹下晝日坐。

五

時，具壽舍利弗，晡時從靜坐起，往祇樹給孤獨園。

六

具壽阿難見具壽舍利弗從遠方來，見而言於具壽舍利弗曰：

「友舍利弗！汝之諸根清淨，顏色清淨皎潔。具壽舍利弗今日依何而住耶？」

七

「友！於此處我離諸欲、離諸不善法、離有尋、有伺，生喜、樂具足而住初靜慮。友！此時我思惟，我入初靜慮，我乃入初靜慮，我則不出初靜慮。」

八

具壽舍利弗，如是善於長夜斷我慢、我所慢、慢、隨眠，故具壽舍利弗，思惟：「我入初靜慮，我乃入初靜慮，我則不出初靜慮。」

第二 無尋

一～五

〔爾時，具壽舍利弗〕舍衛城……乃至……

六

具壽阿難見具壽舍利弗從遠方來。見而言於具壽舍利弗：

「友舍利弗！汝之諸根清淨，顏色清淨皎潔，具壽舍利弗今日依何而住耶？」

七

「友！於此我能為尋伺寂靜故，內淨心住一趣、無尋無伺而從三摩地，生喜、樂具足住第二靜慮。友！此時我思惟我入第二靜慮，我乃入第二靜慮，我則為不出第二靜慮。」

八

具壽舍利弗於如是長夜，善斷我慢、我所慢、慢、隨眠，故具壽舍利弗思惟：「我入第二靜慮，我乃入第二靜慮、我則不為出第二靜慮。」

第三 喜

一～六

〔爾時，具壽舍利弗〕舍衛城……乃至……

具壽阿難見具壽舍利弗從遠……乃至……言於：

「友舍利弗！汝之諸根清淨，顏色清淨皎潔。具壽舍利弗今日依何而住耶？」

七～八

「友！於此我以離喜故住於捨，身正受樂正念正知，如諸聖者之宣說，有捨念樂住，具足住第三靜慮……乃至廣說……。」

第四 捨

一～六

〔爾時，具壽舍利弗〕舍衛城……乃至……

「友舍利弗！汝之諸根清淨，顏色清淨皎潔。具壽舍利弗今日依何而住耶？」

七～八

「友！於此我斷樂、斷苦故，及先已滅喜、憂故，不苦不樂而捨念清淨，具足住於第四靜慮。友！此時我……乃至……為不出……」

第五 虛空

一～六

〔爾時，具壽舍利弗〕舍衛城……乃至……具壽阿難……乃至……

七～八

「友！於此我超越一切之色想故，滅有對想故，不作意種種想故，為虛空無邊，具足住虛空無邊處……乃至……為不出……」

第六 識

一～六

〔爾時，具壽舍利弗〕舍衛城……乃至……具壽阿難……乃至……

七～八

「友！於此我超越一切虛空無邊處，為識無邊，具足住識無邊處……乃至……無不出……」

第七 無所有處

一～六

〔爾時，具壽舍利弗〕舍衛城……乃至……

七～八

「友！於此我超越一切識無邊處，具足住少無所有及無所有處……乃至……為無出……」

第八 有想

一～六

〔爾時，具壽舍利弗〕舍衛城……乃至……

七～八

「友！於此我超越一切無所有處，具足住非想、非非想處……乃至……為無出……」

第九 滅

一～六

〔爾時，具壽舍利弗〕舍衛城……乃至……

七

「友！於此我超越非想、非非想處，具足住滅想受。友！此時我思惟我入滅想受，我乃入滅想受，我則不為出滅想受。」

八

具壽舍利弗善於如是長夜斷我慢、我所慢、慢、隨眠，故具壽舍利弗思惟：「我入滅想受，我乃入滅想受，我則不為出

滅想受。」

第十 淨口

一

爾時，具壽舍利弗住王舍城竹林迦蘭陀園。

二

時具壽舍利弗，清晨之時，著下衣，持鉢、衣，入王舍城乞食。於王舍城行每家乞食，而倚於一壁食施食。

三

時名淨口出家尼者，來具壽舍利弗之處，來而言於具壽舍利弗曰：

四

「沙門！汝乃以口向下而食耶？」

「姊妹！我非以口向下而食。」

五

「沙門！然則仰口而食耶？」

「姊妹！我非仰口而食。」

六

「沙門！然則口向四方而食耶？」

「姊妹！我非口向四方而食。」

七

「沙門！然則口向四維而食耶？」

「姊妹！我非口向四維而食。」

八

「沙門！問以口向下而食者，言我非以口向下而食。沙門！然則若問仰口而食耶？言我非仰口而食。沙門！然則若問以口向四方而食耶？言我非以口向四方而食。沙門！然則若問口向四維而食耶？言我非以口向四維而食。沙門！然者汝如何而食耶？」

九

「姊妹！沙門、婆羅門，謂依事明、畜生明，以邪命為生活者，姊妹！彼沙門、婆羅門名為以口向下而食。」

一〇

姊妹！沙門、婆羅門，謂依占星明、畜生明，以邪命為生活者，姊妹！彼沙門、婆羅門名為仰口而食。

一一

姊妹！沙門、婆羅門從事遣使、使節，以邪命為生活者，彼沙門、婆羅門名為口向四方而食。

一二

姊妹！沙門、婆羅門，謂依占卜明、畜生明，以邪命為生活者。姊妹！彼沙門、婆羅門名為口向四維而食。

一三

姊妹！我非所謂依事明、畜生明，以邪命為生活者。非所謂依占星明、畜生明，以邪命為生活者。非從事遣使、使節，以邪命為生活。非依卜占明、畜生明，以邪命為生活者。我以法求食，以法求食而食。」

一四

時、淨口出家尼即往王舍城之里巷四衢告之曰：

「沙門釋子等如法受食，沙門釋子等無過而受食。施沙門釋子等食。」

舍利弗相應
(終)

此攝頌曰：

離與無尋
喜捨等四
虛空與識
及無所有
有想滅九
淨口等十

第八 龍相應

〔一〕第一 品類

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！龍之生有四種。以何者為四耶？卵生龍、胎生龍、濕生龍、化生龍是。諸比丘！如是龍之生有四種。」

〔二〕第二 妙勝

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……〔卵生龍、胎生龍、濕生龍〕化生龍也。

四

「諸比丘！此中胎生、濕生、化生之龍，當比卵生龍為妙勝。」

五

諸比丘！此中濕生、化生之龍，當比卵生、胎生之龍為妙勝。」

六

諸比丘！此中化生之龍，當比卵生、胎生、濕生龍為妙勝。

七

諸比丘！如是龍之生有四種。」

〔三〕第三 布薩（一）

一

爾時〔世尊〕舍衛城……乃至……

二

時，有一比丘，來詣世尊住處。詣已，敬禮世尊，而坐於一面。

三

彼比丘一面坐已，而白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類之卵生龍，住布薩以捨己身耶？」

四

「比丘！此處一類之卵生龍如是思惟：『調我等從前，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。我等於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業，於身壞命終後，生卵生龍群中。』

五

我等如今若於身行善行，於語行善行，於意行善行者，如是身壞命終後，生善趣、天界。

六

我等宜於身行善，於語行善，於意行善。』

七

比丘！依此因、依此緣，於此處一類之卵生龍，住布薩捨己身。」

〔四〕第四 布薩（二）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……時有一比丘，來詣世尊住處……乃至……

三

彼比丘一面坐已，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？於此處，一類胎生之龍，住布薩以捨己身耶？」

四～六

應皆廣說。

七

「比丘！依此因、依此緣，於此處，一類之胎生龍，住布薩以捨己身。」

〔五〕第五 布薩（三）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

彼比丘一面坐已，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類之濕生龍，住布薩以捨己身耶？」

四～六

應皆廣說。

七

「比丘！依此因、依此緣，於此處一類之濕生龍，住布薩以捨己身。」

〔六〕第六 布薩（四）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

彼比丘一面坐已，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類之化生龍，住布薩以捨己身耶？」

四

「比丘！此處一類之化生龍，如是思惟：『我等前身，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。因我等於身作善惡業，於語作善惡業，於意作惡業，身壞命終後，生化生龍之群中。

五

我等如今若於身行善行，於語行善行，於意行善行者，如是於身壞命終後，生善趣、天界。

六

我等宜於身行善行、於語行善行、於意行善行。』

七

比丘！依此因、依此緣，此處一類之化生龍，住布薩以捨己身。」

〔七〕第七 聞（一）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

彼比丘一面坐已，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生卵龍之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。彼聞卵生龍乃長壽、端嚴、多樂。」

五

彼思惟：『我身壞命終後，生卵生龍之群中。』

六

彼身壞命終後，生卵生龍之群中。

七

比丘！依此因、依此緣，於此處一類者，身壞命終後，生卵生龍之群中。」

〔八〕第八 聞（二）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

彼比丘一面坐已，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？於此處一類者，身壞命終後，生胎龍之群中耶？」

四～六

「比丘！此處一類者，於身作善惡業……乃至廣說。」

七

比丘！依此因、依此緣，於此處一類者，身壞命終後，生胎生龍之群中。」

〔九〕第九 聞（三）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

彼比丘一面坐已，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生濕生龍耶？」

四～六

「比丘！此處一類者，於身作善惡業……乃至廣說……

七

比丘！依此因、依此緣，於此處一類者，身壞命終後，生濕生龍之群中。」

〔一〇〕第十 聞（四）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

比丘一面坐已，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生化生龍之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。彼聞化生龍乃長壽、端嚴、多樂。

五

彼思惟：『我身壞命終後，生化生龍之群中。』

六

彼身壞命終後，生化生龍之群中。

七

比丘！依此因、依此緣，此處一類者，身壞命終後，生化生龍之群中。」

〔一一～二〇〕第十一 布施利益（一）

一～三

……彼比丘一面坐已，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生卵生龍之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。彼聞卵生龍乃長壽、端嚴、多樂。

五

彼思惟：『我身壞命終後，生卵生龍之群中。』

六

彼布施食、布施飲、布施衣、布施乘具、布施鬘、布施香、布施塗香、布施臥具、布施家、布施燈具。彼身壞命終後，生卵生龍之群中。

七

比丘！依此因，依此緣，此處一類者，身壞命終後，生卵生之群中。」

〔二一～五〇〕第十二～十四 布施利益（二～四）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

彼比丘一面坐已，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生胎生龍……乃至……濕生龍……化生龍之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。彼聞化生龍乃長壽、端嚴，多樂。

五

彼思惟：『我身壞命終後，生化生龍之群中。』

六

彼布施食、布施飲……乃至……生化生龍之群中。

七

比丘！依此因、依此緣，此處一類者，身壞命終後，生化生龍之群中。」

如是廣說而說十經，如是於四類說四十記別。有十經與五十經。

龍相應（終）

此攝頌曰：

品類與妙勝
四布薩四聞
四布施利益
於龍之善說

第九 金翅鳥相應

〔一〕第一 品類

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！金翅鳥之生有四種。以何者為四耶？卵生金翅鳥、胎生金翅鳥、濕生金翅鳥、化生金翅鳥是。諸比丘！如是金翅鳥之生有四種。」

〔二〕第二 取

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！金翅鳥之生有四種。以何者為四耶？卵生……乃至……諸比丘！如是金翅鳥之生有四種。」

四

諸比丘！此中卵生金翅鳥以取卵生龍，不取胎生、濕生、化生。

五

諸比丘！此中胎生金翅鳥以取卵生、胎生龍，不取濕生、化生。

六

諸比丘！此中濕生金翅鳥以取卵生、胎生、濕生龍，不取化生。

七

諸比丘！此中化生金翅鳥取卵生、胎生、濕生、化生龍。

八

諸比丘！如是金翅鳥之生有四種。」

〔三〕第三 善惡業（一）

一

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

二

時，有一比丘來詣世尊住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終而後生於卵生金翅鳥之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。彼聞卵生金翅鳥乃長壽、端嚴、多樂。」

五

彼思惟：『我身壞命終，當生卵生金翅鳥之群中。』彼身壞命終後，生於卵生金翅鳥之群中。

六

比丘！依此因、依此緣，此一類者，身壞命終後，生於金翅鳥之群中。」

〔四～六〕第四～六 善惡業（二～四）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生於胎生……乃至……濕生……化生金翅鳥之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。彼聞化生金翅鳥，長壽、端嚴、多樂。」

五

彼思惟：『我身壞生命終後，當生於化生金翅鳥之群中。』彼身壞命終後，生於化生金翅鳥之群中。

六

比丘！依此因、依此緣，此處一類者，身壞命終後，生於化生金翅鳥之群中。」

〔七～一六〕第七 布施利益（一）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘！
白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生於卵生金翅鳥之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。彼聞卵生金翅鳥，長壽、端嚴、多樂。

五

彼思惟：『我身壞生命終後，當生於金翅鳥之群中。』

六

彼布施食、布施飲、布施衣、布施乘具、布施鬘、布施香、布施塗香、布施臥具、布施家、布施燈具。彼身壞命終後，生於卵生金翅鳥之群中。

七

比丘！依此因、依此緣，此處一類者，身壞命終後，生卵生金翅鳥之群中。」

〔一七～四六〕第八～十 布施利益（二～四）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……一面坐已，彼比丘白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？而一類者，身壞命終後，生於胎生金翅鳥……乃至……濕生金翅鳥……化生金翅鳥之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身作善惡業，於語作善惡業，於意作善惡業。彼聞化生金翅鳥，長壽、端嚴、多樂。

五

彼思惟：『我身壞命終後，當生於化生金翅鳥之群中。』

六

彼布施食……乃至……布施燈。彼身壞命終後，生於化生金翅鳥之群中。

七

比丘！依此因、依此緣，此處一類者，身壞命終後，生於化生金翅鳥之群中。」

如是而有六十六經。

金翅鳥相應
(終)

於之攝頌曰：

品類以及取
四之善惡業
四布施利益
善說金翅鳥

第十 乾達婆相應

〔一〕第一 品類

一～二

〔一時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我為汝等說乾達婆天，諦聽。」

四

諸比丘！如何為乾達婆天耶？

諸比丘！有依根香而住之天。諸比丘！有依樹心香而住之天。諸比丘！有依樹膚香而住之天。諸比丘！有依樹皮香而住之天。諸比丘！有依樹芽香而住之天。諸比丘！有依葉香而住之天。諸比丘！有依華香而住之天。諸比丘！有依果香而住之天。諸比丘！有依液香而住之天。諸比丘！有依香香而住之天。

五

諸比丘！如是名為乾達婆天。」

〔二〕第二 善行

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

四

一面坐已。彼比丘白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生於乾達婆天之群中耶？」

五

「諸比丘！此處一類者，於身行善行，於語行善行，於意行善行。彼聞乾達婆天長壽、端嚴、多樂。

六

彼思惟：『我身壞命終後，生於乾達婆天之群中。』彼身壞命終後，生於乾達婆天之群中。

七

諸比丘！依此因，依此緣，此處有一類者，身壞命終後，生於乾達婆天之群中。」

〔三〕第三 施者（一）

一～四

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處有一類之者、身壞命終後，生於依根香而住天之群中耶？」

五

「諸比丘！此處有一類之者，於身行善行，於語行善行，於意行善行，彼聞依根香而住之天，是長壽、端嚴、多樂。

六

彼思惟：『我身壞命終後，生於依根香而住天之群中。』
彼常布施根香，彼身壞命終後，生於依根香而住天之群中。

七

比丘！依此因……此處有一類之者，身壞命終後，生於依根香而住天之群中。」

〔四～一二〕第四～十二 施者（二～一〇）

一～四

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，
白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處有一類之者，身壞命終後，生於依樹心香而住天之群中耶？」

五

「比丘！此處有一類者，於身行善行，於語行善行，於意行善行。彼聞依樹心香而住之天，是長壽、端嚴、多樂。

六

彼思惟：『我身壞命終後，生於依樹心香而住天之群中。』彼常布施樹心香……乃至……布施樹膚香……布施樹皮香……布施芽香……布施葉香……布施華香……布施果香……

布施液香……布施香香。彼身壞命終後，生於依香香而住天之群中。」

〔一三～二二〕第十三 布施利益（一）

一～四

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘白世尊言：「大德！依何因？依何緣？此處有一類者，身壞命終後，生於依根香而住天之群中耶？」

五

「比丘！此處有一類者，於身行善行，於語行善行，於意行善行。彼聞：依根香而住之，天是長壽、端嚴、多樂。」

六

彼思惟：『我身壞命終後，生於依根香而住天之群中。』彼布施食、布施飲、布施衣，布施乘具，布施鬘，布施香……布施塗香、布施臥具，布施家、布施燈具。彼身壞命終後，生於依根香而住天之群中。

七

比丘！依何因、依此緣，此處有一類者，身壞命終後，生於依根香而住天之群中。」

〔二三～一一二〕第十四～二十三 布施利益（二～一〇）

一～四

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，
白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處有一類者，身壞命終，後
生於依樹心香……樹膚香……樹皮香……芽香……葉香……華
香……果香……液香……香香而住天之群中。」

五

「比丘！此處有一類者，於身行善行，於語行善行，於意
行善行。彼聞依香香而住之，天是長壽、端嚴、多樂。」

六

彼思惟：『我身壞命終後，生於依香香而住天之群中。』
彼布施食、布施飲、布施衣、布施乘具、布施鬘、布施香、布
施塗香、布施臥俱、布施家、布施燈俱。彼身壞命終後，生於
依香香而住天之群中。

七

比丘！依此因、依此緣，此處有一類者，身壞命終後，生
於依香香而住之天群中。」

如是而有一百十二經

乾達婆相應
(終)

於此攝頌曰：

品類與善行
乃至十施者

十布施利益
善說乾達婆

第十一 雲相應

〔一〕第一 說示

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！我為汝等說雲天，諦聽。」

四

諸比丘！如何為雲天耶？諸比丘！有寒雲天、熱雲天、闇雲天、風雲天、雨雲天。

五

諸比丘！此名為雲天。」

〔二〕第二 善行

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生於雲天之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身行善行，於語行善行，於意行善行。彼聞雲天，是長壽、端嚴、多樂。

五

彼思惟：『我身壞命終後，當生於雲天之群中。』彼身壞命終後，生於雲天之群中。

六

比丘！依此因、依此緣，此處一類者，身壞命終後，生於雲天之群中。」

〔三～二二〕第三 布施利益（一）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生於寒雲天耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身行善行，於語行善行，於意行善行。彼聞寒雲天，是長壽、端嚴、多樂。

五

彼思惟：『我身壞命終後，當生於寒雲天之群中。』彼布施食……乃至……布施燈具。彼身壞命終後，生於寒雲天之群中。

六

比丘！依此因，依此緣，此處一類者，身壞命終後，生於寒雲天之群中。」

〔二三～五二〕第四～七 布施利益（二～五）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？此處一類者，身壞命終後，生於熱雲天……闇雲天……風雲天……雨雲天之群中耶？」

四

「比丘！此處一類者，於身行善行，於語行善行，於意行善行。彼聞雨雲天，是長壽、端嚴、多樂。」

五

彼思惟：『我身壞命終後，當生於雨雲天之群中。』彼布施食……乃至……布施燈具。彼身壞命終後，生於雨雲天之群中。

六

比丘，依此因，依此緣，此處一類者，身壞命終後，生於雨雲天之群中。」

〔五三〕第八 寒

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，
白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？為時而寒耶？」

四

「比丘！有名為寒雲天。彼等思惟：我等以喜為己喜時，
隨其心願而寒。

五

比丘！依此因、依此緣，為時而寒。」

〔五四〕第九 熱

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，
白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？為時而熱耶？」

四

「比丘！有名為熱雲天。彼等思惟：我等以喜為己喜時，
隨其心願而熱。

五

比丘！依此因、依此緣，為時而熱。」

〔五五〕第十 闇

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，
白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？為時而闇耶？」

四

「比丘！有名為闇雲天。彼等思惟：我等以喜為己喜時，
隨其心願而闇。

五

比丘！依此因、依此緣，為時而闇。」

〔五六〕第十一 風

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，
白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？為時而吹風耶？」

四

「比丘！有名為風雲天。彼等思惟：我等以喜為己喜時，
隨其心願而吹風。

五

比丘！依此因、依此緣，為時而吹風。」

〔五七〕第十二 雨

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之彼比丘，
白世尊言：

「大德！依何因？依何緣？為時而天雨耶？」

四

「比丘！有名為雨雲天。彼等思惟：我等以喜為己喜時，
隨其心願而天雨。」

五

比丘！依此因、依此緣，為時而天雨。」

雲相應（終）

廣之有五十七經。

於此之攝頌曰：

說示與善行
五布施利益
寒熱乃至闇
風雨等之雲

第十二 婆蹉種相應

〔一～五〕

第一 無知（一）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

時，有婆蹉種出家者，來詣世尊住處，詣已，與世尊俱相交談慶慰、歡喜感銘〔之語〕，而坐於一面。

三

坐於一面已。婆蹉種出家者白世尊言：

「尊瞿曇！依何因？依何緣？於世間生如是種種成見耶？謂：世間為常、世間為無常、世間為有邊、世間為無邊，命即是身，命與身異，如來死後有，如來死後無，如來死後亦有亦無，如來死後非有非無。」

四

「婆蹉！於色無知故，於色集無知故，於色滅無知故、於順色滅道無知故，於世間有生如是種種之成見。謂：世間為常……乃至……如來死後非有非無。婆蹉！依此因、依此緣，於世間有生如是種種之成見。謂：世間為常……乃至……如來死後非有非無。」

第二 無知（二）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之婆蹉種出家者，白世尊言：

「尊瞿曇！依何因？依何緣？於世間生如是種種成見，謂：世間為常……乃至……如來死後非有非無。」

四

「婆蹉！於受無知故，於受集無知故，於受滅無知故，於順受滅道無知故，於世間有生如是種種之成見，謂：世間為常……乃至……如來死後非有非無。」

五

「婆蹉！依此因、依此緣，於世間有生如是種種之成見，謂：世間為常，世間為無常……乃至……如來死後非有非無。」

第三 無知（三）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之婆蹉種出家者，白世尊言：

「尊瞿曇！依何因？依何緣？於世間生如是種種之見耶？謂：世間為常……乃至……如來死後非有非無。」

四

「婆蹉！於想無知故，於想集無知故，於想滅無知故，於順想滅道無知故，於世間有生如是種種之成見，謂：世間為常、世間為無常……乃至……如來死後非有非無。」

第四 無知（四）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之婆蹉種出家者，白世尊言：

「尊瞿曇！依何因？依何緣？於世間生如是種種之成見耶？謂：世間為常……乃至……如來死後非有非無。」

四

「婆蹉！於行無知故，於行集無知故，於行滅無知故，於順行滅道無知故，於世間有生如是種種之成見。謂：世間為常、世間為無常……乃至……如來死後非有非無。」

五

婆蹉！依此因、依此緣，於世間有生如是種種之成見，謂：世間為常、世間為無常……乃至……如來死後非有非無。」

第五 無知（五）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之婆蹉種出家者，白世尊言：

「尊瞿曇！依何因？依何緣？於世間生如是種種之成見耶？謂：世間為常、世間為無常……乃至……如來死後非有非無。」

四

「婆蹉！於識無知故，於識集無知故，於識滅無知故，於順識滅道無知故，於世間有生如是種種之成見。謂：世間為常、世間為無常……乃至……如來死後非有非無。」

五

婆蹉！依此因……乃至……非有非無。」

〔六～一〇〕第六～十 無見（一～五）

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面之婆蹉種出家者，白世尊言：

「尊瞿曇！依何因？依何緣？於世間有生如是種種之成見耶？謂：世間為常、世間為無常……乃至……如來死後非有非無。」

四

（第六）婆蹉！於色無見故……乃至……

（第七）於受……

（第八）於想……

（第九）於行……

（第十）於識無見故……乃至……於順識滅道無見故……
乃至……（應廣說如初於五蘊之順次。）

〔一一～一五〕第十一～十五 不現觀（一～五）

（第十一）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於
色不現觀故……乃至…於順色滅不現觀故……

（第十二）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於
受不現觀故……

（第十三）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於
想不現觀故……

（第十四）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於
行不現觀故……

（第十五）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於
識不現觀故……乃至…

〔一六～二〇〕第十六～二十 不了悟（一～五）

（第十六）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……坐於一面
之婆蹉種出家者，白世尊言：

尊瞿曇！依何因？依何緣？……乃至……

五

婆蹉！於色不了悟故……乃至……於順色滅道不了悟
故……乃至……

（第十七）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於受……

（第十八）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於想……

（第十九）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於行……

（第二十）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於識不了悟故……乃至……於順識滅道不了悟故……乃至…

〔二一～二五〕第二十一～二十五 不通達（一～五）

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……尊瞿曇！依何因？依何緣？……乃至……婆蹉！於色不通達故……乃至……於識不通達故……乃至……

〔二六～三〇〕第二十六～三十 不等觀（一～五）

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於色不等觀故……乃至於識不等觀故……乃至……

〔三一～三五〕第三十一～三十五 不隨觀（一～五）

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於色不隨觀故……乃至……於識不隨觀故……乃至……

〔三六～四〇〕第三十六～四十 不近觀（一～五）

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於色不近觀故……乃至……於識不近觀故……乃至……

〔四一～四五〕第四十一～四十五 不等察（一～五）

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於色不等察故……乃至……於識不等察故……乃至……

〔四六～五〇〕第四十六～五〇 不近察（一～五）

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於色不近察故……乃至……於識不近察故……乃至……

〔五一～五五〕

第五十一 不現見（一）

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……時，婆蹉出家者，來詣世尊住處，詣已，與世尊俱相交談慶慰、歡喜，感銘而坐於一面。

三

坐於一面已，婆蹉種出家者，白世尊言：

「尊瞿曇！依何因？依何緣？於世間生如是種種之成見耶？謂：世間為常……乃至……如來死後非有非無。」

四

「婆蹉！於色不現見故，於色集不現見故，於色滅不現見故，於順色滅道不現見故，如是……乃至……」

第五十二～五十四 不現見（二～四）

（第五十二）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！
於受不現見故……乃至……

（第五十三）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！
於想不現見故……乃至……

（第五十四）〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！
於行不現見故……乃至……

第五十五 不現見（五）

一～四

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……婆蹉！於識不現見故，於識集不現見故，於識滅不現見故，於順識滅道不現見故，於世間有生如是種種之成見，謂：世間為常、世間為無常……乃至……如來死後非有非無。

五

婆蹉！依此因、依此緣，於世間有生如是種種之成見謂：世間為常、世間為無常、世間為邊、世間為無邊。命即是身，命與身異。如來死後有，如來死後無，如來死後亦有亦無，如來死後非有非無。

婆蹉種相應
（終）

一品中有五十五經。

於此之攝頌曰：

無知與無見

不現觀了悟
不通達等觀
不隨觀近觀
不等察近察
以及不現見

第十三 禪定相應

第一 三昧～等至

一～二

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，而於三昧非等至善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧等至善，於三昧而非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧而非三昧善，於三昧亦非等至善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧等至善。

八

諸比丘！此中修定者於三昧三昧善，而且於三昧等至善，此乃四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙者。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳，由乳出酪，由酪出生酥，由生酥出熟酥，由熟酥出醍醐，此於此中名最尊。諸比丘！如是於修定者之三昧三昧善，而且於三昧等至善，此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。」

第二 止住

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，於三昧善而非止住善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧止住善，於三昧非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧而非三昧善，於三昧亦非止住善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧止住亦善。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧三昧善，而且於三昧止住亦善，此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳，由乳出酪，由酪出生酥，由生酥出熟酥，由熟酥出醍醐，此於此中名為最尊。諸比丘！如是於修定者之三昧三昧善……乃至……是最妙。」

第三 出起

一～三

……「諸比丘！於修定者有四，以何者為四耶？

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，於三昧非出起善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧出起善，而於三昧非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非三昧善，於三昧非出起善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧出起善。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧三昧善，而且於三昧出起善。此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳……乃至……是最妙。」

第四 安樂

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，於三昧非安樂善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧安樂善，而於三昧非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非三昧善，於三昧非安樂善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧亦安樂善。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧，於三昧三昧善，而且於三昧安樂善，此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳……乃至……是最妙。」

第五 所緣

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四，何者為四耶？

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，於三昧非所緣善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧所緣善，於三昧非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非三昧善，於三昧亦非所緣善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧所緣亦善。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧三昧善，而且於三昧所緣亦善，此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳……乃至……是最妙。」

第六 行境

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，於三昧非行境善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧行境善，於三昧非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非三昧善，於三昧非行境善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧行境善。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧，於三昧三昧善，於三昧行境善，此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳……乃至……是最妙。」

第七 引發

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，於三昧非引發善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧引發善，於三昧非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非三昧善，於三昧非引發善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧引發善。此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳……乃至……是最妙。」

第八 恭敬〔作〕

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，於三昧非恭敬作。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧為恭敬作，於三昧非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非三昧善，於三昧非恭敬作。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧恭敬作。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧三昧善，而且於三昧恭敬作。此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳……乃至……是最妙。」

第九 常作

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，於三昧非常作。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧為常作，於三昧非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非三昧善，於三昧非常作。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧為常作。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧三昧善，而且於三昧為常作。此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳……乃至……是最妙。」

第十 隨應

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧三昧善，於三昧非隨應作。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧隨應作，於三昧非三昧善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非三昧善，於三昧非隨應作。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧三昧善，而且於三昧隨應作。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧三昧善，而且於三昧為隨應作。此於此四修定者之中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳……乃至……是最妙。」

第十一 等至～止住

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧等至善，於三昧非止住善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧止住善，於三昧非等至善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非等至善，於三昧於非止住善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧等至善，而且於三昧止住善。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧等至善，而且於三昧止住善。此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳……乃至……是最妙。」

第十二 等至～出起

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧等至善於三昧非出起善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧出起善，於三昧非等至善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非等至善，於三昧非出起善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧等至善，而於三昧出起善。

八～九

諸比丘！此中修定者之……乃至……是最妙。」

第十三 等至～安樂

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧等至善，於三昧非安樂善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧安樂善，於三昧非等至善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非等至善，於三昧非安樂善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧等至善，而且於三昧安樂善。

八～九

諸比丘！此中……乃至……是最妙。」

第十四 等至～所緣

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧等至善，於三昧非所緣善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧所緣善，於三昧非等至善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非等至善，於三昧非所緣善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧等至善，而且於三昧所緣善。

八～九

諸比丘！此中……乃至……是最妙。」

第十五 等至～行境

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？

四～七

諸比丘！此處有一類修定者，於三昧等至善，於三昧非引發善……（以廣說四句。）……於三昧等至善，而且於三昧引發善。

八～九

諸比丘！此中……乃至……是最妙。」

第十六 等至～引發

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

四～七

「諸比丘！於此處一類之修定者於三昧等至善，於三昧非引發善……〔應四句廣說〕……於三昧等至善，而於三昧引發善。

八～九

諸比丘！此中……乃至……是最妙。」

第十七 等至～恭敬

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四～七

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧等至善，於三昧非恭敬善……（以廣說四句。）……於三昧等至善，而且於三昧恭敬作。

八～九

諸比丘！此中……乃至……是最妙。」

第十八 等至～常作

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四～七

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧等至善，於三昧非常作……（以廣說四句。）……於三昧等至善，而且於三昧常作。

八～九

諸比丘！此中……乃至……是最妙。」

第十九 等至～隨應

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧等至善，於三昧非隨應作。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧隨應作，於三昧非等善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非等至善，於三昧非隨應作。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧等至善，而且於三昧隨應作。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧，等至善，而且於三昧為隨應作。此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳，由乳出酪，由酪出生酥，由生酥出熟酥，由熟酥出醍醐。此於此中名為最尊。諸比丘！如是於修定者之三昧等至善，而且於三昧為隨應作，此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。」

第二十 止住～出起

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧止住善，於三昧非出起善。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧出起善，於三昧非止住善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非止住善，於三昧非出起善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧止住善，而且於三昧出起善。

八～九

諸比丘！此中於修定者之……乃至……是最上，最妙。」

第二十一～二十七 止住～安樂

（第二十一）……「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧止住善，於三昧非安樂善……廣說……

（第二十二）於三昧止住善，於三昧非所緣善……

（第二十三）於三昧止住善，於三昧非行境善……

（第二十四）於三昧止住善，於三昧非引發善……

（第二十五）於三昧止住善，於三昧非恭敬善……

（第二十六）於三昧止住善，於三昧非常作善……

（第二十七）於三昧止住善，於三昧非隨應善……

※五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧隨應善，於三昧非止住善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非止住善，於三昧非隨應善。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧止住善，而且於三昧隨應善。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧止住善，而且於三昧為隨應作。此於此四修定者中，是最尊……乃至……」

第二八 出起～安樂

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？

四

諸比丘！此中一類之修行者，於三昧出起善，於三昧非安樂善。

五～七

……於三昧安樂善，於三昧非出起善……於三昧非出起善，於三昧非安樂善……於三昧出起善，而且亦安樂善。

八～九

諸比丘！此中，修定者之……是最上、最妙。」

第二十九～三十四 出起

（第二十九）……「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧出起善，於三昧非所緣善……廣說……

（第三十）於三昧出起善，於三昧非行境善……

（第三十一）於三昧出起善，於三昧非引發善……

（第三十二）於三昧出起善，於三昧非恭敬作……

（第三十三）於三昧出起善，於三昧非常作……

（第三十四）於三昧出起善，於三昧非隨應作……

五

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧隨應作，於三昧非出起善。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非出起善，於三昧非隨應作。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧出起善，而且於三昧隨應作。

八～九

諸比丘！此中於修定者之三昧出起善，而且於三昧為隨應作。此於此四修定者中……廣說……」

第三十五 安樂～所緣

一～四

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

於三昧安樂善，於三昧非所緣善……

五

於三昧所緣善，於三昧非安樂善……

六

於三昧非安樂善，於三昧非所緣善……

七

於三昧安樂善，而且於三昧所緣善……

八～九

諸比丘！此中修定者之……乃至……是最上、最妙。

第三十六～四十 安樂

（第三十六）……諸比丘！修禪定者有四。以何者為四耶？

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧安樂善，於三昧非行境善……乃至……

（第三十七）於三昧安樂善，於三昧非發引善……

（第三十八）於三昧安樂善，於三昧非恭敬作……

（第三十九）於三昧安樂善，於三昧非常作……

（第四十）於三昧安樂善，於三昧非隨應作……乃至……

第四十一 所緣～行境

一～七

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

於三昧所緣善，於三昧非行境善……

於三昧行境善，於三昧非所緣善……

於三昧所緣善，於三昧非行境善……

於三昧所緣善，而且於三昧亦行境善。

八～九

諸比丘！此中修定者之……乃至……是最上、最妙。

第四十二～四十五 所緣

（第四十二）於三昧所緣善，於三昧非引發善……乃至……

（第四十三）於三昧所緣善，於三昧非恭敬作……乃至……

（第四十四）於三昧所緣善，於三昧非常作……乃至……

（第四十五）於三昧所緣善，於三昧非隨應作……

第四十六 行境～引發

一～七

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

於三昧行境善，於三昧非引發善……

於三昧引發善，於三昧非行境善……

於三昧非行境善，於三昧亦非引發善……

於三昧行境善，而且於三昧引發善……

※九～十

諸比丘！譬喻由牛出乳，由乳出酪，由酪出生酥，由生酥出熟酥，由熟酥出醍醐。此於此中名為最尊。諸比丘！如是於修定者之三昧行境善，而且於三昧為引發善，此於此四修定者中……乃至……是最上、最妙。

第四十七～四十九 行境

（第四十七）於三昧行境善，於三昧非恭敬作……乃至……

（第四十八）於三昧行境善，於三昧非常作……乃至……

（第四十九）於三昧行境善，於三昧非隨應作……乃至……

第五十 引發～〔恭敬〕

一～七

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

於三昧引發善，於三昧非恭敬作……

於三昧恭敬作，於三昧非引發善……

於三昧非引發善，於三昧非恭敬作……

於三昧引發善，而且於三昧恭敬作……

八～九

諸比丘！此中修定者之……乃至……是最上、最妙。

第五十一～五十二〔引發〕

（第五十一）於三昧引發善，於三昧非常作……乃至……

（第五十二）於三昧引發善，於三昧非隨應作……乃至……

第五十三 恭敬作～常作

一～七

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

於三昧恭敬作，於三昧非常作……

於三昧常作，於三昧非恭敬作……

於三昧恭敬作，而且於三昧常作。

八～九

諸比丘！此中修定者之……乃至……是最上、最妙。

第五十四 恭敬作～隨應作

……於三昧恭敬作，於三昧非隨應作……乃至……

第五十五 常作～隨應作

一～三

〔爾時，世尊〕舍衛城……乃至……

「諸比丘！於修定者有四。以何者為四耶？」

四

諸比丘！此處有一類之修定者，於三昧常作，於三昧非隨應作。

五

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧隨應作，於三昧非常作。

六

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧非常作，於三昧非隨應作。

七

諸比丘！此處又有一類之修定者，於三昧常作，而且於三昧隨應作。

八

諸比丘！此中於修定者之三昧常作，而且於三昧為隨應作，此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

九

諸比丘！譬喻由牛出乳，由乳出酪，由酪出生酥，由生酥出熟酥，由熟酥出醍醐。此於此中名為最尊。諸比丘！於修定者之三昧常作，而且於三昧隨應作，此於此四修定者中，是最尊、最勝、上首、最上、最妙。

一〇

世尊如是說已，彼諸比丘！喜悅而歡喜世尊之所說。」

如是廣說而廣說五十五記別。

禪定相應（終）

於此之攝頌曰：

三昧與等至	止住及出起
安樂並所緣	行境與引發
恭敬作常作	以及隨應作

蘊品相應（終）

於此之攝頌曰：

蘊羅陀見入生
煩惱與舍利弗

龍金翅乾達婆
雲婆蹉及禪定
蘊品十三相應

相應部經典

歸命彼世尊 應供等覺者

六處篇

第一 六處相應

第一 根本五十〔經〕品

第一 無常品

〔一〕第一 無常（一）內

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇陀林給孤獨長者之遊園。

二

於此處，世尊言諸比丘曰：「諸比丘！」諸比丘奉答世尊曰：「大德！」

三

世尊作是言：「諸比丘！眼為無常，凡無常者，其為苦，凡苦者，是無我，凡無我者，是：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

四

耳是無常，凡無常者……

五

鼻是無常，凡無常者……

六

舌是無常，凡無常者……

七

身是無常，凡無常者……對此應如是以正智慧如實觀。

八

意是無常，凡無常者，是苦。凡苦者，是無我，凡無我者，是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

九

諸比丘！如是觀者，有聞之聖弟子厭嫌於眼、厭嫌於耳、厭嫌於鼻、厭嫌於舌、厭嫌於身、厭嫌於意，由厭嫌而離欲，由離欲而得解脫，由於解脫『我解脫』之智生。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、更不來如是之生。」

〔二〕第二 苦（一）內

※三

「諸比丘！眼是苦，凡苦者，是無我，凡無我者，是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

四～七

耳是苦……鼻是苦……舌是苦……身是苦……

八

意是苦，凡苦者，是為無我，凡無我者，是為：『此非我所、此非我、此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

九

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子證知……更不來如是之生。」

〔三〕第三 無我（一）內

※三

「諸比丘！眼是無我，凡無我者，是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

四～七

耳是無我……鼻是無我……舌是無我……身是無我……

八

意是無我，凡無我者，是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

九

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子證知……更不來如是之生。」

〔四〕第四 無常（二）外

※三

「諸比丘！色是無常，凡無常者，是為苦，凡苦者，是為無我，凡無我者，是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

四～七

聲……香……味……觸……

八

法是無常，凡無常者，是為苦，凡苦者，是為無我，凡無我者，是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

九

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子厭嫌於色、厭嫌於聲、厭嫌於香、厭嫌於味、厭嫌於觸、厭嫌於法，由厭嫌而離欲，由離欲而得解脫，謂於解脫『我解脫』之智生。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、更不來如是之生。」

〔五〕第五 苦（二）外

※三

「諸比丘！色是苦，凡苦者，是為無我，凡無我者，是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

四～七

聲是……香是……味是……觸是……

八

法是苦，凡苦者，是為無我，凡無我者是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

九

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子證知……更不來如是之生。」

〔六〕第六 無我（二）外

※三

「諸比丘！色是無我，凡無我者，是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

四～七

聲是……香是……味是……觸是……

八

法是無我，凡無我者是為：『此非我所，此非我，此非我之我。』對此應如是以正智慧如實觀。

九

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子證知……更不來如是之生。」

〔七〕第七 無常（三）內

※三

「諸比丘！過去、未來之眼是無常，何況現在之眼耶？

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之眼無所期望，於未來之眼亦無悅樂，於現在之眼為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。

四～五

過去、未來之耳是無常……過去、未來之鼻是無常……

六

過去、未來之舌是無常，何況於現在之舌耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子對過去之舌無所期望，對未來之舌亦不悅樂，於現在之舌為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。

七

過去、未來之身是無常……

八

過去、未來之意是無常，何況於現在之意耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之意無所期望，對未來之意不生悅樂，於現在之意為厭離、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

〔八〕第八 苦（三）內

※三～七

「諸比丘！過去、未來之眼是苦，何況現在之眼耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之眼無所期望，於未來之眼不生悅樂，於現在之眼為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。過去、未來之耳是……過去未來之鼻是……過去未來之舌是……過去未來之身是……

八

過去、未來之意是苦，何況於現在之意耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之意無所期望，於未來之意不生悅樂，於現在之意為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

〔九〕第九 無我（三）內

※三

「諸比丘！過去、未來之眼是無我，何況現在之眼耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之眼無所期望，於未來之眼不生悅樂，於現在之眼為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

四～七

過去、未來之耳是……過去、未來之鼻是……過去、未來之舌是……過去、未來之身是……

八

過去、未來之意是無我，何況於現在之意耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之意無所期望，於未來之意不

悅樂，於現在之意為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

〔一〇〕第十 無常（四）外

※三

「諸比丘！過去、未來之色是無常，何況現在之色耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之色無所期望，於未來之色不生悅樂，於現在之色為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

四～七

過去、未來之聲是……過去、未來之香是……過去、未來之味是……過去、未來之觸是……

八

過去、未來之法是無常，何況現在之法耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之法無所期望，於未來之法不生悅樂，於現在之法為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

〔一一〕第十一 苦（四）外

※三

「諸比丘！過去、未來之色是苦，何況於現在之色耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之色無所期望，於未來之色不生悅樂，於現在之色為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

四～七

過去、未來之聲是……過去、未來之香是……過去、未來之味是……過去、未來之觸是……

八

過去、未來之法是苦，何況於現在之法耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之法無所期望，於未來之法不生悅樂，於現在之法為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

〔一二〕第十二 無我（四）外

※三

「諸比丘！過去、未來之色是無我，何況於現在之色耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之色無所期望，於未來之色不生悅樂，於現在之色為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

四～七

過去、未來之聲是……過去、未來之香是……過去、未來之味是……過去、未來之觸是……

八

過去、未來之法是無我，何況於現在之法耶？諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子，對過去之法無所期望，於未來之法不生悅樂，於現在之法為厭嫌、為離欲、為滅盡而履行〔道〕。」

無常品第一
（終）

其攝頌：

無常苦無我
三者有內外
依無常說三
各各有內外

第二 雙雙品

〔一三〕第一 由於正覺（一）

一

舍衛城。

二

「諸比丘！余正覺以前，為未成正覺之菩薩〔時〕，生如是念：『以何為眼之甘味？以何為患難？以何為出離？何為耳之……何為鼻之……何為舌之……何為身之……何為意之甘味？何為患難？何為出離？』

三～七

諸比丘！余生如是念：『凡緣眼所起之安樂喜悅，是眼之甘味。凡眼之無常、苦、變壞之法，此為眼之患難。凡對眼制止欲貪、捨去欲貪，此為眼之出離。凡耳……凡鼻……凡舌……凡身……

八

凡緣意所起之安樂喜悅，此為意之甘味。凡意之無常、苦、變壞之法，此為意之患難。凡對意制止欲貪，捨去欲貪，此為意之出離。』

九

諸比丘！余不如實知如是此等內六處之甘味為甘味，患難為患難，出離為出離時，諸比丘！其間，余於含括天、魔、梵世界，於含括沙門、婆羅門、天人，不曾宣示無上正等覺。

一〇

諸比丘！余因如實知如是此等內六處之甘味為甘味，患難為患難，出離為出離，諸比丘！依此，余於含括天、魔、梵世界，於含括沙門、婆羅門、天人，則宣示無上正等覺。

一一

而於余起智與見：『確實余心解脫，此為余最後之生，而無再生也。』」

〔一四〕第二 由於正覺（二）

※二

「諸比丘！余正覺以前，為未成正覺之菩薩〔時〕，以生如是念：『以何為色之甘味？以何為患難？以何為出離？以何為聲之……以何為香之……以何為味之……以何為觸之……以何為法之甘味？以何為患難？以何為出離？』

三

諸比丘，余如是念：『凡緣色所起之安樂喜悅，此為色之甘味。凡色之無常、苦、變壞之法，此為色之患難。凡對色制止欲貪、捨去欲貪、此為色之出離。

四～七

凡以聲……凡以香……凡以味……凡以觸……

八

凡緣法所起之安樂喜悅，此為法之甘味，凡法之無常、苦、變壞之法，此為法之患難。凡對法制止欲貪、捨去欲貪、此為法之出離。』

九～一〇

諸比丘！余未如實知如是此等外六處之甘味為甘味，患難為患難，出離為出離時，其間，余於含括天、魔、梵世界，於含括沙門、婆羅門、天人，不曾宣示無上正覺……則宣示……

一一

而於余起智與見：『確實余心解脫，此為余最後之生，而無再生也。』」

〔一五〕第三 由於甘味（一）

※二

「諸比丘！余尋覓巡行眼之甘味，終於發見眼之甘味，此余以智慧善觀眼之甘味故。諸比丘！余尋覓巡行眼之患難，諸比丘！余終於發見眼之患難，此余以智慧善觀眼之患難故。諸比丘！余尋找巡行眼之出離，終於發見眼之出離，此余以智慧善觀眼之出離故。」

三～六

諸比丘！余耳之……諸比丘！余鼻之……諸比丘！余舌之……諸比丘！余身之……

七

諸比丘！余尋覓巡行意之甘味，終於發見意之甘味，此余以智慧善觀意之甘味故。諸比丘！余尋覓巡行意之患難，終於發見意之患難，此余以智慧善觀意之患難故。諸比丘！余尋覓巡行意之出離，終於發見意之出離，此余以智慧善觀意之出離故。

八～九

諸比丘！余不能如實知此等內六處之甘味為甘味，患難為患難，出離為出離時，諸比丘！其間，余於含括天、魔、梵世界，於含括沙門、婆羅門、天人，不曾宣示無上正覺。……則宣示……

一〇

而於余起智與見：『確實余心解脫，此為余最後之生，而無再生。』」

〔一六〕第四 由於甘味（二）

※二

「諸比丘！余尋覓巡行色之甘味終發見色之甘味，此余以智慧善觀色之甘味故。諸比丘！余尋覓巡行色之患難，終於發見色之患難，此余以智慧善觀色之患難故。諸比丘！余尋覓巡行色之出離，終於發見色之出離，此余以智慧善觀色之出離故。

三～六

諸比丘！余聲之……香之……味之……觸之……

七

諸比丘！余尋覓巡行法之甘味，終於發見法之甘味，此余以智慧善觀法之甘味故。諸比丘！余尋覓巡行法之患難，終於發見法之患難，此余以智慧善觀法之患難故。諸比丘！余尋覓巡行法之出離，終於發見法之出離，此余以智慧善觀法之出離故。

八～九

諸比丘！余未如實知此等外六處之甘味為甘味，患難為患難，出離為出離時，諸比丘！其間，余於含括天、魔、梵之世界，於含括沙門、婆羅門、天人，不曾宣示無上正覺……則宣示……

一〇

而於余起智與見：『確實余心解脫，此為余最後之生，而無再生。』」

〔一七〕第五 若無者（一）

※二

「諸比丘！若於此眼無甘味者，此等有情則於眼無愛著。然諸比丘！於眼有甘味故，有情於眼有愛著。

三

諸比丘！若於此眼無患難者，此等有情則於眼無厭嫌。然諸比丘！於眼有患難故，有情於眼有厭嫌。

四

諸比丘！若於此眼無出離者，此等有情則於眼無出離。然
諸比丘！於眼有出離故，有情出離於眼。

五～七

諸比丘！若於此耳無甘味者，則……患難……無出離
者……

八～一〇

諸比丘！若於此鼻無甘味者，則……患難……無出離
者……

一一～一三

諸比丘！若於此舌無甘味者，則……患難……無出離
者……

一四～一六

諸比丘！若於此身無甘味者，則……患難……無出離
者……

一七

諸比丘！若於此意無甘味者，此等有情則於意無愛著。然
諸比丘！於意有甘味故，有情則於意有愛著。

一八

諸比丘！若於此意無患難者，此等有情則於意無厭嫌。然
諸比丘！於意有患難故，有情則厭嫌於意。

一九

諸比丘！若於此意無出離者，此等有情則於意無出離。然
諸比丘！於意有出離故，有情則出離於意。

二〇

諸比丘！諸有情未如實知此等內六處之甘味為甘味，患難
為患難，出離為出離時，諸比丘！有情則含括天、魔、梵之世
界，於含括沙門、婆羅門、天人，不得由集而令出離，離繫、
解放、以無取著之心過活。

二一

然諸比丘！諸有情因如實知此等內六處之甘味為甘味，患
難為患難，出離為出離。諸比丘！有情等則得含括天、魔、梵
之世界，於含括沙門、婆羅門、天人，由集而令出離、離繫、
解放、以無取著之心過日。」

〔一八〕第六 若無者（二）

※二

「諸比丘！若於此色無甘味者，此等有情則於眼無愛著。
然諸比丘！因色有甘味故，有情愛著於色。

三

諸比丘！若於此色無患難者，此等有情則於色無厭嫌。然
諸比丘！於色有患難故，有情則厭嫌於色。

四

諸比丘！若於此色無出離者，此等有情則於色無出離。然
諸比丘！於色有出離故，有情則出離於色。

五～七

諸比丘！若於此聲無甘味者……患難……無出離者……

八～一〇

諸比丘！若於此香無甘味者……患難……無出離者……

一一～一三

諸比丘！若於此味無甘味者……患難……無出離者……

一四～一六

諸比丘！若於此觸無甘味者……患難……無出離者……

一七

諸比丘！若於此法無甘味者，此等有情則於法無愛著。然
諸比丘！於法有甘味故，有情則於法有愛著。

一八

諸比丘！若於此法無患難者，此等有情則於法無厭嫌。然
諸比丘！於法有患難故，有情則於法有厭嫌。

一九

諸比丘！若於此法無出離者，此等有情則於法無出離。然諸比丘！於法有出離故，有情則由法有出離。

二〇

諸比丘！諸有情不如實知此等外六處之甘味為甘味，患難為患難，出離為出離時，諸比丘！諸有情則含括天、魔、梵之世界，於含括沙門、婆羅門、天人，不得由集而令出離、離繫、解放、以無取著之心過日。

二一

然而，諸比丘！諸有情因如實知此外六處之甘味為甘味，患難為患難，出離為出離，則得含括天、魔、梵之世界，於含括沙門、婆羅門、天人，由集而令出離，離繫、解放、以無取著之心過日。」

〔一九〕第七 因歡悅（一）

※二

「諸比丘！歡悅於人之眼者，則為歡悅彼苦。歡悅於人之苦者，則不能離脫彼苦……人之耳……人之鼻……人之舌……人之身……歡悅於人之意者，則歡悅彼之苦。歡悅於人之苦者，則不得離脫彼之苦。

三

諸比丘！不歡悅於人之眼者，則不歡悅彼之苦。不歡悅人之苦者，此已由彼之苦離脫……人之耳……人之鼻……人之舌……人之身……不歡悅人之意者，則不歡悅於彼之苦。不歡悅人之苦者，此已由彼之苦離脫。」

〔二〇〕第八 因歡悅（二）

※二

「諸比丘！歡悅於人之色者，則歡悅於彼之苦。歡悅人之苦者，則未能離脫彼之苦。我謂：人之聲……人之香……人之味……人之觸……歡悅人之法者，則歡悅彼之苦。歡悅人之苦者，則不能離脫彼之苦。」

三

諸比丘！不歡悅人之色者，則不歡悅彼之苦，不歡悅於人之苦者，此已由彼之苦離脫，我謂不歡悅於人之聲……人之香……人之味……人之觸……不歡悅人之法者，則不歡悅於彼之苦。予謂不歡悅人之苦者，此已由彼之苦解脫。」

〔二一〕第九 因生起（一）

※二

「諸比丘！眼之生起、住立、出生、顯現者，此即苦之生起、諸病之住立、老死之顯現。」

三～四

耳之生起……鼻之生起……

五～六

舌之生起……身之生起……

七

意之生起、住立、出生、顯現者，此即苦之生起、諸病之住立、老死之顯現。

八

諸比丘！眼之滅盡、息止、消失者，此即苦之滅盡、諸病之止息、老死之消失。

九～一三

耳之……鼻之……舌之……身之……意之滅盡、息止、消失者，此即苦之滅盡、諸病之息止、老死之消失。」

〔二二〕第十 因生起（二）

※二

「諸比丘！色之生起、住立、出生、顯現者，此即苦之生起、諸病之住立、老死之顯現。

三～四

聲之生起……香之生起……

五～六

味之生起……觸之生起……

七

法之生起、住立、出生、顯現者，此即苦之生起、諸病之住立、老死之顯現。

八

諸比丘！色之滅盡、息止、消失者，此即苦之滅盡、諸病之息止、老死之消失。

九～一三

聲之……香之……味之……觸之……法之滅盡、息止、消失者，此即苦之滅盡、諸病之息止、老死之消失。」

雙雙品第二
(終)

其攝頌：

正覺以云二
甘味更有二
若無者於二
歡悅又更二
生起亦云二

此品因此，名為雙雙品。

第三 一切品

〔二三〕第一 一切

一

舍衛城……於其處……曰：

二

「諸比丘！我為汝等說一切，且諦聽。

三

諸比丘！何者為一切耶？眼與色、耳與聲、鼻與香、舌與味、身與觸、意與法是。諸比丘！此名之為一切。

四

諸比丘！若人有如是言：『余棄此之一切，令知他之一切』者，則彼僅為言說，逢他人之問，則無能作答，則更陷於苦難。何以故？諸比丘！此猶如〔對〕相違之境〔故〕。」

〔二四〕第二 捨棄（一）

※二

「諸比丘！我為汝等說一切捨棄之法，且諦聽。

三

諸比丘！以何為一切捨棄之法耶？

四～八

諸比丘！眼應捨棄，色應捨棄，眼識應捨棄，眼觸應捨棄，凡緣此眼觸所生之受或樂、或苦、或非苦非樂，此亦應捨棄……耳應捨棄……鼻……舌……身……

九

意應捨棄，法應捨棄，意識應捨棄，意觸應捨棄，凡緣此意觸所生之受或樂、或苦、或非苦非樂，此亦應捨棄。

一〇

諸比丘！此為一切捨棄之法。」

〔二五〕第三 捨棄（二）

※二

「諸比丘！我為汝等說，由知解、曉了一切而應捨棄之法，且諦聽。

三

諸比丘！何者為由知解、曉了一切而應捨棄之法耶？

四～八

諸比丘！由知解、曉了於眼而應捨棄，由知解、曉了於眼識而應捨棄，由知解、曉了於眼觸而應捨棄，凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂者，於此亦應捨棄……耳是……鼻是……舌是……身是此……

九

由知解、曉了於意而應捨棄，由知解、曉了於意識而應捨棄，由知解、曉了於意觸而應捨棄，凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂者，於此應捨棄。

一〇

諸比丘！此為由知解、曉了一切而應捨棄之法。」

〔二六〕第四 曉了（一）

※二

「諸比丘！於一切不知解、不曉了、不離欲、不捨棄者，則不能盡苦。

三

諸比丘！對任何之一切，不知解、不曉了、不離欲、不捨棄者，則不得盡苦。

四～八

諸比丘！於眼不知解、不曉了、不離欲、不捨棄者，則不得盡苦，於色……於眼識……於眼觸……凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦不知解、不曉了、不離欲、不捨棄者，則不得盡苦……於耳……於聲……於鼻……於香……於舌……於味……於身……於觸……

九

於意不知解、不曉了、不離欲、不捨棄者，則不得盡苦，於法……於意識……於意觸……凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦不知解、不曉了、不離欲、不捨棄此等者，則不得盡苦。

一〇

諸比丘！於此一切不知解、不曉了、不離欲、不捨棄者，謂不得盡苦。

一一

諸比丘！於此一切知解、曉了、離欲、捨棄者，則善能盡苦。

一二

諸比丘！云何於此一切知解、曉了、離欲、捨棄者，而善能盡苦耶？

一三～一七

諸比丘！於眼知解、曉了、離欲、捨棄，則善能盡苦。於色……於眼識……於眼觸……凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知解、曉了、離欲、捨棄者，則善能盡苦。……於耳……於聲……於鼻……於香……於舌……於味……於身……於觸……

一八

於意知解、曉了、離欲、捨棄者，則善能盡苦。於法……於意識……於意觸……凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知解、曉了、離欲、捨棄者，則善能盡苦。

一九

諸比丘！於此一切知解、曉了、離欲、捨棄者，則謂善能盡苦。」

〔二七〕第五 曉了（二）

※二

「諸比丘！於一切不知解、不曉了、不離欲、不捨棄者，則不能善盡苦。

三

諸比丘！云何於一切，不知解、不曉了、不離欲、不捨棄者，則不能善盡苦耶？

四～八

凡眼、凡色、凡眼識、凡依眼識所識知之法，凡耳、凡聲……凡鼻……凡香……凡舌……凡味……凡身……凡觸……

九

凡意、凡法、凡意識、凡依意識所識知之法。

一〇

諸比丘！於此一切不知解、不曉了、不離欲、不捨棄者，謂之不能善盡苦。

一一

諸比丘！於此一切知解、曉了、離欲、捨棄者，則為善能盡苦。諸比丘！云何於一切，為知解、曉了、離欲、捨棄者，堪善能盡苦耶？

一二～一六

諸比丘！凡於眼、凡於色、凡於眼識，凡依眼識所識知之法，凡耳、凡聲……凡鼻、凡香……凡舌、凡味……凡身、凡觸……

一七

凡意、凡法、凡意識、凡依意識所識知之法。

一八

諸比丘！於此一切知解、曉了、離欲、捨棄者，謂之善能盡苦。」

〔二八〕第六 燃燒

一

爾時，世尊住伽耶象頭山，與一千比丘等俱。

二

於此處，世尊對諸比丘曰：「諸比丘！一切為燒。諸比丘！云何一切為燒耶？」

三～七

諸比丘！眼為燒、色為燒、眼識為燒、眼觸為燒，凡緣此眼觸所生之受，或苦、或樂、或非苦非樂，此亦為燒。緣何為燒耶？我說因貪欲之火、因瞋恚之火、因愚癡之火高燒，因生、老、死，因憂、悲、苦、惱、絕望而燒。耳是……鼻是……舌是……身是……

八

意是燒、法是燒、意識是燒、意觸是燒，凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦為所燒。緣何而燒耶？我說因貪欲之火、因瞋恚之火、因愚癡之火高燒，因生、老、死，因憂、悲、苦、惱、絕望而燒。

九

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子於眼亦生厭嫌、於色亦生厭嫌、於眼識亦生厭嫌、於眼觸亦生厭嫌，凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦生厭嫌。於耳亦……於鼻亦……於舌亦……於身亦……於意亦……凡緣此意所生之受，或苦、或樂、或非苦非樂，亦生厭嫌，因厭嫌而離欲，因離欲而得解脫，於解脫則『我解脫』之智生。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、更不為如是來此生。」

一〇

世尊言此，彼等比丘心生歡喜，歡受世尊之所說。

一一

然而宣說此教法已，使彼等比丘無所取著，其心已由諸漏解脫。

〔二九〕第七 盲闇

一

如是我聞。爾時，世尊住王舍城竹林，迦蘭陀園。

二

於此處，世尊告諸比丘曰：「諸比丘！一切是盲闇。諸比丘！何者是盲闇耶？」

三～五

諸比丘！眼是盲闇，色是盲闇，眼識是盲闇，眼觸是盲闇，凡緣眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦、非樂，此亦是

盲闇。因何而致盲闇耶？我謂：因生、老、死，因憂、悲、苦、惱、絕望而致盲闇。耳是……鼻是……

六

舌是盲闇，味是盲闇，舌識是盲闇，舌觸是盲闇，凡緣此舌觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦是盲闇。因何而致盲闇耶？我謂：因生、老、死、因憂、悲、苦惱、絕望而致盲闇。

七

身是盲闇……

八

意是盲闇，法是盲闇，意識是盲闇，意觸是盲闇，緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦，非樂，此亦是盲闇。因何而致盲闇耶？我謂：因生、老、死、因憂、悲、苦、惱、絕望而致盲闇。

九

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子厭嫌於眼、厭嫌於色、厭嫌於眼識、厭嫌於眼觸，凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦厭嫌於此……乃至……緣意觸所生之受，或苦、或樂、或非苦非樂，亦厭嫌於此。因厭嫌而離欲，因離欲而得解脫，因解脫而『我解脫』之智生。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、更不為如是來此生。」

〔三〇〕第八 適宜

※二

「諸比丘！我為汝等，說滅除一切思量適宜之道，且諦聽，善思惟，我當說。

三

諸比丘！以何為滅除一切思量適宜之道耶？

四～六

諸比丘！此處有比丘，不思量眼，不思量有眼，不因眼而思量，不思量眼為我有。不思量色，不思量有色，不因色而思量，不思量色為我有。不思量眼識，不思量有眼識，不因眼識而思量，不思量眼識為我有。不思量眼觸，不思量有眼觸，不因眼觸而思量，不思量眼觸為我有。凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，對此亦不思量，亦不思量有此，亦不因此而思量，亦不思量此為我有。對耳……對鼻……

七～八

不思量舌，不思量有舌，不因舌而思量，不思量舌為我有。不思量味，不思量有味，不因味而思量，不思量味為我有。不思量舌識，不思量有舌識，不因舌識而思量，不思量舌識為我有。不思量舌觸，不思量有舌觸，不因舌觸而思量，不思量舌觸為我有。凡緣舌觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，對此亦不思量，亦不思量有此，不因此而思量，亦不思量此為我有。於身……

九

不思量意，不思量有意，不因意而思量，不思量意為我有。不思量法，不思量有法，不因法而思量，不思量法為我有。不思量意識，不思量有意識，不因意識而思量，不思量意識為我有。不思量意觸，不思量有意觸，不因意觸而思量，不思量意觸為我有。凡緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，對此亦不思量，不思量有此，不因此而思量，不思量此為我有。

一〇

不思量一切，不思量有一切，不因一切而思量，不思量一切為我有。

一一

彼無如是之思量，而對世不予執著一物，無執著則無愛慕，無愛慕而獨自入於涅槃。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。

一二

諸比丘！此為滅除一切思量適宜之道。」

〔三一〕第九 有驗（一）

※二

「諸比丘！我為汝等說滅除一切思量有驗之道，且諦聽。

三

諸比丘！何者為滅除一切思量有驗之道耶？

四～八

諸比丘！此處有比丘，不思量眼，不思量有眼，不因眼而思量，不思量眼為我有。不思量色……不思量眼識……不思量眼觸……凡緣眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，對此亦不思量，有此亦不思量，因此亦不思量，亦不思量此為我有。諸比丘！凡或思量物，或思量有物，或因物而思量，或思量物為我有，由此而有不安、變異，由此不安、變異者而有著，世人唯有歡喜此執著。於耳……於鼻……於舌……於身……

九

不思量意，不思量有意，不因意而思量，不思量意為我有。不思量法，不思量有法，不因法而思量，不思量法為我有。不思量意識，不思量有意識，不因意識而思量，不思量意識為我有。不思量意觸，不思量有意觸，不因意觸而思量，不思量意觸為我有。凡緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦不思量此，亦不思量有此，亦不因此而思量，亦不思量此為我有。諸比丘！凡或思量物，或思量有物，或因物而思量，或思量物為我有。由此而有不安、變異，由此不安、變異而有著，世人唯有歡喜此執著。

一〇

諸比丘！於蘊、界、處，彼亦不思量此，亦不思量有此，亦不因此而思量，亦不思量此為我有。彼無如是思量，不執著世之一物，無執著則無愛慕，無愛慕則獨自入於涅槃。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。

諸比丘！此為滅除一切思量有驗之道。」

〔三二〕第十 有驗（二）

※二

「諸比丘！我為汝等說滅除一切思量有驗之道，對此且諦聽。」

三

諸比丘！何者為滅除一切思量有驗之道耶？

四～八

諸比丘！汝等於此作如何思量，眼是常住耶？抑是無常耶？」

「大德，是無常。」

「凡物之無常者，是苦耶？抑是樂耶？」

「大德，是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所、此是我、此是我之我。』如是認識耶？」

「不也，大德！此非是。」

「色……眼識……眼觸是常住耶？抑是無常耶？」

「大德，此是無常。」

「凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，其為常住耶？抑是無常耶？」

「大德，此是無常。」

「凡物之無常，此是苦耶？抑為樂耶？」

「大德，此是苦。」

「凡物是無常、苦而變壞之法，以『此是我所、此是我、此是我之我。』如是認識耶？」

「不也，大德！此非是。」

耳是……鼻是……舌是……身是……

九

「意……法……意識……意觸是常耶？抑是無常耶？」

「大德，此是無常。」

「凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此是常耶？抑無常耶？」

「大德，此是無常。」

「凡物之無常，是為苦耶？抑是樂耶？」

「大德，此是苦。」

「凡物之苦而變壞之法，以『此是我所、此是我、此是我之我。』如是認識耶？」

「不也，大德！此非是。」

一〇

「諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子厭嫌於眼、厭嫌於色、厭嫌於眼識、厭嫌於眼觸，凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，厭嫌於彼。於耳……於鼻……於舌……於身……厭嫌於意、厭嫌於法、厭嫌於意識、厭嫌於意觸，凡緣此意觸所生之受，或苦、或樂、或非苦非樂，亦厭嫌於彼。因厭嫌而離欲，因離欲得解脫，於解脫則『我解脫』之智生，證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。」

一一

諸比丘！此為滅除一切思量有驗之道。」

一切品第三
(終)

其攝頌曰：

一切二捨棄
他二之曉了
燃燒與盲闇
適宜二有驗
是稱一切品

第四 生法品

〔三三〕第一 生

一

舍衛城。於此處彼等……

二

「諸比丘！一切是生之法。諸比丘！何等之一切是生之法耶？」

三～七

諸比丘！眼是生之法，色是生之法，眼識是生之法，眼觸是生之法，凡緣眼觸所生之受，或樂、或苦、或非樂非苦，此亦生之法。耳是……聲是……鼻是……香是……舌是……味是……身是……觸是……

八

意是生之法，法是生之法，意識是生之法，意觸是生之法，凡緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦生之法。

九

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子厭嫌於眼、厭嫌於色、證知……不為如是再生。」

〔三四〕第二 老

「諸比丘！一切是老之法。」

〔三五〕第三 病

「諸比丘！一切是病之法。」

〔三六〕第四 死

「諸比丘！一切是死之法。」

〔三七〕第五 憂

「諸比丘！一切是憂之法。」

〔三八〕第六 污穢

「諸比丘！一切是污穢之法。」

〔三九〕第七 破壞

「諸比丘！一切是破壞之法。」

〔四〇〕第八 消亡

「諸比丘！一切是消亡之法。」

〔四一〕第九 生起

「諸比丘！一切是生起之法。」

〔四二〕第十 滅盡

「諸比丘！一切是滅盡之法。」

生法品第四
(終)

此攝頌曰：

生老與病死
以及憂污穢
壞消亡生起
滅盡合為十

第五 無常品

舍衛城。於此處彼等……

〔四三〕第一 無常

「諸比丘！一切是無常。」

〔四四〕第二 苦

「諸比丘！一切是苦。」

〔四五〕第三 無我

「諸比丘！一切是無我。」

〔四六〕第四 應所了解

「諸比丘！一切是應所了解。」

〔四七〕第五 應所知悉

「諸比丘！一切是應所知悉。」

〔四八〕第六 應所捨棄

「諸比丘！一切是應所捨棄。」

〔四九〕第七 應所實證

「諸比丘！一切是應所實證。」

〔五〇〕第八 應所知解而曉了

「諸比丘！一切是應所知解而曉了。」

〔五一〕第九 所累

「諸比丘！一切是所累。」

〔五二〕第十 所壓

※二

「諸比丘！一切為所壓。諸比丘！何者為所壓耶？」

三～六

諸比丘！眼為所壓，色為所壓，眼識為所壓，眼觸為所壓，緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦為所壓。耳……聲……鼻……香……舌……味……身……觸……

七

意為所壓，法為所壓，意識為所壓，意觸為所壓，緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦為所壓。

八

諸比丘！如是觀者，多聞之聖弟子厭嫌於眼、厭嫌於色，證知……不為如是再生。」

無常品第五

（終）

其攝頌曰：

無常苦無我
應知解曉了
應捨棄實證

所知解曉了
所累及所壓

其攝頌曰：

所聞品與若無者
一切品及生類品
無常品為五十經
如是稱為第五品

第二 五十〔經〕品

第一 無明品

舍衛城

〔五三〕第一 無明

※二

爾時，有一比丘來詣世尊處。詣已，禮拜世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘白世尊曰：「大德！如何知、如何見者，得消滅無明而生起明耶？」

四

「比丘！知、見眼是無常者，則消滅其無明而生起明。知、見色是無常者，則消滅其無明而生起明。眼識……眼觸……凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知、見是無常者，則消滅其無明而生起明。

五～八

耳……聲……鼻……香……舌……味……身……觸……

九

知、見意是無常者，則消滅其無明而生起明。知、見法是無常者，則消滅其無明而生起明。意識……眼觸……凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，知、見彼亦是無常者，則消滅無明而生起明。

一〇

諸比丘！如是知、如是見者，則消滅其無明而生起明。」

〔五四〕第二 繫縛（一）

※三

「大德！如何知、如何見者，則消滅其繫縛耶？」

四～九

「比丘！知、見眼是無常者，則消滅其繫縛。色……眼識……眼觸……凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，知、見彼亦無常者，則消滅其繫縛。耳……鼻……舌……身……意……

一〇

諸比丘！如是知、如是見者，則消滅其繫縛。」

〔五五〕第三 繫縛（二）

※三

「大德！如何知、如何見者，能達至除卻其繫縛耶？」

四～九

「比丘！知、見眼是無我者，則達至除卻其繫縛。色……眼識……眼觸……凡緣眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知、見彼是無我者，則達至除卻彼繫縛。」

一〇

比丘！如是知、如是見者，則達至除卻彼繫縛。」

〔五六、五七〕第四、第五 諸漏（一～二）

三～一〇

「大德！如何知、如何見者，則消滅其諸漏耶？」

「……達至除卻其諸漏。」

〔五八、五九〕第六、第七 隨眠（一～二）

※三

「大德！如何知、如何見者，則消滅其隨眠……達至除卻……。」

四～八

「諸比丘！知見眼是無我者，則得除卻其隨眠。色……耳……聲……鼻……香……舌……味……身……觸……

九

意……法……意識……意觸……凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知見此是無我者，則得除卻其隨眠。

一〇

諸比丘！如是知、如是見者，則得除卻隨眠。」

〔六〇〕第八 曉了

※二

「諸比丘！我為汝等說一切取曉了之法，且諦聽。

三

諸比丘！何者為一切取曉了之法耶？

四

緣眼與色生起眼識，三者會合為眼觸，緣眼觸生受。諸比丘！如是知見，有聞聖弟子，於眼亦厭嫌、於色亦厭嫌、於眼識亦厭嫌、於眼觸亦厭嫌、於受亦厭嫌。厭嫌則離欲，因離欲得解脫，由解脫證知『我曉了於取。』

五～八

緣耳與聲，生起耳識……緣鼻與香，生起鼻識……緣舌與味，生起舌識……緣身與觸，生起身識……

九

緣意與法，生起意識，三者會合為意觸，緣意觸生受。諸比丘！如是知見，有聞聖弟子，於意亦厭嫌、於法亦厭嫌、於意識亦厭嫌、於意觸亦厭嫌、於受亦厭嫌。由厭嫌則離欲，由離欲得解脫，由解脫證知『我曉了於取。』

一〇

諸比丘！此為一切取曉了之法。」

〔六一〕第九 了悟（一）

※二

「諸比丘！我為汝等說一切取了悟之法，且諦聽。

三

諸比丘！何者為一切取了悟之法耶？

四～八

緣眼與色生起眼識，三者會合為眼觸，緣眼觸而有受。諸比丘！如是知見，有聞聖弟子，於眼亦厭嫌、於色亦厭嫌、於眼識亦厭嫌、於受亦厭嫌。由厭嫌而離欲，由離欲得解脫，由解脫而證知『我了悟取。』緣耳與聲生起耳識……緣鼻與香生起鼻識……緣舌與味生起舌識……緣身與觸生起身識……

九

緣意與法生起意識，三者會合為意觸，緣意觸而有受。諸比丘！如是知見，有聞聖弟子於意亦厭嫌、於法亦厭嫌、於意識亦厭嫌、於意觸亦厭嫌、於受亦厭嫌。由厭嫌而離欲，由離欲得解脫，由解脫而證知『我了悟取。』

一〇

諸比丘，此為一切取了悟之法。」

〔六二〕第十 了悟（二）

※二

「諸比丘！我為汝等說一切取了悟之法，且諦聽。

三

諸比丘！何者為一切取了悟之法耶？

四

諸比丘！汝等於此作如何思耶？眼是常住耶？抑是無常耶？」

「大德！彼是無常。」

「凡物之無常，彼是苦耶？抑是樂耶？」

「大德！彼是苦。」

「凡物之無常、苦而為變壞之法，以『此是我所、此是我、此是我之我。』如是認識耶？」

「不也，大德！此非是。」

「色……眼識……眼觸……緣眼觸……是常耶？抑是無常耶？」

「大德，此是無常。」

「……

五～八

耳是……聲是……鼻是……香是……舌是……味是……身
是……觸是……

九

意是……法是……意識是……意觸是……凡緣此意觸所生
之受、或樂、或苦、或非苦非樂，此是常住耶？抑是無常
耶？」

「大德，此是無常。」

「凡物之無常，此是苦耶？抑是樂耶？」

「大德，此是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所、此是我、
此是我之我。』如是認識耶？」

「不也，大德！此非是。」

一〇

「諸比丘！如是觀之有聞聖弟子，厭嫌於眼、亦厭嫌於
色、亦厭嫌於眼識、亦厭嫌於眼觸。……緣此眼觸所生之受，
或樂、或苦、或非苦非樂，亦厭嫌於此。由厭嫌而離欲，由離
欲得解脫，於解脫乃有『我解脫』之智。證知：『生已盡、梵
行已成、應作已作、不為如是再生。』

一一

諸比丘！此為一切取了悟之法。」

無明品第一
(終)

此攝頌曰：

無明二繫結
諸漏亦為二
他二為隨眠
二悉知了悟
以此為品名

第二 鹿網品

〔六三〕第一 鹿網（一）

一

舍衛城因緣。

二

爾時，尊者彌迦奢羅來詣世尊居處……

三

坐於一面之尊者彌迦奢羅白世尊言：「大德！所稱單獨住者、單獨住者。大德！如何為單獨住者？又如何為隨伴住者耶？」

四

「彌迦奢羅！有眼所識之色，快意、可愛、樂、喜愛、誘生欲念。有比丘若喜悅於此、讚美於此，對此存念戀著，以喜

悅、讚美於此，戀著於此而住者，彼則心生喜悅，有喜悅之心者，則有愛染心，有愛染心者，則有繫縛。彌迦奢羅！如是被縛於悅喜、繫縛之比丘者，稱為隨伴住者。

五～八

彌迦奢羅！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……

九

彌迦奢羅！有意所識之法，快意、可愛、樂、常喜愛、誘生欲念。有比丘若喜悅、讚美於此、戀著此者，則喜悅、讚美於此、戀著於此而住，於彼心生喜悅，有喜悅心者，則有愛染心，有愛染心者，則有繫縛。彌迦奢羅！此為悅喜繫縛之比丘，稱為隨伴住者。

一〇

彌迦奢羅！如是住之比丘，即使於林間、深林邊土、聲音稀少、大氣寂靜、遠離世人之處而臥，雖適於獨坐冥想，樂於居住，但彼仍稱為隨伴住者。

一一

何以故？渴愛為彼之第二友伴者，彼於此尚未除滅故，彼仍稱隨伴住者。

一二～一七

彌迦奢羅！有眼所識之色，快意、可愛、樂、常喜愛、誘生欲念。比丘若不喜悅此、不讚美此、不存念戀著於此者，則

於彼喜悅心滅，若無喜悅心者，則無愛染心，若無愛染心者，則無繫縛。彌迦奢羅！於此悅喜繫縛解脫之比丘，稱為單獨住者。

一八

彌迦奢羅！如是住之比丘，雖住於比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、國王、王大臣、外道、外道弟子群之村內，但彼亦稱為單獨住者。

一九

何以故？渴愛為彼之第二友伴者，彼已除滅此故，彼稱為單獨住者。」

〔六四〕第二 鹿網（二）

※二

爾時，尊者彌迦奢羅，來詣世尊居處……

三

坐於一面之尊者彌迦奢羅白世尊言：「大德！願世尊為我略說法，我聽此法將遠離其他，唯獨熱誠專心精勤而住。」

四～八

「彌迦奢羅！有眼所識之色，快意、可愛、樂、常喜愛，誘生欲念。比丘若喜悅、讚美於此，存念戀著於此者，則喜悅、讚美於此，存念戀著於此，於彼心生喜悅。彌迦奢羅！我謂：因起喜悅心而生起苦。彌迦奢羅！有耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……

九

彌迦奢羅！有意所識之法，快意、可愛、樂、常喜愛，誘生欲念。有比丘若喜悅、讚美於此，而存念戀著此者，則於彼心生喜悅。彌迦奢羅！我謂因起喜悅心而生起苦。

一〇～一四

彌迦奢羅！有眼所識之色，快意、可愛、樂、常喜愛，誘生欲念。有比丘若不喜悅、讚美於此，不存念戀著此者，於彼則滅喜悅心。彌迦奢羅！我謂，因喜悅心滅則苦滅。彌迦奢羅！有耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……

一五

彌迦奢羅！有意所識之法，快意、可愛、樂、常喜愛，誘生欲念。有比丘若不喜悅、不讚美此，不存念戀著此者，於彼則喜悅心滅。彌迦奢羅！我謂因喜悅心滅則苦滅。」

一六

時，尊者彌迦奢羅！歡悅、隨喜於世尊之所說，從座而起，禮拜世尊，行右繞禮而離去。

一七

依此，尊者彌迦奢羅遠離其他，唯獨熱誠專心不放逸而住，以善家之男子由在家而出家，得度為無家之身，對無上梵行之究竟為目的，則不久之後於現生自證知實現、逮得而住。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。

一八

尊者彌迦奢羅則成為阿羅漢之一。

〔六五〕第三 三彌離提（一）

一

爾時，世尊住王舍城竹林迦蘭陀園。

二～三

時，尊者三彌離提來詣世尊之處……白世尊言：「大德！
魔羅、所稱魔羅，如何為魔羅、或魔羅之名義耶？」

四～八

「三彌離提！凡有眼、有色、有眼識，以眼識所識知之法，則有魔羅、或為魔羅之名義。有耳……有鼻……有舌……有身……

九

有意，有法，有意識，有以意識所識知之法，則有魔羅，
或為魔羅之名義。

一〇～一四

三彌離提！凡無眼，無色，無眼識所識知之法，則無魔羅，
或魔羅之名義。無耳……無鼻……無舌……無身……

一五

無意，無法，無意識，無意識所識知之法，則無魔羅，或無魔羅之名義。」

〔六六〕第四 三彌離提（二）

※三～一五

「大德！有情、所稱有情者。大德！如何為有情、或有情之名義耶？」……

〔六七〕第五 三彌離提（三）

※三～一五

「大德！苦、所稱苦者，大德！如何為苦、或苦之名義耶？」

……

〔六八〕第六 三彌離提（四）

※三

「大德！世間、所稱世間者，如何為世間、或世間之名義耶？」

四～九

「三彌離提！凡有眼，有色，以眼識所識知之法，則為世間或世間之名義。有耳……有鼻……有舌……有身……有意，有法，有意識所識知之法，則為世間或世間之名義。」

一〇～一五

三彌離提！凡無眼，無色，無眼識，無眼識所識知之法，則無世間或世間之名義。無耳……無鼻……無舌……無身……無意，無法，無意識，無以意識所識知之法，則無世間或世間之名義。」

〔六九〕第七 優波先那

一

爾時，尊者舍利弗與尊者優波先那，住王舍城之寒林蛇頭巖窟中。

二

然則其時，毒蛇落於尊者優波先那之身。

三

時，尊者優波先那，告諸比丘言：「來，汝等將余此身置於臥台運出室外，此身於此處，恰如一握之糠，立即散失。」

四

如是言時，尊者舍利弗告尊者優波先那曰：「然而我等亦不認為尊者優波先那身之異態，諸根之變壞。」

五

然而，其時，尊者優波先那如是作言：「來，汝等將余此身置於臥台，運出室外，此身於此處，恰如一握糠，立即散失。」

六

「友，舍利弗！若有人言：『余是眼也』，或『此為余之眼』……『余為耳……鼻……舌……身……意』，或『此為余之意』，有如是之心者。友舍利弗！則彼或有身之異態，或有諸根之變壞。友舍利弗！余無如是言：『余是眼』，或『此為余之眼』……『余是耳……鼻……舌……身……意』，或『此為余之意』。友舍利弗！云何余有身之異態，或諸根變壞耶？」

七

如是尊者優波先那，久已根絕我見、我所見、憍慢、隨眠，故尊者優波先那於「余是眼」，或「此為余之眼」……「余是耳……鼻……舌……身……意」，或「此為余之意」無如是之心。

八～九

時，彼諸比丘將尊者優波先那之身置於臥台運出室外，尊者優波先那之身，於其處，恰如一握之糠散失。

〔七〇〕優波婆那

※二

時，尊者優波婆那來詣世尊住處……

三

坐於一面之尊者優波婆那，白世尊言：「大德！現生之法，所稱現生之法，大德！如何稱此現生之法，為即時者，來見〔可示導於涅槃，〕智者一一可自知法耶？」

四

「優波婆那！此處有比丘以眼見色，感知色，且對色感知之染心，對色有染心，而覺知：『我對色有染心。』優波婆那！若比丘以眼見色，感知色，且對色感知有染心，彼對色有染心，而覺知：『我對色有染心。』如是，優波婆那！現生之法為即時者，來見〔可示導於涅槃，〕智者應一一自知者。

五～九

優波婆那！復次又有比丘，以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法。彼感知法且對法感知有染心，對法有染心，而覺知：『我對法有染心。』優波婆那！若比丘以意識法，感知法，且對法感知有染心，彼對法有染心，而覺知：『我對法有染心。』如是，優波婆那！現生之法為即時者，來見〔可示導於涅槃，〕智者應一一自知者。

一〇

優波婆那！然此處有比丘，以眼見色，感知彼色，然對色不感知有染心，對色無染心，彼覺知：『我對色無染心。』優波婆那！若比丘以眼見色，雖感知色，若對色不感知染心者，則彼對於色無染心，覺知：『我對於色無染心。』如是，優波婆那！現生之法為即時者，來見〔可示導於涅槃，〕智者應一一自知者。

一一～一五

優波婆那！復次又有比丘，以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法，雖感知彼法，然對於法感知不染心，對於法無染心，彼覺知：『我對於法無染心。』優

波婆那！若比丘以意識法，雖對於法感知，而對於法感知不染心，彼對於法無染心，則覺知：『我對於法無染心。』如是，優波婆那！現生之法為即時者，來見〔可示導於涅槃者，〕智者應一一自知者。」

〔七一〕第九 六觸處（一）

※二

「諸比丘！任何之比丘不如實知六種觸處之生起、滅沒、甘味、患難、出離者，則彼尚未果其梵行，離此法、律猶遠。」

三

如是言時，有一比丘白世尊曰：「大德！此處某者心不能平。大德！此某者不如實知六種觸處之生起、滅沒、甘味、患難、出離者。」

四～九

「比丘！汝對此作如何思惟耶？汝視眼，『此為我所，此是我，此是我之我』，如是觀照耶？」

「不也，大德！此不然。」

「善哉，比丘！於此，汝視眼，『此非我所，此非我，此非我之我』，如是以正智慧對此作如實觀者，則此為苦之終。汝視耳……視鼻……視舌……視身……視意『此是我所，此是我，此是我之我』，如是觀照耶？」

「不也，大德！此不然。」

「善哉！比丘！於此，汝視眼，『此非我所，此非我，此非我之我』，如是以正智慧，對此如實觀，此即苦之終盡。」

〔七二〕第十 六觸處（二）

※二

「諸比丘！於任何比丘，不如實知六種觸處之生起、滅沒、甘味、患難、出離者，為尚未果其梵行，離此法猶遠矣！」

三

如是言時，有一比丘白世尊曰：「大德！此處某者心不平。大德！此某者不如實知六種觸處之生起、滅沒、甘味、患難、出離者。」

四～九

「比丘！汝對此作如何思惟耶？汝視眼，『此非我所，此非我，此非我之我』，如是觀照耶？」「大德！誠然！」「善哉！比丘！於此，比丘！汝視眼，『此非我所，此非我，此非我之我』，如是以正智慧如實觀此，如是，汝之滅除此第一觸處，將來不再令生起。汝視耳……視鼻……視舌……視身……視意，『此非我所，此非我，此非我之我』，如是觀照耶？」

「大德！誠然。」

「善哉，比丘！於此，比丘，汝視意，『此非我所，此非我，此非我之我』，如是以正智慧，如實觀者，如是汝則滅除此第六觸處，將來不再生起。」

〔七三〕第十一 六觸處（三）

※二

「諸比丘！任何之比丘不如實知六種觸處之生起、滅沒、甘味、患難、出離者，為尚未果其梵行，離此法猶遠矣！」

三

如是言時，有一比丘白世尊曰：「大德！此處某者心不平。大德！此某者不如實知六種觸處之生起、滅沒、甘味、患難、出離者。」

四

「比丘！汝對此作如何思惟耶？『眼是常住耶？抑是無常耶？』」

「大德！此是無常。」

「凡物之無常，彼是苦耶？抑為樂耶？」

「大德！彼是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我』，如是認識耶？」

「不也，大德！非然。」

五～九

「耳是……鼻是……舌是……身是……意是常住耶？抑是無常耶？」

「大德，是無常。」

「凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我』，如是認識耶？」

「不也。大德！非然。」

一〇

「比丘！如是觀之，有聞聖弟子厭嫌於眼……厭嫌於意，因厭嫌而離欲，因離欲而得解脫，於解脫有解脫之智。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。」

鹿網品第二
(終)

此攝頌：

說鹿網二經
於三彌離提
以說為四經
優婆先那者
及優波婆那
六觸處有三

第三 病品

〔七四〕第一 病（一）

一

舍衛城因緣。

二

其時，有一比丘來詣世尊住處……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：「大德！如是之精舍有一比丘，因是新參所知甚少，陷於病、苦、惱之狀態。大德！願世尊重慈愍，赴彼比丘之住處。」

四

時，世尊聞新參者之語，與罹病之語，知「比丘所知甚少」，乃往彼比丘住處。

五

彼比丘見世尊由遠處來，見已，由牀臺移動身體。

六

時，世尊告此比丘曰：「止之，比丘！汝勿於臥牀移動身體，此有設座，余可坐此處。」世尊就坐於所設之座。

七

坐已，世尊告此比丘曰：「比丘！汝之病有少癒否？食養物充分否？苦痛之感覺減退而無增加，感減退而不感其增進耶？」

「大德！余之病未少癒，食養物不充足，余增加強烈之苦感而無減退，唯感其增加而不感其減退。」

八

「比丘！汝有無何等之惡作耶？有無何等之後悔耶？」

「大德！誠然，我有大惡作、有大後悔。」

九

「但，汝有無以戒故，而自為難耶？」

「大德！不然。」

一〇

「比丘！汝若言不以戒故而自為難者，然則比丘！汝惡作於何事？以何為汝之後悔耶？」

「大德！余尚不知世尊為持戒清淨所說之法。」

一一

「比丘，汝言尚不知余為持戒清淨所說之法，然則如今，比丘！汝知余為何說法耶？」

「大德！我知世尊為捨離染欲而說法。」

一二

「比丘！善哉，善哉！比丘汝知余為捨離染欲而說法則可。比丘！余之所說者此法為捨離染欲。」

一三

比丘！汝對此作如何思量耶？眼是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「耳是……鼻是……舌是……身是……意是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡無常者，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我』，如是認識耶？」

「大德！不然。」

一四

「比丘！如是觀之，有聞聖弟子厭嫌於眼、於耳……於鼻……於舌……於身……厭嫌於意，由厭嫌而離欲，因離欲而得解脫，於解脫而有解脫之智。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。」

一五

世尊說此已。彼比丘歡喜、歡喜信受世尊之所說。而此所宣之教法，彼比丘生遠塵離垢而生法眼，乃曰：「凡生起之法，此皆滅盡之法。」

〔七五〕第二 病（二）

一～一〇

〔全文同於前經〕

一一

「比丘！汝言尚不知余為持戒清淨所說之法，然則如今，汝知余為何說法耶？」

「大德！我知。世尊為無取著般涅槃而說法。」

一二

「比丘！善哉，善哉！比丘！汝知余為無取著般涅槃而說法則可。比丘！余之所說者此法為無取著、般涅槃。」

一三～一四

〔全文同與前經〕

一五

世尊宣說已。彼比丘歡喜、歡受於世尊之所說。而此宣說之教法，彼比丘之心無所取著，而解脫諸漏。

〔七六〕第三 羅陀（一）

※二

時，尊者羅陀……

三

坐於一面之尊者羅陀，白世尊曰：「大德！願世尊為我略說法要，我聽此法以遠離其他，單獨熱誠，專心於精勤而住。」

四

「羅陀！凡無常者，對此汝應捨欲貪。」

五～九

羅陀！何者是無常？羅陀！眼是無常者，對此汝應捨欲貪。色是……眼識是……眼觸是……凡以眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦是無常，對此汝應捨欲貪。耳是……聲是……鼻是……香是……舌是……味是……身是……觸是……

一〇

意是無常者，對此汝應捨欲貪。法是……意識是……意觸是……凡以此意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦是無常者，對此汝應捨欲貪。

一一

羅陀！凡無常者，對此汝應捨欲貪。」

〔七七〕第四 羅陀（二）

※四

「羅陀！凡無常者，對此汝應捨欲貪。」

五～一〇

羅陀！何者是苦？羅陀！眼是苦者，對此汝應捨欲貪。色是……眼識是……眼觸是……乃至……凡以此意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦是苦者，對此汝應捨欲貪。

一一

羅陀！凡苦者，對此汝應捨欲貪。」

〔七八〕第五 羅陀（三）

※四

「羅陀！凡無我者，對此汝應捨欲貪。

五～九

羅陀！何者是無我？羅陀！眼是無我者，對此汝應捨欲貪。色是……眼識是……眼觸是……凡此眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦是無我者，對此汝應捨欲貪。耳是……聲是……鼻是……香是……舌是……味是……身是……觸是……

一〇

意是無我者，對此汝應捨欲貪。法是……意是……意識是……意觸是……凡此意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦無我者，對此汝應捨欲貪。

一一

羅陀！凡無我者，對此汝應捨欲貪。」

〔七九〕第六 無明（一）

※二

時，有某比丘來詣世尊住處……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：「大德！若捨此者，比丘之無明則消失而生明，有如是之一法耶？」

「比丘！有一法，若捨此者，比丘之無明則消失而生明。」

四

「然則，大德！若捨何者，比丘之無明則消失而生明之一法耶？」

「比丘！無明是一法，捨此一者，比丘之無明則消失而生明。」

五

「然而，大德！如何知，如何見之比丘，其無明消失而生明耶？」

六

「比丘！知、見於眼是無常之比丘，則無明消失而生明。色……緣眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦知、見是無常之比丘，則無明消失而生明也。」

七～一一

耳……聲……鼻……香……舌……味……身……觸……
意……法……

一二

比丘！如是知，如是見之比丘，則無明消失而生明。」

〔八〇〕第七 無明（二）

一～五

〔全文同於前經〕

六

「比丘！此處有比丘，有如是之所聞：『法不適於偏執。』比丘！若比丘之所聞：『法不適於偏執。』如是者，彼則知解一切法。以知解一切法，則曉了一切法。曉了一切法，則見一切微象與他相異。見眼與他相異……色……眼識……眼觸……乃至……凡以此意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦見與他相異。」

七

比丘！如是知，如是見之比丘，則無明消失而生明。」

〔八一〕第八 比丘

※二

時，眾多之比丘等來詣世尊住處……

三

坐於一面之此等比丘，白世尊曰：「大德！於此處有外道普行沙門等如是問我等：『諸友！於沙門瞿曇之處，修梵行有何之效耶？』大德！受如是問……為苦之曉了……。」

四

「諸比丘！實則汝等受如是問，而作如是答者，此乃復說余之所說，非以非實誣謗我，乃以法隨法作釋。又，此與法相同之大小言說，皆不蒙受任何非難。諸比丘！汝等為曉了苦而在余處修梵行故。」

五

諸比丘！外道普行沙門等，若如斯問汝等：『汝等言為苦之曉了於瞿曇沙門處修梵行，其如何為苦耶？』諸比丘！汝等對彼外道普行沙門應作如是答：

六～一一

『諸友等！眼是苦，為曉了於此，我等於世尊處修梵行。色是苦……凡以眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂者，為曉了此等亦是苦，我等於世尊處修梵行。耳是……鼻是……舌是……身是……意是苦……凡以意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，其亦是苦，為曉了於此，我等於世尊處修梵行。友等！此即是苦，為曉了於此，我等於世尊處修梵行。』

一二

受如是問，諸比丘！汝等對彼外道普行沙門，應作如是答。」

〔八二〕第九 世間

※二

爾時，有一比丘來詣世尊住處……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊言：「大德！所稱『世間、世間者』，大德！於何意義稱之為世間耶？」

「比丘！破壞，是故稱之為世間。是何物之破壞？」

四～九

諸比丘！眼是破壞，色是破壞，眼識是破壞，眼觸是破壞，耳是……鼻是……舌是……身是……以意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦是破壞。

一〇

比丘！破壞，其故稱之為世間。」

〔八三〕第十 頗勒具那

※二

爾時，尊者頗勒具那……

三

坐於一面之尊者頗勒具那，白世尊言：

四～八

「大德！有如是之眼耶？以教示過去入滅諸佛之教示以斷渴愛之障礙、斷渴愛之行路，以了斷輪迴，超越一切苦惱……以耳……以鼻……以舌……以身……

九

大德！有如是之意耶？以教示過去入滅諸佛之教示，斷渴愛之障礙、斷渴愛之行路，了斷輪迴，超越一切苦惱。」

一〇～一四

「頗勒具那！非如是之眼，以教示過去入滅諸佛之教示，以斷渴愛之障礙，斷渴愛之行路，以了斷輪迴，超越一切苦惱。……無耳……無鼻……無舌……無身……

一五

頗勒具那！無如是之意，以教示過去入滅諸佛之教示，斷渴愛之障礙，斷渴愛之行路，了斷輪迴，超越一切苦惱。」

病品第三（終）

此攝頌曰：

於病說二經
羅陀說他三
無明又說二
比丘與世間
頗勒具那者
亦說為三經

第四 闍陀品

〔八四〕第一 敗壞

※二

爾時，尊者阿難來詣世尊住處……

三

坐於一面之阿難白世尊言：「大德！所稱『世間、世間者。』大德！於何之意義，以稱之為世間耶？」

四

「阿難！凡敗壞之法，於聖者之律，則稱之為世間。阿難！何者為敗壞之法耶？」

五～九

阿難！眼是敗壞之法，色是敗壞之法，眼識是敗壞之法，眼觸是敗壞之法也。凡以此眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦敗壞之法……耳是……鼻是……舌是……身是……

一〇

意是敗壞之法，法是敗壞之法，意識是敗壞之法，凡以意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦敗壞之法。

一一

阿難！凡敗壞之法，於聖者之律，此稱之為世間。」

〔八五〕第二 空

※二～三

爾時，尊者阿難……白世尊言：「大德！所稱『空世間、空世間者。』大德，於何之意義，以稱之為空世間耶？」

四

「阿難！於我、或於我所是空，是故稱之為空世間。阿難！何者於我、或於我所是空耶？」

五～一〇

阿難！眼於我、或於我所是空。色於我、或於我所是空。眼識於我、或於我所是空。眼觸於我、或於我所是空。……耳……鼻……舌……身……意……凡以意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此於我、或於我所亦是空。

一一

阿難！於我、或於我所是空故，是故，稱之為空世間。」

〔八六〕第三 簡約

※三

坐於一面之尊者阿難……白世尊言：「大德！願世尊為我說示簡約之法，我聞世尊此法，一人遠離其他，不放逸，熱誠專心而住。」

四～九

「阿難！汝以此如何思量：眼是常住耶？抑為無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡物之無常是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我』，如是認識耶？」

「大德！不然。」

「色是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「眼識是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡以眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡物之無常是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我』，如是認識耶？」

「大德！不然。」

「耳是……聲是……鼻是……香是……舌是……味是……身是……觸是……意是……法是……」

「凡緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡物之無常是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我』，如是認識耶？」

「大德！不然。」

一〇

「阿難！如是觀者，有聞聖弟子，厭嫌於眼……厭嫌於眼觸……凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦厭嫌於此。由厭嫌而離欲，由離欲以得解脫，謂有『解脫』之智。證知：生已盡、梵行已成、應作已作，不為如是再生。」

〔八七〕第四 闍陀

一

爾時，世尊住王舍城竹林迦蘭陀園。

二

爾時，尊者舍利弗與尊者大準陀及尊者闍陀住靈鷲山。

三

爾時，尊者闍陀罹病，陷於嚴重之苦惱狀態。

四

時，尊者舍利弗夕時從靜座而起，至尊者大準陀處，如次謂彼曰：「友，準陀！同赴尊者闍陀之處探病！」

「友！唯然。」尊者大準陀答尊者舍利弗。

五

於是，尊者大準陀與尊者舍利弗，共赴尊者闍陀之處。至已，就坐於所設之座。

六

著座已，尊者舍利弗語尊者闍陀言：「友闍陀！汝病有少癒耶？食養物充足耶？苦痛之感覺減退而無加增，感覺其減退，不感覺其增進耶？」

七

「友舍利弗！余之病未見有少癒，食養物不充足。余強烈之苦感，加增而無減退，唯感其增進，不感其減退。」

八

友！譬如強力之勇士，以銳刃截頭。如是友！過度之體風，以害余之頭。友！余之病不見有少癒，食養物不充足……不感覺其減退。

九

友！譬如有力之勇士，以布片強力纏縛頭上。友！如是過度之體風，使余感苦痛。友！余之病不見有少癒，食養物不充足……不感其減退。

一〇

友！譬如熟巧屠牛者、或屠牛者弟子，以銳利之牛刀，戳貫腹部。友！如是過度之體風貫戳余腹。友！余之病不見有少癒，食養物不充足……不感其減退。

一一

友！譬如二強力之勇士，捕捉弱者之腕，各執其一以炙烤於炭火上。友！如是，余身體有過度之熱。友！余之病不見有少癒，食養物不充足……不感其減退。

一二

友舍利弗！持刀刃來與余，余不欲存活。」

一三

「尊者闍陀！勿持刀刃來，尊者闍陀當續存活，我等願尊者闍陀續存活。若尊者闍陀無適宜之食物者，我為尊者闍陀尋來適宜之食物。若尊者闍陀無適宜之藥物者，我為尊者闍陀尋來適宜之藥物。若尊者闍陀無適宜之看護者，我為尊者闍陀看護。尊者闍陀勿謂持刀物來，尊者闍陀當續存活！我等願尊者闍陀續存活！」

一四

「友舍利弗！余非無適宜之食物，余有適宜之食物。余非無適宜之藥物，余有適宜之藥物。余非無適宜之看護者，余有適宜之看護者。然而友！余長時無有不可意，以可意而奉侍大師。友！此實於佛弟子之最適宜。奉侍大師以可意而無有不可意事，此應無再有矣。闍陀比丘謂持刀刃來，友舍利弗！請如是了解。」

一五

「尊者闍陀！若願釋答我等質問之義，我等則以二、三點問於尊者闍陀。」

「友舍利弗！請問，由聞我等將知此義矣。」

一六

「友闍陀！汝以眼、以眼識、以眼識所識之法：『此是我所，此是我，此是我之我。』如是認識耶？以耳……以鼻……以舌……以身……友闍陀！汝以意、以意識、以意識所識之法：『此是我所，此是我，此是我之我。』如是認識耶？」

一七

「友舍利弗！余以眼、以眼識、以眼識所識之法：『此非我所，此非我，此非我之我。』如是以認識。以耳……以鼻……以舌……以身……友舍利弗！余以意、以意識、以意識所識之法：『此非我所，此非我，此非我之我。』如是以認識。」

一八

「友闍陀！汝於眼、於眼識、於眼識所識之法，以何見、何知耶？以眼、以眼識、以眼識所識之法：『此非我所，此非我，此非我之我。』如是以認識耶？於耳……於鼻……於舌……於身……友闍陀！汝於意、於意識、於意識所識之法，以何見、何知耶？以意、以意識、以意識所識之法：『此非我所，此非我，此非我之我。』如是以認識耶？」

一九

「友舍利弗！余於眼、於眼識、於眼識所識之法，見滅，知滅。以眼、以眼識、以眼識所識之法：『此非我所，此非我，此非我之我。』如是以認識。於耳……於鼻……於舌……於身……友舍利弗！余於意、於意識、於意識所識之法，見滅，知滅，以意、以意識、以意識所識之法：『此非我所，此非我，此非我之我。』如是以認識。」

二〇

如是說已，尊者大準陀語尊者闍陀言：「友闍陀！然者，以彼世尊之此教，應常時善予思量。於依止者有動轉，無依止者則無動轉。無動轉則有輕安，有輕安者則無喜悅，無喜悅者則無來往，無來往者則無生死，無生死者則無此世、無來世、無兩界之中間，此始為苦惱之滅盡。」

二一

時，尊者舍利弗與尊者大準陀以此教誡，教誡尊者闍陀之後，起座離去。

二二

時，尊者闍陀於尊者等離去未久，即持刀刃自刎。

二三

於是，尊者舍利弗來至世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

二四

坐於一面之尊者舍利弗，白世尊言：「大德！尊者闍陀持刀自刎，彼之所趣，彼之來世為何耶？」

「舍利弗！闍陀比丘於前與汝，非說無應受之身耶？」

二五

「大德！有名為弗婆伊奢那之跋耆族村，於該處有尊者闍陀之友家，親善之家、有往來之家。」

二六

「舍利弗！此等確為尊者闍陀比丘之友家、親善之家、往來之家。然而舍利弗，余不說此為『有應受之身』。舍利弗！凡人棄其身，受他身，余稱此為『有應受之身』，然而闍陀比丘則非此。故闍陀比丘不再有矣，舍利弗應當如是見。」

〔八八〕第五 富樓那

※二

時，尊者富樓那來詣世尊住處。詣已……

三

坐於一面之尊者富樓那，白世尊言：「大德！願世尊為我說示簡略之法，我聞世尊之法，則一人以遠離其他，不放逸，

熱誠專心而住。」

四

「富樓那！以眼識知有色，快意、樂、喜愛，誘心染於欲念。比丘若存念喜、讚、戀著於此者，則存念喜、讚、戀著，於彼則起喜悅心，由生起喜悅心，則有苦之生起，富樓那！余作是言。富樓那！以耳識知有聲……以鼻識知有香……以舌識知有味……以身識知有觸……富樓那！以意識知有法，快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念。比丘若喜、讚、戀著於此者，則存念喜、讚、戀著，於彼生起喜悅心，因生起喜悅心，則有苦之生起，富樓那！余作是言。」

五

富樓那！以眼識知有色，快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念。比丘若不喜、不讚、不戀著此者，以不喜、不讚、不戀著此，於彼喜悅心則滅，因喜悅心之滅，則有苦之滅。富樓那！余作是言……乃至……富樓那！以意識知有法，快意、可愛、樂、喜愛，誘心染於欲念。比丘若不喜、不讚、不戀著此者，則不喜、不讚、不戀著此，於彼喜悅心則滅，因喜悅心之滅，則有苦之滅。富樓那！余作是言。」

六

富樓那！余以此簡約之教誡，而予教誡。汝將住於何處耶？」

「大德！有名為須那巴蘭陀地方，余將住彼處。」

七

「富樓那！須那巴蘭陀人兇惡。富樓那！須那巴蘭陀人粗暴。富樓那！若須那巴蘭陀人嘲罵汝，富樓那！於汝應如何耶？」

「大德！須那巴蘭陀人若嘲罵我，於我應作如是：『實則此須那巴蘭陀人，當為善，實則此須那巴蘭陀人，當為極善，彼等不至以掌打我。』世尊！於此應如是，善逝！於此應如是。」

八

「然則，富樓那！須那巴蘭陀人，若以掌打汝，富樓那！汝應如何耶？」

「大德！須那巴蘭陀人若以掌打我，於此我應如是：『實則此須那巴蘭陀人，當為善，實則此須那巴蘭陀人，當為極善。彼等不至用土塊打我。』世尊！於此應作如是，善逝！於此應作如是。」

九

「然則，富樓那！須那巴蘭陀人，若以土塊打汝，富樓那！於此汝應如何耶？」

「大德！須那巴蘭陀人，若以土塊打我，於此我應作如是：『實則此須那巴蘭陀人，當為善，實則此須那巴蘭陀人，當為極善。彼等不至以杖打我。』世尊！於此應作如是，善逝！於此應作如是。」

一〇

「然則，富樓那！須那巴蘭陀人，若以杖打汝，富樓那！於此汝應作如何耶？」

「大德！須那巴蘭陀人，若以杖打我，於此我應作如是：『實則此須那巴蘭陀人當為善，實則此須那巴蘭陀人，當為極善。彼等不至以刀劍擊我。』世尊！於此應作如是，善逝！於此應作如是。」

一一

「然則，富樓那！須那巴蘭陀人，若以刀劍擊汝，於此汝應如何耶？」

「大德！須那巴蘭陀人，若以刀劍擊我，於此我應作如是：『實則此須那巴蘭陀人，當為善，實則此須那巴蘭陀人，當為極善。彼等不至以刀劍奪我之生命。』世尊！於此應作如是，善逝！於此應作如是。」

一二

「然則，富樓那！須那巴蘭陀人，若以刀劍奪汝之生命，於此汝應如何耶？」

「大德！須那巴蘭陀人民，若以利刃奪我之生命，於此我應作如是：『彼世尊之諸弟子，以身以命為惱、為鬱、為厭、以求持利刃者，對彼等之持此利刃者，我乃不求而得。』世尊！於此應作如是，善逝！於此應作如是。」

一三

「善哉，善哉！富樓那！汝具有此自調與安息，汝能住須那巴蘭陀地方。富樓那！此是其時。」

一四

其時，尊者富樓那歡受、隨喜於世尊之語，從座而起，禮拜世尊，行右繞禮，收座臥具攜衣，向須那巴蘭陀地方遊方而去。次第遊方，到達須那巴蘭陀地方，尊者富樓那於須那巴蘭陀地方住下。

一五

時，尊者富樓那遂於次期之雨季令五百信士歸佛，於同雨季證得三明。於其同雨季入涅槃。

一六

因此，眾多之比丘等，來詣世尊之住處……

一七

坐於一面此等之比丘，白世尊曰：「大德！名為富樓那彼乃良家之子，為世尊以簡約之教誡所教誡，彼已歿矣！彼之所趣為何？彼之來世耶？」

「諸比丘！良家之子富樓那是賢明。隨法行法，以法之故，不令余苦。諸比丘！良家之子富樓那入般涅槃矣。」

〔八九〕第六 婆醯迦

※二

時，尊者婆醯迦來詣世尊之住處……

三

坐於一面之尊者婆醯迦，白世尊曰：「大德！願世尊為我簡約說法，我聞世尊之法，獨自一人將遠離其他，不放逸，精進專心而住。」

四～八

「婆醯迦！汝對此如何思惟：眼是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「而凡物之無常者，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「而凡無常、苦而變壞之法以『此是我所，此是我，此是我之我』，如是認識否？」

「大德！不然。」

「色是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「眼識是……眼觸是……耳是……鼻是……舌是……身是……」

九

凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦為常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「而凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「而凡物之無常、苦而變壞之法以『此是我所，此是我，此是我之我』，如是認識否？」

「大德！不然。」

一〇

「婆醯迦！如是觀之，有聞聖弟子於眼、於色、於眼識……於眼觸……凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，於此亦厭嫌，由厭嫌而離欲，由離欲得解脫，於解脫而解脫智生。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不再為如是再生。」

一一

因此，尊者婆醯迦歡受、隨喜於世尊之所說，即從座起，禮拜世尊，行右繞之禮離去。

一二

時，尊者婆醯迦獨自一人，遠離其他，不放逸，精進專心而住。不久，良家之子等，為此乃從在家而出家得度，對無上梵行之終末（羅漢果）於現法自證知、實現、逮達而住。證知：生已盡、梵行已成、應作已作，不再為如是再生。

一三

而尊者婆醯迦，即成為阿羅漢之一。

〔九〇〕第七 動著（一）

※二

「諸比丘！動著是疾病，動著是腫物，動著是刺箭。然則諸比丘！如來於此，以無動著，離刺箭而住。

三

然而諸比丘！比丘於此應期望我為無動著，離刺箭而住。

四

應不思量眼，不思量有眼，不依眼而思量，不思量眼是我有。不思量色，於色有不令思量，不依色而思量，不思量色是我有。不思量眼識，不思量有眼識，不依眼識而思量，不思量眼識是我有。不思量眼觸，不思量有眼觸，不依眼觸而思量，不思量眼觸為我有。凡此眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，對此亦不思量，亦不思量此，亦不思量有此，亦不依此而思量，亦不思量此是我有。

五～八

以耳……以鼻……以舌……以身……

九

不思量意，不思量有意，不依意而思量，不思量意為我有。不思量法，不思量有法，不從法而思量，不思量法是我有。不思量意識，不思量有意識，不依意識而思量，不思量意識是我有。不思量意觸，不思量有意觸，不依意識而思量，不思量意觸是我有。凡以此意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦不思量此，亦不思量有，亦不依此而思量，亦不思量此是我有。

一〇

不思量一切，不思量有一切，不依一切而思量，不思量一切是我有。

一一

彼無如是之思量，對世之〔任何〕一物亦不生執著，無執著則不生愛慕，無愛慕則獨自入涅槃。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不再為如是再生。」

〔九一〕第八 動著（二）

※二

「諸比丘！動著是疾病，動著是腫物，動著是刺箭。然則諸比丘！如來於此無動著、離刺箭而住。

三

諸比丘！比丘於此，應期望我無動著，離刺箭而住。

四～八

不思量眼，不思量有眼，不依眼而思量，不思量眼是我有。不思量色，不思量眼識，不思量眼觸，凡以眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦不思量此，亦不思量有此，亦不依此而思量，亦不思量此是我有。諸比丘！凡或思量於物，或思量有物，或依物而思量，或思量物是我有，此與彼是異，因異而著於有之世間，則以有而喜於此，以耳……以鼻……以舌……以身……

九

不思量意，不思量有意，不依意而思量，不思量意為我有。不思量法、不思量意識，不思量意觸，凡以此意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦不思量，亦不思量此有，亦不依此而思量，亦不思量此是我有。諸比丘！凡或思量於物，或思量有物，或依物思量，或思量物是我有，此與彼物是異，因異而著於有之此世間，則以有而喜於此。

一〇

諸比丘！於蘊、界、處，彼亦不思量此，亦不思量有此，亦不依此而思量，亦不思量此是我有。彼無如是之思量，則對世之〔任何〕一物亦不生執著，無所執著則不生愛慕，無所愛慕則獨自入涅槃。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。」

〔九二〕第九 二法（一）

※二

「諸比丘！為汝等說二法，對此當諦聽。諸比丘！以何為二法耶？」

三

眼與色，耳與聲，鼻與香，舌與味，身與觸，意與法是。諸比丘！此稱為二法。

四

諸比丘！或有如是言：『余置此之二法，以示說他之二法。』此唯是彼之語量。雖遇他之問，而亦難圓其所答，更陷於困迷。

五

何以故？諸比丘！此猶如處於非境。」

〔九三〕第十 二法（二）

※二

「諸比丘！緣二法而生識。諸比丘！如何緣二法而生識耶？

三

以眼與色為緣而生眼識。眼是無常、變壞、異變之質；色亦是無常、變壞、異變之質。如是此等二法為動轉、消散、無常、變壞、異變之質。則眼識是無常、變壞、異變之質。凡於眼識之生起為因為緣，其因與緣亦無常、變壞、異變之質。諸比丘！依無常之緣所起之眼識如何成為常住耶？諸比丘！凡此等三法之合會、集結、和合，諸比丘！稱此為眼觸。眼觸亦是無常、變壞、異變之質。凡於眼觸之生起為因為緣，此因與緣亦是無常、變壞、異變之質。而諸比丘！依無常之緣所起之眼觸如何為常住耶？諸比丘！觸而感受、觸而思考、觸而識知，如是此等之法亦為動轉、消散、無常、變壞異變之質。

四

以耳與聲為緣而生耳識……

五

以鼻與香為緣而生鼻識……

六

以舌與味為緣而生舌識……

七

以身與觸為緣而生身識……

八

以意與法為緣而生意識。意是無常、變壞、異變之質。色亦是無常、變壞、異變之質。如是此等二法是動變、消散、無常、變壞、異變之質。意識亦為無常、變壞、異變之質。凡於意識之生起為因為緣，其因與緣亦為無常、變壞、異變之質。諸比丘！依無常之緣所起之意識如何是常住耶？諸比丘！凡此等三法之合會、集結、和合，諸比丘！稱此為意觸。意觸亦是無常、變壞、異變之質。凡於意觸之生起為因為緣，其因與緣亦為無常、變壞、異變之質。而諸比丘！依無常之緣所起之意觸如何為常住耶？諸比丘！觸而感受，觸而思考，觸而識知，如是此等之法亦動轉、消散、無常、變壞、異變之質。

九

諸比丘！如是緣二法而生識。」

闍陀品第四

（終）

其攝頌曰：

敗壞空簡約
闍那富樓那
以及婆醯迦
再說二動著
依二說他二

第五 棄捨品

〔九四〕第一 所攝取（一）

※二

「諸比丘！於此等六觸處，不制、不護、不防、不攝時，則為招致苦惱者。以何者為六耶？

三～七

諸比丘！於眼之觸處，不制、不護、不防、不攝時，則為招致苦惱。於耳之觸處……鼻之觸處……舌之觸處……身之觸處……

八

諸比丘！於意之觸處，不制、不護、不防、不攝時，則為招致苦惱。

九

諸比丘！於此等之六觸處，不制、不護、不防、不攝時，則為招致苦惱。

一〇

諸比丘！於此等之六觸處，善制、善護、善防、善攝時，則為招致安樂。以何者為六耶？

一一～一五

諸比丘！於眼之觸處，善制、善護、善防、善攝時，則為招致安樂。於耳之觸處……鼻之觸處……舌之觸處……身之觸處……

一六

諸比丘！於意之觸處，善制、善護、善防、善攝時，則為招致安樂。

一七

諸比丘！於此等之六觸處，善制、善護、善防、善攝時，則為招致安樂。」

一八

世尊宣說於此……師更作此語曰：

- （一）「諸比丘！於觸處有六種，無攝護於此者，則逢苦；得其攝護者，則以信為友，無漏而住。
- （二）見可意之色，又見不可意之色，對可意之色應防染心之路；對不可意，以此非我所愛，不得污於意。
- （三）於第二，聞可愛、不可愛之聲，則不惑於可愛之聲，更應慎於不懷瞋於不愛之聲，此非我所愛，不污於意。
- （四）可意之香，更又嗅不淨、不快之香，則對不快者以防怒，對快者勿引欲念。
- （五）味甘美之味，其次，又味一時不味之味，於甘美之味莫戀著，對不味亦勿停跡於憤恚。

（六）觸於快觸，亦不醉於快樂，觸於苦者，亦不搖動。
二種之觸，對樂與苦，心處中性，無任何喜與怒。

（七）迷想之人，有迷執、有想，往赴卑陋之輪迴。依意
所成五欲之家者，依捨卻而出離。

（八）如是，意若有修練六處者，則雖觸此亦心不搖。諸
比丘！克此等之貪瞋，始為到達生死彼岸之人。」

〔九五〕第二 所攝取（二）

※二

時，尊者摩羅迦子，來詣世尊住處……

三

坐於一面之摩羅迦子，白世尊曰：「大德！願世尊為我簡
約說法，我聞世尊所說之法，當獨自遠離其他，不放逸，精進
專心而住。」

四

「於此摩羅迦子！汝年老朽，已達壽高年邁之老齡，年少
比丘若請『垂教簡約之教誡』，則我對彼等，當以何相告
耶？」

五

「大德！我雖年老朽，已達壽高年邁之老齡，大德！仍請
世尊簡約說法，善逝！簡約說示法。想當了知我世尊所說之意
義，想當為我世尊所說之法嗣者。」

六

「摩羅迦！汝於此作如何思惟？對此等未見、未曾見之眼所識之色，汝今亦未曾見、以後對此等亦未曾見，於此，汝有起欲念、染心、愛情否？」

「大德！不然。」

七～一〇

「對此等未聞、未曾聞之耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……

一一

此等未識、未曾識之意所識之法，汝今亦未曾識、以後亦未曾識此等，於此，汝有起欲念、染心、愛情否？」

「大德！不然。」

一二

「摩羅迦子！又此，汝於法見聞感識，所見為如所見，所聞為如所聞，所感為如所感，所識為如所識。

一三

摩羅迦子！汝於法見聞感識，見者即如所見，聞者即如所聞，感者即如所感，識者即如所識。是故，摩羅迦子！汝不為貪瞋癡所累，摩羅迦子！汝以不為貪瞋癡所累，汝不戀著於此見聞感識。因此，摩羅迦子！汝不在此世、不在來世、不在兩界之中間，此為苦惱之滅盡。」

「大德！我世尊簡約所說之意義，已精細識知。

（一）懷愛相於胸者，見色則失正念，感而執著於心，又對此存念戀慕。由色生其種種痛苦、貪欲，害心增加，彼心受惱苦。如是積苦，稱為遠離涅槃。

（二）懷愛相於胸者，聞聲則失正念，感而執著於心，又對此存念戀慕。由聲生其種種痛苦、貪欲，害心增加，彼心受惱苦。如是積苦，稱為遠離涅槃。

（三）懷愛相於胸者，嗅香則失正念……

（四）懷愛相於胸者，味味則失正念……

（五）懷愛相於胸者，觸觸則失正念……

（六）懷愛相於胸者，知法則失正念……

（七）彼於色不為所染，見色而護念，感色而無執心，又對此不存念戀著。恰如見色，如行出世間之受者，彼之苦消滅而無積。彼如是以正念遊行，如是於苦無積，稱為近於涅槃。

（八）彼於聲不為所染，聞聲而護念……

（九）彼於香不為所染，嗅香而護念……

（一〇）彼於味不為所染，味味而護念之……

（一一）彼於觸不為所染，觸觸而護念之……

（一二）彼於法不為所染，識法而護念之……

大德！我世尊所簡約說示之意義，於是已精細了知。」

一五

「善哉，善哉！摩羅迦子！汝摩羅迦子對余簡約所說之意，已精細了知是為甚善。

（一）懷愛相於胸者，見色而失正念，執著心而感色，又對此存念戀慕。由色生種種痛苦、貪欲、害心增加、彼心受惱苦，如是積苦、稱為遠離涅槃。……乃至……

（※二）彼於法不染，識法則護念，無執心以感法，又對此不存戀著。恰如識法，行出世間之受，彼之苦消滅無積。如是彼以正念而遊行，如是無積苦，稱為近於涅槃。

摩羅迦子！對余此簡約所說之意義，應如是精細而見。」

一六

時，尊者摩羅迦子歡受、隨喜世尊之所說，即從座起，禮拜世尊，行右繞禮離去。

一七

時，尊者摩羅迦子獨自一人，遠離其他者，不放逸，精進專心而住。不久，良家之子等，為此能由在家而出家得度，對無上梵行之終末（羅漢果），於現法實現、自證知，於此逮得而住。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。

一八

尊者摩羅迦子，成為阿羅漢之一。

〔九六〕第三 退

※二

「諸比丘！我為汝等說退法與不退法與六勝處。

三

諸比丘！如何為退法耶？

四

諸比丘！此處有比丘，以眼見色，邪惡不善，而有憶念志望，彼起繫縛可緣之法。比丘若認是於此，不捨、不排、不壞、不使歸無，諸比丘！此比丘當自退墮於我善法。此為世尊對此所說示之退〔法〕應如是知。

五～九

復次，諸比丘！比丘以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味，以身觸觸……以意識法，邪惡不善而有憶念志望，彼起繫縛可緣之諸法。比丘若認是於此，不捨、不排、不壞、不使歸於無，諸比丘！此比丘當自退墮於我善法。此乃世尊所說示之退〔法〕，應如是知。

一〇

諸比丘！退法者，當即如是。

一一

諸比丘！如何為不退法耶？

一二

諸比丘！此處有比丘，以眼見色，邪惡不善，而有憶念志望，彼起繫縛可緣之諸法。比丘若不認是於此，則捨此、排、壞、使歸於無，諸比丘！此比丘當自不由我善法退墮。此為世尊對此所說之不退〔法〕。應如是知。

一三～一七

復次，諸比丘！比丘以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味，以身觸觸……以意識法，邪惡不善，而有憶念志望，彼起繫縛可緣之諸法。比丘若不認是於此，則捨此、排、壞、使歸於無，諸比丘！此比丘當自不由我善法退墮，此乃世尊所說示之不退〔法〕。應如是知。

一八

諸比丘！不退法者，當即如是。

一九

諸比丘！如何是六勝處耶？

二〇

諸比丘！此處有比丘，以眼見色，邪惡不善而有憶念志望，彼若不起繫縛可緣之法，此比丘當知：『此是最勝，此即是處，此乃世尊所說之勝與處。』應如是知。

二一～二五

復次，諸比丘！以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味，以身觸觸……以意識法，邪惡不善有憶念志望，彼若不起繫縛可緣之法，則此比丘當知：『於此是處、是勝，此乃世尊所說之勝處〔法〕。』應如是知之。

二六

比丘等，此等稱之為六勝處。」

〔九七〕第四 不放逸住者

一

舍衛城因緣。……

二

「諸比丘！我為汝等，說放逸住者與不放逸住者。且諦聽。

三

諸比丘！如何為放逸住者耶？

四

諸比丘！不攝護眼而所住者，其心為眼所識之色境所污，彼心為所污無喜樂，若無喜樂則無歡悅，若無歡悅則無輕安，若無輕安則所住皆苦，有苦者之心不得定，心若不得定，則諸法不現，諸法若不現者，則稱為放逸住者。

五～九

諸比丘！不攝護耳根……不攝護鼻根……不攝護舌根……不攝護身根……不攝護意根而住者，其心為意所識之法〔境〕所染污，心為染污者，彼無喜樂，無喜樂者即無歡悅，若無歡悅者即無輕安，若無輕安之住即苦，有苦者心不得定，心不得定則諸法不現前，諸法不現前者，則稱為住放逸者。

一〇

諸比丘！放逸者為如是。

一一

諸比丘！如何為不放逸者耶？

一二

諸比丘！攝護眼根而住者其心，不為眼所識之色境所污，彼心不污生喜樂，於有喜樂者，生歡悅，於心歡悅者，則身有輕安，於身有輕安者，則住安樂，安樂者之心得定，心得定者，則諸法現前，諸法現前則稱為不放逸住者。

一三～一七

諸比丘！攝護耳根……攝護鼻根……攝護舌根……攝護身根……攝護意根而住者，其心不為意所識之法境所污，彼心不污生喜樂，於有喜樂者，生歡悅，於心有歡悅者，則身有輕安，於身有輕安者，則住安樂，有安樂者之心，則得定，心得定者，則諸法現，諸法現前者，則稱為不放逸住者。

一八

諸比丘！如是為不放逸住者。」

〔九八〕第五 攝護

二

「諸比丘！我為汝等說攝護與不攝護，且諦聽。」

三

諸比丘！如何為不攝護耶？

四

諸比丘！眼所識之色，快意、可愛、樂、喜愛，誘心染於欲念。比丘若悅讚於此，戀著於此而住者，諸比丘！此比丘則應自知：『我由善法退墮，此乃世尊所說示之退〔法〕。』應如是知。

五～九

諸比丘！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法，快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念。比丘若悅讚於此，戀著於此而住者，諸比丘！此比丘當自知：『我由善法退墮，此乃世尊所說示之退〔法〕。』應如是知。

一〇

諸比丘！如是為不攝護。

一一

諸比丘！如何為攝護耶？

一二

諸比丘！眼所識之色，快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念。比丘若不悅不讚於此，不戀著於此而住者，諸比丘！此比丘當自知：『我不由善法退墮，此世尊所說示之不退〔法〕。』應如是知。

一三～一七

諸比丘！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念。若比丘不悅不讚於此，不戀著於此而住者，諸比丘！此比丘當自知：『我不由善法退墮，此世尊所說示之不退〔法〕。』應如是知。

一八

諸比丘！如是為攝護。」

〔九九〕第六 三昧

※二

「諸比丘！當增修於定（三昧）。諸比丘！心具定之比丘，可如實知事物。

三

如何如實知事物耶？

四

如實知『眼是無常』，如實知『色為無常』，如實知『眼識是無常』，如實知『眼觸是無常』，如實知『凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦無常。』

五～九

如實知『耳是……鼻是……舌是……身是……意是無常』，如實知『法是無常』，如實知『意識是無常』，如實知『意觸是無常』，如實知『凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦無常。』

一〇

諸比丘！當增修於定，心具定之比丘，可如實知事物。」

〔一〇〇〕第七 獨想

※二

「諸比丘！當致力於獨想。諸比丘！獨想之比丘，如實知事物。」

三

如何而得如實知事物耶？

四～九

如實知『眼是無常』，如實知『色是無常』，如實知『眼識是無常』，如實知『眼觸是無常』，如實知『凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦無常』，如實知『耳是……鼻是……舌是……身是……意是……』。

一〇

諸比丘！當致力於獨想。諸比丘！獨想之比丘，如實知事物。」

〔一〇一〕第八 非汝等有（一）

※二

「諸比丘！凡非汝等之所有者，此應摒棄，摒棄於此乃為汝等之利益安樂。」

三

如何是非汝等之所有者？

四

諸比丘！眼非汝等之所有者，應摒棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。色非汝等之所有者，應摒棄此等，摒棄此乃為汝等之利益安樂。眼識非汝等之所有，當棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。眼觸非汝等之所有，當棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦非汝等之所有者，當棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。

五～九

耳非汝等之所有……鼻非汝等之所有……舌非汝等之所有……身非汝等之所有……意非汝等之所有……當棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。法非汝等之所有，當棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。意識非汝等之所有，當棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。意觸非汝等之所有，當棄此，棄此乃為汝等之利益

安樂。凡緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦非汝等之所有，當棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。

一〇

諸比丘！凡於此逝多林所存之草薪枝葉，人人得將運去、燃燒，或隨各自所好而處置，於汝等亦有：『眾人將我等運去、燃燒，或隨各自所好，將我等處〔置〕，有如是之心耶？』」

「大德！不然。」

「此何故耶？」

「大德！此我等之我，亦非我所有。」

一一～一六

「諸比丘！正是如此，眼非汝等之所有，當棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。色非汝等之所有……眼識……眼觸……凡緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦非汝等之所有，當棄此，棄此乃為汝等之利益安樂。」

〔一〇二〕第九 非汝等有（二）

※二～九

〔與前經之二～九全同，惟缺一〇～一六。〕

〔一〇三〕第十 優陀羅

※二

「諸比丘！羅摩子鬱陀迦作如是之語：

余實明智者
實一切勝者
不為所掘取
余掘取苦根

然而，諸比丘！此羅摩子鬱陀迦為不明智者，卻云：『余為明智者。』不為一切勝者，卻云：『余為一切勝者。』不掘取苦根，卻云：『余掘取苦根。』

三

於此諸比丘！應作如是言曰：

余實明智者
余一切勝者
不為所掘取
余掘取苦根

四

諸比丘！如何比丘是明智者耶？

諸比丘！比丘如實知六處之生起、滅沒、甘味、患難、出離故。諸比丘！如是比丘是明智者。

五

諸比丘！如何之比丘是一切勝者耶？

諸比丘！比丘如實知六處之生起、滅沒、甘味、患難、出離故。諸比丘！如是比丘是一切勝者。

六

諸比丘！如何之比丘是不掘取，而掘取苦根耶？

諸比丘！苦為此四大所屬，父母所生，飯粥所積，無常、蝕壞、磨消、破損、潰滅之法，為此身之別名，諸比丘！苦根為此渴愛之別名。諸比丘！比丘之拋棄渴愛，斷苦根，如無頭之多羅樹，為非生成者，為未來不生之法故，諸比丘！如是比丘不為所掘取，而掘取苦根。

七

諸比丘！羅摩子鬱陀迦作如是語：

余實明智者
實一切勝者
不為所掘取
余掘取苦根

然而諸比丘！此羅摩子鬱陀迦為不明智者，卻云：『余是明智者。』不為一切勝者，卻云：『余為一切勝者。』為未掘取苦根，卻云：『余掘取苦根。』

八

於此諸比丘等，當如是說：

余實明智者
實一切勝者
不為所掘取
余掘取苦根」

棄捨品第五

〔終〕

其攝頌：

二所攝取退
放逸者攝護
三昧與獨想
非汝優陀羅

〔六處相應〕第
二 五十品

此品之攝頌：

無明與鹿網
病第四闡陀
棄捨五十經
此二五十品

第一百經〔終〕

第三 五十〔經〕品

第一 安穩者品

〔一〇四〕第一 安穩者

※二

「諸比丘！我為汝等說安穩者之教、法教，且諦聽。

三

諸比丘！何為安穩者之教耶？

四

諸比丘！眼所識之色，快意、可愛、樂、喜愛、誘生欲念。此等為如來所捨棄、斷根，如無頭之多羅樹，為非生成

者，為未來不生之法；又因此等之捨棄，如來說示適宜之教，故如來稱為安穩者。

五～九

諸比丘！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法，快意、可愛、樂、喜愛，誘心染於欲念。此等為如來所捨棄，斷根，如無頭之多羅樹，為非生成者，為未來不生之法；又因此等之捨棄，如來說示適宜之教，故如來稱為安穩者。

一〇

諸比丘！此為安穩者之教、法教。」

〔一〇五〕第二 執取

※二

「諸比丘！何者之存在，何者之執取，生起內部之樂苦耶？」

三

「大德！我等之法，乃以世尊為根據。」

四

「諸比丘！眼之存在，執取於眼而汝等生起內部之樂苦。耳、鼻、舌、身、意之存在，執取於意，汝等生起內部之苦樂。」

五

諸比丘！汝等於此作如何思惟之：眼是常耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「然而凡物之無常，此是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「然則！凡物之無常、苦而變壞之法，不予執取，而生起內部之樂苦否？」

「大德！不然。」

六～一〇

「耳是……鼻是……舌是……身是……意是常耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「然則凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「然則凡物之無常、苦而變壞之法，不予執取，而生起內部之苦樂否？」

「大德！不然。」

一一

「諸比丘！如是見之，有聞聖弟子厭嫌於眼，厭嫌於耳、鼻、舌、身、意，因厭嫌而離欲，因離欲而得解脫，於解脫乃

生：『我解脫』之智。證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。」

〔一〇六〕第三 苦

※二

「諸比丘！我說苦之生起與滅沒，且諦聽。」

三

諸比丘！何為苦之生起耶？

四～九

以眼與色為緣生眼識，三者之和合為觸，緣觸生受，緣受生愛，此苦之生起。以耳與聲……以鼻與香……以舌與味……以身與觸……以意與法為緣生意識，三者之和合為觸，緣觸生受，緣受生愛。諸比丘！此乃苦之生起。

一〇

諸比丘！何為苦之滅沒耶？

一一

以眼與色為緣生眼識，三者和合為觸，依觸之緣生受，依受之緣生愛，依其愛之無餘離卻滅盡，則取之滅盡，由取之滅盡，則有之滅盡，依有之滅盡，則生之滅盡，依生之滅盡，則老死、憂悲苦惱絕望滅盡。如是而此一切苦蘊滅盡，此乃苦之滅沒。

一二～一五

以耳與聲為緣生耳識……以鼻與香為緣生鼻識……以舌與味為緣生舌識……以身與觸為緣生身識……

一六

以意與法為緣生意識，三者和合為觸，依觸之緣生受，依受之緣生愛，依其愛之無餘離卻滅盡，則取之滅盡，依取之滅盡，則有之滅盡，依有之滅盡，則生之滅盡，依生之滅盡，則老死、憂悲苦惱絕望滅盡。如是而此一切苦蘊滅盡。諸比丘！此乃苦之滅沒。」

〔一〇七〕第四 世間

※二

「諸比丘！說世間之生起與滅沒。且諦聽。」

三

諸比丘！以何為世間之生起耶？

四

以眼與色為緣，而生眼識，三者和合為觸，依觸之緣生受，依受之緣生愛，依愛之緣而取，依取之緣而有，依有之緣而生，依生之緣而有老死、憂悲苦惱絕望，此即世間之生起。

五～八

以耳與聲為緣……以鼻與香為緣……以舌與味為緣……以身與觸為緣……

九

以意與法為緣生意識，三者和合為觸，依觸之緣生受，依受之緣而愛，依愛之緣而取，依取之緣而有，依有之緣而生，依生之緣而有老死、憂悲苦惱絕望。此即世間之生起。

一〇

以何為世間之滅沒耶？

一一～一六

以眼與色為緣生眼識，三者和合為觸。依觸之緣生受，依受之緣而愛，依其愛之無餘離卻滅盡，則取之滅盡……如是滅盡此一切苦蘊。

一七

比丘等！此即世間之滅沒。」

〔一〇八〕第五 勝

※二

「諸比丘！何者之存在，以執取於何者，戀著於何者，有人或以『余為勝者』或『余為同等』或『余為劣者』耶？」

三

「大德！我等之法，乃以世尊為根據。」

四

「諸比丘！眼之存在，以執取於眼，戀著於眼，有人或以『余為勝者』或『余為同等』或『余為劣者。』

五～九

耳之存在……鼻之存在……舌之存在……身之存在……意之存在，以執取於意，戀著於意，有人或以『余為勝者』或『余為同等』或『余為劣者。』

一〇

諸比丘！汝等於此作如何思惟：眼是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常，苦而變壞之法，而不予執取，有人或以『余為勝者』或『余為同等』或『余為劣者』耶？」

「大德！不然。」

一一

「眼是常住耶？抑無常耶？」……

一二

「鼻是常住耶？抑無常耶？」……

一三

「舌是常住耶？抑無常耶？」……

一四

「身是常住耶？抑無常耶？」……

一五

「意是常住耶？抑無常耶？」……

「大德！是無常。」

「凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，而不予執取，有人或以『余為勝者』或『余為同等者』或『余為劣者』耶？」

「大德！不然。」

一六

「諸比丘！如是觀之，有聞之聖弟子厭嫌於眼，厭嫌於耳……於鼻……於舌……於身……厭嫌於意，由厭嫌而離欲，由離欲得解脫，於解脫而『我解脫』之智生，證知：生已盡、梵行已成、應作已作、不為如是再生。」

〔一〇九〕第六 繫縛

※二

「諸比丘！為說可繫縛之法與繫縛，且諦聽。」

三

比丘等，何者為可繫縛之法耶？何者為繫縛耶？

四

諸比丘！眼為可繫縛之法，凡對此生欲染，於此即是繫縛。

五～九

耳是……鼻是……舌是……身是……意為可繫縛之法也，凡對此生欲染，於此即是繫縛。

一〇

諸比丘！此等稱為可繫縛之法，以此稱為繫縛。」

〔一一〇〕第七 執取

※二

「諸比丘！為說可執取之法與執取，且諦聽。

三

諸比丘！何者為可執取之法耶？何者為執取耶？

四

諸比丘！眼為可執取之法，凡對此生欲染，於此是執取。

五～九

耳是……鼻是……舌是……身是……意為可執取之法，凡對此生欲染，於此即是執取。

諸比丘！此等稱為可執取之法，於此稱為執取。」

〔一一一〕第八 了知（一）

※二～七

「諸比丘！於眼不知解、不曉了、不離欲、不捨棄，則不足以破除苦惱。於耳……於鼻……於舌……於身……於意不知解、不曉了、不離欲、不捨棄，則不足以破除苦惱。」

八～一三

諸比丘！於眼知解、曉了、離欲、捨棄，則足以破除苦惱，於耳……於鼻……於舌……於身……於意知解、曉了、離欲、捨棄，則足以破除苦惱。」

〔一一二〕第九 了知（二）

※二～七

「諸比丘！於色不知解、不曉了、不離欲、不捨棄，則不足以破除苦惱。於聲……於香……於味……於觸……於法不知解、不曉了、不離欲、不捨棄，則不足以破除苦惱。」

八～一三

諸比丘！於色知解、曉了、離欲、捨棄，則足以破除苦惱。於聲……於香……於味……於觸……於法知解、曉了、離欲、捨棄，則足以破除苦惱。」

〔一一三〕第十 侍聞

一

一時，世尊住那提卡磚堂。

二

時，獨坐冥想之世尊，宣說此教法曰：

三

「緣眼與色而生眼識，三者和合為觸，依觸之緣生受，依受之緣，依愛之緣……〔參照一〇七、四〕……如是則生起一切苦蘊。

四～八

緣耳與聲……緣鼻與香……緣舌與味……緣身與觸……緣意與法生意識，三者和合為觸，緣觸生受，緣受生愛，緣愛生取……〔參照一〇七、九〕……如是則生起此一切苦蘊。

九

緣眼與色而生眼識，三者和合為觸，依觸之緣生受，依受之緣而愛，依此愛無餘離卻滅盡，則有取之滅盡……〔參照一〇六、一一〕……如是此一切苦蘊滅盡。

一〇～一四

緣耳與聲……緣鼻與香……緣舌與味……緣身與觸……緣意與法而生意識，三者和合為觸，依觸之緣生受，依受之緣而生愛，依此愛之無餘離卻滅盡，則有取之滅盡……〔參照一〇六、一六〕……如是則此一切苦蘊之滅盡。」

一五～一七

其時有一比丘侍聞世尊而立。世尊見此比丘侍聞而立，見已，乃對此比丘曰：

「比丘！汝聞此教法否？」

「大德！唯然，我聞此。」

「比丘，汝當習此教法。比丘！汝須通達此教法。比丘！汝須受持此教法，比丘！此教法為梵行之根本者。」

其攝頌：

安穩者執取
苦世間與勝
結縛與執取
二了知侍聞

第二 世間欲類品

〔一一四〕第一 魔索（一）

※二～七

「諸比丘！以眼所識之色快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念。比丘若喜悅、讚美於此，戀著於此者，諸比丘！此比丘可稱為入魔之住屋，屈服於魔之權力。彼之頸，被魔索所纏絡，彼即被魔縛所縛，而順波旬之意欲……諸比丘！意所識之法快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念，比丘若喜悅、讚美於此，戀著此者，諸比丘！此比丘則稱為入魔之住屋，屈服於魔之權力。彼之頸被魔索所纏絡，彼被魔縛所縛，而順於波旬之意欲。」

八～一三

諸比丘！以眼所識之色快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念，比丘若不喜悅、不讚美於此，不戀著於此而住者，諸比丘！此比丘可稱為不入魔之住屋，不屈服於魔之權力。彼之頸脫於魔索，彼解魔繫縛，不順於波旬之意欲。……意所識之法快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念，比丘若不喜悅、不讚美於此，不戀著於此者，諸比丘！此比丘可稱為不入魔之住屋，不屈服於魔之權力。彼之頸脫於魔索，彼解離魔縛，不順於波旬之意欲。」

〔一一五〕第二 魔索（二）

※二～七

「諸比丘！以眼所識之色快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念。比丘若喜悅、讚美於此，戀著於此而住者，此比丘則被縛於眼所識之色，可稱為入魔之住屋，屈服於魔之權力，以順於波旬之意欲。意所識之法快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念，比丘若喜悅、讚美於此，戀著於此而住者，諸比丘！此比丘則被縛於意所識之法，稱為入魔之住屋，屈服於魔之權力，以順於波旬之意欲。」

八～一三

諸比丘！以眼所識之色快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念。比丘若不喜悅、不讚美於此，不戀著於此而住者，諸比丘！此比丘則不被縛於眼所識之色，稱為不入魔之住屋，不屈服於魔之權力，不順於波旬之意欲……諸比丘！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念。比丘若不喜悅、不讚

美於此，不戀著於此而住者，諸比丘！此比丘則稱為不被縛於意所識之法，不入魔之住屋，不屈服於魔之權力，不順於波旬之意欲。」

〔一一六〕第三 世間欲類（一）

※二

「諸比丘！余不言，依行往世間之終而可知可見世間之終，然則諸比丘！余亦不言不達世間之終，而可到達苦之終。」宣說此後，世尊則從座起，而入精舍。

三

時，世尊離去不久，此等之比丘心生思念：「諸友！世尊為我等說：『諸比丘！余不言依行往世間之終而可知可見世間之終，然則諸比丘！余亦不言不達世間之終，而可得達苦之終。』如是略說此教，而未精細解說其意義，即從座起，而入精舍。對世尊所略說，有誰能詳細解說此教之意義耶？」

四

時，此等比丘心生思念：「此尊者阿難，乃大師所稱揚，為有智之同梵行者所尊敬。尊者阿難於世尊所略說未精細解說之意義，能精細解說此教之意義。吾等當詣尊者阿難處。詣已，向尊者阿難，可問此之意義。」

五

於是，此等比丘來詣阿難處。詣已，與尊者阿難共相問訊，交談親愛、懇勸之語已，坐於一面。

六

坐於一面之此等比丘，向尊者阿難曰：「友阿難！世尊為我等說：『諸比丘！余不言依行往世間之終而可知可見世間之終，然則，諸比丘！余亦不言不達世間之終，而可得達苦之終。』如是略說此教，而未精細解說此教之意義，即從座起，而入精舍。友！世尊去後不久，吾等比丘心生思念：『諸友！世尊為我等說：『諸比丘！余不言依行往世間之終而可知可見世間之終，然則，諸比丘！余亦不言不達世間之終，可得達苦之終。』如是略說此教，而未精細解說此教之意義，即從座起，而入精舍。對世尊之略說，而未詳細解說者，誰能詳細解說此教之意義耶？』友！於此，吾等心生思念：『諸友，此尊者阿難為大師所稱揚，為有智之同梵行者所尊敬。尊者阿難或對世尊之略說，而未詳細解說者，能詳細解說此教之意義。吾等來詣尊者阿難處，詣已，可向尊者阿難以問此義。』請尊者阿難，以為解說。」

七

「諸友！譬如有人欲得樹心，為求樹心、探尋樹心而巡行，於有樹心之挺拔直立樹前，捨其根，捨其幹，思向枝葉以探尋樹心。當大師現前，於世尊之外，向吾問此意義，汝等尊者之所思，此義亦猶如是。諸友！此世尊，知而示知，見而示見，是眼、是智、是法、是梵、是語者、說者，為齎持利益，是施與甘露味之法主如來。而今正是向世尊奉問此意義之時，世尊為汝等賜予釋答，汝等對此應護持。」

八

「實則友阿難！世尊知而示知，見而示見，是眼、是智、是法、是梵、是語者、說者，為齎持利益，是施甘露味之法主如來，而今正是向世尊奉問此義之時。世尊為我等釋答，我等當護持於此。然而尊者阿難，為大師所讚揚，有智之同梵行者所尊敬。尊者阿難對世尊之略說，能以詳解此教之意義，而未予詳加解說。尊者阿難！當不為難，請為解說。」

九

「然則，諸友！且諦聽，善思惟，我當為說。」

「唯然，友！」此諸比丘應答尊者阿難。

一〇

尊者阿難答說，如次曰：「諸友！世尊為汝等說：『諸比丘！余不言由行往世間之終而可知可見世間之終，然而諸比丘！余亦不言不達世間之終，而可得達苦之終。』如是，諸友！世尊略說示教，而未精細解說其意義，即從座起，而入精舍，對此教之意義，余如是詳知：

一一

諸友！凡夫依彼以為世想，若有以為世想者，於聖者之語義彼稱之為世。諸友！依何以為世想？以為世思者？諸友！若依眼以為世想，以作為世思者，諸法友！若依耳……依鼻……依舌……依身……諸友！依意，以為世想、以為世思者，於聖者之語義，彼稱為世。諸友！若因彼以為世想，以為世思者，於聖者之律，彼稱為世。

一二

世尊為汝等說：『諸比丘！余不言依行往世間之終而可知可見世間之終，然而諸比丘！余亦不言不達世間之終，而可得達苦之終。』如是略說示教，而未解說其詳細意義，即從座起，而入精舍。諸友！世尊之略說示教，而未精細解說其意義，此教之意義，余如是知。然而汝等尊者若有意願，當詣世尊住處，以奉問此義，世尊將予釋答，則應護持。」

「唯然，友！」此比丘等應答尊者阿難，即從座起，往詣世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

一三

坐於一面之諸比丘，白世尊曰：「大德！世尊為我等〔說〕：『諸比丘！余不言依行往世間之終而可知可見世間之終，然而諸比丘！余亦不言不達世間之終，而可達得苦之終。』如是略說示教而未解說其詳細意義，即從座起，而入精舍。大德！世尊離去未久，吾等心如是思念：『諸友！世尊為吾等說：「諸比丘！余不言依行往世間之終而可知可見世間之終，然而諸比丘！余亦不言未達世間之終而可達得苦之終。」如是略說示教，而未解說詳細之意義，即從座起，而入精舍。對世尊之略說示教，而未作詳細解說其意義，有誰能詳細解說此教之意義耶？』

一四

大德！吾等心生思念：『此尊者阿難為大師所稱揚，為有智之同梵行者所尊敬。尊者阿難或對世尊之略說示教，而未作詳細解說，當能詳細解說此教之意義。吾等往詣尊者阿難之處，向尊者阿難當可問此意義。』因此，大德！吾等往詣阿難住處，向阿難請問此意義。

一五

大德！尊者阿難為吾等，以此法、以此句、以此文解說其意義。」

「諸比丘！阿難是賢者，諸比丘！阿難是大智者。諸比丘！汝等若向余問此之意義，余亦與阿難之對此所釋答作完全相同之釋答。此即其意義，當如是對此護持。」

〔一一七〕第四 世間欲類（二）

※二

「諸比丘！余正覺以前，為未證正覺之菩薩〔時〕，起如是之心：『余心曾觸世間之欲念，於今，已成過去、滅盡、變壞。於此，余心或對現在之欲念有多動，或對未來之欲念有少動。諸比丘！當時余起如是心，對余心曾有觸之世間欲念，於今已成過去、滅盡、變壞者，於此，余為自己應不放逸，常防護正念。』

三

然而諸比丘！汝等心亦曾有觸世間欲念，於今已成過去、滅盡、變壞。於此，汝等之心或有對現在之欲念多動，或有對未來之欲念少動，然則諸比丘！汝等之心亦曾有觸五種之欲念，於今已為過去、滅盡者。於此，汝等為自己應不放逸，常防護正念。

四

然而，諸比丘！此為須知之境，眼之滅，離色想之欲，此為須知之境。耳之……鼻之……舌之……身之……意之滅，離

法想之欲，此為須知之境。」

五

說此之後，世尊即從座起，而入精舍。

六

時，世尊離去未久，此等比丘心生思念：「諸友！世尊為吾等說：『諸比丘！然則，此為須知之境。眼之滅，以離色想之欲，此為須知之境。耳之……鼻之……舌之……身之……意之滅，以離法想之欲，此為須知之境。』如是簡略說示此教而未詳細解說其意義，即從座起而入精舍。對世尊略說示教而未詳細解說，有誰能詳細解說此教之意義？」

七

時，此等比丘心生思念：「此尊者阿難乃大師所稱揚，為有智之同梵行者所尊敬，尊者阿難或對世尊之略說，能詳細解說此教之意義。吾等當詣尊者阿難住處。詣已，向尊者阿難請問此之意義。」

八

因此，此等比丘往詣阿難住處。詣已，與尊者阿難共相問訊，交換親愛、懇懃之語後，坐於一面。

九

坐於一面之此等比丘，言尊者阿難曰：「友阿難！世尊為吾等說：『諸比丘！然則，此為須知之境。眼之滅，以離色想之欲，此為須知之境。耳之……鼻之……舌之……身之……意

之滅，以離法想之欲，此為須知之境。」如是略說示此教而未詳細解說此意義，即從座起而入精舍。友！世尊離去未久，吾等心生思念：『世尊為吾等說：「諸比丘！然則，此為須知之境。眼之滅，以離色想之欲，此為須知之境。耳之……鼻之……舌之……身之……意之滅，以離法想之欲，此為須知之境。」如是略說示此教而未詳細解說此意義，即從座起而入精舍。對世尊所略說而未詳細解說者，有誰能詳細解說此教之意義耶？』友！吾等心生思念：『諸友！尊者阿難為大師所稱揚，為有智之同梵行者所尊敬。尊者阿難或對世尊之所略說而未作詳細解說者，當能詳細解說此教之意義。吾等則詣尊者阿難住處，向尊者阿難問此意義。』尊者阿難，且請解說。」

一〇～一一

「諸友！譬如有人欲得樹心，尋求樹心，探索樹心而出往巡行，應於有樹心之樹前……

一二

然則諸友！且諦聽，當善思惟，我將說此。」

「唯然，友！」此等比丘應答尊者阿難。

一三

尊者阿難作如次言曰：「諸友！世尊為汝等說：『諸比丘！然則，此為須知之境。眼之滅，以離色想之欲，此為須知之境。耳之……鼻之……舌之……身之……意之滅，以離法想之欲，此為須知之境。』如是諸友！世尊之略說示教，而未詳細解說其意義，余如是知此教之意義。『諸比丘！然則，此為

須知之境。眼之滅，以離色想之欲，此為須知之境。』諸友！於此，世尊乃說示六處之滅盡也。

一四

諸友！對世尊略說示教而未詳細解說其意義者，余如是知此教之意義。然則，汝等尊者若有意願者，當往詣世尊住處請問此義，即如世尊所釋答，則應護持。」

「唯然，友！」此諸比丘應諾尊者阿難後，即從座起，往詣世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

一五

坐於一面之此等比丘，白世尊曰：「大德！世尊為吾等說：『諸比丘！然則，此為須知之境，眼之滅，以離色想之欲，此為須知之境。耳之……鼻之……舌之……身之……意之滅，以離法想之欲，此為須知之境。』如是略說示教而未詳細解說此意義，即從座起而入精舍。大德！世尊離去未久，吾等心生如是思念：『諸友！世尊為吾等：「諸比丘！然則，此為須知之境，眼之滅，以離色想之欲，此為須知之境。耳之……鼻之……舌之……身之……意之滅，以離法想之欲，此為須知之境。」如是略說示教而未詳細解說此意義，即從座起而入精舍。對世尊略說示教而未詳細解說此意義者，有誰能詳細解說此教之意義耶？』

一六

大德！吾等心生思念：『此尊者阿難乃大師所稱揚，乃有智之同梵行者所尊敬。尊者阿難對世尊之略說而未詳細解說此

意義者，或能詳細解說此教之意義。吾等當詣尊者阿難住處，可向尊者阿難請問此意義。」

一七

大德！因此，我等往詣阿難住處，向尊者阿難請問此意義。大德！尊者阿難，為吾等，以此法、以此句、以此文解說此意義。」

「諸比丘！阿難為賢者，諸比丘！阿難為大智者，諸比丘！汝等若向余問此意義，亦與問於阿難之此釋答，完全相同之釋答。此乃其意義，如是對此應護持。」

〔一一八〕第五 帝釋

一

爾時，世尊住王舍城外之靈鷲山。

二

時，諸天主帝釋，來詣世尊住處。禮拜世尊，立於一面。

三

立於一面之諸天主帝釋，如次白世尊言：「大德！於此大德！或有情於現生不得入涅槃，乃以何為因？以何緣耶？大德！又此處，或有情於現生入於涅槃，乃以何為因？以何為緣耶？」

四

「諸天之主！眼所識之色快意、可樂、可愛、喜愛，誘生欲念，比丘若喜悅、讚美於此，戀著於此而住者，則喜悅、讚美於此，而戀著於此而住者之識，則依止於此，取執於此。諸天之主！有執取之比丘，不得入涅槃。」

五～九

諸天之主！耳所識之聲……鼻所識之香、舌所識之味……身所識之觸……意所識之法快意、可愛、可樂、喜愛，誘生欲念。比丘若喜悅、讚美於此，戀著於此而住者。則喜悅、讚美於此；而戀著於此而住者之識，則依止於此，取執於此。諸天之主！有取執之比丘，不得入涅槃。

一〇

諸天之主！於此，或有情現生之不得入涅槃，乃此因、此緣。

一一～一六

諸天之主！眼所識之色快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念，比丘若不喜悅、不讚美於此，不戀著於此而住者，則不喜悅，不讚美於此；不戀著於此而住者之識，則不依止於此，不取執於此。諸天之主！無取執之比丘入於涅槃。諸天之主！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之識……意所識之法快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念，比丘若不喜悅、不讚美於此，不戀著於此而住者，則不喜悅、不讚美於此；不戀著於此而住者之識，即不依止於此，不取執於此。諸天之主！無取執之比丘入於涅槃。

一七

諸天之主！於此，或有情之現生入於涅槃，乃以此因、乃以此緣。」

〔一一九〕第六 五結乾闥婆子

一

爾時，世尊住王舍〔城外〕之靈鷲山。

二

時乾闥婆之子五結，來詣世尊住處，禮拜世尊、立於一面。

〔一二〇〕第七 舍利弗

一

爾時，尊者舍利弗住舍衛〔城外〕之祇陀林給孤獨長者之園。

二

時，有一比丘來詣尊者舍利弗住處，與尊者舍利弗共相問訊，交談親愛懇懃之語後，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘，言尊者舍利弗曰：「友舍利弗！同住之比丘捨棄戒而轉向俗身。」

四

「友！不守諸根之門，不辨食物之量，不專心於覺醒者，當即如是。友！實則彼之比丘者，不守諸根之門，不辨食物之量，不專心於覺醒者，則彼對完具極淨之梵行，欲終生續行，未有如是之理。

五

友！實則彼比丘若守諸根門，辨食物量，專心於覺醒者，彼能終生續行完具之極淨梵行，則有如是之理。

六

友！如何為守諸根之門耶？友！於此有比丘，以眼見色，不執總相，不執別相，彼若不攝護眼根而住者，則以此為因，有貪、憂、惡、不善之法來襲於彼。然而彼為實行攝護其眼根，達到守眼根，眼根之攝護。以耳……以鼻……以舌……以身……以意識法，不執總相，不執別相，彼若不攝護意根而住者，則以此為因，有貪、憂、惡、不善之法來襲於彼。然而彼為實行攝護其意根，達到守意根，意根之攝護。友！如是為守諸根門。

七

友！如何於辨食物之量耶？友！於此有比丘，深思省慮以攝取食物，不為戲奢，不為莊嚴莊飾，只要此身之存住，對此繼續，以防危害，乃為梵行之利益。思：『如是，棄除舊之苦感，不生新之苦感。余有生活之質，無有過誤，應得安樂住。』友！如是於食物辨量。

八

友！如何專心於覺醒耶？友！於此有比丘，於日中因經行安坐，以除心諸障礙之法。於夜之初分，因經行安坐，以除心諸障礙之法，於夜之中分，右脇作獅子臥，以一足疊於另一足，正念正智，胸置起牀之想，而於夜之後分起出，因經行安坐，除心諸障礙之法，友！如是為專心覺醒。

九

然而友！應如是修習：『守我等諸根之門，於食物辨量，專心於覺醒。』友！汝等必如是修習。」

〔一二一〕第八 羅睺羅

一

爾時，世尊住舍衛〔城外〕祇陀林，給孤獨〔長者〕之園。

二

時，世尊獨坐冥想，心起如是之思念：「羅睺羅正完熟解脫之法，我更指教羅睺羅以滅盡諸漏。」

三

於是，世尊於晨早著內衣、持鉢衣，為托鉢赴舍衛城中，食後從托鉢歸來，以呼尊者羅睺羅曰：「羅睺羅！當取座具，我等為日中之休息，往安達林。」

「唯然，大德！」尊者羅睺羅應諾世尊，持坐具隨世尊之後而行。

四

其時，有數千之天神等，亦隨世尊而行：「今日世尊更為指教尊者羅睺羅，於滅盡諸漏。」

五

時，世尊已入安達林，於一樹下坐於所設之座，尊者羅睺羅亦禮拜世尊，坐於一面。世尊言於坐在一面之尊者羅睺羅曰：

六

「羅睺羅！汝於此作如何思惟耶？眼是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我。』如是認識否？」

「不也！大德，非是。」

「色是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

.....

「眼識是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「眼觸是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡以此眼觸為緣所生之受、想、行、識所攝者，此亦是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我。』如是認識否？」

「不也！大德！非是。」

七～一〇

耳是……鼻是……舌是……身是……

一一

「意是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我。』是如認識否？」

「不也！大德！非是。」

「法是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

.....

「意識是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「意觸是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡以此意觸為緣所生之受、想、行、識所攝者，彼亦常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡物之無常，彼是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我。』如是認識否？」

「不也！大德！非是。」

一二

「羅睺羅！如是觀之，有聞聖弟子厭嫌於眼，厭嫌於色，厭嫌於眼識，厭嫌於眼觸，凡以眼觸為緣所生之受、想、行、

識所攝者，亦厭嫌於此……於耳……於鼻……於舌……於身……厭嫌於意，厭嫌於法，厭嫌於意識，厭嫌於意觸，凡以意觸為緣所生之受、想、行、識所攝者，亦厭嫌於此。因厭嫌而離欲，因離欲而得解脫，於得脫而『我解脫』之智生，證知：生已盡、梵行已成、應作已作、更不為如是再生。」

一三

世尊宣說已！尊者羅睺羅心歡喜，歡受世尊之所說。而於此宣說之釋答，尊者羅睺羅無所取著，其心由諸漏解脫。數千之天神等亦起離塵遠垢之法眼，「凡集法者、皆滅法也。」

〔一二二〕第九 繫縛

一

「諸比丘！為說可繫縛之法與繫縛，且諦聽。」

二

諸比丘！何者是可繫縛之法？何者是繫縛耶？

三

諸比丘！以眼所識之色快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念，諸比丘！此等稱為可繫縛之法。凡對此之欲染，此即是繫縛於此。

四～八

諸比丘！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲

念，諸比丘！此等稱為可繫縛之法，凡對此之欲染，即是繫縛於此。」

〔一二三〕第十 取執

一

「諸比丘！為說可取執之法與取執，且諦聽。」

二

諸比丘！何者為可取執之法？何者為取執耶？

三

諸比丘！眼所識之色……

諸比丘！此等稱為可取執之法。凡對此之欲染，即是取執於此。」

世間欲類品第二
(終)

其攝頌曰：

魔索說二經
以世間欲類
又以說二經
帝釋與五結
尊者舍利弗
與及羅睺羅
繫縛與取執
以此名此品

第三 居士品

〔一二四〕第一 毘舍離

一

爾時，世尊住於毘舍離〔城外〕之大林重閣講堂。

二

時，名為郁瞿婁毘舍離之居士，來詣世尊住處……

三

坐於一面之毘舍離人郁瞿婁居士，白世尊曰：「大德！於此或有情於現生不得入於涅槃，以何為因？以何為緣耶？大德！於此而又，或者有情於現生入於涅槃，以何為因？以何為緣耶？」

四

「居士！眼所識之色快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念，比丘若喜悅、讚美於此，戀著於此而住者，則喜悅、讚美於此，戀著於此而住之諸識，則依止於此，取著於此。居士！有取執之比丘，則不入於涅槃。

五～九

居士！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法……居士！有取執之比丘，則不入於涅槃。

一〇

居士！於此，或有情於現生不入於涅槃，即以此為因，以此為緣。

一一～一六

居士！眼所識之色快意、可愛、樂、喜愛，誘生欲念，比丘若不喜悅、不讚美於此，不戀著於此而住者，則不喜悅、不讚美於此，不戀著於此而住者之識，即不依止於此，不取執於此。居士！無取執之比丘，則入於涅槃。居士！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法……居士！無取執之比丘，則入於涅槃。

一七

居士！於此，或有情於現生入於涅槃者，以此為因，以此為緣。」

〔一二五〕第二 發提

一

爾時，世尊住發提族中之發提村。

二

時，名郁瞿婁發提村人之居士，來詣世尊住處……

三

坐於一面之發提村人居士郁瞿婁白世尊曰：「大德！於此，或者有情於現生不入於涅槃，以何為因？以何為緣耶？」

四～一六

〔應如前經之詳說〕

一七

「居士！於此，或者有情於現生入於涅槃，以此為因，以此為緣。」

〔一二六〕第三 那爛陀

一

爾時，世尊住那爛陀之婆瓦利加菴羅林。

二

時，居士優波離，來詣世尊住處……

三

坐於一面之居士優波離，白世尊曰：「大德！於此，或者有情於現生不入於涅槃者，以何為因？以何為緣耶？於此而又，或者有情於現生入於涅槃者，以何為因？以何為緣耶？」

四～一六

〔可照前經之詳說〕

一七

「於此，居士！或者有情於現生入於涅槃，乃以此為因，以此為緣。」

〔一二七〕第四 婆羅陀闍

一

爾時，尊者賓頭羅婆羅陀闍，住憍賞彌國之瞿史羅園。

二

其時，優填那王來詣尊者賓頭羅婆羅陀闍住處，與尊者賓頭羅婆羅陀闍共相問訊，交換親愛懇懃之語後，坐於一面。

三

坐於一面之優填那王言尊者賓頭羅婆羅陀闍曰：「婆羅陀闍！此年輕之比丘等，少年黑髮叢生而多顯活力，以青春盛年之身，無娛於諸欲，一生行完具極淨之梵行，以至終生者，以何為因？以何為緣耶？」

四

「大王！此乃彼之知者、見者、世尊、應供者、正等覺者之所宣說，而曰：『來！諸比丘！汝等對於與母相等年齡之女，當起母心想，對與姊妹相等年齡之女，當起姊妹心想，對於與女兒年齡相等之女，當起女兒心想。』大王！對此亦然，此乃年輕比丘等，少年黑髮叢生而多顯活力，以青春盛年之身，無娛於諸欲，一生行極淨之梵行，以至終生之因、之緣是。」

五

「婆羅陀闍！心乃虛浮者，或將對於與母相等年齡之女亦起欲念，或對與姊妹相等年齡之女亦起欲念，或對於與女兒相等年齡之女亦起欲念。婆羅陀闍！此年輕比丘，少年黑髮……以至終生，或有他因、他緣耶？」

六

「大王！此彼之知者、見者、世尊、應供者、正等覺者之所說。而曰：『來！諸比丘！觀察此身由脚掌以上，由髮梢之下，以至皮膚，乃充滿種種不淨之物。此身有髮、毛、爪、齒、皮膚、肉、筋、骨、骨髓、腎、心、肝、膜、腓、肺、大腸、小腸、胃、糞、膽汁、痰、膿、血、汗、脂、淚、膏、唾、鼻涕、關節液、尿、腦漿等是。』大王！對此亦然，此年輕比丘等，少年黑髮……以至終生之因、之緣。」

七

「婆羅陀闍！有彼等身之修養、有戒之修養、有心之修養、有智之修養者，此乃為之易者。然而婆羅陀闍！無彼等身之修養、無戒之修養、無心之修養、無智之修養者，此乃為之不易。婆羅陀闍！或有人念：『當思惟我之不淨。』彼思惟為淨。此年輕比丘等，少年黑髮……以至終生，有他之因、他之緣耶？」

八

「大王！此乃彼知者、見者、世尊、應供者、正等覺者之所宣說，而曰：『來！諸比丘！汝等為護諸根而住，以眼見色，則不執總相，不執別相。人若不攝護眼根而住者，以此為因，貪、憂、惡、不善之法，則來襲於彼。為實行攝護眼根，守護眼根，以達到攝護眼根。以耳……以鼻……以舌……以身……以意識法，不執總相，不執別相。人若不攝護意根而住者，以此為因，貪、憂、惡、不善法，則來襲於彼。為實行其攝護意根，守護意根，以達到攝護意根。』大王！對此亦然，年輕諸比丘少年黑髮……以至終生之因、之緣。」

九

「尊婆羅陀闍！是不思議，尊婆羅陀闍！是稀有者。尊婆羅陀闍！依彼知者、見者、世尊、應供者、正等覺者之所說，此諸年輕比丘，少年黑髮叢生而多顯活力，以青春盛年之身，無娛於諸欲，終生以行完具極淨梵行之因之緣者。」

一〇

尊婆羅陀闍！余亦曾不守身、不守語、不守心、不樹立正念、不攝護諸根而入後宮，當時過大欲念惱迫余。然而尊婆羅陀闍！余守身、守語、守心、樹立正念、攝護諸根入後宮，當時余未為欲念所惱倒。

一一

奇哉！尊婆羅陀闍！奇哉！尊婆羅陀闍！尊婆羅陀闍恰如倒者起，覆者披露，對迷路者語示以道，於黑闇舉起油燈，言：『有眼者得見。』如是乃明瞭尊婆羅陀闍之說法。尊婆羅陀闍！余歸依彼世尊，亦歸依法與比丘僧，尊婆羅陀闍！願受納余自今日起，終生歸依為信士。」

〔一二八〕第五 須那

一

爾時，世尊住王舍〔城外〕之竹林，迦蘭陀飼養園。

二

其時，居士之子須那來詣世尊住處……

三

坐於一面之居士子須那，白世尊曰：「大德！於此，或有情於現生不得入於涅槃，以何為其因？以何為其緣耶？而又於此，或者有情於現生入於涅槃者，以何為因？以何為緣耶？」

〔如一二七經之詳說〕

「須那！於此，或有情之……以此為因、為緣。」

〔一二九〕第六 瞿史羅

一

爾時，尊者阿難住憍賞彌城之瞿史羅園。

二

時，瞿史羅居士來尊者阿難住處……

三

坐於一面之瞿史羅居士，白尊者阿難曰：「大德阿難！所稱：『種種界，種種界者。』大德！世尊所說幾何之種種界耶？」

四

「居士！有眼界與可意之色，緣眼識與樂感之觸，所生之樂受。居士！有眼界與不可意之色，緣眼識與苦感之觸，所生之苦受。居士！有眼界與可捨之色，緣眼識與非苦非樂所感之觸，所生非苦非樂。」

五～九

居士！耳界與……鼻界與……舌界與……身界與……意界與可意之法，緣意識與樂感之觸，所生之樂受。居士！有意界與不可意之法，緣意識與苦感之觸，所生之苦受。居士！緣意界與捨感之觸，所生之非苦非樂。

一〇

居士！以上乃世尊所說之種種界。」

〔一三〇〕第七 訶梨提迦尼

一

爾時，尊者大迦旃延住阿槃提國之拘羅羅迦羅山中。

二

時，居士訶梨提迦尼，來詣尊者大迦旃延住處……

三

坐於一面之居士訶梨提迦尼，白尊者大迦旃延曰：「大德！『緣種種界，生種種觸，緣種種觸，生受種種受。』此乃世尊之所說示。大德！如何緣種種界，生種種觸，緣種種觸，生種種受耶？」

四

「居士！於此有比丘，以眼見可意之色，知『此為如是』，緣眼識與樂感之觸，生樂受。又以眼見不可意之色，知『此為如是』，緣眼識與苦感之觸，生苦受。又以眼見可捨之色，知『此為如是』，緣眼識與非苦非樂感之觸，生非苦非樂。」

五～九

復次，居士！以耳聞可意之聲……以鼻嗅可意之香……以舌味可意之味……以身觸可意之觸……以意識可意之法，知『此為如是』，緣意識與樂感之觸，生樂受。又以意識不可意之法，知『此為如是』，緣意識與苦感之觸，生苦受。又以意識可捨之法，知『此為如是』，緣意識與非苦非樂感之觸，生非苦非樂。

一〇

如是，居士！緣種種界，生種種觸，緣種種觸，生種種受。」

〔一三一〕第八 那拘羅父

一

爾時，世尊住跋伽國失悅摩羅山恐怖林之鹿苑中。

二

時，那拘羅父居士，來詣世尊住處……

三

坐於一面之那拘羅父居士，白世尊曰：「大德！於此或有情於現生不得入於涅槃，以何為因？以何為緣耶？大德！於此，或者有情於現生入於涅槃者，以何為因？以何為緣耶？」

四～九

「居士！有眼所識之色……

一〇

居士！於此，或者有情於現生，不得入於涅槃，以此為因、以此為緣。

一一～一六

居士！有眼所識之色……

一七

居士！於此，或者有情於現生，入於涅槃者，以此為因、以此為緣。」

〔一三二〕第九 魯醯遮

一

爾時，尊者大迦旃延住阿槃提國之摩羯羅迦多城外森林中之草庵。

二

時，魯醯遮婆羅門之眾多弟子，採薪之青年等，來詣尊者大迦旃延之草庵，於其周圍徘徊巡行，以高聲、大聲，行種種之挑戲言：「此等圓頭之似非沙門，乃由梵天足部所生之邪黑醜奴，此等唯為擔荷夫所恭敬、尊重、供養、禮讚者。」

三

於是，尊者大迦旃延出精舍來，告此等青年曰：「汝青年等！勿作響，我為汝等說法。」作如是言時，彼青年等默然而止。

四

時尊者大迦旃延，以偈語告此青年等曰：

- （一）「此等猶憶古法之古婆羅門，以戒為第一，而以壓其忿，其守諸根門，是為善護持。
- （二）此等猶憶古法之古婆羅門，喜歡法與禪，但今婆羅門，則言：『吾等摒棄此，而不予問聞。』誇醉於本族，則以行非事。
- （三）違背於怯弱好勇之徒者，為忿之所壓，執種種刀杖，不守諸根門，而勤空勞者，猶人夢得財。
- （四）斷食露地臥，晨早之水浴，讀誦三吠陀，著粗獸皮衣，結髮及塗泥，持咒〔取〕戒禁，〔實履〕苦行者。
- （五）詐術及曲杖，以水拭顏面，以此等明為，婆羅門要具，為生小利者。
- （六）能獲於禪定，清澄而無濁，對一切生類，無邪障之心，而此始可達，至於梵天道。」

五

因此，此青年等怒而思不快意，來至魯醯遮婆羅門之處，以告彼曰：「尊者！願有所知，沙門大迦旃延只管嘲罵婆羅門之神咒。」如是言時，魯醯遮婆羅門怒而思不快意。

六

魯醯遮婆羅門心更思念：「我僅聞此青年等之言，則謗罵沙門大迦旃延，此於我為不適宜。我當赴彼住處而問。」

七

因此，魯醯遮婆羅門與此等青年，共赴尊者大迦旃延住處，與尊者問訊、交談親愛懇懃之語後，坐於一面。

八

坐於一面之魯醯遮婆羅門，語尊者大迦旃延語曰：「迦旃延！余之眾多弟子，採薪之青年等，來此處否？」

「婆羅門，汝之眾多弟子，採薪之青年等曾來此處。」

「尊者迦旃延與此等青年之間，有何等之談話否？」

「婆羅門！余與此等青年之間曾有談話。」

「尊者迦旃延與此等青年之間，有如何之談話耶？」

「婆羅門！余與此等青年之間有如是之談話：

（一）『此等猶憶古法之古婆羅門，以戒為第一，而以壓其忿，其守諸根之門，是為善護持。……

（二）能獲於禪定，澄清而無濁，對一切生類，無邪障之心，而此始可達，至於梵天道。』

婆羅門！余與此等青年之間，作如是談話。」

九

「尊者迦旃延！所言『不守護諸根門』者，迦旃延！幾何為不守護諸根門耶？」

一〇

「婆羅門！於此，有人以眼見色，則心傾於可愛之色，則背拂於不可愛之色，不能使正念現前，缺乏思慮而住；又不如實知彼心解脫、慧解脫，則彼所起之惡、不善之諸法，不能消滅無餘。

一一～一五

以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法，心傾可愛之法，背拂於不可愛之法，不能使正念現前，缺乏思慮而住；又不如實知心解脫、慧解脫，則彼所起之惡、不善之諸法，不能消滅無餘。

一六

婆羅門！如是為不守護諸根門者。」

一七

「尊者迦旃延！是不思議。尊者迦旃延！是稀有。尊者迦旃延！以不守護諸根門者，說不守護諸根門。尊者迦旃延！所言『守護諸根門』，尊者迦旃延！幾何為守護諸根門耶？」

一八

「婆羅門！於此，有比丘以眼見色，則心不傾於可愛之色，不背拂於不可愛之色，使正念現前，無量思慮而住；又如實知彼心解脫、慧解脫，彼所起之惡、不善法，則消滅無餘。

一九～二三

以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸於所觸……以意識法，心不傾於可愛之法，不背拂於不可愛之法，使正念現前，無量思慮而住；又如實知彼心解脫、慧解脫。彼所起之惡、不善法，則消滅無餘。

二四

婆羅門！如是則為守護諸根門。」

二五

「尊者迦旃延！是不思議！尊者迦旃延！是稀有！尊者迦旃延乃以守護諸根門者，說示守護諸根門。奇哉！尊者迦旃延！奇哉！尊者迦旃延！尊者迦旃延恰如使倒者起，覆者顯露，迷道者得示以道，如黑闇中舉起油燈，使『有眼者得見』，如是，尊者迦旃延以種種方法，說法使明瞭。尊者迦旃延！余即歸依彼世尊，亦歸依法及比丘僧。尊者迦旃延！容納余從今日起，終生歸依為信士；尊者迦旃延若入摩羯羅多信士之家時，即請應入魯醯遮之家，於此，或青年男子或青年女子，當禮敬、迎拜尊者迦旃延，又有供奉座席與水者，此乃為彼等長時利益安樂。」

〔一三三〕第十 毘紐迦旃延婆羅門尼

一

爾時，尊者優陀夷住拘繫荼〔城〕兜泥耶婆羅門之菴羅林中。

二

時，一青年為伊羅越奢利族出身之婆羅門女之弟子，來至尊者優陀夷住處……

三

尊者優陀夷對坐於一面之青年說法教示，感動勉勵，使令善悅。

四

時，彼青年依尊者優陀夷之說法教示，為所感動勉勵、喜悅而從座起。來詣伊羅越奢利族所出之婆羅門女處，對彼女語曰：「惟願大姊當知，沙門優陀夷能說初善、中善、終善，具足意義言句之法，說明一切具脩滿淨之梵行。」

五

「然者，汝青年！且以吾之名，招請沙門優陀夷，明日受供食。」

「唯唯，大姊！」青年應諾彼伊羅越奢利族出身之婆羅門女，即詣尊者優陀夷住處，而白尊者語曰：「尊者優陀夷！吾等之師伊羅越奢利族所出之婆羅門女，請尊者承諾明日受供食。」

尊者優陀夷默然許諾。

六

於是，尊者優陀夷其夜過後，晨朝著內衣，持鉢、衣，入伊羅越奢利族所出婆羅門女住處。坐於所設之座。

七

其時，伊羅越奢利族所出之婆羅門女，以勝味之硬軟食物，親手飽滿供養尊者優陀夷。

八

時，伊羅越奢利族出身之婆羅門女，知尊者優陀夷取食終了，手已離鉢。穿履覆頭坐於高座，白尊者優陀夷曰：「沙門！請說法要。」

「姊妹！時機將來。」言罷即從座起而離去。

九

彼青年又詣尊者優陀夷住處，與尊者相問訊、交談親愛懇懃之話後，坐於一面。尊者優陀夷對坐於一面彼青年說法，教導勸勵使令欣悅。

一〇

彼青年又以尊者優陀夷所說法之教導勸勵、喜悅，而從座起，來詣伊羅越奢利族出身之婆羅門女處，言於彼女曰：「惟願大姊當知，沙門優陀夷說初善、中善、終善，具足意義文句之法，說明一切具脩滿淨之梵行。」

一一

「青年！汝如是讚歎沙門優陀夷。然余亦請於沙門優陀夷：『沙門！請說法要。』」彼言：『姊妹！時機將來。』即從座起而去。」

一二

「雖然如是，然而大姊！汝穿履覆頭坐高座作如是言：
『沙門！請說法要。』彼尊者則尊法、重法者。」

一三

「然者，青年！汝以吾之名，招請沙門優陀夷明日來受供食。」

「唯然，大姊！」青年應諾伊羅越奢利族出身之婆羅門女，來詣尊者優陀夷住處，語尊者曰：「尊優陀夷！吾等之師伊羅越奢利族出身之婆羅門女，請明日應諾供食。」

尊者優陀夷默然許諾。

一四

於是，尊者優陀夷其夜過後，晨早著內衣，持鉢、衣，入伊羅越奢利族出身之婆羅門女處，坐於所設之座。

一五

時，伊羅越奢利族出身之婆羅門女，以勝味之硬軟食物，親手供養尊者優陀夷至飽滿。

一六

伊羅越奢利族出身之婆羅門女，知尊者優陀夷取食終了，手已離鉢，則脫履露頭坐低座，而白尊者優陀夷曰：「大德！何物之所存，阿羅漢說苦樂耶？何物之不存，阿羅漢不說苦樂耶？」

一七

「姊妹！眼之所存，阿羅漢說苦樂，眼之不存，阿羅漢不說苦樂。耳之所存……鼻之所存……舌之所存……身之所存……意之所存，阿羅漢說苦樂，意之不存，阿羅漢不說苦樂。」

一八

如是言已。伊羅越奢利婆羅門女自尊者優陀夷曰：「奇哉！大德！奇哉！大德！尊者優陀夷恰如使倒者起，覆者顯露，迷路者語示以道，黑闇中舉油燈，使『有眼者得見』，如是尊優陀夷以種種方法，說法使明曉。尊者優陀夷！於此吾當歸依彼世尊，歸依法及比丘僧，惟願尊者優陀夷容納吾自今日起，終生歸依為信女。」

居士品第三
(終)

其攝頌曰：

毘舍離伐地
以及那蘭陀
與婆羅陀闍
須那瞿師羅
及訶梨陀迦
那拘羅之父
乃至魯醯遮
毘紐迦旃延
與婆羅門尼

第四 提婆陀訶品

〔一三四〕第一 提婆陀訶

一

爾時，世尊住釋迦國名為提婆陀訶之釋迦族村。

二

於此，世尊呼諸比丘曰：「諸比丘！余未言，所有之比丘於六觸處要作不放逸，且諸比丘！余亦未言所有之比丘於六觸處不須作不放逸。」

三

諸比丘！彼等比丘乃漏盡之阿羅漢，梵行已立、所作已辦、重擔已捨、自利已達，盡於生有之纏結，完全已證解脫者。諸比丘！此等之比丘，余不須言於六觸處作不放逸。何以故？

四

彼等之已成不放逸，彼等已能不再放逸。

五

諸比丘！彼等有學之比丘，未達所願，以求無上安穩（涅槃）而住者，諸比丘！此等之比丘於六觸處，余言要作不放逸。何以故？

六

諸比丘！眼所識之色，有快意，有不快意，此等快、不快之色，以觸彼心，觸而不存著於此。因心無執著，則起精進無動，不失正念現前，身體輕安而無狂躁，心住於定，集中於一頂點。諸比丘！余實言觀此不放逸之果，此等比丘於六觸處要作不放逸。

七～一一

諸比丘！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法，有快意亦有不快意，此等快與不快之法，以觸彼等之心，觸而不存著於此。因無執著於心，則起精進無動，不失正念現前，身體輕安無狂躁，心住於定，集中於一點。諸比丘！余實言觀此不放逸之果，此等比丘於六觸處要作不放逸」。

〔一三五〕第二 執著

※二

「諸比丘！此是汝等之利得，汝等之善利。諸比丘！汝等為得住梵行之好機。

三

諸比丘！余見名為六觸處所屬之地獄。於此凡以眼見色，僅見不樂之色，不見樂色；僅見不可愛之色，不見可愛之色；僅見不喜之色，不見可喜之色。凡以耳聞聲……凡以鼻嗅香……凡以舌味味……凡以身觸觸……凡以意識法，唯識不樂之法，不識樂法；唯識不可愛之法，不識可愛之法；唯識不可喜之法，不識可喜之法。諸比丘！此乃汝等之利得，汝等之善利。諸比丘！汝等為得住梵行之好機。

四

諸比丘！余見名為六觸處所屬之天。於此，凡以眼見色，唯見樂色，不見不樂色；唯見可愛之色，不見不可愛之色；唯見可喜之色，不見不可喜之色。凡以耳聞聲……凡以鼻嗅香……凡以舌味味……凡以身觸觸……凡以意識法，唯識樂

法，不識不樂法；唯識可愛之法，不識不可愛之法；唯識可喜之法，不識不可喜之法。

諸比丘！此乃汝等之利得，汝等之善利。諸比丘！汝等為得住梵行之好機。」

〔一三六〕第三 不執著

二

「諸比丘！諸天及世人乃以色為遊園，為色所刺激，因色之變壞、離背、滅盡，諸比丘！諸天及世人乃住於苦。以聲為遊園……以香為遊園……以味為遊園……以觸為遊園……以法為遊園，為法所刺激，因法之變壞、離背、滅盡，諸比丘！諸天世人乃住於苦。

三

諸比丘！如來、應供者、正等覺者，如實知色之生起與滅沒，甘味、患難與出離，不以色為遊園，不為色所刺激，因色之變壞、離背、滅盡，諸比丘！如來住於安住。」

四

世尊如是宣說，善逝如是說已，師更言於此曰：

（一）「色、聲、香、味、觸與一切之法，謂可樂可愛又可意，乃有限者。

（二）此等於人天世界以為安樂，此等之所滅，此乃彼等之思苦。

（三）己身滅盡，於聖者雖見為樂，但一切世間之所見，則反於此。

（四）為他（愚者）言樂，而聖者於此則言苦；在他言苦，聖者則知此為樂。

（五）觸之法難知，無智者乃惑此，為煩惱所覆者則黑闇，不見者則有盲冥。

（六）善人開涅槃之道，知見之人，於此有光明，熟於大法之人，則知近於此。

（七）為生有之欲所服者，隨行於生有之流者，入於魔王之領域者，則不知此法。

（八）除聖者，誰正知涅槃之道，善知此道而漏盡之人，乃入於般涅槃。

五

諸比丘！諸天及世人以色為遊園，為色所刺激，因色之變壞、離背、滅盡，諸比丘！諸天世人乃住於苦。以聲……以香……以味……以觸……以法……

六

諸比丘！如來、應供者、正等覺者為……」

〔一三七〕第四 惡意者（一）

※二

「諸比丘！凡非汝等之有者，皆當放捨，能放捨者，乃為汝等之利得安樂。

諸比丘！何物為非汝等之所有？

三～八

諸比丘！眼非汝等之所有，當放捨，能放捨者，乃為汝等得利益安樂。耳……鼻……舌……身……意非汝等之所有，當放捨，能放捨者，乃為汝等得利益安樂。

九

諸比丘！譬如於此祇陀林，人人對於草薪枝葉，或運走，或燃燒，或各隨所好而處理。人人將『吾等』或運去，或燃燒，或各隨所好而予處理。汝等有如是之思否？」

「大德！不也。」

「何以故？」

「大德！此非我，此非我之所屬。」

一〇

「如是，諸比丘！汝等之眼，此非汝等之所有，當放捨，汝等由於捨此者，乃為利益安樂。耳是……鼻是……舌是……身是……意是非汝等之所有，當放捨，汝等由於捨此者，乃為利益安樂。聲是……香是……味是……觸是……法是……。」

〔一三八〕第五 惡意者（二）

※二

「諸比丘！凡非汝等之所有者，當予放捨，因汝等之棄捨，此為汝等之利益安樂。

諸比丘！何者為非汝等之所有？

三～八

諸比丘！色非汝等之所有，當放捨，因汝等之放捨，乃為利益安樂。聲是……香是……味是……觸是……法是非汝等之所有，當放捨，因汝等之放捨，此為利益安樂。

九

諸比丘！譬如於此祇陀林……

一〇

如是諸比丘！色非汝等之所有，當放捨，因汝等之放捨，乃為利益安樂。聲是……香是……味是……觸是……法是……。」

〔一三九〕第六 內因（一）

※三

「諸比丘！眼是無常。眼生起之因、緣者，此亦是無常。

諸比丘！依無常所生之眼，如何有常住？

四～八

諸比丘！耳是……鼻是……舌是……身是……意是無常，意生起之因、緣者，亦是無常。諸比丘！依無常所生之意，如

何有常住？

九

諸比丘！如是見之，有聞聖弟子厭嫌於眼……更如是證知：不再生來。」

〔一四〇〕第七 內因（二）

※三

「諸比丘！眼是苦。眼生起之因、緣者，亦是苦。諸比丘！依苦所生之眼，如何有樂？

四～八

諸比丘！耳是……鼻是……舌是……身是……意是苦，意生起之因、緣者，亦是苦。諸比丘！依苦所生之法，如何有樂？

九

諸比丘！如是見之，有聞聖弟子厭嫌於色……更如是證知：不再生來。」

〔一四一〕第八 內因（三）

※三

「諸比丘！眼是無我。眼生起之因、緣者，亦是無我。諸比丘！依無我所生之眼，如何有我？

四～八

諸比丘！耳是……鼻是……舌是……身是……意是無我。
意生起之因、緣者，亦是無我。諸比丘！依無我所生之意，如何有我？

九

諸比丘！如是見之，有聞聖弟子厭嫌於眼……更如是證知：不再生來。」

〔一四二〕第九 外因（一）

※三

「諸比丘！色是無常，色生起之因、緣者，亦是無常。諸比丘！依無常所生之色，如何有常？

四～八

諸比丘！聲是……香是……味是……觸是……法是無常。
法生起之因、緣者，亦是無常。諸比丘！依無常所生之法，如何有常？

九

諸比丘！如是見之，有聞聖弟子厭嫌於色……更如是證知：不再生來。」

〔一四三〕第十 外因（二）

※三

「諸比丘！色是苦，色生起之因緣者，亦是苦。諸比丘！依苦所生之色，如何有樂？

四～八

諸比丘！聲是……香是……味是……觸是……法是苦，法生起之因、緣者，亦是苦。諸比丘！依苦所生之法，如何有樂？

九

諸比丘！如是見之，有聞聖弟子厭嫌於色……更如是證知：不再生來。」

〔一四四〕第十一 外因（三）

※三

「諸比丘！色是無我。色生起之因、緣者，亦是無我。諸比丘！依無我所生之色，如何有我？

四～八

諸比丘！聲是……香是……味是……觸是……法是無我。法生起之因、緣者，亦是無我。諸比丘！依無我所生之法，如何有我？

九

諸比丘！如是見之，有聞聖弟子厭嫌於色……更如是證知：不再生來。」

提婆陀訶品第四
（終）

此攝頌：

以提婆陀訶
執著不執著
惡意者有二
依因而有三
乃至內外二

第五 新舊品

〔一四五〕第一 業

※二

「諸比丘！余說新舊之業，業之滅盡，以達業滅盡之道。
且諦聽，當善思惟，余將宣說。

三

諸比丘！以何者為舊業？眼是所作為、所思念、所感覺之
舊業之所成。耳……鼻……舌……身……意是所作為、所思
念、所感覺之舊業之所成。

諸比丘！此稱之舊業。

四

諸比丘！以何為新業？諸比丘！於如何之業，如今於身、
於語、於意所作者，諸比丘！此稱為新業。

五

諸比丘！何者是業之滅盡？諸比丘！凡任何由身業、語
業、意業之滅盡而觸解脫者，諸比丘！此即稱為業之滅盡。

六

諸比丘！以何者為達業滅盡之道！

此乃八支聖道，即：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。

諸比丘！此者稱為達業滅盡之道。

七

如是，諸比丘！我為汝等說舊業、說新業、說業之滅盡、說達業滅盡之道。

八

諸比丘！凡求利益，具有慈悲之師，而為弟子垂慈悲者，我為汝等已作畢。

九

諸比丘！當於此等之樹下，或於此等之空屋行禪思，諸比丘！不為放逸，後日即無所悔。此乃我為汝等之教誡。」

〔一四六〕第二 有驗（一）

※二

「諸比丘！我為汝等說涅槃（成就）有驗之道，且諦聽，當善思惟，我即說之。諸比丘！何者為涅槃（成就）有驗之道？」

三

諸比丘！於此，有比丘見眼是無常，見色是無常，見眼識是無常，見眼觸是無常，見凡緣眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦皆是無常。

四～八

耳是……鼻是……舌是……身是……意是無常。見法是無常，見意識是無常，見意觸是無常，見凡緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦皆無常。

九

諸比丘！此即彼達涅槃（成就）之道。」

〔一四七〕第三 有驗（二）

※二

「諸比丘！我為汝等說涅槃（成就）有驗之道，且諦聽……諸比丘！以何者為達涅槃（成就）有驗之道耶？」

三

諸比丘！於此，有比丘見眼是苦，見色是苦，見眼識是苦。見眼觸是苦，凡緣眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦皆苦。

四～八

見耳是……鼻是……舌是……身是……見意是無常，見法是無常，見意是無常，見意觸是無常。凡緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，見此亦皆是無常。

九

諸比丘！此即彼達涅槃（成就）有驗之道。」

〔一四八〕第四 有驗（三）

※二

「諸比丘！我為汝等說涅槃（成就）有驗之道，且諦聽……諸比丘！以何者為涅槃（成就）有驗之道耶？

三

諸比丘！於此，有比丘見眼是無我，見色是無我，見眼識是無我，見眼觸是無我，凡見緣眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是無我。

四～八

耳……鼻……舌……身……意……

九

諸比丘！此即彼涅槃（成就）有驗之道。」

〔一四九〕第五 有驗（四）

※二

「諸比丘！我為汝等說涅槃（成就）有驗之道，且諦聽……諸比丘！以何為涅槃（成就）有驗之道？

三

諸比丘！汝等如何思惟於此：眼是常住耶？抑無常耶？」

「大德！此是無常。」

「凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我。』如是認識否？」

「大德！非是。」

「色是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「眼識是……眼觸是……凡緣眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「凡物之無常，是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」

「凡物之無常、是苦而變壞之法，以『此是我所，此是我，此是我之我。』如是認識否？」

「大德！非是。」

四～八

耳是……鼻是……舌是……身是……意是……

九

「諸比丘！如是見之，有聞聖弟子厭嫌於眼，厭嫌於色，厭嫌於眼識，亦厭嫌於眼觸……凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦厭嫌此。因厭嫌而離欲……證知：不為如是再生。

一〇

諸比丘！此即彼達涅槃（成就）之道。」

〔一五〇〕第六 內住

※三

「諸比丘！當修此無內住、無師範之梵行。

四

諸比丘！住於有內住、有師範之比丘，是苦而不安穩，住於無內住、無師範之比丘，是安穩於安樂。

五

諸比丘！住於有內住、有師範之比丘，如何為苦而不安穩耶？

六

諸比丘！於此有比丘，以眼見色、有憶念、有志望，為結縛之緣，於彼起諸惡不善法。此等住彼之內心，『於彼之內心，住於諸惡不善之法』，因此稱為內住；此等亦軌示於彼，『諸惡不善之法，軌示於彼』，因此稱為有師範。

七～一一

諸比丘！復次有比丘，以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味
味……以身觸觸……以意識法而有憶念、有志望，為結縛之
緣，彼起諸惡不善法。此等住彼之內心，『彼之內心，住諸惡
不善法』，因此稱為內住；此等亦軌示於彼，『諸惡不善法，
軌示於彼』，因此稱為有師範。

一二

諸比丘！如是，住於有內住、有師範之比丘，是苦不安
穩。

一三

諸比丘！如何是住於無內住、無師範之比丘，是安穩於安
樂耶？

一四

諸比丘！於此有比丘，以眼見色，有憶念、有志望，結縛
為緣之諸惡不善法，於彼不起。此等不住於彼之內心，『彼之
內心，不住諸惡不善法』，因此彼稱為無內住；此等亦不軌示
於彼，『諸惡不善之法，不軌示於彼』，因此彼稱為無師範。

一五～一九

諸比丘！復次，有比丘以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味
味……以身觸觸……以意識法，有憶念、有希望，結縛為緣之
諸惡不善法，於彼不起。此等不住於彼之內心，『彼之內心，
不住諸惡不善之法』，因此稱為無內住；此等亦不軌示於彼，
『諸惡不善之法，不軌示於彼』，因此稱為無師範。

二〇

諸比丘！如是，住於無內住、無師範之比丘，安穩於安樂。諸比丘！修此無內住、無師範之梵行。

二一

諸比丘！住於有內住、有師範之比丘，是苦而不安穩者。住於無內住、無師範之比丘，安穩於安樂。」

〔一五一〕第七 何功德

※三

「諸比丘！若外道徧行者等，如是問於汝等：『諸朋友！於沙門瞿曇之處修梵行，有何功德耶？』諸比丘！彼如是問汝等，應如是釋答此外道徧行者。

四

『朋友等！為苦之了知，於世尊之處修梵行。』

五

然而諸比丘！若外道徧行者之徒，如是以問汝等：『為苦之了知，於沙門瞿曇處修梵行。其苦者為何耶？』彼若如是問者，諸比丘！對如是之問汝等，應如是釋答此外道徧行者等。

六～一一

『朋友等！眼是苦，為知此苦，於世尊之處修梵行。色是苦，為知此苦，於世尊之處修梵行。眼觸是苦，為知此苦，於

世尊之處修梵行。……緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是苦也。為了知此苦，而於世尊之處修梵行。

一二

朋友等！為了知此苦，而於世尊之處修梵行。其苦即此。』

一三

諸比丘！彼如是問汝等，應如是釋答此外道徧行者等。」

〔一五二〕第八 有因由耶

※三

「諸比丘！有依因由之比丘，不依信，不依愛好，不依傳聞，不依因由之論辯，不依樂著於推理玄想，證知：『生已盡、梵行已修、所作已辦、不為如是再生。』如是因由對他釋答耶？」

四

「大德！我等之法，當以世尊為根本……」

五

「諸比丘！有因由、依因由之比丘，不依信，不依愛好，不依傳聞，不依理由之論辯，不依樂著於推理玄想，以『生已盡……不來生。』對他作如是釋答。」

六

諸比丘！有依因由之比丘，不依信用，不依愛好，不依傳聞，不依理由之論辯，不依樂著於推理玄想，而以『生已盡……不再來生。』如是向他作釋答，其因由者何耶？

七

諸比丘！於此有比丘，以眼見色，或內有貪、瞋、癡，知：『我內有貪、瞋、癡。』或內無貪、瞋、癡，知：『我內無貪、瞋、癡。』諸比丘！比丘以眼見色，或內有貪、瞋、癡，知：『我內有貪、瞋、癡。』或內無貪、瞋、癡，知：『我內無貪、瞋、癡。』諸比丘！此等之諸法，或依信而知耶？或依愛好而知耶？或依傳聞而知耶？或依因由之論辯而知耶？或依樂著於推理玄想而知耶？」

「大德！不然，依此等之任何亦不得知。」

「諸比丘！此等之諸法，非依智慧可知見耶？」

「大德！誠然。」

「諸比丘！此乃其因由，依此因由之比丘，不依信用，不依愛好，不依傳聞、不依理由之論辯，不依樂著於推理玄想，以『生已盡……不再來生。』如是釋答於他。」

八～一二

諸比丘！復次有比丘，以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法，或於內有貪、瞋、癡，知：『我內有貪、瞋、癡。』或內無貪、瞋、癡，知：『我內無貪、瞋、癡。』諸比丘！比丘以意識法，或於內有貪、瞋、癡，知：『我內有貪、瞋、癡。』或內無貪、瞋、癡，知：『我內無貪、瞋、癡。』諸比丘！此等之諸法，或依信而知

耶？或依愛好而知耶？或依傳聞而知耶？或依理由之論辯而知耶？或依樂著於推理玄想而知耶？」

「大德！不然，依此等之任何亦不得知。」

「諸比丘！此等諸法非依智慧可知見耶？」

「大德！誠然。」

一三

「諸比丘！此為其因由，依此因由之比丘，不依信用，不依愛好，不依傳聞，不依理由之論辯，不依樂著於推理玄想，以『生已盡……不再生來。』如是釋答於他。」

〔一五三〕第九 諸根

※二

爾時，有一比丘來詣世尊住處……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：「大德！所稱：『諸根具足，諸根具足者。』大德！幾何為諸根之具足耶？」

四

「比丘於眼根若見生起、壞滅而住，則厭嫌於眼根，於耳根……於鼻根……於舌根……於身根……於意根若見生起、壞滅而住者，則厭嫌於意根，因厭嫌而離欲……於得脫，有得脫之智慧，證知：生已盡、梵行已住、所作已辦、不為如是再生。」

五

比丘！以上為諸根具足也。」

〔一五四〕第十 說法者

※二

爾時，有一比丘來詣世尊住處……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：「大德！所稱：『說法者，說法者。』大德！如何為說法者耶？」

四

「比丘若為眼之厭嫌、為離欲、為滅盡而說法者，此足以稱為說法比丘。比丘若為眼之厭嫌、為離欲、為滅盡而履行者，此足以稱為法隨法行之比丘。比丘若依眼之厭嫌、依離欲、依滅盡，無取著得解脫者，此足以稱達現法涅槃之比丘。」

五～九

比丘若為耳之厭嫌……鼻之……舌之……身之……意之離欲、為滅盡而說法者，此足以稱為說法比丘。比丘若為意之厭嫌、為離欲、為滅盡而行者，此足以稱為法隨法行之比丘。比丘若依意之厭嫌、依離欲、依滅盡，無取著而得解脫者，此足以稱為達現法涅槃之比丘。」

新舊品第五
(終)

此攝頌：

業四之有驗
無住何功德
有因由諸根
以依說法者
此等稱為十

此品之攝頌：

安穩者世間
居士提婆訶
此依於新舊
謂第三五十

第四 五十〔經〕品

第一 喜悅消盡品

〔一五五〕第一 喜悅消盡品（一）

※三

「諸比丘！比丘以無常之眼，見是無常，此始為正見。由正照觀而厭嫌，由悅喜之消盡則有染欲之消盡，由染欲之消盡則有喜悅之消盡，由喜悅染欲之消盡則稱為心之善解脫。」

四～八

諸比丘！比丘以見耳為無常……以見鼻……以見舌……以見身……以見意為無常，此為正見。由正照觀而厭嫌，由喜悅之消盡則有染欲之消盡，由染欲之消盡則有喜悅之消盡，由喜悅染欲之消盡，則稱為心善解脫。」

〔一五六〕第二 喜悅消盡（二）

※三

「諸比丘！比丘以無常之色，見為無常，此為正見。由正照觀而厭嫌，由喜悅之消盡則有染欲之消盡，由染欲之消盡則有喜悅之消盡，由喜悅染欲之消盡則稱為心善解脫。」

四～八

諸比丘！比丘以無常之聲……香……味……觸……法，見為無常，此為正見。由正照觀而厭嫌，由喜悅之消盡則有染欲之消盡，由染欲之消盡則有喜悅之消盡，由喜悅染欲之消盡，則稱為心善解脫。」

〔一五七〕第三 喜悅消盡（三）

※三

「諸比丘！於眼當正思惟，亦須如實認識眼之無常。諸比丘！於眼當正思惟，如實認識眼是無常之比丘，厭嫌於眼，由喜悅之消盡則有染欲之消盡，由染欲之消盡則有喜悅消盡，由喜悅染欲之消盡，當則稱為心善解脫。」

四～八

諸比丘！於耳當正思惟……於鼻……於舌……於身……於意當正思惟，亦須如實認識意之無常。諸比丘！於意當正思惟，如實認識意無常之比丘，厭嫌於意。由喜悅之消盡則有染欲之消盡，由染欲之消盡則有喜悅之消盡，由喜悅染欲之消盡，則稱為心善解脫。」

〔一五八〕第四 喜悅消盡（四）

※三

「諸比丘！於色當正思惟，亦須如實認識色之無常。於色當正思惟，如實認識色無常之比丘，厭嫌於色。由喜悅之消盡則有染欲之消盡，由染欲之消盡則有喜悅之消盡，由喜悅染欲之消盡，則稱為心善解脫。

四～八

諸比丘！於聲當正思惟……於香……於味……於觸……於法當正思惟，如實認識法無常之比丘，厭嫌於法。由喜悅之消盡則有染欲之消盡，由染欲之消盡則有喜悅之消盡，由喜悅染欲之消盡，則稱為心善解脫。」

〔一五九〕第五 耆婆菴羅林（一）

一

爾時，世尊住王舍城外之耆婆菴羅林。

二

於此，世尊言諸比丘曰：「諸比丘！」……

三

「諸比丘！須修定。諸比丘！獲得定之比丘，顯現於如實。何者為顯現於如實耶？

四

『眼是無常』是如實顯現，『色是無常』是如實顯現，
『眼識是無常』是如實顯現，『眼觸是無常』是如實顯現，

『凡緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是無常』是如實顯現。

五～九

『耳是無常』是如實顯現……『鼻是……舌是……身是……意是無常』是如實顯現，『法是無常』是如實顯現，『意識是無常』是如實顯現，『意觸是無常』是如實顯現，『凡依緣意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是無常』是如實顯現。

一〇

諸比丘！須修定！得定之比丘是如實顯現。」

〔一六〇〕第六 耆婆菴羅林（二）

一

爾時，世尊住王舍城〔外之〕耆婆菴羅林。

二

於此，世尊言諸比丘曰：「諸比丘！」……

三

「諸比丘！應將心專致於寂想。諸比丘！入於寂想之比丘如實顯現。何者為如實顯現耶？」

四～九

『眼是無常』是如實顯現，『耳是無常』是如實顯現……
『鼻是……舌是……身是……意是無常』是如實顯現……『凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦無常』是如實顯現。

一〇

諸比丘！應將心專致於寂想，入於寂想之比丘是如實顯現。」

〔一六一〕第七 拘瑟他迦（一）

※二

其時，尊者摩訶拘瑟他迦來詣世尊住處……

三

坐於一面之尊者摩訶拘瑟他迦，白世尊曰：「大德！願世尊為我略說示法要，我聞世尊之此法，則獨自遠離其他，以不放逸，專心精進而住。」

「拘瑟他迦！凡是無常者，汝對此應捨欲。拘瑟他迦！何者為無常耶？」

四

拘瑟他迦！眼是無常，汝對此應捨欲。色是無常，汝對此應捨欲。眼識是無常，汝對此應捨欲。眼觸是無常，汝對此應捨欲。緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是無常，汝對此應捨欲。

五～九

拘瑟他迦！耳是無常……鼻是……舌是……身是……意是無常，汝對此應捨欲。法是無常，汝對此應捨欲。意識是無常，汝對此應捨欲。意觸是無常，汝對此應捨欲。凡依緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是無常，汝對此應捨欲。

一〇

拘瑟他迦！凡是無常者，汝對此應捨欲。」

〔一六二〕第八 拘瑟他迦（二）

※二～三

爾時，尊者拘瑟他迦……「……專心精進而住。」

「拘瑟他迦！凡苦者，汝對此應捨欲。拘瑟他迦！何者是苦耶？」

四

拘瑟他迦！眼是苦，汝對此應捨欲。色是苦，汝對此應捨欲。眼識是苦，汝對此應捨欲。眼觸是苦，汝對此應捨欲。凡依緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，此亦是苦。

五～九

拘瑟他迦！耳是苦……鼻是……舌是……身是……意是……意觸是……凡緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是苦。汝對此應捨欲。

一〇

拘瑟他迦！凡是苦者，汝對此應捨欲。」

〔一六三〕第九 拘瑟他迦（三）

※二～三

爾時，尊者拘瑟他迦……「……專心精進而住。」

「拘瑟他迦！凡無我者，汝對此應捨欲。拘瑟他迦！何者是無我耶？」

四

拘瑟他迦！眼是無我，汝對此應捨欲。色是無我，汝對此應捨欲。眼識是無我，汝對此應捨欲。眼觸是無我，汝對此應捨欲。凡依緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是無我，汝對此應捨欲。

五～九

拘瑟他迦！耳是無我……鼻是……舌是……身是……意是……意觸是……凡依緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是無我。汝對此應捨欲。

一〇

拘瑟他迦！凡是無我者，汝對此應捨欲。」

〔一六四〕第十 邪見

※二

時，有一比丘來詣世尊住處……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：「大德！如何知、如何見者，得捨棄邪見耶？」

四～九

「比丘！知、見眼是無常者，得捨棄邪見。知、見色是無常者，得捨棄邪見。知、見眼識是無常者，得捨棄邪見。知、見眼觸是無常者，得捨棄邪見……耳……鼻……舌……身……意……凡依緣此意觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知、見是無常者，得捨棄邪見。」

一〇

比丘！如是知、如是見者，得捨棄邪見。」

〔一六五〕第十一 己身見

※二～三

……白曰：「大德！如何知、如何見者，得捨棄己身見耶？」

四～九

「比丘！以知、見眼是苦者，得捨棄己身見。知、見色是苦者，得捨棄己身見。知、見眼識是苦者，得捨棄己身見。以知、見眼觸是苦者，得捨棄己身見。凡依緣此眼觸所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知、見是苦者，得捨棄己身見。以耳……以鼻……以舌……以身……以意……凡依緣意觸所生

之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知、見是苦者，得捨棄己身見。

一〇

比丘！如是知、如是見者，得捨棄己身見。」

〔一六六〕第十二 我

※二～三

……白言：「大德！如何知、如何見者，得捨棄我隨見耶？」

四～九

「比丘！以知、見眼是無我者，得捨棄我隨見，以知、見色是無我者，得捨棄我隨見，以知、見眼識是無我者，得捨棄我隨見，以知、見眼觸是無我者，得捨棄我隨見，凡以眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知、見是無我者，得捨棄我隨見。以耳……以鼻……以舌……以身……以意……凡依緣意識所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦知、見是無我者，得捨棄我隨見。」

一〇

比丘！如是知、如是見者，得捨棄我隨見。」

消盡喜悅品第一
(終)

此攝頌：

悅喜消盡有四經
耆婆菴羅林二經
拘瑟他迦有三經
次邪己身我隨見

第二 六十乃至廣說〔品〕

〔一六七〕

第一 欲念（一八經）（一）

※三

「諸比丘！凡無常者，汝等對此應捨欲念。諸比丘！何者為無常耶？」

四～九

諸比丘！眼是無常，汝等對此應捨欲貪，耳是……鼻是……舌是……身是……意是無常，汝等對此應捨欲念。

一〇

諸比丘！凡無常者，汝等對此應捨欲念。」

第二 欲念（二）

※三

「諸比丘！凡無常者，汝等對此應捨染心。諸比丘！何者為無常耶？」

四～九

諸比丘！眼是無常，汝等對此應捨染心。耳是……鼻是……舌是……身是……意是無常。汝等對此應捨染心。

一〇

諸比丘！凡無常者，汝等對此應捨染心。」

第三 欲念（三）

※三

「諸比丘！凡無常者，汝等對此應欲染。諸比丘！何者為無常耶？」

四～九

諸比丘！眼是無常，汝等對此應欲染。耳是……鼻是……舌是……身是……意是無常，汝等對此應捨欲染。

一〇

比丘等！凡無常者，汝等對此應捨欲染。」

〔一六八〕第四、五、六 欲念（四、五、六）

※三

「諸比丘！凡苦者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。諸比丘！何者為苦耶？」

四～九

諸比丘！眼是苦，汝等對此應捨欲，應捨欲貪，應捨貪。耳是……鼻是……舌是……身是……意是苦，汝等對此應捨

欲，應捨貪，應捨欲貪。

一〇

諸比丘！凡苦者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。」

〔一六九〕第七、八、九 欲念（七、八、九）

※三

「諸比丘！凡無我者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。諸比丘！何者是無我耶？

四～九

諸比丘！眼是無我，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。耳是……鼻是……舌是……身是……意是無我，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。

一〇

諸比丘！凡無我者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。」

〔一七〇〕第十、十一、十二 欲念（一〇、一一、一二）

※三

「諸比丘！凡無常者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。諸比丘！何者是無常耶？

四～九

諸比丘！色是無常，汝等此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。
聲是……香是……味是……觸是……法是無常，汝等對此應捨
欲，應捨貪，應捨欲貪。

一〇

諸比丘！凡無常者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲
貪。」

〔一七一〕第十三、十四、十五 欲念（一三、一四、一
五）

※三

「諸比丘！凡苦者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲
貪。諸比丘！何者是苦耶？

四～九

諸比丘！色是苦，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。
聲是……香是……味是……觸是……法是苦，汝等對此應捨
欲，應捨貪，應捨欲貪。

一〇

諸比丘！凡苦者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲
貪。」

〔一七二〕第十六、十七、十八 欲念（一六、一七、一
八）

※三

「諸比丘！凡無我者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。諸比丘！何者是無我耶？」

四～九

諸比丘！色是無我，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。聲是……香是……味是……觸是……法是無我，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。

一〇

諸比丘！凡無我者，汝等對此應捨欲，應捨貪，應捨欲貪。」

〔一七三〕

第十九 過去（九經）（一）

※三～九

「諸比丘！過去之眼是無常，過去之耳、鼻、舌、身、意是無常。

一〇

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子厭嫌於耳、厭嫌於鼻、厭嫌於舌、厭嫌於身、厭嫌於意，由厭嫌而離欲，由離欲而得解脫，於解脫『我得解脫』智生。證知：生已盡、梵行已立、應作已作、不為如是再生。」

第廿 過去（二）

※三～八

「諸比丘！未來之眼是無常，未來之耳、鼻、舌、身、意是無常。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……更不為如是再生。」

第廿一 過去（三）

※三～八

「諸比丘！現在之眼是無常，現在之耳、鼻、舌、身、意是無常。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……不為如是再生。」

〔一七四〕第廿二～廿四 過去（四～六）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之眼是苦，過去、未來、現在之耳、鼻、舌、身、意是苦。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……更不為如是再生。」

〔一七五〕第廿五～廿七 過去（七～九）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之眼是無我。過去、未來、現在之耳、鼻、舌、身、意是無我。

九

諸比丘！如是觀之，有聞弟子……證知……更不為如是再生。」

〔一七六〕第廿八～卅〇 過去（一〇～一二）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之色是無常，過去、未來、現在之聲、香、味、觸、法為無常。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……更不為如是再生。」

〔一七七〕第卅一～卅三 過去（一三～一五）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之色是苦，過去、未來、現在之聲、香、味、觸、法是苦。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……不為如是再生。」

〔一七八〕第卅四～卅六 過去（一六～一八）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之色是無我，過去、未來、現在之聲、香、味、觸、法是無我。」

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……更不為如是再生。」

〔一七九〕

第卅七 凡無常者（一八經）（一）

※三～八

「諸比丘！過去之眼是無常。凡無常者，是苦。凡苦者，是無我。凡無我者是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。過去之耳、鼻、舌、身、意是無常。凡無常者，是苦。凡苦者，是無我。凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。」

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……更不為如是再生。」

第卅八 凡無常者（二）

※三～八

「諸比丘！未來之眼是無常。凡無常者，是苦。凡苦者，是無我。凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。未來之耳、鼻、舌、身、意是無常。凡無常者，是苦。凡苦者，是無我。凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……更不為如是再生。」

第卅九 凡無常者（三）

※三～八

「諸比丘！現在之眼是無常。凡無常者，是苦。凡苦者，是無我。凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。現在之耳、鼻、舌、身、意是無常。凡是無常者，是苦。凡是苦者，是無我。凡是無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……更不為如是再生。」

〔一八〇〕第四十～四十二 凡無常者（四～六）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之眼是苦。凡苦者，是無我。凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。過去、未來、現在之耳、鼻、舌、身、意是苦。凡苦者，是無我，凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……更不為如是再生。」

〔一八一〕第四十三～四十五 凡無常者（七～九）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之眼是無我，凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。過去、未來、現在之耳、鼻、舌、身、意是無我，凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子……證知……更不為如是再生。」

〔一八二〕第四十六～四十八 凡無常者（一〇～一二）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之色是無常；凡無常者，是苦，凡苦者，是無我；凡無我者，是『此非我所，非我，非我

之我。』如是應以正智慧如實而見。過去、未來、現在之聲、香、味、觸、法是無常；凡無常者，是苦；凡苦者，是無我；凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』應以正智慧如實而見。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子，證知……更不為如是再生。」

〔一八三〕第四十九～五十一 凡無我者（一三～一五）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之色是苦，凡苦者，是無我，凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。過去、未來、現在之聲、香、味、觸、法是苦，凡苦者，是無我，凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子，證知……更不為如是再生。」

〔一八四〕第五十二～五十四 凡無我者（一六～一八）

※三～八

「諸比丘！過去、未來、現在之色是無我，凡無我者，是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。過去、未來、現在之聲、香、味、觸、法是無我，凡無我者，

是『此非我所，非我，非我之我。』如是應以正智慧如實而見。

九

諸比丘！如是觀之，有聞聖弟子、證知……更不為如是再生。」

〔一八五〕

第五十五 內（三經）（一）

※三～八

「諸比丘！眼是無常，耳、鼻、舌、身、意是無常。

九

如是觀之有聞聖弟子，證知……。」

第五十六 內（二）

※三～八

「諸比丘！眼是苦；耳、鼻、舌、身、意是苦。

九

如是觀之有聞聖弟子，證知……。」

第五十七 內（三）

※三～八

「諸比丘！眼是無我，耳、鼻、舌、身、意是無我。

九

如是觀之有聞聖弟子，證知……。」

〔一八六〕

第五十八 外（三經）（一）

※三～八

「諸比丘！色是無常，聲、香、味、觸、法是無常。」

九

如是觀之有聞聖弟子，證知……。」

第五十九 外（二）

※三～八

「諸比丘！色是苦，聲、香、味、觸、法是苦。」

九

如是觀之有聞聖弟子，證知……。」

第六十 外（三）

※三～八

「諸比丘！色是無我，聲、香、味、觸、法是无我。」

九

如是觀之有聞聖弟子，證知……。」

六十乃至廣說品
(終)

其攝頌：

欲念十八經
過去九經二
無常說十八
內外各為三
六十至廣說
日親佛陀說
此等六十經

第三 海品

〔一八七〕第一 海（一）

※二

「諸比丘！無聞之凡夫，所言：『海、海』者，諸比丘！
於聖者之教，此非海。諸比丘！此乃大水之積集，大水流。

三

諸比丘！以眼為人之海，其急流乃色所成。凡人之能堪
〔受〕此色所成之急流者，諸比丘！此婆羅門能度有濤、有漩
渦，鬼羅剎所棲之眼海。超越於此者，稱為到彼岸立於陸上。

四～八

諸比丘！耳是……鼻是……舌是……身是……意是人之
海，其急流為法所成。凡人能堪〔受〕此法所成之急流者，諸
比丘！此婆羅門能度有濤、有漩渦，鬼羅剎所棲之意海。超越
於此者，稱為到彼岸立於陸上。」

九

師於此宣曰：

度波濤難海
水鬼羅剎棲
得彼最高智
梵行已住立
稱達世之極
到達於彼岸

〔一八八〕第二 海（二）

※二

「諸比丘！無聞之凡夫，所言：『海、海』者，諸比丘！於聖者之教，此非海。諸比丘！此乃大水之積集，大水流。

三

諸比丘！眼所識之色快意、可愛、樂、喜，誘生欲念，諸比丘！此於聖者之教稱為海。於此，含括於天、魔、梵之世界，含括於沙門、婆羅門、天、人間，多為沈沒，如纏絲，如覆腫物，似文邪草、婆羅婆草，不得超越離去處、惡趣、極墮處、輪迴。

四～八

諸比丘！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法快意、可愛、樂、喜者，誘生欲念，此於聖者之教，稱為海。於此含括於天、魔、梵之世界，含括於沙門、婆羅門、天、人間，多為沈沒，如纏之絲，如覆

腫物，似文邪草、婆羅婆草，不得超越離去處、惡趣、極墮處、輪迴。」

〔一八九〕第三 漁夫

※二

「凡人若離染欲、瞋恚、無明者，彼則能度此水鬼羅剎所棲而有波濤難渡之海。

超者以捨死
以竭盡有質
彼為不再生
入捨苦滅沒
於生者之量
余離卻死王

三

諸比丘！恰如漁夫，將附餌之釣鉤投於深湖水，有一貪餌具眼之魚，將此嚥下。諸比丘！如是吞嚥漁夫之餌鉤之此魚，陷於不運，陷於破滅，變成漁夫之所欲。同此，諸比丘！如此等六種餌之於此世，乃為有情類之不運，為有情類之毀損。何者為其六種耶？

四

諸比丘！眼所識之色快意、可愛、樂、喜者，誘生欲念，比丘若悅喜、讚美於此，對此戀著而住者，諸比丘！此比丘即是嚥下魔之釣餌，陷於不運，陷於破滅，成為波旬之所欲。

五～九

諸比丘！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法快意、可愛、樂、喜者，誘生欲念，比丘若悅喜、讚美於此，戀著於此而住者，諸比丘！此比丘即是嚙下魔之釣餌，陷於不運，陷於破壞，成為波旬之所欲。

一〇

諸比丘！眼所識之色快意、可愛、樂、喜者，誘生欲念，比丘若不悅喜、不讚美於此，不戀著於此而住者，諸比丘！此比丘則不吞嚙魔之釣餌，并折鉤摧釣，則不陷於不運，不陷於破壞，不成為波旬之所欲。

一一～一五

諸比丘！耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識法之快意、可愛、樂、喜者，誘生欲念，比丘若不悅喜、不讚美於此，不戀著於此而住者，諸比丘！此比丘則不吞嚙魔之釣餌，并折鉤摧釣，不陷於不運，不陷於破壞，不成為波旬之所欲。」

〔一九〇〕第四 乳樹

※二～六

「諸比丘！即使任何之比丘或比丘尼，彼於眼所識之色有染欲者、有瞋恚者、有愚癡者，於未捨其染欲，未捨瞋恚，未捨愚癡，若以少分眼所識之色，出而來至彼之視路者，則其壓服彼之心，況且於多分耶？此何故耶？諸比丘！有此染欲，有此瞋恚，有此愚癡，尚未捨其染欲，尚未捨其瞋恚，尚未捨愚癡之故……

七

諸比丘！即使任何之比丘或比丘尼，彼對意所識之法，有此染欲者，有此瞋恚者，有此愚癡者，而尚未捨其染欲，尚未捨瞋恚，尚未捨愚癡，若以少分意所識之法，若有出來而至彼之視路者，則其壓服彼之心，況且於多分耶？何以故？諸比丘！有此染欲，有此瞋恚，有此愚癡，尚未捨其染欲，尚未捨瞋恚，尚未捨愚癡之故。

八

諸比丘！恰似乳樹，或似阿說他、或尼拘律、或畢路叉、或烏畢婆羅之幼小少者。有人為『出其乳』以銳利之斧，處處得傷之耶？」

「誠然，大德！有此事。」

「何以故？」

「大德！有乳者，以致此。」

九

「諸比丘！同此，即使任何之比丘或比丘尼，彼於眼所識之色，有此染欲者，有此瞋恚者，有此愚癡者，尚未捨其染欲，尚未捨其瞋恚，尚未捨其愚癡，若以少分眼所識之色，出來而至彼之視路，則其壓服彼之心，況且於多分耶？何以故？諸比丘！有此染欲，有此瞋恚，有此愚癡，尚未捨其染欲，尚未捨瞋恚，尚未捨愚癡之故……。」

一〇～一五

諸比丘！即使任何之比丘或比丘尼，於眼所識之色，無此染欲者，無此瞋恚者，無此愚癡者，已捨其染欲，已捨其瞋恚，已捨其愚癡者，則假令多分之眼識之色，出而來至彼之視路，此等亦不能壓服彼之心，況且於少分耶？何以故？諸比丘！無此欲染，無此瞋恚，無此愚癡故。……

一六

諸比丘！恰似乳樹，或似阿說他、或尼拘律、或畢路叉、或烏畢婆羅之年老已枯萎無汁之老樹，有人為『出其乳』以銳利之斧處處傷之耶？」

「不也，大德！無此事。」

「何以故？」

「大德！乃無乳故。」

「諸比丘！同此，即使任何之比丘或比丘尼，彼於眼所識之色，無此染欲者，無此瞋恚者，無此愚癡者，而已捨其染欲，已捨瞋恚，已捨愚癡，則假令多分之眼所識之色，雖出而至於彼之視路，此等亦不能壓服彼心，況且於少分耶？何以故？諸比丘！無染欲，無瞋恚，無愚癡之故……。」

〔一九一〕第五 拘絺羅

一

爾時，尊者舍利弗與尊者大拘絺羅，住於婆羅奈〔城外〕之仙人墮處鹿林中。

二

時，尊者大拘絺羅，一日由夕暮之時，從獨思而起，至尊者舍利弗住處，與尊者舍利弗共相問訊，交談親密、懇懃之話後，坐於一面。

三

坐於一面之尊者大拘絺羅，告尊者舍利弗曰：「友舍利弗！眼是諸色之繫縛耶？諸色是眼之繫縛耶？如何？耳……鼻……舌……身……意是諸法之繫縛耶？諸法是意之繫縛耶？如何？」

四

「友拘絺羅！眼非諸色之繫縛，諸色非眼之繫縛，於此兩者，為緣所生之欲染，此始為繫縛。耳……鼻……舌……身……意非諸法之繫縛，諸法非意之繫縛，於此，凡此兩者為緣所生之欲染，此始為繫縛。」

五

友！恰如：有黑色之牛與白色之牛，以一鎖或索將之結合，若言黑牛繫縛白牛，或白牛繫縛黑牛者，彼作如是言者，彼語為正語否？」

「友！不然。」

「友！黑牛非繫縛白牛，白牛亦非繫縛黑牛，兩者若以一鎖或索將之結合，此始為繫縛。同此，友！眼非諸色之繫縛，諸色非眼之繫縛，於此，凡以此兩者為緣所生之欲染，此始為繫縛。耳……鼻……舌……身……意非諸法之繫縛，諸法非意之繫縛，於此，凡以此兩者為緣，所生之欲染，此始為繫縛。」

六

友！若眼為諸法之繫縛，若諸色為眼之繫縛者，此梵行即不能善滅盡苦。友！眼非諸色之繫縛，諸色非眼之繫縛，於此兩者為緣而生欲染，此始為繫縛，是故梵行能善滅盡苦。
耳……鼻……舌……身……意非諸法之繫縛，諸法非意之繫縛，於此兩者為緣而生欲染，此始為繫縛，是故梵行乃能滅盡苦。

七

友！依此之理，亦當知於此。眼非諸法之繫縛，諸法非眼之繫縛，於此，凡以此兩者為緣所生之欲染，此始為繫縛。
耳……鼻……舌……身……意非諸法之繫縛，諸法非意之繫縛，於此，凡以兩者為緣所生之欲染，此始為繫縛。

八

友！世尊有此眼，世尊以眼見色，世尊無欲染，世尊善得心解脫。耳……鼻……舌……身……世尊有此意，世尊以意識法，世尊無欲染，世尊善得心解脫。

九

友！依此理，亦當知於此。眼非諸法之繫縛，諸法非眼之繫縛，於此，凡以此兩者為緣所生之欲染，此始為繫縛。
耳……鼻……舌……身……意非諸法之繫縛，諸法非意之繫縛，於此，凡以此兩者為緣所生之欲染，此始為繫縛。」

〔一九二〕第六 迦摩浮

爾時，尊者阿難與尊者迦摩浮住於憍賞國之瞿史羅園。

二

時，尊者迦摩浮，一日由夕暮之時，從獨思而起，來至尊者阿難住處，與尊者阿難共相問訊，交談親密、懇懃之話已，坐於一面。

三

坐於一面之尊者迦摩浮，告尊者阿難曰：「友阿難！眼是諸色之繫縛耶？諸色是眼之繫縛耶？如何？耳諸聲之……鼻諸香之……舌諸味之……身諸觸之……意是諸法之繫縛耶？諸法是意之繫縛耶？如何？」

四

「友迦摩浮！眼非諸色之繫縛……

五

友！恰如有黑色之牛與白色之牛，以一鎖或索將之結合……於此，凡以此兩者為緣所生之欲染，此始為繫縛。」

〔一九三〕第七 優陀夷

一

爾時，尊者阿難與尊者優陀夷，住於憍賞彌國之瞿史羅園。

二

其時，尊者優陀夷，一日夕暮之時，從獨想而起，行至尊者阿難之處。……坐於一面。

三

坐於一面之尊者優陀夷，告尊者阿難曰：「友阿難！世尊用種種之方便，以說明此身，此身無我。如是之說示，亦同此言識以說告、顯示、分別、明瞭而謂識是無我，得如是言否？」

「友優陀夷！世尊用種種之方便，說明此身，此身無我。如是之說，亦同此言識以說告、顯示、分別、明瞭而謂識是無我，得作如是言。」

四～九

「友！以眼與諸色為緣，生眼識否？」

「友！唯然。」

「凡眼識生起之因緣者，其因其緣，一切之一切全無所餘滅盡者，眼識猶可存在耶？」

「不然，友！其不存在。」

「友！世尊以此方便，說明此身，此身無我。如是說示，亦同此言識說告、顯示、分別、明瞭而謂識是無我，得作如是言。友！耳與諸聲為緣……鼻與香為緣……舌與味為緣……身與諸觸為緣……意與諸法為緣生意識否？」

「友！唯然。」

「凡意識生起之因、之緣者，其因、其緣一切之一切全無所餘滅盡者，則意識應存在否？」

「不然，友！不存在。」

「友！世尊用此方便，說明此身，此身無我。如是說示，亦同此言識說告、顯示、分別、明瞭而謂識是無我，得作如是言。」

一〇

「友！恰如有人必要樹心，而徘徊求樹心，採樹心，攜持銳利斧入於森林，彼於此處見壯直之大芭蕉樹，生長極高，於是截其根、截根、截頂，截頂取除綠葉，彼於此處尚不得樹膚，何況其樹心耶？」

一一

與此同理。友！比丘於六觸處，不執觀我、我所，彼如是不執觀，則對世之任何物不生執著，不執著則無愛慕，無愛慕則得獨自入於涅槃。證知：生已盡、梵行已立、應作已作，不為如是再生。」

〔一九四〕第八 燃燒

一

「諸比丘！我為汝等說示稱為燃燒法之教法。且諦聽。諸比丘！何者稱為燃燒法之教法耶？」

二

諸比丘！寧以散燒熱之火花，揚其焰，以鐵籌觸於眼根，則對眼所識之色（境），不善仔細執其形相。諸比丘！識之住，或繫於形相之甘味，或繫住於隨相之甘味，而其人於瞬時死去者，則此人墮於地獄或畜生二趣中之一趣，乃有是理。

三

諸比丘！余見此患難，作如是言：『諸比丘！莫如以散熱火花，揚其焰，以銳利之鐵杭觸於耳，則對耳所識之聲，不善仔細執其形相。諸比丘！於識之住……』

四

諸比丘！余見此之患難，作如是言：『諸比丘！莫如以散熱火花，揚其焰，以銳利爪刀觸其鼻根，對鼻所識之香，不善仔細執其形相。諸比丘！於識之住……』

五

諸比丘！余見此之患難，作如是言：『諸比丘！莫如以散熱火花，揚其焰，以銳利之刀觸其舌根，則對舌所識之味（境），不善仔細執其形相。諸比丘！於識之住……』

六

諸比丘！余見此之患難，作如是言：『諸比丘！莫如以散熱火花，揚其焰，以銳利之刃物觸其身根，則對身所識之觸（境），不善仔細執其形相。諸比丘！於識之住……』

七

諸比丘！余見此之患難，作如是言：『諸比丘！余言睡眠是生命之不生產、睡眠是生命之不結實、睡眠是生命之愚迷，莫如善其睡眠，則人不為思想之虜者，則不破和合僧。』諸比丘！余見此過誤患難，作如是言。

八

諸比丘！此處有聞之聖弟子，如是熟思之：『以散燒熱火花，揚其焰，以鐵籌觸眼根。今我對此思惟：「如是眼是無常、諸色是無常、眼識無常、眼觸是無常。凡以此眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是無常。」

九

散其熾熱火花，揚其焰，以銳利之鐵杭觸於耳根。今我對此思惟：「如是耳是無常、諸聲是無常、耳識是無常、耳觸是無常。凡以耳觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦是無常。」

一〇

散其熾熱火花，揚其焰，以銳利之爪刀觸於鼻根。今我對此思惟……

一一

散其熾熱火花，揚其焰，以銳利之剃刀觸於舌根。今我對此思惟……

一二

散其熾熱火花，揚其焰，以銳利之刃物觸於身根。我今對此思惟……

一三

睡眠，如是。我今對此思惟：「如是意是無常、諸法是無常、意識是無常、意觸是無常，凡以此意觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，其亦是無常。」』

一四

如是觀之有聞聖弟子，厭嫌於眼，厭嫌於色，厭嫌於眼識，厭嫌於眼觸，以眼觸為緣所生之受，或樂、或苦、或非苦非樂，亦厭嫌之……因厭嫌而離欲，因離欲而得解脫，因得脫而『我得解脫』之智生。證知：生已盡、梵行已立、應作已作、不再為如是生。

一五

諸比丘！此稱為燃燒法之教法。」

〔一九五〕第九 手足喻（一）

一

「諸比丘！有手知把拋，有足知進退，有臂知屈伸，有腹知飢渴。

二

同此，諸比丘！有眼，緣眼觸生內部之樂苦。有耳……有鼻……有舌……有身……有意，緣意觸生內部之樂苦。

三

諸比丘！無手則不知把拋，無足則不知進退，無臂則不知屈伸，無腹則不知飢渴。

四

同此，諸比丘！若無眼者，則緣眼觸不生內部之樂苦，無耳則……無鼻則……無舌則……無身則……無意則緣意觸不生內部之樂苦。」

〔一九六〕第一〇 手足喻（二）

一～四

「諸比丘！有手則有把拋，有足則有進退，有臂則有屈伸，有腹則有飢渴……無意則依意觸之緣，而不生內部之樂苦。」

海品第三〔終〕

此攝頌：

海經二漁夫
乳樹拘絺羅
迦摩優陀夷
燃燒於第八
手足喻二經
此稱第三品

第四 毒蛇品

〔一九七〕第一 毒蛇

一～二

如是我聞。一時，世尊於舍衛城……告諸比丘曰：

三

「諸比丘！恰有威光熾燃而毒氣猛烈之四毒蛇。有一好生惡死、欲樂厭苦之人來，告眾人曰：『友！對此威光熾燃而毒氣猛烈之四毒蛇，汝應時時使之覺醒，時時予以沐浴，

時時予以飲食，時時使之入穴。友！對此等威光熾燃而毒氣猛烈之四毒蛇，若彼〔蛇〕對汝生怒者，汝因此，則逢死或逢等於死之苦。汝當作汝所應作。』

四

其時，諸比丘！此人恐懼此威光熾燃而毒氣猛烈之四毒蛇，或逃往他處，告眾人曰：『友！於此有五名殺人之怨敵，由背後追汝。見汝隨即奪汝命。友！當作汝所應作。』

五

其時，諸比丘！此人恐懼威光熾燃而毒氣猛烈之四毒蛇，恐懼於五名殺人之怨敵，而逃往他處，告眾人曰：『友！第六拔利刃闖入之殺人者，則由背後追汝。見汝隨地落汝之首。友！當作汝所應作。』

六

其時，諸比丘！此人恐懼威光熾燃而毒氣猛烈之四毒蛇，恐懼於五名殺人之怨敵，恐懼第六拔利刃之闖入殺人者，而逃往他處。彼見一村落，房屋皆空虛而無人住，入而手取任何空虛器物告眾人曰：『友！今群盜來破壞此空虛廢棄之村落，友！當作汝所應作。』

七

其時，諸比丘！此人恐懼威光熾燃而毒氣猛烈之四毒蛇，恐懼五名殺人之怨敵，恐懼拔第六利刃之闖入殺人者，恐懼破壞村落之群盜，而逃往他處，彼恐怖於大水流之此岸，但彼岸則安穩無怖恐，卻無船可渡，又不見往返之渡橋。

八

其時，諸比丘！此人生起如是之念：『此水流甚大，此岸有恐怖，彼岸則安穩無恐怖，而無船可渡，又無往返之渡橋，我採集草木枝葉，以編為筏，依其筏以手足操作，則安全到達彼岸。』

九

諸比丘！此人採集草木枝葉，以編為筏，依此筏以手足操作，安全到達彼岸。婆羅門渡河流，到彼岸立於陸地。

一〇

諸比丘！為使知其意義，余作此譬喻，而其意義即在此。

一一

諸比丘！威光熾燃而毒氣猛烈之毒蛇，此即地界、水界、火界、風界四大之喻語。

一二

諸比丘！五名殺人之怨敵，此即色取蘊，受取蘊，想取蘊，行取蘊，識取蘊之五取蘊喻語。

一三

諸比丘！第六拔利刃之闖入殺人者，此乃喜悅、愛染之喻語。

一四

諸比丘！空虛之村落，此乃六內（處）之喻語。賢明有經驗之智者，若以眼而檢點於此者，則唯見於無，唯見於虛，唯見於空。賢明而有經驗者，若以耳……以鼻……以舌……以身……以意檢點此者，則唯見於無，唯見於虛，唯見於空。

一五

村落破壞之群盜者，諸比丘！此乃六外處之喻語。諸比丘！眼壞於可意不可意之色（境），耳壞於……鼻壞於……舌壞於……身壞於……意壞於可意不可意之法（境）。

一六

諸比丘！大水流者，此乃欲瀑流、有瀑流、見瀑流、明瀑流，此四種瀑流之喻語。

一七

諸比丘！恐怖之此岸，此身見之喻語。

一八

諸比丘！安穩無恐之彼岸者，此涅槃之喻語。

一九

諸比丘！筏者，此即正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定，此八支道之喻語。

二〇

諸比丘！以手足之操作者，此精進努力之喻語。

二一

婆羅門以渡流到彼岸立於陸上者，諸比丘！此阿羅漢之喻語。」

〔一九八〕第二 喜樂

※三

「諸比丘！具有三法之比丘，於現世多住於喜、樂。諸漏滅盡之原由彼亦具有。如何而為三法？乃護於諸根門、知節度於飲食、專心於覺醒。

四

諸比丘！比丘如何護於諸根門耶？

諸比丘！此處有比丘，以眼見色，不執總相，不執別相，彼若不攝護於眼根住者，因此則有貪、憂、惡不善之法來襲於彼，然彼為履行攝護其眼根，守眼根達成攝護眼根。以耳……以鼻……以舌……以身……以意識法，不執總相，不執別相。彼若不攝護意根而住者，以此為因，則貪、憂、惡不善法來襲於彼，然彼為履行攝護意根，守意根，達成攝護意根。

五

諸比丘！恰如於平坦土地之四大路，調適栓繫良馬大車所備之刺針，巧妙之馬術師調馭跨乘其上，左手執手綱，右手握刺針，隨己所欲，往返於所適之方位。諸比丘！同此，比丘為守護修習此六根，為修習制止，為修習調御，為修習安息。

諸比丘！如是之比丘為護諸根門。

六

諸比丘！比丘如何知節度飲食耶？

諸比丘！此處有比丘深為省慮攝取飲食物，不為戲奢，不為莊飾莊嚴，只為住此身，以維持於此，防範危害，為利益梵行。『如是，除舊苦，不生新苦。余有生活之資，無過誤，當有安樂住。』

七

諸比丘！恰如人有傷塗藥，只為其癒，車軸注油，只為其運轉。同此，諸比丘！有比丘深為省慮攝取飲食，不為戲奢……『……安樂而住。』

諸比丘！如是之比丘為知於飲食量。

八

諸比丘！如何比丘為專心於覺醒耶？

諸比丘！比處有比丘，於日中經行安坐，心除諸障礙法。於夜初分經行安坐，心除諸障礙法。於夜中分以右脇作獅子臥，一足疊於一足，以正念正智而起床之想置於胸，而於夜之後分因起而出往經行、安坐，心除諸障礙法。

諸比丘！如是之比丘為專心於覺醒。

九

諸比丘！具此等三法之比丘，於現法多喜樂而住，彼亦具諸漏滅盡。」

〔一九九〕第三 龜

※三

「諸比丘！往昔有龜，夕時沿河岸獵餌。諸比丘！野干亦於夕時沿河岸獵餌。

四

諸比丘！龜見野干由遠而來獵餌，龜將首作第五已肢分，藏於殼中不動，默然而止。

五

諸比丘！野干亦由遠處見龜，見而來至龜處，來則站立龜處〔作念〕：『此龜首為第五，其肢分中，俟其任何肢分轉出時，立即捕彼拉裂而食。』

六

諸比丘！龜首為第五，其肢分中，任何肢分皆不轉出，時野干則不得機會，厭龜而遠去。

七

同於此，諸比丘！魔王波旬亦常時不斷立於汝等之傍：
『願我於此等，或依眼得機會、或依耳……或依鼻……或依
舌……或依身……或依意得機會。』

八

然則，諸比丘！須護於諸根門而住！以眼見色，不執總
相，不執別相，彼若不攝護眼根而住者，因此則貪、憂、惡不
善法來裂於彼。然彼為履行攝護其眼根，守眼根，達成攝護眼
根，以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以
意識法，不執總相，不執別相，彼若不攝護意根而住者，因此
則貪、憂、惡不善法來襲於彼，然彼為履行攝護其意根，守意
根，達成攝護意根。諸比丘！於汝等護守諸根門故，魔王波旬
亦厭汝等而遠去，如野干之不得機會而去。」

如龜肢分藏殼中
思慮比丘無依著
他無傷入於圓寂
任何者皆不得誹

〔二〇〇〕第四 木塊（一）

一

爾時，世尊住於憍賞彌城之恆河畔。

二

世尊，見大木塊於恆河順流而下。見已告諸比丘曰：「諸
比丘！有見大木塊於恆河順流而下否？」

「唯然，大德！有見於此。」

三

「諸比丘！此木塊若不著此岸，不著於彼岸，不沈於流中，不被繫上陸地，不被人取，不被非人取，不被渦流所取，內部不腐敗，諸比丘！如是，其木塊則向海、趣海、而入海。何以故？諸比丘！恆河之流為向海、趣海、而流入於海故。與此同理，諸比丘！汝等若不著此岸，不著於彼岸，不沈於流中，不繫上陸地，不為人取，不為非人取，不為渦流所取，內部不腐敗，諸比丘！如是汝等則向於涅槃、趣於涅槃、而入於涅槃。何以故？諸比丘！正見即為向於涅槃、趣於涅槃、入於涅槃故。」

四

如是說已。一比丘白世尊曰：「大德！何者為此岸？何者為彼岸？何者為沈於流中？何者為繫上陸地？何者為人取？何者為非人取？何者為渦流所取？何者為內部腐敗耶？」

五

「諸比丘！此岸，乃此內六處之喻語。」

六

諸比丘！彼岸，乃此外六處之喻語。

七

諸比丘！沈於流中，乃此喜悅染心之喻語。

八

諸比丘！被繫上陸地，乃此我慢之喻語。

九

諸比丘！何者，是被人取者？此處有比丘與在家混住，共喜悅，共憂苦，於有安樂之眾中則有安樂，於有苦惱之眾中則有苦惱，而起於應作當作之事，自專其心，比丘！此者，稱之為被人所取。

一〇

比丘！何者為被非人取？此處有比丘，或願修梵行入某天子群：『依此戒行，或依梵行，或依苦行、梵行，我成天子或天子群之一。』比丘！此稱之為被非人所取。

一一

比丘！渦流所取者，此為五種欲之喻語。

一二

比丘！何者為內部腐敗者耶？此有比丘，或為邪戒者、惡法者、不淨者、可疑之行為者、覆隱己業者，非沙門而公稱為沙門，非梵行者而公稱為梵行者，內心腐敗，漏泄塵埃之性者。比丘！此稱之為內部腐敗者。」

一三

其時，偶一牧牛者難陀，立於世尊之傍。

一四

時，牧牛者難陀，白世尊曰：「大德！余不著此岸，不著彼岸，不沈流中，不被繫上陸地，不為人取，不為非人取，不

為渦流取，內部不腐敗。大德！我於世尊之處可得出家、可得受戒歟？」

一五

「唯然，難陀！須將牛遣返於主人！」

「大德！撫愛其犢牛等，亦當歸去。」

「難陀！將牛遣還於主人。」

一六

於是，牧牛者難陀，將牛遣還於主人，來詣世尊之住處，白世尊曰：「大德！牛已遣返主人矣。大德！可得於世尊之處出家、受戒耶？」

一七

牧牛者難陀得於世尊之處出家受戒。牧牛者難陀於受戒後不久，唯獨一人遠離其他，精進專心不放逸而住……

一八

尊者難陀，成為阿羅漢之一。

〔二〇一〕第五 木塊（二）

一

如是我聞。爾時，世尊住於欽毘羅城之恆河畔。

二

世尊，見大木塊於恆河順流而下，見已，告諸比丘曰：
「諸比丘！汝等有見大木塊於恆河順流而下否？」

「唯然，大德！見矣。」

三

〔以下同於二〇〇經三節〕

四

如是說已。尊者欽毘羅白世尊曰：「大德！何者為此岸？
何者為彼岸？……」

五～一一

〔以下同於二〇〇經四～一一節〕。

一二

「欽毘羅！何者為內部腐敗者。欽毘羅！此處有比丘！或
知由有污由罪科脫出之道，對此履行。欽毘羅！此稱之為內部
腐敗者。」

〔二〇二〕第六 漏泄

一

爾時，世尊住於釋迦族國，迦毘羅衛之尼拘律園。

二

其時，住迦毘羅衛之釋迦族所新建未久之集會堂，尚未有
沙門婆羅門或其他人等住於此。

三

時，住迦毘羅衛之釋迦族等，來詣世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

四

坐於一面之迦毘羅衛之釋迦族等，向世尊曰：「大德！迦毘羅衛之釋迦族等所新建未久之集會堂，尚無沙門婆羅門或其他人等進住者。大德！世尊請先住用。世尊先用之後，住迦毘羅衛之釋迦族等始當住用。住此迦毘羅衛之釋迦族，乃為長時之利益安樂。」

世尊默然承諾。

五

時，住迦毘羅衛之釋迦族等，知世尊已承諾，乃從座起，禮拜世尊，行右繞禮，赴新集會堂。於集會堂之一面展敷鋪具，設座席，備水甕，挑油燈，然後來詣世尊住處，如是白言：「大德！集會堂之一面已展敷鋪具，設座席，備水甕，挑油燈，今正是時，請受住用。」

六

於是，世尊著內衣，持衣、鉢，與比丘眾同赴新集會堂。洗兩足已，入集會堂，背依中央立柱，面東而坐。比丘眾亦洗兩足，入集會堂，背依西壁，唯以世尊在前，面東而坐。住迦毘羅衛之釋迦族等亦洗兩足，入集會堂，依東壁，唯以世尊在前，面西而坐。

七

其時，世尊當夜以大部分時間，對住迦毘羅衛之釋迦族等以法語鼓勵、激勵之，使之悅喜歸去。曰：「瞿曇等！夜將更曉，汝等當思今正其時。」

「唯然，大德！」住迦毘羅衛之釋迦族等應諾世尊，然後起座，禮拜世尊行右繞禮而去。

八

時，世尊於住毘羅衛之釋迦族等離去不久，言尊者大目犍連曰：「目犍連！比丘眾離卻昏沈睡，目犍連！當由汝為比丘眾說法，余因背部感痛，余欲伸舒背部。」

「唯然，大德！」尊者大目犍連應諾世尊。

九

於是，世尊將僧伽梨衣折為四層，右脇在下，作獅子臥，左足置於右足上，正念正智，胸懷起牀之想。

一〇

於此，尊者大目犍連言比丘眾曰：「友，諸比丘！」

彼比丘眾應諾尊者大目犍連。尊者大目犍連說示如下曰：「諸友！我為汝等說漏泄之教法與不漏泄之教法，於此且諦聽，當善思惟，我此當說。」

彼比丘等應諾尊者大目犍連曰：「唯然，友！」尊者大目犍連如次宣說曰：

一一

「諸友！如何為漏泄耶？」

諸友！此處有比丘，以眼見色，於可愛之色傾心，於不愛之色心相背離。不使正念現前，缺乏思慮而住，又不如實知彼心解脫、慧解脫，彼不能對所起之惡不善法無餘滅盡。以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法、對可愛之法，心予傾向，對不愛之法，心相背離，不得正念現前，缺乏思慮而住，又不如實知彼心解脫、慧解脫，彼不能對所起之惡不善諸法無餘滅盡。

一二

諸友！此比丘於眼所識之色，於耳所識之聲，於鼻所識之香，於舌所識之味，於身所識之觸，於意所識之法，稱之為漏泄。諸友！如是而住之此比丘，魔波旬若為眼而接近者，則魔波旬得機會，得對境。魔波旬若為耳……為鼻……為舌……為身……為意而接近，則魔波旬得機會，得對境。

一三

諸友！恰如蘆葺之家，或草葺之家，乾燥無濕氣，經年古舊，執點火草炬之人，若從東方來者，則得燒其家之機會，得對境。由西方……由北方……由南方……由上方……由下方……無論由任何之方位，執火草炬之人，若來，則得火燒其家之機會，得對境。同於此理，諸友！如是而住之比丘，魔波旬若為眼……為耳……為鼻……為舌……為身……為意而接近，則魔波旬得機會、得對境。

一四

諸友！如是而住之比丘，諸色為勝，而比丘不勝於諸色。諸聲勝於比丘，比丘不勝於諸聲。諸香勝於比丘，比丘不勝於諸香。諸味勝於比丘，比丘不勝於諸味。諸觸勝於比丘，比丘不勝於諸觸。諸法勝於比丘，比丘不勝於諸法。諸友！此比丘為色所勝、為聲所勝、為香所勝、為味所勝、為觸所勝、為法所勝，謂不勝彼等。於染污之性而來再生，則隨有怖畏之苦果，當必至於未來生老死，惡不善之諸法勝於彼。諸友！漏泄即如是。

一五

諸友！如何為不漏泄耶？

諸友！於此有比丘，以眼見色，於可愛之色心不傾，於不愛之色心不背離，正念現前，思慮無量而住，亦如實知彼心解脫、慧解脫，於彼如所起惡不善法無餘滅盡。以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法，於可愛之法心不傾，於不愛之法心不背離，正念現前，思慮無色而住，又如實知彼心解脫、慧解脫，於彼如所起惡不善之法，無餘滅盡。諸友！比丘於眼所識之色不漏泄，於耳所識之聲……於鼻所識之香……於舌所識之味……於身所識之觸……於意所識之法，謂不漏泄。諸友！如是住之此比丘，魔波旬若以眼接近者，則魔波旬不得機會、不得對境。魔波旬若以耳……以鼻……以舌……以身……以意而接近者，魔波旬則不得機會，不得對境。

一六

諸友！或以堅硬之粘土造尖頂閣，或尖頂閣堂，以濕土塗抹。雖有執點火草炬人，由東方來，火亦不能燒其閣之機會與

得對境……由西方來……由北方……由南方……由上方……由下方……由任何方位雖有執火草炬人來，火則不能燒其閣之機會與得對境。同於此理，諸友！如是住之比丘，魔波旬雖以眼……以耳……以鼻……以舌……以身……以意而接近，魔亦不得機會，不得對境。

一七

諸友！如是而住之比丘勝於諸色，諸色不勝於比丘。比丘勝於諸聲，諸聲不勝於比丘。比丘勝於諸香，諸香不勝於比丘。比丘勝於諸味，諸味不勝於比丘。比丘勝於諸觸，諸觸不勝於比丘。比丘勝於諸法，諸法不勝於比丘。諸友！此比丘勝於色、勝於聲、勝於香、勝於味、勝於觸、勝於法，而非謂不勝。彼勝再來生染污之性，勝隨伴有怖畏之苦果，勝當必至於未來生老死、惡不善法者。

諸友！不漏泄即如是。」

一八

是時，世尊起而行出，言尊者大目犍連曰：「善哉！善哉！目犍連！汝為諸比丘說漏泄之教法與不漏泄之教法。」

一九

尊者大目犍連此說已，世尊對此予以認證，歡悅之諸比丘，欣受尊者大目犍連之所說。

〔二〇三〕第七 苦法

※三

「諸比丘！比丘因如實知一切苦法之生起與滅盡，彼見諸欲，彼見諸欲者，則凡於諸欲彼不止住欲貪、欲愛、欲迷、欲惱，彼悟知行與住，如行者、住者，不止住於貪欲、憂惱、邪惡、不善之法。

四

諸比丘！如何比丘以如實知一切法之起與滅盡耶？『色乃如是，色之生起乃如是，色之滅盡乃如是。受乃如是……想乃如是……行乃如是……識乃如是，識之生起乃如是，識之滅盡乃如是。』諸比丘！如是之比丘，如實知一切苦法之生起與滅盡。

五

諸比丘！如何而比丘見諸欲？彼若見諸欲，則不止住於諸欲之欲貪、欲愛、欲迷、欲惱。諸比丘！譬如人於甚深之炭火坑，無焰、無煙而充滿炭火，於此有願生不願死，願樂而厭苦之人來，此人被二人之強有力者，拉其手拖至炭火坑，彼將身屈之，此何故耶？諸比丘！此人知：『我墮此炭火坑者，則以此為因或至死，或逢等於死之苦。』諸比丘！以炭火坑為譬喻，比丘見諸欲，見彼諸欲者，則於一切諸欲彼則不存止於欲貪、欲愛、欲迷、欲惱。

六

諸比丘！如何悟知行與住，如行者、住者不存止於貪欲、憂惱、邪惡不善法？諸比丘！譬如有人入棘多之園，彼之前有棘，後亦有棘，北亦棘，南亦棘，下亦棘，上亦棘。彼以：

『棘勿刺我！』該由何處進或退耶？同於此理，諸比丘！凡世間有可愛之相貌，快意之相貌，此於聖者之教，即為棘。

七

如是知者，當知攝護不攝護。

八

諸比丘！如何為不攝護耶？諸比丘！於此有比丘以眼見色，心傾向於可愛之色，心背離於不愛之色，正念不現前，缺乏思慮而住，又不如實知彼心解脫，不如實知慧解脫，彼所起之惡不善法不能無餘滅盡。以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法……

九

諸比丘！如何為攝護耶？諸比丘！此有比丘，以眼見色，心不傾向於可愛之色，心不背離於不愛之色，正念現前，思慮無量而住，又如實知彼心解脫，如實知慧解脫，彼所起之惡不善法無餘滅盡。以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法。心不傾向於可愛之法，心不背離於不愛之法，正念現前，思慮無量而住，又如實知彼心解脫、慧解脫，如彼所起惡不善之法，以此無餘滅盡。

諸比丘！攝護者，當即如是。

一〇

諸比丘！如是行、如是住之比丘，少時喪失正念，起邪惡不善而有志望之懷念，為結縛之法。諸比丘！正念薄弱，而彼則速捨此，排之、壞之、令歸滅無。諸比丘！譬如於日中熾熱之鐵器上，滴落二、三滴水，其滴若遲落，即消耗迨盡。如是，諸比丘！如是行、如是住之比丘，少時喪失正念，起邪惡

不善而有志望之憶念，為結縛之法。諸比丘！正念之薄弱者，而彼速將捨此、排之、毀之、歸於滅無，令歸於無。

一一

諸比丘！如是，比丘悟知行與住，如是行者、住者，不止住貪欲、憂惱、邪惡不善。諸比丘！此比丘之如是行、如是住，或國王、或王之大臣、朋友、血緣、親族等，即作是言：『汝來！如何為此袈裟衣而惱？如何汝禿頭持而往來耶？汝來！還汝卑俗之身，受用財寶，須行善業。』並持來財寶供奉。諸比丘！彼如是行、如是住，捨戒、還卑俗人之身，無有如是之道理。

一二

諸比丘！譬如恆河向東、趣東、流東、而大群眾攜鍬與籠，來令『此恆河向西、趣西。』諸比丘！當如何思惟於此？彼大群眾可得將此恆河向西、趣西、流西否？」

「大德！不然。」

「此何故耶？」

「大德！恆河乃向東、趣東、流東者，令此向西、趣西、流西為不易。復次，此大群眾必終至疲困。」

一三

「同於此理，諸比丘！如是行、如是住之此比丘，或國王、或王之大臣、朋友、血緣、親族等，作是言：『汝來！如何為此袈裟衣而令汝惱？如何汝禿頭持，來往？汝來！還汝卑俗人之身，以受用財寶，須行善業。』諸比丘！如是行、如是

住之此比丘，捨戒、還卑俗人之身者，無有如是之道理。何以故？諸比丘！無論如何之心，長時向遠離、趣遠離、專注遠離者，其轉向於卑，無有如是之道理。」

〔二〇四〕第八 緊叔迦

※二

時，一比丘至另一比丘住處。此比丘問曰：「友！如何者，比丘之見為清淨耶？」「友！比丘如實知六觸處之生起與滅盡。友！比丘之見因之為清淨。」

三

時，彼比丘對比丘之釋答，因不得滿足，而赴一比丘住處，問此比丘曰：「友！如何者，比丘之見為清淨耶？」

「友！比丘如實知五取蘊之生起與滅盡故，友！比丘之見為清淨。」

四

時，彼比丘不滿足此比丘釋答，而赴一比丘處，問此比丘言：「友！比丘！為如實知四大有生起之滅盡故，友！如何者，比丘之見為清淨耶？」

五

「友！比丘凡如實知生起之法，皆是滅法故，友！此比丘之見為清淨。」

六

時，彼比丘不滿足此比丘之釋答，而來至世尊住處。禮拜世尊，坐於一面。坐於一面之彼比丘向世尊曰：「大德！於此，余在一比丘處，問彼比丘曰：『友！如何者，比丘之見為清淨耶？』大德！彼比丘對余答曰：『友！比丘如實知六觸處之生起與滅盡故，友！比丘之見因之為清淨。』時，余不滿足於彼比丘之釋答而至另一比丘處，問彼比丘曰：『友！如何者，比丘之見為清淨耶？』大德！彼比丘對余答曰：『友！如實知五取蘊之……四大有之……凡生起之法，皆為滅之法。友！比丘之見因之為清淨。』時，大德！余不滿足彼比丘之釋答，乃來至世尊處。大德！如何者，比丘之見為清淨耶？」

七

「比丘！譬如有人從未曾見緊叔迦者，彼或到曾見緊叔迦之男處，問曰：『仁者！緊叔迦為如何耶？』彼答曰：『仁者！緊叔迦乃為黑者，宛如燒杭。』比丘！其時緊叔迦一如斯男之所見。於是，比丘不滿足其男之釋答，或到另一曾見緊叔迦之男處，問其男曰：『仁者！緊叔迦為如何耶？』彼答曰：『仁者！緊叔迦為赤者，宛然如肉片。』諸比丘！其時，緊叔迦即如彼男之所見然。於是……『緊叔迦以皮剝、焚破、宛然如尸利沙……』……如是言：『仁者！緊叔迦乃枝葉密茂，蔭濃如尼拘律樹。』比丘！其時，緊叔迦即如彼男所見然。比丘！依彼等之信憑，此等善人照純清之所見，此等善人為釋答者。

八

比丘！譬如國王之邊土都城基礎堅牢，城壁有六座堅牢之門，於其處有賢明有能、有智之門衛，以遮止不知者，令知者通過。時由東方急來二使者，對其門衛如是問曰：『仁者！此

都城之主於何處耶？』彼門衛答曰：『德者！彼坐於中央之四衢街路。』於是彼二急來使者，向城主如實將使命傳達，即順來路歸去。由西方……由北方急來二使者，向其門衛如是問曰：『仁者！此都城之城主於何處耶？』彼門衛對彼答曰：『德者！彼坐於中央之四衢街路。』於是彼二急來之使者，如實向城主以使命傳達之，即順來路歸去。

九

比丘！余作此譬喻，為令知其意義，其意義則如是。比丘！都城者，即由此四大所成，父母所生，粥飯所積，無常、蝕壞、磨消、破損、潰、滅之法，即此身之喻語。

比丘！六門者，此六內處之喻語。

比丘！門衛者，此正念之喻語。

比丘！急來之二使者，此止觀之喻語。

比丘！中央之四衢街路者，即此地界、水界、火界與風界，此四大有之喻語。

比丘！城主者，即此識喻語。

比丘！如實之使命者，即此涅槃之喻語。

比丘！順來路者，即此八支賢聖道之喻語，亦即正見……正定等是。」

〔二〇五〕第九 琵琶

※三

「諸比丘！任何比丘或比丘尼，其心於眼所識之色，或起貪欲、染欲、忿恚、愚癡、瞋恚者，應制伏此心。謂：『此路乃有怖、有恐、有棘、有叢，險難之非路、邪路是。此路乃不善人之所依，此路乃善人所不依。汝不適於此，然則，汝於眼所識之色，應制伏心。』諸比丘！任何之比丘或比丘尼，其心於耳所聞之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸……意所識之法，或起貪欲、染欲、忿恚、愚癡、瞋恚者，由此應制伏心，謂：『此路乃有怖、有恐、有棘、有叢、險難之非路、邪路是。此路乃不善人之所依，此路乃善人所不依。汝不適此，然則，汝由此意所識之法應制伏心。』」

四

諸比丘！譬如稻熟，因稻田之守者放逸，食稻之牛闖入稻田而縱食至心滿足。與此同理，諸比丘！無聞之凡夫，對六觸處不行攝護，縱享五種欲至心滿足。

五

諸比丘！譬如稻熟，因稻田之守者不放逸，食稻之牛雖闖入此稻田，守者牢捉此牛之鼻，由牢捉鼻，堅括於額之上部，堅括於額之上，以撻猛鞭，以撻猛鞭後，將其縱放。

諸比丘！二度食稻之牛……

諸比丘！三度食稻之牛雖闖入此稻田，守者牢捉此牛之鼻，由牢捉鼻，以堅括於額上，堅括於額上，則以撻猛鞭，以撻猛鞭後，而縱放。如是，食稻之牛或入村落或入森林，多休止所，多休臥所，而思起被撻鞭策之事，因此不再入稻田。與此同理，諸比丘！於六觸，比丘之心為直、正直，唯住立於內，靜止單一而得安定。

六

諸比丘！譬如國王或王大臣，有未曾聞琵琶之音者，彼聞琵琶之音，而作如是曰：『友！此何音耶？如是斯之愛、美，足以令人心狂而惑。』『貴人！如是之愛、美，足以令人心狂、惑之音，此是琵琶。』彼言：『且去！將琵琶攜來予余。』彼等以此奉於王曰：『貴人！此音如是可愛、美好，令人心狂而惑之琵琶。』王曰：『此琵琶於余為無用，唯將音帶來與余。』彼等言於王曰：『貴人！此所謂琵琶者，有種種之成素，有大成素，由種種之成素而發音。』曰：『緣於胴、緣於皮、緣於掉、緣於首、緣於絃、緣於弓，又須人之適宜努力。貴人！如是琵琶有種種之成素，有大之成素，由種種成素而發音。』彼王遂以此琵琶，碎為十分或百分，以此十分或百分碎為一片片，一片片則以火燃燒，以火燒成灰，成灰或被大風吹去，或被河川之急流漂去。如是彼言：『凡稱琵琶者，大眾為此長時放逸流溺、此琵琶為虛偽也。』

七

與此同理，諸比丘！比丘須於色之所趣，則以檢色，受之……想之……行之……須於識之所趣，則以檢識。彼檢色……受……想……行……識，原於彼或為『我』，或『我有』、或『我之我』者，今則無此。」

〔二〇六〕第十 六生物

※三

「諸比丘！譬如瘡癢身，腐爛身之人，入於棘之森林，萱與棘刺彼之足，引而搔及瘡爛之肢體。諸比丘！如是此人，因而漸感至苦痛不快。與此同理，諸比丘！此處有比丘，入於村

落或森林，遇所觸者作如是言：『此尊者如是作，如是行者，為村落不淨之棘。』得知此為棘，當知攝護與不攝護。

四

諸比丘！如何為不攝護？諸比丘！於此有比丘，以眼見色，心傾於可愛之色，心背離於不可愛之色，正念不現前，缺乏思慮而住；又不如實知心解脫、慧解脫，如彼起惡不善之諸法，不能無餘滅盡。以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法……心傾於可愛之法，心背離於不可愛之法，不使正念現前，缺乏思慮而住；又彼不如實知心解脫、慧解脫，如彼起惡不善之諸法，不能無餘滅盡。

五

諸比丘！譬如有人，捕得不同境界、不同餌處之六種生物，以強繩綁縛。捕蛇以強繩綁縛。捕鱷魚……鳥……犬……野干……猿，以強繩綁縛。於中央作結，同時縱放。諸比丘！其時，不同境界、不同餌處之此等六種生物，各各向己餌之世界奔去。蛇入蟻塔……鱷魚入水……鳥翔於空……犬入村落……野干『入野墓』……猿『入森林』而去。諸比丘！此等六種生物倦疲時，此等生物則隨其中之一多力者，隨彼之後，乃至服從於彼。比丘亦與此同理，任何人若不向身增修其正念，或不復修者，則彼眼為可意之色所引去，彼背於不可意之色。彼耳為可意之聲……鼻為可意之香……舌為可意之味……身為可意之觸……意為可意之法所引去，彼背離於不可意之法。

諸比丘！如是為不攝護。

六

諸比丘！如何為攝護耶？

諸比丘！於此有比丘，以眼見色，心不傾於可愛之色，心不背於不可愛之色，令正念現前，思慮無量而住；又彼如實知心解脫、慧解脫。如彼所起之惡不善法，無餘滅盡。以耳聞聲……以鼻嗅香……以舌味味……以身觸觸……以意識法，心不傾於可愛之法，心不背離於不可愛之法，令正念現前，思慮無量而住。又彼如實知心解脫、慧解脫，如彼所起之惡不善法，無餘滅盡。

七

諸比丘！譬如有人，捕得不同境界、不同餌處之六種生物，以強繩綁縛。捕蛇以強繩綁縛，鱷魚……鳥……犬……野干……猿……以強繩綁縛。以強繩綁縛而擊於強杭或柱。諸比丘！其時，不同境界、不同餌處之此等六種生物，各各向己餌處之世界奔去。蛇入蟻塔、鱷魚入水……鳥翔於空、犬入村落、野干入野墓、猿入森林而去。諸比丘！此等六種生物倦疲時，於同杭或近柱而立、或近坐、或近臥。比丘與此同理，無論任何人，其身增修、復修正念，彼眼亦不為可意之色所引去，不背離於不可意之色。彼耳……鼻……舌……身……意，不為可意之法所引去，不背於不可意之法。

諸比丘！攝護即如是。

八

強杭或柱者，諸比丘！此乃向於身正念之喻語。然則！諸比丘！汝等於此：『吾等之身增修、復修正念，如坐騎、如貴器物之所實行、積集，於此應努力。』如是修習。諸比丘！汝等應如是修習。」

〔二〇七〕第十一 麥把

※三

「諸比丘！譬如諸比丘將麥把置於四衢街路，當時有六名手執連枷之男子，以連枷打其麥把。如是，諸比丘！以六連枷打麥把，善打。復次，又有手持連枷之第七男子來，以連枷打其麥把。如是，諸比丘！以連枷打麥把之第七男子，更為善打。

四

與此同理，諸比丘！無聞之凡夫，於眼為可意不可意之色所惱，於耳……於鼻……於舌……於身……於意為可意不可意之法所惱。諸比丘！此無聞之凡夫，若為未來再生而思念者，如是愚人，恰如為因第七連枷所打之麥把，乃更為善打。

五

諸比丘！往昔，天與阿修羅戰鬥時，諸比丘！阿修羅毘摩質多羅呼阿修羅曰：『汝等！天與阿修羅戰鬥時，若阿修羅軍勝，天軍敗者，則以第五繩縛諸天主帝釋天之首，共來余之阿修羅都。』諸比丘！諸天主帝釋天呼三十三天等曰：『汝等！天與阿修羅之戰鬥時，若天軍勝，阿修羅軍敗者，以第五繩縛彼阿修羅主毘摩質多羅之首，共來余之正法殿。』

六

然而於此戰役，則諸天勝而阿修羅敗。時，諸比丘！三十三天以第五繩縛阿修羅主毘摩質多羅之首，共來諸天主帝釋天之正法殿。

七

於此，諸比丘！阿修羅主毘摩質多羅之首被第五繩所縛。諸比丘！阿修羅主毘摩質多羅作如斯思惟：『諸天為正法，阿修羅為非法，因此，我今赴諸天之都耶？』彼見己首解去第五繩，且飽嚙五種天上之欲，以盡娛樂。然而諸比丘！阿修羅王毘摩質多羅作如斯思惟：『阿修羅為正法，諸天為非法。因此，我今赴阿修羅之都耶？』彼見己首被第五繩所縛，且願排除天上之五種欲。

八

諸比丘！毘摩質多羅之縛乃如是微妙，較此更微妙者為魔羅之縛。諸比丘！想思者乃被魔羅波旬所縛，無想思者，則獲解於此。諸比丘！『我有』者，此為想思。『此是我』者，此為想思。我者，此為想思，『我為無者』，此為想思。『我是有色』者，此為想思。『我是無色』者，此為想思。『我是有想』者，此為想思。『我是無想』者，此為想思。『我是非想非非想』者，此為想思。諸比丘！想思為病，想思為瘡，想思為箭。然則諸比丘！『我等以心住無想思』，汝等當如是學習。

九

諸比丘！『我有』者，此為轉動。『此是我』者，此為轉動。『我』者，此為轉動。『我是無』，此為轉動。『我是有色』者，此為轉動。『我是無色』者，此為轉動。『我是有想』者，此為轉動。『我是無想』者，此為轉動。『我是非想非非想』者，此為轉動。諸比丘！轉動為病，轉動為瘡，轉動

為箭。然則諸比丘！『我等以不轉動心而住』，汝等當如是學習。

一〇

諸比丘！『我有』者，此為震動。『此是我』者，此為震動。『我』者，此為震動……諸比丘！震動為病，震動為瘡，震動為箭。然則諸比丘！『我等以不震動心而住』，汝等當如是學習。

一一

諸比丘！『我有』者，此為戲論。『此是我』者，此為戲論。『我』者，此為戲論。……諸比丘！戲論為病，戲論為瘡，戲論為箭。然則諸比丘！『我等以不戲論心而住』，汝等當如是學習。

一二

諸比丘！『我有』者，此為慢心。『此是我』者，此為慢心。『我』者，此為慢心。……諸比丘！慢心為病，慢心為瘡，慢心為箭。然則諸比丘！『我等以不慢之心而住』，汝等當如是學習。」

毒蛇品第四

〔終〕

其攝頌曰：

毒蛇喜樂龜
木塊二漏泄
苦法緊叔迦
琵琶六生類

並且與麥把

第四之五十品攝頌：

悅喜消盡品
廣說為六十
依於海毒蛇
第四五十品
明說經集中

第二 受相應

第一 有偈品

〔一〕第一 三昧

※三

「諸比丘！此等之三者，是受。何者為三？乃樂受、苦受、非苦非樂受是。諸比丘！此等三者是受。」

四

（一）得安定，有正知，有正念之佛弟子，亦知受，亦知諸受之出生。

（二）亦知此等諸受之所滅，達於滅盡之道。比丘由於諸受之滅盡，則無飢欲，入於圓寂。」

〔二〕第二 樂

三

「諸比丘！此等之三者，是受。何者為三？乃樂受、苦受、非苦非樂受是。諸比丘！此等之三者，是受。」

四

（一）樂或苦、與非苦非樂，皆為內、外所感受者。

（二）知此是苦，而以智觸觸可敗壞虛假之法，則見消失，如是於此離欲。」

〔三〕第三 捨棄

※三

「諸比丘！此等之三者，是受。何者為三？樂受、苦受、非苦非樂受是。諸比丘！此等之三者是受。」

四

諸比丘！由樂受可捨棄染欲隨眠，由苦受可捨棄瞋恚隨眠，由非苦非樂受可捨棄無明隨眠。

五

諸比丘！由樂受，比丘則捨棄染欲隨眠。由苦受，則捨棄瞋恚隨眠。由非苦非樂受，則捨棄無明隨眠。諸比丘！如此比丘，則捨染欲隨眠正見之人，彼由斷渴愛、毀滅纏結、滅亡憍慢，而盡苦際。

六

（一）雖感受樂而不知受，於不見出離者，彼有染欲隨眠。

（二）雖感受苦而不知受，於不見出離者，彼有瞋恚隨眠。

（三）廣智之佛雖說非苦非樂，但樂於此而不斷苦脫離。

（四）比丘精進而不捨正知，因此，此賢智者，則悉知一切受。

（五）彼知悉諸受，於現法無諸漏，達最上智彼岸之法住者，肉身滅壞後，不再入生身之數。」

〔四〕第四 嶮崖

※三

「諸比丘！無聞之凡夫，如說：『大海有嶮崖』之語。諸比丘！無聞之凡夫，如是語說：『大海有嶮崖』為不存不在者。」

四

諸比丘！此『嶮崖』者，喻屬此身苦受之語。

五

諸比丘！無聞之凡夫，觸於身所屬之苦受，至為憂、疲、悲、搏胸、哭泣之迷惑。諸比丘！此稱之為『無聞之凡夫，未曾立於嶮崖，未得腳踏實地。』

六

諸比丘！有聞之聖弟子，雖觸身所屬之苦受，不至為憂、疲、悲、搏胸、哭泣而迷惑。諸比丘！此稱之為『有聞之聖弟子，曾立於嶮崖，得有足踏實地。』

（一）屬身害命之苦受，為此所觸，則慄、歎、泣、力弱、力盡，而不耐所起之苦受者，此謂之：『彼未曾立於嶮崖，未得腳踏實地。』

（二）屬身害命之苦受，雖為此所觸亦不慄，能耐其所生起者，此謂之：『彼立於嶮崖，得腳踏實地。』」

〔五〕第五 當見

※三

「諸比丘！此等之三者，是受。以何者為三者？乃樂受、苦受、非苦非樂受是。諸比丘！樂受者，當見為苦。苦受者，當見為箭。非苦非樂受者，當見為無常。」

四

諸比丘！比丘之樂受者，當應見為苦。苦受者，當見為箭。非苦非樂受者，當常見為無常。諸比丘！此比丘由斷除渴愛，毀滅纏結，滅除憍慢，故稱為盡苦際。見人之樂為苦，見苦為箭，見非苦非樂之存在為無常。此正見之比丘，能知受，達此最上智彼岸之法住者，能知苦，於見法無漏，由肉身滅壞後，不再於入生身之數。」

〔六〕第六 箭

※三

「諸比丘！無聞之凡夫，亦感於樂受，亦感於苦受，亦感於非苦非樂受。」

四

諸比丘！有聞之聖弟子，亦感於樂受，亦感於苦受，亦感於非苦非樂受。」

五

於此，諸比丘！有聞之聖弟子與無聞之凡夫，以何為特異點？以何為特相？以何者為差別點耶？」

六

「大德！我等之法，以世尊為根本……。」

七

「諸比丘！無聞之凡夫，觸於苦受，至為憂、疲、悲、搏胸、哭泣之迷惑。彼感於二種之受：乃屬於身受與屬心受是。」

八

諸比丘！譬如以箭刺人，於其人又以第二箭相刺。諸比丘！如是此人感受於二支箭。與此同理，諸比丘！無聞之凡夫，觸於苦受，至為憂、疲、悲、搏胸、泣哭之迷惑。彼感於二種之受：乃屬身受與心受是。若觸苦受，彼則有瞋恚，為苦受彼則懷瞋恚，由苦受所生之瞋恚隨眠而存止。彼觸於苦受而喜悅於欲樂。何以故？諸比丘！無聞之凡夫，將欲樂置外，非不知於苦受之出離耶？彼喜悅於欲樂，如是存止於由樂受所生之欲染隨眠。彼不如實知此等諸受之生起、滅沒與甘味、患難之出離。彼不如實知此等諸受之生起、滅沒、甘味、患難之出離，如是存止由非苦非樂受所生之無明隨眠。彼若感於樂受者，則感於為此所繫縛。若感苦受，則感於為此所繫縛。若感於非苦非樂受，則感於為此所繫縛。諸比丘！此稱為無聞之凡夫，由生、由死、由憂、由悲、由苦、由惱、由絕望所繫縛。余謂此由苦所繫縛。

九

諸比丘！有聞之聖弟子，觸苦受不至為憂、疲悲、搏胸、泣哭之迷惑。彼唯一之感受；乃屬於身受，而非屬於心受。

一〇

諸比丘！譬如以箭刺人，更不再刺第二箭。諸比丘！如是此人，唯只感受一箭。與此同理，諸比丘！有聞之聖弟子為苦受所觸，不憂、不疲、不悲、不搏胸而哭泣，不至迷惑。彼唯一之感受，屬於身受，非屬於心受。彼雖為苦受所觸而無瞋恚，不為苦受而懷瞋恚，故彼不存止由苦受而生之瞋恚隨眠，彼雖為苦受所觸不喜悅於欲樂。何以故？諸比丘！有聞之聖弟子，將欲樂置外，非知於由苦受之出離耶？彼不喜悅於欲樂，不如是存止由樂受而生之染欲隨眠。彼如實知此等諸受之生起、滅沒、甘味、患難之出離。彼以如實知此等諸受之生起、滅沒、甘味、患難之出要，彼不如是存止由非苦非樂而生之無明隨眠。彼若感於樂受者，則感於離此繫縛。若感於苦受，則感於離此繫縛。若感於非苦非樂受，則感於離此繫縛。諸比丘！此稱為有聞之聖弟子，謂：由生、由死、由憂、由悲、由苦、由惱、由絕望而不被繫縛。余言由苦而不被繫縛。

——

諸比丘！有聞之聖弟子與無聞之凡夫，以此為特異，以此為特相，以此為差別點。

一二

（一）有智多聞之人，皆無感於樂受、苦受，此乃賢者、善者之於凡夫之大特異。

（二）亦熟知於法，亦觀此世、彼世，得快樂之有聞聖者心，不為諸法所騷亂。由無快樂，故不陷於瞋恚。

（三）彼之隨順，背逆皆消散、滅盡而無存在。彼達於生有之彼岸，離塵，而知無愛道，能證知涅槃。」

〔七〕第七 疾病（一）

一

爾時，世尊住毘舍離城，大林之重閣講堂中。

二

時，世尊於日暮，即從冥想起，赴病者室之處。而坐於所設之座，坐已，世尊告諸比丘曰：「諸比丘！比丘應以正念、正知而度時日。此乃我為汝等之教誡。」

三

諸比丘！比丘如何為正念耶？

諸比丘！於此有比丘，於身觀身而住，精進正知、有念，以抑止此世之欲貪憂戚，於諸受觀受而住……於心觀心而住……於諸法，觀法而住，精進於正知、有念，以抑止此世之欲貪憂戚。諸比丘！比丘如是而為正念。

四

諸比丘！比丘如何而為正知耶？

諸比丘！此有比丘，於進於退皆以正知而為，視前方、視四週亦以正知而為，四肢之屈伸亦以正知而為，持僧伽梨衣、鉢、衣亦以正知而為，或食或飲或嚙或味亦以正知而為，乃至大小便利之事亦以正知而為，行住坐臥語默亦以正知而為。諸比丘！如是之比丘乃為正知。

五

諸比丘！比丘應以正念、正知為度時日。此為我對汝等之教誡。

六

諸比丘！此比丘如是住於正念、正知、不放逸、精進專心，若起樂受者，彼則如是知：『我起此樂受，此樂受為由緣而起，無緣則不起。何者為緣耶？以此身為緣。然而此身為無常所造作，為由緣而起者。緣無常而所造作，依緣所起之此身，依緣所起之樂受，何為有常住耶？』彼於身又於樂受住觀無常、住觀消止、住觀離欲、住觀滅盡、住觀捨棄。彼於身又於樂受觀無常而住，觀消亡而住，觀離欲而住，觀滅盡而住，觀捨棄而住。於身與樂受之染欲隨眠皆所捨棄。

七

諸比丘！此比丘如是正念、正知，住不放逸、精進專心，若起苦受，彼如是知：『我起此苦受，此苦受多有緣而起，無緣則不起……何為有常住耶？』於身又於苦受觀無常而住，觀消亡而住，觀離欲而住……觀滅盡而住，觀捨棄而住。於身與苦受之瞋恚隨眠，悉皆所捨棄。

八

諸比丘！此比丘如是正念、正知，住不放逸、精進專心，若起非苦非樂受，彼如是知：『我起此非苦非樂受，此非苦非樂受為有緣而起，無緣則不起……何為有常住耶？』彼於身又於非苦非樂，觀無常而住，觀消亡而住，觀離欲而住……觀滅盡而住，觀捨棄而住，身與非苦非樂之無明隨眠，皆所捨棄。

九

彼若感於樂受，則知其為無常，知無戀著、知無喜悅。若感於苦受……若感於非苦非樂受，則知其為無常，知無戀著，知無喜悅。

一〇

彼若感於樂受者，則感於此離繫縛。若感於苦受者，則感於此離繫縛。若感於非苦非樂受者，則感於離繫縛。

一一

彼感於身所際限之受，了知『我感於身所際限之受。』感於命所際限之受了知『我感於命所際限之受。』於身壞、命盡時，了知『於此處一切之所感受所喜悅者，悉皆冷卻。』

一二

諸比丘！譬如，緣於油又緣於燈心，油燈則燃起。因油與燈心之盡而無食，油燈則消失。同此，諸比丘！比丘感於身所際限之受，了知『我感身所際限之受。』感命所際限之受，了知『我感命所際限之受。』身壞、命盡時，了知『於此處一切之所感受之所喜悅者，悉皆冷卻。』」

〔八〕第八 疾病（二）

一

爾時，世尊住毘舍城，大林之重閣講堂中。

二

時，世尊於日暮，即從冥想起，赴病者室之處……

三

「諸比丘！比丘如何而為正念耶？」

諸比丘！於此有比丘，於身觀身而住……於諸受……於心……於諸法……

四

諸比丘！比丘如何而為正知耶？」

諸比丘！於此有比丘，於進於退皆以正知而為……

五

諸比丘！比丘應以正念、正知以度時日。此即我為汝等之教誡。

六

諸比丘！此比丘如是正念、正知，住不放逸，精進專心，若起樂受者，彼則如是知：『我起此樂受，此樂受為有緣而起，無緣則不起，以何為緣？以此觸為緣，然此觸為無常，為所造作，為緣物而起者。無常、所造作、緣物而起之緣，此觸所起之樂受，何為有常住耶？』彼於觸又於樂受，觀無常而住……消亡……離欲……滅盡……捨棄，彼於觸又於樂受，觀無常而住……消亡……離欲……滅盡……捨棄，則觸與樂受之染欲隨眠，皆所捨棄。

七～八

諸比丘！此比丘之如是正念、正知，住不放逸，精進專心，若起苦受……若起非苦非樂受，則彼如是知：『我起非苦

非樂受，此非苦非樂受為有緣而起，無緣則不起，以何為緣耶？以此觸為緣。然此觸為無常、所造作、緣物而起者。無常、所造作、緣物而起之此觸，為緣所起之非苦非樂，何為有常住耶？』彼於觸又於非苦非樂，觀無常而住……消亡……離欲……滅盡……捨棄。彼於觸又於非苦非樂，觀無常而住……消亡……離欲……滅盡……捨棄，則觸與非苦非樂受之無明隨眠，皆所捨棄。

九

彼若感於樂受，則知其為無常，知無戀著，知無喜悅。若感於苦受……若感於非苦非樂受，則知其為無常，知無戀著，知無喜悅。

一〇

彼若感於樂受，則感於此離繫縛。若感於苦受……若感於非苦非樂受，則感於此離繫縛。

一一

彼感於身所際限之受，了知『我感於身所際限之受。』感於命所際限之受，了知『我感於命所際限之受。』而身壞命盡時，了知『此處一切之所感受、所喜悅者，皆應冷卻。』

一二

諸比丘！譬如緣油又緣燈心，油燈則燃起，因油與燈心之盡而無食，油燈則消失。同此，諸比丘！比丘感於身所際限之受……了知『於此處之所感受、所喜悅者，皆應冷卻。』」

〔九〕第九 無常

※三

「諸比丘！此等三種之受，為無常、有為、緣起、破壞、消亡、離欲、滅盡之法。

四

以何者為三？樂受、苦受、非苦非樂受是。

五

諸比丘！此三種之受，為無常、有為、緣起、破壞、消亡、離欲、滅盡之法。」

〔一〇〕第十 以觸為根本者

※三

「諸比丘！此等之三受，為緣觸而生，以觸為根本，以觸為因緣，以觸為助緣。

四

以何者為三？樂受、苦受、非苦非樂受是。

五

諸比丘！緣觸所感之樂而生樂受，由所感之樂觸滅盡，則凡其所生之受，即所感之樂，緣觸所生之樂受，滅而又息。

六

諸比丘！緣觸所感之苦所生之苦受，由感其苦觸之滅盡，則凡其所生之受，即所感之苦，緣觸所生之苦受，滅而又息。

七

諸比丘！緣觸所感之非苦非樂所生之非苦非樂受，由所感之非苦非樂觸之滅盡，則凡其所生受，即所感之非苦非樂，緣觸所生之非苦非樂受，滅而又息。

八

諸比丘！譬如二木片由觸擊而生熱、現火焰，由此等二木片之分離絕緣，則凡其所生之熱，滅而又息。

九

與此同理，諸比丘！此等之三受，為緣觸而生，以觸為根本，以觸為因緣，以觸為助緣，由其所生之觸為緣，乃生種種之受，由種種之觸滅盡，則種種之受亦滅。」

受相應之第一有
偈品（終）

其攝頌曰：

三昧與樂受
捨棄及嶮崖
應見並箭刺
疾病二無常
以及觸根本
總成為十經

第二 獨坐品

〔一一〕第一 獨坐

※二

時，有一比丘來詣世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘，向世尊曰：「大德！我獨坐靜思，心起如是念：『世尊說示三種受，為樂受、苦受、非苦非樂受是。』世尊說此三種受。然而世尊！又如是說如何感受，亦為苦。凡如何感受，亦為苦者，此世尊依何而說耶？」

四

「比丘！善哉，善哉！比丘！余說三種之受，乃樂受、苦受、非苦非樂受是。余說此三種受也。然而余又說任何之感受，亦皆是苦。凡任何之感受，皆是苦者，比丘！余乃依諸行無常而說。比丘！凡任何之感受皆是苦，余依此說諸行是破壞之法，消亡之法，離欲之法，滅盡之法，變壞之法。

五

然而依此，比丘！余亦次第說諸行之滅盡。逮達初禪者，言語滅；逮達第二禪者，尋伺滅；逮達第三禪者，喜滅；逮達第四禪者，入息出息滅；逮達空無邊處者，色想滅；逮達識無邊處者，空無邊處想滅；逮達無所有處者，識無邊處想滅；逮達非想非非想處者，無所有處想滅；逮達想受滅者，想與受滅。漏盡之比丘，貪欲滅，瞋恚滅，愚癡滅。

六

依此，比丘！余乃次第說諸行之止息。逮達初禪者，言語止息；逮達第二禪者，尋伺止息……逮達想受滅者，想受止息。漏盡之比丘，貪欲止息，瞋恚止息，愚癡止息。

七

比丘！此等之六者，是輕安。逮達初禪者，言語輕安；逮達第二禪者，尋伺輕安；逮達第三禪者，喜輕安；逮達第四禪者，入息出息輕安；逮達想受滅者，想與受輕安。漏盡之比丘，是貪欲輕安，瞋恚輕安，愚癡輕安也。」

〔一二〕第二 虛空（一）

※三

「諸比丘！譬如於虛空中，吹東風、吹西風、吹北風、吹南風、吹含塵垢之風、吹不含塵垢之風、吹寒風、吹暖風、吹少量之風、吹大量之風、吹種種之風。諸比丘！如是於此身生種種之受，生樂受、生苦受、生非苦非樂受。」

四

（一）猶如空中吹種種多樣之風，從東西與北南。

（二）吹有塵、無塵，冷與熱，大量與少量及多樣之風。

（三）與此同理，於此身生諸受，樂苦等起，與非苦非樂。

（四）比丘若精進，以捨正知者，於是此賢智者，悉知一切受。

（五）彼悉知諸受，於現法中無諸漏，達最上智彼岸之法住者，由內身破滅後，不再入生身之數。」

〔一三〕第三 虛空（二）

※三

「諸比丘！譬如虛空中，吹東風，吹西風……吹少量之風、吹大量之風、吹種種之風。諸比丘！如是於此身生種種之受：生樂受、生苦受、生非苦非樂受。」

〔一四〕第四 客舍

※三

「諸比丘！譬如有客舍，於此處有種種人，由東方來棲宿、由西方來棲宿、由北方來棲宿、由南方來棲宿、有剎利種人來棲宿、婆羅門種人來棲宿、毘舍種人來棲宿，首陀人來棲宿者。與此同理，諸比丘！於此身生種種受：生樂受、生苦受、生非苦非樂受。」

四

亦生伴於欲樂之樂受，亦生伴於欲樂之苦受，亦生伴於欲樂之非苦非樂受，亦生不伴於欲樂之樂受，亦生不伴於欲樂之苦受，亦生不伴於欲樂之非苦非樂受。」

〔一五〕第五 止息（一）

※二

時，尊者阿難來詣世尊住處……

三

坐於一面之阿難，白世尊曰：「大德！何者為受？何者為受之生起？何者為受之滅盡？何者為達受滅盡之道？何者為受之甘味？何者為受之患難？何者為受之出離耶？」

四

「阿難！此等之三者是受：樂受、苦受、非苦非樂受是。阿難！此等稱為受。由觸之生起，有受之生起；由觸之滅盡，有受之滅盡。此八支聖道是達受滅之道。此即：正見、正思惟……正定是。凡以受為所緣，所起之喜樂，此為受之甘味。凡受之無常而變壞之法，此為受之患難。凡對受抑制欲貪，捨欲貪，此為受之出離。

五

阿難！依此，余漸次說諸行之滅盡，逮達初禪者，言語滅……逮達想受滅者，想與受滅，漏盡之比丘，則貪欲滅、瞋恚滅、愚癡滅。

六

阿難！依此，余漸次說諸行之止息，逮達初禪者，言語止息；逮達第二禪者，尋伺止息……逮達想受滅者，想與受止息。漏盡之比丘，則貪欲止息、瞋恚止息、愚癡止息。

七

阿難！依此，余漸次說諸行之輕安，逮達初禪者，言語輕安；逮達第二禪者，尋伺輕安……逮達想受滅者，想與受輕安。漏盡之比丘，則貪欲輕安、瞋恚輕安、愚癡輕安。」

〔一六〕第六 止息（二）

※二

時，尊者阿難來詣世尊住處……

三

世尊言於坐在一面之阿難曰：「何者為受？何者為受之滅？何者為達受滅之道？何者為受之甘味？何者為受之患難？何者為受之出離耶？」

四

「大德！我等之法以世尊為本，以世尊為指導者，以世尊為所依。大德！此所說之意義，唯世尊明瞭。願從世尊聆聞，諸比丘當奉持於此。」

「然則，阿難！且諦聽，當善思惟，余將說此。」

「唯然，大德！」尊者阿難應諾世尊。

五～八

世尊如是言：「阿難！此等之三者是受：樂受、苦受、非苦非樂受是。阿難！此等者稱為受。由觸之生起，有受之生起……漏盡之比丘，則貪欲輕安、瞋恚輕安、愚癡輕安。」

〔一七〕第七 八支（一）

※二

時，眾多之比丘等來詣世尊住處，禮拜世尊而坐於一面。

三

坐於一方之此等比丘白世尊曰：「大德！何者為受？何者是受之生起？何者是受之滅盡？何者是達受滅盡之道？何者為甘味？何者為患難？何者為出離耶？」

四

「諸比丘！此等之三者為受，即：樂受、苦受、非苦非樂受是。諸比丘！此等者稱為受。由觸之生起，有受之生起；由觸之滅盡，有受之滅盡。此八支聖道是達受滅之道。此即：正見、正思惟……正定是。凡以受為緣，所起之喜樂，此為受之甘味。凡受之無常、苦而變壞之法，此受之患難。凡對受抑制欲貪、捨欲貪，此受之出離。」

五

然而諸比丘！依此，余漸次說諸行之滅盡……

六

諸比丘！依此，余漸次說諸行之止息……

七

諸比丘！此等之六者，是輕安。逮達初禪者，言語輕安；逮達第二禪者，尋伺輕安；逮達第三禪者，喜輕安；逮達第四禪者，入息出息輕安；逮達想受滅者，是想與受之輕安。漏盡之比丘，則貪欲輕安、瞋恚輕安、愚癡輕安。」

〔一八〕第八 八支（二）

※二

時，眾多之比丘等來詣世尊住處……

三

世尊問於坐在一面之此等比丘曰：「諸比丘！何者為受？何者為受之生起？何者為受之滅盡？何者為達受滅盡之道？何者為受之甘味？何者為受之患難？何者為受之出離耶？」

四

「大德！我等之法，以世尊為根本，以世尊為指導者，以世尊為所依。善哉！大德！此所說之意義，唯世尊明了。願從世尊聆聞，比丘等當奉行於此。」

「然則諸比丘！且諦聽，當善思惟，我將說此。」

「唯唯，大德！」諸比丘應諾世尊。

五～八

「諸比丘！此等之三者為受。即樂受、苦受、非苦非樂受是。諸比丘！此等稱為受……」

〔一九〕第九 般奢康伽

※二

時，建築師般奢康伽來詣尊者優陀夷之處，禮拜尊者優陀夷，而坐於一面。

三

坐於一面之建築師般奢康伽，問尊者優陀夷曰：「大德，優陀夷！世尊說幾種之受耶？」

「建築師！世尊曾說三種之受，即樂受、苦受、非苦非樂受是。世尊曾說此等之受。」

四

如是言已。建築師般奢康伽向尊者優陀夷曰：「大德，優陀夷！世尊未曾說三種之受，世尊唯說二種之受，即樂受與苦受是。大德！凡此非苦非樂所示者，世尊說此有靜寂微妙之樂。」

五

尊者二度告建築師般奢康伽曰：「建築師！世尊未曾說示二種之受，世尊乃說三種受，即樂受、苦受、非苦非樂受是。世尊說示此等三種之受。」建築師般奢康伽二度白尊者優陀夷曰：「大德，優陀夷！世尊未曾說三種之受，唯說二種受，即樂受與苦受是。大德！凡此非苦非樂受之所示者，世尊說此是靜寂微妙之樂。」

六

三度，尊者優陀夷三度……建築師般奢康伽……尊者優陀夷不能令建築師般奢康伽領會，而建築師般奢康伽亦不能使尊者優陀夷領會。

七

尊者阿難，聞得尊者優陀夷與建築師般奢康伽之問答。

八

時，尊者阿難來詣世尊住處，而坐於一面。坐於一面之尊者阿難，便將尊者優陀夷與建築師般奢康伽所有之一切問答，皆白於世尊。

九

「阿難！建築師般奢康伽不同意優陀夷比丘者亦有其理由。優陀夷比丘亦有其理由而不同意於建築師般奢康伽。阿難！余以理亦可說二種之受，余以理亦可說三種之受，余以理亦可說五種之受。余以理亦可說六種之受。余以理亦可說十八種受，余以理亦可說三十六種受，余以理亦可說百八種之受。阿難！如是者，余乃以理說法。

一〇

阿難！余如是以理說法，不予肯定，不予贊同。不能隨喜自他之善說、善語者輩，唯有期待使之生鬥爭、起誼譁、來諍論而互以口頭為刃物相刺而住。如是余以理由而說法。然而阿難！如是對余之以理由說法，自認是他之善說、善語者，予贊同、予隨喜者輩，唯只期待使能住於相和合、相悅喜、無相諍、如乳水，互以喜眼相見。

一一

阿難！於欲，有此等之五種。何者為五？眼所識之色，是快意、可愛、可樂、形愛，誘生欲染者。耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸，是快意、愛、樂、形愛，誘生欲染者。阿難！凡以此等五種之欲為所緣，所起之喜樂，稱之謂欲樂。

一二

阿難！『有情，感受此最上之喜樂。』若人作如是言者，余則不予認同。何以故？阿難！因有比此樂更殊勝、更微妙之他樂。阿難！何者為比此樂更殊勝、更微妙之他樂耶？阿難！

於此處有比丘，離諸欲、離不善法、有尋有伺，而逮達由離生喜樂之第一禪而住。阿難！此為比此樂更殊勝、更微妙之他樂。

一三

阿難！『有情，感受此最上之喜樂。』若人作如是言者，余則不予認同。何以故？阿難！有比此樂更殊勝、更微妙之他樂。阿難！何者為比此樂更殊勝、更微妙之他樂耶？阿難！於此有比丘，由尋伺之息滅，逮達內部寂靜，心有單一性，無尋無伺，住於由定生喜樂之第二禪。阿難！此比此樂更殊勝、更微妙之他樂。

一四

阿難！『有情，感受此最上之樂喜。』若人作如是言者，余則不予認同。何以故？阿難！有比此樂更殊勝、更微妙之他樂。阿難！何者為比此樂更殊勝、更微妙之他樂耶？阿難！於此有比丘，離喜、捨心、正念正知、以身感受樂，謂談聖者捨心者、有念者、樂住者、逮達住於第三禪。阿難！此比此樂更殊勝、更微妙之他樂。

一五

阿難！『有情，感受此最上之喜樂。』若人作如是言者，余則不予認同。何以故？阿難！有比此樂更殊勝、更微妙之他樂。阿難！何者為比此樂更殊勝、更微妙之他樂耶？阿難！於此有比丘，既由前樂之捨棄、苦之捨棄、喜憂之滅沒、非苦非樂而逮達住於捨、念、清淨之第四禪。阿難！此為比此樂更殊勝、更微妙之他樂。

一六

阿難！『有情，感受此最上之喜樂。』若人作如是言者，余則不予認同。何以故？阿難！有比此樂更殊勝、更微妙之他樂。阿難！何者為比此樂更殊勝、更微妙之他樂耶？阿難！於此有比丘，超越一切色想，滅沒瞋恚想，不思惟種種想，逮達住於『虛空無邊』之空無邊處。阿難！此為比此樂更殊勝……

一七

阿難！『有情，感受此最上之喜樂。』若人作如是言者，余則不予認同。何以故？阿難！有比此樂更殊勝、更微妙之他樂。阿難！何者為比此樂更殊勝、更微妙之他樂耶？阿難！於此有比丘，超越一切空無邊處，逮達住於識無邊之識無邊處。阿難！此為比此樂更殊勝……

一八

阿難！『有情，感受此最上之喜樂。』若人作如是言者，余則不予認同。何以故？阿難！有比此樂更殊勝、更微妙之他樂。阿難！何者為比此樂更殊勝、更微妙之他樂耶？阿難！於此有比丘，超越一切識無邊處，逮達住於無所有之無所有處。阿難！此為比此樂更殊勝……

一九

阿難！『有情，感受此最上之喜樂。』若人作如是言者，余則不予認同。何以故？阿難！有比此樂更殊勝、更微妙之他樂。阿難！何者為比此樂更殊勝、更微妙之他樂耶？阿難！於此有比丘，超越一切無所有處，逮達住於非想非非想處。阿難！此為比此樂更殊勝……

二〇

阿難！『有情，感受此最上之喜樂。』若人作如是言者，余則不予認同。何以故？阿難！有比此樂更殊勝、更微妙之他樂。阿難！何者為比此樂更殊勝、更微妙之他樂耶？阿難！於此有比丘，超越一切非想非非想處，逮達住於想受滅。阿難！此為比此樂更殊勝、更微妙之他樂。

二一

阿難！外道普行沙門之徒，作如是言：『沙門瞿曇說想受滅（定），而且以之施設於樂，彼者為何，又如何施設耶？』應亦有如是說理。諸比丘！回答如是言之外道普行沙門，應如是言：『汝友等！世尊並非唯對樂施設於樂受。諸友！無論於何處，樂之所獲處，無論於何者，是即如來於樂所施設。』」

〔二〇〕第十 比丘

※三

「諸比丘！余以理說二種之受，余以理說三種之受，余以理說五種……六種……十八種……三十六種……百八種之受。如是，諸比丘！余乃以理說法。

四

諸比丘！如是余以理說法，不予肯定、不予贊同。不隨喜自他之善說、善語者輩，唯只期待令起鬥爭、生諍譁、生諍論，互以口頭之刃物相刺而住。諸比丘！如是余依理說法，予以肯定、贊同。隨喜自他之善說、善語者輩，唯只期待於相和合、相悅喜、不相爭、如乳水，互以喜眼相見。

五～一四

〔同一九經一一～二〇〕

一五

諸比丘！外道普行沙門之徒，作如是言：『沙門瞿曇說想受滅（定），而且以之施設於樂，彼者為何，又如何施設耶？』應亦有如是說理。諸比丘！回答如是言之外道普行沙門，應作如是言：『汝友等！世尊并非唯對樂施設於樂受。諸友！無論於何處，無論於何者，樂之所獲處，是即如來於樂所施設。』」

獨坐品第二

〔終〕

其攝頌：

獨座虛空二
客舍止息二
依八支說二
般奢康比丘

第三 百八理品

〔二一〕第一 尸婆

一

爾時，世尊住王舍城之竹林迦蘭陀園。

二

時，普行沙門尸婆來詣世尊住處。與世尊共相交談親睦、
慰懃之話後，坐於一面。

三

坐於一面之普行沙門尸婆，白世尊言：「尊瞿曇！或有沙
門、婆羅門作如是語、如是見者：『凡此個人之所感者，或樂
或苦或非苦非樂，其皆由前世所作之因也。』尊瞿曇對此作如
何言之耶？」

四

「尸婆！由膽汁生，或有起此感受。尸婆！如由膽汁生，
於此處起此感受，其應自知。如由膽汁生，於此處起此感受，
其亦為世之真實所認定。於此，尸婆！某某沙門婆羅門之『凡
個人所感受者，或樂或苦或非苦非樂，是皆由前世所為之
因。』作如是語、如是見者，皆過於自之所知，是過於世所認
知之真實，然則余謂此等沙門、婆羅門之所見，是邪。

五

尸婆！由粘液生，或有起此感受……

六

尸婆！由風生，或有起此感受……

七

尸婆！由膽汁等三聚和合生，或有起此感受……

八

尸婆！由時候之變化生，或有起此感受……

九

尸婆！由逢逆運生，或有起此感受……

一〇

尸婆！於痙攣性，或有此感受而起……

一一

尸婆！於業異熟性，或有此感受而起……」

一二

如是說已，普行沙門尸婆白世尊曰：「妙哉，尊瞿曇！妙哉，尊瞿曇！尊瞿曇譬如起覆、發掩、對迷者示之以道，如暗中舉燈火，使有眼者見形。如是尊瞿曇以種種方便說法。余當歸依尊瞿曇，亦歸依法與比丘眾。尊瞿曇！當自今日起，以至終生，請攝受余歸依為信士。」

一三

膽汁、粘液、風三種之聚和，時候、逆運、痙攣、業異熟為第八。

〔二二〕第二 百八

※二

「諸比丘！余為汝等說明所謂百八理之法理，且諦聽。

三

諸比丘！何者稱為百八法理耶？余以理，當說二種之受。
余以理說三種之受。余以理說五種受……六種受……十八種
受……三十六種受……百八種受。

四

諸比丘！何者為二種之受？身受與心受是。諸比丘！此等
稱為二種之受。

五

諸比丘！何者為三種之受？樂受、苦受、非苦非樂受是。
諸比丘！此等稱為三種之受。

六

諸比丘！何者為五受？樂根、苦根、喜根、憂根、捨根
是。諸比丘！此等稱為五受。

七

諸比丘！何者為六種之受？眼觸生之受、耳……鼻……
舌……身……意觸生之受是。諸比丘！此等稱為六種之受。

八

諸比丘！何者為十八種受？六喜近伺、六憂近伺、六捨近
伺是。諸比丘！此等稱為十八種受。

九

諸比丘！何者為三十六種受。六種依在家之喜、六種依出
離之喜、六種依在家之憂、六種依出離之憂、六種依在家之

捨，六種依出離之捨是。諸比丘！此等稱之三十六種受。

一〇

諸比丘！何者為百八種受？三十六種過去受、三十六種未來受、三十六種現在受是。諸比丘！此等稱為百八種受。諸比丘！此稱百八理之法理。」

〔二三〕第三 比丘

※二

時，有一比丘來詣世尊住處……

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：「大德！何者為受？何者為受之生起？何者為受之滅盡？何者為達受滅盡之道？何為受之甘味？何為受之患難？何為受之出離耶？」

四

「比丘！此等之三者，為受。即樂受、苦受、非苦非樂受是。比丘！此等稱為三種受。由觸之生起，有受之生起，渴愛為達受生起之道。由觸之滅盡，有受之滅盡，此八支聖道，始達受滅之道。此即正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。凡以受為緣，所起之喜樂，此為受之甘味。受之無常、苦而變壞之法，此為受之患難。凡對受抑制欲貪，捨欲貪，此則受之出離。」

〔二四〕第四 宿智

※二

「諸比丘！余於正覺前，尚未成正覺之菩薩時，余生如是念：『何者為受？何者為受之生起？何者為受之滅盡？何者為達受滅盡之道？何者為受之甘味？何者為受之患難？何者為受之出離耶？』」

三

諸比丘！於余生如是念：『此等三者為受。即：樂受、苦受、非苦非樂受是。此等稱為受。由觸之生起，有受之生起，渴愛為引受生起之道。由觸之滅盡，有受之滅盡……凡對受之抑制欲貪，捨欲貪，此為受之出離。』

四

諸比丘！『此等為受。』於余所未曾聞之法，眼現、智現、慧現、明現、光現是。

五

諸比丘！『此為受之生起。』於余所未曾聞之法，眼現、智現、慧現、明現、光現。

六

諸比丘！『此為達受生起之道。』於余所未曾聞之……

七

諸比丘！『此為受之滅。』於余所未曾聞之……

八

諸比丘！『此為達受滅之道。』於余所未曾聞之……

九

諸比丘！『此為受之甘味。』於余所未曾聞之……

一〇

諸比丘！『此為受之患難。』於余所未曾聞之……

一一

諸比丘！『此為受之出離也。』於余所未曾聞之法，眼現、智現、慧現、明現、光現。」

〔二五〕第五 比丘

※二

時，眾多比丘等來詣世尊住處……

三

坐於一面之此等比丘白世尊曰：「大德！何者為受？何者為受之生起？何者為受之滅盡？何者為達受滅盡之道？何者為受之甘味？何者為受之患難？何者為受之出離耶？」

四

「諸比丘！此等之三者為受。即樂受、苦受、非苦非樂受是。諸比丘！此等稱之為受。由觸之生起，有受之生起，渴愛為引受生起之道。由觸之滅盡，有受之滅盡，此八支聖道乃達受滅盡之道。即正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。凡以受為緣所起之喜樂，乃此受之甘味。凡受

之無常、苦而變壞之法，乃此受之患難。凡抑制受之欲貪，捨欲貪，為此受之出離。」

〔二六〕第六 沙門婆羅門（一）

※二

「諸比丘！此等之三者為受。以何為三？乃樂受、苦受、非苦非樂受是。

三

諸比丘！雖任何之沙門或婆羅門，若不如實知此等三受之生起、滅盡、甘味、患難、出離者，諸比丘！余對此等之沙門或婆羅門，於沙門中不承認為沙門，於婆羅門中不承認為婆羅門。猶且此等之尊者對沙門或婆羅門之道，於現生不能住於自知、實證、逮得。

四

諸比丘！雖任何之沙門或婆羅門，若如實知此等三受之生起、滅沒、甘味、患難、出離者，諸比丘！余對此等之沙門或婆羅門，於沙門中肯定為沙門，於婆羅門中肯定為婆羅門。猶且此等之尊者對沙門道或婆羅門之道，於現生住於自知、實證、逮得。」

〔二七〕第七 沙門婆羅門（二）

※二

「諸比丘！此等之三者為受。乃樂受、苦受、非苦非樂受是。諸比丘！此等稱為受。

三

諸比丘！雖如何之沙門或婆羅門……」。

〔二八〕第八 沙門婆羅門（三）

※三

「諸比丘！雖任何之沙門或婆羅門，不知受，不知受之生起，不知受之滅盡，不知達受滅盡之道。諸比丘！余對此等之沙門或婆羅門……

四

諸比丘！雖任何之沙門或婆羅門，知受，知受之生起，知受之滅盡，知達受滅盡之道，諸比丘！余對此等之沙門或婆羅門……」。

〔二九〕第九 清淨之無食樂

※二

「諸比丘！此等之三者為受。乃樂受、苦受、非苦非樂受是。諸比丘！此等之三者為受。

三

諸比丘！有有食樂之喜，有無食樂之喜，有比無食樂更無食樂之喜。有有食樂之樂，有無食樂之樂，有比無食樂更無食樂之樂。有有食樂之捨，有無食樂之捨，有比無食樂更無食樂之捨。有有食樂之解脫，有無食樂之解脫，有比無食樂更無食樂之解脫。

四

諸比丘！何者為有食樂之喜耶？諸比丘！為此等五種之欲是。何者為五？眼所識之色，可快意、愛、樂、形愛，誘生欲念者。耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸、可快意……愛、樂、形愛，誘生欲念者。諸比丘！此等為五種欲也。諸比丘！凡以此等五種欲為緣所起之喜，諸比丘！此稱為有食樂之喜。

五

諸比丘！何者為無食樂之喜耶？諸比丘！於此處有比丘，離諸欲、離不善法、有尋有伺、而逮達住於由離生喜樂之初禪。由尋、伺之息滅，於內部寂靜，心之單一性，無尋無伺，逮達住於由定生喜樂之第二禪。諸比丘！此稱為無食樂之喜。

六

諸比丘！何者為比無食樂更無食樂之喜耶？諸比丘！凡觀察於貪欲解脫之心，觀察於瞋恚解脫之心，觀察於愚癡解脫之心，乃漏盡之比丘，是其心所起之喜。諸比丘！此稱為比無食樂更無食樂之喜。

七

諸比丘！何者為有食樂之樂？諸比丘！此乃此等五種之欲。何者為五？眼所識之色……諸比丘！凡以此等五種之欲為緣，所起之喜樂，諸比丘！此稱為有食樂之樂。

八

諸比丘！何者為無食樂之樂？諸比丘！於此有比丘，離諸欲、離諸不善法……逮達住於初禪。由尋與伺之息滅，內部寂靜……逮達住於第二禪。離喜、捨心、正念正知，以身感受樂，謂諸聖之談捨心者、有念者、樂住，逮達住於第三禪。諸比丘！此稱為無食樂之樂。

九

諸比丘！何為比無食樂更無食樂之樂？諸比丘！凡觀察於欲解脫之心……瞋恚……觀察於愚癡解脫之心，乃漏盡之比丘，是其心所起之喜樂。諸比丘！此稱為比無食樂更無食樂之喜。

一〇

諸比丘！何者為有食樂之捨？諸比丘！此為此等五種之欲。何者為五？乃眼所識之色……諸比丘！凡以此等五種欲為緣所起之捨，諸比丘！此稱之為有食樂之捨。

一一

諸比丘！何者為無食樂之捨？諸比丘！於此有比丘，其前之樂之捨棄，由苦之捨棄、由喜憂之滅沒、非苦非樂、逮達住於捨、念清淨之第四禪。諸比丘！此稱為無食樂之捨。

一二

諸比丘！何者為比無食樂更無食樂之捨？諸比丘！凡觀察於貪欲解脫之心……觀察於瞋恚……愚癡、解脫之心，乃漏盡之比丘，是其心所起之捨。諸比丘！此稱為比無食樂更無食樂之捨。

一三～一五

諸比丘！何者為有食樂之解脫？與色相關連之解脫，為有食樂之解脫……與無色關連之解脫，為無食樂之解脫。諸比丘！何為比無食樂更無食樂之解脫？諸比丘！凡觀察於貪欲解脫之心，觀察於瞋恚解脫之心，觀察於愚癡解脫之心，乃漏盡之比丘是其心所起之解脫。諸比丘！此稱為比無食樂更無食樂之解脫。」

百八理品第三

〔終〕

其攝頌曰：

尸婆與百八
比丘及宿智
沙門婆羅門
純粹無食樂

受相應〔終〕

第三 女人相應

第一 中略品 第一

〔一〕第一 可意不可意

※二

「諸比丘！具五支之女人，於男人為甚不可意。何等之五支耶？容貌不好、無財產、無戒德、懶惰、不為男子得兒。諸比丘！具此等五支之女人，為男人甚不可意。」

三

諸比丘！具五支之女人，男人甚為可意。何等之五支耶？容貌好、有財產、有戒德、巧妙而不懶惰、為男子而得兒。諸比丘！具此等五支之女人，男人甚可意。」

〔二〕第二 可意不可意

※二

「諸比丘！具五支之男人，於女人為甚不可意。為何等之五支耶？容貌不好、無財產、無戒德、懶惰、不為彼女得兒。諸比丘！具此等五支之男子，於女人為甚不可意。」

三

諸比丘！具五支之男子，於女人甚為可意。何等之五支耶？容貌好、有財產、有戒德、巧妙而不懶惰、為彼女而得兒。諸比丘！具此等五支之男子，於女人為甚可意。」

〔三〕第三 特殊

※二

「諸比丘！此等之五者，為女人特殊之痛苦。於此，女人比男子更能忍受。何等為五耶？

三

諸比丘！女人年輕嫁於他家，離別親族。諸比丘！此為女人第一特殊之苦痛；此乃女人比男子更能忍受。

四

復次，諸比丘！女人為有經水者。諸比丘！此為女人第二特殊苦痛；此乃女人比男子更能忍受。

五

復次，諸比丘！女人為懷胎者。諸比丘！此為女人第三特殊之苦痛；此乃女人比男子更能忍受。

六

復次，諸比丘！女人有分娩。諸比丘！此為女人第四特殊之苦痛；此乃女人比男子更能忍受。

七

復次，諸比丘！女人奉侍男子。諸比丘！此為女人第五特殊之苦痛；此乃女人比男子更能忍受。

八

諸比丘！此等之五者為女人特殊之苦痛；此乃女人比男子更能忍受。」

〔四〕第四 三法

※二

「諸比丘！具三種法之女人，身壞命終後，生於離去處、惡趣、極墮、地獄。是何等之三法耶？

三

於此有女人，早晨以充滿慳貪之心住於家庭，日中以充滿嫉妒之心住於家庭，日暮以充滿染欲之心住於家庭。

四

諸比丘！具此等三種法之女人，身壞命終後，生於離去處、惡趣、極墮、地獄。」

（阿難律 一 黑分）

※二

時，尊者阿那律來詣世尊住處……

三

坐於一面之尊者阿那律，向世尊曰：「大德！於此，余以比人更殊勝之清淨天眼，見女人身壞命終後，生於離去處、惡趣、極墮、地獄。大德！具幾種法之女人，身壞命終後，生於離去處、惡趣、極墮、地獄耶？」

〔五〕第一 有忿

※四

「阿那律！具五種法之女人，身壞命終後，生於離去處、惡趣、極墮、地獄。何等之五法耶？

五

無信、無慚、無愧、有忿、智劣是。

六

阿那律！具此等五種法之女人，身壞命終後，生於離去處、惡趣、極墮、地獄。」

〔六〕第二 有恨

※四

「阿那律！具五種法之女人……

五

無信、無慚、無愧、有恨、智劣是。

六

阿那律！具此等五種法之女人……」。

〔七〕第三 有嫉

※四

「阿那律！具五種法之女人……

五

無信、無慚、無愧、有嫉、智劣是。

六

阿那律！具此等五種法之女人……」。

〔八〕第四 有慳

※四

「阿那律！具五種法之女人……

五

無信、無慚、無愧、有慳、智劣是。

六

阿那律，具此等五種法之女人……」。

〔九〕第五 犯行

※四

「阿那律！具五種法之女人……

五

無信、無慚、無愧、犯行、智劣是。

六

阿那律！具此等五種法之女人……」。

〔一〇〕第六 戒劣

※四

「阿那律！具五種法之女人……

五

無信、無慚、無愧、戒劣、智劣是。

六

阿那律！具此等五種法之女人……」。

〔一一〕第七 寡聞

※四

「阿那律！具五種法之女人……

五

無信、無慚、無愧、寡聞、智劣是。

六

阿那律！具此等五種法之女人……」。

〔一二〕第八 懈怠

※四

「阿那律！具五種法之女人……

五

無信、無慚、無愧、懈怠、智劣是。

六

阿那律！具此等五種法之女人……」。

〔一三〕第九 忘念

※四

「阿那律！具五種法之女人……

五

無信、無慚、無愧、忘念、智劣是。

六

阿那律！具此等五種法之女人……」。

〔一四〕第十 五禁

※四

「阿那律！具五種法之女人，身壞命終後，生於離去處、惡趣、極墮、地獄。何等之五法耶？

五

奪生命、不與而取、於諸欲邪行、妄語、用穀酒、花酒之狂醉放逸事。

六

阿那律！具此種五法之女人，身壞命終後，生於離去處、惡趣、極墮、地獄。」

第二 中略品 第二

〔阿那律 二 白分〕

※二

時，尊者阿那律來詣世尊住處……

三

坐於一面之尊者阿那律，白世尊曰：「大德！於此，余以比人更殊勝清淨之天眼，見女人身壞命終後，生於善趣、天界。大德！具幾種法之女人，於身壞命終後，生於善趣、天界耶？」

〔一五〕第一 無忿

※四

「阿那律！具五種法之女人，身壞命終後，生於善趣、天界。何等之五法耶？」

五

有信、有慚、有愧、無忿、智者是。

六

阿那律！具此等五種法之女人，身壞命終後，生於善趣、天界。」

〔一六〕第二 無恨

※四

「阿那律！具五種法之女人，身壞命終後，生於善趣、天界。何等之五法耶？」

五

有信、有慚、有愧、無恨、智者是。

六

阿那律！具此等五種法之女人，身壞命終後，生於善趣、天界。」

〔一七〕第三 無嫉

※四

「阿那律！具五種法之女人，身壞命終後，生於善趣、天界。何等之五法耶？」

五

有信、有慚、有愧、無嫉、智者是。

六

阿那律！具此等五種法之女人，身壞命終後，生於善趣、天界。」

〔一八〕第四 無慳

※五

「……無慳、智者是。」

〔一九〕第五 無犯行

※五

「……無犯行、智者是。」

〔二〇〕第六 持戒

※五

「……持戒者，智者是。」

〔二一〕第七 多聞

※五

「……多聞、智者是。」

〔二二〕第八 精進

※五

「……起精進，智者是。」

〔二三〕第九 有念

※五

「……念現在前，智者是。」

六

阿那律！具此等五種法之女人，身壞命終後，生於善趣、天界。」

〔二四〕第十 五戒

※五

「阿那律！具五種法之女人，身壞命終後，生於善趣、天界。何等之五耶？離奪生命、離不與取、於諸欲離邪行、離妄語、離穀酒、花酒之狂醉放逸事。

六

阿那律！此等五種法之女人，身壞命終後，生於善趣、天界。」

二之中略品

〔終〕

此攝頌曰：

可意不可意
特殊阿那律
忿恨嫉及慳
犯行與劣戒
寡聞及懈怠
忘失與五禁
於黑分中說
阿那律無忿
無恨並無嫉
無慳無犯行
多聞持戒者
精進念五戒
於白分中說

第三 第三品

〔二五〕第一 無所畏

※二

「諸比丘！此等五者，為女人之力。何者為五耶？是容色之力、財產之力、親族之力、兒之力、戒德之力。諸比丘！此等五者，為女人之力。」

三

諸比丘！具此等五力之女人，無所畏而住於家。」

〔二六〕第二 抑制

※二

「諸比丘！此等之五者，為女人之力。何者為五耶？是容色之力、財產之力、親族之力、兒之力、戒德之力。諸比丘！此等之五為女人之力。」

三

諸比丘！具此等五力之女人，抑夫而住於家。」

〔二七〕第三 克服

※二

「諸比丘！此等五者，為女人之力。何者為五耶？是容色之力、財產之力、親族之力、兒之力、戒德人之力。諸比丘！此等之五者，為女人之力。」

三

諸比丘！具此等五力之女人，克服於夫而存也。」

〔二八〕第四 單一

※二

「諸比丘！具一力之男子、克服女人而生存。如何為一力耶？主權之力是。

三

諸比丘！依主權之力所克服之女人，亦不護容色之力、亦不護財產之力、亦不護親族之力、亦不護兒之力、亦不護戒德之力。」

〔二九〕第五 部分

※二

「諸比丘！此等五者，為女人之力。何者為五耶？是容色之力、財產之力、親族之力、兒之力、戒德之力。

三

諸比丘！具容色之力、而不具財產力之女人，如是其部分不滿。諸比丘！具容色之力、而又具財產之力，如是彼女即滿其部分也。

四

諸比丘！具容色力與財產力，而不具親族力之女人，是其部分之不滿。諸比丘！女人具容色力、財產力、親族力故，如斯彼女則滿其部分。

五

諸比丘！具容色力、財產力、親族力、而不具兒力之女人，是其部分之不滿。諸比丘！女人具容色之力、財產之力、親族之力、兒之力故，如是彼女則滿其部分。

六

諸比丘！具容色之力、財產之力、親族之力、兒之力而不具戒德力之女人，如是其部分之不滿。諸比丘！女人具有容色之力、財產之力、親族之力、兒之力、戒德之力故，如是彼女則滿其部分。

七

諸比丘！此等之五者，為女人之力。」

〔三〇〕第六 放逐

※二

「諸比丘！此等之五者，為女人之力。何者為五耶？是容色之力、財產之力、親族之力、兒之力、戒德之力。

三

諸比丘！具容色之力，而不具戒德力之女人，親族將之放逐，不令住家。諸比丘！具容色之力、財產之力而不具戒德力之女人，親族將之放逐，不令住家。諸比丘！具容色之力、財

產之力、親族之力，而不具戒德力之女人，親族將之放逐，不令住家。諸比丘！具容色之力、財產之力、親族之力、兒之力，而不具戒德力之女人，親族將之放逐，不令住家。

四

諸比丘！具戒德之力，而不具容色之女人，親族令之住家，而不放逐。諸比丘！具戒德之力，而不具財產力之女人，親族令之住家而不放逐。諸比丘！具戒德之力，而不具親族力之女人，親族令之住家而不放逐。諸比丘！具戒德之力，而不具兒力之女人，親族令之住家而不放逐。

五

諸比丘！此等五者為女人之力。」

〔三一〕第七 因

※二

「諸比丘！此等之五者，為女人之力。何者為五耶？是容色之力、財產之力、親族之力、兒之力、戒德之力。

三

諸比丘！女人以容色之力為因，或以財產之力為因，或以親族之力為因，或以兒力為因，身壞命終後，不生於善趣、天界。

四

諸比丘！女人以戒德之力為因，身壞命終後，生於善趣、天界。

五

諸比丘！此等之五者，為女人之力。」

〔三二〕第八 位處

二

「諸比丘！此等五種之位處，乃不修善業之女人所難得者。何者為五耶？」

三

諸比丘！『我生於適當之家。』此為不修善業之女人難得之第一位處。諸比丘！『我生於適當之家，嫁於適當之家。』此為不修善業之女人，難得之第二位處。諸比丘！『我生於適當之家，嫁於適當之家，夫無他妻住於家。』此為不修善業之女人，難得之第三位處。諸比丘！『我生於適當之家，嫁於適當之家，夫無他妻住於家而舉兒。』此為不修善業之女人，難得之第四位處。諸比丘！『我生於適當之家，嫁於適當之家，夫無他妻住於家，舉兒，克服於夫而住者。』此為不修善業之女人，難得之第五位處。諸比丘！此等為不修善業之女人，所難得之五種位處。

四

諸比丘！此等五種之位處，為已修善業之女人所易得者。何者為五耶？」

諸比丘！『我出生於適當之家。』此為已修善業之女人，易得之第一位處。諸比丘！『我生於適當之家，嫁於適當之家。』此為已修善業之女人，易得之第二位處。諸比丘！『我

生於適當之家，嫁於適當之家，夫無他妻住於家。』此為已修善業之女人，易得之第三位處。諸比丘！『我生於適當之家，嫁於適當之家，夫無他妻住於家，舉兒。』此為已修善業之女人，易得之第四位處。諸比丘！『我生於適當之家，嫁於適當之家，夫無他妻住於家，舉兒，克服於夫而住者。』此為已修善業之女人，易得之第五位處。

諸比丘！此等為已修善業之女人，易得之五種位處也。」

〔三三〕第九 無所畏

※二

「諸比丘！具五法之女人，無所畏而住於家。何者為五耶？

三

乃離奪生命、離不與取、離諸欲邪行、離妄語、離用穀酒、花酒、狂醉放逸之事。

四

諸比丘！具此等五種法之女人，為無所畏而住於家。」

〔三四〕第十 增長

※二

「諸比丘！聖女弟子依五種增長而增聖女弟子，因聖之增長而增長，得身之極精者，得最良者。何等為五耶？

三

依信而增長，依戒而增長，依聞而增長，依施捨而增長，
依智而增長。

四

諸比丘！依此等五種增長而增長之聖女弟子，依聖之增長
而增長，得身之極精進者，得最良者。

於此，依信或依戒而增長，依智、依捨施，或依聞兩處增
長，如是持戒之信女，於此，已得最精。」

女人相應之三品

其攝頌曰：

無所畏抑制
克服與單一
第五之部分
喪亡及原因
位處無所畏
增長等為十

第四 閻浮車相應

第一 涅槃

一

爾時，尊者舍利弗住摩揭陀國之那羅迦村。

二

時，閻浮車普行沙門，來詣尊者舍利弗住處，與尊者舍利弗會釋，交談親愛慰勸之話後，坐於一面。

三

坐於一面之閻浮車普行沙門，白尊者舍利弗曰：「友舍利弗！所謂：『涅槃、涅槃』者，友！何者為涅槃耶？」「友，凡貪欲之壞滅、瞋恚之壞滅、愚癡之壞滅，此稱之謂涅槃。」

四

「然則，友！有實現此涅槃之道耶？有行道耶？」

「友！有實現此涅槃之道，有行道也。」

五

「然則，友！何為實現此涅槃之道耶？何為行道耶？」

「友！此八支聖道正是實現此涅槃之道。即正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。友！此為實現行此涅槃之道。」

六

「友！實現此涅槃之道是善，行道是善。又足於精勤。」

第二 阿羅漢果

※三

「友！舍利弗！所謂：『阿羅漢果、阿羅漢果』者，友！何者為阿羅漢果耶？」

「友！凡貪欲之壞滅、瞋恚之壞滅、愚癡之壞滅，此稱謂阿羅漢果。」

四

「然則，友！有行道耶？有實現此阿羅漢果之道耶？」

「友！有行道、有實現此阿羅漢果實現之道。」

五

「然則，友！何者為行道耶？何者為實現此阿羅漢果之道耶？」

「友！此聖八支之道，正是實現此阿羅漢果之道。即正見、正思惟……正定是。友！此為行道，此為實現阿羅漢果之道。」

六

「友！此行道實現阿羅漢果之道為善。友！舍利弗！又足以精勤。」

第三 法語者

※三

「友！舍利弗！誰為世之法語者？誰為世之善行者？誰為世之善到者耶？」

四

「友！於凡世為說貪欲捨棄法，說瞋恚捨棄法，說愚癡捨棄法者，此等為世之法語者。

五

友！凡為實行捨棄貪欲，實行捨棄瞋恚，實行捨棄愚癡者，此等為世之善行者。

六

友！若諸人捨棄貪欲，斷其根，如多羅樹之無頭，成為非生者，成未來不生之法。捨棄瞋恚……愚癡，斷其根，如多羅樹之無頭，成為非生者，屬未來不生之法，此等為世之善到者。」

七

「唯然，友！有行道，有此捨棄貪欲、瞋恚、愚癡捨棄之道耶？」

「友！有行道，有此捨棄貪欲、瞋恚、愚癡之道。」

八

「友！何者為行道？何者為捨棄此貪欲、瞋恚、愚癡之道耶？」

「友！此八支聖道正是捨棄此貪欲、瞋恚、愚癡之道。即：正見、正思惟……正定是。友！此為捨棄此貪欲、瞋恚、愚癡之道，此為行道也。」

九

「友！此捨棄貪欲、瞋恚、愚癡之道為善，行道為善。友舍利弗！又足以精勤。」

第四 何在

※三

「友！舍利弗！跟隨沙門瞿曇修梵行有何之利耶？」

「友！為知悉於苦，跟隨世尊修梵行。」

※三

「然則，友！有知悉此苦之道，有行道耶？」

「友！有知悉此苦之道，有行道。」

四

「友！何者為知悉此苦之道？何為行道耶？」

「友！此八支聖道正是知悉此苦之道，即：正見、正思惟……正定是。友！知悉此苦之道，此為行道。」

五

「友！知悉此苦之道為善，行道是善。友舍利弗！又足以精勤。」

第五 安息

※三

「友舍利弗！所謂：『達於安息、達於安息』者，友！人須多久始達於安息耶？」

「友！比丘依如實知六種觸處之生起、滅盡、甘味、患難、出要，友！比丘於此分，彼可達於安息。」

四

「然則，友！有實現此安息之道，有行道耶？」

「友！有實現此安息之道，有行道。」

五

「然則，友！何者為實現此安息道耶？何者為行道？」

「友！此八支聖道正是實現此安息之道，即：正見、正思惟……正定是。吾友！此為實現安息之道，此為行道。」

六

「友！實現安息之道為善，此行道是善。友！又足以精勤。」

第六 最上安息

※三

「友舍利弗！所謂：『達於最上安息，達於最上安息』者，友！人須多久始可達於最上安息耶？」

「友！比丘如實知六種觸處之生起、滅盡、甘味、患難、出離，無取著以解脫，友！彼於此分達於最上安息。」

四～六

「友！有此最上安息之道耶？為有此行道？」

.....

第七 受

※三

「友舍利弗！所謂：『受、受』者，友！何者為受耶？」

「友！此等三者是受。即：樂受、苦受、非苦非樂受是。友！此等為受。」

四

「然則友！有此等知悉諸受之道耶？有行道耶？」

.....

第八 漏

※三

「友舍利弗！所謂：『漏、漏』者，友！何者為漏耶？」

「友！此等三者是漏。為欲漏、有漏、無明漏是。友！此等三者，是漏。」

四

「友！有此等捨棄諸漏之道耶？有行道耶？」

.....

第九 無明

※三

「友舍利弗！所謂：『無明、無明』者，友！何者為無明耶？」

「友！凡對苦之無知，苦生起之無知，苦滅盡之無知，達苦滅盡道之無知，友！此稱謂無明也」

四

「友！然則，有此捨棄無明之道耶？有行道耶？」

.....

第十 愛

※三

「友舍利弗！所謂：『愛、愛』者，友！何者為愛耶？」

「友！此等三者是愛。則欲愛、有愛、非有愛是。友！此等三種為愛。」

四

「友！然則，有此等捨棄諸愛之道耶？有行道耶？」

.....

第十一 瀑流

※三

「友舍利弗！所謂：『瀑流、瀑流』者，友！何者為瀑流耶？」

「友！此等四者為瀑流。則欲瀑流、有瀑流、見瀑流、無明瀑流。友！此等為四種瀑流。」

四

「友！有此等捨棄四種瀑流之道耶？有行道耶？」

.....

第十二 取

※三

「友舍利弗！所謂：『取、取』者，友！何者為取耶？」

「友！此等四者是取，即：欲取、見取、戒禁取、我語取是。友！此等者為四種取。」

四

「友！有捨棄此等四取之道耶？有行道耶？」

.....

第十三 有

※三

「友舍利弗！所謂：『有、有』者，友！何者為有耶？」

「友！此等三者是有。則：欲有、色有、無色有是。友！此等三者為有。」

四

「友！然則，有知悉此等之道耶？有行道耶？」

.....

第十四 苦

※三

「友舍利弗！所謂：『苦、苦』者，友！何者為苦耶？」

「友！此等三者是苦。是為苦苦性、行苦性、壞苦性。友！此等三者是苦。」

四

「友！然則，有此等知悉苦之道耶？有行道耶？」

.....

第十五 己身

※三

「友舍利弗！所謂：『己身、己身』者，友！何者為己身耶？」

「友！此等之五取蘊，世尊稱之為己身。即：色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊是。友！此等五取蘊，世尊稱之為己身。」

四

「友！然則，有知悉此己身之道耶？有行道耶？」

「友！有知悉此己身之道，有行道。」

五

「友！然則，何者為知悉此己身之道耶？行道耶？」

「友！此八支聖道，始為知悉此己身之道，正是行道。即：正見、正思惟……正定是。友！此是知悉己身之道，此是行道。」

六

「友！此知悉己身之道為善，此行道為善，友舍利弗！又足以精勤。」

第十六 難為

※三

「友舍利弗！於此教以何為難為耶？」

「友！於此教以出家為難為。」

四

「友！然則，於出家者，以何事為難為耶？」

「友！於出家者以愛樂為難為。」

五

「友舍利弗！然則愛樂者以何事為難為耶？」

「友！愛樂者，以法隨法之履修為難為。」

六

「友！法隨法履修之比丘，久而可成為阿羅漢耶？」

「友！不久當成阿羅漢。」

閻浮車相應
(終)

其攝頌曰：

涅槃阿羅漢
法語者何在
安息最安息
受漏及無明
愛瀑流並取
有苦及己身
於此教難為

第五 沙門出家相應

第一 涅槃

一

爾時，尊者舍利弗住伐地國之郁伽支羅恒河畔。

二

時，普行沙門來詣尊者舍利弗住處，與尊者舍利弗會釋，交談親切慰勸之話後，坐於一面。

三

坐於一面之普行沙門白尊者舍利弗曰：「友舍利弗！所謂：『涅槃、涅槃』者。友！何者為涅槃耶？」

「友！凡貪欲之壞滅、瞋恚之壞滅、愚癡之壞滅，此稱之為涅槃。」

四

「然則友！有實現此涅槃之道耶？有行道耶？」

「友！有實現此涅槃之道，有行道。」

五

「友！以何為實現此涅槃之道耶？以何行道耶？」

「友！此八支聖道，正是為實現此涅槃之道，即：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。友！此

為實現涅槃之道，此為行道。」

六

「友！此實現涅槃之道為善，此行道為善。友！又足以精勤。」

第二～第十五（與閻浮車相應之二～一五全部相同）

第十六 難為

※三

「友舍利弗！於此教以何為難為耶？」

「友！於此教以出家為難為。」

四

「友！然則出家者，以何事為難為耶？」

「友！出家者以愛樂為難為。」

五

「友舍利弗！然則愛樂者，以何事為難為耶？」

「友！於愛樂者，以法隨法之履行為難為。」

六

「友！法隨法履行之比丘，久而可成阿羅漢耶？」

「友！不久可成阿羅漢。」

沙門出家相應
(終)

其攝頌曰：

(與前相應之攝
頌同)。

第六 目犍連相應

第一 有尋

一

爾時，尊者大目犍連住舍衛城，祇陀林給孤獨長者之遊園。

二

於此處，尊者大目犍連言諸比丘曰：「友諸比丘！」

此等諸比丘應諾尊者大目犍連曰：「友！」

三

尊者大目犍連如次曰：「諸友！余於此獨坐靜思，心中起如是之念：『所謂初禪，稱初禪者，何者為初禪耶？』」

四

諸友！余生此念：『此處有比丘，離諸欲，離不善法，有尋有伺，由離所生喜樂逮達初禪而住，此稱謂初禪。』」

五

諸友！余離於諸欲，離於不善法，有尋有伺，由離生喜與樂逮達初禪而住。諸友！余依此法而住，與欲俱起之想、作意現行。

六

其時，諸友！世尊以神通來近余處曰：『目犍連！目犍連！婆羅門！勿放逸初禪，以心住於初禪，以心專一於初禪，以心保持於初禪。』

七

諸友！余嗣後即離諸欲，離不善法，有尋有伺，而逮達由離所生喜樂之初禪而住。

八

諸友！若為善談者，『蒙師之殊恩，弟子得大遍智』，有如是之談者，則此善談者，對余『蒙師之殊恩，弟子得大遍智』作如是談。」

第二 無尋

※三

「……『第二禪，稱第二禪者，何者為第二禪耶？』

四

諸友！時余生是念：『於此有比丘，由尋與伺之息滅，內部有寂靜，有心之單一性，無尋無伺，而逮達住定生喜、樂之第二禪。此稱為謂第二禪。』

五

諸友！時余由尋伺之息滅，內部有寂靜，有心之單一性，無尋無伺，逮得住定生喜、樂之第二禪。諸友！余依此住法而住，與尋俱起之想、作意現行。

六

其時！諸友！世尊以神通來近余曰：『目犍連！婆羅門！勿放逸第二禪，以心住於第二禪，心專一於第二禪，以心保持於第二禪。』

七

諸友！余其後由尋伺之息滅，內部寂靜，有心之單一性，無尋無伺，由逮達住定生喜、樂之第二禪。

八

諸友！若為善談者，『蒙師之殊恩，弟子得大遍智』，有如是談者，乃對余作如是之談：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』」

第三 樂

※三

「……『第三禪，稱第三禪，何者為第三禪耶？』

四

諸友！時余生此念：『於此有比丘，依離於喜，捨心，正念正知，以身感受樂。謂聖者之談捨心者、有念者、樂住者，逮達住於第三禪。此稱為第三禪。』

五

諸友！余依離於喜、捨心，正念，正知，以身感受樂。謂聖者之談捨心者、有念者、樂住者，逮達住於第三禪。諸友！

余因住於此法，與喜俱起之想、作意現行。

六

其時，諸友！世尊以神通來近余曰：『目犍連！目犍連！婆羅門！勿放逸第三禪。以心住立於三禪，將心專一於第三禪，心保持於第三禪。』

七

諸友！余其後，依離於喜、捨心，正念，正知，而以身感受樂，謂聖者之談捨心者、有念者、樂住者，逮達住第三禪。

八

吾友！若為善說者如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』此善說者，乃對余如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』」

第四 捨

※三

「……『第四禪，稱第四禪者，何者為第四禪耶？』

四

諸友！余生是念：『此處有比丘，前即由樂之捨棄，苦之捨棄，因喜、憂之滅沒，非苦非樂而逮達住於捨念清淨之第四禪，此稱為第四禪。』

五

諸友！余前即由樂之捨棄，由苦之捨棄，因喜、憂之滅沒，非苦非樂，逮達住於捨念清淨之第四禪。諸友！余住此法而住，想與樂俱起、作意現行。

六

其時，諸友！世尊以神通來近余曰：『目犍連！目犍連！婆羅門！勿放逸於第四禪，以心住立於第四禪，以心專一於第四禪，以心保持於第四禪。』

七

諸友！余其後，即由樂之捨棄，苦之捨棄，因喜、憂之滅沒，非苦非樂，逮達住於捨念清淨之第四禪。

八

諸友！若為善說者，有如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』此善說者乃對余如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』」

第五 虛空

※三

「……『空無邊處，稱空無邊處者，以何者為空無邊處耶？』

四

諸友！余生是念：『此處有比丘，超越一切色想，瞋恚想之滅沒，因不思惟種種想，而為虛空無邊，則逮達住於空無邊處，此稱謂空無邊處。』

五

諸友！余超越一切色想，瞋恚想之滅沒，因不思惟種種想而為虛空無邊，以逮達住於空無邊處，友等！余依住此法而住，想與色俱起、作意現行。

六

其時，諸友！世尊以神通來近余宣曰：『目犍連！目犍連！婆羅門！勿放逸空無邊處，以心住立於空無邊處，心專一於空無邊處，心保持於空無邊處。』

七

諸友！余其後，超越一切色想，瞋恚想之滅沒，因不思惟種種想而為虛空無邊，逮達住於空無邊處。

八

諸友！若為善說者，有如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』如是談者，是為對我……而談。」

第六 識

※三

「……『識無邊處，稱識無邊處者，何者為識無邊處耶？』

四

諸友！余生是念：『此處有比丘，超越一切空無邊處，為識無邊處，若逮達住於識無邊處者，此稱謂識無邊處。』

五

友！余超越一切空無邊處，為識無邊處，逮達住於識無邊處。諸友！余依住此法而住，想與空無邊處俱起、作意現行。

六

其時，諸友！世尊以神通來近余曰：『目犍連！目犍連！婆羅門！勿放逸識無邊處。應以心住立於識無邊處，心專一於識無邊處，心保持於識無邊處。』

七

諸友！余其後，超越一切空無邊處，為識無邊處，逮達住於識無邊處。

八

諸友！若善說者，有如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』如是談者，是為對我……之談。」

第七 無所有

※三

「……『無所有，稱無所有者，何者為無所有耶？』

四

諸友！余生是念：『此處有比丘，超越一切識無邊處，為無所有，若逮達住於無所有處者，此稱謂無所有處。』

五

諸友！余超越一切識無邊處，為無所有，逮達住於無所有處。諸友！余依住此法而住，想與識無邊處俱起、作意現行。

六

其時，諸友！世尊以神通來近余曰：『目犍連！目犍連！婆羅門！勿放逸無所有處，應以心住立於無所有處，心專一於無所有處，心保持於無所有處。』

七

諸友！余其後，超越一切識無邊處，為無所有逮達住於無所有處。

八

諸友！若為善說者，如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』如是談者，是為對我……而談。」

第八 非非想

※三

「……『非想非非想處，稱非想非非想處者。何者為非想非非想處耶？』

四

諸友！余生是念：『此處有比丘，超越一切無所有處，逮達住於非想非非想處，此稱謂非想非非想處。』

五

諸友！余超越於一切無所有處，逮達住於非想非非想處。
諸友！余依住此法而住，想與無所有處俱起、作意現行。

六

其時，諸友！世尊以神通來近余曰：『目犍連！目犍連！
婆羅門！勿放逸非想非非想處，應以心住於非想非非想處，心
專一於非想非非想處，心保持於非想非非想處。』

七

諸友！余其後，超越一切無所有處，逮達住於非想非非想
處。

八

諸友！若為善說者，如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍
智。』如是談者，是為對余……而談。」

第九 無相

※三

「……『無相心三昧，稱無相心三昧者，何者為無相心三
昧耶？』

四

諸友！余生是念：『此處有比丘，不思惟一切相，若逮達
住於無相心三昧者，此稱謂無相心三昧。』

五

諸友！余不思惟一切相，逮達住於無相心三昧。諸友！余依住此法而住，余生相隨順之識。

六

其時，諸友！世尊以神通來近余曰：『目犍連！目犍連！婆羅門！勿放逸無相之心三昧。應以心住立於無相心三昧，心專一於無相心三昧，心保持於無相心三昧。』

七

諸友！余其後，不思惟一切之相，逮達住於無相心三昧。

八

諸友！若為善說者，如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』如是談者，是為對余此善談者，如是說：『蒙師之殊恩，弟子得大遍智。』」

第十 帝釋

一

爾時，尊者大目犍連住舍衛城祇陀林，給孤獨長者之遊園。

二

時，尊者大目犍連，恰如力士之伸屈腕、屈伸腕，如是隱於祇陀林，現於三十三天。

一

三

時，諸天主帝釋與五百諸天子等，具詣尊者大目犍連住處，禮拜尊者立於一面。

四

尊者大目犍連告立一面之諸天主帝釋曰：「諸天主！可歸依於佛。諸天主！由歸依佛之因，於此處或有情身壞命終後，得生於善趣天界。諸天主！可歸依法。諸天主！由歸依法之因，於此處或有情身壞命終後，得生於善趣天界。諸天主！可歸依僧。諸天主！由歸依僧之因，於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。」

五

「賢者目犍連！可歸依佛。賢者目犍連！由歸依佛之因，於此處或有情身壞命終後，得生於善趣天界。賢者目犍連！可歸依法。賢者目犍連！由歸依法之因，於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。賢者目犍連！可歸依僧。賢者目犍連！由歸依僧之因，於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。」

六～七

時，諸天主帝釋，與六百諸天子等俱……

※九～一一

時，諸天主帝釋，與七百諸天子等俱……

一二～一四

時，諸天主帝釋，與八百諸天子等俱……

一五～一七

時，諸天主帝釋，與八千諸天子等俱……

二

一八

時，諸天主帝釋，與五百諸天子等，俱詣尊者大目犍連住處，禮拜尊者，立於一面。

一九

尊者大目犍連告立一面之諸天主帝釋曰：「諸天主！對佛當有無動信心。如斯，『彼世尊乃應供者、正等覺者、明行具足者、善到者、世間解者、無上士、調御丈夫者、天人師、覺者、世尊是。』依於對佛無動信心之因，諸天主帝釋！如是於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。諸天主帝釋！對法當有無動信心：『世尊所善說之法乃現生、即時、來看，導於涅槃、智者之一一應自知者。』依於對法無動信心之因，諸天主帝釋！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。諸天主帝釋，對僧當有無動信心：『世尊之弟子眾，善修行，世尊之弟子眾，直修行，世尊之弟子眾，正實行，世尊之弟子眾，端實行。此四種之人雙，如八種之人輩，此世尊之弟子眾，值得尊敬。值得恭敬，值得供養，值得合掌禮敬，乃世間無上之福田。』依於對僧有無動信心之因，諸天主帝釋！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。諸天主帝釋！乃聖者之愛好，不破、不斷、無斑點、無污點而淨潔，智者之所讚歎，可資助三昧具足諸戒。聖者愛好具足諸戒之因，諸天主帝釋！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。」

二〇

「友目犍連！對佛當有無動信心。如斯，『彼世尊乃應供者、正等覺者……覺者、世尊。』依於對佛有無動信心之因，友目犍連！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。對法當有無動信心：『於世尊所善說之法乃現生……智者應一一自知者。』依於對法有無動信心之因，友目犍連！此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。對僧當有無動信心：『世尊之弟子眾，善實行……乃世間無上之福田。』依於對僧有無動信心之因，友目犍連！於此處有情身壞命終後，生於善趣天界。友目犍連！聖者愛好……具足諸戒。由聖者愛好具足諸戒之因，友目犍連！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。」

二一～二三

時諸天主帝釋，與六百諸天子等俱……

二四～二六

時諸天主帝釋，與七百諸天子等俱……

二七～二九

時諸天主帝釋，與八百諸天子等俱……

三〇～三二

時諸天主帝釋，與八千諸天子等俱……

三

三三

其時，諸天主帝釋，與五百諸天子等，俱詣尊者大目犍連住處……

三四

尊者大目犍連告立一面之諸天主帝釋曰：「諸天主帝釋！當歸依佛。依於歸依佛之因，於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等因十種事，勝於其他之天人。此乃：天之壽命、天之色彩、天之安樂、天之稱譽、天之主權、天之色、天之聲、天之香、天之味、天之觸。諸天主帝釋！當歸依法。依於歸依法之因，諸天主帝釋！於此處或有情身壞命終後，得生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人。此乃：天之壽命、天之色彩、天之安樂、天之稱譽、天之主權、天之色、天之聲、天之香、天之味、天之觸。諸天主帝釋！當歸依僧。依於歸依僧之因，諸天主帝釋！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人。此乃：天之壽命、天之色彩、天之安樂、天之稱譽、天之主權、天之色、天之聲、天之香、天之味、天之觸。」

三五

「友目犍連！當歸依佛。依於歸依佛之因，友目犍連！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人，此乃：天之壽命……天之觸。友目犍連！當歸依法，依於歸依法之因，友目犍連！有情身壞命終後生善趣天界，彼等由十種事，勝於其他之天人，此乃：天之壽命……天之觸。友目犍連！當歸依僧。依於歸依僧之因，友目犍連！此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人，此乃：天之壽命……天之觸。」

三六～三八

時諸天主帝釋，與六百諸天子等俱……

三九～四一

時諸天主帝釋，與六百諸天子等俱……

四二～四四

時諸天主帝釋，與八百諸天子等俱……

四五～四七

時諸天主帝釋，與八千諸天子等俱……

四

四八

時，諸天主帝釋，與五百諸天子等，俱詣尊者大目犍連住處，禮拜尊者大目犍連後，立於一面。

四九

尊者大目犍連告立一面之諸天主帝釋曰：「諸天主帝釋！對佛當有無動信心，如斯：『彼世尊是應供者、正等覺者、明行具足者、善到者、世間解者、無上士、調御丈夫者、天人師、覺者、世尊。』依於對佛有無動信心之因，諸天主帝釋！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人。此乃：天之壽命、天之色彩、天之安樂、天之稱譽、天之主權、天之色、天之聲、天之香、天之味、天之觸。諸天主帝釋！對法當有無動信心：『由世尊所說之法，乃

現生、即時、來看、導於涅槃、智者應一一自知者。』依於對法有無動信心之因，諸天主帝釋！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人。此乃：天之壽命、天之色彩、天之安樂、天之稱譽、天之主權、天之色、天之聲、天之香、天之味、天之觸。諸天主帝釋！對僧當有無動信心：『世尊之弟子眾，善修行，世尊之弟子眾，直修行，世尊之弟子眾，正修行；世尊之弟子眾，端修行。此四種之人雙，如八種之人輩，此世尊之弟子眾，值得尊敬，值得恭敬，值得供養，值得合掌禮敬，乃世間無上之福田。』依於對僧有無動信心之因，諸天主帝釋！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人。此乃：天之壽命、天之色相、天之安樂、天之稱譽、天之主權、天之色、天之聲、天之香、天之味、天之觸。諸天主帝釋！聖者之愛好不破、不斷、無斑點、無污點、淨潔、讚歎、資助三昧、具足諸戒。依聖者之愛好具足諸戒之因，諸天主帝釋！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人，此乃：天之壽命、天之色相、天之安樂、天之稱譽、天之主權、天之色、天之聲、天之香、天之味、天之觸。」

五〇

「友目犍連！對佛當有無動信心，如斯：『又彼世尊是應供者、正等覺者……覺者、世尊。』依於對佛有無動信心之因，友目犍連！於此處或有情身壞終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人，此乃：天之壽命……天之觸。對法當有無動信心：『依於世尊所善說之法，是現生……智者應一一自知者。』依於對法有無動信心之因，友目犍連！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人，此乃：天之壽命……天之觸。對僧當有無動信心：

『世尊之弟子眾，善修行……世間無上之福田。』依於對僧之有無動信心之因，友目犍連！於此處或有情身壞命終後，生於善趣天界。彼等以十種事，勝於其他之天人，此乃：天之壽命……依於天之觸。」

五一～五三

時諸天主帝釋，與六百諸天子等俱……

五四～五六

時諸天主帝釋，與七百諸天子等俱……

五七～五九

時諸天主帝釋，與八百諸天子等俱……

六〇～六二

時諸天主帝釋，與八千諸天子等俱……

第十一 旃檀天子

一～六二

時，旃檀天子……

〔第十二〕須夜摩天

一～六二

時，須夜摩天子……

〔第十三〕刪兜率陀（兜率）天

一～六二

時，刪兜率陀天子……

〔第十四〕善化樂天

一～六二

時，善化樂天子……

〔第十五〕婆舍拔提天

一～六二

時，婆舍拔提天子……

此等中略五天，亦應如諸天主帝釋之亦應詳說。

目犍連相應
(終)

其攝頌曰：

有尋與無尋
依樂以及捨
虛空以及識
乃至無所有
非想非非想
無相與帝釋
旃檀天十一

第七 質多相應

第一 繫縛

一

一時，眾多之長老比丘等，住於摩叉止陀山之安婆陀伽林。

二

其時，眾多之長老比丘等，食後由托鉢還，俱集坐於周圓堂中，起如是相互談話：「諸友！或謂繫縛、或繫縛之法，此二法是意義有別，抑言辭有別耶？或意義為一，僅言辭之別耶？」

三

其處，有長老比丘等，或作如是說明：「友！或謂繫縛，或繫縛之法。此二法之意義有別，言辭亦有別。」或有長老比丘等，作如是言：「友等！或謂繫縛，或繫縛之法，此二法之意義為一，唯言辭有別。」

四

其時，偶爾質多居士因要事來至彌涯拔陀迦。

五

質多居士聞眾多長老比丘，由食後托鉢歸，俱集坐於周圓堂中，起如是之談話：「友等！或謂繫縛、或繫縛之法，此二法是意義有別，抑言辭有別耶？或意義為一，唯言辭有別

耶？」起此互相談話。或長老比丘等，作如是說明：「友等！或謂繫縛，或繫縛之法，此二法之意義為一，唯言辭有別。」

六

因此，質多居士來詣長老比丘等住處，禮拜彼等，坐於一面。

七

坐於一面之質多居士，白長老比丘等曰：「諸大德！眾多之長老比丘等，食後由托還，俱集坐於周圓堂中，起如是相互之談話：『友等！或謂繫縛，或繫縛之法，此二法之意義有別？抑言辭亦別耶？或意義為一，唯言辭有別耶？』或長老比丘等，作如是說明：『友等！或謂繫縛，或繫縛之法，此二法之意義為一，唯言辭有別。』」

「然，居士！」

八

「諸大德！或謂繫縛，或繫縛之法，此等二法之意義有別？抑言辭亦有別耶？然則諸大德！為汝等以說譬喻；於此處或有智之人等，有依譬喻了知所說之意義。」

九

諸大德！譬如將黑色之牛與白色之牛，以一鎖或索繫縛。若人作如是言：『黑牛繫縛白牛，白牛繫縛黑牛。』者，則彼語是正語耶？」

「居士！不然。居士！非黑牛繫縛白牛，亦非白牛繫縛黑牛。兩者以一鎖及索相繫，此乃如是之繫縛。」

一〇

「與此同理，諸大德！眼非繫縛諸色，非諸色繫縛於眼，於此乃兩者為緣所生之欲染，此乃如是之繫縛。耳非繫縛諸聲……鼻非繫縛諸香……舌非繫縛諸味……身非繫縛諸觸……意非繫縛諸法，於此，以此兩者為緣所生之欲染，此乃如是之繫縛。」

一一

「居士！此為汝之利得。居士！汝善利得，汝之智眼，深通達佛語者。」

第二 隸犀達多（一）

一

爾時，眾多之長老比丘等，住於摩叉止陀安婆陀伽林中。

二

其時，質多居士至此長老比丘等住處，禮拜彼等，坐於一面。

三

坐於一面之質多居士，白長老比丘等曰：「諸大德！長老等明日請應諾受余之食供養。」

長老比丘等默應許諾。

四

時，質多居士知長老比丘等，承諾受食供養，乃從座而起，禮拜彼等，行右繞禮離去。

五

時，長老比丘等，過此夜後，於翌晨著內衣、持衣、鉢，來至質多居士住處，坐於所設之座。

六

質多居士至長老比丘等座前，禮拜彼等，坐於一面。

七

坐於一面之質多居士，白尊者長老曰：「大德長老！謂：『界種種，界種種』者，大德！幾何之界種種，是世尊所說耶？」作斯言時，尊者長老默止。

八

質多居士二度白尊者長老曰：「大德長老！謂：『界種種，界種種』者，大德！幾何之界種種，是世尊所說耶？」

尊者長老又二度默止。

九

質多居士三度白尊者長老曰：「大德長老！謂：『界種種，界種種』者，大德！幾何之界種種，是世尊所說耶？」

尊者長老又三度默止。

一〇

其時，偶隸犀達多於此比丘眾中，是最年輕者。

一一

時，尊者隸犀達多，白尊者長老曰：「大德長老！余願釋答質多居士之此所問。」

「隸犀達多！汝可釋答質多居士之此所問。」

一二

「居士！汝如是問：『大德長老！所稱界種種，界種種者，幾何界種種，是世尊所說耶？』」

「誠然，大德！」

「居士！世尊說此之界種種，曰：眼界、色界、眼識界、耳……鼻……舌……身……意界、法界、意識界。居士！此乃世尊所說之界種種。」

一三

時，質多居士歡喜、隨喜尊者隸犀達多之所說，以勝妙之堅軟食物，親手供養長老比丘等，直至彼等滿足辭去為止。

一四

食已，長老比丘等手放下鉢，即從座起而離去。

一五

時，尊者長老言於尊者隸犀達多比丘曰：「善哉！友隸犀達多！彼之所問，汝為明了；彼之所問，余不明了。然而友隸犀達多！他時如是所問出現時，即亦如汝之明了。」

第三 隸犀達多（二）

一

爾時，眾多之長老比丘等，住於摩叉止陀安婆陀伽林中。

二

其時，質多居士來詣此等長老比丘住處，禮拜彼等，坐於一面。

三

坐於一面之質多居士，白長老比丘等曰：「諸大德！長老等請承諾明日受余之食供養。」

長老比丘等默然應諾。

四

時，質多居士知長老比丘等已應諾受供養，即從座起，禮拜彼等，行右繞禮離去。

五

時，長老比丘等過此夜後，於翌晨著內衣、持衣、鉢，來至質多居士住處，坐於預設之座。

六

質多居士來詣長老比丘住處，禮拜彼等，坐於一面。

七

坐於一面之質多居士白尊者長老曰：「大德長老！凡此等之多種見解，起於世間者，或言：『世是常住。』或言：『世是無常。』或言：『世是有限。』或言：『世是無限。』或言：『生命、身體是同一。』或言：『生命、身體是異。』或言：『如來死後存在。』或言：『如來死後不存在。』或言：『如來死後存在、亦不存在。』或言：『如來死後不存在、又非不存在。』等等，凡此六十二見，說於『梵網經』中者。大德！此等諸見，有何者則存此見，無何者則不存此等見耶？」

斯言時，尊者長老默止。

八

二度質多居士……

九

三度質多居士白尊者長老曰：「大德！凡此等之多種見解，起於世者，或言：『世是常住。』或言：『世是無常。』或言：『世是有限。』或言：『世是無限。』或言：『生命、身體是同一物。』或言：『生命、身體是異。』或言：『如來死後存在。』或言：『如來死後不存在。』或言：『如來死後存在、亦不存在。』或言：『如來死後不存在、又非不存在。』等，凡此六十二見，說於『梵網經』中者。大德！有何者則存此等見，無何者則不存此等見？」

三度，尊者長老默止。

一〇

此時偶有尊者隸犀達多，於此比丘眾中是最年輕者。

一一

時，尊者隸犀達多白尊者長老曰：「大德長老！余願釋質多居士之所問。」

「隸犀達多！汝可釋答質多居士之所問。」

一二

「居士！『大德長老！凡諸種之見解起於世者，或言：「世是常住。」或言：「世是無常……」或言：「如來死後不存在、又非不存在。」等，凡此等六十二見，說於『梵網經』中者，大德！此等諸見，有何者則存在，無何者則不存在？』汝為如是之問耶？」

「大德！誠然。」

「居士！凡諸種之見解起於世者，或言：『世是常住。』或言：『世是無常。』或言：『世是有限。』或言：『世是無限。』或言：『生命、身體是同一。』或言『生命、身體是異。』或言：『如來死後存在。』或言『如來死後不存在。』或言：『如來死後存在、又不存在。』或言：『如來死後不存在、又非不存在。』等，凡此等六十二見，說於『梵網經』中者，居士！有己身見者，則存此等之諸見；無己身見者，此等諸見則不存在。」

一三

「然則，大德！如何有此己身見耶？」

「居士！此處有無聞之凡夫，尚未會遇聖者，不熟通聖者之法，未修練聖者之法。未會遇善人，不熟通善人之法，未修練善人之法者。以觀色為自己，以自己為有色者，以觀自己為色，色為自己。以受……以想……以行……以觀識為自己，以自己為識者，以識為自己，自己為識。居士！己身見者，當即如是。」

一四

「然則，大德！如何無此己身見耶？」

「居士！此處有多聞之聖弟子，已會遇聖者，熟通聖者之法，善修練聖者之法，既會遇善人，熟通善人之法，修練善人之法者，不觀色為自己，不以有色為自己者，亦不觀色有自己，不以自己有色。以受……以想……以行……不觀識為自己，自己為有識者，識有自己，自己有識。居士！無己身見者，當即如是。」

一五

「大德！尊者隸犀達多者，由何地來耶？」

「居士！余來自阿槃提國。」

「大德！阿槃提國有稱為隸犀達多之良家子，乃吾等未見之友，而已出家。尊者曾見彼否？」

「唯然，居士！」

「大德！彼尊者今住何處？」

作斯言時，尊者隸犀達多沈默。

「大德！尊者非隸犀達多耶？」

「誠然，居士！」

「尊者隸犀達多於摩叉止陀自適，當怡樂於安婆陀伽。余為尊者隸犀達多之衣服、托鉢食、坐臥具、資助疾病之藥物等，努力獲得四項要品。」

「居士！汝之所言是殊勝。」

一六

時，質多居士歡喜隨喜隸犀達多之所說，以勝妙之堅軟食物，親手供養長老比丘等，直至彼等滿足辭去為止。

一七

食已。長老比丘等手放下鉢，起座離去。

一八

時尊者長老，言於尊者隸犀達多曰：「善哉！友隸犀達多！彼之所問汝為明了，彼之所問，余不明了。然而友隸犀達多！他時如是之所問出現時，當即如汝之明了。」

一九

時，尊者隸犀達多收藏坐臥具，持衣、鉢，行離摩叉止陀山而去。彼行離摩叉止陀山後，即未嘗再歸來。

第四 摩訶迦

一

一時，眾多之長老比丘等，住於摩叉山陀山之安婆陀伽林中。

二

其時，質多居士來詣此等長老比丘住處，禮拜彼等，坐於一面。

三

坐於一面之質多居士，白長老比丘等曰：「諸大德！長老等明日於牛舍，請應諾余受食供養。」

長老比丘等，默然應諾。

四

時，質多居士知長老比丘等，應諾受供養，即從座起，禮拜彼等，行右繞禮去。

五

時，長老比丘等過此夜後，於翌晨著內衣，持衣、鉢，來至質多居士之牛舍處，而坐於預設之座。

六

於是，質多居士以勝妙之醍醐粥，親手供養長老比丘等，以至彼等滿足自謝為止。

七

食已。長老比丘等，由鉢放手，即從座起離去。但質多居士言：「殘餘者，當棄之！」乃隨長老比丘等之背後而行。

八

其時偶或值暑熱之苦，此長老比丘等，身體恰如將溶化，如喫其食者而行。

九

時，尊者摩訶迦為此比丘眾中最年少者，此尊者摩訶迦，白諸尊者長老曰：「大德長老！若吹清涼之風，起雷鳴，雨滴滴降來者，可好？」

「友摩訶迦！若吹清涼之風，起雷鳴，雨滴滴降來為可意。」

一〇

於是，尊者摩訶迦，望吹清涼之風，起雷鳴，雨滴滴降來，行如是之神通勝行。

一一

質多居士心思念：「此比丘眾之最年少比丘，彼有如是之神通威力！」

一二

尊者摩訶迦達至精舍，白尊者長老曰：「大德長老！如意足耶？」

「友摩訶迦！如是足矣。友摩訶迦！於是事已了所作，友摩訶迦！於是為供養。」

一三

於是，長老比丘歸還住院，尊者摩訶迦亦歸還已住之院。

一四

質多居士來詣尊者摩訶迦處，禮拜尊者摩訶迦後，坐於一面。

一五

坐於一面之質多居士，白尊者摩訶迦曰：「大德！請示現尊者摩訶迦之勝人法、神通神變。」

「然則，汝居士！於外緣備置鬱多羅僧衣，散布草把。」

「唯然，唯然，大德！」質多居士應諾尊者摩訶迦，於外緣備置鬱多羅僧衣，散布草把。

一六

復次，尊者摩訶迦入於住院，施針楔，由鑰匙孔與門門之間放出火焰，燃燒草把而不燒鬱多羅僧衣，行如是神通勝行。

一七

復次，質多居士將鬱多羅僧衣振抖，感動得身毛豎立，而站於一面。

一八

尊者摩訶迦由住院出，告於質多居士曰：「居士！於此足耶？」

「大德摩訶迦！即此足矣。大德摩訶迦！於此事已了所作。大德摩訶迦！此為供養。大德！尊者摩訶迦請自適於摩叉陀山，怡樂於安婆陀伽林，余將為尊者之衣服，托鉢食，坐臥具，資助疾病之藥物等，努力四項要品之獲得。」

「居士！汝之所言是殊勝。」

一九

時，尊者摩訶迦收藏坐臥具，持衣、鉢，行離摩叉止陀山而去。彼行離摩叉止陀山後，未曾再歸來。

第五 迦摩浮（一）

一

一時，尊者迦摩浮住於摩叉止陀山之安婆陀伽林中。

二

時，質多居士來詣尊者迦摩浮住處，禮拜尊者，坐於一面。

三

尊者迦摩浮告於坐在一面之彼質多居士曰：「居士！

『無所虧，有白色之覆蓋車以一輻而轉斷流無縛而無苦見來者。』

作如是言。居士！此所略說之意義，應如何見其詳？」

「大德！此為世尊之所說示耶？」

「唯然，居士！」

「然則，大德！余尋問其意義，且稍待。」

四

於是，質多居士少時沈默後，白尊者迦摩浮曰：「『無所虧』，大德！此為諸戒之別名。

『有白色之覆蓋』，大德！此為解脫之別名。

『有一支輻』，大德！此為正念之別名。

『轉者』，大德！此為進退之別名。

『車者』，此為四大所造、父母所生、粥飯所積、無常、蝕壞、耗消、破損、潰滅之法，乃此身之別名。

大德！染欲是苦，瞋恚是苦，愚癡是苦。漏盡之比丘，已拋棄此等，如斷根無本多羅樹，非使生成者，為未來不生之法。是故，漏盡之比丘稱為『無苦』。

『來者』者，大德！此為阿羅漢之別名。

『流』者，大德！此為渴愛之別名。漏盡之比丘已拋棄直如斷根，無根本之多羅樹，非使生成者，為未來不生之法故，漏盡之比丘稱為『斷流』。

大德！染欲為縛，瞋恚為縛，愚癡為縛。漏盡之比丘已拋棄此等，如斷根無本之多羅樹，非使生成者，為未來不生之法。是故，漏盡之比丘稱為『無縛』。

五

如是，大德！世尊說：

『無所虧，有白色之覆蓋車以一幅而轉斷流無縛而無苦見來者。』

世尊所略說之此句意義，可如是詳知。」

六

「居士！此為汝之利得，居士！汝善利得，汝智眼深通於佛語。」

第六 迦摩浮（二）

一

爾時，尊者迦摩浮住於摩叉止陀山安婆陀伽林中。

二

時，質多居士來詣尊者迦摩浮住處，詣已，坐於一面。

三

坐於一面之質多居士，問於尊者迦摩浮曰：「大德！行有幾種耶？」

「居士！有三種之行，為：身行、語行、心行是。」

「善哉，大德！」質多居士歡喜、隨喜尊者迦摩浮之所說，更問於尊者迦摩浮曰：

四

「然則，大德！何者為身行？何者為語行？何者為心行耶？」

「居士！入息出息為身行，尋伺為語行，想、受為心行。」

「善哉，大德！」質多居士……更致問曰：

五

「然則，大德！何故入息出息為身行？何故尋伺為語行？何故想、受為心行耶？」

「居士！入息出息屬於身，此等之法依縛於身，是故入息出息為身行。居士！先尋求、伺察而後發語，是故尋伺為語行。想、受屬於心，此等之法依縛於心，是故想、受為心行」。

「善哉，大德！」質多居士……更致問曰：

六

「然則，大德！想受滅等至，是如何而有耶？」

「居士！逮達想受滅之比丘，無如是之念：『我將達想受滅。』『我正達想受滅。』或『我已逮達想受滅。』其心前已修練，自向於此。」

「善哉，大德！」質多居士……更致問曰：

七

「然則，大德！逮達想受滅之比丘，如何之法為第一滅？是身行耶？語行耶？心行耶？」

「居士！逮達想受滅之比丘，第一滅語行，然後是身行，再次滅心行。」

「善哉，大德！」質多居士……更致問曰：

八

「大德！此人死時果有，此比丘逮達想受滅，如何此等二者之間相異耶？」

「居士！以此死時為果者，身行滅為輕安，語行滅為輕安，心行滅為輕安也，壽命盡，暖氣熄，諸根毀壞。然而居士！此逮達想受滅之比丘，彼亦身行滅為輕安，語行滅為輕安，心行滅為輕安，然而壽命未盡、暖氣未熄，諸根澄淨。居士！以此人死時之果，此比丘逮達想受滅，此為此等之間之相異。」

「善哉，大德！」質多居士……更致問曰：

九

「然則，大德！如何由想受滅等至之起出耶？」

「居士！由想受滅等至起出之比丘，無如是之念：『我將由想受滅等至起出。』『我正由想受滅等至起出。』或『我已由想受滅等至起出。』其心前已修練，自然向於此。」

「善哉，大德！」質多居士……更致問曰：

一〇

「然則，大德！由想受滅等至起出之比丘，如何之法為第一起？身行耶？語行耶？心行耶？」

「居士！由想受滅起出之比丘，心行於第一起，次為身行，再次為語行。」

「善哉，大德！」質多居士……更致問曰：

一一

「大德！由想受滅起出之比丘，觸於幾種之觸耶？」

「居士！由想受滅起出之比丘，觸有三種之觸，即空觸、無相觸、無願觸是。」

「善哉，大德！」質多居士……更致問曰：

一二

「大德！由想受滅等至起出之比丘，心向於何者、傾於何者、趣於何者耶？」

「居士！由想受滅等至起出之比丘，心向遠離、傾於遠離、趣於遠離。」

「善哉，大德！」質多居士歡喜、隨喜尊者迦摩浮之所說，更致問尊者迦摩浮曰：

一三

「大德！於想受滅等至，如何之法有大利益耶？」

「然則，居士！汝應將先問者置於後問，然則，余可為汝釋答。居士！想受滅等至二種之法，有大利益，即：止、觀是。」

第七 牛達多

一

爾時，尊者牛達多住於摩叉止陀山之安婆陀伽林中。

二

時，質多居士來詣尊者牛達多住處，禮拜尊者，坐於一面。

三

尊者牛達多言坐於一方之質多居士曰：「居士！此無量心解脫，無所有心解脫，空心解脫，無相心解脫，此等諸法是意義有別？抑名辭有別耶？或意義為一，唯名辭有別耶？」

四

「大德！或依於事由，此等諸法調於意義有別，且名辭亦有別，有其事由。大德！又或依於事由，調此等諸法意義為一，唯有名辭各別，而有其事由。」

五

然大德！或依於事由，此等諸法調於意義有別，且名辭亦有別。何者為其事由耶？

大德！於此有比丘，以與慈俱起之心，滿於一方而住，同於第二、同於第三、同於第四方、上下橫、一切處、於一切情況下、一切具有之世界，與慈俱起，廣大遠行無量而無怨念，無恚念之心遍滿而住。與悲俱起之心……與喜俱起之心……與捨俱起之心住於遍滿一方，同於第二、同於第三、同於第四方、上下橫、一切處、一切情況下、一切具有之世界，與捨俱起，廣大遠行無量而無怨念，無恚念之心遍滿而住。大德！此稱為無量心解脫。

六

大德！何者為無所有心解脫耶？大德！於此處有比丘，超越一切識無邊處，『無所有者』，逮達住無所有處。大德！此稱為無所有心解脫。

七

大德！何者為空心解脫耶？

大德！於此有比丘，或入森林、或入樹下、或入空屋，如是思量：『此雖是我，雖是我有，卻是空。』大德！此稱為空心解脫。

八

大德！何者為無相心解脫耶？依於不思惟一切徵相，逮達無相心三昧止住。大德！此稱為無相心解脫。

九

大德！或依事由，謂此等諸法意義各別，且其名辭亦有別，此即其事由。

※一〇

大德！或依事由，謂此等諸意義為一，惟名辭有別者，以何為其事由耶？

一一

大德！染欲是作量者，瞋恚是作量者，愚癡是作量者。漏盡之比丘，捨棄此等，如斷根無本之多羅樹，非使生成者，為未來不生之法。大德！於無量心解脫中，知不動心解脫為此等之最第一。然此不動心解脫，為依染欲而空，依瞋恚而空，依愚癡而空。

一二

大德！染欲是障礙，瞋恚是障礙，愚癡是障礙。漏盡之比丘，捨棄此等，如斷根無本之多羅樹，非使生成者，為未來不生之法。大德！於無所有解脫中，知不動心解脫為此等之最第一。然此不動心解脫，為依染欲而空，依瞋恚而空，依愚癡而空。

一三

大德！染欲為作相者，瞋恚為作相者，愚癡為作相者。漏盡之比丘，捨棄此等，如斷根無本之多羅樹，非使生成者，為未來不生之法。大德！於無相心解脫中，知不動心解脫為此等最第一。然此不動心解脫，依染欲而空，依瞋恚而空，依愚癡而空。

一四

大德！或依於事由，謂此等諸法之意義為一，唯名辭各別而已，其事由即在此。」

第八 尼乾陀

※二

其時，尼乾陀若提子與大尼乾陀集團俱抵達摩叉止陀山。

三

質多居士聞尼乾陀若提子之大尼乾陀集團，到達摩叉止陀山。

四

於是，質多居士與眾多信士等，俱赴尼乾陀若提子住處。與彼相會釋，交談親愛、慇懃之話後，坐於一面。

五

尼乾陀若提子告坐於一面之居士曰：「居士！汝信沙門瞿曇耶？有無尋無伺之三昧，有尋伺之滅盡耶？」

「大德！余非信世尊，有無尋無伺之三昧，有尋伺之滅盡。」

六

作是言已！尼乾陀若提子顧視己之集團曰：「諸師請看此質多居士是如何質直！此質多居士是如何不幻偽耶！此質多居士是如何不虛妄耶！凡思滅盡尋伺者，或即以網障風。凡思滅盡尋伺者，或即思以己掌遮恆河之流。」

七

「大德！汝對此作如何思惟：慧與信，何者為勝耶？」

「居士！慧比信為勝。」

八

「大德！余自望之間，離諸欲，離不善法，有尋有伺，而由離生喜樂逮達住於初禪。大德！余自望之間，由尋、伺之息滅，內部寂靜，心為單一性，無尋無伺，由定生喜樂，逮達住於第二禪。大德！余自望之間，離喜，捨心，正知，以身感受樂，謂聖者之說：捨心者、有念者、樂住者、逮達住於第三禪。大德！余自望之間，由樂之捨棄，由苦之捨棄，前既由喜憂之滅沒，非苦非樂，捨念清淨，逮達住於第四禪。大德！余如是知、如是見，猶須信其他之沙門或婆羅門耶？有無尋無伺之三昧，有尋伺之滅盡。」

九

作是言時，尼乾陀若提子顧視己之集團曰：「諸師請看此質多居士之如何不質直耶！此質多居士之如何幻偽耶！此質多居士如何虛妄耶！」

「大德！於今，我等了解汝之所言：『諸師請看此質多居士之如何質直耶！此質多居士如何不幻偽耶！此質多居士之如何不虛妄耶！』然而，大德！於今，了解汝如是所言：『諸師請看此質多居士之如何不質直耶！此質多居士之如何幻偽耶！此質多居士如何虛妄耶！』

一〇

大德！汝先前之言若正真，則汝後之所言為邪偽。然而，大德！若汝後之言為正真，則先前之言為邪偽。大德！此等十種同法可提出詢問。汝了解此等之意義時，汝尼乾陀集團等可奪余而去。余一詢問，一說示，一釋答；二詢問，二說示，二釋答；三詢問，三說示，三釋答；四詢問，四說示，四釋答；五詢問，五說示，五釋答；六詢問，六說示，六釋答；七詢問，七說示，七釋答；八詢問，八說示，八釋答；九詢問，九說示，九釋答；十詢問，十說示，十釋答。」

一一

於此，質多居士對尼乾陀若提子未提出此等十種之詢問，即從座起而離去。

第九 裸形

※二

其時，裸形迦葉來至摩叉止陀山，為質多居士舊俗之友。

三

質多居士聞：「我等舊俗之友，裸形迦葉來至摩叉止陀山。」

其時，質多居士至裸形迦葉住處，與彼俱會釋，交談親睦、慇懃之話後，坐於一面。

四

坐於一面之質多居士，問於裸形迦葉曰：「大德！汝出家有多久耶？」

「居士！余出家已三十年矣。」

「大德！汝出家之三十年間，可有勝於人間之法，足以為聖特殊之知見，得安樂住否？」

「居士！出家此等之三十年間，余除裸形、剃頭、拔髮之外，並無所得更勝於人間之法，及足以為聖特殊之知見，住於安樂者。」

※六

作是言已，質多居士語於裸形迦葉曰：「誠然不思議！誠然稀有！是善說正法者耶？出家三十年除裸形、剃髮、拔髮之外，並無所得更勝於人間之法，及足以應為聖特殊之何等知見，住於安樂。」

七

「然而，居士！汝做信士經幾何時耶？」

「大德！余做信士以來，亦三十年矣。」

八

「居士！汝於此三十年，嘗得更勝於人間之法，足以為聖特殊之知見，住於安樂？」

「大德！在家人亦復如是。大德！余自望之間，離諸欲，離不善法，有尋有伺而逮達住於離生喜、樂之初禪。大德！余自望之間，由尋、伺之息滅……逮達住於第二禪。大德！余自望之間，離喜……逮達住於第三禪。大德！余自望之間，由樂之捨棄……逮達住於第四禪。大德！若余果先於世尊而去往

時，則世尊對余：『繫縛若存者，則為此所繫縛，質多居士再生來此世界，彼將無此繫縛。』如是懸記非不思議。」

九

如是言已，裸形迦葉言於質多居士曰：「誠然不思議！誠然稀有！是正法之善法者。披白衣之在家人，如是得勝於人間之法，及足以為聖特殊之知見，住於安樂。居士！我將於此教得出家，得受戒。」

一〇

於是，質多居士伴同裸形迦葉，來詣長老比丘等住處，白彼等曰：「諸大德！此裸形迦葉為我等在俗之舊友，求諸長老得出家、受戒。我將為彼之衣服、托鉢食、坐臥具、資助疾病藥物等，努力四項要品之獲得。」

一一

裸形迦葉即於此教得出家、得受戒。受戒後不久，尊者迦葉，獨自遠離其他，住於不放逸，精進、專心，不久之後為得此，由善家男子之善家，成為出家之身，究竟無上之梵行（涅槃）。於現法中自證知、實證，逮得而住，證知：「生已盡、梵行已立、應作已作、不為如是再生。」

尊者迦葉，當即成為阿羅漢之一。

第十 見病

※二

其時，質多居士罹病而苦惱，病體嚴重。

三

時，眾多宿於遊園、森林、樹木及藥草林樹中之諸天，群來集會而語於質多居士曰：「居士！依誓願，汝於未來世當為轉輪王。」

如是言已。質多居士語住宿於遊園、森林、樹木之諸天，宿於草藥林樹中之諸天曰：「此亦無常，此亦不恆久，此亦必將捨棄以去。」

四

如是言已。質多居士之朋友、同修、親族、血緣者等，言於質多居士曰：「貴族子！請確立正念！勿多饒語！」

「汝等如是語余：『貴族子！應確立正念！勿多饒語！』余以何事語於汝等耶？」「貴族子！汝言：『其亦無常，亦不恆久，此亦必將捨棄。』」「然而此等遊園、森林、樹木之諸天，宿於藥草、林樹之諸天作：『依誓願，居士！汝於未來當為轉輪王。』如是言故，我等對汝言：『此亦無常，此亦不恆久，此亦必將捨棄。』作是言。」

五

「貴族子！遊園、森林、樹木之諸天，宿於藥草、林樹之諸天，觀何之因由，作如是言：『居士！汝依誓願，於未來當為轉輪王』耶？」

「此等遊園、森林、樹木之諸天，宿於藥草、林樹之諸天，如是思惟：『此質多居士為持戒者，善法者，彼若誓願於未來世為轉輪王，則持戒者之心，誓願清淨故，當得成就，當持正果。』此等遊園、森林、樹木之天，宿於藥草、林樹之諸

天，觀此因由而作如是言：『此質多居士為持戒者、善法者，彼若於未來世當為轉輪王。』余乃作如是言：『此亦無常，此亦不恆久，此亦必須捨棄之。』」

六

「然則，貴族子！亦教我等。」「然則，汝等應如是學習。我等應對佛有不動之信心，如是，彼世尊是應供者、正等覺、明行具足者、善到者、世間解者、無上士、調御丈夫者、天人師、覺者、世尊。我等對法有無動信心，世尊所說之法是現生、即時、來看、導於涅槃之智者，應一一自知者。我等對僧有無動信心，世尊之弟子眾，善修行；世尊之弟子眾，直修行；世尊之弟子眾，正修行；世尊之弟子眾，端正修行者。此四種之人雙，如八種之人輩。此世尊之弟子眾，值得尊敬，值得恭養，值得合掌禮敬，世間無上之福田。凡家中有可施之物，無不分施於持戒者，善法者，汝等應如是學習。」

七

由是，質多居士使朋友、同修、親族、血緣者等，對佛、法、僧起淨信，達捨施之任務。

質多相應〔終〕

其攝頌曰：

繫縛隸遲達多
摩訶迦迦摩浮
牛達多尼乾陀
裸形者及見病

相應部經典

歸命彼世尊 應供等覺者

六處篇

第八 聚落主相應

第一 暴惡

一

爾時，世尊住舍衛城祇樹林給孤獨長者之園。

二

時，聚落主暴惡，詣世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

三

坐於一面之聚落主暴惡，白世尊曰：「大德！於此處，某者被稱為暴惡，是以何為因？以何為緣耶？而又於此處，某者被稱為柔和，是以何為因？以何為緣耶？」

四

「聚落主！於此處，有某者未捨貪欲，因未捨貪欲，而令他怒及遭遇他怒；若現出自怒者，則稱彼為暴惡。未捨瞋恚，因未捨瞋恚，而令他怒及遭遇他怒；若現出自怒者，則稱彼為暴惡。未捨愚癡……

聚落主！於此處有某者之所以稱為暴惡，即是此因、此緣。

五

然而聚落主！於此處，有某者已捨貪欲，因已捨貪欲，則無令他怒，亦無遭遇他怒；若自怒不現者，則稱彼為柔和。已捨瞋恚，因已捨瞋恚，則無令他怒，亦無遭遇他怒；若自怒不現者，則稱彼為柔和。已捨愚癡……

聚落主！於此處，所以稱某者為柔和，即是此因、此緣。」

六

如是言已。聚落主暴惡如次白世尊曰：「殊妙哉！大德！殊妙哉！大德！大德！譬如倒者之扶起，被蓋覆者之啟露，對迷者示之以道，於暗中舉起油燈，『有眼者得見諸物』。如是，世尊以種種方便，明示說法。於此余當歸依世尊，歸依法及比丘眾。自今日起以至終生為止，願世尊容受我歸依，為優婆塞。」

第二 布吒

一

爾時，世尊住王舍城之竹林迦蘭陀園。

二

時，歌舞戲藝之聚落主多羅弗多詣世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

三

坐於一面之多羅弗多歌舞戲藝之聚落主，白世尊曰：「大德！余聞昔時，累代歌舞戲藝者師之所說：『凡此歌舞戲藝者，於舞堂戲場中，以其真實及假裝，使人人生起笑樂者，其身壞命終之後，得享受喜笑天群為伴之身。』世尊對此作如何宣說耶？」

「聚落主！且止！將此且置，勿以此問余。」

四

再次，多羅弗多歌舞戲藝之聚落主，白世尊曰：「大德！余……世尊！對此作如何宣說耶？」

「聚落主！且止！將此且置，勿以此問余。」

五

三次，多羅弗多歌舞戲藝聚落主，白世尊曰：「大德！余……世尊！對此作如何宣說耶？」

「余已作如是言：『聚落主！且止！勿以此問余。』不許汝作是問，然而余今對汝作答。」

六

聚落主！昔時，人人尚未離貪欲，為繫於貪欲之縛。歌舞戲藝者，為彼等於舞堂戲場中，凡嗜好於物欲者皆集來，使之欲〔念〕愈增。聚落主！昔時，人人尚未離瞋恚，為繫於瞋恚之縛。歌舞戲藝者，為彼等於舞堂戲場中，凡於物好瞋者皆集來，使之瞋愈增。聚落主！昔時，人人尚未離愚癡，……凡於物好愚者皆集來，使之愚癡愈增。

七

彼歌舞戲藝者，自己陶醉放逸，而令他亦陶醉放逸，身壞命終之後，有名為喜笑地獄者，彼出生其處。然而彼若有如是見者：『凡歌舞戲藝者，於舞堂戲場中，以真實與偽裝，令人人笑樂者，其身壞命終之後，享受喜笑天群為伴之身。』此則彼所取之邪見。聚落主！於邪見之人，余說唯有地獄與畜生二道中，有其一道。」

八

如是言已，多羅弗多歌舞戲藝聚落主，悲痛流淚。

「余如是言：『聚落主！且止！以此且置，勿以此問余。』不許汝作如是問。」

「大德！余非對世尊之宣說，悲痛而泣，然則，大德！余為昔時累代歌舞戲藝者師等：『凡歌舞戲藝者……享受喜笑天群之伴身。』長久之被瞞、被欺、被誑而泣。」

九

殊妙哉！大德！殊妙哉！大德！大德！猶如扶起倒者，啟露蓋覆者，迷者得示以道，如暗中舉起油燈，『有眼者得見諸物』。如是世尊以種種方便明示說法。此余當歸依於世尊，歸依於法與比丘眾。大德！願容許余於世尊之處出家、受戒。」

一〇

多羅弗多聚落主於世尊之處，即得出家、受戒。

一一

受戒後不久，尊者多羅弗多……成為阿羅漢之一。

第三 戰士

※二

時，戰士聚落主，詣世尊住處……

三

坐於一面之戰士聚落主，白世尊曰：「大德！余聞昔時，累代戰士師之所說：『凡死鬥努力於戰場之戰士，歷此努力死鬥，若被敵者所殺者，則彼〔戰士〕身壞命終之後，享受俱所樂天群為伴之身。』世尊！對此作如何宣說耶？」

「聚落主！且止！將此且置，勿以此問余。」

四

再次……

五

三次，戰士聚落主白世尊曰：「大德！余聞昔時累代戰士師之所說：『凡死鬥努力於戰場之戰士，歷此努力死鬥，若被敵者所殺者，則彼〔戰士〕身壞命終之後，享受俱所樂天群為伴之身。』世尊！對此作何宣說耶？」

「然而，聚落主！余已如是言：『聚落主！且止！將此且置，勿以此問余。』乃不許汝問，然今余將答汝。」

六

聚落主！凡死鬥努力於戰場之戰士，彼心曾為卑劣，而行所惡，所向是邪：『令此等人被擊、被縛、被斬、滅亡。』或原非意於此，如是作思彼死鬥努力若被敵者所殺者，則彼〔戰士〕身壞命終之後，有名為俱所樂之地獄者，〔彼〕將生於其處。然於彼：『凡死鬥努力於戰場者，此死鬥努力被敵所殺者，則彼戰士身壞命終之後，享受俱所樂天群之身。』作如是見者，彼即是邪見。聚落主！余說邪見之人，唯有地獄與畜生二道中，有其一道。」

七

如是宣說已，戰士聚落主悲痛流淚。

「余如是言：『聚落主！且止！將此且置，勿以此問余。』乃不許汝問。」

「大德！余非對世尊之宣說悲痛而泣，然則大德！余為昔時累代戰士師等：『凡戰士之……享……之身。』長久之被瞞、被欺、被誑而泣。」

八

殊妙哉！大德！殊妙哉！大德！……自今日起至此生之終，余當歸依世尊為優婆塞，願請攝受。」

第四 象

※二～八

時，乘象聚落主，詣世尊住處……「……自今日起至此生之終，余歸依世尊為優婆塞，願請攝受。」

第五 馬

二

時，乘馬聚落主，詣世尊住處，禮拜世尊！坐於一面。

三

坐於一面之乘馬聚落主，白世尊曰：「大德！余聞昔時，累代乘馬士師之所說：『凡乘馬士死鬥努力於戰場，被敵所殺者，彼〔乘馬士〕則身壞命終之後，享受俱所樂天群為伴之身。』世尊！對此作何宣說耶？」

「聚落主！且止！將此且置之，勿以此問余。」

四～八

再次……三次……（以下與第三經之「戰士」與「乘馬士」有所改變而已，其他則完全相同）。

第六 西地〔方〕人（死歿者）

一

爾時，世尊住那爛陀之波婆離迦菴羅林。

二

時，刀師兒聚落主，詣世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

三

坐於一面之刀師兒聚落主，白世尊言：「大德！攜持西部地〔方〕婆羅門之水瓶、著佩西瓦羅花環、入水〔而浴之〕、

奉祀火天者，彼等使死歿者向上、令柔和、安靜以昇天界。大德！世尊、應供、正等覺者！所有女〔人〕身壞命終之後，能行如上生於善趣天界否？」

四

「然則，聚落主！以此問汝，將隨汝想所思作適當回答。

五

聚落主！汝對此作如何思惟：此處有人，是生命破壞者、不與取者、欲邪行者、妄語者、兩舌者、粗語者、綺語者、貪欲者、失心者、邪見者，於其處大人眾群集來而言曰：『此人身壞命終之後，出生於善趣天界。』即為此人祈求、禮讚、合掌而周行者。聚落主！汝對此作如何思惟耶？此人因大人眾之祈求、禮讚、合掌周行，則身壞命終之後，得生於善趣天界耶？」

「大德！不然。」

六

「譬如有人，將巨大之石投於湖水中，時於其處有大人眾群集來而言曰：『大石！汝浮出、汝浮上、汝昇陸上！』如是祈求、禮讚、合掌、周行者，汝對此如何思惟耶？此大石因大人眾之祈求、禮讚、合掌周行，而得浮出、浮上、昇於陸上否？」

「大德！不然。」

「同此，聚落主！有人是生命破壞者……邪見者，假若令大人眾群集來而言曰：『此人身壞……出生……。』雖為此人

祈求、禮讚、合掌、周行，然而此人身壞命終之後，仍生於離去處、惡趣、極墮處、地獄。

七

聚落主！汝對此作如何思惟耶？於此處有人，是禁止生命之破壞，禁止於不與取，禁止欲邪行，禁止妄語，禁止兩舌，禁止粗語，禁止綺語者，不貪欲者，不失心者，是正見者。於其處大人眾集來而言曰：『此人身壞命終之後，出生於離去處、惡趣、極墮處、地獄。』為此人祈求、禮讚、合掌、周行，聚落主！汝對此作如何思惟耶？因此大人眾之祈求、禮讚、合掌周行，而身壞命終之後，得生於離去處、惡趣、極墮處、地獄否？」

「大德！不然。」

八

「聚落主！譬如有人將醍醐瓶或油瓶破沈於深湖水中。其處有砂石或砂礫沉於下，然醍醐或油浮於水上，於其處大人眾群集來，以：『汝醍醐、油！沈下，汝醍醐、油！沉沒，汝醍醐、油！沉沒！』如是祈求、禮讚、合掌、周行者，聚落主！汝對此作如何思惟耶？其醍醐或油，因大人眾之祈求、禮讚、合掌周行，能沈沒而下墮否？」

「大德！不然。」

「同此，聚落主！於此處有人，禁止生命之破壞……是正見者，假若令大人眾群集來而言曰：『此人身壞……出生於……。』雖為此人祈求、禮讚、合掌、周行，此人身壞命終之後，乃生於善趣、天界。」

九

世尊如是宣說已，刀師兒聚落主，如次白世尊曰：「殊妙哉！大德！殊妙哉！大德！……當歸依為優婆塞，請攝受余。」

第七 說教

一

爾時，世尊住那爛陀之波婆離迦菴羅林中。

二

時，刀師兒聚落主，詣世尊住處，禮拜世尊，於一面坐。

三

於一面坐之刀師兒聚落主，白世尊言：「大德！世尊對一切生類，有持利益心、慈愛心而住否？」

「誠然。聚落主！如來對一切生類，有持利益心、慈愛心而住。」

四

「然今大德！何故世尊或為人人而詳說法要，或為人人而不如是詳說法要耶？」

「然則聚落主！以此對汝問，將隨汝所思作適當回答。」

五

聚落主！汝對此作如何思惟耶？於此處耕田之居士，有三種田：一田是殊勝、一田是中等、一田是下劣砂地而含鹽分之惡質地。聚落主！汝對此如何思惟耶？此耕田之居士欲播下種子，應於何處先播種耶？是此殊勝田耶？是中等田耶？或者是此下劣砂地而含鹽分之惡質田耶？」

「大德！此耕田之居士欲下種子時，於下種者當是此殊勝之田，其次下種當是此中等田，再次下種則於此下劣砂地而有多鹽分之惡質地田，或者全部不下種子，何以故？以：『亦可為牛之飼料。』」

六

「聚落主！譬如此殊勝之田，如是者乃余之比丘、比丘尼。余對彼等，說初善、中間之善、終善、有意義、文與言調和之法，說明一切具足、完全清淨之梵行。何以故？聚落主！彼等以余為燈、以余為窟、以余為庇護、以余為歸依而住。

七

聚落主！譬如此中等之田，如是者，是余之信男子、信女人。余對彼等亦說於初善、中間善、終善、有意義、文與言調和之法，說明一切具足、完全清淨之梵行。何以故？聚落主！彼等以余為燈、以余為窟、以余為庇護、以余為歸依而住。

八

聚落主！譬如下劣砂地有多鹽分惡質地之田，如是者，余認為此是外道沙門、婆羅門、普行沙門。余亦為彼等，說於初善、中間善、終善、有意義、文與言調和之法，說明一切具

足、完全清淨之梵行。何以故？於彼等或一句亦能了解，此於彼等，為得長時之利益安樂。

九

聚落主！譬如人有三只水瓶：一水瓶無有裂縫，不漏不滲〔水〕；一水瓶無有裂縫，而漏〔水〕滲〔水〕；一水瓶有裂縫、漏〔水〕滲〔水〕。聚落主！汝對此如何思惟耶？此人若欲貯水者，水瓶無有裂縫、不漏不滲〔水〕與水瓶無有裂縫、而漏〔水〕滲〔水〕，及水瓶裂縫、漏〔水〕滲〔水〕者，於此中何者應先貯水耶？」

「大德！此人欲貯水者，是貯於水瓶無裂縫，不漏不滲〔水〕者；再貯於水瓶無裂縫，漏〔水〕滲〔水〕者；再貯於水瓶有裂縫，漏〔水〕滲〔水〕者，或全不予貯。何以故？或『貯水當用洗器物。』」

一〇

「聚落主！譬如水瓶無有裂縫……如是者，是予之比丘、比丘尼。予為彼等，說初善……以余為歸依而住。

一一

聚落主！譬如水瓶無有裂縫……如是者，是予之信男子、信女人。予為彼等，亦說初善……以余為歸依而住。

一二

聚落主！譬如水瓶之裂縫……如是者，余認為此是外道沙門、婆羅門、普行沙門。余為彼等亦說於初善、中間善、終善、有意義、文與言調和之法，說明一切具足、完全清淨之梵

行。何以故？於彼等或一句亦能了解，此於彼等，為得長時之利益安樂。」

一三

世尊如是宣說已，刀師兒聚落主，如次白世尊曰：「殊妙哉！大德！殊妙哉！大德！……請攝受余歸依為優婆塞。」

第八 螺貝

一

爾時，世尊住那爛陀之波婆離迦菴羅林中。

二

時，尼乾陀之弟子刀師兒聚落主，詣世尊住處……

三

世尊對坐於一面之刀師兒聚落主，如次告曰：「聚落主！尼乾陀若提子為汝弟子等如何說法耶？」

四

「大德！尼乾陀若提子為弟子等作如是說法：『任何人若破壞生命者，皆墮於離去處、地獄。任何人若取不與者，皆墮於離去處、地獄。任何人若於諸欲行邪行者，皆墮於離去處、地獄。任何人若妄語者，皆墮於離去處、地獄。凡多住習處者，則隨所導而去。』大德！尼乾陀若提子如是為弟子等說法。」

「聚落主！如尼乾陀若提子之教，『凡多住習處者，則隨所導而去。』如是者，則任何人無有墮於離去處、地獄者。」

五

聚落主！汝對此如何思惟耶？凡有人破壞生命，於夜間或於日間所經之時間，若彼破壞生命及不破壞生命，何者是較長之時間耶？」

「大德！凡有人破壞生命，於夜間或於日間所經時間，彼若破壞生命，其時為短，而彼不破壞生命，其時間是長。」

「聚落主！如尼乾陀若提子之教：『凡多住習處者，則隨所導而去。』若如是者，則任何人無有墮於離去處、地獄者。」

六

聚落主！汝對此如何思惟耶？凡有人不與取，於夜間或於日間所經之時間，若彼不與取及不與不取，何者為較長之時間耶？」

「大德！凡有人不與取，於夜間或於日間所經之時間，彼不與取，其時間是短，而彼不與不取，其時間是長。」

「聚落主！如尼乾陀若提子之教……即無有墮於地獄者。」

七

聚落主！汝對此如何思惟耶？凡有人於諸欲行邪行……何者是較長之時間耶？」

「大德！凡有人於諸欲行邪行……其時間是長。」

「聚落主！如尼乾陀若提子之教……即無有墮於地獄者。

八

聚落主！汝對此如何思惟耶？凡有人語妄語……何者是較長時間耶？」

「大德！凡有人語妄語……其時間是長。」

「聚落主！如尼乾陀若提子之教：『凡多住習處者，則隨所導而去。』若如是者，則任何人無有墮於離去處、地獄者。

九

聚落主！於此處，或教師作如是談、如是見：『任何人若破壞生命者，皆墮於離去處、地獄。任何人不與取者……。任何人於諸欲行邪行者……。任何人語妄語者，皆墮於離去處、地獄。』聚落主！而且弟子對此教師有淨信心。

一〇

彼以：『余師乃如是談、如是見，懷如是之見：「任何人破壞生命者，皆墮於離去處、地獄。」然余有破壞生命，余亦是墮離去處者，墮地獄者。』聚落主！不捨此語、不捨此心、不拋棄此見，恰如將持來之物而投入，如是彼入地獄。余師……

一一

然聚落主！於此處如來出現於世，為應供者、正徧智者、明行具足者、善到者、世間解者、無上士、調御丈夫、天人之師、覺者、世尊。彼以種種方便非難詰責生命之破壞，謂：

『禁止生命之破壞。』非難詰責不與取……欲邪行……妄語，
謂：『禁止妄語。』聚落主！而弟子對此教師（如來）有淨信心，
彼當省思。

一二

『世尊以種種方便非難、詰責生命之破壞，宣說禁止對生命之破壞，然余如是破壞如是之生命。余如是破壞如是之生命，此乃非宜，此是非善，余亦因此而有追悔之念：「我不該作此惡邪之業。」』彼如是省思後，而捨此生命破壞，向後又禁止生命之破壞。彼如是有此惡邪業之捨棄，彼如是有此超越惡邪業。

一三

世尊以種種方便，非難、詰責不與取……

一四

世尊以種種方便，非難、詰責欲邪行……

一五

世尊以種種方便，非難、詰責妄語……

一六

彼捨生命之破壞，禁止生命之破壞，捨不與取……欲邪行……妄語……兩舌……粗語……綺語……捨貪欲而為無貪欲者，捨惡心瞋恚而為不失心者，捨邪見而為正見者。聚落主！此之聖弟子如是離貪欲、離惡心、無迷惑、正知正念，而以與慈俱生之心，充滿於一方而住，同於第二〔方〕、同於第三

〔方〕、同於第四〔方〕，如是上下橫、一切處、一切情勢之下、一切具足之世界，與慈俱生、廣大遠行無量，而充滿無怨心、無惡心而住。

一七

聚落主！譬如吹強力之法螺者，如少勞可令四方聞〔其吹〕，聚落主！同此，由如是實修、如是增長慈心解脫，凡所標量之業，於其處無餘存，於其處無存立。聚落主！此之聖弟子……即與悲俱生之心……與喜俱生之心……與捨俱生之心……與捨俱生一切具足之世界，廣大遠行無量，而充滿無怨心、無惡心而住。

一八

聚落主！譬如強力之吹法螺者，以少勞可令四方得聞，聚落主！同此，如是實修、如是增長捨之心解脫，凡所標量之業，於其處無殘存，於其處無存立。」

一九

世尊如是言已，刀師兒聚落主如次白世尊言：「殊妙哉！大德！殊妙哉！大德……請願攝受余歸依為優婆塞。」

第九 家

一

爾時，世尊與大比丘眾俱，遊行於拘薩羅國，抵達那爛陀，於此處世尊住那爛陀之波婆離迦菴羅林中。

二

然其時，那爛陀因饑饉，難得餬口之食，白骨〔充野〕，給與籌符之食。

三

恰於此時，尼乾陀若提子與多數之尼乾陀集團，共留住於那爛陀。

四

時，尼乾陀之弟子刀師兒聚落主，來至尼乾陀若提子之處，對彼禮拜後，於一面坐。

五

尼乾陀若提子告於一面坐之刀師兒聚落主曰：「聚落主！來！汝去駁斥沙門瞿曇之語，如是者汝則善名遠揚：『刀師兒聚落主，駁如是有神力，如是有威力之沙門瞿曇之語。』」

「然而大德！余如何往駁如是有神力，如是有威力沙門瞿曇之語耶？」

六

「聚落主！來！汝往沙門瞿曇之處，問彼作如是言：『大德！世尊以種種方便對家家稱揚愛憐、稱揚保護、稱揚悲愍耶？』聚落主！若如是問沙門瞿曇，而如是答：『誠然，聚落主！如來以種種方便，對家家稱揚愛憐、稱揚保護、稱揚悲愍』者，則應告於彼曰：『若然，大德！何故今世尊為饑饉難得餬口之食，白骨〔充野〕，使給與籌符食，與大比丘眾俱遊行耶？世尊是為家家斷絕而行，為家家之非運而行，為家家之

損亡而行者。』聚落主！以此兩端質問沙門瞿曇，逢此，彼則吐出不能、嚥下不能。」

七

「唯唯！大德！」刀師兒聚落主，應諾尼乾陀若提子，從座而起，禮拜於彼，行右繞禮，即詣世尊住處，禮拜世尊，於一面坐。

八

於一面坐之刀師兒聚落主，白世尊曰：「大德！世尊〔非〕以種種方便，對家家稱揚愛憐、稱揚保護、稱揚悲愍耶？」

「誠然，聚落主！如來以種種方便，對家家稱揚愛憐、稱揚保護、稱揚悲愍。」

「若然，大德！何故今世尊為饑饉難得餬口之食，白骨〔充野〕，使給與籌符食，與大比丘眾俱遊行耶？世尊為家家之斷絕而行，為家家之非運而行，為家家之損亡而行。」

九

「聚落主！余想起於距今九十一劫前至今，余不知曾有一家行飯食之布施而有損。而且彼等家家富裕，財多寶多，金銀豐裕，所得豐裕，財穀豐裕者，此等一切是源於布施，乃真實之源，自制之源。」

一〇

聚落主！家之損亡有八種因、八種緣。家或為國王所損亡，家或為竊盜所損亡，家或為火所損亡，家或為水所損亡，或不得積蓄，或家人懶惰拋棄家業，或散潰此等之寶，成為家之黑炭（敗家子），於生家，無常者為第八。聚落主！此等八種因、八種緣為家損亡之因。

一一

聚落主！於此等八種因、八種緣之存在，人對余雖作如是言：『世尊是為家家之斷絕而行，為家家之非運而行，為家家之損亡而行者。』聚落主！不捨此語、不捨此心、不拋棄此見，則恰如持來者之投入，如是將〔入〕於地獄。」

一二

世尊如是言已，刀師兒聚落主，白世尊曰：「殊妙哉！大德！殊妙哉！大德！……請世尊攝受余，願歸依為優婆塞。」

第一〇 頂髻

一

爾時，世尊住王舍城外之竹林迦蘭陀園。

二

然其時，於王之內宮王臣集會，集合同座眾人之間，起此相互之談：「沙門釋子等，於金銀是淨，彼等受金銀、取金銀。」

三

偶然其時，有摩利就羅伽聚落主，亦列於此集會。

四

時，摩利就羅伽聚落主，語此集會曰：「諸尊！勿作如是言。沙門釋子等，於金銀為非淨，彼等不受此，彼等不取此。沙門釋子等，棄摩尼、黃金及離金銀。」摩利就羅伽聚落主，不能信服其集會。

五

因此，摩利就羅伽聚落主，來至世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

六

坐於一面之摩利就羅伽聚落主，白世尊言：「大德！於此王之內宮王臣集會中，集合同座眾人之間，起此相互之談：

『沙門釋子等，於金銀為淨，彼等受金銀、取金銀。』如是言已，大德！余告此集會曰：『諸尊！勿作如是言，沙門釋子等，於金銀為非淨，彼等不受此、不取此，沙門釋子等，棄摩尼、黃金，以離金銀。』大德！余不能信服其集會。

七

大德！余如是所說，是說世尊之所說者耶？非以不實誹謗世尊耶？是隨順世尊之法以說明法，對任何之隨順說之同法者，勿陷於非難之境地耶？」

「誠然，聚落主！如是之說，汝是說余之所說者，並非以不實誹謗余。隨順〔余〕之法以說明法，對任何隨順說之同法者，無陷於非難之境地。

八

聚落主！於此沙門釋子等，於金銀為非淨，彼等不受此，彼等不取此。沙門釋子等，棄摩尼、黃金，以離金銀。聚落主！以金銀為淨者，則於五種欲亦淨。聚落主！以五種欲為淨者，此應視為非沙門法〔之人〕，非釋子法〔之人〕。

九

然則，聚落主！余作如是言：『草是依草之所要者而求，薪是依薪之所要者而求，車是依車之所要者而求，人是依人之所要者而求。聚落主！無論依如何之事由，余不言求受金銀。』」

第一一 驢姓

一

爾時，世尊住於摩羅達國之名為郁如耶羅伽婆之摩羅達人村落。

二

時，婆托羅加伽聚落主，來至世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

三

坐於一面之婆托羅加伽聚落主，白世尊言：「大德！願世尊為余說示苦之生起與滅沒。」

「聚落主！余若為汝說：『過去世如是如是。』若對過去世說示苦之生起與滅沒者，汝於此即有疑念、困惑。聚落主！余若為汝說：『未來世應如是如是。』若對未來世說示苦之生

起與滅沒者，汝於此即有疑念、困惑。然則聚落主！余今坐於此處，坐於此，為汝說示苦之生起與滅沒，於此當諦聽，當善思惟，余即為說。」

「唯唯，大德！……。」婆托羅伽伽聚落主應諾世尊。

四

世尊曰：「聚落主！汝對此如何思惟？人若遭遇殺害、捕縛、沒收或譴責者，如汝〔之心〕即生憂悲、苦惱、不安者，於郁如耶羅伽婆有此否？」

「大德！人若遭遇殺害、捕縛、沒收或譴責者，如余之心生憂悲、苦惱、不安者，於宇如耶羅伽婆有此。」

五

「然而聚落主！人若雖遭遇殺害、捕縛、沒收、或譴責者，如汝〔之心〕不生憂悲、苦惱、不安者，於郁如耶羅伽婆有此否？」

「大德！人若雖遭遇殺害、捕縛、沒收、或譴責者，如余〔之心〕不生憂悲、苦惱、不安者，於郁如耶羅伽婆有之。」

六

「聚落主！某郁如耶羅伽婆人遭到殺害、捕縛、沒收或譴責者，於汝〔之心〕生憂悲、苦惱、不安，是何因、何緣耶？聚落主！某郁如耶羅伽婆人遇到殺害、捕縛、沒收、或譴責者，於汝〔之心〕不生憂悲、苦惱、不安，是何因、何緣耶？」

「大德！郁如耶羅伽婆人遇到殺害、捕縛、沒收、或譴責者，於予〔之心〕生憂悲、苦惱、不安者，乃予對彼等有欲貪。然而大德！郁如耶羅伽婆人遇到殺害、捕縛、沒收或譴責者，於予〔之心〕不生憂悲、苦惱、不安者，余乃對彼等無欲貪。」

「聚落主！汝有此所見、所知、所通達，即時依法投入（法），可通達過去未來之道。凡於過去世所生之苦，一切皆以欲為根本、以欲為因緣而生。此欲是苦之本。又凡於未來世，於苦之生起，皆以欲為根本、以欲為因緣而生。此欲是苦之本。」

「大德！殊妙哉！大德！稀有哉！大德！世尊以此善巧說示，謂：『凡苦之生，皆以欲為根本、以欲為因緣而生，此欲是苦之本。』」

七

大德！余有一名智羅瓦西童子，住於其外之房屋。大德！余晨朝起身遣人：『汝去尋智羅瓦西童子。』其人未還歸之前，余念無他事：『智羅瓦西童子不該有染患何病？』」

八

「聚落主！汝對此如何思惟？智羅瓦西童子若遭遇殺害、捕縛、沒收、或譴責者，於汝〔之心〕當生憂悲、苦惱、不安否？」

「大德！智羅瓦西童子若遭殺害、捕縛、沒收、或譴責者，余之生命即發生異變，如何於余之心不生憂悲、苦惱、不安耶？」

「聚落主！依此事由當亦可知：『凡苦之生，皆以欲為根本、以欲為因緣而生，此欲是苦之本。』」

九

聚落主！汝未曾見、聞智羅瓦西之母時，汝對智羅瓦西之母，有欲念染心或愛情否？」

「大德！否！無此。」

「聚落主！汝因見、聞彼女，如是汝對智羅瓦西之母，有欲念染心或愛情耶？」

「大德！誠然。」

一〇

「聚落主！汝對此如何思惟？智羅瓦西之母若遇殺害、捕縛、沒收、或譴責者，於汝〔之心〕生憂悲、苦惱、不安否？」

「大德！智羅瓦西之母若遇殺害、捕縛、沒收或譴責者，余之生命即發生異變，如何於余〔之心〕不生憂悲、苦惱、不安耶？」

一一

「聚落主！依此事由亦可得知：『凡苦之生，皆以欲為根本、以欲為因緣而生，此欲是苦之本。』」

第一二 王髮

二

時，羅舍聚落主，來至世尊住處，禮拜世尊已，坐於一面。

三

坐於一面之羅舍聚落主，白世尊曰：「大德！余聞如是說：『沙門瞿曇非難一切苦行，徹底謗罵一切艱難生活之苦行者。』大德！『沙門瞿曇非難一切苦行，徹底謗罵一切艱難生活之苦行者。』如是說之彼等人眾，大德！彼等是說世尊之所說耶？或以非實誣蔑世尊耶？隨順〔世尊〕之法以說明法隨順法者、同法者亦無陷於非難之地耶？」

「聚落主！如是說：『沙門瞿曇非難一切苦行，徹底謗罵一切艱難生活之苦行者。』之彼等人眾，彼等說余之所說，又無以非真非實誣罵於余。」

一

四

「聚落主！此等之兩際邊，是出家者應所避免：〔一者〕於諸欲專心耽著欲樂，此是依下劣鄙野之凡夫、非聖者，是伴著非利者。〔二者〕專心於自己之難苦，此苦痛非聖者，是伴著非利者。聚落主！如來不依此兩際邊，而證悟中道。此是眼、是智、〔至〕寂靜、無上智、正覺涅槃之資者。」

五

聚落主！如何是如來之證悟，是眼、是智、〔至〕寂靜、無上智、正覺涅槃之資，是中道耶？此即是八支聖道，此即：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。

聚落主！此即如來之所證悟，是眼、是智、〔至〕寂靜、無上智、正覺涅槃之資，是中道。」

二

六

「聚落主！有享受此等三種諸欲者，存在於世。以何為三種耶？

（一）

七

於此，聚落主！或諸欲之享受者，依非法、用暴力以求財。依非法、用暴力以求財，而自己不安樂、不喜悅，不分配、不作善業。

（二）

八

然於此，聚落主！或諸欲之享受者，依非法、用暴力以求財。依非法、用暴力以求財，以使自己安樂、喜悅，〔而〕不分配、不作善業。

（三）

九

然而於此，聚落主！或諸欲之享受者，依非法、用暴力以求財。依非法、用暴力以求財，以使自己安樂、喜悅，〔且又〕分配、作善業。

(四)

一〇

然而於此，聚落主！或諸欲之享受者，依法、依非法，暴力、或不用暴力以求財。依法、非法，用暴力、或不用暴力以求財，使自己不安樂、不喜悅，不分配、不作善業。

(五)

一一

然而於此，聚落主！或諸欲之享受者，依法、依非法，用暴力、或不用暴力以求財。依法、非法，用暴力或不用暴力以求財，使自己安樂、喜悅，〔而〕不分配、不作善業。

(六)

一二

然而於此，聚落主！或諸欲之享受者，依法、依非法，用暴力、或不用暴力以求財。依法、依非法，用暴力、或不用暴力以求財，使自己安樂、喜悅，〔且又〕分配、作善業。

(七)

一三

然而於此，聚落主！或諸欲之享受者，依法、不用暴力以求財。依法、不用暴力以求財，以使自己不安樂、不喜悅，〔且又〕不分配、不作善業。

(八)

一四

然而於此，聚落主！或諸欲之享受者，依法、不用暴力以求財。依法、不用暴力以求財，以使自己安樂、喜悅，〔但〕不分配、不作善業。

（九）

一五

然而於此，聚落主！或諸欲之享受者，依法、不用暴力以求財。依法、不用暴力以求財，以使自己安樂、喜悅，分配而作善業。然對此等之財貪著、迷卻、墮罪、不見過患、不獲出要而受用。

（十）

一六

然而於此，聚落主！或諸欲之享受者，依法、不用暴力以求財。依法、不用暴力以求財，以使自己安樂、喜悅，分配作善業。然對此等之財不貪著、不迷卻、不墮罪、見過患、獲出要而受用。」

三

（一）

一七

「於此，聚落主！諸欲之享受者，依非法、用暴力以求財。依非法、用暴力以求財，而自己不安樂、不喜悅，聚落主！此諸欲之享受者，依三種理由，應被非難。依如何之三種

〔理由〕應被非難耶？〔彼〕依非法、用暴力以求財，此為第一理由，應被非難。〔彼〕自己不安樂、不喜悅，此為第二理由，應被非難。不分配〔彼財〕、〔又不以此〕作善業，此第三理由，應被非難。

聚落主！此諸欲之享受者，因此等三種理由，應被非難。

（二）

一八

於此，聚落主！諸欲之享受者，依非法、用暴力以求財。依非法、用暴力以求財，使自己安樂、喜悅，〔而但〕不分配、不作善業，聚落主！此諸欲之享受者，依二種理由，應被非難；依一種理由，應被欣賞。如何依二種理由應被非難耶？〔彼〕依非法、用暴力以求財，此第一理由應被非難；〔彼財〕不分配、〔又不以此〕作善業，此為第二理由應被非難。如何是一種理由應被讚賞耶？彼自得安樂、喜悅，此一理由應被讚賞。

聚落主！此諸欲之享受者，有此等二種理由應被非難，此一理由應被欣賞。

（三）

一九

於此，聚落主！諸欲之享受者，依非法、用暴力以求財。依非法、用暴力以求財，而使自己安樂、喜悅，〔且又〕分配、作善業，聚落主！此諸欲之享受者，有一種理由應被非難，二種理由應被讚賞。如何之一種理由應被非難耶？彼依非法、用暴力以求財，此一種理由應被非難。如何依二種理由應

被讚賞耶？〔彼〕使自己安樂、喜悅，此第一理由應被讚賞；
〔彼財〕分配、〔以此〕行善業，此第二理由應被讚賞。

聚落主！此諸欲之享受者，此之一種理由應被非難，此之二種理由應被讚賞。

（四）

二〇

於此，聚落主！諸欲之享受者，依法、依非法，用暴力、或不用暴力以求財。依法、依非法，用暴力、或不用暴力以求財，使自己不安樂、不喜悅，財亦不分配、不行善業，聚落主！此諸欲之享受者，依一種理由應被讚賞，三種理由應被非難。如何之一種理由應被讚賞耶？依法，不用暴力以求財，此一種理由應被讚賞。如何之三種理由應被非難耶？依非法、用暴力以求財，此為第一種理由應被非難；使自己不安樂、不喜悅，此為第二種理由應被非難；財不分配、不作善業，此為第三種理由應被非難。

聚落主！此諸欲之享受者，依此一種之理由應被讚賞，三種理由應被非難。

（五）

二一

於此，聚落主！諸欲之享受者，依法、依非法，用暴力或不用暴力以求財。依法、依非法，用暴力或不用暴力以求財，而使自己安樂、喜悅，〔而不以財〕分配、不作善業，聚落主！此諸欲之享受者，依二種之理由應被〔讚〕賞，依二種理由應被非難。如何為二種理應被讚賞耶？依法、不用暴力以求

財，此第一理由應被讚賞。使自己安樂、喜悅，此第二理由應被讚賞。如何為二種理由應被非難耶？依非法、用暴力以求財，此第一理由應被非難，〔財〕不分配、不作善業，此第二理由應被非難。

聚落主！此諸欲之享受者，依此等二種理由應被讚賞，依此二種理由應被非難。

（六）

二二

於此，聚落主！諸欲之享受者，依法、依非法，用暴力、或不用暴力以求財。依法、依非法，用暴力或不用暴力以求財，使自己安樂、喜悅，〔而且又財〕分配、作善業，聚落主！此諸欲之享受者，依三種理由應被讚賞，依一種理由應被非難。如何為三種理由應被讚賞耶？依法、不用暴力以求財，此第一理由應被讚賞；使自己安樂、喜悅，此第二理由應被讚賞；〔財之〕分配、作善業，此第三理由應被讚賞。如何為一種理由應被非難耶？依非法、用暴力以求財，此一種理由應被非難。

聚落主！此諸欲之享受者，因此等三種之理由應被讚賞，此一種理由應被非難。

（七）

二三

於此，聚落主！諸欲之享受者，依法、不用暴力以求財。依法、不用暴力求財，使自己安樂、不喜悅，〔財〕不分配、不作善業，聚落主！此諸欲之享受者，一種理由應被讚賞，二

種理由應被非難。如何為一種理由應被讚賞耶？依法、不用暴力求財，此一種理由應被讚賞。如何為二種理由應被非難耶？使自己不安樂、不喜悅，此第一理由應被非難。〔財〕不分配、不作善業，此第二理由應被非難。

聚落主！此諸欲之享受者，依此一種理由應被讚賞，此二種理由應被非難。

（八）

二四

於此，聚落主！諸欲之享受者，依法、不用暴力以求財。依法、不用暴力求財而使自己安樂、喜悅，〔而財〕不分配、不作善業，聚落主！此諸欲之享受者，依二種理由應被讚賞，依一種理由應被非難。如何為二種理由應被讚賞耶？依法、不用暴力求財，此第一理由應被讚賞，使自己安樂、喜悅，此第二理由應被讚賞。如何為一種理由應被非難耶？〔財〕不分配、不作善業，此一種理由應被非難。

聚落主！此諸欲之享受者，依此等二種理由應被讚賞，依此一種理由應被非難。

（九）

二五

於此，聚落主！此諸欲之享受者，依法、不用暴力以求財。依法、不用暴力求財而使自己安樂、喜悅，又對其財貪著、迷著、墮罪、不見過患、不獲出要，受用於〔此〕，聚落主！此諸欲之享受者，依三種之理由應被讚賞，依一種之理由應被非難。如何為三種理由應被讚賞耶？依法、不用暴力以求

財，此第一之理由應被讚賞；使自己安樂、喜悅，此第二之理由應被讚賞；〔而財之〕分配、作善業，此第三之理由應被讚賞。如何為一種理由應被非難耶？貪著此等之財、迷著、墮罪、不見過患、不獲出要，而受用者，於此，此一種之理由應被非難。

聚落主！此諸欲之享受者，依此三種之理由應被讚賞，此一種之理由應被非難。

（十）

二六

於此，聚落主！此諸欲之享受者，依法、不用暴力以求財。依法、不用暴力以求財。以使自己安樂、喜悅；〔且其〕分配、作善業；又對其財不貪著、不迷卻、不墮罪、見過患、獲出要，而受用此，聚落主！此諸欲之享受者，依四種之理由應被讚賞。依如何四種之理由應被讚賞耶？依法、不用暴力以求財，此第一之理由應被讚賞；使自己安樂、喜悅，此第二之理由應被讚賞；〔財之〕分配、作善業，此第三理由應被讚賞；對此等之財不貪著、不迷卻、不墮罪、見過患、獲出要，受用於此，此第四種理由應被讚賞。

聚落主！此諸欲之享受者，依此等四種理由應被讚賞。」

四

二七

「聚落主！世間有此等三種艱難生活之苦行者，何等為三種耶？

(一)

二八

聚落主！艱難生活之苦行者，依於信心從在家出而為無家之身，言：『我思領得善法，我思現證勝人間法，足以為聖之特殊知見。』彼以苦虐自己，〔但〕不能領得善法，不能現證勝人間法，足以為聖之特殊知見。

(二)

二九

然則，聚落主！此或艱難生活之苦行者，依信心從在家出而為無家之身，言：『我思領得善法，我思現證勝人間法，足以為聖特殊之知見。』彼苦虐自己，〔但〕雖領得善法，而不能現證勝人間法，足以為聖特殊之知見。

(三)

三〇

然而聚落主！此或艱難生活之苦行者，依信心從在家出而為無家之身，言：『我思領得善法，我思現證勝人間法，足以為聖特殊之知見。』彼以苦虐自己，〔而〕領得善法，現證勝人間法，足以為聖特殊之知見。」

五

(一)

三一

「於此，聚落主！此艱難生活之苦行者，以苦虐自己，〔而且〕不得善法，不能現證勝人間法，足以為聖之知見，聚落主！此艱難生活之苦行者，依三種理由應被非難。依如何之三種理由，應被非難耶？以苦虐自己，此第一之理由應被非難；不得善法，此第二理由應被非難；不能現證勝人間法，足以為聖特殊之知見，此第三理由應被非難。

聚落主！此艱難生活之苦行者，依此三種之理由應被非難。

（二）

三二

於此，聚落主！此艱難生活之苦行者，以苦虐自己，〔而〕領得善法，但不能證勝人間法，足以為聖特殊知見，聚落主！此艱難生活之苦行者，依二種理由應被非難，依一種理由應被讚賞。依如何二種理由應被非難耶？以苦虐自己，此第一理由應被非難；不能現證勝人間法，足以為聖特殊之知見，此第二之理由應被非難。依如何一種理由應被賞讚耶？領得善法，此一種之理由應被讚賞。

聚落主！此艱難生活之苦行者，依此二種之理由應被非難，依此一種理由應被讚賞。

（三）

三三

於此，聚落主！此艱難生活之苦行者，以苦虐自己，〔而〕領得善法，現證勝人間法，足以為聖特殊之知見，聚落主！此艱難生活之苦行者，依一種之理由應被非難，依二種之

理由應被讚賞。依如何一種之理由應被非難耶？以苦虐自己，此一種之理由應被非難。依如何二種之理由應被讚賞耶？領得善法，此第一之理由應被讚賞；現證勝人間法，足以為聖特殊之知見，此為第二種之理由應被讚賞。

聚落主！此艱難生活之苦行者，依此一種之理由應被非難；依此二種之理由應被讚賞。」

六

三四

「聚落主！此等之三是現生者、不老者、即時者。『來看！』此之所示〔導人向〕於涅槃，而智者各自應得知之〔法〕。何者為三？

（一）

三五

凡有貪欲者，由貪欲之因，〔人〕則懷持毀傷自己之心、懷持毀傷他人之心、懷持毀傷兩者之心。〔然〕能排除貪欲，〔人則〕不懷持毀傷自己之心、不懷持毀傷他人之心、不懷持毀傷兩者之心，此是現生者、不老者、即時者。『來看！』此之所示，導〔人向〕於涅槃，而智者各自應得知之〔法〕。

（二）

三六

凡有瞋恚者，由瞋恚之因，懷持毀傷自己之心、懷持毀傷他人之心、懷持毀傷兩者之心。〔然〕排棄瞋恚，〔人則〕不

懷毀傷自己之心、不懷毀傷他人之心、不懷毀傷兩者之心，此是現生者、不老者、即時者。『來看！』此之所示，導〔人向〕於涅槃，而智者各自應得知之〔法〕。

（三）

三七

凡有愚癡者，由愚癡之因，人則懷持毀傷自己之心、懷持毀傷他人之心、懷持毀傷兩者之心。〔然而〕排棄愚癡，〔人〕則不懷持毀傷自己之心、不懷持毀傷他人之心、不懷持毀傷兩者之心，此是現生者、不老者、即時者。『來看！』此之所示，導〔人向〕於涅槃，而智者各自應得知之〔法〕。

聚落主！此等之三種，是現生者、不老者、即時者。『來看！』此之所示，導〔人向〕於涅槃、而智者各自應得知之〔法〕。」

三八

〔世尊〕如是言已，羅舍聚落主白世尊曰：「殊妙哉！大德！殊妙哉！大德！……請世尊攝受余，願歸依為優婆塞。」

第一三 波羅牢（可意）

一

一時，世尊住拘利耶一名曰鬱多羅之拘利耶人之村落。

二

時，婆多利耶聚落主，來至世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

坐於一面之婆多利耶聚落主，白世尊曰：「大德！我曾聞此：『沙門瞿曇知於幻。』大德！『沙門瞿曇知於幻』，如是言之彼人等，大德！彼等言世尊之所說，無以非實誣世尊耶？是隨順說明世尊之法耶？其隨順法者、同法者，亦無陷於非難之地耶？大德！吾等不欲誣謗世尊。」

三

「聚落主！『沙門瞿曇知於幻』，如是談之彼等人眾，彼等是談余之所談，並無以非實誣謗余，說明隨順余之法，任何隨順說者、同法者，亦無陷於非難之地。」

四

「尊者！雖言『是真實』，然〔者〕，我等對此沙門、婆羅門之言：『沙門瞿曇知於幻，沙門瞿曇是幻士。』不予相信。」

「聚落主！如是言『沙門瞿曇知於幻』者，彼以『世尊正如是、善逝正如是』，作如是言：『沙門瞿曇是幻士。』然者，聚落主！於此，當向汝反問，依汝適當之所思，且回答。

一

（一）

五

聚落主！汝對此作如何思惟？聚落主！汝知拘利耶人垂髻之傭夫耶？」

「大德！余知拘利耶垂髻之傭夫。」

六

「聚落主！汝對此作如何思惟？拘利耶人垂髻之傭夫，是以何為其目的耶？」

「大德！彼拘利耶人為防止盜賊，彼拘利耶人為傳信使。大德！拘利耶人垂髻之傭夫，是以此為其目的。」

七

「聚落主！汝對此作如何思惟？汝知拘利耶人垂髻之傭夫，彼等是戒德者，或是污戒者耶？」

「大德！余以拘利耶人垂髻之傭夫，是污戒惡法〔之徒〕。知凡世間之污戒惡法〔之徒〕者，其中即有拘利耶垂髻之傭夫。」

八

「聚落主！『婆多利耶聚落主，知拘利耶人垂髻之傭夫是污戒惡法〔之徒〕。〔若然〕，如是言婆多利耶聚落主亦是污戒惡法〔之徒〕者。』彼語是正語耶？」

「大德！否，不然。大德！拘利耶垂髻之傭夫與余不同，拘利耶垂髻之傭夫與余不同法。」

九

「聚落主！汝婆多利耶聚落主，知拘利耶垂髻之傭夫是污戒惡法〔之徒〕，婆多利耶聚落主，得非是污戒惡法〔之徒〕。何故不得〔說〕：『如來知幻而非為幻士。』聚落主！」

余知於幻，〔知〕於幻之果，亦知其如何履行幻者，身壞命終之後，墮於離去處、惡趣、極墮處、地獄。

(二)

一〇

聚落主！余知於生命之破壞，〔知〕於生命破壞之果，亦知其如何履行生命破壞者，身壞命終後，墮於離去處、惡趣、極墮處、地獄。

一一

聚落主！余知於不與取……

一二

聚落主！余知於諸欲邪行……

一三

聚落主！余知於妄語……

一四

聚落主！余知於兩舌……

一五

聚落主！余知於粗語……

一六

聚落主！余知於綺語……

一七

聚落主！余知於貪欲……

一八

聚落主！余知於瞋恚……

一九

聚落主！余知於邪見……

二

二〇

聚落主！某某沙門、婆羅門有如是談、如是見者：『凡任何人破壞生命者，皆於現生感受苦憂。凡任何人不與取者，皆於現生感受苦憂。凡任何人於諸欲邪行者，皆於現生感受苦憂。凡任何人妄語者，皆於現生感受苦憂。』

（一）

二一

然則，聚落主！於此見有人掛華鬘、著耳環、善沐浴、善化妝、理鬚髮、〔對〕女子之欲望充滿猶如王者。關於此者，人言曰：『看！此者所作為何？掛華鬘、著耳環、善沐浴、善化妝、理鬚髮、〔對〕女子之欲望充滿猶如王者。』他人答曰：『看！此者壓伏王者之敵，而斷卻生命，王者歡喜以物賜彼。所以，此人掛華鬘、著耳環……猶如王者。』

（二）

二二

然而聚落主！於此見有人被粗索將手堅縛於後、剃光頭髮，打惡聲之鼓，由街至街、由十字路至十字路而巡遶，再牽出南門外，於都之南方被刎頸。關於此者，人言曰：『看！此者所作為何？彼被粗索將手堅縛於後、剃其頭髮，打惡聲之鼓，由街至街，由十字路至十字路而巡遶，再牽出南門外，於都之南方被刎頸耶？』他人曰：『看！此王者之敵而斷女人或男人之生命，因此，王乃捕捉彼，行如是之處刑。』

二三

聚落主！汝對此作如何思惟？汝曾見如是事否？或曾得聞耶？」

「吾等得見且已聞，又曾得聞。」

二四

「於此，聚落主！某某沙門婆羅門如是談、如是見：『凡人破壞生命者，皆於現生感受苦憂。』彼等是語真實耶？抑語妄耶？」

「大德！是語妄。」

「凡語妄之虛事，是戒德者耶？抑污戒者耶？」

「大德！是污戒者。」

「凡污戒惡德之徒，是履邪行耶？抑履正行耶？」

「大德！是履邪行。」

「凡履邪行者，是邪見耶？抑正見耶？」

「大德！是邪見。」

「凡邪見之徒，適於信賴耶？」

「大德！不然。」

(三)

二五

「然則，聚落主！於此，或見有人掛華鬘、著耳環……猶如王者。關於此者，人言曰：『看！此者所作為何？掛華鬘、著耳環……猶如王者。』他人對此曰：『看！此者壓伏王之敵，持來重寶，王者歡喜而賜彼物。因此，此者掛華鬘、著耳環……猶如王者。』

(四)

二六

然則，聚落主！於此見有人被粗索將手堅縛於後，被刎其頸。關於此者，人言曰：『看！此者所作為何？被以粗索將手堅縛於後……以刎其頸。』他人對此曰：『看！此者於村落或森林將不與之物竊取而去，因此王者捕彼，以受如是之處刑。』

二七

聚落主！汝對此作如何思惟？汝曾見如是事耶？或曾得聞耶？」

「吾等得見且已聞，又曾得聞。」

二八

「於此，聚落主！某某沙門、婆羅門如是言、如是見：
『凡人不與取者，皆於現於現生感受憂苦。』彼等語真實語
耶？抑語虛妄耶？」

.....

「大德！不然。」

（五）

二九

「然則聚落主！於此，或見有人掛髮鬘、著耳環……猶如王者。關於此者，人謂曰：『看！此者所作何事？而掛華鬘、著耳環……猶如王者耶？』他人對此曰：『看！此者與王者之敵婦女子相交，王者喜歡，以賜物於此者，因之，此者掛華鬘、著耳環……猶如王者。』

（六）

三〇

然則，聚落主！於此或見有人被粗索將手堅縛於後……被刎其頸。關於此者，人言曰：『看！此者所作何事？被粗索將手堅縛於後……被刎其頸耶？』他人對此曰：『看！此者與良家之婦、良家之少女相交，因之彼為王者所捕捉，以行如是之刑。』

三一

聚落主！汝對此作如何思惟？汝曾見如是事或得聞耶？」

「吾等得見且已聞，又曾得聞。」

三二

「於此，聚落主！某某沙門、婆羅門如是言、如是見：
『凡人於諸欲行邪者，皆於現生感受苦憂。』彼等是語真實
耶？抑語虛妄耶？」

.....

「大德！不然。」

(七)

三三

「然則，聚落主！於此，或見有人掛華鬘、著耳環……猶
如王者。關於此者，人言曰：『看！此者所作何事？掛華鬘、
著耳環……猶如王者耶？』他人對此曰：『看！此者以語妄語
而博王者笑，王者歡喜以物賜此者，因之，此者掛華鬘、著耳
環……猶如王者。』

(八)

三四

然則，聚落主！於此或見有人被粗索將手堅縛於後……被
刎其頸。關於此者，人言曰：『看！此者所作何事？被粗索將
手堅縛於後……被刎其頸耶？』他人對此曰：『看！此者損及
居士又居士子之利益，因之，為王者所捕，以行如是之刑。』

三五

聚落主！汝對此作如何思惟？汝曾見如是事或得聞耶？」

「吾等得見且已聞，又曾得聞。」

三六

「於此，聚落主！某某沙門婆羅門如是談、如是見：『凡人語虛妄者，皆於現生感受苦憂。』彼等是語真實耶？抑語虛妄耶？」

「大德！是語虛妄。」

「凡語虛妄事者，是戒德者耶？抑污戒者耶？」

「大德！是污戒者。」

「凡污戒惡德之徒，是履邪行耶？抑履正行耶？」

「大德！是履邪行。」

「凡履邪行者，是邪見耶？抑正見耶？」

「大德！是邪見。」

「凡邪見之徒，適於信賴否？」

「大德！不然。」

三

三七

「殊妙哉！大德！稀有哉！大德！」

余有休息之家，於中有臥牀、有座榻、有水瓶、有油燈，於此，若有沙門或婆羅門之安居者，則余以應能力，與彼相分享。大德！昔有種種意見，種種信仰，種種嗜好之四位教師，於此家休息入安居。

(一)

三八

有一教師乃如是言、如是見曰：『無施與、無供犧牲、無祭祀、無作善業、作惡業之異熟果報。無此世、無他世、無母、無父，亦無化生之有情。達於沙門婆羅門之正位，履正行，自證知此世與他世，皆無能示知於世者。』

(二)

三九

有一教師乃如是言、如是見，而曰：『有施與、有供犧牲、有祭祀、有作善業、作惡業之異熟果報。有此世、有他世、有母、有父、有化生之有情。達於沙門、婆羅門之正位，履正行，自證知此世與他世，皆有能示知於〔世〕者。』

(三)

四〇

有一教師乃如是言、如是見，而曰：『作者，令作者；斷割者，令斷割者；苦者，令苦者；憂者，令憂者；疲者，令疲者；慄者，令慄者；生命破壞者、不與取者、破牆壁侵入者、掠奪者、竊盜者、追剝者、犯他人之妻者、妄語者、〔一切〕所作，皆非惡作。即以剃刀附於車輪之端，將此大地之生類作

成一肉團、一肉塊，以此為因緣，亦無惡〔生〕，無由惡來之果。若至恆河之南岸者，殺、令殺，斷割、令斷割，苦、令苦，以此為因緣，不〔生〕惡，無由惡來之果。若至恆河之北岸，施、令施，供犧牲、令供犧牲者，以此為因緣，不〔生〕福，無由福來之果。施與、調御、自制、語真實、亦不〔生〕福，無由福來之果。』

（四）

四一

有一教師乃如是言、如是見，而曰：『作者、令作者，斷割者、令斷割者，苦者、令苦者，憂者、令憂者，疲者、令疲者，慄者、令慄者，破壞生命者，不與取者、破牆壁而侵入者、掠奪者、竊盜者、追剝者，犯他人之妻者，妄語者，〔一切〕所作，皆為惡作。以剃刀附於車輪之端，將此大地之生類作成一肉團、一肉塊者，以此為因緣，有生惡、有由惡來之果。若至恆河之南岸，殺、令殺，斷割、令斷割，苦、令苦者，以此為因緣，有〔生〕惡、有由惡來之果。若至恆河之北岸，施、令施，供犧牲、令供犧牲者，以此為因緣，有〔生〕福、有由福來之果。施與、調御、自制、語真實、有〔生〕福、有由福來之果。』

四二

大德！此於余起疑、起惑，而曰：『此等諸尊沙門、婆羅門中，結果何者語真實？何者語虛妄耶？』」

「聚落主！汝之疑是理，汝之惑是理，然而只於所惑汝起疑。」

「大德！余如是信仰世尊，願世尊說法，以除棄余疑惑之法。」

四

四三

「聚落主！有法三昧，於此，汝若心獲三昧者，如是，汝則捨棄此疑念法。聚落主！何者為法三昧耶？」

（一）

四四

聚落主！於此，有聖弟子，棄生命之破壞，禁生命之破壞；棄不與取，禁不與取；棄欲邪行，禁欲邪行；棄妄語，禁妄語；棄兩舌語，禁兩舌語；棄麤語，禁麤語；棄綺語，禁綺語；棄貪欲為無貪欲，棄瞋恚為無瞋恚心，棄邪見為正見。

聚落主！此聖弟子如是離貪欲、離瞋恚、不迷著，正知正念，與慈俱生之心，徧滿一方而住。同第二方、同第三方、同第四方〔徧滿〕而住。如是上下橫〔直〕，於一切處一切事情之下，與慈俱生一切具有之世界，無量廣大遠行，以無怨心、無恚之心充滿而住。如彼所思量：『凡此教師之謂：無施與、無供犧牲……而此示知於〔世〕者皆無，如是言、如是見。好！此導師之語雖是真實，然而余有余之保證，此余於脆者、或強者、即任何者亦無妨礙，幸福於此世他世兩處，攝護於身、於語、於心，身壞命終之後，可生於善趣天界故。』彼生喜樂，喜樂於彼而生歡悅，歡悅之彼身輕安，身輕安之彼享受安樂，心安樂者即獲定。聚落主！此乃法三昧。汝若於此獲心三昧者，如是，汝則捨此疑惑之法。

(二)

四五

聚落主！此聖弟子如是離欲貪、離瞋恚……與慈俱生之心……以無恚心徧滿而住。彼作如是思量：『凡此教師之謂：有施與、有供犧牲……此示知於世者皆有，如是言、如是見。此教師之語雖是真實……可生於善趣天界故。』彼生喜樂……獲定。聚落主！此是法三昧。汝若於此獲心三昧，如是，汝則捨此疑惑之法。

(三)

四六

聚落主！此聖弟子如是離欲貪、離瞋恚……與慈俱生之心……以無恚心徧滿而住。彼作如是思量：『凡此教師之謂作、令作者，斷割、令斷割者……無由福來之〔果〕，如是言、如是見。好！此教師之語雖是真實……可生於善趣天界故。』彼生喜樂……獲定。聚落主！此是法三昧。汝若於此獲心三昧者，如是汝則捨棄疑惑之法。

(四)

四七

聚落主！此聖弟子如是離欲貪、離瞋恚……與慈俱生之心……以無恚之心徧滿而住。彼作如是思量：『凡此教師之謂：作、令作者；斷割者、令斷割者……有由福來之〔果〕，如是言、如是見。此教師之語雖是真實……可生於善趣天界故。』彼生喜樂……是定。聚落主！此是法三昧。汝若於此獲心三昧者，如是汝則捨棄此疑惑之法。

五

(一)

四八

聚落主！於此聖弟子如是離欲貪、離瞋恚、不迷著、正知正念，與慈俱生之心徧滿一方而住，與喜俱生之心徧滿一方而住，與捨俱生之心徧滿一方而住。彼作如是思量：『凡此教師之謂：無施與、無供犧牲……此示知於世者皆無，如是言、如是見。好！教師之語雖是真實，然余有余之保證，此余於脆者，或強者，即任何者，皆無妨礙，幸福於〔此世他世之〕兩處，攝護於身、於語、於意，身壞命終之後，可生於善趣天界故。』彼生喜樂……彼喜樂而生歡悅，彼歡悅而身得輕安，彼身輕安以享安樂，安樂之心乃獲定。聚落主！此是法三昧。汝若於此獲心三昧者，如是，汝則捨棄此疑惑。

(二)

四九

聚落主！此聖弟子如是離欲貪、離瞋恚……與悲俱生之心……與喜俱生之心……與捨俱生之心……無恚心之心徧滿而住。彼作如是思量：『凡此教師之謂：有施與、有供犧牲……示知於世者皆有，如是言、如是見。此教師之語雖是真實……可生於善趣天界故。』於彼生喜樂……是獲定。聚落主！此是法三昧。汝若於此獲心三昧者，如是，汝則捨棄此疑惑之法。

(三)

五〇

聚落主！此聖弟子如是離欲貪、離瞋恚……與悲俱生之心……與喜俱生之心……與捨俱生之心……以無恚心之徧滿而住。彼作如是思量：『凡此教師之謂：作者、令作者，斷割者、令斷切者……無由福來之果，如是言、如是見。好！此教師之語雖真實……可生於善趣天界故。』於彼生喜樂……是獲定。聚落主！此是法三昧。汝若於此獲心三昧者，如是，汝則捨棄此疑惑之法。

（四）

五一

聚落主！此聖弟子如是離欲貪、離瞋恚……與悲俱生之心……與喜俱生之心……與捨俱生之心……以無恚之心徧滿而住。彼作如是思量：『凡此教師之謂：作者、令作者，斷割者、令斷切者……有由福來之果，如是言、如是見。好！此教師之語雖真實……可生於善趣天界故。』於彼生喜樂……是獲定。聚落主！此是法三昧。汝若於此獲心三昧者，如是，汝則捨棄此疑惑之法。」

五二

世尊如是說已，婆多利耶聚落主，白世尊曰：「殊妙哉！大德！……自今日起願歸依世尊為優婆塞。」

聚落主相應
（終）

其攝頌曰：

暴惡布吒與戰士
象馬與西地方人

說教螺貝家頂髻
驢姓王髮波羅牢

第九 無為相應

第一品

〔一〕第一 身

一

「諸比丘！余為汝等說無為與達無為之道，於此且諦聽。

二

諸比丘！何者為無為耶？諸比丘！貪欲之壞滅、瞋恚之壞滅、愚癡之壞滅，諸比丘！此稱為無為。

三

諸比丘！何者為達無為之道耶？向於身之念，諸比丘！此稱為無為之道。

四

如是，諸比丘！余為汝等說無為，說達無為之道。

五

諸比丘！凡以利益所願、有慈念之師，應為諸弟子作垂示慈悲者，余皆為汝等而作。

六

諸比丘！思念此等之樹下、此等之空屋，不得放逸、不得有後日之悔，此是余為汝等之教誡。」

〔二〕第二 止觀

一

「諸比丘！余為汝等說無為與達無為之道，於此且諦聽。

二

諸比丘！何者為無為耶？諸比丘！貪欲之壞滅、瞋恚之壞滅、愚癡之壞滅，諸比丘！稱此謂無為。

三

諸比丘！何者為達無為之道耶？諸比丘！止與觀，此稱為達無為之道。

〔三〕第三 有尋

※三

諸比丘！何者為達無為之道耶？諸比丘！有尋有伺三昧、無尋唯伺三昧、無尋無伺三昧，此稱為達無為之道也。

〔四〕第四 空

※三

諸比丘！何者為達無為之道耶？空三昧、無相三昧、無願三昧。諸比丘！此稱為達無為之道。

〔五〕第五 念處

※三

諸比丘！何者為達無為之道耶？四念處。諸比丘！此稱為達無為之道。

〔六〕第六 正勤

※三

諸比丘！何者為達無為之道耶？四正勤。諸比丘！此稱為達無為之道。

〔七〕第七 如意足

※三

諸比丘！何者為達無為之道耶？四如意足。諸比丘！此稱為達無為之道。

〔八〕第八 根

※三

諸比丘！何者為達無為之道耶？五根。諸比丘！此稱為達無為之道。

〔九〕第九 力

※三

諸比丘！何者又為達無為之道耶？五力。諸比丘！此稱為達無為之道。

〔十〕第十 覺支

※三

諸比丘！何者又為達無為之道耶？七覺支。諸比丘！此稱為達無為之道。

.....

〔一一〕第十一 道

※三

諸比丘！何者又為達無為之道耶？八支聖道。諸比丘！此稱為達無為之道。

四

諸比丘！如是，余為汝等說無為，說達無為之道。

五

諸比丘！以願有慈念之師，應為諸弟子利益之作垂示慈悲者，余皆為汝等而作。

六

諸比丘！思念此等之樹下、此等之空屋，不得放逸、不得日後有悔。此是余為汝等之教誡。」

涅槃相應之第一
品（終）

其攝頌曰：

身與三昧尋
以及空念處
正勤如意定

根力並覺支
依道為十一

第二品

〔一二〕第一 無為

一 止

一

「諸比丘！余為汝等說無為與達無為之道。於此且諦聽。

二

諸比丘！何者為無為耶？諸比丘！貪欲之壞滅、瞋恚之壞滅、愚癡之壞滅，諸比丘！此稱為無為。

三

諸比丘！何者為達無為之道耶？諸比丘！止，此稱為達無為之道。

四

諸比丘！如是，余為汝等說無為，說達無為之道。

五

諸比丘！以願有慈念之師，應為諸弟子之利益作垂示慈悲者，以此余皆為汝等而作。

六

諸比丘！思念此等之樹下、此等之空屋，不得放逸、不得有後日之悔，以此是余為汝等之教誡。」

二 觀

三

「諸比丘！何者為達無為之道耶？諸比丘！觀，此稱謂達無為之道。」

三 六種三昧

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？諸比丘！有尋有伺三昧，稱此謂達無為之道。

……………（一）

四

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？無尋唯伺三昧。諸比丘！此稱為達無為之道。

……………（二）

五

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？無尋無伺三昧。諸比丘！此稱為達無為之道。

……………（三）

六

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？空三昧。諸比丘！此稱為達無為之道。

……………（四）

七

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？無相三昧。諸比丘！此稱為達無為之道。

……………（五）

八

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？無願三昧。諸比丘！此稱為達無為之道。

……………（六）

九～一二 四念處

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？諸比丘！於此有比丘，於身觀身而（一）……於受觀受而住（二）……於心觀心而住（三）……於法觀法而住（四）精勤於正知、正念，於世以制御貪欲憂惱者。諸比丘！此稱為達無為之道。

一三～一六 四正勤

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？諸比丘！於此有比丘，未起諸惡不善之法，令之不起（一）……已起諸惡不善之法，令之捨棄（二）……未起諸善之法，令之生起（三）……已起諸善之法，令之住立、不喪失、生長、擴大、增修、完成（四），以生起願望努力精進，對初心有力以顯勤苦。比丘等！此稱為達無為之道。

一七～二〇 四如意足

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？諸比丘！於此有比丘，增修欲定勤行完具之如意足（一）……增修精進定勤行完具之如意足（二）……增修心定勤行完具之如意足（三）……增修思惟定勤行完具之如意足（四）。諸比丘！此稱為達無為之道。

二一～二五 五根

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離欲、依滅盡，以增修傾向於捨棄之信根（一）

……增修精進根（二）……增修念根（三）……增修定根（四）……增修慧根（五）。諸比丘！此稱為達無為之道。

二六～三〇 五力

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離欲、依滅盡，以增修傾向於捨棄之信力（一）……增修精進力（二）……增修念力（三）……增修定力（四）……增修慧力（五）。諸比丘！此稱為達無為之道。

三一～三七 七覺支

※三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離欲、依滅盡，以增修傾向於捨棄之念覺支（一）……增修擇法覺支（二）……增修精進覺支（三）……增修喜覺支（四）……增修輕安覺支（五）……增修定覺支（六）……增修捨覺支（七）……諸比丘！此稱為達無為之道。」

三八～四五 八正道

一

「諸比丘！余為汝等說無為與達無為之道，於此且諦聽。

二

諸比丘！何者為無為耶？貪欲之壞滅、瞋恚之壞滅、愚癡之壞滅。諸比丘！此稱為無為。

三

諸比丘！又何者為達無為之道耶？諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離欲、依滅盡，以增修傾向於捨棄之正見（一）……增修正思惟（二）……增修正語（三）……增修正業（四）……增修正命（五）……增修正精進（六）……增修正念（七）……增修正定（八）……諸比丘！此稱為達無為之道。

四

諸比丘！如是，余為汝等說無為，說達無為之道。

五

諸比丘！凡以願有慈念之師，應為諸弟子之利益作垂示慈悲者，以此一切余為汝等而作。

六

諸比丘！思念此等之樹下、此等之空屋，諸比丘！不得放逸、不得有後日之悔，此為余為汝等之教誡。」

〔一三〕第二 終極（下無）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說究竟與達究竟之道，於此且諦聽。

二

諸比丘！何者為究竟耶？以下相同於無為之詳說也。

〔一四〕第三 無漏（無流）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說無漏與達無漏之道……

〔一五〕第四 真諦

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說真諦與達真諦之道……

〔一六〕第五 彼岸

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說彼岸與達彼岸之道……

〔一七〕第六 巧妙（聽細）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說巧妙與達巧妙之道……

〔一八〕第七 極難見（難見）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說極難見與達極難見之道……

〔一九〕第八 不老（無壞）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說不老與達不老之道……

〔二〇〕第九 堅牢（無爭）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說堅牢與達堅牢之道……

〔二一〕第十 照見（無失）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說照見與達照見之道……

〔二二〕第十一 無譬

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說無譬與達無譬之道……

〔二三〕第十二 無戲論

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說無戲論與達無戲論之道……

〔二四〕第十三 寂靜

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說寂靜與達寂靜之道……

〔二五〕第十四 甘露

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說甘露與達甘露之道……

〔二六〕第十五 極妙

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說極妙與達極妙之道……

〔二七〕第十六 安泰（止）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說安泰與達安泰之道……

〔二八〕第十七 安穩（安）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說安穩與達安穩之道……

〔二九〕第十八 愛盡

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說愛盡與達愛盡之道……

〔三〇〕第十九 不思議（希有）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說不思議與達不思議之道……

〔三一〕第二〇 稀有（未曾有）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說稀有與達稀有之道……

〔三二〕第二一 無災（無枉）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說無災與達無災之道……

〔三三〕第二二 無災法（無災）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說無災法與達無災法之道……

〔三四〕第二三 涅槃

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說涅槃與達涅槃之道……

〔三五〕第二四 無損

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說無損與達無損之道……

〔三六〕第二五 離欲

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說離欲與達離欲之道……

〔三七〕第二六 清淨（淨）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說清淨與達清淨之道……

〔三八〕第二七 解脫

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說解脫與達解脫之道……

〔三九〕第二八 非住

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說非住與達非住之道……

〔四〇〕第二九 燈明（洲）

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說燈明與達燈明之道……

〔四一〕第三十 窟宅

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說窟宅與達窟宅之道……

〔四二〕第三一 庇護

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說庇護與達庇護之道……

〔四三〕第三二 歸依

一～四五

一

諸比丘！余為汝等說歸依與達歸依之道……

〔四四〕第三三 到彼岸（能度）

一

一

「諸比丘！余為汝等說到彼岸與達到彼岸之道，於此且諦聽。」

二

諸比丘！又何者為到彼岸耶？諸比丘！貪欲之壞滅、瞋恚之壞滅、愚癡之壞滅。諸比丘！此稱為達到彼岸。

三

諸比丘！又何者為達到彼岸之道耶？向於身之念。諸比丘！此稱為達到彼岸之道。

四

諸比丘！如是，余為汝等說到彼岸，說達到彼岸之道。

五

諸比丘！凡以願有慈念之師，應為諸弟子之利益作垂示慈悲者，此一切余為汝等而作。

六

諸比丘！思念此等之樹下、此等之空屋，諸比丘！不得放逸、不得有後日之悔者，此余為汝等之教誡。」

二～四五

〔與無為之詳說同〕

其攝頌曰：

無為究竟及無漏
真諦彼岸與巧妙
難見不老並堅牢
照見無譬無戲論
寂靜甘露與極妙

安泰安穩及愛盡
不思議稀有無災
無災法此諸涅槃
如來善逝之所說
無損無欲與清淨
解脫非住並燈明
窟宅庇護與歸依
如此之行到彼岸

無為相應（終）

第十 無記說相應

第一 識摩長老尼

一

爾時，世尊住舍衛城衛陀林給孤獨長者之遊園。

二

其時，偶然識摩長老尼遊行於拘薩羅國，於舍衛城與沙計多中間之多羅那越賭地方入安居。

三

時，波斯匿拘薩羅王由沙計多往舍衛城，於沙計多與舍衛城中間之多羅那越賭取一夜之宿。

四

波斯匿拘薩羅王呼一臣曰：「汝，臣下！於此多羅那越賭，如今日余應表敬意〔趨訪〕見沙門或婆羅門。」

「唯然，唯然，大王！」彼臣應諾波斯匿拘薩羅王，雖察遍多羅那越賭，亦未發現彼波斯匿拘薩羅王以表敬意〔趨訪〕之沙門或婆羅門。

五

彼臣見識摩尼於多羅那越賭入安居。見已，彼至波斯匿拘薩羅王之處，告王曰：「大王！於多羅那越賭無有大王表敬意〔趨訪〕之沙門或婆羅門；但大王！有一名識摩比丘尼，是彼

世尊、應供、正徧覺者之女弟子，而此大姊謂是：『賢者、能者、多聞之智者、巧說者、善良之即慧者。』揚好名聲，大王可對彼尼表敬意。」

六

於是，波斯匿拘薩羅王至彼識摩比丘尼之處，禮拜彼尼，坐於一方。

七

坐於一方之波斯匿拘薩羅王向識摩比丘尼曰：「大姊！如來死後，猶存在否？」

「大王！謂『如來死後存在』者，此非世尊之所記說。」

八

「然則，大姊！如來死後不存在耶？」

「大王！謂『如來死後不存在』者，此亦非世尊之所記說。」

九

「然則，大姊！如來死後，為存在又不存在耶？」

「大王！謂『如來死後，存在又不存在』者，此亦非世尊之所記說。」

一〇

「然則，大姊！如來死後為非存在、又非不存在耶？」

「大王！『如來死後，為非存在或非不存在』，此亦非世尊之所記說。」

一一

「如是問：『大姊！如來死後存在否？』汝言：『大王！世尊不記說如來死後存在。』……『如來死後不存在耶？』……『如來死後，存在又不存在耶？』……『如來死後，非存在又非不存在耶？』……世尊對此不為記說者，為何之因？為何之緣耶？」

一二

「然則，大王！就此反問於汝，依汝認為適當者以回答。」

一三

大王！汝對此以作如何思惟？於汝以誰之計算者、或說印者、或說數者，有能計算恆河之沙：『沙有幾何數量或沙有幾百數量，或沙有幾百千數量耶？』」

「大姊！否，此不能。」

一四

「然則，於汝以誰之計算者、或說印者、或說數者，有能計算大海之水：『水有幾何計量，或水有幾百斗量，或水有幾百千斗量耶？』」

「大姊！否，此為不能。」

「此何故耶？」

「大姊！海量大而甚深，不可測，難計量。」

一五

「是於此同理，大王！無論以如何之色示如來，如來對此色已捨棄，如斷其根，〔切斷〕多羅樹之幹，非為存在者，是未來之不生者。大王！如來譬如大海，脫離色之測量，甚深、不可測、難計量。故不適言如來死後是存在；亦不適言如來死後不存在；亦不適言如來死後，存在又不存在；亦不適言如來死後，不存在又非不存在。」

一六～一九

無論以如何之受……以如何之想……以如何之行……以如何之識示如來，如來對此受……想……行……識已予捨棄……大王！如來譬如大海，脫離受之測量……脫離想之測量……脫離行之測量……脫離識之測量，甚深、不可測、是難量。故不適謂：如來死後存在；亦不適謂：如來死後，不存在；亦不適謂：如來死後，存在又不存在；亦不適謂：如來死後，非存在又非不存在。」

二〇

時，波斯匿拘薩羅王歡喜、隨受讖摩比丘尼之所說，從座而起，禮拜彼尼，行右繞禮後離去。

二一

波斯匿拘薩羅王其後至世尊之住處，禮拜世尊坐於一面。

二二

坐於一面之波斯匿拘薩羅王，白世尊曰：「大德！如來死後存在否？」

「大王！『如來死後存在』者，此是余所未記說。」

二三

「然則，大德！如來死後不存在耶？」

「大王！『如來死後，不存在』者，此亦非余所記說。」

二四～二五

然則，大德！……（參照九、十兩節）

二六

「大德！問『如來死後，存在耶？』答以：『大王！余未記說如來死後之存在。』……『如來死後不存在耶？』……

『如來死後，存在又不存在耶？』……『如來死後，非存在又非不存在耶？』……大德！世尊對此未予記說者，其為何因？為何其緣耶？」

二七

「然則，大王！就此反問於汝，依汝認為適當者以作返答。」

二八

大王！汝對此作如何思惟？於汝以誰之計算者、或說印者、或說數者，對恆河之沙……（參照一三節）

二九

然則，於汝以誰之計算者、或說印者、或說數者、以能計算大海之水……（參照一四節）

三〇～三四

同於此理，大王！以如何之色……以如何之受……以如何之想……以如何之行……以如何之識，以示如來，如來對此已予捨棄……故不適謂：如來死後存在……不存在……存在又不存在……非存在又非不存在。」

三五

「大德！殊妙哉！大德！稀有哉！師之女弟子於此第一之句，意義與意義、文言與文言，相接近、相親和，皆無相違。

三六

大德！於此，余一時曾至讖摩比丘尼之處，以問此義；彼大姊亦為余與世尊同是以此句此文，說明此義。殊妙哉！大德！稀有哉！大德！師與女弟子於此第一之句，意義與意義、文言與文言，相接近、相親和，皆無相違。大德！今吾等欲離去，吾等多作務、多所作。」

「大王！如今，即汝當作之時。」

三七

於是，波斯匿拘薩羅王歡受隨喜世尊之所說，即從座起，禮拜世尊，右繞離去。

第二 阿菴羅陀

一

爾時，世尊住毘舍離城之大林重閣講堂中。

二

偶爾，尊者阿羅陀，住於世尊旁側之林間小舍中。

三

時，眾多外道普行沙門等，來至尊者阿羅陀之處，與彼會釋，交換親切慰勉之談話後，坐於一面。

四

坐於一面之彼外道普行沙門，告尊者阿羅陀曰：「友阿羅陀！彼〔無〕上人、最上人、最上無雙之如來，以示此〔如來〕者，於此等四種事處所示：『如來死後存在』或『如來死後不存在』或『如來死後，存在又不存在』或『如來死後非存在又非不存在。』」

「友等！彼〔無〕上人、最上人、最上無雙之如來，以示此〔如來〕者，於此等四種事處之外。所示〔四種事處〕者：『如來死後存在……非不存在。』」

作斯言已，彼等外道普行沙門，告尊者阿羅陀曰：「彼比丘出家不久之新參、或是愚蒙無能之長老。」

五

時，彼等外道普行沙門，以新參愚蒙之言，斥尊者阿羅陀，即從座起而離去。

六

尊者阿羅陀於此等外道普行沙門離去未久之時，心生思念：「彼等外道普行沙門，若再來問余時，將如何作答？余為此等普行沙門，以言世尊之所言，無以非實誹謗世尊耶？隨順世尊之法，而說明法，任何隨順法者、同法者，亦無陷於非難之地耶？」

七

於是，尊者阿羅陀，詣至世尊住處，禮拜世尊，坐於一面。

八

坐於一面之尊者阿羅陀，白世尊曰：「大德！余住於世尊傍側之林間小舍中。大德！時有眾多之外道普行沙門來余之處……告余曰：『友阿羅陀，彼無上人、最上人、最上無雙之如來……』作斯言已，大德！余告彼等外道普行沙門曰：『友等！彼〔無〕上人、最上人、最上無雙人之如來……。』作斯言已，大德！彼外道普行沙門言余曰：『彼比丘出家未久之新參，或是愚蒙無能之長老。』時，彼等外道普行沙門……即從座起而離去。

九

余於此等外道普行沙門離去未久之時，心生思念：『彼等外道普行沙門……同法者，皆無陷於非難之地耶？』」

一〇

「阿羅陀！色是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「然則，凡是無常者，此是苦耶？抑樂耶？」

「大德！是苦。」「然則，凡是無常、苦而變壞之法，『此是吾所〔有〕，此是吾，此是吾之我。』之認識為是耶？」

「否，大德！此非〔是〕。」

「受……想……行……識是常住耶？抑無常耶？」

「大德！是無常。」

「然則，凡是無常、苦而變壞之法，『此是吾所〔有〕，此是吾，此是吾之我。』之認識為是耶？」

「否，大德！此非〔是〕。」

一一

「然則！於此，阿羅陀！應以如是正智如實見，凡過去未來現在之色，或內或外、或粗或細、或劣或勝、或遠或近，一切色乃『此非吾所有，此非吾，此非吾之我。』應以如是正智如實見。凡過去未來現在之受……想……行……識，或內或外、或粗或細、或劣或勝、或遠或近，一切識為『此非吾所有，此非吾，此非吾之我。』」

一二

阿羅陀！如是見之有聞聖弟子，厭嫌於色、厭嫌於受、厭嫌於想、厭嫌於識；厭嫌者則離欲，由離欲而解脫，於解脫則

『我解脫』之智生，當即證知：於生已盡、梵行已住、應作已作、更不如是再生。

一三

阿羅陀！汝對此作如何思惟：『以認識色是如來』耶？」

「否，大德！不然。」

「以受……以想……以行……以認識識是如來耶？」

「否，大德！不然。」

一四

「阿羅陀！汝對此作如何思惟？以認識色有如來耶？」

「否，大德！不然。」

「認識於色之外有如來否？」

「否，大德！不然。」

一五

「以受……於受之外……

一六

以想……於想之外……

一七

以行……於行之外……

一八

認識識有如來耶？」

「否，大德！不然。」

「認識識之外有如來耶？」

「否，大德！不然。」

一九

「阿羅陀！汝對此作如何思惟？以認識色、受、想、行、識是如來耶？」

「否，大德！不然。」

二〇

「阿羅陀！汝對此作如何思惟？認識此如來是無色、無受、無想、無行、無識者否？」

「否，大德！不然。」

二一

「於此，汝阿羅陀！正由於現法不真實，確實得見如來者，以示彼無上人、最上人、最上無雙之如來，或以示：『如來死後存在』或『如來死後，不存在』或『如來死後，存在又不存在』或『如來死後，非存在亦非不存在』，此等四種事之外，以此記說為是？」

「否，大德！不然。」

二二

「阿羅陀！善哉，善哉！阿羅陀！於過去於現在，余皆以教導令知苦與苦滅。」

第三 舍利弗——拘絺羅 第一（住者）

一

一時，尊者舍利弗與尊者大拘絺羅，住於波羅奈〔城外〕仙人墮處之鹿苑中。

二

時，尊者大拘絺羅於日暮時分，獨從思維而起，來到尊者舍利弗住處，與尊者舍利弗共會見，交換親誠慰懃之話後，坐於一面。

三

坐於一面之尊者大拘絺羅，告尊者舍利弗曰：「友舍利弗！如來死後存在耶？」

「友！『如來死後存在』者，此是世尊所不記說。」

四

「然則友！如來死後是不存在耶？」……

五

「然則友！如來死後，存在又不存在耶？」……

六

「然則友！如來死後，非存在又非不存在耶？」……

七

如是問「友！『如來死後存在耶？』汝言：『友！世尊不記說如來死後存在。』……世尊不記說此，是何因？何緣耶？」

八

「『如來死後存在』者，友！此則住著於色。『如來死後不存在』，友！此則住著於色。『如來死後存在又不存在』，友！此則住著於色。『如來死後，非存在亦非不存在』，友！此則住著於色。」

九～一二

『如來死後存在、不存在、存在又不存在、非存在又非不存在。』友！此則住著於受……想……行……識。」

一三

友！如來不記說此，即是此因、此緣。」

第四 舍利弗——拘絺羅 第二（生起）

一

一時，尊者舍利弗與尊者大拘絺羅……

二～七

「……世尊不記說此，是何因？何緣耶？」

八～一二

「友！對色……受……想……行……識不能如實知、見者，對色……受……想……行……識之生起，不能如實知、見者，對色……受……想……行……識之滅不能如實知、見者，對達到色……受……想……行……識滅之道，不能如實知、見者，則有『如來死後存在』，有『如來死後不存在』，有『如來死後存在又不存在』，有『如來死後非存在又非不存在』。

一三～一七

友！對色……受……想……行……識如實知、見者，對色受想行識之生起，如實知、見者，對色受想行識之滅如實知、見者，對到達色、受、想、行、識滅之道，如實知、見者，則無有『如來死後存在』，無有『如來死後不存在』，無有『如來死後存在又不存在』，無有『如來死後非存在又非不存在』。

一八

友！此為如來所不記說之因、之緣。」

第五 舍利弗——拘絺羅 第三（愛情）

一

一時，尊者舍利弗與尊者大拘絺羅……

二～七

「……世尊不記說此，是何因？何緣耶？」

八～一二

「友！對於色……對於受……對於想……對於行……對於識不離貪者、不離欲者、不離愛情者、不離渴者、不離熱惱者、不離愛者，始有『如來死後存在』，有『如來死後不存在』，有『如來死後存在又不存在』，有『如來死後非存在又非不存在』。

一三～一七

友！對於色……對於受……對於想…對於行……對於識離貪者、離欲者、離愛情者、離渴者、離熱惱者、離愛者，則無有『如來死後存在』，無有『如來死後不存在』，無有『如來死後存在又不存在』，無有『如來死後非存在又非不存在』。

一八

友！此為如來所不記說之因、之緣。」

第六 舍利弗——拘絺羅 第四（喜悅）

一

一時，尊者舍利弗與尊者大拘絺羅……

二

時，尊者舍利弗日暮時分，獨從思惟而起，去往尊者大拘絺羅住處，與彼共會面，交換親愛慰勸之談話後，坐於一面。

三

坐於一面之尊者舍利弗，問於尊者大拘絺羅曰：「友拘絺羅！『友！如來死後存在者是如何耶？』汝言：『如來死後存在者，乃世尊所不記說。』……問於：『如來死後，非存在又

非不存在者，是如何耶？」汝言：『如來死後，非存在又非不存在者，亦是世尊所不記說。』世尊不記說此，是何因？何緣耶？」

一

※四

「友！以色……受……想……行……識為樂，以識為喜，以識為快，對識之滅不能如實知、見者，始有『如來死後存在』……有『如來死後，非存在又非不存在』。」

五

友！不以色……受……想……行……不以識為樂、不以識為喜、不以識為快，對識之滅如實知、見者，則無有『如來死後存在』……無有『如來死後，非存在又非不存在』。」

六

友！此為世尊不記說之因、之緣。」

二

七

「然則友！世尊不記說此，還有其他之事由否？」

「友！有。」

八

友！以有為樂、以有為喜、以有為快，對有之滅不能如實知、見者，則有『如來死後存在』……有『如來死後非存在又非不存在』。

九

友！不以有為樂，不以有為喜，不以有為快，對有之滅如實知、見者，則無有『如來死後存在』……無有『如來死後非存在又非不存在』。

一〇

友！此亦世尊所不記說之因、之緣。」

三

一一

「然則友！世尊不記說此者，尚有其他之事由否？」

「友！有。」

一二

友！以取為樂，以取為喜，以取為快，對取之滅不能如實知、見者，則有『如來死後存在』……有『如來死後非存在又非不存在』。

一三

友！不以取為樂，不以取為喜，不以取為快，對取之滅如實知、見者，則無有『如來死後存在』……無有『如來死後非存在又非不存在』。

一四

友！此亦世尊對此未予記說之因，亦為其緣。」

四

一五

「然則友！世尊不記說此，尚有其他之事由否？」

「友！有。」

一六

友！以愛為樂，以愛為喜，以愛為快，對愛之滅不能如實知、見者，則有『如來死後存在』……『如來死後非存在又非不存在』。

一七

友！不以愛為樂，不以愛為喜，不以愛為快，對愛之滅如實知、見者，則無有『如來死後存在』……無有『如來死後非存在又非不存在』。

一八

友！此亦世尊所不記說之因，亦是其緣。」

五

一九

「然則友！世尊不記說此，尚有其他之事由否？」

「如今於此，友舍利弗！從此，汝更復何所願？友舍利弗！得愛盡解脫之比丘，無為其施設而有增長。」

第七 目犍連（處）

※二

時，婆蹉姓之普行沙門，來至尊者大目犍連住處……

三

坐於一面之婆蹉姓普行沙門，問尊者大目犍連曰：「尊者目犍連！世間是常恆耶？」

「婆蹉！以『世間為常恆』者，此為世尊所不記說。」

四

「然則，尊者目犍連！世間是無常耶？」

「婆蹉！以『世間為無常』者，此亦世尊所不記說。」

五

「尊者目犍連！世間是有邊耶？」

「婆蹉！以『世間為有邊』者，此世尊所不記說。」

六

「然則，尊者目犍連！世間是無邊耶？」

「婆蹉！以『世間為無邊』者，此亦世尊所不記說。」

七

「尊者目犍連！是命即身耶？」

「婆蹉！是『即命即身』者，此世尊所不記說。」

八

「然則，尊者目犍連！命與身為各別耶？」

「婆蹉！『命與身為各別』者，此亦世尊所不記說。」

九

「尊者目犍連！如來死後是存在耶？」

「婆蹉！『如來死後存在』者，此世尊所不記說。」

一〇

「然則，尊者目犍連！如來死後不存在耶？」

「婆蹉！『如來死後，不存在』者，此世尊所不記說。」

一一

「尊者目犍連！如來死後，存在又不存在耶？」

「婆蹉！『如來死後，存在又不存在』者，此世尊所不記說。」

一二

「然則，尊者目犍連！如來死後，非存在又非不存在耶？」

「婆蹉！『如來死後，非存在又非不存在』者，此亦世尊所不記說。」

一三

「尊者目犍連！外道普行沙門等對如是問，或以『世間為常恆』，或以『世間為無常』，或以『世間為有邊』，或以『世間為無邊』，或以『即命即是身』，或以『命與身各別』，或以『如來死後存在』，或以『如來死後不存在』，或以『如來死後，存在又不存在』，或以『如來死後，非存在又非不存在』，如是之釋答，是以何為因？以何為緣耶？」

一四

尊者目犍連！然則，而向沙門瞿曇作如是之問，或不以『世間為常恆』，或不以『世間為無常』……或不以『如來死後非存在又非不存在』，而作如是之釋答者，是以何為因？以何為緣耶？」

一五

「婆蹉！外道普行沙門等，是以眼為『此是我所有，此是我此是我之我』，作如是認識。以耳……以鼻……以舌……以身……以意，為『此是我所有，此是我，此是我之我』，作如是認識。以故，外道普行沙門等，作如是問，或以『世間是常恆』……或以『世間是無常』……或以『如來死後，非存在又非不存在』作如是釋答。

一六

婆蹉！如來、應供、正徧智者，對眼不作如是認識：『此是我所有，此是我，此是我之我。』以耳……以鼻……以

舌……以身……以意不如是認識：『此是我所有，此是我，此是我之我。』是故，如來對如是問，或不以『世間為常恆』，或不以『世間為無常』……或不以『如來死後，非存在又非不存在』釋答。」

一七

時，婆蹉姓之普行沙門，從座而起，往世尊住處……

一八

坐於一面之婆蹉姓普行沙門，白世尊曰：「尊瞿曇！世間為常恆耶？」

「婆蹉！『世間是常恆』者，此乃余所不記說。」

一九～二六

……〔參照四～一二〕

二七

「尊瞿曇！如來死後，是非存在又非不存在耶？」

「婆蹉！『如來死後，非存在又非不存在』者，此亦余所不記說。」

二八

「尊瞿曇！外道普行沙門等，對如是問，或以『世間是常恆』，或以『世間是無常』……或以『如來死後，非存在又非不存在』，作如是之釋答，是以何為因？以何為緣耶？尊瞿曇！然而尊瞿曇對如是問，或不以『世間是常恆』，或不以

『世間是無常』……或不以『如來死後，非存在又非不存在』，作如是釋答者，是以何為因？以何為緣耶？」

二九

「婆蹉！外道普行沙門等，於眼作：『此是我所有，此是我，此是我之我。』以耳……以鼻……以舌……以身……以意於意作：『此是我所有，此是我，此是我之我。』如是認識。是故外道普行沙門等對如是問，即作如是釋答：『世間是常恆』，或以『世間是無常』……或以『如來死後非存在又非不存在』。

三〇

如來、應供、正徧智者，於眼不作如是認識：『此是我所有，此是我，此是我之我。』於耳……鼻……舌……身……意，不作如是認識：『此是我所有，此是我，此是我之我。』是故，如來對如是問，或不以『世間是常恆』，或不以『世間是無常』……或不以『是如來死後，非存在又非不存在』釋答。」

三一

「殊妙哉！尊瞿曇！稀有哉！尊瞿曇！乃師與其弟子，於此第一之句，意義與意義，文言與文言，相接近、相親和，無以相違背者。

三二

於此，尊瞿曇！余時而至沙門大目犍連住處，以問此義。沙門目犍連亦與尊瞿曇同以此句此文，用以說明此義。殊妙哉！尊瞿曇！稀有哉！尊瞿曇，乃師與其弟子，於此第一之

句，意義與意義、文言與文言，相接近、相親和，無以相違背者。」

第八 婆蹉（繫縛）

※二

時，婆蹉姓之普行沙門，來至世尊住處……

三

坐於一面之婆蹉姓普行沙門，白世尊曰：「尊瞿曇！世間是常恆耶？」

「婆蹉！謂『世間是常恆』者，此乃余所不記說。」

四～一一

〔參閱第七經四～一一〕。

一二

「然則，尊瞿曇！如來死後，非存在又非不存在耶？」

「婆蹉！謂『如來死後非存在又非不存在』者，此亦余所不記說。」

一三

「尊瞿曇！外道普行沙門等對如是問，或以『世間是常恆』，或以『世間是無常』……或以『如來死後非存在又非不存在』，作如是釋答，是以何因？以何緣耶？然而尊瞿曇之於

如是問，或不以『世間是常恆』……或『如來死後，非存在又非不存在』，如是釋答者，是何因？何緣耶？」

一四

「婆蹉！外道普行沙門等，以認識色為我，或認識我有色，或認識我中有色，或色中有我。認識受……想……行……識是我，或認識我有識，或我中有識，或識中有我。故外道普行沙門之於如是問即作如是答，或以『世間是常恆』，或以『世間是無常』……或以『如來死後，非存在又非不存在』。

一五

婆蹉！如來、應供、正徧智者，不認識色為我、或我為色；不認識我中有色，或色中有我。不認識受……想……行……識是我，不認識我有識，或我中有識，或識中有我。故如來之於如是問，不作如是答，或以『世間是常恆』，或以『世間是無常』……或以『如來死後，非存在又非不存在』等。」

一六

時，婆蹉姓之普行沙門，從座而起，赴往尊者大目犍連住處……

一七

坐於一面之婆蹉姓普行沙門，告於尊者大目犍連曰：「尊者目犍連！世間是常恆耶？」

「婆蹉！謂『世間是常恆』者，此世尊所不記說。」

一八～二六

〔參閱第七經四～一一〕

二七

「然則，尊者目犍連！如來死後，是非存在又非不存在耶？」

「婆蹉！『如來死後，非存在又非不存在』者，此亦世尊所不記說。」

二八

「尊者目犍連！外道普行沙門等之於如是之問，即作如是答：或以『世間是常恆』，或以『世間是無常』……或以『如來死後，非存在又非不存在』者，是何因、何緣耶？然而尊者目犍連！對尊瞿曇之如是問，即不作如是答，或以『世間是常恆』，或以『世間是無常』……或以『如來死後，非存在又非不存在』等者，是何因、是何緣耶？」

二九

「婆蹉！外道普行沙門認識以色是我，或我為色，或認識我中有色，或色中有我。認識受……想……行……識是我，或認識我是識，或我中有識，或識中有我。故外道普行沙門等對如是問，即如是答：或以『世間是常恆』，或以『世間是無常』……或以『如來死後，非存在又非不存在。』

三〇

婆蹉！如來、應供、正徧智者，不認識以色為我，不認識我為有色，或我中有色，或色中有我，不認識以受……想……行……識為我，亦不認識我為有識，或我中有識，或識中有我。以故如來對如是之問，不作如是答：或『世間是常恆』，或『世間是無常』……或『如來死後，非存在又非不存在』。」

三一

「妙哉！尊者目犍連！稀有哉！尊者目犍連！乃師與其弟子，於此第一之句，意義與意義，文句與文句，相接近、相親近，而無相違背。

三二

於此，尊者目犍連！余時而詣沙門瞿曇住處，以問此義。沙門瞿曇亦與尊者目犍連同以此句、此文，以說明此義。殊妙哉！尊者目犍連！稀有哉！尊者目犍連！乃師與其弟子，於此第一之句，意義與意義，文句與文句，相接近、相親和，而無相違背。」

第九 論議堂

※二

時，婆蹉姓之普行沙門，詣世尊住處，與世尊共會面……

三

坐於一面之婆蹉普姓行沙門，白世尊曰：「尊瞿曇！往昔之時，眾多之種種外道沙門、婆羅門、普行沙門，集會於此論議堂者之間，起此談論：

四

『此富蘭那迦葉擁有群眾，為一群之師，知名、譽高，為一派之始祖，為眾人所篤敬，說彼或弟子之遠逝、死去者等之出生事，謂出生於如此如此之處，出生於如此如此之處。說彼弟子之上士、最上士、最上無雙者，其弟子之遠逝、死去者之出生事，謂：出生於如此如此之處，出生於如此如此之處。

五

此又末迦利瞿舍羅……

六

此又尼乾陀若提子……

七

此又散若耶毘羅提子……

八

此又波浮陀迦旃延……

九

此又阿耆多翅舍欽婆羅……

一〇

此又沙門瞿曇擁有群眾，為一群之師，知名、譽高，為一派之始祖，眾人所篤敬，或說彼弟子之遠逝、死去者等之出生事，謂出生於如此如此之處，出生於如此如此之處。說彼之弟

子之上士、最上士、最上無雙者，其弟子之遠逝、死去者之出生事，謂出生如此如此之處，出生如此如此之處。然則，彼對其〔弟子〕如是說：斷渴愛、毀結縛、善滅憍慢，以盡苦際。』

一一

尊瞿曇！於此余有疑惑，有困迷：『如何而了知沙門瞿曇之法耶？』」

一二

「婆蹉！汝足以疑惑，足以困迷。故汝於疑惑之處生困迷。婆蹉！余於出生者說示，有其燃源，不說示無有燃源。

一三

婆蹉！恰如火之有燃源則燃，無燃源則不燃。同於此理，余於出生說示有燃源，不說示無有燃源。」

一四

「然則，尊瞿曇！有火焰時，為風所吹，可至遠處。此時，尊瞿曇說示以何為薪源耶？」

「婆蹉！有火焰時，可至遠處。婆蹉！余謂：此風是薪源。婆蹉！風即為此時之薪源。」

一五

「然而，尊瞿曇！又，有情或時而捨此身以出生為他身。尊瞿曇！說示以何為此薪源耶？」

「婆蹉！有情或時而捨此身，出生於彼之身。婆蹉！對此余說『愛』為薪源。婆蹉！愛於此時即為其薪源。」

第十 阿難（我是有）

※二

時，婆蹉姓之普行沙門，來至世尊住處，與世尊共會面……

三

坐於一面之婆蹉姓普行沙門，白世尊曰：「尊瞿曇！我是有者如何？」

作如是言時，世尊默然。

「然則，尊瞿曇！我是無者如何？」

世尊再次默然。於是，婆蹉姓普行沙門即從座起而離去。

四

時，婆蹉姓普行沙門離去未久，尊者阿難白世尊曰：「大德！何故世尊對婆蹉姓普行沙門之質問，不予回答耶？」

五

「阿難！余若對婆蹉姓普行沙門之問：『我是有耶？』答為『我是有』者，阿難！此則與常住論者之彼沙門婆羅門等相同。」

六

然而，阿難！又余若對婆蹉姓普行沙門之問：『我是無耶？』答為『我是無』者，阿難！此則與斷滅論者之彼沙門婆羅門等相同。

七

阿難！余若對婆蹉姓普行沙門之問：『我是有耶？』答為『我是有』者，則順應余以智慧所發現之『一切法是無我』否？」

「大德！不然。」

八

「阿難！余若對婆蹉姓普行沙門之問：『我是無耶？』答為：『我是無。』者，阿難！此愚昧之婆蹉姓以『先前余非有我耶？其我如今則無。』則更增迷卻。」

第一一 詵陀

一

爾時，尊者詵陀迦旃延，住於那地迦村之磚瓦家。

二

時，婆蹉姓之普行沙門，去至尊者詵陀迦旃延住處，與尊者詵陀迦旃延共相會面，交換親愛慇懃之話後，坐於一面。

三

坐於一面之婆蹉姓普行沙門，問尊者詵陀迦旃延曰：「尊迦旃延！如來死後存在耶？」

「婆蹉！以『如來死後存在』者，此為世尊所不記說。」

四

「然則，尊迦旃延！如來死後不存在耶？」

「婆蹉！以『如來死後不存在』者，此亦世尊所不記說。」

五

「然則，尊迦旃延！如來死後存在又不存在耶？」

「婆蹉！以『如來死後存在又不存在』者，此亦世尊所不記說。」

六

「然則，尊迦旃延！如來死後非存在又非不存在耶？」

「婆蹉！『如來死後非存在又非不存在』者，此亦世尊所不記說。」

七

「如是問：『尊迦旃延！如來死後存在耶？』『婆蹉！汝言：如來死後存在，乃世尊所不記說。』」

八

「如是問：『尊迦旃延！如來死後不存在耶？』『婆蹉！汝言：如來死後不存在，乃世尊所不記說。』」

九

作如是問：『尊迦旃延！如來死後存在又不存在耶？』
『婆蹉！汝言：如來死後是存在又不存在，乃世尊所不記說。』

一〇

作如是問：『尊迦旃延！如來死後非存在又非不存在耶？』『婆蹉！汝言：如來死後，非存在又非不存在，乃世尊所不記說。』

一一

尊迦旃延！沙門瞿曇對此不予記說，是以何因、以何緣耶？」

一二

「婆蹉！凡說示依有因、有緣者，言有色、言無色、言有想、言無想、言非想非非想，其因、其緣一切之一切滅盡全無所殘存，則依何以說示於此，說示或有色、或無色、或有想、或無想、或非想非非想耶？」

一三

「尊迦旃延！汝出家有幾何之久耶？」

「友，不久，是三年。」

一四

「友！若於此期間有此之智慧者，此則甚巨大，況且勝於此者耶！」

無記說相應
(終)

其攝頌曰：

識摩長老尼
及阿菟羅陀
舍利弗三經
至於拘絺羅
目犍連婆蹉
論議堂阿難
洗陀之此等
共是一一經

六處篇相應終

其攝頌曰：

六處以及受
女人閻浮車
並沙門出家
乃至目犍連
質多聚落主
無為不記說
此等共十種
十力石山逃出
涅槃大海之果
八支聖道水湛
勝者語河長運

大篇

第一 道相應

第一 無明品

〔一〕第一 無明

一

如是我聞。一時世尊住舍衛城，祇樹林給孤獨園。

二

於此，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！」

「大德！」

彼諸比丘應諾世尊。世尊說曰：

三

「諸比丘！無明為前，因生不善法，而隨生無慚無愧。諸比丘！隨無明於無智者生邪見。有邪見則生邪思惟，有邪思惟則生邪語，有邪語則生邪業，有邪業則生邪命，有邪命則生邪精進，有邪精進則生邪念，有邪念則生邪定。

四

諸比丘！以明為前，因生善法，隨生慚愧。諸比丘！隨明於有智者則生正見，有正見則生正思惟，有正思惟則生正語，

有正語則生正業，有正業則生正命，有正命則生正精進，有正精進則生正念，有正念則生正定。」

〔二〕第二 半

一

如是我聞。一時，世尊住釋迦國，名薩伽羅之釋迦村。

二

時，具壽阿難詣世尊住處，詣已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之具壽阿難白世尊曰：

「大德！有善知識、善伴黨、善隨從者，此是梵行之半。」

三

「阿難！勿作是言，阿難！勿作是言。阿難！有善知識、善伴黨、善隨從者，皆是梵行。阿難！有善知識、善伴黨、善隨從之比丘，應期許於修習八支聖道，多修習八支聖道。」

四

阿難！云何有善知識、善伴黨、善隨從之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道耶？

阿難！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習正見。依遠離〔依離貪、依滅盡、迴向於捨，〕以修習正思惟。〔依遠離、依離貪、依滅盡、迴向於捨，〕以修習正語。〔依遠離、依離貪、依滅盡、迴向於捨，〕以修習正業。〔依遠離、依離貪、依滅盡、迴向於捨，〕以修習正命。

〔依遠離、依離貪、依滅盡、迴向於捨，〕修習正精進。〔依遠離、依離貪、依滅盡、迴向於捨，〕修習正念。依遠離、依離貪、依滅盡、迴向於捨，修習正定。阿難！如有善知識、善伴黨、善隨從之比丘，修習八支聖道，多修習八支聖道。

五

阿難！應依此理而得知：有善知識、善伴黨、善隨從者，此悉皆為梵行。阿難！以我為善知識，故有生法之眾生，解脫生；有老法之眾生，解脫老；有死法之眾生，解脫死；有愁、悲、苦、憂、惱法之眾生，解脫愁、悲、苦、憂、惱。阿難！應依此理而知，有善知識、善伴黨、善隨從者，此悉皆為梵行。」

〔三〕第三 舍利弗

一

舍衛城因緣。

二

時，具壽舍利弗來詣世尊住處，詣已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之具壽舍利弗白世尊曰：

「大德！有善知識、善伴黨、善隨從者，此悉皆為梵行。」

三

「善哉！善哉！舍利弗！有善知識、善伴黨、善隨從者，此悉皆為梵行。舍利弗！有善知識、善伴黨、善隨從之比丘，

期望修習八支聖道，多修八支聖道。

四

舍利弗！云何有善知識、善伴黨、善隨從之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道耶？

舍利弗！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習正見。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習正思惟。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習正語。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習正業。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習正命。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習正精進。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習正念。依遠離、依滅貪、依滅盡，迴向於捨，以修習正定。舍利弗！如是，有善知識，善伴黨、善隨從之比丘，以修習八支聖道，以多修八支聖道。

五

舍利弗！依此理而知：有善知識、善伴群、善隨從者，此悉皆為梵行。舍利弗！以我為善知識，故有生法之眾生，以解脫生；有老法之眾生，以解脫老；有死法之眾生，以解脫死；有、愁、悲、苦、憂、惱法之眾生，以解脫愁、悲、苦、憂、惱。舍利弗！依此理而知：有善知識、善伴黨、善隨從者，此皆為梵行也。」

〔四〕第四 婆羅門

一

舍衛城因緣。

二

時，具壽阿難，清晨時分著下衣，持衣鉢，入舍衛城乞食。

三

具壽阿難見生聞婆羅門，乘白馬車出舍衛城。繫以白馬，配以白莊嚴、白車、白眷屬、白絆、白刺棒、白傘蓋、白帽、白衣、白履，揮白拂扇。眾人見此曰：「嗟夫！梵乘，是梵乘色。」

四

時，具壽阿難，往舍衛城乞食。食後由乞食歸來，詣世尊住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之具壽阿難，白世尊曰：

「大德！我於此處，清晨時分，著下衣，持衣鉢，入舍衛城乞食。大德！我見生聞婆羅門乘徧白之馬車，出舍衛城。繫以白馬、配以白莊嚴、白車、白眷屬、白絆、白刺棒、白傘蓋、白帽、白衣、白履、揮白拂扇。眾人見此言曰：『嗟夫！梵乘，梵乘色。』大德！此法、律，能稱為梵乘施設否？」

世尊說曰：

「阿難！能。阿難！此八支聖道之增上語，亦稱為：梵乘、法乘、無上之勝伏。」

五

阿難！以修習多修習正見，為究盡調伏於貪，為究盡調伏於瞋，為究盡調伏於癡。阿難！以修習多修習正思惟，為究盡調伏貪，為究盡調伏瞋，為究盡調伏癡。阿難！以修習多修習正語，為究盡調伏貪，為究盡調伏瞋，為究盡調伏癡。阿難！以修習多修習正業，為究盡調伏貪，為究盡調伏瞋，為究盡調伏癡。阿難！以修習多修習正命，為究盡調伏貪，為究盡調伏瞋，為究盡調伏癡。阿難！以修習多修習正精進，為究盡調伏貪，為究盡調伏瞋，為究盡調伏癡。阿難！以修習多修習正念，為究盡調伏貪，為究盡調伏瞋，為究盡調伏癡。阿難！以修習多修習正定，為究盡調伏貪，為究盡調伏瞋，為究盡調伏癡。阿難！以修習多修習正定，為究盡調伏貪，為究盡調伏瞋，為究盡調伏癡。

阿難！應依此理而知，此八支聖道之增上語，亦稱為：梵乘、法乘或無上之勝伏。」

世尊作如是說，如是說之善逝師，更作如是說：

信慧諸法軌	常時為自轉
慚軸意為縻	護念為御者
戒資具為車	靜慮以為眼
精進而為軸	捨三昧為轅
無欲為覆具	無瞋害捨離
如是為兵器	忍辱以為鎧
以趣於安穩	以此已具足
為無上梵乘	智士出世間
一向伏貪等	

〔五〕第五 何義

一

舍衛城因緣。

二

時，眾多比丘詣世尊住處。〔詣已，禮敬世尊〕坐於一面。

三

坐於一面之彼詣比丘，白世尊曰：

「大德！此處異學之修行者，問我等曰：『諸友等！為何於沙門瞿曇處以修梵行耶？』大德！如是之問，我等答彼異學之修行者曰：『友等！為徧知於苦，於世尊之處修梵行。』大德！以如是之問，我等如是答者，是說世尊之所說耶？或無以非實誹謗世尊耶？以法隨法說耶？無以墮同法論者、隨法論者於呵責處耶？」

四

「諸比丘！對如是之問，汝等作如是之答者，乃說我所說，無以不實誹謗於我。以法隨法說，無墮同法論者隨法論者於呵責處。諸比丘！為徧知於苦，乃於我處修梵行。

諸比丘！若異學之修行者，對汝等作如是問：『友等！又徧知此苦，是有道、有跡耶？』諸比丘！若如是問者，汝等對彼異學之修行者，應如是答：『友等！徧知此苦，是有道有跡。』

五

諸比丘！徧知此苦，云何為有道？云何有跡耶？即八支聖道是，謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念〕、正定是。諸比丘！徧知此苦，有此道、此跡。

六

諸比丘！若如是問者，汝等對彼異學之修行者，應如是作答。」

〔六〕第六 一比丘（一）

一

舍衛城因緣。

二

時，有一比丘來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德！梵行，所謂梵行者，大德！何為梵行？何為梵行之究盡耶？」

「比丘！此八支聖道即梵行。謂正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念〕、正定是。比丘！貪欲之滅盡、瞋恚之滅盡、愚癡之滅盡，此即梵行之究盡。」

〔七〕第七 一比丘（二）

一

舍衛城因緣。

二

時，有一比丘，來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德！言貪欲之調伏、瞋恚之調伏、愚癡之調伏者，大德！貪欲之調伏、瞋恚之調伏、愚癡之調伏者，是何者之增上語耶？」

「比丘！貪欲之調伏、瞋恚之調伏、愚癡之調伏者，乃涅槃界之增上語。以此說諸漏之滅盡。」

四

如是談已。彼比丘白世尊曰：

「大德！言不死，不死者、大德！云何為不死耶？云何為達不死之道耶？」

「比丘！貪欲之滅盡，瞋恚之滅盡，愚癡之滅盡者，此名之為不死。此即八支聖道，謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。」

〔八〕第八 分別

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！我為汝等分別說示八支聖道，諦聽，當善思念之，我宣說。」

彼諸比丘應諾世尊曰：

「唯唯！大德！」

世尊說曰：

三

「諸比丘！云何為八支聖道耶？謂：正見〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。

四

諸比丘！云何為正見耶？諸比丘！苦之智、苦集之智、苦滅之智、順苦滅道之智是。諸比丘！此名之為正見。

五

諸比丘！云何為正思惟耶？諸比丘！出離之思惟、無恚之思惟、無害之思惟是。諸比丘！此名之為正思惟。

六

諸比丘！云何為正語耶？諸比丘！離虛誑語、離離間語、離麁惡語、離雜穢語。諸比丘！此名之為正語。

七

諸比丘！云何為正業耶？諸比丘！離殺生、離不與取、離非梵行。諸比丘！此名之為正業。

八

諸比丘！云何為正命耶？諸比丘！於此聖弟子，斷邪命，於正命為活命。諸比丘！此名之為正命。

九

諸比丘！云何為正精進耶？諸比丘！於此有比丘，對未生之惡不善法，為不令生而起志欲、精進、發勤，以持策心。為斷已生之惡不善法，而起志欲、〔精進、發勤，策心以持〕。為令未生之善法使令生起，而起志欲，〔精進、發勤、以持策心〕。以往已生之善法，令不忘失，而倍修習、廣修習，為使令圓滿，以起志欲、精進、發勤、持策心。諸比丘！此名之為正精進。

一〇

諸比丘！云何為正念耶？諸比丘！於此有比丘，於身以隨觀身，而熱誠、正知、具念、以調伏世間之貪憂而住；於受以隨觀受，而熱誠、正知、具念、以調伏世間之貪憂而住；於心以隨觀心，而熱誠、正知、具念、以世間之貪憂而住；於法以隨觀心、而熱心、正知、其念、以調伏世間之貪憂而住。諸比丘！此名之為正念。

一一

諸比丘！云何為正定耶？諸比丘！於此有比丘，離諸欲、離諸不善法，有尋有伺、由離生喜與樂，具足初靜慮而住。尋伺寂靜故內淨、為心一趣，由無尋無伺之三摩地生喜與樂，具足第二靜慮而住。離喜故，於捨而住，正念正知、以身集正受，如諸聖者之所宣說，有捨有念之樂住，即具足第三靜慮而

住。斷樂、斷苦故，及已滅憂與喜故，成不苦、不樂而捨念清淨，具足第四靜慮而住。諸比丘！此名之為正定。」

〔九〕第九 芒

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！譬如以稻之芒，或麥之芒向斜、以手足觸踏，手足壞而出血者，無有是處。何以故？諸比丘！以芒向斜故。

諸比丘！如是彼比丘，以見向邪道，修習向邪，以破壞無明而生明，從而現證涅槃者，無有是處。何以故？諸比丘！以見向邪之故。

三

諸比丘！譬如稻芒，或有麥芒之向正，以手足觸踏，手足壞而出血者，有是處。何以故？諸比丘！芒向正故。

諸比丘！如是彼比丘，見向正道，修習向正，破壞無明以生明，而現證涅槃，有是處。何以故！諸比丘！見向正故。

四

諸比丘！云何比丘，以見向正，道之修習向正，破壞無明以生明，現證涅槃耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習正見。〔依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習

正思惟。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習正語。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習正業。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習正命。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習正精進。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習正念。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習正定。」諸比丘！如是之此比丘，以見向正，道之修習向正，破壞無明以生明，現證涅槃。」

〔一〇〕第十 難提

一

舍衛城因緣。

二

時，修行者難提，來詣世尊住處。詣已，與世尊相俱交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。

三

坐於一面之修行者難提，白世尊曰：

「瞿曇！修習、多習幾何之法者，可以到涅槃、達涅槃、究竟於涅槃耶？」

四

「難提！修習、多習八法者，可以到涅槃、達涅槃、究竟於涅槃。以何為八耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念〕正定是。難提！修習多習此八法者，可以到涅槃、達涅槃、究竟於涅槃。」

五

如是說已，修行者難提白世尊曰：

「妙哉！瞿曇！妙哉！瞿曇！〔瞿曇譬如倒者之扶起，如覆者之露現，如教迷者以道，暗中舉燈火，使有眼者見色。如是尊瞿曇以種種方便顯示於法。我於此當歸依尊瞿曇與法及比丘眾。〕尊瞿曇！請容受我自今起，至命終歸依為優婆塞。」

第一 無明品 (終)

此品之攝頌曰：

無明以及半
舍利弗與婆羅門
何義與二比丘
分別、芒、難提

第二 住品

〔一一〕第一 住（一）

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！我欲宴默半月，除持食者之一人外，任何人勿至我處。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應諾世尊，除持食者一人之外，無任何人詣世尊住處。

三

時，世尊經半月由宴默起，告諸比丘曰：

「諸比丘！我始現等覺時，依住於住分而住。

四

其時，我了知：以邪見為緣有所受，以正見為緣有所受，〔以邪思惟為緣有所受，以正思惟為緣有所受，以邪語為緣有所受，以正語為緣有所受，以邪業為緣有所受，以正業為緣有所受，以邪命為緣有所受，以正命為緣有所受，以邪精進為緣有所受，以正精進為緣有所受，以邪念為緣有所受，以正念為緣有所受，〕以邪定為緣有所受，以正定為緣有所受，以尋思為緣有所受，以想為緣有所受。

五

志欲未寂靜，尋思未寂靜，想未寂靜，以彼為緣有所受。志欲已寂靜，尋思未寂靜，想未寂靜，以彼為緣有所受。志欲已寂靜，尋思已寂靜，想未寂靜者，以彼為緣有所受。志欲已寂靜，尋思已寂靜，想已寂靜，以彼為緣有所受。

六

為得未得者，而有精進。已逮得其處，則以彼為緣有所受。」

〔一二〕第二 住（二）

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！我欲宴默三月，〔除持食者之一人外、任何人勿至我處〕。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應諾世尊，〔除持食者之一人外，任何人勿至世尊住處〕。

三

時，世尊經三月由宴默起，告諸比丘曰：

「諸比丘！我始現等覺之時，依住於住分而住。

四

我其時，了知：以邪見為緣有所受，以邪見之寂靜為緣有所受，以正見為緣有所受，以正見之寂靜為緣有所受，〔以邪思惟為緣有所受，以邪思惟之寂靜為緣有所受，以正思惟為緣有所受，以正思惟之寂靜為緣有所受，以邪語為緣有所受，以邪語之寂靜為緣有所受，以正語為緣有所受，以正語之寂靜為緣有所受，以邪業為緣有所受，以邪業之寂靜為緣有所受，以正業為緣有所受，以正業之寂靜為緣有所受，以邪命為緣有所受，以邪命之寂靜為緣有所受，以正命為緣有所受，以正命之寂靜為緣有所受，以邪精進為緣有所受，以邪精進之寂靜為緣有所受，以正精進為緣有所受，以正精進之寂靜為緣有所受，

以邪念為緣有所受，以邪念之寂靜為緣有所受，以正念為緣有所受，以正念之寂靜為緣有所受，〕以邪定為緣有所受，以邪定之寂靜為緣有所受，以正定為緣有所受，以正定之寂靜為緣有所受，以志欲為緣有所受，以志欲之寂靜為緣有所受，以尋思為緣有所受，以尋思之寂靜為緣有所受，以想為緣有所受，以想之寂靜為緣有所受。

五

志欲未寂靜，尋思未寂靜，想未寂靜者，以彼為緣有所受。志欲已寂靜，尋思未寂靜，想未寂靜者，以彼為緣有所受。志欲已寂靜，尋思已寂靜，想未寂靜者，以彼為緣有所受。志欲已寂靜，尋思已寂靜，想已寂靜者，以彼為緣有所受。

六

為未得者而得有精進，已逮得其處，以彼為緣有所受。」

〔一三〕第三 有學

一

舍衛城因緣。

二

時，有一比丘，詣世尊居處。〔詣已，禮敬世尊，坐於一面。〕

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德！有學，所言有學者，大德！云何為有學耶？」

四

「比丘！於此處成就有學之正見、〔成就有學之正思惟、成就有學之正語、成就有學之正業、成就有學之正命、成就有學之正精進、成就有學之正念、〕成就有學之正定。比丘！如是者，則稱之為有學。」

〔一四〕第四 生起（一）

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！修習、多修八法者，則未生者亦生起，但除如來、應供、正等覺者之不出現。」

三

以何為八耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！修習、多修此八法者，則未生者亦生起，但除如來、應供、正等覺者之不出現。」

〔一五〕第五 生起（二）

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！修習、多修八支者，則未生者亦生起，但除善逝之不調伏。

三

以何為八耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！修習、多修此八法者，則未生者亦生起，但除善逝之不調伏。」

〔一六〕第六 清淨（一）

一～二

舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！若能對八法清淨、鮮白、無垢、離染者，則未生者亦生起，但除如來、應供、正等覺者之不出現。

四

以何為八耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。能對此八法，清淨、鮮白、無垢、離染者，則未生者亦生起，但除如來、應供、正等覺者之不出現。」

〔一七〕第七 清淨（二）

一～二

舍衛城……乃至……

三

「諸比丘！於此八法能清淨〔鮮白、無垢、離染者，則未生者亦生起〕，但除善逝之不調伏。」

四

以何為八耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！於此八法，能清淨〔鮮白、無垢、離染者，則未生者亦生起〕，但除善逝之不調伏。」

〔一八〕第八 鷄林精舍（一）

一

如是我聞。一時，具壽阿難與具壽跋陀羅住巴連弗色鷄林精舍。

二

時，具壽跋陀羅日晚時分，由宴默起，到具壽阿難住處。至已，與具壽阿難相俱交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。

三

坐於一面之具壽跋陀羅，向具壽阿難言曰：

「友阿難！所言非梵行、非梵行者，友！云何為非梵行耶？」

「善哉，善哉！友跋陀羅！友跋陀羅！汝之善誘導、善辯才、善所問。」

四

友跋陀羅！汝如是問：『友阿難！所言非梵行、非梵行者，友！云何為非梵行耶？』」

「友！如是。」

五

「友！八支邪道為非梵行，謂：邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕邪定是。」

〔一九〕第九 鷄林精舍（二）

一～二

巴連弗色因緣。

三

「友阿難！所言梵行，梵行者，友！云何為梵行？云何為梵行之究竟耶？」

「善哉，善哉！友跋陀羅！友跋陀羅！汝善誘導，善辯才，善所問。」

四

友跋陀羅！汝如是問：『友阿難！所言梵行，梵行者，友！云何為梵行？云何為梵行之究竟耶？』」

「友！如是。」

五

「友！八支聖道為梵行。謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念〕、正定是。友！貪欲之滅盡、瞋恚之滅盡、愚癡之滅盡為梵行之究竟。」

〔二〇〕第十 鷄林精舍（三）

一～二

巴連弗色因緣。

三

「友阿難！所言梵行、梵行者，云何為梵行？云何為梵行者？云何為梵行之究竟耶？」

「善哉，善哉！友跋陀羅。友跋陀羅！汝之善誘導、善辯才、善所問。」

四

友跋陀羅！汝如是問：『友阿難！所言梵行、梵行者，友！云何為梵行？云何為梵行者？云何為梵行之究竟耶？』」

「友！如是。」

五

「友！八支聖道為梵行。謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。友！成就此八支聖道

者，名之為梵行者。友！貪欲之滅盡、瞋恚之滅盡、愚癡之滅盡，為梵行之究竟。」

此三經之因緣為一。

第二 住品 (終)

此品之攝頌曰：

二住與有學
又二之生起
及二之清淨
三鷄林精舍

第三 邪性品

〔二一〕第一 邪性

一～二

舍衛城因緣。

三

「諸比丘！我為汝等說邪性與正性，且諦聽之。」

四

諸比丘！云何為邪性耶？謂：邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕邪定是。諸比丘！此名之為邪性。

五

諸比丘！云何為正性耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為正性。」

〔二二〕第二 不善法

一～二

舍衛城

……

三

「諸比丘！我為汝等說不善法與善法，且諦聽。」

四

諸比丘！云何為不善法耶？謂：邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕邪定是。諸比丘！此名之為不善法。

五

〔諸比丘！〕云何為善法耶？〔謂：〕正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定。〔諸比丘！〕此〔名之〕為善法。」

〔二三〕第三 道（一）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說邪道與正道，且諦聽。

四

諸比丘！云何為邪道耶？謂：邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕邪定。諸比丘！此名之為邪道。

五

諸比丘！云何為正道耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為正道。」

〔二四〕第四 道（二）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我不讚歎在家、出家之邪道。

四

諸比丘！在家、出家而邪行者，以邪行故，則不樂正理之善法。諸比丘！云何為邪道耶？謂：邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕邪定是。諸比丘！此名之為邪道。諸比丘！我不讚歎在家、出家之邪道。

五

諸比丘！在家、出家而邪行者，以邪行故，則不樂正理之善法。

六

諸比丘！我讚歎在家、出家之正道。

七

諸比丘！在家、出家而正行者，以正行故，則樂正理之善法。諸比丘！云何為正道耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為正道。諸比丘、我讚歎在家出家之正道。

八

諸比丘！在家、出家而正行者，以正行故，則樂正理之善法。」

〔二五〕第五 不善士（一）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說不善士與善士，且諦聽。

四

諸比丘！云何為不善士耶？諸比丘！於此有一類者，具邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕邪定

是。諸比丘！此名之為不善士。

五

諸比丘！云何為善士耶？諸比丘！此處有一類者，其正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定。諸比丘！此名之為善士。」

〔二六〕第六 不善士（二）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說比不善士與不善士更劣之不善士。諸比丘！我為汝等說比善士與善士更勝之善士，且諦聽。」

四

諸比丘！云何為不善士耶？諸比丘！此處一類者，具邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕邪定是。諸比丘！此名之為不善士。

五

諸比丘！云何為比不善士更劣之不善士耶？諸比丘！此處一類者，具邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕邪定、邪智、邪解脫。諸比丘！此名之為比不善士更劣之不善士。」

六

諸比丘！云何為善士耶？諸比丘！此處一類者，具正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為善士。

七

諸比丘！云何為比善士更勝之善士耶？諸比丘！此處一類者，具正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定、正智、正解脫。諸比丘！此名之為比善士更勝之善士。

〔二七〕第七 瓶

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！譬如瓶，若無依持者，則易轉倒；若有依持者，則難轉倒。諸比丘！如是，心若無依持則易轉倒，若有依持則難轉倒。」

四

諸比丘！何為心之依持耶？此八支聖道是，謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定者。此為心之依持。

五

諸比丘！譬如瓶，若無依持者，則易轉倒；若有依持者，則難轉倒。諸比丘！如是，心若無依持者，則易轉倒；若有依

持者，則難轉倒。」

〔二八〕第八 定

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說有所依、有資糧之聖正定，且諦聽。

四

諸比丘！云何為有所依、有資糧之聖正定耶？謂：正見、正思惟、〔正〕語、〔正〕業、〔正〕命、〔正〕精進、〔正〕念是。

五

諸比丘！與此七支俱之心一境性為資糧。諸比丘！此名之為聖正定之所依，亦為資糧。」

〔二九〕第九 受

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！有三種受。以何為三耶？樂受、苦受、不苦不樂受是。諸比丘！此為三種受。」

四

諸比丘！徧知此三種受，應修習八支聖道。何為八支聖道耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！徧知此三受，應修習此八支聖道。」

〔三〇〕第十 鬱低迦

一～二

舍衛城……

三

時，具壽鬱低迦，來詣世尊住處。〔詣已，禮敬世尊，坐於一面。〕

四

坐於一方之具壽鬱低迦，白世尊曰：

「大德！我於此處靜居宴默，心生是念：『請世尊說示五妙欲。』世尊請說何者為五妙欲耶？」

五

「善哉，善哉！鬱低迦，鬱低迦！我說五妙欲。以何為五耶？眼所識之色，為可樂、可愛、可意、愛色、引欲、可染；耳所識之聲〔為可樂、可愛、可意、愛色、引欲、可染〕；鼻所識之香〔為可樂、可愛、可意、愛色、引欲、可染〕；舌所識之味〔為可樂、可愛、可意、愛色、引欲、可染〕；身所識之觸為可樂、可愛、可意、愛色、引欲、可染。鬱低迦！我以此說五妙欲。」

六

鬱低迦！為斷此五妙欲，應修習八支聖道。何為八支聖道耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。鬱低迦！為斷此五妙欲，應修習此八支聖道。」

第三邪性品 (終)

此品之攝頌曰：

邪性與不善
二道一善士
依持瓶與定
受及鬱低迦

第四 行品

〔三一〕第一 行

一～二

舍衛城因緣。

三

「諸比丘！我為汝等說邪行與正行，且諦聽。」

諸比丘！云何為邪行耶？謂：邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕邪定是。諸比丘！此名之為邪行。

四

諸比丘！云何為正行耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為正行。」

〔三二〕第二 行者

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說邪行者與正行者，且諦聽。

諸比丘！云何為邪行者耶？諸比丘！此處有一類者，具邪見、〔邪思惟、邪語、邪業、邪命、邪精進、邪念、〕有邪定是。諸比丘！此名之為邪行者。

四

諸比丘！云何為正行者耶？諸比丘！此處有一類者，具正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕有正定是。諸比丘！此名之為正行者。」

〔三三〕第三 失

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！若有失八支聖道者，則為失正順苦滅之八支聖道。諸比丘！若發起八支聖道者，則為發起正順苦滅之八支聖道。」

四

諸比丘！云何為八支聖道耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！若失此八支聖道者，則為失正順苦滅之八支聖道。諸比丘！若發起此八支聖道者，則為發起正順苦滅之八支聖道。」

〔三四〕第四 到彼岸

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！修習、多修八法者，則可資於由此岸到彼岸。何者為八耶？謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！修習、多修此八法者，則可資於由此岸到彼岸。」

四

世尊如是說已，如是說之善逝師，更說曰：

（一）「於人中到彼岸者少餘之眾生唯奔走於岸邊。」

（二）於正說之法，行如法者到達彼岸，超越甚難超越死之境界。

（三）賢者棄黑法，應修白法。離在家到出家，難得樂而向遠離處。

（四）希求喜悅、斷諸欲、無所有，賢者去心垢而淨己。

（五）於菩提分正心善修以欣無取棄執著，

有光輝之漏盡者，於現世般涅槃。」

〔三五〕第五 沙門法（一）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說沙門法與沙門果，且諦聽。

四

諸比丘！云何為沙門法耶？即八支聖道是。謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。

諸比丘！此名之為沙門法。

五

諸比丘！云何為沙門果耶？即：預流果、一來果、不還果、阿羅漢果是。諸比丘！此名之為沙門果。」

〔三六〕第六 沙門法（二）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說沙門法與沙門義，且諦聽。」

四

諸比丘！云何為沙門法耶？即八支聖道是。謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為沙門法。

五

諸比丘！云何為沙門義耶？諸比丘！貪欲之滅盡，瞋恚之滅盡，愚癡之滅盡。諸比丘！此名之為沙門義。」

〔三七〕第七 婆羅門法（一）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說婆羅門法與婆羅門果，且諦聽。」

四

諸比丘！云何為婆羅門法耶？即八支聖道是。謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為婆羅門法。

五

諸比丘！云何為婆羅門果耶？即：預流果、一來果、不還果、阿羅漢果是。諸比丘！此名之為婆羅門果。」

〔三八〕第八 婆羅門法（二）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說婆羅門法與婆羅門義，且諦聽。」

四

諸比丘！云何為婆羅門法耶？即八支聖道是。謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為婆羅門法。

五

諸比丘！云何為婆羅門義耶？諸比丘！貪欲之滅盡、瞋恚之滅盡、愚癡之滅盡。諸比丘！此名之為婆羅門義。」

〔三九〕第九 梵行（一）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說梵行與梵行果，且諦聽。」

四

諸比丘！云何為梵行耶？即八支聖道是。謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為梵行。

五

諸比丘！云何為梵行果耶？諸比丘！即：預流果、一來果、不還果、阿羅漢果是。諸比丘！此名之為梵行果。」

〔四〇〕第十 梵行（二）

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！我為汝等說梵行與梵行義，且諦聽。

四

諸比丘！云何為梵行耶？即八支聖道是。謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！此名之為梵行。

五

諸比丘！云何為梵行義耶？諸比丘！貪欲之滅盡、瞋恚之滅盡、愚癡之滅盡。諸比丘！此名之為梵行義。」

第四 行品 (終)

皆舍衛城因緣也。

此品之攝頌曰：

行以至行者
失與到彼岸
二之沙門法
二婆羅門法
說二之梵行
以之說此品

異學廣說

〔四一〕第一 遠離

一

舍衛城因緣。

二

時，有眾多比丘詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之彼諸比丘，白世尊曰……乃至……

三

「諸比丘！若異學之修行者，如是問汝等：『諸友等！為何於沙門瞿曇處修梵行耶？』諸比丘！若如是問者，汝等應如是答彼異學修行者：『諸友等！為遠離貪欲，唯於世尊處修梵行。』」

四

諸比丘！若異學修行者，再如是問汝等：『諸友等！又，遠離貪欲，有道有跡耶？』諸比丘！若如是問者，汝等應如是答彼異學修行者：『諸友等！遠離貪欲，有道、有跡。』

五

諸比丘！遠離貪欲，有云何之道，云何之跡耶？即八支聖道。是謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！遠離貪欲有此道、此跡。

諸比丘！若如是問者，汝等應如是答彼異學修行者。」

〔四二〕第二 結

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！若異學修行者，作如是問汝等：『諸友等！為何於沙門瞿曇處修梵行耶？』諸比丘！若如是問者，汝等應如是答彼異學修行者：『諸友等！為斷諸結，唯於世尊處修梵行。』……乃至……」

〔四三〕第三 隨眠

一

舍衛城因緣。

二

「……乃至……『諸友等！為永斷隨眠，乃於世尊處修梵行。』……乃至……」

〔四四〕第四 行路

一

舍衛城因緣。

二

「……乃至……『諸友等！為徧知行路，唯於世尊處修梵行。』……乃至……」

〔四五〕第五 漏盡

一

舍衛城因緣。

二

「……乃至……『諸友等！為滅盡諸漏，乃於世尊之處修梵行。』……乃至……」

〔四六〕第六 明解脫

一

舍衛城因緣。

二

「……乃至……『諸友等！為現證明解脫果，乃於世尊之處修梵行。』……乃至……」

〔四七〕第七 智

一

舍衛城因緣。

二

「……乃至……『諸友等！為智見，乃於世尊之處修梵行。』……乃至……」

〔四八〕第八 無取

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！若異學之修行者，作如是問汝等：『諸友等！為何於沙門瞿曇處修梵行耶？』諸比丘！若如是問者，汝等對彼異學修行者，應作如是答：『諸友等！為無取般涅槃，於世尊處修梵行。』」

三

諸比丘！若異學之修行者，如是問汝等：『諸友等！又，為無取般涅槃有道，有跡耶？』諸比丘！若如是問，汝等對彼異學之修行者，應作如是答：『友等！為無取般涅槃有道、有跡。』

四

諸比丘！為無取般涅槃，有云何之道？云何之跡耶？即八支聖道是。謂：正見、〔正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、〕正定是。諸比丘！為無取般涅槃，有此道、此跡。

諸比丘！若如是問，汝等對彼異學之修行者，應如是作答。」

異學廣說（終）

此（廣說）之攝頌曰：

遠離法隨眠
行路與漏盡
明解脫及智
第八是無取

日輪廣說

皆是舍衛城因緣。

一 遠離依止

〔四九〕第一 善友（一）

※二

「諸比丘！太陽上昇時，先驅之前相，即是明相出。諸比丘！如是比丘起八支聖道時，先驅之前相是善友。

三

諸比丘！有善友，於比丘乃期望修習八支聖道，多修八支聖道。

諸比丘！有善友之比丘，云何修習八支聖道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正思惟。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正語。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正業。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正命。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正精進。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正念。〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如有善友之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道。」

〔五〇〕第二 戒（一）

※二

「諸比丘！太陽上昇時，先驅之前相，即明相出。諸比丘！如是比丘，起八支聖道時，先驅之前相是戒具足。

三

諸比丘！於戒具足之比丘……乃至……」

〔五一〕第三 志欲（一）

※二

「……乃至……先驅之前相，是志欲具足……乃至……」

〔五二〕第四 我（一）

※二

「……乃至……〔先驅之前相，是〕我具足……乃至……」

〔五三〕第五 見（一）

※二

「……乃至……〔先驅之前相，是〕見具足……乃至……」

〔五四〕第六 不放逸（一）

※二

「……乃至……〔先驅之前相，是〕不放逸具足……乃至……」

〔五五〕第七 如理（一）

※二

「諸比丘！太陽上昇時，先驅之前相，即明相出。諸比丘！如是比丘，起八支聖道時，先驅之前相，是如理作意具足。」

三

諸比丘！於如理作意具足之比丘，期望修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！如理作意具足之比丘，云何修習八支聖

道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正思惟。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正語。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正業。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正命。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正精進。依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正念。〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是如理作意具足之比丘，修習八支聖道、多修八支聖道。」

二 貪欲調伏

〔五六〕第八 善友（二）

※二

「諸比丘！太陽上昇時，〔先驅之前相，即明相出。諸比丘！如是比丘，起八支聖道時，先驅之前相〕是善友。

三

諸比丘！於有善友之比丘，〔當期望〕修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！〔有善友之比丘，〕云何修習八支聖道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正見。〔為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正思惟。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正語。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正業。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正命。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正精進。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正念。〕為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正定。諸比丘！如有善友之比丘，以修習八支聖道，多修八支聖道。」

〔五七〕第九 戒（二）

※二

「諸比丘！太陽上昇時，〔先驅之前相，即明相出。諸比丘！如是比丘，起八支聖道時，先驅之前相〕是戒具足……乃至……」

〔五八〕第十 志欲（二）

※二

「……乃至……〔先驅之前相〕是志欲具足……乃至……」

〔五九〕第十一 我（二）

※二

「……乃至……〔先驅之前相〕是我具足……乃至……」

〔六〇〕第十二 見（二）

※二

「……乃至……〔先驅之前相〕是見具足……乃至……」

〔六一〕第十三 不放逸（二）

※二

「……乃至……〔先驅之前相〕是不放逸具足……乃至……」

〔六二〕第十四 如理（二）

※二

「……乃至……〔先驅之前相〕是如理作意具足。」

三

諸比丘！於如理作意具足之比丘，期望修習〔八支聖道，多修八支聖道〕。諸比丘！如理作意具足之比丘，云何修習八支聖道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正見。〔為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正思惟。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，

以修習正語。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正業。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正命。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正精進。為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正念。〕為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正定。諸比丘！如是如理作意具足之比丘，以修習八支聖道，多修八支聖道。」

太陽廣說（終）

此廣說之攝頌曰：

善友以及戒
志欲我具足
見與不放逸
第七是如理

一法廣說（一）

舍衛城因緣。

一 遠離依止

〔六三〕第一 善友（一）

※二

「諸比丘！有一法於起八支聖道者，多利益。何者為一法耶？謂：有善友是。

三

諸比丘！於有善友之比丘，期望修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！有善友之比丘，云何修習八支聖道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如有善友之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道。」

〔六四〕第二 戒（一）

※二

「諸比丘！有一法，起八支聖道者，是多利益。何者為一法耶？謂：戒具足是……乃至……」

〔六五〕第三 志欲（一）

※二

「……謂志欲具足……乃至……」

〔六六〕第四 我（一）

※二

「……謂我具足……乃至……」

〔六七〕第五 見（一）

※二

「……謂見具足……乃至……」

〔六八〕第六 不放逸（一）

※二

「……謂不放逸具足……乃至……」

〔六九〕第七 如理

※二

「……謂如理作意具足。」

三

諸比丘！於如理作意具足之比丘，期望修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！如理作意具足之比丘，云何修習八支聖道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是，如理作意具足之比丘，以修習八支聖道，多修八支聖道。」

二 貪欲之調伏

〔七〇〕第八 善友（二）

一

舍衛城……

二

「諸比丘！有一法於起八支聖道者，是多利益。何者為一法耶？謂有善友是。

三

諸比丘！於有善友之比丘期望修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！有善友之比丘，云何修習八支聖道，多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏以修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏以修習正定。諸比丘！如是，有善友之比丘，以修習八支聖道，多修八支聖道。」

〔七一〕第九 戒（二）

※二

「……謂戒具足……乃至……」

〔七二〕第十 志欲（二）

※二

「……謂志欲具足……乃至……」

〔七三〕第十一 我（二）

※二

「……謂我具足……乃至……」

〔七四〕第十二 見（二）

※二

「……謂見具足……乃至……」

〔七五〕第十三 不放逸（二）

※二

「……謂不放逸具足……乃至……」

〔七六〕第十四 如理（二）

※二

「……謂如理作意具足。」

三

諸比丘！於如理作意具足之比丘，期望修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！如理作意具足之比丘，云何修習八支聖道，多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正定。諸比丘！如是，如理作意具足之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道。」

一法廣說（終）

此廣說之攝頌曰：

善友以及戒
志欲我具足
見與不放逸
第七是如理

一法廣說（二）

舍衛城因緣。

一 遠離依止

〔七七〕第一 善友（一）

※二

「諸比丘！我不見其他有一法，令未生之八支聖道生起；已生之八支聖道，使修習圓滿。諸比丘！此即有善友是。」

三

諸比丘！於有善友之比丘，期望修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！有善友之比丘，云何修習八支聖道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是，有善友之比丘，以修習八支聖道，多修八支聖道。」

〔七八〕第二 戒（一）

※二

「諸比丘！我不見其他有一法……乃至……。諸比丘！此即戒具足……乃至……」

〔七九〕第三 志欲（一）

※二

「……諸比丘！此即志欲具足……乃至……」

〔八〇〕第四 我（一）

※二

「……諸比丘！此即我具足……乃至……」

〔八一〕第五 見（一）

※二

「……諸比丘！此即見具足……乃至……」

〔八二〕第六 不放逸（一）

※二

「諸比丘！此即不放逸具足……乃至……」

〔八三〕第七 如理（一）

※二

「……諸比丘！此即如理作意具足。」

三

諸比丘！於如意作意具足之比丘，應期望修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！如理作意具足之比丘，云何修習八支聖道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨以修習正定。諸比丘！如是，如理作意具足之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道。」

二 貪欲之調伏

〔八四〕第一 善友（二）

※二

「諸比丘！我不見其他有一法，於未生之八支聖道令生起；已生之八支聖道，令修習圓滿。諸比丘！此即有善友是。」

三

諸比丘！於有善友之比丘，應期望修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！有善友之比丘！云何修習八支聖道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正定。諸比丘！如是，有善友之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道。」

〔八五〕第二 戒（二）

※二

「諸比丘！我見另有一法……乃至……。諸比丘！此即戒具足……乃至……」

〔八六〕第三 志欲（二）

※二

「……諸比丘！此即志欲具足……乃至……」

〔八七〕第四 我（二）

※二

「……諸比丘！此即我具足……乃至……」

〔八八〕第五 見（二）

※二

「……諸比丘！此即見具足……乃至……」

〔八九〕第六 不放逸（三）

※二

「……諸比丘！此即不放逸具足……乃至……」

〔九〇〕第七 如理（二）

※二

「……諸比丘！此即如理作意具足。」

三

諸比丘！如理於作意具足之比丘，應期望修習八支聖道，多修八支聖道。〔諸比丘！如理作意具足之比丘，云何修習八支聖道？〕多修八支聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏，以修習正定。諸比丘！如是，如理作意具足之比丘，以修習八支聖道，多修八支聖道。」

一法廣說（二）
（終）

此廣說之攝頌曰：

善友以及戒
志欲我具足
見與不放逸
第七是如理

恆河廣說

舍衛城因緣。

一 遠離依止

〔九一〕第一 東（一）

※二

「諸比丘！譬如恒河趣向於東、傾向於東、臨入於東。諸比丘！如是比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，則趣向於涅槃，傾向於涅槃，臨入於涅槃。

諸比丘！比丘云何修習八支聖道，多修八支聖道，則趣向於涅槃，傾向於涅槃，臨入於涅槃耶？

三

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是比丘修習八支聖道，多修八支聖道，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃。」

〔九二〕第二 東（二）

※二

「諸比丘！譬如夜摩那河，趣向東、傾向東、臨於入東。
諸比丘！如是……乃至……」

〔九三〕第三 東（三）

※二

「諸比丘！譬如阿夷羅跋提河，趣向東、傾向東、臨入於
東。諸比丘！如是……乃至……」

〔九四〕第四 東（四）

※二

「諸比丘！譬如舍勞浮河，趣向東、傾向東、臨入於東。
諸比丘！如是……乃至……」

〔九五〕第五 東（五）

※二

「諸比丘！譬如摩企河，趣向東、傾向東、臨入於東。諸
比丘！如是……乃至……」

〔九六〕第六 東（六）

※二

「諸比丘！譬如諸大河，謂：恆河、夜摩那河、阿夷羅跋
提河、舍勞浮河、摩企河是，此等皆趣向東、傾向東、臨入

東。諸比丘！如是，比丘……乃至……臨入涅槃。」

〔九七〕第七 海（一）

※二

「諸比丘！譬如恆河趣向於海、傾向於海、臨於入海。諸比丘！如是，比丘修習八支聖道，多修八支聖道者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃……乃至……」

〔九八〕第八 海（二）

※二

「諸比丘！譬如夜摩那河……乃至……」

〔九九〕第九 海（三）

※二

「諸比丘！譬如阿夷羅跋提河……乃至……」

〔一〇〇〕第十 海（四）

※二

「諸比丘！譬如舍勞浮河……乃至……」

〔一〇一〕第十一 海（五）

※二

「諸比丘！譬如摩企河……乃至……」

〔一〇二〕第十二 海（六）

※二

「諸比丘！譬如諸大河，謂：恆河、夜摩那河、阿夷羅跋提河、舍勞浮河、摩企河是，此等皆趣向海、傾向海、臨入海。諸比丘！如是，比丘……乃至……臨入於涅槃耶？」

三

諸比丘！於此有比丘……乃至……多修八支聖道者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃。」

恆河廣說（終）

此廣說之攝頌曰：

趣向東之六
趣向海之六
二六之十二
以之說廣說

恆河廣說，東趣向、東道

十二遠離依止第一

二 貪欲調伏

〔一〇三～一〇八〕第一～六 東（一～六）

（準於九一～九六）

〔一〇九～一一四〕第七～十二 海（一～六）

（準於九七～一〇二）

※三

「諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲之調伏、為究盡瞋恚之調伏、為究盡愚癡之調伏、以修習正見……乃至……」

趣向海之十二貪欲調伏第二

三 不死究竟

〔一一五～一二〇〕第一～六 東（一～六）

（準於九一～九六）

〔一二一～一二六〕第七～十二 海（一～六）

（準於九七～一〇二）

※三

「諸比丘！於此有比丘，究竟於不死、趣向不死、究盡於不死，以修習正見……」乃至……

究竟不死之十二第三

四 趣向涅槃

〔一二七～一三二〕第一～六 東（一～六）

（準於九一～九六）

〔一三三～一三八〕第七～十二 海（一～六）

※三

「諸比丘！於此有比丘，趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃，以修習正見……乃至……諸比丘！如是之比丘，修習八支

聖道、多修〔八支聖道者〕，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃。」

恆河廣說（終）

此廣說之攝頌曰：

趣向東之六
趣向海之六
二六之十二
以之說此品
趣涅槃十二
第四是六處

第五 不放逸品

〔一三九〕第一 如來

一 遠離〔依止〕

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！說諸有情之無足、二足、多足、有色、無色、有想、無想，以如來、應供、正等覺者為其最上。諸比丘！如是，諸善法皆以不放逸為根本，等趣於不放逸，即說不放逸為其諸法之最上。」

三

諸比丘！於不放逸之比丘，期望修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！不放逸之比丘，云何修習八支聖道？多修八支

聖道耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪，依滅盡，修習迴向於捨正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。

五

諸比丘！如是不放逸之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道。」

更應廣說三經。

二 貪欲之調伏

※四

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲之調伏，為究盡瞋恚之調伏，為究盡愚癡之調伏，以修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕為究盡貪欲之調伏，為究盡瞋恚之調伏，為究盡愚癡之調伏，以修習正定……乃至……

三 不死（究竟）

※四

諸比丘！於此有比丘，為究竟不死，趣向不死，究盡不死以修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正

精進……正念……〕為究竟不死，趣向不死，究盡不死以修習
正定……乃至……

四 涅槃（趣向）

※四

諸比丘！於此有比丘，為趣向涅槃，傾向涅槃，臨入涅槃
以修習正見。〔…正思惟……正語……正業……正命……正精
進……正念……〕為趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃，以修習
正定……乃至……

〔一四〇〕第二 足跡（一～四）

一

舍衛城……

二

「諸比丘！譬如諸步行有情之足跡，皆入於象之足跡，因
而說象之足跡為最上、最大。諸比丘！如是諸善法，皆以不放
逸為根本，等趣於不放逸，即說不放逸為諸法之最上。」

三

諸比丘！於不放逸之比丘，期望修習八支聖道，多修八支
聖道，……乃至……」

〔一四一〕第三 屋頂（一～四）

一

舍衛城……

二

諸比丘！譬如重閣之諸重簷，向於屋頂，趣於屋頂，集於屋頂，以說屋頂為其最上。諸比丘，如是……乃至……

廣說應如上之經。

〔一四二〕第四 根〔香〕（一～四）

※二

諸比丘！譬如諸根香中，以說隨時檀為其最上。諸比丘！如是……乃至……

〔一四三〕第五 核（香）（一～四）

※三

諸比丘！譬如諸核香中，以說赤檀為其最上。諸比丘！如是……乃至……

〔一四四〕第六 夏生花（一～四）

※三

諸比丘，譬如諸華香中，以說夏生花為其最上。諸比丘！如是……乃至……

〔一四五〕第七 王（一～四）

※三

諸比丘！譬如諸小王，皆隨屬於轉輪王，以說轉輪王為其最上。諸比丘！如是……乃至……

〔一四六〕第八 月（一～四）

※三

諸比丘，譬如諸星之光明，皆不及月光之十六分之一，而以月光說為其最上。諸比丘！如是……乃至……

〔一四七〕第九 日（一～四）

※二

諸比丘！譬如秋時，天空豁然無雲，日昇於蒼天，以除一切虛空之闇冥，輝熱徧照。諸比丘！如是……乃至……

〔一四八〕第十 衣（一～四）

※二

「諸比丘！譬如諸絲織之衣中，以說迦尸衣為其最上。諸比丘！如是諸善法，皆以不放逸為根本，等趣於不放逸，以說不放逸為諸法之最上。」

三

諸比丘！於不放逸之比丘，期望修習八支聖道，多修八支道。諸比丘！不放逸之比丘，云何修習八支聖道？多修八支聖道耶？

四

諸比丘！此處有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。

五

諸比丘，如是不放逸之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道。」

第五 不放逸品 (終)

此品之攝頌曰：

如來與足跡
屋頂與根核
夏生花王月
日衣等十句
如來〔之章〕應廣說

第六 力所作品

一

舍衛城因緣。

〔一四九〕第一 力

※二

「諸比丘！譬如以諸力作所作之事業，皆是依於地、立於地，以如是力作所作之事業。諸比丘！如是比丘，依於戒、立

於戒、修習八支聖道，多修八支聖道。諸比丘！比丘云何依於戒、立於戒以修習八支聖道？多修八支聖道耶？

三

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘，依於戒、起於戒以修習八支聖道，多修八支聖道。」

如前之廣說恆河之說，應如經圓滿而說。

〔一五〇〕第二 種子

※二

「諸比丘！譬如諸種子、草木之生長、增大、增長，皆依於地、立於地，生長、增大、增長。諸比丘！如是比丘，依於戒、立於戒，以修習八支聖道，多修八支聖道，則於諸法生長、增大、增長。諸比丘！比丘云何依於戒、立於戒以修習八支聖道？多修八支聖道者，則於諸法生長、增大、增長耶？

三

諸比丘！於此有比丘，依遠離、〔依離貪，依滅盡，迴向於捨修習〕正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘，依於戒、立於戒，以修習八支聖道，多修八支聖道者，即於諸法生長、增大、增長。」

〔一五一〕第三 龍

※二

「諸比丘！龍乃依雪山王，令身增大，得獲其力，其於彼處使身增大，得獲其力已，以入小池；入於小池已，以入大池；入於大池已，以入小河；入於小河已，以入大河；入於大河已，以入大海洋，於彼處身得廣大。」

三

諸比丘！如是比丘，依於戒、立於戒以修習八支聖道，多修八支聖道，則於諸法得廣大。諸比丘！比丘云何依於戒、立於戒以修習八支聖道？多修八支聖道，則於諸法得廣大耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離〔依離貪、依滅盡，迴向於捨修習〕正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘，依於戒、立於戒，以修習八支聖道多修八支聖道，而於諸法得廣大。」

〔一五二〕第四 樹

※二

「諸比丘！譬如有樹，向東、傾東、臨東，若將斷其根者，則傾倒何方耶？」

「大德！是其所向、所傾、所臨之方。」

三

「諸比丘！如是，比丘修習八支聖道，多修八支聖道者，則向於涅槃、傾於涅槃、臨於涅槃。諸比丘！云何比丘修習八支聖道，多修八支聖道，則向於涅槃、傾於涅槃、臨於涅槃耶？」

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離〔依離貪，依滅盡，迴向於捨修習〕正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道，則向於涅槃、傾於涅槃、臨於涅槃。」

〔一五三〕第五 瓶

※二

「諸比丘！譬如將瓶傾覆，則定傾出原有之水而不再還入。諸比丘！如是比丘，修習八支聖道，多修八支聖道，則定傾出原有惡不善法不再還入。諸比丘！云何比丘修習八支聖道，多修八支聖道，則定傾出原有之惡不善法不再還入耶？」

三

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道，則定吐出原有之惡不善法不再還入。」

〔一五四〕第六 芒

※二

「諸比丘！譬如稻之芒，或麥之芒，以手足觸踏其正向，則破手足而出血者，有其是處。何以故？諸比丘！芒之正向故。

三

諸比丘！如是彼比丘，正向於見，正向於道之修習，以滅無明生明，現證涅槃者，有其是處。何以故？諸比丘！為見之正向故。諸比丘！云何比丘，以見之正向，正向於道之修習，以破無明而生明，現證涅槃耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘，以見之正向，正向於道之修習，破無明生明，現證涅槃。」

〔一五五〕第七 虛空

※二

「諸比丘！譬如空中吹種種風，吹東風、吹西風、吹北風、吹南風、吹塵風、吹無塵風、吹涼風、吹熱風、吹小風、吹大風。

三

諸比丘！如是比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，則圓滿修習四念處，〔圓滿修習〕四正勤，〔圓滿修習〕四神足，〔圓滿修習〕五根，〔圓滿修習〕五力，〔圓滿修習〕七覺支。諸比丘！云何比丘修習八支聖道，多修八支聖道者，則圓滿修習四念處，〔圓滿修習〕四正勤，〔圓滿修習〕四神足，〔圓滿修習〕五根，〔圓滿修習〕五力，〔圓滿修習〕七覺支耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘修習八支聖道，多修八支聖道者，則圓滿修習四念處，〔圓滿修習〕四正勤，〔圓滿修習〕四神足，〔圓滿修習〕五根，〔圓滿修習〕五力，圓滿修習七覺支。」

〔一五六〕第八 雲（一）

※二

「諸比丘！譬如於暑季之最終月起塵芥，有大非時雲，忽起令隱沒寂滅。諸比丘！如是比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，則忽然隨生令惡不善法隱沒寂滅。諸比丘！云何比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，則忽然隨生令惡不善法隱沒寂滅耶？

三

諸比丘！此處有比丘，〔依遠離、依離貪，依滅盡，迴向於捨〕修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道，則忽然隨生令惡不善法隱沒寂滅。」

〔一五七〕第九 雲（二）

※二

「諸比丘！譬如生大雲，遂即令大風隱沒寂滅。諸比丘！如是之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，則隨生令惡不善法隱沒寂滅。諸比丘！云何比丘，修習八支聖道，多修八支聖道，則隨生令惡不善法隱沒寂滅耶？」

三

諸比丘！於此有比丘〔依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨〕正見修習。〔正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者則隨生令惡不善法隱沒寂滅。」

〔一五八〕第十 船舶

※二

「諸比丘！譬如海上之船舶，以籐綴拴縛，六月於水上漂流，冬則漂著陸地，綴縛，曝於風日，彼〔綴縛〕霑漬雨雲，容易損耗腐敗。諸比丘！如是之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，則諸結容易損耗腐敗。諸比丘！云何比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，則諸結易於損耗腐敗耶？」

三

諸比丘！此處有比丘，依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，則易損耗腐敗諸結。」

〔一五九〕第十一 客

※二

「諸比丘！譬如有客舍，於此，有由東方來住，有由西方來住，有由北方來住，有由南方來住，有剎帝利來住，有婆羅門來住，有毘舍來住，有首陀來住。諸比丘！如是之比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，證知應徧知之法，以證知而徧知，證知應斷之法，以證知而斷除。證知應現證之法，證知而現證。證知應修習之法，證知而修習。」

三

諸比丘！以何為證知而應徧知之法耶？應說五取蘊。以何為五耶？謂：色取蘊，〔受取蘊，想取蘊，行取蘊，〕識取蘊是。諸比丘！此為證知而應徧知之法。

四

諸比丘！何為證知而應斷之法耶？無明與有愛是。諸比丘！此為證知而應斷之法。

五

諸比丘！以何為證知而應現證之法耶？明與解脫是。諸比丘！此為證知而應現證之法。

六

諸比丘！以何為證知而應修習之法耶？寂止與正觀是。諸比丘！此為證知而應修習之法。

七

諸比丘！云何比丘，修習八支聖道，多修八支聖道者，則證知應徧知之法，以證知而徧知法，〔證知應斷之法，證知而斷。證知應現證之法，證知而現證。〕證知修習之法，證知而修習耶？

八

諸比丘！於此有比丘，〔依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨〕以修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是比丘，修習八支聖道，多修八支聖道，則證知應徧知之法，證知而徧知。證知應斷之法，證知而斷除。證知應現證之法，證知而現證。證知應修習之法，證知而修習。」

〔一六〇〕第十二 河

※二

「諸比丘！譬如恆河，趣向於東，傾向於東，臨入於東，時有眾人持鋤與籠來，謂：『我等將令此恆河趣向於西，傾向

於西，臨入於西。』諸比丘！汝等於意云何？彼眾人得將恆河趣向於西，傾向於西，臨入於西否？」

「大德！不也。」

「何以故耶？」

「大德！恆河乃趣向於東，傾向於東，臨入於東，將令此趣向於西，傾向於西，臨入於西者，實為不易，彼眾人徒蒙困苦損惱。」

三

「諸比丘！如是比丘，修習八支聖道，多修八支聖道，王、王臣、友、朋、親戚、親族，伴財物而去，並言：『汝云何？以煩此袈裟衣耶？云何剃髮攜隨、往來耶？何不還俗而受用財物，作福業。』諸比丘！彼比丘修習八支聖道，多修八支聖道者，棄學以還俗無此理。何以故？諸比丘！其心若長夜趣向遠離，傾向遠離，臨入遠離，則無向下之理。諸比丘！云何比丘，修習八支聖道，多修八支聖道耶？」

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！如是比丘，修習八支聖道，多修八支聖道……」力所作亦應廣說。

第六 力所作品
(終)

攝頌曰：

力及種子龍
樹瓶以及芒
虛空及二雲
船舶與客河

第七 尋覓品

一

舍衛城因緣。

〔一六一〕第一 尋覓

（第一 證知）

※二

「諸比丘！有三種尋覓。以何為三耶？欲尋，有尋，梵行尋是。諸比丘！此為三種尋覓。

諸比丘！為證知此三尋覓，應修習八支聖道。何為八支聖道耶？

三

諸比丘！於此有比丘，依遠離，〔依離貪，依滅盡，迴向於捨〕以修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨修習正定。諸比丘！為證知此三尋覓，應修習八支聖道。

四～五

……〔調伏究盡〕貪欲、〔調伏究盡〕瞋恚，〔調伏究盡〕愚癡以修習正定。〔諸比丘！為證知此三尋覓，應修習此八支聖道。〕

六～七

……為究竟不死，趣向不死，究盡不死以修習正定。〔諸比丘！為證知此三尋覓，應修習此八支聖道。〕

八～九

……為趣向涅槃，傾向涅槃，臨入涅槃以修習正定。〔諸比丘！為證知此三尋覓，應修習此八支聖道。〕」

（第二 徧知）

一〇～一七

諸比丘！有三種尋覓。以何為三？欲尋，有尋，梵行尋是。諸比丘！以此為三種尋覓。

諸比丘！為徧知此三尋覓……乃至……應修習此八支聖道。

如證知亦應徧知廣說。

（第三 徧盡）

一八～二五

諸比丘！有三種尋覓。以何為三耶？欲尋，有尋，梵行尋也。諸比丘！以此為三尋覓也。

諸比丘！為徧盡此三尋覓……乃至……應修習此八支聖道。

如證知亦應徧盡廣說之。

（第四 斷）

二六～三三

諸比丘！有三種尋覓。以何為三耶？欲尋，有尋，梵行尋是。諸比丘！以此為三種尋覓也。

諸比丘！為斷此三尋覓……乃至……應修習此八支聖道。

如證知亦應徧知斷。

〔一六二〕第二 次第（慢）（一～四）

※二～三三

「諸比丘！有三種次第（慢）。以何為三耶？謂：『我是勝』、『我是等』、『我是劣』是。諸比丘！此為三種之次第（慢）。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種之次第（慢），應修習八支聖道。何為八支聖道耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，修習迴向於捨正定。諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種之次第（慢），應修此八支聖道。」

〔一六三〕第三 漏（一～四）

※二～三三

諸比丘！有三種漏。以何為三耶？欲漏、有漏、無明漏是。諸比丘！以此為三種漏。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種漏……乃至……應修習此八支聖道。

〔一六四〕第四 有（一～四）

※二～三三

諸比丘！有三種有。以何為三耶？欲有、色有、無色有是。諸比丘！以此為三種有。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種有……乃至……應修習此八支聖道。

〔一六五〕第五 苦（一～四）

※二～三三

諸比丘！有三種苦，以何為三耶？苦苦、行苦、壞苦是。諸比丘！以此為三種苦。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種苦……乃至……應修習此八支聖道。

〔一六六〕第六 礙（一～四）

※二～三三

諸比丘！有三種礙。以何為三耶？貪礙、瞋礙、癡礙是。
諸比丘！以此為三種礙。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種礙……乃至……應修習此八支聖道。

〔一六七〕第七 垢（一～四）

※二～三三

諸比丘！有三種垢。以何為三耶？乃貪垢、瞋垢、癡垢是。諸比丘！以此為三種垢。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種垢……乃至……應修習此八支聖道。

〔一六八〕第八 搖（一～四）

※二～三三

諸比丘！有三種搖。以何為三耶？乃貪搖、瞋搖、癡搖是。諸比丘！以此為三種搖也。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種搖……乃至……應修習此八支聖道。

〔一六九〕第九 受（一～四）

一

舍衛城……

二～三三

諸比丘！有三種受。以何為三耶？乃樂受、苦受、不苦不樂受是。諸比丘！以此為三種受。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種受……乃至……應修習此八支聖道。

〔一七〇〕第十 渴愛（一～四）

一

舍衛城……

二～三三

諸比丘！有三種渴愛。以何為三耶？乃欲愛、有愛、非有愛是。諸比丘！以此為三種渴愛。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種渴愛，應修習此八支聖道。何為八支聖道耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨修習正定。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種渴愛，應修習此八支聖道。

※〔一七〇〕第十一 渴愛（一～四）

※四～三三

諸比丘！有三種渴愛……乃至……諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種渴愛……為調伏究盡貪欲，調伏究盡瞋恚，調伏究盡愚癡以修習正定……乃至……究竟不死、趣向不死、究盡不死、以修習正定……乃至……為趣向涅槃，傾向涅槃，臨入涅槃，以修習正定。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此三種渴愛，應修習此八支聖道。

第七 尋覓品 (終)

此品攝頌曰：

尋覓次第漏
有苦以及礙
垢搖乃至受
並與二渴愛

第八 瀑流品

一

舍衛城因緣。

〔一七一〕第一 瀑流

※二

諸比丘！有四種瀑流。以何為四耶？欲流，有流，見流，無明流是。諸比丘！以此為四種瀑流。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此四種瀑流……乃至……應修習此八支聖道。

三～三三

應如尋覓之廣說。

〔一七二〕第二 輓

※二～三三

諸比丘！有四種輓。以何為四耶？欲輓，有輓，見輓，無明輓是。諸比丘！以此為四種輓。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此四種輓……乃至……應修習此八支聖道。

〔一七三〕第三 取

※二～三三

諸比丘！有四種取。以何為四耶？欲取，見取，戒禁取，我語取是。諸比丘！此為四種取。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此四種取……乃至……應修習此八支聖道。

〔一七四〕第四 繫

※二～三三

諸比丘！有四種繫。以何為四耶？貪是身繫，瞋是身繫，戒禁取是身繫，此實執是身繫。諸比丘！此為四種身繫。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此四種身繫之……乃至……應修習此八支聖道。

〔一七五〕第五 隨眠

※二～三三

諸比丘！有七種隨眠。以何為七耶？欲貪隨眠，瞋隨眠，見隨眠，疑隨眠，慢隨眠，有貪隨眠，無明隨眠是。諸比丘！以此為七種隨眠。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此七種隨眠……乃至……應修習此八支聖道。

〔一七六〕六 妙欲

※二～三三

諸比丘！有五種妙欲。以何為五耶？眼所識之色，可樂、可愛、可意、引欲、可染；耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之所觸，可樂、可愛、可意、引欲、可染。諸比丘！此為五種妙欲。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五種妙欲……乃至……應修習八支聖道。

〔一七七〕第七 蓋

※二～三三

諸比丘！有五種蓋，以何為五耶？欲貪蓋、瞋恚蓋、昏眠蓋、掉悔蓋、疑惑蓋。諸比丘！以此為五種蓋。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五種蓋……乃至……應修習此八支聖道。

〔一七八〕第八 蘊

※二～三三

諸比丘！有五種取蘊。以何為五耶？色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊是。諸比丘！以此為五種取蘊。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五種取蘊……乃至……應修習此八支聖道。

〔一七九〕第九 下分（結）

※二～三三

諸比丘！有五種下分結。以何為五耶？有身見、疑惑、戒禁取、欲貪、瞋恚是。諸比丘！以此為五種下分結也。

諸比丘、為證知……徧知……徧盡……斷此五種下分結……乃至……應修習此八支聖道。

〔一八〇〕第十 上分（結）

※二

「諸比丘！有五種上分結。以何為五耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五種上分結。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五種上分結，應修習八支聖道。何為八支聖道耶？

三～一七

諸比丘！於此有比丘，依遠離、〔依離貪、依滅盡迴向於捨〕以修習正見。〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨以修習正定。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五種上分結，應修習此八支聖道。

諸比丘！譬如恆河……乃至……

一八

諸比丘！有五種上分結。以何為五耶？色貪、無色貪、慢、悼舉、無明是。諸比丘！此為五種上分結。

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五種上分結，應修習此八支聖道。何為八支聖道耶？

一九～三三

諸比丘！於此有比丘，調伏究盡欲貪，調伏究盡瞋恚，調伏究盡愚癡……究竟不死、趣向不死、究盡不死……以趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃以修習正見〔……正思惟……正語……正業……正命……正精進……正念……正定〕。諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五種上分結，應修習此八支聖道。」

第八 瀑流品
(終)

此品之攝頌曰：

瀑流與輓取

繫乃至隨眠
妙欲以及蓋
蘊為上下分

第一 道相應
(終)

第二 覺支相應

第一 山品

〔一〕第一 雪山

一～二

舍衛城……予說示。

三

「諸比丘！象依雪山使其身增大，獲得其力；於彼處使身增大，以獲得其力已，入於小池，入小池已，入大池，入大池已，入小河，入小河已，入大河，入大河已，入大海洋，於彼處其身得廣大。

四

諸比丘！如是比丘，依於戒而立於戒，以修習七覺支，多修七覺支者，則於諸法得廣大。

諸比丘！比丘云何依於戒而立於戒，以修習七覺支，多修七覺支者，則於諸法得廣大耶？

五

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨以修習念覺支……修習擇法覺支……修習精進覺支……修習喜覺支……修習輕安覺支……修習定覺支。依遠離，依離貪，依滅盡，迴向於捨以修習捨覺支。

六

諸比丘！如是比丘，依於戒而立於戒，以修習七覺支，多習七覺支者，則於諸法得廣大。」

〔二〕第二 身

一～二

舍衛城……

一

※三

「諸比丘！譬如此身依食而住，緣食而住，於不食則不住。諸比丘！如是五蓋依食而住，緣食而住，於不食則不住。」

四

諸比丘！云何為食可使未生之欲貪生起，已生之欲貪倍增、增大之耶？諸比丘！是有淨相，此之非如理作意多修，為食而使未生之欲貪生起，已生之欲貪倍增、增大。

五

諸比丘！云何為食可使未生之瞋恚生起，已生之瞋恚倍增、增大耶？諸比丘！是有瞋相，此之非如理作意多修，為食而使未生之瞋恚生起，已生之瞋恚倍增、增大。

六

諸比丘！云何為食而使未生之惛眠生起，已生之惛眠倍增、增大耶？諸比丘！有不欣喜、倦怠、鬱悶、飽食、心退縮，此之非如理作意多修，為食而使未生之惛眠生起，已生之惛眠倍增、增大。

七

諸比丘！云何為食可使未生之掉悔生起，已生之掉悔倍增、增大耶？諸比丘！有心之非寂止，此之非如理作意多修，為食可使未生之掉悔生起，已生之掉悔倍增、增大。

八

諸比丘！云何為食可使未生之疑惑生起，已生之疑惑倍增、增大耶？諸比丘！有疑惑處之法，此之非如理作意多修，為食可使未生之疑惑生起，已生之疑惑倍增、增大。

九

諸比丘！譬如此身依食而住，緣食而住，於不食則不住。諸比丘！如是此五蓋是依食而住，緣食而住，於不食則不住。」

二

一〇

「諸比丘！譬如此身依食而住，緣食而住，於不食則不住。諸比丘！如是七覺支是依食而住、緣食而住、於不食不住。

一一

諸比丘！云何為食可使未生之念覺支生起，已生之念覺支得圓滿修習耶？諸比丘！有念覺支處之法。此之如理作意多修，為食而使未生之念覺支生起，已生之念覺支得修習圓滿。

一二

諸比丘！云何為食可使未生之擇法覺支生起，已生之擇法覺支得修習圓滿耶？諸比丘！有善不善法、有呵責無呵責法、劣勝法、黑白俱分法。此之如理作意多修，為食可使未生之擇法覺支生起，已生之擇法覺支得修習圓滿。

一三

諸比丘！云何為食可使未生之精進覺支生起，已生之精進覺支得修習圓滿耶？諸比丘！有發勤界，精勤界，勤勇界。此之如理作意多修，為食可使未生之精進覺支生起，已生之精進覺支得修習圓滿。

一四

諸比丘！云何為食可使未生之喜覺支生起，已生之喜覺支得修習圓滿之耶？諸比丘！有喜覺支處之法。此之如理作意多修，為食可使未生之喜覺支生起，已生之喜覺支得修習圓滿。

一五

諸比丘！云何為食可使未生之輕安覺支生起，已生之輕安覺支得修習圓滿耶？諸比丘！有身輕安、心輕安。此之如理作意多修，為食可使未生之輕安覺支生起，已生之輕安覺支得修習圓滿。

一六

諸比丘！云何為食可使未生之定覺支生起，已生之定覺支得修習圓滿耶？諸比丘！有寂止相、不亂相。此之如理作意多修，為食可使未生之定覺支生起，已生之定覺支得修習圓滿。

一七

諸比丘！云何為食可使未生之捨覺支生起，已生之捨覺支得修習圓滿耶？諸比丘！有捨覺支處之法。此之如理作意多修，為食可使未生之捨覺支生起，已生之捨覺支得修習圓滿也。

一八

諸比丘！譬如此身依食而住，緣食而住，於不食則不住。諸比丘！如是此七覺支是依食而住，緣食而住，於不食則不住。」

〔三〕第三 戒

※二

「諸比丘！諸比丘若戒具足、定具足、慧具足、解脫具足、解脫智見具足者，諸比丘！則稱其比丘之見為多所作。

三

……諸比丘！說其比丘之聽聞為多所作……諸比丘！說其比丘之詣至為多所作……諸比丘！說其比丘之承事為多所作……諸比丘！說其比丘之隨念為多所作……諸比丘！說其比丘之出家為多所作。

四

何以故耶？諸比丘！如是之比丘聽法已，依身遠離與心遠離之二種遠離，而住於遠離，如是遠離而住隨念，隨尋彼法。

五

諸比丘！比丘如是遠離而住於隨念，隨尋彼法時，彼比丘生念覺支。比丘修習念覺支時，於比丘念覺支修習圓滿，如是正念而住，以慧決擇、伺察、觀察彼法。

六

諸比丘！比丘如是正念而住，以慧決擇、伺察、觀察彼法時，彼比丘發生擇法覺支。比丘修習擇法覺支時，於比丘擇法覺支修習圓滿，以慧決擇，伺察、觀察彼法，則生不退之精進。

七

諸比丘！比丘以慧決擇、伺察、觀察彼法，不退精進時，彼比丘發生精進覺支。比丘修習精進覺支時，於比丘精進覺支修習圓滿，若發精進者，則得離財之喜。

八

諸比丘！發精進、得離財之喜時，彼比丘發喜覺支。比丘修習喜覺支時，於比丘喜覺支修習圓滿，達意喜者，則得身輕安、心輕安。

九

諸比丘！比丘意喜而身輕安、心輕安時，於比丘發輕安覺支。比丘修習輕安覺支時，於比丘輕安覺支修習圓滿，身輕安

者，則得樂，得樂者，則得心定。

一〇

諸比丘！比丘身輕安而得樂、得心定時，諸比丘！比丘發定覺支。比丘修習定覺支時，於比丘定覺支修習圓滿，如是得心定，為善觀察者。

一一

諸比丘！比丘如是得心定，為善觀察者時，比丘發捨覺支。比丘修習捨覺支時，於比丘捨覺支修習圓滿。

一二

諸比丘！如是修習七覺支，如是多修者，則可期有七果、七功德。何為七果、七功德耶？

一三

（1 ）於現法已得開悟。（2 ）若於現法中，未得開悟者，則於命終時亦得開悟。

一四

（3 ）若於現法未得開悟，命終時亦未得開悟者，則依終盡五下分結得中般涅槃。

一五

（4 ）若於現法未得開悟，命終時亦未得開悟，依終盡五下分結盡未得中般涅槃者，則依終盡五下分結，以得生般涅槃。

一六

（5）若於現法未得開悟，命終時亦未得開悟，依終盡五下分結未得中般涅槃，依終盡五下分結，未得生般涅槃者，則依終盡五下分結，而得無行般涅槃。

一七

（6）若於現法未得開悟，於命終時未得開悟，依終盡五下分結未得中般涅槃，依終盡五下分結，未得生般涅槃，依終盡五下分結未得無行般涅槃者，則依終盡五下分結，得有行般涅槃。

一八

（7）若於現法未得開悟，命終時未得開悟，依終盡五下分結，未得中般涅槃，依終盡五下分結，未得生般涅槃，依終盡五下分結，未得無行般涅槃，依終盡五下分結，未得有行般涅槃者，則依終盡五下分結，為上流以至於色究竟天。

一九

諸比丘！如是修習，如是多修七覺支，則可期得此七果、七功德。」

〔四〕第四 轉

一

一時，具壽舍利弗住舍衛城，祇樹林給孤獨園。

二

於此處，具壽舍利弗告諸比丘曰：

「友等，諸比丘！」

「友！」

彼等諸比丘應諾具壽舍利弗。

具壽舍利弗曰：

三

「友等！有七種覺支。以何為七耶？念覺支、擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、捨覺支。友等！此為七覺支。

四

友等！此七覺支中，我於晨早欲住（任一）覺支時，則住（任一）覺支；於日中欲住（任一）覺支時，則住（任一）覺支；於日暮欲住（任一）覺支時，則住（任一）覺支。

五

友等！若是念覺支者，則我知『（此念覺支決定升起）』，知『是善升起』，知住為『已住』；若沒者，則知『依此緣而沒。』

六～一〇

……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……

一一

友等！若是捨覺支者，則我知『（此捨覺支）決定升起』，知『是善升起』，知住為『已住』；若沒者，則知『依此緣而沒。』

一二

友等！譬如王或王臣，有裝滿種種染色衣於衣篋。彼於晨早欲著時，則（隨其所欲）著晨早時所欲之衣服；於日中欲著時，即著日中時所欲之衣服；於日暮欲著時，即著日暮時所欲之衣服。

一三

友等！如是於此七覺支中，我於晨早欲住覺支時，即住用晨早時所欲之覺支；於日中欲住覺支時，即住日中時所欲之覺支；於日暮欲住覺支時，即住用日暮時所欲之覺支。

一四

友等！若是念覺支者，則我知『決定升起』，知『是善升起』，知住為『已住』；若沒者，則知『依此緣而沒。』

一五～一九

……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……

二〇

友等！若是捨覺支者，則我知『決定升起』，知『是善升起』，知住為『已住』；若沒者，則知『依此緣而沒。』」

〔五〕第五 比丘

※二

時，有一比丘來詣世尊住處，詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之彼比丘白世尊曰：

「大德！覺支，所云覺支者，大德！云何說為覺支耶？」

「比丘！資於覺故，說為覺支。」

三

比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨以修習念覺支……擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨以修習捨覺支。

四

比丘！若修習此七覺支者，則由欲漏心解脫，由有漏心解脫，由無明漏心解脫。解脫者，則『我解脫』智生，了知生已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。

五

比丘！資於覺故，說為覺支。」

〔六〕第六 毘達利

一

一時，世尊住沙祇城之安闍那鹿苑。

二

時，修行者毘達利耶來詣世尊住處。詣已，與世尊相交談慶慰、歡喜、感銘之語話，而坐於一面。坐於一面之修行者毘達利耶，白世尊曰：

三

「尊瞿曇！我住園而與眾會交往。尊瞿曇！我食朝食，食後如是周行，由園至園，由遊園至遊園，經行歷訪於彼處，一類之沙門、婆羅門，出論種種功德，見他方以論議詰難功德。尊瞿曇是住何功德耶？」

「毘達利耶！如來乃住於『明解脫』果之功德。」

四

「尊瞿曇！修習、多習何法者，則得明解脫圓滿耶？」

「毘達利耶！修習、多習七覺支者，則得明解脫圓滿。」

五

「尊瞿曇！修習、多習何法者，則得七覺支圓滿耶？」

「毘達利耶！修習、多習四念處者，則得七覺支圓滿。」

六

「尊瞿曇！修習、多習何法者，則得四念處圓滿耶？」

「毘達利耶！修習、多習三善業者，則得四念處圓滿。」

七

「尊瞿曇！修習、多習何法者，則得三善業圓滿耶？」

「昆達利耶！修習、多修根律儀者，則得三善業圓滿。」

「昆達利耶！云何對根律儀修習、多習者，則得三善法圓滿耶？」

八

昆達利耶！於此有比丘，以眼見可意之色，而不貪著、不歡喜、不起貪欲，其身住、心住，於內善安住、善解脫。以眼見非可意之色，而無動搖、不安心、破壞心、憎惡心，其身住、心住，於內善安住、善解脫。

九～一二

昆達利耶！又比丘以耳聞可意之聲……乃至……以鼻息〔可意〕之香……乃至……以舌嚐〔可意〕之味……乃至以身觸可意之所觸……乃至……

一三

以意識可意之法，而不貪著、不歡喜、不起貪欲，其身住、心住，於內善安住、善解脫。以意識非可意之法，而無動搖、不安心、破壞心、憎惡心，其身住、心住，於內善安住、善解脫。

一四

昆達利耶！比丘以眼見色，對可意非可意之色，其身住、心住，於內善安住、善解脫。以耳聞聲……乃至……以鼻嗅香……乃至……以舌嚐味……乃至……以身觸所觸……乃

至……以意識法，對可意非可意之法，其身住、心住，於內善安住、善解脫。昆達利耶！對根律儀如是修習、如是多修者，則圓滿三善業。

一五

昆達利耶！云何修習、云何多修三善業者，則得四念處圓滿耶？

昆達利耶！於此有比丘，斷身惡業、修習身善業，斷語惡業、修習語善業，斷意惡業、修行意善業。

昆達利耶！如是修習、如是多修三善業者，得圓滿四念處。

一六

昆達利耶！云何修習、云何多修四念處，得圓滿七覺支耶？

昆達利耶！於此有比丘，於身觀身而住，以熱誠、正念、正知，而調伏世間之貪憂。於受……乃至……於心……乃至……於法觀法而住，以熱誠、正念、正知，而調伏世間之貪憂。

昆達利耶！如是修習、如是多修四念處者，則圓滿七覺支。

一七

昆達利耶！云何修習、多修七覺支者，則圓滿明解脫耶？

昆達利耶！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

昆達利耶！如是修習、如是多修七覺支者，則圓滿明解脫。」

一八

如是說已，修行者昆達利耶，白世尊曰：

「妙哉！尊瞿曇！妙哉！尊瞿曇！譬如將倒者扶起，將覆者揭露，如迷者教之以道，於暗中舉燈火，使有眼者可見色。尊瞿曇如是以種種方便顯示法，我於此自今日起至於命終，歸依尊瞿曇與法及比丘眾，請尊瞿曇容我為優婆塞。」

〔七〕第七 屋頂

※三

「諸比丘！譬如重閣之諸重簷，皆趣向於屋頂、傾向於屋頂、臨入於屋頂，諸比丘！如是比丘，修習七覺支，多修七覺支者，則趣向於涅槃、傾向於涅槃、臨入於涅槃。」

四

諸比丘！比丘云何修習七覺支，多修七覺支者，則趣向於涅槃、傾向於涅槃、臨入涅槃耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支輕

安覺支定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨以修習捨覺支。

諸比丘！比丘如是修習七覺支、多修七覺支者，則趣向於涅槃、傾向於涅槃、臨入涅槃。」

〔八〕第八 優波摩

一

一時，具壽優婆摩與具壽舍利弗，住於憍賞彌瞿師羅園。

二

時，具壽舍利弗於日暮時分，由宴默起，至具壽優波摩住處。至已，與具壽優波摩相交談慶慰、歡喜、感銘之言後，坐於一面。坐於一面之具壽舍利弗，言於具壽優波摩曰：

三

「友優波摩！比丘應知『於內如理作意，如是善升起七覺支者，則資於樂住』耶？」

四

「友舍利弗！比丘應知『於內如理作意，如是善升起此七覺支，以資於樂住。』友！比丘若發念覺支，則知：『我心善解脫、我善永斷惛眠、我善調伏掉悔，我發精進、希求、作意、不退縮』……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……友！比丘若發捨覺支者，則知：『我心善解脫、我善永斷惛眠、我善調伏掉悔，我發精進、希求、作意、不退縮。』」

友舍利弗！比丘應如是知：『於內如理作意，如是善造作此七覺支，則資於樂住。』」

〔九〕第九 生（一）

※二

「諸比丘！若修習、多修七覺支者，則未生亦生起，但除如來、應供、正等覺者之不出現。以何為七耶？」

三

念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支也。諸比丘！修習多修此七覺支者，則未生亦生起，但除如來、應供、正等覺者之不出現。」

〔一〇〕第十 生（二）

※二

「諸比丘！若修習、多修七覺支者，則未生亦生起，但除善逝之不調伏。以何為七耶？」

三

念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。諸比丘！對此修習、多修七覺支者，則未生亦生起，但除如來、應供、正等覺者之不出現。」

第一 山品
（終）

此品之攝頌曰：

雪山身戒轉
比丘毘達利
屋頂優波摩
更於二之生

第二 病品

〔一一〕第一 生類

※二

「諸比丘！譬如諸生類作四種之威儀路：時行、時住、時坐、時臥，皆依於地、立於地，作如是此四種之威儀。諸比丘！如是比丘乃依於戒、立於戒，以修習、多修七覺支。

三

諸比丘！比丘云何依於戒、立於戒，以修習七覺支、多修七覺支耶？

諸比丘！此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

諸比丘！比丘如是依於戒、立於戒，以修習七覺支、多修七覺支。」

〔一二〕第二 日輪喻（一）

※二

「諸比丘！日輪上昇時之先驅、前相者，即是明相出。諸比丘！如是比丘生起七覺支時之先驅、前相者，為有善友。

諸比丘！有善友之比丘，以期修習七覺支、多修七覺支。

三

諸比丘！有善友之比丘，云何修習七覺支、多修七覺支耶？

諸比丘！此處有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

諸比丘！比丘如有善友之比丘，修習七覺支、多修七覺支。」

〔一三〕第三 日輪喻（二）

※二

「諸比丘！日輪上昇時之先驅、前相者，即是明相出。諸比丘！如是比丘，生起七覺支時之先驅、前相者，為如理作意。

諸比丘！於如理作意具足之比丘，以期修習七覺支、多修七覺支。

三

諸比丘！如理作意具足之比丘，云何修習七覺支、多修七覺支耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺

支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

諸比丘！如是如理作意具足之比丘，修習七覺支、多修七覺支。」

〔一四〕第四 病（一）

一

如是我聞。一時，世尊住王舍城之竹林迦蘭陀迦園。

二

其時，具壽摩訶迦葉住畢鉢羅窟，為患重疾病而困苦。

三

時，世尊於日暮時分，由宴默起，至具壽摩訶迦葉住處。至已，坐於所設之座。

四

坐已，世尊言於具壽摩訶迦葉曰：

「迦葉！能忍否？充足否？苦之受損而不增，知損失，不知增長否？」

「大德！難忍，不足，激苦之受有增無損，知增長，不知損失。」

五

「迦葉！若修習、多修我所正說之七覺支，則可資助證知、等覺、涅槃。以何為七耶？迦葉！若修習、多修我所正說之念覺支，則可資助證知、等覺、涅槃……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……迦葉！若修習、多修我所正說之捨覺支，則資助證知、等覺、涅槃。」

「世尊！實覺支哉！善逝！實覺支哉！」

六

世尊，如是說示已，具壽摩訶迦葉喜悅、歡喜於世尊之所說，具壽摩訶迦葉病癒，如是具壽摩訶迦葉之病斷。

〔一五〕第五 病（二）

一

爾時，世尊住王舍城竹林迦蘭陀迦園。

二

其時，具壽摩訶目犍連住耆闍崛山為患重疾病而困苦。

三～五

時，世尊於日暮時分，由宴默起……乃至……如是具壽摩訶目犍連之病斷。

〔一六〕第六 病（三）

一

爾時，世尊住王舍城之竹林迦蘭陀迦園。

二

其時，世尊為患重疾病而困苦。

三

時，具壽摩訶均頭詣世尊住處。詣已，禮敬世尊後，坐於一面。

四

坐於一面之時，世尊言於具壽摩訶均頭曰：

「均頭！說於覺支。」

五

「大德！修習、多修世尊所正說之七覺支、則資助於證知、等覺、涅槃。以何為七耶？大德！修習、多修習世尊所正說之念覺支者，則資助於證知、等覺、涅槃……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……大德！修習、多修世尊所正說之捨覺支者，則資助於證知、等覺、涅槃。大德！修習、多修世尊所正說之此七覺支、則資助於證知、等覺、涅槃。」

「均頭！實覺支哉！均頭！實覺支哉！」

六

具壽摩訶均頭之如是說，師作認許。世尊病癒，如是世尊之病斷。

〔一七〕第七 到彼岸

※二

「諸比丘！修習、多修七覺支者，則資助於到彼岸。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支。諸比丘！修習、多修此七覺支、則資於到彼岸。」

三

〔世尊〕如是說已，如是說之善逝、師乃更說曰：

（一）「於人中〔到彼岸者少……乃至……有光輝之漏盡者〕於現世般涅槃。」

〔一八〕第八 失

※二

「諸比丘！若有失七覺支者，則失正順苦滅之聖道。諸比丘！若有發七覺支者，則發正順苦滅之聖道。以何為七耶？念覺支、擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、捨覺支。」

三

諸比丘！若有失此七覺支者，則失正順苦滅之聖道。諸比丘！若有發此七覺支者，則發正順苦滅之聖道。」

〔十九〕第九 聖

※二

「諸比丘！若修習、多修七覺支者，則為聖、出離，修此者，正達苦滅盡。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。諸比丘！若修習、多修此七覺支者，則正達苦滅盡。」

〔二〇〕第十 厭患

※二

「諸比丘！修習、多修七覺支者，則資於一向厭患、離貪、滅盡、寂止、證知、等覺、涅槃。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。諸比丘！若修習、多修此七覺支者，則資於一向厭患、離貪、滅盡、寂止、證知、等覺、涅槃。」

第二 病品 (終)

此品之攝頌曰：

生類日輪喻
乃至三種病
到彼岸及失
聖以與厭患

第三 優陀夷品

〔二一〕第一 覺

※二

時，有一比丘詣世尊住處。詣而〔禮敬世尊〕，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德！覺支，所謂覺支者，大德！云何說名為覺支耶？」

「比丘！資於覺，故名之為覺支。」

※三

比丘！於此有〔比丘，依遠離、依離貪、依滅盡、迴向於捨，〕修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

四

比丘！資於覺故，名之為覺支。」

〔二二〕第二 說

※二

「諸比丘！我為汝等說七覺支，且諦聽。」

諸比丘！以何為七覺支耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。諸比丘！此為七覺支。」

〔二三〕第三 處

※二

「諸比丘！若作意多修欲貪處之諸法者，則未生之欲貪生，已生之欲貪倍增、增大。

三

諸比丘！若作意多修瞋恚處之諸法，則未生之瞋恚生，已生之瞋恚倍增、增大。

四

諸比丘！若作意多修惛眠處之諸法者，則未生之惛眠生，已生之惛眠倍增、增大。

五

諸比丘！若作意多修掉悔處之諸法，則未生之掉悔生，已生之掉悔倍增、增大。

六

諸比丘！若作意多修疑惑處之諸法者，則未生之疑惑生，已生之疑惑倍增、增大。

七

諸比丘！若作意多修念覺支處之諸法者，則未生之念覺支生，已生之念覺支修習圓滿……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……

八

諸比丘！若作意多修捨覺支處之諸法者，則未生之捨覺支生，已生之捨覺支修習圓滿。」

〔二四〕第四 非如理

※二

「諸比丘！若非如理者作意，則未生之欲貪生，已生之欲貪倍增、增大。

三

未生之瞋恚生，已生之瞋恚倍增、增大。

四

未生之惛眠生，已生之惛眠倍增、增大。

五

未生之掉悔生，已生之掉悔倍增、增大。

六

未生之疑惑生，已生之疑惑倍增、增大。

七

未生之念覺支不生，已生之念覺支滅……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……未生之捨覺支不生，已生之捨覺支滅。

八

諸比丘！若如理作意者，則未生之欲貪不生，已生之欲貪斷。

九

未生之瞋恚不生，已生之瞋恚斷除。

一〇

未生之惛眠不生，已生之惛眠斷除。

一一

未生之掉悔不生，已生之掉悔斷除。

一二

未生之疑惑不生，已生之疑惑斷除。

一三

未生之念覺支生，已生之念覺支修習圓滿……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……未生之捨覺支生，已生之捨覺支修習圓滿。」

〔二五〕第五 不損

※二

「諸比丘！我為汝等說七不損法，且諦聽。

三

諸比丘！何為七不損法耶？謂七覺支是。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。諸比丘！此為七不損法。」

〔二六〕第六 盡

※二

「諸比丘！有道有跡，以資於渴愛之盡，以修習此道、此跡。

三

諸比丘！有何之道、有何之跡以資於渴愛之盡耶？謂七覺支是。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。」

四

如是說已，具壽優陀夷，白世尊曰：

「大德！云何修習七覺支、云何多修七覺支者，則資於渴愛之滅盡耶？」

五

「優陀夷！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習廣大無量無瞋之念覺支。彼依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習廣大無量無瞋之念覺支，則渴愛斷除。渴愛斷則業斷、業斷則苦斷。

六～一一

……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……

一二

依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習廣大無量無瞋之捨覺支。彼依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習廣大無量無瞋之捨覺支，則渴愛斷。渴愛斷，則業斷、業斷，則苦斷。

一三

優陀夷！如是乃由渴愛之盡，則業盡；由業盡，則苦盡。」

〔二七〕滅

※二

「諸比丘！有道、有跡，以資於渴愛之滅，以修習此道、此跡。

三

諸比丘！有何之道、有何之跡，以資於渴愛之滅耶？謂七覺支是。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。

四

諸比丘！云何修習、云何多修七覺支者，資於渴愛之滅耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

五

諸比丘！如是修習、如是多修七覺支者，則資於渴愛之滅。」

〔二八〕第八 決擇

※二

「諸比丘！我為汝等說決擇分之道，且諦聽。

三

諸比丘！何為決擇分之道耶？謂七覺支是。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。」

四

如是說已。具壽優陀夷，白世尊曰：

「大德！云何修習、多修七覺支者，則資於決擇耶？」

五

「優陀夷！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習廣大、無量無瞋之念覺支。彼於念覺支，以修習心於前之未決擇、於前未破裂之貪蘊以決擇而破裂之，於前未決擇、前未破裂之瞋蘊以決擇而破裂之，於前未決擇、前未破裂之癡蘊以決擇而破裂之……〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習廣大、無量、無瞋之捨覺支。彼於捨覺支，以修習心於前未決擇、前未破裂之貪蘊以決擇、而破裂之，於前未

決擇、前未破裂之瞋蘊以決擇，而破裂之，於前未決擇、前未破裂之癡蘊以決擇而破裂之。

六

優陀夷！如是修習、如是多修七覺支者，則資於決擇。」

〔二九〕第九 一法

※二

「諸比丘！我不見其他一法，若修習、多修此者，則資於斷諸結法。諸比丘！此即七覺支是。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。

三

諸比丘！云何修習、多修七覺支者，則資於斷諸結法耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

諸比丘！如是修習，如是多修七覺支者，則資於斷諸結法。

四

諸比丘！何為結法耶？

眼是結法，於此生結繫之執著。〔耳……鼻……舌〕身是結法，於此生結繫之執著。意是結法，於此生結繫之執著。

諸比丘！此名之為結法。」

〔三〇〕第十 優陀夷

一

爾時，世尊住於舜巴國，名為仙達嘉之舜巴人住邑。

二

時，具壽優陀夷詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之具壽優陀夷，白世尊曰：

三

「稀有哉！大德！未曾有哉！大德！大德！所以我對世尊，敬奉、敬愛、尊重、有慚愧。大德！我前在家時不敬法、不敬僧。大德！我對世尊敬愛、尊重、慚愧，欲離家為出家，願世尊為我說法：『色是如是、色之集是如是、色之滅是如是，受是如是……乃至……想是如是……行是如是……識是如是、識之集是如是、識之滅是如是。』

四

大德！我去往空屋，以轉此五取蘊之生滅：如實證知『此是苦』，如實證知『此是苦集』，如實證知『此是苦滅』，如實證知『此是順苦滅道。』

五

大德！我現觀於法，以得道，我修習、多修此者，則住如如而到達真如，了知：生已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。大德！我獲得念覺支，我修習、多修於此者，則住如如而到達真如，了知：生已盡、〔梵行已立、所作已辦、更不受後有。……擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支〕……大德！我獲得捨覺支，我修習、多修於此者，則住如如而到達真如，了知：生已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。大德！我獲得此道，我修習、多修於此者，住如如到達真如，了知：生已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。」

六

「善哉！善哉！優陀夷！汝獲得此道，汝修習、多修於此者，則住於如如而到達真如，了知：生已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。」

第三 優陀夷品 (終)

此品攝頌曰：

覺說處非如理
不損盡滅決擇
一法與優陀夷

第四 蓋品

〔三一〕第一 善（一）

※二

「諸比丘！為諸法之善、善分、善友者，皆以不放逸為根本，等趣於不放逸，以不放逸為諸法最上之名。」

三

諸比丘！於不放逸之比丘，以期修習七覺支、多修七覺支。諸比丘！不放逸之比丘，云何以修習七覺支，多修七覺支耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離〔依離貪、依滅盡，迴向於捨，〕以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

諸比丘！不放逸之比丘，如是修習七覺支、多修七覺支。」

〔三二〕第二 善（二）

※二

「諸比丘！為諸法之善、善分、善友者，皆以如理作意為根本，等趣於如理作意，以如理作意為諸法最上之名。

三

諸比丘！於如理作意具足之比丘，以期修習七覺支、多修七覺支。諸比丘！如理作意具足之比丘，云何修習七覺支、多修七覺支耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安

覺支、定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

諸比丘！如理作意具足之比丘，如是修習七覺支、多修七覺支。」

〔三三〕第三 煩惱（一）

※二

「諸比丘！金之隨煩惱有五種。被此隨煩惱染污時，金則不柔軟、不堪任、不清淨、脆而不堪正用。以何為五耶？

三

諸比丘！鐵為金之隨煩惱，被此隨煩惱染污時，金則不柔軟、不堪任、不清淨、脆而不堪正用。

四

諸比丘！銅為金之隨煩惱，被此隨煩惱染污時，金……乃至……

五

諸比丘！錫為金之隨煩惱，……乃至……

六

諸比丘！鉛為金之隨煩惱，……乃至……

七

諸比丘！銀為金之隨煩惱，被此隨煩惱染污時，金則不柔軟、不堪任、不清淨、脆而不堪正用。

八

諸比丘！此五者為金之隨煩惱，被此隨煩惱染污時，金則不柔軟、脆而不堪正用。

諸比丘！如是，心之隨煩惱有五種，被此隨煩惱染污時，心則不柔軟、不堪任、不清淨、脆而雖得正定，諸漏不能盡。以何為五耶？

九

諸比丘！欲貪為心之隨煩惱，被此隨煩惱染污時，心則不柔軟、不堪任、不清淨、脆而不能正盡諸漏。

一〇～一三

……瞋隨眠……昏眠隨眠……掉悔隨眠……疑隨眠……

一四

諸比丘！此五者為心之隨煩惱，被此隨煩惱染污時，心則不柔軟、不堪任、不清淨、脆而不能正盡諸漏。」

〔三四〕第四 煩惱（二）

※二

「諸比丘！七覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱。若修習、多修此者，則有助於明解脫果之現證。以何為七耶？

三

諸比丘！念覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱。若修習、多修此者，則助於明解脫果之現證……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……諸比丘！捨覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱。若修習、多修此者，則助於明解脫果之現證。

四

諸比丘！此七覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱。若修習多修此者，則助於明解脫果之現證。」

〔三五〕第五 如理（一）

※二

「諸比丘！若非如理作意者，則未生之欲貪生，已生之欲貪倍增、增大。

三

……未生之瞋恚生，已生之瞋恚倍增、增大。

四

……未生之惛眠生，已生之惛眠倍增、增大。

五

……未生之掉悔生，已生之掉悔倍增、增大。

六

諸比丘！若非如理作意者，則未生之疑惑生，已生之疑惑倍增、增大。」

〔三六〕第六 如理（二）

※二

「諸比丘！若如理作意者，則未生之念覺支生，已生之念覺支修習圓滿……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……未生之捨覺支生，已生之捨覺支修習圓滿。」

〔三七〕第七 增長

※二

「諸比丘！若修習、多修七覺支者，則助於增長、不損。以何為七耶？」

三

念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。

四

諸比丘！若修習、多修七覺支者，則助於增長、不損。」

〔三八〕第八 障蓋

※二

「諸比丘！障蓋有五種，為心之隨煩惱，以使慧羸弱。以何為五耶？

三

諸比丘！欲貪為障蓋，為心之隨煩惱，以使慧羸弱。諸比丘！瞋恚為障蓋，為心之隨煩惱，以使慧羸弱。諸比丘！昏眠為障蓋，為心之隨煩惱，以使慧羸弱。諸比丘！掉悔為障蓋，為心之隨煩惱，以使慧羸弱。諸比丘！疑惑為障蓋，為心之隨煩惱，以使慧羸弱。

四

諸比丘！此是五障蓋，為心之隨煩惱，以使慧羸弱。

五

諸比丘！七覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱，若修習、多修此者，則助於明解脫果之現證。以何為七耶？

六

諸比丘！念覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱，若修習、多修此者，則助於明解脫果之現證。……〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支〕……諸比丘！捨覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱，若修習、多修此者，則助於明解脫果之現證。

七

諸比丘！此七覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱，若修習多修此者，則助於明解脫果之現證。

八

諸比丘！聖弟子希求作意、舉心有念、傾聽於法時，於彼無五蓋，七覺支修習圓滿。

九

其時，無何種之五蓋耶？其時無欲貪蓋、其時無瞋蓋、其時無昏眠蓋、其時無掉悔蓋、其時無疑惑蓋。於彼，其時無此五種蓋。

一〇

其時，何種之七覺支修習圓滿耶？其時念覺支修習圓滿……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……其時捨覺支修習圓滿。

一一

諸比丘！聖弟子希求、作意、舉心有念、傾聽於法時，於彼無此五蓋，此七覺支修習圓滿。」

〔三九〕第九 樹

※二

「諸比丘！大樹之種子微細，但其枝幹大，將覆蔽諸樹木，諸樹木因被覆蔽而破損、倒壞。

三

諸比丘！何者之大樹其種子細微而枝幹大，以覆蔽諸樹木，諸樹木因被覆蔽而破損、倒壞耶？謂：阿濕波他樹、尼拘

留他樹、無花果樹、優曇羅樹、犍遮耶樹、迦裨多羅樹是。

四

諸比丘！如是，於此有一類之男子，棄諸欲，離家為出家，然彼被諸欲或更甚邪惡者所破損、倒壞。

五

諸比丘！障蓋有五種，以覆蔽於心，使慧羸弱。以何為五耶？

諸比丘！欲貪為障蓋，以覆蔽於心，使慧羸弱。諸比丘！瞋恚為障蓋，以覆蔽於心，使慧羸弱。諸比丘！昏眠為障蓋，以覆蔽於心，使慧羸弱。諸比丘！掉悔為障蓋，以覆蔽於心，使慧羸弱。諸比丘！疑惑為障蓋，以覆蔽於心，使慧羸弱。

諸比丘！有此五種障蓋，以覆蔽於心，使慧羸弱。

六

諸比丘！七覺支為無障、無蓋、不覆蔽於心，若修習、多修此者，則助於明解脫果之現證。以何為七耶？

諸比丘！念覺支為無障、無蓋、無覆蔽於心，若修習、多修此者，則助於明解脫果之現證……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……諸比丘！捨覺支為無障、無蓋、無覆蔽於心，若修習多修此者，則助於明解脫果之現證。

諸比丘！此七覺支為無障、無蓋、無覆蔽於心，若修習、多修此者，則助於明解脫果之現證。」

〔四〇〕第十 蓋

※二

「諸比丘！有五種蓋，能使為黑暗、為無目、為無智、滅慧、至於壞滅，而不令得涅槃。以何為五耶？

諸比丘！欲貪蓋能使為黑闇、為無目、為無智、滅慧、至於壞滅，而不令得涅槃。諸比丘！瞋蓋……諸比丘！昏眠蓋……諸比丘！掉悔蓋……諸比丘！疑蓋能使為黑闇、為無目、為無智、滅慧、至於壞滅，而不令得涅槃。

諸比丘！此五蓋能使為黑闇、為無目、為無智、滅慧、損壞分，而不令得涅槃。

三

諸比丘！有七種覺支，能為目、為智、以增長慧、為不損壞分，而有助於涅槃。以何為七耶？

諸比丘！念覺支能為目、為智、以增長慧、為不損壞分，而有助於涅槃……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……諸比丘！捨覺支能為目、為智、以增長慧、不損壞分，而有助於涅槃。

諸比丘！此七覺支，能為目、為智、以增長慧、不損壞分，而有助於涅槃。」

第四 蓋品
(終)

此品之攝頌曰：

二善二煩惱
二如理增長
障不損蓋障
樹蓋共為十

第五 轉輪品

〔四一〕第一 類

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！於過去世，諸沙門、婆羅門之斷三類者，皆修習、多修七覺支。諸比丘！於未來世，諸沙門、婆羅門之斷三類者，皆修習、多修七覺支。諸比丘！現在諸沙門、婆羅門之斷三類者，皆修習、多修七覺支。」

三

何為七覺支耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支。

四

諸比丘！於過去世，諸沙門、婆羅門之斷三類者，……乃至……之斷……乃至……之斷……，皆修習、多修七覺支。」

〔四二〕第二 轉輪

※二

「諸比丘！轉輪王出現時，則現七寶。以何為七耶？

三

現：輪寶、象寶、馬寶、摩尼寶、女寶、居士寶、主兵臣寶是。

諸比丘！轉輪王出現時，現此等七寶。

四

諸比丘！如來、應供、正等覺出現時，則現七覺支寶。以何為七耶？

五

現：念覺支寶、〔擇法覺支寶、精進覺支寶、喜覺支寶、輕安覺支寶、定覺支寶、〕乃至現捨覺支寶。諸比丘！如來、應供、正等覺者出現時，現此等七覺支寶。」

〔四三〕第三 魔

※二

「諸比丘！我為汝等說摧伏魔軍之道，且諦聽。三 諸比丘！何為摧伏魔軍之道耶？謂七覺支是。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。諸比丘！此為摧伏魔軍之道。」

〔四四〕第四 愚癡

※二

時，有一比丘來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

三

「大德！愚癡啞羊，愚癡啞羊之謂者，大德！云何謂之愚癡啞羊耶？」

四

「比丘！不修習、不多修七覺支，稱之為愚癡啞羊。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。

五

比丘！不修習、不多修此七覺支者，稱為愚癡啞羊。」

〔四五〕第五 有慧

※三

「大德！有慧不啞，有慧不啞之謂者，云何謂為有慧不啞耶？」

四

「比丘！修習、多修七覺支，稱為有慧不啞。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。

五

比丘！修習、多修此七覺支，故稱為有慧不啞。」

〔四六〕第六 貧窮

※三

「大德！貧窮，貧窮之謂者，大德！云何謂為貧窮耶？」

四

「比丘！不修習、不多修七覺支，稱為貧窮。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。

五

比丘！不修習、不多修此七覺支者，稱為貧窮。」

〔四七〕第七 不貧

※三

「大德！不貧，不貧之謂者，大德！云何稱為不貧耶？」

四

「比丘！修習、多修七覺支，故稱為不貧。以何為七耶？念覺支、〔擇法覺支、精進覺支、喜覺支、輕安覺支、定覺支、〕捨覺支是。

五

比丘！修習、多修此七覺支者，故稱為不貧。」

〔四八〕第八 日輪

※二

「諸比丘！日輪上昇時，前驅之相為明相。諸比丘！如是比丘起七覺支時，先驅之相為善友。

三

諸比丘！於有善友之比丘，以期修習七覺支、多修七覺支。

諸比丘！有善友之比丘，云何以修習七覺支、多修七覺支耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

諸比丘！有善友之比丘，如是修習七覺支、多修七覺支。」

〔四九〕第九 支分（一）

※二

「諸比丘！言內支分者，不見其他有一支分，能起七覺支者，比丘！此即如理作意。

三

諸比丘！於如理作意具足之比丘，以期修習七覺支、多修七覺支。

諸比丘！如理作意具足之比丘，云何修習七覺支、多修七覺支耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡、迴向於捨，以修習捨覺支。

五

諸比丘！如理作意具足之比丘，如是以修習七覺支、多修七覺支。」

〔五〇〕第十 支分（二）

※二

「諸比丘！言外支分者，不見其他有一支分，能起七覺支者。諸比丘！此即有善友。

三

諸比丘！於有善友之比丘，以期修習七覺支、多修七覺支。

諸比丘！有善友之比丘，云何修習七覺支、多修七覺支耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

諸比丘！有善友之比丘，如是修習七覺支、多修七覺支。」

第五 轉輪品 (終)

此品之攝頌曰：

類轉輪與魔
愚癡與有慧
貧窮及不窮
日輪二支分
共之而為十

第六 覺支總攝品

一

舍衛城因緣。

〔五一〕第一 食

二

「諸比丘！將說五蓋與七覺支之食、不食，且諦聽。」

一 蓋食

三

「諸比丘！云何為食？使未生之欲貪生，已生之欲貪倍增、增大耶？諸比丘！有淨相。多修此非如理作意為食者，則未生之欲貪生，已生之欲貪倍增、增大。

四

諸比丘！云何為食？使未生之瞋恚生，已生之瞋恚倍增、增大耶？諸比丘！有瞋相。多修此非如理作意為食者，則未生之瞋恚生，已生之瞋恚倍增、增大。

五

諸比丘！云何為食？使未生之昏眠生，已生之昏眠倍增、增大耶？諸比丘！有不欣喜、倦怠、鬱悶、飽食、心退縮。多修此非如理作意為食者，則未生之昏眠生，已生之昏眠倍增、增大。

六

諸比丘！云何為食？使未生之掉悔生，已生之掉悔倍增、增大耶？諸比丘！有心之非寂止。多修此非如理作意為食者，則未生之掉悔生，已生之掉悔倍增、增大。

七

諸比丘！云何為食？使未生之疑惑生，已生之疑惑倍增、增大耶？諸比丘！有疑惑處之法。多修此非如理作意為食者，則未生之疑惑生，已生之疑惑倍增、增大。」

二 覺支食

八

「諸比丘！云何為食？使未生之念覺支生，已生之念覺支得圓滿修習耶？諸比丘！有念覺支處之法。多修此如理作意為食者，則未生之念覺支生，已生之念覺支得圓滿修習。

九

諸比丘！云何為食？使未生之擇法覺支生，已生之擇法覺支得圓滿修習耶？諸比丘！有善不善法、有呵責無呵責法、劣勝法、黑白俱分法。多修此如理作意為食者，則未生之擇法覺支生，已生之擇法覺支得圓滿修習。

一〇

諸比丘！云何為食？使未生之精進覺支生，已生之精進覺支得圓滿修習耶？諸比丘！發勤界、精勤界、勤勇界。多修此如理作意為食者，則未生之精進覺支生，已生之精進覺支得圓滿修習。

一一

諸比丘！云何為食？使未生之喜覺支生，已生之喜覺支得圓滿修習耶？諸比丘！有喜覺支處之法。多修此如理作意為食者，則未生之喜覺支生，已生之喜覺支得圓滿修習。

一二

諸比丘！云何為食？使未生之輕安覺支生，已生之輕安覺支得圓滿修習耶？諸比丘！有身輕安、心輕安。多修此如理作意為食者，則未生之輕安覺支生，已生之輕安覺支得圓滿修習。

一三

諸比丘！云何為食？使未生之定覺支生，已生之定覺支得圓滿修習耶？諸比丘！有寂止相、不亂相。多修此如理作意為食者，則未生之定覺支生，已生之定覺支得圓滿修習。

一四

諸比丘！云何為食？使未生之捨覺支生，已生之捨覺支得圓滿修習耶？諸比丘！有捨覺支處之法。多修此如理作意為食者，則未生之捨覺支生，已生之捨覺支得圓滿修習。」

三 蓋之不食

一五

「諸比丘！云何為不食？使未生之欲貪不生，已生之欲貪不得倍增、增大耶？諸比丘！有不淨相。多修此如理作意為不食者，則未生之欲貪不生，已生之欲貪不得倍增、增大。

一六

諸比丘！云何為不食？使未生之瞋恚不生，已生之瞋恚不得倍增、增大耶？諸比丘！有慈心解脫。多修此如理作意為不食，則未生之瞋恚不生，已生之瞋恚不得倍增、增大。

一七

諸比丘！云何為不食？使未生之惛眠不生，已生之惛眠不得倍增、增大耶？諸比丘！有發勤界、精勤界、勤勇界。多修此如理作意為不食，則未生之惛眠不生，已生之惛眠不倍增、增大。

一八

諸比丘！云何為不食？使未生之掉悔不生，已生之掉悔不倍增、增大耶？諸比丘！有心之寂止。多修此如理作意為不食者，則未生之掉悔不生，已生之掉悔不得倍增、增大。

一九

諸比丘！云何為不食？使未生之疑惑不生，已生之疑惑不倍增、增大耶？諸比丘！有善不善法、有呵責無呵責法、劣勝法、黑白俱分法。多修此如理作意為不食者，則未生之疑惑不生，已生之疑惑不倍增、增大。」

四 覺支之不食

二〇

「諸比丘！云何為不食？使未生之念覺支不生，已生之念覺支不得圓滿修習耶？諸比丘！有念覺支處之法。多修此之非如理作意為不食者，則未生之念覺支不生，已生之念覺支不得圓滿修習。

二一

諸比丘！云何為不食？使未生之擇法覺支不生，已生之擇法覺支不得圓滿修習耶？諸比丘！有善不善法、有呵責無呵責法、劣勝法、黑白俱分法。多修此之非如理作意為不食者，則未生之擇法覺支不生，已生之擇法覺支不得圓滿修習。

二二

諸比丘！云何為不食？使未生之精進覺支不生，已生之精進覺支不得圓滿修習耶？諸比丘！有發勤界、精勤界、勤勇界。多修此之非如理作意為不食者，則未生之精進覺支不生，已生之精進覺支不得圓滿修習。

二三

諸比丘！云何為不食？使未生之喜覺支不生，已生之喜覺支不得圓滿修習耶？諸比丘！有喜覺支處之法。多修此之非如理作意為不食者，則未生之喜覺支不生，已生之喜覺支不得圓滿修習。

二四

諸比丘！云何為不食？使未生之輕安覺支不生，已生之輕安覺支不得圓滿修習耶？諸比丘！有身輕安、心輕安。多修此之非如理作意為不食者，則未生之輕安覺支不生，已生之輕安覺支不得圓滿修習。

二五

諸比丘！云何為不食？使未生之定覺支不生，已生之定覺支不得圓滿修習耶？諸比丘！有寂止相、不亂相。多修此之非如理作意為不食者，則未生之定覺支不生，已生之定覺支不得圓滿修習。

二六

諸比丘！云何為食？使未生之捨覺支不生，已生之捨覺支不得圓滿修習耶？諸比丘！有捨覺支處之法。多修此之非如理作意為不食者，則未生之捨覺支不生，已生之捨覺支不得圓滿修習。」

〔五二〕第二 理趣

※二

時，有眾多比丘，晨早時分，著下衣、持衣、鉢，入舍衛城乞食。

三

時，彼諸比丘思念：「步行至舍衛城乞食，尚過早，我等可先往異學修習者之園。」

四

時，彼諸比丘至異學修行者之園。至已，與彼異學修行者，互相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。異學修行者，言於坐在一面之諸比丘曰：

五

「友等！沙門瞿曇為弟子如是說法曰：『諸比丘！汝等欲斷心之隨煩惱——使慧羸弱、及斷五蓋，宜如實修習七覺支。』友等！我等亦為弟子如是說法曰：『友等！汝等欲斷心之隨煩惱——使慧羸弱、及斷五蓋，宜如實修習七覺支。』友等！於此，沙門瞿曇與我等之說法與說法、教誡與教誡，有何之差別、何之特相、何之殊異耶？」

六

時，彼諸比丘對異學修行者之所說不歡喜、不呵責。不歡喜、不呵責，從座起而離去，曰：「我等唯於世尊之處，知此所說義。」

七

時，彼諸比丘行至舍衛城乞食。食後，由乞食歸，詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

八

坐於一面之彼諸比丘，白世尊曰：

「大德！於此，我等於晨早時分，著下衣、持衣、鉢，入舍衛城乞食。大德！其時，我等思念：『行至舍衛城乞食，為時過早，我等可往異學修行者之園。』大德！時我等至異學修行者之園。至已，與彼異學修行者，互相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。大德！時，彼異學修行者，對坐於一面之我等曰：

九

『友等！沙門瞿曇為弟子如是說法曰……有何之殊異耶？』

一〇

大德！時，我等對異學修行者之所說，不歡喜、不呵責。不歡喜，不呵責，即從座起而離去，曰：『我等唯於世尊之處，知此所說義。』」

一一

「諸比丘！異學修行者如是說，則應如是言：『友等！有理趣，依此理趣，而五蓋有十，七覺支為十四。』諸比丘！如是之問，異學修行者則不能答，而生困惑。

一二

何以故？諸比丘！此非其境界。諸比丘！我未見於天、魔、梵、沙門、婆羅門、天、人眾中，對於此問，能起應答之心者，但除如來與如來之弟子有聞者。」

一 五成為十

一三

「諸比丘！有何之理趣？依其理趣，五蓋成為十耶？

一四

諸比丘！內之欲貪亦蓋，外之欲貪亦蓋，欲貪蓋者，乃依此而說，故依此理趣為二。

一五

諸比丘！內之瞋恚亦蓋，外之瞋恚亦蓋，瞋恚蓋者，乃依此而說，故依此理趣為二。

一六

諸比丘！惛沈亦蓋，睡眠亦蓋，惛眠蓋者，乃依此而說，故依此之理趣為二。

一七

諸比丘！掉舉亦蓋，追悔亦蓋，掉悔蓋者，乃依此而說，故依此之理趣為二。

一八

諸比丘！內法之疑惑亦蓋，外法之疑惑亦蓋，疑惑蓋者，
乃依此而說，故依此之理趣為二。

一九

諸比丘！有此之理趣，依此之理趣，而五蓋為十。」

二 七為十四

二〇

「諸比丘！有何之理趣？依其理趣，七覺支成為十四耶？

二一

諸比丘！內法之念，為念覺支；外法之念，亦為念覺支。
念覺支者，則依此而說，故依此理趣為二。

二二

諸比丘！於外法以慧決擇、伺察、思慮，為擇法覺支；於
內法以慧決擇、伺察、思慮、亦為擇法覺支。擇法覺支者，則
依此而說，故依此理趣為二。

二三

諸比丘！身之精進，為精進覺支；心之精進，亦為精進覺
支。精進覺支者，則依此而說，故依此之理趣為二。

二四

諸比丘！有尋、有伺之喜，為喜覺支；無尋、無伺之喜，
亦為喜覺支。喜覺支者，則依此而說，故依此理趣為二。

二五

諸比丘！身之輕安，為輕安覺支；心之輕安，亦為輕安覺支。輕安覺支者，則依此而說，故依此之理趣為二。

二六

諸比丘！有尋、有伺之定，亦為定覺支；無尋、無伺之定，亦為定覺支。定覺支者，則依此而說，故依此之理趣為二。

二七

諸比丘！內法之捨，亦為捨覺支；外法之捨，亦為捨覺支。捨覺支者，則依此而說，故依此之理趣為二。

二八

諸比丘！有此之理趣；依此之理趣，七覺支而為十四。」

〔五三〕第三 火

※二

時，有眾多之比丘，於晨早時分，著下衣、持衣、鉢，入舍衛城乞食。

三～一〇

如「理趣經」。

一一

「諸比丘！若異學修行者，如是說者，則應如是言：『友等！心退縮時，修習何者之覺支，為非時耶？修習何者之覺支，為是時耶？友等！心掉舉之時，修習何者之覺支，為非時耶？修習何者之覺支，為是時耶？』諸比丘！如是之問，則異學修行者，將困惑不能作答。

一二

何以故耶？諸比丘！此非其境界。諸比丘！我於天、魔、梵、沙門、婆羅門、天、人眾中，不見對此問能起回答之心者，但除如來與如來之弟子有聞者。」

一 非時

一三

「諸比丘！心退縮時，修習輕安覺支，為非時；修習定覺支，為非時；修習捨覺支，為非時。何以故耶？諸比丘！退縮心者，以此等諸法甚難發起。

一四

諸比丘！譬如有人，欲令小火熾燃。彼對此投以濕草，投以濕牛糞，投以濕薪，加水、風，撒塵芥，彼人得能令小火熾燃耶？」

「大德！不能！」

「諸比丘！如是，心退縮時，修習輕安覺支者，非其時；修習定覺支者，非其時；修習捨覺支者，非其時。何以故耶？諸比丘！退縮心者，以此等諸法甚難發起。」

二 時

一五

「諸比丘！心退縮時，是修習擇法覺支之時，修習精進覺支之時，修習喜覺支之時。何以故耶？諸比丘！退縮心者，以此等諸法易於發起。」

一六

諸比丘！譬如有人，欲使小火熾燃。彼對此投以乾草，投以乾牛糞，投以乾薪，加吹氣，不撒塵芥，彼人得令小火熾燃耶？」

「大德！如是。」

「諸比丘！如是心退縮時，是修習擇法覺支之時，修習精進覺支之時，修習喜覺支之時。何以故耶？諸比丘！退縮心者，此等以諸法易於發起。」

三 非時

一七

「諸比丘！心掉舉時，修習擇法覺支非其時，修習精進覺支非其時，修習喜覺支非其時。何以故？諸比丘！掉舉心者，以此等諸法甚難使其寂靜。」

一八

諸比丘！譬如有人，欲滅大火聚。彼對此投以乾草，投以乾牛糞，投以乾薪，加吹風，不撒塵芥，彼人得能滅大火之聚耶？」

「大德！不能。」

「諸比丘！如是心掉舉時，修習擇法覺支非其時，修習精進覺支非其時，修習喜覺支非其時。何以故耶？諸比丘！掉舉心者，以此等之諸法甚難使其寂靜。」

四 時

一九

「諸比丘！心掉舉時，是修習輕安覺支之時，是修習定覺支之時，是修習捨覺支之時。何以故？諸比丘！掉舉心者，以此等之諸法易使其寂靜。」

二〇

諸比丘！譬如有人欲滅大火聚。彼對此投以濕草，投以濕牛糞，投以濕薪，加水、風，撒塵芥，則彼人得能滅大火聚耶？」

「大德！如是。」

「諸比丘！如是心掉舉時，是修習輕安覺支之時，是修習定覺支之時，是修習捨覺支之時。何以故？諸比丘！掉舉心者，以此等之諸法易使寂靜。」

二一

諸比丘！至於念（覺支），我說：念可常有」。

〔五四〕第四 慈

一

一時，世尊住於拘利國之一名曰黃枕邑之拘利村。

二

時，有眾多之比丘，晨早時分，著下衣、持衣、鉢，入黃枕邑乞食。

三

時，彼諸比丘生思念：「行至黃枕邑乞食，為時尚早，我等可往異學修行者之園」。

四

時，彼諸比丘，至異學修行者之園。至已，與彼異學修行者，互相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。彼異學修行者，言坐於一面之諸比丘曰：

五

「友等！沙門瞿曇為弟子如是說法曰：『諸比丘！汝等欲斷心之隨煩惱——使慧羸弱、及斷五蓋，應以慈俱行之心徧滿一方而住、第二、第三、第四亦如是；如是對上下傍邊所有一切世間，皆以慈俱行之廣大、無量、無怨、無瞋之心徧滿而住。以悲俱行之心徧滿一方而住、第二、第三、第四、亦如是；如是對上下傍邊所有一切世間，以悲俱行之廣大、無量、無怨、無瞋之心徧滿而住。以喜俱行之心，徧滿一方而住、第二、第三、第四亦如是；如是對上下傍所有一切世間，以喜俱行之廣大、無量、無怨、無瞋之心，徧滿而住。以捨俱行之心徧滿一方而住、第二、第三、第四亦如是；如是對上下傍邊所有一切世間，以捨俱行之廣大、無量、無怨、無瞋之心徧滿而住。』」

六

友等！我等亦為弟子作如是說法云：『友等！汝等欲斷心之隨煩惱——使慧羸弱、及斷五蓋，應以慈俱行之心徧滿一方而住……乃至……以悲俱行之心……以喜俱行之心……以捨俱行之心徧滿一方而住、第二、第三、第四亦如是；如是對上下傍邊所有一切世間，以捨俱行之廣大、無量、無怨、無瞋之心徧滿而住。』

七

友等！於此，沙門瞿曇與我等之說法與說法、教誡與教誡，有何之差別、何之特相、何之殊異耶？」

時，彼諸比丘對異學修行者之所說，不生歡喜、不予呵責。不歡喜、不呵責，從座起而離去，曰：「我等唯於世尊之處，知此所說之義。」

八

時，彼諸比丘行至黃枕邑乞食，食後由乞食歸，詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之彼諸比丘，白世尊曰：

九

「大德！於此我等於晨早時分，著下衣、持衣、鉢，入黃枕邑乞食。大德！其時，我等生斯思念：『至黃枕邑乞食，為時尚早，我等可往異學修行者之園。』大德！時，我等去至異學修行者之園。至已，與彼學異修行者，互相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。大德！彼異學修行者，言坐於一面之我等曰：

『友等！沙門瞿曇為弟子作如是說法云：「諸比丘！汝等欲斷心之隨煩惱——使慧羸弱、及斷除五蓋，應以慈俱行之心徧滿一方而住……乃至……以悲俱行之心……以喜俱行之心……以捨俱行之心徧滿一方而住、第二、第三、第四亦如是；如是上下傍邊所有一切世間，以捨俱行之廣大、無量、無怨、無瞋之心徧滿而住。」友等！我等亦為弟子作如是說法云：「友等！汝等欲斷心之隨煩惱——使慧羸弱、及斷除五蓋，應以慈俱行之心徧滿一方而住……乃至……以悲俱行之心……以喜俱行之心……以捨俱行之心徧滿一方而住、第二、第三、第四亦如是；如是對上下傍邊所有一切世間，以捨俱行之廣大、無量、無怨、無瞋之心徧滿而住。」友等！於此，沙門瞿曇與我等之說法與說法、教誡與教誡，有何之差別、何之特相、何之殊異耶？』

大德！時，我等對彼異學修行者之所說，不生歡喜、不予呵責。不歡喜、不呵責，即從座起而離去，曰：『我等唯於世尊之處，知此所說義。』」

一〇

「諸比丘！異學修行者若如是說，則宜作如是言：『友等！云何修習慈心解脫？若修習者，則趣於何、以何為最勝、以何為果、究竟於何耶？友等！云何修習悲心解脫？若修習者，則趣於何、以何為最勝、以何為果、究竟於何耶？友等！云何修習喜心解脫？若修習者，則趣於何、以何為最勝、以何為果、究竟於何耶？友等！云何修習捨心解脫？若修習者，則趣於何、以何為最勝、以何為果、究竟於何耶？』諸比丘！如是問之，異學修行者，將困惑不能作答。

一一

何以故？諸比丘！此非其境界。諸比丘！我於天、魔、梵、沙門、婆羅門、天、人眾中，未見對於此問，能生作答之心者，但除如來與如來之弟子有聞者。

一二

諸比丘！云何修習慈心解脫？若修習者，則趣於何、以何為最勝、以何為果、究竟於何耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習慈俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……修習慈俱行之捨覺支。彼若欲於非違逆，以違逆想而住者，則以違逆想而住。若欲於違逆，以非違逆想而住者，則以非違逆想而住。若欲於非違逆與違逆，以違逆想而住者，則以違逆想而住。若欲於違逆與非違逆，以非違逆想而住者，則以非違逆想而住。若欲俱遮非違逆與違逆，以捨正念、正知而住者，則住於捨正念、正知或具足清淨解脫而住。諸比丘！慈心解脫，是以清淨為其最勝，此比丘未通達更上解脫，而有此之慧。

一三

諸比丘！云何修習悲心解脫？若修習者，則趣於何、以何為最勝、以何為果、究竟於何耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習悲俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……以修習悲俱行之捨覺支。彼若欲於非違逆，以違逆想而住者，則以違逆想而住……乃至……若欲俱遮非違逆與違逆，以捨正念、正知而住者，則住於捨正念、正知、或徧超色想，由滅有對想，不作意種種

想，則虛空為無邊，俱足虛空無邊處而住。諸比丘！悲心解脫，是以虛空無邊處為其最勝，此比丘未通達更上解脫，而有此之慧。

一四

諸比丘！云何修習喜心解脫？若修習者，則趣於何、以何為最勝、以何為果、究竟於何耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習喜俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……修習喜俱行之捨覺支。彼若欲於非違逆，以違逆想而住者，則以違逆想而住……乃至……若欲俱遮非違逆與違逆，以捨正念、正知而住者，則以捨正念、正知而住，或徧超虛空無邊處，為識無邊，具足識無邊處而住。諸比丘！喜心解脫是以識無邊處為其最勝，此比丘未通達更上解脫，而有此之慧。

一五

諸比丘！云何修習捨心解脫？若修習者，則趣於何、以何為最勝、以何為果、究竟於何耶？

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨俱行之捨覺支。彼若欲於非違逆，以違逆想而住者，則以違逆想而住。若欲於違逆，以非違逆想而住者，則以非違逆想而住。若欲於非違逆與違逆，以違逆想而住者，則以違逆想而住。若欲於違逆與非違逆，以非違逆想而住者，則以非違逆想而住。若欲俱遮非違逆與違逆，以捨正

念、正知而住者，則以捨正念、正知而住。或徧超識無邊處，為無所有，具足無所有處而住。諸比丘！捨心解脫是以無所有處為其最勝，此比丘未通達更上解脫，而有此之慧。」

〔五五〕第五 傷歌邏

一

舍衛城……

二

時，傷歌邏婆羅門，詣世尊住處。詣已，與世尊互相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。坐於一面之傷歌邏婆羅門，白世尊曰：

三

「尊瞿曇！有何之因、何之緣？有時長夜讀誦真言，不得成辯才耶？何況不讀誦耶？尊瞿曇！又有何之因、何之緣？有時長夜不讀誦真言，得成辯才耶？何況讀誦之耶？」

一

四

「婆羅門！為欲貪所纏，以隨逐欲貪之心而住，對已生欲貪之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

婆羅門！譬如有水鉢，以赤、黃、青、茜色而濁之，有眼之人，對其中觀察己之面相，不得如實知見。婆羅門！如是為

欲貪所纏，以隨逐於欲貪之心而住，對已生欲貪之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

五

婆羅門！又為瞋恚所纏，以隨逐於瞋恚之心而住，對已生瞋恚之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

婆羅門！譬如有水鉢，以火加熱，沸騰而汪溢，有眼之人，於其中雖觀察己之面相，但不能如實知見。婆羅門！如是為瞋恚所纏，以隨逐於瞋恚之心而住，對已生瞋恚之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

六

婆羅門！又為昏眠所纏，以隨逐於昏眠之心而住，對已生昏眠之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

婆羅門！譬如有水鉢，為茗草所覆，有眼之人，於其中觀察自己之面相，不能如實知見。婆羅門！如是為昏眠所纏，以隨逐於昏眠之心而住，對已生昏眠之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

七

婆羅門！又為掉悔所纏，以隨逐於掉悔之心而住，對已生掉悔之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

婆羅門！譬如有水鉢，為風煽動而起漂波，有眼之人，於其中觀察自己之面相，不能如實知見。婆羅門！如是為掉悔所纏，以隨逐於掉悔之心而住，對已生掉悔之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

八

婆羅門！又為疑惑所纏，以隨逐疑惑之心而住，對已生疑惑之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

婆羅門！譬如有水鉢，染以濁擾之泥，置於闇處，有眼之人，於其中觀察自己之面相，不能如實知見。婆羅門！如是為疑惑所纏，以隨逐於疑惑之心而住，對已生疑惑之出離，不能如實知時，則對己利不能如實知見、對他利不能如實知見、對俱利不能如實知見，雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！

九

婆羅門！有此因、此緣，有時雖長夜讀誦真言，亦不得成辯才，何況不讀誦哉！」

二

一〇

「婆羅門！不為欲貪所纏，不隨逐於欲貪之心而住，對已生欲貪之出離，如實知時，則對己利如實知見、對他利如實知見、對俱利如實知見，長夜不讀誦真言，亦成辯才，何況讀誦哉！」

婆羅門！譬如有水鉢，不為赤、黃、青、茜色所濁，有眼之人，於其中觀察自己之面相，如實知見。婆羅門！如是不為欲貪所纏，不隨逐於欲貪之心而住，對已生欲貪之出離，如實知時……乃至……〔何況讀誦哉！〕

一一

婆羅門！又不為瞋恚所纏，不隨逐於瞋恚之心而住……何況讀誦哉！」

婆羅門！譬如有水鉢，加火熱之，未沸騰，未汪溢，有眼之人，於其中觀察自己之面相，而如實知見。婆羅門！如是未被瞋恚所纏，〔不隨逐於〕瞋恚之心而住……何況讀誦哉！」

一二

婆羅門！又不為昏眠所纏，不隨逐於昏眠之心而住……何況讀誦哉！」

婆羅門！譬如有水鉢，未被苔草所覆，有眼之人……婆羅門！如是不為昏眠所纏，不隨逐於昏眠之心而住……何況讀誦哉！

一三

婆羅門！又不為掉悔所纏，〔不隨逐於掉悔〕之心而住……何況讀誦哉！

婆羅門！譬如有水鉢，不為風煽動，不漂不波，有眼之人……婆羅門！如是不為掉悔所纏，不隨逐於掉悔之心而住……何況讀誦哉！

一四

婆羅門！又不為疑惑所纏，以不隨逐於疑惑之心而住，對已生疑惑之出離，如實知時，則對己利如實知見、對他利如實知見、對俱利如實知見，雖長夜不讀誦真言，亦成辯才，何況讀誦哉！

婆羅門！譬如有水鉢，澄清無濁，置於明處，有眼之人，於其中觀察自己之面相，如實知見。婆羅門！如是不為疑惑所纏，不隨逐於疑惑之心而住，對已生疑惑之出離如實知時，則對己利如實知見、對他利如實知見、對俱利如實知見，雖長夜不讀誦真言，亦成辯才，何況讀誦哉！

一五

婆羅門！有此因、此緣，有時雖長夜不讀誦真言，亦成辯才，何況讀誦哉！

一六

婆羅門！七覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱。修習、多修此者，則助於明解脫果之現證。以何為七耶？婆羅門！念覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱，對此修習、多修者，則助明解脫果之現證……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支…定覺支〕……婆羅門！捨覺支為無障、無蓋、無心之隨煩惱，對此修習、多修者，則助於明解脫果之現證。」

一七

如是說已，傷歌邏婆羅門白世尊曰——

「妙哉！尊瞿曇！妙哉！尊瞿曇！譬如扶起倒者，如揭露覆者，如對迷者教之以道，如暗中舉燈火，使有眼者得見色。如是，尊瞿曇以種種之方便顯示法。我於此當歸依尊瞿曇與法及比丘眾，尊瞿曇容我自今日起至命終，歸依為優婆塞。」

〔五六〕第六 無畏

一

如是我聞。一時，世尊住王舍城耆闍崛山中。

二

時，無畏王子詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之無畏王子白世尊曰：

三

「大德！富蘭迦葉作如是言：『於無智、無見為無因、無緣，無智、無見是無因、無緣。於智、見為無因、無緣，智、見是無因、無緣。』於此，世尊作云何說示耶？」

四

「王子！於無智、無見為有因、有緣，無智、無見是有因、有緣。王子！於智、見為有因、有緣，智、見是有因、有緣。」

一

五

「大德！云何於無智、無見為有因、有緣耶？云何無智、無見是有因有緣耶？」

六

「王子！為欲貪所纏，以隨逐於欲貪之心而住，對已生欲貪之出離，不能如實知見時，王子！此為無智、無見之因、之緣，如是無智、無見，為有因、有緣。」

七

王子！又為瞋恚所纏，以隨逐於瞋恚之心而住……乃至……

八

……為昏眠所纏……

九

……為掉悔所纏……

一〇

為疑惑所纏，以隨逐於疑惑之心而住，對已生疑惑之出離，不能如實知見時，王子！此為無智、無見之因、之緣。如是，無智、無見為有因、有緣。」

一一

「大德！此法門當云何名之耶？」

「王子！此名之為蓋。」

「實則為蓋哉！世尊！實則為蓋哉！善逝！大德！譬如為一一之蓋所遮伏，即不能如實知見，何況於五蓋耶？」

二

一二

「大德！又云何於智、見為有因、有緣耶？云何智、見是有因、有緣耶？」

一三

「王子！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支。彼以修習念覺支之心，如實知、見。王子！此為智、見之因、之緣。如是，智、見為有因、有緣。」

一四～一八

王子！復次，比丘……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……

一九

依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。彼以修習捨覺支之心，如實知見。王子！此為智、見之因、之緣。如是，智、見為有因、有緣。」

二〇

「大德！此法門當云何名之耶？」

「王子！此名之為覺支。」

「實為覺支哉！世尊！實為覺支哉！善逝！大德！譬如成就一一之覺支，即是如實知見，何況於七覺支耶？大德！我登上耆闍崛山，雖身疲勞、心疲勞，然而得輕利，以現觀於法。」

攝頌曰：

食及理趣火
慈與傷歌邏
耆闍崛山中
無畏之所問
覺支相應中

覺支相應 第六
覺支總攝品
(終)

第七 入出息品

〔五七〕第一 骨

一 大果大功德

一

舍衛城……

二

「諸比丘！若修習、多修骨想者，則有大果大功德。」

三

諸比丘！云何修習骨想、云何多修骨想，而有大果大功德耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習骨想俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修行骨想俱行之捨覺支。

五

諸比丘！如是修習、如是多修骨想者，則有大果大功德。」

二 或者

※二

「諸比丘！若修習、多修骨想者，則可期二果之隨一果，於現法開悟，或有餘依者，則得不還果。」

三

諸比丘！云何修習、云何多修骨想者，則可期二果之隨一果，於現法開悟耶？或有餘依者，則得不還果耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習骨想俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……修習骨想俱行之捨覺支。

五

諸比丘！如是修習、如是多修骨想者，則可期二果之隨一果，於現法開悟，或有餘依者，則得不還果。」

三 大義利

※二

「諸比丘！修習、多修習骨想者，則資於大義利。

三

諸比丘！云何修習、多修習骨想，則資於大義利耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習骨想俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……修習骨想俱行之捨覺支。

五

諸比丘！如是修習、如是多修習骨想者，則資於大義利。」

四 大安穩

※二

「諸比丘！修習、多修習骨想者，則資於大安穩。」

三

諸比丘！云何修習、多修習骨想者，則資於大安穩耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習骨想俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……修習骨想俱行之捨覺支。

五

諸比丘！如是修習、如是多修習骨想者，則資於大安穩。」

五 大厭背

※二

「諸比丘！修習、多修習骨想者，則資於大厭背。」

三

諸比丘！云何修習、多修習骨想者，則資於大厭背耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習骨想俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……修習骨想俱行之捨覺支。

五

諸比丘！如是修習、如是多修習骨想者，則資於大厭背。」

六 樂住

※二

「諸比丘！修習、多修習骨想者，則資於大樂住。

三

諸比丘！云何修習、多修習骨想者，則資於大樂住耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習骨想俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……修習骨想俱行之捨覺支。

五

諸比丘！如是修習、如是多修習骨想者，則資於大樂住。」

〔五八〕第二 噉（一～六）

二

諸比丘！修習於噉想……乃至……

〔五九〕第三 青瘀（一～六）

二

諸比丘！修習於青瘀想……乃至……

〔六〇〕第四 壞（一～六）

二

諸比丘！於壞想……

〔六一〕第五 膨脹（一～六）

二

諸比丘！對膨脹想……

〔六二〕第六 慈（一～六）

二

諸比丘！修習於慈……

〔六三〕第七 悲（一～六）

二

諸比丘！修習於悲……

〔六四〕第八 喜（一～六）

二

諸比丘！修習於喜……

〔六五〕第九 捨（一～六）

二

諸比丘！修習於捨……

〔六六〕第十 入出息（一～六）

二

諸比丘！修習於入出息……

此品之攝頌曰：

骨噉與青瘀
壞及膨脹慈
悲喜乃至捨
入出息為十

覺支相應之第七
入出息品（終）

第八 滅品

〔六七〕第一 不淨（一～六）

二

諸比丘！於不淨想……

〔六八〕第二 死（一～六）

二

諸比丘！於死想……

〔六九〕第三 違逆（一～六）

二

諸比丘！於食違逆想……

〔七〇〕第四 不可樂（一～六）

二

諸比丘！於一切世間不可樂想……

〔七一〕第五 無常（一～六）

二

諸比丘！於無常想……

〔七二〕第六 苦（一～六）

二

諸比丘！於無常苦想……

〔七三〕第七 無我（一～六）

二

諸比丘！於苦無我想……

〔七四〕第八 斷（一～六）

二

諸比丘！於斷想……

〔七五〕第九 離貪（一～六）

二

諸比丘！於離貪想……乃至……

〔七六〕第十 滅

一 大果大功德

※二

諸比丘！若修習、多修滅想者，則有大果大功德。

三

諸比丘！云何修習滅想者……

四

諸比丘！於此有比丘……滅想俱行之……

五

諸比丘！……如是修習之……

二 或者

※二

諸比丘！若修習、多修滅想者，則二果之……

三

諸比丘！云何修習滅想……

四

諸比丘！於此有比丘……滅想俱行之……

五

諸比丘！……如是修習……

三～六 大義利、安穩、厭背、樂住

※二

諸比丘！若修習、多修滅想者，則助於大義利……助於大安穩……助於大厭背……助於大樂住。

三

諸比丘！云何修習、多修滅想者，助於大義利耶？助於大安穩耶？……助於大厭背耶？……助於大樂住耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習滅想俱行之念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……修習滅想俱行之捨覺支。諸比丘！如是修習滅想、如是多修者，則助於大義利……助於大安穩……助於大厭背……助於大樂住。

此品之攝頌曰：

不淨以及死
食違逆不樂
無常苦無我
乃至斷離貪
滅等之為十

覺支相應之第八
滅品（終）

第九 恒河廣說（遠離）

〔七七〕第一

※二

「諸比丘！譬如恒河，趣向於東〔、傾向於東、臨入於東〕。諸比丘！如是比丘，修習七覺支、多修習七覺支者，則趣向於涅槃、傾向於涅槃、臨入於涅槃。

諸比丘！比丘云何修習七覺支、多修七覺支者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃耶？

三

諸比丘！此處有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……修習捨覺支。

諸比丘！比丘如是〔修習七覺支、多修七覺支者，則趣向涅槃、傾向於涅槃、臨入涅槃〕。」

〔七八～八八〕第二～十二

乃至到尋覓品應廣說。

攝頌曰：

向東之有六
趣向海有六
二六之十二
以之說此品

第九恒河廣說
(終)

第一〇 不放逸品（遠離）

〔八九～九八〕第一～十

諸比丘！諸有情之無足、二足、四足、多足，〔於有色、無色、有想、無想，以如來、應供、正等覺者，稱為最上。諸比丘！如是，諸善法皆以不放逸為根本，等趣於不放逸，以不放逸稱為諸法之最上。〕……乃至廣說……

攝頌曰：

如來與足跡
屋頂與根核
夏生花王月
日夜等十句

第一一 力所作品（遠離）

〔九九～一〇〇〕第一～一二

二

諸比丘！譬如作諸力所作之事業，皆依於地、立於地，如是作諸力所作之事業……乃至廣說……

攝頌曰：

力與種子龍
樹瓶乃至芒
虛空與二雲
船舶與客河

第一二 尋覓品（遠離）

〔一〇一～一一〇〕 第一～一二

二

諸比丘！有三種尋覓。以何為三耶？欲尋、有尋、梵行尋是……乃至廣說……

攝頌曰：

尋覓次第漏
有苦礙與垢
搖受二渴愛

第一三 瀑流品（遠離）

〔一一一～一一九〕 第一～九

一

舍衛城……

二

諸比丘！瀑流有四種。以何為四耶？欲流、有流、見流、無明流是……乃至廣說……

〔一二〇〕第十 上分〔結〕

※二

諸比丘！有五上分結。以何為五耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五上分結。

三

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五上分結，應修習七覺支。何為七覺支耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支……〕依遠離、依離貪、依滅盡，迴向於捨，以修習捨覺支。

五

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五上分結，應修習此七覺支。

攝頌曰：

瀑流與軛取
繫隨眠妙欲
蓋蘊上下分

第一四 恒河廣說（調伏欲貪）

〔一二一〕第一

※二

「諸比丘！譬如恒河，趣向東〔、傾向東、臨入東〕。諸比丘！如是比丘，修習七覺支、多修七覺支者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃。

諸比丘！比丘云何修習七覺支、多修七覺支，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃耶？

三

諸比丘！於此有比丘，調伏究盡欲貪、調伏究盡瞋恚、調伏究盡愚癡，以修念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……捨覺支。

諸比丘！比丘如是修習七覺支、多修七覺支者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃。」

〔一二二～一三二〕第二～一二

如是究盡欲貪，乃至到尋覓品止廣說。

攝頌曰：

趣向於東六
趣向於海六
二六之十二
以之說此品

以廣說覺支相應之恒河品，用以廣說欲貪。

第十四品（終）

第一五 不放逸品（調伏欲貪）

〔一三三～一四二〕第一～一〇

攝頌曰：

如來與足跡
屋頂與根核
夏生花王月
日衣等十句

以覺支相應之不放逸品，用以廣說欲貪。

第十五品（終）

一六 力所作品（調伏欲貪）

〔一四三～一五四〕第一～一二

攝頌曰：

力與種子龍
樹瓶以及芒
虛空及二雲
船舶與客河

以覺支相應之力所作品，用以廣說欲貪。

第十六品（終）

第一七 尋覓品（調伏欲貪）

〔一五五～一六五〕第一～一一

攝頌曰：

尋覓次第漏
有三苦礙垢
搖受二渴愛

以覺支相應之尋覓品，用以廣說欲貪也。

第十七品（終）

第一八 瀑流品（調伏欲貪）

〔一六六～一七四〕第一～九

一

舍衛城因緣。

二

諸比丘！瀑流有四種。以何為四耶？欲流、有流、見流、無明流是。……乃至廣說……

〔一七五〕第十 上分結

※二

諸比丘！有五上分結。以何為五耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五上分結。

三

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五上分結，應修習七覺支。以何為七耶？

四

諸比丘！於此有比丘調伏究盡欲貪、調伏究盡瞋恚、調伏究盡愚癡……趣向不死、傾向不死、臨入不死……趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃以修習念覺支……〔擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支〕……捨覺支。

五

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷此五上分結，應修習此七覺支。

攝頌曰：

瀑流與軛取
繫隨眠妙欲
蓋蘊上下分

應知此品用以究盡欲貪、究盡瞋恚、究盡愚癡。

覺支相應中之第
十四暴流品
(終)

應以廣說道相應處，廣說覺支相應。

覺支相應(終)

第三 念處相應

第一 菴羅品

〔一〕第一 菴羅

一

如是我聞。爾時，世尊住毘舍離國之菴羅園中。

二

於此，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！」

諸比丘應諾世尊曰：「大德！」世尊曰：

三

「諸比丘！有此一乘道，能使眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃，謂四念處。以何為四耶？」

四

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念、調伏世間之貪憂而住，於受觀受……於心觀心……於法觀法，熱誠、正知、正念、調伏世間之貪憂而住。

五

諸比丘！有此一乘道，能使眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃，謂四念處。」

六

世尊如是說已，彼諸比丘生喜悅，歡喜於世尊之所說。

〔二〕第二 正念

一

爾時，世尊住毘舍離國之菴羅園中。

二

於此，世尊告諸比丘曰：

〔「諸比丘！」

彼諸比丘應諾世尊曰——「大德！」世尊曰：〕

三

「諸比丘！比丘應以正念、正知而住，此是我為汝等之教誡。」

四

諸比丘！云何為比丘之正念耶？

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間貪憂而住，於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間貪憂而住。

諸比丘！如是為比丘之正念。

五

諸比丘！云何為比丘之正知耶？

諸比丘！於此有比丘，進退以正知而作，觀察以正知而作，屈伸以正知而作，持僧伽梨、鉢衣以正知而作，飲食嚐味以正知而作，大小便以正知而作，行住坐臥眠醒語默以正知而作。

諸比丘！如是為比丘之正知。

六

諸比丘！比丘應以正念、正知而住，此即我為汝等之教誡。」

〔三〕第三 比丘

一

爾時，世尊住舍衛城，祇樹林之給孤獨園。

二

時，有一比丘，來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之彼比丘白世尊曰：

三

「願大德世尊為我略說示法要。我聞世尊之法，獨靜居、不放逸、熱誠、專精而住。」

「於此有一類之愚人，若如是請我說法者，我則得做思惟。」

「大德世尊！願為我略說法，我悟世尊所說之義，當為世尊所說之相續者。」

「比丘！然則汝於善法之初應當清淨，何為善法之初耶？戒之悉皆清淨，與見之正直。比丘！汝若於戒悉皆清淨且得見正直者，比丘！汝則依戒立戒，三重修習四念處。以何為四耶？

四

比丘！汝於內，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於外，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於內外，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於內，於受……於外，於受……於內外，於受觀受……乃至……於內，於心……於外，於心……於內外，於心觀心……乃至……於內，於法……於法，於外，於法……於內外，於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

五

比丘！汝依戒立戒，如是修習此四念處者，比丘！汝則可期與日夜俱善法之增長，〔不期〕損滅。」

六

時，彼比丘歡喜、隨喜世尊之所說，則從座起，禮敬世尊，右繞離去。

七

時，彼比丘獨靜居，不放逸、熱誠、專精而住。善男子以離家而出家之本義，於現法究竟無上之梵行，以自證知、現

證、具足而住。知：生已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。

八

彼比丘成為阿羅漢之一。

〔四〕第四 薩羅

一

如是我聞。爾時，世尊住憍薩羅園，薩羅婆羅門村。

二

於此，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！」

彼諸比丘應諾世尊曰：「大德！」世尊曰：

三

「諸比丘！諸新參比丘，出家未久，新接受此法、律者，諸比丘！汝等應勸導使修習四念處而住。以何為四耶？〔當說：〕

四

『友等！汝等於身觀身而住，為如實知身，應熱誠、正知、一趣、心清淨、得定、心一境。於受觀受而住，為如實知受，應熱誠、正知、一趣、心清淨、得定、心一境。於心觀心而住，為如實知心，應熱誠、正知、一趣、心清淨、得定、心

一境。於法觀法而住，為如實知法，應熱誠、正知、一趣、心清淨、得定、心一境。』

五

諸比丘！諸有學比丘，尚未獲得心，以志求無上安穩而住者，於身觀身而住，為徧知於身，熱誠、正知、一趣、心清淨、得定、心一境。於受觀受而住……於心觀心而住……於法觀法而住，為徧知於法，熱誠、正知、一趣、心清淨、得定、心一境。

六

諸比丘！諸漏盡之阿羅漢比丘，梵行已立，所作已辦，捨重擔而獲得己利，盡有結之正知解脫者，尚且於身觀身而住，熱誠、正知、一趣、心清淨、得定、心一境，而離身之繫。於受觀受而住……於心觀心而住，於法觀法而住，熱誠、正知、一趣、心清淨、得定、心一境，以離法之繫。

七

諸比丘！諸新參比丘之出家未久，新接受此法、律者，亦宜勸導使修習此四念處而住。」

〔五〕第五 善聚

一～二

舍衛城……於此，世尊說示曰：——

三

「諸比丘！不善聚者即是五蓋，是為正說。諸比丘！純一之不善聚者，即為五蓋。以何為五耶？」

四

欲貪蓋、瞋蓋、惛眠蓋、掉悔蓋、疑惑蓋是。諸比丘！不善聚者，即此五蓋，是為正說。諸比丘！純一之不善聚者，即此五蓋。

五

諸比丘！善聚者即是四念處，是為正說。諸比丘！純一之善聚者，即四念處。以何為四耶？」

六

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。諸比丘！善聚者，即是四念處，是為正說。比丘！純一之善聚者，即此四念處。」

〔六〕第六 鷹

※三

「諸比丘！於過去世有鷹，忽而襲捉鵓。」

四

諸比丘！時，鵓被鷹所獲，如是悲嘆云：『我等若遊於非行處、他境界者，則是不祥、福少。我今日若遊於自行處、父母境界者，則鷹雖戰亦不得我。』『鵓！何為汝之自行處、父母境界耶？』『田耕之壟是。』

五

諸比丘！時，鷹確信於自力，亦不讓於自力，因以放鶉而言曰：『鶉！去！雖儘往彼處，亦難逃離於我。』

六

諸比丘！時，鶉飛往田耕之壟，挺立於大壟之上曰：『鷹來！鷹來！』

七

諸比丘！時，鷹確信於自力，不讓於自力，忽而縮其兩翼對鶉襲來。諸比丘！鶉知『鷹力壯向我襲來』乃退縮於彼壟塊中。諸比丘！時，此鷹乃衝撞其胸。

八

諸比丘！如是，乃遊於非行處、他境界者。諸比丘！是故勿遊於非行處、他境界。諸比丘！遊於非行處、他境界者，則魔得機緣、得所緣。

九

諸比丘！何為比丘之非行處、他境界耶？謂五妙欲是。以何為五耶？

一〇

眼所識之色為可樂、可愛、可意、愛色、引欲、可染；耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸為可樂、可愛、可意、愛色、引欲、可染。諸比丘！此為比丘之非行處、他境界者。

一一

諸比丘！應遊於自行處、父母境界。諸比丘！遊於自行處、父母境界者，則魔不得機緣、不得所緣。

一二

諸比丘！何為比丘之自行處、父母境界耶？謂四念處是。以何為四耶？

一三

諸比丘！此處有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，誠熱、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。諸比丘！此為比丘之自行處、父母境界。」

〔七〕第七 猿猴

※三

「諸比丘！於雪山王中有嶮峻之處，為猿猴亦不能往，人亦不能往者。

四

諸比丘！於雪山王中有嶮峻之處，為猿猴可往，而人不能往者。

五

諸比丘！於雪山王中有平等、可樂之處，猿猴、人均可往。諸比丘！於此獵師於猿猴之路，塗糝以捕捉猿猴。諸比

丘！若諸猿猴不愚癡、不輕率者，見其獼則遠避。又，猿猴之愚癡、輕率者，則來以手觸其獼，其手即被捉；欲脫其手，而以第二手相觸，其手亦被捉；為欲脫二手，而以足相觸，其足即被捉；欲脫二手與足，而以第二足相觸，其足即被捉；為欲脫二手足，而以口相觸，其口即被捉。

六

諸比丘！如是猿猴五處被捉，呻吟而臥、困窮苦惱，即隨獵師之所欲。諸比丘！獵師得此、即將猿猴隨所欲貫穿運置而去。

七

諸比丘！如是，乃遊於非行處、他境界者，諸比丘！是故勿遊於非行處、他境界。諸比丘！若遊於非行處、他境界者，則魔得機緣、得所緣。

八

諸比丘！何為比丘之非行處、他境界耶？謂五妙欲是。以何為五耶？

九

眼所識之色是可樂、可愛、可意、愛色、引欲、可染；耳所識之聲……鼻所識之香……舌所識之味……身所識之觸是可樂、可愛、可意、愛色、引欲、可染。諸比丘！此為比丘之非行處、他境界。

一〇

諸比丘！應遊於自行處、父母境界。諸比丘！遊於自行處、父母境界者，則魔不得機緣、不得所緣。

一一

諸比丘！何為比丘之自行處、父母境界耶？謂四念處是。以何為四耶？

一二

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。諸比丘！此為比丘之自行處、父母境界。」

〔八〕第八 廚士

一

※三

「諸比丘！譬如對王、王臣，有愚癡不聰明無能之廚士，備酸、苦、辛、甘、苛、不苛、鹹、不鹹、種種之羹。

四

諸比丘！彼愚癡不聰明無能之廚士，不知主人之食相，以『今日此食羹為善』，即著手多取於此，以顯其色；以『今日之酸食羹為善』，即著手多取於酸，以顯其酸色；並以『今日之苦……辛……甘……苛……不苛……鹹……不鹹食羹為善』，即著手多取於不鹹，以顯其不鹹之色。

五

諸比丘！彼愚癡不聰明無能之廚士，則不得庇護、不得俸給、不得獎賞。何以故？諸比丘！彼愚癡不聰明無能之廚士，乃不知主人之食相。

六

諸比丘！如是，於此有一類愚癡不聰明無能之比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼雖於身觀身而住，然其心不得定，不能斷隨煩惱，彼不知其相。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼雖於法觀法而住，然其心不得定，不能斷隨煩惱，彼不知其相。

七

諸比丘！彼愚癡不聰明無能之比丘，不得現法樂住，不得正知、正念。何以故？諸比丘！彼愚癡不聰明之比丘，不知自之心相。」

二

八

「諸比丘！譬如對王、王臣，有具智聰明善能之廚士，備酸、苦、辛、苛、不苛、鹹、不鹹、種種之羹。

諸比丘！彼具智聰明善能之廚士，知主人之食相，以『今日之此食羹為善』，即著手多取於此，以顯其色；以『今日酸之食羹為善』，即著手多取於酸，以顯其酸之色；以『今日之苦……辛……甘……苛……不苛……鹹……不鹹食羹為善』，即著手多取於不鹹，以顯其不鹹之色。

九

諸比丘！彼具智聰明善能之廚士，乃能得庇護、得俸給、得獎。何以故？諸比丘！彼具智聰明善能之廚士，乃知主人之食相。

一〇

諸比丘！如是，於此有一類具智聰明善能之比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼於身觀身而住，其心得定，斷隨煩惱，彼知其相。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼於法觀法而住，其心得定，斷隨煩惱，彼知其相。

一一

諸比丘！彼具智聰明善能之比丘，得現法樂住，得正念、正知。何以故？諸比丘，彼具智聰明善能之比丘，知自之心相。」

〔九〕第九 病

一

如是我聞。爾時，世尊住毘舍離國竹林叢中。

二

於此，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！汝等於毘舍離之附近，隨親友、相識、友好而入雨安居，我於此處竹林叢入雨安居。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應諾世尊，乃於毘舍離之附近，隨親友、相識、友好而入雨安居。世尊於竹林叢入雨安居。

三

時，世尊入雨安居後，忽起重病，轉為將致死之劇痛。於此，世尊住於正念、正知而不沮喪。

四

時，世尊思念：「我若不告隨從、不顧比丘眾而入般涅槃者，則不相稱。我宜住精勤，降伏此病，以留住壽行。」時，世尊住於精勤，降伏彼病，以留住壽行。

五

時，世尊病癒。病癒未久，即出精舍，於精舍後清涼處，設座而坐。

六

時，具壽阿難詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之具壽阿難白世尊曰：

「是慶幸事。大德！能忍耐，是慶幸事。大德！世尊足矣。大德！因見世尊病，我身惶懼，四面不明、諸法不辨。大德！但我有少分之安心，世尊未對比丘眾作少分之宣稱，當不為般涅槃。」

七

「阿難！比丘眾對我何所須耶？阿難！我說無別內外之法。阿難！於如來法中無有『師』。阿難！若思『我統理比丘眾』、『比丘眾思念恃靠於我』，對於比丘眾應有所宣稱。阿難！然而如來不思『我統理比丘眾』、『比丘眾思念恃靠於我』。阿難！如來更何須對比丘眾有所宣稱耶？」

八

阿難！我今已經年老衰，加久生之年齡已八十歲。阿難！譬如助行古車之皮紐，阿難！如來之身，亦似為皮紐所助而行。

九

阿難！如來不作意一切相、滅一一之受，住於具足無相心三昧時，如來則得安穩。阿難！然而應以自為洲、以自為依處，不比其他為依處；以法為洲、以法為依處，不比其他為依處而住。

阿難！云何比丘應以自為洲、以自為依處，不比其他為依處；以法為洲、以法為依處，不比其他為依處而住耶？」

一〇

阿難！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

阿難！如是，比丘以自為洲、以自為依處，不比其他為依處；以法為洲、以法為依處，不比其他為依處而住。

一一

阿難！於今或我滅度後，應以自為洲、以自為依處，不以其他為依處；以法為洲、以法為依處，不以其他為依處，則於勤學（佛法）者中，乃我最上之比丘。」

〔一〇〕第十 比丘尼

一

舍衛城……

二

時，具壽阿難於晨早時分，著下衣、持衣、鉢，往一比丘尼寺。往已，設座而坐。

三

時，眾多之比丘尼來至具壽阿難之處。至已，禮敬具壽阿難，坐於一面。坐於一面之彼諸比丘尼，言於具壽阿難曰：

四

「大德阿難！此處眾多之比丘尼，善繫心於四念處而住，知前後昇降之廣大。」

「姊妹！如是。姊妹！如是。姊妹！諸比丘、比丘尼，善繫心於四念處而住者，於彼則期於知前後昇降之廣大。」

五

時，具壽阿難說法教授彼諸比丘尼，勸導、讚勵，使之慶喜，即從座起而離去。

時，具壽阿難行往舍衛城乞食。食後，由乞食歸來，詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之具壽阿難，白世尊曰：

「大德！我晨早時分，著下衣、持衣、鉢，往一比丘尼寺。至已，設座而坐。大德！時眾比丘尼來至我處。至已，對我禮敬而坐於一面。大德！坐於一面之彼諸比丘尼，言於我曰：『大德阿難！此處眾多之比丘尼，善繫心於四念處而住，知前後昇降之廣大。』大德！如是說之，我對彼諸比丘尼曰：『姊妹！如是。姊妹！如是。姊妹！諸比丘、比丘尼善繫心於四念處而住者，於彼則期知於前後昇降之廣大。』」

六

「阿難！如是、如是。阿難！諸比丘、比丘尼善繫心於四念處而住者，於彼則期知於前後昇降之廣大。以何為四念耶？

七

阿難！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼於身觀身而住，然或身之所緣、身之熱煩、心之退縮，使念散亂於外。阿難！彼比丘應於淨相以繫心，彼以繫心於淨相，則生勝喜；有勝喜者，則生喜；有意喜者，則身輕安；身輕安者，則受樂；有樂者，則得心定。彼如是思擇：『我繫於心，成就其所繫處；今攝而休息。』彼攝而休息，乃無尋求、無伺察。彼知：『我無尋、無伺，而於內有念樂。』

八～九

阿難！又於受……於心……

一〇

於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏以世間之貪憂而住。彼於法觀法而住，然或法之所緣、身之熱煩、心之退縮，使念散亂於外。阿難！彼比丘應於淨相以繫心，彼繫心於淨相，則生勝喜；有勝喜者，則生喜；有意喜者，則身輕安；有身輕安者，則受樂；有樂者，則得心定。彼如是思擇：『我繫於心，成就其所繫處；今攝而休息。』彼攝而休息，則無尋求、無伺察。彼知：『我無尋、無伺，於內有念樂。』

一一

阿難！如是為修習繫念。

一二

阿難！云何為修習無繫念？

一三

阿難！比丘於外不繫心，知『我心不繫於外』；又知心於前後不攝取、解脫，為『無繫』；又知『於身觀身，熱誠、正知、正念而住於樂。』

一四

阿難！比丘對外不繫心，知『我心不繫於外』；又知心於前後不攝取、解脫，為『無繫』；又知『於受觀受，熱誠、正知、正念而住於樂。』

一五

阿難！比丘於外不繫心，知『我心不繫於外』；又知心於前後無攝取、解脫，為『無繫』；又知『於心觀法，熱誠、正知、正念而住於樂。』

一六

阿難！比丘於外不繫心，知『我心不繫於外』；又知心於前後無攝取、解脫，為『無繫』；又知『於法觀法，熱誠、正知、正念而住於樂。』

一七

阿難！如是為修習無繫念。

一八

阿難！如是我說修習繫念、修習無繫念。阿難！希求、愍哀弟子之利益，應由師之哀愍而作者，我為汝等而作。阿難！此處有樹下，有空閒處，阿難！當靜慮，勿放逸，勿於後追悔。此為我對汝等之教誡。」

一九

世尊如是說已，阿難喜悅，歡喜世尊之所說。

此品之攝頌曰：

菴羅正念比丘
薩羅以及善聚
鷹與猿猴廚士
病比丘尼等十

第二 那羅健陀品

〔一一〕第一 大丈夫

一

舍衛城因緣。

二

時，具壽舍利弗來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之具壽舍利弗，白世尊曰：

三

「大德！所云大丈夫，大丈夫者。大德！云何為大丈夫耶？」

「舍利弗！心解脫故，我稱之為大丈夫；心未解脫者，則不稱為大丈夫。

舍利弗！何為心解脫耶？

四

舍利弗！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼於身觀身而住，心無所取，而由諸漏離貪解脫。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼於法觀法而住，心無所取，而由諸漏離貪解脫。

五

舍利弗！如是而心解脫。舍利弗！心解脫故，我說為大丈夫；心未解脫者，我不說謂為大丈夫。」

〔一二〕第二 那羅健陀

一

爾時，世尊住那羅健陀，賣衣者菴羅園。

二

時，具壽舍利弗來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之具壽舍利弗，白世尊曰：

三

「大德！過去、未來、現在之沙門、婆羅門，於等覺，無有勝於世尊之通智者，我如是深信於世尊。」

「舍利弗！汝說廣大最勝之言，肯定深信，作師子吼：『大德！過去、未來、現在之沙門、婆羅門，於等覺，無有勝於世尊之通智者，我如是深信世尊。』」

四

舍利弗！汝對過去世之應供、正等覺者，以心念審察一切世尊之心念，（而知）諸世尊之戒如是，諸世尊之法如是，諸世尊之慧如是，諸世尊之住如是，諸世尊之解脫為如是耶？」

「不也，大德！」

五

「舍利弗！汝對未來世之應供、正等覺者，以心念審察一切世尊之心念，（而知）諸世尊之戒如是，諸世尊之法如是，

諸世尊之慧如是，諸世尊之住如是，諸世尊之解脫為如是耶？」

「不也，大德！」

六

「舍利弗！汝對現在世之應供、正等覺者，以心念審察世尊之心念，（而知）世尊之戒如是，世尊之法如是，世尊之慧如是，世尊之住如是，世尊之解脫為如是耶？」

「不也，大德！」

七

「舍利弗！然則汝對過去、未來、現在之諸應供、正等覺者，無有心差別智，云何說廣大最勝之言，肯定深信，作師子吼：『大德！過去、未來、現在之沙門、婆羅門，於等覺，無有勝於世尊之通智者，我如是深信於世尊』耶？」

「大德！我對於過去、未來、現在之諸應供、正等覺者，無有心之差別智，但知法之分齊。

八

大德！譬如有王者，於邊土有都城，城壁牢固、壁樓牢固、唯有一門。於此具智聰明賢能之守門者，以遮不知之人，而知之人則得入。彼巡察其都城周匝之路，雖未見壁隙、壁孔，乃至如貓之匍出，彼思念：『麤大生類而出入此都城者，皆得由此門出入。』大德！如是，我知法之分齊。

九

大德！於過去世之應供、正等覺者、一切之世尊，為斷心之隨煩惱——使慧羸弱、及斷五蓋，繫心於善四念處，如實修習七覺支，以現等覺、無上正等覺。大德！於未來世將為應供、正等覺者、一切之世尊，為斷心之隨煩惱——使慧羸弱、及斷滅五蓋，繫心於善四念處，如實修習七覺支，以現等覺、無上正等覺。」

一〇

「善哉，善哉！舍利弗！舍利弗！汝數數以此法門為比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷說示，舍利弗！諸愚人於如來有疑懼、疑惑者，若聞此法門，則對如來斷疑懼、疑惑。」

〔一三〕第三 純陀

一

爾時，世尊住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

其時，具壽舍利弗住摩竭提之那羅聚落，因患重疾病而困苦。純陀沙彌為具壽舍弗之侍者。

三

時，具壽舍利弗因其疾病而般涅槃。

四

時，純陀沙彌持具壽舍利弗之衣鉢，至舍衛城祇樹給孤獨園阿難住處。至已，禮敬具壽阿難，坐於一面。坐於一面之沙彌純陀，白具壽阿難曰：

「大德！具壽舍利弗已涅槃矣，有其衣鉢在此。」

五

「友純陀！有此事由者，應去見世尊。友純陀！詣世尊住處。詣已，以此事稟告世尊。」

「唯唯，大德！」

純陀沙彌應諾具壽阿難。

六

時，具壽阿難與純陀沙彌來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之具壽阿難，白世尊曰：

「大德！依此純陀沙彌言：『大德！具壽舍利弗已般涅槃，此有其衣鉢。』大德！聞具壽舍利弗般涅槃，我身惶懼，四面不明，不辨諸法。」

七

「阿難！舍利弗是取戒蘊而般涅槃耶？取定蘊而般涅槃耶？取慧蘊而般涅槃耶？取解脫蘊而般涅槃耶？取解脫智見蘊而般涅槃耶？」

「大德！具壽舍利弗並非取戒蘊而般涅槃……〔定蘊……慧蘊……解脫蘊〕……並非取解脫智見蘊而般涅槃。大德！然則具壽舍利弗乃我之教誡者，彼為已渡者、教授者、教示者、勸導者、讚勵者、慶喜者，說法不倦、攝取同梵行者，故我憶念具壽舍利弗之法威力、法受用、法攝受。」

八

「阿難！我豈非豫說耶？『與一切所愛樂者，別離、離散、分離。』阿難！云何可得常耶？凡有所生、所為、有為、有滅壞之法者，使之不滅壞，無有是理。」

九

阿難！譬如堅固之大樹住立，先壞其大枝，阿難！如是堅固之大比丘眾住，有舍利弗之般涅槃。阿難！云何可得常耶？所生、所成、有為、有滅壞之法者，使之不滅壞，則無有是理。

一〇

阿難！然則應以自為洲、自為依處，不以其他為依處；以法為洲、以法為依處，不以其他為依處而住。

阿難！云何比丘應以自為洲、以自為依處，不以其他為依處；以法為洲、以法為依處，不以其他為依處而住耶？

一一

阿難！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

阿難！如是之比丘，以自為洲，以自為依處，不以其他為依處；以法為洲、以法為依處，不以其他為依處而住。

一二

阿難！於今或我滅度後，當以自為洲、以自為依處，不以其他為依處；以法為洲、以法為依處，不以其他為依處，則於

勤學（佛法）中，乃我最上之比丘。」

〔一四〕第四 支羅

一

爾時，世尊住跋祇國，郁迦支羅之恆河邊，與大比丘眾俱。時，舍利弗與目犍連般涅槃未久。

二

其時，比丘眾圍繞世尊，而坐於露地上。時，世尊默然觀察比丘眾已，告諸比丘曰：

三

「諸比丘！自舍利弗、目犍連般涅槃，此眾會似如空虛。諸比丘！少此二者，此眾會如空虛。（然）不須顧慮舍利弗、目犍連所住之方。

四

諸比丘！過去世應供、正等覺者、諸世尊，亦有一雙最上弟子；於我，則如舍利弗、目犍連者是。諸比丘！未來世之應供、正等覺者、諸世尊，亦有一雙最上弟子；於我，則如舍利弗、目犍連。

五

諸比丘！（彼二者）於諸弟子是希有者，於諸弟子是未曾有者——行師之教說，遵守教誡，為四眾所愛敬、喜悅、尊重、供養。諸比丘！（彼二者）於如來是希有者，於如來是未曾有者，然如是一雙之弟子般涅槃，如來是無悲愁者。

諸比丘！云何得於常？所生、所滅、有為、有滅壞之法者，使之不滅壞，乃無有是處。

六

諸比丘！譬如堅固之大樹住立，先壞其大枝，諸比丘！如是堅固之大比丘眾住，有舍利弗、目犍連之般涅槃。諸比丘！云何可得〔常住〕耶？所生、所成、有為、有滅壞之法者，使之不滅壞，乃無有是理。

七

諸比丘！然則，應以自為洲、〔以自為依處，不比其他為依處；以法為洲、以法為依處，〕不以他為依處。

諸比丘！云何比丘當以自為洲、以自為依處，不比其他為依處；以法為洲、以法為依處，不比其他為依處耶？

八

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，〔熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心〕……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！如是，比丘以自為洲、以自為依處，不比其他為依處；以法為洲、以法為依處，不比其他為依處而住。

九

諸比丘！於今或我滅度後，當以自為洲〔、以自為依處，不比其他為依處；以法為洲、以法為依處，不比其他為依處〕，則於勤學者中，乃我最上之比丘。」

〔一五〕第五 婆醯迦

一

舍衛城因緣。

二

時，具壽婆醯迦詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之具壽婆醯迦，白世尊曰：

「大德！願為我略說法，我聞世尊之法，將獨靜居，不放逸、熱誠、專精而住。」

「婆醯迦！然則，汝應清淨於善法之初。何為善法之初耶？善清淨之戒與正直之見是。

三

婆醯迦！汝若於戒善清淨且得見正直者，婆醯迦！汝則依戒、立戒，修習四念處。以何為四耶？

四

婆醯迦！於此，汝於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。婆醯迦！汝依戒、立戒，如是修習此四念處。婆醯迦！應期於夜來晝去，於汝善法之增長；不期於損壞。」

五

時，具壽婆醯迦歡喜、隨喜於世尊之所說，即從座起，敬禮世尊，右繞而離去。

六

時，具壽婆醯迦獨靜居，不放逸、熱誠、專精而住。不久之後，善男子以由家出家之本義，於現法究盡無上之梵行，自證、現證、具足而住，了知；諸漏已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。

七

具壽婆醯迦成為阿羅漢之一。

〔一六〕第六 鬱低迦

一

舍衛城因緣。

二

時，具壽鬱低迦詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之具壽鬱低迦白世尊曰：

「大德！願為我略說法，我聞世尊之法，則獨靜居，不放逸、熱誠、專精而住。」

「鬱低迦！然則，汝應清淨於善法之初。以何為善法之初耶？善清淨之戒與正直之見是。」

三

鬱低迦！汝若於戒善清淨且得正直之見，鬱低迦！汝則依戒、立戒，修習四念處。以何為四耶？

四

鬱低迦！於此，汝於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。鬱低迦！汝依戒、立戒，如是修習此四念處者，鬱低迦！汝則得死界之彼岸。」

五

時，具壽鬱低迦……乃至……成為一阿羅漢。

〔一七〕第七 聖

一

舍衛城……

二

「諸比丘！若修習、多修於四念處者，則此聖道導於出離；而修此者，是正至滅盡於苦。以何為四耶？

三

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

四

諸比丘！修習、多修此四念處者，則此聖道導於出離；而修此者，是正至滅盡於苦。」

〔一八〕第八 梵天王

一

爾時，世尊於鬱毗羅尼連禪河邊，阿踰波羅尼拘律之樹下，初現等覺而住。

二

時，世尊獨居安默，乃生如是心念：

「此有一乘道，能令眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃，謂四念處是。以何為四耶？」

三

比丘於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

此是一乘道，能令眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃，謂四念處是。」

四

時，娑婆主梵天以心知世尊之心念，猶如力士屈伸於腕，如是乃速沒於梵天界，而現於世尊之前。時，娑婆主梵天王，偏袒上衣，向世尊合掌，問於世尊曰：

五

「如是世尊！如是善逝！大德！有一乘道，能令眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃，謂四念處是。以何為四耶？」

大德！比丘於身觀身，熱誠正知、正念，調伏世間之貪憂而住。於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

大德！此一乘道，能令眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃。謂四念處是。」

六

娑婆主梵天王如是說。娑婆主梵天王如是說已，更說：

見生之盡邊
知一乘之道
有利益哀愍
依此道過去
於未來現在
當可渡瀑流

〔一九〕第九 私伽陀

一

爾時，世尊住孫巴國之私伽陀孫巴村中。

二

於此，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！於過去世有緣幢伎師，樹立幡幢而言於弟子迷勒迦曰：『迷勒迦！汝昇幢立於我頭上之竿。』」

諸比丘！彼弟子迷勒迦應諾緣幢伎師曰：『唯唯，吾師！』即昇幢立於乃師頭上之竿。

三

諸比丘！時，緣幢伎師言於弟子迷勒迦曰：『迷勒迦！汝護我，我護汝，我等如是相互守持、相互護持，以示伎藝。迨得財利，且得安穩自幡幢而降。』

四

諸比丘！如是言已，弟子迷勒迦言於緣幢伎師曰：『吾師！此事不然。吾師！汝須護己，我當自護，我等如是自守、自護以示伎藝，迨得財利，且得安穩自幡幢而降，此乃正理。』」

五

世尊更說曰：「猶如弟子迷勒迦對乃師之所言，諸比丘！應以『自護』以修習念處，應以『護他』以修習念處。諸比丘！自護者則護他，護他者則自護。

六

諸比丘！云何自護則護他耶？依修習、多修。諸比丘！如是，自護則護他。

七

諸比丘！云何護他則自護耶？依於忍辱、無害、慈愛、哀愍。諸比丘！如是，護他則自護。

八

諸比丘！以『自護』則應修念處，『護他』則應修念處。
諸比丘！自護則護他，護他則自護。」

〔二〇〕第十 國土

一

一時，世尊住孫巴國私伽陀之孫巴村中。

二

於此處，世尊告於諸比丘曰：

三

「諸比丘！譬如國土〔中〕有第一美女，因國土〔中〕有第一美女，而大眾則雲集。彼國土〔中〕之第一美女，又最善舞、最善歌。諸比丘！國土之第一美女，因能歌舞，則雲集更多之大眾。時，士夫之樂命，不樂死，樂於樂，厭於苦者而來，有人言於彼曰：『士夫！汝持此裝滿油之，通過於大眾與國土〔中〕第一美女之間，又〔另〕一士夫拔劍隨汝之後，若油有少許之撒落，即斷汝之頭。』諸比丘！汝等於意云何耶？彼士夫對其油瓶不作意，以致放逸於外耶？」「不也，大德！」

四

「諸比丘！我說此喻，乃為使知其義趣。義趣者，諸比丘！『油滿之瓶』，即身念之增上語是。」

五

諸比丘！是故，應如是學：我等當修習、多修身念，作為乘、作為地，以隨成，善積習造作。諸比丘！汝等當如是學。」

第二 那羅健陀品（終）

此品之攝頌曰：

大丈夫與那羅健陀
純陀與支羅婆醯迦
鬱低迦聖與梵天王
私伽陀國土等為十

第三 戒住品

〔二一〕第一 戒

一

如是我聞。一時，具壽阿難與具壽跋陀羅住於巴速弗邑之鷄林精舍。

二

時，具壽跋陀羅於日暮時分，由宴默起，至具壽阿難住處。至已，與具壽阿難互相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。坐於一面之具壽跋陀羅，言於具壽阿難言曰：

三

「友阿難！世尊所說善戒，世尊依何之義以說善戒耶？」

「善哉、善哉！友跋陀羅！友跋陀羅！汝之誘導亦善，辯才亦善，所問亦善。友跋陀羅！汝如是問：『友阿難！世尊所說善戒，世尊依何之義以說善戒耶？』」

「友！如是。」

四

「友跋陀羅！世尊所說善戒者，乃為修習四念處，世尊說為善戒。以何為四耶？」

五

友！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

友跋陀羅！世尊所說善戒者，乃為修習四念處，世尊說為善戒。」

〔二二〕第二 住

一

因緣同上

二

……坐於一面之具壽跋陀羅，言於具壽阿難曰：

三

「友阿難！以何因、何緣，如來般涅槃之後，正法不能久住耶？友阿難！又以何因、何緣，如來般涅槃之後，正法久住耶？」

「善哉、善哉！友跋陀羅！友跋陀羅！汝之誘導亦善，辯才亦善，所問亦善。友跋陀羅！汝如是問：『友阿難！以何因、何緣，如來般涅槃後，正法不能久住耶？友阿難！又以何因、何緣，如來般涅槃後；正法得久住耶？』」

「友！如是。」

四

「友！因不修習、不多修四念處，故如來般涅槃之後，正法不能久住。友！因修習、多修四念處，故如來般涅槃之後，正法能久住。以何為四耶？」

五

友！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。友！因不修習、不多修四念處，故如來般涅槃之後，正法不能久住。友！又因修習、多修四念處，故如來般涅槃之後，正法能久住。」

〔二三〕第三 損減

一～二

巴連弗邑之鷄林精舍

三

「友阿難！以何因、何緣，有正法之損滅耶？友阿難！以何因、何緣，有正法之不損滅耶？」

「善哉、善哉！友跋陀羅！友跋陀羅！汝之誘導亦善，辯才亦善，所問亦善。友跋陀羅！汝如是問：『友阿難！以何因、何緣，有正法之損滅耶？友阿難！以何因、何緣，有正法之不損滅耶？』」

「友！如是。」

四

「友！因不修習、不多修四念處，故有正法之損滅。友！因修習、多修四念處，故有正法之不損滅。何為四念處耶？」

五

友！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。友！因不修習、不多修此四念處，故有正法之損滅。友！因修習、多修此四念處，故有正法之不損滅。」

〔二四〕第四 清淨

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！有四念處。以何為四耶？」

三

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！此為四念處。」

〔二五〕第五 婆羅門

一

如是我聞。爾時，世尊住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

時，有一婆羅門來詣世尊住處。詣已，與世尊相俱交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。坐於一面之婆羅門，白世尊曰：

三

「尊瞿曇！有何因、何緣，如來般涅槃之後，正法不能久住耶？尊瞿曇！又有何因、何緣，如來般涅槃之後，正法能久住耶？」

四

「婆羅門！因不修習、不多修四念處，故如來般涅槃之後，正法不久能住。婆羅門！因修習、多修四念處，故如來般涅槃之後，正法能久住。以何為四念處耶？」

五

婆羅門！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。婆羅門！因不修習、不多修此四念處，故如來般涅槃之後，正法不能久住。婆羅門！又因修習、多修此四念處，故如來般涅槃之後，正法能久住。」

六

如是說已，彼婆羅門白世尊曰：

「妙哉！尊瞿曇！〔譬如倒者之扶起，覆者之揭露，教迷者以道，如於暗中揭燈火，使有眼者得見色。如是，尊瞿曇以種種方便顯示於法。我於此處，歸依尊瞿曇、法與比丘眾〕。尊瞿曇請容我自今日起，終生歸依為優婆塞。」

〔二六〕第六 一分

一

爾時，具壽舍利弗與具壽大目犍連與具壽阿那律，住於沙祇國之乾達契林。

二

時，具壽舍利弗與具壽大目犍連，於日暮時分，從宴默起，往具壽阿那律處。到已，與具壽阿那律互相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。坐於一面之具壽舍利弗言於具壽阿那律曰：

三

「友阿那律！有學、有學之謂者，友！云何為有學耶？」

「友等！因修習四念處之一分，故為有學。以何為四念處耶？」

四

友等！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

友等！因修習此四念處之一分，故為有學。」

〔二七〕第七 悉皆（全分）

一

因緣同上

二

……坐於一面之具壽舍利弗，言於具壽阿那律曰：

三

「友阿那律！無學、無學之謂者，友！云何為無學耶？」

「友等！因修習四念處之全分，故為無學。以何為四念處耶？」

四

友等！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

友等！修習此四念處之全分，故為無學。」

〔二八〕第八 世界

一

因緣同上

二

……坐於一面之具壽舍利弗，言於具壽阿那律曰：

三

「具壽阿那律！修習、多修何法，得大通智耶？」

「友等！修習、多修四念處，得大通智。以何為四念處耶？」

四

友等！於此，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

友等！我修習、多修此四念處，得大通智。

五

友等！又我因修習、多修此四念處，故勝於千世界。」

〔二九〕第九 尸利阿荼

一

爾時，具壽阿難住於王舍城竹林迦蘭陀園。

二

其時，尸利阿荼居士因患重疾病而困苦。

三

時，尸利阿荼告於一士夫曰：

「士夫！汝往阿難住處。到已，以我語，頭面頂禮具壽阿難之足，言於大德：『尸利阿荼居士因患重疾病而困苦。』彼言：『頭面頂禮具壽阿難之足，哀愍之故，願大德具壽阿難來尸利阿荼之家。』」

彼士夫應諾尸利阿荼居士曰：

「唯唯！大德！」

乃逕往具壽阿難住處。

四

到已，頂禮具壽阿難後，坐於一面。坐於一面之彼士夫，白具壽阿難曰：

「大德！尸利阿荼居士患重疾病而困苦。彼言：『頭面頂禮具壽阿難之足，哀愍故，願大德具壽阿難，來尸利阿荼居士之家。』」

具壽阿難默然允許。

五

時，具壽阿難著下衣、持衣鉢，往尸利阿荼居士之家。到已，坐於所設之座。坐已，具壽阿難言尸利阿荼曰：

六

「居士！汝能忍耶？苦受退而不進，知所減退，不知增進耶？」

「大德！我不能忍，激苦之受有進無退，知增進而不知減退。」

七

「居士！然則，汝應如是學：『我於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。』居士汝應如是學。」

八

「大德！我有世尊所說之四念處，我亦與此法俱。大德！我於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。」

九

大德！又世尊所說之五下分結，於我，未見有少分未斷者。」

一〇

「居士！汝是吉祥，居士！汝極吉祥。居士！汝〔自〕記於不還果。」

〔三〇〕第十 摩那提那

一

因緣同上

二

其時，摩那提那居士因患重疾病而困苦。

三～六

時，摩那提那告一士夫曰：……乃至……「大德！我不能忍，不能足，激苦之受有進無退，知增進而不知減退。」……

七

「大德！我雖蒙如是苦受，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

八

大德！又世尊所說之五下分結，於我，不見有少分未斷者。」

九

「居士！汝是吉祥，居士！汝極吉祥。居士！汝自記於不還果。」

第三戒（住）品
（終）

此品之攝頌曰：

戒住損減清淨
婆羅門與一分
悉皆以及世界
尸利阿荼乃至
摩那提那為十

念處相應中之第
三戒住品（終）

第四 未聞品

〔三一〕第一 未聞

一～二

舍衛城因緣。

三

「諸比丘！我思：『於身觀身』，於我則未曾聞法生，我眼生，智生、明生、光明生。我思：『應修習此身念處觀……已能修習』，於我則未曾聞法生，我眼生、智生、明生、光明生。

四

『於受觀受』……

五

『於心觀心』……

六

『於法觀法……應修習此法念處觀……已能修習』，於我則未曾聞法生，我眼生、智生、明生、光明生。」

〔三二〕第二 離貪

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！修習、多修四念處者，則助於一向厭患、離貪、滅盡、寂靜、證智、等覺、涅槃。以何為四耶？

四

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！修習、多修此四念處者，則助於一向厭患、離貪、滅盡、寂靜、證智、等覺、涅槃。」

〔三三〕第三 失

※三

「諸比丘！若有失於四念處者，乃正失於順苦盡之聖道。

四

諸比丘！若有得於四念處者，乃正得於順苦盡之聖道。以何為四耶？

五

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，〔熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；〕於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！若有失於此四念處者，乃正失於順苦盡之聖道。

諸比丘！若有得於此四念處者，乃正得於順苦盡之聖道。」

〔三四〕第四 修習

一～二

舍衛城……

三

諸比丘！若修習、多修四念處者，則有助於由此岸到彼岸。以何為四耶？

四

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，〔熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住〕於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！若修習、多修此四念處者，則有助於由此岸到彼岸。

〔三五〕第五 正念

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！比丘應正知、正念而住，此為我對汝等之教誡。

四

諸比丘！云何比丘為正念耶？諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。諸比丘！如是之比丘，是為正念。

五

諸比丘！云何比丘為正知耶？諸比丘！於此有比丘，於彼受，有覺而生、有覺而住、有覺而滅；想，有覺而生、有覺而住、有覺而滅。諸比丘！如是之比丘，是為正知。

六

諸比丘！比丘應正知、正念而住，此，我為汝等之教誡。」

〔三六〕第六 開悟

一～二

舍衛城……

三

「諸比丘！有四念處。以何為四耶？」

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！此為四念處。

四

諸比丘！對此四念處修習、多修者，則可期於有二果之隨一果，於現法開悟，若為有餘依者，得不還果。」

〔三七〕第七 欲

一

舍衛城……

二

「諸比丘！有四念處。以何為四念處耶？」

三

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼若觀身而住者，斷身之欲；苦斷欲者，則已現證不死。

四

於受……斷受之欲；若斷欲者，則已現證不死。

五

於心……斷心之欲；若斷欲者，則已現證不死。

六

於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼若觀法而住者，斷法之欲；若斷欲者，則已現證不死。」

〔三八〕第八 徧知

※二

「諸比丘！有四念處。以何為四耶。

三

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼若觀身而住者，則已徧知於身；若徧知身者，則已現證不死。

四

於受……已徧知於受；若徧知受者，則已現證不死。

五

於心……已徧知於心；若徧知心者，則已現證不死。

六

於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。彼若觀法而住者，則已徧知於法；若徧知法者，則已現證不死。」

〔三九〕第九 修習

※二

「諸比丘！我說四念處之修習，且諦聽。

諸比丘！云何修習四念處耶？

三

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

四

諸比丘！如是而修習四念處。」

〔四〇〕第十 分別

※二

「諸比丘！我為汝等說示念處與念處之修習、以及念處修習之順道，且諦聽。

三

諸比丘！以何為念處耶？

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！此名為念處。

四

諸比丘！以何為念處之修習耶？

諸比丘！於此有比丘，觀身之集法……觀身之滅法……觀身之集滅法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；觀受之集法……觀受之滅法……觀受之集滅法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；觀心之〔集法……觀心之滅法……觀心之集滅法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；觀法之集法……觀法之滅法……觀法之集滅法〕，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！此名為念處之修習。

五

諸比丘！以何為念處修習之順道耶？

即八支聖道是，謂：正見〔、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念〕、正定。

諸比丘！此名為念處修習之順道。」

第四 未聞品
(終)

此品之攝頌曰：

未聞離貪失
修習與正念
開悟欲徧知
修習分別十

第五 不死品

〔四一〕第一 不死

一

舍衛城……

二

「諸比丘！當善繫心於四念處而住，勿失不死。以何為四耶？」

三

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

四

諸比丘！當善繫心於此四念處而住，勿失不死。」

〔四二〕第二 集起

※二

「諸比丘！我說四念處之集起與滅壞，且諦聽。」

三

諸比丘！以何為身之集起耶？依食集起，而身集起；依食滅壞，而身滅壞。

四

……依觸集起，而受集起；依觸滅壞，而受滅壞。

五

……依名色集起，而心集起；依名色滅壞，而心滅壞。

六

……依作意集起，而法集起；依作意滅壞，而法滅壞。」

〔四三〕第三 道

一

舍衛城……

二

於此，世尊諸告比丘曰：

「諸比丘！爾時，我於鬱毘羅之尼連禪河邊，阿踰波羅尼拘律樹下初住現等覺。

三

諸比丘！我獨居宴默，生如是之心念：『有一乘道，能令眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃，謂四念處是。以何為四耶？比丘！於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。比丘！於受觀受……比丘！於心觀心……

比丘！於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。此是一乘道，能令眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃，謂四念處是。』

四

諸比丘！時，娑婆主梵天王心知我心之所念，譬如力士之伸屈臂，屈伸臂，如是之速而沒於梵天，現於我前。

五

諸比丘！時，娑婆主梵天王偏袒上衣，向我合掌曰：

『如是世尊！如是善逝！大德！有一乘道，能令眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃，謂四念處是。以何為四耶？大德！比丘！於身觀身……於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。大德！此是一乘道，能令眾生清淨、超愁悲、滅苦憂、證得正理、現證涅槃，謂四念處是。』

六

諸比丘！娑婆主梵天王如是說，如是說已，更言曰：

見生之盡邊，知一乘道有利益，依此道，於過去、於未來於現在、可渡瀑流。」

〔四四〕第四 正念

一

舍衛城……

二

「諸比丘！比丘應以正念而住，此為我對汝等之教誡。

三

諸比丘！云何為比丘之正念耶？

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！如是為比丘之正念。

四

諸比丘！比丘應以正念而住，此為我對汝等之教誡。」

〔四五〕第五 善聚

※二

「諸比丘！說善聚者，即四念處，是正說。諸比丘！純一之善聚者，即四念處是。以何為四耶？

三

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

四

諸比丘！說善聚者，即此四念處是，是正說。諸比丘！純一之善聚者，即此四念處是。」

〔四六〕第六 波羅提木叉

※二

時，有一比丘，來詣世尊住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

三

「大德！願為我略說法要，我聞世尊之法，則獨靜居，不放逸、熱誠、專精而住。」

「比丘！然則，汝應清淨於善法之初。以何為善法之初耶？」

四

比丘！汝於此處，當守護波羅提木叉之律儀，具足行所行，見於微少之罪，住於怖畏，受學處而學。比丘！汝當守護波羅提木叉之律儀，具足行所行，見於微少之罪，怖畏而住，受學處而學，比丘！汝則依戒、立戒修習四念處。以何為四耶？」

五

比丘！於此，汝於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

六

比丘！汝依戒、立戒，如是修習此四念處。比丘！夜來晝去，於汝當期善法之增長，不期於損滅。」

七

時，彼比丘歡喜、隨喜世尊之所說，從座而起，敬禮世尊，右繞而離去。

八

時，彼比丘獨靜居，不放逸、熱誠、專精而住，不久後，善男子由正家而出家，究盡出家本義之無上梵行，於現法自證知、現證，具足而住，了知：諸漏已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。

九

彼比丘成一阿羅漢。

〔四七〕第七 惡行

※二

時，有一比丘，來詣世尊住處。詣已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

三

「大德！願為我略說法要，我聞世尊之法，則獨靜居，不放逸、熱誠、專精而住。」

「比丘！然則，汝應清淨於善法之初。以何為善法之初耶？

四

比丘！汝於此處，當斷身惡行，修習身善行；語……斷意〔惡行、修習意〕善行。比丘！汝斷身惡行，修習身善行，……語……斷意〔惡行、修習意〕善行者，比丘！則汝依於戒、立於戒，修習四念處。以何為四耶？

五

比丘！汝於此處，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

六

比丘！汝依於戒、立於戒，如是修習此四念處。比丘！夜來晝去，於汝當期善法之增長，不期損滅。」

七～八

時，彼比丘……了知：諸漏已盡、梵行已立、所作已辦、更不受後有。

九

彼比丘成一阿羅漢。

〔四八〕第八 友

一

舍衛城……

二

「諸比丘！汝等應哀愍、應思念於聽聞汝者，若有朋友、親戚、血族者，諸比丘！汝等則勸導於彼等，當修習四念處，使修習而住。以何為四耶？

三

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

四

諸比丘！汝等應哀愍，應思念於聽聞汝者，若有朋友、親戚、血族者，諸比丘！汝等則勸導於彼等，應修習此四念處，使修習而住。」

〔四九〕第九 受

一

舍衛城……

二

「諸比丘！有三種受。以何為三耶？乃樂受、苦受、不苦不樂受是。諸比丘！此為三種受。

三

諸比丘！為徧知於此三種受，應修習四念處。以何為四耶？

四

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

五

諸比丘！為徧知此三種受，應修習此四念處。」

〔五〇〕第十 漏

※二

「諸比丘！有三種漏？以何為三漏耶？乃欲漏、有漏、無明漏是。諸比丘！此為三種漏。

三

諸比丘！為斷此三種漏，應修習四念處。以何為四耶？

四

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

五

諸比丘！為斷此三種漏，應修習此四念處。」

第五 不死品
(終)

此品之攝頌曰：

不死集起道
正念與善聚
波羅提木叉
惡行友受漏

第六 恆河廣說

〔五一～六二〕第一～十二

※二

「諸比丘！譬如恆河趣向於東，〔傾向於東，臨入於東〕。諸比丘！如是比丘，修習四念處、〔多修四念處，趣向於涅槃、傾向於涅槃、〕臨入於涅槃。

三

諸比丘！比丘云何修習四念處、多修四念處，趣向於涅槃、傾向於涅槃、臨入於涅槃耶？

四

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

諸比丘！比丘如是修習四念處、多修四念處，則趣向於涅槃、傾向於涅槃、臨入於涅槃。」

攝頌曰：

趣向東有六
趣向海有六

二六一十二
以此說本品

若廣說恆河者，應以念處廣說。

第七 不放逸品

〔六三～七二〕第一～十

如來與足跡
屋頂與根核
夏生花王月
日衣等十句

以念處廣說不放逸品、念處品。

第八 力所作品

〔七三～八二〕第一～十

力與種子龍
樹木與瓶芒
虛空與客河

力所作品（終）

以念處可廣說品。

第九 尋覓品

〔八三～九三〕第一～十一

尋覓與次第
漏與三苦礙
垢與捨與受
渴愛九尋覓

以念處可廣說於品。

第十 瀑流品

※〔九四～一〇三〕第一～九

第十 上分結

※二

「諸比丘！有五種上分結。以何為五耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五種上分結。

三

諸比丘！為證知…徧知……徧盡……斷滅此五上分結，應修習四念處。以何為四耶？

四

諸比丘！於此有比丘，於身觀身，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住；於受……於心……於法觀法，熱誠、正知、正念，調伏世間之貪憂而住。

五

諸比丘！為證知……徧知……徧盡……斷滅此五上分結，應修習此四念處。」

攝頌曰：

瀑流與軛取
繫隨眠妙欲
蓋蘊上下分

瀑流品（終）

以念處應廣說於品

如廣說道相應，廣說念相應。

第三 念相應
（終）

相應部經典

歸命彼世尊 應供等覺者

第四 根相應

第一 清淨品

〔一〕第一 清淨

一～二

舍衛城因緣。……於此處，世尊說示曰：

三

「諸比丘！有五根。以何為五耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此為五根。」

〔二〕第二 預流（一）

※三

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。」

四

諸比丘！聖弟子對此五根之味、過患、出離，如實知故，諸比丘！此聖弟子名為預流，為不墮法，決定趣於等覺。」

〔三〕第三 預流（二）

※三

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。

四

諸比丘！聖弟子對此五根之集、滅、味、過患、出離，如實知故，諸比丘！此聖弟子名為預流，為不墮法，決定趣於等覺。」

〔四〕第四 阿羅漢（一）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。

三

諸比丘！比丘對此五根之味、過患、出離，如實知，無取而解脫，諸比丘！故此比丘名為阿羅漢，漏盡、梵行已立、所作已辦、棄重擔、逮得己利、盡有結，名為正知解脫是。」

〔五〕第五 阿羅漢（二）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。

三

諸比丘！比丘對此五根之集、滅、味、過患、出離，如實知，無取而解脫，諸比丘！故此比丘名為阿羅漢。漏盡、梵行

已立、所作已辦、棄重擔、逮得己利、盡有結，名為正知解脫是。」

〔六〕第六 沙門婆羅門（一）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。

三

諸比丘！諸沙門、婆羅門，對此五根之集、滅、味、過患、出離，不能如實知者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我不認之為沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門。又，彼諸具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法亦非自證知、現證、具足而住。

四

諸比丘！然而諸沙門、婆羅門，對此五根之集、滅、味、過患、出離，如實知者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我認之為沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門。彼諸具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法自證知、現證、具足而住。」

〔七〕第七 沙門婆羅門（二）

※三

「諸比丘！諸沙門、婆羅門，不知信根、不知信根之集、不知信根之滅、不知信根之順滅道；不知精進根……乃至……不知念根……乃至……不知定根……乃至……不知慧根、不知慧根之集、不知慧根之滅、不知慧根之順滅道者，諸比丘！彼

沙門、婆羅門，我不認許為沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門。又，彼具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法亦非自證知、現證、具足而住。

四

諸比丘！然而諸沙門、婆羅門，知信根、知信根之集、知信根之滅、知信根之順滅道；知精進根……乃至……知念根……乃至……知定根……乃至……知慧根、知慧根之集、知慧根之滅、知慧根之順滅道者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我認許為沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門。又，彼諸具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法自證知、現證、具足而住。」

〔八〕第八 應觀

※二

「諸比丘，有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。

三

諸比丘！應於何觀信根耶？四預流支是。應於此觀信根。

四

諸比丘！應於何觀精進根耶？四正勤是。應於此觀精進根。

五

諸比丘！應於何觀念根耶？四念處是。應於此觀念根。

六

諸比丘！應於何觀定根耶？四靜慮是。應於此觀定根。

七

諸比丘！應於何觀慧根耶？四聖諦是。應於此觀慧根。

八

諸比丘！此為五根。」

〔九〕第九 分別（一）

※二

「諸比丘，有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。

三

諸比丘！以何為信根耶？

諸比丘！於此，聖弟子有信，對如來之菩提堅信：如是，彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。

諸比丘！此名為信根。

四

諸比丘！以何為精進根耶？

諸比丘！於此，聖弟子發勤而住，為斷諸不善法、具足諸善法，努力、勇健堅固，於諸善法不捨輒。

諸比丘！此名為精進根。

五

諸比丘！以何為念根耶？

諸比丘！於此，聖弟子有念、成就最勝之念慧，對長久以前之所作、長久以前之所說，憶念、隨念。

諸比丘！此名為念根。

六

諸比丘！以何為定根耶？

諸比丘！於此，聖弟子以捨為所緣，得定、得心一趣。

諸比丘！此名為定根。

七

諸比丘！以何為慧根耶？

諸比丘！於此，聖弟子有智慧、聖、決擇而正順苦盡，成就生滅慧。

諸比丘！此名為慧根。」

〔一〇〕第十 分別（二）

※二

「諸比丘，有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。

三

諸比丘！以何為信根耶？

諸比丘！於此，聖弟子有信，堅信如來之菩提：如是，彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。

諸比丘！此名為信根。

四

諸比丘！以何為精進根耶？

諸比丘！於此，聖弟子發勤而住，為斷諸不善法、具足諸善法，努力、勇健堅固，於諸善法不捨於軛。彼對未生之惡不善法，使之不生，生欲、精進、發勤、策勵於心；對已生之惡不善法，為使斷，生欲、精進、發勤、策勵於心；對未生之善法，使之生，生欲、精進、發勤、策勵於心；對已生之善法，為使住、不忘失、倍增、廣大、修習、圓滿，生欲、精進、發勤、策勵於心。

諸比丘！此名為精進根。

五

諸比丘！以何為念根耶？

諸比丘！於此，聖弟子有念、成就最勝之念慧，對久前之所作、久前之所說，憶念、隨念。彼於身觀身……於受……於

心……於法觀法，熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

諸比丘！此名為念根。

六

諸比丘！以何為定根耶？

諸比丘！於此，聖弟子以捨為所緣，得定、得心一趣。彼離諸欲、離諸不善法，有尋有伺，對由離生喜與樂之初靜慮，具足而住。尋伺靜寂故，成內淨、心一趣，無尋無伺，對由定生喜與樂之第二靜慮，具足而住。離喜故，住於捨，對正念、正知之樂，於身正受，如諸聖者之所宣說，對捨與念樂住之第三靜慮，具足而住。斷樂、斷苦故，及先已滅憂與喜故，對捨念清淨之第四靜慮，具足而住。

諸比丘！此名為定根。

七

諸比丘！以何為慧根耶？

諸比丘！於此有聖弟子，有智慧、聖，決擇而正順苦盡，成就生滅慧。彼對此苦如實了知，此苦集如實了知，此苦滅如實了知，此如實了知順苦滅道。

八

諸比丘！此名為慧根。

諸比丘！此為五根。」

第一 清淨品 (終)

此品之攝頌曰：

清淨二預流
二之阿羅漢
沙門婆羅門
應觀二分別

第二 軟弱品

〔一一〕第一 獲得

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。

三

諸比丘！以何為信根耶？

諸比丘！於此，聖弟子有信，對如來之菩提堅信：如是，彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。

諸比丘！此名為信根。

四

諸比丘！以何為精進根耶？

諸比丘！依四正勤獲得精進。

諸比丘！此名為精進根。

五

諸比丘！以何為念根耶？

諸比丘！依四念處獲得念。

諸比丘！此名為念根。

六

諸比丘！以何為定根耶？

諸比丘！於此，聖弟子以捨為所緣，得定、得心一趣。

諸比丘！此名為定根。

七

諸比丘！以何為慧根耶？

諸比丘！於此，聖弟子有智慧、聖、決擇而正順苦盡，成就生滅慧。

諸比丘！此名為慧根。

八

諸比丘！以此為五根。」

〔一二〕第二 略說（一）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此為五根。」

三

諸比丘！對此五根滿足、圓滿者，則為阿羅漢，較此軟弱者，則為不還者；較此軟弱者，則為一來者；較此軟弱者，則為預流者；較此軟弱者，則為隨法者；較此軟弱者，則為隨信者。」

〔一三〕第三 略說（一）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此為五根。」

三

諸比丘！對此五根滿足、圓滿者，則為阿羅漢；較此軟弱者，則為不還者；較此軟弱者，則為一來者；較此軟弱者，則為預流者；較此軟弱者，則為隨法者；較此軟弱者，則為隨信者。

四

諸比丘！如是，依根之差別，有果之差別；依果之差別，有人之差別。」

〔一四〕第四 略說（三）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此為五根。」

三

諸比丘！對此五根滿足、圓滿者，則為阿羅漢；較此軟弱者，則為不還者；較此軟弱者，則為一來者；較此軟弱者，則為預流者；較此軟弱者，則為隨法者；較此軟弱者，則為隨信者。

四

諸比丘！如是圓滿行者，成圓滿；一分行者，成一分。諸比丘！吾謂五根為不唐捐。」

〔一五〕第五 廣說（一）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘，此為五根。」

三

諸比丘！對此五根滿足、圓滿者，則為阿羅漢；較此軟弱者，則為中般涅槃者；較此軟弱者，則為損害般涅槃者；較此軟弱者，則為無行般涅槃者；較此軟弱者，則為有行般涅槃者；較此軟弱者，則為上流，至色究竟天；較此軟弱者，則為一來者；較此軟弱者，則為預流者；較此軟弱者，則為隨法者；較此軟弱者，則為隨信者。」

〔一六〕第六 廣說（二）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此為五根。」

三

諸比丘！對此五根滿足、圓滿者，則為阿羅漢；較此軟弱者，則為中般涅槃者；較此軟弱者，則為損害般涅槃者；較此軟弱者，則為無行般涅槃者；較此軟弱者，則為有行般涅槃者；較此軟弱者，則為上流，至色究竟天；較此軟弱者，則為一來者；較此軟弱者，則為預流者；較此軟弱者，則為隨法者；較此軟弱者，則為隨信者。

四

諸比丘！如是，依根之差別，有果之差別；依果之差別，有人之差別。」

〔一七〕第七 廣說（三）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此為五根。」

三

諸比丘！對此五根滿足、圓滿者，則為阿羅漢；較此軟弱者，則為中般涅槃者；較此軟弱者，則為損害般涅槃者；較此軟弱者，則為無行般涅槃者；較此軟弱者，則為有行般涅槃者；較此軟弱者，則為上流，至色究竟天；較此軟弱者，則為

一來者；較此軟弱者，則為預流者；較此軟弱者，則為隨法者；較此軟弱者，則為隨信者。

四

諸比丘！如是，圓滿行者，成圓滿；一分行者，成一分。
諸比丘！吾謂五根為不唐捐。」

〔一八〕第八 向

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此為五根。

三

諸比丘！對此五根滿足、圓滿者，則為阿羅漢；較此軟弱者，則向阿羅漢果現證；較此軟弱者，則為不還者；較此軟弱者，則向不還果現證；較此軟弱者，則為一來者；較此軟弱者，則向一來果現證；較此軟弱者，則為預流者；較此軟弱者，則向預流果現證。

四

諸比丘！若總無此五根者，則為外道，謂屬凡夫之數。」

〔一九〕第九 寂靜

※二

時，有一比丘，來世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面。坐在一面之彼比丘，白世尊曰：

三

「大德！根具足，所謂根具足者，大德！應以何為根具足耶？」

四

「比丘！於此，有比丘順寂靜、順等覺之信根〔……精進根……念根……定根……〕修習順寂靜、順等覺之慧根。

五

比丘！如是之比丘，為根具足。」

〔二〇〕第十 漏盡

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此為五根。

三

諸比丘！比丘修習、多修此五根者，則由諸漏盡，對無漏之心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

第二 軟弱品
(終)

此品之攝頌曰：

獲得三略說
與三之廣說
向乃至寂靜

以及漏盡等

第三 六根品

〔二一〕第一 後有

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。

三

諸比丘！我對此五根之集、滅、味、過患、出離，不能如實證知時，諸比丘！我於天、魔、梵、沙門、婆羅門、眾生界中，不被稱之為無上正等覺之現等覺者。

四

諸比丘！然而我對此五根之集、滅、味、過患、出離如實證知時，諸比丘！我於天、魔、梵、沙門、婆羅門、眾生界中，被稱之為無上正等覺之現等覺者。又，我生智見，知：『我心解脫不動，此為最後之生，更不受後有。』」

〔二二〕第二 命

※二

「諸比丘！有三根。以何為三根耶？謂：女根、男根、命根是。

三

諸比丘！此為三根。」

〔二三〕第三 知

※二

「諸比丘！有三根。以何為三根耶？謂：未知當知根、已知根、具知根是。

三

諸比丘！此為三根。」

〔二四〕第四 一種

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此為五根。

三

諸比丘！對此五根滿足、圓滿者，則為阿羅漢；較此軟弱者，則為中般涅槃者；較此軟弱者，則為損害般涅槃者；較此軟弱者，則為無行般涅槃者；較此軟弱者，則為有行般涅槃者；較此軟弱者，則為上流，至色究竟天；較此軟弱者，則為一來者；較此軟弱者，則為一種者；較此軟弱者，則為家家；較此軟弱者，則為七返有；較此軟弱者，則為隨法者；較此軟弱者，則為隨信者。」

〔二五〕第五 清淨

一

「諸比丘！有六根。以何為六根耶？謂：眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根是。諸比丘！此為六根。」

〔二六〕第六 預流

※二

「諸比丘！有六根。以何為六根耶？謂：眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根是。」

三

諸比丘！聖弟子，對此六根之集、滅、味、過患、出離，如實知故，諸比丘！此聖弟子名之為預流，為不墮法，決定趣等覺。」

〔二七〕第七 阿羅漢（一）

※二

「諸比丘！有六根。以何為六根耶？謂：眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根是。」

三

諸比丘！比丘對此六根之集、滅、味、過患、出離，如實知無取解脫故，諸比丘！此比丘名為阿羅漢，漏盡、梵行已立、所作已辦、棄重擔、逮得己利、盡有結，名為正知解脫。」

〔二八〕第八 阿羅漢（二）

※二

「諸比丘！有六根。以何為六根耶？謂：眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根是。

三

諸比丘！我對此六根之集、滅、味、過患、出離，未如實證知時，諸比丘！我於天、魔、梵、沙門、婆羅門、眾生界中，不被稱為無上正等覺之現等覺者。

諸比丘！然而我對此六根之集、滅、味、過患、出離，如實證知故，諸比丘！我於天、魔、梵、沙門、婆羅門、眾生界中，稱之為無上正等覺之現等覺者。又，我生智見：『我心解脫為不動，此為最後之生，更不受後有。』」

〔二九〕第九 沙門婆羅門（一）

※二

「諸比丘！有六根。以何為六根耶？謂：眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根是。

三

諸比丘！諸沙門、婆羅門，對此六根之集、滅、味、過患、出離，未如實知者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我不認許為沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門。又，彼諸具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法亦非自證知、現證、具足而住。

四

諸比丘！然而諸沙門、婆羅門，對此六根之集、滅、味、過患、出離，如實知者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我認許為

沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門。又，彼諸具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法自證知、現證、具足而住之。」

〔三〇〕第十 沙門婆羅門（二）

※三

「諸比丘！諸沙門、婆羅門，不知眼根、不知眼根之集、不知眼根之滅、不知眼根順滅之道，不知耳根……鼻根……舌根……身根……不知意根、不知意根之集、不知意根之滅、不知意根之順滅之道者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我不認許為沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門。又，彼諸具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法亦非自證知、現證、具足而住。」

四

諸比丘！然而諸沙門、婆羅門，知眼根、知眼根之集、知眼根之滅、知眼根之順滅道，知耳根……鼻根……舌根……身根……知意根、知意根之集、知意根之滅、知意根之順滅道者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我認許為沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門。又，彼諸沙門、婆羅門，對沙門之義、婆羅門之義，於現法自證知、現證、具足而住。」

第三六根品
（終）

此品之攝頌曰：

後有與命知
一種與清淨
預流阿羅漢
沙門婆羅門

第四 樂根品

〔三一〕第一 清淨

※二

「諸比丘！有五根。以何為五耶？〔調：〕樂根、苦根、喜根、憂根、捨根。

三

諸比丘！此為五根。」

〔三二〕第二 預流

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？調：樂根、苦根、喜根、憂根、捨根是。

三

諸比丘！聖弟子對此五根之集、滅、味、過患、出離，如實知故，諸比丘！此聖弟子名為預流，有不墮法，決定趣於等覺。」

〔三三〕第二 阿羅漢

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？調：樂根、苦根、喜根、憂根、捨根是。

三

諸比丘！比丘對此五根之集、滅、味、過患、出離，如實知，無取解脫故，諸比丘！此比丘名為阿羅漢，漏盡、梵行已立、所作已辦、棄重擔、逮得己利、盡有結，名為正知解脫。」

〔三四〕第四 沙門婆羅門（一）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：樂根、苦根、喜根、憂根、捨根是。

三

諸比丘！諸沙門、婆羅門，對此五根之集、滅、味、過患、出離，不如實知者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我不認許為沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門。又，彼諸具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法亦非自證知、現證、具足而住。

四

諸比丘！然而諸沙門、婆羅門，對此五根之集、滅、味、過患、出離，如實知者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我認許為沙門中之沙門，婆羅門中之婆羅門。又彼諸具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法自證知、現證、具足而住。」

〔三五〕第五 沙門婆羅門（二）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：樂根、苦根、喜根、憂根、捨根是。

三

諸比丘！諸沙門、婆羅門，不知樂根、不知樂根之集、不知樂根之滅、不知樂根之順滅道，不知苦根……喜根……憂根……不知捨根、不知捨根之集、不知捨根之滅、不知捨根之順滅道者，諸比丘！彼沙門、婆羅門，我不認許為沙門中之沙門，婆羅門中之婆羅門。又，彼諸具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法亦非自證知、現證、具足而住。」

〔三六〕第六 廣說（一）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：樂根、苦根、喜根、憂根、捨根是。

三

諸比丘！以何為樂根耶？

諸比丘！身樂、身悅、身觸所生之樂、悅之所受，諸比丘！此名為樂根。

四

諸比丘！何為苦根耶？

諸比丘！身苦、身不悅、身觸所生之苦、不悅之所受，諸比丘！此名為苦根。

五

諸比丘！以何為喜根耶？

諸比丘！意樂、意悅、意觸所生之樂、悅之所受，諸比丘！此名為喜根。

六

諸比丘！以何為憂根耶？

諸比丘！意苦、意不悅、意觸所生之苦、不悅之所受，諸比丘！此名為憂根。

七

諸比丘！何為捨根耶？

諸比丘！身或意之非悅、非不悅之所受，諸比丘！此名為捨根。

八

諸比丘！此是五根。」

〔三七〕第七 廣說（二）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？〔謂：〕樂根、苦根、喜根、憂根、捨根是。

三

諸比丘！以何為樂根耶？

諸比丘！身樂、身悅、身觸所生之樂、悅之所受，諸比丘！此名為樂根。

四

諸比丘！以何為苦根耶？

諸比丘！身苦、身不悅、身觸所生之苦、不悅之所受，諸比丘！此名為苦根。

五

諸比丘！以何為喜根耶？

諸比丘！意樂、意悅、意觸所生之樂、悅之所受，諸比丘！此名為喜根。

六

諸比丘！以何為憂根耶？

諸比丘！意苦、意不悅、意觸所生之苦、不悅之所受，諸比丘！此名之為憂根。

七

諸比丘！以何為捨根耶？

諸比丘！身或意之非悅、非不悅之所受，諸比丘！此名為捨根。

八

諸比丘！此中，樂根與喜根可視為樂受；諸比丘！此中，苦根與憂根可視為苦受；諸比丘！此中，捨根可視為非苦非樂受。

九

諸比丘！此是五根。」

〔三八〕第八 廣說（三）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：樂根、苦根、喜根、憂根、捨根是。

三

諸比丘！以何為樂根耶？

諸比丘！身樂、身悅、身觸所生之樂、悅之所受，諸比丘！此名為樂根。

四

諸比丘！以何為苦根耶？

諸比丘！身苦、身不悅、身觸所生之苦、不悅之所受，諸比丘！此名為苦根。

五

諸比丘！以何為喜根耶？

諸比丘！意樂、意悅、意觸所生之樂、悅之所受，諸比丘！此名為喜根。

六

諸比丘！以何為憂根耶？

諸比丘！意苦、意不悅、意觸所生之苦、不悅之所受，諸比丘！此名為憂根。

七

諸比丘！以何為捨根耶？

諸比丘！身或意之非悅、非不悅之所受，諸比丘！此名為捨根。

八

諸比丘！此中，樂根與喜根可視為樂受；諸比丘！此中，苦根與憂根可視為苦受；諸比丘！此中，捨根可視為非苦非樂受。

九

諸比丘！如是之此五根，為五作三；差別之，則三作五。」

〔三九〕第九 鑽木

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：樂根、苦根、喜根、憂根、捨根是。

三

諸比丘！緣生樂受之觸生樂根，彼樂則知『我是樂』；彼生樂受之觸滅，則知：『如是之所感受，乃緣生樂受之觸生樂根，彼滅彼止息。』

四

諸比丘！緣生苦受之觸生苦根，彼苦則知『我是苦』；彼生苦受之觸滅，則知：『如是之所感受，乃緣生苦受之觸生苦根，彼滅彼止息。』

五

諸比丘！緣生喜受之觸生喜根，彼喜則知『我是喜』；彼生喜受之觸滅，則知：『如是之所感受，乃緣生喜受之觸生喜根，彼滅彼止息。』

六

諸比丘！緣生憂受之觸生憂根，彼憂則知『我是憂』；彼生憂受之觸滅，則知：『如是之所感受，乃緣生憂受之觸生憂根，彼滅彼止息。』

七

諸比丘！緣生捨受之觸生捨根，彼捨則知『我是捨』；彼生捨受之觸滅，則知：『如是之所感受，乃緣生捨受之觸生捨根，彼滅彼止息。』

八

諸比丘！譬如以二木觸摩，則生熱出火焰，將彼木片分離，則如是之熱滅止息。諸比丘！如是，緣生樂受之觸生樂

根，彼樂則知『我是樂』，彼生樂受之觸滅，則知：『如是之所感受，乃緣生樂受之觸生樂根，彼滅彼止息。』諸比丘！苦受……喜受……憂受……緣生捨受之觸生捨根，彼捨則知『我是捨』，彼生捨受之觸滅，則知：『如是之所感受，乃緣生捨受之觸生捨根，彼滅彼止息。』」

〔四〇〕第十 生

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？謂：樂根、苦根、喜根、憂根、捨根是。

三

諸比丘！於此有比丘不放逸、熱誠、精勤而住，其時生苦根。彼如是知：『我生此苦根，此為有相、有因、有行、有緣；無相、無因、無行、無緣生苦根，則無有此之理。』彼知苦根、知苦根之集、知苦根之滅、知已生苦根、無餘滅處。

已生之苦根，於何處滅無餘耶？

諸比丘！於此有比丘，離諸欲、離不善法，有尋、有伺，於由離生喜與樂之初靜慮具足而住，已生之苦根於此處滅無餘。

諸比丘！此名為比丘悟苦根之滅，引心於涅槃。

四

諸比丘！此處有比丘，不放逸、熱誠、精勤而住，其時生憂根。彼如是知：『我生此憂根，此為有相、有因、有行、有

緣；無相、無因、無行、無緣生憂根，則無此理。』彼知憂根、知憂根之集、知憂根之滅、知已生憂根滅無餘處。

已生之憂根，於何處滅無餘耶？

諸比丘！此處有比丘，尋伺寂靜故內淨，心是一趣、無尋無伺，於由定生喜與樂之第二靜慮具足而住，已生之憂根於此處滅無餘。

諸比丘！此名為比丘悟憂根之滅，引心於涅槃。

五

諸比丘！此處有比丘，不放逸、熱誠、精勤而住，其時生樂根。彼如是知：『我生此樂根，此為有相、有因、有行、有緣；無相、無因、無行、無緣生樂根，則無此之理。』彼知樂根、知樂根之集、知樂根之滅、知已生樂根滅無餘處。

已生之樂根，於何處滅無餘耶？

諸比丘！此處有比丘，離喜故住於捨，正念、正知，對樂身正受，如諸聖者之所宣說，對有捨與念樂住之第三靜慮具足而住，已生之樂根於此處滅無餘。

諸比丘！此名為比丘悟樂根之滅，引心於涅槃。

六

諸比丘！此處有比丘，不放逸、熱誠、精勤而住，其時生喜根。彼如是知：『我生此喜根，此為有相、有因、有行、有緣；無相、無因、無行、無緣生喜根，則無此之理。』彼知喜根、知喜根之集、知喜根之滅、知已生喜根滅無餘處。

已生之喜根，於何處滅無餘耶？

諸比丘！此處有比丘，斷樂斷苦故、及先早滅憂與喜故，為不苦不樂，於捨念清淨之第四靜慮具足而住，已生之喜根於此處滅無餘。

諸比丘！此名為比丘悟喜根之滅，引心於涅槃。

七

諸比丘！此處有比丘，不放逸、熱誠、精勤而住，其時生捨根。彼如是知：『我生此捨根，此為有相、有因、有行、有緣；無相、無因、無行、無緣生捨根，則無此之理。』彼知捨根、知捨根之集、知捨根之滅、知已生捨根滅無餘處。

已生之捨根，於何處滅無餘耶？

諸比丘！此處有比丘，徧超非想非非想處，具足想受滅而住，已生之捨根於此處滅無餘。

諸比丘！此名為比丘悟捨根之滅，引心於涅槃。」

第四 樂根品
(終)

此品之攝頌曰：

清淨與預流
乃至阿羅漢
沙門婆羅門
與三之廣說
鑽木與說生

第五 老品

〔四一〕第一 老

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城東園鹿子母堂。

二

其時，世尊晡時，由宴坐起，坐於西之溫處以暖背。

三

時，具壽阿難至世尊之處。至已，敬禮世尊，以手摩擦世尊之手足，白世尊曰：

「稀有哉！大德！未曾有哉！大德！大德！今世尊之膚色不能清淨皎潔，手足弛緩，一切多皺，身前傾，眼根、耳根、鼻根、舌根、身之諸根有變異。」

四

「阿難！如是，於少壯有老法，於無病有病法，於壽命有死法，膚色不能清淨皎潔，手足弛緩，一切多皺，身前傾，眼根、耳根、鼻根、舌根、身之諸根有變異。」

五

世尊如是說示，如是說示已，善逝師更說曰：

禍哉可憐老
醜者成為老
暫時可意像
因老而破壞
譬如活百歲
終不免一死

老為無可逃
一切為破壞

〔四二〕第二 溫那巴婆羅門

一

舍衛城。

二

時，溫那巴婆羅門至世尊之處。至已，與世尊俱相交談可慶慰、歡喜、感銘之語，而坐於一面。坐於一面之溫那巴婆羅門，白世尊曰：

三

「尊瞿曇！五根有異對境，有異行境，對他境互不能領受。以何為五根耶？眼根、耳根、鼻根、舌根、身根是。尊瞿曇！此五根有異對境，有異行境，對他境互不能領受。以何為歸趣耶？對何之境為領受耶？」

四

「婆羅門！五根有異對境，有異行境，對他境互不能領受。以何為五根耶？眼根、耳根、鼻根、舌根、身根是。婆羅門！此五根有異對境，有異行境，對他境互不能領受，以意為歸趣，意領受其境。」

五

「尊瞿曇！意以何為歸趣耶？」「婆羅門！意以念為歸趣。」

六

「尊瞿曇！念以何為歸趣耶？」「婆羅門！念以解脫為歸趣。」

七

「尊瞿曇！解脫以何為歸趣耶？」

「婆羅門！解脫以涅槃為歸趣？」

八

「尊瞿曇！涅槃以何為歸趣耶？」

「婆羅門！所問過甚矣。所問不能取邊際。婆羅門！梵行立，即入涅槃，趣於涅槃、盡於涅槃。」

九

時，婆羅門對世尊之所說，歡喜、隨喜，即由座起，敬禮世尊，行右繞離去。

一〇

時，世尊於溫那巴婆羅門離去未久，告諸比丘曰：

一一

「諸比丘！譬如於重閣或重閣堂，日出時由東窗照入之光，止於何處耶？」

「大德！是西壁。」

一二

「諸比丘！如是溫那巴婆羅門之於如來，信仰確固，如根之安住、堅固，為沙門、婆羅門、天、魔、梵天，世間之任何人不能奪。諸比丘！溫那巴婆羅門若於此位命終，則無結繫於彼，溫那巴婆羅門將不再還此世。」

〔四三〕第三 沙祇城

一

如是我聞。一時，世尊住沙祇城安闍那鹿苑。

二

於此，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！有理趣，依此理趣故，五根即五力，五力即五根。」

「大德！我等於法以世尊為根本，以世尊為眼，以世尊為歸趣。大德世尊！願對此說之義述示，諸比丘聞世尊之所說，當受持。」

「諸比丘！然則諦聽，善自作意，我當說。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應諾世尊。世尊說示曰：

三

「諸比丘！有理趣，依此理趣故，五根即五力，五力即五根。諸比丘：有何之理趣，依此理趣故，五根即五力，五力即五根耶？」

四

諸比丘！信根即信力，信力即信根；精進根即精進力，精進力即精進根；念根即念力，念力即念根，定根即定力，定力即定根；慧根即慧力，慧力即慧根。

五

諸比丘！譬如有趣向東、傾向於東、臨入於東之河。其中有洲，諸比丘！有理趣，依此理趣故，彼河之流稱為一。諸比丘！又有理趣，依此理趣故，彼河之流稱為二。

六

諸比丘！有何之理趣，依此理趣故，彼河之流稱為一耶？諸比丘！彼洲之東水與西水是。諸比丘！有此理趣，依此理趣故，彼河之流稱為一。

七

諸比丘！有何之理趣，依此理趣故，彼河之流稱為二耶？諸比丘！彼洲之北水與南水是。諸比丘！有此理趣，依此理趣，故彼河之流稱為二。

八

諸比丘！如是，信根即信力，信力即信根；精進根即精進力，精進力即精進根；念根即念力，念力即念根；定根即定

力，定力即定根；慧根即慧力，慧力即慧根。

九

諸比丘！比丘對五根修習、多修者，則諸漏盡，依之而無漏心解脫、慧解脫，於現法自現證、證知，具足而住。」

〔四四〕第四 東河

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城之東河。

二

於此處，世尊告具壽舍利弗曰：

三

「舍利弗！汝對信根之修習、多修者，則究竟不死，趣向不死，究盡不死；對〔精進根……念根……定根……〕慧根之修習、多修，則究竟不死、趣向不死、究盡不死。相信否？」

四

「大德！於此，我對世尊信仰故，對信根……精進根……念根……定根……慧根修習、多修，則究竟不死、趣向不死、究盡不死，得成。大德！若對此不知、不見、不悟、不現證，於慧無觸者，則其信他故，對信根……精進根……念根……定根……慧根之修習、多修，則究竟不死、趣向不死、究盡不死，不成。大德！若對此知、見、悟、現證，觸於慧者，則無猶豫、無疑惑，對信根……精進根……念根……定根……慧根之修習、多修，則得成究竟不死、趣向不死、究盡不死。大

德！我對此知、見、悟、現證，觸於慧，對其無猶豫、無疑惑，對信根……精進根……念根……定根……慧根之修習、多修，則得成究竟不死、趣向不死、究盡不死。」

五

「善哉、善哉！舍利弗！舍利弗！若對此不知、不見、不悟、不現證，於慧無觸者，則其信他故，對信根之修習、多修，則不成究竟不死、趣向不死、究盡不死。對精進根……念根……定根……慧根之修習、多修，則不成究竟不死、趣向不死、究盡不死。舍利弗！若對此知、見、悟、現證，觸慧者，則於其無猶豫、無疑惑，對信根之修習、多修，則得成究竟不死、趣向不死、究盡不死。對精進根……念根……定根……慧根之修習、多修者，則得成究竟不死、趣向不死、究盡不死。」

〔四五〕第五 東園（一）

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城東園鹿子母堂。

二

於此，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！對幾何之根修習、多修者，則得成漏盡比丘，於悟記別，對生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有，得知耶？」

「大德！我等於法，以世尊為根本，以世尊為眼，以世尊為歸趣，大德世尊！願對此所說之義述示，諸比丘當對所聞受

持。」

「諸比丘！然則且諦聽，善自作意，我當說。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應諾世尊，世尊說示曰：

三

「諸比丘！對一根修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別；知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。何為一根耶？慧根是。

四

諸比丘！聖弟子具慧者，則隨住於信、隨住於精進、隨住於念、隨住於定。

五

諸比丘！對此一根修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。」

〔四六〕第六 東園（二）

一

因緣同前

二

「諸比丘！對幾何之根修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有耶？」

「大德！我等於法，以世尊為根本，以世尊為眼，以世尊為歸趣。大德世尊！願將此所說之義說示，諸比丘當對所聞受持。」

「諸比丘！然則諦聽，善自作意，我當說。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應世尊。世尊說示曰：

三

「諸比丘！對二根之修習多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。何為二根耶？」

四

諸比丘！聖慧與聖解脫是。諸比丘！聖慧即此慧根。諸比丘！聖解脫即此定根。

五

諸比丘！對此二根之修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。」

〔四七〕第七 東園（三）

一

因緣同前

二

「諸比丘！對幾何之根修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有耶？」

「大德！我等於法，以世尊為根本，以世尊為眼，以世尊為歸趣。大德世尊！願將此所說之義說示，諸比丘當將所聞受持。」

「諸比丘！然則諦聽，善自作意，我當說。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應諾世尊。世尊說示曰：

三

「諸比丘！對四根修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。何為四根耶？」

四

精進根、念根、定根、慧根是。

五

諸比丘！對此四根修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。」

〔四八〕第八 東園（四）

一

因緣同前

二

「諸比丘！對幾何之根修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有耶？」

「大德！我等於法，以世尊為根本，以世尊為眼，以世尊為歸趣。大德世尊！願將此所說之義說示，諸比丘當將所聞受持。」

「諸比丘！然則諦聽，善自作意，我當說。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應諾世尊。世尊說示曰：

三

「諸比丘！對五根修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立，所作已辦、不再受後有。何為五根耶？」

四

信根、精進根、念根、定根、慧根是。

五

諸比丘！對此五根之修習、多修者，則為漏盡比丘，於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。」

〔四九〕第九 賓頭盧

一

如是我聞。一時，世尊住拘睢彌國之瞿師羅園。

二

其時，具壽賓頭盧頗羅墮闍記別於悟，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。

三

時，眾多之比丘至世尊之處。至已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之彼諸比丘白世尊曰：

「大德！具壽賓頭盧頗羅墮闍記別於悟，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。大德！觀何之義趣故，具壽賓頭盧頗羅墮闍於悟記別，知生已盡、梵行已立，所作已辦、不再受後有耶？」

四

「諸比丘！對三根修習、多修故，賓頭盧頗羅墮闍比丘於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。何為三根耶？」

五

念根、定根、慧根是。

六

諸比丘！對此三根之修習、多修故，賓頭盧頗羅墮闍比丘於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。

七

諸比丘！此三根以何為邊際耶？以滅盡為邊際。為何以滅盡為邊際耶？生老死是。諸比丘！觀生老死之滅盡故，賓頭盧頗羅墮闍比丘於悟記別，知生已盡、梵行已立、所作已辦、不再受後有。」

〔五〇〕第十 信

一

如是我聞。一時，世尊住鴛伽國一名阿耨那之鴛伽種族聚落。

二

於此，世尊告具壽舍利弗曰：

「舍利弗！聖弟子若對如來一向信仰，彼對如來之教說生猶豫、疑惑否？」

三

「大德！聖弟子若對如來一向信仰，彼則對如來之教說不生猶豫、疑惑。大德！於有信之聖弟子，發勤而住，斷不善法、具足諸善法，精進、勇健堅固，於諸善法不捨其軛，是可期。」

四

大德！其精進者，即其精進根是。

大德！於有信、發勤之聖弟子，有念，成就最勝之念慧，對其長久以前之所作，長久以前之所說，憶念隨念是可期。

五

大德！其念者，即其念根是。

大德！有信、發勤、繫念之聖弟子，以捨為所緣，得定、得心一趣，是可期。

六

大德！其定者，即其定根是。

大德！於有信、發勤、繫念、定心之聖弟子，以『輪迴為無始，眾生為無明所蓋，為渴愛所繫，致流轉、輪迴、不知其前際，然無明、闇聚無餘滅盡，則為寂靜位，此為殊勝位，謂：當知一切行之寂止、一切取之棄捨、愛盡、離欲、滅盡、涅槃』是可期。

七

大德！其慧者，即其慧根是。

大德！有信之聖弟子，如是再三發勤，如是再三憶念，如是再三入定，如是再三了知，生如是深信：『我前所聞之諸法，今於身觸而住，於慧通達而觀。』

八

大德！其信者，即其信根是。」

九

「善哉，善哉！舍利弗！舍利弗！聖弟子若對如來一向信仰，彼則於如來之教說，不生猶豫、疑惑。舍利弗！有信之聖

弟子，發勤而住，為斷諸不善法、具足諸善法，精進、勇健堅固，於諸善法不捨其軛，是可期。

一〇～一三

舍利弗！其精進者，即其精進根是。

舍利弗！於有信，發勤之聖弟子……乃至……

舍利弗！有信之聖弟子，如是再三發勤，如是再三憶念，如是再三入定，如是再三了知，生如是深信：『我前所聞之諸法，今於身觸而住，於慧通達而觀之。』

一四

舍利弗！其信者，即其信根是。」

此品之攝頌曰：

老與婆羅門
沙祇城東河
四者之東園
賓頭盧信十

第六 拘薩羅

〔五一〕第一 拘薩羅

一

如是我聞。一時，世尊住拘薩羅國之拘薩羅婆羅門村。

二

於此，世尊告諸比丘曰……乃至……

三

「諸比丘！譬如於諸傍生中，以師子獸王稱為其最勝，乃依勢力、勢速、勇猛者。諸比丘！如是於諸覺分法中，以慧根稱之為最勝，乃資於菩提者。

諸比丘！何為覺分法耶？

四

諸比丘！信根為覺分法，資於菩提。精進根為覺分法，資於菩提。念根為覺分法，資於菩提。定根為覺分法，資於菩提。慧根為覺分法，資於菩提。

五

諸比丘！譬如於諸傍生中，以師子獸王稱之為最勝，乃依勢力、勢速、勇猛者。諸比丘！如是諸覺分法中，以慧根稱之為最勝，乃資於菩提者。」

〔五二〕第二 末羅

一

如是我聞。一時，世尊住末羅國一名鬱鞞羅劫波之末羅村。

二

於此，世尊告諸比丘曰……乃至……

三

「諸比丘！於聖弟子，若尚未生聖智者，則無四根之等住，無四根之安住。諸比丘！於聖弟子，若已生聖智，則有四根之等住，有四根之安住。」

四

諸比丘！譬如於重閣，尚未建屋頂，則無重簷之等住，無重簷之安住。諸比丘！於重閣若已建屋頂，則有重簷之等住，有重簷之安住。諸比丘！如是於聖弟子，若聖智尚未生，則無四根之等住，無四根之安住。諸比丘！於聖弟子，若聖智已生，則有四根之等住，有四根之安住。以何為四根耶？信根、精進根、念根、定根是。

五

諸比丘！聖弟子若有慧，則隨信等而住，隨精進等而住，隨念等而住，隨定等而住。」

〔五三〕第三 有學

一

如是我聞。一時，世尊住拘睺彌城瞿師羅園。

二

於此，世尊告諸比丘曰……乃至……

「諸比丘！有何理趣，依此理趣故，有學之比丘住有學地，知『我為有學』；無學之比丘住無學地，知『我為無學』耶？」

「大德！我等於法，以世尊為根本……乃至……」

三

「諸比丘！有理趣。依此理趣故，有學之比丘住有學地，知『我為有學』；無學之比丘住無學地，知『我為無學。』

四

諸比丘！有何之理趣，依其理趣故，有學之比丘住有學地，知『我為有學』耶？諸比丘！此處有有學之比丘，對此為苦亦如實知，此為苦集亦如實知，此為苦滅亦如實知，此為順苦滅道亦如實知。諸比丘！有此理趣，依此理趣故，有學之比丘住有學地，知『我為有學。』

五

諸比丘！復次，有學之比丘如是思擇：『其餘之沙門、婆羅門，有如世尊之如是真實、如是說法者耶？』彼如是知：『其餘之沙門、婆羅門，有如世尊之如是真實、如是說法者，無也。』諸比丘！有此理趣，依此理趣故，有學之比丘住有學地，知『我為有學。』

六

諸比丘！復次有學之比丘，知於五根，即：信根、精進根、念根、定根、慧根是。以其趣、其最勝、其果、其究竟，於身不觸而住，於慧通達而觀。諸比丘！有此理趣，依此理趣故，有學之比丘住有學地，知『我為有學。』

七

諸比丘！有何之理趣、依何之理趣故，無學之比丘，住無學地，知『我為無學』耶？諸比丘！於此無學之比丘，知於五

根。即：信根、精進根、念根、定根、慧根是。以其趣、其最勝、其果、其究竟，於身觸而住，於慧通達而觀。諸比丘！有此理趣，依此理趣故，無學之比丘，住無學地，知『我為無學。』

八

諸比丘！復次，無學之比丘，知於六根，即眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根是。總此六根一切一切種，皆可滅於一切無餘，於任何他處不再生六根，此當知。諸比丘！有此理趣，依此理趣故，無學之比丘，住無學地，知『我為無學。』」

〔五四〕第四 足迹

※二

「諸比丘！譬如一切步行生類之足迹，皆為象迹所攝、以象迹稱為最上，以此為大故。諸比丘！如是，資於菩提之諸句中，以慧根稱為資於菩提之最上。

三

諸比丘！何為資於菩提之句耶？諸比丘！信根為資於菩提之句，精進根為資於菩提之句，念根為資於菩提之句，定根為資於菩提之句，慧根為資於菩提之句。

四

諸比丘！譬如一切步行生類之足迹，皆為象迹所攝、以象迹稱為最上，以此為大之故。諸比丘！如是，於資於菩提之諸句中，以慧根稱為資於菩提之最上句。」

〔五五〕第五 核

※二

「諸比丘！譬如於諸核香中，以赤檀稱為最上。諸比丘！如是，諸覺分法中，以慧根稱為資於菩提之最上。」

三

諸比丘！何為覺分法耶？諸比丘！信根為資於菩提之覺分法，精進根為資於菩提之覺分法，念根為資於菩提之覺分法，定根為資於菩提之覺分法，慧根為資於菩提之覺分法。

四

諸比丘！譬如於諸核香中，以赤檀稱為最上。諸比丘！如是，於諸覺分法中，以慧根稱為資於菩提之最上。」

〔五六〕第六 依止

一

舍衛城。

二

「諸比丘！比丘依止一法，對五根修習、多修。以何為一法耶？不放逸是。」

三

諸比丘！以何為不放逸耶？諸比丘！於此比丘，於漏與隨有漏之諸法護心，彼於漏與隨有漏之諸法護心，則信根修習圓

滿，精進根修習圓滿，念根修習圓滿，定根修習圓滿，慧根修習圓滿。

四

諸比丘！如是，比丘依止一法，對五根修習、善修習。」

〔五七〕第七 梵天

一

如是我聞。一時，世尊初成現等覺，住優樓頻螺村，尼連禪那河邊之阿闍婆羅榕樹下。

二

時，世尊靜居宴然生如是之心念：

「對五根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對信根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對精進根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對念根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對定根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對慧根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對此五根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死。」

三

時，娑婆主梵天王對世尊之心念，以心知。譬如力士之伸屈臂，屈伸臂，如是速沒於梵天，現於世尊之前。

四

時，娑婆主梵天王偏袒上衣，向世尊合掌，白世尊言：

「如是世尊！如是善逝！對五根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死。何為五根耶？對信根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對精進根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對念根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對定根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死；對慧根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死。對此五根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死。

五

大德！往昔，我於迦葉正等覺者修梵行。其時，我以娑婆比丘名被知於世人。大德！我對此五根修習、多修，於諸欲離諸欲，死後命終生善趣梵世，於此，我被知為娑婆主梵天王。

六

如是世尊！如是善逝！我知此見此，對此五根修習、多修者，則究竟不死、趣向不死、究盡不死。」

〔五八〕第八 須迦羅迦陀

一

如是我聞。一時，世尊住王舍城，耆闍崛山之……。

二

於此，世尊告具壽舍利弗曰：

「舍利弗！觀何之義趣故，漏盡比丘對如來或如來之教說，作最勝敬禮耶？」

「大德！觀無上之安穩故，漏盡比丘對如來或如來之教說，作最勝敬禮。」

三

「善哉！善哉！舍利弗！舍利弗！觀無上之安穩故，漏盡比丘對如來或如來之教說，作最勝之敬禮。」

四

舍利弗！云何觀無上之安穩故，漏盡比丘對如來或如來之教說，作最勝敬禮耶？」

五

「大德！於此，漏盡比丘對順寂止、順等覺之信根修習，對順寂止、順等覺之精進根修習，對順寂止、順等覺之念根修習，對順寂止、順等覺之定根修習，對順寂止、順等覺之慧根修習。大德！觀如是無上之安穩故，漏盡比丘對如來或如來之教說，作最勝敬禮。」

六

「善哉！善哉！舍利弗！舍利弗！觀如是無上安穩故，漏盡比丘對如來或如來之教說，作最勝之敬禮。」

七

舍利弗！云何漏盡比丘對如來或如來之教說，作最勝敬禮耶？」

八

「大德！於此漏盡比丘，對師尊重恭敬而住，對法尊重恭敬而住，對僧尊重恭敬而住，對學尊重恭敬而住，對定尊重恭敬而住。大德！如是漏盡比丘，對如來或如來之教說，作最勝敬禮。」

九

「善哉，善哉！舍利弗！舍利弗！如是以最勝敬禮，漏盡比丘對如來或如來之教說以作。」

〔五九〕第九 生（一）

一

舍衛城。

二

「諸比丘！對五根修習、多修者，則未生亦生，但除如來、應供、正等覺者之不出現。」

三

以何為五根耶？信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！對此五根修習、多修者，則未生亦生，但除如來、應供、正等覺者之不出現。」

〔六〇〕第十 生（二）

一～二

舍衛城……說曰——

三

「諸比丘！對五根修習、多修者，則未生亦生，但除善逝之無調伏。」

四

以何為五根耶？信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘對此五根修習、多修者，則未生亦生，但除善逝之無調伏。」

第六品（終）

此品之攝頌曰：

拘薩羅末羅
有學與足迹
核以及依止
梵天二之生

第七 覺分品

〔六一〕第一 結

一

舍衛城。

二

諸比丘！對五根修習、多修者，則資於諸結之斷……

〔六二〕第二 隨眠

※二

……資於隨眠之永斷……

〔六三〕第三 徧知

※二

……資於行路之徧知……

〔六四〕第四 漏盡

※二

……資於諸漏之滅盡。

三

以何為五根耶？信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！對此五根修習、多修者，則資於諸結之斷……資於隨眠之永斷……資於行路之徧知……資於諸漏之滅盡。

〔六五〕第五 果（一）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此是五根。

三

諸比丘！對此五根修習、多修者，則二果之隨一果可期，於現法開悟，或多餘依得不還果。」

〔六六〕第六 果（二）

※二

「諸比丘！有五根。以何為五根耶？信根、精進根、念根、定根、慧根是。諸比丘！此是五根。

三

諸比丘！對此五根修習、多修者，則有七果、七功德之可期。以何為七果、七功德耶？

四

於現法已得開悟；若於現法未得開悟，則於命終時得開悟；若於現法不得開悟，命終時亦不得開悟者，則依五下分結盡，得中般涅槃；若於現法不得開悟，命終時亦不得開悟，依五下分結盡，亦不得中般涅槃者，則依五下分結盡，得損害般涅槃；若於現法不得開悟，命終時亦不得開悟，依五下分結盡，亦不得中般涅槃，依五下分結盡，亦不得損害般涅槃者，則依五下分結盡，得無行般涅槃；若於現法不得開悟，命終時亦不得開悟，依五下分結盡，亦不得中般涅槃，依五下分結盡，亦不得損害般涅槃，依五下分結盡，亦不得無行般涅槃，則依五下分結盡，得有行般涅槃；若於現法不得開悟，命終時亦不得開悟，依五下分結盡，亦不得中般涅槃，依五下分結盡，亦不得損害般涅槃，依五下分結盡，亦不得無行般涅槃，依五下分結盡，亦不得有行般涅槃者，則依五下分結盡，為上流至色究竟天。

諸比丘！對此五根修習、多修者，則有七果、七功德之可期。」

〔六七〕第七 樹（一）

※二

「諸比丘！譬如於閻浮提之諸樹木中，以閻浮樹稱為最上。諸比丘！如是，於諸覺分法中，以慧根稱為資於菩提之最上。

三

諸比丘！何為覺分法耶？諸比丘！信根為覺分法，資於菩提；精進根為覺分法，資於菩提；念根為覺分法，資於菩提；定根為覺分法，資於菩提；慧根為覺分法，資於菩提。

諸比丘！譬如於閻浮提之諸樹木中，以閻浮樹稱為最上。諸比丘！如是，於諸覺分法中，以慧根稱為資於菩提之最上。」

〔六八〕第八 樹（二）

※二

「諸比丘！譬如於忉利天之諸樹木中，以波利質多羅樹稱為最上。諸比丘！如是，於諸覺分法中，以慧根稱為資於菩提之最上。

三

諸比丘！以何為覺分法耶？諸比丘！信根為覺分法，資於菩提；精進根為覺分法，資於菩提；念根為覺分法，資於菩提；定根為覺分法，資於菩提；慧根為覺分法，資於菩提。

諸比丘！譬如於忉利天之諸樹木中，以波利質多羅樹稱為最上。諸比丘！如是，於諸覺分法中，以慧根稱為資於菩提之最上。」

〔六九〕第九 樹（三）

※二

「諸比丘！譬如於阿修羅之諸樹木中，以蘇質怛邏波吒羅樹稱為最上。諸比丘！如是，於諸覺分法中，以慧根稱為資於菩提之最上。」

三

諸比丘！以何為覺分法耶？諸比丘！信根為覺分法，資於菩提；精進根為覺分法，資於菩提；念根為覺分法，資於菩提；定根為覺分法，資於菩提；慧根為覺分法，資於菩提。

諸比丘！譬如於阿修羅之諸樹木中，以蘇質怛邏波吒羅樹稱為最上。諸比丘！如是，於諸覺分法中，以慧根稱為資於菩提之最上。」

〔七〇〕第十 樹（四）

※二

「諸比丘！譬如於金翅鳥之諸樹木中，以拘吒睺摩利樹稱為最上。如是，於諸覺分法中，以慧根稱為資菩提之最上。」

三

諸比丘！以何為覺分法耶？諸比丘！信根為覺分法，資於菩提；精進根為覺分法，資於菩提；念根為覺分法，資於菩

提；定根為覺分法，資於菩提；慧根為覺分法，資於菩提。

諸比丘！譬如於金翅鳥之諸樹木中，以拘吒摩利樹稱為最上。諸比丘！如是，於諸覺分法中，以慧根稱為資於菩提之最上。」

第七 覺分品 (終)

此品之攝頌曰：

結以及隨眠
徧知與漏盡
二果與四樹
以之說此品

第八 恆河廣說（遠離依止）

〔七一〕第一 遠離

※二

「諸比丘！譬如恆河，趣向於東、傾向於東、臨入於東。諸比丘！如是，比丘對五根修習、多修者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃。

諸比丘！比丘云何對五根修習、多修者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃耶？

三

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，修習迴向於捨之信根。……修習精進根……念根……定根……慧根。

四

諸比丘！如是，比丘對五根修習，對五根多修者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃。」

〔七二～八二〕第二～十二

如於根相應，如於道亦相應。

攝頌曰：

趣向東者六
趣向海者六
以之於十二
共說恆河品

恆河若廣說，當依根可廣說也。

第九 不放逸品（遠離依止）

〔八三～九二〕第一～十

攝頌曰：

如來與足跡
屋頂與根核
夏生花王月
日夜等十句

於遠離依止之廣說，依根廣說不放逸品。

第十 力所作品（遠離依止）

〔九三～一〇四〕第一～十二

攝頌曰：

力與種子龍
樹與瓶及芒
虛空與二雲
船舶與客河

於遠離依止，廣說根相應之力作所品。

第十一 尋覓品（遠離依止）

〔一〇五～一一七〕第一～十二

攝頌曰：

尋覓次第漏
有以及三苦
礙與垢及捨
受乃至渴愛

以遠離依止可廣說根相應之尋覓品。

第十二 瀑流品（遠離依止）

〔一一八～一二七〕第一～九

〔一二八〕第十 上分結

※二

「諸比丘！有五上分結。以何為五上分結耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！以此為五上分結。

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡、予斷，應修習五根。以何為五根耶？

三

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，修習迴向於捨之信根。……修習精進根……念根……定根……慧根。

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡……予斷，應修習此五根。」

攝頌曰：

瀑流與軛取
繫以及隨眠
妙欲乃至蓋
蘊與上下分

以遠離依止善廣說根相應之瀑流品。

第十三 恆河廣說（貪欲調伏）

〔一二九〕第一

※二

「諸比丘！譬如恆河……

三

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲調伏、為究盡瞋恚調伏、為究盡愚癡調伏，修習信根。……修習精進根……念根……定根……慧根……傾入涅槃，臨入於涅槃。」

〔一三〇～一四〇〕第二～十二

攝頌曰：

趣向東者六
趣向海者六

以之成十二
共說恆河品

依貪欲調伏，廣說根相應。

第十四 不放逸品（貪欲調伏）

〔一四一～一五〇〕第一～十

第十五 力所作品（貪欲調伏）

〔一五一～一六二〕第一～十二

第十六 尋覓品（貪欲調伏）

〔一六三～一七五〕第一～十二

第十七 瀑流品（貪欲調伏）

〔一七六～一八四〕第一～九

〔一八五〕第十 上分結

※二

「諸比丘！有五上分結。以何為五上分結耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五上分結。

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡……予斷……應修習五根。何為五根耶？

三

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲調伏、為究盡瞋恚調伏、為究盡愚癡調伏，修習信根。……精進根……念根……定

根……修習慧根。

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡……予
斷，應修習此五根。」

攝頌曰：

瀑流與軛取
繫以及隨眠
妙欲乃至蓋
蘊與上下分

依貪欲調伏，廣說根相應之瀑流品

第四根相應
（終）

第五 正勤相應

第一 恆河廣說

〔一～一二〕 第一～一二

一～二

舍衛城。

於此，世尊對諸比丘說示曰：

「諸比丘！有四正勤。以何為四正勤耶？

三

諸比丘！於此有比丘，為對未生之惡不善法不令生，起志欲、精進、發勤，策心而持。

四

為對已生之惡不善法令斷，起志欲、精進、發勤，策心而持。

五

為對未生之善法令生，起志欲、精進、發勤，策心而持。

六

為對已生之善法令住、不忘失、倍修習、廣修習、令圓滿，起志欲、精進、發勤，策心而持。

七

諸比丘！此為四正勤。

八

諸比丘！譬如恆河之趣向於東、傾向於東、臨入於東。諸比丘！如是比丘，對四正勤予修習，對四正勤多修者，則趣向涅槃，傾向涅槃，臨入於涅槃。

諸比丘！比丘云何對四正勤修習，對四正勤多修者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃耶？

九

諸比丘！於此有比丘，為對未生之惡不善法令不生，起志欲、精進、發勤，策心而持。為對已生之惡不善法令斷，起志欲、精進、發勤，策心而持。為對未生之善法令生，起志欲、精進、發勤，策心而持。為對已生之善法令住持，不忘失、倍修習、廣修習、圓滿，起志欲、精進、發勤，策心而持。

一〇

諸比丘！比丘如是對四正勤修習，對四正勤多修者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃。」

攝頌曰：

趣向東者六
趣向海者六
二六一十二
以之說此品

以正勤相應之恆河相應，依正勤之可廣說。

第二 不放逸品

〔一三～二二〕第一～十

攝頌曰：

如來與足迹
屋頂與根核
夏生花王月
日衣等十句

依正勤廣可廣說不放逸品。

第三 力所作品

〔二三～三四〕第一～十二

※二

諸比丘！猶如作諸力所作之事業，皆依於地、立於地，如是作力所作之事業。諸比丘！如是比丘，依於戒，立於戒而修習四正勤、多修四正勤。

三

諸比丘！云何比丘，依戒、立戒而修習四正勤、多修四正勤耶？

四～七

諸比丘！此處有比丘，為未生之惡不善法令不生，以起至欲，精進、發勤、持以策心。為已生之惡不善法令斷，以起至欲，精進、發勤，持以策心。為未生之善法令生，以起志欲，精進、發勤，持以策心。已生之善法令住為不忘失、倍修習、廣修習、令圓滿。以起至欲，精進、發勤，持以策心。

八

諸比丘！比丘如是依於戒、立於戒，修習四正勤、多修四正勤。

〔攝頌曰：〕

力與種子龍
樹與瓶及芒
虛空與二雲
船舶及客河

如是依正勤廣說力所作品

第四 尋覓品

〔三五～四四〕第一～十

※二

「諸比丘！有三尋覓。以何為三尋覓耶？欲尋、有尋、行尋是。諸比丘！此為三尋。

三

諸比丘！為對此三尋覓證知……徧知……徧盡、予斷，應修習四正勤。以何為四正勤耶？

四～七

諸比丘！於此有比丘，對未生之……乃至……對已生之善法令住，不忘失、倍修習、廣修習、圓滿，起志欲、精進、發勤，策心而持。

八

諸比丘！對此三尋覓，為證知……徧知……徧盡……予斷，應修習四正勤。」

攝頌曰：

尋覓與次第
漏有及三苦
礙與垢及捨
受乃至渴愛

依正勤可廣說尋覓品。

第五 瀑流品

〔四五～五三〕第一～十

〔五四〕第十 上分結

※二

「諸比丘！有五上分結。以何為五上分結耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五上分結。」

三

諸比丘！對此五上分結，為證知……徧知……徧盡……予斷，應修習四正勤。何為四正勤耶？

四～七

諸比丘！於此有比丘，對未生之……乃至……對已生之善法令住，不忘失、倍修習、廣修習、圓滿，起志欲、精進、發

勤，策心而持。

八

諸比丘！對此五上分結，為證知……徧知……徧盡……予斷，應修習此四正勤。」

攝頌曰：

瀑流與輒取
繫以及隨眠
妙欲乃至蓋
蘊與上下分

依正勤可廣說瀑流品。

第五 正勤相應
(終)

第六 力相應

第一 恆河廣說（遠離依止）

〔一〕第一

※二

「諸比丘！有五力。以何為五力耶？信力、精進力、念力、定力、慧力是。諸比丘！此為五力。」

三

諸比丘！譬如恆河之趣向東、傾向東、臨入於東。諸比丘！如是對五力修習、對五力多修者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃。

諸比丘！比丘云何對五力修習、對五力多修者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃耶？

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，修習迴向於捨之信力。……修習精進力……念力……定力……慧力。

五

諸比丘！如是，比丘修習五力、多修五力者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃。」

〔二～一二〕第二～十二

此品之攝頌曰：

趣向東者六
趣向海者六
二六與十二
以說恆河品

依力之恆河廣說，可予廣說。

第二 不放逸品（遠離依止）

〔一三～二二〕第一～十

攝頌曰：

如來與足迹
屋頂與根核
夏生花王月
日衣等十句

對不放逸品，依力相應可廣說。

第三 力〔所作〕品（遠離依止）

〔二三～三四〕第一～十二

攝頌曰：

力與種子龍
樹與瓶與芒
虛空與二雲
船舶與客河
依力相應可廣說。

第四 尋覓品（遠離依止）

〔三五～四六〕第一～十二

攝頌曰：

尋覓與次第
漏有與三苦
礙以及垢搖
受乃至渴愛

依力相應對尋覓品廣說。

第五 瀑流品（遠離依止）

〔四七～五五〕第一～九

〔五六〕第十 上分結

※二

「諸比丘！有五上分結。以何為五上分結耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五上分結。

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡……予斷，應修習五力。以何為五力耶？

三

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，修習迴向於捨之信力。……修習精進力……念力……定力……慧力。

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡……予斷，應修習五力。」

攝頌曰：

瀑流與軛取
繫以及隨眠
妙欲乃至蓋
蘊與上下分

對瀑流品，依力相應可廣說。

第六 恆河廣說（貪欲調伏）

〔五七〕第一

※二

「諸比丘！有五力。以何為五力耶？……

三

諸比丘！譬如恆河之趣向東、傾向東、臨入於東。諸比丘！如是，比丘對五力多修者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃。

諸比丘！比丘云何修習五力、多修五力者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃耶？

四

諸比丘！於此有比丘，為究盡調伏貪欲，為究盡調伏瞋恚，為究盡調伏愚癡，修習信力。……修習精進力……念力……定力……慧力。

諸比丘！比丘如是修習五力、多修五力者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃。」

〔五八～六八〕第二～十二

攝頌曰：

趣向東者六
趣向海者六

二六及十二
以說恆河品

第七 不放逸品（貪欲調伏）

〔六九～七八〕第一～十

攝頌曰：

如來與足跡
屋頂與根核
夏生花王月
日衣等十句

對不放逸品，依力相應之貪欲調伏可廣說。

第八 力（所作）品（貪欲調伏）

〔七九～九〇〕第一～十二

攝頌曰：

力與種子龍樹與瓶與芒
虛空與二雲船舶與客河

對力所作品，依力相應之調伏貪欲可廣說。

第九 尋覓品（貪欲調伏）

〔九一～一〇〇〕第一～十

攝頌曰：

尋覓與次第
漏與有與苦
礙與垢與搖
受乃至渴愛

對尋覓品，依力相應可廣說。

第十 瀑流品（貪欲調伏）

〔一〇一～一〇九〕第一～九

〔一一〇〕第十 上分（結）

※二

「諸比丘！有五上分結。以何為五上分結耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五上分結。

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡……予斷，應修習五力。以何為五力耶？

三

諸比丘！於此有比丘，為究盡貪欲調伏、為究盡瞋恚調伏、為究盡愚癡調伏，修習信力。……修習精進力……念力……定力……慧力。

四

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡……予斷，應修習五力。」

攝頌曰：

瀑流與軛取
繫乃至隨眠
妙欲以及蓋
蘊與上下分

對第十瀑流品，依力相應可廣說。

第六 力相應
(終)

第七 神足相應

第一 遮婆羅品

〔一〕第一 此岸

※二

「諸比丘！對四神足修習、多修者，則資於由此岸至彼岸。以何為四神足耶？」

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地勤行成就之神足，修習心三摩地勤行成就之神足，修習觀三摩地勤行成就之神足。

諸比丘！修習四神足、多修者，則資於由此岸至彼岸。」

〔二〕第二 失

※二

「諸比丘！若有失四神足者，正失順苦盡之聖道。

諸比丘！若有得四神足者，正得順苦盡之聖道。

何為四神足耶？」

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習心三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地勤行成就之神足，

修習觀三摩地勤行成就之神足。

四

諸比丘！若有失此四神足者，正失順苦盡之聖道。諸比丘！若有得此四神足者，正得順苦盡之聖道。」

〔三〕第三 聖

※二

「諸比丘！對四神足修習、多修者，則聖、出離；修此者，正至苦滅盡。何為四神足耶？

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地勤行成就之神足，修習心三摩地勤行成就之神足，修習觀三摩地勤行成就之神足。

四

諸比丘！對此四神足修習、多修者，則聖、出離；修此者，正至苦滅盡。」

〔四〕第四 厭患

※二

「諸比丘！對四神足修習、多修者，則資於一向厭患、離貪、滅盡、寂靜、證智、等覺、涅槃。以何為四神足耶？

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地勤行成就之神足，修習心三摩地勤行成就之神足，修習觀三摩地勤行成就之神足。

四

諸比丘！對此四神足修習、多修者，則資於一向厭患、離貪、滅盡、寂靜、證智、等覺、涅槃。」

〔五〕第五 一分

※二

「諸比丘！過去世之沙門、婆羅門，成就神足之一分者，皆對此四神足修習、多修。諸比丘！未來世之沙門、婆羅門，成就神足之一分者，皆對此四神足修習、多修。諸比丘！現在之沙門、婆羅門，成就神足之一分者，皆對此四神足修習、多修。以何為四神足耶？

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地勤行成就之神足，修習心三摩地勤行成就之神足，修習觀三摩地勤行成就之神足。

四

諸比丘！過去世之沙門、婆羅門，成就神足之一分者，皆對此四神足修習、多修。諸比丘！未來世之沙門、婆羅門，成就神足之一分者，皆對此四神足修習、多修。諸比丘！現在之沙門、婆羅門，成就神足之一分者，皆對此四神足修習、多修。」

〔六〕第六 全分

※二

「諸比丘！過去世之沙門、婆羅門，成就神足之全分者，皆對此四神足修習、多修。諸比丘！未來世之沙門、婆羅門，成就神足之全分者，皆對此四神足修習、多修。諸比丘！現在之沙門、婆羅門，成就神足之全分者，皆對此四神足修習、多修。以何為四神足耶？

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地勤行成就之神足，修習心三摩地勤行成就之神足，修習觀三摩地勤行成就之神足。

四

諸比丘！過去世之沙門、婆羅門，成就神足之全分者，皆對此四神足修習、多修。諸比丘！未來世之沙門、婆羅門，成就神足之全分者，皆對此四神足修習、多修。諸比丘！現在之沙門、婆羅門，成就神足之全分者，皆對此四神足修習、多修。」

〔七〕第七 比丘

※二

「諸比丘！過去世之比丘，依諸漏盡，對無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住者，皆對此四神足修習、多修。諸比丘！未來世之比丘，由諸漏盡，對無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住者，皆對此四神

足修習、多修。諸比丘！現在之比丘，由諸漏盡，對無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住者，皆對此四神足修習、多修。何為四神足耶？

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地勤行成就之神足，修習心三摩地勤行成就之神足，修習觀三摩地勤行成就之神足。

四

諸比丘！過去世之比丘，由諸漏盡，對無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住者……住者……住者，皆對此四神足修習、多修。」

〔八〕第八 佛

※二

「諸比丘！有四神足。何為四神足耶？

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地勤行成就之神足，修習心三摩地勤行成就之神足，修習觀三摩地勤行成就之神足。諸比丘！此為四神足也。

三

諸比丘！對此四神足修習、多修者，故名之如來、應供、正等覺者。」

〔九〕第九 智

※四

「諸比丘！『此為欲三摩地勤行成就之神足』，於未曾聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。『對此欲三摩地勤行成就之神足宜修習……修習已』，於未曾聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。」

五

諸比丘！『此為勤三摩地勤行成就之神足』，於未曾聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。『此勤三摩地勤行成就之神足宜修習……修習已』，於未曾聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。」

六

諸比丘！『此為心三摩地勤行成就之神足』，於未曾聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。『此心三摩地勤行成就之神足宜修習……修習已』，於未曾聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。」

七

諸比丘！『此為觀三摩地勤行成就之神足』，於未曾聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。『對此觀三摩地勤行成就之神足宜修習……修習已』，於未曾聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。」

〔一〇〕第十 塔

一

如是我聞。一時，世尊住毘舍離城，大林重閣講堂。

二

時，世尊於晨朝時分著下衣、持衣鉢，入毘舍離城乞食。至毘舍離城乞食。食後、由乞食歸，對具壽阿難告曰：

「阿難！取坐具，往至遮婆羅塔，行晝日坐。」

「唯唯！大德！」

具壽阿難應答世尊，即取坐具，隨從世尊之後。

三

時，世尊行至遮婆羅塔。至已，就所設座。具壽阿難敬禮世尊，坐於一面。

四

世尊告坐於一面之具壽阿難曰：

「阿難！毘舍離為樂、瞿曇塔為樂、優陀延塔為樂、七聚塔為樂、多子塔為樂、婆羅塔為樂、遮婆羅塔為樂。阿難！對四神足修習、多修，作乘、作地，隨成、積習、善造作，阿難！若欲則一劫或一劫有餘而住。阿難！如來對四神足修習、多修，作乘、作地，隨成、積習、善造作。阿難！若欲則如來一劫或一劫有餘而住。」

五

世尊如是示廣大之相、廣大之示現，阿難不能通達，請世尊：「大德世尊住一劫、善逝住一劫有餘，為眾生之利益，眾

生之安樂，世間之哀愍，人天之義利、利益、安樂。」為魔覆其心故。

六～七

二度世尊……

八

三度世尊告具壽阿難曰：

「阿難！毘舍離為樂、優陀延塔為樂、瞿曇塔為樂、七聚塔為樂、多子塔為樂、婆羅塔為樂、遮婆羅塔為樂。阿難！對四神足修習、多修，作乘、作地，隨成、積習、善造作，阿難！若欲則一劫或一劫有餘而住。阿難！如來對四神足修習、多修，作乘、作地，隨成、積習、善造作。阿難！若欲則如來一劫或一劫有餘而住。」

九

世尊如是示廣大之相、廣大之示現，阿難不能通達，請世尊：「大德世尊住一劫、善逝住一劫有餘，為眾生之利益，眾生之安樂，世間之哀愍，人天之義利、利益、安樂。」為魔覆其心故。

一〇

時，世尊告具壽阿難曰：

「阿難！今知時矣。」

「唯唯！大德！」

具壽阿難應諾世尊，由座而起，敬禮世尊，作右遶離世尊而去，於不遠處一樹下靜坐。

一一

時，具壽阿難離去未久，魔波旬來至世尊處，至已，白世尊曰：

「大德！世尊請般涅槃，善逝請般涅槃，大德世尊般涅槃時至矣。大德！世尊有云此言：『波旬！若我諸比丘尚未達於明白、調順、無畏、得安穩為多聞、持法、法隨法行、行和敬、隨法行之弟子，未善自受師教、宣說、教示、開示、顯示、開顯、分別、明白，如法降服他之誹謗，說法導引解脫時，我則不般涅槃。』

大德！今世尊之諸比丘，已達至明白、調順、無畏、得安穩為多聞、持法、法隨法行、行和敬、隨法行之弟子，已善自受師教、宣說、教示、開示、顯示、開顯、分別、明白，如法降服他之誹謗，說法導引解脫。

一二

大德世尊！請般涅槃，善逝請般涅槃，大德世尊般涅槃之時至矣。大德世尊曾說此言云：『波旬！若我諸比丘尼……

一三

若我諸優婆塞……優婆夷，尚未達於明白、調順、無畏、得安穩為多聞、持法、法隨法行、行和敬、隨法行之弟子，未善自受師教、宣說、教示、開示、顯示、開顯、分別、明白，如法降服他之誹謗，說法導引解脫者，我則不般涅槃。』

大德！今世尊之諸優婆夷，已達明白、調順、無畏、得安穩為多聞、持法、法隨法行、行和敬、隨法行之弟子，已善自受師教、宣說、教示、開示、顯示、開顯、分別、明白如法降服他之誹謗，說法導引解脫。

一四

大德世尊！請般涅槃，善逝請般涅槃，大德世尊般涅槃之時至矣。大德世尊曾說此言云：『波旬！我梵行未達富榮、增廣、人多廣知、人天善說示時，我則不般涅槃。』

大德！今世尊之梵行已富榮增廣，人多廣知、人天善說示。

大德世尊！請般涅槃，善逝請般涅槃，大德世尊之般涅槃時至矣。」

一五

「波旬！且默！不久如來將般涅槃。今起三月過後如來將般涅槃。」

一六

時，世尊於遮婆羅塔正念正知而捨壽行。世尊捨壽行時，有大地震動、令人驚怖身毛豎立、天鼓作響。

一七

時，世尊知此義，於此時自說偈曰：

限無限有生
牟尼捨有行

於內喜入定
破如鎧我有

第一 遮羅婆品
(終)

此品之攝頌曰：

此岸與失聖
厭患與一分
悉皆與比丘
佛智與此塔

第二 〔鹿母〕殿震動品

〔一一〕第一 前

一

舍衛城。

二

「諸比丘！我先前尚未成等覺現等覺為菩薩時，生如是思念：

『有何因、何緣，修習於神足耶？』

諸比丘！其時，我如是思念——

三

『諸比丘！於此，修習欲三摩地勤行成就之神足，如是我於欲不過分退縮、不過分精勤，於內不收、於外不散，有前後

想而住，後如前、前如後，上如下、下如上，夜如晝、晝如夜，如是以廣大不纏之心，修習光耀心。

四

修習勤三摩地勤行成就之神足，如是我於勤不過分退縮，不過分精勤，於內不收，於外不散，有前後想而住，後如前、前如後，上如下、下如上，夜如晝，晝如夜，如是以廣大不纏之心，修習光耀心。

五

修習心三摩地勤行成就之神足，如是我於心不過分退縮，不過分精勤，於內不收、於外不散，有前後想而住，後如前、前如後，上如下、下如上，夜如晝、晝如夜，如是以廣大不纏之心，修習光耀心。

六

修習觀三摩地勤行成就之神足，如是我於觀不過分退縮、不過分精勤，於內不收、於外不散，有前後想而住，後如前、前如後，上如下、下如上，夜如晝、晝如夜，如是以廣大不纏之心，修習光耀心。』

七

比丘！如是對四神足修習、多修者，則領受多端神變：以一身成多身、以多身成一身，或現或隱，過牆壁山崖無礙如於虛空，出沒地中如於水，行水上不沈如於地，於虛空結跏趺坐如飛鳥，有大神通、大威德，以手捫摸日月，乃至以身威及於梵世。

八

比丘！如是對四神足修習、多修者，則以清淨超人之天耳界，俱聞於遠近天人之聲。

九

比丘！如是對四神足修習、多修者，則對他人之心，以心徧知：以有貪心了知為有貪心，以離貪心了知為離貪心，以有瞋心了知為有瞋心，以離瞋心了知為離瞋心，以有癡心了知為有癡心，以離癡心了知為離癡心，以收心了知為收心，以散心了知為散心，以大心了知為大心，以非大心了知為非大心，以有上心了知為有上心，以無上心了知為無上心，以非定心了知為非定心，以定心了知為定心，以不解脫心了知為不解脫心，以解脫心了知為解脫心。

一〇

比丘！如是對四神足修習、多修者，則隨念於種種之宿住。謂：一生、二生、三生、四生、五生、十生、二十生、三十生、四十生、五十生、百生、千生、百千生、多壞劫、多成劫、多成壞劫；我於彼處：如是名、如是姓、如是色、如是食、如是受樂苦、如是壽量，歿於彼處、生於他處；於他處：如是名、如是姓、如是色、如是食、如是受樂苦、如是壽量，歿於他處、生於此處。如是具行相、名稱，隨念宿住。

一一

比丘！如是對四神足修習、多修者，則以清淨超人之天眼，見有情之死生，知有情隨業而受劣、勝、美醜、善趣、惡趣。

一二

比丘！如是對四神足修習、多修者，則由諸漏盡，無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

〔一二〕第二 大果

※二

「諸比丘！對四神足修習、多修者，則有大果、大功德。諸比丘！云何對四神足修習、多修者，則有大果、大功德耶？

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，如是，於欲不過分退縮、不過分精勤，於內不收、於外不散，有前後想而住，後如前、前如後，上如下，下如上、夜如晝，晝如夜，如是以廣大不纏之心，修習光耀心。

四～五

勤三摩地……乃至……心三摩地……

六

修習觀三摩地勤行成就之神足，如是，於觀不過分退縮、不過分於精勤，於內不收、於外不散，有前後想而住，後如前、前如後，上如下、下如上，夜如晝、晝如夜，如是以廣大不纏之心，修習光耀心。

諸比丘！如是對四神足修習、多修者，則有大果、大功德。

七～一一

諸比丘！比丘如是對四神足修習、多修者，則領受多端神變：以一身成多身……乃至……至梵世以身威而及……乃至……

一二

諸比丘！比丘如是對四神足修習、多修者，則由諸漏盡，而無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

〔一三〕第三 欲

※二

「諸比丘！比丘若依欲修三摩地，獲心一境性，此名為欲三摩地。

彼為令未生之惡不善法不生，起欲、精進、發勤，策心而持。為令已生之惡不善法予斷，起欲、精進、發勤，策心而持。為令未生之善法生，起欲、精進、發勤，策心而持。已生之善法為令住、不忘失，倍修習、廣修習、圓滿之、起欲、精進、發勤，策心而持。此名為勤行。

以欲，修三摩地，而是勤行，諸比丘！此名為欲三摩地勤行成就之神足。

三

諸比丘！比丘若依於勤修三摩地，獲心一境性，此名為勤三摩地。

彼對未生之惡……乃至……對已生之善法為令住、勿忘失，倍修習、廣修習、圓滿之，起欲、精進、發勤、策心而持。此名之為勤行。

以勤，修三摩地，而是勤行，諸比丘！此名為勤三摩地勤行成就之神足。

四

諸比丘！比丘若依心修三摩地，獲心一境性，此名之為心三摩地。

彼未生之……乃至……已生之善法為令住、勿忘失，倍修習、廣修習、圓滿之，起欲、精進、發勤，策心而持。此名之為勤行。

依心修三摩地，而勤行，諸比丘！此名為心三摩地勤行成就之神足。

五

諸比丘！比丘若依觀修三摩地，獲心一境性者，此名為觀三摩地。

彼對未生之惡不善法，為令不生……乃至……對已生之善法，為令住、勿忘失、倍修習、廣修習、圓滿之，起欲、精進、發勤，策心而持。此名之為勤行。

依觀修三摩地，而是勤行，諸比丘！此名為觀三摩地勤行成就之神足。」

〔一四〕第四 目犍連

一

如是我聞。一時，世尊住舍衛城東園鹿子母堂。

二

其時，眾多之比丘，住於鹿子母堂下，掉舉、憍慢、輕薄、饒舌、出雜語、失念、不正知、不能入定、心迷亂、根低劣。

三

時，世尊對具壽大目犍連告曰：

「目犍連！彼同梵行者住鹿子母堂下，掉舉、憍慢、輕薄、饒舌、出雜語、失念、不正知、不入於定、心迷亂、根低劣。目犍連！往嚇彼諸比丘。」

「唯唯！大德！」

具壽目犍連應諾世尊，現神力行，以足指動鹿子母堂搖震。

四

時，彼諸比丘恐懼得身毛豎立，立於一面曰：

「稀有哉！未曾有哉！實則，此鹿子母堂乃善防風，且基深善埋，該是不震不搖，何得動搖震耶？」

五

時，世尊，至彼諸比丘之處。至已，世尊告彼諸比丘曰：

「諸比丘！云何汝等恐懼得身毛豎立，立於一面耶？」

「稀有哉！大德！未曾有哉！大德！實則，此鹿子母堂乃善防風，且基深善埋，該是不震不搖，何得動搖震耶？」

六

「諸比丘！目犍連比丘欲嚇汝等，乃以足指使鹿子母堂動搖震。

諸比丘！汝等於意云何？對何法修習、多修，故目犍連比丘有如是大神通、大威德耶？」

「大德！我等於法以世尊為根本，以世尊為眼……乃至……諸比丘聞世尊之所說受持。」

七

「諸比丘！然則且諦聽。

諸比丘！對四神足修習、多修故，目犍連比丘有如是大神通、大威德。以何為四神足耶？

八

諸比丘！於此目犍連比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足……修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足，如是於欲不過分退縮，不過分精勤，於內不收、於外不散，有前後想而住，後如前、前如後，上如下、下如上，夜如晝、晝如夜，如是以廣大不纏之心，修習光耀心。

九

諸比丘！對此四神足修習、多修，目犍連比丘有如是大神通、大威德。

一〇

諸比丘！對此四神足修習、多修故，目犍連比丘領受多端神變……乃至……至梵世以身威所及。

一一

諸比丘！對此四神足修習、多修故，目犍連比丘由諸漏盡，無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

一二

如是六神通亦應廣說。

〔一五〕第五 婆羅門

一

如是我聞。一時，具壽阿難住拘睺彌瞿師羅園。

二

時，婆羅門來至具壽阿難之處。至已，與具壽阿難俱相交談歡喜、感銘之語，而坐於一面。坐於一面之婆羅門對具壽阿難言曰：

三

「友阿難！為何之義，於沙門瞿曇之處修梵行耶？」

「婆羅門！為斷欲，於世尊之處修梵行。」

四

「友阿難！於斷欲，有道、有跡否？」

「婆羅門！斷欲，是有道、有跡。」

五

「友阿難！斷欲，有何之道、有何之跡耶？」

「婆羅門！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足……修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。婆羅門！此為斷欲之道、之跡。」

六

「友阿難！若然，則為無邊而非有邊，以欲斷欲者，無有是處。」

「婆羅門！然則，我問汝，隨所好應答。」

七

婆羅門！於汝意云何？汝先前有往阿蘭若之欲，已至阿蘭若，則其所生之欲止滅耶？」

「如是，友！」

「汝前有往阿蘭若之勤，已至阿蘭若，則其所生之勤止滅耶？」

「如是，友！」

「汝前有往阿蘭若之心，已至阿蘭若，則其所生之心止滅耶？」

「如是，友！」

「汝前有往阿蘭若之觀，已至阿蘭若，則其所生之觀止滅耶？」

「如是，友！」

八

「婆羅門！如是諸比丘成為阿羅漢，漏盡、梵行已立、所作已辦、棄重擔、逮得己利、盡有結、成為正悟之解脫者。前有獲阿羅漢果之欲，已獲阿羅漢果，則其所生之欲止滅。前有獲阿羅漢果之勤，已獲阿羅漢果，則其所生之勤止滅。前有獲阿羅漢果之心，已獲阿羅漢果，則其所生之心止滅。前有獲阿羅漢果之觀，已獲阿羅漢果，則其所生之觀止滅。」

九

婆羅門！於汝意云何？若然，為有邊耶？為無邊耶？」

「友阿難！若然，則為有邊，非無邊。」

一〇

希有哉！友阿難！……乃至……自今日起，乃至命終，當予歸依。」

〔一六〕第六 沙門婆羅門（一）

※二

「諸比丘！過去世之沙門、婆羅門，有大神通、大威德者，皆因對此四神足修習、多修。

三

諸比丘！未來世之沙門、婆羅門，有大神通、大威德者，皆因對此四神足修習、多修。

四

諸比丘！現在世之沙門、婆羅門，有大神通、大威德者，皆因對四神足修習、多修。

何為四神足耶？

五

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足、修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

六

諸比丘！過去世之諸沙門、婆羅門，有大神通、大威德者……大神通、大威德者……有大神通、大威德者，皆依此四神足之修習、多修。」

〔一七〕第七 沙門婆羅門（二）

※二

「諸比丘！過去世之沙門、婆羅門，領受多端神變；以一身成多身、以多身成一身；或現或隱；過牆壁山崖無礙如於虛空；出沒地中如於水、行於水上不沈如於地上；於虛空結跏趺

坐如飛鳥；有大神通、大威德，以手捫摸日月；乃至以身威及於梵世；皆因對此四神足之修習、多修。

三

諸比丘！未來世之沙門、婆羅門，領受多端神變：以一身成多身、以多身成一身；或現或隱；過牆壁山崖無礙如於虛空；出沒地中如於水、行於水上不沈如於地上；於虛空結跏趺坐如飛鳥；有大神通、大威德，以手捫摸日月；乃至於以身威及於梵世；皆因對此四神足之修習、多修。

四

諸比丘！現在世之沙門、婆羅門，領受多端神變：以一身成多身、以多身成一身；或現或隱；過牆壁山崖無礙如於虛空；出沒地中如於水；行於水上不沈如於地上；於虛空結跏趺坐如飛鳥；有大神通、大威德，以手捫摸此日月；乃至以身威及於梵世皆因對此四神足之修習、多修。

何為四神足耶？

五

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足、修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

六

諸比丘！過去世之沙門、婆羅門，領受多端神變……未來世之……現在世之……皆因對此四神足之修習、多修。」

〔一八〕第八 比丘

※二

「諸比丘！比丘對四神足之修習、多修者，則依諸漏盡，無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。何為四神足耶？

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

諸比丘！比丘對此四神足修習、多修者，則依諸漏盡，無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

〔一九〕第九 說示

※二

「諸比丘！為汝等說神力與神足，及順神足修習之道，且諦聽。

三

諸比丘！以何為神力耶？

諸比丘！於此有比丘，領受多端神變：以一身為多身……乃至……以身威及於梵世。

諸比丘！此名之為神力。

四

諸比丘！以何為神足耶？

諸比丘！得神力，於獲得神力所資之道跡。

諸比丘！此名之為神足。

五

諸比丘！以何為神足之修習耶？

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足、修習勤三摩地……、心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

諸比丘！此名之為神足之修習。

六

諸比丘！以何為神足修習之順道耶？

此八支聖道是，謂：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。

諸比丘！此名之為神足修習之順道。」

〔二〇〕第十 分別

一

※二

「諸比丘！對四神足之修習、多修者，則有大果、大功德。諸比丘！云何對四神足之修習、多修，有大果、大功德耶？

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，如是，於欲不過分退縮、不過分精勤，於內不收、於外不散，有前後想而住，後如前、前如後，上如下、下如上，夜如晝、晝如夜，如是以廣大不纏之心，修習光耀心。

勤三摩地……心三摩地……

修習觀三摩地勤行成就之神足，如是於觀不過分退縮，不過分精勤，於內不收、於外不散，有前後想而住，後如前、前如後，上如下、下如上，夜如晝、晝如夜，如是以廣大無纏之心，修習光耀心。」

二

四

「諸比丘！以何為欲，過分退縮耶？

諸比丘！欲，與懈怠俱行、與懈怠相應。

諸比丘！此名之為欲過分退縮。

五

諸比丘！以何為欲，過分精勤耶？

諸比丘！欲，與掉舉俱行、與掉舉相應。

諸比丘！此名之為欲為過分精勤。

六

諸比丘！以何為欲，於內為收耶？

諸比丘！欲，與惛眠俱行、與惛眠相應。

諸比丘！此名之為欲，於內為收。

七

諸比丘！何為欲外散耶？

諸比丘！欲，依外之五妙欲而擴散。

諸比丘！此名之為欲，於外為散。

八

諸比丘！以何為比丘有前後想而住，後如前、前如後耶？

諸比丘！於此有比丘，對前後想善持、善作意、善觀、於慧善通達。

諸比丘！如是比丘有前後想而住，後如前、前如後。

九

諸比丘！比丘以何為上如下、下如上而住耶？

諸比丘！於此有比丘，觀察由足蹠以上、由髮頂以下至皮為邊際，充滿種種不淨之此身，此身為髮、毛、爪、齒、皮、肉、筋、骨、骨髓、腎、心、肝、肋、膜、脾、肺、腸、腸間膜、胃、排泄物、膽汁、痰、膿、血、汗、脂、淚、漿、唾、鼻液、髓、尿是。

諸比丘！如是比丘為上如下、下如上而住。

一〇

諸比丘！比丘以何為夜如晝、晝如夜而住耶？

諸比丘！於此有比丘，於晝修習欲三摩地勤行成就之神足，以行相、特相、因相，同於夜修習欲三摩地勤行成就之神足。於夜修習欲三摩地勤行成就之神足，以行相、特相、因相，同於晝修習欲三摩地勤行成就之神足。

諸比丘！如是比丘為夜如晝、晝如夜而住。

一一

諸比丘！何為比丘以廣大不纏之心，修習光耀心耶？

諸比丘！於此有比丘，善持光明想、善攝持光明想。

諸比丘！如是比丘為以廣大不纏之心，修習光耀心。」

三

一二

「諸比丘！以何為勤，過分退縮耶？

諸比丘！勤，與懈怠俱行、與懈怠相應。

諸比丘！此名之為勤，過分退縮。

一三

諸比丘！以何為勤過分精勤耶？

諸比丘！勤，與掉舉俱行、與掉舉相應。

諸比丘！此名之為勤過分精勤。

一四

諸比丘！以何為勤，於內為收耶？

諸比丘！勤，與惛眠俱行、與惛眠相應。

諸比丘！此名之為勤，於內為收。

一五

諸比丘！以何為勤，於外為散耶？

諸比丘！勤，依外之五妙欲擴散。

諸比丘！此名之為勤，於外為散。

一六～一九

……乃至……

諸比丘！何為比丘以廣大不纏之心，修習光耀心耶？

諸比丘！於此有比丘，善持光明想，對晝日想善攝持。

諸比丘！如是比丘為以廣大不纏之心，修習光耀心。」

四

二〇

「諸比丘！以何為心過分退縮耶？

諸比丘！心，與懈怠俱行、與懈怠相應。

諸比丘！此名之為心過分退縮。

二一

諸比丘！以何為心過分精勤耶？

諸比丘！心，與掉舉俱行、與掉舉相應。

諸比丘！此名之為心過分精勤。

二二

諸比丘！以何為心，於內為收耶？

諸比丘！心，與惛眠俱行、與惛眠相應。

諸比丘！此名之為心，於內為收。

二三

諸比丘！以何為心，於外為散耶？

諸比丘！心，依外之五妙欲而擴散。

諸比丘！此名之為心，於外為散。

二四～二七

……乃至……諸比丘！如是比丘以廣大不纏之心，修習光耀心。」

五

二八

「諸比丘！以何為觀過分退縮耶？

諸比丘！觀，與懈怠俱行、與懈怠相應。

諸比丘！此名之為觀過分退縮。

二九

諸比丘！以何為觀過分精勤耶？

諸比丘！觀，與掉舉俱行、與掉舉相應。

諸比丘！此名之為觀過分精勤。

三〇

諸比丘！以何為觀，於內為收耶？

諸比丘！觀，與惛眠俱行、與惛眠相應。

諸比丘！此名之為觀，於內為收。

三一

諸比丘！以何為觀，於外為散耶？

諸比丘！觀，依外之五妙欲而擴散。

諸比丘！此名之為觀，於外為散。

三二～三五

……乃至……諸比丘！如是比丘為以廣大不纏之心，修習
光耀心。

三六

諸比丘！對四神足如是修習、對四神足如是多修者，則有大果、大功德。

諸比丘！比丘對四神足如是修習、如是多修時，則領受多端神變：以一身成多身、以多身成一身……乃至……以身威及於梵世……乃至……。

三七

諸比丘！對此四神足如是修習、如是多修時，則依諸漏盡，無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

三八

六神通亦可廣說。

第二鹿母殿震動
品（終）

此品之攝頌曰：

前與大果欲
目連婆羅門
沙門婆羅門
比丘與說示
分別共為十

第三 鐵丸品

〔二一〕第一 道

一

舍衛城。

二

「諸比丘！我先前未成等覺、現等覺，為菩薩時，曾思念：

『有何道、何跡，可修習神足耶？』

諸比丘！其時，我如是思念：

三

『（諸比丘！）於此，修習欲三摩地勤行成就之神足，如是我於欲不過分退縮……乃至……修習光耀心。

四、五

勤三摩地……心三摩地……

六

修習觀三摩地勤行成就之神足，如是我於觀不過分退縮、不過分精勤，於內不收、於外不散，有前後想而住，後如前、前如後，上如下、下如上，夜如晝、晝如夜，如是以廣大不纏之心，修習光耀心。』

七

諸比丘！比丘對四神足如是修習、如是多修者，則領受多端神變：以一身成多身、以多身成一身……乃至……以身威及於梵世。

八

諸比丘！比丘對四神足如是修習、如是多修者，則依諸漏盡，無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

九

六神通亦可廣說。

〔二二〕第二 鐵丸

一

舍衛城。

二

時，具壽阿難來至世尊之處。至已，敬禮世尊，坐於一面，坐於一面之具壽阿難白世尊曰：

三

「大德！世尊稱為依神力以意所成身至於梵世者耶？」

「阿難！我稱為依神力以意所成身至梵世者。」

四

「大德！世尊稱為依神力以此四大所成身至梵世者耶？」

「阿難！我稱為依神力以此四大所成身至梵世。」

五

「大德！世尊能依神力以意所成身至梵世。大德！世尊稱為依神力以此四大所成身至梵世。大德！此於世尊乃稀有、未曾有。」

「阿難！諸如來成就稀有法，而稀有。阿難！諸如來成就未曾有法，而未曾有。」

六

阿難！如來時而攝身於心、攝心於身，置樂想、輕想於身而住。阿難！其時，如來之身成輕軟堪任清淨。

七

阿難！譬如將鐵丸晝日加熱，乃成輕軟堪任清淨。阿難！如是，如來時而攝身於心，攝心於身，置樂想、輕想於身而住，阿難！其時，如來之身乃成輕軟堪任清淨。

八

阿難！如來時而攝身於心、攝心於身，置樂想、輕想於身而住。阿難！其時，如來之身無所作為，而能由地騰於虛空，領受多端神變：以一身成多身……乃至……以身威而及於梵世。

九

阿難！譬如棉花葉、輕棉，受風吹拂，縱無所致力，亦能由地騰於虛空。阿難！如是如來時而攝身於心、攝心於身，置樂想、輕想於身而住。阿難！其時，如來之身無所作，亦能由地騰於虛空，領受多端神變而住，以一身成多身……乃至……以身威而及於梵世。」

〔二三〕第三 比丘

※二

「諸比丘！有四神足。何為四神足耶？

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足……
修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

諸比丘！此為四神足。

三

諸比丘！比丘對此四神足修習、多修者，則依諸漏盡，無
漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

〔二四〕第四 清淨

※二

「諸比丘！有四神足。何為四神足耶？

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足、修
習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

諸比丘！此為四神足。」

〔二五〕第五 果（一）

※二

「諸比丘！有四神足。何為四神足耶？

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足、修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

諸比丘！此為四神足。

三

諸比丘！對此四神足修習、多修者，則有二果之隨一果可期之，於現法得開悟、或為餘依得不還果。」

〔二六〕第六 果（二）

※二

「諸比丘！有四神足。何為四神足耶？

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足、修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

諸比丘！此為四神足。

三

諸比丘！對此四神足修習、多修者，則有七果、七功德可期。何為七果、七功德耶？

四

於現法已得開悟。若於現法未得開悟者，則於命終時得開悟。若於命終時不得開悟者，則依五下分結盡，得中般涅槃。若依五下分結盡，不得中般涅槃者，則依五下分結盡得損害般涅槃。若依五下分結盡，不得損害般涅槃者，則依五下分結盡，得無行般涅槃。若依五下分結盡，不得無行般涅槃者，則

依五下分結盡，得有行般涅槃。若依五下分結盡，不得有行般涅槃者，則依五下分結盡，為上流至色究竟天。

五

諸比丘！對此四神足修習、多修者，則有此七果、七功德可期。」

〔二七〕第七 阿難（一）

一

舍衛城因緣。

二

時，具壽阿難來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面，坐於一面之具壽阿難白世尊曰：

「大德！何為神力、何為神足、何為神足之修習、何為神足修習之順道耶？」

三

「阿難！於此有比丘，領受多端神變：以一身成多身……乃至……以身威而及於梵世。阿難！此名之為神力。

四

阿難！何為神足耶？阿難！得神力、獲得神力所資之道跡。阿難！此名之為神足。

五

阿難！何為神足之修習耶？阿難！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。阿難！此名之為神足之修習。

六

阿難！何為神足修習之順道耶？即八支聖道是，謂：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。阿難！此名之為神足修習之順道。」

〔二八〕第八 阿難（二）

※二

時，具壽阿難來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面，坐於一面時，世尊向具壽阿難言曰：

「阿難！何為神力、何為神足、何為神足之修習、何為神足修習之順道耶？」

「大德！我等於法，皆以世尊為根本、以世尊為眼……乃至……」

三～六

「阿難！於此有比丘，領受多端神變……乃至……阿難！此名之為神足修習之順道。」

〔二九〕第九 比丘（一）

※二

時，眾多比丘來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面，坐於一面之彼諸比丘，白世尊曰：

「大德！何為神力、何為神足、何為神足之修習、何為神足修習之順道耶？」

三～六

「諸比丘！於此有比丘，領受多端神變：以一身……乃至……至梵世……乃至……諸比丘！此名之為神足修習之順道。」

〔三〇〕第十 比丘（二）

※二

時，眾多比丘來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面。時世尊對彼諸比丘曰：

「諸比丘！何為神力、何為神足、何為神足之修習、何為順神足修習之道耶？」

「大德！我等於法皆以世尊為根本，以世尊為眼……乃至……」

三

「諸比丘！何為神力耶？諸比丘！於此有比丘，領受多端神變：以一身為多身……乃至……以身威而及於梵世。諸比丘！此名之為神力。」

四

諸比丘！以何為神足耶？諸比丘！得神力、獲得神力所資之道跡。諸比丘！此名之為神足。

五

諸比丘！以何為神足之修習耶？諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。諸比丘！此名之為神足之修習。

六

諸比丘！以何為順神足修習之道耶？即八支聖道是，謂：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。諸比丘！此名之為順神足修習之道。」

〔三一〕第十一 目犍連

二

於此，世尊告諸比丘曰：

三

「諸比丘！汝等於意云何？對何法修習、多修故，目犍連比丘有如是大神通、大威德耶？」

「大德！我等於法皆以世尊為根本、以世尊為眼……乃至……」

四

「諸比丘！對四神足修習、多修故，目犍連比丘有如是大神通、大威德。何為四神足耶？」

五

諸比丘！於此目犍連比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，如是於欲不過分退縮……乃至……修習光耀心。

六、七

勤三摩地……心三摩地……

八

修習觀三摩地勤行成就之神足，如是於觀不過分退縮、不過分精勤，於內不收、於外不散……乃至……如是以廣大不纏之心，修習光耀心。

九

諸比丘！對此四神足修習、多修故，目犍連比丘有如是大神通、大威德。

一〇

諸比丘！對此四神足修習、多修故，目犍連比丘領受多端神變：以一身成多身、以多身成一身……乃至……以身威而及於梵世。

一一

諸比丘！對此四神足修習、多修故，目犍連比丘依諸漏盡，漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

〔三二〕第十二 如來

※二

於此世尊告諸比丘曰：

三

「諸比丘！汝等於意云何，對何法修習、多修故，如來有
如是大神通、大威德耶？」「大德！我等於法，皆以世尊為根
本……乃至……」

四

「諸比丘！對四神足修習、多修故，如來有如是大神通、
大威德。何為四神足耶？」

五

諸比丘！於此，如來修習欲三摩地勤行成就之神足，如
是，我於欲不過分退縮、不過分精勤……乃至……以廣大不纏
之心，修習光耀心。

六、七

勤三摩地……心三摩地……

八

修習觀三摩地勤行成就之神足，如是，我於觀不過分退
縮、不過精勤……乃至……如是以廣大不纏之心，修習光耀
心。

九

諸比丘！對此四神足修習、多修故，如來有如是大神通、大威德。

一〇

諸比丘！對此四神足修習、多修故，如來領受多端神變：以一身成多身……乃至……以身威而及於梵世。

一一

諸比丘！對此四神足修習、多修故，如來依諸漏盡，無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

第三 鐵丸品
(終)

此中攝頌曰：

道鐵丸比丘
清淨與二果
以及二阿難
乃至二比丘
目犍連如來

第四 恆河廣說

〔三三〕第一

※二

「諸比丘！譬如恆河趣向於東、傾向於東、臨入於東。諸比丘！如是，比丘對四神足修習、對四神足多修者，則趣向於涅槃、傾向於涅槃、臨入於涅槃。

諸比丘！比丘云何對四神足修習、對四神足多修者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃耶？

三

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

諸比丘！比丘如是修習四神足、多修四神足者，則趣向於涅槃、傾向於涅槃、臨入於涅槃。」

〔三四～四四〕第二～十二

攝頌：

趣向東者六
趣向海者六
共有一十二
以說恆河品

依神足可廣說恆河廣說。

第四品（終）

第五 不放逸品

〔四五～五四〕第一～十

二

諸比丘！諸有情之無足、二足、四足……乃至……可廣說。

攝頌曰：

如來與足迹
屋頂與根核
夏生花王月
日衣等十句

依神足可廣說不放逸品。

第五品（終）

第六 力所作品

〔五五～六六〕第一～十二

二

諸比丘！譬如作諸力所作之事業……乃至……可廣說。

攝頌曰：

力與種子龍
樹與瓶及芒
虛空與二雲
船舶與客河

依神足可廣說力所作品。

第六品（終）

第七 尋覓品

〔六七～七六〕第一～十

二

諸比丘！有三種尋覓。何為三種尋覓耶？……乃至……可廣說。

攝頌曰：

尋覓次第漏
有以及二苦
礙與垢及捨
受乃至渴愛
依神足可廣說尋覓。

第八 瀑流品

〔七七〕第一 瀑流

二

諸比丘！有四種瀑流。何為四種瀑流耶？謂：欲流、有流、見流、無明流是……乃至……可廣說。

〔七八～八五〕第二～九

〔八六〕第十 上分結

※二

「諸比丘！有五種上分結。何為五上分結耶？謂：色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五種上分結。

三

諸比丘！對此五上分結，為證知……徧知……徧盡……予斷，應修習四神足。何為四神足耶？

四

諸比丘！於此有比丘，修習欲三摩地勤行成就之神足，修習勤三摩地……心三摩地……觀三摩地勤行成就之神足。

五

諸比丘！對此五上分結，為證知……徧知……徧盡……予斷，應修習此四神足。

依神足可廣說瀑流品。」

如念處（相應），可廣說神足相應。

攝頌曰：

瀑流與軛取
繫以及隨眠
妙欲乃至蓋
蘊與上下分

第七 神足相應
（終）

第八 阿那律相應

第一 獨一品

〔一〕第一 獨一（一）

一

如是我聞。一時，具壽阿那律住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

時，具壽阿那律，獨於一靜處，生如是心念：

「若對四念處有失者，則正如失順苦盡之聖道。若對四念處有得者，則正如得順苦盡之聖道。」

三

時，具壽大目犍連心知具壽阿那律之心念，譬如力士之屈腕伸展、伸腕屈，以如是之速，現於具壽阿那律之前。

四

時，具壽大目犍連對具壽阿那律言曰：

「友阿那律！云何比丘得四念處耶？」

五

「友！於此有比丘，於內身觀集法、於內身觀滅法、於內身觀集滅法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

六

於外身觀集法、於外身觀滅法、於外身觀集滅法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

七

於內外身觀集法、於內外身觀滅法、於內外身觀集滅法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

八

彼若於非違逆，欲以違逆想而住者，即以違逆想住；若於違逆，欲以非違逆想住者，即以非違逆想住；若於非違逆與違逆，欲以違逆想住者，即以違逆想住；若於違逆與非違逆，欲以非違逆想住者，即以非違逆想住；若將非違逆與違逆俱遮，欲以捨、正念、正知住者，即捨、正念、正知而住。

九

於內受觀集法、於內受觀滅法、於內受觀集滅法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一〇

於外受觀集法、於外受觀滅法、於外受觀集滅法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一一

於內外受觀集法、於內外受觀滅法、於內外受觀集滅法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一二

彼若……乃至……

一三

於內心……乃至……

一四

於外心……乃至……

一五

於內外心觀集法、於內外心觀滅法、於內外心觀集滅法，
以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一六

彼若……乃至……

一七

於內法、乃至……

一八

於外法、乃至……

一九

於內外法觀集法、於內外法觀滅法、於內外法觀集滅法，
以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

二〇

彼若於非違逆，欲以違逆想而住者，即以違逆想住……乃至……以捨、正念、正知住。

二一

友！如是，比丘得四念處。」

〔二〕第二 獨一（二）

一

舍衛城因緣。

二

時，具壽阿那律獨一靜處，生如是心念：

「若對四念處有失者，正如失順苦盡之道。若對四念處有得者，正如得順苦盡之道。」

三

時，具壽大目犍連心知具壽阿那律之心念，譬如力士之將屈腕伸、或將伸腕屈，如是之速，出現於具壽阿那律之前。

四

時，具壽大目犍連對具壽阿那律言曰：

「友阿那律！云何比丘得四念處耶？」

五

「友！於此有比丘，於內身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

於外身觀身……於內外身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

六

於內受觀受，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

於外受觀受……於內外受觀受，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

七

於內心……於外心……於內外心觀心，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

八

於內之諸法、於外之諸法、於內外之諸法觀法，以熱法、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

九

友！如是，比丘得四念處。」

〔三〕第三 手成浴池

一

一時，具壽阿那律住舍衛城手成浴池之側。

二

時，有眾多比丘來至具壽阿那律住處。至已，與阿那律俱相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。

三

坐於一面之彼諸比丘，對具壽阿那律曰：

「具壽阿那律！對何法之修習、多修故，得大神通耶？」

四

「友等！我對四念處之修習、多修故，得大神通。何為四念處耶？」

友等！於此我於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。於受……於心……於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

友等！我對此四念處修習、多修故，得大神通。

五

友等！我對此四念處修習、多修故，悟劣法為劣法，悟中法為中法，悟勝法為勝法。」

〔四〕第四 坎它契（一）

一

一時，具壽阿那律與具壽舍利弗及具壽大目犍連住於袈祇城坎它契林。

二

時，具壽舍利弗與具壽大目犍連，夕時由宴默起，來至具壽阿那律住處。至已，與具壽阿那律俱相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。

三

坐於一面之具壽舍利弗，對具壽阿那律曰：

「友阿那律！有學之比丘，應具足何法而住耶？」

「友舍利弗！有學之比丘，應具足四念處而住。何為四念處耶？」

四

友！於此有比丘，於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。於受……於心……於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

友舍利弗！有學之比丘，應對此四念處具足而住。」

〔五〕第五 坎它契（二）

一～二

袈祇城因緣……坐於一面之具壽舍利弗，對具壽阿那律言曰：

三

「友阿那律！無學之比丘，應具足何法而住耶？」

「友舍利弗！無學之比丘，應具足四念處而住。何為四念處耶？」

四

友！於此有比丘，於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。於受……於心……於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

友舍利弗！無學之比丘，應對此四念處具足而住。」

〔六〕第六 坎它契（三）

一～二

袈祇城因緣……坐於一面之具壽舍利弗，對具壽阿那律曰：

三

「具壽阿那律！對何法修習、多修故，得大神通耶？」

「友！我對四念處修習、多修故，得大神通。何為四念處耶？」

四

友！於此，我於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。於受……於心……於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

友！我對此四念處修習、多修故，得大神通。

五

友！我對此四念處修習、多修故，悟千世間。」

〔七〕第七 愛盡

一

舍衛城因緣。

二

於此，具壽阿那律對諸比丘告曰……乃至……

三

「友等！對四念處之修習多修者，則資於渴愛之滅盡。何為四念處耶？」

四

友等！於此有比丘，於身觀身……於受……於心……於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

友等！對此四念處之修習多修者，則資於渴愛之滅盡。」

〔八〕第八 松林精舍

一

一時，具壽阿那律住舍衛城松林精舍。

二

於此，具壽阿那律對諸比丘告曰……乃至……

三

「友等！譬如恆河趣向於東、傾向於東、臨入於東。時有眾人持鋤與筐來，謂曰：『我等作此恆河，使趣向於西、傾向於西、臨入於西。』友等！於汝等之意云何？彼眾人得作將恆河，使趣向於西、傾向於西、臨入於西否？」

「友！不也。」

「何以故耶？」

「友！恆河乃趣向東、傾向東、臨入東，而欲將之趣向西、傾向西、臨入西者為非易事，彼眾人唯蒙困苦損惱而已。」

四

「友等！如是，比丘對四念處修習、對四念處多修者，縱令王、王臣、友、朋、親戚、親族，以財物相伴而引誘云：

『當今，汝意云何，於此袈裟衣為煩耶？云何作剃髮往來者耶？不如還俗受用財物作福業。』友等！彼比丘對四念處修習、對四念處多修者，則無棄學還俗之理。何以故？友等！其心若長夜趣向遠離、傾向遠離、臨入遠離，則絕無還俗之理。」

五

友等！云何比丘對四念處修習、對四念處多修耶？

友等！於此有比丘，於身觀身……於受……於心……於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

友等！如是，比丘對四念處修習，對四念處多修。」

〔九〕第九 一切

一

一時，具壽阿那律與具壽舍利弗，住毘舍離城，菴婆婆梨園。

二

時，具壽舍利弗於夕時分由宴默起，至具壽阿那律住處。至已，與具壽阿那律俱相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。

三

坐於一面之具壽舍利弗，對具壽阿那律曰：

「友阿那律！汝之諸根是清澄，顏色是清淨皎潔，具壽阿那律！今多依何而住、令住耶？」

「友！我今多於四念處，善能將心繫住。何為四念處耶？」

四

友！於此我於身觀身……於受……於心……於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。友！我今多對此四念處，善能將心繫住。

五

友！若比丘成阿羅漢，諸漏盡、梵行已立、所作已辦、捨重擔、逮得己利、盡有結、正悟、解脫者，則多對此四念處，善能將心繫住。」

六

「友！幸哉、**甚**幸哉！我等得聞具壽阿那律之親說雄辯。」

〔一〇〕第十 重患

一

一時，具壽阿那律住舍衛城安陀林，因病困苦重患。

二

時，有眾多比丘，來至具壽阿那律住處。至已，對具壽阿那律言曰：

「具壽阿那律，依何而住、令住故，已生之身苦受，永盡於心而不住耶？」

「友等！我對四念處，善能繫心而住故，則已生之身苦受，永盡於心而不住。何為四念處耶？」

三

友等！於此我於身觀身……於受……於心……於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。友等！我對此四念處，善能繫心而住故，已生之身苦受，則永盡於心而不住。」

第一 獨一品
(終)

此中攝頌曰：

二種之獨一
與手成浴池
坎它契愛盡
松林一切患

第二品

〔一一〕第一 千

一

一時，具壽阿那律住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二～三

時，有眾多比丘來至具壽阿那律住處。至已，與具壽阿那律俱相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。坐於一面之彼諸比丘，對具壽阿那律曰：

「具壽阿那律！對何法修習、多修故，得大神通耶？」

「友等！我對四念處修習、多修故，得大神通。何為四念處耶？」

四

友等！於此，我於身觀身，熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。於受……於心……於諸法觀法，熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

友等！我對此四念處修習、多修故，得大神通。

五

友等！我對此四念處修習、多修之故，憶念一千劫也。」

〔一二〕第二 神變

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，領受多端神變：以一身成多身……乃至……至梵世以身威而及。」

〔一三〕第三 天耳界

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，以清淨超人之天耳界，對遠近天人之聲俱得聞。」

〔一四〕第四 心

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，對他有情、他人之心，以心可徧了知，對有貪心者，了知為有貪心……乃至……了知為解脫心。」

〔一五〕第五 處

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，對處為處，非處為非處，如實可了知。」

〔一六〕第六 業

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，對過去、未來、現在業報之異熟，其處與因，可如實了知。」

〔一七〕第七 道

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，對徧行道，得如實了知。」

〔一八〕第八 世間

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，對多界、種種界之世間，得如實了知。」

〔一九〕第九 種種勝解

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，對眾生之種種勝解，得如實了知。」

〔二〇〕第十 根

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，對他有情、他人之根上下，得如實了知。」

〔二一〕第十一 靜慮

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，對靜慮、解脫、等持、等至之雜染、清淨、出離，得如實了知。」

〔二二〕第十二 明（一）

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，隨念種種之宿住，謂一生、二生……乃至……具如是行相、名稱，隨念宿住。」

〔二三〕第十三 明（二）

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，以清淨、超人之天眼……乃至……有情隨業……而受者，可了知。」

〔二四〕第十四 明（三）

※五

「友等！我對此四念處修習、多修故，依諸漏盡而對無漏之心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。」

此中攝頌曰：

千神變天耳
心處業與道
世間種勝解
根靜慮三明

第九 靜慮相應

第一 恆河廣說

〔一〕第一 初清淨

一～二

舍衛城。

「諸比丘！有四靜慮。以何為四靜慮耶？」

三

諸比丘！於此有比丘，離諸欲、離諸不善法，有尋有伺，於由離生喜與樂之初靜慮具足而住。

四

尋伺止息故，則內淨，心則一趣，於由無尋、無伺三摩地，生喜與樂之第二靜慮具足而住。

五

離喜故，於捨而住，正念正知、身於樂正受，如諸聖之所宣，有捨與念而住於樂，具足第三靜慮具足而住。

六

斷樂斷苦故，滅先之喜與愛故，為不苦不樂、對捨念清淨，具足第四靜慮而住。

七

諸比丘！此為四靜慮。

八

諸比丘！譬如恆河趣向於東、傾向於東、臨入於東。諸比丘！如是，比丘修習四靜慮、多修四靜慮者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃。

諸比丘！比丘云何修習四靜慮、多修四靜慮者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃耶？

九

諸比丘！於此有比丘，離諸欲、離諸不善法，有尋有伺，於由離生喜與樂之初靜慮具足而住。

尋伺止息故……具足第二靜慮……第三靜慮……第四靜慮而住。

諸比丘！比丘如是修習四靜慮、多修四靜慮者，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入於涅槃。」

靜慮相應之初清
淨經（終）

如念處（相應）可廣說。

〔二～一二〕 第二～十二

恆河廣說

攝頌曰：

趣向東者六

趣向海者六
共有~~一~~十二
廣說恆河品

第二 不放逸品

〔一三～二二〕第一～十

攝頌曰：

如來與足跡
屋頂與根核
夏生花王月
日衣等十句

第二 不放逸品
(終)

第三 力所作品

〔二三～三四〕第一～十二

諸比丘！譬如作諸力所作之事業……乃至……可廣說。

攝頌曰：

力與種子龍
樹與瓶及芒
~~虛~~空與二雲
船舶與客河

第三 力所作品
(終)

第四 尋覓品

〔三五～四四〕第一～十

諸比丘！有三種尋覓。以何為三尋覓耶？謂：欲尋、有尋、梵行尋是……乃至……

攝頌曰：

尋覓次第漏
有以及三苦
礙與垢與捨
受與二渴愛

第五 瀑流品

〔四五〕第一

諸比丘！有四種瀑流。以何為四瀑流耶？欲流、有流、見流、無明流是……乃至……可廣說。

〔四六～五三〕第二～九

〔五四〕第十 上分結

※二

「諸比丘！有五上分結。以何為五上分結耶？色貪、無色貪、慢、掉舉、無明是。諸比丘！此為五上分結。

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡……予斷，應修習四靜慮。何為四靜慮耶？

三～六

諸比丘！於此有比丘，離諸欲、離諸不善法，有尋有伺，
由離生喜與樂具足初靜慮……第二靜慮……第三靜慮……第四
靜慮而住。

七

諸比丘！為對此五上分結證知……徧知……徧盡……予
斷，應修習此四靜慮。」

攝頌曰：

瀑流與輒取
繫以及隨眠
妙欲乃至蓋
蘊與上下分

第五 瀑流品
(終)

如道相應，可廣說靜慮相應。

第九 靜慮相應
(終)

第十 入出息相應

第一 一法品

〔一〕第一 一法

一

舍衛城……園。

二

……說曰：

三

「諸比丘！修習於一法、多修者，則有大果、大功德。以何為一法耶？

入出息念是。

諸比丘！於入出息念，云何修習、云何多修者，則有大果、大功德耶？

四

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋，結跏趺坐，以身正持，修念普前，正念而入息，正念而出息。

五

於長入息，了知『我長入息』；於長出息，了知『我長出息』；於短入息，了知『我短入息』；於短出息，了知『我短

出息。』

六

學『我覺徧身入息』，學『我覺徧身出息』，學『我止身行入息』，學『我止身行出息。』

七

學『我覺喜入息』，學『我覺喜出息』，學『我覺樂入息』，學『我覺樂出息。』

八

學『我覺心行入息』，學『我覺心行出息』，學『我止心行入息』，學『我止心行出息』，學『我覺心入出息』，學『我覺心出息。』

九

學『我心喜歡之入息』，學『我心喜歡之出息』，學『我心得定之入息』，學『我心得定之出息』，學『我心解脫之入息』，學『我心解脫之出息。』

一〇

學『我觀無常入息』，學『我觀無常出息』，學『我觀離貪入息』，學『我觀離貪出息』，學『我觀滅盡入息』，學『我觀滅盡出息』，學『我觀定棄入息』，學『我觀定棄出息。』

一一

諸比丘！對入出息如是之修習、如是多修者，則有大果、大功德。」

〔二〕第二 覺支

一～二

舍衛城。

三

「諸比丘！對入出息念修習，多修者，則有大果、大功德。諸比丘！對入出息念云何修習、云何多修者，則有大果、大功德耶？」

四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，修習迴向於捨之入出息念俱行之念覺支……擇法覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支……依遠離、依離貪、依滅盡，修習迴向於捨之入出息念俱行之捨覺支。

五

諸比丘！對入出息念如是修習、如是多修者，則有大果、大功德。」

〔三〕第三 清淨

一～二

舍衛城。

三

「諸比丘！對入出息念修習、多修者，則有大果、大功德。諸比丘！云何於入出息念修習、多修者，則有大果、大功德耶？」

四

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋，結跏趺坐，以身正持，修念於現前，正念而入息、正念而出息……

五～一〇

乃至廣說……學『我觀定棄而入息』，學『我觀定棄而出息。』

一一

諸比丘！如是修習入出息念、如是多修者，則有大果、大功德。」

〔四〕第四 果（一）

※三

「諸比丘！對入出息念修習、多修者，則有大果、大功德。諸比丘！云何修習入出息念、云何多修者，為有大果、大功德耶？」

四～一〇

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋，結跏趺坐，以身正持，修念於現前，正念而入息、正念而出息……

乃至廣說……學『我觀定棄入息』，學『我觀定棄出息。』

一一

諸比丘！對入出息念如是修習、如是多修者，則有大果、大功德。

一二

諸比丘！對入出息念如是修習、如是多修者，則有二果中之隨一果可期，於現法開悟，或為餘依得不還果。」

〔五〕第五 果（二）

※三

「諸比丘！對入出息念修習、多修者，則有大果、大功德。諸比丘！云何修習入出息念、云何多修者，有大果、大功德耶？」

四～一〇

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋……乃至廣說……學『我觀定棄出息。』

一一

諸比丘！對入出息念如是修習、如是多修者，則有大果、大功德。

一二

諸比丘！對入出息念如是修習、如是多修者，則有七果、七功德可期。何為七果、七功德耶？

一三

於現法已得開悟；若於現法不得開悟，則命終時得開悟；若於命終時不得開悟，則依五下分結盡，得中般涅槃……得損害般涅槃……得無行般涅槃……得有行般涅槃……成為上流至色究竟天。

一四

諸比丘！對入出息念如是修習、如是多修者，則有此七果、七功德可期。」

〔六〕第六 阿梨瑟吒

一～二

舍衛城。

於此世尊……說曰：

「諸比丘！汝等應對入出息念修習。」

三

如是說示已，具壽阿梨瑟吒白世尊曰：

「大德，我修習入出息念。」

「阿梨瑟吒！汝云何而修習入出息念耶？」

四

「大德，我於過去之諸欲，斷欲欲；於未來之諸欲，離欲欲；於內外之諸法，善調伏對礙想，以正念而入息、以正念而出息。大德！我如是修習入出息念。」

五

「阿梨瑟吒！如是之入出息念者，我不說有。然而，阿梨瑟吒！有廣大圓滿之入出息念，且諦聽，善作意，我當說。」
具壽阿梨瑟吒應世尊曰——

「唯唯！大德！」

六

世尊說示曰：

「阿梨瑟吒！云何之入出息念，為廣大圓滿耶？」

七～一三

阿梨瑟吒！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋，結跏趺坐……乃至……學『我觀定棄出息。』

一四

阿梨瑟吒！如是之入出息念，為廣大圓滿。」

〔七〕第七 罽賓那

一～二

舍衛城。

三

其時，具壽大闍賓那於不遠處，結跏趺坐，以身正持，修念於現前。

四

世尊見具壽大闍賓那於不遠處，結跏趺坐，以身正持，修念於現前。見已，告諸比丘曰——

「諸比丘！汝等見此比丘之身有傾動否？」

五

「大德！我等見彼具壽於大眾中端坐，獨居而坐，不見彼具壽之身有傾動。」

六

「諸比丘！於定修習、多修故，身無傾動，心無傾動。故彼比丘得定隨樂欲、得無艱難、得無梗澀。

七

諸比丘！修習何定、多修故，身無傾動、心無傾動耶？

諸比丘！修習入出息念定、多修故，身無傾動、心無傾動。

八

諸比丘！云何修習入出息念定、多修者，則身無傾動、心無傾動耶？

九～一五

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋……乃至廣說……學『我觀定棄出息。』

一六

諸比丘！如是修習入出息念定，如是多修者，則身不傾不動、心不傾不動。」

〔八〕第八 燈

一～二

舍衛城。

三

「諸比丘！修習入出息念定、多修者，則有大果、大功德。諸比丘！云何修習入出息念定、云何多修者，則有大果、大功德耶？」

四～一〇

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋，結跏趺坐……乃至廣說……學『我觀定棄出息。』

一一

諸比丘！如是修習入出息念定，如是多修者，則有大果、大功德。

一二

諸比丘！我先前尚未成等覺、現等覺，為菩薩時，多依此而住。諸比丘！我依此而住，於身、於眼不疲倦，無取而由諸漏心解脫。

一三

諸比丘！故比丘若欲：『身、眼不疲倦，無取而由諸漏心解脫』者，應對此入出息念定善自作意。

一四

諸比丘！故比丘若欲：『斷諸在家之思念』者，則應對此入出息念定善自作意。

一五

諸比丘！故比丘若欲：『於非違逆作違逆想而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

一六

諸比丘！故比丘若欲：『於違逆作非違逆想而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

一七

諸比丘！故比丘若欲：『於違逆與非違逆，作違逆想而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

一八

諸比丘！故比丘若欲：『於違逆與非違逆，作非違逆想而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

一九

諸比丘！故比丘若欲：『非違逆與違逆俱遮遺遣，以捨、正念、正知而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

二〇

諸比丘！故比丘若欲：『離諸欲、離不善法、有尋有伺、具足對由離所生喜與樂之初靜慮而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

二一

諸比丘！故比丘若欲：『尋伺止息故，為內淨，心是一趣，無尋無伺，具足由三摩地所生喜與樂之第二靜慮而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

二二

諸比丘！故比丘若欲：『離喜故，於捨而住，正念、正知，以身正受於樂，如諸聖者之所宣，具足有捨與念樂住之第三靜慮而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

二三

諸比丘！故比丘若欲：『斷樂斷苦故，及先前已滅之憂與喜故，具足不苦不樂捨念清淨之第四靜慮而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

二四

諸比丘！故比丘若欲：『徧超色想、滅有對想、於種種想不作意，具足「空為無邊」，於空無邊處而住』者，則應對此

入出息念定善自作意。

二五

諸比丘！故比丘若欲：『徧超空無邊處，具足「識為無邊」，於識無邊處而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

二六

諸比丘！故比丘若欲：『徧超識無邊處，具足「為無所有」，於無所有處而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

二七

諸比丘！故比丘若欲：『徧超無所有處，具足非想非非想處而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

二八

諸比丘！故比丘若欲：『徧超非想非非想處，具足想受滅而住』者，則應對此入出息念定善自作意。

二九

諸比丘！如是修習入出息念定、如是多修者，則感受樂受時，了知『此為無常』、了知『不可耽著』、了知『於我無歡悅』。感受不苦不樂時，了知『此是無常』、了知『不可耽著』、了知『於我無歡悅。』

三〇

感受樂受以離繫而感受於此，感受苦受以離繫而感受於此，感受不苦不樂受以離繫而感受於此。以身為邊際感受受，

了知『以身為邊際感受受』，以命為邊際感受受，了知『以命為邊際感受受』，了知『身壞命終後，於此一切之所受、所歡悅，將為冷卻。』

三一

諸比丘！譬如緣油、緣炷而油燈燃。油與炷盡時，則食無而消滅。諸比丘！如是比丘，以身為邊際感受受，了知『以身為邊際感受受』，以命為邊際感受受，了知『以命為邊際感受受』。了知『身壞命終後，此處一切之所受、所歡悅，將為冷卻。』」

〔九〕第九 毘舍離

一

如是我聞。一時，世尊住毘舍離大林重閣講堂。

二

其時，世尊為諸比丘，以種種方便說示不淨論，讚歎不淨〔觀〕，並讚歎對不淨〔觀〕之修習。

三

時，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！我欲行半月之宴默，除持膳食者一人之外，任何人希勿至吾處。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應諾世尊，除持送膳食者一人之外，任何人未至世尊住處。

四

時，彼諸比丘！以「世尊以種種方便說不淨論，讚歎不淨〔觀〕，讚歎不淨〔觀〕之修習」，乃以行種種相差別不淨之修習而住。彼等以此身為羞、為慚、愧恥，求執刀者，一日十比丘執刀，一日二十比丘執刀，一日三十比丘執刀，以自害。

五

時，世尊過半月後，由宴默起，對具壽阿難曰：

「阿難！云何諸比丘眾已減少耶？」

六

「大德！世尊為諸比丘，以種種方便說不淨論，讚歎不淨〔觀〕，讚歎不淨〔觀〕之修習。大德！彼諸比丘以：『世尊以種種方便說不淨論，讚歎不淨〔觀〕，讚歎不淨〔觀〕之修習。』對種種相差別不淨之修習奉行而住。彼等以此身為羞、為慚、愧恥，求執刀者，一日十比丘……二十比丘……三十比丘執刀自害。大德世尊！願對其他之方便說示，以使比丘眾留住令開悟。」

七

「阿難！然則，將住於毘舍離城附近之一切比丘，集會齊聚於講堂。」

「唯唯！大德！」

具壽阿難應諾世尊，將住於毘舍離城附近之一切比丘，集會於講堂後，來至世尊之處，至已，白世尊曰：

「大德！比丘大眾已集會矣。」

八

時，世尊往至講堂。至已，就所設座。就座之世尊對諸比丘曰：

九

「諸比丘！於此入出息念定，修習、多修者，則寂靜、殊妙、無染、樂住，而惡、不善法生，隨忽消滅。

一〇

諸比丘！譬如夏季之最後月起塵介，忽有大之非時雲將此消滅。諸比丘！如是，於入出息念定，修習、多修者，則寂靜、殊妙、無染、樂住，而惡、不善法生，隨忽消滅。

一一

諸比丘！對入出息念定，云何修習、云何多修者，則為寂靜、殊妙、無染、樂住，而惡、不善法之生，隨忽消滅耶？

一二～一八

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若，往樹下，往空屋……乃至廣說……學『我觀定棄出息。』

一九

諸比丘！於入出息念定，如是修習、如是多修者，則寂靜、殊妙、無染、樂住，而惡、不善法生，隨忽消滅。」

〔一〇〕第十 金毘羅

一

如是我聞。一時，世尊住金毘羅之竹林。

二

於此，世尊對具壽金毘羅曰：

「金毘羅！於入出息念定，云何修習、云何多修者，則有此大果、大功德耶？」

如是說已，具壽金毘羅則默然。

三

二度世尊……乃至……

四

三度世尊對金毘羅曰：

「金毘羅，於入出息念定，云何修習、云何多修者，則有此大果、大功德耶？」三度具壽金毘羅仍默然。

五

如是說已。具壽阿難白世尊曰——

「世尊！時矣，善逝！時矣。世尊請說示入出息念定，諸比丘對世尊所說將受持。」

「阿難！然則，諦聽！善作意，我當說。」

「唯唯！大德！」

具壽阿難應諾世尊。

六

世尊說示曰：

「阿難！於入出息念定，云何修習、云何多修者，則有大果、大功德耶？」

七～一三

阿難！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋……乃至……學『我觀定棄出息。』

一四

阿難！於入出息念定，如是修習、如是多修者，則有大果、大功德。

一五

阿難！若比丘行長入息，則知為『長入息』；行長出息，則知為『長出息』；行短入息，則知為『短入息』；行短出息，則知為『短出息。』學『覺徧身入息』，學『覺徧身出息』，學『止身行入息』，學『止身行出息』，阿難！其時，

比丘於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。何以故耶？

一六

阿難！我說入出息乃隨一之身。阿難！故其時，比丘於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一七

阿難！若比丘，學『覺喜入息』，學『覺喜出息』，學『覺樂入息』，學『覺樂出息』，學『心行入息』，學『覺心行出息』，學『止心行入息』，學『止心行出息』，阿難！此時，比丘於受觀受，以熱誠正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。何以故耶？

一八

阿難！我說入出息之善作意，乃隨一之受。阿難！故其時，比丘於受觀受，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一九

阿難！若比丘，學『覺心入息』，學『覺心出息』，學『心歡喜之入息』，學『心歡喜之出息』，學『心入定之入息』，學『心入定之出息』，學『心解脫之入息』，學『心解脫之出息』，阿難！其時，比丘於心觀心，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。何以故耶？

二〇

阿難！我對忘念、不正知者，於入出息定之修習，不說示。阿難！故其時，比丘於心觀心，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

二一

阿難！若比丘，學『觀無常入息』，學『觀無常出息』，學『觀離貪入息』，學『觀離貪出息』，學『觀滅盡入息』，學『觀滅盡出息』，學『觀定棄入息』，學『觀定棄出息』，阿難！其時，比丘於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住，對貪憂之斷，以慧觀善觀察。阿難！故其時，比丘於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

二二

阿難！譬如於四衢路有大土堆，由東方來之車輿，於其土堆踐蹈，由西方……由北方……由南方來之車輿，於其堆踐蹈。阿難！如是比丘、於身觀身而住，則將惡、不善法踐蹈，於受……於心……於諸法觀法而住，則將惡、不善法踐蹈。」

入出息相應第一
一法品（終）

此中攝頌曰：

一法覺支清淨
二果阿梨瑟吒
罽賓那以及燈
毘舍離金毘羅

第二品

〔一一〕第一 一奢能伽羅

一

一時，世尊住一奢能伽羅之一奢能伽羅林中。

二

於此處，世尊對諸比丘曰：

「諸比丘！我欲行三月宴默，除持食者一人外，任何人希勿至吾處。」

「唯唯！大德！」

彼諸比丘應諾世尊，除持食者一人外，無任何人至世尊之處。

三

時，世尊過三月後由宴默起，對諸比丘曰：

「諸比丘！若異學修行者向汝等如是問：『友等！沙門瞿曇多依何而住，住雨安居耶？』諸比丘！若如是問者，汝等對彼異學修行者應如是答：『友等！世尊多依入出息念定，住於雨安居。』」

四

諸比丘！我於此處以正念入息，以正念出息。

五～一〇

行長入息，知為『長入息』；行長出息，知為『長出息』
……乃至……知『觀定棄入息』，知『觀定棄出息。』

一一

諸比丘！謂：正說是聖住、是梵住、是如來住。應以入出息念定為正說，謂：是聖住、是梵住、是如來住。」

一二

諸比丘！比丘若有學而未得心希求安穩而住者，以修習，多修習入出息念定，以資諸漏之滅盡。諸比丘！若比丘是阿羅漢，斷盡有結滅盡諸漏（梵行）已立、所作已辦、捨棄重擔，逮得到已利，證悟而解脫者，修習、多修習入出息念定，可資現法樂住及正念、正知。

一三

諸比丘！言：正說聖住、梵住、如來住者，是正說入出息念定而謂聖住、梵住、如來住。

〔一二〕第二 盧夷強耆

一

一時，具壽盧夷強耆住釋氏國迦毘羅衛城，尼拘律樹園。

二

時，釋氏摩訶男來至具壽盧夷強耆住處。至已，敬禮具壽盧夷強耆後，坐於一面。坐於一面之釋氏摩訶男，向具壽盧夷強耆曰：

三

「大德！有學之住即是此如來住耶？或有學之住與如來住為異耶？」

「友摩訶男！有學之住並非如來住；友摩訶男！有學之住與如來住為異。」

四

友摩訶男！有學之比丘，尚未得心，對無上安穩希求而住，為斷五蓋住。何為斷五蓋住耶？

斷欲欲蓋而住，斷瞋恚蓋而住，斷昏眠蓋而住，斷掉悔蓋而住，斷疑惑蓋而住。友摩訶男！有學之比丘，尚未得心，對無上安穩希求而住，為斷此五蓋而住。

五

友摩訶男！比丘成為阿羅漢，則諸漏盡、梵行已立、所作已辦、棄重擔、逮得己利，有結盡，正悟、解脫、已斷五蓋，斷根如截多羅樹之頭，令歸於無，未來不能生。何為斷五蓋耶？

欲欲蓋已斷，斷根如截多羅樹之頭，令歸於無，未來不能生。瞋恚蓋……昏眠蓋……掉悔蓋……疑惑蓋已斷，斷根如截多羅樹之頭，令歸於無，未來不能生。

友摩訶男！比丘成為阿羅漢，則諸漏盡、梵行已立、所作已辦、棄重擔、逮得己利，有結盡，正悟、解脫、五蓋已斷，斷根如截多羅樹之頭，令歸於無，未來不能生。

六

友摩訶男！依此理可知，有學之住並非如來住；有學之住與如來住為異。

七

友摩訶男！一時，世尊住一奢能伽羅之一奢能伽羅林中。

八～一九

……〔前經第二～一三節〕……

二〇

友摩訶男！依此理可知，有學之住並非如來住；有學之住與如來住為異。」

〔一三〕第三 阿難（一）

一～二

舍衛城……

時，具壽阿難來至世尊住處。至已，敬禮世尊後，坐於一面。坐於一面之具壽阿難白世尊曰：

三

「大德！對一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法有圓滿者耶？」

「阿難！對一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法有圓滿者。」

四

「大德！對何之一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法圓滿耶？」

「阿難！於入出息念定之一法修習、多修者，則四念處圓滿；對四念處修習、多修者，則七覺支圓滿；對七覺支修習、多修者，則明、解脫圓滿。」

一

五

「於入出息念定云何修習、云何多修者，則四念處圓滿耶？」

六～一二

阿難！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋……乃至廣說……學『我觀定棄出息』。

一三

阿難！若比丘行長入息，知為『長入息』；行長出息，知為『長出息』……乃至……學『止身行入息』，學『止身行出息』，阿難！其時，比丘於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。何以故耶？

一四

阿難！我謂入出息為隨一之身。阿難！故其時於此比丘，於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一五

阿難！若比丘學『覺喜入息』……覺樂……覺心行……學『止心行入息』，學『止心行出息』，阿難！其時，比丘於受觀受，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。何以故耶？

一六

阿難！我謂入出息善作意，為隨一之受。阿難！故其時於此比丘，於受觀受，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一七

阿難！若比丘學『覺心入息』……乃至……心歡喜……心入定……學『心解脫之入息』，學『心解脫之出息』，阿難！其時，比丘於心觀心，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。何以故耶？

一八

阿難！我對忘念、不正知者，不說入出息念定之修習。阿難！故其時，比丘於心觀心，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一九

阿難！若比丘學『觀無常……觀離貪……觀滅盡……觀定棄入息』，學『觀定棄出息』，阿難！其時，比丘於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住，對貪憂之斷，以慧觀善予觀察。阿難！故其時，比丘於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

二〇

阿難！於入出息念定，如是修習、如是多修者，則四念處圓滿。」

二

二一

「阿難！云何對四念處修習、多修者，則七覺支圓滿耶？

二二

阿難！比丘於身觀身、繫念住時，比丘之念不忘失。

阿難！比丘繫念不忘失時，比丘得念覺支，修習念覺支，念覺支修習圓滿。如是正念而住，以慧對諸法決擇、伺察、觀察。

二三

阿難！比丘如是以正念而住，以慧對彼法決擇、伺察、觀察時，比丘得擇法覺支，修習擇法覺支，擇法覺支修習圓滿。以慧對彼法決擇、伺察、觀察，則得不退之精進。

二四

阿難！比丘以慧對彼法決擇、伺察、觀察，得不退之精進時，比丘得精進覺支，修習精進覺支，精進覺支修習圓滿。發精進者，則得離財之喜。

二五

阿難！比丘發精進，得離財之喜時，比丘得喜覺支，修習喜覺支，喜覺支修習圓滿。意喜者，則身輕安而心輕安。

二六

阿難！比丘意喜而身輕安、心輕安時，比丘得輕安覺支，輕安覺支修習，輕安覺支修習圓滿。身輕安則得樂、得心定。

二七

阿難！比丘身輕安得樂、得心定時，比丘得定覺支，對定覺支修習，定覺支修習圓滿。如是得心定，善予觀察。

二八

阿難！比丘如是得心定、善觀察時，比丘得捨覺支，對捨覺支修習，捨覺支修習圓滿。

二九

阿難！比丘於受……於心……於諸法觀法，繫念而住時，比丘之念不忘失。

三〇

阿難！比丘繫念不忘失時，比丘得念覺支，對念覺支修習，念覺支修習圓滿。……（如初念處廣說）……如是得心

定，善予觀察。

三一

阿難！比丘如是得心定、善觀察時，比丘得捨覺支，對捨覺支修習，捨覺支修習圓滿。

三二

阿難！對四念處如是修習、如是多修者，則七覺支圓滿。」

三

三三

「阿難！云何對七覺支修習、多修者明，則圓滿解脫耶？

三四

阿難！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，於捨迴向於念覺支……擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支……捨覺支之修習。

三五

阿難！對七覺支如是修習、如是多修者，則明、解脫圓滿也。」

〔一四〕第四 阿難（二）

※二

時，具壽阿難來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面。世尊對坐於一面之阿難曰：

三

「阿難！對一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法有圓滿者耶？」

「大德！在我等於法皆以世尊為根本……乃至……」

「阿難！對一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法有圓滿者。」

四

阿難！對何之一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法圓滿耶？

阿難！於入出息念定之一法修習、多修者，則四念處圓滿；對四念處修習、多修者，則七覺支圓滿；對七覺支修習、多修者，則明、解脫圓滿。」

一～三

五

「阿難！云何於入出息念定修習、多修者，則七覺支圓滿耶？」

六～三四

阿難！於此有比丘，往阿蘭若、……乃至……

三五

阿難！對七覺支如是修習、如是多修者，則明、解脫圓滿。」

〔一五〕第五 比丘（一）

※二

時，有眾多之比丘，來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之彼諸比丘白世尊曰：

三

「大德！對一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法之修習、多修者，則二法有圓滿者耶？」

「諸比丘！對一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法有圓滿。」

四

「大德！對何之一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法圓滿耶？」

「諸比丘！於入出息念定之一法修習、多修者，則四念處圓滿；對四念處修習、多修者，則七覺支圓滿；對七覺支修習、多修者，則明、解脫圓滿。」

一～三

五

「諸比丘！云何於入出息念定修習、多修者，則四念處圓滿耶？」

六～三四

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若……乃至……

三五

諸比丘！對七覺支如是修習、如是多修者，則明、解脫圓滿。」

〔一六〕第六 比丘（二）

※二

時，有眾多之比丘來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面。世尊對坐於一面之彼諸比丘曰：

三

「諸比丘！對一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法有圓滿者否？」

「大德！在我等於法乃以世尊為根本……乃至……」

「諸比丘！對一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法有圓

滿。

四

諸比丘！對何之一法修習、多修者，則四法圓滿；對四法修習、多修者，則七法圓滿；對七法修習、多修者，則二法圓滿耶？

諸比丘！於入出息念定之一法修習、多修者，則四念處圓滿；對四念處修習、多修者，則七覺支圓滿；對七覺支修習、多修者，則明、解脫圓滿。」

一

五

「諸比丘！云何於入出息念定修習、多修者，則四念處圓滿耶？

六～一二

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋，結跏趺坐，以身正持，修念現前，正念入息、正念出息……乃至……學『我觀定棄入息』，學『我觀定棄出息』。

一三

諸比丘！若比丘行長入息，知為『長入息』；行長出息，知為『長出息』；行短入息……乃至……覺徧身……乃至……學『止身行入息』，學『止身行出息』，諸比丘！其時，比丘於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。何以故耶？

一四

諸比丘！吾謂入出息乃隨一之身。諸比丘！故其時，比丘於身觀身，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一五

諸比丘！若比丘學『覺喜……覺樂……覺心行……止心行入息』，學『止心行出息』，諸比丘！其時，比丘於受觀受，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。何以故耶？

一六

諸比丘！吾謂入出息之善作意，乃隨一之受。諸比丘！故其時，比丘於受觀受，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一七

諸比丘！若比丘學『覺心……心歡喜之……心解脫之入息』，學『心解脫之出息』，諸比丘！其時，比丘於心觀心，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。何以故耶？

一八

諸比丘！吾對忘念、不正知者，不說入出息念定之修習。諸比丘！故其時，比丘於心觀心，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

一九

諸比丘！若比丘學『觀無常……觀貪……觀滅盡……觀定棄入息』，學『觀定棄出息』，諸比丘！其時，比丘於諸法觀

法，熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住，以慧觀貪憂之斷，善予觀察。諸比丘！故其時，比丘於諸法觀法，以熱誠、正知、正念，對世間之貪憂調伏而住。

二〇

諸比丘！對入出息念定如是修習、如是多修者，則四念處圓滿。」

二

二一

「諸比丘！云何對四念處修習、多修者，則七覺支圓滿耶？

二二

諸比丘！比丘於身觀身，住於繫念時，比丘之念不忘失。諸比丘！比丘繫念不忘失時，比丘得念覺支，修習念覺支，念覺支修習圓滿。如是正念而住，以慧對彼法決擇、伺察、觀察。

二三

諸比丘！比丘如是正念而住，以慧對彼法決擇、伺察、觀察時，比丘得擇法覺支，修習擇法覺支，擇法覺支修習圓滿。以慧對彼法決擇、伺察、觀察，則得不退之精進。

二四

諸比丘！比丘以慧對彼法決擇、伺察、觀察，得不退之精進時，比丘得精進覺支，修習精進覺支，精進覺支修習圓滿。

發精進者，則得離財之喜。

二五

諸比丘！比丘發精進得離財之喜時，比丘得喜覺支，修習喜覺支，喜覺支修習圓滿。意喜者，則身輕安而心輕安。

二六

諸比丘！比丘意喜而身輕安、心輕安時，比丘得輕安覺支，修習輕安覺支，輕安覺支修習圓滿。身輕安則得樂、得心定。

二七

諸比丘！比丘身輕安得樂、得心定時，比丘得定覺支，修習定覺支，定覺支修習圓滿。如是得心定，善予觀察。

二八

諸比丘！比丘如是得心定、善觀察時，比丘得捨覺支，修習捨覺支，捨覺支修習圓滿。

二九

諸比丘！比丘於受……於心……於諸法觀法，繫念而住時，比丘之念不忘失。

三〇

諸比丘、比丘繫念不忘失之時，比丘得念覺支，修習念覺支，念覺支修習圓滿……乃至……如是得心定，善予觀察。

三一

諸比丘！比丘如是得心定、善觀察時，比丘得捨覺支，修習捨覺支，捨覺支修習圓滿。

三二

諸比丘！對四念處如是修習、如是多修者，則七覺支圓滿。」

三

三三

「諸比丘！云何對七覺支修習、多修者，則明、解脫圓滿耶？

三四

諸比丘！於此有比丘，依遠離、依離貪、依滅盡，修習迴向於捨之念覺支……擇法覺支……精進覺支……喜覺支……輕安覺支……定覺支……依遠離、依離貪、依滅盡，修習迴向於捨之捨覺支。

三五

諸比丘！對七覺支如是修習、如是多修者，則明、解脫圓滿。」

〔一七〕第七 結

※二

「諸比丘！於入出息念定修習、多修者，則資於斷結。」

〔一八〕第八 隨眠

※二

「……資於隨眠之永斷……」

〔一九〕第九 行路

※二

「……資於行路之徧知……」

〔二〇〕第十 漏盡

※二

「……資於諸漏之盡……」

三

諸比丘！云何於入出息念定修習、多修者，則資於斷法耶？……資於隨眠之永斷耶？……資於行路之徧知耶？……資於諸漏之盡耶？

四～一〇

諸比丘！於此有比丘，往阿蘭若、往樹下、往空屋……乃至……學『觀定棄入息』，學『觀定棄出息』。

一一

諸比丘！對入出息念定如是修習、如是多修者，則資於斷結……資於隨眠之永斷……資於行路之徧知……資於諸漏之盡。」

以上是四經。

第十 入出息相應第二品（終）

此中攝頌曰：

此奢能伽羅
與盧夷強耆
阿難與比丘
結以及隨眠
行路與漏盡

第十一 預流相應

第一 鞞紐多羅品

〔一〕第一 王

一～二

舍衛城。

三

「諸比丘！轉輪王主宰四洲，予以統治，身壞命終後，生善趣、天世，為忉利天之朋輩。於歡喜園為天女眾所圍遶，天之五欲豐足全備而住，但亦四法不得成就，不能解脫地獄，不能解脫畜生，不能解脫餓鬼趣，不能解脫惡生、惡趣、墮處。

四

諸比丘！聖弟子依搏食而活，著弊壞衣，然成就四法，於解脫地獄，於解脫畜生，於解脫餓鬼趣，於解脫惡生、惡趣、墮處。何為四法耶？

五

諸比丘！此處有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。』

六

於法成就證淨，曰：『世尊之法為善說、現見、不時、來見、引導、智者應自知也。』

七

於僧成就證淨，曰：『世尊之聲聞眾為妙行者，世尊之聲聞眾為直行者，世尊之聲聞眾為應理行者，世尊之聲聞眾，為和敬行者，謂四雙八輩者是。世尊之聲聞眾，為應請、極應請、應供養、應合掌、世間無上福田。』

八

對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

九

此乃成就四法。

一〇

諸比丘！於獲得四洲及獲得四法，獲得四洲是不及獲得四法之十六分之一。」

〔二〕第二 預流

※三

「諸比丘！聖弟子如成就四法者，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。何為四法耶？

四

諸比丘！於此有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

五～六

於法……於僧……

七

對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

八

諸比丘！聖弟子成就此四法者，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

九

如是世尊說示。如是善逝說已，師說曰：

有信有戒有淨信
若以如是觀法者
時經安樂之梵行
而於究盡可得至

〔三〕第三 長壽

一

一時，世尊住王舍城竹林迦蘭陀園。

二

其時，長壽優婆塞因病而困苦，得重患。

三

時，長壽優婆塞告乃父樹提居士曰：

「居士！去至世尊住處，至已，以我語向世尊之足行頭面禮，云：『大德！長壽優婆塞因病而困苦，得重患，彼向世尊之足行頭面禮。』并白：『願大德世尊哀愍，去至長壽優婆塞住宅。』」

「唯唯！吾兒！」

樹提居士應諾長壽優婆塞，來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一方。

四

坐於一方之樹提居士，白世尊曰：

「大德！長壽優婆塞因病而困苦，得重患。彼向世尊之足行頭面禮，彼白曰：『願大德世尊哀愍之，請至長壽優婆塞住宅。』」世尊默然聽許。

五

時，世尊著下衣、持衣鉢，來至長壽優婆塞住宅。至已，就設座。坐已，世尊對長壽優婆塞言曰：

「長壽！能忍否？能耐否？苦受有退不進、知減退不知增進否？」

「大德！難忍，難耐，病苦有進無退，知增進而不知減退。」

六

「長壽！然則汝當如是學：『我於佛成就證淨，謂：彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。於法……於僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。』長壽！汝當如是而學。」

七

「大德！世尊所說之四預流支，於我而有，我亦與此法俱有。大德！我於佛成就證淨，謂：彼世尊為應供、正等覺、明行足，善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。於法……於僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。」

「長壽！然汝依此四預流支，更當修習六順明分法。」

八

長壽！汝於此一切諸行，當作無常觀，無常即苦想，苦即無我想，斷想、離貪想、滅想而住。長壽！汝當如是學。」

「大德！世尊所說之六順明分法，於我有之，我亦與此法俱有。大德！我於一切諸行，以無常而觀。無常即苦想，苦即無我想，斷想、離貪想、滅想而住。」

九

大德！然則我滅後，但念令此樹提居士滅困惑。」

樹提居士曰：

「吾兒長壽！勿作如是念。吾兒長壽！唯對世尊之所說，當善作意。」

一〇

時，世尊如是對長壽優婆塞教誡後，即從座起離去。

一一

時，長壽優婆塞於世尊離去未久，即告命終

一二

時，有眾多之比丘，來至世尊之住在處，至已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之彼諸比丘，白世尊曰：

「大德！長壽優婆塞略受世尊教誡後，即已命終。彼往何趣？受何之生耶？」

「諸比丘！長壽優婆塞為賢明，於法隨法行，以法事不惱於我。

一三

諸比丘！長壽優婆塞依五下分結盡，為化生者也，於彼處般涅槃，由彼世得不還之法。」

〔四〕第四 舍利弗（一）

一

一時，具壽舍利弗與具壽阿難，住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

時，具壽阿難於夕時分由宴默起，至具壽舍利弗住處，至已，與具壽舍利弗俱相交談慶慰、歡喜、感銘之語後，坐於一面。坐於一面之具壽阿難，言具壽舍利弗曰：

三

「友舍利弗！對依何法成就之彼眾生，世尊予以作『是預流，墮法滅、決定、趣向等覺』記別耶？」

「友！對依四法成就之彼眾生，世尊予作『是預流，墮法滅、決定、趣向等覺』之記別。何為四法耶？」

四

友！於此有聖弟子，於佛成就證淨，謂：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。於法……於僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。』

五

友！對依此四法成就之彼眾生，世尊予作：『是預流，墮法滅、決定、趣向等覺』之記別。」

〔五〕第五 舍利弗（二）

※二

時，具壽舍利弗來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面。時世尊對坐於一面之具壽舍利弗曰：

三

「舍利弗！預流支、預流支之謂者，舍利弗！以何為預流支耶？」

「大德！親近善士為預流支，聽聞正法為預流支，如理作意為預流支，法隨法行為預流支。」

「善哉！舍利弗！善哉！舍利弗！親近善士為預流支，聽聞正法為預流支，如理作意為預流支，法隨法行為預流支。」

四

舍利弗！謂流、流者，舍利弗！以何為流耶？」

「大德！八支聖道為流也，謂：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。」

「善哉、善哉！舍利弗！八支聖道為流，謂：正見、正思惟、正語、正業、正命正精住、正念、正定是。」

五

舍利弗！謂預流者、預流者，舍利弗！以何為預流者耶？」

「大德！成就此八支聖道者，名之為預流者，某甲名、某甲姓之具壽。」

「善哉！善哉！舍利弗！成就此八支聖道者，名之為預流者，某甲名、某甲姓之具壽。」

〔六〕第六 工匠

一

舍衛城因緣。

二

其時，眾多之比丘作世尊之衣，思念：「於三月後，世尊將整衣出外遊行。」

三

其時，有工匠梨師達多與富蘭那，因所需要而住於薩道卡（Sadhuka）村。工匠梨師達多與富蘭那聞說：「眾多之比丘為世尊做衣服，思念：『於三月後，世尊將整衣出外遊行』。」

四

時工匠梨師達多與富蘭那令一男子佇立一旁，并告之曰：

「男子！汝若見世尊、應供、正等覺者到來，即告我等。」

五

彼男子佇立二三日，始見世尊由遠方來，見已，來至工匠梨師達多與富蘭那住處。至已，向工匠梨師達多與富蘭那曰：

「大德！世尊、應供、正等覺者來矣。」

六

時，工匠梨師達多與富蘭那，來至世尊住處。至已，敬禮世尊，隨從於世尊之後。

七

時，世尊離道路來至一樹下。至已，就坐設座。工匠梨師達多與富蘭那，再次敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之工匠梨師達多與富蘭那，白世尊曰：

八

「大德！聞世尊離舍衛城欲往拘薩羅遊行時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。大德！聞世尊離舍衛城至拘薩羅遊行時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。」

九

大德！聞世尊離拘薩羅欲往摩羅遊行時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。大德！聞世尊離拘薩羅遊行至摩羅時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。

一〇

大德！聞世尊由摩羅遊行欲往跋耆時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。大德！聞世尊由摩羅遊行至跋耆時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。

一一

大德！聞世尊由跋耆遊行欲往伽尸時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。大德！聞世尊由跋耆遊行至伽尸時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。

一二

大德！聞世尊由伽尸遊行欲往摩竭陀時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。大德！聞世尊由伽尸遊行至摩竭陀時，以世尊遠離我等而不悅、有憂。

一三

大德！聞世尊由摩竭陀遊行欲往伽尸時，以世尊接近我等，歡悅而喜。大德！聞世尊由摩竭陀遊行至伽尸時，以世尊接近我等，歡悅而喜。

一四

大德！聞世尊由伽尸……至跋耆……乃至……

一五

……由跋耆……至摩羅……乃至……

一六

……由摩羅……至拘薩羅……乃至……

一七

大德！聞世尊由拘薩羅遊行往舍衛城時，以世尊接近我等，歡悅而喜。大德！聞世尊住舍衛城祇樹林給孤獨園時，以世尊接近我等，大悅而大喜。」

一八

「工匠！然則在家為憤撓，是塵垢處；出家為空閑。工匠！應勿放逸。」

一九

「大德！比我等之憤撓，更為憤撓、更憤撓之類尚有。」

「工匠！何為比汝等之憤撓，更為憤撓、更憤撓之類耶？」

二〇

「大德！拘薩羅王波斯匿欲往遊園時，我等調御拘薩羅王波斯匿乘用之象，並將拘薩羅王波斯匿可愛可意之宮女，載之一人在前、一人在後。大德！彼姊妹有如是香，猶如掀開之香篋、亦如香莊嚴之王女。大德！彼姊妹若是身觸則如綿，猶如綿花、亦如生長於安樂之王女。大德！其時，應護象，應護彼姊妹，自亦應相護。」

二一

大德！我等於彼姊妹，並不認有起惡心。大德！然此憤撓為比〔在家〕更為憤撓、更憤撓之類。」

二二

「工匠！然而在家為憤撓，是塵垢處；出家為空閑。工匠！應勿放逸。」

二三

工匠！聖弟子成就四法者，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？

二四

工匠！於此有聖弟子，於佛成就證淨，謂：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊』。

於法……於僧……

以離慳吝、垢穢之心於家而住，常布施、自布施。以棄捨為喜，於乞應施，以布施、以部分布施為喜。

工匠！聖弟子對此四法成就者，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。

二五

工匠！汝等於佛成就證淨，謂：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

於法……於僧……

在家如有少分之施物者，則皆於具戒者、善法者，無有差別。

二六

工匠！於汝等之意云何？於布施，與汝等同等者，於拘薩羅國中有若干耶？」

「大德！幸哉！福哉！世尊如是對我等之示知。」

〔七〕第七 鞞紐多羅

一

如是我聞。一時，世尊與大比丘眾俱，遊行拘薩羅國，入一名曰鞞紐多羅之拘薩羅婆羅門村。

二

鞞紐多羅之婆羅門居士聞：「釋子沙門瞿曇，乃由釋種出家，與大比丘眾俱，遊行拘薩羅國至鞞紐多羅。又彼尊者瞿曇揚如是善名稱，謂：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』彼於天、魔、梵世、沙門、婆羅門、人天眾，說自證知、現證，彼對初善、中善、後善，說示義理文句具足之法，顯示純一圓滿清淨之梵行，善哉！得見如是之應供者。」

三

時，彼鞞紐多羅之婆羅居士，來至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面者有之，與世尊俱相交談慶慰、歡喜、感銘之語者有之，向世尊合掌坐於一面者有之，於世尊面前，告以姓名，坐於一面者有之，或默然坐之者亦有。

四

坐於一面之彼鞞紐多羅婆羅門居士，白世尊曰：

「尊瞿曇！我有如是之欲、之志、之意趣，曰：於有多兒之憤亂處而住，受有迦尸衣、栴檀，持有華鬘、香、塗香，享有金銀，死後命終，生於善趣天世。尊瞿曇！請為有如是之欲、之志、之意趣之我等，說示法要，以使我等，得住於多兒之憤亂處，受有迦尸衣、栴檀，持有華鬘、香、塗香，享有金銀，死後命終，得生善趣天世。」

五

「居士等！我對汝等說自利之法門，且諦聽，當善作意，我即當說。」

「唯唯！大德！」

彼鞞紐多羅之婆羅門居士應諾世尊。

世尊說示曰：

「居士等！何為自利法門耶？」

六

居士等！於此，聖弟子當如是思擇：『我欲生、不欲死，欲樂而厭苦。我欲生、不欲死，欲樂而厭苦，若有奪我命者，則於我為不可愛、不可意。他亦欲生、不欲死，欲樂而厭苦，若我奪其命者，則我為不可愛、不可意。於我為不可愛、不可意之法，於他亦為不可愛、不可意之法。於我為不可愛、不可意之法，我云何加諸於他耶？』如是思擇，則自離殺生，并勸他亦離殺生，讚歎離殺生。如是身行之邊際清淨。

七

居士等！復次，聖弟子如是思擇：『於我所不與而盜取者，則於我為不可愛、不可意。若我，對他之所不與而盜取者，則我非為可愛、可意。於我為不可愛、不可意之法，於他亦為不可愛、不可意之法。將於我為不可愛、不可意之法，我云何加諸於他耶？』如是思擇，則自離於不與取，并勸他亦離不與取，讚歎離於不與取。如是身行之邊際清淨。

八

居士等！復次，聖弟子如是思擇：『若有與我妻交者，則於我為不可愛、不可意。若我與他妻交者，則我不為可愛、可意。於我為不可愛、不可意之法，於他亦為不可愛、不可意之法。將於我為不可愛、不可意之法，我云何加諸於他耶？』如是思擇，則自離於欲邪行，并勸他亦離於欲邪行，讚歎離於欲邪行。如是身行之邊際清淨。

九

居士等！復次，聖弟子如是思擇：『若有以虛誑語損我利者，則於我為不可愛、不可意。若我以虛誑語損他之利者，則我為不可愛、不可意。於我為不可愛、不可意之法，於他亦為不可愛、不可意之法。將於我為不可愛、不可意之法，我云何加諸於他耶？』如是思擇，則自離虛誑語，并勸他亦離虛誑語，讚歎離虛誑語。如是語行之邊際清淨。

一〇

居士等！復次，聖弟子如是思擇：『若有以離間語，使我與友背離者，則於我為不可愛、不可意。若我以離間語，使他與友背離者，則我為不可愛、不可意。於我為不可愛、不可意之法，於他亦為不可愛、不可意之法。將於我為不可愛、不可

意之法，我云何加諸於他耶？』如是思擇，則自離離間語，并勸他亦離離間語，讚歎離離間語。如是語行之邊際清淨。

一一

居士等！復次，聖弟子如是思擇：『若有對我出麤惡語者，則於我為不可愛、不可意。若我對他出麤惡語者，則我為不可愛、不可意。於我為不可愛、不可意之法，於他亦為不可愛、不可意之法。將於我為不可愛、不可意之法，我云何加諸於他耶？』如是思擇，則自離麤惡語，並勸他亦離麤惡語，讚歎離麤惡語。如是語行之邊際清淨。

一二

居士等！復次，聖弟子如是思擇：『若有對我出雜穢語者，則於我為不可愛、不可意。若我對他出雜穢語者，則我為不可愛、不可意。於我為不可愛、不可意之法，於他亦為不可愛、不可意之法。將於我為不可愛、不可意之法，我云何加諸於他耶？』如是思擇，則自離雜穢語，并勸他亦離雜穢語，讚歎離雜穢語。如是語行之邊際清淨。

一三

彼時，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

一四

於法成就證淨，曰：『世尊之法為善說、現見、不時來、見、引導、智者應自知。』

一五

於僧成就證淨，曰：『世尊之聲聞眾為妙行者，世尊之聲聞眾為直行者，世尊之聲聞眾為應理行者，世尊之聲聞眾為和敬行者，此謂四雙八輩者是。世尊之聲聞眾為應請、極應請、應供養、應合掌、世間無上福田。』

一六

於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

一七

居士等！聖弟子成就此七正法故，依此四願處若欲者，則自記別，得：『地獄盡、畜生盡、餓鬼趣盡、惡生惡趣盡、墮處盡，成預流，墮法滅、決定、趣向等覺。』」

一八

如是說示已。鞞紐多羅之婆羅門居士，白世尊曰：

「稀有哉！尊瞿曇！……乃至……我等歸依世尊瞿曇與法及比丘眾。尊瞿曇！容我等，自今日始，至命終止，終生歸依為優婆塞。」

〔八〕第八 繁耆迦精舍（一）

一

如是我聞。一時，世尊住那梨迦村之繁耆迦精舍。

二

時，具壽阿難來至世尊住處，至已，白世尊曰：

「大德！一名遮樓之比丘命終矣，彼往何之趣，受何之生耶？大德！一名難陀之比丘尼命終矣。彼往何之趣，受何之生耶？大德！一名須達之優婆塞命終矣，彼往何之趣，受何之生耶？大德！一名善生之優婆塞命終矣，彼往何之趣，受何之生耶？」

三

「阿難！遮樓比丘命終，依諸漏盡，於無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。阿難！難提比丘尼命終，彼五下分結徧盡，而為化生於彼處般涅槃，不還此世。阿難！須達優婆塞命終，三結徧盡，貪瞋癡弱而為一來，唯一之來此世，作苦之邊際。阿難！善生優婆夷命終，依三結徧盡，而為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。

四

阿難！為人，命終并非稀有事，各各命終時，來我處問此義，阿難！此對如來是憤亂。阿難！故命名曰法鏡，而說法門。聖弟子成就於此，若欲者，則自記別，得：『地獄盡、畜生盡、餓鬼趣盡、惡生惡趣盡、墮處盡，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。』

五

阿難！聖弟子成就何之法鏡法門，若欲者，則自記別，得：『地獄盡、畜生盡、餓鬼趣盡、惡生惡趣盡、墮處盡，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺』耶？

六

阿難！於此有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

七

阿難！聖弟子成就此法鏡法門，若欲者，則自記別，得：『地獄盡、畜生盡、餓鬼趣盡、惡生惡趣盡、墮處盡，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺』。」

〔九〕第九 繁耆迦精舍（二）

※二

坐於一面之具壽阿難，白世尊曰：

「大德！曰阿育之比丘已命終矣，彼往何趣？受何之生耶？大德！曰阿育之比丘尼已命終矣，彼往何趣？受何之生耶？大德！曰阿育之優婆塞已命終矣，彼往何趣？受何之生耶？大德！曰阿育之優婆夷已命終矣，彼往何趣？受何之生耶？」

三～六

「阿難！阿育比丘命終，依諸漏盡，對無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住……（同前經之因緣）」

七

阿難！如成就此法鏡法門，若欲者，則自記別，得：『地獄盡、畜生盡、餓鬼趣盡、惡生惡趣盡、墮處盡，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺』。」

〔一〇〕第十 繁耆迦精舍（三）

※二

坐於一面之具壽阿難，白世尊曰：

「大德！曰闍迦舍之那梨迦優婆塞已命終矣，彼往何之趣？受何之生耶？大德！曰佉楞迦羅之那梨迦優婆塞……曰尼迦吒之那梨迦優婆塞……曰迦多梨沙婆……曰他梨舍菟……曰藪達利舍菟……曰跋陀羅……曰須跋陀羅之那梨迦優婆塞，已命終矣，彼往何之趣？受何之生耶？」

三

「阿難！闍迦舍優婆塞命終，五下分結盡，而為化生，於彼處般涅槃，自彼世不還。阿難！佉楞迦羅……尼迦吒……迦多梨沙婆……他梨舍菟……藪達利舍菟……跋陀羅……須跋陀羅優婆塞命終，五下分結盡，而為化生，於彼處般涅槃，自彼世不還。

四

阿難！五十餘之優婆塞於那梨迦命終，五下分結徧盡，為化生，於彼處般涅槃，自彼世不還。阿難！九十餘之優婆塞於那梨迦命終，三結徧盡，貪瞋癡弱，而為一來，唯一來此世，住苦之邊際。阿難！五百六之優婆塞於那梨迦命終，依三結徧盡，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。

五

阿難！為人，命終并非稀有事，各各命終時，來我處問此義，阿難！此對如來是慣亂。阿難！故為說名曰法鏡之法門。聖弟子成就於此，若欲者，則自記別，以得：『地獄盡、畜生盡、餓鬼趣盡、惡生惡趣盡、墮處盡，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。』

六

阿難！聖弟子成就何之法鏡法門，若欲者，則自記別，得：『地獄盡、畜生盡、餓鬼趣盡、惡生惡趣盡、墮處盡，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺』耶？

七

阿難！於此有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛，世尊。』於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所樂，不執取，成就能發三摩地之戒。

八

阿難！聖弟子如成就此法鏡法門，若欲者，則自記別，得：『地獄盡、畜生盡、餓鬼趣盡、惡生惡趣盡、墮處盡，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺』。」

第一 鞞紐多羅
品（終）

此中攝頌曰：

王以及預流
長壽舍利弗
工匠鞞紐羅
繁耆迦精舍

第二 千品（王園品）

〔一一〕第一 千

一

一時，世尊住舍衛城王園。

二

時，千比丘尼眾來至世尊住處。至已，敬禮世尊，立於一面。

三

時，世尊告立於一面之諸比丘尼曰：

「諸比丘尼！聖弟子如成就四法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？」

四

諸比丘尼！於此有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

五～六

於法……於僧……

七

於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所樂，不執取，成就能發三摩地之戒。

八

諸比丘尼！聖弟子如成就此四法者，則為預流，墮法滅、決定趣向等覺。」

〔一二〕第二 婆羅門

一～二

舍衛城因緣。

三

「諸比丘！諸婆羅門施設有名曰向上之道，以勸導弟子曰：『男子！晨朝起，往赴於東面，不避坑坎、不避堆阜、不避櫬、不避荊地、不避污水溜、不避下水路，於墮處可遇死。男子！如是身壞命終，往生善趣、天世。』」

四

諸比丘！此諸婆羅門之愚道、癡道，而不資於厭患、離貪、滅盡、寂靜、證智、等覺、涅槃。諸比丘！我亦於聖者之律，施設向上之道，且資於一向厭患、離貪、滅盡、寂靜、證智、等覺、涅槃。

諸比丘！何種向上之道，一向資於厭患、離貪、滅盡、寂靜、證智、等覺、涅槃耶？

五

諸比丘！於此有聖弟子，對佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』對法……對僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

六

諸比丘！此為向上之道，一向資於厭患、離貪、滅盡、寂靜、證智、等覺、涅槃。」

〔一三〕第三 阿難

一

一時，具壽阿難與具壽舍利弗住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

時，具壽舍利弗夕時由宴默起，來至具壽阿難住處。至已，與具壽阿難俱相交談感銘、歡喜之語，坐於一面。坐於一面之具壽舍利弗，言具壽阿難曰：

三

「友阿難！安住斷幾何之法？成就幾何之法？世尊對如是此等眾生記別為預流，墮法滅、決定、趣向等覺耶？」

四

「友！依斷四法、成就四法，世尊對如是此等眾生記別為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。

五

友！若對佛成就誹謗之無聞異生，身壞命終生於惡生、惡趣、墮處、地獄，聖弟子對佛不作如是誹謗。友！對佛成就證淨之有聞聖弟子，身壞命終生於善趣、天世，彼對佛如是證淨，謂：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

六

友！若對法成就誹謗之無聞異生，身壞命終後生於惡生、惡趣、墮處、地獄，聖弟子對法不作如是誹謗。友！對法成就證淨之有聞聖弟子，身壞命終生於善趣、天世，彼對法如是證淨，謂：『世尊之法乃善說、現見、不時、來見、引導、智者應自知。』

七

友！若對僧成就誹謗之無聞異生，身壞命終後生於惡生、惡趣、墮處、地獄，聖弟子對僧不作如是誹謗。友！對僧成就證淨之有聞聖弟子，身壞命終生於善趣、天世，彼對僧作如是證淨，謂：『世尊之聲聞眾為妙行者，世尊之聲聞眾為直行者，世尊之聲聞眾為應理行者，世尊之聲聞眾為和敬行者，此謂四雙八輩。此世尊之聲聞眾為應請、極應請、應供養、應合掌、世間無上福田。』

八

友！若成就破戒之無聞異生，身壞命終後生惡趣、惡趣、墮處、地獄，聖弟子不作如是破戒。友！若成就聖者之所樂戒，有聞聖弟子身壞命終後生善趣、天世，彼作如是聖者之所樂戒持，謂：不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，能發三摩地。

九

友！依於斷除此四法、成就此四法者，世尊對如是此等眾生記別為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

〔一四〕第四 惡趣（一）

※三

「諸比丘！成就四法之聖弟子，超越一切惡趣之怖畏。以何為四法耶？」

四～七

諸比丘！於此有聖弟子，對佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』對法……對僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

八

諸比丘！成就此四法之聖弟子，超越一切之惡趣怖畏。」

〔一五〕第五 惡趣（二）

※三

「諸比丘！成就四法之聖弟子，超越一切惡趣、墮處之怖畏。以何為四法耶。

四～七

諸比丘！於此有聖弟子，對佛成就證淨……乃至……

八

諸比丘！成就此四法之聖弟子，超越一切惡趣、墮處之怖畏。」

〔一六〕第六 朋友（一）

※三

「諸比丘！汝等思念有應所哀愍、應所聽聞之朋友、親戚、血族，諸比丘！汝等則應對彼等勸導於習住四預流支。以何為四預流支耶？

四

對佛，應勸導於習住證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』對法……對僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所樂，不執取，能發三摩地之戒，勸導習住。

五

諸比丘！汝等思念有應所哀愍、應所聽聞之朋友、親戚、血族，諸比丘！汝等則應對彼等勸導於習住此四預流支。」

〔一七〕第七 朋友（二）

※三

「諸比丘！汝等思念有應所哀愍、應所聽聞之朋友、親戚、血族，諸比丘！汝等應對彼等勸導於習住四預流支。以何為四預流支耶？

四

對佛，應勸導習住證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』諸比丘！地界、水界、火界、風界之四大或有變異，但對佛成就證淨之聖弟子無有變異。此中，對佛成就證淨之聖弟子，生於地獄、畜生、餓鬼趣之變異者為無有此理。

五～六

對法……對僧……

七

對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，於能發三摩地之戒，勸導習住。諸比丘！地界、水界、火界、風界之四大或有變異，但成就聖者之所樂戒之聖弟子無有變異。此中，成就聖者之所樂戒之彼聖弟子，生於地獄、畜生、餓鬼趣之變異者為無有此理。

八

諸比丘！汝等思念應所哀愍、應所聽聞之朋友，親戚、血族，諸比丘！汝等則應對彼等，勸導對此四預流支之習住。」

〔一八〕第八 天上遊行（一）

一

舍衛城因緣。

二

時，具壽大目犍連譬如力士之屈臂伸、伸臂屈，以如是之快速沒於祇樹林，現於忉利天。

三

時，眾多之忉利諸天，來至具壽大目犍連處。至已，敬禮具壽大目犍連，立於一面。時，具壽大目犍連對立於一方之彼諸天曰：

四

「友等！善哉！對佛以成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』友等！對佛因成就證淨，如是，於此有一類之有情，身壞命終後生於善趣、天世。」

五～六

友等！善哉！對法……對僧……

七

友等！善哉！對聖者之所樂不破、不穿、不雜，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。友等！因成就聖者之

所樂戒，如是，於此有一類之有情，身壞命終後生於善趣、天世。」

八

「尊者目犍連！善哉！對佛以成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』尊者目犍連！對佛因成就證淨，如是，於此有一類之有情，身壞命終後生於善趣、天世。」

九～一一

尊者目犍連！善哉！對法……對僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜，不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。尊者目犍連！因成就聖者之所樂戒，如是，於此有一類之有情，身壞命終後生於善趣、天世。」

〔一九〕第九 天上遊行（二）

一

一時，具壽大目犍連住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二～一一

時，具壽大目犍連、譬如力士之……乃至……於此有一類之有情，身壞命終後生於善趣、天世……乃至……

〔二〇〕第十 天上遊行（三）

※二

時，世尊譬如力士之屈伸臂、伸臂屈，以如是之速，沒於祇樹林，現於忉利天。

三

時，眾多之忉利諸天，來至世尊處。至已，敬禮世尊，立於一面。時，世尊對立於一面之彼諸天曰：

四～七

「友等！善哉！對佛以成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』友等！對佛因成就證淨，如是，於此有一類之有情，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。

友等！善哉！對法……對僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。友等！因成就聖者之所樂戒，如是，於此有一類之有情，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

八～一一

「尊者！善哉！對佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』尊者！因於佛成就證淨，如是，於此有一類眾生為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。

尊者！善哉！對法……對僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。尊者！因成就聖者所樂之戒，如是此眾生為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

第二 千品 (終)

攝頌曰：

千與婆羅門
阿難二惡趣
二朋支乃至
三天上遊行

第三 百手品

〔二一〕第一 摩訶男（一）

一

如是我聞。一時，世尊住釋氏國迦毘羅衛城尼拘律園。

二

時，釋氏摩訶男至世尊住處。至已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之釋氏摩訶男，白世尊曰：

三

「大德！此迦毘羅衛城乃富饒、豐樂而民多、人集，是憤鬧。大德！我對世尊或意修習之比丘奉仕已，日夕時分，入迦毘羅衛城，遇狂奔之象、遇狂奔之馬、遇狂奔之乘、遇狂奔之車、遇狂奔之人。大德！其時，忘失世尊之念、忘失法之念、忘失僧之念。大德！我思念：若我其時命終者，將往何之趣？享何之生耶？」

四

「摩訶男！勿恐，摩訶男！勿怖。於汝無惡死、惡命終。摩訶男！若於長夜，其心對信徧修、其心對戒徧修、其心對所聞徧修、其心對施捨徧修、其心對慧徧修者，則此有色，四大所成、父母所生、飯粥所集、無常破壞、粉碎斷絕、壞滅法之身，則為鴉所噉、為鷲所噉、為鷹所噉、為狗所噉、為野干所噉、為種種生類所噉。然於長夜，對信徧修、對戒徧修、對所聞徧修、對施捨徧修、對慧徧修者，則心為上昇、勝進。

五

摩訶男！譬如有人，將酥瓶、油瓶投入深水池壞之，其破片瓦石雖沈，其酥、油則上昇、勝進。摩訶男！如是，若於長夜，其心對信徧修、其心對戒徧修、其心對所聞徧修、其心對施捨徧修、其心對慧徧修者，則此有色，四大之所成、父母所生、飯粥所集、無常破壞、粉碎斷絕、壞破法之此身，為鴉所噉、為鷲所噉、為鷹所噉、為狗所噉、為野干所噉、為種種生類所噉。然於長夜，對信徧修、對戒徧修、對所聞徧修、對施捨徧修、對慧徧修者，則心為上昇、勝進。

六

摩訶男！汝於長夜，其心對信徧修、其心對戒徧修、其心對所聞徧修、其心對施捨徧修、其心對慧徧修。摩訶男！勿恐，摩訶男！勿怖。於汝無惡死、惡命終。」

〔二二〕第二 摩訶男（二）

一

如是我聞……乃至……

二

時，釋氏摩訶男……乃至……

三

大德！此迦毘羅衛城……乃至……

四

「摩訶男！勿恐，摩訶男！勿怖。於汝無惡死、惡命終。摩訶男！成就四法之聖弟子趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃。以何為四法耶？」

五

摩訶男！於此有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

六

摩訶男！譬如有樹，其向東、傾東、臨東，若將其根截之則倒向何方耶？」

「大德！必是其所向傾臨之方。」

「摩訶男！如是，成就此四法之聖弟子，則趣向涅槃、傾向涅槃、臨入涅槃。」

〔二三〕第三 沙陀

一

迦毘羅衛城因緣。

二

時，釋氏摩訶男來至釋氏沙陀處，至已，對釋氏沙陀曰：

三

「沙陀！可知於人成就幾何之法，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺耶？」

「摩訶男！是知於人成就三法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為三法耶？」

四

摩訶男！於此有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧成就證淨，曰：『世尊之聲聞眾為妙行者、世尊之聲聞眾為直行者、世尊之聲聞眾為應理行者、世尊之聲聞眾為和敬行者，此謂四雙八輩。世尊之聲聞眾，為應請、極應請、應供養、應合掌、世間無上福田。』

摩訶男！是知於人成就此三法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。

五

摩訶男！汝知於人成就幾何之法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺耶？」

「沙陀！我知於人成就四法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。何為四法耶？」

沙陀！於此有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺者、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

沙陀！我知於人如成就此四法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

六

「稍待，摩訶男！稍待，摩訶男！世尊方知此法之成就不成就。」

「沙陀！走！往世尊住處，至已，向世尊將此義奉告。」

七

時，釋氏摩訶男與釋氏沙陀，來至世尊住處。至已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之釋氏摩訶男，白世尊曰：

八

「大德！我來至釋氏沙陀住處，至已，對釋氏沙陀言曰：『沙陀！可知於人成就幾何之法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺耶？』大德！作如是言，釋氏沙陀對我言曰：『摩訶男！當知於人成就三法，則為預流，墮法滅、決定、趣向涅槃。摩訶男！汝可知於人成就幾何之法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等趣耶？』」

九

大德！作如是言，我對釋氏沙陀言曰：『沙陀！我知於人成就四法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？沙陀！於此有聖弟子，於佛成就證淨，曰：「彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。」於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。沙陀！我知於人如成就此四法，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。』

大德！作如是言，釋氏沙陀對我言曰：『稍待，摩訶男！稍待，摩訶男！世尊方知此法之成就不成就。』

一〇

大德！於此法事之起，如一方為世尊，一方為比丘眾者，我則隨順世尊。大德！我如是信為記。

一一

大德！於此法事之起，如一方為世尊，一方為比丘眾、比丘尼眾者，我則隨順世尊。大德！我如是信為記。

一二

大德！於此法事之起，如一方為世尊，一方為比丘眾、比丘尼眾、優婆塞者，我則隨順世尊。大德！我如是信為記。

一三

大德！於此法事之起，如一方為世尊，一方為比丘眾、比丘尼眾、優婆塞、優婆夷者，我則隨順世尊。大德！我如是信為記。

一四

大德！於此法事之起，如一方為世尊、一方為比丘眾、比丘尼眾、優婆塞、優婆夷、天、魔、梵世、沙門、婆羅門、人、天之眾者，我則隨順世尊。大德！我如是信為記。」

一五

「沙陀！對如是言之釋氏摩訶男，汝作何言耶？」

「大德！對如是言之釋氏摩訶男，我無何所言，但除妙與善。」

〔二四〕第四 百手（一）

一

迦毘羅衛城因緣。

二

其時，釋氏百手命終，世尊對彼，作「是預流，墮法滅、決定、趣向等覺」之記別。

三

於此有眾多之釋氏集合，作私語，憤怒、毀議曰：

「是稀有、未曾有者，今此處誰非為預流者？所以釋氏百手命終，世尊對彼作『是預流，墮法滅、決定、趣向等覺』之記別。而釋氏百手曾犯戒飲酒。」

四

時，釋氏摩訶男來至世尊之住處。至已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之釋氏摩訶男，白世尊曰：

五

「大德！於此，釋氏百手命終，世尊對彼作『為預流，墮法滅、決定、趣向等覺』之記別。大德！於此，眾多之釋氏集合，作私語，憤怒、毀議，而謂：『是希有、未曾有者，今此處誰非預流者？所以釋氏百手命終，世尊對彼作「是預流，墮法滅、決定、趣向等覺」之記別，而釋氏百手曾犯戒飲酒。』」

「摩訶男！若於長夜為優婆塞，歸依佛、歸依法、歸依僧者，則云何往墮處耶？」

六

摩訶男！若予正說，於長夜為優婆塞，謂應歸依佛、歸依法、歸依僧。釋氏百手應如是正說，摩訶男！釋氏百手於長夜為優婆塞，歸依佛、歸依法、歸依僧，云何往墮處耶？」

七

摩訶男！於此有一類之人，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……成就捷慧、速慧而解脫。彼依諸漏盡，對無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。摩訶男！此人已解脫地獄、解脫畜生、解脫餓鬼趣、解脫惡生惡趣、墮處。

八

摩訶男！於此又有一類之人，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……雖成就捷慧、速慧而不得解脫。彼依五下分結盡成為化生，於彼處則解脫，由彼世不歸還。摩訶男！此人已解脫地獄、解脫畜生、解脫餓鬼趣、解脫惡生惡趣、墮處。

九

摩訶男！於此又有一類之人，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……不得捷慧、不得速慧而不得成就解脫。彼三結盡，貪瞋癡弱，為一來，而唯一來此世作苦之邊際。摩訶男！此人已解脫地獄、解脫畜生、解脫餓鬼趣、解脫惡生惡趣、墮處。

一〇

摩訶男！於此又有一類之人，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、等正覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……不得捷慧、不得速慧而不得成就解脫。彼依三結盡，而得預流，墮法滅、決定、趣向等覺。摩訶男！此人已解脫地獄、解脫畜生、解脫餓鬼趣、解脫惡生惡趣、墮處。

一一

摩訶男！此處又有一類之人，於佛不得成就證淨、於法不得成就證淨、於僧不得成就證淨，不得捷慧、不得速慧，不得成就解脫。然彼具信根、精進根、念根、定根、慧根之諸法，

又能對如來所說之法，以慧少分觀察。摩訶男！此人則不往地獄、不往畜生、不往餓鬼趣、不往惡生惡趣、墮處。

一二

摩訶男！此處又一類之人，於佛不得成就證淨、於法不得成就證淨、於僧不能成就證淨，不得捷慧、不得速慧，不得成就解脫。然彼具信根、精進根、念根、定根、慧根，又以如來為唯所信、唯所愛樂。摩訶男！此人不往地獄、不往畜生、不往餓鬼趣、不往惡生惡趣、墮處也。

一三

摩訶男！若彼諸大眾了知善說與惡說，則我為彼諸大眾記別為預流，墮法滅、決定、趣向等覺，況釋氏百手耶？摩訶男！釋氏百手臨命終時受戒也。」

〔二五〕第五 百手（二）

一

迦毘羅衛城因緣。

二

其時，釋氏百手命終，世尊對彼以「預流，墮法滅、決定、趣向等覺」記別之。

三

此處眾多之釋氏集合，作私語，憤怒、毀議曰：

「是稀有、未曾有者，於今此處任何人誰非預流者？所以釋氏百手命終，世尊對彼以『預流，墮法滅、決定、趣向等覺』記別之。釋氏百手於戒并未成圓滿。」

四

時，釋氏摩訶男來至世尊住處。至已，禮敬世尊、坐於一面。坐於一面之釋氏摩訶男，白世尊曰：

五

「大德！於此，釋氏百手命終，世尊對彼以『預流，墮法滅、決定、趣向等覺』記別之。大德！於此，眾多之釋氏集合，作私語，憤怒、毀議曰：『是稀有、未曾有者，今此處誰非預流者？所以釋氏百手命終，世尊對彼以「預流，墮法滅、決定、趣向等覺」記別，而釋氏百手於戒并未成圓滿。』」

「摩訶男！若於長夜為優婆塞，歸依佛、歸依法、歸依僧，云何往墮耶？」

六

摩訶男！若予正說，謂於長夜為優婆塞，歸依佛、歸依法、歸依僧，則釋氏百手正說應如是而言，摩訶男！釋氏百手於長夜為優婆塞，已歸依佛、歸依法、歸依僧，云何往墮處耶？」

七

摩訶男！於此有一類之人，於佛一向篤信，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊也。』於法……於僧……捷慧、速慧而

成就解脫。彼依諸漏盡，無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住。摩訶男！此人則已解脫地獄、解脫畜生、解脫餓鬼趣、解脫惡生惡趣、墮處。

八

摩訶男！於此又有一類之人，於佛一向篤信，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……捷慧、速慧，但不得成就解脫。彼依五下分結盡，得中般涅槃……得損害般涅槃……得有行般涅槃……得無行般涅槃……得上流而至色究竟天。摩訶男！此人已解脫地獄、解脫畜生、解脫餓鬼趣、解脫惡生、惡趣、墮處。

九

摩訶男！於此又有一類之人，於佛一向篤信，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……不成捷慧、不成速慧，不得成就解脫。彼三結盡，貪瞋癡弱，為一來而唯一來此世作苦之邊際。摩訶男！此人已解脫地獄、解脫畜生、解脫餓鬼趣、解脫惡生、惡趣、墮處。

一〇

摩訶男！於此又有一類之人，於佛一向篤信，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……不成捷慧、不成速慧，不得成就解脫。彼依三結盡，得預流，墮法滅、決定、趣向等覺。摩訶男！此人已解脫地獄、解脫畜生、解脫餓鬼趣、解脫惡生、惡趣、墮處。

一一

摩訶男！此處又有一類之人，於佛不成篤信、於法不成篤信、於僧不成篤信，不成捷慧、不成速慧，不得成就解脫，然彼具信根、精進根、念根、定根、慧根之諸法，又能對如來所說之法，以慧少分子觀察。摩訶男！此人不往地獄、不往畜生、不往餓鬼趣、不往惡生、惡趣、墮處。

一二

摩訶男！於此又有一類之人，於佛不成篤信、於法不成篤信、於僧不成篤信，不成捷慧、不成速慧，不得成就解脫。然彼具信根、精進根、念根、定根、慧根之諸法，又以如來為所唯信、唯所愛樂。摩訶男！此人不往地獄、不往畜生、不往餓鬼趣、不往惡生、惡趣、墮處。

一三

摩訶男！譬如未除農作根碓之惡田、惡地，種子為壞、腐、為風熱所損，無核，未善予貯藏，又逢天不降雨，彼種子得能生長增廣耶？」

「大德！不能。」

「摩訶男！如是，於此惡說、惡示之法，不成出離、不資寂靜，非正等覺者之所說，稱為惡田。於此法之弟子，法隨法行、和敬行、隨法行而住，稱為惡種子。」

一四

摩訶男！譬如已除農作根碓之良田、良地，種子不壞、不腐、不為風熱所損，有核，善為貯藏，又正逢天雨，彼種子能

生長增廣耶？」

「大德！實然。」

「摩訶男！如是，於此法之善說、善示、出離、資於寂靜，為正等覺者之所說，稱為良田。於此法之弟子，法隨法行、和敬行、隨法行而住，稱為良種子。況釋氏百手耶？摩訶男！釋氏百手臨命終時，圓滿戒行。」

〔二六〕第六 破戒（一）

一

舍衛城因緣。

二

其時，給孤獨居士因疾病而困苦重患。

三

時，給孤獨居士告一男子曰：

「男子！往具壽舍利弗住處，至已，以我語對具壽舍利弗之足行頭面禮，言：『大德！給孤獨居士因疾病而重患困苦，彼向具壽舍利弗之足行頭面禮。』又曰：『大德！願具壽舍利弗來給孤獨居士住處，以哀愍故。』」

「唯唯！大德！」

彼男子應諾給孤獨居士後，前往具壽舍利弗住處。至已，禮敬具壽舍利弗，坐於一面。

四

坐於一面之彼男子，向具壽舍利弗言曰：

「大德！給孤獨居士因疾病而重患困苦，彼向具壽舍利弗之足行頭面禮。又曰：『大德！願具壽舍利弗來給孤獨居士住處，以哀愍故。』」

具壽舍利弗默然允許。

五

時，具壽舍利弗晨朝時分，著下衣、持衣鉢，以具壽阿難為隨從沙門，往給孤獨居士家。至已，就設座。坐已，具壽舍利弗語給孤獨居士曰：

「居士！能忍否？可耐否？苦受退而不進，知減退而不知增進否？」

「大德！難忍、難耐，痛苦有進而無退、知增進而不知減退。」

六

「居士！若於佛成就不信之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝於佛，則無如是之不信。居士！汝於佛具證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』汝自思於佛具此證淨，則苦受將忽止。」

七

居士！若於法成就不信之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝於法，則無如是不信。居士！汝於法具證淨，曰：『世尊之法為善說、現見、不時、來見、引導、智者應自知。』汝自思於法具此證淨，則苦受將忽止。

八

居士！若於僧成就不信之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝於僧，則無如是不信。居士！汝於僧具證淨，曰：『世尊之聲聞眾為妙行者、世尊之聲聞眾為直行者、世尊之聲聞眾為應理行者、世尊之聲聞眾為和敬行者，此謂四雙八輩。世尊之聲聞眾為應請、極應請、應供養、應合掌、世間無上福田。』汝自思於僧具證淨，則苦受將忽止。

九

居士！若成就破戒之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是破戒。居士！汝於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，能發三摩地之戒，汝自思具聖者之所樂此戒，則苦受將忽止。

一〇

居士！若成就邪見之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪見。居士！汝具正見，汝自思此正見，則苦受將忽止。

一一

居士！若成就邪思惟之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪思惟。居士，汝具正思惟，汝自思具此正思惟，則苦受將忽止。

一二

居士！若成就邪語之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪語。居士！汝具正語，汝自思具此正語，則苦受將忽止。

一三

居士！若成就邪業之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪業。居士！汝具正業，汝自思具此正業，則苦受將忽止。

一四

居士！若成就邪命之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪命。居士！汝具正命，汝自思具此正命，則苦受將忽止。

一五

居士！若成就邪精進之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪精進。居士！汝具正精進，汝自思具此正精進，則苦受將忽止。

一六

居士！若成就邪念之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪念。居士！汝具正念，汝自思具此正念，則苦受將忽止。

一七

居士！若成就邪定之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪定。居士！汝具正定，汝自思具此正定，則苦受將忽止。

一八

居士！若成就邪智之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪智。居士！汝具正智，汝自思具此正智，則苦受將忽止。

一九

居士！若成就邪解脫之無聞異生，身壞命終後，生於惡生、惡趣、墮處、地獄。汝無如是邪解脫。居士！汝具正解脫，汝自思具此正解脫，則苦受將忽止。」

二〇

時，給孤獨居士之苦受忽止。

二一

時，給孤獨居士向具壽舍利弗與具壽阿難，自將釜中飲食予以供養。

二二

時，給孤獨居士見具壽舍利弗食訖，手離鉢，乃取一低床几，坐於一面。

二三

時，具壽舍利弗對坐於一面之給孤獨居士，以此偈隨喜：

於如來之信心
於不動善安立
稱讚聖者之樂
於戒當自善持
於僧伽生信樂
於所見之直人
其活命為不空
得名之為不貧
故賢者僅以佛
念念持佛之教
精勤信心持戒
勉勵淨信法見

二四

時，具壽舍利弗以此偈隨喜給孤獨居士，乃從座而起離去。

二五

時，具壽阿難來至世尊住處，至已，禮敬世尊，坐於一面。時，世尊言坐於一面之具壽阿難曰：

二六

「阿難！汝晨朝由何處來耶？」

「大德！具壽舍利弗對給孤獨居士作如是教誡。」

「阿難！舍利弗為賢者、大慧者，所以以四預流支予分別十相。」

〔二七〕第七 破戒（二）

一

舍衛城因緣。

二

其時，給孤獨居士因疾病而重患困苦。

三～四

時，給孤獨居士告一男子曰：

「男子！往具壽阿難住處，至已，以我語向具壽阿難之足行頭面禮曰：『大德！給孤獨居士因疾病而重患困苦，彼向具壽阿難之足行頭面禮。』又曰：『大德！願具壽阿難能來給孤獨居士住處，以哀愍故。』」

「唯唯！大德！」

彼男子應諾給孤獨居士，往具壽阿難住處，至已，禮敬具壽阿難，坐於一面。

坐於一面之彼男子白具壽阿難曰：

「大德！給孤獨居士因疾病而重患困苦，彼向具壽阿難之足行頭面禮。又曰：『大德！願具壽阿難能來給孤獨居士住處，以哀愍故。』」

具壽阿難默然許諾。

五

時，具壽阿難晨朝時分著下衣、持衣鉢，往給孤獨居士住處。至已，就所設座。坐已，具壽阿難言給孤獨居士曰：

「居士！能忍否？可耐否？苦受退而不進，知減退而不知增進否？」

「大德！難忍、難耐，痛苦有進無退、知增進而不知減退。」

六

「居士！於成就四法之無聞異生，有驚懼、怖畏之後世，故畏命終。以何為四法耶？」

七

居士！於此有無聞之異生，於佛成就不信，又自思於佛具此不信故，有驚懼、怖畏之後世，故畏命終。

居士！又無聞之異生，於法成就不信，又自思於法具此不信故，有驚懼、怖畏之後世，故畏命終。

居士！又無聞之異生，於僧成就不信，又自思於僧具此不信故，有驚懼、怖畏之後世，故畏命終。

居士！又無聞之異生，成就破戒，又自思具此破戒故，有驚懼、怖畏之後世，故畏命終。

居士！對此四法成就之無聞異生，有驚懼、怖畏之後世，故畏命終。

八

居士！於成就四法之有聞聖弟子，無驚懼、怖畏之後世，故不畏命終。以何為四法耶？」

居士！於此有聞之聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』又自思於佛具此證淨故，無驚懼、怖畏之後世，故不畏命終。

居士！又有聞之聖弟子，於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，成就不執取之戒。又自思具聖者所樂之戒故，無驚懼、怖畏之後世，故不畏命終。

居士！對此四法成就之聖弟子，無驚懼、怖畏之後世故，不畏命終。」

九

「大德阿難！我不畏懼。云何而畏耶？大德！我於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……大德！在家和敬之戒，世尊之所說，我自觀未少有所缺。」

一〇

「居士！幸哉！居士！福哉！居士！汝當記別為預流果。」

〔二八〕第八 怨讎

一

舍衛城因緣。

二

時，給孤獨居士來至世尊住處。至已，禮敬世尊，坐於一面。時，世尊言坐於一面之給孤獨居士曰：

三

「居士！聖弟子當止息五種怖畏、怨讎，成就四種預流，以慧善觀聖理，善通達時，若心欲者，則自得記別，而曰：

『於我地獄滅盡、畜生滅盡、餓鬼趣滅盡、惡生、惡趣、墮處滅盡，而得預流，墮法滅、決定、趣向等覺。』

以何為五種怖畏、怨讎之止息耶？

四

居士！殺生者，緣殺生而於現法生怖畏、怨讎，於來世生怖畏、怨讎，心中受苦憂。離殺生者，則如是之怖畏、怨讎止息。

居士！不與取者，緣不與取而於現法生怖畏、怨讎，於來世生怖畏、怨讎，心中受苦憂。離不與取者，則如是之怖畏、怨讎止息。

居士！邪淫者，緣邪淫而於現法生怖畏、怨讎，於來世生怖畏、怨讎，心中受苦憂。離邪淫者，則如是之怖畏、怨讎止息。

居士！妄語者，緣妄語而於現法生怖畏、怨讎，於來世生怖畏、怨讎，心中受苦憂。離妄語者，則如是之怖畏、怨讎止息。

居士！飲酒者，緣飲酒而於現世生怖畏、怨讎，於來世生怖畏、怨讎，心中受苦憂。離飲酒者，則如是之怖畏、怨讎止息。

此為五種怖畏，怨讎之止息。

五

以何為成就四種預流支耶？

居士！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

此為成就四種預流支。

六

以何為慧善觀聖理，善通達之耶？

居士！於此有聖弟子，對緣善作意，而曰：『彼有故此有，彼生故此生，彼無故此無，彼滅故此滅。』謂：緣無明生行，緣行生識，緣識生名色，緣名色生六處，緣六處生觸，緣觸生受，緣受生渴愛，緣可愛生取，緣取生有，緣有生生，緣生生老死愁悲苦憂惱。如是，此為一切苦蘊之集起。又：無明無餘離滅故行滅，行滅故識滅，識滅故名色滅，名色滅故六處滅，六處滅故觸滅，觸滅故受滅，受滅故渴愛滅，渴愛滅故取滅，取滅故有滅，有滅故生滅，生滅故老死愁悲苦憂惱滅。如是，此為一切苦蘊之滅。

此為以慧善觀聖理，善通達。

七

居士！聖弟子於此五種怖畏、怨讎當止息，成就此四種預流支，以慧善觀聖理，善通達時，若心欲者，則自得記別，而曰：『於我地獄滅盡、畜生滅盡、餓鬼趣滅盡、惡生惡趣、墮處滅盡，而得預流，墮法滅、決定、趣向等覺。』」

〔二九〕第九 怖畏

一

舍衛城因緣。

二

時，有眾多之比丘來至世尊住處。至已，禮敬世尊，坐於一面。時，世尊言坐於一面之彼諸比丘曰：

三～六

「諸比丘！於聖弟子……乃至……（準前經）」

七

諸比丘！聖弟子於五種怖畏、怨讎當止息，成就此四種預流支，以慧善觀聖理，善通達時，若心欲者，則自得記別，而曰：『於我地獄滅盡、畜生滅盡、餓鬼趣滅盡、惡生惡趣、墮處滅盡，而得預流，墮法滅、決定、趣向等覺。』」

〔三〇〕第十 離車

一

一時，世尊住毘舍離城大林重閣講堂。

二

時，離車大臣難陀來至世尊住處，至已，禮敬世尊，坐於一面，時，世尊言坐於一面之離車大臣難陀曰：

「難陀！成就四法之聖弟子，為得預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？

三

難陀！於此有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

難陀！成就此四法之聖弟子，為得預流，墮法滅、決定、趣向等覺。

四

難陀！又，成就此四法之聖弟子，與天、人之壽相應，與天、人之色相應，與天、人之樂相應，與天、人之稱相應，與天、人之增上力相應。

五

難陀！此非我聞於他之沙門、婆羅門所說之，乃我自知、自見、自悟而說。」

六

如是說時，有一男子對離車大臣難陀曰——

「大德！是沐浴之時矣。」

〔難陀答曰：〕「無須於外面之沐浴，以內自之沐浴為已足。此乃謂於世尊之信心。」

第三 百手品 (終)

此中攝頌曰：

二之摩訶男
沙陀二百手
二破戒怨讎
怖畏與離車
以十說此品

第四 福德潤澤品

〔三一〕第一 潤澤（一）

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！有四種福德潤澤、善潤澤、安樂食。以何為四耶？」

三

諸比丘！於此處聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

此為第一之福德潤澤、善潤澤、安樂食。

四

諸比丘！又，聖弟子於法成就證淨，而曰：『世尊之法為善說、現見、不時、來見、引導、智者應自知。』

此為第二之福德潤澤、善潤澤、安樂食。

五

諸比丘！又，聖弟子於僧成就證淨，而曰：『世尊之聲聞眾為妙行者、世尊之聲聞眾為直行者、世尊之聲聞眾為應理行者、世尊之聲聞眾為和敬行者，謂四雙八輩。世尊之聲聞眾為應請、極應請、應供養、應合掌、世間無上福田。』

此為第三之福德潤澤、善潤澤、安樂食。

六

諸比丘！又，聖弟子於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

七

諸比丘！此為第四之福德潤澤、善潤澤、安樂食。」

〔三二〕第二 潤澤（二）

※二

「諸比丘！有四之福澤潤澤、善潤澤、安樂食。以何為四耶？

三

諸比丘！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

此為第一之福德潤澤、善潤澤、安樂食。

四～五

諸比丘！又，聖弟子於法……於僧……

六

諸比丘！又，聖弟子以離慳吝之垢穢心住於家，常施、親手施、喜棄捨、應乞、喜於分與布施。

此為第四之福德潤澤、善潤澤、安樂食。

七

諸比丘！此為四種福德潤澤、善潤澤、安樂食。」

〔三三〕第三 潤澤（三）

※二

「諸比丘！有四種福澤潤澤、善潤澤、安樂食。以何為四耶？

三～五

諸比丘！此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

此為第一之福德潤澤、善潤澤、安樂食。

諸比丘！又，聖弟子於法……於僧……

六

具慧以聖決擇而順正苦盡，成就生滅慧。

此為第四之福德潤澤、善潤澤、安樂食。

七

諸比丘！此為四種福德潤澤、善潤澤、安樂食。」

〔三四〕第四 天道（一）

一

舍衛城因緣。

二

「諸比丘！諸天之天道有四，能令未清淨之眾生得清淨，未潔白之眾生得潔白。以何為四耶？

三

諸比丘！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』

此為諸天之第一天道，能令未清淨之眾生得清淨，未潔白之眾生得潔白。

四～六

諸比丘！又，聖弟子於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

此為諸天之第四天道，能令未清淨之眾生得清淨，未潔白之眾生得潔白。

七

諸比丘！諸天之天道有此四種，能令未清淨之眾生得清淨，未潔白之眾生得潔白。」

〔三五〕第五 天道（二）

※二

「諸比丘！諸天之天道有四，能令未清淨之眾生得清淨，未潔白之眾生得潔白。以何為四耶？」

三

諸比丘！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』彼思擇：『以何為諸天之天道

耶？』知：『我聞說，諸天以無^患為最上。我亦於或無怖或能安者，不起瞋恚，必成就天道之法而住。』

此為諸天之第一天道，能令未清淨之眾生得清淨，未潔白之眾生得潔白。

四～五

諸比丘！又，聖弟子於法……於僧……

六

於聖者之所樂不破、〔不穿、不雜、不穢、離脫、智者所讚、不可執取，〕成就能發三摩地之戒。彼思擇：『如何為諸天之道耶？』知：『我聞諸天以無患為為最上。我於或怖或安者，不起瞋恚，必成就天道之法而住。』

此諸天之天道有四，未清淨之眾生而令清淨；未潔白之眾生而令潔白。

七

諸比丘！於諸天之道有此回，未清淨之眾生而令清淨；未潔白之眾生而令潔白。」

〔三六〕第六 朋輩

※二

「諸比丘！若成就四法者，諸天歡喜，而稱說為朋輩。何者為四耶？」

三

諸比丘！此處有聖弟子，於佛成就證淨，曰：『彼世尊是應供、正等覺者、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』彼諸天於佛成就證淨，此處歿後，往生彼處者，如是思惟：『我等於佛成就證淨，於彼處歿，而生來此處，聖弟子亦如是，於佛成就證淨，當來諸天之處。』

四～五

諸比丘！又於法……於僧……

六

成就聖者所樂不破、〔不穿、不雜、不穢、離脫、智者所讚、不可執取、〕能發三摩地之戒。諸天成就聖者所樂戒，於此處歿，往生彼處者，如是思惟：『我等成就聖者所樂之戒，於彼此處歿，來生此處，聖弟子亦如是，成就聖者所樂之戒，當來諸天之處。』

七

諸比丘！成就此四法者，諸天歡喜，稱說為朋輩。」

〔三七〕第七 摩訶男

一

一時，世尊住釋氏國迦毘羅衛城尼拘律園。

二

時，釋氏摩訶男來至世尊住處，至已，敬禮世尊，坐於一面。坐於一面之釋氏摩訶男，白世尊曰：

三

「大德！云何為優婆塞耶？」

「摩訶男！歸依佛、歸依法、歸依僧故，摩訶男！依此為優婆塞。」

四

「大德！云何為優婆塞戒具足耶？」

「摩訶男！優婆塞離殺生、離不與取、離邪淫、離虛誑語、離飲酒故，摩訶男！依此為優婆塞戒具足。」

五

「大德！云何為優婆塞信具足耶？」

「摩訶男！於此有信之優婆塞，信如來之菩提，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』摩訶男！依此為優婆塞信具足。」

六

「大德！云何為優婆塞棄捨具足耶？」

「摩訶男！於此有優婆塞，以離慳吝垢穢之心住於家，常施、親手施、喜棄捨、應乞、喜分與布施。摩訶男！依此為優婆塞棄捨具足。」

七

「大德！云何為優婆塞慧具足耶？」

「摩訶男！於此有優婆塞，具慧以聖決擇而順正苦盡，成就生滅慧。摩訶男！依此為優婆塞慧具足。」

〔三八〕第八 雨

※二

「諸比丘！譬如山上降大雨時，水流往低處，展轉山巖溪澗而滿。山巖溪澗滿則小池滿，小池滿則大池滿，大池滿則小河滿，小河滿則大河滿，大河滿則大海滿。」

三

諸比丘！如是聖弟子，於佛證淨、於法證淨、於僧證淨，成就聖者所樂之戒、法，為流至彼岸，資於諸漏之盡。」

〔三九〕第九 沙陀

一

一時，世尊住釋氏國迦毘羅衛城尼拘律園。

二

時，世尊於晨朝時分，著下衣、持衣鉢，去往釋女沙陀住宅，至已，就所設座。

三

時，釋女沙陀來至世尊住處，至已，禮敬世尊，坐於一面。時世尊對坐於一面之釋女沙陀曰：

「沙陀！成就四法之聖女弟子，得預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？

四

沙陀！於此有聖女弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……以離慳吝垢穢之心住於家，常施、親手施、喜棄捨、應乞、喜於分布布施。

沙陀！成就此四法之聖女弟子，得預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

五

「大德！世尊所說之此四預流支之法，於我為有，我亦與此法俱。大德！我於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……於家若有少分之應施物者，則皆於具戒善法者無差別。」

六

「沙陀！幸哉！沙陀！福哉！沙陀！汝當記別為預流果。」

〔四〇〕第十 難提

一

一時，世尊住釋氏國迦毘羅衛城尼拘律園。

二

時，釋氏難提來至世尊住處。至已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之釋氏難提，白世尊曰：

三

「大德！若於聖弟子，徧一切處皆無具四預流支者，則聖弟子名為住於放逸。」

「難提！若徧一切處皆無具四預流支者，我則將此另名為異生之數。」

四

難提！對聖弟子之住於放逸與不住放逸，我將說，且諦聽，善自作意。」

「唯唯！大德！」

釋氏難提應諾世尊，世尊說曰：

五

「難提！云何聖弟子，住於放逸耶？」

難提！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』彼如是於佛滿足證淨，對更精進而不為，於晝不遠離，於夜不宴默。彼如是住於放逸，則無勝喜，無勝喜則無歡喜，無歡喜則無輕安，無輕安則住於苦，有苦則不得心定，不得心定則諸法不顯現，諸法不顯現則入住放逸數。

難提！又，聖弟子於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。彼如是以聖者之所樂戒為滿足，對更精進而不為，於晝不遠離，於夜不宴默。彼如是住於放逸，則不得勝喜，無勝喜則無歡喜，無歡喜則無輕安，無輕安則住於苦，有苦則不得心定，不得心定則諸法不顯現，諸法不顯現則入住放逸之數。難陀！如是之聖弟子，住於放逸。

六

難提！云何之聖弟子，住於不放逸耶？

難提！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』彼如是於佛滿足證淨，更精進而於晝遠離，於夜宴默。彼如是住於不放逸，則生勝喜，有勝喜則生歡喜，意歡喜則身輕安，身輕安則受樂，有樂則心得定，得心定則諸法顯現，諸法顯現則入住於不放逸之數。

難提！又，聖弟子於法……於僧……對聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。彼如是对聖者之所樂戒不滿足，更精進於晝遠離，於夜宴默。彼如是住於不放逸則生勝喜，有勝喜則生歡喜，意歡喜則身輕安，身輕安則樂受，有樂則心得定，得心定則諸法顯現，諸法顯現則入住於不放逸之數。

難提！如是之聖弟子，住於不放逸。」

第四 福德潤澤
品（終）

攝頌曰：

三種之潤澤
二種之天道
朋輩摩訶男
雨沙陀難提

第五 有偈福德潤澤品

〔四一〕第一 潤澤（一）

※二

「諸比丘！福德潤澤、善潤澤、安樂食有四種，以何為四耶？

三

諸比丘！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』此為福德潤澤、安樂食之第一。

諸比丘！又，聖弟子於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。此為福德潤澤、善潤澤、安樂食之第四。

諸比丘！福德潤澤、善潤澤、安樂食有此四種。

四

諸比丘！稱量成就此四種福德潤澤、善潤澤之聖弟子之福德，彼成就如是量之福德潤澤、善潤澤、安樂食，其稱量是為不易。謂入無數無量大福德聚之數。

五

諸比丘！譬如稱量大海水，以幾瓶、幾百瓶、幾千瓶、幾百千瓶之稱量，是為不易。謂入無數無量大水聚之數。諸比丘！如是稱量成就此四種福德潤澤、善潤澤之聖弟子之福德，彼成就如是量之福德潤澤、善潤澤、安樂食，其稱量實不易。謂入無數無量大福德聚之數。」

六

世尊如是說示。善逝如是說已，師更說曰：

大海洋為無量
藏寶有大怖畏
人皆用諸河川
廣注入於大海
飲食衣牀座具
施智者亦似此
入此福德之流
如川流之入海

〔四二〕第二 潤澤（二）

※二

「諸比丘！福德潤澤、善潤澤、安樂食有四種。何為四種耶？」

三

諸比丘！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』此為福德潤澤、善潤澤、安樂食之第一。

諸比丘！又，聖弟子於法……於僧……以離慳吝、垢穢之心住於家，常施、親手施、喜棄捨、應乞、以布施之分布為喜。此為福德潤澤、善潤澤、安樂食之第四。

諸比丘！福德潤澤、善潤澤、安樂食有此四種。

四

諸比丘！稱量成就此四種福德潤澤、善潤澤聖弟子之福德，彼成就如是之福德潤澤、善潤澤、安樂食，其稱量是為不足。謂入於無數無量大福德聚。

五

諸比丘！譬如彼諸大河俱，其流之合流，謂：恆河、耶符那河、伊羅跋提河、薩羅遊河，摩醯河。於彼水之稱量，雖以幾瓶、幾百瓶、幾千瓶、幾百千瓶，其稱量實為不易。是謂入於無數無量大水聚之數。諸比丘！如是稱量成就此四種福德潤澤、善潤澤之聖弟子之福德，彼成就如是量之福德潤澤、善潤澤、安樂食，其稱量實為不易。謂入於無數無量大福德聚之數。」

六

世尊如是說示。善逝如是說已，師更說曰：

大海洋為無量
藏寶有大怖畏
人皆用諸河川
廣注入於大海
飲食衣牀座具
施智者亦似此
入此福德之流
如川流注入海

〔四三〕第三 潤澤（三）

※二

「諸比丘！福德潤澤、善潤澤、安樂食有四種。何為之四耶？

三

諸比丘！於此有聖弟子，於佛……於法……於僧……具慧以聖決擇，而順正苦盡，成就生滅慧。此為福德潤澤、善潤澤、安樂食之第四。

諸比丘！福德潤澤、善潤澤、安樂食有此四種。

四

諸比丘！稱量成就此四種福德潤澤、善潤澤聖弟子之福德，彼成就如是福德潤澤，善潤澤、安樂食，其稱量實為不易。謂入於無數無量大福德聚之數。」

五

世尊如是說示。善逝如是說已，師更說曰：

欲得福者須立善
為得不死應修道
若證法核則盡樂
死王來時不顫懼

〔四四〕第四 大寶（一）

※二

「諸比丘！成就四法之聖弟子，得富饒而有大寶、大財之大名稱。以何為四法耶？

三

諸比丘！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

四

諸比丘！成就此四法之聖弟子，得富饒而有大寶、大財之大名稱。」

〔四五〕第五 大寶（二）

〔四六〕第六 比丘

※二

「諸比丘！聖弟子成就四法者，則成預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？

三

諸比丘！於此有聖弟子，於佛成就證淨……於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

四

諸比丘！聖弟子成就此四法者，則成預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

〔四七〕第七 難提

一

迦毘羅衛城因緣。

二

時，世尊言坐於一面之釋氏難提曰：

「難提！聖弟子成就四法者，則成預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？

三

難提！於此有聖弟子，於佛成就證淨……於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

四

難提！聖弟子成就此四法者，則成預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

〔四八〕第八 跋提

一

迦毘羅衛城因緣……（述說來詣之次第）……

二

時，世尊對坐於一面之釋氏跋提曰：

「跋提！聖弟子成就四法者，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？

三

跋提！於此有聖弟子，於佛成就證淨……於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

四

難提！聖弟子成就此四法者，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

〔四九〕第九 摩訶男

一

迦毘羅衛城因緣……

二

時，世尊言坐於一面之釋子摩訶男曰：

「摩訶男！聖弟子成就四法者，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？

三

摩訶男！此處有聖弟子，於佛成就證淨……於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所

讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

四

摩訶男！聖弟子成就此四法者，則為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

〔五〇〕第十 支

※二

「諸比丘！有四種預流支。以何為四預流支耶？

三

諸比丘！親近善士，聽聞正法，如理作意，法隨法行是。

四

諸比丘！此為四種預流支。」

第五 有偈福德
潤澤品（終）

此中攝頌曰：

三種之潤澤
二種之大寶
比丘與難提
跋提摩訶男
以及支之十

第六 有慧品

〔五一〕第一 有偈

※二

「諸比丘！成就四法之聖弟子，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。以何為四法耶？

三

諸比丘！於此有聖弟子，於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。

諸比丘！成就此四法之聖弟子，為預流，墮法滅、決定、趣向等覺。」

四

世尊如是說。善逝如是說已，師更說曰——

於如來之信心
不動而善安立
聖者之樂稱讚
於戒善自受持
於僧伽具信樂
所見之直心人
其活命名之為
不空以及不貧
故賢者唯以佛
之教而誠持念
精勤信心持戒
勉勵淨信法見

〔五二〕第二 兩安居

一

一時，世尊住舍衛城祇樹林給孤獨園。

二

其時，有一比丘於舍衛城，住雨安居已，因事至迦毘羅衛城。

三

迦毘羅衛城之諸釋氏得聞：「有一比丘於舍衛城，住雨安居已，因事至迦毘羅衛城。」

四

時，迦毘羅衛城之諸釋氏，來至彼比丘處。至已，禮敬彼比丘，坐於一面。坐於一面之迦毘羅衛城之諸釋氏，對彼比丘言曰：

五

「大德！世尊無病強健否？」

「友等！世尊無病強健。」

「大德！舍利弗、目犍連無病強健否？」

「友等！舍利弗、目犍連無病強健。」

「大德！比丘眾無病強健否？」

「友等！比丘眾無病強健。」

六

「大德！於此兩安居中，有於世尊之所親聞、親受否？」

「友等！我由世尊所親聞、親受為：『諸比丘！依諸漏盡，而無漏心解脫、慧解脫，於現法自證知、現證，具足而住之比丘少；依五下分結盡，而成為化生者，當於彼處般涅槃，由彼世得不還法之比丘多。』」

七

友等！又，我由世尊所親聞、親受為：『諸比丘！依五下分結盡，而成為化生者，於彼處般涅槃，由彼世得不還法之比丘為少；三結盡，貪瞋癡弱，成為一來，唯只一來此世，作苦邊際之比丘為多。』」

八

友等！又，我由世尊之所親聞、親受為：『諸比丘！三結盡，貪瞋癡弱，成為一來，唯只一來此世，作苦之邊際之比丘為少；依三結盡成為預流，墮法滅、決定、趣向等覺之比丘為多。』」

〔五三〕第三 達摩提那

一

一時，世尊住波羅捺國仙人墮處鹿野園。

二

時，優婆塞達摩提那與五百優婆塞來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之優婆塞白世尊曰：

三

「大德！世尊請教授我等，大德！世尊請教授我等，以使長夜得利益安樂。」

「達摩提那！然則汝等應如是學：『如來所說之經為甚深、義甚深、出世間、空性相應，時時將此具足而住。』達摩提那！汝等應如是學。」

四

「大德！住於有兒童憤亂之臥處，用迦尸衣、栴檀，持鬘香、塗香，享受金銀之我等，對如來所說之甚深、義甚深、出世間、空性相應之經，能時時具足而住為不易。大德世尊為依住五戒之我等，請說示上法。」

五

「達摩提那！然則汝等應如是學：『我等於佛成就證淨，而曰：「彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。」於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。』達摩提那！汝等應如是學。」

「大德！世尊所說四預流支之法，我有之，我等當與此法俱存。」

六

大德！我等於佛成就證淨，而曰：『彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。』於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不

雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。」

七

「達摩提那！汝等幸哉！達摩提那！汝等福哉！達摩提那！汝等當記別為預流果。」

〔五四〕第四 疾病

一

一時，世尊住釋氏國迦毘羅衛城尼拘律園。

二

其時，眾多之比丘，為世尊做衣，為「三月後，世尊整衣外出遊行。」

三

釋氏摩訶男聞得眾多之比丘，為世尊做衣，為「三月後，世尊整衣將出遊行。」時，釋氏摩訶男來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之釋氏摩訶男白世尊曰：

四

「大德！聞眾多比丘，為世尊做衣，為『三月後，世尊整衣將出遊行。』大德！曾於世尊處有親聞親受『有慧之優婆塞，因疾病而重患困苦，應對有慧之優婆塞教誡。』」

五

「摩訶男！有慧之優婆塞，因疾病而重患困苦，對有慧之優婆塞，應以四蘇息法令得活命，而曰：『具壽，當得活！於佛有證淨，而曰：「彼世尊為應供、正等覺、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。」具壽，當得活！具壽！於法……於僧……於聖者之所樂不破、不穿、不雜、不穢，離脫，智者所讚，不執取，成就能發三摩地之戒。』

六

摩訶男！有慧之優婆塞，因疾病而重患困苦，對有慧之優婆塞，以此四蘇息法令得活已，應如是言：

七

『具壽顧戀父母耶？』若彼如是言：『我顧戀父母。』於彼當如是答言：『具壽，有死法；若具壽顧戀父母亦唯死，若具壽不顧戀父母亦唯死，具壽願斷父母之顧戀。』

八

若彼如是言：『我斷父母之顧戀。』於彼當如是答言：『具壽顧戀妻子耶？』彼若如是言：『我顧戀妻子』，於彼當如是答言：『具壽，有死法；具壽若顧戀妻子亦唯死，具壽若不顧戀妻子亦唯死。具壽願斷妻子之顧戀。』

九

彼若如是言：『我斷妻子之顧戀』。於彼當如是答言：『具壽，對人之五妙欲顧戀耶？』彼若如是答言：『我顧戀人之五妙欲』，於彼應如是答言：『友！天之欲比人之欲為更

勝、更妙，具壽唯願心由人欲遠離，心當於勝解四大天王天。』

一〇

彼若如是言：『我心由人欲遠離，心勝解於四大天王天』，於彼當如是答言：『友！忉利天比四大天王天為更勝、更妙，具壽唯願心由四大天王天遠離，心當勝解於忉利天。』

一一～一六

彼若如是言：『我心由四大天王天遠離，心勝解於忉利天』。於彼應如是答言：『友！比忉利天，耶摩天……兜率天……化樂天……他化自在天……

一七

……友！梵世比他化自在天為更勝、更妙，具壽唯願心由他化自在天遠離，心當勝解於梵世。』

一八

彼若如是言：『我心由他化自在天遠離，心勝解於梵世』，於彼當如是答言：『友！梵世亦無常、無恒，為有身所攝，具壽唯願心由梵世遠離，攝心於有身之滅盡。』

一九

若彼如是言：『我心由梵世遠離，攝心於有身之滅盡。』摩訶男！如是心解脫之優婆塞，與百歲心解脫之比丘無有少異，我謂：依解脫而解脫。」

〔五五〕第五 果（一）

※二

「諸比丘！對此四法修習、多修者，則資於預流果現證。
以何為四法耶？」

三

乃：親近善士、聽聞正法、如理作意、法隨法行是。

四

諸比丘！對此四法修習、多修者，則資於預流果現證。」

〔五六〕第六 果（二）

※二

「諸比丘！對此四法修習、多修者，則資於一來果現
證……」

〔五七〕第七 果（三）

※二

「……資於不還果現證……」

〔五八〕第八 果（四）

※二

「……資於阿羅漢果現證……」

〔五九〕第九 獲得

※二

「……資於智慧獲得……」

〔六〇〕第十 增長

※二

「……資於智慧增長……」

〔六一〕第十一 廣大

※二

「……資於智慧廣大……」

第六 有慧品
(終)

攝頌：

有偈與雨安居
達摩提那疾病
四果以至獲得
增長以及廣大

第七 大慧品

〔六二〕第一 大

※四

「……資於大慧……」

〔六三〕第二 廣

※四

「……資於廣慧……」

〔六四〕第三 廣大

※四

「……資於廣大慧……」

〔六五〕第四 深

※四

「……資於深慧……」

〔六六〕第五 無等

※四

「……資於無等慧……」

〔六七〕第六 宏慧

※四

「……資於宏慧……」

〔六八〕第七 多多

※四

「……資於慧之多多……」

〔六九〕第八 迅

※四

「……資於迅慧……」

〔七〇〕第九 輕

※四

「……資於輕慧……」

〔七一〕第十 捷

※四

「……資於捷慧……」

〔七二〕第十一 速

※四

「……資於速慧……」

〔七三〕第十二 利

※四

「……資於利慧……」

〔七四〕第十三 決擇

※二

「……資於決擇慧。以何為四耶？」

三

乃親近善士，聽聞正法，如理作意，法隨法行是。

四

諸比丘！對此四法修習、多修者，則資於決擇慧。」

攝頌：

大廣與廣大
深無等與宏
多多迅輕捷
速利與決擇

預流相應中、第
七大慧品（終）

第十一預流相應
（終）

第十二 諦相應

第一 定品

〔一〕第一 定

一

舍衛城。

二

「諸比丘！定當修習！諸比丘！得定之比丘，了知如實。
以何為了知如實耶？

三

此為苦，了知如實；此為苦集，了知如實；此為苦滅，了
知如實；此為順苦滅道，了知如實。

四

諸比丘！於定當修習！諸比丘！得定之比丘，了知如實。
是故，諸比丘應以此為苦，勉勵！以此為苦集，勉勵！以此為
苦滅，勉勵！以此為順苦滅之道，勉勵！」

〔二〕第二 宴默

※二

「諸比丘！應精勤於宴默！諸比丘！宴默之比丘，了知如
實。以何為了知如實耶？

三

此是苦，了知如實；此是苦集，了知如實；此是苦滅，了知如實；此是順苦滅之道，了知如實。

四

諸比丘！應精勤於宴默！諸比丘！宴默之比丘，了知如實。是故，諸比丘！以此是苦，應勉勵！以此是苦集，應勉勵！以此是苦滅，應勉勵！以此是順苦滅之道，應勉勵！」

〔三〕第三 善男子（一）

※二

「諸比丘！於過去世，善男子離家出家，皆為對此四聖諦現觀如實。

三

諸比丘！於未來世，善男子離家出家，皆為對此四聖諦現觀如實。

四

諸比丘！於現在世，善男子離家出家，皆為對此四聖諦現觀如實。以何為四聖諦耶？

五

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

六

諸比丘！於過去世，善男子離家出家……於未來世，善男子離家出家……於現在世，善男子離家出家，皆為對此四聖諦之現觀。是故，諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅之道，應勉勵！」

〔四〕第四 善男子（二）

※二

「諸比丘！於過去世，善男子離家出家，如實現觀者，皆為對此四聖諦現觀如實。

三

諸比丘！於未來世，善男子離家出家，如實現觀者，皆為對此四聖諦現觀如實。

四

諸比丘！於現在世，善男子離家出家，如實現觀者，皆為對此四聖諦現觀如實。以何為四聖諦耶？

五

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

六

諸比丘！於過去世，善男子離家出家，如實現觀者……於未來世，善男子離家出家，如實現觀者……於現在世，善男子離家出家，如實現觀者，皆為對此四聖諦現觀如實。是故，諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅之道，應勉勵！」

〔五〕第五 沙門婆羅門（一）

※二

「諸比丘！於過去世，沙門、婆羅門如實現等覺者，皆對此四聖諦如實現等覺。

三

諸比丘！於未來世，沙門、婆羅門如實現等覺者，皆對此四聖諦如實現等覺。

四

諸比丘！於現在世，沙門、婆羅門如實現等覺者，皆對此四聖諦如實現等覺。以何為四聖諦耶？

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

五

諸比丘！於過去世，沙門、婆羅門如實現等覺者……於未來世，沙門、婆羅門如實現等覺者……於現在世，沙門、婆羅門如實現等覺者，皆對此四聖諦如實現等覺。是故，諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅之道，應勉勵！」

〔六〕第六 沙門婆羅門（二）

※二

「諸比丘！於過去世，沙門、婆羅門如實現等覺之所宣說，皆對此四聖諦如實現等覺所宣說。

三

諸比丘！於未來世，沙門、婆羅門如實現等覺之所宣說，皆對此四聖諦如實現等覺所宣說。

四

諸比丘！於現在世，沙門、婆羅門如實現等覺之所宣說，皆對此四聖諦如實現等覺所宣說。以何為四聖諦耶？

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

五

諸比丘！於過去世，沙門、婆羅門如實現等覺之所宣說……於未來世，沙門、婆羅門如實現等覺之所宣說……於現在世，沙門、婆羅門如實現等覺之所宣說，皆對此四聖諦如實現等覺宣說。是故，諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅之道，應勉勵！」

〔七〕第七 尋

※二

「諸比丘！勿尋思惡不善之尋。謂：欲尋、瞋尋，害尋。何以故耶？

三

諸比丘！此等之尋不引義利，非初梵行，不資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。

四

諸比丘！汝等尋思時，『此是苦』應尋思，『此是苦集』應尋思，『此是苦滅』應尋思，『此是順苦滅之道』應尋思。何以故耶？

五

諸比丘！此等之尋引於義利，成初梵行，資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。是故諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅之道，應勉勵！」

〔八〕第八 思

※二

「諸比丘！勿思惟惡不善之思，謂：『世間為常，世間為無常，世間為有邊，世間為無邊，命即身，命與身為異，如來死後為有，如來死後為無，如來死後亦有亦無，如來死後非有亦非無。』何以故耶？

三

諸比丘！此等之思不引義利，不達初梵行，不資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。

四

諸比丘！汝等思惟時，以『此是苦』應思惟！『此是苦集』應思惟！『此是苦滅』應思惟！『此是順苦滅之道』應思惟！何以故耶？

五

諸比丘！此等之思惟引於義利，成初梵行，資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。是故諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅之道，應勉勵！」

〔九〕第九 諍

※二

「諸比丘！勿論諍論，謂：『汝不知此法、律，我知此法、律，汝云何知此法、律耶？汝為邪行者，我為正行者；汝將應說為前者，說為後，將應說為後者，說為前；我言為相應，汝言為不相應；汝長時所思為所覆；汝為逃他論而立論；汝將墮負處，若能者，當應答。』何以故耶？」

三

諸比丘！此論不引義利，非成初梵行，不能資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。

四

諸比丘！汝等論時，以『此是苦』應論，『此是苦集』應論，『此是苦滅』應論，『此是順苦滅之道』應論。何以故耶？」

五

諸比丘！此論引於義利，成初梵行，資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。是故諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅之道，應勉勵！」

〔一〇〕第十 論

※二

「諸比丘！勿論種種之畜生論、調：王論、盜賊論、大臣論、軍論、怖畏論、戰爭論、食論、飲論、衣服論、臥具論、華鬘論、香論、親族論、車乘論、村里論、聚落論、都城論、地方論、女人論、男人論、勇士論、街路論、池邊論、亡靈論、種種論、世間譚、海譚，如是之有無論是。何以故耶？

三

諸比丘！此論不引義利，不達初梵行，不能資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。

四

諸比丘！汝等論時，以『此是苦也』應論，『此是苦集』應論，『此是苦滅』應論，『此是順苦滅之道』應論。何以故耶？

五

諸比丘！此論為引於義利，成初梵行，資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。是故諸比丘！以『此是苦』應勉勵！『此是苦集』應勉勵！『此是苦滅』應勉勵！『此是順苦滅之道』應勉勵！」

第一 定品
(終)

此中攝頌曰：

定以及宴默
二之善男子
沙門婆羅門
尋與思諍論

第二 轉法輪品

〔一一〕第一 如來所說（一）

一

如是我聞。一時，世尊住波羅捺國仙人墮處鹿野園。

二

於此處，世尊言五比丘曰：

「諸比丘！出家者不可親近於二邊。以何為二邊耶？」

三

（一）於諸欲以愛欲貪著為事者，乃下劣、卑賤、凡夫之所行、非聖賢，乃無義相應。（二）以自之煩苦為事者，為苦，非聖賢，乃無義相應。諸比丘！如來捨此二邊，以中道現等覺。此為資於眼生、智生、寂靜、證智、等覺、涅槃。

四

諸比丘！云何乃能如來於中道現等覺，資於眼生、智生、寂靜、證智、等覺、涅槃耶？乃八支聖道是。謂：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。諸比丘！此乃如來所現等覺之中道，此乃資於眼生、智生、寂靜、證智、等覺、涅槃。

五

諸比丘！苦聖諦者，即是此，謂：生苦、老苦、病苦、死苦、愁悲憂惱苦、遇怨憎者苦、與所愛者別離苦、所求不得苦，略說為五取蘊苦。

六

諸比丘！苦集諦者，即是此，謂：後有起、喜貪俱行、隨處歡喜之渴愛，謂：欲愛、有愛、無有愛是。

七

諸比丘！苦滅聖諦者，即是此，謂：於此渴愛無餘、離滅、棄捨、定棄、解脫而無執著。

八

諸比丘！順苦滅道聖諦者，即是此，所謂八支聖道是。謂：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。

九

諸比丘！苦聖諦者，即是此，於先前未聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。諸比丘！應對此苦聖諦徧知……乃至……已徧知，於先前未聞之法，我眼生，智生、慧生、明生、光明生。

一〇

諸比丘！苦集聖諦者，即是此，於先前未聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。諸比丘！對此苦集聖諦應

斷……乃至……已斷，於先前未聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。

一一

諸比丘！苦滅聖諦者，即是此，於先前未聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。諸比丘！對此苦滅聖諦應現證……乃至……已現證，於先前未聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。

一二

諸比丘！順苦滅道聖諦者，即是此，於先前未聞之法，我眼生、智生、慧生、明生、光明生。諸比丘！對此順苦滅道聖諦應修習……乃至……已修習，於先前未聞之法我眼生、智生、慧生、明生、光明生。

一三

諸比丘！我於四聖諦以如是三轉十二行相之如實智見尚未達悉皆清淨時，諸比丘！我於天、魔、梵世、沙門、婆羅門、人、天眾生中，不被稱之為無上正等覺之現等覺。

一四

諸比丘！然而我於此四聖諦，如是三轉十二行相之如實智見已達悉皆清淨故，諸比丘！我於天、魔、梵世、沙門、婆羅門、人、天眾生中，稱之為無上正等覺之現等覺。

又，我智生與見，我心解脫不動，此為我最後之生，再不受後有。」

一五

世尊如是說示已，五比丘歡喜、信受於世尊之所說。又說示此教時，具壽憍陳如生遠塵離垢之法眼：「有集法者，悉皆有此滅法。」

一六

世尊轉如是法輪時，地居之諸天發聲言曰：

「世尊如是於波羅捺國仙人墮處鹿野苑，轉無上之法輪，沙門、婆羅門、天、魔、梵或世間之任何者，皆不能覆。」

一七

聞得地居諸天之聲之四大天王諸天，發聲言曰：

「世尊如是於波羅捺國仙人墮處鹿野苑，轉無上之法輪，沙門、婆羅門、天、魔、梵、或世間之任何者，皆不能覆。」

一八

聞得四大天王諸天聲之忉利諸天……焰摩諸天……兜率諸天……化樂諸天……他化自在諸天……梵身諸天發聲言曰：

「世尊如是於波羅捺國仙人墮處鹿野苑，轉無上之法輪，沙門、婆羅門、天、魔、梵、或世間任何者，皆不能覆。」

一九

如是於其剎那，其頃刻，其須臾之間，乃至止於梵世之聲已達。又，此十千世界涌震動，示現於無量廣大光明之世間，超越諸天之天威力。

二〇

時，世尊稱讚而曰：

「憍陳如悟矣，憍陳如悟矣！」

自此即名具壽憍陳如，稱為阿若憍陳如。

〔一二〕第二 如來所說（二）

※二

「諸比丘！苦聖諦者，即是此，於先前未聞之法，如來眼生、智生、慧生、明生、光明生。諸比丘！應對此苦聖諦徧知……乃至……已徧知，於先前未聞之法，如來眼生、智生、慧生、明生、光明生。

三

諸比丘！苦集聖諦者，即是此，於先前未聞之法，如來眼生、智生、慧生、明生、光明生。諸比丘！應對此苦集聖諦斷除……乃至……已斷，於先前未聞之法，如來眼生、智生、慧生、明生、光明生。

四

諸比丘！苦滅聖諦者，即是此，於先前未聞之法，如來眼生、智生、慧生、明生、光明生。諸比丘！應對此苦滅聖諦現證……乃至……已現證，於先前未聞之法，如來眼生、智生、慧生、明生、光明生。

五

諸比丘！順苦滅道聖諦者，即是此，於先前未聞之法，如來眼生、智生、慧生、明生、光明生。諸比丘！應對此順苦滅道聖諦修習……乃至……已修習，於先前未聞之法，如來眼生、智生、慧生、明生、光明生。」

〔一三〕第三 蘊

※二

「諸比丘！有四聖諦。以何為四聖諦耶？苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

三

諸比丘！云何為苦聖諦耶？謂五取蘊是，謂：色取蘊、受取蘊、想取蘊、行取蘊、識取蘊是。諸比丘！此名為苦聖諦。

四

諸比丘！云何為苦集聖諦耶？後有起而喜貪俱行、隨處歡喜之渴愛，謂：欲愛、有愛、無有愛是。諸比丘！此名為苦集聖諦。

五

諸比丘！云何為苦滅聖諦耶？將此渴愛無餘離滅、棄捨、定棄、解脫，是無執著。諸比丘！此名為苦滅聖諦。

六

諸比丘！云何為順苦滅道聖諦耶？八支聖道是，謂：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。諸比丘！此名為順苦滅道聖諦。

七

諸比丘！此為四聖諦。是故諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅之道，應勉勵！」

〔一四〕第四 處

※二

「諸比丘！有四聖諦。以何為四聖諦耶？苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

三

諸比丘！云何為苦聖諦耶？謂：六入處是。以何為六入處耶？眼處、耳處、鼻處、舌處、身處、意處是。諸比丘！此名為苦聖諦。

四

諸比丘！云何為苦集聖諦耶？後有起而喜貪俱行，是隨處歡喜之渴愛、謂：欲愛、有愛、無有愛是。諸比丘！此名為苦集聖諦。

五

諸比丘！云何為苦滅聖諦耶？將此渴愛無餘離滅、棄捨、定棄、解脫，是無執著。諸比丘！此名為苦滅聖諦。

六

諸比丘！云何為順苦滅道聖諦耶？八支聖道是，謂：正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定是。諸比丘！此名為順苦滅道聖諦。

七

諸比丘！此為四聖諦。是故諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅道，應勉勵！」

〔一五〕第五 受持（一）

※二

「諸比丘！汝等對我所說之四聖諦，曾受持否？」

三

如是言已，有一比丘，白世尊曰：

「大德！我對世尊所說之四聖諦，予以受持。」

「比丘！汝對我所說之四聖諦，云何受持耶？」

四

「大德！世尊所說之第一聖諦——苦，我予受持。大德！世尊所說之第二聖諦——苦集，我予受持。大德！世尊所說之第三聖諦——苦滅，我予受持。大德！世尊所說之第四聖諦——順苦滅道，我予受持。大德！我如是對世尊所說之四聖諦，予受持。」

五

「善哉！善哉！比丘！汝對我所說之四聖諦，予受持。比丘！苦為我所說之第一聖諦，如是對此受持。比丘！苦集為我所說之第二聖諦，如是對此受持。比丘！苦滅為我所說之第三聖諦，如是對此受持。比丘！順苦滅道為我所說之第四聖諦，如是對此受持。」

六

比丘！如是對我所說之四聖諦，應受持。是故比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅道，應勉勵！」

〔一六〕第六 受持（二）

※二

「諸比丘！汝等對我所說之四聖諦，曾受持否？」

三

如是言已，有一比丘，白世尊曰：

「大德！我對世尊所說之四聖諦，予以受持。」

「比丘！汝對我所說之四聖諦，云何受持耶？」

四

「大德！苦為世尊所說之第一聖諦，我予受持。大德！若沙門、婆羅門如是言：『沙門瞿曇之所說，乃非第一苦聖諦，我捨此第一苦聖諦，立他之第一苦聖諦。』無有此理。」

五～六

大德！苦集為世尊所說之第二聖諦，我予受持……苦滅為世尊所說之第三聖諦，我予受持。

七

大德！順苦滅道為世尊所說之第四聖諦，我予受持。大德！若有沙門、婆羅門如是言：『沙門瞿曇之所說，乃非第四順苦滅道聖諦，我捨此第四順苦滅道聖諦，而立他之第四順苦滅道聖諦。』無有此理。

八

大德！我如是對世尊所說之四聖諦，予受持。」

九

「善哉、善哉！比丘！善哉！比丘！汝對我所說之四聖諦，予受持。比丘！苦為我所說之第一聖諦，如是對此受持。比丘！若有沙門、婆羅門如是言：『沙門瞿曇之所說，乃非第一苦聖諦，我捨此第一苦聖諦，而立他之第一苦聖諦。』無有此理。比丘！苦集……乃至……苦滅……乃至……順苦滅道，為我所說之第四聖諦，如是對此受持。比丘！若有沙門、婆羅門如是言：『沙門瞿曇之所說，乃非第四順苦滅道聖諦，我捨此第四順苦滅道聖諦，而立他之第四順苦滅道聖諦。』無有此理。

一〇

比丘！如是對我所說之四聖諦予受持。是故比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅道，應勉勵！」

〔一七〕第七 無明

※二

時，有一比丘來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德！所謂無明、無明者。大德！云何為無明耶？云何為隨無明耶？」

四

「比丘！苦之無智，苦集之無智，苦滅之無智，順苦滅道之無智，此名為無明；如是者為隨無明。

五

是故比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅道，應勉勵！」

〔一八〕第八 明

※二

時，有一比丘詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。

三

坐於一面之彼比丘，白世尊曰：

「大德！所謂明、明者。大德！云何為明耶？云何為隨明耶？」

四

「比丘！苦之智，苦集之智，苦滅之智，順苦滅道之智，此名之明；如是者為隨明。」

五

是故比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅道，應勉勵！」

〔一九〕第九 辯

※二

「諸比丘！『此是苦聖諦』，為我所立。此中之謂『此是苦聖諦』者，含有無量之字、無量之文、無量之辯。」

三

……『此是苦集聖諦』……

四

……『此是苦滅聖諦』……

五

諸比丘！『此是順苦滅道聖諦』，為我所立。此中之謂『此是順苦滅道聖諦』者，含有無量之字、無量之文、無量之辯。

六

是故比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅道，應勉勵！」

〔二〇〕第十 如

※二

「諸比丘！有四種之如，為不離如、不異如。以何為四耶？

三

諸比丘！『此是苦』，為如，為不離如、不異如。

四

『此是苦集』，為如，為不離如、不異如。

五

『此是苦滅』，為如，為不離如、不異如。

六

『此是順苦滅道』，為如，為不離如、不異如。

七

諸比丘！此四者，為如，為不離如、不異如。是故諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅道，應勉勵！」

第二 轉法輪品 (終)

此中攝頌曰：

二之如來說
蘊節與處節
二節之受持
無明明辯如

第三 拘利村品

〔二一〕第一 跋耆（一）

一

如是我聞。一時，世尊住跋耆國拘利村。

二

於此處，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！因對四聖諦不了悟、不通達，如是，我與汝等將永久流轉輪迴。以何為四聖諦耶？」

三

諸比丘！因對苦聖諦不了悟、不通達，如是，我與汝等將永久流轉輪迴。因對苦集聖諦……乃至……對苦滅聖諦……乃至……因對順苦滅道聖諦，不了悟、不通達，我與汝等將永久流轉輪迴。

四

諸比丘！如今，對苦聖諦了悟、通達，對苦集聖諦了悟、通達，對苦滅聖諦了悟、通達，對順苦滅道聖諦了悟、通達，則斷有愛、盡有索、更不受後有。」

五

世尊如是說。善逝如是說已，師更如是說：

因對四聖諦
不能如實觀
則久受生處
輪迴所及者
對此等聖諦
觀於此等者
於滅則有索
乃至苦根斷
更不受後有

〔二二〕第二 跋耆（二）

※二

「諸比丘！若諸沙門、婆羅門，於『此是苦。』不能如實了知，於『此是苦集』不能如實了知，於『此是苦滅』不能如實了知，於『此是順苦滅道』不能如實了知，諸比丘！彼沙門、婆羅門，為沙門中之沙門、婆羅門中之婆羅門，我不予認許。又，彼具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法自證知、現證，具足而住者，為無有。」

三

諸比丘！若諸沙門、婆羅門，於『此是苦』如實了知，於『此是苦集』如實了知，於『此是苦滅』如實了知，於『此是順苦滅道』如實了知，諸比丘！彼沙門、婆羅門，為沙門中之

沙門、婆羅門中之婆羅門，我予認許。又，彼具壽對沙門之義、婆羅門之義，於現法自證知、現證，具足而住。」

四

世尊如是說。善逝如是說已，師更如是說：

苦苦生無殘
徧苦應須滅
應達苦滅處
不知道者人
則無心解脫
無慧之解脫
不得苦際盡
受是生與老
苦苦生無殘
徧苦應須滅
應達苦滅處
知道者之人
則對心解脫
乃至慧解脫
具足盡苦際
不受生與老

〔二三〕第三 正等覺者

一～二

舍衛城。

「諸比丘！有四聖諦。以何為四聖諦耶？」

三

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅聖諦是。

諸比丘！此為四聖諦。

四

諸比丘！對此四聖諦如實現等覺故，名為如來、應供、正等覺者。

五

是故諸比丘！此是苦，應勉勵！此是苦集，應勉勵！此是苦滅，應勉勵！此是順苦滅道，應勉勵！」

〔二四〕第四 阿羅漢

一

舍衛城。

二

「諸比丘！過去世之應供、正等覺者，如實現等覺者，皆對四聖諦如實現等覺。

三

諸比丘！未來世之應供、正等覺者，如實現等覺者，皆對四聖諦如實現等覺。

四

諸比丘！現在之應供、正等覺者，如實現等覺者，皆對四聖諦如實現等覺。以何為四聖諦耶？

五

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

六

諸比丘！過去世之應供、正等覺者，如實現等覺者……應現等覺為……現等覺者，皆對此四聖諦如實現等覺。

七

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔二五〕第五 漏盡

※二

「諸比丘！我於知見者說漏盡，并非於不知見者。諸比丘！何為知見者之漏盡耶？」

三

諸比丘！知見『此是苦』，為漏盡；知見『此是苦集』，為漏盡；知見『此是苦滅』，為漏盡；知見『此是順苦滅道』，為漏盡。

四

諸比丘！如是知見為漏盡。是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔二六〕第六 友

※二

「諸比丘！汝等若有應所哀愍、應所聽聞、思念之朋友、親戚、血族，諸比丘！汝等對彼等應將四聖諦之如實現觀，勸導使習住。何為四聖諦耶？

三

苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅聖諦也。

四

諸比丘！汝等若有應所哀愍、應所聽聞、思念之朋友、親戚、血族者，諸比丘！汝等對彼等應將此四聖諦之如實現觀，勸導使習住。

五

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔二七〕第七 如

※二

「諸比丘！有四聖諦。以何為四聖諦耶？

三

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是

四

諸比丘！此四聖諦為如，為不離如、不異如，是故名為聖諦。

五

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔二八〕第八 世間

※二

「諸比丘！有四聖諦。以何為四聖諦耶？」

三

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

四

諸比丘！於天、魔、梵世、沙門、婆羅門、人、天、眾生中，如來為聖。是故名之為聖諦。

五

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔二九〕第九 應徧知

※二

「諸比丘！有四聖諦。以何為四聖諦耶？

三

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

四

諸比丘！此四聖諦中，有應徧知之聖諦、有應斷之聖諦、有應現證之聖諦、有應修習之聖諦。

諸比丘！何為應徧知之聖諦耶？

五

諸比丘！苦聖諦應徧知，苦集聖諦應斷，苦滅聖諦應現證，順苦滅道聖諦應修習。

六

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔三〇〕第十 伽梵婆提

一

一時，眾多之長者比丘，住於支提國薩罕奢尼卡。

二

其時，眾多之長老比丘，食後由乞食歸，於講堂集會聚坐，作如是之談話：「友等！見苦者，亦見苦集、亦見苦滅、

亦見順苦滅道耶？」

三

作如是言，具壽伽梵婆提對長老比丘曰：

「友等！我自世尊處，曾親聞、親受：

四

『諸比丘！見苦者，亦見苦集、亦見苦滅、亦見順苦滅道。見苦集者，亦見苦、亦見苦滅、亦見順苦滅道。見苦滅者，亦見苦、亦見苦集、亦見順苦滅道。見順苦滅道者，亦見苦、亦見苦集、亦見苦滅。』」

第三 拘利村品
(終)

此中攝頌曰：

二節之跋耆
及正等覺者
阿羅漢漏盡
友與如世間
乃至應徧知
及伽梵婆提

第四 申恕林品

〔三一〕第一 申恕

一

一時，世尊住拘睢彌國申恕林。

二

時，世尊手持少許之申恕葉，告諸比丘曰：

「諸比丘！汝等於意云何？我手中所持之少許申恕葉，與在申恕林上所有者，何者為多耶？」

「大德！世尊手中所持之申恕葉為少，申恕林上所有為多。」

三

「諸比丘！如是，我證知而對汝等不說之處為多，所說之處為少。」

四

諸比丘！以何之故，我不說耶？諸比丘！此不相應於義利，非達初梵行，不能資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。是故我不說。

五

諸比丘！我以何說之耶？諸比丘！於『此是苦』，說之；於『此是苦集』說之，於『此是苦滅』說之；於『此是順苦滅道』，說之。

六

諸比丘！以何之故，我說之耶？諸比丘！此於義利相應，達初梵行，資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。是故我為說。

七

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔三二〕第二 佉提羅

※二

「諸比丘！若作如是言：『我對苦聖諦，不能如實現觀；對苦集聖諦，不能如實現觀……對苦滅聖諦，不能如實現觀；對順苦滅道聖諦，不能如實現觀，作正苦之邊際。』無有此理。

三

諸比丘！若作如是言：『我以佉提羅葉、婆羅葉、阿摩勒葉，作器，將水以多羅葉持之行。』無有此理。諸比丘！如是，若作如是言：『我對苦諦，不能如實現觀；對苦集聖諦，不能如實現觀；對苦滅聖諦，不能如實現觀；對順苦滅道聖諦，不能如實現觀，作正苦之邊際。』無有此理。

四

諸比丘！又，若作如是言：『我對苦聖諦，如實現觀；對苦集聖諦，如實現觀；對苦滅聖諦，如實現觀；對順苦滅聖諦，如實現觀，作正苦之邊際。』為有此理。

五

諸比丘！譬如，若作如是言：『我以鉢頭摩葉、婆羅葉、摩樓迦葉，作器，將水以多羅葉持之而行。』為有此理。諸比丘！如是，若作如是言：『我對苦聖諦，如實現觀；對苦集聖諦，如實現觀；對苦滅聖諦，如實現觀；對順苦滅道聖諦，如實現觀，作正苦之邊際。』為有此理。」

〔三三〕第三 杖

二

「諸比丘！譬如將杖擲向空中，則或由頭墮、或由中墮、或由尾墮。諸比丘！如是有無明蓋、有愛結之眾生，流轉輪迴，或由此世往他世、或由他世來此世。何以故耶？諸比丘！乃不見四聖諦故。以何為四聖諦耶？

三

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

四

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔三四〕第四 衣

※二

「諸比丘！若衣、若頭燃，應作何耶？」

「大德！若衣、若頭燃，為撲息衣或頭，應起增上之志欲，精進、勉勵、勢猛、不退、正念、正知。」

三

「諸比丘！〔可〕捨置燃衣或頭而不作意，〔然〕對尚未如實現觀之四聖諦，為現觀，應起增上之志欲，精進、勉勵、勢猛、不退、正念、正知。以何為四聖諦耶？

四

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

五

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔三五〕第五 百槍

※二

「諸比丘！譬如有男子，有壽百歲、命百歲，有人對彼曰：『男子！汝於晨時分，以槍衝刺百次；日中時分，以槍衝刺百次；日夕時分，以槍衝刺百次。男子！汝每日被槍衝刺三百次，保有壽百歲、命百歲。百歲之後，對尚未現觀之四聖諦，予現證。』諸比丘！知義趣之善男子，應善受之。何以故耶？

三

諸比丘！輪迴自無始有之，為槍所衝、為劍所衝、為斧所衝，不知其前際。諸比丘！雖如是者，諸比丘！我非說有苦有

憂四聖諦之現觀。諸比丘！我說有樂有喜四聖諦之現觀。以何為四聖諦耶？

四

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

五

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』應勉勵！」

〔三六〕第六 生類

※二

「諸比丘！譬如有男子，將此閻浮提中之草木枝葉，截集於一處，集之一處作成串，大海中之大生類貫成大串，大海中之中生類貫成中位之串，大海中之小生類貫成小串。諸比丘！然大海中麤大生類尚未攝者有之，若此閻浮提中之草木枝葉雖盡攝之，諸比丘！大海中仍有更多之小生類，不易貫串。何以故耶？

三

諸比丘！其自體微小故。諸比丘！如是眾生界之惡趣為大。諸比丘！由如是大惡趣解脫之人，為見具足，於『此是苦』，如實了知；於『此是苦集』，如實了知；於『此是苦滅』；如實了知；於『此是順苦滅道』，如實了知。

四

是故，諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔三七〕第七 日喻（一）

※二

「諸比丘！日輪上升時，前驅之前相，為有明相。諸比丘！如是對四聖諦、如實現觀時，前驅之前相為正見。

三

諸比丘！於有正見之比丘，於『此是苦』，如實了知；於『此是苦集』，如實了知；於『此是苦滅』，如實了知；於『此是順苦滅道』，如實了知，是為可期。

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔三八〕第八 日喻（二）

※二

「諸比丘！若日月尚未出於世間，則大光明、大光耀尚未現，以致闇黑、闇冥而晝夜不分，不分月或半月、不分時節歲數。

三

諸比丘！日月出時，則大光明、大光耀現，無闇黑、無闇冥，分晝夜，分月、半月、分時節歲數。

四

諸比丘！如是者，若如來、應供、正等覺者尚未出，則大光明、大光耀猶不現，闇黑、闇冥而無四聖諦之教說，亦不說示、施設、建立、開演、分別、顯了。

五

諸比丘！如來、應供、正等覺者出時，則大光明、大光耀現，無闇黑、無闇冥，有四聖諦之教說，則有施設、建立、開演、分別、顯了。以何為四耶？

六

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

七

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔三九〕第九 因陀羅柱

※二

「諸比丘！諸沙門、婆羅門，於『此是苦』不如實了知，於『此是苦集』不如實了知，於『此是苦滅』不如實了知，於『此是順苦滅道』不如實了知。觀他沙門、婆羅門之面云：『此尊者，是知而知、見而見者耶？』

三

諸比丘！譬如棉、棉花之輕而受風吹時，置於平坦地面上，東風來則吹拂向西、西風來則吹拂向東、北風來則吹拂向南、南風來則吹拂向北。何以故耶？諸比丘！綿花輕之故。

四

諸比丘！如是諸沙門、婆羅門，於『此是苦』不如實知，於『此是苦集』不如實知，於『此是苦滅』不如實知，於『此是順苦滅道』不如實知。觀他沙門、婆羅門之面云：『此尊者為知而知、見而見者耶？』何以故耶？諸比丘！未觀四聖諦故。

五

諸比丘！諸沙門、婆羅門，於『此是苦』如實了知，於『此是苦集』如實了知，於『此是苦滅』如實了知，於『此是順苦滅道』如實了知。不觀他沙門、婆羅門之面云：『此尊者為知而知、見而見者耶？』〔不觀他面、不隨他語。〕

六

諸比丘！譬如鐵柱、因陀羅柱之根深善埋而不動不搖。若從東方大風雨來，亦不震、不動、不搖，若從西方大風雨來，亦不震、不動、不搖，若從北方大風雨來，亦不震、不動、不搖，若從南方大風雨來，亦不震、不動、不搖。何以故耶？諸比丘！根深之因陀羅柱善埋故。

七

諸比丘！如是諸沙門、婆羅門，於『此是苦』如實了知，於『此是苦集』如實了知，於『此是苦滅』如實了知，於『此是順苦滅道』如實了知。不觀他沙門、婆羅門之面云：『此尊

者為知而知、見而見者耶？』何以故？諸比丘！善觀四聖諦故。以何為四聖諦耶？

八

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

九

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔四〇〕第十 論師

※二

「諸比丘！若比丘於『此是苦』如實了知，於『此是苦集』如實了知，於『此是苦滅』如實了知，於『此是順苦滅道』如實了知者，若從東方有沙門、婆羅門來，欲議論、求議論，為具他法而震動搖撼彼者，無有此理。若從西方……若從北方……若從南方有沙門、婆羅門來，欲議論求議論，為具他法而震動搖撼彼者，無有此理。

三

諸比丘！譬如有長十六肘之石柱，由根往下八肘，由根向上八肘。若從東方大風雨來，亦不震、不動、不搖，若從西方……若從北……若從南方大風雨來，亦不震、不動、不搖。何以故耶？諸比丘！根深而石柱被善埋故。

四

諸比丘！如是，若比丘於『此是苦』如實了知，於『此是苦集』如實了知，於『此是苦滅』如實了知，於『此是順苦滅道』如實了知者，若從東方有沙門、婆羅門來，欲議論、求議論，為具他法而震動搖撼彼者，無有此理。若從西方……若從北方……若從南方有沙門、婆羅門來，欲議論、求議論，為具他法而震動搖撼彼者，無有此理。何以故耶？諸比丘！善觀四聖諦故。以何為四聖諦耶？

八

乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

九

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

第四 申恕林品
(終)

此中攝頌曰：

申恕佉提羅
杖與衣百槍
生類二日喻
因羅柱論師

第五 深嶮品

〔四一〕第一 思惟

一

一時，世尊住竹林迦蘭陀園。

二

於此處，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！往昔，有一男子，以『應於世間作思惟』，而往須摩竭陀池。來至須摩竭陀池之岸邊坐，進入世間思惟。

三

諸比丘！彼男子於須摩竭陀池之岸，見四部軍之人藕根。見已，思念：『我發狂矣，我狂亂矣，我見世間之所無者。』

四

諸比丘！時，彼男子走入都城，告大眾曰：『諸大德！我發狂矣，諸大德！我狂亂矣，我見世間之所無者。』

『男子！汝云何發狂耶？云何狂亂耶？汝見世間所無者耶？』

五

『諸大德！於此，我出王舍城，以「應於世間作思惟」，而往須摩竭陀池。來至須摩竭陀池之岸邊坐下，入於世間作思惟。諸大德！我於須摩竭陀池之岸，見四部軍之人藕根。諸大德！如是，我發狂，如是，我狂亂，我見世間之所無者。』

『男子！汝實發狂矣，實為狂亂，汝之所見為世間所無者。』

六

諸比丘！然則，彼男子為見真實，非非實。諸比丘！往昔，天與阿修羅酣戰。諸比丘！於彼戰役，諸天勝，阿修羅敗。阿修羅因敗而懼，怖畏諸天由藕根入阿修羅宮。

七

是故諸比丘！勿於世間思惟，曰：『世間為常、世間為無常、世間為有邊、世間為無邊、命即是身、命與身為異、如來死後為有、如來死後為無、如來死後為亦有亦無、如來死後為亦非有亦非無。』何以故耶？

八

諸比丘！此思惟與義不相應，不達初梵行，不資厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。

九

諸比丘！汝等思惟時，於『此是苦』應思惟，於『此是苦集』應思惟，於『此是苦滅』應思惟，於『此是順苦滅道』應思惟。何以故耶？

一〇

諸比丘！此思惟與義相應，為初梵行，資於厭患、離貪、滅盡、寂止、證智、等覺、涅槃。

一一

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』應勉勵！」

〔四二〕第二 深嶮

一

一時，世尊住王舍城耆闍崛山中。

二

時，世尊告諸比丘曰：

「諸比丘！往辯才峰，行晝日坐。」

彼諸比丘應諾世尊曰：

「唯唯，大德！」

三

時，世尊與眾多比丘俱往辯才峰。有一比丘，於辯才峰見大深嶮。見已，白世尊曰：

「大德！大哉！此深嶮。大德！深嶮可怖畏。大德！可有比此深嶮更大、更怖畏之深嶮耶？」

「比丘！亦有比此深嶮更大、更怖畏之深嶮者。」

「大德！比此深嶮更大、更怖畏之深嶮為何耶？」

四

「比丘！於諸沙門、婆羅門，於『此是苦』不如實了知，於『此是苦集』不如實了知，於『此是苦滅』不如實了知，於『此是順苦滅道』不如實了知者，則於生本之諸行樂著，老本之諸行樂著，死本之諸行樂著，愁、悲、苦、憂、惱本之諸行

樂著。因樂著於生本諸行，樂著於老本諸行，樂著於死本諸行，樂著於愁、悲、苦、憂、惱本之諸行，則生本之諸行增長，老本之諸行增長，死本之諸行增長，愁、悲、苦、憂、惱本之諸行增長。因生本之諸行增長，老本之諸行增長，死本之諸行增長，愁、悲、苦、憂、惱本之諸行增長，則墮於生之深嶮，墮於老之深嶮，墮於死之深嶮，墮於愁、悲、苦、憂、惱之深嶮，不得解脫生，老，死，愁、悲、苦、憂、惱。吾云不得苦之解脫。

五

比丘！然諸沙門、婆羅門，於『此是苦』如實了知，於『此是苦集』如實了知，於『此是苦滅』如實了知，於『此是順苦滅道』如實了知者，則不樂著於生本之諸行，不樂著於老本之諸行，不樂著於死本之諸行，不樂著於愁、悲、苦、憂、惱本之諸行。因不樂著於生本諸行，不樂著於老本諸行，不樂著於死本諸行，不樂著於愁、悲、苦、憂、惱本諸行，故生本諸行不增長，老本諸行不增長，死本諸行不增長，愁、悲、苦、憂、惱本諸行不增長。是以不墮生之深嶮，不墮老之深嶮，不墮死之深嶮，不墮愁、悲、苦、憂、惱之深嶮，而解脫生，老，死，愁、悲、苦、憂、惱。吾云得苦之解脫。

六

是故，諸比丘！『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔四三〕第三 熱煩

※二

「諸比丘！有名大熱之地獄。於彼處，眼所見之色，唯見非可愛相、不見可愛相，唯見非可樂相、不見可樂相，唯見非可意相、不見可意相。耳所聞之聲……鼻所嗅之香……舌所味之味……身所觸之所觸……意所知之法，唯知非可愛相、不知可愛相，唯知非可樂相、不知可樂相，唯知非可意相、不知可意相。」

三

如是說示已。有一比丘白世尊曰：

「大德！大哉！此熱煩。大德！甚大哉！此熱煩。大德！可有比此熱煩更大、更怖畏之熱煩耶？」

「比丘！亦有比此熱煩更大、更怖畏之熱煩。」

「大德！比此熱煩更大、更怖畏之熱煩為何耶？」

四

「比丘！諸沙門、婆羅門，於『此是苦』不如實了知，於『此是苦集』不如實了知，於『此是苦滅』不如實了知，於『此是順苦滅道』不如實了知者，於生本諸行樂著，於老本諸行樂著，於死本諸行樂著，於愁、悲、苦、憂、惱本諸行樂著。因樂著於生本諸行，樂著於老本諸行，樂著於死本諸行，樂著於愁、悲、苦、憂、惱本諸行，則生本諸行增長，老本諸行增長，死本諸行增長，愁、悲、苦、憂、惱本諸行增長。由生本諸行增長，則老本諸行增長，死本諸行增長，愁、悲、苦、憂、惱本諸行增長，故燃起生之熱煩，燃起老之熱煩，燃起死之熱煩，燃起愁、悲、苦、憂、惱之熱煩，而不得解脫生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱。吾云不得苦之解脫。」

五

比丘！然而諸沙門、婆羅門，於『此是苦』如實了知，於『此是苦集』如實了知，於『此是苦滅』如實了知，於『此是順苦滅道』如實了知者，則不樂著於生本諸行，不樂著於老本諸行，不樂著於死本諸行，不樂著於愁、悲、苦、憂、惱本諸行。因不樂著於生本諸行，不樂著於老本諸行，不樂著於死本諸行，不樂著於愁、悲、苦、憂、惱本諸行，故生本諸行不增長，老本諸行不增長，死本諸行不增長，愁、悲、苦、憂、惱本諸行不增長。由生本諸行不增長，老本諸行不增長，死本諸行不增長，愁、悲、苦、憂、惱本諸行不增長，是以生之熱煩不燃，老之熱煩不燃，死之熱煩不燃，愁、悲、苦、憂、惱之熱煩不燃，而生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱，得解脫。吾云得苦之解脫。

六

是故諸比丘！『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！此是『順苦滅道』，應勉勵！」

〔四四〕第四 重閣堂

※二

「諸比丘！若作如是言：『我對苦聖諦未如實現觀，對苦集聖諦未如實現觀，對苦滅聖諦未如實現觀，對順苦滅道聖諦未如實現觀，而作正苦之邊際。』無有此理。

三

諸比丘！譬如作如是言：『我尚未作重閣堂之下層，即欲建築其上層。』無有此理。諸比丘！如是，若作如是言：『我

對苦聖諦未如實現觀，對苦集聖諦未如實現觀，對苦滅聖諦未如實現觀，對順苦滅道聖諦未如實現觀，而作苦之邊際。』無有此理。

四

諸比丘！若作如是言：『我對苦聖諦如實現觀，對苦集聖諦如實現觀，對苦滅聖諦如實現觀，對順苦滅道聖諦如實現觀，而作正苦之邊際。』有此道理。

五

諸比丘！譬如作如是言：『我既作重閣堂之下層已，再建立其上層。』有此道理。諸比丘！如是，若作如是言：『我對苦聖諦如實現觀，對苦集聖諦如實現觀，對苦滅聖諦如實現觀，對順苦滅道聖諦如實現觀，而作正苦之邊際。』有此道理。

六

是故諸比丘！『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！此是『順苦滅道』，應勉勵！」

〔四五〕第五 毛

一

一時，世尊住毘舍城大林之重閣講堂。

二

時，具壽阿難於晨朝時分，著下衣、持衣鉢，入毘舍城乞食。

三

具壽阿難見眾多之離車童子，於會堂作弓射，自遠處以矢柄射透小鍵孔，而箭箭相繼不誤。

四

見已，思念而言：「實則，此等離車童子為巧，實則，此等離車童子為極巧，所以能自遠方以矢柄射透小鍵孔，而箭箭相繼不誤。」

五

時，具壽阿難，步至毘舍離乞食，食後由乞食歸，來詣世尊住處。詣已，禮敬世尊，坐於一面。坐於一面之具壽阿難白世尊曰：

六

「大德！於此，我晨朝時分，著下衣、持衣鉢，入毘舍離乞食。大德！我見眾多之離車童子，於會堂作弓射，由遠方以矢柄射透小鍵孔，而箭箭相繼不誤。見已，思念言曰：『實則，此等離車童子為巧，實則，此等離車童子為極巧，所以能由遠方以矢柄射透小鍵孔，而箭箭相繼不誤。』」

七

「阿難！於汝之意云何？自遠方以矢柄射透小鍵孔，而箭箭相繼不誤。若將一根毫毛，分為百分，由其一端貫穿另一端，當以何者為難作難成耶？」

「大德！將一根毫毛分成百分，由其一端貫穿另一端，為更難作難成。」

八

「阿難！『此是苦』，如實通達，『此是苦集』，如實通達，『此是苦滅』，如實通達，『此是順苦滅道』，如實通達者，是通達更難之通達。」

九

是故阿難！『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔四六〕第六 闇黑

※二

「諸比丘！有無蓋、無底之闇黑，具如是大神力、大威力之日月光，亦不能及於其中間。」

三

如是說示已，有一比丘白世尊曰：

「大德！大哉，闇黑。大德！甚大哉，闇黑。大德！可有其他比此闇黑更大、更怖畏之闇黑者耶？」

「比丘！比此闇黑更大、更怖畏之闇黑者，亦有。」

「大德！其他比此闇黑更大、更怖畏之闇黑者，為何耶？」

四

「比丘！於諸沙門、婆羅門，『此是苦』不如實了知，『此是苦集』不如實了知，『此是苦滅』不如實了知，『此是順苦滅道』不如實了知者，則樂著於生本諸行，樂著於老本諸行，樂著於死本諸行，樂著於愁、悲、苦、憂、惱本諸行。因樂著於生本諸行，樂著於老本諸行，樂著於死本諸行，樂著於愁、悲、苦、憂、惱本諸行，故生本諸行增長，老本諸行增長，死本諸行增長，愁、悲、苦、憂、惱本諸行增長。由生本諸行增長，老本諸行增長，死本諸行增長，愁、悲、苦、憂、惱本諸行增長，而墮於生之闇黑，墮於老之闇黑，墮於死之闇黑，墮於愁、悲、苦、憂、惱之闇黑，而不得解脫生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱。我云不得苦之解脫。」

五

比丘！然諸沙門、婆羅門，於『此是苦』如實了知，『此是苦集』如實了知，『此是苦滅』如實了知，『此是順苦滅道』如實了知者，則不樂著於生本諸行，不樂著於老本諸行，不樂著於死本諸行，不樂著於愁、悲、苦、憂、惱本諸行。因不樂著於生本諸行，不樂著於老本諸行，不樂著於死本諸行，不樂著於愁、悲、苦、憂、惱本諸行，故生本諸行不增長，老本諸行不增長，死本諸行不增長，愁、悲、苦、憂、惱本諸行不增長。由生本諸行不增長，老本諸行不增長，死本諸行不增長，愁、悲、苦、憂、惱本諸行不增長，而不墮於生之闇黑，不墮於老之闇黑，不墮於死之闇黑，不墮於愁、悲、苦、憂、惱之闇黑，而生、老、死、愁、悲、苦、憂、惱解脫。吾云得苦之解脫。」

六

是故諸比丘！『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔四七〕第七 孔（一）

※二

「諸比丘！譬如有人，將一有孔之輓，投於大海中。有一盲龜，游行海中，百年上浮一次。

三

諸比丘！於汝等之意云何？彼百年上浮一次之盲龜，其頭得入彼有一孔之輓否？」

「大德！或於某時亦可得然，但需經長時。」

四

「諸比丘！彼百年上浮一次之盲龜，其首入彼有一孔之輓，諸比丘！可速於愚者一度至墮處，再得人身者。何以故耶？」

五

諸比丘！於彼墮處，了無法行、平等行、善業、福業，諸比丘！彼等互噉、噉弱者。何以故耶？」

六

諸比丘！不見四聖諦故。何為四聖諦耶？乃：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

七

是故諸比丘！『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔四八〕第八 孔（二）

※二

「諸比丘！譬如此大地，悉是水。於此有人，將一有孔之軛投下，東風拂之向西，西風拂之向東，北風拂之向南，南風拂之向北。於此有一盲龜，游行海中，百年上浮一次。

三

諸比丘！於汝等之意云何？彼盲龜百年浮起一次，其首得入彼有一孔之軛否？」

「大德！彼盲龜百年浮起一次，其首入彼有一孔之軛，實為難得。」

四

「諸比丘！如是，得人身為難得。諸比丘！如是，如來、應供、正等覺者之出世為難得。諸比丘！如是，如來所說法、律出現於世為難得。

五

諸比丘！如今，已得人身；如來、應供、正等覺者既出世；如來所說之法、律，既現於世。

六

是故諸比丘！『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔四九〕第九 須彌（一）

※二

「諸比丘！譬如有人，於須彌山王之上，放置大如豆粒之石礫七個。

三

諸比丘！於汝等之意云何？放置其上豆粒大之七礫石，與須彌山王，何者為多耶？」

「大德！須彌山王為多，放置其上豆粒大之七礫石為少。於須彌山王上所置之豆粒大七礫石，乃不成算數、不成譬類、不成一分。」

四

「諸比丘！如是聖弟子，於見具足而現觀者，已滅盡之苦為多、殘者為少，於前之已滅盡之苦蘊，不成算數、不成譬類、不成一分。此是極七返。彼對『此是苦』，如實了知；於『此是苦集』，如實了知；於『此是苦滅』，如實了知；於『此是順苦滅道』，如實了知。

五

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔五〇〕第十 須彌（二）

※二

「諸比丘！譬如須彌山王滅盡，而唯獨豆粒大之七石礫殘存。

三

諸比丘！於汝等之意云何？須彌山之滅盡，與所殘存之豆粒大之七礫石，何者為多耶？

大德！須彌山之滅盡者為多，所殘存豆粒大之七礫石為少。此於須彌山之滅盡者，與所殘存之豆粒大七礫石，非成算數、非成譬類、非成一分。

四

諸比丘！如是聖弟子，於見具足而現觀者，則已滅盡之苦為多、所殘存者為少，於前之已滅盡之苦蘊，不成算數、不成譬類、不成一分。此是極七返。彼對『此是苦』，如實知；

『此是苦集』，如實知；『此是苦滅』，如實知；『此是順苦滅道』，如實知。

五

是故諸比丘！『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！『此是順苦滅道』，應勉勵！」

第五 深嶮品
（終）

此中攝頌曰：

思惟與深嶮
熱煩重閤堂
毛闇黑二孔
二節之須彌

第六 現觀品

〔五一〕第一 爪尖

※二

時，世尊將少許之塵，置於爪端，告諸比丘曰：

「諸比丘！於汝等之意云何？我爪端所置之少許塵，其與大地土，何者為多耶？」

「大德！大地土為多，世尊爪端所置之塵為少，於大地相比，世尊爪端所置之少許塵，非成算數、非成譬類、非成一分。」

三

「諸比丘！如是聖弟子，於見具足而現觀者，則已滅盡之苦為多、所殘存者為少，於前之已滅盡之苦蘊，非成算數、非成譬類、非成一分。此是極七返。彼對『此是苦』，如實知；『此是苦集』，如實知；『此是苦滅』，如實知；『此是順苦滅道』，如實知。」

四

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔五二〕第二 湖池

※二

「諸比丘！譬如有湖池，長五十由旬、廣五十由旬、深五十由旬，水盈滿及岸。有人用草之尖端將水掬汲。

三

諸比丘！於汝等之意云何？用草尖所掬之水與湖池之水，何者為多耶？」

「大德！此湖池之水為多，草尖所掬之水為少，於湖池之水相比，用草尖所掬之水，非成算數、非成譬類、非成一分。」

四～五

「諸比丘！如是聖弟子……乃至……勉勵！」

〔五三〕第三 合流（一）

※二

「諸比丘！譬如於諸大河——恒河、耶符那、伊羅跋提、薩羅遊、摩企之合流會合處，有人掬汲二三滴之水。

三

諸比丘！於汝等之意云何？所掬之二三滴水，與彼合流之水，何者為多耶？」

「大德！合流之水為多，所掬之二三滴水為少，於合流之水相比，二三滴之掬水乃非成算數、非成譬類、非成一分。」

四～五

「諸比丘！如是聖弟子……乃至……應勉勵！」

〔五四〕第四 合流（二）

※二

「諸比丘！譬如諸大河、恒河、耶符那、伊羅跋提、薩羅遊、摩企之水滅盡，唯殘存二三滴水。」

三

諸比丘！於汝等之意云何？滅盡之合流水，與彼二三滴殘水，何者為多耶？」

「大德！滅盡之合流之水為多，彼二三滴之殘存水為少。於滅盡之合流水相比，二三滴之殘存水乃非成算數、非成譬類、非成一分。」

四～五

「諸比丘！如是聖弟子……乃至……應勉勵！」

〔五五〕第五 地（一）

※二

「諸比丘！譬如有人，於大地上置七個大如棗核之土團。」

三

諸比丘！於汝等之意云何？放置大地七個棗核大之土團，與此大地之土，何者為多耶？」

「大德！大地土為多，放置之七個棗核大土團為少，於大地土相比，放置之七個棗核大之土團，非成算數、非成譬類、非成一分。」

四～五

「諸比丘！如是聖弟子……乃至……應勉勵！」

〔五六〕第六 地（二）

※二

「諸比丘！譬如大地滅盡，唯殘七個棗核大之土團。

三

諸比丘！於汝等之意云何？大地之滅盡，與所殘存之七個棗核大之土團，何者為多耶？」

「大德！大地之滅盡者為多，所殘存之七個棗核大之土團為少，於大地之滅盡相比，所殘存之七棗核大之土團，乃非成算數、非成譬類、非成一分。」

四～五

「諸比丘！如是聖弟子……乃至……應勉勵！」

〔五七〕第七 海（一）

※「諸比丘！譬如有人，於大海中汲掬二三滴水。

三

諸比丘！於汝等之意云何？彼二三滴汲掬之水與大海之水，何者為多耶？」

「大德！大海之水為多，彼二三滴之掬水為少，於大海之水相比，二三滴之掬水乃非成算數、非成譬類、非成一分。」

四～五

「諸比丘！如是，聖弟子……乃至……應勉勵！」

〔五八〕第八 海（二）

※二

「諸比丘！譬如大海之水滅盡，唯殘存二三滴之水。

三

諸比丘！於汝等之意云何？滅盡之大海水，與彼二三滴之殘水，何者為多耶？」

「大德！滅盡之大海水為多，彼二三滴之殘水為少，於滅盡之大海水，彼二三滴之殘水，乃非成算數、非成譬類、非成一分。」

四～五

「諸比丘！如是、聖弟子……乃至……應勉勵！」

〔五九〕第九 山喻（一）

※二

「諸比丘！譬如有人，於雪山王之上置放七個芥子粒大之石礫。

三

諸比丘！於汝等之意云何？置放之七個芥子粒大之石礫，與雪山王相比，何者為多耶？」

「大德！雪山王為多，放置其上之七個芥子粒大石礫為少，於雪山王，放置其上之七個芥子粒大石礫，為非成算數、非成譬類、非成一分。」

四～五

「諸比丘！如是，聖弟子……乃至……應勉勵！」

〔六〇〕第十 山喻（二）

※二

「諸比丘！譬如雪山王滅盡，唯獨殘存七個芥子粒大之石礫。

三

諸比丘！於汝等之意云何？雪山王之滅盡與所殘存七芥子粒大之石礫，何者為多耶？」

「大德！雪山王之滅盡為多，所殘存之七個芥子粒大之石礫為少，於雪山王之滅盡，所殘存七芥子粒大石礫，非成算數、非成譬類、非成一分。」

四

「諸比丘！如是聖弟子，於見具足，而已現觀，則已滅盡之苦為多，所殘存之苦為少，於前之已滅盡之苦蘊，為非成算數、非成譬類、非成一分。此是極七返。彼於『此是苦』，如實了知；於『此是苦集』，如實了知；於『此是苦滅』，如實了知；於『此是順苦滅道』，如實了知。

五

是故諸比丘！『此是苦』，應勉勵！『此是苦集』，應勉勵！『此是苦滅』，應勉勵！『此是順苦滅道』，應勉勵！」

第六 現觀品 (終)

此中攝頌曰：

爪頂與湖池
二節之合流
二地與二海
二節山之喻

第七 生穀廣說品（一）

〔六一〕第一 餘處

※二

時，世尊將少許之塵，置於爪端，告諸比丘曰：

三

「諸比丘！於汝等之意云何？我爪端所置之少許塵，與大地土相比，何者為多耶？」

「大德！大地土為多，世尊爪端所置之少許塵為少，於大地土，世尊爪端所置之少許塵，非成算數、非成譬類、非成一分。」

四

「諸比丘！如是，再生於人中之眾生為少，由人再生他處之眾生為多。何以故耶？」

五

諸比丘！不觀四聖諦故。以何為四聖諦耶？乃苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

六

是故諸比丘！『此是苦』，應勉勵；『此是苦集』，應勉勵；『此是苦滅』，應勉勵！『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔六二〕第二 邊地

※二

時，世尊將少許之塵，置於爪端，告諸比丘曰：

三

「諸比丘！於汝等之意云何？我爪端所置之少許塵與大地土相比，何者為多耶？」

「大德！大地土為多，世尊爪端所置之少許塵為少，於大地土，世尊爪端所置少許塵，乃非成算數、非成譬類、非成一分。」

四

「諸比丘！如是，再生於中國之眾生為少，再生於邊地、無知夷狄中之眾生為多……乃至……」

〔六三〕第三 慧

※四

「諸比丘！如是，成就聖慧眼之眾生為少，隨無明愚癡之眾生為多……乃至……」

〔六四〕第四 酒

※四

「諸比丘！如是，遠離飲酒之眾生為少，不遠離飲酒之眾生為多……乃至……」

〔六五〕第五 水

※四

「諸比丘！如是，陸生之眾生為少，水生之眾生為多……乃至……」

〔六六〕第六 母

※四

「諸比丘！如是，孝於母之眾生為少，不孝於母之眾生為多……乃至……」

〔六七〕第七 父

※四

「諸比丘！如是，孝於父之眾生為少，不孝於父之眾生為多……乃至……」

〔六八〕第八 沙門

※四

「諸比丘！如是，尊重沙門之眾生為少，不尊重沙門之眾生為多……乃至……」

〔六九〕第九 婆羅門

※四

「諸比丘！如是，尊重婆羅門之眾生為少，不尊重婆羅門之眾生為多……乃至……」

〔七〇〕第十 尊重

※四

「諸比丘！如是，尊重族姓中最勝者之眾生為少，不尊重族姓中最勝者之眾生為多……乃至……」

第七 生穀廣說
品（一）（終）

此中攝頌曰：

餘處與邊地
慧與酒與水
母父與沙門

婆羅門尊重

第八 生穀廣說品（二）

〔七一〕第一 生

※四

「諸比丘！如是，遠離殺生之眾生為少，不遠離殺之眾生為多。何以故耶……乃至……」

〔七二〕第二 不與

※四

「諸比丘！如是，遠離不與取之眾生為少，不遠離不與取之眾生為多……乃至……」

〔七三〕第三 欲

※四

「諸比丘！如是，遠離欲邪行之眾生為少，不遠離欲邪行之眾生為多……乃至……」

〔七四〕第四 妄語

※四

「諸比丘！如是，遠離妄語之眾生為少，不遠離妄語之眾生為多……乃至……」

〔七五〕第五 離間語

※四

「諸比丘！如是，遠離離間語之眾生為少，不遠離離間語之眾生為多……乃至……」

〔七六〕第六 麤惡語

※四

「諸比丘！如是，遠離麤惡語之眾生為少，不遠離麤惡語之眾生為多……乃至……」

〔七七〕第七 雜穢語

※四

「諸比丘！如是，遠離雜穢語之眾生為少，不遠離雜穢語之眾生為多……乃至……」

〔七八〕第八 種子

※四

「諸比丘！如是，遠離損壞草木之眾生為少，不遠離損壞草木之眾生為多……乃至……」

〔七九〕第九 非時

※四

「諸比丘！如是，遠離非時食之眾生為少，不遠離非時食之眾生為多……乃至……」

〔八〇〕第十 薰香塗香

※四

「諸比丘！如是，遠離華鬘、薰香、塗香之所持、莊嚴之眾生為少，不遠離華鬘、薰香、塗香、之所持、莊嚴之眾生為多……乃至……」

第八 生穀廣說
品（二）（終）

此中攝頌曰：

生及不與欲
妄語離間語
麤惡雜穢語
種子與非時
薰香與塗香

第九 生穀廣說品（三）

〔八一〕第一 舞蹈

※四

「諸比丘！如是，遠離舞蹈、歌謠、音樂、觀劇之眾生為少，不遠離舞蹈、歌謠、音樂、觀劇之眾生為多……乃至……」

〔八二〕第二 牀

※四

「諸比丘！如是，遠離高牀、大牀之眾生為少，不遠離高牀、大牀之眾生為多……乃至……」

〔八三〕第三 銀

※四

「諸比丘！如是，遠離金銀收受之眾生為少，不遠離金銀收受之眾生為多……乃至……」

〔八四〕第四 穀

※四

「諸比丘！如是，遠離生穀收受之眾生為少，不遠離生穀收受之眾生為多……乃至……」

〔八五〕第五 肉

※四

「諸比丘！如是，遠離生肉收受之眾生為少，不遠離生肉收受之眾生為多……乃至……」

〔八六〕第六 童女

※四

「諸比丘！如是，遠離婦女童女收受之眾生為少，不遠離婦女童女收受之眾生為多……乃至……」

〔八七〕第七 婢

※四

「諸比丘！如是，遠離奴婢收受之眾生為少，不遠離奴婢收受之眾生為多……乃至……」

〔八八〕第八 山羊、羊

※四

「諸比丘！如是，遠離收受山羊、羊之眾生為少，不遠離收受山羊、羊之眾生為多……乃至……」

〔八九〕第九 鷄、豬

※四

「諸比丘！如是，遠離收受鷄、豬之眾生為少，不遠離收受鷄、豬之眾生為多……乃至……」

〔九〇〕第十 象

※四

「諸比丘！如是，遠離收受象、牛、馬、騾馬之眾生為少，不遠離收受象、牛、馬、騾馬之眾生為多……乃至……」

第九 生穀廣說
品（三）（終）

此中攝頌曰：

舞蹈與牀銀
穀肉與童女
婢與山羊羊
鷄豬以及象

第一〇 生穀廣說品（四）

〔九一〕第一 田

※四

「諸比丘！如是，遠離收受田地之眾生為少，不遠離收受田地之眾生為多……乃至……」

〔九二〕第二 買賣

※四

「諸比丘！如是，遠離買賣之眾生為少，不遠離買賣之眾生為多……乃至……」

〔九三〕第三 使

※四

「諸比丘！如是，遠離遣使與行使業之眾生為少，不遠離遣使與行使業之眾生為多……乃至……」

〔九四〕第四 偽秤

※四

「諸比丘！如是，遠離偽秤、偽貨、偽斗之眾生為少，不遠離偽秤、偽貨、偽斗之眾生為多……乃至……」

〔九五〕第五 虛偽

※四

「諸比丘！如是，遠離賄賂、虛偽、騙詐、欺瞞之眾生為少，不遠離賄賂、虛偽、騙詐、欺瞞之眾生為多……乃至……」

〔九六～一〇一〕第六～十一 掠奪強盜

※四

「諸比丘！如是，遠離割截、殺、縛、埋伏、掠奪、強盜之眾生為少，不遠離割截、殺、縛、埋伏、掠奪、強盜之眾生為多……乃至……

諸比丘！乃不觀四聖諦故。以何為四聖諦耶？

五

即：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦。

六

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應勉勵！」

〔一〇二〕第十三 五趣（一）

※二

時，世尊將少許塵，置於爪端，告諸比丘曰：

三

「諸比丘！於汝等之意云何？我爪端所置之少許塵與大地土相比，何者為多耶？」

「大德！大地土為多，世尊爪端所置之少許塵為少，於大地土，世尊爪端所置之少許塵，乃非成算數、非成譬類、非成

一分。」

※四

「諸比丘！如是，由人死歿，再生於人中之眾生為少，由人死歿，再生於地獄之眾生為多……乃至……」

〔一〇三〕第十三 五趣（二）

※四

諸比丘！如是，由人死歿，再生於人中之眾生為少，由人死歿，再生於畜生之眾生為多……乃至……

〔一〇四〕第十四 五趣（三）

※四

諸比丘！如是，由人死歿，再生於人中之眾生為少，由人死歿，再生於餓鬼趣之眾生為多……乃至……

〔一〇五～一〇七〕第十五～十七 五趣（四～六）

※四

諸比丘！如是，由人死歿，再生於人中之眾生為少，由人死歿，再生於地獄……再生於畜生……再生於餓鬼趣之眾生為多……乃至……

〔一〇八～一一〇〕第十八～二十 五趣（七～九）

※四

諸比丘！如是，由人死歿，再生於人中之眾生為少，由人死歿，再生於地獄……再生於畜生……再生於餓鬼趣之眾生為多……乃至……

〔一一一～一一三〕第二十～二十三 五趣（一〇～一二）

※四

諸比丘！如是，由人死歿，再生於人中之眾生為少，由人死歿，再生於地獄……再生於畜生……再生於餓鬼趣之眾生為多……乃至……

〔一一四～一一六〕第二十四～第二十六 五趣（一三～一五）

※四

諸比丘！如是，由地獄死歿，再生於人中之眾生為少，由地獄死歿，再生於地獄……再生於畜生……再生於餓鬼趣之眾生為多……乃至……

〔一一七～一一九〕第二十七～二十九 五趣（一六～一八）

※四

諸比丘！如是，由人、地獄死歿，再生於中之眾生為少，由地獄死歿，再生於地獄……再生於畜生……再生於餓鬼趣之眾生為多……乃至……

〔一二〇～一二二〕第三十～三十二 五趣（一九～二一）

四

諸比丘！如是，由畜生死歿，再生於人中之眾生為少，由畜生死歿，再生於地獄……再生於畜生……再生於餓鬼趣之眾生為多……乃至……

〔一二三～一二五〕第三十三～三十五 五趣（二二～二四）

※四

諸比丘！如是，由餓鬼趣死歿，再生於天中之眾生少，由畜生死歿，再生於地獄……再生於畜生……再生於餓鬼趣之眾生多……乃至……

〔一二六～一二八〕第三十六～三十八 五趣（二五～二七）

※四

諸比丘！如是，由餓鬼趣死歿，再生於人中之眾生為少，由餓鬼趣死歿，再生於地獄……再生於畜生……再生於餓鬼趣之眾生為多……乃至……

〔一二九〕第三十九 五趣（二八）

※四

諸比丘！如是，由餓鬼趣死歿，再生於天中之眾生為少，由餓鬼趣死歿，再生於地獄之眾生為多……乃至……

〔一三〇〕第四十 五趣（二九）

※四

諸比丘！如是，由餓鬼趣死歿，再生於天中之眾生為少，
再生於餓鬼趣之眾生為多……乃至……

〔一三一〕第四十一 五趣（三〇）

※四

「諸比丘！如是，由餓鬼趣死歿，再生於天中之眾生為少，
由餓鬼趣死歿，再生於於餓鬼趣之眾生為多。何以故耶？

諸比丘！乃不觀四聖諦故。何為四聖諦耶？

五

即：苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、順苦滅道聖諦是。

六

是故諸比丘！於『此是苦』，應勉勵！於『此是苦集』，
應勉勵！於『此是苦滅』，應勉勵！於『此是順苦滅道』，應
勉勵！」

七

世尊如是說示已，彼諸比丘喜悅，對世尊之所說歡喜。

生穀廣說輪廣說
（終）

攝頌曰：

田與買賣使
偽秤與虛偽
對掠奪強盜

遠離者為少
不者有情多
及依於五趣
從而說此品

第一二 諦相應
(終)

道覺支念處
根與正勤力
神足阿那律
靜慮入出息
預流以及諦
世尊所說示

大篇相應 (終)

CBETA 贊助資訊

[. \(https://www.cbeta.org/donation/index.php\)](https://www.cbeta.org/donation/index.php)

CBETA 成立於 1998 年，於 2023 年 8 月 7 日轉型成為基金會。成立多年來，一部部佛典在嚴謹控管中轉換為數位典藏，不只數量龐大，而且文字校訂精確可信，又加新式標點方便閱讀。「CBETA 電子佛典集成」不僅獲得國際學界的重視及肯定，也成為大眾廣為運用的公共資源，如此成果都是在廣大信眾及有識之士的支持下才得以實現。

對一個從事佛法志業的非營利團隊，能夠長期埋首理想、踏實耕耘是非常不容易的。如今，CBETA 運作經費日漸拮据，但「佛典集成」仍有許多未竟之功。因此，懇請大家慷慨解囊、熱情贊助，讓未來有更多更好的電子佛典。

您的捐款本會皆會開立收據，此收據可在年度中申報個人或企業的綜合所得稅減免。感恩諸位大德的善心善行，以及您為佛典電子化所做的一切貢獻。

信用卡線上捐款

本線上捐款與 netiCRM 及 NewbPay 藍新金流合作，資料傳送採用 SSL (Secure Socket Layer) 傳輸加密，讓您能夠安全安心地進行線上捐款動作。

不管您持有的是國內或國外卡，所有捐款最終將以新台幣結算，所以我們所開立的捐款收據也將以新台幣計。

線上刷卡支持定期定額與單筆捐款。（銀聯卡不支援定期定額）

[前往捐款](#)

劃撥捐款

郵政劃撥帳號：5 0 4 6 8 2 8 5

戶名：財團法人佛教電子佛典基金會

欲指定特殊用途者，請特別註明，我們會專款專用。

線上信用卡 / PayPal 捐款

PayPal 是一個跨國線上付款機制的公司，CBETA 引用其服務，提供網友能在線上使用信用卡或 PayPal 帳戶贊助 CBETA 。

PayPal is an online system of a global payment solution. CBETA uses its service to provide the uses to donate by using the credit cards or PayPal account to support the CBETA project.

相關收據開立事宜，由於付款幣別為美元，我們除了會依您所贊助之美元金額開立收據外，另我們會依捐款當日公告匯率開立台幣收據，此收據為國內正式合法報稅憑證。

Since the donation made is in US currency, hence all the receipts will be issued in the US dollars consequently. However for the domestic donators, a Chinese official receipt will also be made according to the foreign exchange rate for the purpose of tax deduction.

[線上信用卡 / PayPal 贊助](#)

支票捐款

支票抬頭請填寫「財團法人佛教電子佛典基金會」。

For donations by check, please write the check to
"Comprehensive Buddhist Electronic Text Archive
Foundation".
